

尾坂遺跡(2)

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第48集

2016

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

尾坂遺跡(2)

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第48集

二〇一六

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



尾坂遺跡(2)

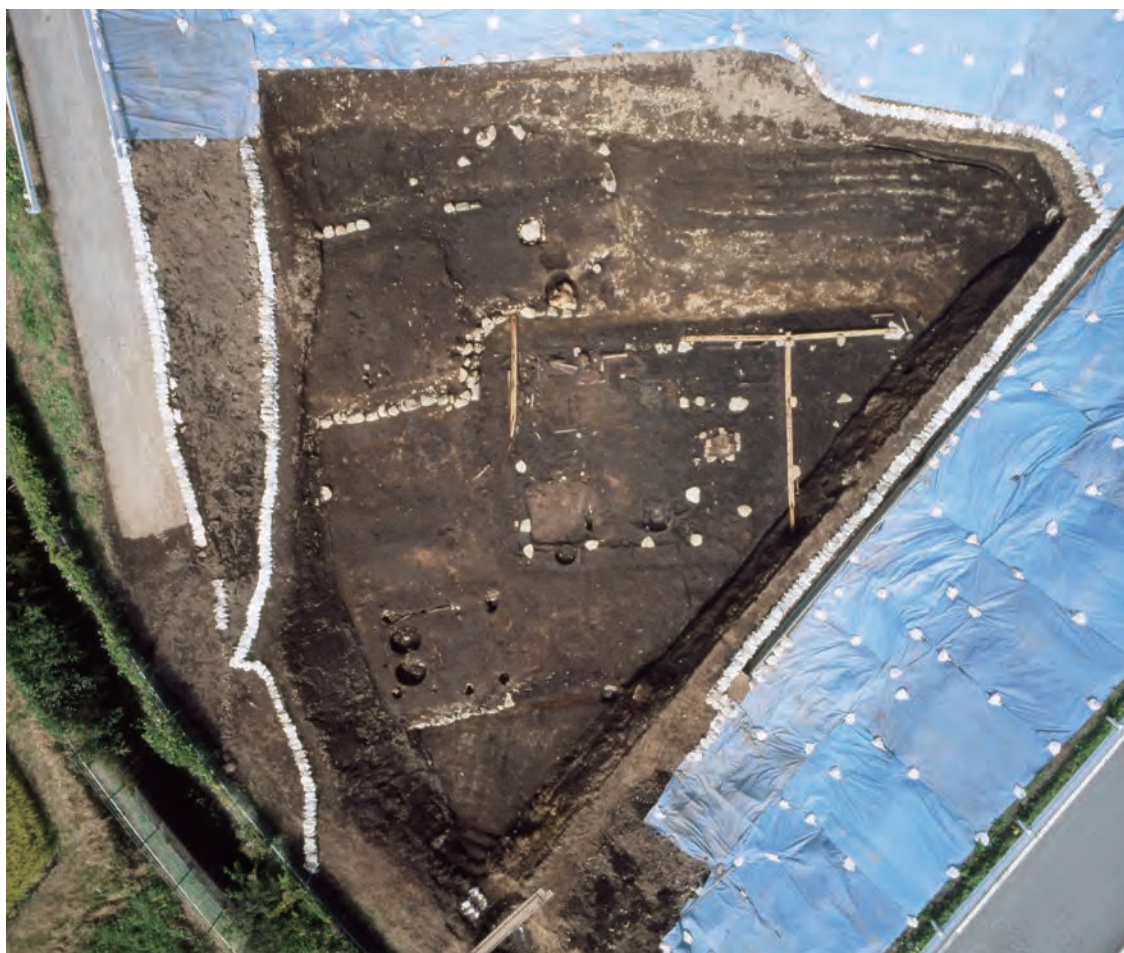
八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第48集

2016

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



尾坂遺跡 平成18年度調査区および遺跡調査前全景(東から)



1号建物全景(上から)

口絵 2



25B区 泥流畑全景(東から)



25B区 1号暗渠(南から)



大形壺形土器

1号再葬墓



遺物出土状態



小形壺



遺物出土状態



鉢形土器

340号土坑



筒形土器

口絵 4



6号住居 張り出し部(北から)



6号住居 主体部(北から)



6号住居全景(合成)

序

尾坂遺跡は、群馬県西北部の吾妻郡長野原町にあり、山間を深く刻んで流れる吾妻川左岸の河岸段丘上に営まれた遺跡です。

ハッ場ダム建設に伴う発掘調査は、平成6年度より本格的に開始されました。

尾坂遺跡の発掘調査は、平成6年度より着手され、平成26年度までの足かけ20年に涉って、継続的に調査が実施されました。

調査の結果、江戸時代後期、天明三年(1783)の浅間山噴火に伴う、泥流に埋まった広大な畑が発見されました。調査区の北東側には、泥流に覆われた建物も見つかり、当時の村の構造を知る上でも貴重な発見となりました。

畑は江戸時代の生産活動を考える上で、様々な資料を提供することになり、この地域における畑作農耕を考える上で重要な発見となりました。

また、畑の下からは、さらに古い縄文時代の住居や土坑、弥生時代の墓(再葬墓)、さらには、平安時代の住居なども複数検出されており、この地が吾妻川流域における居住域として、古来より利用されていたことを示す貴重な発見となりました。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、国土交通省ハッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、ならびに長野原町教育委員会をはじめとする関係機関や、地元関係者の皆様には、多大なるご支援、ご協力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

本書が長野原町、吾妻郡、ひいては群馬県における、歴史研究の新たな資料として活用されることを願い序といたします。

平成28年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 中野 三智男

例 言

1. 本書は八ッ場ダム建設工事に伴い発掘調査された、尾坂遺跡の平成18～22・25・26年度調査の報告書である。本遺跡に関しては、平成6・7・11年度調査分についての報告は、「八ッ場ダム発掘集成(1)」2002で、また、群馬県県土整備部管轄による、平成23年度発掘調査分が「尾坂遺跡」2012としてそれぞれ刊行されている。
2. 尾坂遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字長野原字尾坂1163-4・6、1165-6、1166-2、1167、1169、1170-1・2、1171-1～3、1172、1173、1174、1174-2～4、1175-1、1176、1178、甲1178、丙1178、1178-2・4、1179-1・2、1180、1181、1181-1・3・4、1182-1・2、1183、1183-3、1184、1185、1186、乙1186、1186-1・3～5、1187、乙1187、1187-1・3～7、1188-2・3、1189-1～6、1190-1～4、1191、1192-1～3、1193、乙1193、1193-3、1195-1、1196、1197、1198、1199、甲1199、1200、甲1200、1201-1、1205-2、1207-1・3・4・6、1208-1、1209-1～4・5・7～9、1228-3、1229、丙1229、1230-3・7～9、1233-1～7、1234-1～9、1235-1～3、1236、1237-1・5、1238-1・3・5、1239-1・4～6、1240-1に所在する。
3. 発掘調査は八ッ場ダム建設工事に伴うもので、建設省(現国土交通省)の委託を受け、群馬県教育委員会が、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施された。
4. 調査年度ごとの発掘調査期間と調査体制は以下のとおりである。

平成18年度

発掘調査期間	平成18年9月11日～平成18年10月6日 平成18年11月27日～平成18年12月28日
発掘調査面積	2,300㎡
発掘調査担当	佐藤明人(調査研究部長)、麻生敏隆(専門員)、飯森康広(専門員)、田村邦宏(主任調査研究員)

平成19年度

発掘調査期間	平成19年6月1日～平成19年9月30日 平成19年12月1日～平成19年12月28日
発掘調査面積	7,491㎡
発掘調査担当	飯塚卓二(主任専門員)、須田正久(主任調査研究員)

平成20年度

発掘調査期間	平成20年7月1日～平成20年12月26日
発掘調査面積	12,053㎡
発掘調査担当	田村公夫(主任調査研究員)、須田正久(主任調査研究員)、綿貫 昭(主任調査研究員)、横尾 豊(主任調査研究員)

平成21年度

発掘調査期間	平成21年7月1日～平成22年2月28日
発掘調査面積	8,590㎡
発掘調査担当	飯田陽一(上席専門員)、須田正久(主任調査研究員)、中沢 悟(調査研究部長)、篠原正洋(主任調査研究員)

平成22年度

発掘調査期間 平成22年4月1日～平成22年11月30日
発掘調査面積 9,351㎡
発掘調査担当 小野和之(上席専門員)、山口逸弘(上席専門員)

平成25年度

発掘調査期間 平成25年4月9日～平成25年6月19日
発掘調査面積 3,084㎡
発掘調査担当 小野和之(専門官)、関 俊明(主任調査研究員)

平成26年度

発掘調査期間 平成26年6月1日～平成26年7月31日
発掘調査面積 3,050㎡
発掘調査担当 関 俊明(主任調査研究員)、小林茂夫(主任調査研究員)

遺跡掘削工事請負 歴史の杜

委託 地上測量：株式会社 測研

5. 整理事業の期間と体制は以下のとおりである。

整理期間および担当

平成25年11月1日～平成26年3月31日	主席専門員 坂口 一
平成26年1月1日～平成26年3月31日	主任調査研究員 関 俊明
平成26年4月1日～平成27年3月31日	専門官 小野和之
平成27年5月1日～平成28年3月31日	専門調査役 小野和之

6. 本書作成の担当は以下のとおりである。

編集担当 小野和之

本文執筆 関 俊明 第3章(第7節2～8)、第5章(第4節2)

大西雅広 第3章(第6・7節 遺物観察表)

小野和之 上記以外

自然科学分析業務委託 株式会社パレオ・ラボ

デジタル編集 齊田智彦(デジタル專業班)

デジタル編集業務委託 株式会社 測研

保存処理 関 邦一

7. 石材鑑定は飯島静男氏(群馬地質研究会)に依頼した。

8. 出土遺物および図面・写真等の記録は群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

9. 発掘調査および本書の作成にあたっては下記の機関、諸氏よりご教示、ご指導をいただいた。記して感謝の意を表す。(敬称略)

国土交通省関東地方整備局八ッ場ダム工事事務所、長野原町教育委員会、白石光男 富田孝彦

凡 例

1. 尾坂遺跡における遺構測量は世界測地系国家座標(座標第IX系)を用いている。

真北方向角は $+0^{\circ} 18' 38.58''$ (東偏)である。

遺構図中で使用した北方位は、すべて座標北を示す。

2. 等高線・遺構断面図等に記した数値は海拔標高を示す。

3. 付図を含む遺構図の縮尺は、原則として以下の通りである。

遺構全体図(付図1) 1/400 遺構全体図(付図2) 1/300 遺構別全体図1/400

住居 1/60 炉・埋甕 1/30 焼土・埋甕 1/20 土坑 1/40または1/20

掘立柱建物1/60または1/80 配石1/40または1/60 その他は図中に明記。

4. 遺物実測図の縮尺は、原則として以下の通りである。


・土器 1/3または1/4 土製円盤1/2


・石器 石鏃、石錐等1/1 打製石斧、磨製石斧、磨石、敲石等1/3、

石皿、台石、丸石等の大形品1/4または1/6 石核 1/2 垂飾品等の小形品1/2

・鉄製品 1/2または1/3 古銭1/1 その他は図中に明記。

5. 遺構・遺物図に使用したスクリーントーンは以下のことを示す。

遺構 焼土 

遺物 石器使用痕 

・遺物写真の縮率は原則として遺物図とほぼ同じである。

・遺構の計測値単位は原則mを使用、遺物についてはcmである。また石器の重量単位はgを用いた。

6. 本文中の火山灰略称は以下の通りである。

As-BP (浅間板鼻褐色軽石 BP19000-23000) As-YP (浅間板鼻黄色軽石 BP13000-14000)

As-YPk (浅間草津軽石 BP13000-14000) As-C (浅間C軽石 AD300前後) As-B (浅間B軽石 AD1108)

As-Kk (浅間粕川軽石 AD1128) As-A (浅間A軽石 AD1783)である。

7. 表 畑一覧表中の耕作状況の分類(1~9類)については、「久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡」2003 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書319集、Ⅶ考察1-4. 天明三年泥流畑の耕作状況(P358、359)を参照願いたい。

目次

序	
例言・凡例	
目次	
挿図目次	
表目次	
写真図版目次	
第1章 調査に至る経過	1
第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の方法と経過	2
1. 調査の方法	2
2. 発掘調査の経過	4
3. 整理作業の経過	8
第2章 地理的及び歴史的環境	12
第1節 地理的環境	12
第2節 歴史的環境	13
第3章 検出された遺構と遺物	19
第1節 基本層序	19
第2節 遺構と遺物の概要	22
第3節 縄文時代の遺構と遺物	29
1. 住居	29
2. 焼土	63
3. 土坑	64
4. 埋甕	95
5. 列石	98
6. 遺構外出土遺物	106
(1)土器・土製品	106
(2)石器・石製品	106
遺物観察表	148
遺構計測表	173
第4節 弥生時代の遺構と遺物	179
1. 再葬墓	179
2. 土坑	179
3. 遺構外出土遺物	193
遺物観察表	208
遺構計測表	221
第5節 平安時代の遺構と遺物	222
1. 住居	222
2. 焼土	242
3. 土坑	243
4. 溝	256
5. 遺構外出土遺物	258
遺物観察表	260
遺構計測表	262
第6節 中世の遺構と遺物	264
1. 掘立柱建物	264
2. 焼土	266
3. 土坑	269
4. 溝	269
5. ピット	271
6. 遺構外出土遺物	274
遺物観察表	277
遺構計測表	278
第7節 江戸時代の遺構と遺物	280
1. 建物	280
2. 畑	297
3. 道	308
4. 溝・河道・取水施設・水場	311
5. 石垣・石列・集石	315
6. 焼土	318
7. 土坑	320
8. 暗渠	321
9. 植物痕	325
10. 遺構外出土遺物	327
遺物観察表	341
遺構計測表	348
第4章 自然科学分析	350
第1節 出土木製品の樹種同定	350
第2節 出土赤色顔料の蛍光X線分析	352
第5章 調査成果(総括)	357
第1節 縄文時代の遺構と遺物について	357
1. 遺構	357
2. 出土遺物	357
第2節 弥生時代の遺構と遺物について	359
1. 遺構	359
2. 土器	360
3. 底部圧痕について	362
第3節 平安時代の遺構と遺物について	366
1. 遺構	366
2. 出土遺物	366
第4節 江戸時代の遺構と遺物について	367
1. 建物	367
2. 出土遺物	367
3. 畑	368
報告書抄録	
写真図版	
奥付	

挿図目次

第1図	尾坂遺跡位置図	1
第2図	年度別調査区図	3
第3図	調査区の設定	5
第4図	尾坂簡略全体図(調査区名)	7
第5図	周辺遺跡	16
第6図	基本土層図	19
第7図	基本土層位置図	20
第8図	基本土層標高図	21
第9図	2・3面 遺構全体図	折込
第10図	63・64・73・74区 全体図(2面目)	25
第11図	63区 全体図(2面目)	26
第12図	72・82区 全体図(2面目)	27
第13図	86区 全体図(2面目)	28
第14図	3号住居	30
第15図	3号住居出土遺物(1)	31
第16図	3号住居出土遺物(2)	32
第17図	3号住居出土遺物(3)	33
第18図	4号住居	34
第19図	4号住居出土遺物	35
第20図	5号住居(1)	36
第21図	5号住居(2)	37
第22図	5号住居出土遺物(1)	38
第23図	5号住居出土遺物(2)	39
第24図	5号住居出土遺物(3)	40
第25図	5号住居出土遺物(4)	41
第26図	5号住居出土遺物(5)	42
第27図	5号住居出土遺物(6)	43
第28図	5号住居出土遺物(7)	44
第29図	5号住居出土遺物(8)	45
第30図	5号住居出土遺物(9)	46
第31図	6号住居(1)	47
第32図	6号住居(2)	48
第33図	6号住居(3)	49
第34図	6号住居出土遺物(1)	50
第35図	6号住居出土遺物(2)	51
第36図	6号住居出土遺物(3)	52
第37図	6号住居出土遺物(4)	53
第38図	6号住居出土遺物(5)	54
第39図	6号住居出土遺物(6)	55
第40図	8号住居(1)	56
第41図	8号住居(2)・出土遺物(1)	57
第42図	8号住居出土遺物(2)	58
第43図	8号住居出土遺物(3)	59
第44図	8号住居出土遺物(4)	60
第45図	8号住居出土遺物(5)	61
第46図	8号住居出土遺物(6)	62
第47図	2・4・5号焼土	63
第48図	6・9・10号焼土	64
第49図	土坑(1)	65
第50図	土坑(2)	66
第51図	土坑(3)	67
第52図	土坑(4)	68
第53図	土坑(5)	69
第54図	土坑(6)	70
第55図	土坑(7)	71
第56図	土坑(8)	73
第57図	土坑(9)	74
第58図	土坑(10)	75
第59図	土坑(11)	76
第60図	土坑(12)	77
第61図	土坑(13)	79
第62図	土坑(14)	80

第63図	土坑(15)	81
第64図	土坑(16)	83
第65図	土坑(17)	84
第66図	土坑(18)	85
第67図	土坑(19)	86
第68図	土坑出土遺物(1)	87
第69図	土坑出土遺物(2)	88
第70図	土坑出土遺物(3)	89
第71図	土坑出土遺物(4)	90
第72図	土坑出土遺物(5)	91
第73図	土坑出土遺物(6)	92
第74図	土坑出土遺物(7)	93
第75図	土坑出土遺物(8)	94
第76図	1・2号埋甕	95
第77図	3～7号埋甕、1・2号埋甕出土遺物	96
第78図	3～7号埋甕出土遺物	97
第79図	4・6号列石、1～7号埋甕	99
第80図	4号列石・出土遺物	100
第81図	6号列石	101
第82図	6号列石出土遺物(1)	102
第83図	6号列石出土遺物(2)	103
第84図	6号列石出土遺物(3)	104
第85図	6号列石出土遺物(4)	105
第86図	早期遺物出土位置・分布図	107
第87図	遺構外出土遺物(1)	108
第88図	遺構外出土遺物(2)	109
第89図	遺構外出土遺物(3)	110
第90図	遺構外出土遺物(4)	111
第91図	遺構外出土遺物(5)	112
第92図	遺構外出土遺物(6)	113
第93図	遺構外出土遺物(7)	114
第94図	遺構外出土遺物(8)	115
第95図	遺構外出土遺物(9)	116
第96図	遺構外出土遺物(10)	117
第97図	遺構外出土遺物(11)	118
第98図	遺構外出土遺物(12)	119
第99図	遺構外出土遺物(13)	120
第100図	遺構外出土遺物(14)	121
第101図	遺構外出土遺物(15)	122
第102図	遺構外出土遺物(16)	123
第103図	遺構外出土遺物(17)	124
第104図	遺構外出土遺物(18)	125
第105図	遺構外出土遺物(19)	126
第106図	遺構外出土遺物(20)	127
第107図	遺構外出土遺物(21)	128
第108図	遺構外出土遺物(22)	129
第109図	遺構外出土遺物(23)	130
第110図	遺構外出土遺物(24)	131
第111図	遺構外出土遺物(25)	132
第112図	遺構外出土遺物(26)	133
第113図	遺構外出土遺物(27)	134
第114図	遺構外出土遺物(28)	135
第115図	遺構外出土遺物(29)	136
第116図	遺構外出土遺物(30)	137
第117図	遺構外出土遺物(31)	138
第118図	遺構外出土遺物(32)	139
第119図	遺構外出土遺物(33)	140
第120図	遺構外出土遺物(34)	141
第121図	遺構外出土遺物(35)	142
第122図	遺構外出土遺物(36)	143
第123図	遺構外出土遺物(37)	144
第124図	遺構外出土遺物(38)	145
第125図	遺構外出土遺物(39)	146
第126図	縄文土器出土分布図	147
第127図	1号再葬墓	180
第128図	1号再葬墓出土遺物(1)	折込

第129図	1号再葬墓出土遺物(2)	183
第130図	土坑(1)	184
第131図	土坑(2)	186
第132図	土坑(3)	187
第133図	土坑(4)	188
第134図	土坑出土遺物(1)	189
第135図	土坑出土遺物(2)	190
第136図	土坑出土遺物(3)	191
第137図	土坑出土遺物(4)	192
第138図	遺構外出土遺物(1)	194
第139図	遺構外出土遺物(2)	195
第140図	遺構外出土遺物(3)	196
第141図	遺構外出土遺物(4)	197
第142図	遺構外出土遺物(5)	198
第143図	遺構外出土遺物(6)	199
第144図	遺構外出土遺物(7)	200
第145図	遺構外出土遺物(8)	201
第146図	遺構外出土遺物(9)	202
第147図	遺構外出土遺物(10)	203
第148図	遺構外出土遺物(11)	204
第149図	遺構外出土遺物(12)	205
第150図	遺構外出土遺物(13)	206
第151図	弥生土器出土分布図	207
第152図	1号住居(1)	222
第153図	1号住居(2)・出土遺物	223
第154図	2号住居(1)	224
第155図	2号住居(2)	225
第156図	2号住居(3)・出土遺物	226
第157図	7(1)・9号住居	228
第158図	7号住居(2)・出土遺物	229
第159図	10号住居(1)	230
第160図	10号住居(2)	231
第161図	10号住居出土遺物	232
第162図	11号住居(1)	233
第163図	11号住居(2)・出土遺物	234
第164図	12号住居・出土遺物	235
第165図	13(1)・14号住居	236
第166図	13号住居(2)・出土遺物(1)	237
第167図	13号住居出土遺物(2)	238
第168図	15号住居(1)	239
第169図	15号住居(2)・出土遺物	240
第170図	16号住居・出土遺物	241
第171図	14・15号焼土・15号焼土出土遺物	242
第172図	土坑(1)	245
第173図	土坑(2)	246
第174図	土坑(3)	247
第175図	土坑(4)	248
第176図	土坑(5)	249
第177図	土坑(6)	251
第178図	土坑(7)	252
第179図	土坑(8)	253
第180図	土坑(9)	254
第181図	土坑(10)・土坑出土遺物	255
第182図	溝全体図、21・22号溝・22号溝出土遺物	257
第183図	遺構外出土遺物	258
第184図	土師・須恵器出土分布図	259
第185図	1・2号掘立柱建物	264
第186図	3号掘立柱建物	265
第187図	11～13号焼土 全体図	267
第188図	7・11～13・16・17号焼土	268
第189図	土坑・土坑出土遺物	270
第190図	ピット(1)	271
第191図	ピット(2)	272
第192図	ピット(3)	273
第193図	ピット(4)	274
第194図	遺構外出土遺物	275

第195図	中世陶磁器出土分布図	276
第196図	1号建物周辺遺構全体図	折込
第197図	1号建物遺物出土位置図	283
第198図	1号建物礎石配置図	284
第199図	1号建物 囲炉裏・馬屋	285
第200図	1号建物出土遺物(1)	286
第201図	1号建物出土遺物(2)	287
第202図	1号建物出土遺物(3)	288
第203図	1号建物出土遺物(4)	289
第204図	2号建物	290
第205図	2号建物出土遺物	291
第206図	3号建物	292
第207図	3号建物出土遺物	293
第208図	5号建物・出土遺物(1)	294
第209図	5号建物出土遺物(2)	295
第210図	5号建物出土遺物(3)	296
第211図	1号取水施設、8号道、5・6号溝	315
第212図	82区1号水場	316
第213図	1号集石・1号焼土	319
第214図	土坑(1)	320
第215図	土坑(2)・341号土坑出土遺物	322
第216図	1号暗渠(1)	323
第217図	1号暗渠(2)・出土遺物	324
第218図	植物圧痕・木杭・曲物出土位置	325
第219図	74区A下畑植物出土位置・出土状況写真	326
第220図	曲物出土位置図および実測図	328
第221図	遺構外出土遺物(1)	329
第222図	遺構外出土遺物(2)	330
第223図	遺構外出土遺物(3)	331
第224図	遺構外出土遺物(4)	332
第225図	遺構外出土遺物(5)	333
第226図	遺構外出土遺物(6)	334
第227図	遺構外出土遺物(7)	335
第228図	遺構外出土遺物(8)	336
第229図	遺構外出土遺物(9)	337
第230図	遺構外出土遺物(10)	338
第231図	遺構外出土遺物(11)	339
第232図	江戸時代陶磁器出土分布図	340
第233図	尾坂遺跡出土石器組成グラフ	358
第234図	弥生遺構検出遺跡	361
第235図	底部文様(1)	363
第236図	底部文様(2)	364
第237図	底部文様(3)	365
付図1	74・75区縄文・弥生・平安・中世全体図	
付図2	天明泥流畑全体図	
付図3	畑番号図	

表目次

表1	尾坂遺跡 発掘工程表	9
表2	尾坂遺跡 整理工程表	11
表3	周辺遺跡一覧表	17
表4	遺物観察表(縄文)	148
表5	遺構計測表(縄文)	173
表6	遺物観察表(弥生)	208
表7	遺構計測表(弥生)	221
表8	遺物観察表(平安)	260
表9	遺構計測表(平安)	262
表10	遺物観察表(中世)	277
表11	遺構計測表(中世)	278
表12	畑一覧表	303
表13	H25年度 B区 杭注記計測一覧	327
表14	遺物観察表(江戸)	341
表15	遺構計測表(江戸)	348
表16	吾妻川流域における弥生時代の遺跡	362

写真目次

- P L. 1 1. 3号住居遺物出土状態(北から)
2. 3号住居遺物出土状態(北西から)
3. 3号住居全景(南から)
4. 3号住居炉検出状態(北から)
5. 3号住居炉(西から)
- P L. 2 1. 4号住居遺物出土状態(南から)
2. 4号住居遺物出土状態(北から)
3. 4号住居炉(南西から)
4. 5号住居遺物出土状態(西から)
5. 5号住居遺物出土状態(西から)
- P L. 3 1. 5号住居全景(東から)
2. 6号住居張り出し部全景(北から)
- P L. 4 1. 6号住居連結部(北から)
2. 6号住居張り出し部埋嚢検出状態(北から)
3. 6号住居連結部遺物出土状態(東から)
4. 6号住居連結部埋嚢検出状態(北から)
5. 6号住居埋嚢出土状態(北から)
6. 6号住居埋嚢断面(南から)
7. 6号住居埋嚢出土状態(東から)
8. 6号住居埋嚢断面(東から)
- P L. 5 1. 6号住居主体部全景(北から)
2. 6号住居主体部全景(北から)
3. 6号住居主体部全景(北から)
4. 6号住居炉(北から)
5. 6号住居全景(北から)
- P L. 6 1. 8号住居全景(北から)
2. 8号住居全景(北から)
- P L. 7 1. 8号住居炉遺物出土状態(東から)
2. 8号住居炉全景(北から)
3. 8号住居掘方全景(北から)
4. 8号住居埋嚢出土状態(北から)
5. 8号住居埋嚢(北から)
- P L. 8 1. 2号焼土(東から)
2. 4号焼土断面(南から)
3. 5号焼土(東から)
4. 6号焼土断面(南から)
5. 9号焼土断面(北から)
6. 10号焼土断面(北から)
7. 1号埋嚢(北から)
8. 2号埋嚢(北から)
- P L. 9 1. 3号埋嚢(西から)
2. 3号埋嚢(西から)
3. 3号埋嚢(西から)
4. 3号埋嚢(南から)
5. 4号埋嚢(南から)
6. 5号埋嚢(南から)
7. 4号列石全景(北から)
- P L. 10 1. 6号列石全景(南東から)
2. 6号列石全景(北西から)
- P L. 11 1. 6号列石(南西から)
2. 6号列石近景(南西から)
3. 6号列石近景(南西から)
4. 6号列石近景(南東から)
5. 6号列石近景(南西から)
- P L. 12 1. 27号土坑全景(南から)
2. 29号土坑全景(南から)
3. 37号土坑全景(南から)
4. 38号土坑全景(南から)
5. 39号土坑全景(南から)
6. 40号土坑断面(東から)
7. 41号土坑全景(南から)
8. 42号土坑全景(南から)
- P L. 13 1. 50号土坑全景(南から)
2. 52号土坑全景(南から)
3. 53号土坑全景(南から)
4. 54号土坑全景(南から)
5. 55号土坑断面(南から)
6. 56号土坑全景(南から)
7. 57号土坑全景(南から)
8. 58号土坑全景(南から)
9. 60号土坑全景(南から)
10. 61号土坑全景(南から)
11. 63号土坑全景(南から)
12. 64号土坑全景(南から)
13. 65号土坑全景(南から)
14. 66号土坑全景(南から)
15. 67号土坑全景(南から)
- P L. 14 1. 68号土坑全景(南から)
2. 69号土坑全景(南から)
3. 70号土坑全景(南から)
4. 78号土坑全景(南から)
5. 78号土坑断面(南東から)
6. 84号土坑全景(南から)
7. 85号土坑全景(南から)
8. 87号土坑全景(南から)
9. 88号土坑全景(南から)
10. 89号土坑全景(南から)
11. 90号土坑全景(南から)
12. 91号土坑全景(南から)
13. 92号土坑全景(南から)
14. 93号土坑全景(南から)
15. 94号土坑全景(南から)
- P L. 15 1. 95号土坑全景(南から)
2. 96号土坑全景(南から)
3. 97号土坑全景(南から)
4. 98号土坑全景(南から)
5. 99号土坑全景(南から)
6. 100号土坑全景(南から)
7. 101号土坑全景(南から)
8. 102号土坑全景(南から)
9. 103号土坑全景(南から)
10. 104号土坑全景(南から)
11. 105号土坑全景(南から)
12. 106号土坑全景(南から)
13. 107号土坑全景(南から)
14. 108号土坑全景(南から)
15. 109号土坑全景(南から)
- P L. 16 1. 110号土坑全景(南から)
2. 111号土坑全景(南から)
3. 112号土坑全景(南から)
4. 113号土坑全景(南から)
5. 114号土坑全景(南から)
6. 115号土坑全景(南から)
7. 116号土坑全景(南から)
8. 116・117号土坑全景(南から)
9. 117号土坑全景(東から)
10. 119号土坑全景(南から)
11. 120号土坑全景(南から)
12. 122号土坑全景(南から)
13. 123号土坑全景(南から)
14. 124号土坑全景(南から)
9. 43号土坑全景(南から)
10. 44号土坑全景(東から)
11. 45号土坑全景(南から)
12. 46号土坑全景(南から)
13. 47号土坑全景(南東から)
14. 48号土坑全景(南から)
15. 49号土坑全景(南から)

- P L. 17 15. 125号土坑全景(南から)
 1. 126号土坑全景(南から)
 2. 127号土坑全景(南から)
 3. 128号土坑全景(南から)
 4. 129号土坑全景(南から)
 5. 130号土坑全景(南から)
 6. 131号土坑全景(南から)
 7. 132号土坑全景(南から)
 8. 133号土坑全景(南から)
 9. 134号土坑全景(南から)
 10. 135号土坑全景(南から)
 11. 139号土坑全景(東から)
 12. 141号土坑全景(東から)
 13. 142号土坑断面(東から)
 14. 142号土坑全景(東から)
 15. 143号土坑全景(東から)
- P L. 18 1. 144号土坑全景(東から)
 2. 145号土坑全景(東から)
 3. 146号土坑断面(南から)
 4. 146号土坑全景(東から)
 5. 147号土坑全景(東から)
 6. 148号土坑全景(東から)
 7. 149号土坑全景(東から)
 8. 150号土坑全景(東から)
 9. 151号土坑全景(東から)
 10. 152号土坑全景(東から)
 11. 153号土坑全景(東から)
 12. 155号土坑全景(東から)
 13. 157号土坑全景(南から)
 14. 158号土坑全景(南から)
 15. 157・158号土坑全景(南から)
- P L. 19 1. 159号土坑全景(東から)
 2. 160号土坑全景(東から)
 3. 161号土坑全景(東から)
 4. 162号土坑全景(南から)
 5. 163号土坑全景(南から)
 6. 164号土坑全景(南から)
 7. 165号土坑全景(南から)
 8. 167号土坑全景(南から)
 9. 168号土坑全景(東から)
 10. 169号土坑全景(東から)
 11. 170号土坑全景(東から)
 12. 171号土坑全景(南から)
 13. 172号土坑全景(東から)
 14. 173号土坑全景(東から)
 15. 174号土坑全景(南から)
- P L. 20 1. 175号土坑全景(南から)
 2. 176号土坑全景(南から)
 3. 177号土坑全景(南から)
 4. 178号土坑全景(南から)
 5. 179号土坑全景(南から)
 6. 181号土坑全景(南から)
 7. 182号土坑全景(南から)
 8. 183号土坑全景(南から)
 9. 186号土坑全景(南から)
 10. 187号土坑全景(南から)
 11. 188号土坑全景(南から)
 12. 189号土坑全景(南から)
 13. 190号土坑全景(南から)
 14. 192号土坑全景(南から)
 15. 193号土坑全景(南から)
- P L. 21 1. 194号土坑全景(東から)
 2. 195号土坑全景(東から)
 3. 196号土坑断面(東から)
 4. 197号土坑全景(南から)
 5. 198号土坑全景(南から)
6. 199号土坑全景(南から)
 7. 200号土坑全景(南から)
 8. 201号土坑全景(南から)
 9. 202号土坑全景(南から)
 10. 203号土坑全景(南から)
 11. 204号土坑全景(南から)
 12. 205号土坑全景(南から)
 13. 207号土坑全景(南から)
 14. 208号土坑全景(南から)
 15. 209号土坑全景(南から)
- P L. 22 1. 210号土坑全景(南から)
 2. 211号土坑全景(南から)
 3. 212号土坑全景(南から)
 4. 213号土坑全景(南から)
 5. 214号土坑全景(南から)
 6. 218号土坑全景(南から)
 7. 219号土坑全景(南から)
 8. 220号土坑全景(南から)
 9. 221号土坑全景(南から)
 10. 222号土坑全景(東から)
 11. 223号土坑全景(南から)
 12. 226号土坑全景(東から)
 13. 228号土坑全景(南から)
 14. 230号土坑全景(南から)
 15. 232号土坑全景(南から)
- P L. 23 1. 245号土坑全景(北から)
 2. 245号土坑遺物出土状態(北から)
 3. 245号土坑全景(東から)
 4. 247号土坑断面(北から)
 5. 248号土坑全景(南から)
 6. 249号土坑全景(南から)
 7. 250号土坑全景(北から)
 8. 251号土坑全景(北から)
 9. 252号土坑全景(南から)
 10. 253号土坑全景(南から)
 11. 254号土坑全景(南から)
 12. 255号土坑全景(北から)
 13. 256号土坑全景(北から)
 14. 257号土坑全景(北から)
 15. 258号土坑全景(北から)
- P L. 24 1. 259号土坑全景(北から)
 2. 260号土坑全景(東から)
 3. 261号土坑全景(東から)
 4. 262号土坑全景(東から)
 5. 263号土坑全景(北から)
 6. 264号土坑全景(北から)
 7. 265号土坑断面(東から)
 8. 265号土坑全景(東から)
 9. 266号土坑全景(北から)
 10. 267号土坑全景(東から)
 11. 268号土坑全景(北から)
 12. 269号土坑全景(西から)
 13. 270号土坑全景(西から)
 14. 271号土坑全景(西から)
 15. 272号土坑全景(北から)
- P L. 25 1. 273号土坑全景(北から)
 2. 274号土坑全景(北から)
 3. 275号土坑全景(東から)
 4. 276号土坑全景(東から)
 5. 277号土坑全景(東から)
 6. 278号土坑全景(東から)
 7. 279号土坑全景(北から)
 8. 280号土坑全景(東から)
 9. 281号土坑全景(東から)
 10. 282号土坑全景(北から)
 11. 283号土坑全景(北から)

12. 284号土坑全景(北から)
 13. 285号土坑全景(北から)
 14. 286号土坑全景(北から)
 15. 287号土坑全景(南から)
- P L. 26 1. 288号土坑全景(南から)
 2. 289号土坑全景(南から)
 3. 290号土坑全景(東から)
 4. 291号土坑全景(東から)
 5. 292号土坑全景(南から)
 6. 293号土坑全景(東から)
 7. 294号土坑全景(東から)
 8. 295号土坑全景(南から)
 9. 296号土坑全景(南から)
 10. 297号土坑全景(南から)
 11. 298号土坑全景(南から)
 12. 299号土坑全景(南から)
 13. 300号土坑全景(南から)
 14. 301号土坑全景(南から)
 15. 302号土坑全景(南から)
- P L. 27 1. 303号土坑全景(南から)
 2. 304号土坑全景(東から)
 3. 305号土坑全景(南から)
 4. 306号土坑全景(西から)
 5. 306号土坑全景(東から)
 6. 309号土坑全景(西から)
 7. 310号土坑全景(北から)
 8. 311号土坑全景(西から)
 9. 312号土坑全景(北から)
 10. 314号土坑全景(南から)
 11. 314号土坑全景(南から)
 12. 316号土坑全景(東から)
 13. 317号土坑断面(東から)
 14. 318号土坑断面(南から)
 15. 318号土坑全景(東から)
- P L. 28 1. 327・328号土坑全景(北から)
 2. 330号土坑断面(南から)
 3. 330号土坑全景(東から)
 4. 330号土坑全景(南から)
 5. 337号土坑全景(東から)
 6. 339号土坑全景(東から)
 7. 343号土坑断面(南から)
 8. 343号土坑遺物出土状態(南から)
 9. 344号土坑遺物出土状態(南から)
 10. 344号土坑全景(南から)
 11. 347号土坑全景(南から)
 12. 347号土坑遺物出土状態(南から)
 13. 348号土坑遺物出土状態(南から)
 14. 348号土坑全景(北から)
 15. 349号土坑全景(南から)
- P L. 29 1. 351号土坑全景(南から)
 2. 353号土坑全景(南から)
 3. 355号土坑全景(南から)
 4. 359号土坑全景(北から)
 5. 366号土坑全景(南から)
 6. 366号土坑断面(南から)
 7. 366・369号土坑全景(東から)
 8. 370号土坑全景(南から)
 9. 371号土坑全景(東から)
 10. 371号土坑遺物出土状態(東から)
 11. 371号土坑全景(東から)
 12. 372号土坑全景(南から)
 13. 374号土坑全景(東から)
 14. 375号土坑断面(南から)
 15. 375号土坑全景(南から)
- P L. 30 1. 74区T-6早期遺物出土状態(西から)
 2. 74区T-6早期遺物出土状態(南から)
3. 74区T-6早期遺物出土状態(西から)
 4. 74区T-6早期遺物出土状態(東から)
 5. 74区T-6早期遺物出土状態(西から)
 6. 74区V-16遺物出土状態(東から)
 7. 74区N-19土偶出土状態(西から)
 8. 74区S-15遺物出土状態(東から)
- P L. 31 1. 1号再葬墓(南から)
 2. 1号再葬墓遺物出土状態(東から)
 3. 1号再葬墓遺物出土状態(南から)
 4. 1号再葬墓遺物出土状態(南から)
 5. 1号再葬墓遺物出土状態(南から)
 6. 1号再葬墓遺物出土状態(南から)
 7. 1号再葬墓遺物出土状態(北から)
 8. 1号再葬墓遺物出土状態(南から)
- P L. 32 1. 1号再葬墓遺物出土状態(南から)
 2. 1号再葬墓遺物出土状態(北から)
- P L. 33 1. 83号土坑全景(南から)
 2. 118号土坑全景(南から)
 3. 121号土坑全景(南から)
 4. 154号土坑全景(東から)
 5. 156号土坑全景(東から)
 6. 191号土坑全景(南から)
 7. 333号土坑全景(南から)
 8. 338号土坑全景(南から)
- P L. 34 1. 340号土坑遺物出土状態(西から)
 2. 340号土坑遺物出土状態(北東から)
 3. 340号土坑遺物出土状態(東から)
 4. 342号土坑断面(北から)
 5. 345号土坑全景(南から)
 6. 350号土坑遺物出土状態(西から)
 7. 352号土坑遺物出土状態(南から)
 8. 352号土坑遺物出土状態(南から)
- P L. 35 1. 354号土坑全景(南から)
 2. 356号土坑全景(南から)
 3. 360号土坑断面(東から)
 4. 360号土坑全景(北から)
 5. 362号土坑遺物出土状態(東から)
 6. 362号土坑全景(南から)
 7. 363号土坑断面(東から)
 8. 363号土坑全景(東から)
- P L. 36 1. 364号土坑断面(南から)
 2. 364号土坑全景(南から)
 3. 365号土坑断面(南から)
 4. 365号土坑全景(南から)
 5. 367号土坑全景(西から)
 6. 368号土坑全景(南から)
 7. 373号土坑全景(南から)
 8. 376号土坑全景(西から)
- P L. 37 1. 1号住居全景(西から)
 2. 1号住居カマド(西から)
 3. 2号住居全景(南から)
 4. 2号住居遺物出土状態(南から)
 5. 2号住居遺物出土状態(北から)
- P L. 38 1. 2号住居炭化物(西から)
 2. 2号住居遺物出土状態(南東から)
 3. 2号住居カマド断面(西から)
 4. 2号住居掘り方(南から)
 5. 1・2号住居全景(南から)
- P L. 39 1. 7号住居断面(東から)
 2. 7号住居遺物出土状態(南から)
 3. 7号住居全景(南から)
 4. 7号住居カマド(南から)
 5. 9号住居全景(南から)
- P L. 40 1. 10号住居全景(西から)
 2. 10号住居カマド断面(南から)
 3. 10号住居カマド(西から)

- P L. 41 4. 10号住居焼土断面(東から)
5. 10号住居1号ピット断面(南から)
1. 10号住居2号ピット断面(西から)
2. 10号住居掘り方(西から)
3. 11号住居断面(東から)
4. 11号住居全景(西から)
5. 11号住居炭化材(南から)
6. 11号住居遺物出土状態(南から)
7. 11号住居カマド断面(西から)
8. 11号住居貯蔵穴(南から)
- P L. 42 1. 11号住居掘り方(西から)
2. 12号住居断面(東から)
3. 12号住居遺物出土状態(南から)
4. 12号住居カマド(南から)
5. 12号住居カマド床(南から)
- P L. 43 1. 13・14号住居(北から)
2. 13号住居全景(南から)
3. 13号住居カマド(西から)
4. 13号住居カマド断面(南から)
5. 13号住居カマド石組(西から)
6. 14号住居(北から)
7. 14号住居カマド断面(南から)
- P L. 44 1. 13・14号住居カマド(西から)
2. 13・14号住居カマド石組(西から)
3. 15号住居全景(南から)
4. 15号住居カマド(西から)
5. 16号住居全景(西から)
6. 16号住居カマド(西から)
7. 14号焼土(南から)
8. 15号焼土(南から)
- P L. 45 1. 21・22号溝(西から)
2. 22号溝(西から)
3. 22号溝遺物出土状態(西から)
4. 3号土坑炭化物(南から)
5. 33号土坑全景(東から)
6. 35号土坑全景(東から)
7. 59号土坑全景(南から)
8. 62号土坑全景(東から)
9. 74号土坑全景(南から)
10. 75号土坑全景(南から)
11. 215号土坑全景(南から)
12. 215号土坑全景(東から)
13. 216号土坑全景(東から)
14. 217号土坑全景(東から)
15. 224号土坑断面(北から)
- P L. 46 1. 225・235号土坑全景(南から)
2. 227号土坑全景(東から)
3. 229号土坑全景(南から)
4. 231号土坑全景(東から)
5. 233号土坑全景(東から)
6. 234号土坑全景(東から)
7. 240号土坑全景(南から)
8. 241号土坑全景(南から)
9. 242号土坑全景(南から)
10. 243号土坑全景(南から)
11. 244号土坑全景(南から)
12. 377号土坑断面(南から)
13. 378号土坑全景(南から)
14. 379号土坑断面(南から)
15. 380～382号土坑全景(南から)
- P L. 47 1. 381号土坑断面(南から)
2. 383号土坑断面(南から)
3. 384・388号土坑全景(南から)
4. 385号土坑全景(南から)
5. 386号土坑全景(南から)
6. 387号土坑全景(北から)
7. 389号土坑全景(南から)
8. 390号土坑全景(東から)
9. 391号土坑全景(南から)
10. 392号土坑断面(西から)
11. 392号土坑全景(西から)
12. 393号土坑全景(南から)
13. 394号土坑断面(西から)
14. 395・396号土坑全景(南から)
15. 398号土坑全景(南から)
- P L. 48 1. 1号掘立柱建物(東から)
2. 2号掘立柱建物(南から)
3. 3号掘立柱建物(東から)
4. 3号掘立柱建物(南から)
5. 7号焼土断面(東から)
6. 11号焼土(南から)
7. 12号焼土(南から)
8. 13号焼土(南から)
- P L. 49 1. 16号焼土(南から)
2. 17号焼土(西から)
3. 23号溝(東から)
4. 24号溝(東から)
5. 334号土坑遺物出土状態(西から)
6. 335号土坑全景(北東から)
7. 336号土坑断面(南西から)
8. 336号土坑全景(北から)
- P L. 50 1. 1号ピット(南から)
2. 2号ピット(南から)
3. 3号ピット(南から)
4. 4号ピット(南から)
5. 5号ピット(東から)
6. 6号ピット(南から)
7. 7号ピット(南から)
8. 8号ピット(南から)
9. 9号ピット(南から)
10. 10号ピット(南から)
11. 11号ピット(西から)
12. 12号ピット断面(北から)
13. 12号ピット(南から)
14. 13号ピット(西から)
15. 14号ピット(南から)
- P L. 51 1. 15号ピット(南から)
2. 16号ピット(西から)
3. 17号ピット断面(南から)
4. 17号ピット(西から)
5. 18号ピット(南から)
6. 19号ピット(南から)
7. 20号ピット(西から)
8. 21号ピット(南から)
9. 22号ピット(南から)
10. 23号ピット(南から)
11. 24号ピット(南から)
12. 28号ピット(南から)
13. 29号ピット(南から)
14. 30号ピット(南から)
15. 31号ピット(南から)
- P L. 52 1. 32号ピット(南から)
2. 33号ピット(南から)
3. 34号ピット(南から)
4. 35号ピット(南から)
5. 36号ピット(南から)
6. 37号ピット(南から)
7. 38号ピット(南から)
8. 39号ピット(南から)
9. 40号ピット(南から)
10. 41号ピット(南から)
11. 42号ピット(南から)

12. 43号ピット(南から)
 13. 44号ピット(南から)
 14. 45号ピット(南から)
 15. 46号ピット(北から)
- P L. 53 1. 47号ピット(南から)
 2. 48号ピット(南から)
 3. 49号ピット断面(東から)
 4. 50号ピット(北から)
 5. 51号ピット(西から)
 6. 52号ピット(南から)
 7. 65号ピット断面(東から)
 8. 68・69号ピット(南から)
 9. 70号ピット(南から)
 10. 71号ピット(西から)
 11. 72号ピット断面(南から)
 12. 73号ピット断面(南から)
 13. 75号ピット断面(南から)
 14. 99号ピット(南から)
 15. 100号ピット(南から)
- P L. 54 1. 1号建物周辺全景(上空から)
 2. 1号建物全景(上空から)
- P L. 55 1. 1号建物調査前風景(南から)
 2. 1号建物全景(南から)
 3. 1号建物土台出土状態(南から)
 4. 1号建物土間(南から)
 5. 1号建物断面(南から)
 6. 1号建物馬屋(南から)
 7. 1号建物8号土坑(南から)
 8. 1号建物囲炉裏(南から)
- P L. 56 1. 1号建物囲炉裏(南から)
 2. 1号建物囲炉裏断面(南から)
 3. 1号建物遺物出土状態(南西から)
 4. 1号建物遺物出土状態(南から)
 5. 1号建物遺物出土状態(南から)
 6. 1号建物筵痕(南から)
 7. 1・3号建物(南から)
 8. 1号建物南東隅(南から)
- P L. 57 1. 2号建物全景(西から)
 2. 2号建物全景(東から)
 3. 2号建物2号ピット柱出土状態(南から)
 4. 2号建物2号ピット柱出土状態(西から)
 5. 2号建物11号ピット柱出土状態(北から)
 6. 2号建物11号ピット柱出土状態(東から)
 7. 2号建物11号ピット下部木製品出土状態(南から)
 8. 2号建物床下断ち割り(西から)
- P L. 58 1. 3号建物全景(南から)
 2. 3号建物全景(東から)
 3. 3号建物5号土坑断面(東から)
 4. 3号建物4・5号土坑(南から)
 5. 3号建物4・5号土坑(東から)
 6. 3号建物5号土坑(西から)
 7. 5号建物全景(南から)
 8. 5号建物全景(北から)
- P L. 59 1. H18. 73区(18B区)畑全景(上空から)
 2. H19. 74区(19B区)畑全景(上空から)
- P L. 60 1. H19. 73区(19A・C・D区)畑全景(上空から)
 2. H20. 74・75区(20C区)畑全景(上空から)
- P L. 61 1. H20. 75区(20D区)畑全景(上空から)
 2. H20. 73・74・83・84区(20E区)畑全景(上空から)
- P L. 62 1. H20. 83区(20H区)畑全景(上空から)
 2. H20. 63区(20G区)畑全景(上空から)
- P L. 63 1. H21. 72・82区(21B区)畑全景(上空から)
 2. H22. 74区(22C区)畑全景(上空から)
- P L. 64 1. 73区(18B区)13・14畑(西から)
 2. 73区(19A区)16・18畑(東から)
 3. 74区(19D区)21畑(東から)
4. 83・84区(20E区)9・10畑(東から)
 5. 72区(21B区)4・5・6畑(西から)
 6. 83区(21E区)9畑(西から)
 7. 75区(22B区)36畑(西から)
 8. 84区(25B区)11・12畑(東から)
- P L. 65 1. 1号道(南から)
 2. 1号道(南から)
 3. 1号道(南から)
 4. 2号道(東から)
 5. 2号道植物(西から)
 6. 2号道植物(西から)
 7. 2号道・4号溝(西から)
 8. 2号道・4号溝(西から)
 9. 2号道植物(西から)
 10. 6号道(北から)
 11. 8号道(北から)
 12. 8号道(南から)
 13. 8号道(北から)
- P L. 66 1. 8号道取水施設(南から)
 2. 8号道取水施設(北から)
 3. 10号道断面(南西から)
 4. 11号道(西から)
 5. 11号道(西から)
 6. 12号道(南から)
 7. 14号道(東から)
 8. 15号道(南から)
 9. 16号道・20号溝(東から)
 10. 18号道(南西から)
 11. 19号道(南東から)
 12. 19号道・6号石垣(南から)
 13. 19号道(東から)
- P L. 67 1. 2号溝(南から)
 2. 3号溝・2号道(南東から)
 3. 5・6号溝断面(南から)
 4. 6号溝断面(南から)
 5. 泥流礫による溝(旧7号溝)(西から)
 6. 14号溝(南から)
 7. 10号道・9・11・12号溝・1号河道(南から)
 8. 1号河道・10号道・9号溝(北から)
 9. 1号水場(東から)
 10. 1号水場(南から)
 11. 7号石垣(南東から)
 12. 7号石垣(南から)
 13. 7号石垣(南西から)
 14. 1号集石(南西から)
 15. 1号集石(西から)
- P L. 68 1. 1号焼土(北から)
 2. 1号土坑(南から)
 3. 86号土坑全景(南から)
 4. 86号土坑断面(南から)
 5. 86号土坑下床断面(南から)
 6. 315号土坑全景(南から)
 7. 315号土坑断面(西から)
 8. 315号土坑全景(南西から)
- P L. 69 1. 315号土坑断面(北西から)
 2. 315号土坑全景(南西から)
 3. 315号土坑掘り方断面(南から)
 4. 315号土坑掘り方(南から)
 5. 341号土坑全景(南西から)
 6. 341号土坑遺物出土状態(南東から)
 7. 341号土坑遺物出土状態(南東から)
 8. 341号土坑掘り方(南から)
- P L. 70 1. 74区(22C区)植物No.11(西から)
 2. 74区(22C区)植物No.31(北から)
 3. 74区(22D区)植物No.32(南から)
 4. 74区(22D区)植物No.34(南から)

5. 74区(22D区)植物No.38(南から)
 6. 74区(22D区)植物No.39(西から)
 7. 74区(22H区)植物No.41(北から)
 8. 74区(22D区)植物No.43(西から)
- P L. 71 1. 84区11畑杭(南から)
 2. 84区11畑杭断面(南から)
 3. 84区11畑曲物出土状況(西から)
 4. 84区11畑曲物出土状況(南から)
 5. 84区11畑杭(南から)
 6. 84区11畑杭断面(南から)
 7. 84区11畑杭(南から)
 8. 84区11畑杭(東から)
- P L. 72 1. 1号暗渠(南西から)
 2. 1号暗渠断面(東から)
 3. 1号暗渠全景(北東から)
 4. 1号暗渠(南西から)
 5. 1号暗渠(西から)
- P L. 73 1. 1号暗渠(南から)
 2. 1号暗渠掘り方(南から)
- P L. 74 3号住居出土遺物・4号住居出土遺物(1)
 P L. 75 4号住居出土遺物(2)・5号住居出土遺物(1)
 P L. 76 5号住居出土遺物(2)
 P L. 77 5号住居出土遺物(3)・6号住居出土遺物(1)
 P L. 78 6号住居出土遺物(2)
 P L. 79 6号住居出土遺物(3)・8号住居出土遺物(1)
 P L. 80 8号住居出土遺物(2)
 P L. 81 27・41・44・183・223・245・294・299・310・311・312・
 316・317・318・319・320・327・337・339号土坑出土遺物
 P L. 82 343・344・347号土坑出土遺物
 P L. 83 348・351・353・358・359・366・369・371号土坑出土遺物
 P L. 84 1～7号埋喪
 P L. 85 4号列石出土遺物・6号列石出土遺物(1)
 P L. 86 6号列石出土遺物(2)、遺構外出土遺物(1)
 P L. 87 遺構外出土遺物(2)
 P L. 88 遺構外出土遺物(3)
 P L. 89 遺構外出土遺物(4)
 P L. 90 遺構外出土遺物(5)
 P L. 91 遺構外出土遺物(6)
 P L. 92 遺構外出土遺物(7)
 P L. 93 遺構外出土遺物(8)
 P L. 94 遺構外出土遺物(9)
 P L. 95 遺構外出土遺物(10)
 P L. 96 遺構外出土遺物(11)
 P L. 97 遺構外出土遺物(12)
 P L. 98 遺構外出土遺物(13)
 P L. 99 遺構外出土遺物(14)
 P L. 100 遺構外出土遺物(15)
 P L. 101 遺構外出土遺物(16)
 P L. 102 遺構外出土遺物(17)・1号再葬墓出土遺物(1)
 P L. 103 1号再葬墓出土遺物(2)、118・121・154・191・332・333・
 338・340・342号土坑出土遺物
 P L. 104 345・346・350・352・354・356・360・361・362・363号土坑
 出土遺物
 P L. 105 364・365・373・376号土坑出土遺物、遺構外出土遺物(1)
 P L. 106 遺構外出土遺物(2)
 P L. 107 遺構外出土遺物(3)
 P L. 108 遺構外出土遺物(4)
 P L. 109 遺構外出土遺物(5)
 P L. 110 遺構外出土遺物(6)
 P L. 111 遺構外出土遺物(7)
 P L. 112 遺構外出土遺物(8)
 P L. 113 遺構外出土遺物(9)、1・2・7・10号住居出土遺物
 P L. 114 11～13・15・16号住居出土遺物、15号焼土出土遺物
 P L. 115 13・33・59・62・74・378・395号土坑出土遺物、22号溝
 出土遺物、遺構外出土遺物、334・336号土坑出土遺物
 P L. 116 遺構外出土遺物、1号建物出土遺物(1)
 P L. 117 1号建物出土遺物(2)
 P L. 118 1号建物出土遺物(3)
 P L. 119 2・3号建物出土遺物
 P L. 120 5号建物出土遺物、341号土坑出土遺物、1号暗渠出土遺物、
 曲物
 P L. 121 遺構外出土遺物(1)
 P L. 122 遺構外出土遺物(2)
 P L. 123 遺構外出土遺物(3)
 P L. 124 遺構外出土遺物(4)
 P L. 125 遺構外出土遺物(5)
 P L. 126 遺構外出土遺物(6)
 P L. 127 遺構外出土遺物(7)
 P L. 128 遺構外出土遺物(8)

第1章 調査に至る経過

第1節 発掘調査に至る経緯

昭和27年に建設計画が発表された以降、国、県、地元との間で協議が行われて来た八ッ場ダムであるが、平成4年に、群馬県と地元長野原町との間で「八ッ場ダム建設事業に係わる基本協定」及び「用地補償調査に関する協定」が締結され、ダム建設事業が本格的に始動した。

こうしたことを受け、国土交通省(元建設省)と群馬県教育委員会及び長野原町教育委員会で協議を重ね、「八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財の実施に関する協定書」を締結、平成6年4月には関東建設局(現関東地方整備局)と群馬県教育委員会教育長により発掘調査の受託契約が行われ、さらに群馬県教育委員会と群馬県埋蔵文化財調査事業団との間において発掘調査の受託契約が行われ発掘調査事業の開始となった。

尾坂遺跡の発掘調査は、道路建設、鉄道建設および長野原地区の代替地造成に伴う発掘調査として実施されることとなった。

遺跡地内には、学校をはじめ、住宅、工場、店舗などが多く在り、これらの移転経過に伴い発掘調査も、工程の調整や変更が行われた。このため、年度毎に調査区は細分された。

特に道路関連、JR 関連工事部分については、度々調

整作業を行ってきた。

調査は、受託契約終了後の、平成6年度より開始され、中断時期を含め、平成26年まで継続して行われてきた。

なお、平成6・7・11年度の調査経緯については既に報告済み[八ッ場ダム発掘集成(1) 2002]であるため、本項では、今回報告の平成18年度以降の調査経緯について年度を追って記載する。

平成18年度の調査は、第一次、第二次と、2回の調査を行った。第一次調査は尾坂遺跡の北東端に当たり、北側段丘の下位に位置し、国道と接する場所である。

西に近接し、調査対象区域内に位置する、長野原町立東中学校の移転に伴い、送迎場の設置工事の事前調査として実施されたものである。

第二次調査は、第一次調査区の南約100mに位置する、JR吾妻線の改築工事に伴う橋脚台建設工事に伴うもので、調査区内ほぼ全面に天明泥流畑が検出された。

この第一次調査では、比較的狭い三角形の範囲であったにもかかわらず、天明泥流に埋没した江戸時代の建物1棟とこれに伴う廁が、良好な状態で検出され、今後の調査工程を考える上で、貴重な資料を得ることとなった。

平成19年度の調査は、尾坂遺跡における遺跡想定範囲の、ほぼ中央部にあたっており、年度調査面積的には最も広範囲の調査となった。

移転が終了した長野原町立東中学校の校舎および校庭部分の跡地で、JR吾妻線の線路改築に伴う調査部分と、



第1図 尾坂遺跡位置図(国土地理院5万分の1地形図「草津」使用)

第1章 調査に至る経過

主に代替地造成に伴うものである。

調査は6月より開始し、一時中断を挟み12月末に終了した。調査区内全面において、天明泥流で覆われた江戸時代の畑を検出した。

平成20年度の調査は、JR吾妻線の改良工事および代替地造成に伴うものである。前年度調査区の南、遺跡地の南端部と一段下位の川寄り部分、および国道寄り、前年度調査区の北側部分、さらに西側の4カ所である。

南側の調査区の一部は段丘端で、地形的にかなりの斜面となっていることから、トレンチによる調査を行なった。その結果、泥流の攻撃面にあっており、遺構面が流れていることなどから、畑等の遺構は確認できなかった部分もある。

西側の調査区では、天明泥流畑の下面より縄文時代、平安時代の遺構が検出され、これまでに調査を行った他の調査区とは下層面の様相を異にしていることが確認され、近接する周囲の調査時における申し送り事項となった。

平成21年度の調査は、前年度に引き続き、JR吾妻線の改築工事および代替地造成に伴うものである。

調査区は大きく2カ所に分けられ、遺跡地の南西川寄り部分で、代替地に付属する道路用地部分と、東側の代替地工事に伴う部分である。

東側の調査区では、ほぼ全面に天明泥流畑が確認されたが、下面からは遺構の検出はほとんど見られなかった。

西側道路用地部分については、平安、縄文時代の遺構が確認された前年度調査区の南側に当たり、畑の下面より同時代の遺構や遺物が多く検出された。なお、さらに西側の道路用地部分に関しては、用地取得の関係から一時中断を挟み、冬期に調査を行うこととなった。

平成22年度の調査は、道路用地とその東側代替地部分の調査である。一部吾妻川寄りの調査区では前年度の継続調査を行なった。

遺構は縄文時代の住居、土坑が前年度同様に検出され、吾妻川寄り部分で遺構が濃密に分布する様相が確認された。

継続調査部分の終了後、さらに東側の道路用地部分の調査を開始した。その北側調査部分については、立木およびコンクリート基礎の撤去を待って調査に入った。

継続調査区終了後、上物撤去後、調査を行った東側道

路用地部では、周辺の調査区同様、天明泥流下の畑が全面に検出された。さらに、下層部の調査において、平安時代の住居、弥生時代の再埋葬、土坑、さらには縄文時代の住居、土坑が多数検出された他、多くの縄文、弥生土器、石器類が出土した。

平成25年度の調査は、代替地工事に伴うものである。現在付け替えとなった国道145号の、旧道道の南に隣接する2カ所(東側をA区、西側をB区とした)の調査である。

調査場所は東西に約50m程離れた場所である。地形的には、北側の段丘崖に近く、南に広がる広大な畑の北端部にあっている。いずれの調査区において全面に天明泥流で覆われた畑が検出されており、北側部分では畑が終わり東西に走る道状の遺構が確認された。その北側にも畑が一部続いているが、かなり傾斜を持つ状況に変化している。

畑調査終了後、下面の調査を行い古い遺構はほとんど確認されず、B区(75区)では、江戸時代と考えられる、Y字形の石組暗渠が検出された。

平成26年度の調査は、代替地工事に伴うもので、南の現在付け替えとなった国道145号と、北の本年度開通予定のJR吾妻線高架線路とに挟まれる部分の調査区になる。

調査は、天明泥流面と第2面目の調査を行った。江戸時代の天明泥流下の畑と、下層面では平安時代の住居、陥し穴、土坑などが検出された。

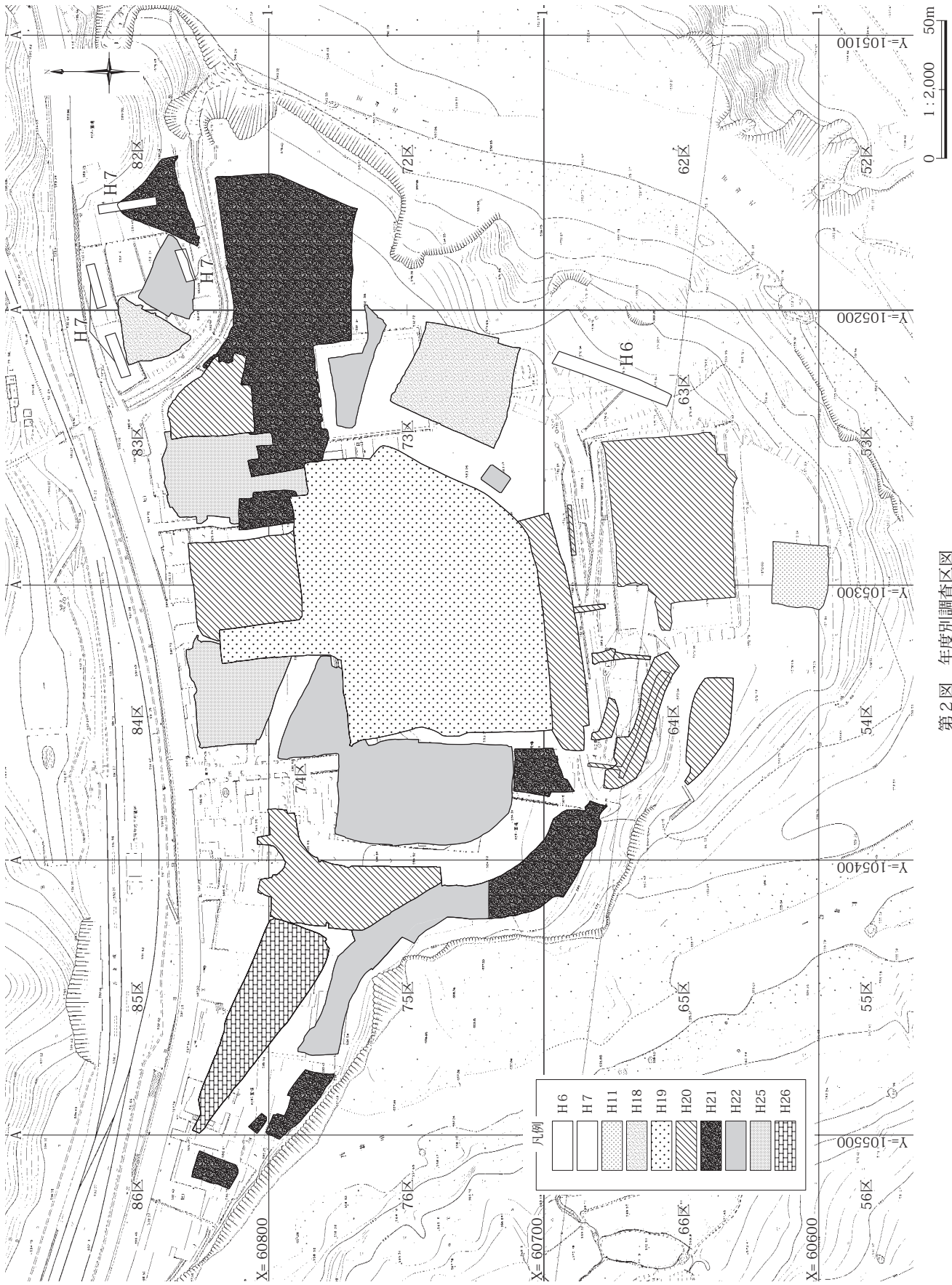
以上のように、年度毎に調査区が転々とする状況で、遺構によっては、数年後に残りの部分の調査を行うというような状況も生じている。

第2節 発掘調査の方法と経過

1. 調査の方法

尾坂遺跡の発掘調査にあたっては、調査区全体を覆う形でグリッド設定を行った。測量方眼設定にあたっては、日本平面直角座標第IX系を使用し、1km方眼の大グリッド「地区」を設定しさらにこの中を100m方眼の中グリッド「区」に分けた。この区が調査区を表す名称として使用されている。

中グリッド「区」の中をさらに4m方眼で細分したもの



第2図 年度別調査区図

第1章 調査に至る経過

を最小グリッドとして使用している。このグリッドの呼称は、中グリッドの南東隅を起点とし、北方向に1・2・3・・・と数字を付し25まで、西方向へはA・B・C・・・とYまで付した。こうして設定した最小グリッドの呼称は中グリッド「区」、小グリッドの南東交点(例えばA-1)を付け○区A-1と呼ぶこととした。(大グリッドの地区名は同一であるため略す)なお、住居、土坑等の遺構番号に基本的に尾坂遺跡通番とし、遺構毎に1から付番し、前年度からの続き番号を使用している。このため年度をまたいで調査を行った同一遺構については先行調査時の番号を用いている。

発掘調査の手順は、事前に調査対称区域を委託者側立ち会いの下で範囲および上物等の確認を行った。

尾坂遺跡の調査は建物の移転などの関係から、調査区が細分され、結果的に延べ20年を超える調査となった。

調査では、まず重機によって表土の除去を行い、遺構確認面を確定した。

遺跡は全面1～2.5mもの天明泥流(1783年)に覆われており、泥流下には当時の畑が検出されている。泥流下の建物(主屋)は1棟のみで、他は作業小屋と見られる掘立柱建物が1棟のみであった。各調査区において、畑の調査終了後、トレンチを設定し、下面の遺構の有無を確認し、必要に応じて2面目の調査範囲を確定し引き続き調査を継続して行った。2面目調査区については、場所により2ないし3面以上の調査が必要な場合があり、特に黒色土の堆積が厚い谷地部分については、掘り下げ時の状況により掘削には注意を払った。

遺構の検出が難しい場所については、グリッド方眼を設定し、掘り下げを行った。遺物については遺構内のもは、極力出土位置に留めて掘削を行い、遺構等の確認ができない部分については、4m方眼のグリッド毎に取り上げを行った。

天明泥流畑の調査については、尾坂遺跡全面に遺構の展開が見られ、同日、同時刻に埋没したことが確認できる遺構であるため、各年度の調査区との整合性を図り図化に努めた。

その他住居や土坑等の遺構調査は基本的に、土層観察用のベルトを1本あるいは直交する2本を設定し掘り下げを行った。この際遺物についてはできる限り原位置に留め、床面あるいは底面確認後土層観察を行い、写真、

実測後ベルトの除去を行い、全体を完掘した。

ベルト除去後は遺物出土状態の観察、写真・実測を行い取り上げを行った。遺物取り上げ後は土坑等については底面の確認、精査を行い平面図、断面図、写真撮影を行う。また、住居については、床面の精査、柱穴、埋甕、炉の確認を行い、それぞれの断面図、平面図、写真撮影後掘り上げを行った。その後全体の写真、平面図、断面図を取り生活面の調査を終了する。最後に床面、炉、埋甕等の断ち割りを行い、掘方面の調査、検出を行い、床下土坑、重複等の確認をして調査を終了する。各遺構調査後は全体図の作成、写真撮影を行なった。なお、発掘調査は4月から12月までとし、原則凍結等により1～3月の間は行っていない。

また、八ッ場ダム関連遺跡の略称として八ッ場ダム調査開始時に協議を行い下記の略号を付すこととなった。

1. 八ッ場ダムの略称YD (Yanba-Dam)
2. 遺跡番号 長野原町の5地区に1～5までの番号を付し、それぞれの地区内における調査順に1から始まる連番を用いることとした。

1-川原畑地区、2-川原湯地区、3-横壁地区、4-林地区、5-長野原地区である。ちなみに、尾坂遺跡はYD(八ッ場ダムの略称)、5(長野原地区)、02(地区内における2番目の調査遺跡)となり、YD5-02が尾坂遺跡の略称となる。

調査時における取り上げ遺物のラベル、各図面には基本的にこの略称が付されている。但し、報告書作成時には、原則遺跡略称は使用していない。

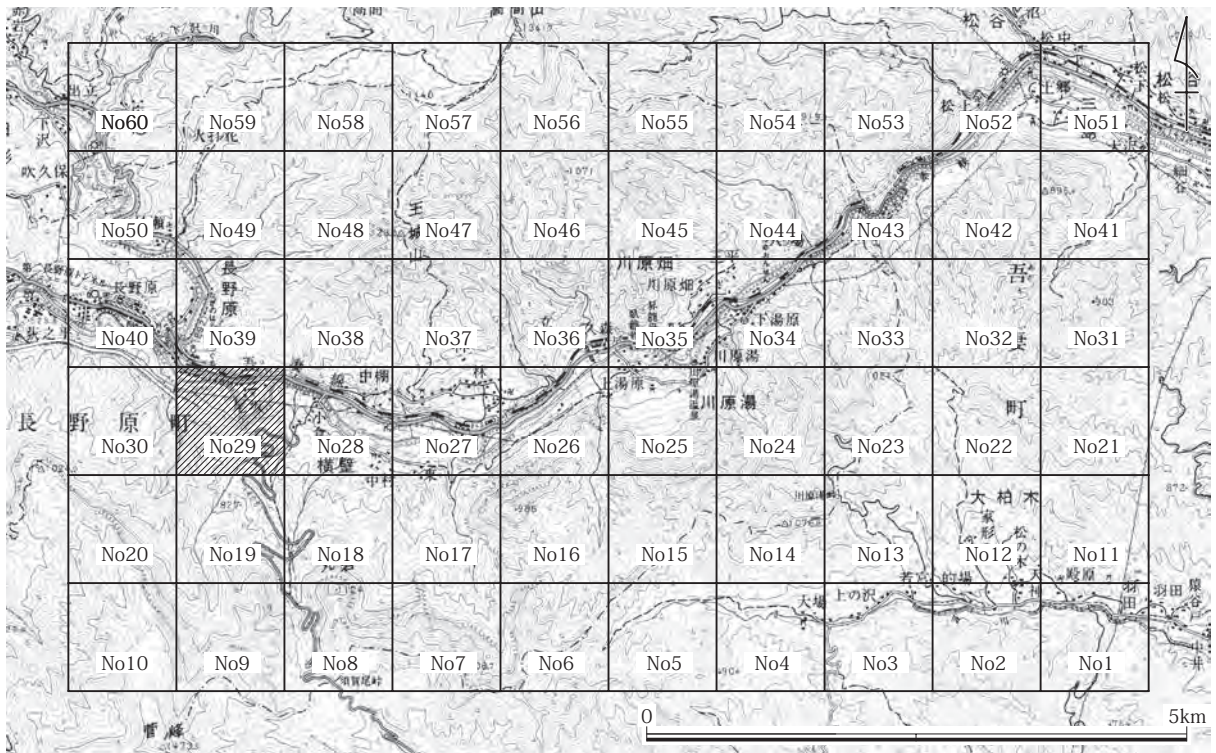
2. 発掘調査の経過

尾坂遺跡の調査はJR吾妻線の橋梁工事および代替地造成に伴い行われたものであるが、調査開始時には学校をはじめ、多くの住宅、工場などが存在していたことから、移転事業との関係から、委託者側との調整に時間を費やしての調査となった。

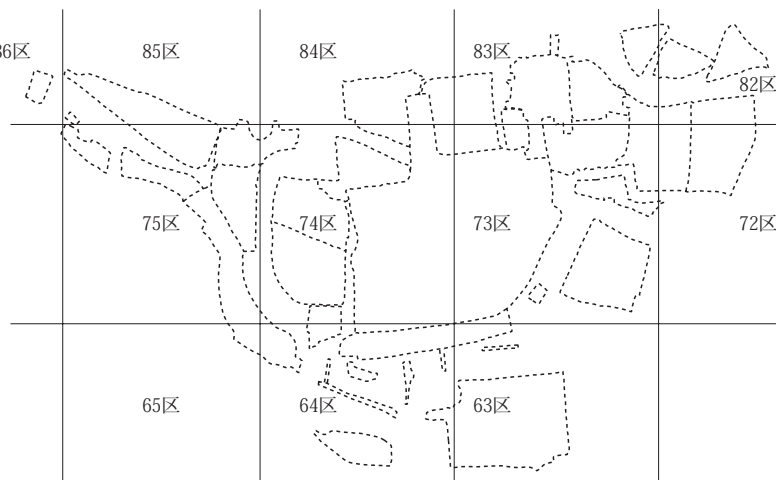
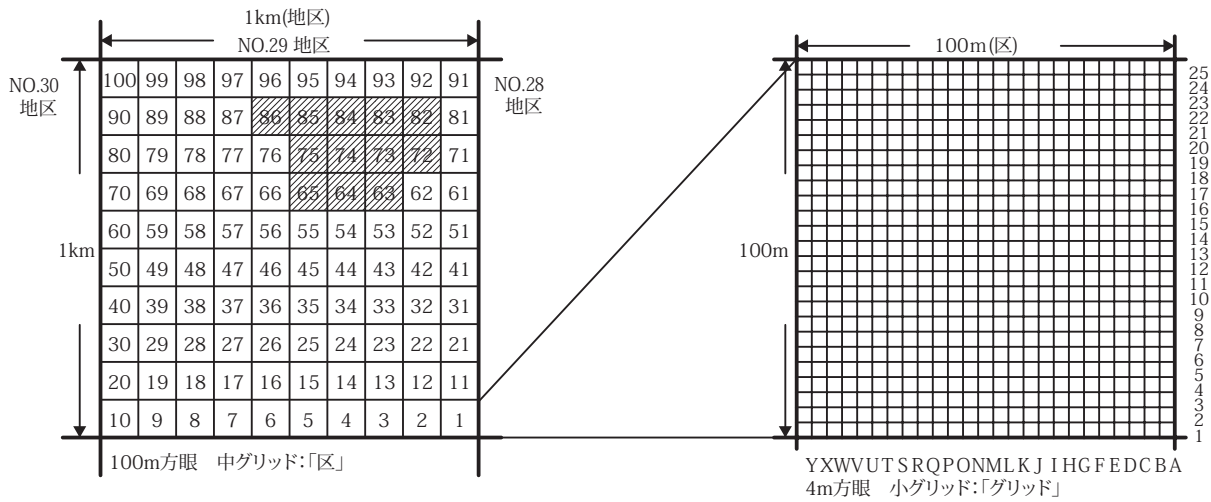
本節では、調査年度毎の調査経過の概略を記すこととする。

平成18年度の調査

第一次調査として、9月より調査を開始、ほぼ1ヶ月を費やした。調査区は国道の南側で、地形的に見ると、国道からは一段下がった場所となっている。



NO.29地区 = 尾坂



第3図 調査区の設定

第1章 調査に至る経過

深さ2m以上の天明泥流を確認後、掘削作業を行っていったところ、多くの有機物、木材等が出土した。その後T字形に残る建物の土台や礎石が検出され、建物と確認した。建物内からは木器、陶磁器をはじめ、銭、煙管などの金属製品も検出された。

建物内の施設としては厩や土間、囲炉裏などを確認した。さらには建物の南西には、2カ所の木桶が残った厩も確認された。調査区内は北側からの湧水も多く、排水に苦心しての調査であった。

第二次調査は、遺跡の載る台地の南東部に当たり、11月末より開始、12月末に終了した。やはり天明泥流で埋没した畑と、同時に機能していたと思われる溝なども検出された。

平成19年度の調査

尾坂遺跡のほぼ中央部分の調査である。6月より開始し中断を挟み12月で終了した。

ほぼ全面において、天明泥流に覆われた畑が検出され、これに伴う溝や道さらには土坑なども検出された。

平成20年度の調査

調査は旧長野原東中学校の校庭南部および、国道寄りの3地点、さらには下段の旧テニス場部分の調査を行った。校庭部分の調査では天明泥流下に整然とした畑が全面に検出されている。

国道寄りの調査区では泥流に覆われた畑、溝等が確認、最も東の調査区では畑の端には、一部柱材の残る掘立柱建物が検出された。

テニス場部分では、天明泥流下に高低差を持つ畑面を確認、段差部分には石垣が築かれている。

天明面の調査終了後2面目の調査を行ったところ、かなり集中した土坑群を確認した。時期は縄文時代を中心とするが、やや新しい遺構も含まれるものと思われた。

平成21年度の調査

7月より調査を開始、大きく台地の南西縁辺部と東側縁辺部および斜面部の調査である。

21F区とした吾妻川寄りの調査区では、天明泥流畑調査を終了後、第2面目の調査を行ったところ、地山に多くの礫が入り込んだ北側部分において、縄文時代の住居、土坑を検出したが、最終的に調査を終えることができず、次年度に継続することを委託者側と調整し了承を得た。また、道路用地の関係で西端の一部を2月に調査してい

る。

東側に展開した21B・D・E・G・I区では、全面に天明泥流畑が検出された。

平成22年度の調査

調査は4月より開始した。前年度の継続である、川寄りの縄文時代の調査から実施、当初想定していたよりも多くの住居、土坑が確認された。

特に、6号住居は北側に張り出した柄を持つ敷石住居で、主体部が当初の掘削区外に伸びていたため、委託者と協議の上一部拡張を行い調査を行った。

また、新たに調査を行った74区においては、天明泥流畑が全面に検出され、当時使用されていたと思われる、道や溝を検出し、当時植わっていたと思われる植物痕なども確認されている。畑の調査を終了後、確認調査により下面の確認を行ったところ、平安時代から縄文時代の住居、土坑を確認したため調査区を広げて調査を行った。平安時代の住居は7軒、縄文時代の住居を1軒検出した。さらに、弥生時代の遺構については、再葬墓1基を含む土坑を検出した。遺物も弥生時代の土器や縄文早期の土器が集中して出土した。

調査はさらに北側に広げて行い、北側に続いている畑を調査した。畑の調査終了後に、下面をグリッドで掘り下げ確認調査を行ったが、遺構に関しては検出されなかった。

平成25年度の調査

平成23・24年度については、尾坂遺跡に関連した調査は行われなかった。

平成25年度の調査は代替地工事に伴うもので、付け替え後の旧国道145号と新しく建設されたJR吾妻線との間に当たり、調査区は2カ所となる。東側をA区、西側をB区とした、A区は4月より開始し5月17日に終了し、引き続いてB区の調査を行い6月で終了した。いずれの区でも天明泥流畑を全面に検出、B区の下面からは、Y字形の暗渠が検出された。

平成26年度の調査

調査区は付け替えとなった国道と、新たに建設されたJR吾妻線との間部分となる。6月に開始し、7月末で終了した。天明泥流畑を検出し、調査終了後下面の調査を行い、平安時代の住居2軒、土坑等を検出した。

平安時代の土坑の中には住居と重複した陥し穴も確認



第4図 尾坂簡略全体図(調査区名)

第1章 調査に至る経過

された。

尾坂遺跡については、平成11年度に今回の調査区南の吾妻川寄りの部分(国道145号線バイパス工事に伴う調査)、および長野原草津口駅舎整備に伴う調査を平成23年および平成26年に行っている。

国道145号線バイパス部分については群馬県埋蔵文化財調査事業団埋蔵文化財調査報告書 第303集(2002)で、長野原草津口駅舎整備に伴う発掘調査、平成23年度調査分については、群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第546集(2012)として報告されている。

3. 整理作業の経過

尾坂遺跡の整理作業は、平成19年度の冬期1月～3月に基礎整理を実施しているが、本格的な整理作業は、平成25年度～平成27年度に掛けて実施した。

作業は年度毎に出土遺物、遺構図面、遺構写真などの確認と照合等を行い、各時代(調査面)の遺構図作成を行った。遺物についても出土遺構の確認を行った後、接合、復元を実施した。

木器や植物遺体の出土も多く、洗浄、観察、分類を行い、写真撮影、実測を行った。

土器に関しては、接合、復元後、記載遺物の抽出を行い、写真撮影、実測、トレースを行った。遺構外出土の遺物も多く、抽出、分類についても時間を要した。

石器に関しても抽出、分類を行い、写真撮影、実測および計測等を実施し、石材の鑑定を行い観察表等を完成させた。

その他、金属製品の出土も見られ、錆び落とし等を行い、掲載遺物について、写真撮影、実測を行った。

遺構図は、デジタルデータを元に修正や加筆を加えレイアウトを作成。

天明泥流面に関しては、調査区内ほぼ全面において検出されており、全体図の作成を優先した。

平成25年度11月からの5ヶ月間を掛け全体図の作成を行った。その後26年度、27年度の調査部分も追加して最終的には27年度に終了している。

遺構名称は調査年度毎に調査区名、畑No.などに重複や欠落等が見られたことから、最終的には新番号に変更し、統一化を行った。

また、2面目、3面目の遺構図に関しても、確認、修

正を行い作成した。

遺構写真については、遺構毎に抽出し、遺構名や番号、撮影方向の確認を行った後、レイアウトを行った。

最終年度の平成27年度には、遺構原稿、遺構一覧表、遺物観察表等の原稿執筆を行い、全体のレイアウトを作成し、さらには遺物写真の組み上げを行った。

委託業務としては、主にデジタルによる全体図の作成・編集および出土した植物遺体の同定を実施した。

表1 尾坂遺跡 発掘工程表

	平成18年度			平成19年度			平成20年度			備考		
	9月	10月	11月	12月	6月	7月	8月	9月	10月		11月	12月
天明畑				■	■	■	■	■	■	■	■	江戸
道				■							■	江戸
溝				■		■					■	江戸
1建	■	■										江戸
2建	■										■	江戸
3建		■										江戸
5建												
1掘立												
2掘立												
3掘立												
1住									■	■		平安
2住										■	■	平安
3住												
4住												
5住												
6住												
7住												
8住												
9住												
10住												
11住												
12住												
13住												
14住												
15住												
16住												
埋糞										■	■	縄文
列石												
1再葬墓												
土坑											■	
ピット											■	
焼土											■	
その他						■	■	■	■	■	■	
空撮	■											

第1章 調査に至る経過

	平成21年度							平成22年度							平成25年度							平成26年度			備考	
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	4月	5月	6月	6月	6月	7月					
天明畑	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	江戸
道	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	江戸
溝	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	江戸
1建																										江戸
2建																										江戸
3建																										江戸
5建																										江戸
1掘立																										中世
2掘立																										中世
3掘立																										中世
1住																										
2住																										
3住																										縄文
4住																										縄文
5住																										縄文
6住																										縄文
7住																										平安
8住																										縄文
9住																										平安
10住																										平安
11住																										平安
12住																										平安
13住																										平安
14住																										平安
15住																										平安
16住																										平安
埋藏																										縄文
列石																										縄文
1再葬墓																										弥生
土坑																										
ピット																										
焼土																										
その他																										1号陪葬
空撮																										

表2 尾坂遺跡 整理工程表

	平成25年度					平成26年度					3月						
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月		9月	10月	11月	12月	1月	2月
基礎整理		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
遺物接合・復元・彩色	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
遺物写真	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
土器実測・トレース																	
石器実測・トレース																	
木器実測・トレース																	
拓本																	
遺構図修正																	
パソコン入力																	
写真図版																	
本文レイアウト																	
その他																	

	平成27年度					3月	備考		
	5月	6月	7月	8月	9月			10月	11月
基礎整理									
遺物接合・復元・彩色									
遺物写真									
土器実測・トレース									
石器実測・トレース									
木器実測・トレース									
拓本									
遺構図修正									
パソコン入力									
写真図版									
本文レイアウト									
その他									

第2章 地理的及び 歴史的環境

第1節 地理的環境

尾坂遺跡が所在する吾妻郡長野原町は、関東地方の北西奥部、群馬県吾妻郡域の南西部に広がる町である。町の北部を吾妻川が東流し、川の左岸を国道145号が走る。この国道は渋川市で新潟に続く国道17号と分岐し、吾妻川に沿って長野原町に入り大津で草津と嬭恋方面に別れる。古くは草津道として川の右岸側を通っていた。遺跡の上流約500mには、旧六合村方面から流れ下る白砂川が吾妻川に合流しており、流れ込む支流としては大きな河川の一つである。

遺跡に立って周囲を臨むと南には川を隔てて、須賀尾峠、丸岩山を、遙か北西方向には草津白根山、南西には浅間山が位置している。草津白根山・浅間山はいずれも現在なお活発に活動し、国内でも有数の活火山として知られている。

標高2,568mの浅間山は、現在の長野原町周辺の地形構成に大きく影響を与えており、約二万年前の大噴火では、山体崩壊を起こし、「応桑泥流」を発生させた。この泥流は、当時の地表を十mの高さで埋め尽くし、その後の浸食によって、吾妻川両岸に複数段の河岸段丘が形成された。

長野原町の北部を流れる吾妻川は、長野県境の鳥居峠付近に源を発して東に流れ下り、町域のほぼ中央で川幅をやや広くし、東端では第3紀層を深く刻んで吾妻溪谷を形成し、さらに東に流れ渋川市付近で利根川に合流している。この吾妻川には両側に迫る山地から流れ下る多くの支流が見られる。

尾坂遺跡の載る台地は、吾妻川左岸の河岸段丘上で、北側から吾妻川に張り出す形の比較的平坦で、幅広の舌状地形となっている。長野原地内の左岸側にあつては、比較的平坦で広く開けた地形を作っている場所でもある。

吾妻川は遺跡が載るこの台地の南を大きく迂回する形で流れている。遺跡の展開する場所と吾妻川河床面との比高は約30mを測る。台地上から川に向かっては、比較

的緩やかに下っており、特に南側部分では、後世の手が加わっている可能性もあるが、段状の地形となっている。

この吾妻川に迫り出す端部の下段部分は、現在の河床面からは15m程高くなっており、中段部分を形成している。この部分については、一部、平成11年度に調査を行っており、天明泥流で覆われた畑が検出されている。

遺跡周辺の地形は、北側には川に沿って続く上位段丘の山地形を望み、吾妻川との間に形成された台地は、やや南傾斜を持ついくつもの舌状地形を為し、東西および南側が谷地形となっている。

尾坂遺跡の西側は吾妻川に沿って台地が狭くなりながらも上流に延びており、現在JR長野原草津口駅が置かれている場所も、尾坂遺跡の範囲に含まれている。

遺跡地内の地形をさらに詳細に見ると、現状の地形は南に張り出す台地の東側部分は、北側を走る国道よりも、約数m下がっており、台地面は吾妻川下流側に向かって、僅かに下がっている。

遺跡の載る段丘の北側は、やや蛇行する急崖となっており、比高20mを測る上位河岸段丘が迫っている。

この段丘上には、縄文時代の大集落である長野原一本松遺跡が形成されており、遺跡の載る台地は、尾坂遺跡よりも約30m高い位置に有り、南に急崖を望む地形となっている。集落の中心部分が位置する場所の標高は635m前後である。

長野原一本松遺跡が展開する舌状台地は、南への張り出しに比して横幅を有す、集落の中心から東にもやや狭いながら同様の地形が見られるが、遺構の広がりほとんど見られない。さらに東側には、この台地の東縁を区切る「とちのき沢」が谷を作り吾妻川に流れ込んでいる。この沢を隔てた東側が幸神遺跡である。

また、この付近は遺跡地の南側がかなり急崖であるのに対し、西側については平坦部分こそ幅狭となっているが、比較的緩やかな傾斜をもって続いている。

江戸時代の天明三年(1783)、前述した浅間山の噴火に伴って発生した泥流は吾妻川を流れ下り、川沿いの下位面にまで溢れ出し、畑や建物に甚大な被害をもたらした。この未曾有の大災害は、吾妻川流域のみならず県内の利根川流域の村落にも大きな被害をもたらしている。

第2節 歴史的環境

長野原町における遺跡調査の先駆けは、昭和29年に行われた勘場木遺跡が揚げられる。同遺跡では中期後半の竪穴住居1軒が調査されており、「勘場木石器時代住居跡」として県指定史跡となっている。

その後、昭和30年代後半から40年代にかけて分布調査が行われ、昭和53年には川原畑地区に所在する石畑岩陰遺跡が鉄道工事に伴う発掘調査が行われている。

昭和62年からは八ッ場ダム建設に関する埋蔵文化財詳細分布調査が、県および町教育委員会によって行われ、183ヵ所の遺跡(包蔵地)が報告されている。

また、昭和63年の榑Ⅱ遺跡の調査をはじめとし多く発掘調査が町教育委員会によって行われている。

平成6年からは、当事業団による八ッ場ダム建設に伴う発掘調査が開始され、長野原一本松遺跡(22)を初め、対岸の横壁中村遺跡(11)、久々戸遺跡(8)、榑木Ⅱ遺跡(29)、中棚Ⅰ(32)遺跡等々新たな遺跡の調査が実施されている。

尾坂遺跡の調査は、平成6年に着手され、その後断続的に平成26年度まで行われている。

図5は周辺の主な遺跡を記した物である、図を参考に周辺遺跡について概観しておきたい。

旧石器時代

長野原町においては旧石器時代の遺物は現在のところ出土していない。これまで、40を越える遺跡について調査が行われてきたが、明確な遺物は確認されていない。吾妻川下流の渋川市などでは複数の遺跡で該期の調査が行われており遺物も発見されている。今後、長野原地内においても、上位段丘に広がる遺跡などで、発見される可能性も否定できない。

縄文時代

尾坂遺跡の南側を東流する吾妻川は、八ッ場地区を南北に分ける大きな自然的な要因であったと考えられる。本遺跡を含め兩岸の上下段丘上、さらには、吾妻川に注ぐ沢に面した丘陵上に多くの遺跡が所在する。

草創期、早期の遺物に関しては近年の調査で発見が相次ぐようになってきた。表採資料ながら横壁中村遺跡の石槍や川原畑石畑岩陰遺跡・榑木Ⅱ遺跡の草創期の土器

などが見つかっており、人々の生活の痕跡を示している。

榑木Ⅱ遺跡・立馬Ⅱ遺跡(50)等で早期の撚糸文土器や押型文土器などが出土している。石畑岩陰遺跡などで縄文系の土器が出土している。これらの遺跡では早期末から前期初頭の繊維土器なども見られる。

これに対し、右岸側の遺跡では現在のところ草創期、早期の遺物が検出された遺跡は僅かである。

前期については早期末から続く遺跡として立馬Ⅰ(49)・Ⅱ遺跡・三平Ⅰ遺跡(54)・林中原Ⅰ(43)・Ⅱ遺跡(44)・上原Ⅰ遺跡(39)・横壁中村遺跡において押型文土器、早期末の繊維土器、前期初頭から後半にかけての花積下層式、関山式、諸磯式土器等が遺構に伴って出土している。

上原Ⅰ遺跡、坪井遺跡などで花積下層式期の住居も検出されている。

後半期の遺構や遺物については、調査例が少ないものの、林中原Ⅰ遺跡で諸磯期の住居が、三平Ⅰ・Ⅱ遺跡、川原湯勝沼遺跡、立馬Ⅱ遺跡などにおいて土坑等に伴って遺物が出土している。

中期になると遺跡数は規模共に拡大し、兩岸の比較的広い地を求めて居住するようになる。

初頭から前半にかけての遺跡は、それほど多くは見られないが、榑木Ⅱ、立馬Ⅰ・Ⅱ遺跡、林中原Ⅰ遺跡、上ノ平Ⅰ遺跡(52)などで住居、土坑が検出されている。横壁中村遺跡においてもわずかではあるが遺構の検出が見られる。

中葉から後半になると遺跡数、遺構数は増え、長野原一本松遺跡と横壁中村遺跡は吾妻川を隔てて対峙する大集落となる。

この時期の遺跡としては左岸側、上位段丘上に営まれた遺跡として、長野原一本松遺跡、林中原Ⅱ遺跡、上ノ平Ⅰ遺跡等が、右岸では横壁中村遺跡や、石川原遺跡(15)などが上げられる。

横壁中村遺跡のやや上流に近接して、山根Ⅰ(33)・Ⅲ遺跡(35)などが見られるものの、その規模は前述した長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡に比すれば極めて小規模である。

平成21年度に調査が行われた林中原Ⅱ遺跡では、中期後半から後期にかけての弧状列石や住居が数多く検出され、長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡に肩を並べる程の

集落であることが判明した。

当該遺跡では複数の墓坑内に土器と共に焼骨が検出されるなど注目される。

尾坂遺跡も中期後半期にはこれらの遺跡と期を一にして、営まれていた遺跡ではあるが、これら3遺跡とは異なり、極めて短期間のうちに集落としての機能を終わらせており、小規模の集落遺跡に止まっていたようである。

後期に入ると前半期くらいまでは、長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡では引き続き集落の継続が見られ、向原遺跡(4)・林中原I遺跡・上原IV遺跡(42)などで敷石住居等が見られる。

後期後半期に入ると遺跡数は激減している、横壁中村遺跡などで若干の遺構や遺物が知られるが、広域に分布するものではない。

晩期についても、遺跡数は少なく、川原湯勝沼遺跡(14)などで若干の遺構と遺物の出土が見られる。同遺跡では、縄文晩期末から弥生前期の甕棺墓なども検出されている。

中期から続く大規模な集落である長野原一本松遺跡においても、遺構・遺物はほとんど見られないが、対岸の横壁中村遺跡では多くの遺物が見られる。

左岸では下原遺跡(12)、立馬I遺跡で、右岸では久々戸遺跡で少量の土器が出土している。

弥生時代

弥生時代の遺跡については、これまでの調査例は少ないものの、前半期の遺跡としては、尾坂遺跡の下流約3kmの対岸に位置する川原湯勝沼遺跡、中期については対岸側の下流約1.5kmに位置する横壁中村遺跡、上位段丘上に位置する立馬I遺跡で出土している。

尾坂遺跡北側段丘上に位置する、長野原一本松遺跡においても若干の前半期の土器片が出土している。

さらに、下流の下原遺跡等でも土器片が出土している。また、中期後半期の遺物は横壁中村遺跡、後期後半の遺物は下原遺跡において僅かながら出土が見られる。

後期の遺構についてはほとんど見られず、遺物が少数ながら、長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡、二社平遺跡などで出土が見られる程度である。尾坂遺跡でも遺物は散見される程度である。

遺構に関しては、今回の尾坂遺跡の調査で中期前半の再葬墓の発見は、川原湯勝沼遺跡に次ぐ事例で、当時の

様子を考える上で重要な調査例となった。立馬I遺跡で発見された合わせ口の土器棺墓は注目される。

また、上流に位置する向原遺跡でも中期土器を伴った土坑が検出されている。

吾妻川流域での弥生時代の遺跡については、前半期の遺跡が流域に点在しており、東吾妻町の岩櫃山鷹巣遺跡は岩陰における再葬墓群としてよく知られている。

また同様な遺跡として有笠山遺跡などがある。これらは、河川から離れた山岳地域にあり、墓域としての性格が強いものである。

近年下位段丘に位置する遺跡の存在も明らかになってきており、東吾妻町の前畑遺跡では、中期前半期の再葬墓が複数調査されている。

今回尾坂遺跡において、検出された再葬墓は、1基のみであるが、出土土器は前半期に比定され、県内における古段階の良好な資料である。

古墳時代

古墳時代についてはこれまで明確な遺構が確認されていないが、下原遺跡、林宮原遺跡(38)で5世紀末～6世紀初頭の住居が発見され注目される。

いずれも単独の検出で、集落とは言えず、今後検討の余地を残す。

近年の調査で林上原I遺跡ではさらに遡る遺構、遺物が確認されており、注目されている。

古墳に関しては現在のところ確認はされていない。

奈良・平安時代

奈良時代の遺跡については、ほとんど確認されていない、僅かに長野原町の調査で、上流に位置する羽根尾II遺跡において見られるのみである。

平安時代になると、調査例が急増している。長野原一本松、楡木II、花畑(45)、立馬II、三平I、上原I・III、川原湯勝沼、横壁中村遺跡等で多くの住居、遺物が調査されている。

楡木II遺跡は、尾坂遺跡の左岸側下流約1kmの上位段丘上に位置する遺跡である、該期の住居が38軒検出されている。

時期は9世紀後半から10世紀を中心としている。

この時期の遺構の検出は近年増しており、沢沿いの湧水が認められる場所では、かなり奥まった場所にもかかわらず、集落が営まれていた様子が明らかになってきて

いる。

長野原町教育委員会によって調査が行われた上原Ⅲ遺跡では、鍛冶遺構を伴う住居が調査されている。こうした鍛冶関連の遺構は三平Ⅰ遺跡などでも見られ、住居内より鉄滓や、鍛造に伴って生じた、鍛造剥片や粒状滓などが多く出土している。

尾坂遺跡の住居からも、鍛冶に関連すると見られる。羽口や鉄滓さらには、作業時に用いたと見られる大型の石などが出土している。

中世

中世に関しては長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡、林中棚Ⅱ遺跡、林中原Ⅰ遺跡、下田遺跡(13)等で遺構・遺物が検出されている。周辺に見られる城郭としては、約2km上流の西に白砂川を隔てて長野原城が位置し、川を挟んだ南には柳沢城が位置している。左岸段丘上に長野原合戦の舞台ともなった長野原城が築かれており、土塁や堀切、物見台などが残る。

下流約2km、吾妻川左岸側に位置する林中原Ⅰ遺跡では、中世の竪穴状遺構の炉の中に完形の内耳鍋が据えられた状態で出土している。また、遺跡は林城の域も含めて調査が行われており、城郭の一部、土橋、石垣などの構造物の他、多くの掘立柱建物等が調査された。

さらに、林城の下位段丘に位置する下田遺跡において、中世の掘立柱建物の検出など、調査事例も追加された。

尾坂遺跡の調査でも掘立柱建物や土坑に伴う遺物などの発見もあり、当時の居住域についても再考する必要がある。このほか、横壁中村遺跡でも中世の建物が複数調査されている。

江戸時代

当該期の遺跡は兩岸の下位段丘において、近年調査例が増加している。町教委の調査による小林家屋敷跡(2)では切石を用いた蔵などが調査されたのを始め、町遺跡(5)、下田遺跡、東宮遺跡(17)、西宮遺跡(16)等において、いずれも天明三年の浅間山噴火に伴う泥流に埋まった建物が検出されている。

特に東宮遺跡では泥流に埋まった複数の建物が出土、検出された建物には土台や大引、根太など建築部材がほぼ当時のまま残されており注目されている。

また、遺物も多く残されており、漆器や下駄などの木

製品を始め、金属製品、石製品、陶磁器など当時の生活の様子を知る極めて貴重な遺物の出土が見られた。

西宮遺跡は東宮遺跡の西に続く遺跡で、同様に多くの建物と遺物が検出されている。屋敷地割りなどが見事に残り当時の村の景観をまざまざと現在に甦らせている。また、右岸側に位置する石川原遺跡では寺院が発見され、記録に残る不動院の可能性も指摘される。建物の配置や寺域の様子を知ることでもでき、新たな知見として注目される。

泥流下の畑は、広範囲で検出されている。尾坂遺跡を始めとし、吾妻川左岸側では、中棚Ⅱ遺跡、下田遺跡、下原遺跡、西宮遺跡、東宮遺跡、右岸側では久々戸遺跡、西久保Ⅳ(9)遺跡、川原湯勝沼遺跡、石川原遺跡、西ノ上遺跡(18)等調査例、面積共に急増している。

平成27年度に調査が行われた下湯原遺跡の調査では広大な畑と墓など新たな資料が追加されている。

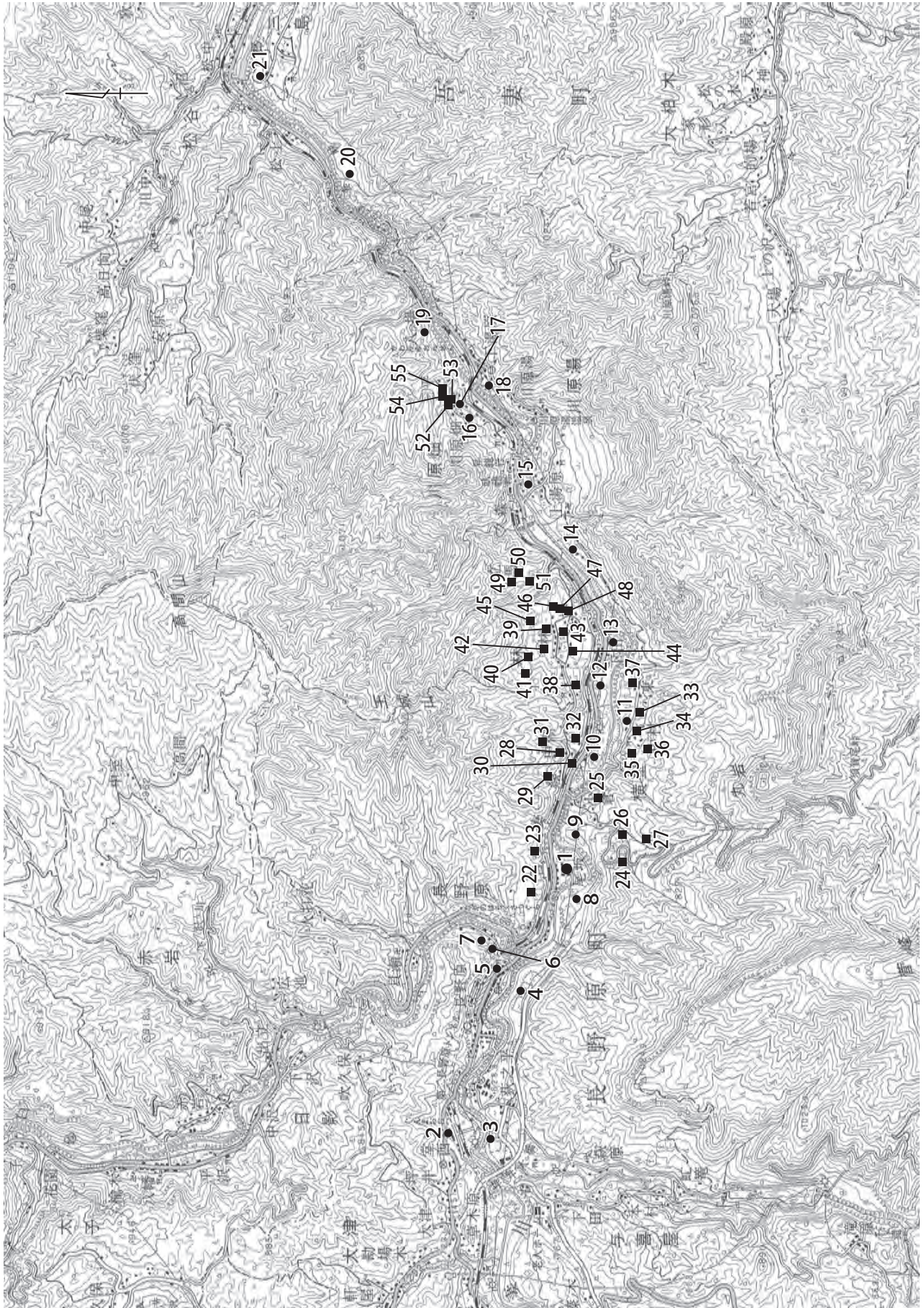
また、尾坂遺跡の上流においても、嶋木Ⅰ遺跡(7)、町遺跡等で検出されている。

町遺跡の調査では、面積は狭かったものの、当時の建物が調査され多くの建築部材と下駄や団扇などの生活用品、さらには、将棋の駒や横笛なども出土している。

尾坂遺跡で検出された天明泥流畑は、台地ほぼ全域に見られ、広大な範囲に及んでおり、かなり計画的に耕地開発がなされたことを示している。

建物(母屋)の検出は1棟のみであったが、前述した川原畑地区の東宮・西宮遺跡を始め、さらに下流の東吾妻町に所在する上郷岡原遺跡(21)において複数の建物の検出が見られ、吾妻地域における泥流災害の状況がより明らかになっている。

こうした泥流被災の遺跡の調査については、さらに下流に及んでおり、渋川市、前橋市、玉村町、伊勢崎市など、吾妻川が合流する利根川流域でも多くの遺跡で畑や建物の検出が相次いでおり、県内における泥流災害の様子が次第に明らかになってきている。



第5図 周辺遺跡(国土地理院5万分の1地形図「草津」使用)

表3 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	主な時代	概要	備考	報告書等
1	尾坂遺跡	長野原町長野原	縄文・弥生・平安・中・近世	天明三年泥流下の畑・建物。中世の掘立柱建物。縄文時代の住居、土坑。弥生時代の再葬墓、土坑。平安時代の住居、土坑等。	平6・7・11・18・19・20・21～23・25・26年度事業団調査。本書は平18～22・25・26年度調査の報告。平23・26に長野原草津口駅舎整備に伴う調査として一部調査。	平6・7・11年度②、平23年度⑭
2	小林家屋敷跡	長野原町長野原	近世	天明三年泥流に埋没した屋敷、礎石建物2、土蔵1、石垣等。分限者小林助左右衛門屋敷の一部。	平成14年度町教委調査	⑤⑩
3	旧新井村跡	長野原町与喜屋	近世	昭和55年、自衛隊による町民グラウンド造成中に泥流で埋没した屋敷が発見された。日待供養塔、石臼、農具などが出土。	「長野原町誌」上巻	⑭
4	向原遺跡	長野原町長野原	縄文・弥生・平安	縄文時代中期後半～後期の住居3軒・敷石住居2軒、土坑群。弥生時代中期の土坑、平安時代の住居10軒を検出。	平5年度町教委調査	⑭⑲
5	町遺跡	長野原町長野原	近世	天明三年泥流下の畑。	平23～25年度事業団調査	⑮
6	長野原城跡	長野原町長野原	中世	土塁や堀切・物見台などが残る。長野原合戦の舞台となる。	平23年度事業団調査	⑬
7	鶴木Ⅰ遺跡	長野原町長野原	近世	天明泥流下の畑跡、中・近世の陶磁器片。	平16年度町教委調査	⑮
8	久々戸遺跡	長野原町長野原	近世	天明三年泥流下の畑、建物、縄文時代晩期の土器片。	平7・9・10・11・15・26年度事業団調査	③・④
9	西久保Ⅳ遺跡	長野原町横壁	縄文・近世	天明泥流下の畑。縄文時代の土坑等。	平21・23年度事業団調査	⑲
10	中棚Ⅱ遺跡	長野原町林	近世	天明三年泥流下の畑、および安永九年と考えられる埋没畑等。	平11～13・15年度事業団調査	③・④
11	横壁中村遺跡	長野原町横壁	縄文・弥生・平安・中世	縄文時代中期後半から後期後半を中心とする集落跡、縄文時代晩期、弥生時代の土器片、平安・中世の遺構・遺物。	平8～17年度事業団調査	③・⑤・⑦・⑩・⑭・⑲・⑳・㉒・㉓・⑳・㉔・㉕・㉖・㉗
12	下原遺跡	長野原町林	古墳・近世	天明三年泥流下の畑、中世の畑、古墳時代の住居、弥生時代の土器片等。	平12・15・16年度事業団調査	③・⑫
13	下田遺跡	長野原町林	平安・近世	天明三年泥流下の畑。江戸・中世の建物。平安時代の住居、陥し穴。縄文時代の掘立柱建物。	平25・26年度事業団調査	⑳
14	川原湯勝沼遺跡	長野原町川原畑	縄文・平安・近世	縄文時代晩期の埋設土器、古墳時代の遺物、平安時代の住居、天明三年泥流下の畑。	平15・16年度事業団調査	②・⑥・㉑・㉒
15	石川原遺跡	長野原町川原湯	縄文・平安・近世	天明三年泥流下の畑。縄文時代中期の住居、列石、配石。平安時代の住居、陥し穴。近世の畑。	平20・25・26年度事業団調査	
16	西宮遺跡	長野原町川原畑	平安・近世	天明三年泥流下の建物複数、酒蔵、道、石垣、井戸、畑等。	平20・26年度事業団調査	
17	東宮遺跡	長野原町川原畑	近世	天明三年泥流下の屋敷。大形の建物が良好な状態で検出、土台、大引、床板等多くの建築材が残る。また、下駄や団扇、石臼等の当時の道具類も多く出土。	平7・9・19～21・26年度事業団調査	②・㉓・㉔
18	西ノ上遺跡	長野原町川原湯	近世	天明三年泥流下の畑。平安時代の陥し穴、弥生時代の土坑等。	平14年度事業団調査	④
19	石畑遺跡	長野原町川原畑	縄文		平9・10年度事業団調査	②
20	上郷西遺跡	東吾妻町	平安・近世		平19年度事業団調査	㉕
21	上郷岡原遺跡	東吾妻町	縄文・近世	天明三年泥流下の畑、水田、礎石建物等。近世の墓坑。平安時代の住居、縄文時代の住居、土坑。	平14・15・17～19年度事業団調査	⑮・㉖・㉗
22	長野原一本松遺跡	長野原町長野原	縄文・平安	縄文時代中期～後期にかけての集落跡、大形の掘立柱建物、敷石住居などを検出、平安時代の住居、中世の掘立柱建物や多くの土坑等が検出されている。	平6～17・19・20年度事業団調査	①・⑮・⑲・㉘・㉙・㉚・㉛・㉜・㉝
23	幸神遺跡	長野原町長野原	縄文	縄文時代中期の住居・土坑。陥し穴。	平8・9・14・17・18年度事業団調査	⑰
24	柳沢城跡	長野原町横壁	中世	別城一郭付随と呼ばれる特殊な構造、曲輪、堀、土居などを検出、常滑、瀬戸、美濃、珠洲焼、さらには中国陶磁などが出土。	平5年度町教委調査	⑳
25	西久保Ⅰ遺跡	長野原町横壁	縄文	縄文時代後期の住居、水場を検出。中近世の礎石建物。	平6・10・12年度調査	②
26	西久保Ⅱ遺跡	長野原町横壁	平安	散布地。		
27	西久保Ⅲ遺跡	長野原町横壁	縄文	散布地。		
28	榎木Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代の土坑、散布地。	平10・21年度事業団調査	⑲
29	榎木Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代早期の集落、前期、中期の住居、平安時代の住居。	平11～13・16・17年度事業団調査	⑮・㉞
30	榎木Ⅲ遺跡	長野原町林	縄文・弥生	縄文時代前期・後期、弥生時代の包含層。	平9年度事業団調査	②
31	二反沢遺跡	長野原町林	中世・近世	中世の石垣を伴う造成跡、近世水路、畑。(旧大乘院堂跡)	平12年度事業団調査	⑨
32	中棚Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文・平安	縄文時代早期の遺物、平安時代の住居。		
33	山根Ⅰ遺跡	長野原町横壁	縄文・平安	散布地、磨製石斧、石鏃、石棒などの石器類出土。		
34	山根Ⅱ遺跡	長野原町横壁	平安・近世	平安時代の散布地。		
35	山根Ⅲ遺跡	長野原町横壁	縄文・近世	縄文時代中期後半の住居、土坑等。	平10・13・18年度事業団調査	②・⑰
36	山根Ⅳ遺跡	長野原町横壁	縄文・近世	縄文～平安時代の散布地。		
37	横壁勝沼遺跡	長野原町横壁	縄文	縄文時代中期～後期の土器片、槍先形尖頭器出土。	平6・7年度事業団調査	②
38	林宮原遺跡	長野原町林	古墳・平安	古墳時代の住居1、平安時代の住居6、土坑6。	平15年度町教委、平24年度事業団調査	町教委2004・⑳
39	上原Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代前期初頭の住居、中期の住居。平安時代の住居、陥し穴等。	平15年度町教委、平24年度事業団調査	
40	上原Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代中期の住居。	平16年度事業団調査	
41	上原Ⅲ遺跡	長野原町林	縄文	平安時代の住居、鍛冶遺構、陥し穴群。	平25年度事業団調査	
42	上原Ⅳ遺跡	長野原町林	縄文・近世	縄文時代後期の敷石住居、配石遺構。	平15・21年度事業団調査	⑰・㉟
43	林中原Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文・弥生・中・近世	縄文時代前期～後期住居、配石等。中・近世の掘立柱建物。	平19～21年度事業団調査	⑬
44	林中原Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文・弥生・中・近世	縄文時代後期の集落跡。敷石住居、晩期の土器片。弥生時代中期の住居、土坑。中・近世の掘立柱建物。	平15・20・21年度町教委調査	
45	花畑遺跡	長野原町林	縄文・平安	平安時代の住居、陥し穴群。	平9～12年度事業団調査	②
46	東原Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代土器片、陥し穴。	平6・9・20・21年度事業団調査	⑳
47	東原Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代後期土器片、石器出土。	平10・20・21年度事業団調査	㉑

第2章 地理環境および歴史的環境

No.	遺跡名	所在地	主な時代	概要	備考	報告書等
48	東原Ⅲ遺跡	長野原町林	平安・近世	縄文時代早期～後期の包含層。中・近世の掘立柱建物。内耳鍋、古瀬戸等出土。江戸時代の礎石建物。	平20・21年度事業団調査	⑳
49	立馬Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代早期～晩期の住居。弥生時代中期後半の土器棺墓。	平13・14・17年度事業団調査	㉑
50	立馬Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代草創期～早期の土器・石器。中期初頭～前半の住居9軒、中期後半の住居1軒。平安時代前後の陥し穴等。	平14・15年度事業団調査	㉒
51	立馬Ⅲ遺跡	長野原町林	縄文・平安	縄文時代早期の集落、前期、中期の住居、平安時代の陥し穴。	平19年度事業団調査	㉓
52	上ノ平Ⅰ遺跡	長野原町川原畑	縄文・平安	縄文時代中期の集落、平安時代の住居、陥し穴。	平18・19年度事業団調査	㉔
53	上ノ平Ⅱ遺跡	長野原町川原畑	縄文・平安	縄文、平安時代の散布地。		
54	三平Ⅰ遺跡	長野原町川原畑	縄文・弥生・平安	縄文時代早期～前期の集落。弥生時代中期の土坑、平安時代の陥し穴。	平16・17・24・25年度事業団調査	㉕
55	三平Ⅱ遺跡	長野原町川原畑	縄文・平安	縄文時代早期～前期の包含層、掘立柱建物等。	平16年度事業団調査	㉖

※第5図上の●は天明泥流下遺構検出遺跡

参考文献

- ① 長野原一本松遺跡(1) (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書 第287集(以下 (財)群埋文○集) 2002
- ② ハッ場ダム発掘調査集成(1)東宮・石畑・川原湯勝沼・横壁勝沼・西久保Ⅰ・山根Ⅲ・下田・花畑・楡木Ⅲ・尾坂 (財)群埋文303集 2003
- ③ 久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原・横壁中村遺跡 (財)群埋文319集 2003
- ④ 久々戸遺跡(2)・中棚Ⅱ遺跡(2)・西ノ上・上郷A遺跡 (財)群埋文349集 2004
- ⑤ 横壁中村遺跡(2) (財)群埋文355集 2005
- ⑥ 川原湯勝沼遺跡(2) (財)群埋文356集 2005
- ⑦ 横壁中村遺跡(3) (財)群埋文368集 2006
- ⑧ 立馬Ⅱ遺跡 (財)群埋文375集 2006
- ⑨ 上郷B遺跡・廣石A遺跡・二反沢遺跡 (財)群埋文379集 2006
- ⑩ 横壁中村遺跡(4) (財)群埋文381集 2006
- ⑪ 立馬Ⅰ遺跡 (財)群埋文388集 2006
- ⑫ 下原遺跡Ⅱ (財)群埋文389集 2007
- ⑬ 三平Ⅰ・Ⅱ遺跡 (財)群埋文401集 2007
- ⑭ 横壁中村遺跡(5) (財)群埋文406集 2007
- ⑮ 長野原一本松遺跡(2) (財)群埋文408集 2007
- ⑯ 上郷岡原遺跡(1) (財)群埋文410集 2007
- ⑰ 山根Ⅲ遺跡(2)・上原Ⅳ遺跡・幸神遺跡 (財)群埋文429集 2008
- ⑱ 楡木Ⅱ遺跡(1) (財)群埋文432集 2008
- ⑲ 長野原一本松遺跡(3) (財)群埋文433集 2008
- ⑳ 横壁中村遺跡(6) (財)群埋文436集 2008
- ㉑ 上郷岡原遺跡(2) (財)群埋文438集 2008
- ㉒ 横壁中村遺跡(7) (財)群埋文439集 2008
- ㉓ 上ノ平Ⅰ遺跡(1) (財)群埋文440集 2008
- ㉔ 長野原一本松遺跡(4) (財)群埋文441集 2008
- ㉕ 上郷西遺跡 (財)群埋文448集 2008
- ㉖ 立馬Ⅲ遺跡 (財)群埋文457集 2009
- ㉗ 楡木Ⅱ遺跡(2) (財)群埋文458集 2009
- ㉘ 長野原一本松遺跡(5) (財)群埋文461集 2009
- ㉙ 横壁中村遺跡(8) (財)群埋文462集 2009
- ㉚ 横壁中村遺跡(9) (財)群埋文466集 2009
- ㉛ 上郷岡原遺跡(3) (財)群埋文471集 2009
- ㉜ 上郷A遺跡(2) (財)群埋文473集 2009
- ㉝ 横壁中村遺跡(10) (財)群埋文488集 2010
- ㉞ 横壁中村遺跡(11) (財)群埋文492集 2010
- ㉟ 東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡 (財)群埋文502集 2010
- ㊱ 東宮遺跡(1) (財)群埋文514集 2011
- ㊲ 横壁遺跡(12) (財)群埋文526集 2012
- ㊳ 東宮遺跡(2) (財)群埋文536集 2012
- ㊴ 楡木Ⅰ遺跡・上原Ⅳ(2)遺跡・西久保Ⅳ遺跡 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書 第549集(以下 (公財)群埋文○集) 2012
- ㊵ 長野原一本松遺跡(6) (公財)群埋文554集 2013
- ㊶ 横壁中村遺跡(13) (公財)群埋文559集 2013
- ㊷ 長野原一本松遺跡(7) (公財)群埋文578集 2014
- ㊸ 長野原城跡・林中原Ⅰ遺跡 (公財)群埋文586集 2014
- ㊹ 横壁中村遺跡(14) (公財)群埋文587集 2014
- ㊺ 町遺跡 (公財)群埋文593集 2014
- ㊻ 上原Ⅰ遺跡・上原Ⅲ遺跡・林宮原遺跡 (公財)群埋文604集 2016
- ㊼ 尾坂遺跡 社会資本整備総合交付金事業 長野原草津口駅舎整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 (公財)群埋文546集 2012
- ㊽ 旧新井村跡 長野原町埋蔵文化財調査報告第1集(以下 長野原第○集) 長野原町の遺跡 一町内遺跡詳細分布調査報告書一 長野原町教育委員会(以下 町教委) 1990
- ㊾ 向原遺跡 長野原第5集 向原遺跡 町教委 1996
- ㊿ 小林家屋敷跡 長野原第12集 小林家屋敷跡 町教委 2005
- ㊽ 嶋木Ⅰ遺跡 長野原第15集 町内遺跡Ⅴ 町教委 2005
- ㊽ 長野原町 『長野原町誌』上巻 1976
- ㊽ 長野原町 『長野原町の自然』 1988

第3章 検出された遺構 と遺物

第1節 基本層序

長野原町地域は東流する吾妻川により4段の河岸段丘が形成され、尾坂遺跡が立地する地形は、吾妻川左岸の中位段丘に位置付けられる。(久保他1993)これらの段丘面は、遺跡の南西約20kmに位置する浅間山起源の応桑岩屑なだれ堆積物(応桑泥流)を、吾妻川が浸食して形成されたものと考えられている。

中位段丘面は現吾妻川との比高が約30mで、この地域で最も広く分布する段丘面である。

本遺跡内での掘削断面において、肉眼で観察できるテフラは、天明三年(1783)の浅間A軽石(As-A)である。

基本層序ではⅢ層にあたる。このAs-A層は、ほぼ純粋の白色軽石層で、層厚は約2cmの堆積が確認されている。さらに、この上位には噴火に伴って発生した火山泥流堆積物(以下天明泥流)が載っており、層厚は2~3mを測る。

Iは表土層で層厚は20~30cmである。天明泥流層を母材とする現表土(耕作土)である。

IIは天明泥流層、場所による層厚差は見られるが、およそ2~3mである。淘汰の悪い砂質暗褐色土をベースに、多量の河床礫、火山給源の礫を含む。遺跡の一部(吾妻川に向かって張り出した段丘の上流端部)ではこの天明泥流が当時の面(畑)を筋状に掘削した跡が流れの方向に沿って確認されている。

Ⅲは浅間A軽石層(As-A)である、厚さは1~5cmで、ほぼ全域に認められるが、場所によっては天明泥流流下時に流されてしまった場所も見られた。

軽石の発泡度は良く、径1~5mm大を中心とし、希に2cm程のものも散見される。本遺跡では、当時の遺構面を覆い、畑では主として畝間に厚く堆積が見られる。したがって、その後の攪拌が無い場所については、軽石直下面が旧地表面の検出となる。

IVは粘質黒褐色土で、畑の耕土層である。この層の上面が耕作面となる。部分的に白色軽石を含むが、これは浅間粕川テフラ(As-Kk)に由来する可能性が高いと考え

られる。層厚10~20cmである。

Vは暗褐色土である。多くの場所で下位に鉄分の凝集層が認められる。この層については調査区の中央部分ではかなりの厚さが確認されている。おそらく谷地部であったものと思われ、色調的には分層も可能であるが、ここでは単層としておく。なお、この層中において部分的にはあるが(比較的層厚の厚い場所)で明灰褐色の火山灰層が確認されており。浅間粕川軽石(As-Kk)に由来するものと思われる。同層については、平安時代の住居覆土中に確認されることも珍しくない。

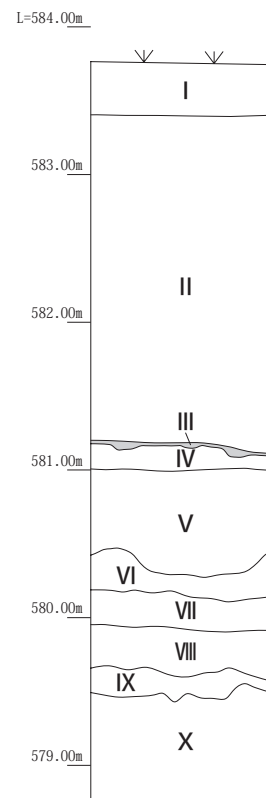
VIは明黄褐色ローム層である。V層から徐々に黄色味を帯びており、黄褐色軽石を僅かに含むが、この軽石はBP13,000~14,000浅間草津黄色軽石(As-Ypk)に由来を求めることができよう。

VIIは褐色土でやや大きめの黄橙色軽石(0.5mm程度)を少量含む。

VIIIは黄褐色土で褐色土塊を含む。大きめの黄橙色軽石(0.5mm程度)を少量含む。

IXは黄褐色ローム層である。大小の河床礫を多量に含んでおり、吾妻川の旧流路であったものと考えられる。

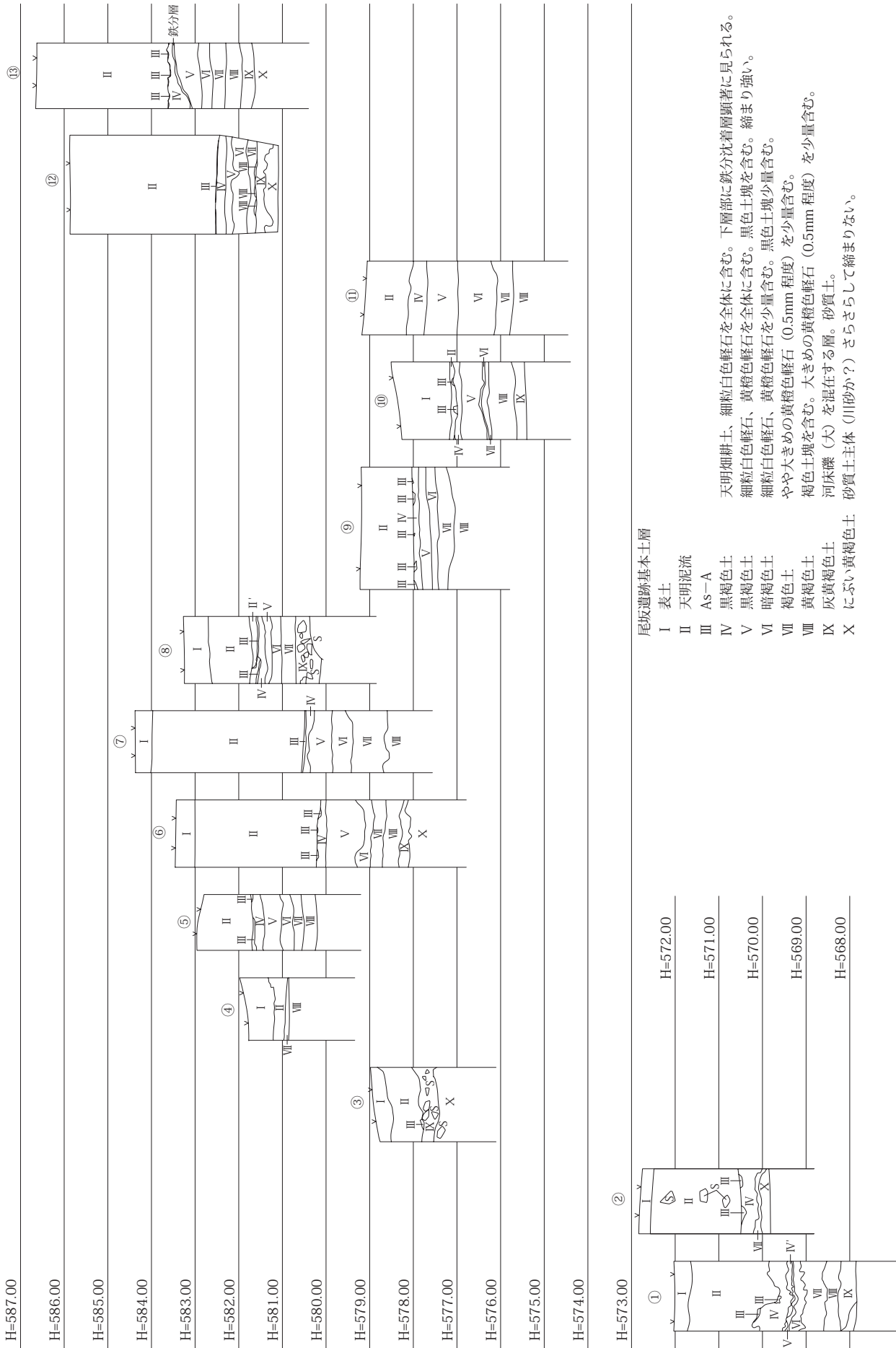
Xはにぶい黄褐色土で砂質土主体(川砂か?)さらさらして締まりない。



第6図 基本土層図



第7図 基本土層位置図



第8図 基本土層標高図

第2節 遺構と遺物の概要

尾坂遺跡は平成18年度～平成26年度まで、一時中断を挟みながらも延べ8年にわたって調査が行われた。

江戸時代の遺構は、天明泥流に埋没した畑が、ほぼ全面に検出されており、当時の畑を中心とした生産活動を考える上での重要な発見となった。

天明泥流畑は調査を行った各年度の調査区範囲において確認されている、畑を埋めた泥流は、多くの火山生成の礫や川原石を含み2～3mの厚さで、遺跡全域を覆っており、被災した直前の耕作状況が明瞭に残っていた。

検出された畑は大区画と小区画に細分可能で、円形平坦面と呼ばれる円形遺構が各畑に規則的に配されている状況も確認されている。

また、畑に伴う溝や当時の人々が農作業に通った道も検出されている。さらに、段差を石垣で隠した場所や、取水遺構と思われる施設も見つかっている。

天明泥流畑面は基本的にAs-A軽石(泥流被災の直前に降下)で覆われている。

畑の畝については走行方向や幅に違いが見られ、所有者の違いや作物の違いなどが想定されている。畑によっては軽石降下後、土寄せ等を行っている痕跡も確認されている。また、軽石を鋤きこもると、復旧溝を掘った様子なども確認された。

畑内に築かれた炉様の土坑も確認されている、土坑の周囲に礫を回らし、内部で火を焚いた痕跡も残っていた。

平成25年度の調査では、畑の下にY字状に作られた石組みの暗渠が検出された、当時の畑を作る上で興味ある遺構として注目される。

建物に関しては3棟を調査、この内1棟が母屋で、調査区の北東部、国道脇の山寄りに検出された。

その規模は梁行7間×桁行4間で比較的大きな建物と言える。吾妻川を流れ下り、溢れ出た泥流に押され、柱や壁などは残ってはいなかったが、土台の一部が礎石に載った状態で出土している。

当時の遺物も少ないながら検出されている。また屋敷廻りの様子も明らかとなり、段差を持った構造や、農作業等に供されたと思われる小屋や厠などの施設も検出された。こうした建物については北側の国道下から山よりの未調査部分に、さらなる存在が予想されている。

中世の遺構は3棟の掘立柱建物と溝、焼土、土坑3基である。遺構の密度は極めて薄い。

検出された遺構は、おおむね天明泥流畑の耕作土下20～30cm下において確認されたもので、埋土の状況や出土遺物から認定を行ったものである。

溝は2条確認されたが、検出された遺構は極めて短く、詳細は不明である。

出土遺物に関しては74区内において青磁、内耳鍋等の出土が見られる。

平安時代の遺構は縄文、弥生時代の遺構と分布域をほぼ同じくしており、住居11軒(重複含む)、土坑56基、溝2条、焼土2基が検出された。

住居は2軒の重複が見られるも、点在しており、ほぼ同時期と判断され、出土遺物は少ない。

出土遺物については、住居内からの出土遺物はさほど多くはなかったが、鉄鏃を出土している住居が複数見られる。また、溝から1点出土した土師器の坏は完形で、やや古手の土器である。

弥生時代については、中期後半期の土器片が、74区中央付近において、広い範囲に分布が見られた。

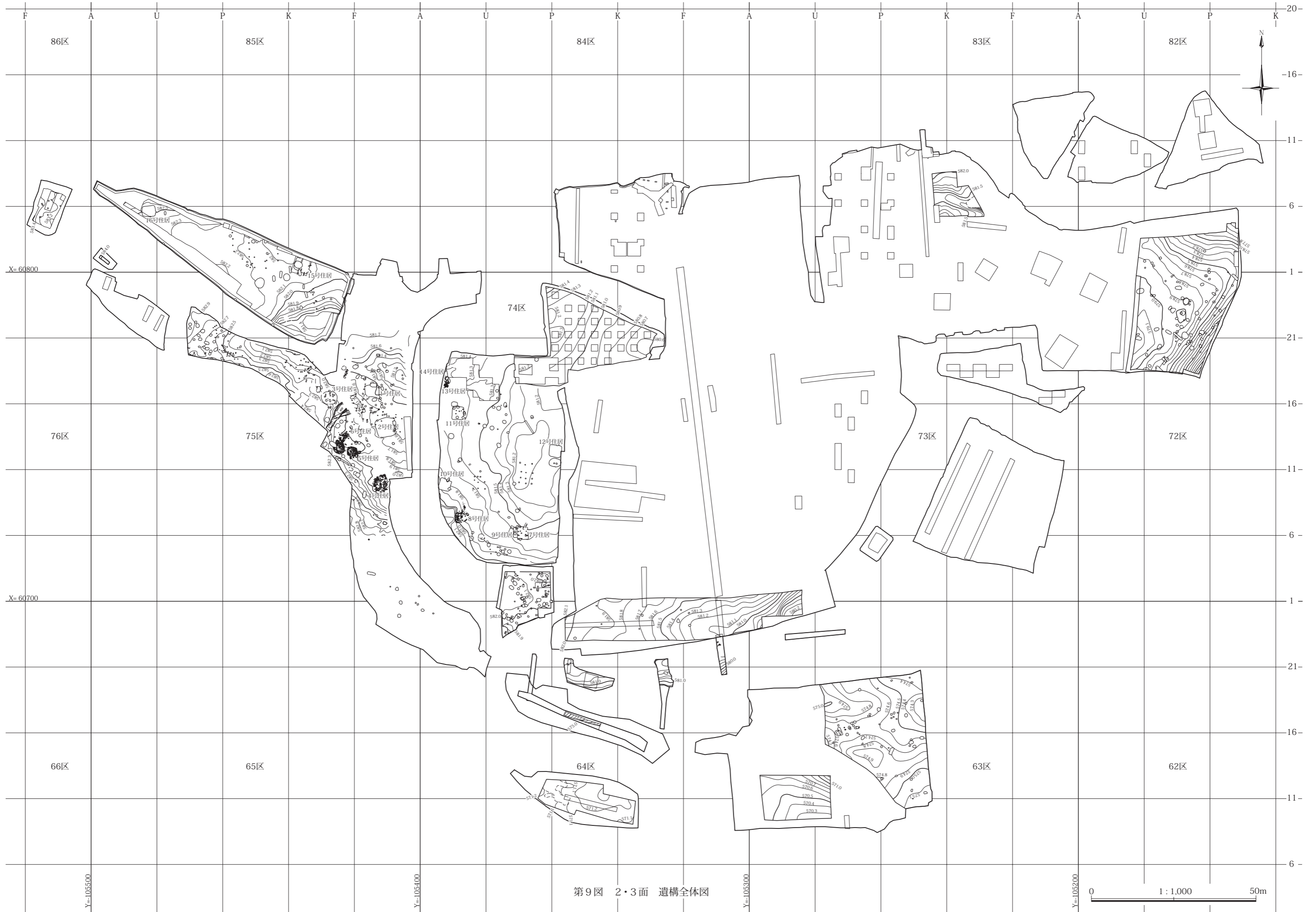
遺構は土器の分布する範囲の周囲に土坑28基と、被覆礫を伴う再葬墓が1基確認された。

再葬墓からは、横倒しにつぶれた状態の大型壺と完形の小型壺が出土しており、尾坂遺跡では唯一の遺構として注目される。

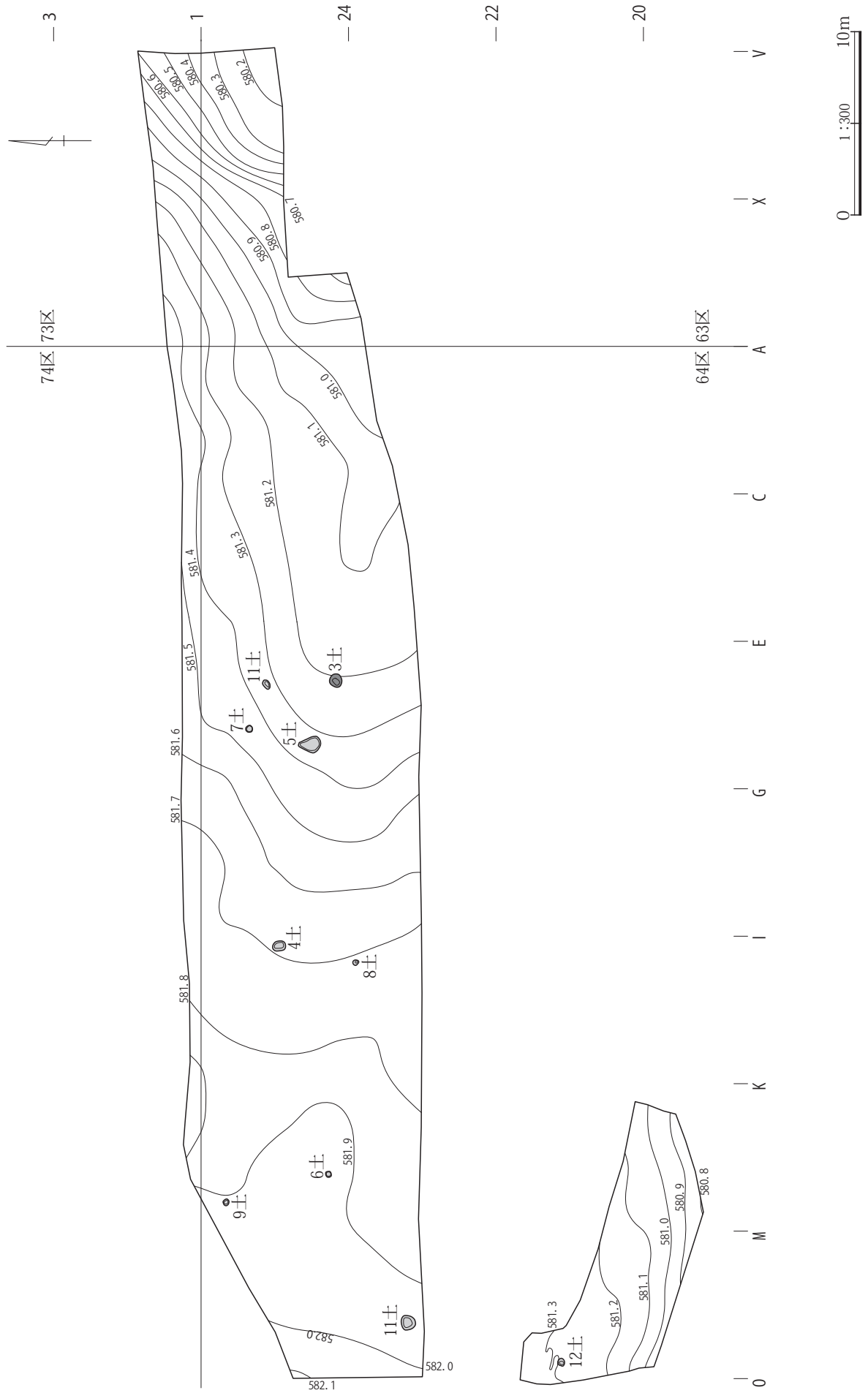
他の土坑については、遺物を伴うものは多くは無かったが、完形の筒形土器と鉢形土器を出土した土坑1基が検出されている。

縄文時代については、住居5軒、焼土6基、土坑301基、屋外埋甕7基、列石2ヵ所である。住居は柄鏡形の敷石住居を検出している。これらの時期は中期後半を中心とするが、土坑に関しては、一部前期後半および、後期前半のものが見られる。

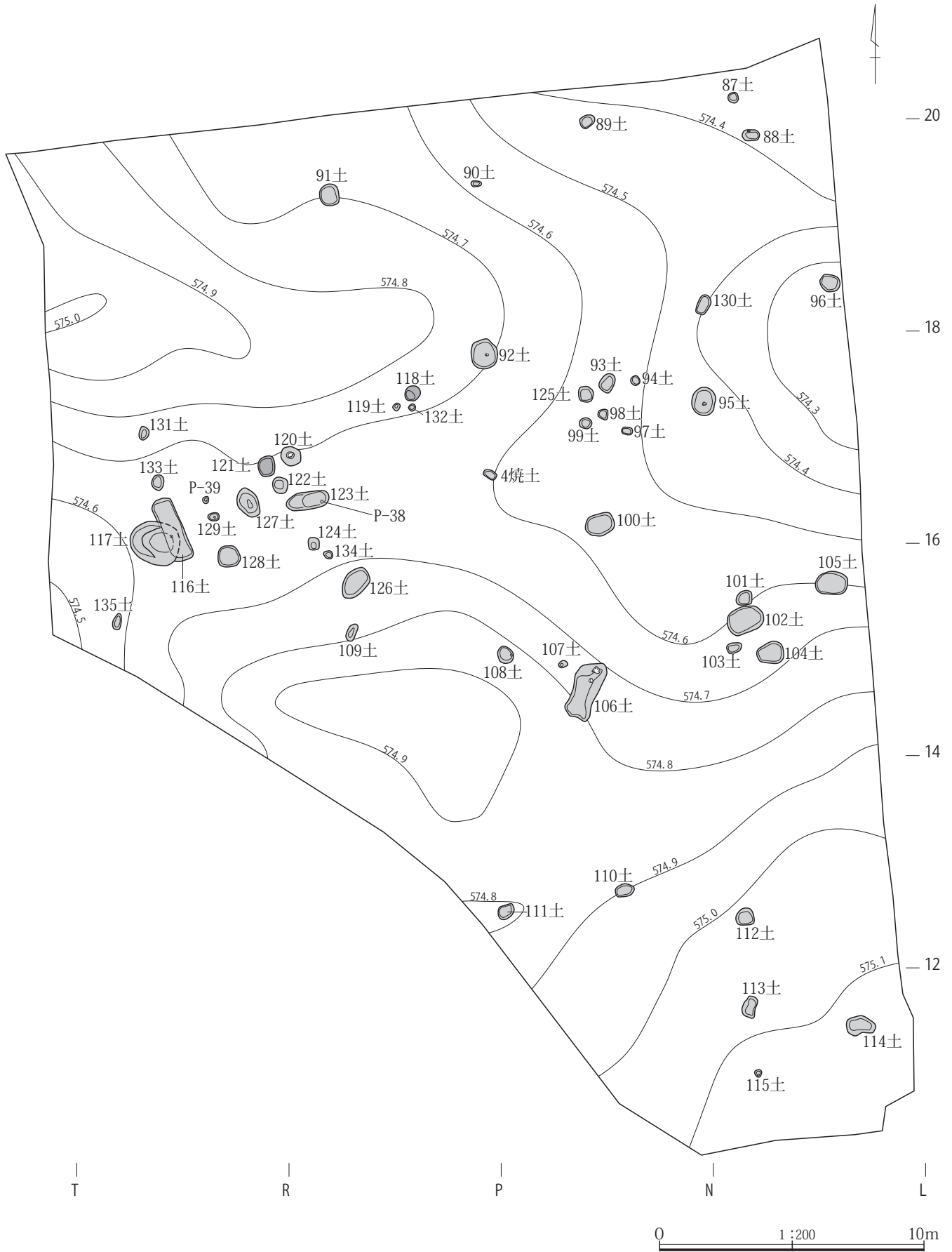
出土遺物に関しては、遺構外出土のものも多く、中期後半を主体に、後期前半期のものが僅かに見られた。こうした中で74区T-6グリッド付近において早期後半の土器(おそらく1個体)が集中して出土していることが注目される。



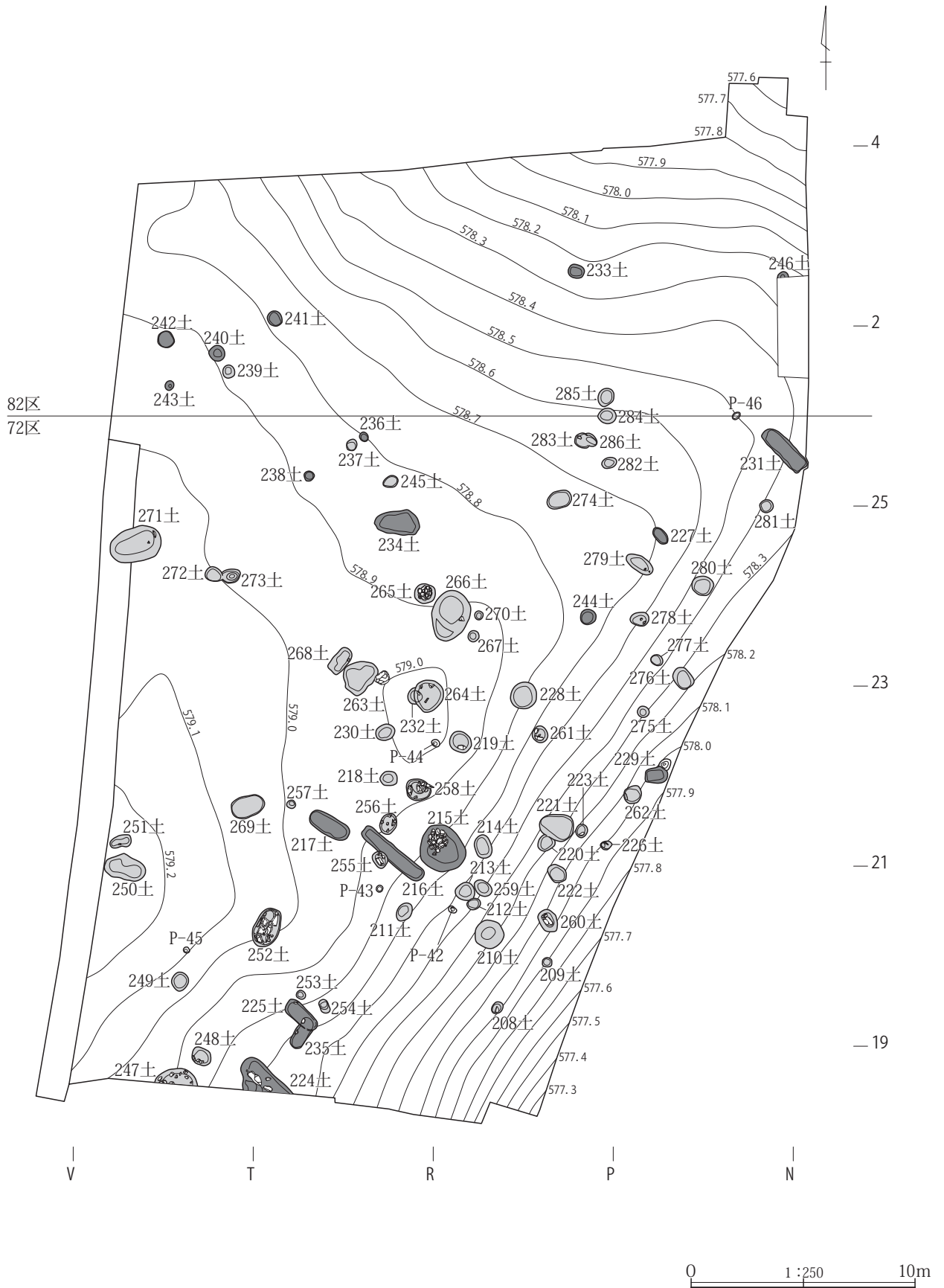
第9图 2·3面 遺構全体图



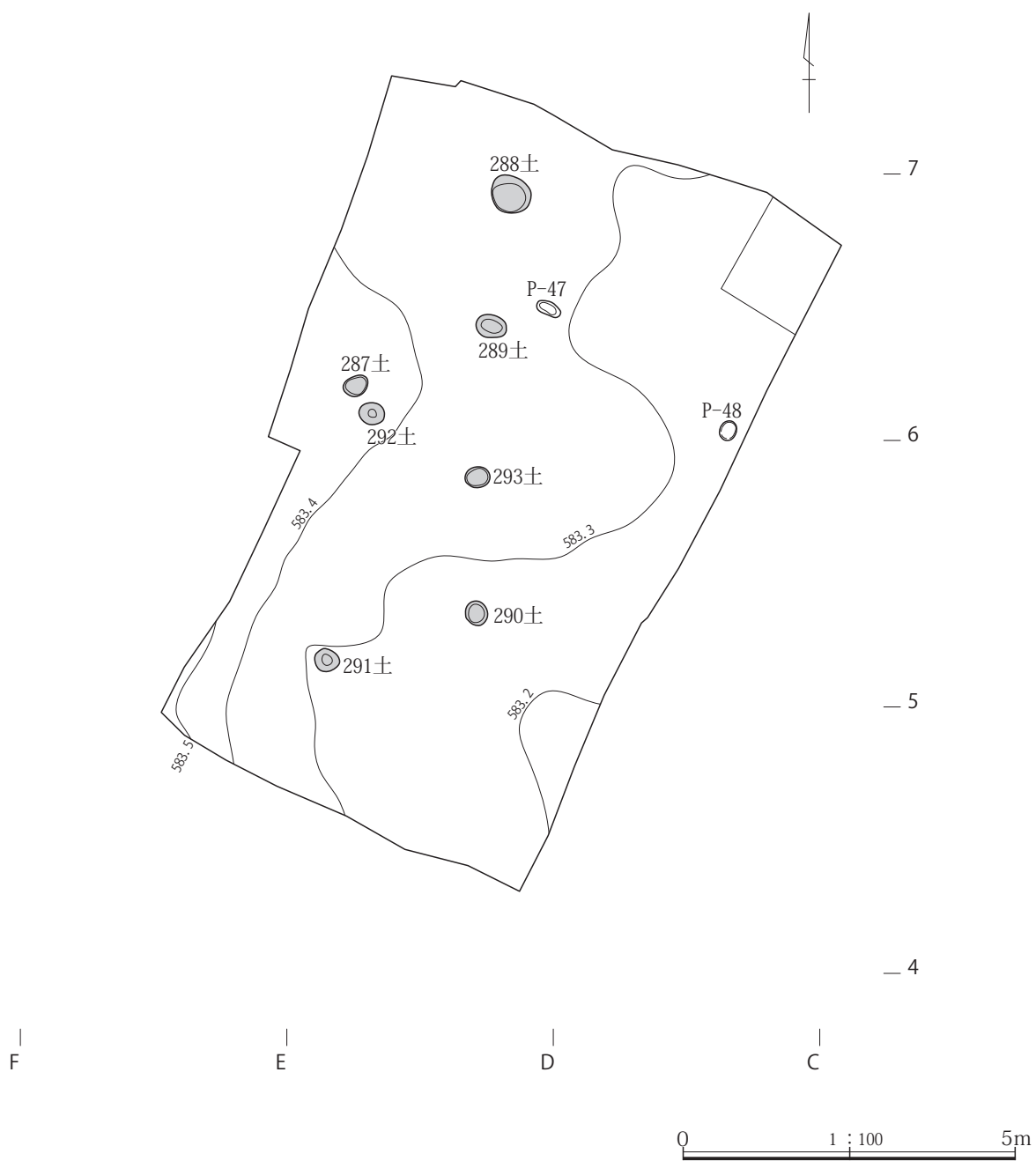
第10図 63・64・73・74区 全体図(2面目)



第11図 63区 全体図(2面目)



第12図 72・82区 全体図(2面目)



第13図 86区 全体図(2面目)

第3節 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構については、各年度の調査の中で、天明泥流畑の調査終了後、下面における遺構の有無について、トレンチまたはグリッドの設定を行い掘り下げ、確認等を行った。全体図に見られるように、縄文時代の遺構は、尾坂遺跡の載る段丘の縁辺部分に比較的その分布が見られることが分かる。土坑についても、ほぼ同時期のものが周囲に広がっていることが確認できる。

本遺跡において検出した住居は5軒である。調査年度は平成21年度に2軒、平成22年度に前年度の2軒の継続を含み、計5軒の調査を行った。時期はいずれも中期後半に比定される。住居の分布域は、尾坂遺跡の南西部にあたり、吾妻川寄りの地形的にやや高まった部分に沿って北西～南東に向かって広がる。地山には礫が目立ち、北側部に厚く堆積が見られる黒色土は、かなり薄くなっている状況を示す。

焼土は遺構を確認してゆく中で、住居等に伴わず認められる遺構として取り上げている。一部周囲に礫が廻るものや、礫を伴っているものなどが見られ、炉の可能性も想定されたが判断がつかないものなども焼土として扱った。何れも不定形で、焼土の焼け方には若干の違いも見られるが、明確な掘方なども見られない者が多かった。遺物を伴うものも見られるが、土器などの小片のみである。総数は6基である。

土坑は292基を調査した、検出した総数に対し、遺物の見られたものはそれほど多くは無かった。

形状や大きさについては様々で、比較的掘り込みの浅いものが多かった。小さいものについては人為的なものではないものも含まれている可能性がある。

埋嚢は7基を検出、住居群とは離れた北側部分に弧状に集中して見られた。土器は埋設時の状況を留めていると思われるものは少なく、かなり破損した状態のものが多い。

列石は川原石などを列状に並べており、部分的に集合している部分が見られる。6号まで付番しているが、縄文時代の遺構として報告するものは4号、6号の2列である。1～3号および5号に関しては、欠番とした。

なお、本文中でも触れるが、4号、6号については、一連の列石の可能性はある。

1. 住居

3号住居(第14～17図、PL. 1・74)

位置 75区G・H-15・16グリッドに位置する。

重複 無し。

形状 楕円形状の掘方を確認しているが、形状については、壁の立ち上がりが不明瞭で、一部残った南西部分の立ち上がりを元に推定。

規模 4.9m×3.8m×0.2m。

方位 N-5°-E

床面 極めて不明瞭であった、調査時には、明確な生活面は確認できず、比較的小振りの礫が比較的平坦な面を形成していた状況を確認した。

住居の構築時に大形の礫は取り除かれたものと思われるが、地山の小礫が入り込んだ層が露出、若干の凹凸も見られる。炉を囲むように10基ほどのピットが確認されたが、対応関係は不明である。炉の南側において確認されたP8・9はやや大型である。

炉 住居ほぼ中央に作られた石囲い炉である。長さ30～40cmの河原石4個を、ほぼ四角に組んでいる。

この内、南側の石は縦に割れた石皿が転用されていた。炉の規模は、約60×60cmである。炉の掘方は床面より、10cm程掘り下げている。

炉の下部に焼土はあまり多くは認められなかった。中から若干の土器片が出土している。

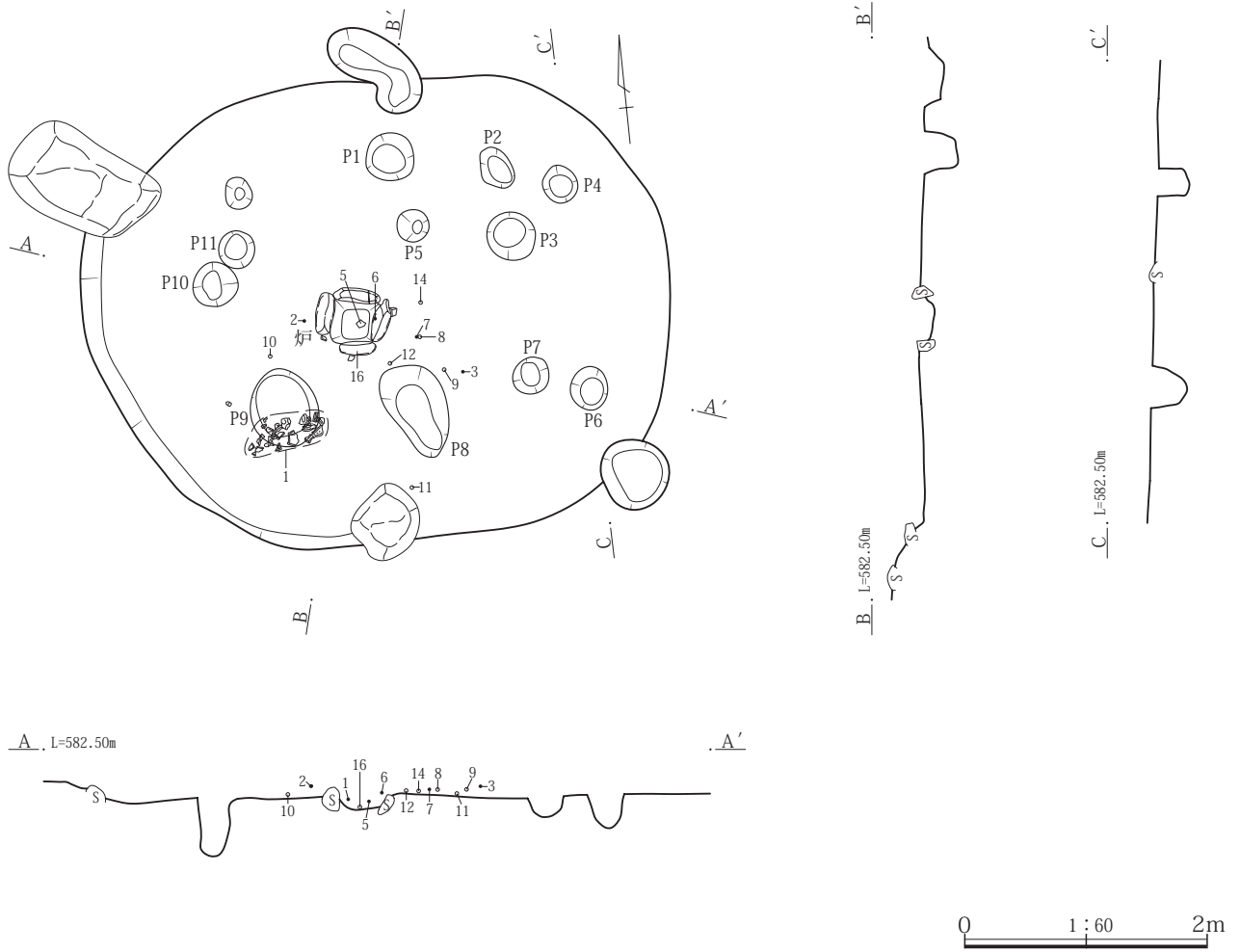
掘方 貼り床や床下土坑等は確認されなかった。

出土遺物 ほぼ器形を復元できた土器が1点見られたほかは、炉内および床面より若干の土器片、土製円盤、石器類は石鏃、凹石、磨石、石皿が出土している。

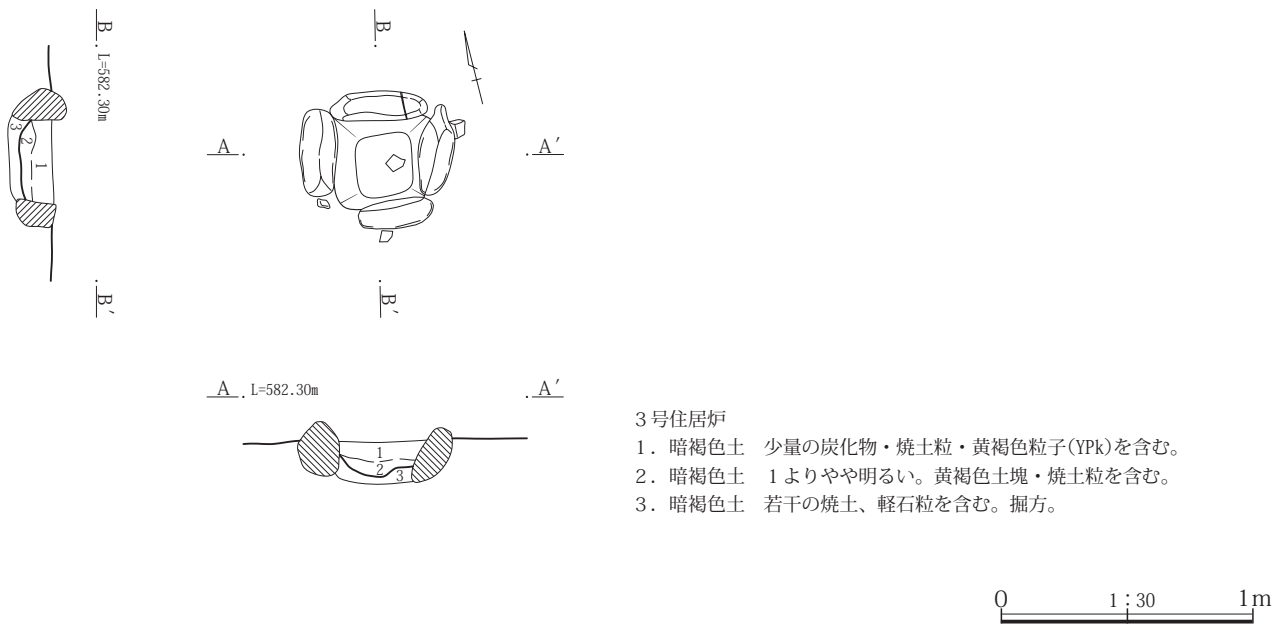
時期・所見 本址は前年度に、遺構として確認されていたが、最終的に住居との判断がつかなかったもので、継続して調査がなされたものである。

炉についてはほぼ中央に明確なものを確認したものの、住居の掘り込みについては、北側及び東側はきわめて不明瞭であった、遺存状態のきわめて悪い住居である。特に、その形状については確定できない部分もある。

出土遺物については、時期は出土した土器から、中期後葉と考えられる。



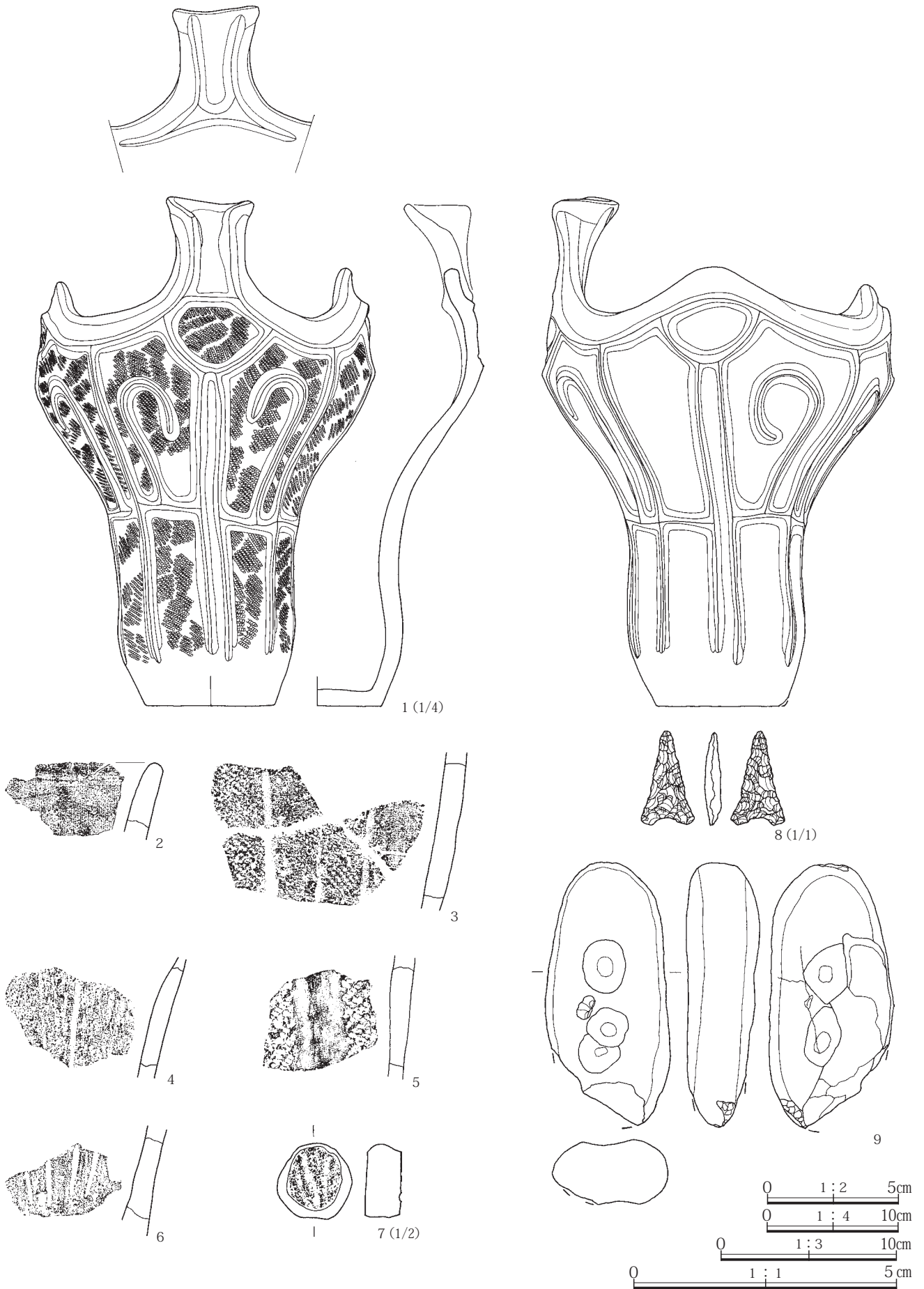
炉



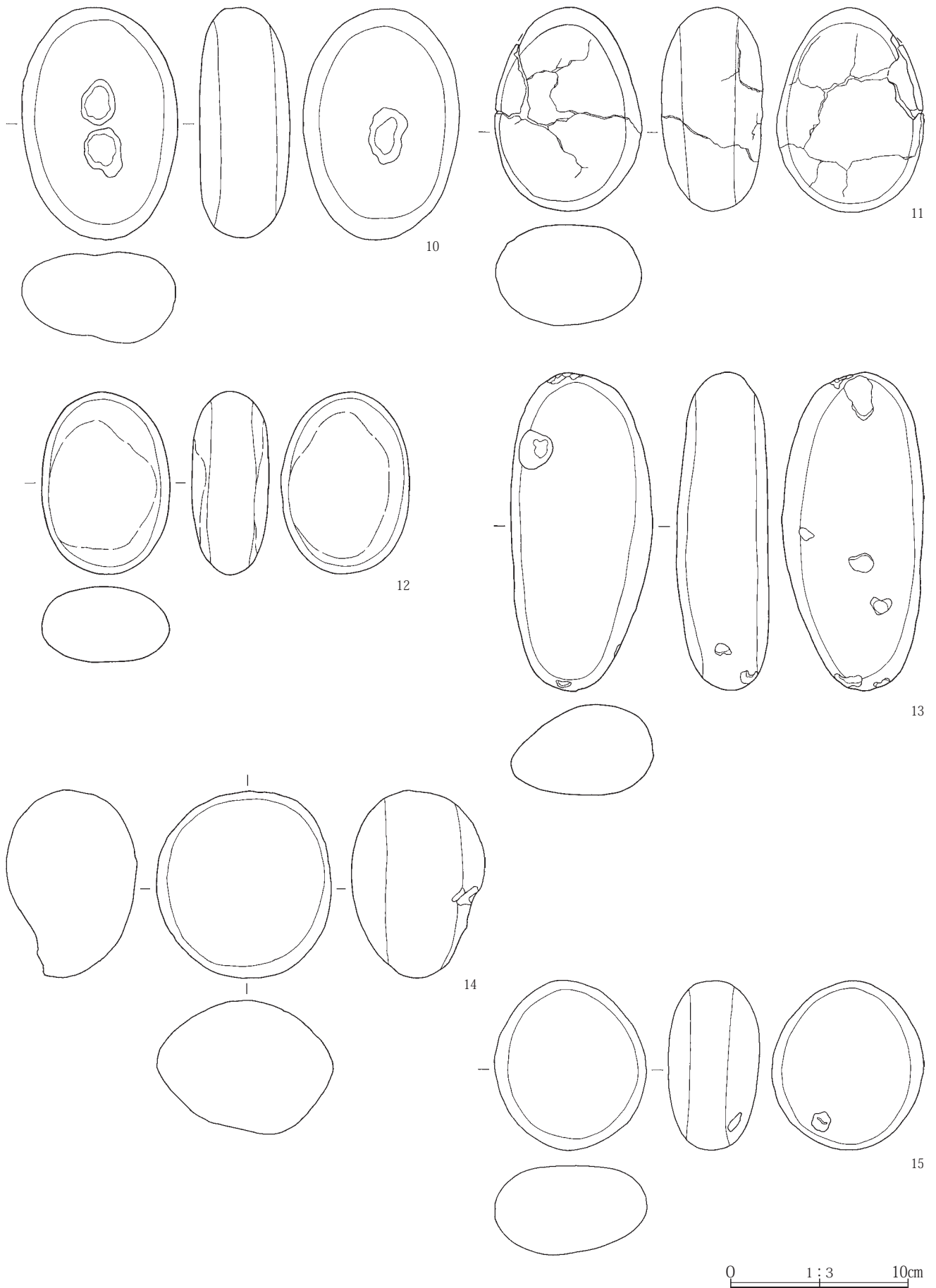
3号住居炉

1. 暗褐色土 少量の炭化物・焼土粒・黄褐色粒子(YPk)を含む。
2. 暗褐色土 1よりやや明るい。黄褐色土塊・焼土粒を含む。
3. 暗褐色土 若干の焼土、軽石粒を含む。掘方。

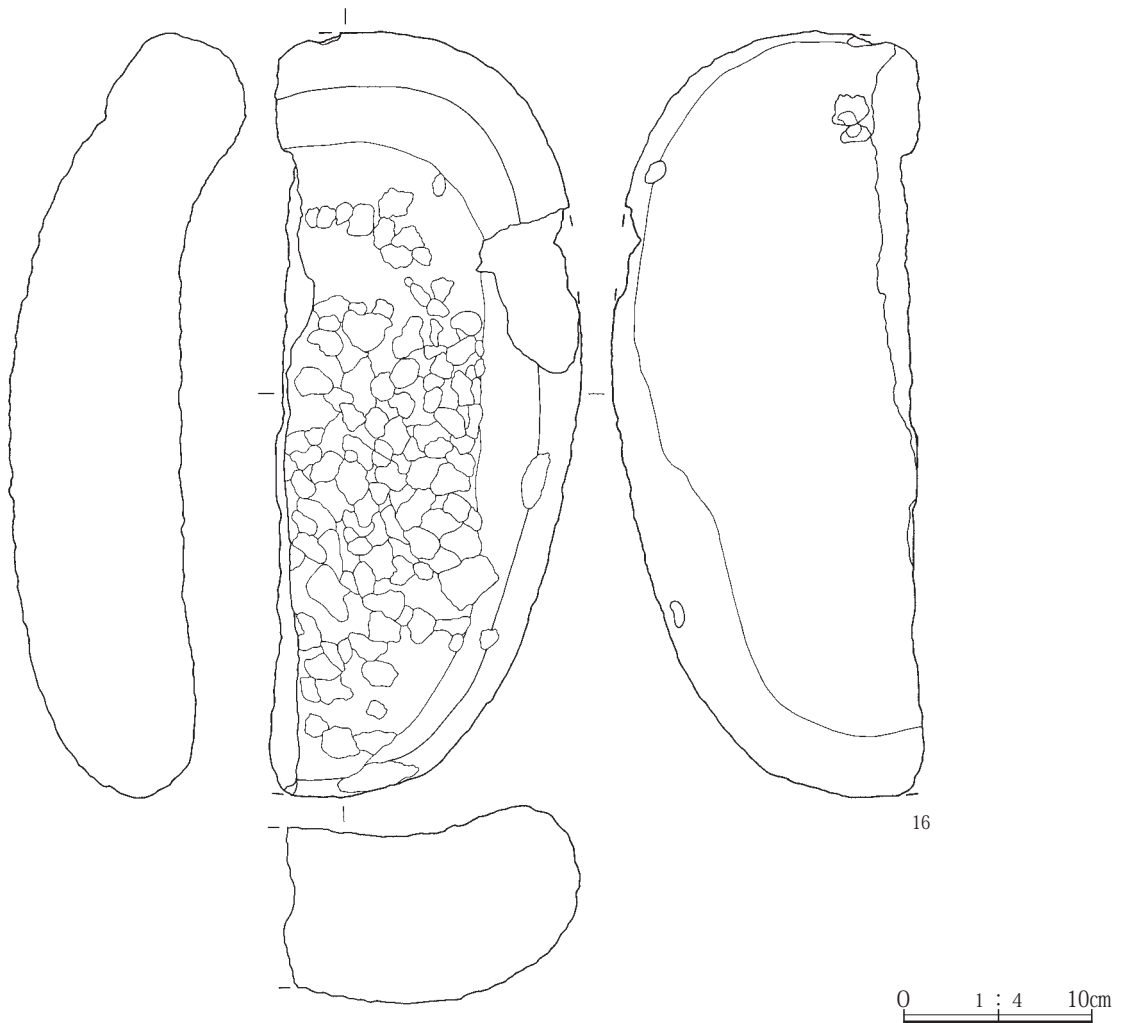
第14図 3号住居



第15図 3号住居出土遺物(1)



第16図 3号住居出土遺物(2)



第17図 3号住居出土遺物(3)

4号住居(第18・19図、PL. 2・74・75)

位置 75区C・D-9・10グリッドに位置する。

重複 無し。

形状 主体部はほぼ円形を呈すと見られるが、外形部の掘り込みは不明のため、不明瞭、柄鏡形の可能性有り。

規模 (5.1)m×(4.8)m

方位 N-118° -W

床面 凹凸顕著、地山の礫が多く露出している状態を検出。10基ほどのピットが炉を取り巻くように検出されている。調査を進める中で、不明瞭であったため床面を確認できず、かなり下げてしまった可能性が高い。

また、炉の手前には平石等も確認されていることから、敷石住居も想定される。

炉 ほぼ中央に作られる、南側を除き、4個の河原石をほぼ、矩形に廻らしている。炉の南に近接して突出した大型の地山礫が見られる。内部に炉体土器が据えられており、礫が蓋のように置かれていた。炉の内部には若干

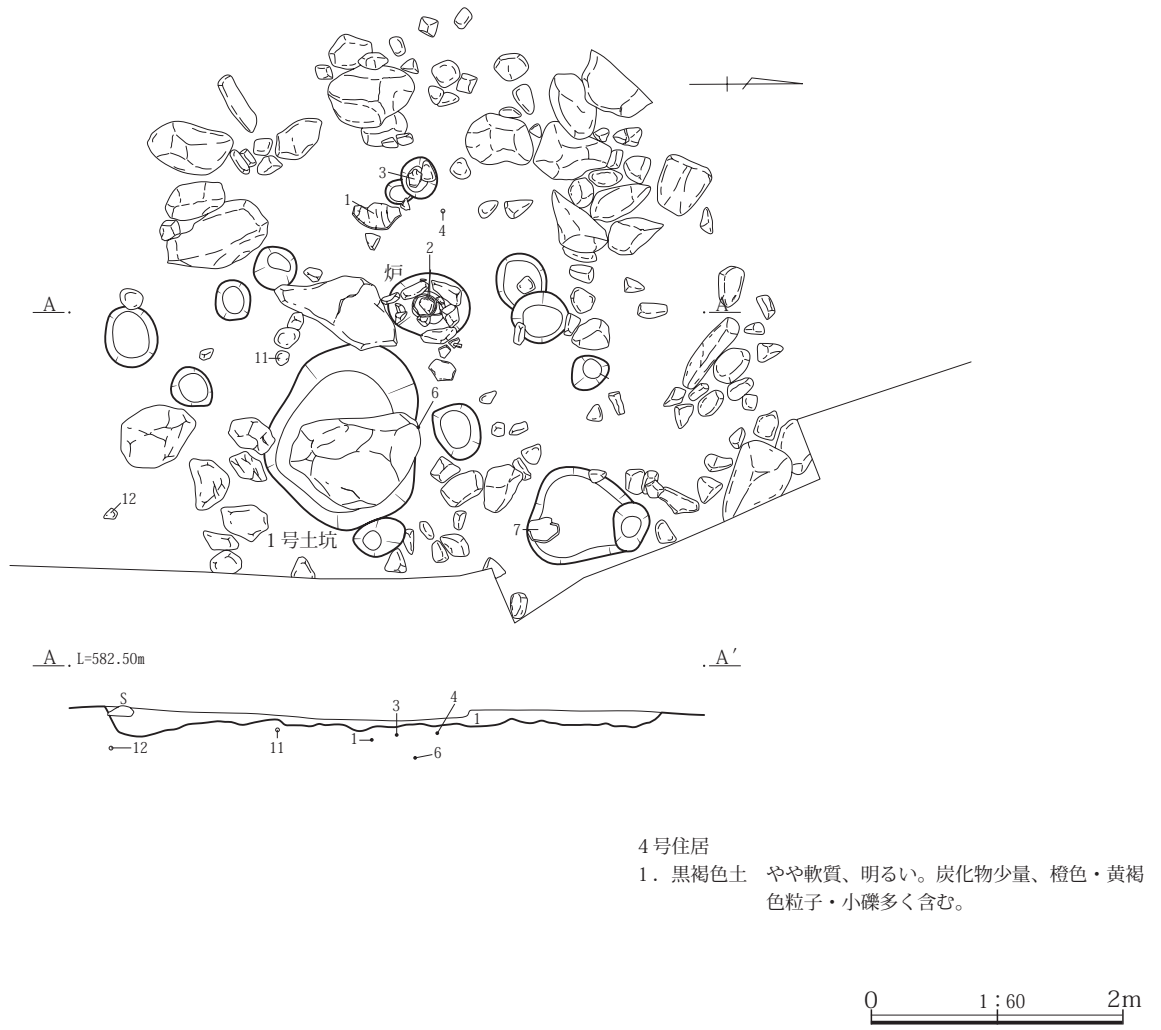
の焼土が見られた。

掘方 土坑等は確認されなかった。

出土遺物 炉体土器の他若干の土器片、石器が出土している。さらに炉の北東約2m離れた位置(張り出し部想定方向)に、正位の土器が出土しており、埋襲の可能性がある。土器は風化が著しく、器形復元には至らなかった。

時期・所見 地山の礫が多く見られる場所に構築されている。構築時に内部の礫を取り除いたものと思われるが、大きなものは残されている状況であった。炉は楕円形の掘方を持ち、河原石で囲って作られる。柄鏡形住居の可能性が高いが、張り出し部が想定される東側部分に関しては、そのほとんどが調査区外となる。床面(敷石)部分についても、使用面は失われたものと見られる。

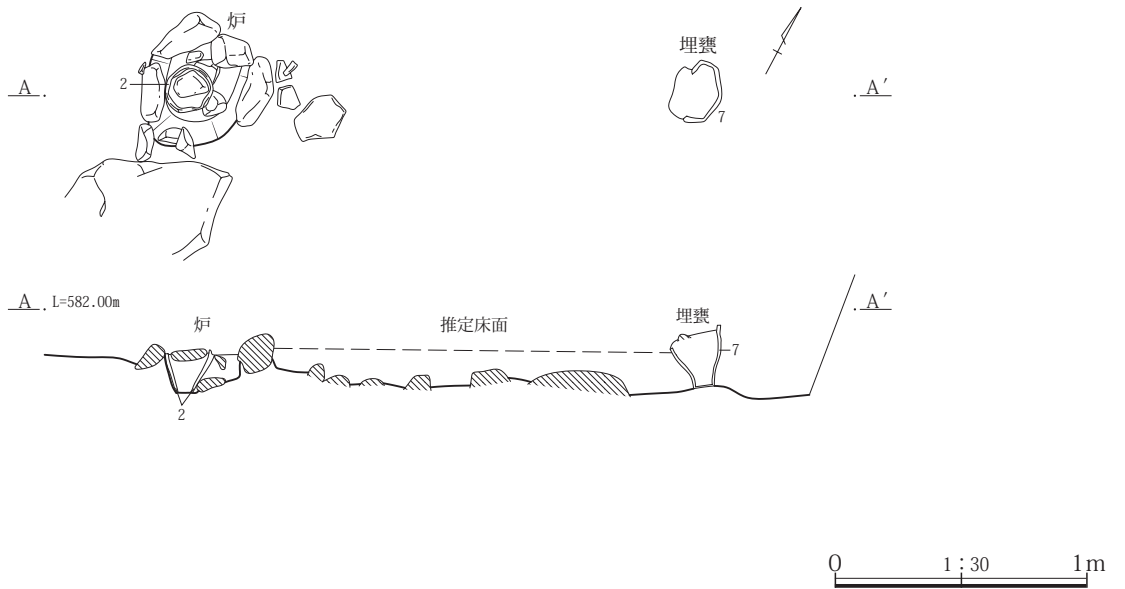
出土遺物から、時期は中期後半と判断される。



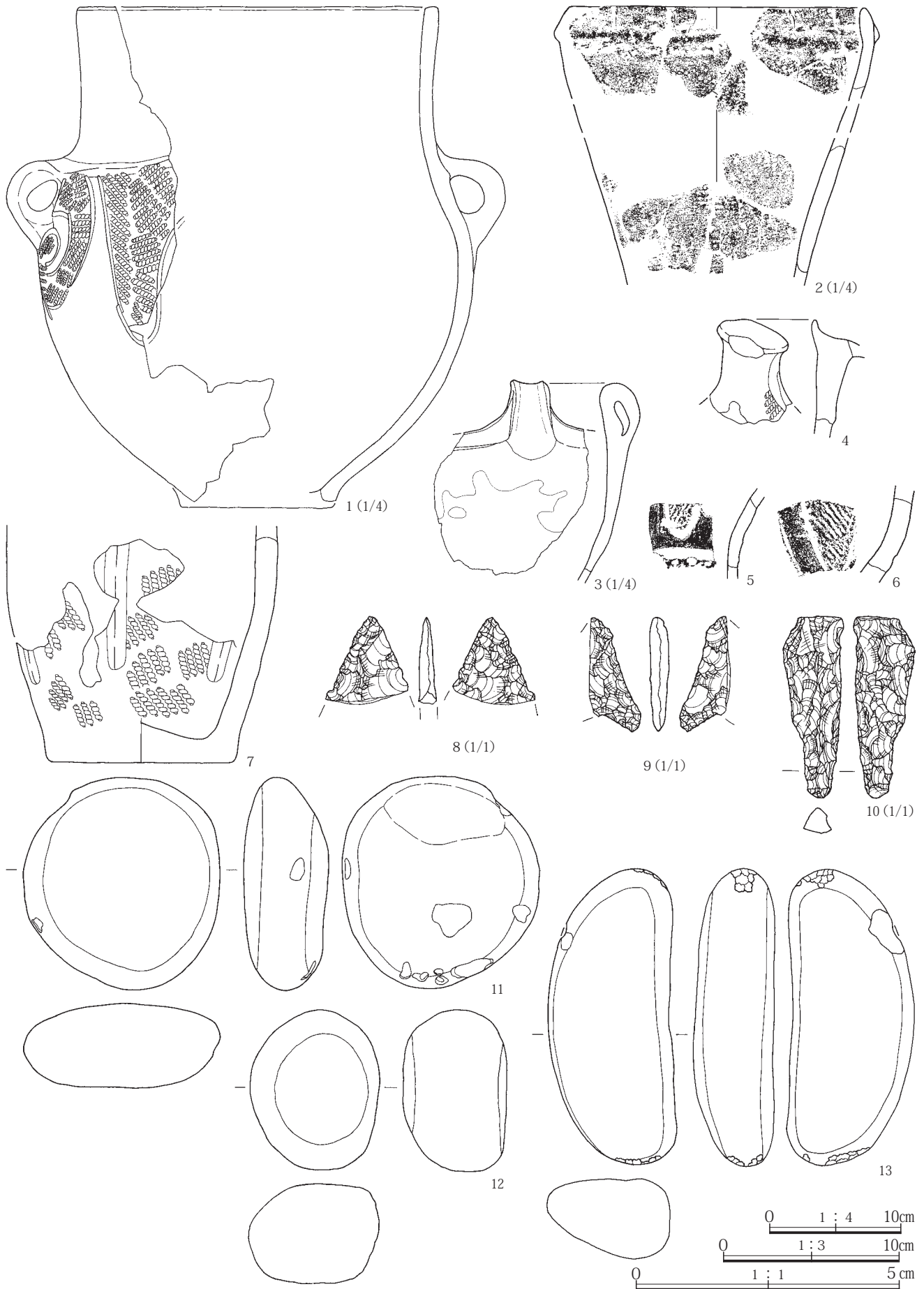
4号住居

1. 黒褐色土 やや軟質、明るい。炭化物少量、橙色・黄褐色粒子・小礫多く含む。

炉



第18図 4号住居



第19図 4号住居出土遺物

5号住居(第20~30図、PL. 2・3・75~77)

位置 75区E・F-12グリッドに位置する。

重複 無し。

形状 柄鏡形か。

規模 4.2m×2.9m×0.2m。

方位 N-82°-W

床面 不明瞭、礫が多く見られ、壁際に礫が廻るように検出されており、平石も点在する。柱穴は8本を確認した。

炉 主体部の中央からやや西寄りに、長円形に径50×40cm程の焼土を伴う浅い掘り込みが検出されており、炉と考えられる。焼土の両脇に近接して礫が確認されているが、断面の観察などから、地山の礫と思われ、人為的に据えられたと考えられる炉石等は見られなかった。

掘方 周囲に礫が多く確認されているが内部は比較的小さい、張り出し部との連結部に埋嚢を確認した。

深鉢を逆位に埋めており、長円形の掘方が確認された。

出土遺物 主体部には多くの土器が、礫と共に投げ込まれた状態で多く出土している。特に中央部にやや厚く堆積したような状況が見られた。

土器はほぼ器形を復元し得る2点の他は、破片類である。石器は石鏃、打製石斧の他、磨石類が多く出土している。

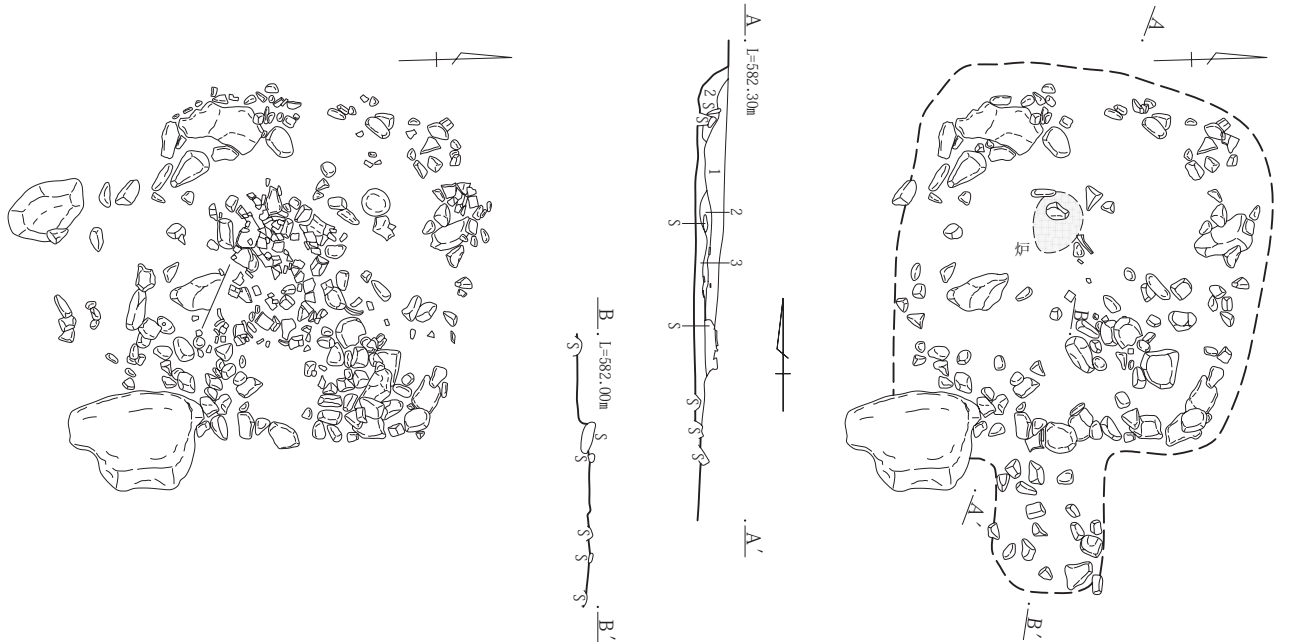
時期・所見 主体部内に当初土器の集中と若干の焼土が確認されたことから、焼土遺構として調査を開始したが、土器の下面から一部敷石住居の存在を想定させる礫の検出を認めたことなどから、住居と判断し調査を進めて行った。最終的には、東に張り出しを有す柄鏡形の敷石住居と認定したものである。

規模はやや小型で、主軸方向を西に持つ、主体部は外縁に沿って礫がほぼ方形に巡る形態で、所々、地山礫を敷石として利用したと思われる部分もあった。

礫を配していた。

結合部と思われる場所において、逆位の埋嚢が検出されたことから、東に張り出し部を有す柄鏡形敷石住居と判断した。

張り出し部の残りは悪く、僅かに残る礫の範囲から想定した。時期は出土した土器から中期後葉と思われる。



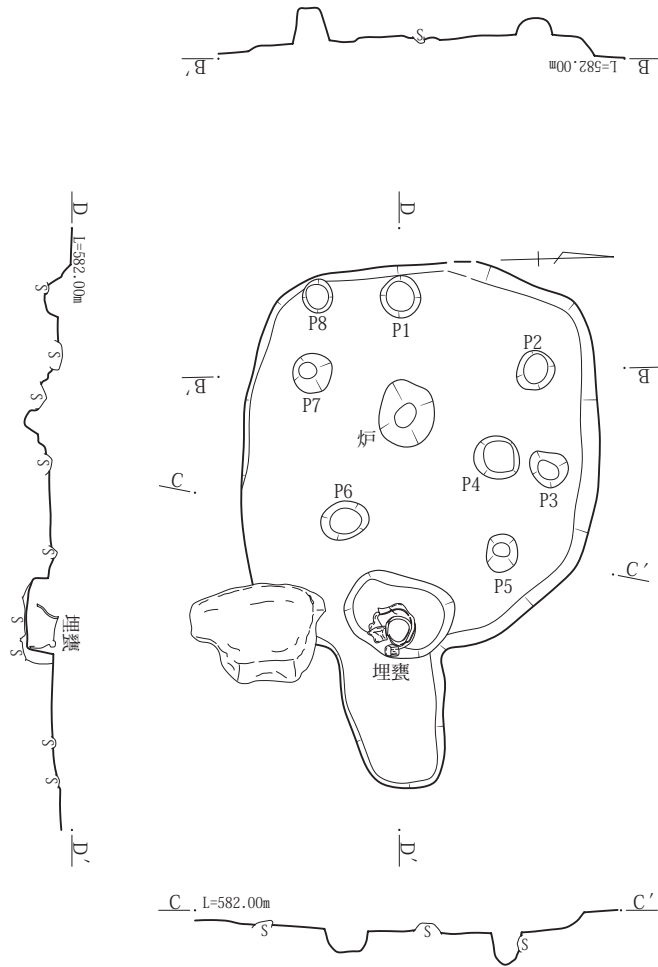
5号住居

1. 黒褐色土 炭化物・焼土粒・橙色粒を多く含む。
2. 黒褐色土 焼土粒・土器を多く含む。やや軟質。
3. 暗褐色土 やや明るく褐色土塊・橙色粒を少量含む。

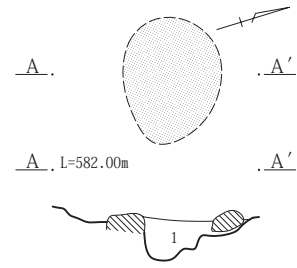
0 1:60 2m

第20図 5号住居(1)

掘方



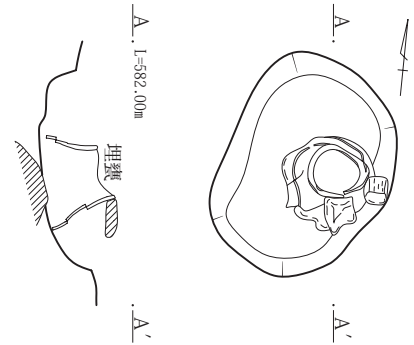
炉



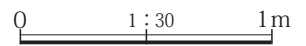
5号住居炉

1. 黒褐色土 上層に大粒の炭化物を少量の焼土散布。
下位は締りなく、少量の炭化物含む。

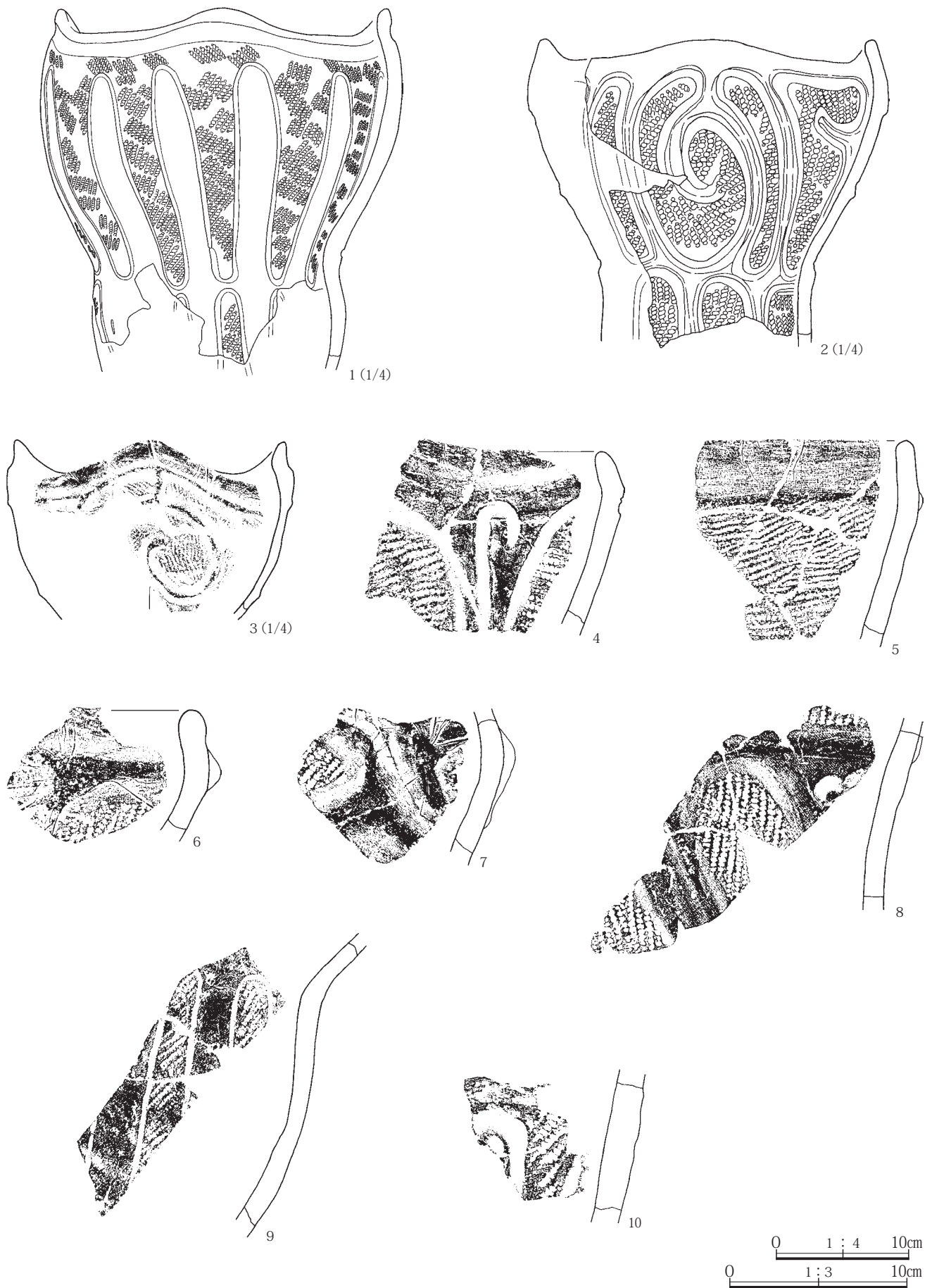
埋葬



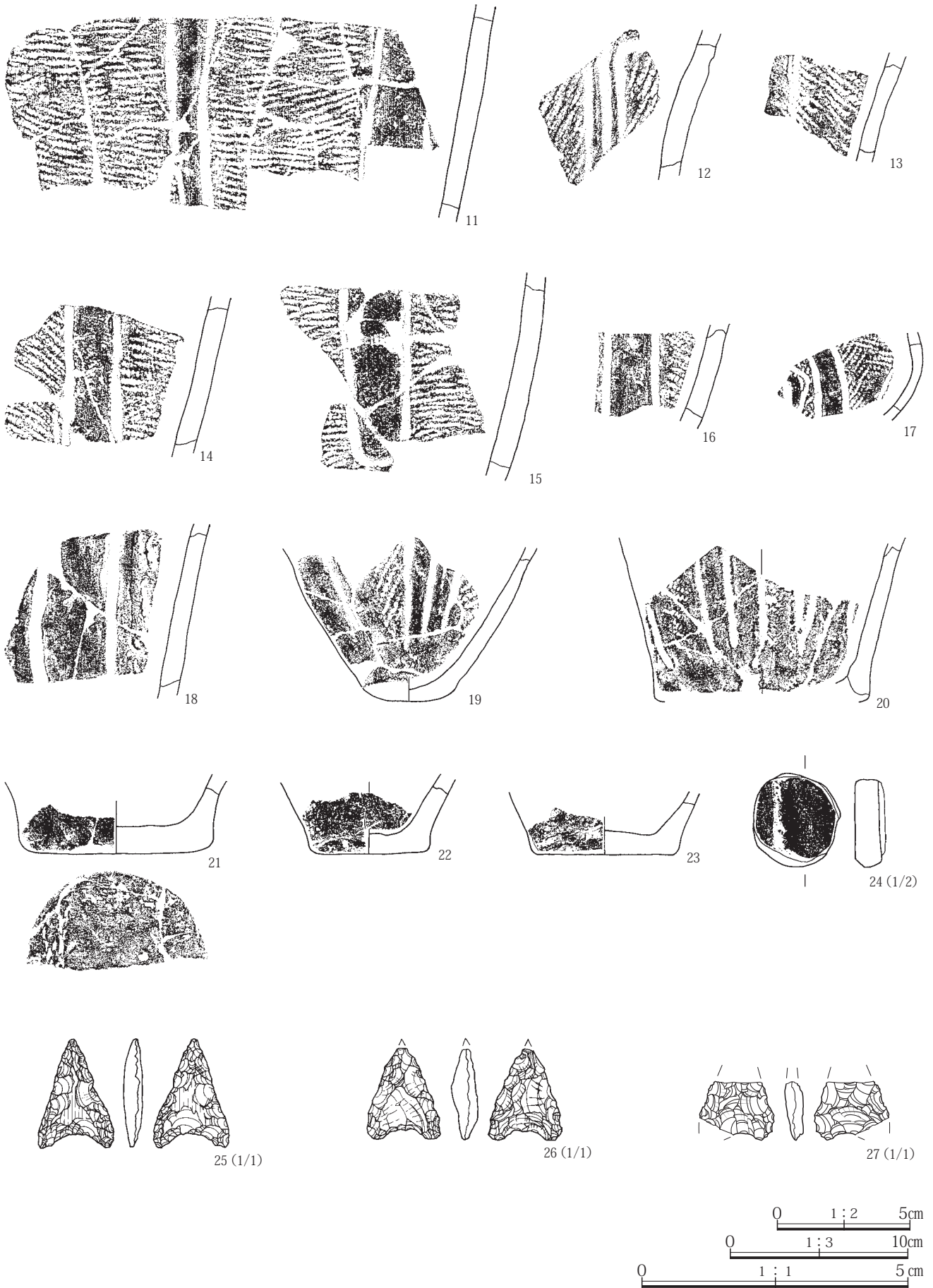
遺物出土状況



第21図 5号住居(2)



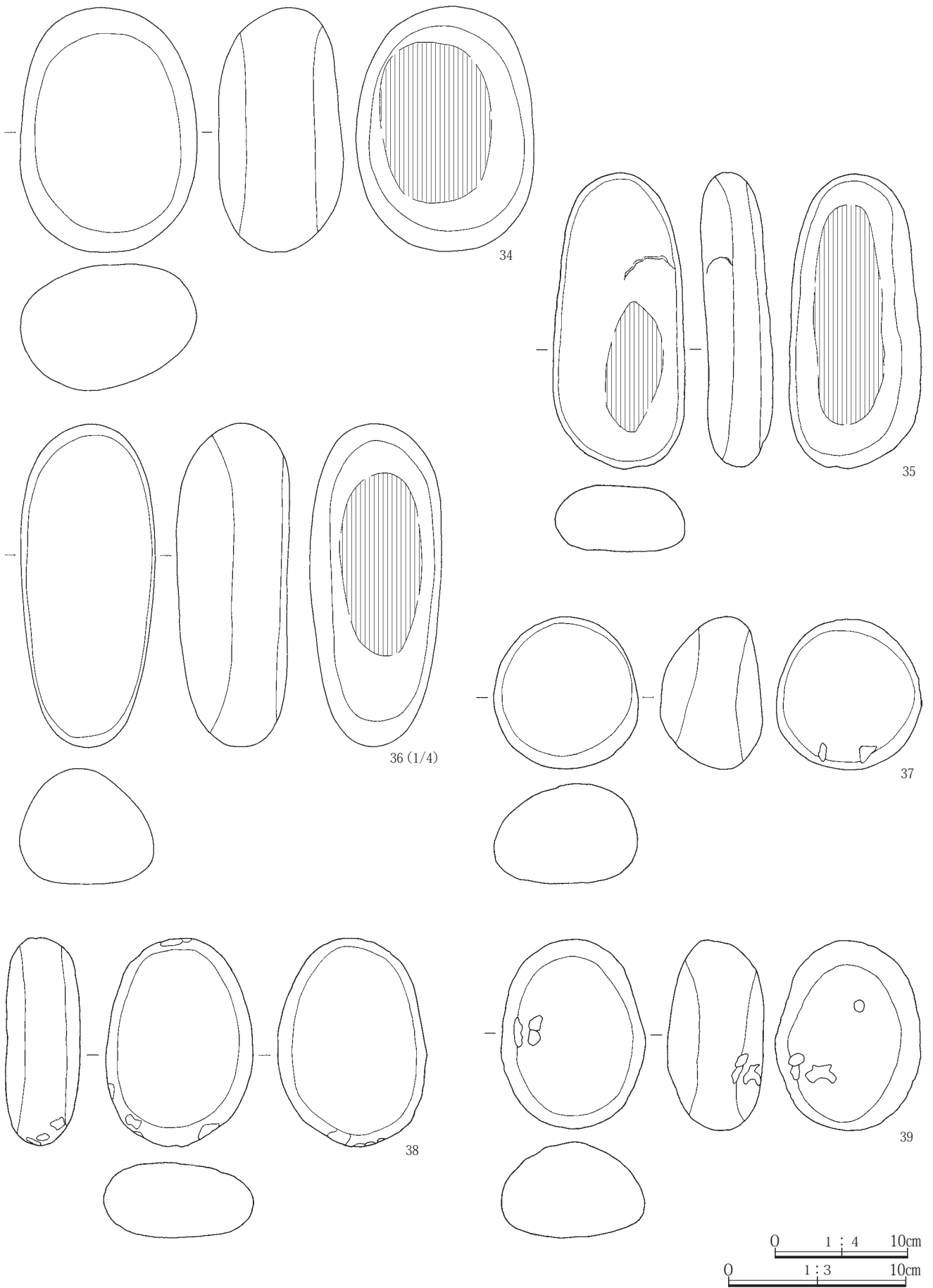
第22図 5号住居出土遺物(1)



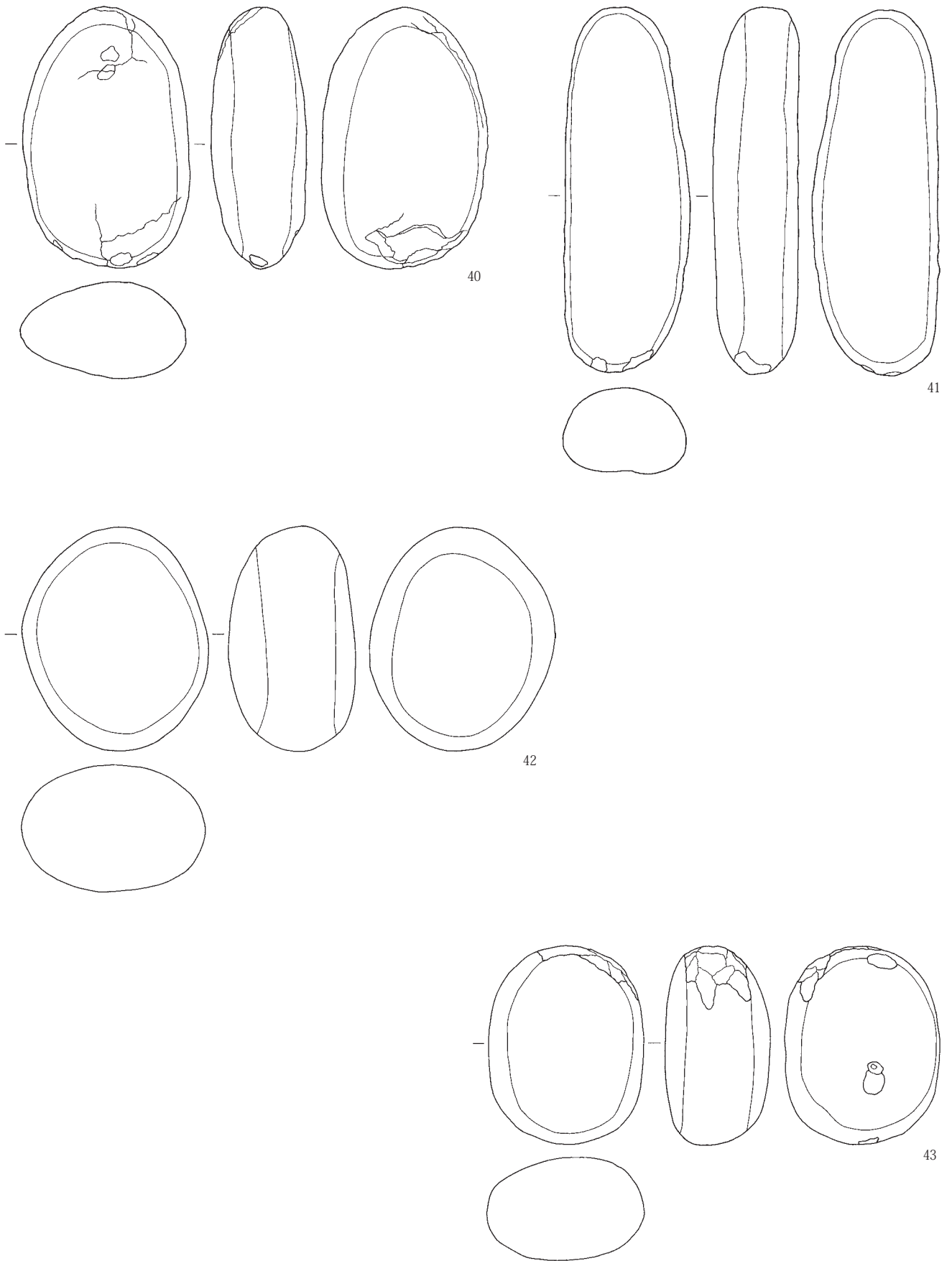
第23図 5号住居出土遺物(2)



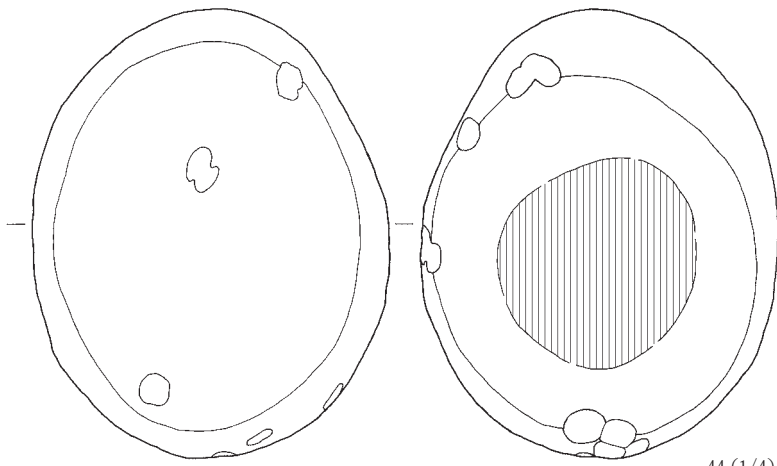
第24図 5号住居出土遺物(3)



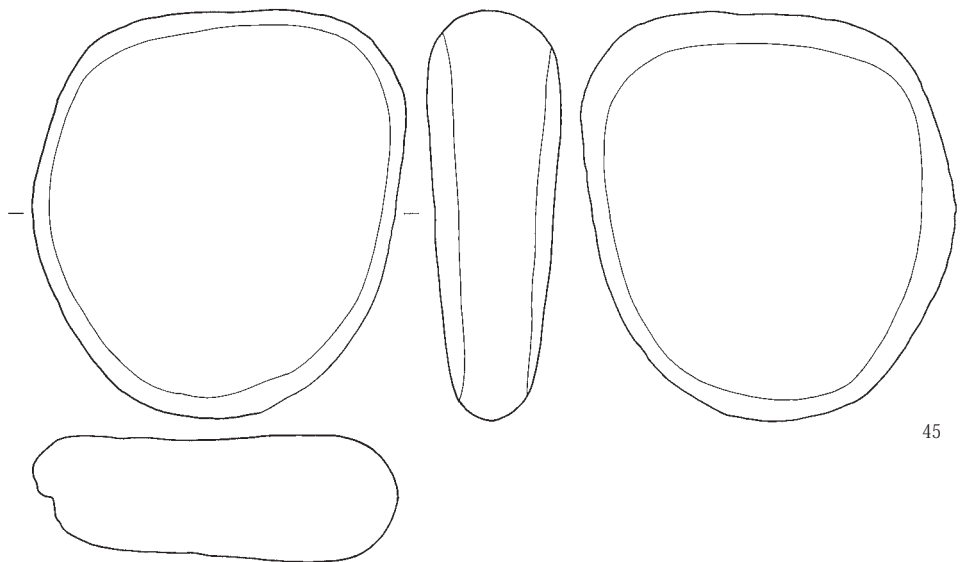
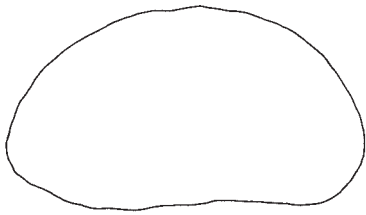
第25図 5号住居出土遺物(4)



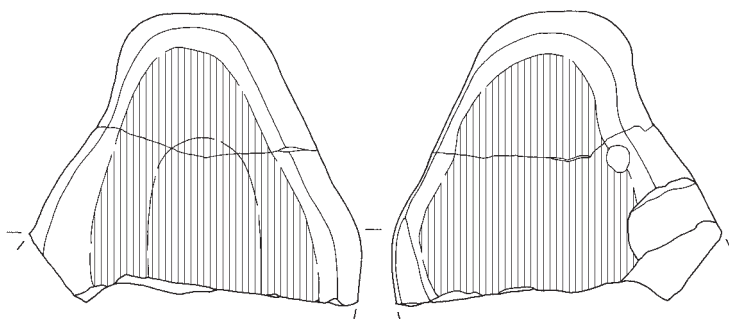
第26図 5号住居出土遺物(5)



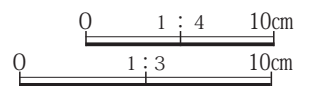
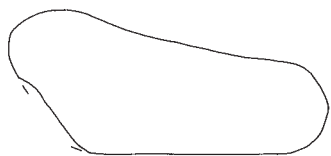
44 (1/4)



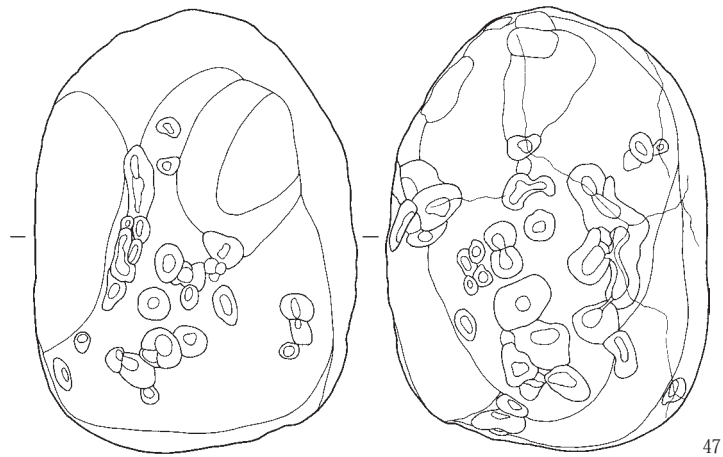
45



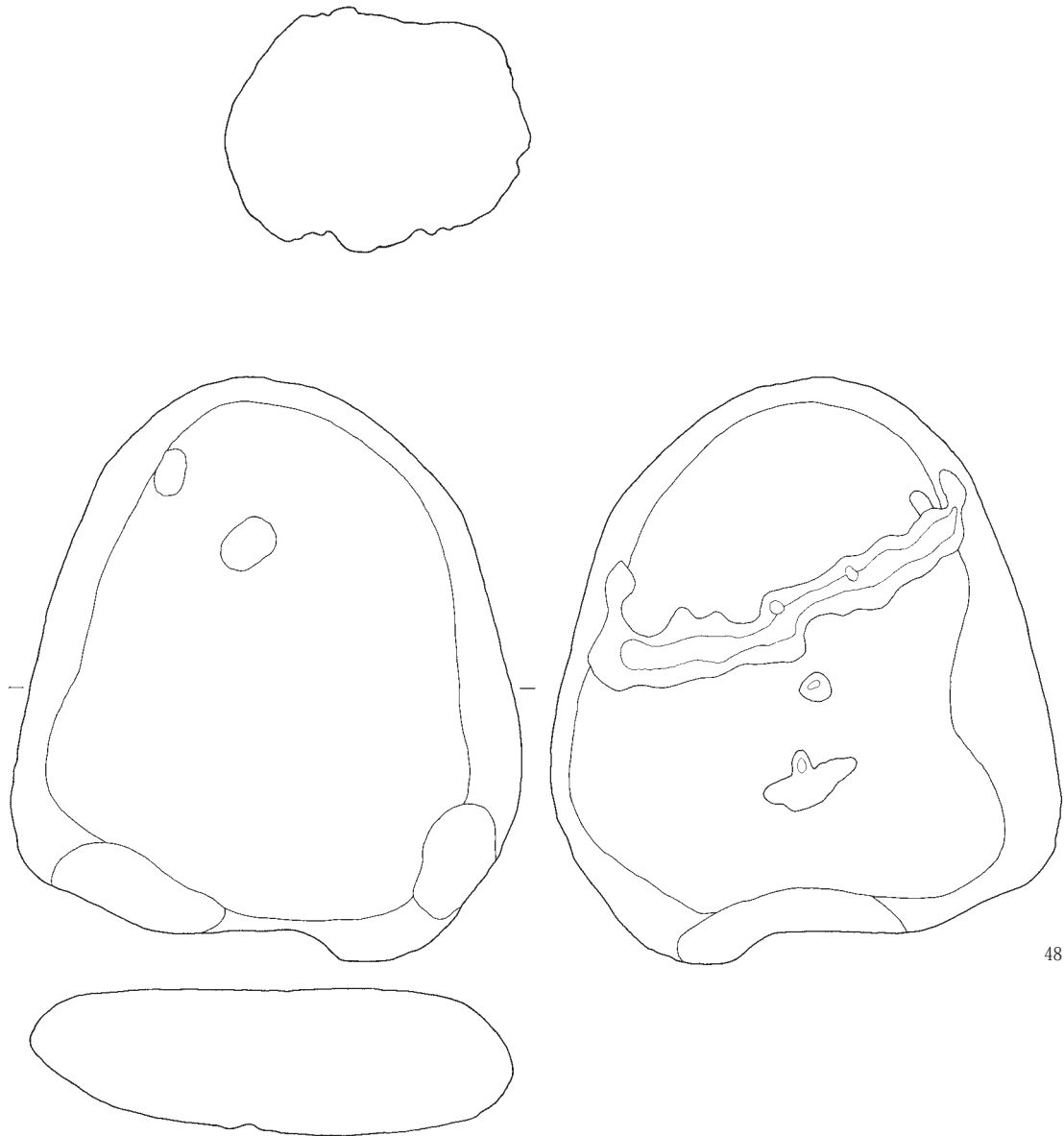
46 (1/4)



第27図 5号住居出土遺物(6)



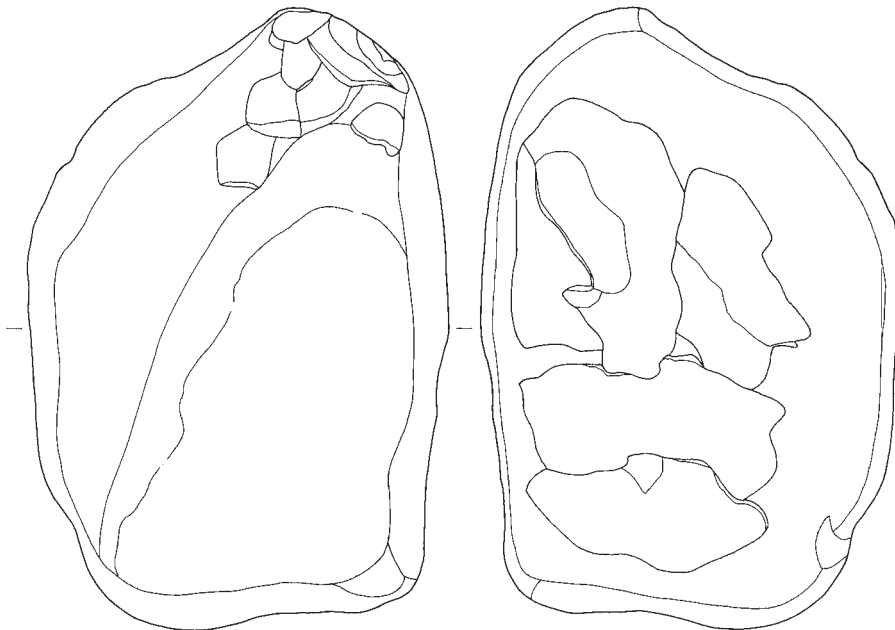
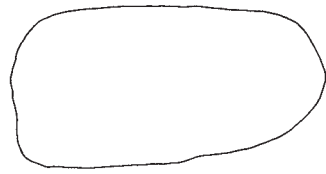
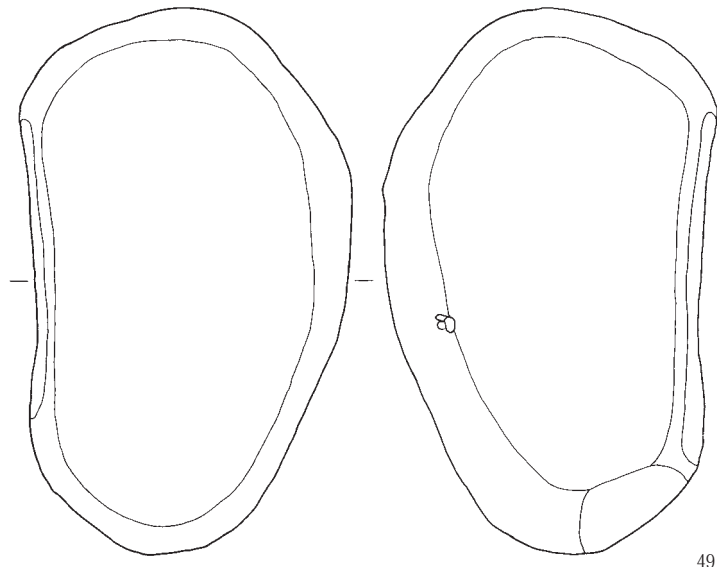
47



48

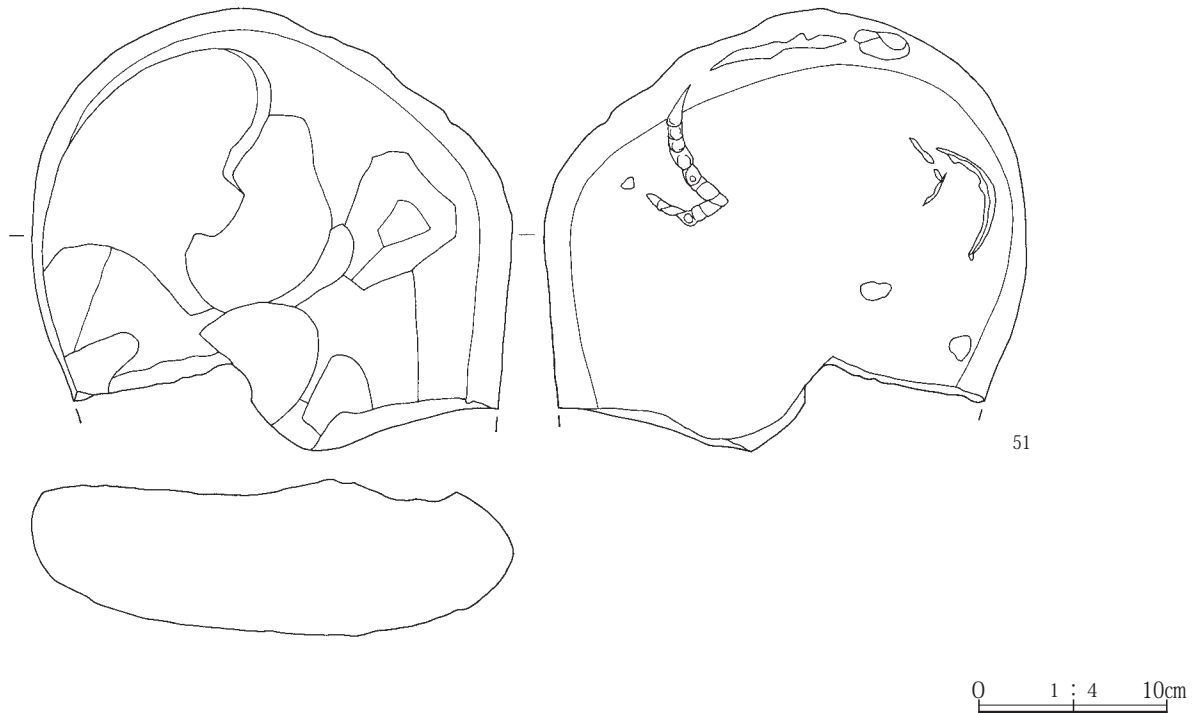
0 1 : 4 10cm

第28図 5号住居出土遺物(7)



0 1 : 4 10cm

第29図 5号住居出土遺物(8)



第30図 5号住居出土遺物(9)

6号住居(第31～39図、PL. 3～5・77～79)

位置 75区F・G-12・13グリッドに位置する。

重複 主体部北西部に336号土坑が重複、本址を切る。

形状 主体部はほぼ円形を呈す、柄鏡形住居である。

規模 柄部分を含む全長6.6m、幅は(3.5)mである。

方位 N-148° -W

床面 敷石は部分的で、主体部の壁寄りに廻るように残る。平石および、やや扁平な河原石を敷いている。

さらに奥壁には幅45cm、高さ55cmの大きな石が下3分の1程が埋られた状態で検出された。この石の外側にも壁との間に、扁平な礫が内側に倒れ込んだ状態で、数枚が約50cmの間隔を置いて出土している。元々は壁際に立てられていたものと考えられる。

張り出し部は北東に延びており、小礫を筋状に並べた3本の列石が見られ、その先端部分に埋甕が位置する。これらの小列石は接合部に置かれた大小の平らな石から、ほぼ直線に延び、外側の2本は接合部分から僅かに開くように繋がっていた。また、一番左側の石列に用いられた石は、他の2本のものに比べ小振りの石が用いられていた。

炉 主体部の中央に作られていた。大型の礫6個をほぼ方形に組んだ石囲い炉である。奥の石は被熱により割れた状態である。

掘方 結合部分にはいわゆる対ピットが検出された。また壁下には周溝がほぼ1周している。

出土遺物 覆土中より土器片、石器等が出土したほか、結合部に2基(2号、3号)、張り出し先端部に1基(1号)埋甕が出土している。結合部の埋甕は立石を挟んで横並びの状態を検出されている。2号は、ほぼ中軸線上に位置し、3号はやや右にずれている。3号埋甕は、土器の上位部分がかかなり床面から上に出ている状況であった。時期・所見 本址は当初、張り出し部の位置する部分の調査を行い、主体部がさらに南西に延びることが想定されたため、この部分を拡張して調査を行った経緯がある。

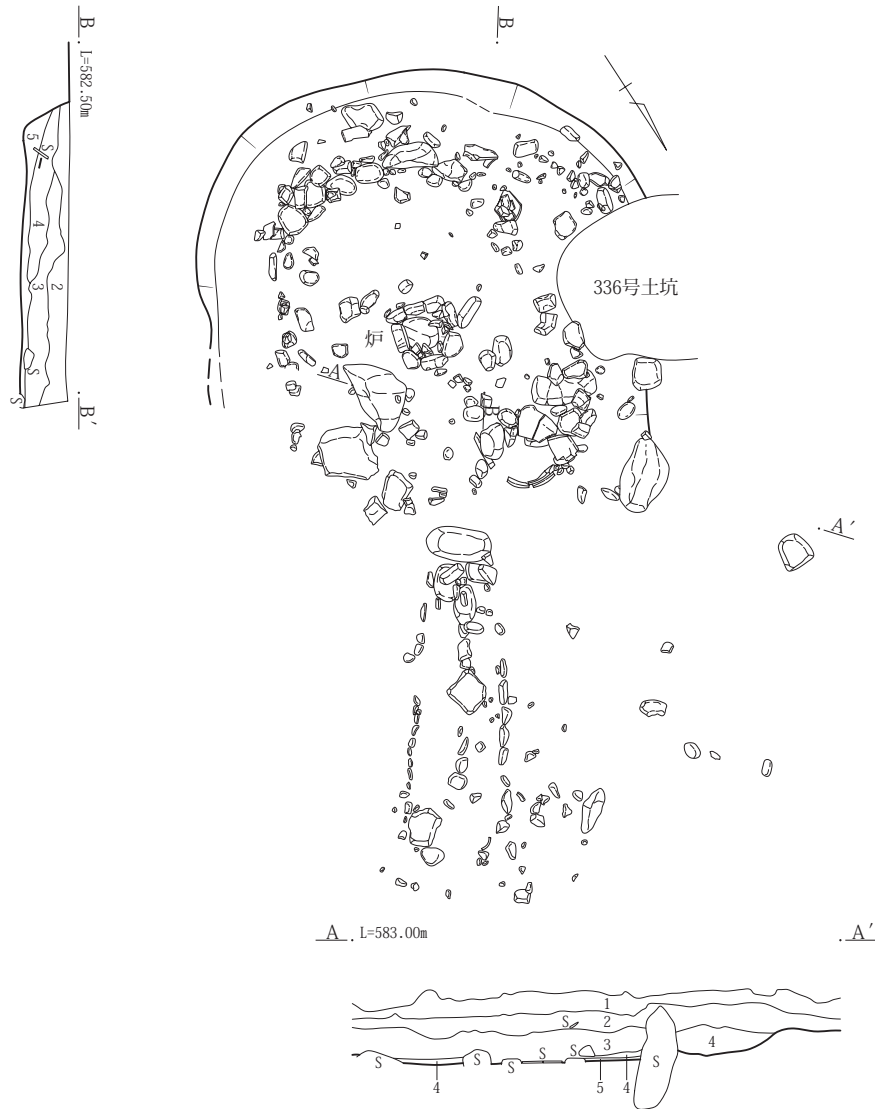
最終的には長い張り出しを有す、柄鏡形敷石住居で、主体部はほぼ円形、敷石部分はやや方形を意識した形状であることを確認した。主体部の掘り込みは40cm程が確認され、壁下には周溝も確認されている。炉はほぼ中央に位置、張り出し部は主体部径とほぼ同等の長さで延びている。

連結部に向かって右側に高さ50cmの立石が見られ、さらに右に1m程離れた位置に、さらに大きな立石が確認された。この立石が本址と直接関連するものかどうか、判断に迷うところではあるが、人為的に立てられていることは明らかである。

また、大きい立石の上端部は遺構の上に乗る、天明泥
流畑の耕作土に達しており、鍬や鋤の当たった筋状の傷

が複数見られた。

この住居の時期は出土遺物から中期後葉である。

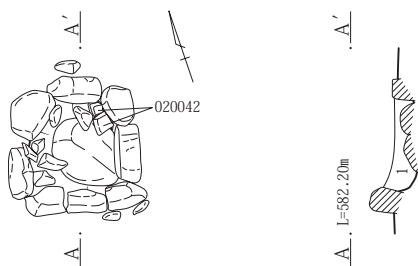


6号住居

1. 黒褐色土 やや暗い。白色粒少量含む。均質でやや軟質(As-A畑耕作土)。
2. 暗褐色土 やや明るい。黄褐色粒・橙色粒を多く含む。炭化物・焼土粒含む。
3. 暗褐色土 黄褐色粒・炭化物少量含む。
4. 暗褐色土 やや暗い。黄褐色土粒、白色粒含む。
5. 暗褐色土 褐色粒、黄褐色粒含み鉄分の凝集みられる。

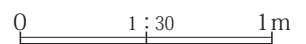


炉

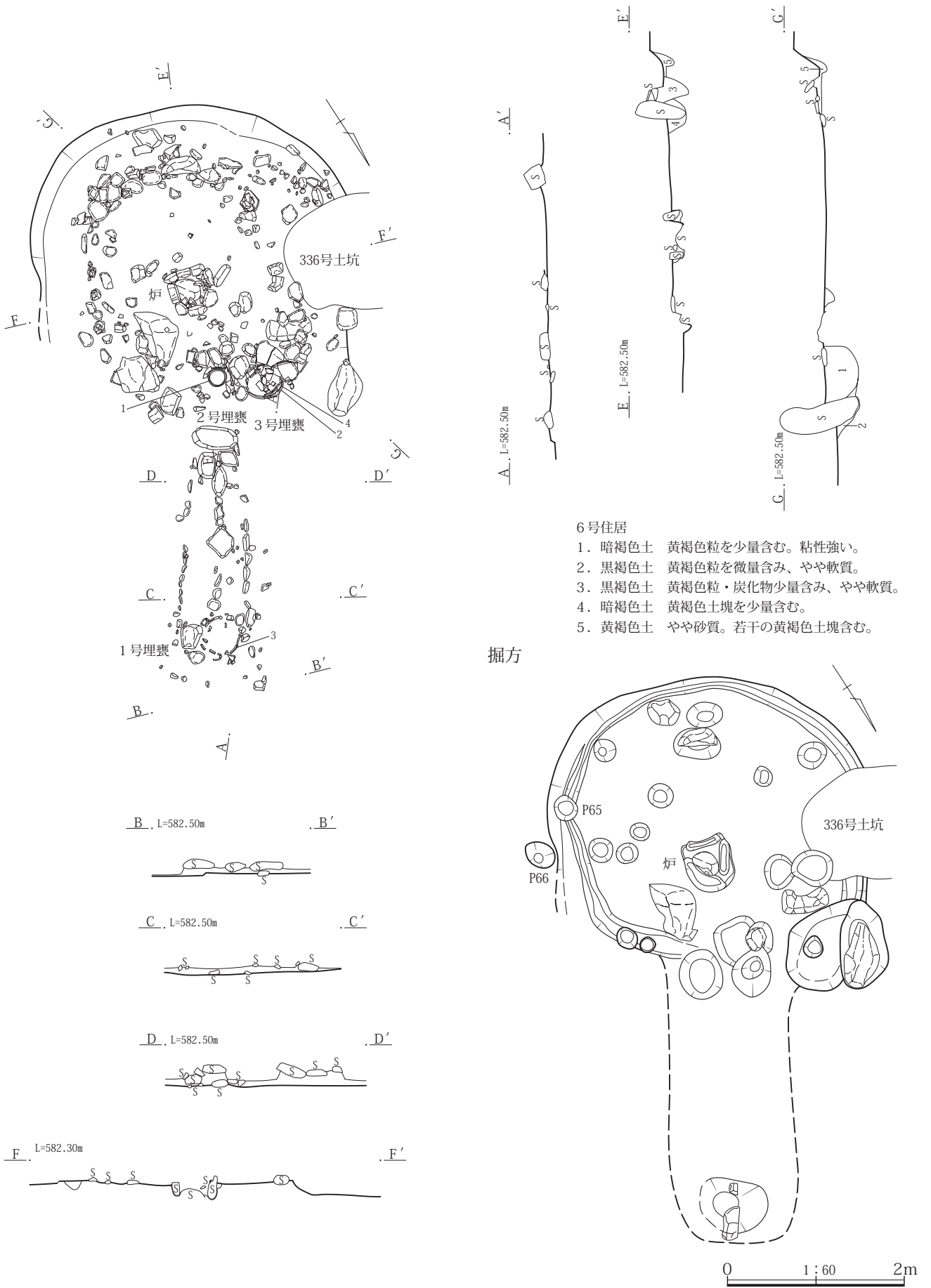


6号住居炉

1. 暗褐色土 少量の炭化物、焼土粒含む。



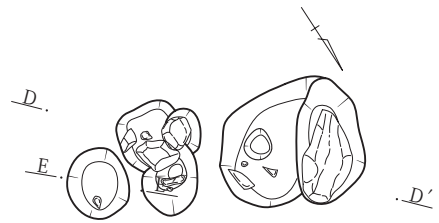
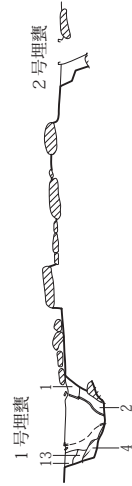
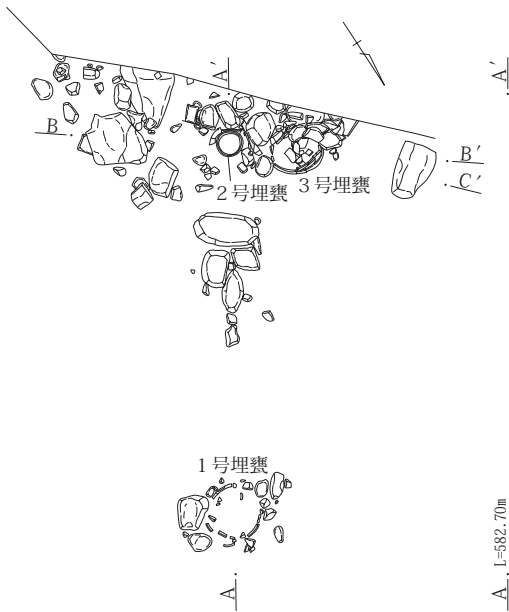
第31図 6号住居(1)



第32図 6号住居(2)

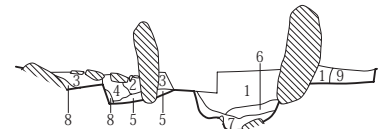
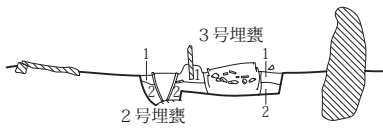
張出し部埋葬

埋葬・立石掘方



B, L=582.70m B'

D, L=582.70m D'



C, L=582.70m C'

E, L=582.00m E'



6号住居 1号埋葬(張出し先端部)

1. 暗褐色土 やや暗い。黄褐色色粒を少量含む。
2. 暗褐色土 やや暗い。黄褐色色粒子微量含む、やや粘性強い。
3. 褐色土 明るい。黄褐色色粒子を多量に含む。
4. 褐色土 やや暗く、均質。粘性強い。

6号住居 2・3号埋葬(連結部)

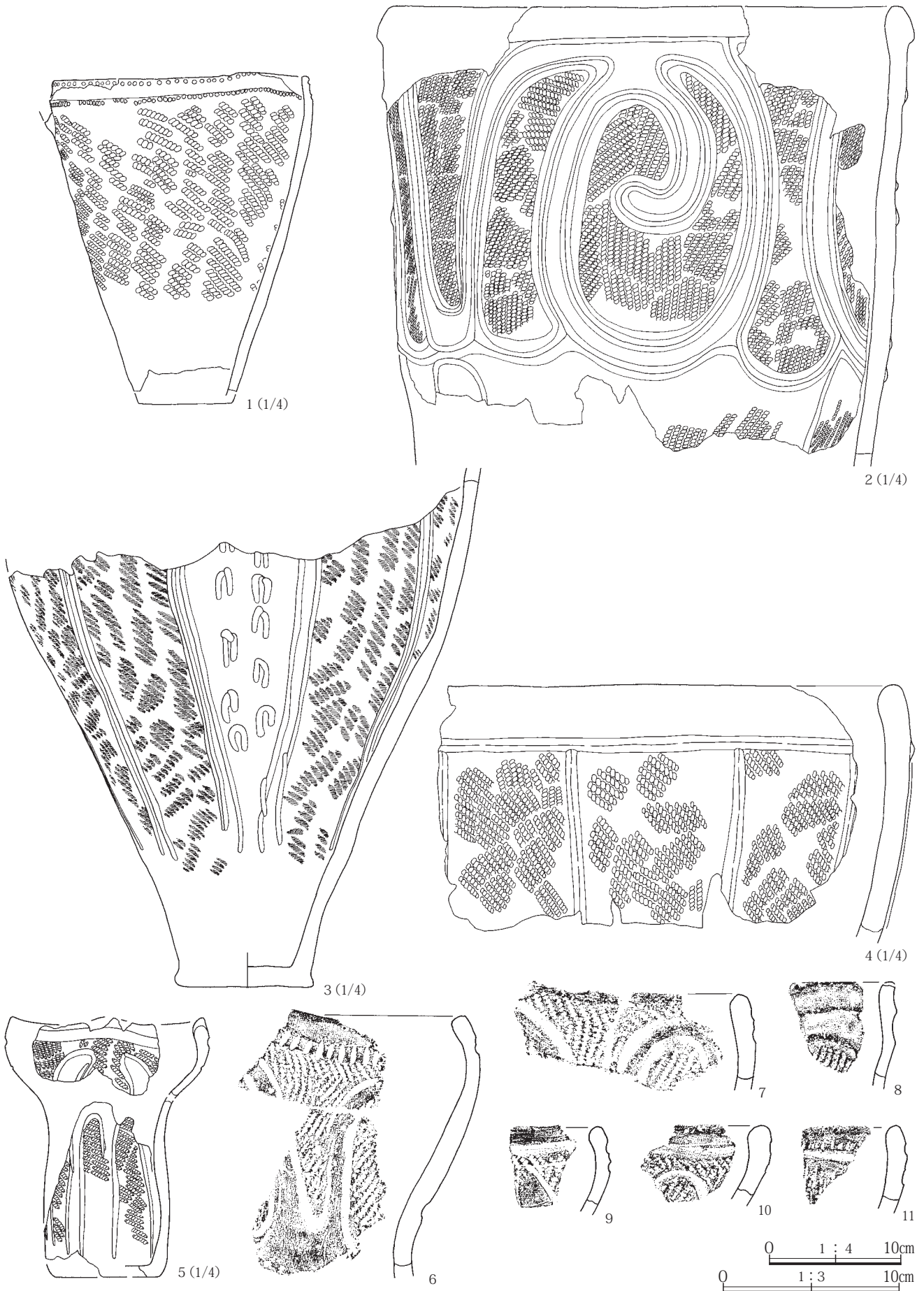
1. 暗褐色土 やや暗い。黄褐色色粒子少量含む。
2. 暗褐色土 やや暗い。粘性やや暗い。

6号住居(連結部)

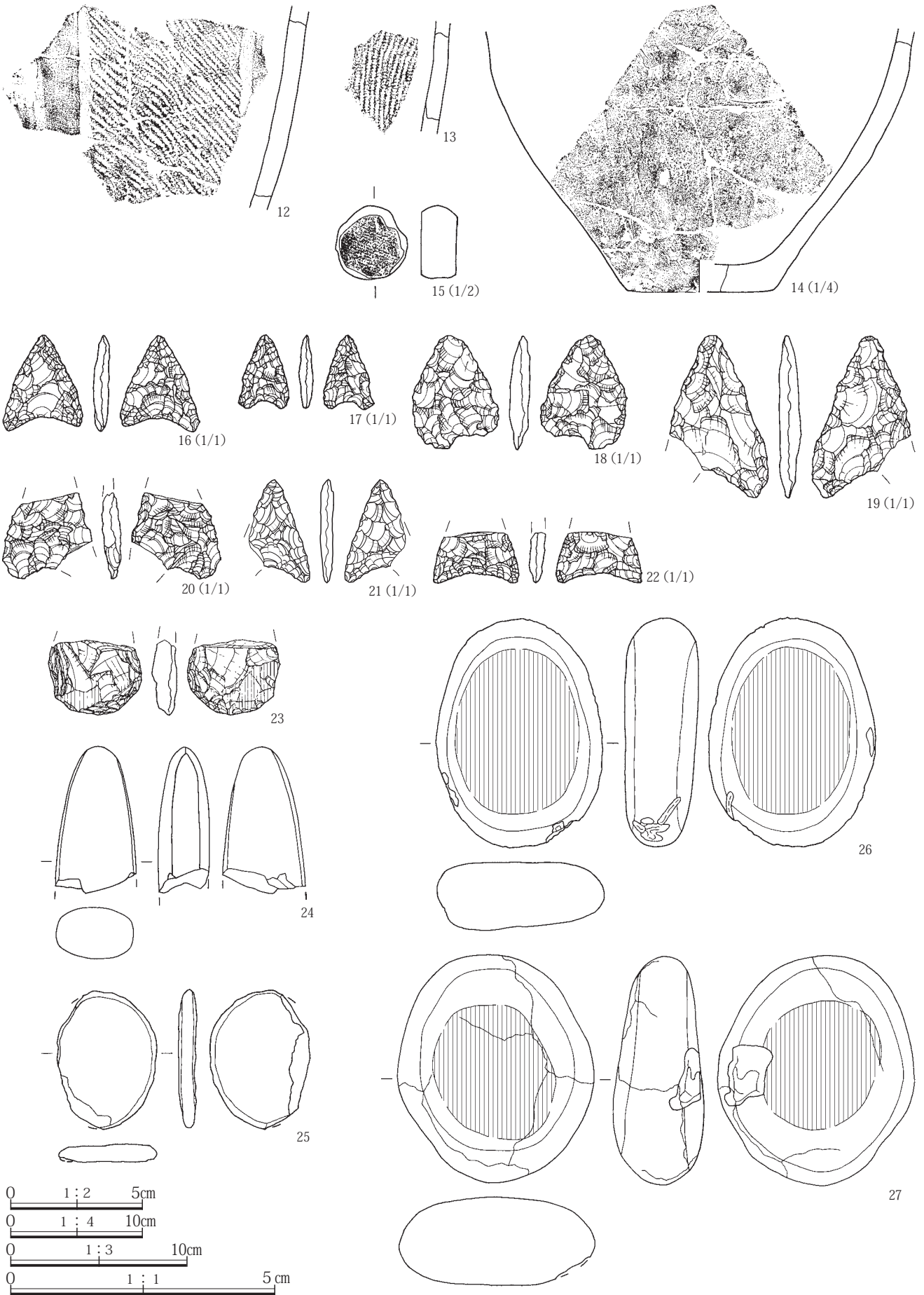
1. 暗褐色土 黄褐色色粒を少量含む。粘性強い。(3号埋葬埋土)
2. 黒褐色土 黄褐色色粒を微量含む、やや軟質。
3. 黒褐色土 黄褐色色粒・炭化物少量含む、やや軟質。
4. 暗褐色土 小型の黄褐色土塊を少量含む。
5. 黄褐色土 やや砂質。黄褐色土塊の塊状堆積土。
6. 黄褐色土 やや砂質。褐色土塊を多く含む。
7. 褐色土 やや砂質。あるいは基盤層か。
8. 黒褐色土 黄褐色色粒・小礫を含む。粘質強い。
9. 暗褐色土 黄褐色土塊・黄褐色色粒を少量含む。



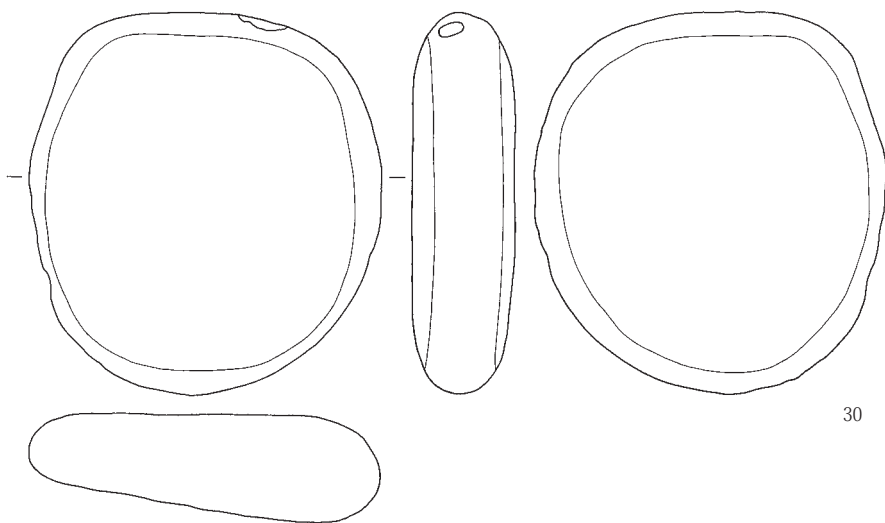
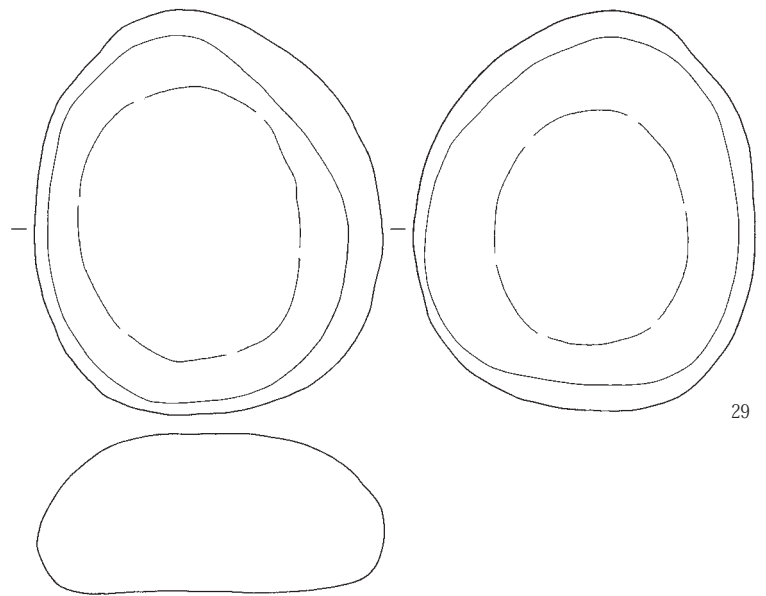
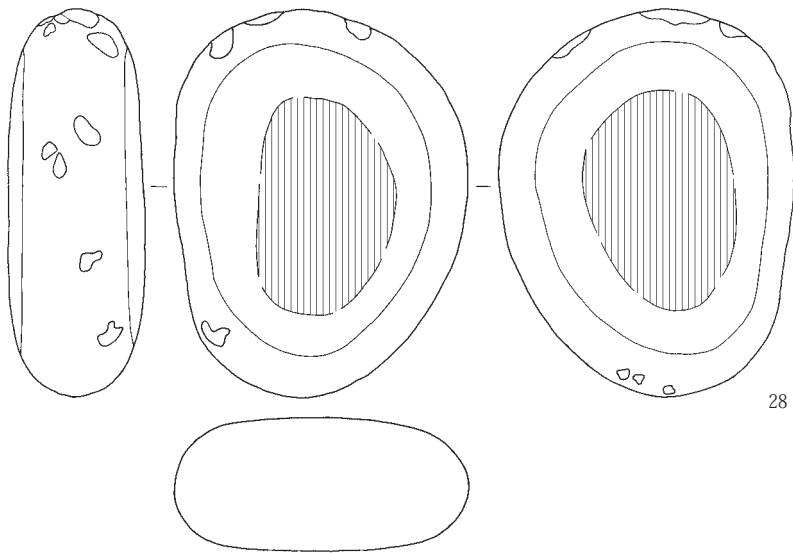
第33図 6号住居(3)



第34図 6号住居出土遺物(1)

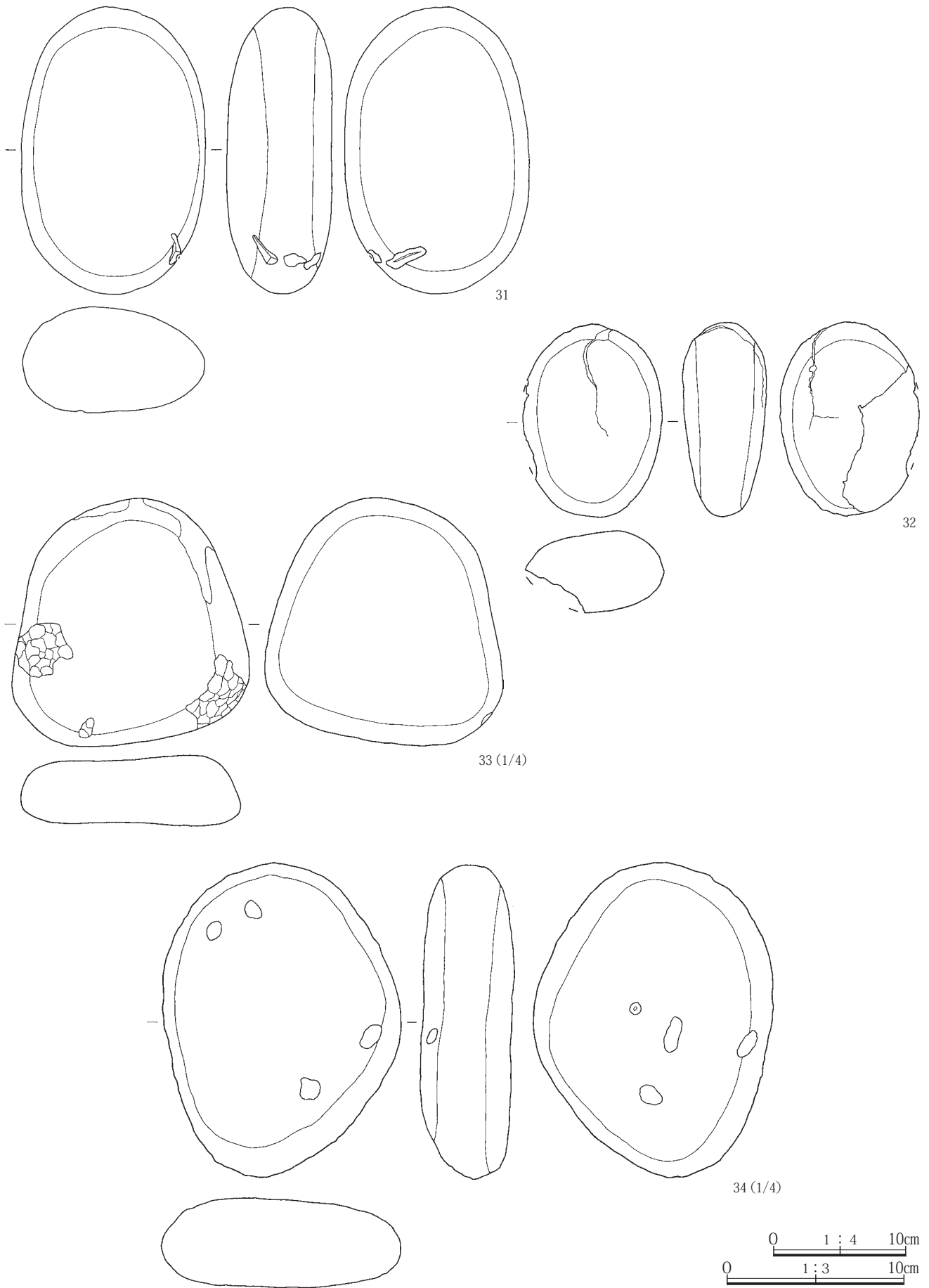


第35図 6号住居出土遺物(2)

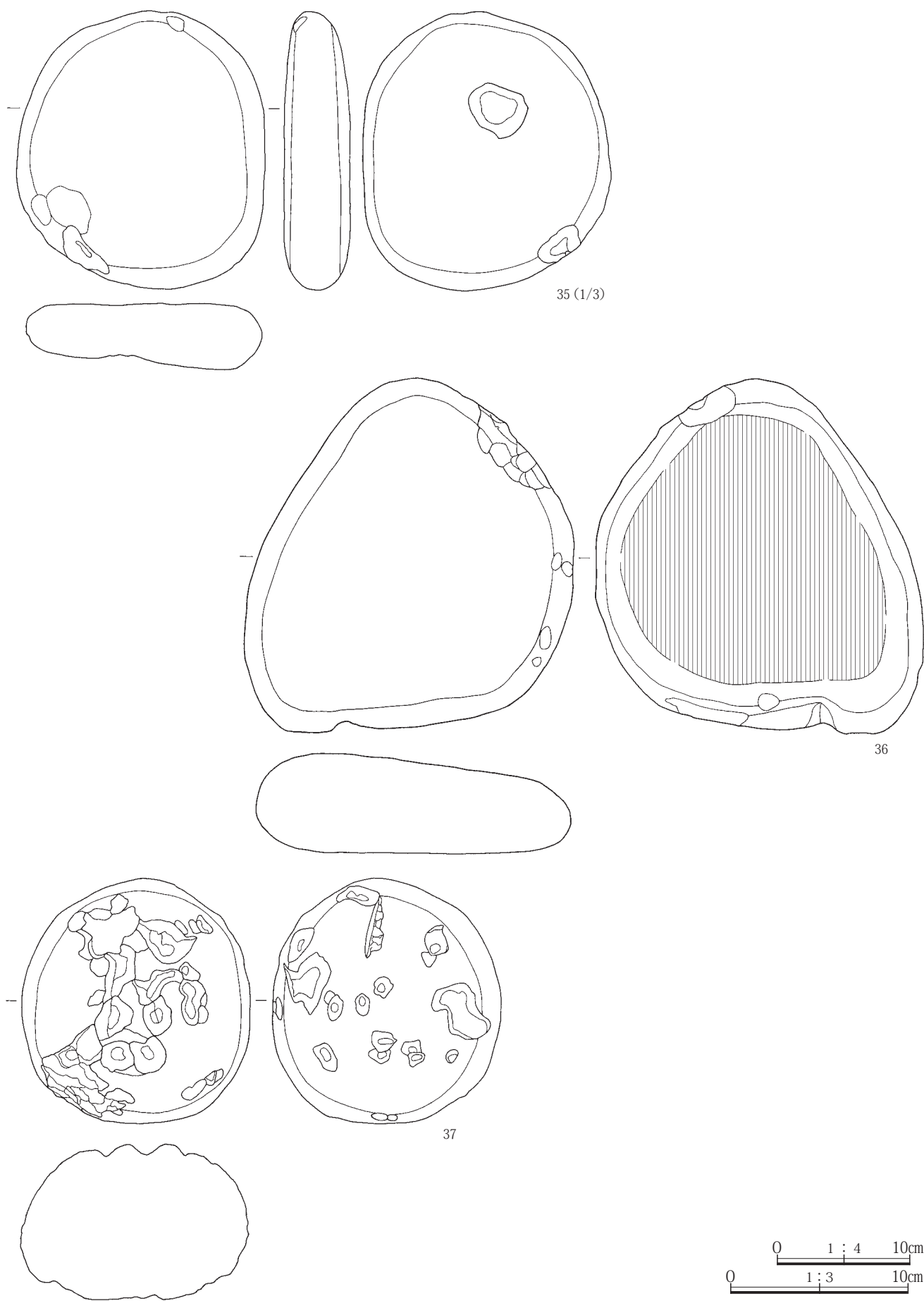


0 1:3 10cm

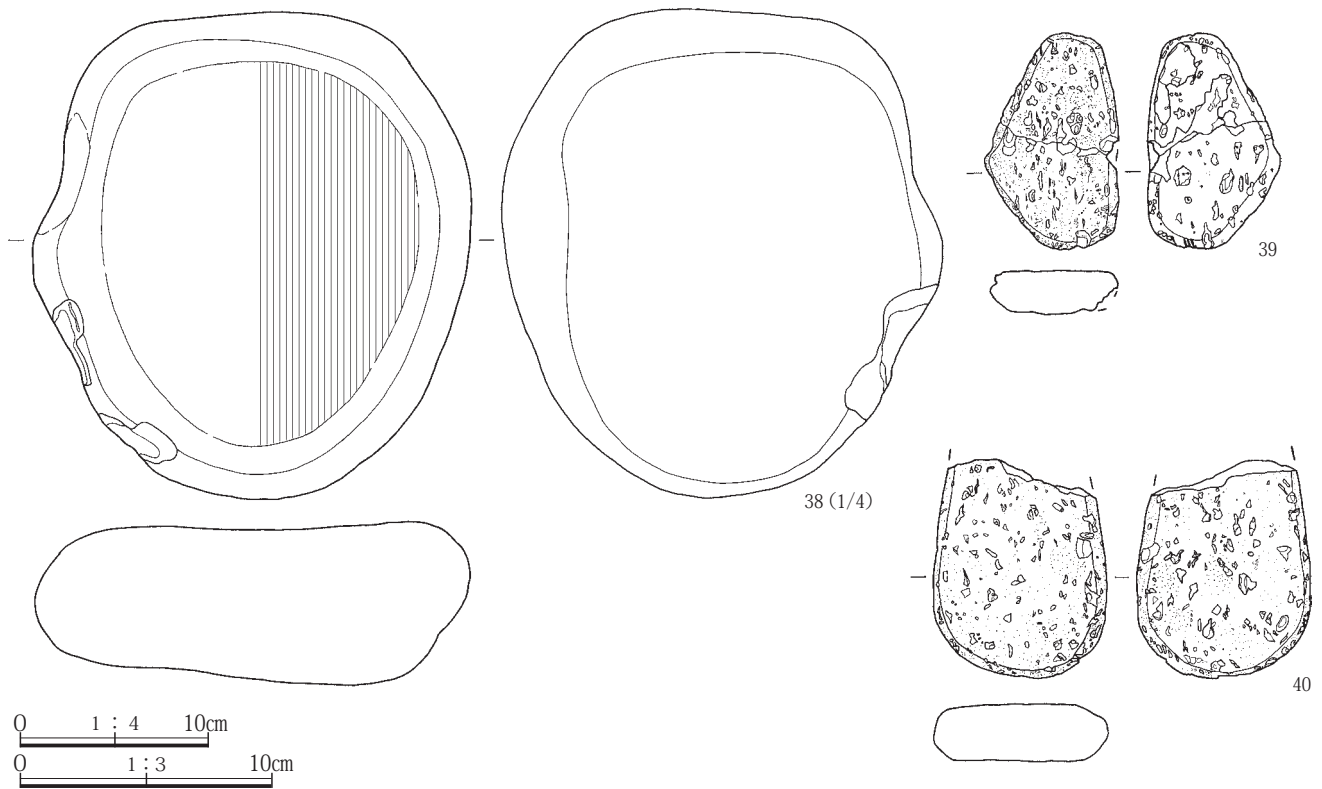
第36図 6号住居出土遺物(3)



第37図 6号住居出土遺物(4)



第38図 6号住居出土遺物(5)



第39図 6号住居出土遺物(6)

8号住居(第40～46図、PL. 6・7・79・80)

位置 74区V-6～8、W-6・7グリッドに位置する。

重複 無し。

形状 柄鏡形敷石住居

規模 長さ(6.5)m×幅(5.0)m

方位 N-163° -W

床面 主体部の周囲および張り出し部に若干の敷石が見られる。石は平石及び偏平な河原石が主体で、地山にも多くの礫が含まれており周囲、特に西側に礫が多く見られる状況であった。

住居とした判断材料としては、南西隅部分に比較的大きな平石が敷かれていたことと、主体部の外周に沿ってかなり整然とした状態の小礫や偏平な礫が、弧状に配されている部分が見られたことなどによる。

炉の手前1m程のところに棒状の礫が10cm程頭を出しており、石棒と思われる。柱穴は炉を囲んで矩形に6(8)本が検出されている。

炉 主体部ほぼ中央に作られている。検出時は割れた礫が内部及び周辺部に散乱した状況であった。

角礫をほぼ方形に組んだ石囲い炉である。規模は55cm×55cmの方形を呈す。炉石は被熱により炉石は割れた状態で、手前側の石は抜かれた状況であった。

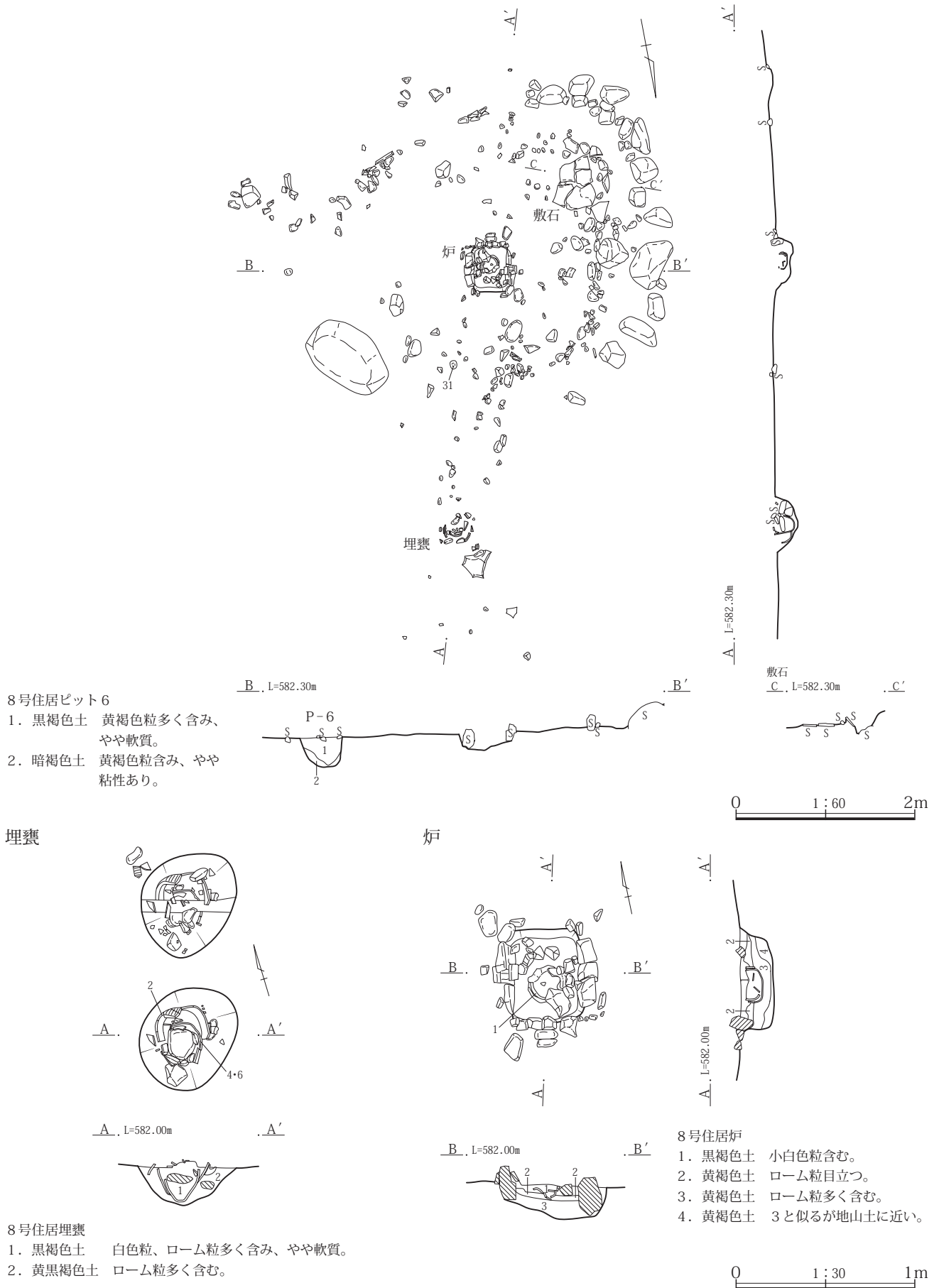
炉内中央には炉体土器が据えられていた、焼けてかなり脆い状態であった。土器周辺に焼土はほとんど見られなかった。

掘方 連結部に1.1m×0.9mの長方形の土坑が検出された。土坑の南東縁に自然石を利用した石棒が埋め込まれた状況で出土している。

出土遺物 土器に関しては、埋嚢を除き、出土遺物は少なく、炉体土器については極めて脆弱であったため、図による復元となった。石器は、縦型石匙、打製石斧、磨製石斧が見られた他、複数の磨り石出土している。

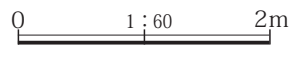
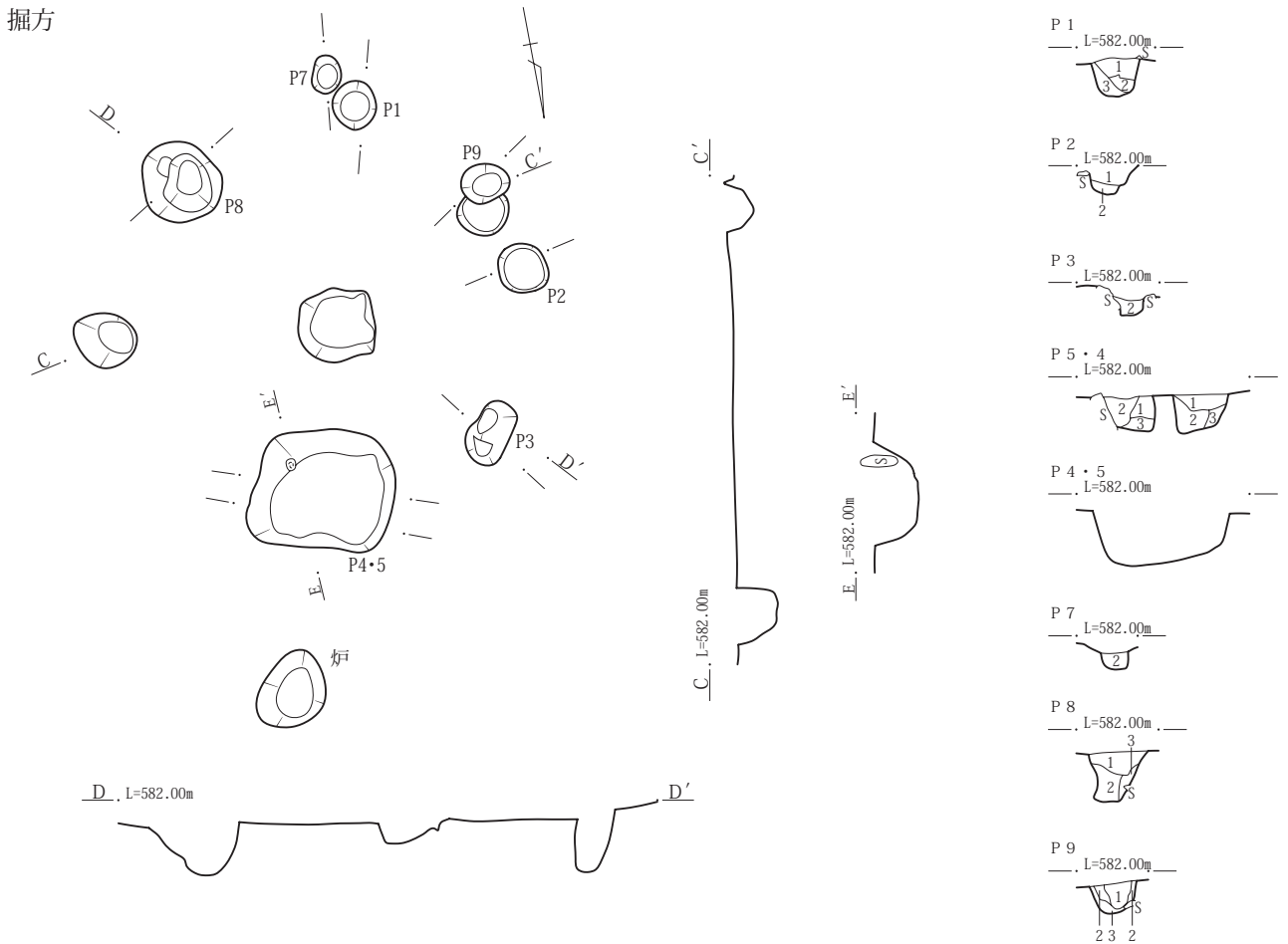
石棒は棒状の礫で被熱の為か全体にひびが見られる。時期・所見 地山の礫が多くなる部分と比較的礫の少ない境界に作られていた。敷石は主体部の縁辺部分に散在する。掘り込みはほとんど確認できなかった。張り出し部が想定される延長上に埋嚢が検出されている。深鉢の胴下半部が2個体入れ子状態になっており、内側の土器の中には蓋のようにやや平たい礫が置かれ、廻りに小礫が取り巻くように入れられていた。

時期は中期後葉と見られる。



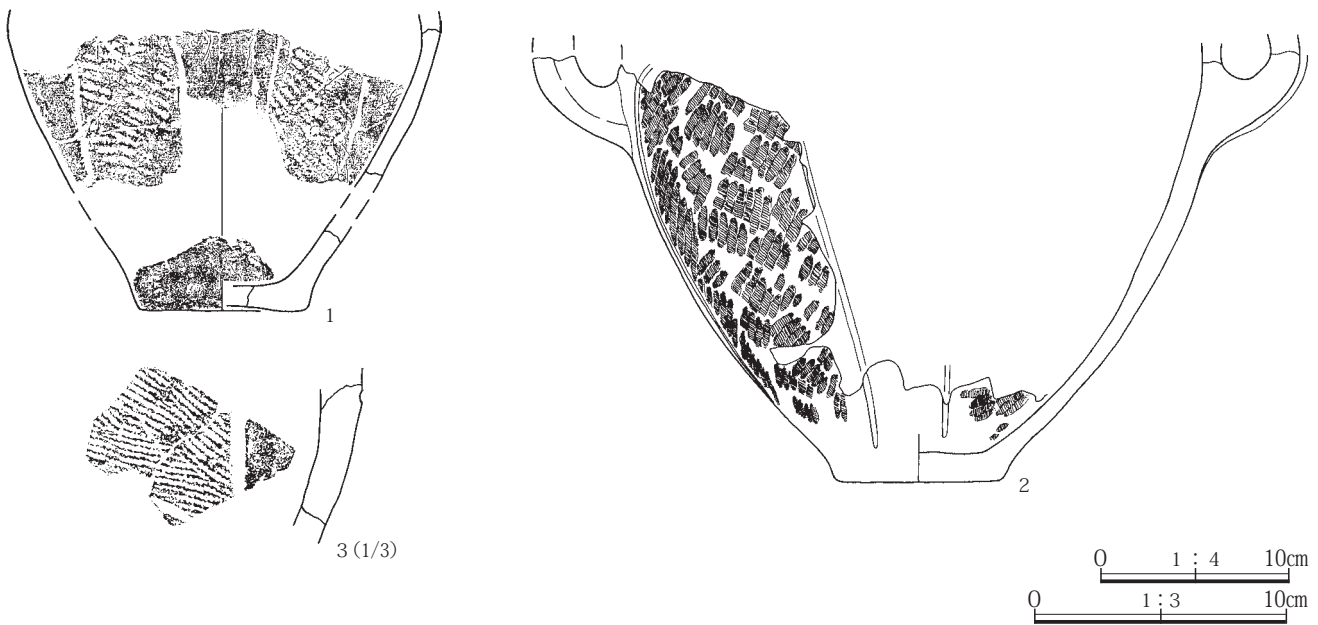
第40図 8号住居(1)

掘方

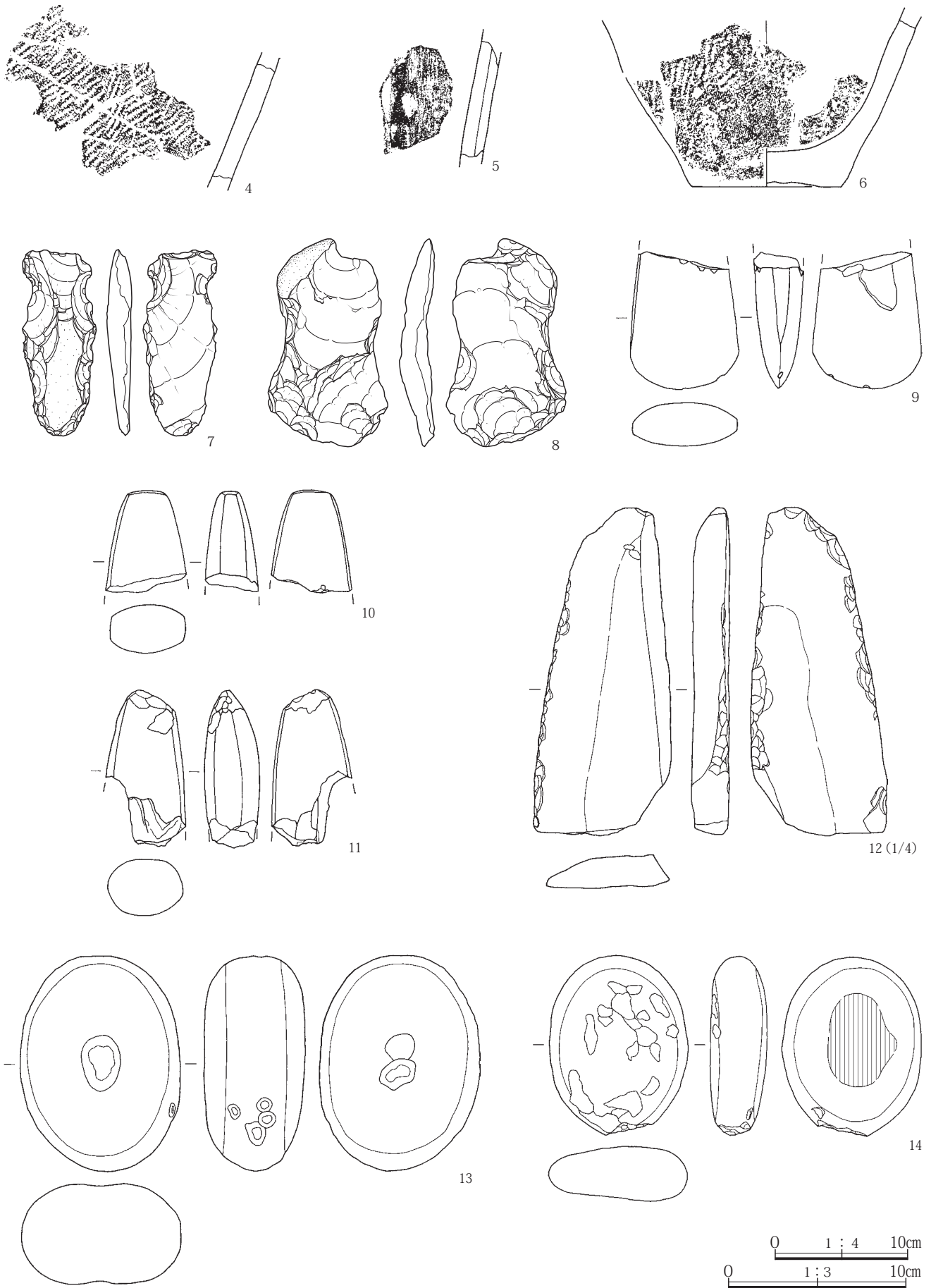


8号住居ピット1～9

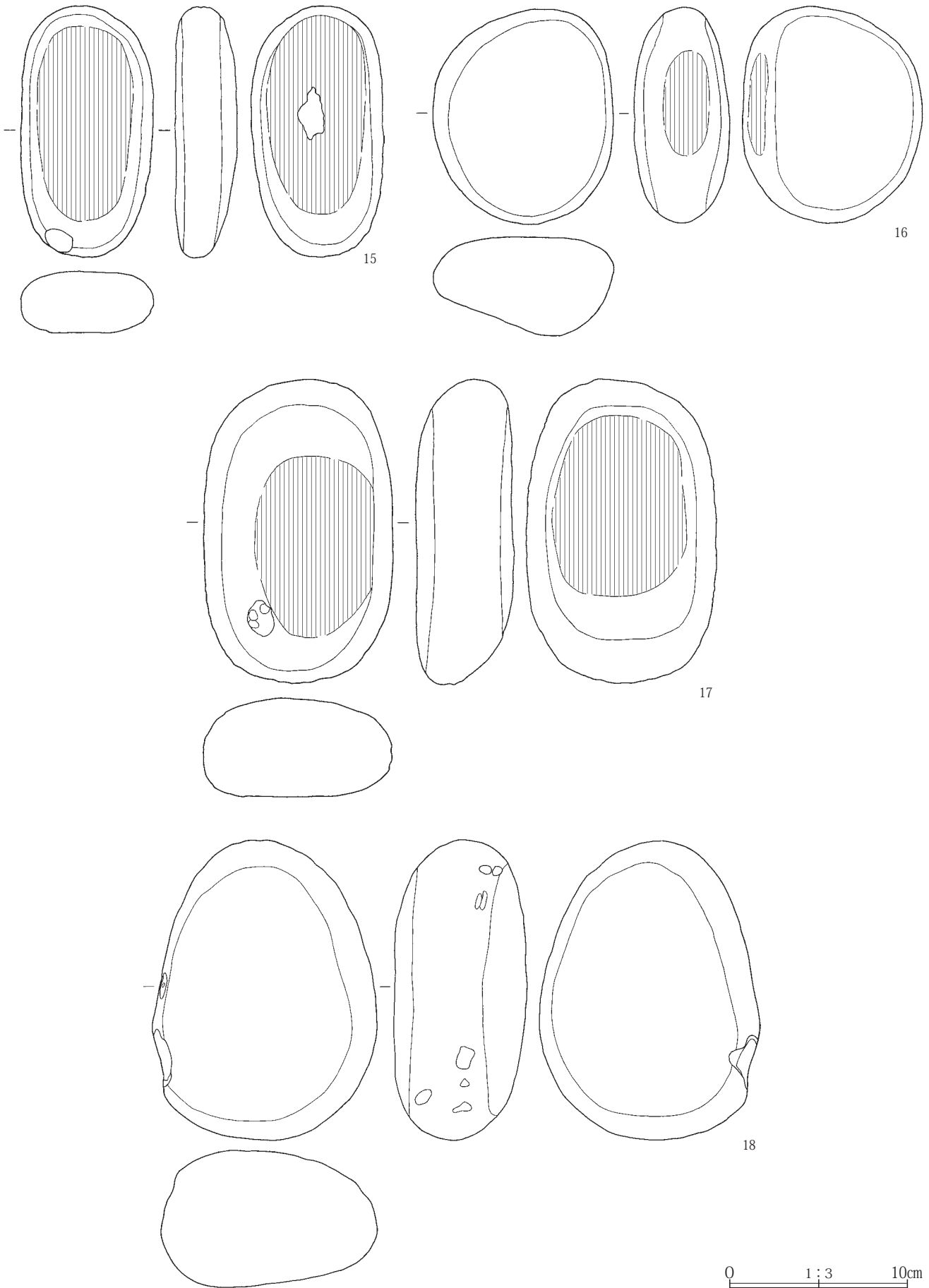
- 1. 黒褐色土 黄褐色粒多く含み、やや軟質。
- 2. 黒褐色土 黄褐色粒含み、やや細粒で締りあり。
- 3. 暗褐色土 黄褐色粒含み、やや粘性あり。



第41図 8号住居(2)・出土遺物(1)



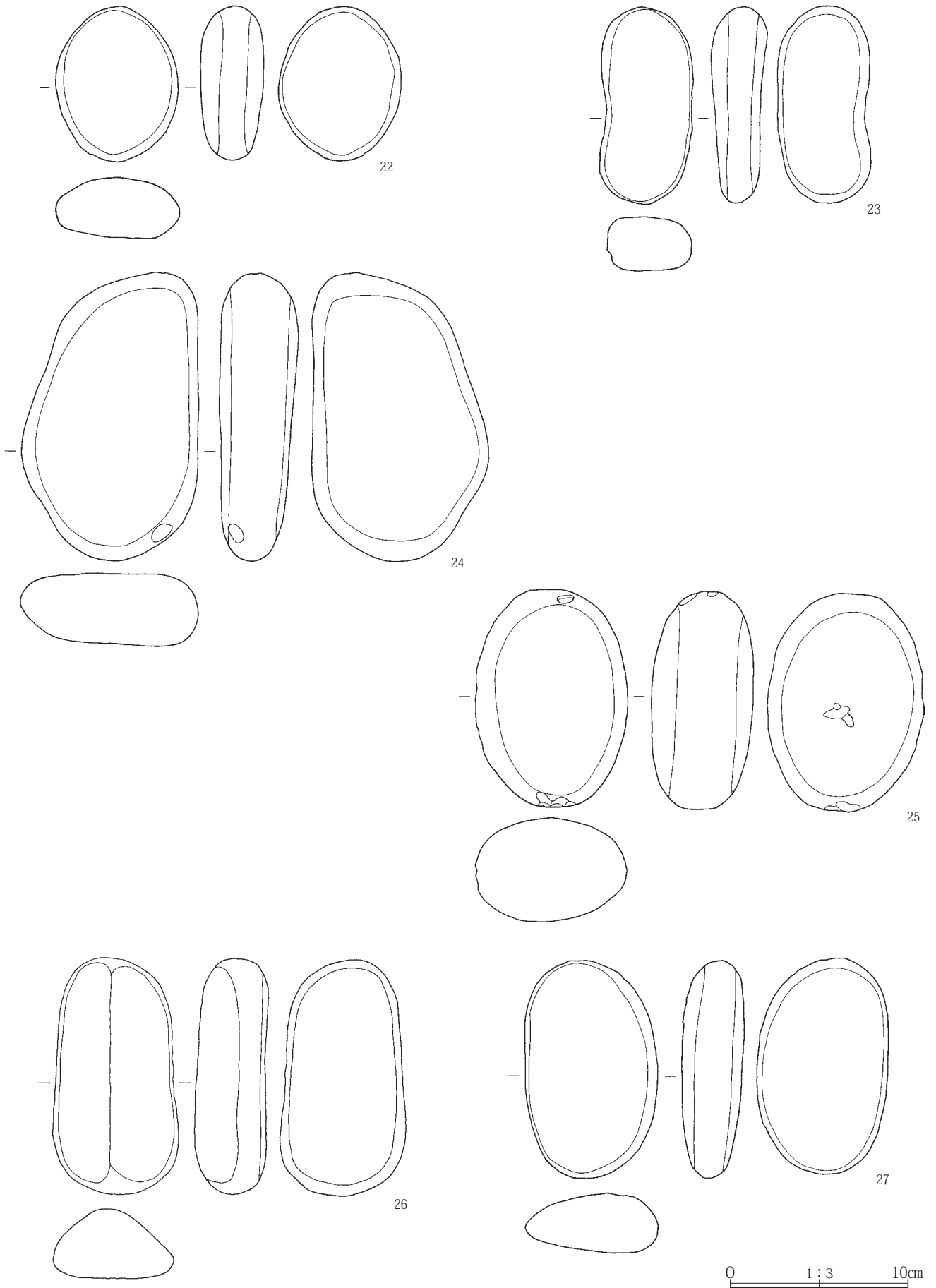
第42図 8号住居出土遺物(2)



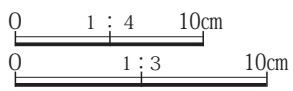
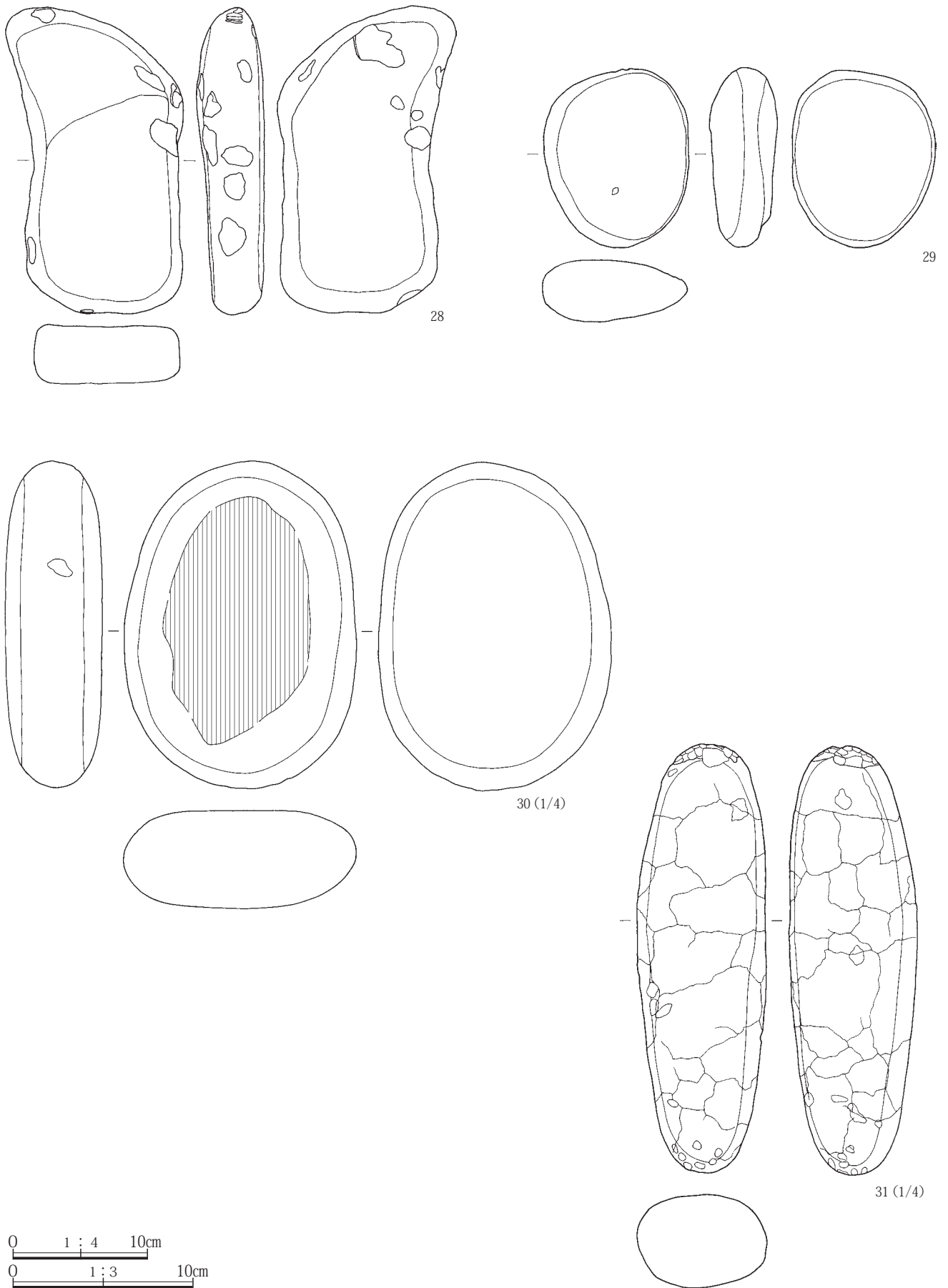
第43図 8号住居出土遺物(3)



第44図 8号住居出土遺物(4)



第45図 8号住居出土遺物(5)



第46図 8号住居出土遺物(6)

2. 焼土

検出された住居や土坑等に伴わない、単独の焼土遺構を取り上げた。

縄文・弥生時代、平安・中世・江戸期のものに別け記述する。

また、番号が重複したものや、遺構とは判断できなかったものは欠番とした。

2号焼土(第47図、PL. 8)

位置 75区I-17グリッドに位置する。礫の多い場所で検出された。

形状・規模 礫を除去した中に70×50cmの楕円形に焼土が確認された。

所見 周囲からは数片の縄文土器片が出土している。

4号焼土(第47図PL. 8)

位置 63区P-16グリッドに位置する。

形状・規模 楕円形に広がる焼土混入土。

所見 やや汚れた感じの焼土および炭化物が混ざる。発色は悪く、掘方は浅い土坑状を呈す。

5号焼土(第47図、PL. 8)

位置 75区F・G-13グリッドに位置する。

形状・規模 点在する礫を伴った焼土がほぼ円形に60×50cmの範囲に広がる。発色が良く厚さは約5cmである。

所見 後に確認された、6号住居の張り出し接合部の脇に位置する。住居に関連するかは不明である。

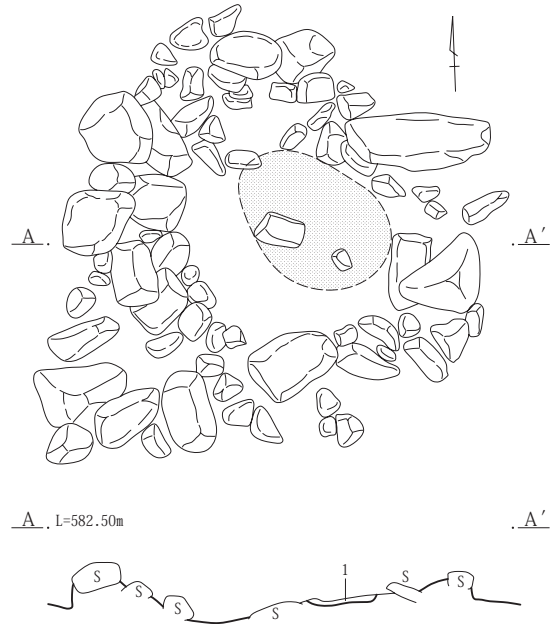
6号焼土(第48図、PL. 8)

位置 74区R-14グリッドに位置する。

形状・規模 不定形。長さ80cm、幅50cm。

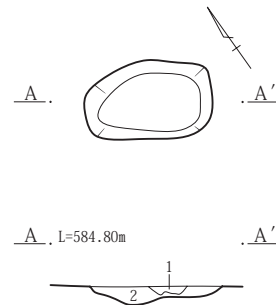
所見 黒色土中に焼土ブロック、炭化物が不定形に広がり、若干の土器片が出土。

2号焼土

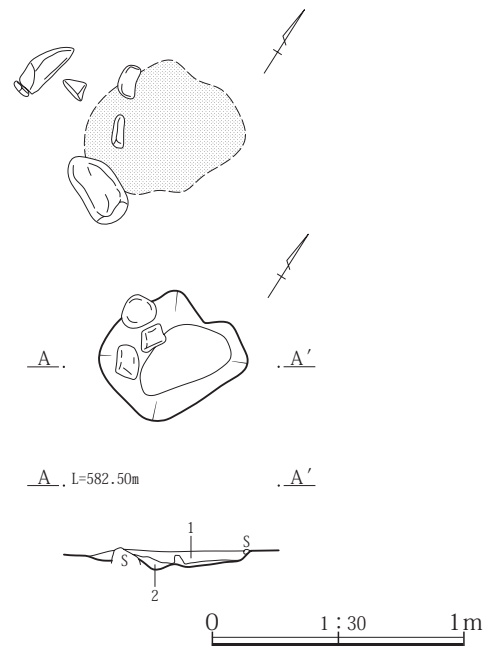


2号焼土
1. 暗褐色土 黄褐色焼土。

4号焼土



5号焼土



4号焼土

- 1. 暗褐色土 黄褐色焼土。
- 2. 黒褐色土 白色軽石、明赤褐色土、炭化物粒を全体に多く含む。

5号焼土

- 1. 橙褐色土 橙褐色焼土塊を主とする。
- 2. 黒色土 少量の焼土粒を含む、軟質の黒色土。

第47図 2・4・5号焼土

9号焼土(第48図、PL.8)

位置 74区U-5・6グリッドに位置する。

形状・規模 径約60cmでほぼ円形を呈す。

所見 輪郭は不明瞭、焼土ブロックが混在した状況を示す。掘方を持ち浅い土坑状となる。若干の縄文土器片を伴う。

10号焼土(第48図、PL.8)

位置 74区U-5・6グリッドに位置する。

形状・規模 60×50cmの長円形を呈す。

所見 9号焼土の西に近接する。9号と同様に輪郭が不明瞭、焼土もブロック状のものが黒褐色土に混在する状況を呈す。下部に、土坑状の掘方を持つ。

3. 土坑

天明泥流畑の調査終了後に下層面の確認を行い、遺構確認を行った結果、尾坂遺跡の載る台地の縁辺部分においてその分布が確認された。特に南西部分では、吾妻川寄りから河岸段丘状となる74・75区南半部での検出が多い。

縄文時代とした土坑は総数292基である。

当該期と判断した基準については、基本的には出土遺物で、覆土の状況や切り合い等も判断材料とした。検出数も多く紙数も限られているため、ここでは、主な土坑について記述を行うに留め、個々の土坑のデータについては、遺構計測表を参照いただきたい。

当然の事ながら、土坑も住居など、縄文時代の遺構が多く検出された場所に多くが集中している。

特に74区の南側と75区の東寄りで、吾妻川に沿って分布が見られる。遺物を多く出土しているものも見られるが、全く無いものも相当数あり、一部には自然による落ち込み等も含まれている可能性もある。

27号土坑(第50・68図、PL.12・81)

位置 75区D-15グリッドに位置する。

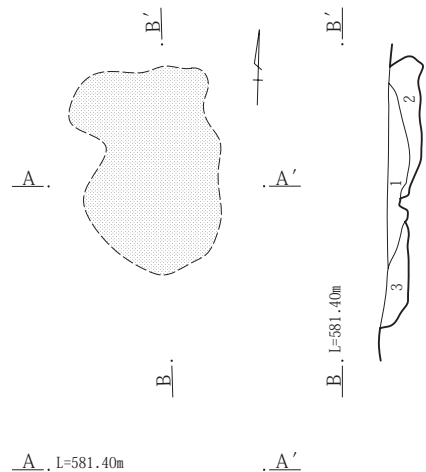
形状・規模 円形、長軸0.5m、短軸0.48m、深さ0.09m。

長軸方向 —

出土遺物 口縁部片1点。

所見 小型で掘り込みは浅い、下部に地山の礫が露出している。

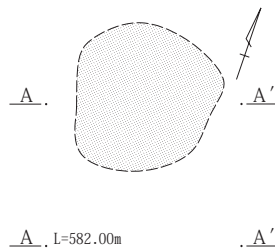
6号焼土



6号焼土

- 1. 暗褐色土 焼土ブロック。
- 2. 暗褐色土 少量の炭化物混入。
- 3. 暗褐色土 ローム小粒、白色粒含む。

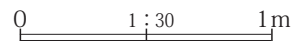
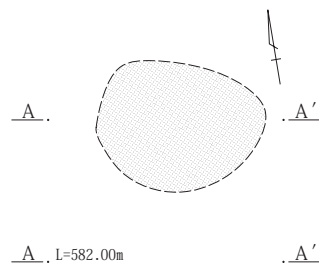
9号焼土



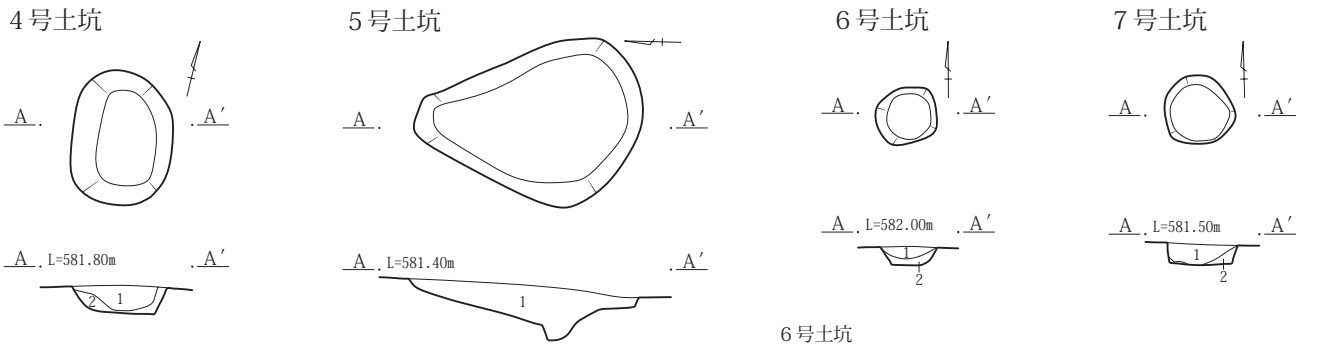
9号焼土

- 1. 暗橙褐色土 汚れた焼土塊を疎らに混入。
- 10号焼土
- 1. 暗橙褐色土 汚れた焼土塊、白色粒子含む。

10号焼土

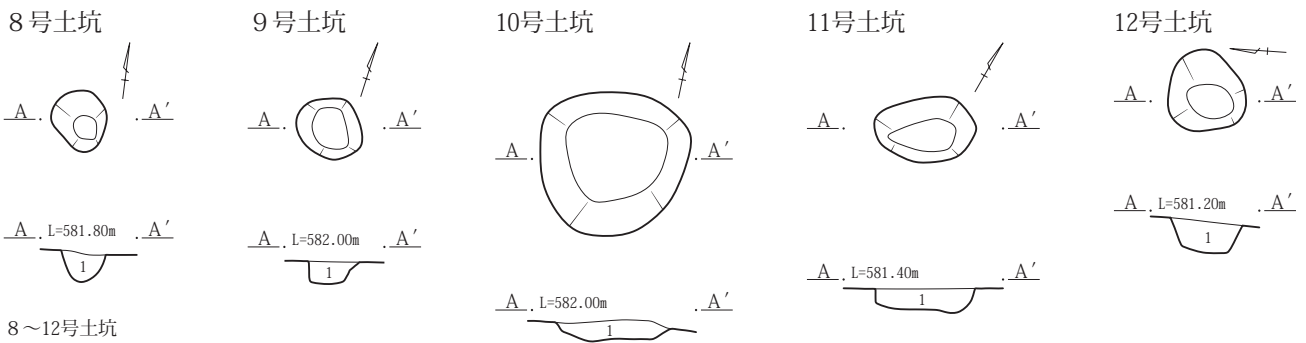


第48図 6・9・10号焼土

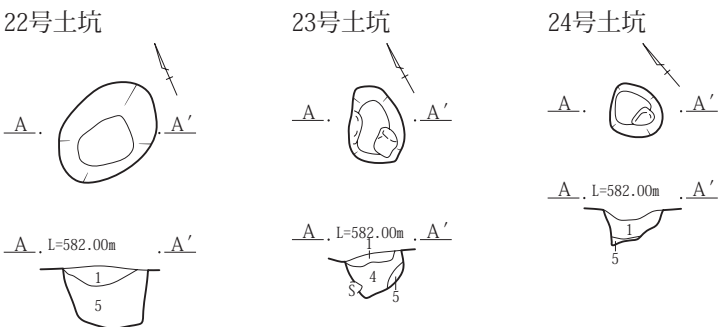
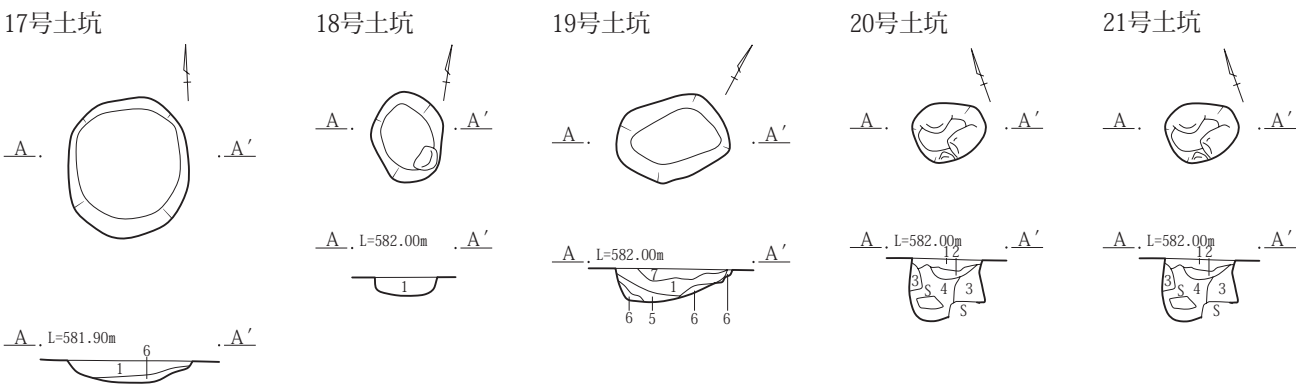


- 4号土坑
 1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒全体的に含み、粘性あり。
 2. 黄褐色土 浅黄橙色塊を含む。
- 5号土坑
 1. 黒色土 白色黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体的に含み、粘性あり。

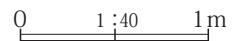
- 6号土坑
 1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体的に含み、粘性あり。
 2. 黒色土 1より黄褐色土小塊、白色軽石を多く含む。
- 7号土坑
 1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体的に含み、粘性あり。
 2. 黄褐色土 浅黄橙色塊を含む。



- 8~12号土坑
 1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒全体的に含む。



- 17~24号土坑
 1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体に含み、粘性あり。
 2. 黒色土 1と近似するが、やや粘性弱い。
 3. 黒色土 2より黄褐色土塊(小)白色軽石を多く含む。
 4. 黒色土 1より混入物少量。粘質土締る。
 5. 暗褐色土 細粒白色軽石を全体に含む。浅黄橙色塊を少量含む。
 6. 黄褐色土 浅黄橙色塊を含む。
 7. 褐灰色土 粘質土。細粒白色軽石。他の土坑より新。



第49図 土坑(1) 4~12・17~24号土坑

41号土坑(第68図、PL.12・81)

位置 75区D-15グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸0.67m、短軸0.45m、深さ0.12m。

長軸方向 N-89°-E

出土遺物 口縁部片1点。

所見 掘り込みは浅い、底部に大形の地山礫が見られる。

44号土坑(第51・68図、PL.12・81)

位置 75区B・C-12・13グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸0.75m、短軸0.7m、深さ0.22m。

長軸方向 —

出土遺物 複数の土器片が壁に沿うように出土、やや大きめの土器片も含まれる。

所見 掘り込みは浅く、東側はトレンチに掛かっており、立ち上がりが不明瞭。

78号土坑(第52図、PL.14)

位置 75区F-20グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸0.45m、短軸0.41m、深さ0.26m。

長軸方向 —

出土遺物 礫がまとまって出土、周囲に囲うように4個の礫が見られる。

所見 一見炉の様にも見えるが、焼土等は検出されていない。礫が集められた状況で下部に掘り込みを有す。他の土坑集中部より離れて位置、想定する弧状列石の北側にあたる。土器などは出土していない。

183号土坑(第55・68図、PL.20・81)

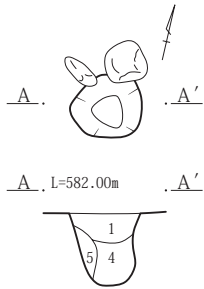
位置 74区R-2グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸1.34m、短軸1.02m、深さ0.32m。

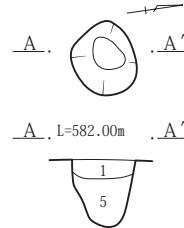
長軸方向 N-45°W

所見 掘り込みは浅く、中央に段を有す。

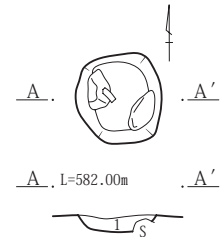
25号土坑



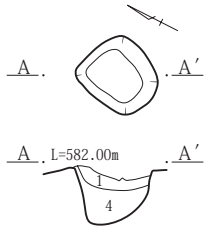
26号土坑



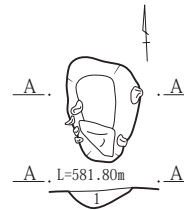
27号土坑



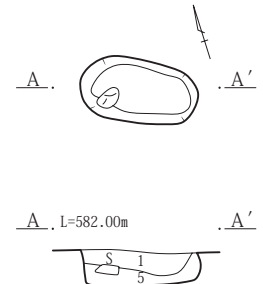
29号土坑



30号土坑

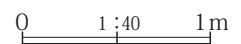


31号土坑



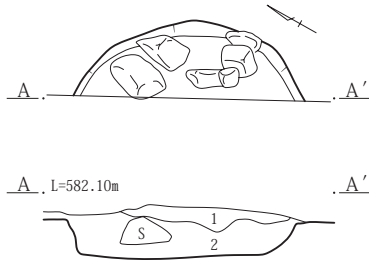
17~27・29~31号土坑

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄橙色塊、明赤褐色粒を全体に含み、粘性あり。
2. 黒色土 1と近似するが、やや粘性弱い。
3. 黒色土 2より黄褐色土塊(小)白色軽石を多く含む。
4. 黒色土 1より混入物少量。粘質土締る。
5. 暗褐色土 細粒白色軽石を全体に含む。浅黄橙色塊を少量含む。
6. 黄褐色土 浅黄橙色塊を含む。
7. 褐灰色土 粘質土。細粒白色軽石。他の土坑より新。



第50図 土坑(2) 25~27・29~31号土坑

40号土坑



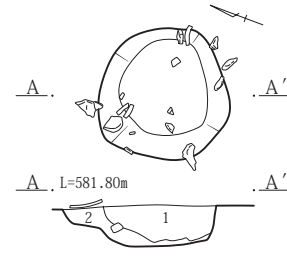
40号土坑

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体的に含む。
2. 黒色土 1より混入物少量。粘質で締る。

44号土坑

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒全体的に含む。粘性あり。
2. 黒色土 1より黄褐色土塊(小)白色軽石を多く含む。

44号土坑



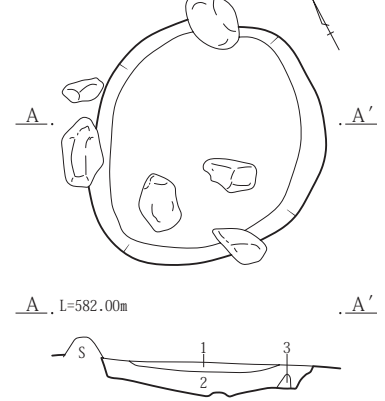
44号土坑

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体的に含む。粘性あり。
2. 黄褐色土 浅黄橙色塊を含む。
3. 黒色土 1より黄褐色土塊(小)白色軽石を多く含む。

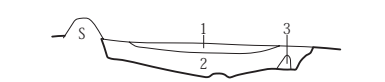
53号土坑

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体的に含む。粘性あり。
2. 黄褐色土 浅黄橙色塊を含む。
3. 黒色土 1より黄褐色土塊(小)白色軽石を多く含む。

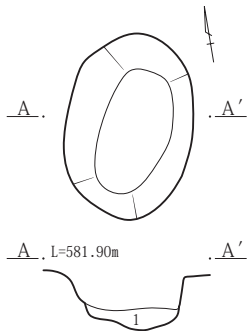
53号土坑



53号土坑



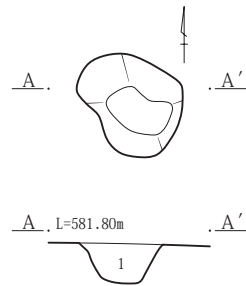
55号土坑



55号土坑

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体的に含む。

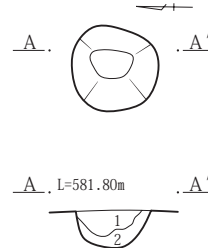
56号土坑



56号土坑

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体的に含む。

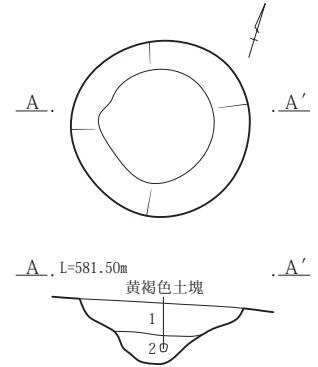
57号土坑



57号土坑

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体的に含む。粘性あり。
2. 暗褐色土 細粒白色軽石を全体的に含む。浅黄橙色塊を少量含む。

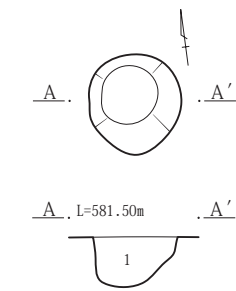
65号土坑



65号土坑

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体的に含む。粘性あり。
2. 暗褐色土 細粒白色軽石を全体的に含む。浅黄橙色塊を少量含む。

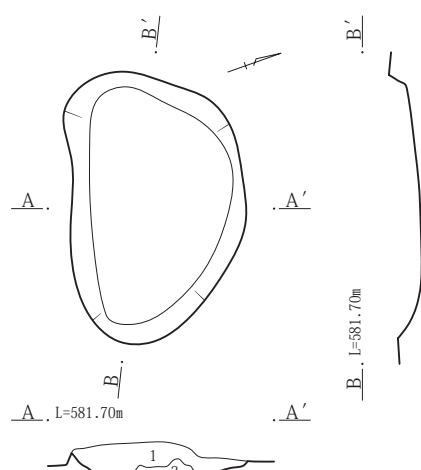
66号土坑



66号土坑

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体的に含む。粘性あり。

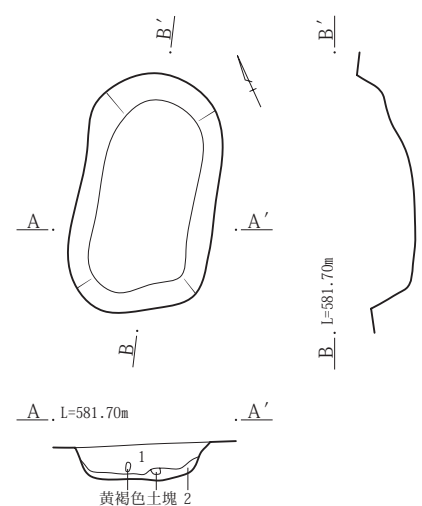
69号土坑



69号土坑

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体的に含む。粘性あり。
2. 黄褐色土 浅黄橙色塊を含む。

70号土坑



70号土坑

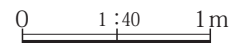
1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体的に含む。粘性あり。
2. 暗褐色土 細粒白色軽石を全体的に含む。浅黄橙色塊を少量含む。

69号土坑

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体的に含む。粘性あり。
2. 黄褐色土 浅黄橙色塊を含む。

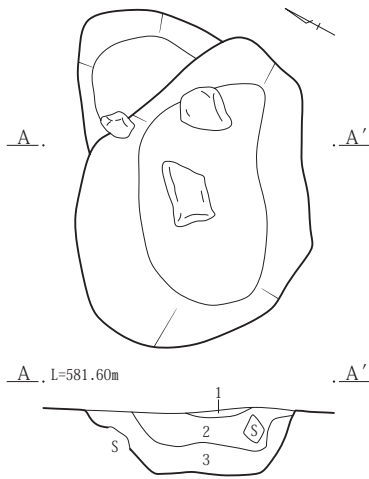
70号土坑

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体的に含む。粘性あり。
2. 暗褐色土 細粒白色軽石を全体的に含む。浅黄橙色塊を少量含む。

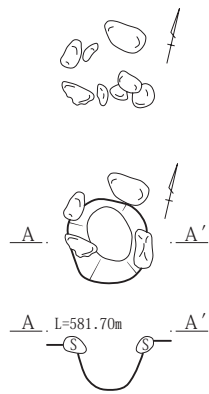


第51図 土坑(3) 40・44・53・55~57・65・66・69・70号土坑

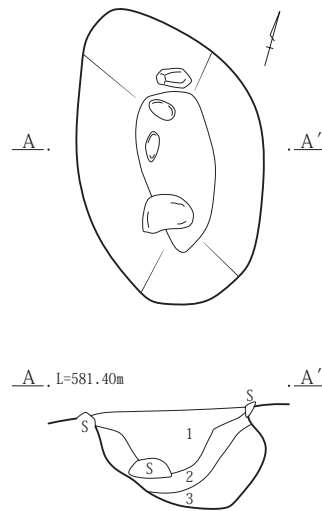
77号土坑



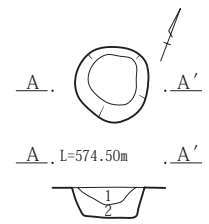
78号土坑



79号土坑



87号土坑



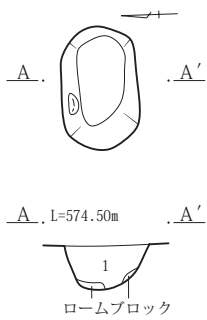
77号土坑

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体的に含む。粘性あり。
2. 黄褐色土 浅黄橙色塊を含む。
3. 地山の可能性あり。

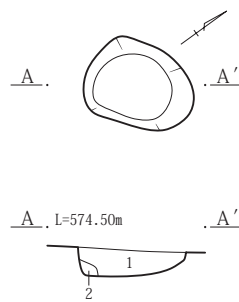
79号土坑

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体的に含む。粘性あり。
2. 暗褐色土 細粒白色軽石を全体に、浅黄橙色塊を少量含む。
3. 黄褐色土 浅黄橙色塊を含む。

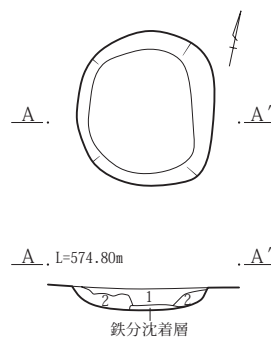
88号土坑



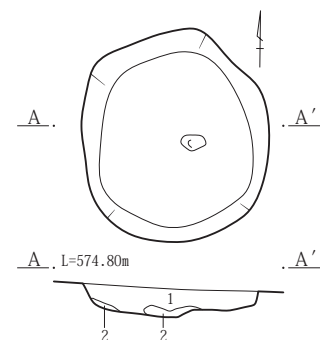
89号土坑



91号土坑



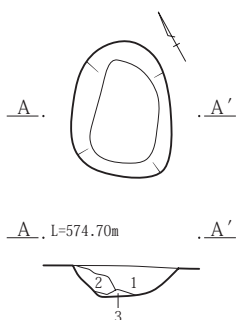
92号土坑



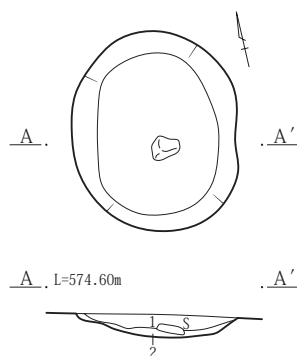
87～89・91・92号土坑

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体的に含み、粘性あり。
2. 黒色土 1と近似するが、やや粘性弱い。
3. 黒色土 2より黄褐色小土塊、白色軽石を多く含む。

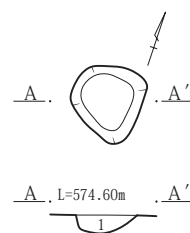
93号土坑



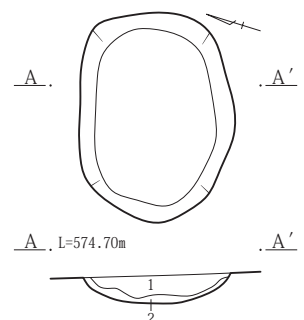
95号土坑



98号土坑

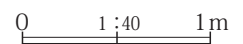


100号土坑



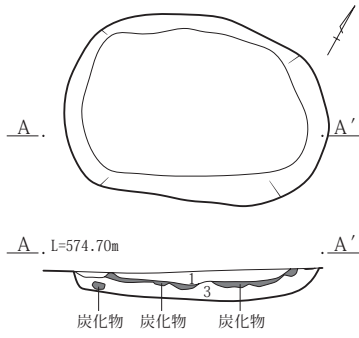
93・95・98・100号土坑

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体的に含み、粘性あり。
2. 黒色土 1と近似するが、やや粘性弱い。
3. 黒色土 2より黄褐色小土塊、白色軽石を多く含む。

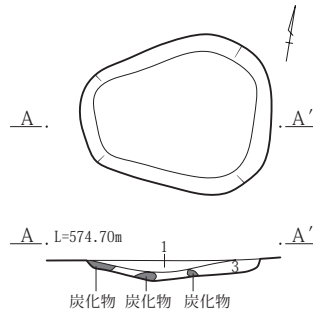


第52図 土坑(4) 77～79・87～89・91～93・95・98・100号土坑

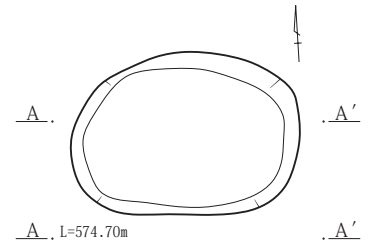
102号土坑



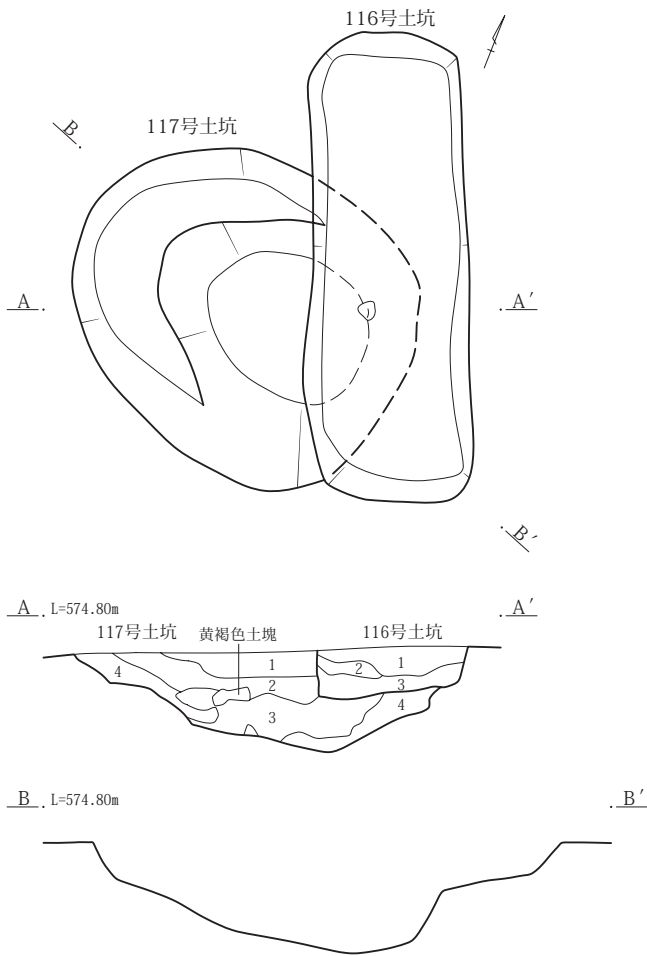
104号土坑



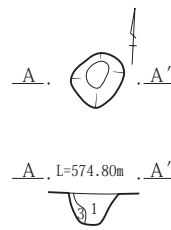
105号土坑



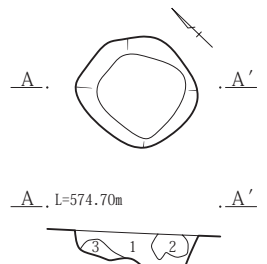
116・117号土坑



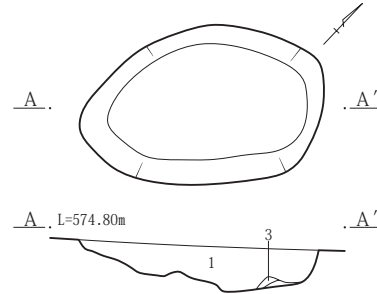
119号土坑



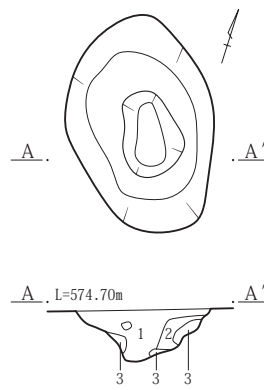
125号土坑



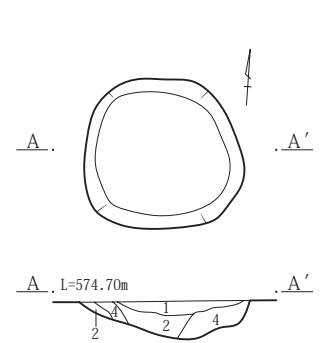
126号土坑



127号土坑



128号土坑



116号土坑

1. 黒色土 白色粒、黄褐色粒含む。
2. 黒色土 1より黄褐色小土塊、白色軽石を多量に含む。
3. 黒褐色土 白色軽石、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒含む、粘性あり。

117号土坑

1. 黒色土 白色軽石、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体的に含む。
2. 黒色土 1より混入物少量。粘質で締る。
3. 暗褐色土 細粒白色軽石を全体的に含む、浅黄褐色塊を少量含む。
4. 黄褐色土 浅黄褐色塊含む。

102・104・105・119・125～128号土坑

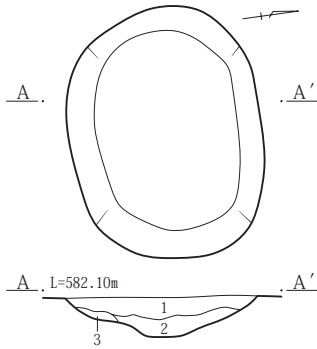
1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体的に含む、粘性あり。
2. 黒色土 1と近似するが、やや粘性弱い。
3. 黒色土 2より黄褐色小土塊、白色軽石を多く含む。
4. 黒色土 1より混入物少量。粘質で締る。

0 1:40 1m

第53図 土坑(5) 102・104・105・116・117・119・125～128号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

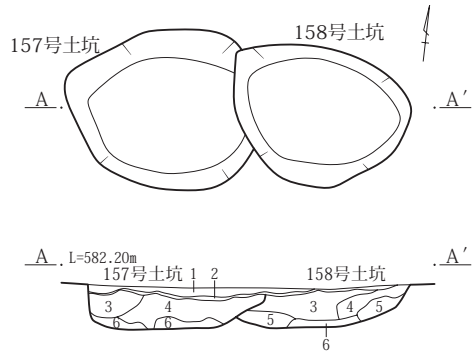
141号土坑



141号土坑

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体的に含み、粘性あり。
2. 黒褐色土 黄褐色小土塊、白色軽石多量に含む。
3. 暗黒褐色土 1より混入物少量。粘質土。

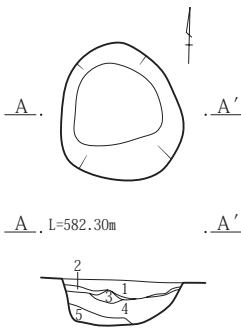
157・158号土坑



157・158号土坑

1. 黒褐色土 細粒白色軽石を含む。締りあり。
2. 暗茶褐色土 鉄分凝集層。
3. 黒褐色土 白色粒多く含む。
4. 黒褐色土 白色粒、褐色粒多く含む。
5. 黄褐色土 地山黄褐色土と黒色土の混土。
6. 黄褐色土 地山土。

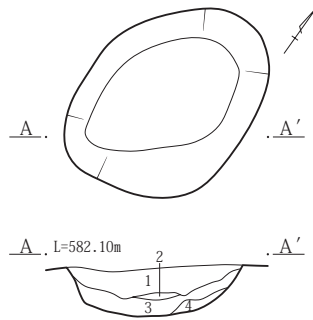
159号土坑



159号土坑

1. 黒褐色土 細粒白色軽石を含む。締りあり。
2. 暗茶褐色土 鉄分凝集層。
3. 黒褐色土 白色粒多く含む。
4. 黒褐色土 白色粒、褐色粒多く含む。
5. 黄褐色土 地山黄褐色土と黒色土の混土。

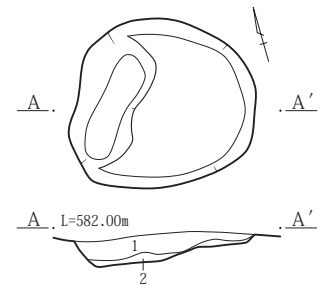
160号土坑



160号土坑

1. 黒褐色土 細粒白色軽石を含む。締りあり。
2. 暗茶褐色土 鉄分凝集層。
3. 黒褐色土 白色粒多く含む。
4. 黒褐色土 白色粒、褐色粒多く含む。

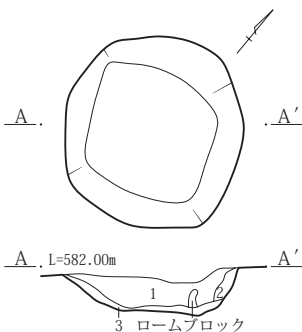
162号土坑



162号土坑

1. 黒褐色土 細粒白色軽石を含む。締りあり。
2. 黒褐色土 白色粒、褐色粒多く含む。

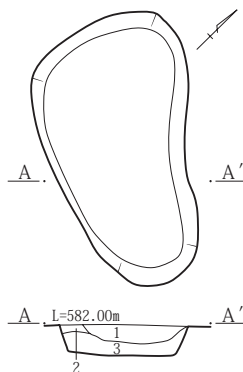
163号土坑



163号土坑

1. 暗褐色土 細粒白色軽石、黄橙色土粒含み、締りあり。
2. 褐色土 黄橙色土粒、ローム塊を含む。締りあり。
3. 黒褐色土 黄橙色土粒を僅かに含む。やや粘質。

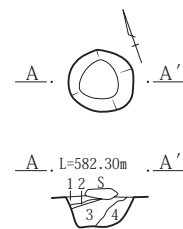
167号土坑



167号土坑

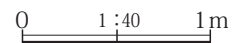
1. 黒褐色土 細粒白色軽石を含む。締りあり。
2. 暗褐色土 1よりも黒味あり。
3. 黒褐色土 白色粒多く含みややや明るい色調。

173号土坑



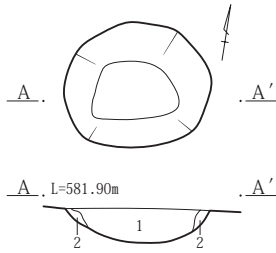
173号土坑

1. 黒褐色土 少量の白色粒含む。
2. 暗褐色土 やや鉄分を含む。
3. 暗褐色土 白色粒、褐色粒多く含む。
4. 暗黄褐色土 3と似るが混入物少ない。



第54図 土坑(6) 141・157~160・162・163・167・173号土坑

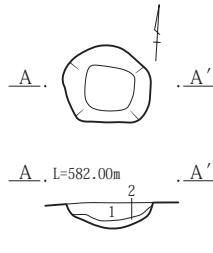
175号土坑



175号土坑

1. 黒褐色土 細粒白色軽石、黄褐色粒を含み締りあり。
2. 黒褐色土 白色粒多く含みやや明るい色調。

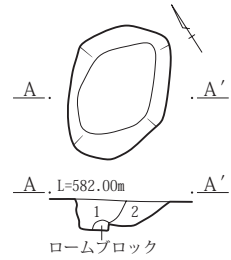
176号土坑



176号土坑

1. 黒褐色土 細粒白色軽石、黄褐色細粒を含み締りあり。
2. 黒褐色土 白色粒多く含みやや明るい色調。

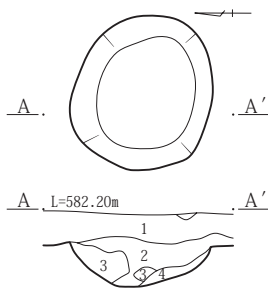
178号土坑



178号土坑

1. 暗黒褐色土 白色粒、褐色粒混入。
2. 黒褐色土 細粒黄褐色粒を含み締りあり。

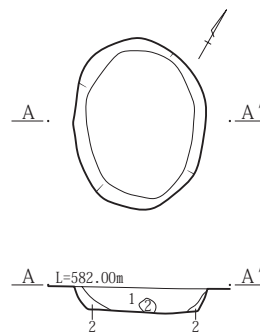
179号土坑



179号土坑

1. 黒色土 畑耕作土下層には鉄分凝集層。
2. 黒色土 黄色粒、黄褐色小塊部分的に含む。
3. 黒褐色土 2と似るが黄褐色塊多く含む。
4. 黄褐色土 地山黄褐色土粒多く含む。

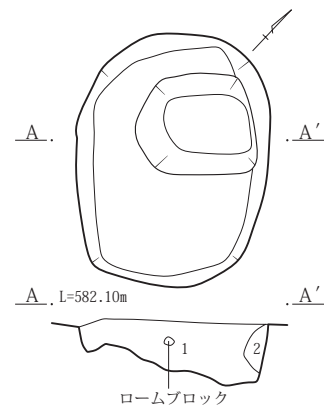
182号土坑



182号土坑

1. 暗褐色土 白色粒、黄褐色粒を含み締りあり。
2. 黄褐色土 地山黄褐色土主体土。

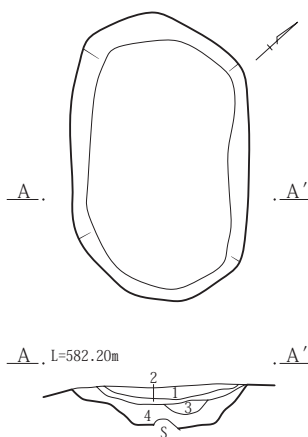
183号土坑



183号土坑

1. 黒褐色土 褐色粒多く含む。
2. 黄褐色土 地山褐色土主体土。

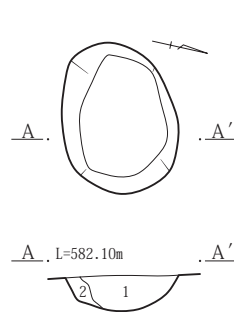
188号土坑



188号土坑

1. 暗黒褐色土 褐色粒、白色粒多く含む。
2. 茶褐色土 鉄分凝集層。
3. 暗黒褐色土 1と似るがやや白色粒子目立つ。
4. 黄褐色土 地山黄褐色土を多く含み締りあり。

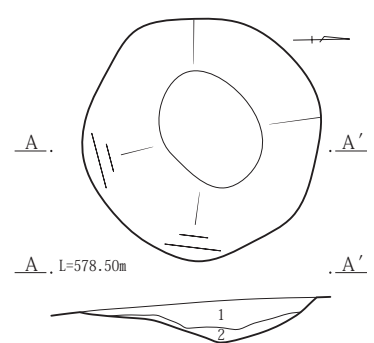
195号土坑



195号土坑

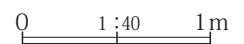
1. 黒褐色土 褐色粒多く含む。
2. 黄褐色土 地山褐色土主体土。

210号土坑



210号土坑

1. 黒色土 黒味強く白色粒混入。
2. 暗黒褐色土 地山土をブロック状に含み、白色粒の混入少ない。



第55図 土坑(7) 175・176・178・179・182・183・188・195・210号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

223号土坑(第56・68図、PL.22・81)

位置 72区P-21グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸0.6m、短軸0.51m、深さ0.32m。

長軸方向 ー

出土遺物 中位より土器片出土、221号土坑覆土出土と接合。

所見 前期中葉の土器片が出土、隣接する221号土坑より出土の破片と接合。尾坂遺跡で遺構に伴って出土した土器としては最も古いものである。

245号土坑(第57・68図、PL.23・81)

位置 72区R-25グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸0.79m、短軸0.52m、深さ0.14m。

長軸方向 N-78° - E

出土遺物 土器片出土。

所見 土坑の規模は小さく、掘り込みも比較的浅い、口縁部含む土器片出土。時期は後期中葉。

265号土坑(第58図、PL.24)

位置 72区Q・R-23・24グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸0.92m、短軸0.88m、深さ0.12m。

長軸方向 ー

出土遺物 土器、石器は見られない。

所見 浅く掘り窪めた土坑内に、偏平でやや大形の石が円形に敷き詰められた状況で出土している。特に焼けた様子は見られず、石器等も出土していない。明確な性格は不明である。

294号土坑(第60・68図、PL.26・81)

位置 75区D・E-2・3グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸2.56m、短軸0.83m、深さ0.41m。

長軸方向 N-87° - W

出土遺物 礫と土器片出土。

所見 長円形で中央部分に礫がまとまって出土、時期は縄文としたが、やや新しくなる可能性も否定できない。

299号土坑(第60・68図、PL.26・81)

位置 64区Y-25グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸1.01m、短軸0.77m、深さ0.19m。

長軸方向 N-86° - W

出土遺物 土器片1点出土。

所見 不定形で掘り込みも浅い。

306号土坑(第60図、PL.27)

位置 75区D・E-12グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸1.06m、短軸0.89m、深さ0.14m。

長軸方向 N-66° - W

出土遺物 土器、石器は出土していない。

所見 大型の礫がまとまって出土、人為的に置かれたものと見られるが、性格は不明。土坑としたが、掘り込みは浅い。

309号土坑(第60図、PL.27)

位置 75区F・G-14グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸1.08m、短軸0.96m、深さ0.1m。

長軸方向 ー

出土遺物 土器、石器は見られない。

所見 大型の礫がまとまって出土。306号土坑と似る。配石の可能性もある。

310号土坑(第61・68図、PL.27・81)

位置 75区H-16・17グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸1.7m、短軸1.2m、深さ0.56m。

長軸方向 N-0°

出土遺物 土器片1点出土。

所見 不定形な長方形で、掘り込みはしっかりとしており深さもある。

311号土坑(第61・68図、PL.27・81)

位置 75区D-7グリッドに位置する。

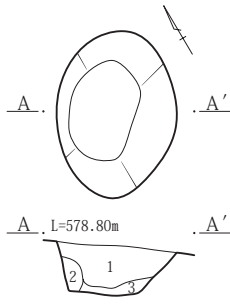
形状・規模 円形、長軸0.61m、短軸0.57m、深さ0.38m。

長軸方向 ー

出土遺物 僅かに土器片出土。

所見 ほぼ円形で、覆土中に河原石を含む。

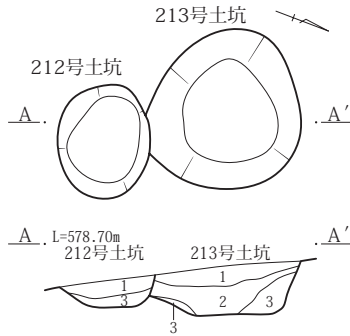
211号土坑



211号土坑

1. 黒褐色土 白色粒多く混入、灰褐色土小ブロック、少量の炭化物含む。
2. 暗褐色土 ロームブロック混入。
3. 暗褐色土 2と似るがブロック少ない。

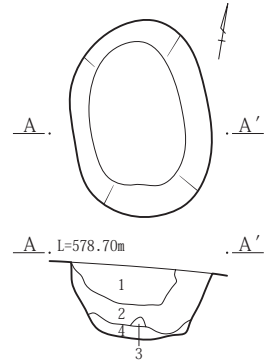
212・213号土坑



212・213号土坑

1. 黒色土 若干の白色粒含む。
2. 黄褐色土 黄色粒多く含む。
3. 暗黄色土 地山土の小ブロック混入。

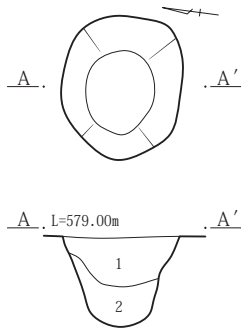
214号土坑



214号土坑

1. 黒色土 若干の白色、黄色粒含む。やや軟質。
2. 黒褐色土 1に似るが混入物少ない。
3. 黒褐色土 灰色の小ブロック土(粕川テフラか)含む。
4. 暗褐色土 地山土の小礫含む。

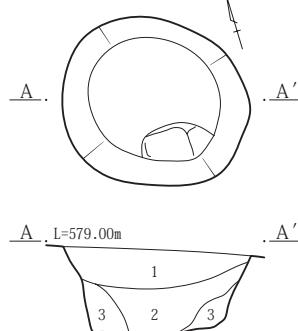
218号土坑



218号土坑

1. 黒褐色土 黄色粒、黄色土小塊含む。
2. 黒褐色土 1と似るが白色粒ほとんど含まず。

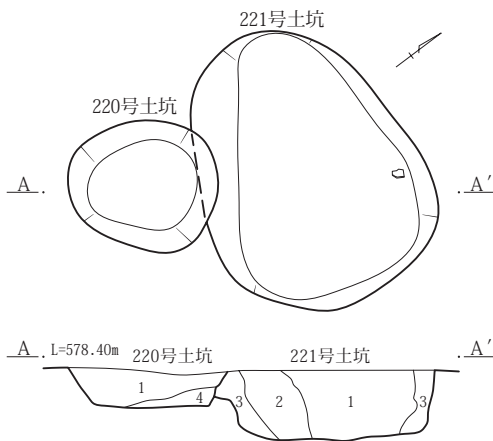
219号土坑



219号土坑

1. 暗褐色土 白色粒多く含む。
2. 黒褐色土 1と似るが白色粒ほとんど含まず。
3. 黒褐色土 地山小礫含む。

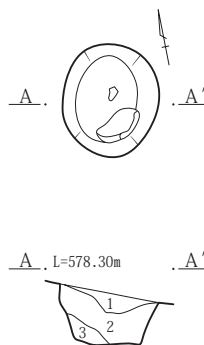
220・221号土坑



220・221号土坑

1. 暗黒褐色土 黄色粒、白色粒混入。
2. 暗褐色土 1にローム小塊含む。
3. 暗褐色土 2と近似するが黒味あり。
4. 暗褐色土 地山土多く含む。

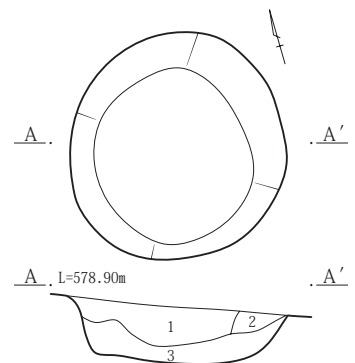
223号土坑



223号土坑

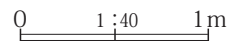
1. 暗褐色土 白色、黄色粒含む。
2. 暗褐色土 白色粒、黄褐色土小ブロック混入。
3. 黒褐色土 2と似るが黒味あり。

228号土坑



228号土坑

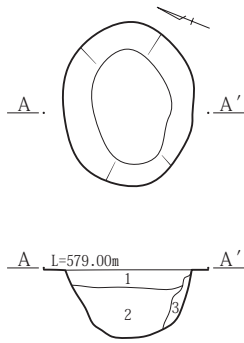
1. 黒褐色土 黄色粒、黄褐色土ブロック多く含み締めあり。
2. 黒褐色土 1と似るが黄色粒少ない。
3. 黒褐色土 黄色粒少なく粘性あり。



第56図 土坑(8) 211~214・218~221・223・228号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

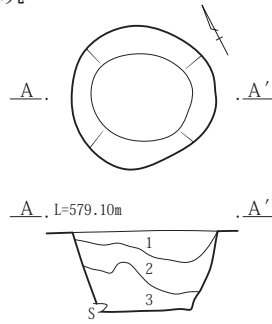
230号土坑



230号土坑

1. 黒色土 締め、粘性あり。
2. 黒褐色土 褐色粒、白色粒含み締めあり、上層に鉄分凝集層。
3. 黒褐色土 1と似るが細粒で締め強い。

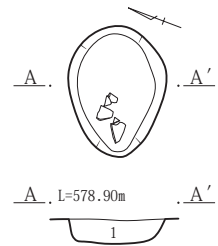
232号土坑



232号土坑

1. 黒褐色土 やや黒味有し、軽石混入少ない。
2. 黒褐色土 黄褐色粒、褐色粒多く含む。締めあり。
3. 暗黄褐色土 暗黄褐色土ブロック含む。良く締る。

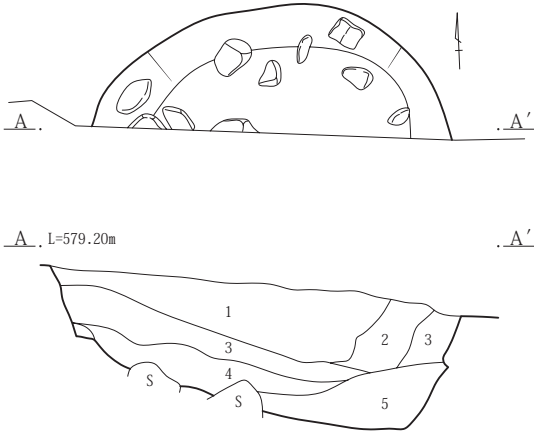
245号土坑



245号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒含みやや軟質。

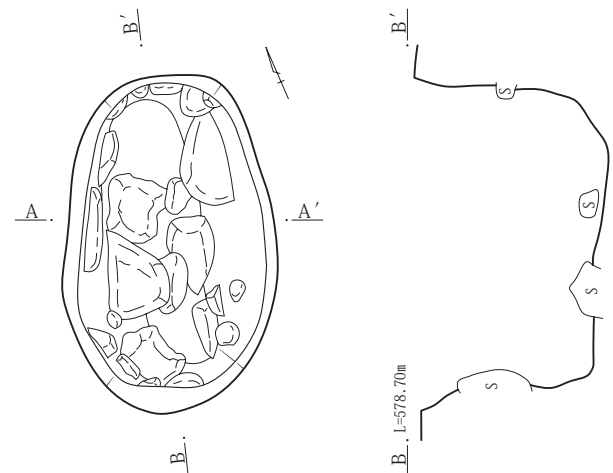
247号土坑



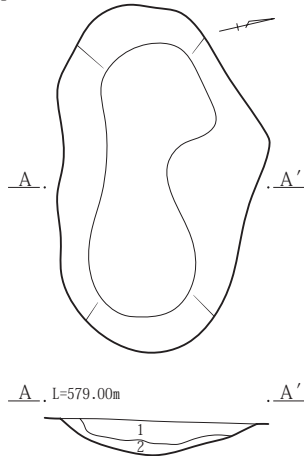
247号土坑

1. 黒褐色土 やや黒味有し、軽石混入少ない。
2. 黒褐色土 黄褐色粒、褐色粒多く含む。締めあり。
3. 暗黄褐色土 暗黄褐色土ブロック含む。良く締る。
4. 黒褐色土 黄褐色土ブロックの混入少ない。
5. 暗褐色土 4と似るが、ロームの混入多い。

252号土坑

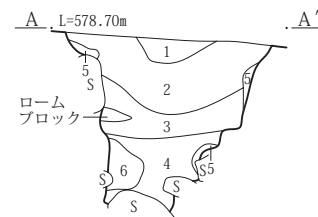


250号土坑



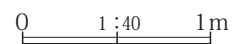
250号土坑

1. 暗黄褐色土 白色粒、褐色粒多く含む。
2. 黄褐色土 地山土多く含む。夾雑物少ない。



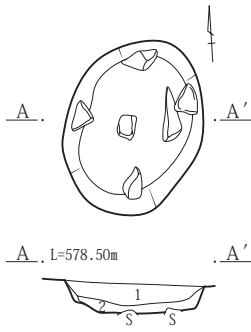
252号土坑

1. 暗黄褐色土 地山の黄褐色土主体。
2. 黒褐色土 黄褐色土粒含み締る。
3. 黒褐色土 2と似るが黄褐色土粒少ない。
4. 黒褐色土 地山黄褐色ブロック混入。
5. 暗褐色土 地山崩落土。
6. 黄褐色土 黄褐色土ブロック含む。



第57図 土坑(9) 230・232・245・247・250・252号土坑

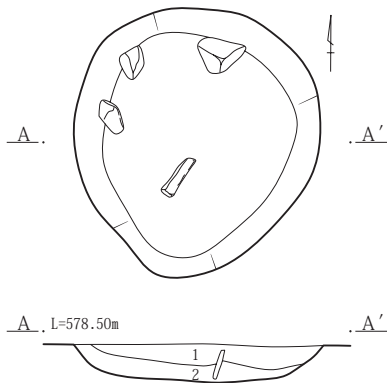
256号土坑



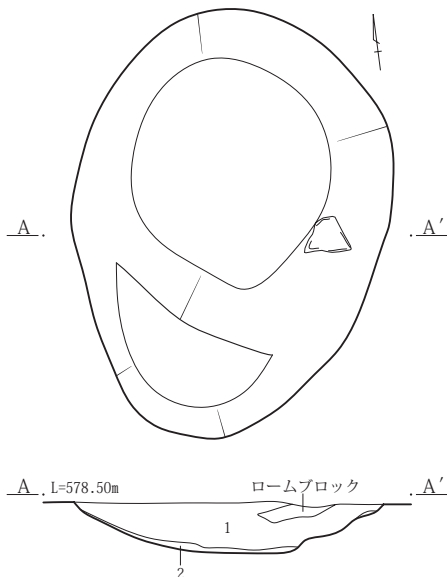
256号土坑

1. 暗褐色土 黄褐色土粒、小礫含む。
2. 暗褐色土 白色粒、地山土含む。

264号土坑



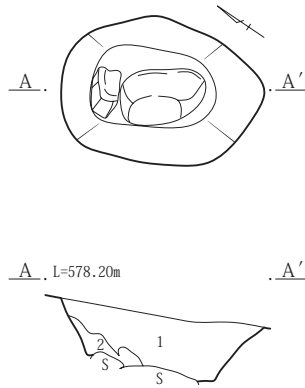
266号土坑



266号土坑

1. 黒褐色土 黄褐色粒、褐色粒多く含む。締りあり。
2. 黒褐色土 黄褐色土粒、ブロック混入し締りあり。

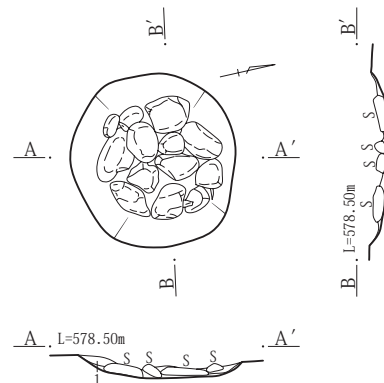
260号土坑



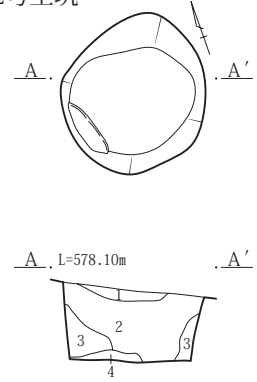
260号土坑

1. 暗褐色土 褐色土ブロック多く含む。
2. 暗褐色土 地山土多く含む。締りあり。

265号土坑



262号土坑



262号土坑

1. 黒褐色土 黄褐色粒、褐色粒多く含む、締りあり。
2. 黒褐色土 黄褐色土粒、ブロック混入し締りあり。
3. 黒褐色土 2と似るが黄褐色土粒少ない黒味あり。
4. 黒褐色土 地山黄褐色土ブロック混入。

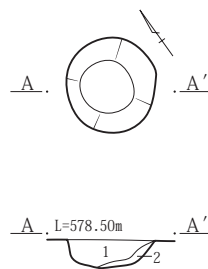
264号土坑

1. 暗褐色土 黄褐色土粒、小礫含む。
2. 暗褐色土 白色粒、地山土含む。

265号土坑

1. 黒褐色土 黄褐色粒、褐色粒多く含む、締り弱い。

267号土坑



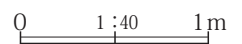
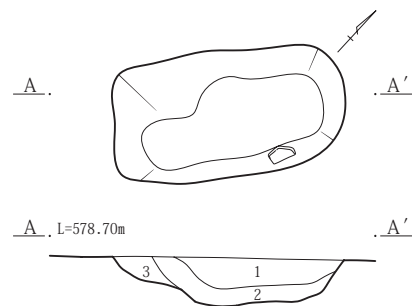
267号土坑

1. 暗褐色土 褐色土ブロック多く含む。
2. 暗褐色土 地山土多く含む。締りあり。

268号土坑

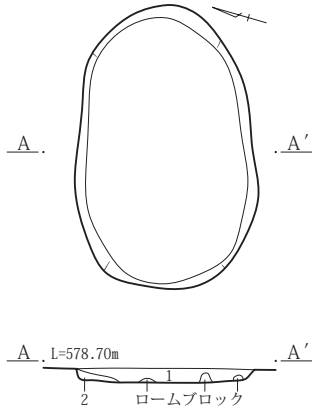
1. 黒褐色土 黄褐色粒、褐色粒多く含む。締りあり。
2. 黒褐色土 黄褐色土粒、ブロック混入し締りあり。
3. 黒褐色土 地山黄褐色土ブロック混入。

268号土坑



第3章 検出された遺構と遺物

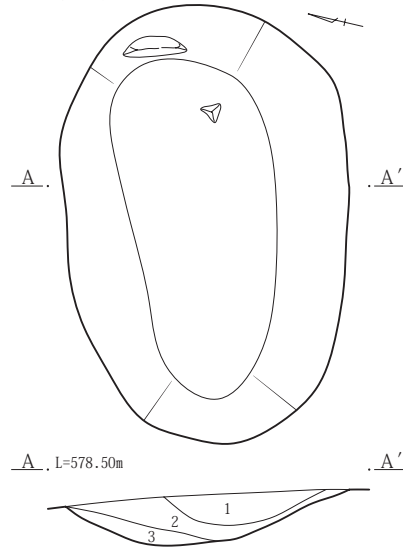
269号土坑



269号土坑

1. 黒褐色土 混入物少なくやや軟質。
2. 暗褐色土 1を基調とするが、やや黄色味あり。

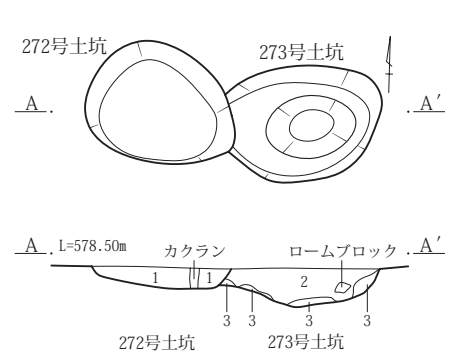
271号土坑



271号土坑

1. 黒色土 白色粒の混入目立ち締りあり。
2. 黒色土 粘性、締りあり。
3. 黄褐色土 地山黄褐色土多く含む。

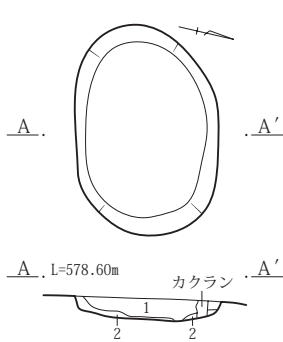
272・273号土坑



272・273号土坑

1. 黒褐色土 黄褐色色粒、褐色粒多く含む。締りあり。
2. 黒褐色土 黄褐色土粒、ブロック混入。
3. 黒褐色土 地山黄褐色土ブロック混入。

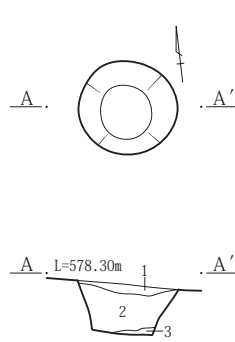
274号土坑



274号土坑

1. 黒褐色土 混入物少なくやや軟質。
2. 暗褐色土 1を基調とするが、やや黄色味あり。

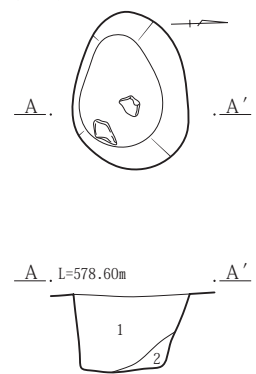
275号土坑



275号土坑

1. 黒褐色土 混入物少なくやや軟質。
2. 暗褐色土 1を基調とするが、やや黄色味あり。
3. 黄褐色土 地山土。

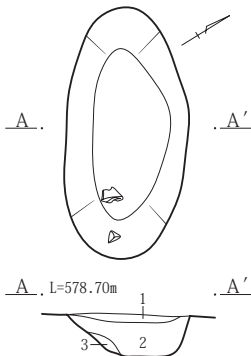
278号土坑



278号土坑

1. 暗褐色土 ローム土ブロック含む。
2. 黄褐色土 地山黄褐色土主体。

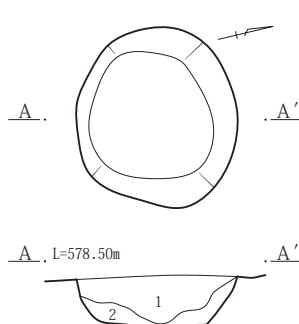
279号土坑



279号土坑

1. 黒褐色土 黄褐色色粒、褐色粒多く含む。締りあり。
2. 黒褐色土 黄褐色土粒、ブロック、炭化物混入し締りあり。
3. 黄褐色土 地山土主体。

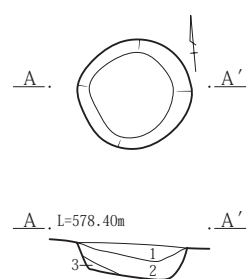
280号土坑



280号土坑

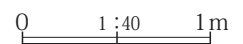
1. 暗褐色土 ローム土ブロック含む。
2. 黄褐色土 地山黄褐色土主体。

281号土坑



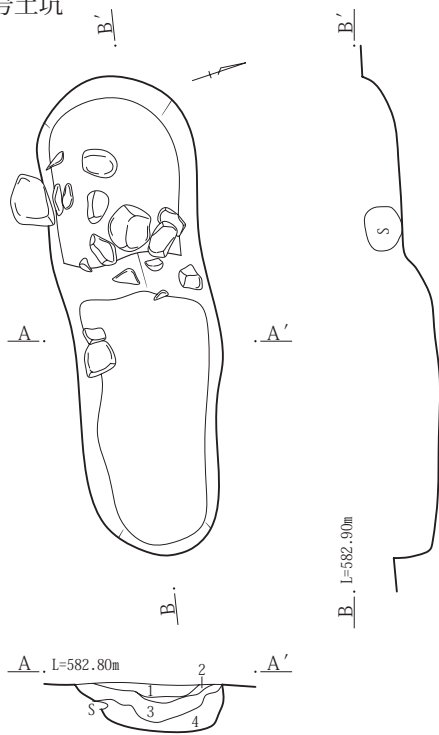
281号土坑

1. 黒褐色土 黄褐色色粒、褐色粒多く含む。締りあり。
2. 黒褐色土 黄褐色土粒、ブロック混入し締りあり。
3. 黄褐色土 地山土主体。



第59図 土坑(11) 269・271~275・278~281号土坑

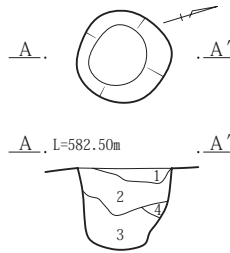
294号土坑



294号土坑

1. 暗褐色土 細粒白色軽石を含む。締りあり。
2. 褐色土 細粒白色軽石、黄褐色土塊を含む。
3. 暗褐色土 細粒白色軽石、炭化物粒を少量含む。
4. 褐色土 細粒白色軽石、黄褐色土塊を含む。

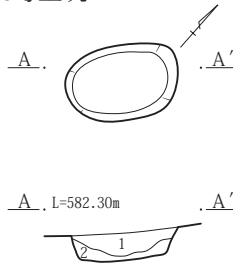
295号土坑



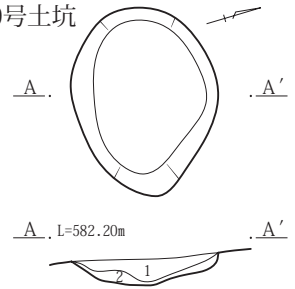
295号土坑

1. 褐灰色土 細粒白色軽石を含む。締りあり。
2. 暗褐色土 黄橙色土粒、細粒白色軽石を全体に含む。締りあり。
3. 黒褐色土 黄橙色土塊を少量含む。2に比べ混入物少ない。やや粘質。
4. 黄橙色土塊主体。壁崩れ。

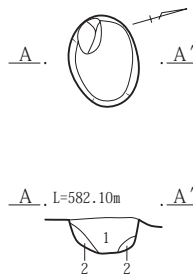
298号土坑



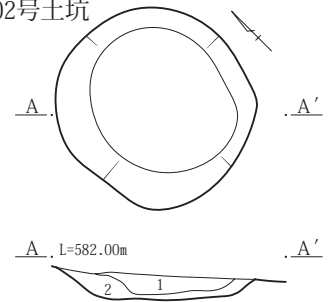
299号土坑



300号土坑



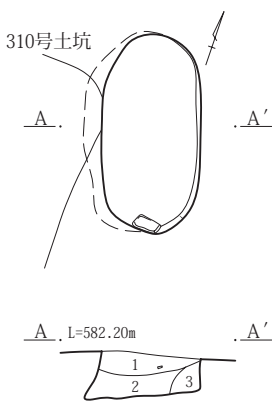
302号土坑



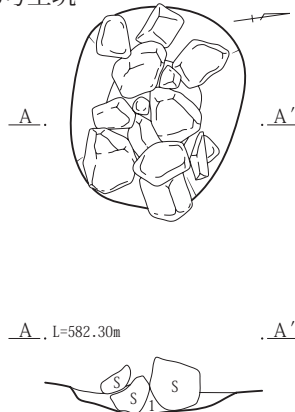
298~300・302号土坑

1. 暗褐色土 黄橙色土粒、細粒白色軽石全体的に含む。締りあり。
2. 黄褐色土 細粒白色軽石を含む。

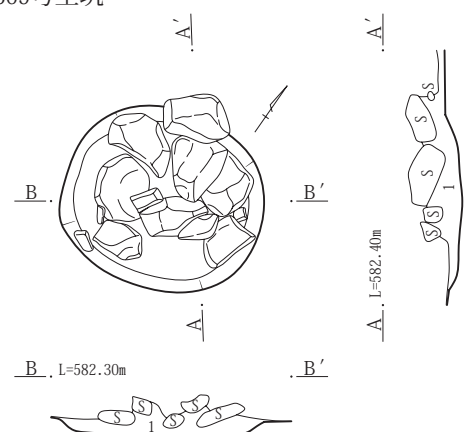
305号土坑



306号土坑



309号土坑



305号土坑

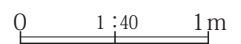
1. 暗褐色土 細粒白色軽石、黄橙色土塊を含む。
2. 褐色土 黄橙色土粒、ローム塊を含む。小礫混入し、締りあり。
3. 黒褐色土 黄橙色土塊を僅かに含む。やや粘質。

306号土坑

1. 暗褐色土 細粒白色軽石、黄橙色土塊を含む。

309号土坑

1. 黒褐色土 黄橙色土粒、細粒白色軽石を含み締りあり。



第60図 土坑(12) 294・295・298~300・302・305・306・309号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

312号土坑(第61・68図、PL.27・81)

位置 75区E-8・9グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸2.06m、短軸0.97m、深さ0.68m。

長軸方向 N-10°-E

出土遺物 土器片が1点出土。

所見 長円形で壁面、底部には地山の礫が露出。

314号土坑(第61図、PL.27)

位置 75区G-14グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸1.41m、短軸1.28m、深さ0.28m。

長軸方向 -

出土遺物 土器、石器は見られない。

所見 検出時大型の礫を含む石の集まりで、丸石も見られることから配石の可能性もある。

316号土坑(第61・69図、PL.27・81)

位置 75区G・H-14グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸1.5m、短軸1.46m、深さ0.85m。

長軸方向 -

出土遺物 複数の土器片が出土。

所見 検出時は礫が集中しており、部分的には人為的な配置を思わせるものも見られ、配石の可能性もある。掘り込みは深く、覆土中に礫の出土が見られる。

317号土坑(第62・69図、PL.27・81)

位置 75区F-10・11グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸1.33m、短軸0.92m、深さ0.38m。

長軸方向 N-74°-W

出土遺物 土器片2点出土。

所見 長円形で、比較的掘り込みは深い、覆土中に多くの礫が含まれ、若干の炭化物も見られた。

318号土坑(第62・69図、PL.27・81)

位置 75区E-10グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸1.42m、短軸1.3m、深さ0.48m。

長軸方向 -

出土遺物 複数の土器片と、石鏃が1点出土。

所見 覆土の下層に多くの礫を多く含む。炭化堅果(ク

ルミカ)出土。

319号土坑(第62・70図、PL.81)

位置 75区E-10グリッドに位置する。

形状・規模 不定形、長軸0.93m、短軸0.8m、深さ0.49m。

長軸方向 -

出土遺物 土器片が出土。

所見 不定形で礫が多く混入。下部に地山の大理石露出。

320号土坑(第62・70図、PL.81)

位置 75区E・F-10グリッドに位置する。

形状・規模 不定形、長軸1.16m、短軸(0.67)m、深さ0.52m。

長軸方向 -

出土遺物 土器片が僅かに出土。

所見 318号土坑に接して掘り込まれる。

327号土坑(第63・70図、PL.28・81)

位置 75区E・F-11グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸1.15m、短軸0.87m、深さ0.12m。

長軸方向 N-20°-W

出土遺物 比較的大型の口縁部片。

所見 やや不定形で、浅い掘り込み。

337号土坑(第63・70図、PL.28・81)

位置 75区F-11・12グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸0.97m、短軸0.92m、深さ0.2m。

長軸方向 -

出土遺物 土器片1点出土。

所見 円形で掘り込みは極めて浅い。上層に中世の遺物を含む層が載っている。

339号土坑(第63・70図、PL.28・81)

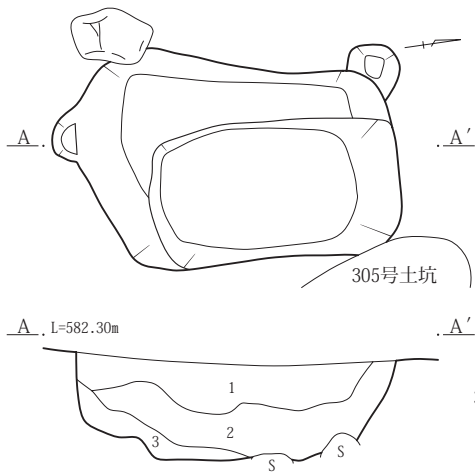
位置 74区T-5グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸1.3m、短軸0.96m、深さ0.31m。

長軸方向 N-5°-E

出土遺物 土器片1点出土。

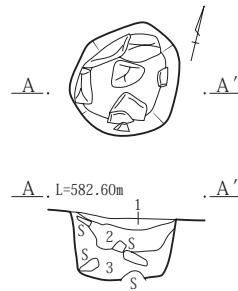
310号土坑



310号土坑

1. 暗褐色土 細粒白色軽石、黄橙色土粒を含む。
2. 褐色土 黄橙色土粒、ローム塊を含み締りあり。
3. 黒褐色土 黄橙色土粒を僅かに含む。やや粘質。

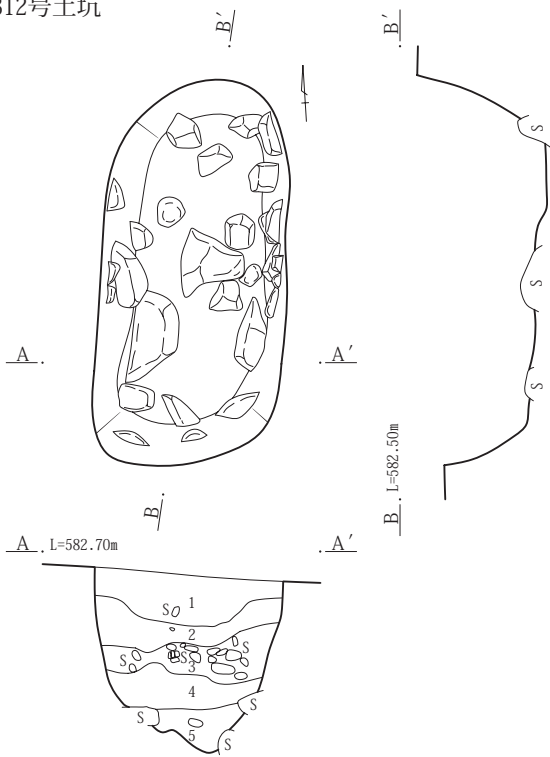
311号土坑



311号土坑

1. 暗褐色土 細粒白色軽石、黄橙色土粒を含む。
2. 褐色土 黄橙色土粒を含む。締りあり。
3. 黒褐色土 黄橙色土粒を含む。やや粘質。

312号土坑



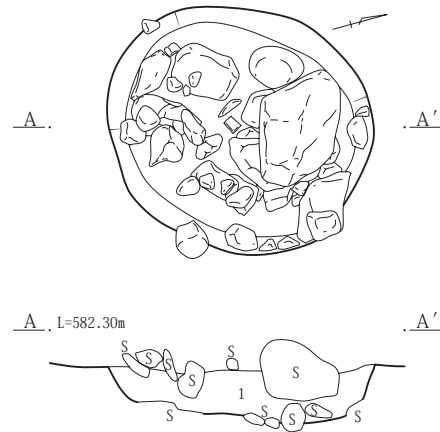
312号土坑

1. 暗褐色土 細粒白色軽石、黄橙色土粒を含む。
2. 褐色土 細粒白色軽石、黄橙色土粒を含む。
3. 褐色土 小石が多量に混在する。軽石等の混入物見られない。
4. 暗褐色土 細粒白色軽石、黄橙色土粒を僅かに含み締り弱い。
5. 黄褐色土 ローム塊を多量に含む。

316号土坑

1. 暗褐色土 黒色土塊・橙色粒を多く含む。粘性強く焼土塊含む。
2. 暗褐色土 大型の自然礫を多く含む。橙色粒少量含む。
3. 暗褐色土 やや暗い。自然礫を含まない。橙色粒・炭化物含む。
4. 暗褐色土 小型の自然礫を多く含み、やや軟質。

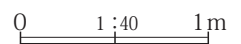
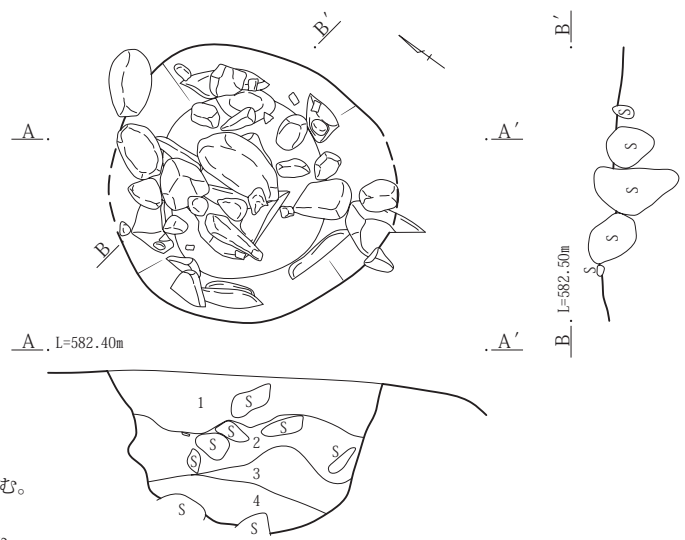
314号土坑



314号土坑

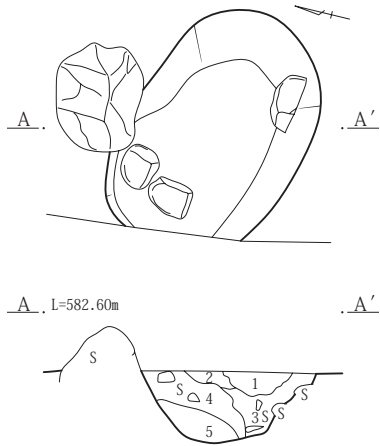
1. 黒褐色土 細粒白色軽石、黄橙色土粒を含む。

316号土坑



第61図 土坑(13) 310~312・314・316号土坑

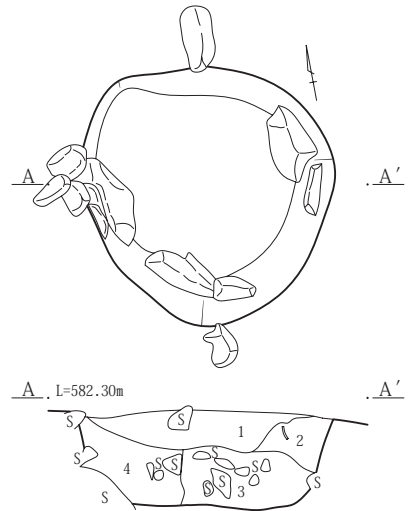
317号土坑



317号土坑

1. にぶい黄褐色土 黄褐色土塊を多く含みやや軟質。
2. にぶい褐色土 黄褐色粒・橙色粒少量含む。
3. にぶい褐色土 炭化物・橙色粒少量含む。
4. 黒褐色土 褐色土塊・黄褐色粒・炭化物含みやや硬質。
5. 暗褐色土 黄褐色粒・橙色粒を多く含む。

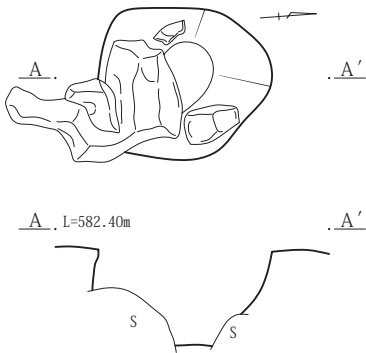
318号土坑



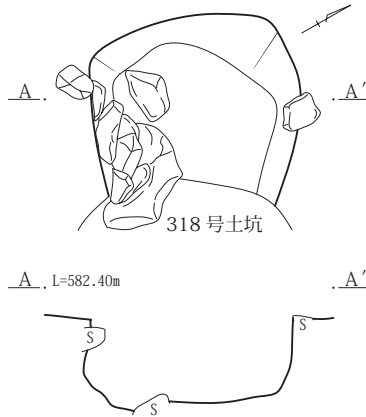
318号土坑

1. 暗褐色土 橙色粒・黄褐色粒を多く含む。やや硬質。
2. 暗褐色土 やや暗い。黒褐色土塊・橙色粒を少量含む。
3. 黒褐色土 自然礫を多く含む。黄褐色粒少量含む。やや軟質。
4. 黒褐色土 大型の自然石で構成される。軟質。基盤に似るが、黒色土を混在するため、土坑埋土と判断。

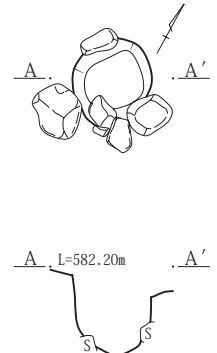
319号土坑



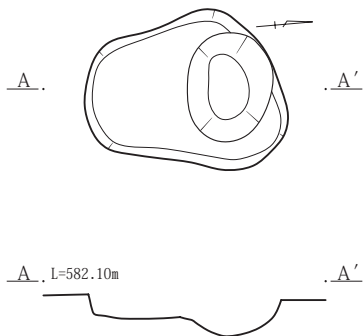
320号土坑



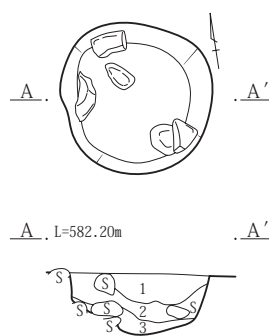
321号土坑



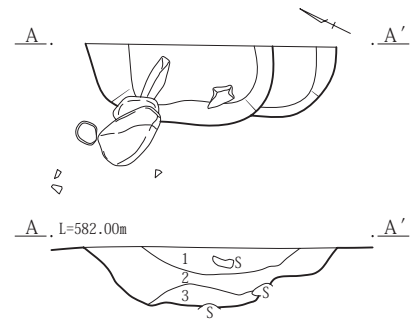
322号土坑



323号土坑



324号土坑

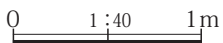


323号土坑

1. 暗褐色土 やや暗い。黄褐色土塊少量含む。
2. 暗褐色土 明るい色調、砂質でやや軟質。自然礫を多く含む。
3. 褐色土 砂質。黄褐色土塊主体。

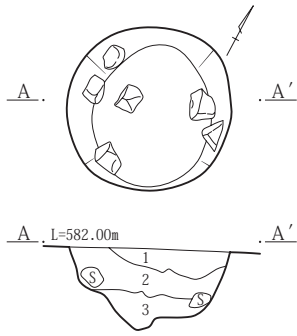
324号土坑

1. 黒褐色土 均質に近い。橙色粒少量含む。やや軟質。
2. 暗褐色土 黄褐色粒多く含む。粘性強い。
3. にぶい褐色土 黄褐色土塊を多く含む。砂質。

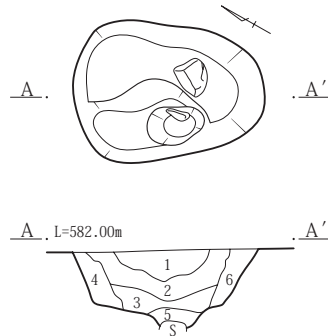


第62図 土坑(14) 317~324号土坑

325号土坑



326号土坑



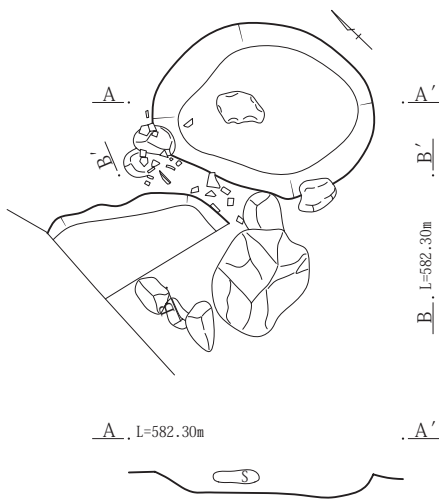
325号土坑

- 1. 暗褐色土 やや暗い。黄褐色粒子多く含む。
- 2. 暗褐色土 やや暗い。自然礫を多く含む。
- 3. にぶい褐色土 砂質。やや暗い。小自然礫多く含む。

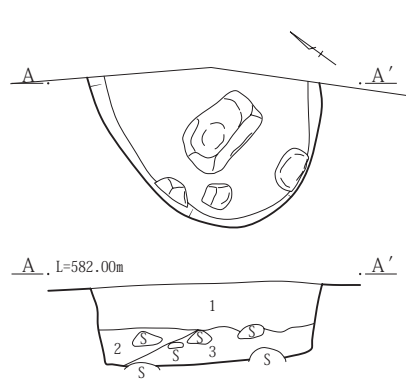
326号土坑

- 1. 黒褐色土 均質で、橙色粒を少量含みやや軟質。
- 2. 暗褐色土 橙色粒・黄褐色粒を多く含む。
- 3. にぶい褐色土 黄褐色土塊を少量含む。やや軟質。
- 4. 暗褐色土 大粒の黄褐色粒を多く含み粘性強い。
- 5. 褐色土 砂質。黄褐色土塊を主体とする。
- 6. 暗褐色土 4に近似。やや明るい色調。

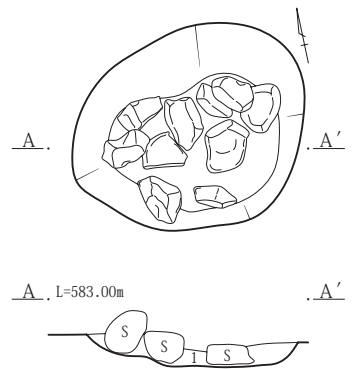
327・328号土坑



329号土坑



330号土坑



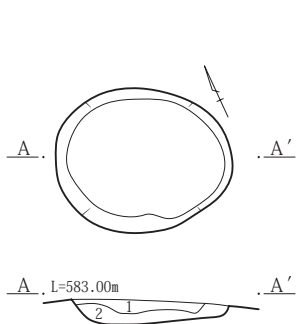
329号土坑

- 1. 暗褐色土 やや暗い。黄褐色粒多く含む。
- 2. 暗褐色土 均質でやや軟質。
- 3. にぶい褐色土 自然礫を多く、黄褐色土塊を含む。

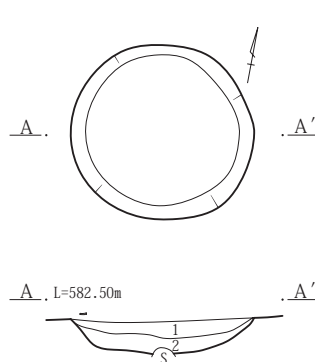
330号土坑

- 1. 黒褐色土 白色粒、黄褐色粒含み締めあり。

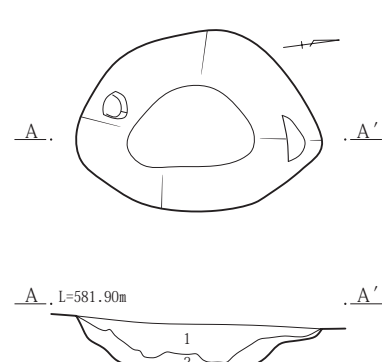
331号土坑



337号土坑



339号土坑



331号土坑

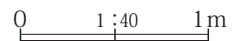
- 1. 黒褐色土 細粒砂質土、炭化物含む。
- 2. 黒褐色土 やや黄褐色を呈し、ローム質細粒土含む。

337号土坑

- 1. 黒褐色土 細粒砂質土、炭化物含む。
- 2. 黒褐色土 やや黄褐色を呈し、ローム質細粒土含む。

339号土坑

- 1. 黒色土 少量のローム粒含む。
- 2. 黒褐色土 ローム粒やや多く含む。



第63図 土坑(15) 325~331・337・339号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

所見 やや南北に長い長円形で、掘り込みは浅い。

343号土坑(第64・70図、PL.28・82)

位置 74区V-5グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸0.82m、短軸(0.42)m、深さ0.16m。

長軸方向 N-75°-W

出土遺物 複数の土器片出土。

所見 掘り込みは浅く、土器片、礫が出土。

344号土坑(第64・70・71図、PL.28・82)

位置 74区U・V-5グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸1.4m、短軸1.3m、深さ0.62m。

長軸方向 -

出土遺物 土器片と磨石、多孔石などが出土。

所見 上に343号土坑が載っている。同一遺構かとも考えたが掘り込みの状況、土層の違いなどから重複とした。大型の礫なども投げ込まれたような状況で検出されている。

347号土坑(第64・72図、PL.28・82)

位置 74区R-9・10グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸1m、短軸0.98m、深さ0.3m。

長軸方向 -

出土遺物 土器片、および石皿、多孔石が出土。

所見 石皿を含む礫がやや浮いた状態で出土している。土器片が周囲に点在する状況であった。

348号土坑(第64・73・74図、PL.28・83)

位置 74区U-5・6グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸2.4m、短軸1.87m、深さ0.37m。

長軸方向 N-0°

出土遺物 土器片及び磨石、台石などが複数出土。

所見 覆土上層に土器片が多く点在し、下層部には礫を含む磨石等が見られた。形状ははっきりしない部分が見られたが、やや大型で緩やかな掘方を持つ。

351号土坑(第65・74図、PL.29・83)

位置 74区W-11グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸0.67m、短軸0.53m、深さ0.58m。

長軸方向 N-76°-E

出土遺物 磨石が1点出土。

所見 350号土坑(弥生)に一部重複、小型で掘り込みは緩やか。

353号土坑(第65・74図、PL.29・83)

位置 74区S・T-12・13グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸1.43m、短軸1.1m、深さ0.67m。

長軸方向 N-23°-W

出土遺物 土器片と台石が出土。

所見 土坑の中央上位に、大型の礫を円形に配置したような状況が窺えた、中にも小振りの礫が複数入れられている。下部にはしっかりした掘り込みが見られ、底はほぼ平らに掘られている。

358号土坑(第66・74図、PL.83)

位置 74区S-4グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸1.26m、短軸1.08m、深さ0.44m。

長軸方向 -

出土遺物 土器片1点出土。

所見 やや東西に長い円形で断面すり鉢状を呈す。

359号土坑(第66・74図、PL.29・83)

位置 74区V-11グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸0.58m、短軸0.4m、深さ0.14m。

長軸方向 N-80°-E

出土遺物 磨製石斧が1点出土。

所見 小型の土坑で、磨製石斧は上部において出土している。

366号土坑(第66・74図、PL.29・83)

位置 74区Q-14・15グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸0.73m、短軸0.7m、深さ0.47m。

長軸方向 -

出土遺物 土器片1点出土。

所見 369号土坑と重複、本址が新しい。

369号土坑(第66・74図、PL.29・83)

位置 74区Q-14・15グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸0.82m、短軸(0.52)m、深さ0.46m。

長軸方向 N-73° -E

出土遺物 土器片1点出土。

所見 366号土坑に一部切られている。

371号土坑(第67・75図、PL.29・83)

位置 74区O・P-11グリッドに位置する。

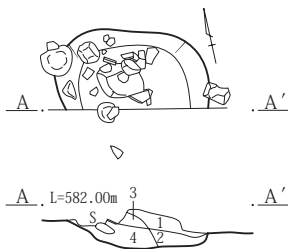
形状・規模 長円形、長軸3.62m、短軸2.58m、深さ0.32m。

長軸方向 N-80° -W

出土遺物 土器片と磨石、石鏃が出土。

所見 規模も大きく、当初は住居と考えたが、精査の結果、柱穴や炉が見られないことから土坑とした。掘り込みは垂直に近く、底面はほぼ平らである。遺物は上部に集中して見られた。

343号土坑



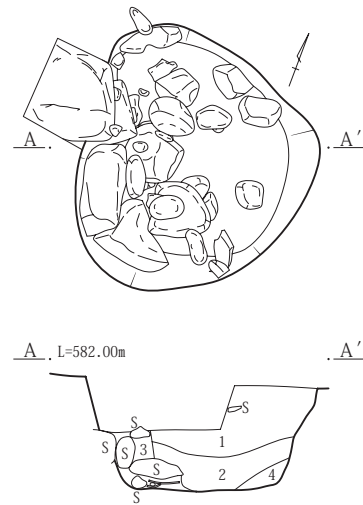
343号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒、少量の軽石含み、粘質で締りややあり。
2. 暗褐色土 1と似るが僅かに炭化物含む。
3. 浅黄色土 ローム粒、砂粒含み、粘性、締りややあり。
4. 浅黄色土 ローム粒、砂粒、炭化物、少量の小礫含み締りあり。

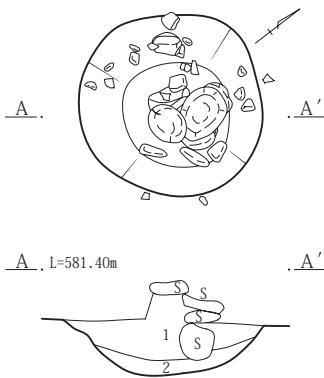
344号土坑

1. 黒褐色土 黄色粒混入。
2. 黒褐色土 礫を含む。
3. 暗褐色土 若干のローム粒含む。
4. 暗黄褐色土 ローム粒多く含む。

344号土坑



347号土坑



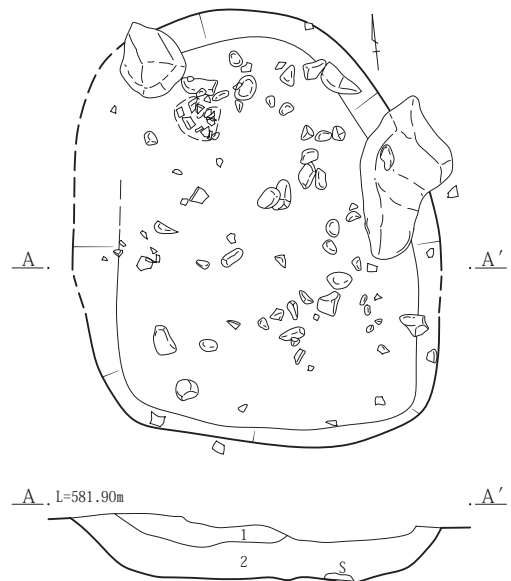
347号土坑

1. 黒褐色土 白色、黄褐色粒含み締る。
2. 黒褐色土 ローム粒僅かに含み締る。

348号土坑

1. 黒褐色土 小白色、黄褐色粒多く含み締りあり。
2. 黒褐色土 ローム粒僅かに含む。

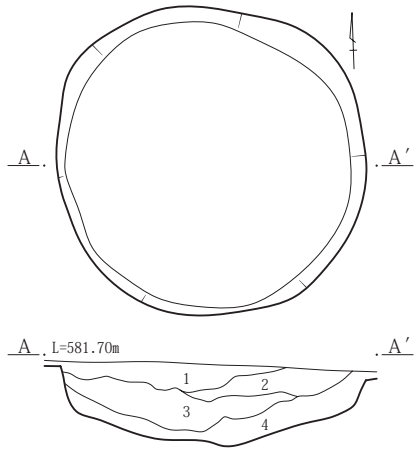
348号土坑



0 1:40 1m

第64図 土坑(16) 343・344・347・348号土坑

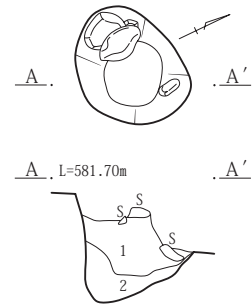
349号土坑



349号土坑

1. 暗黒褐色土 ローム粒多く含む。
2. 暗黒褐色土 ローム粒、白色粒含む。
3. 暗褐色土 小ローム粒含みやや黄色味呈す。
4. 暗褐色土 鉄分凝集層見られ、ロームブロック多く含む。

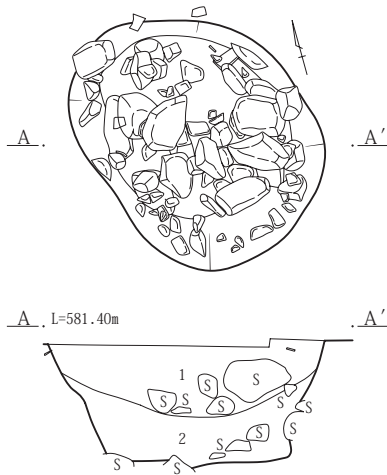
351号土坑



351号土坑

1. 黒褐色土 黄色ローム粒目立つ。
2. 黒褐色土 1より締りあり、やや黄色味を帯びる。

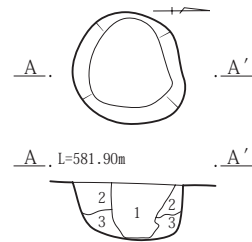
353号土坑



353号土坑

1. 黒褐色土 大型の礫含み、鉄分凝集層見られる。
2. 黒褐色土 ローム粒多く含む。礫を含む。

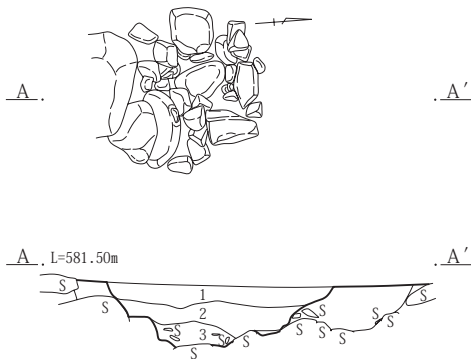
355号土坑



355号土坑

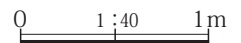
1. 黒褐色土 小ローム粒、多く含む。
2. 黒褐色土 ローム粒多く含む。
3. 黒褐色土 2と似るが締りあり。

357号土坑



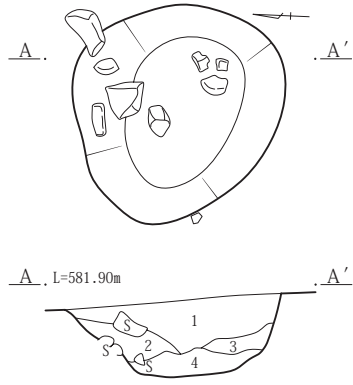
357号土坑

1. 暗黒褐色土 白色、黄褐色粒多く含む。
2. 暗褐色土 ローム粒含みやや黄色味を呈す。
3. 暗褐色土 ローム粒多く含む。



第65図 土坑(17) 349・351・353・355・357号土坑

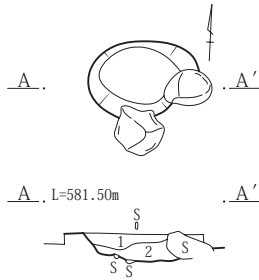
358号土坑



358号土坑

1. 暗黒褐色土 白色、黄褐色粒多く含む。
2. 暗褐色土 ローム粒含み、やや黄色味を呈す。
3. 暗褐色土 2と似るがローム粒多く含む。
4. 暗褐色土 ローム粒、ブロック含む。

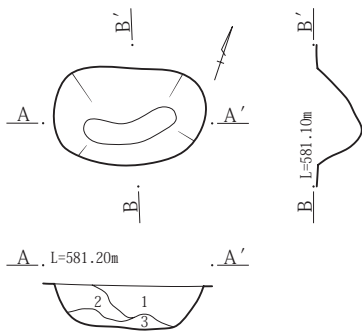
359号土坑



359号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒多く含む。
2. 暗褐色土 ローム粒含みややや黄色味を呈す。

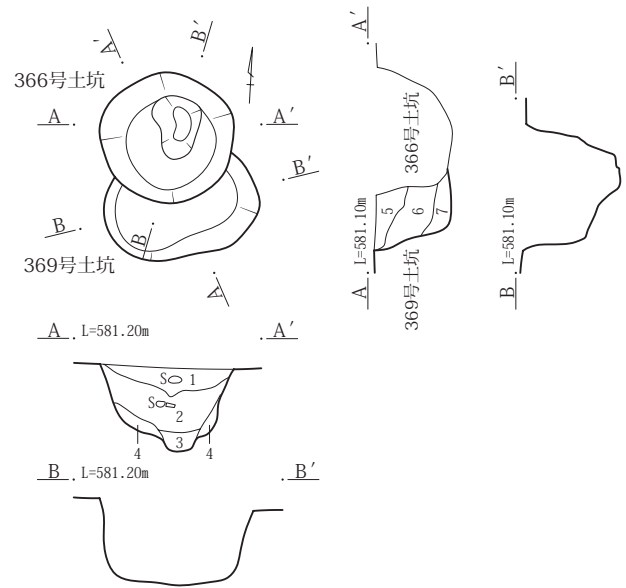
370号土坑



370号土坑

1. 黒褐色土 白色小粒、ローム粒含む。
2. 黒色土 1に似るがローム粒やや多く含む。
3. 暗黄褐色土 ローム粒、ブロックを若干含む。

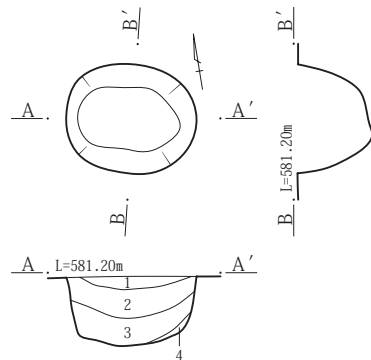
366・369号土坑



366・369号土坑

1. 黒色土
2. 黒褐色土
3. 黒褐色土 ローム粒、ブロック若干含む。
4. 黒褐色土 ロームを僅かに含む。
5. 黒色土 少量のローム含む。
6. 黒色土 1に似るがローム粒やや多く含む。
7. 暗褐色土 ローム粒混入少ない。

372号土坑



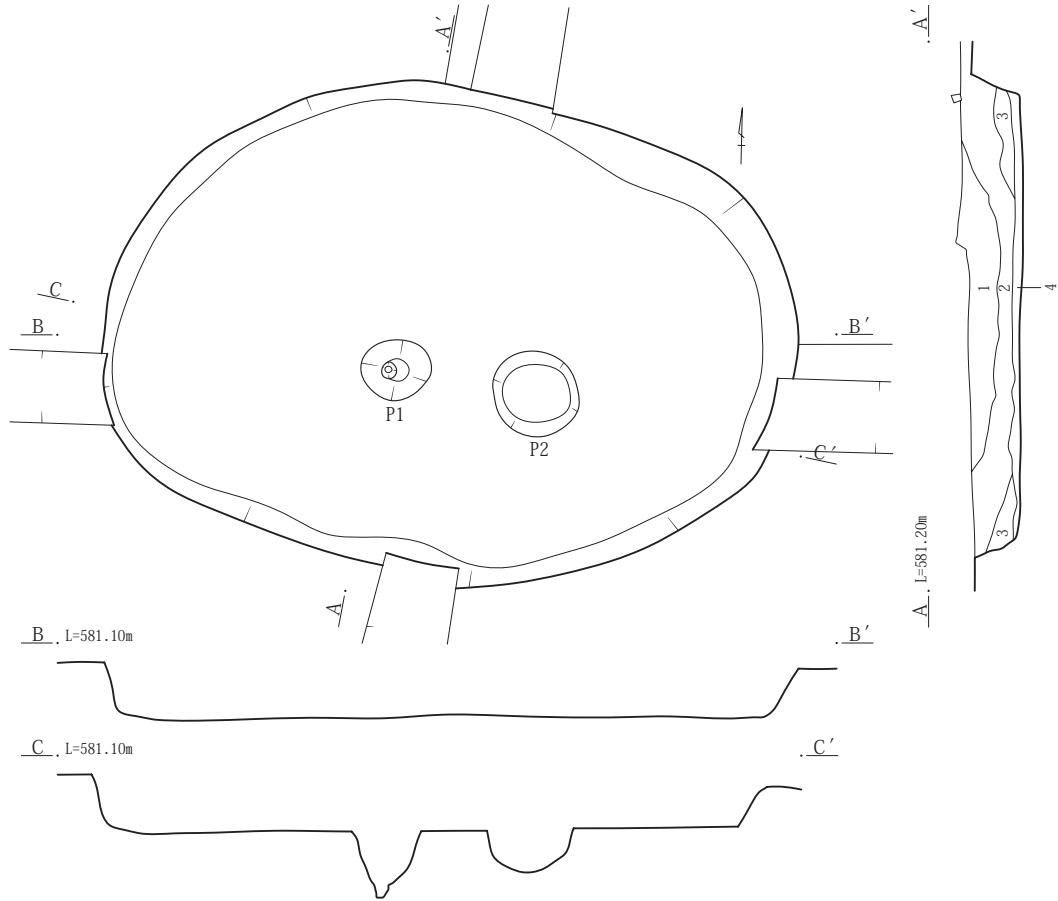
372号土坑

1. 黒色土 少量の褐色粒含む。
2. 黒褐色土 白色粒、ローム粒多く含む。
3. 暗黒褐色土 ローム細粒含む。
4. 暗黄褐色土 地山ローム含み粘性あり。

0 1:40 1m

第66図 土坑(18) 358・359・366・369・370・372号土坑

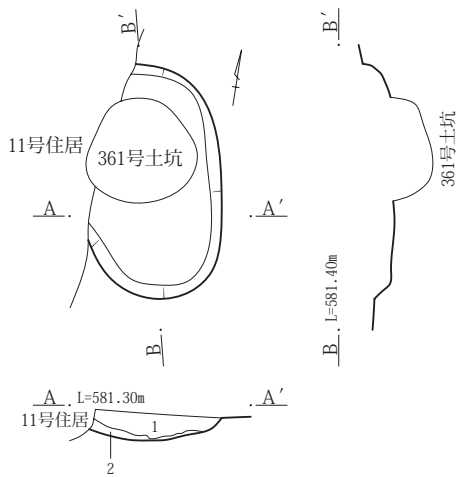
371号土坑



371号土坑

- 1. 黒褐色土 白色小粒、褐色ローム粒多く含む。
- 2. 黒色土 1に似るがローム粒やや多く含む。
- 3. 暗黄褐色土 ローム粒、ブロックを若干含む。
- 4. 暗褐色土 汚れた感じの地山土を若干含み粘性あり。

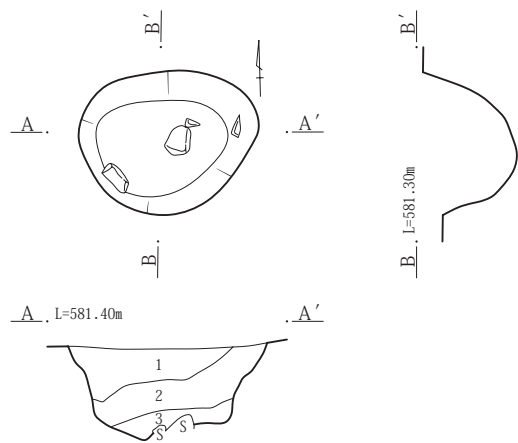
374号土坑



374号土坑

- 1. 黒色土 ローム細粒含む。
- 2. 暗褐色土 地山ローム含む。

375号土坑

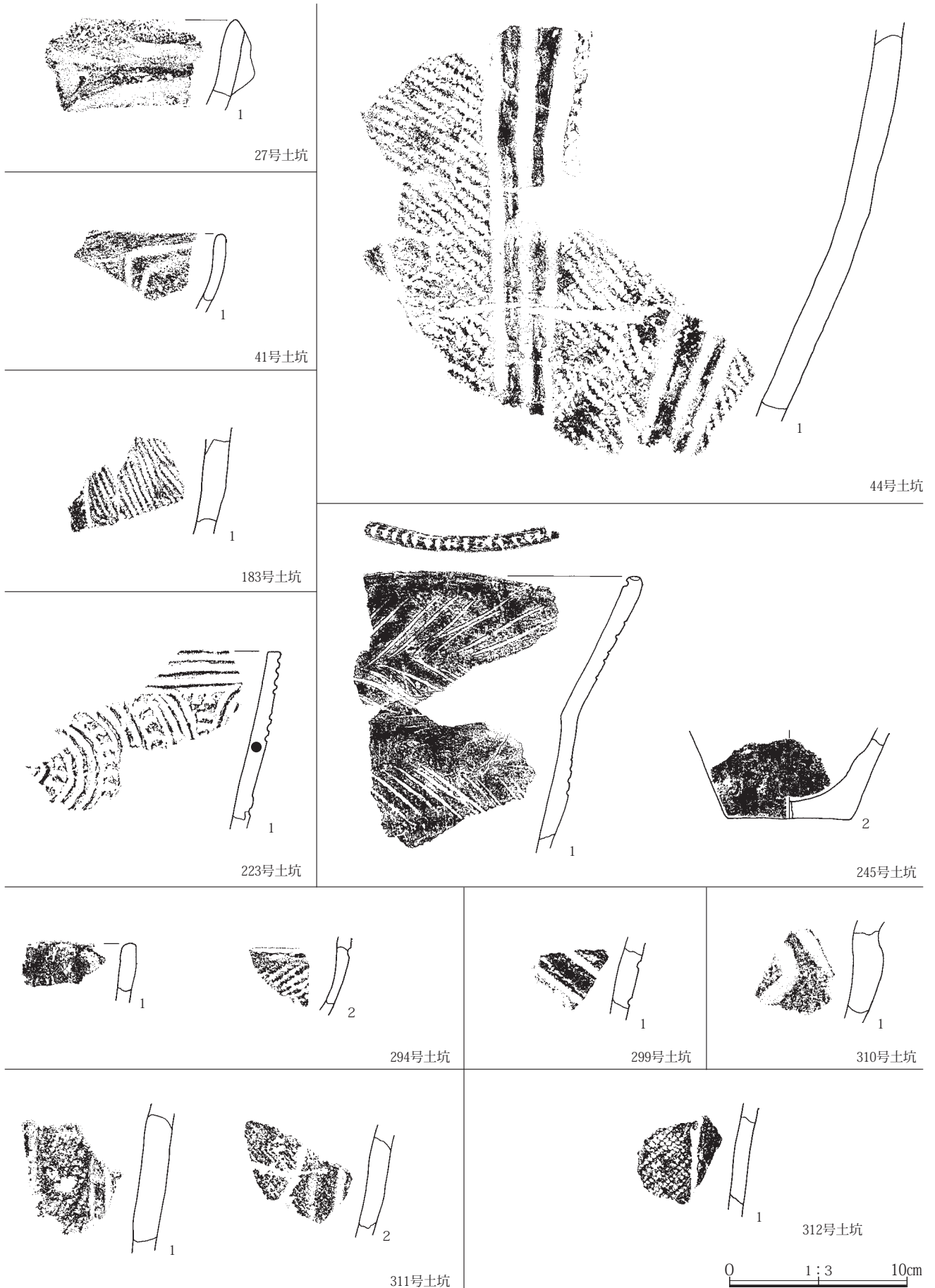


375号土坑

- 1. 黒褐色土 少量のローム粒含む。
- 2. 褐色土 1と近似するがローム粒多く含む。
- 3. 黒褐色土 ロームブロック含む。



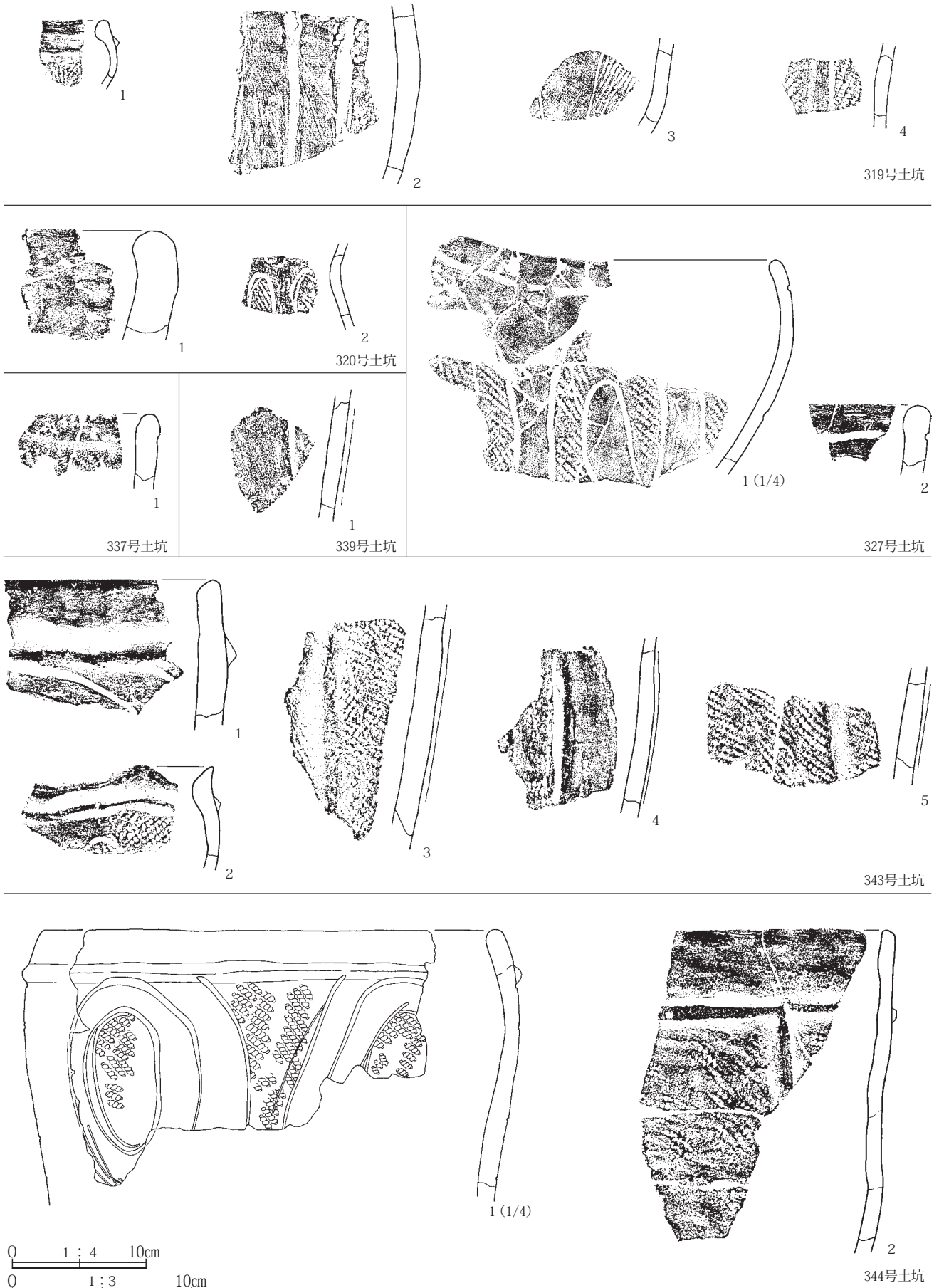
第67図 土坑(19) 371・374・375号土坑



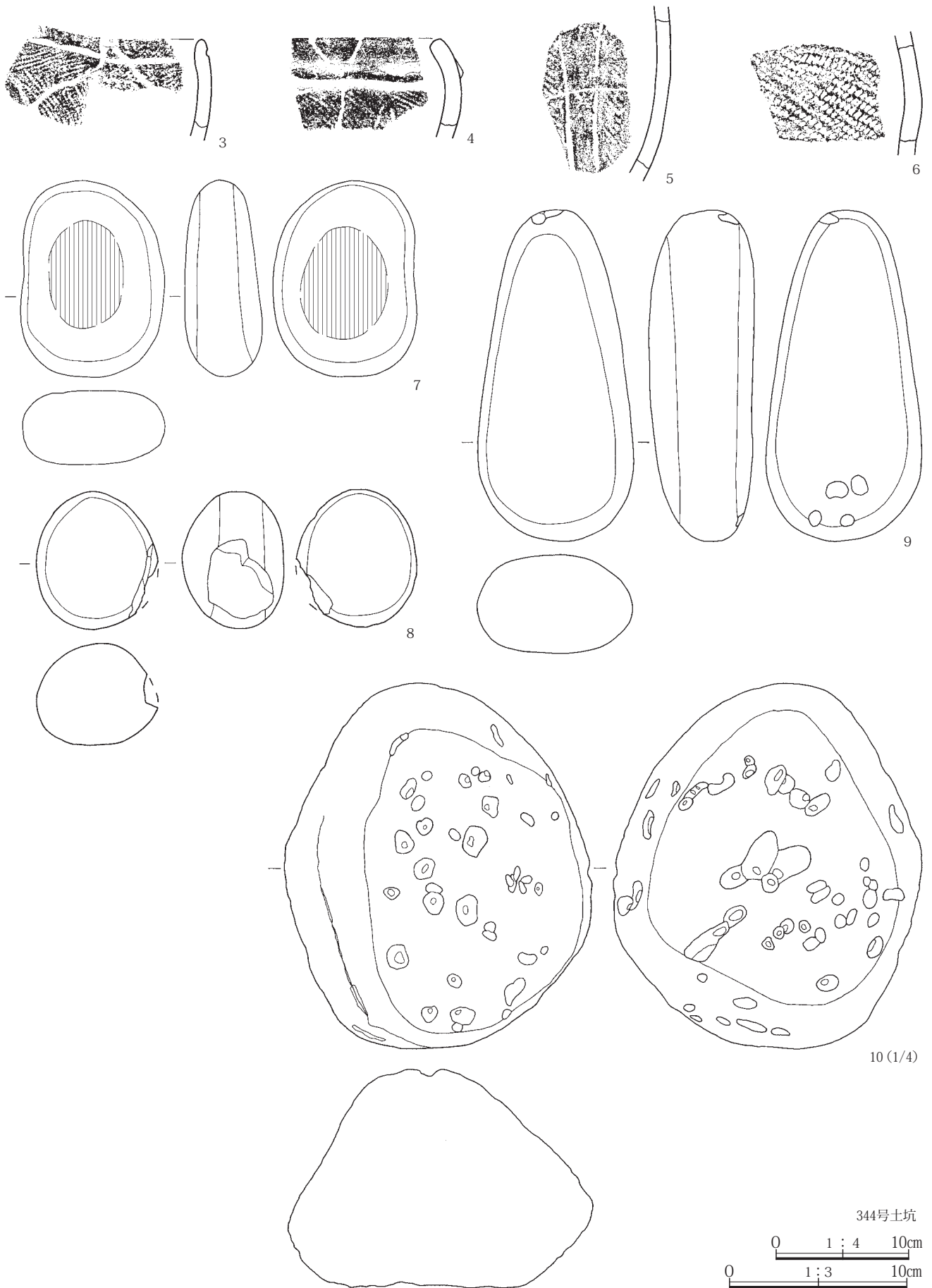
第68図 土坑出土遺物(1)



第69図 土坑出土遺物(2)



第70図 土坑出土遺物(3)



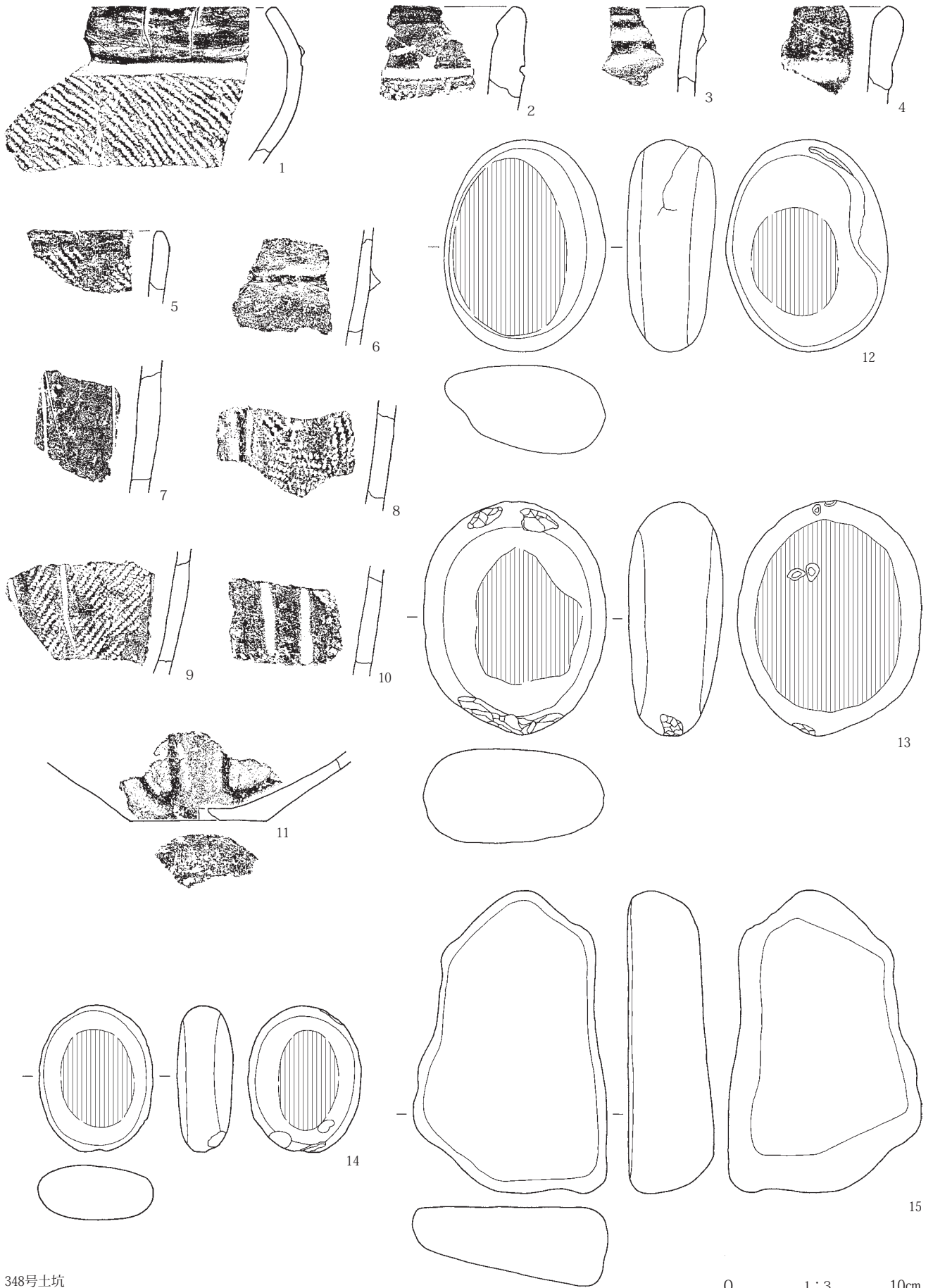
344号土坑
 0 1 : 4 10cm
 0 1 : 3 10cm

第71図 土坑出土遺物(4)



347号土坑

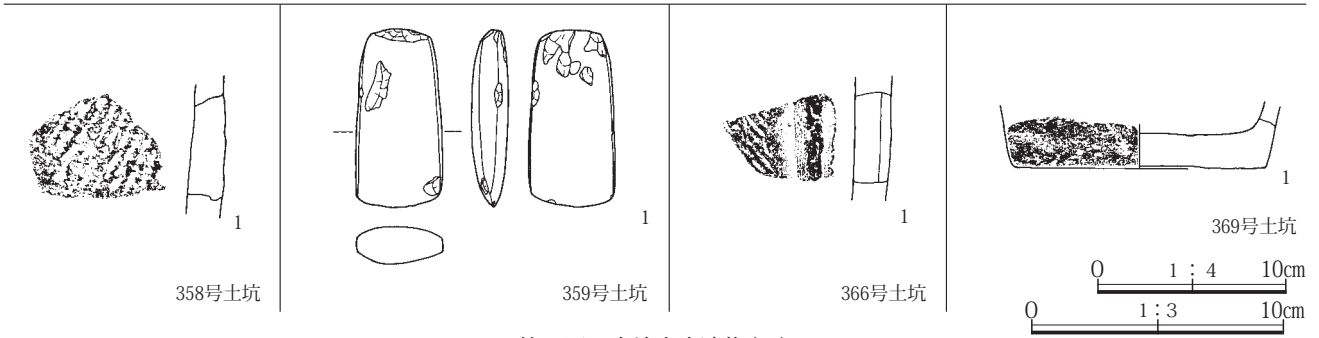
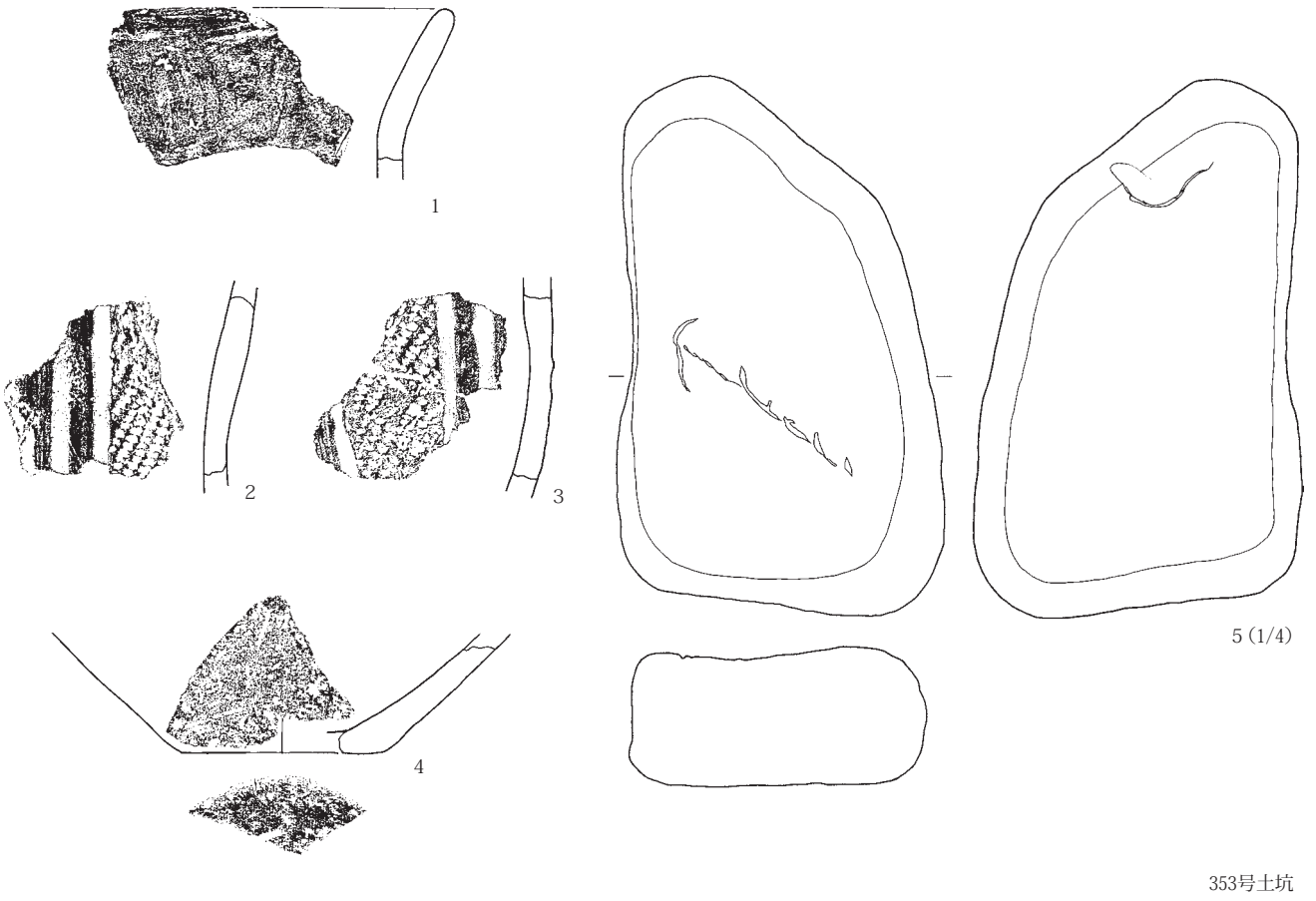
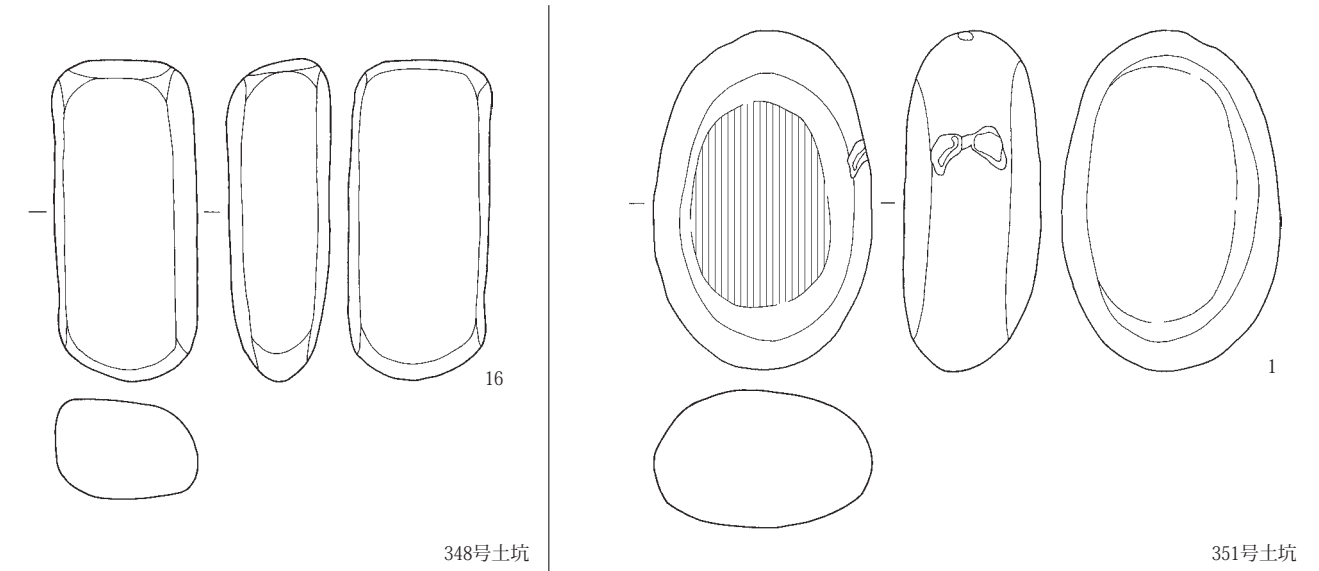
第72図 土坑出土遺物(5)



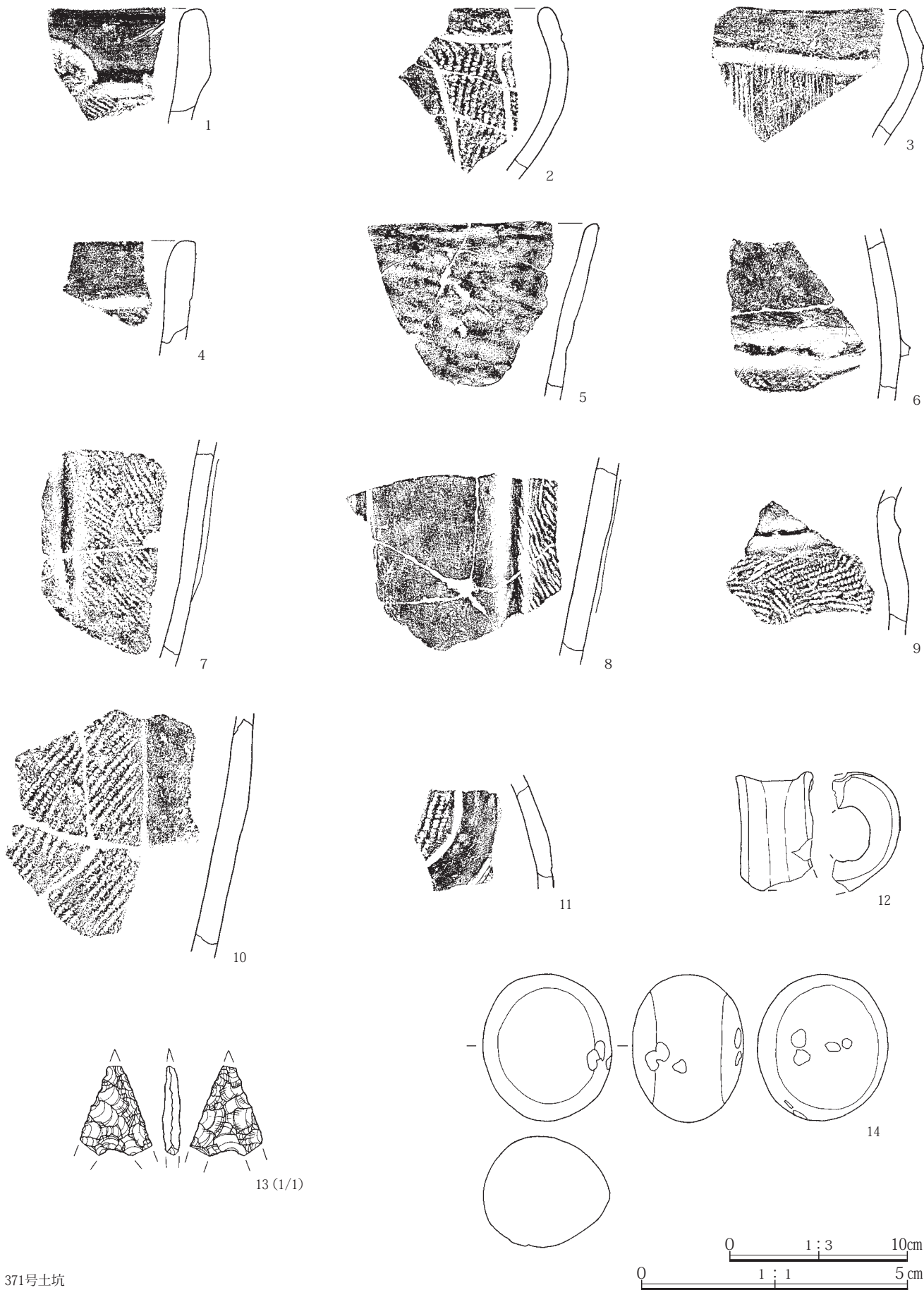
348号土坑

第73図 土坑出土遺物(6)

0 1:3 10cm



第74図 土坑出土遺物(7)



371号土坑

第75図 土坑出土遺物(8)

4. 埋葬

所謂埋葬として取り上げるのは、屋外にあって他の施設(遺構)に伴わないものであるが、今回の調査に於いて検出された7基の埋設土器は、74区に検出された6号列石との関連を強く窺わせるものである。列石は75区部分についてはやや不明瞭であったが、図示したように、北に向かって弧状に延びる列石に沿うように埋設土器が点在する状況が認められる。

土器は深鉢を正位または逆位に埋め、2個体の土器が、入れ子状に据えられている例もある。

1号埋葬(第76・77・79図、PL. 8・84)

位置 75区C-19グリッドに位置する。

形状 口縁、底部を欠き、細かく割れた状態で深鉢の胴部が検出された。

所見 掘り込みは黒色土中にあり、明確には検出し得なかった。周辺に大小の河原石が点在していたが、直接の関連は見いだせなかった。

2号埋葬(第76・77・79図、PL. 8・84)

位置 75区A-19グリッドに位置する。地山に礫が多く含まれた場所において検出された。

形状 深鉢胴下半部が正位の状態で据えられている。

所見 土器は風化が著しく極めて脆弱であった。土器の縁に掛かって扁平な円礫が載っていた。また、土器の両脇に礫が検出されている。

3号埋葬(第77~79図、PL. 9・84)

位置 75区C-18グリッドに位置する。

形状 大型の深鉢2点が上下に重ねられた状態で検出された。

所見 胴下半部を欠いた土器を正位に置き、合わせ口となるように、深鉢の胴上半部を逆位の状態で重ねている。下部の土器内には数個の小礫が、詰め込まれた状態で検出されている。

4号埋葬(第77~79図、PL. 9・84)

位置 75区D-19グリッドに位置する。

形状 深鉢の口縁部分約2分の1が逆位状態で検出された。

所見 埋葬下位部分が残存したものか。土器は口縁部が僅かに残存するのみであった。内部に礫がまとまって出土しており、人為的に入れられたとも見えるが、地山礫の可能性もある。

5号埋葬(第77~79図、PL. 9・84)

位置 75区B-20グリッドに位置する。

形状 かなり細かく割れた状態で検出されている。

所見 角礫が上に載った状態で出土。掘方は不明瞭。

6号埋葬(第77~79図、PL. 84)

位置 75区D-19グリッドに位置する。

形状 やや大きな破片が割れた状態で検出された。

所見 埋葬としたが、不明な点が多い。

7号埋葬(第77~79図、PL. 84)

位置 74区S-15グリッドに位置する。

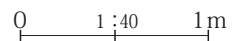
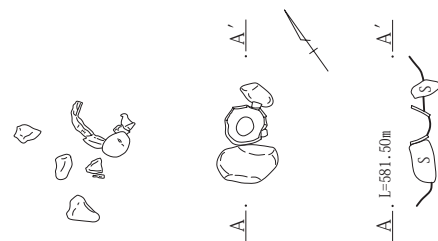
形状 深鉢の下部が出土。

所見 掘方を持つことから埋葬とした。若干の焼土を伴う。土器の風化が著しい。

1号埋葬



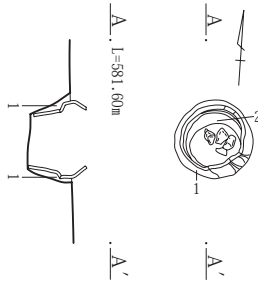
2号埋葬



第76図 1・2号埋葬

第3章 検出された遺構と遺物

3号埋甕



4号埋甕



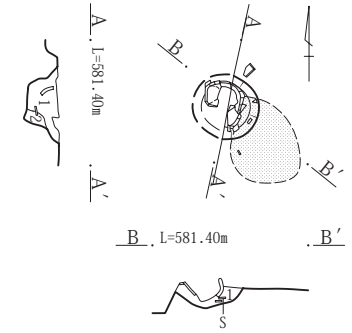
5号埋甕



6号埋甕

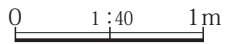


7号埋甕



3号埋甕

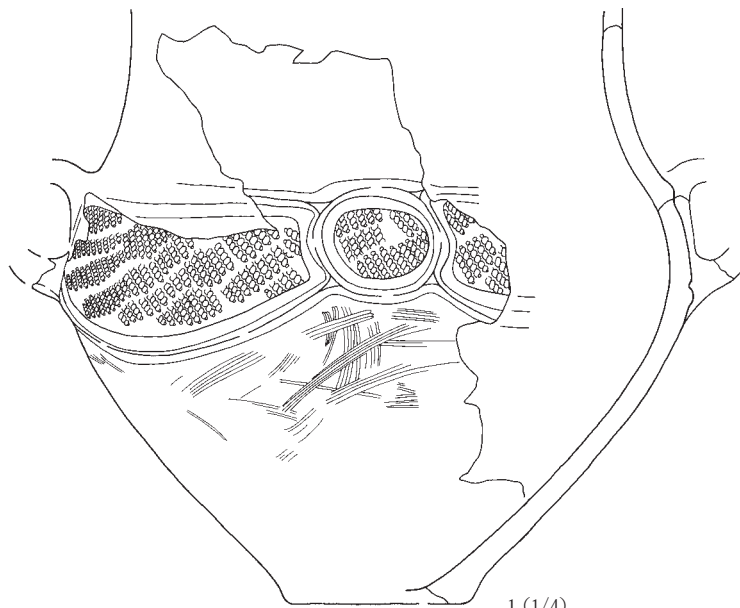
1. 黒色土 褐色粒、軽石粒多く含み粘性あり。



7号埋甕

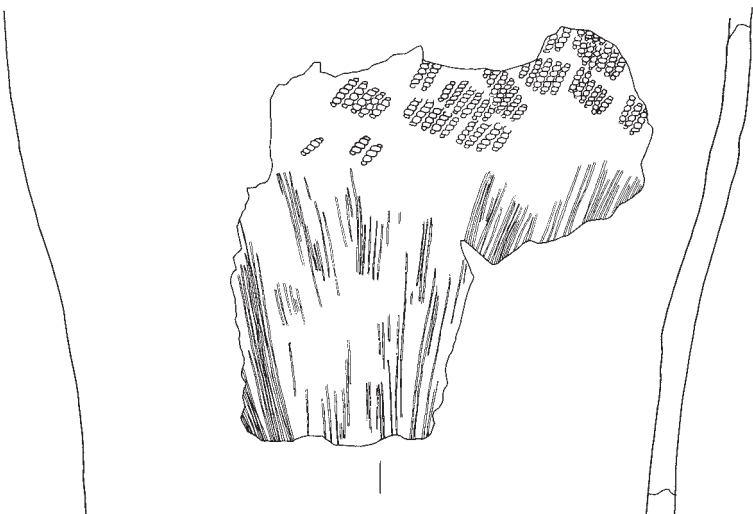
1. 暗黒褐色土 褐色粒、軽石含み粘性あり。

2. 明黄褐色土 明赤褐色粒を少量含む。焼土粒含む。



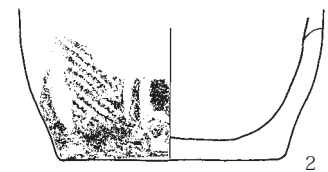
1号埋甕

1 (1/4)

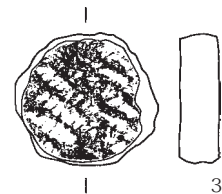


2号埋甕

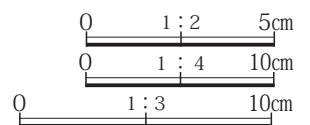
1 (1/4)



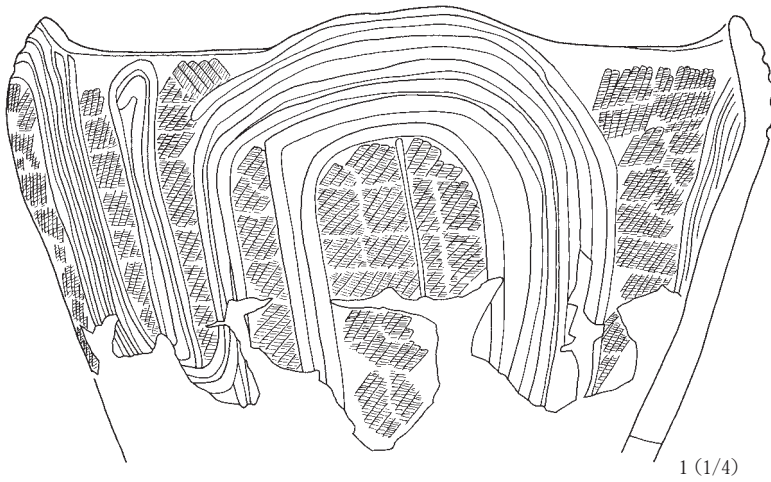
2



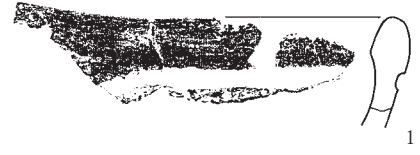
3 (1/2)



第77図 3～7号埋甕、1・2号埋甕出土遺物

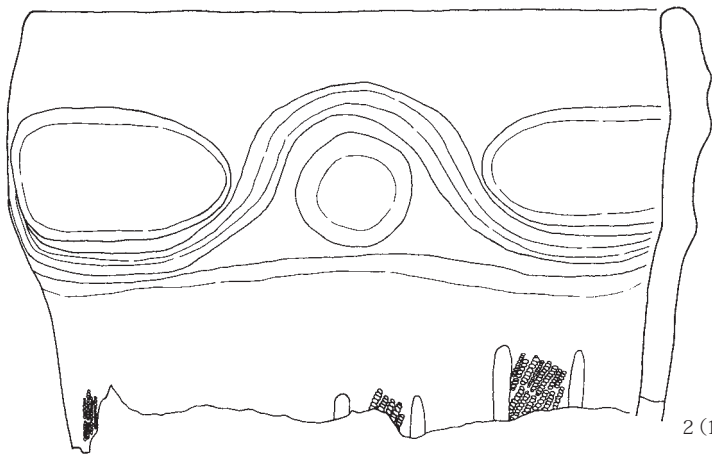


1 (1/4)



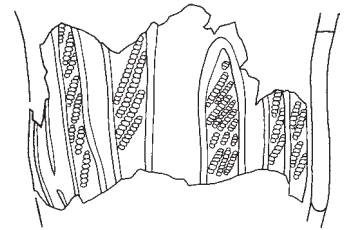
1

4号埋葬



2 (1/4)

3号埋葬



1 (1/4)

5号埋葬



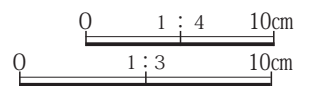
1

6号埋葬



1

7号埋葬



第78図 3～7号埋葬出土遺物

5. 列石

平成18年度より行われてきた調査において、列石としての遺構については、1～6号まで番号を付けているが、これらの中には、時代的には近世以降の石垣や、道および溝などの脇に並べられた石などは石列として遺構番号を付与しているが、列石としたものもあり一部混乱を生じている、さらに、最終的に欠番としたものもある。

ここでは、近世以降のものを除き、明らかに縄文時代に帰属する4号および6号列石について記述を行うこととする。

4号列石(第79・80図、PL.9・85)

位置 平成21年度の調査において検出されたものであるが、最終的に調査を終えたのは平成22年度になる。

75区H14～16グリッドに位置する。

形状・規模 比較的大型の礫が幅3m、長さ7m程の範囲に礫の集中を認め、これらの礫が部分的に列状に配されていることが確認された。走行軸は東に約20°振れている。

出土遺物 列石中に混在するように石鏃、凹石、磨石、石皿がそれぞれ1点ずつ出土している。土器に関してはほとんど見られなかった。

所見 礫は一部人為的に置かれたと思われる部分的な集石と、これらを挟み、ほぼ並行するように両側に僅かに弧状を呈し、東側部分で、列状に並ぶ大型の礫などから構成されている。

左右の縁に並ぶ礫列は、比較的大型礫が使われ、一部はかなり直線的に並ぶ状況が看取されている。

この4号列石の南側は調査区外となっており、北には3号住居が位置している。

列石の構築された時期については、土器の出土はほとんど見られず、明確に判断できないが、6号列石と同時期とみられる。

6号列石(第79・81～85図、PL.10・11・85・86)

位置 平成22年度に調査を行った。74区U-16からW-18グリッドに位置する。

形状・規模 南東から北西に向かって、やや弧状に礫が集中する配石の並びとして捉えられた。

現状で確認した長さは約16mである。西側は調査区外

になるため未調査である。礫の広がる幅は2～3m程である。

出土遺物 遺物については、列石に伴う遺物としての判断は難しいが、時期を考える上での資料と考えられるため、近辺において出土した土器、石器類を取り上げた。数片の土器と石鏃、打製石斧、および磨石が見られる。石器については、磨石類、比較的大きな円礫類の他、配石に使用された石皿や、多孔石が出土している。所見 列石の構造は比較的大きな数個の礫を並べた配石遺構が、弧状に並ぶ状況が窺え、それぞれの配石の周囲に、やや小ぶりの石が点在している。配石は連続せず、ところどころ間隙を作る。それぞれの配石下に土坑などは確認されなかった。

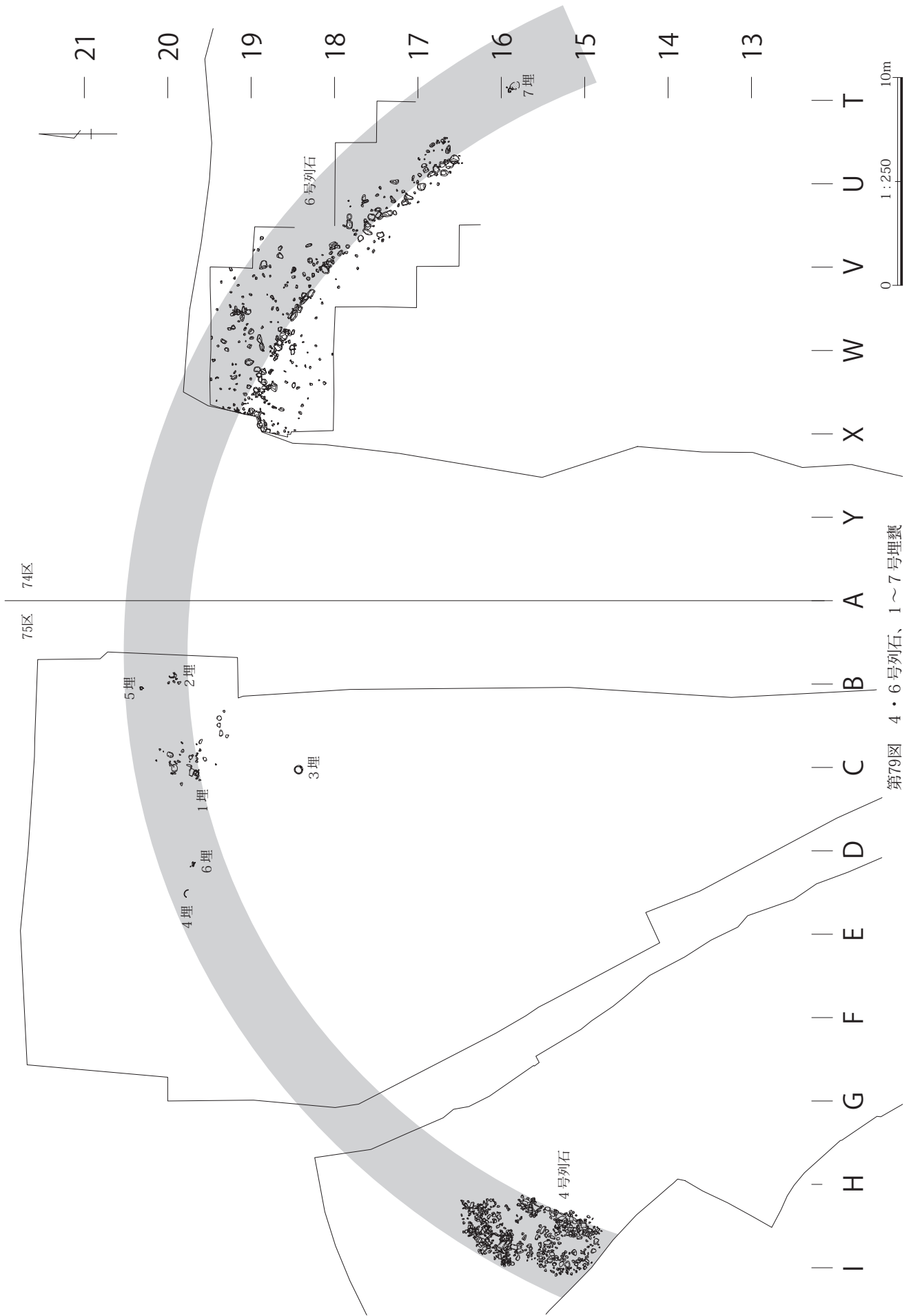
列石の北西端は調査区外となっているが、この未調査区部分約12mを挟み、平成20年度に調査を行った場所において、部分的にはあったが、礫の並びが確認されており、本列石と一連のものとして判断される。

また、ここ75区内では、埋葬6基が検出されており、これらの並びが、列石の推定ラインにほぼ沿うような配置を示しており興味深い。さらに、この6号列石の終わっている、南西部において、残存状態は悪かったが、7号埋葬が検出されている。

前述した4号列石については、6号列石から延ばした弧状の推定ラインの延長上にほぼ載っていることから、これらは一つの環(弧)状列石として捉えることもできるのではないだろうか。

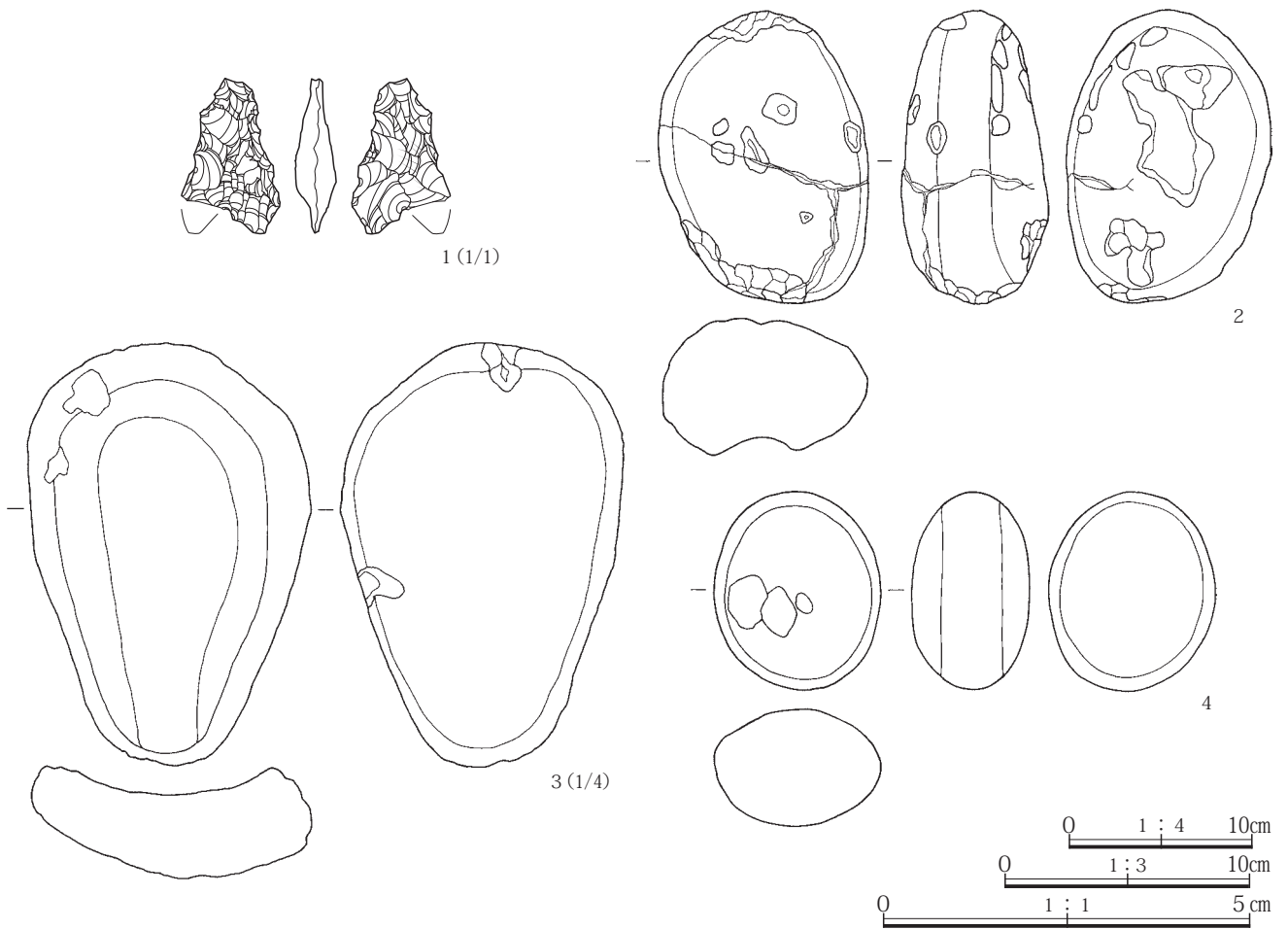
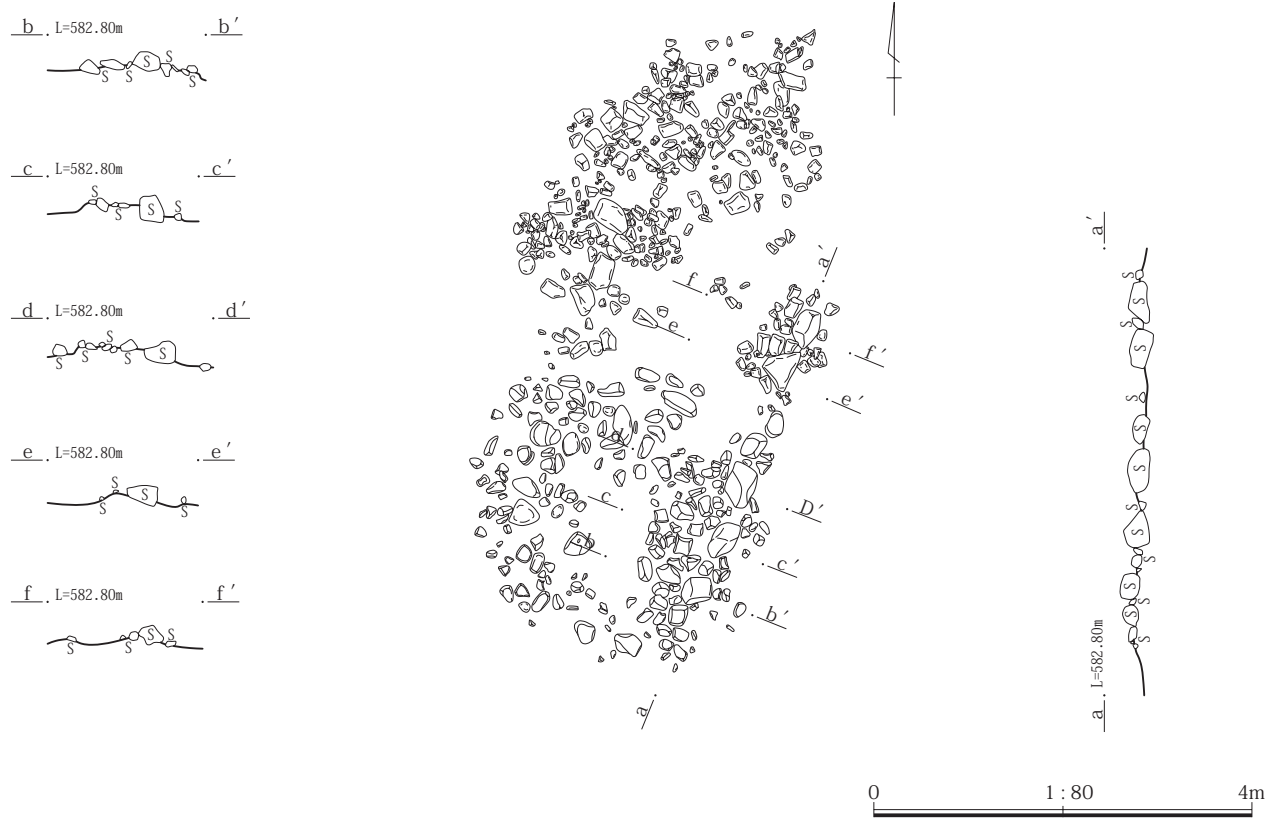
4号・6号両列石から、推定される弧状ラインの半径は約30mを測る。住居はいずれもこの弧状ラインの内側に作られており、中心位置はやレベル的にやや高い場所となっている。

両列石の構築された時期に関しては、住居などに関連するものと考えられ、中期後葉から後期までの幅を与えておきたい。

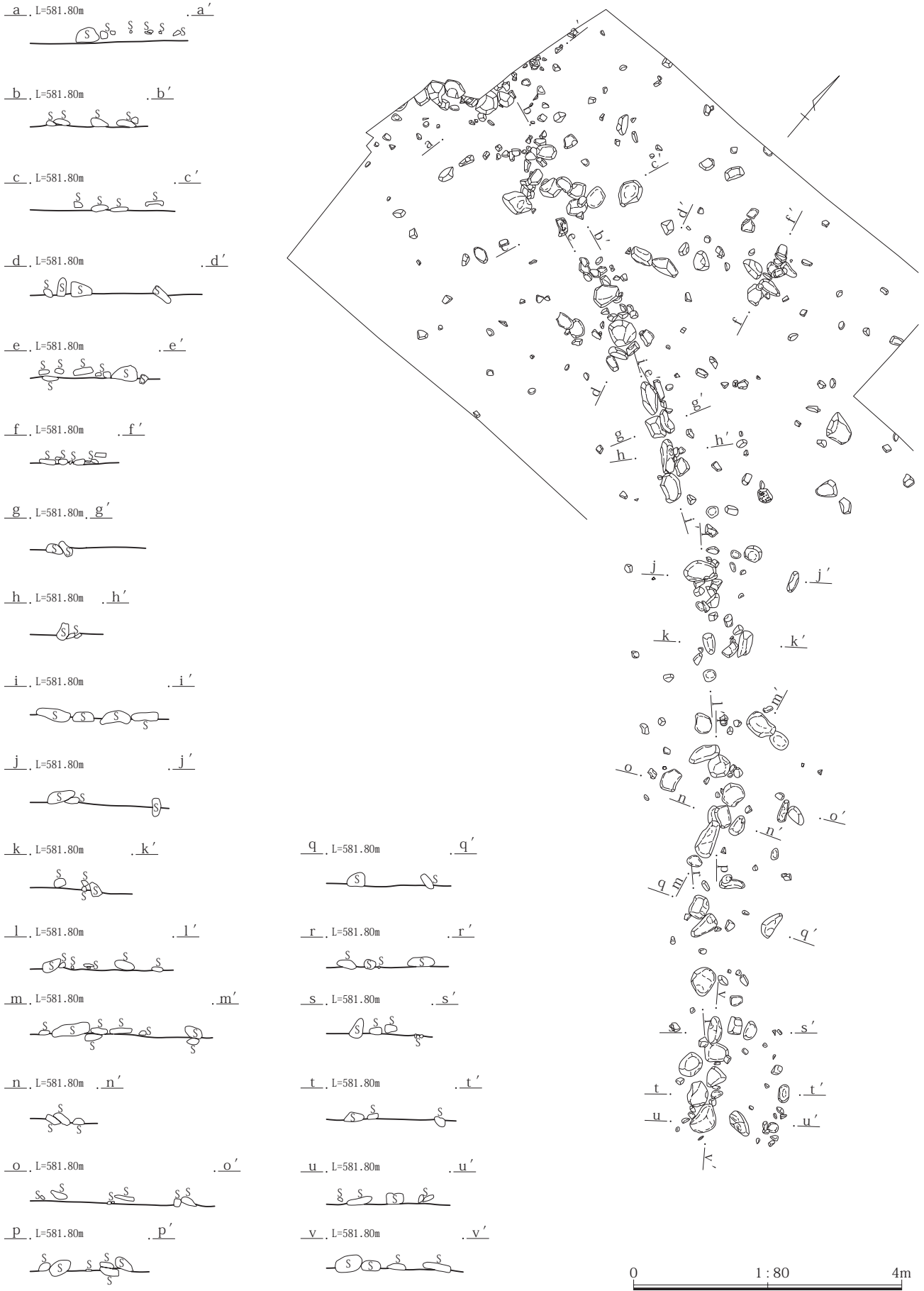


第79図 4・6号列石、1～7号埋葬

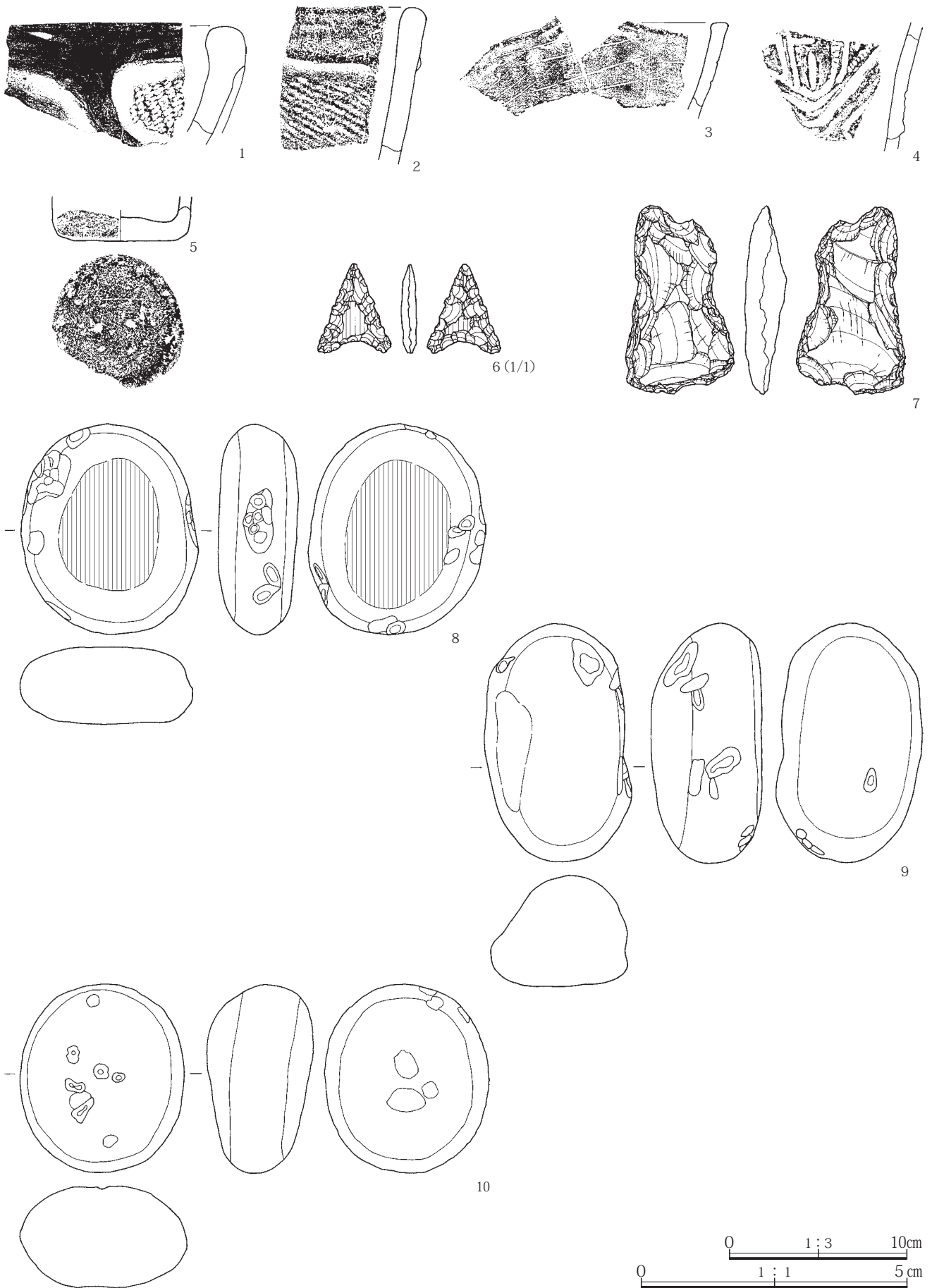
第3章 検出された遺構と遺物



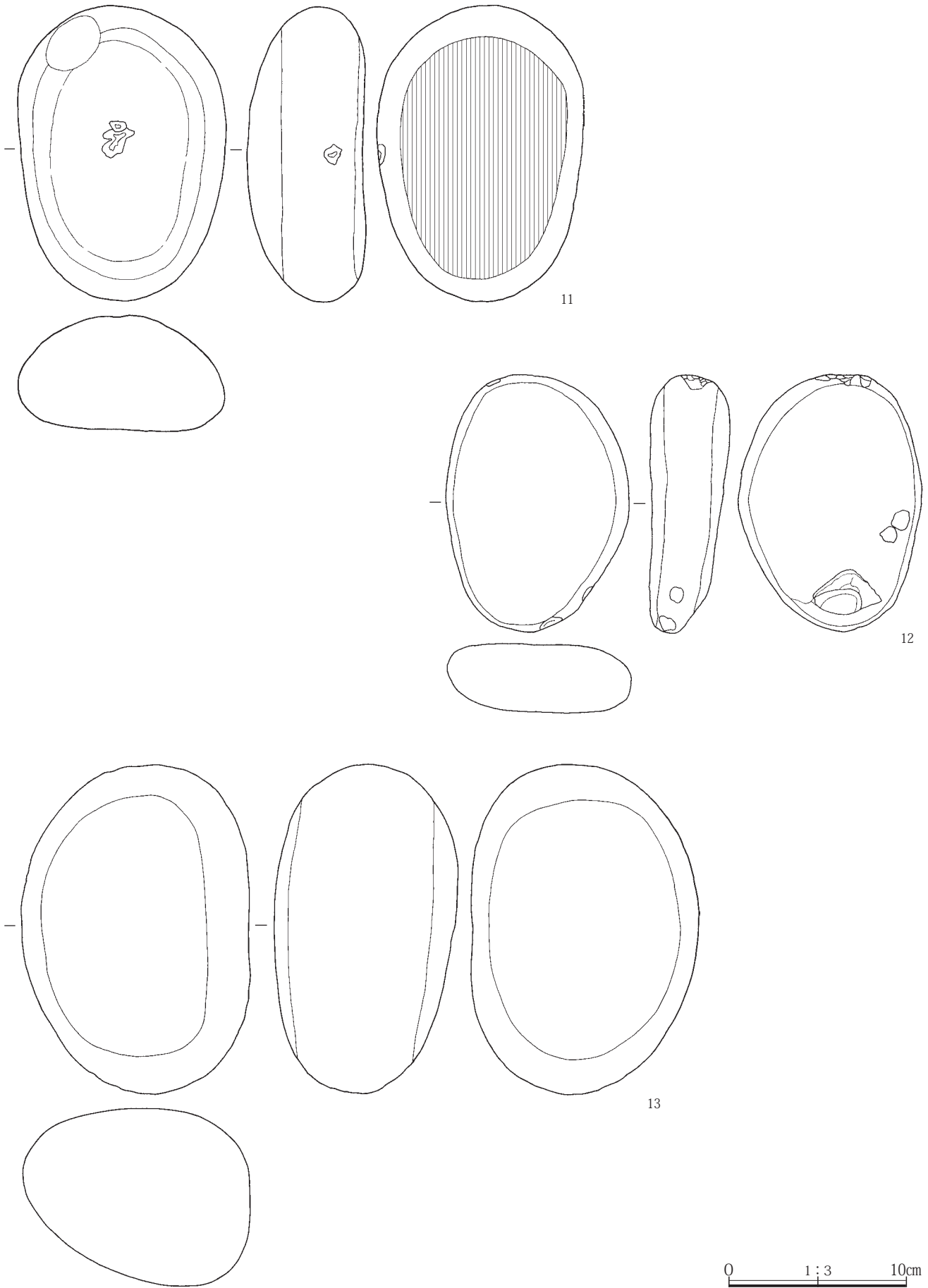
第80図 4号列石・出土遺物



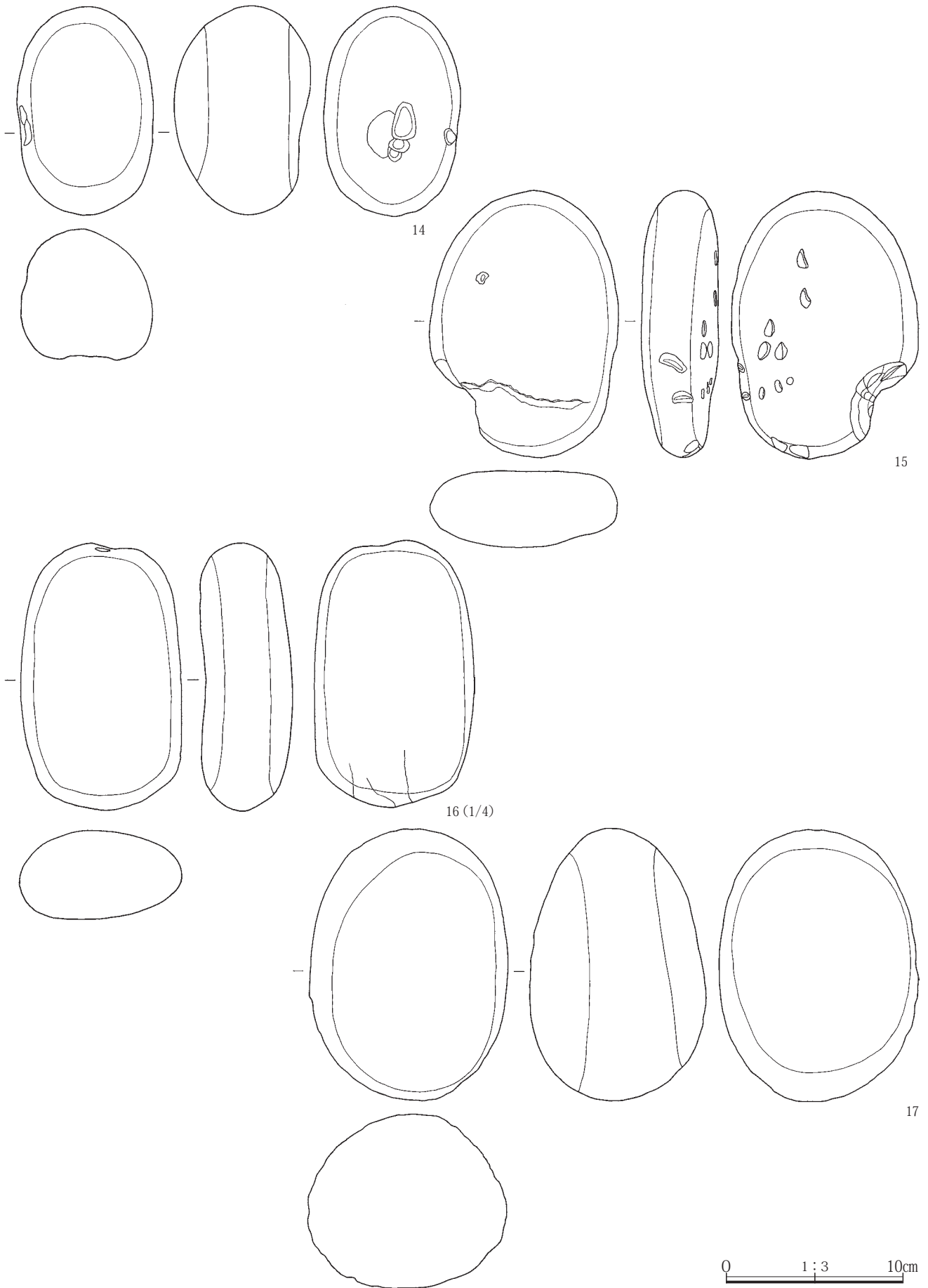
第81図 6号列石



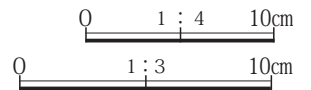
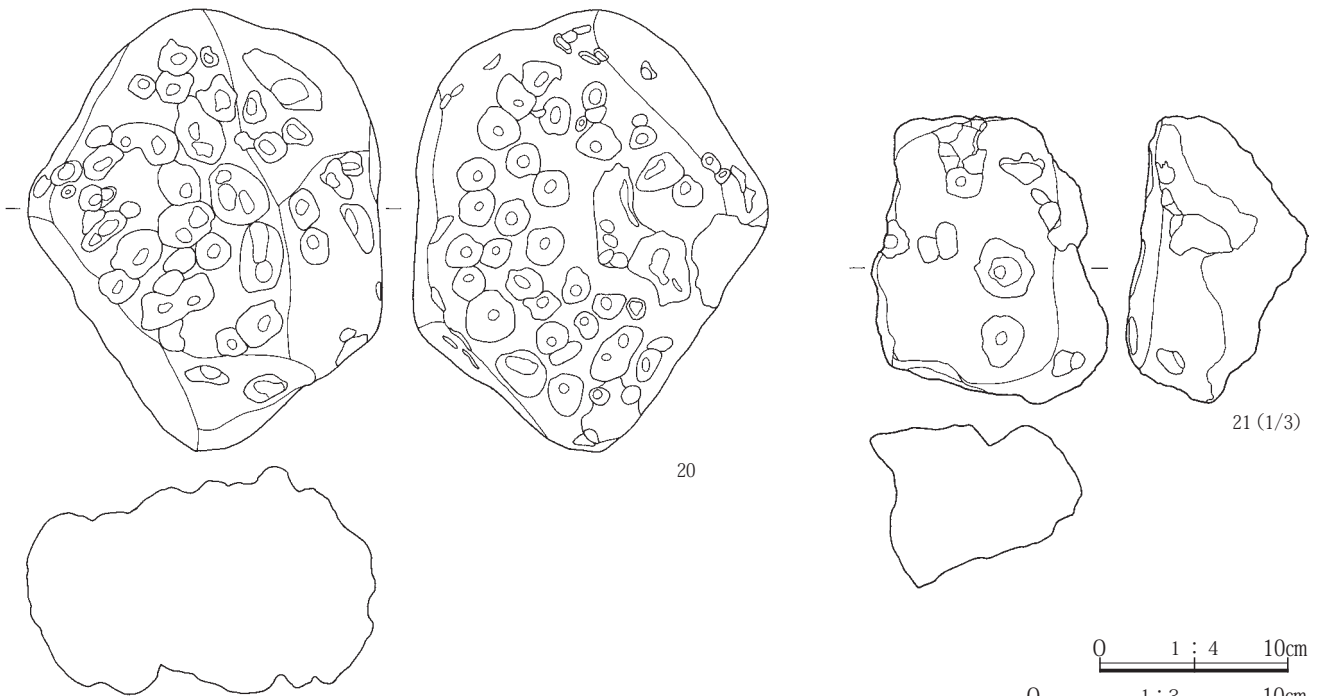
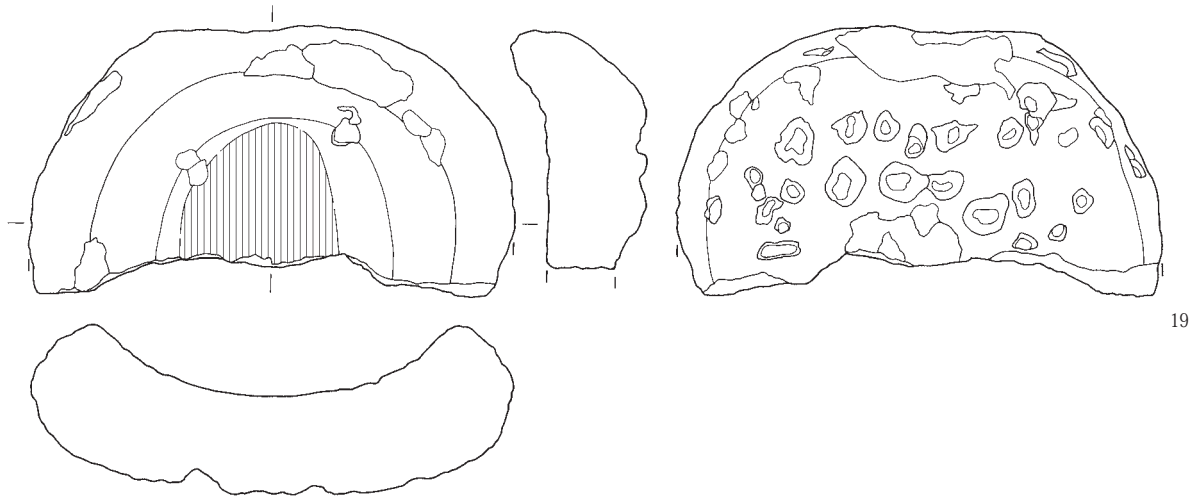
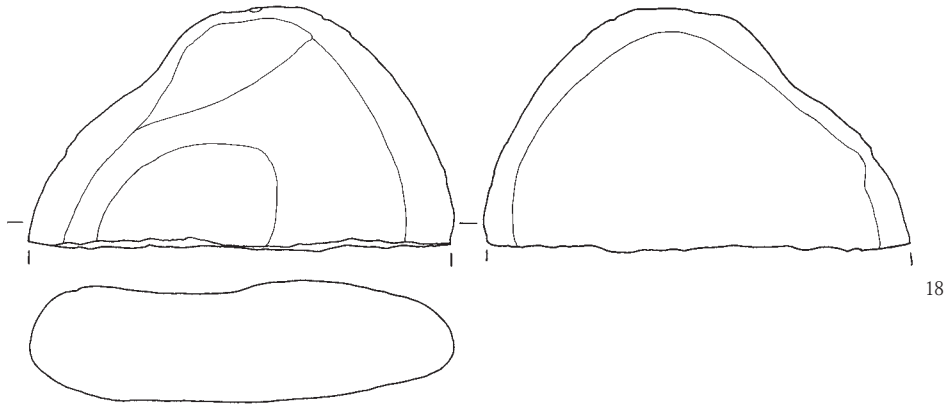
第82図 6号列石出土遺物(1)



第83図 6号列石出土遺物(2)



第84図 6号列石出土遺物(3)



第85図 6号列石出土遺物(4)

6. 遺構外出土遺物

尾坂遺跡において、遺構に伴わず出土した縄文時代の土器、石器類は多量にのぼっている。

縄文土器は図126に示すように、調査区74・75区に集中している、これは縄文時代の遺構の濃密差と比例している。

吾妻川の河岸部からやや下がる場所に広がっている状況が見られる。

土器の時期を見ても中期後葉に帰属するものが多く、他の時期は極めて少数であることも、遺構の多寡と齟齬は見られない。

土器の他には、数は少ないが土製円盤や土偶の脚とみられる土製品が1点見られる。

石器についても、遺構外出土のものが多く、土器と同様な分布状況が見られる。時期もこの時期に帰属するものが多いものと考えられる。

(1) 土器・土製品(第86～104・126図、PL.30・86～96)

遺構外とした土器、土製品は、遺構の集中する74区・75区において出土数が最も多い。時期的には遺構の主体的な時期である中期後葉に比定され、検出された遺構と時期的に合致するものである。尾坂遺跡で、最も多くの人が生活を営んでいた時期ということができる。

中期後葉を中心に、極めて少量の後期、前期に比定されるものが見られる。

こうした状況の中、平成22年度の調査において、74区のT-6グリッドを中心とする範囲において、早期後半の土器片が集中して出土しており注目される。多くの地山由来の礫が集中する場所において、点在して出土した土器は、ほぼ1個体に接合された。(図87-1)

器形を復元し得た早期後半期の土器は、この僅か1点のみで、後続する時期のものとしては、前期前半、後半期の土器が見られるが、これも極めて少数である。

遺構外出土の土器の検討から、尾坂遺跡においては、中期中葉期には、生活の痕跡が窺えるようになるも、明確な遺構は見られない。中期後葉になり、集落の形成が行われ、住居等が構築され、生活に伴う土坑が形成されるようになる。しかし、継続しての居住は無く、後期にはいると遺構はほとんど見られなくなる、住居は検出されず、若干の土坑が認められるのみである。出土土器も

激減し、小破片が僅かに点在する程度である。

本遺跡北側の台地上に展開した、長野原一本松遺跡と比較すると、縄文時代に関しては、中期後葉に限定される、極めて短期で、比較的小規模な居住域であったと言える。

長野原一本松遺跡は、中期中葉から後期中葉にかけて営まれた環状集落で、住居の数も延べも250軒を超えている。大型の掘立柱建物なども複数検出されており、この地域における拠点集落であったと考えられる。

尾坂遺跡とは比高は30m程あるものの、直線距離にして500mと近く、集落間の交流なども考えられ、その関係性が注目される。

(2) 石器・石製品(第105～125図、PL.96～102)

石器に関しても、分布範囲は土器と重なっており、遺構の集中する範囲を中心に分布が見られた。

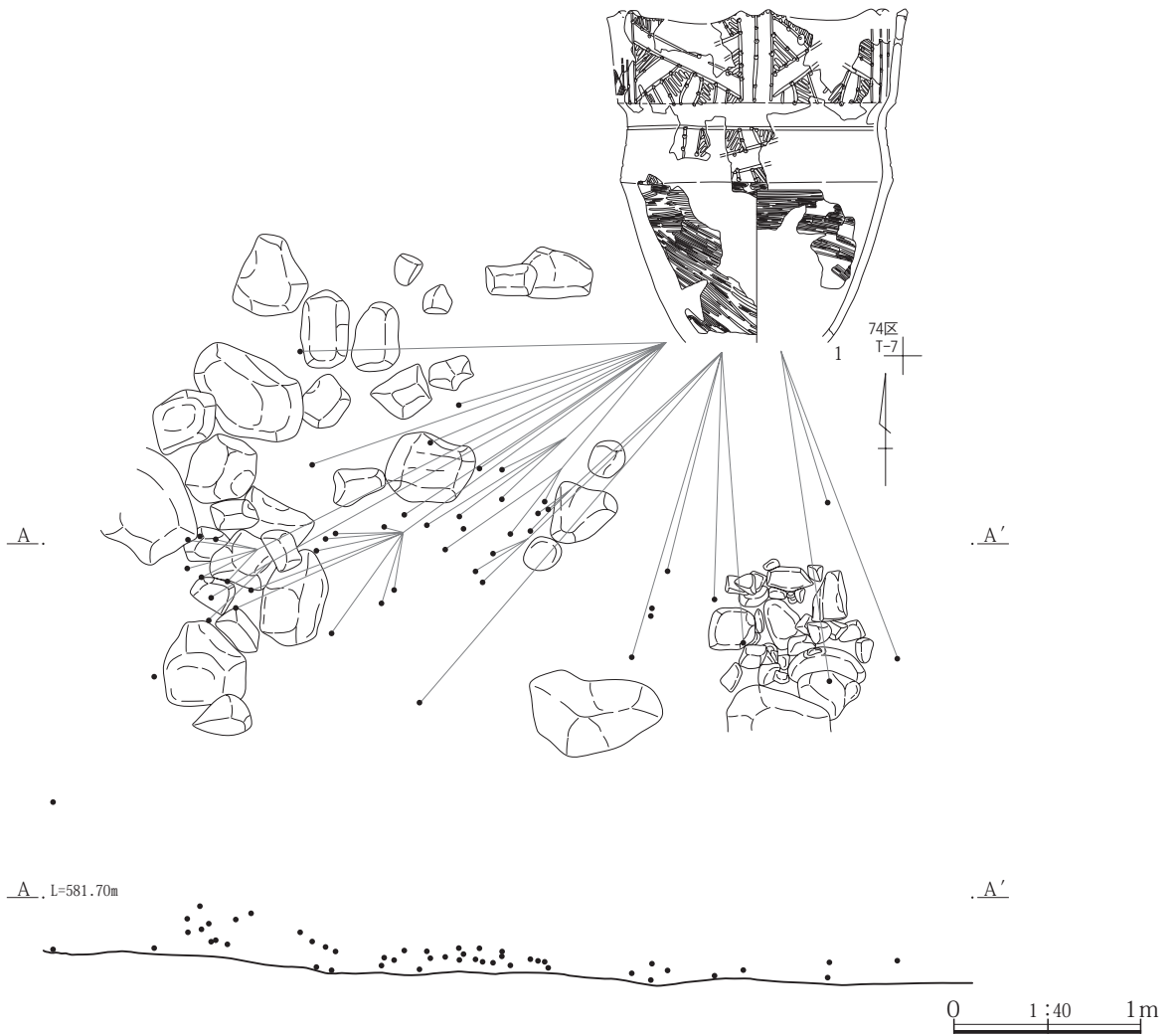
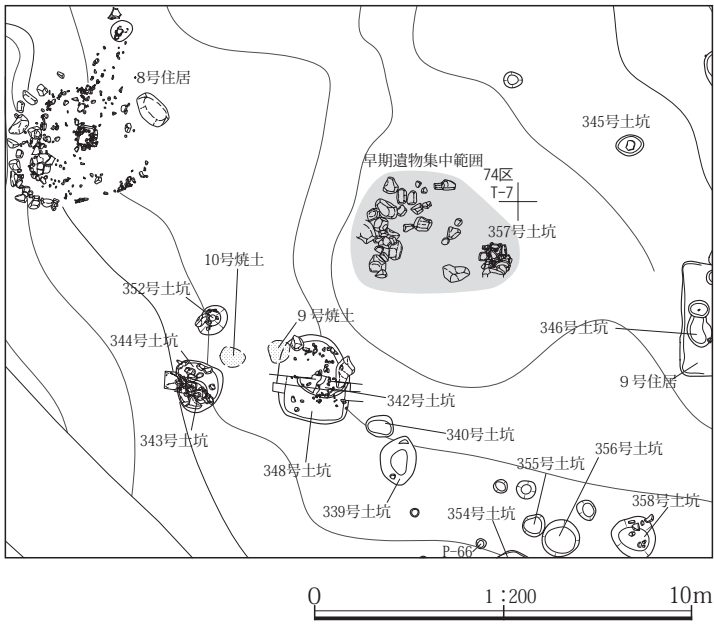
種類は石鏃、打製石斧、磨製石斧、凹石、磨石、石皿、多孔石等で磨石類が最も多く見られる。

打製石器類は、石鏃がかなりの数出土しているのを始め、打製石斧等が見られるものの数量的にはそれほどではない。磨製石斧の出土もあるが、いずれも欠損品で数は少なかった。これに対し、凹石、磨石類は相当数にのぼる、特に磨石とした河原石、円礫は全石器数の約半数を占めている。

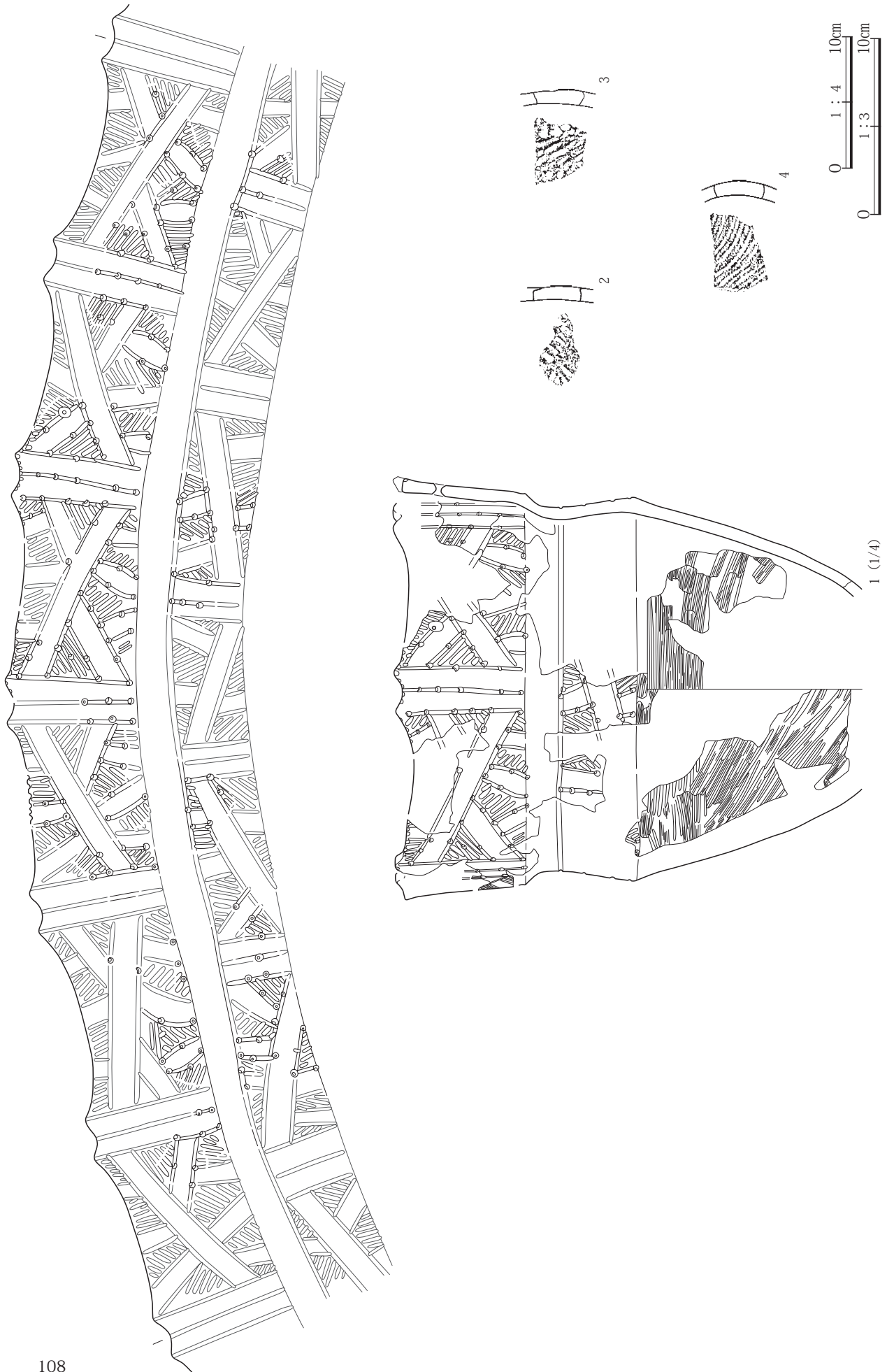
出土した石皿はいずれも破損品である。この他、石棒なども少数ではあるが見られる。緑泥片岩製のものは石剣の可能性もある。棒状の自然石を利用した、石棒とみられるものや、用途不明な軽石製品も複数出土している。このほか、玦状耳飾りの欠損品が1点出土している、時期は前期に帰属するものであろう。

図示した遺物の中には、弥生時代に帰属するものも含まれていると思われる。有茎鏃類、石鏃と見られる大型打製石器等についてはその可能性が高いが、明確に分けられない部分もあり、遺構外の石器として本項で扱った。

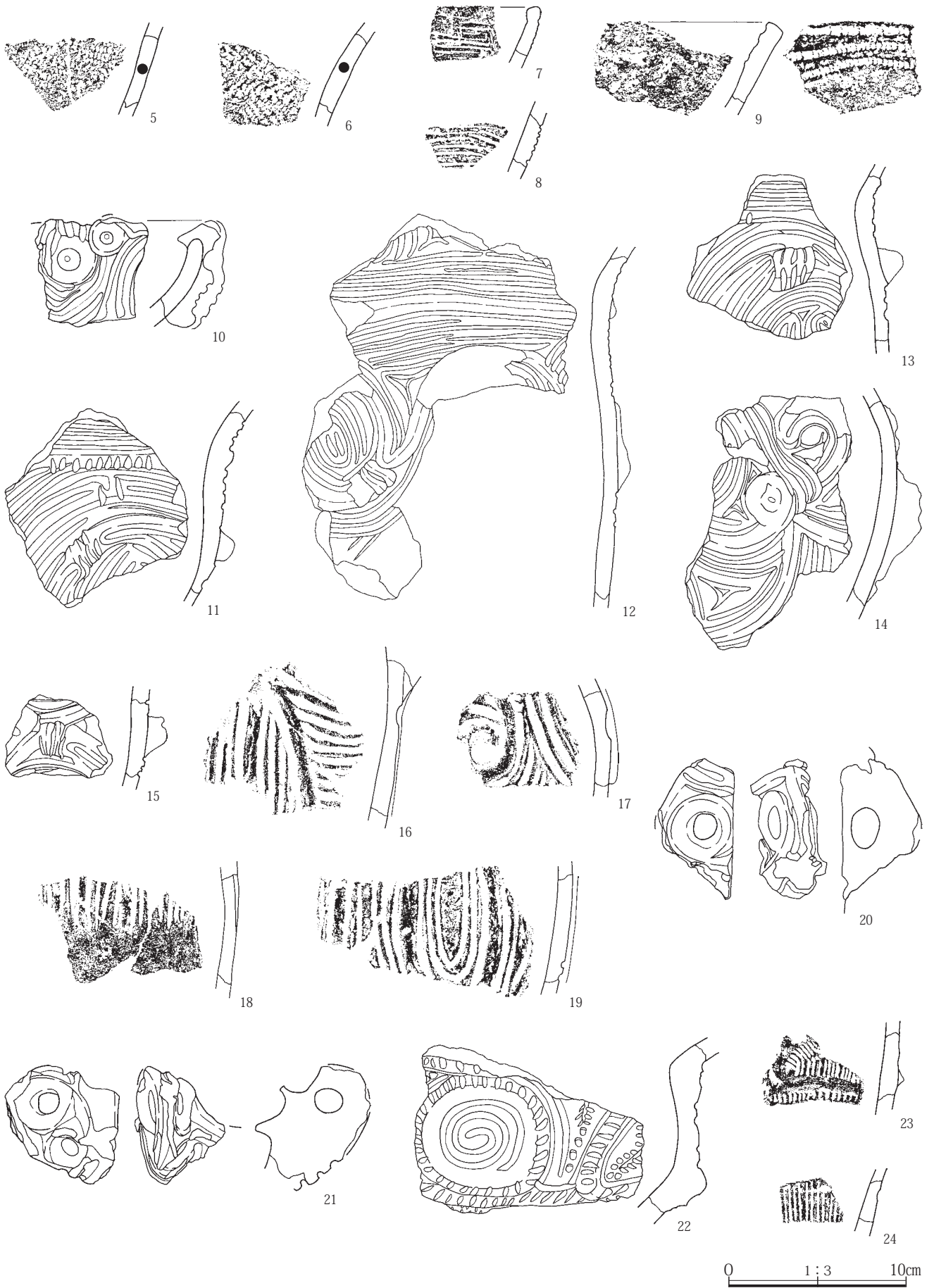
74区Q-14・15・18グリッドにおいて、土中より、赤褐色の小塊が数点見つかった、ベンガラの可能性もある。



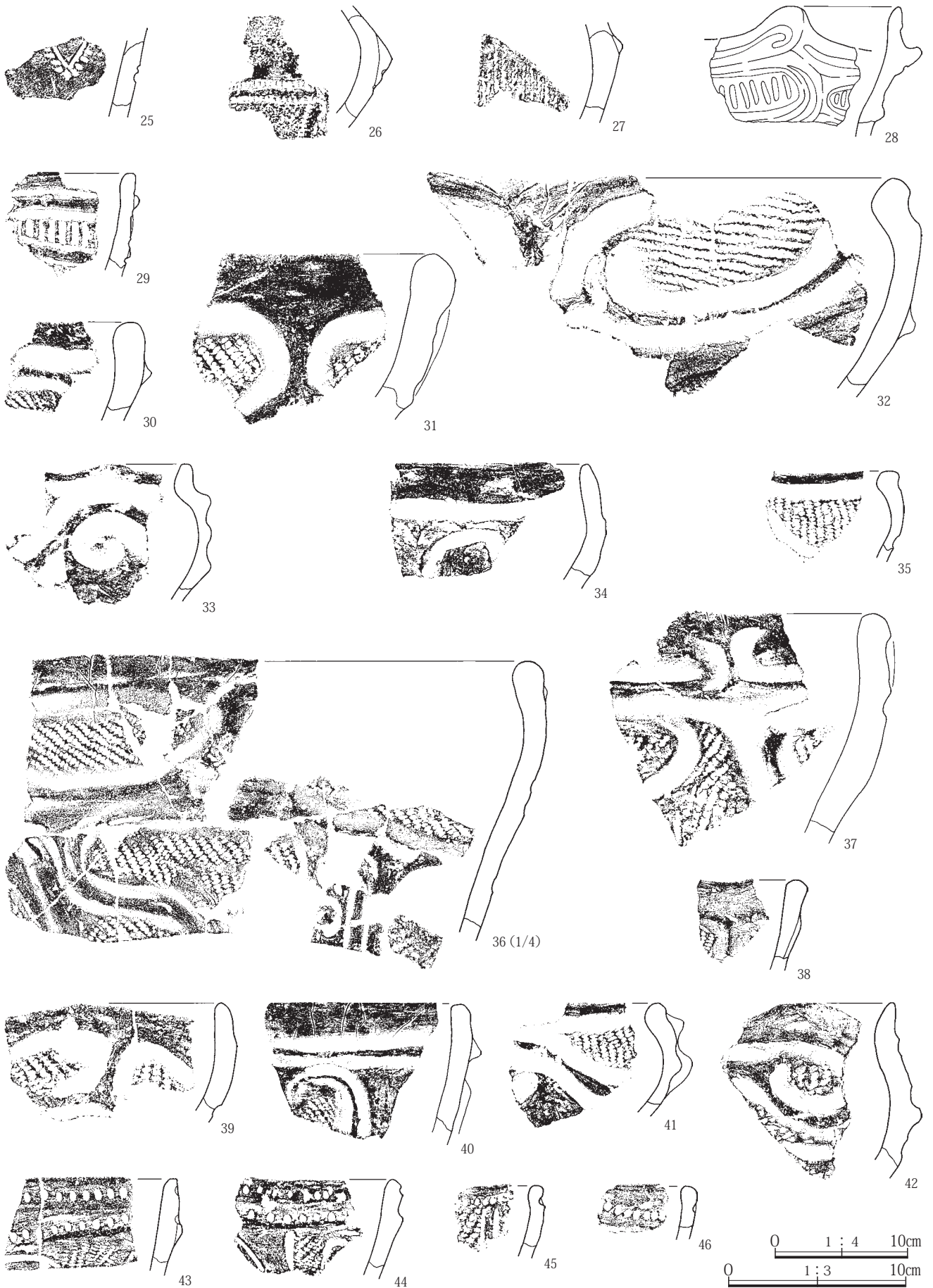
第86図 早期遺物出土位置・分布図



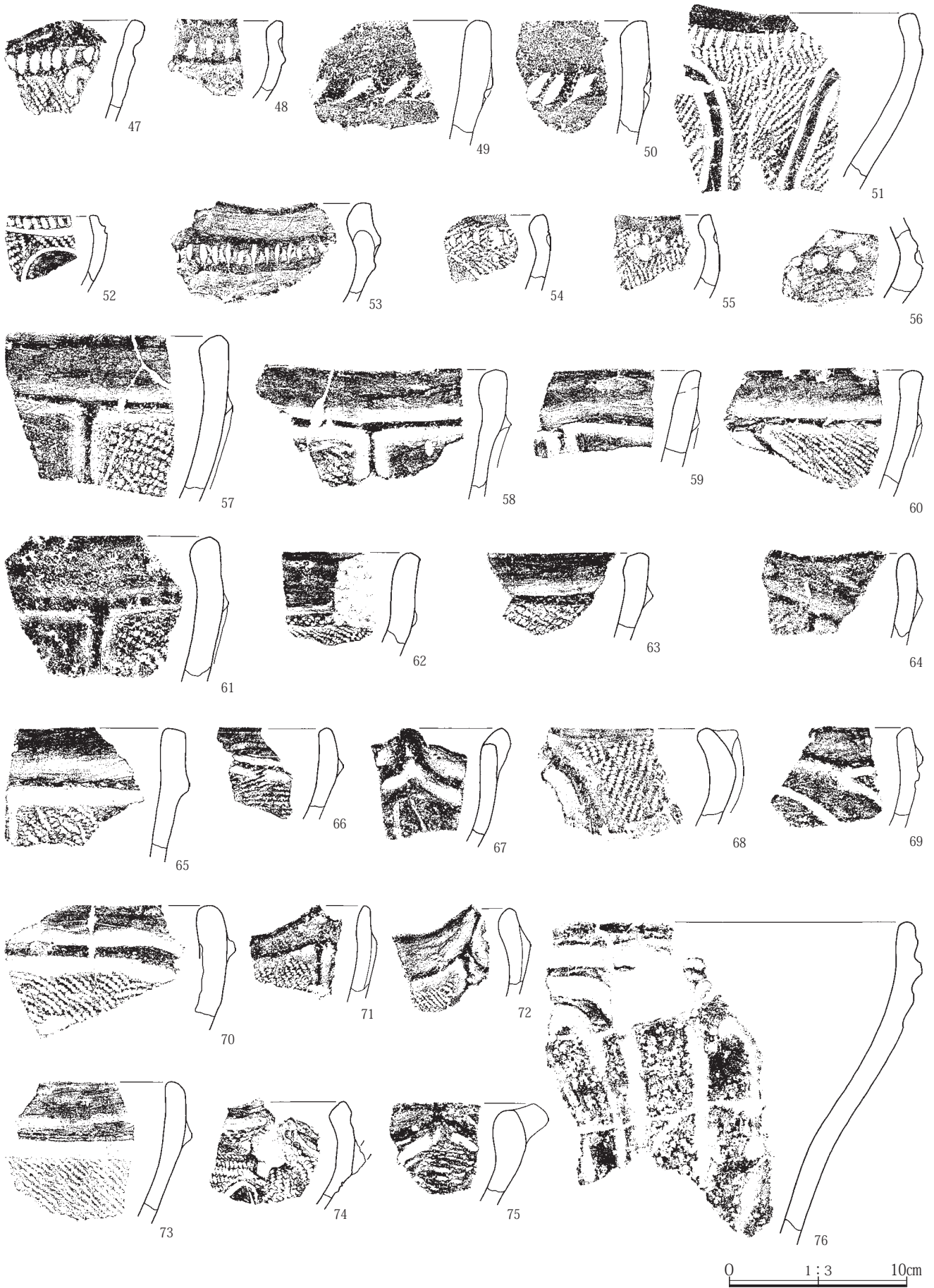
第87図 遺構外出土遺物(1)



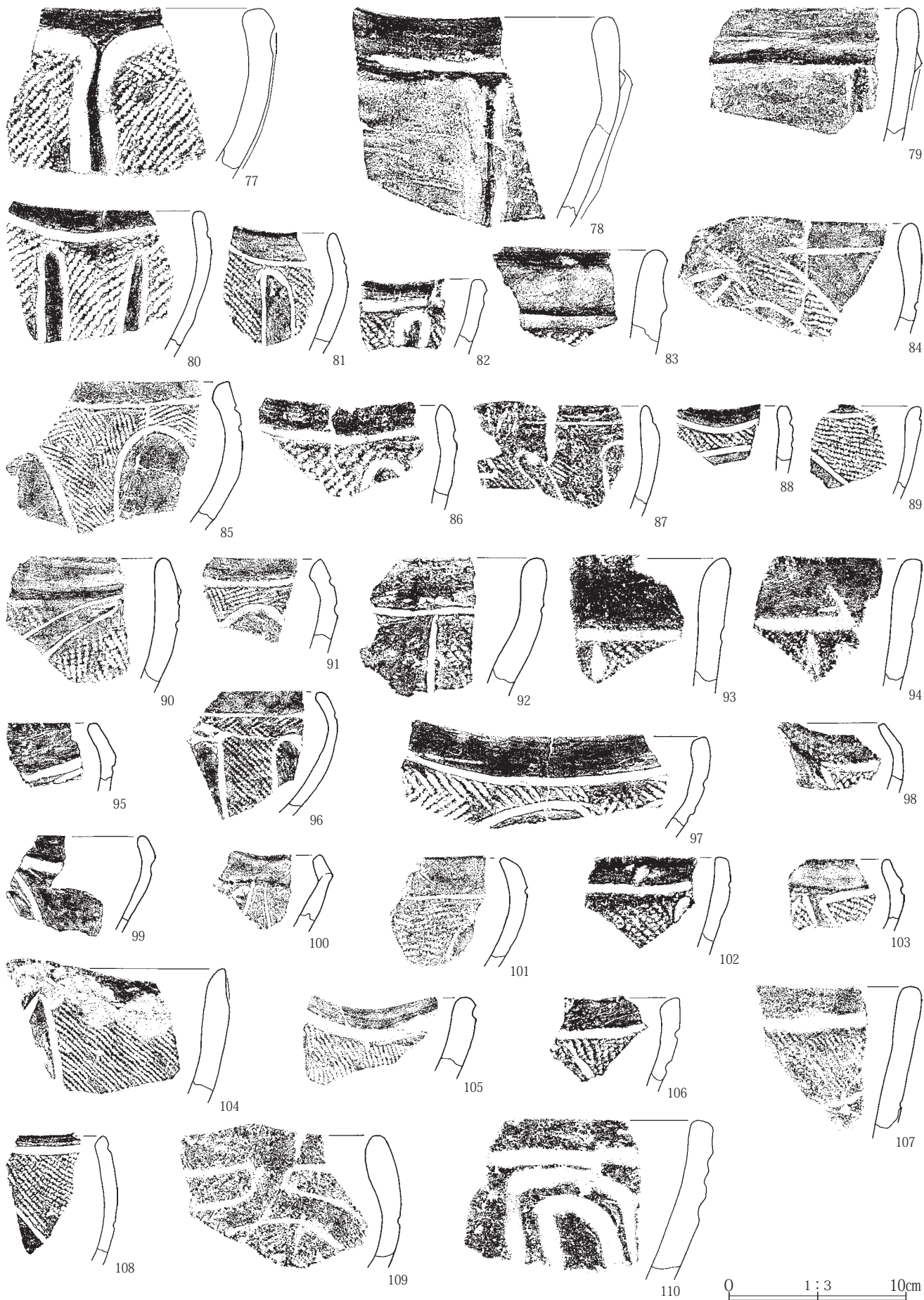
第88図 遺構外出土遺物(2)



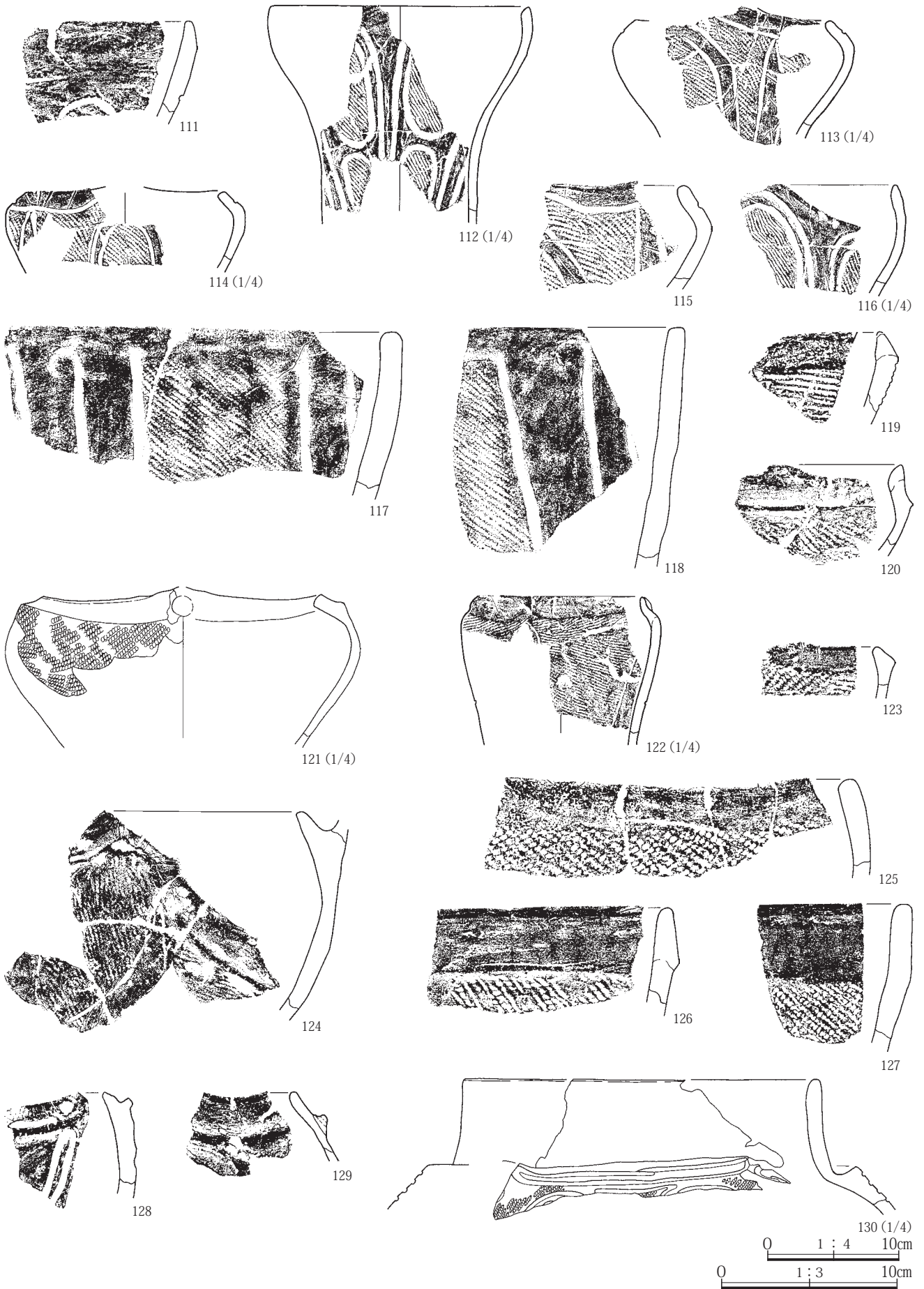
第89図 遺構外出土遺物(3)



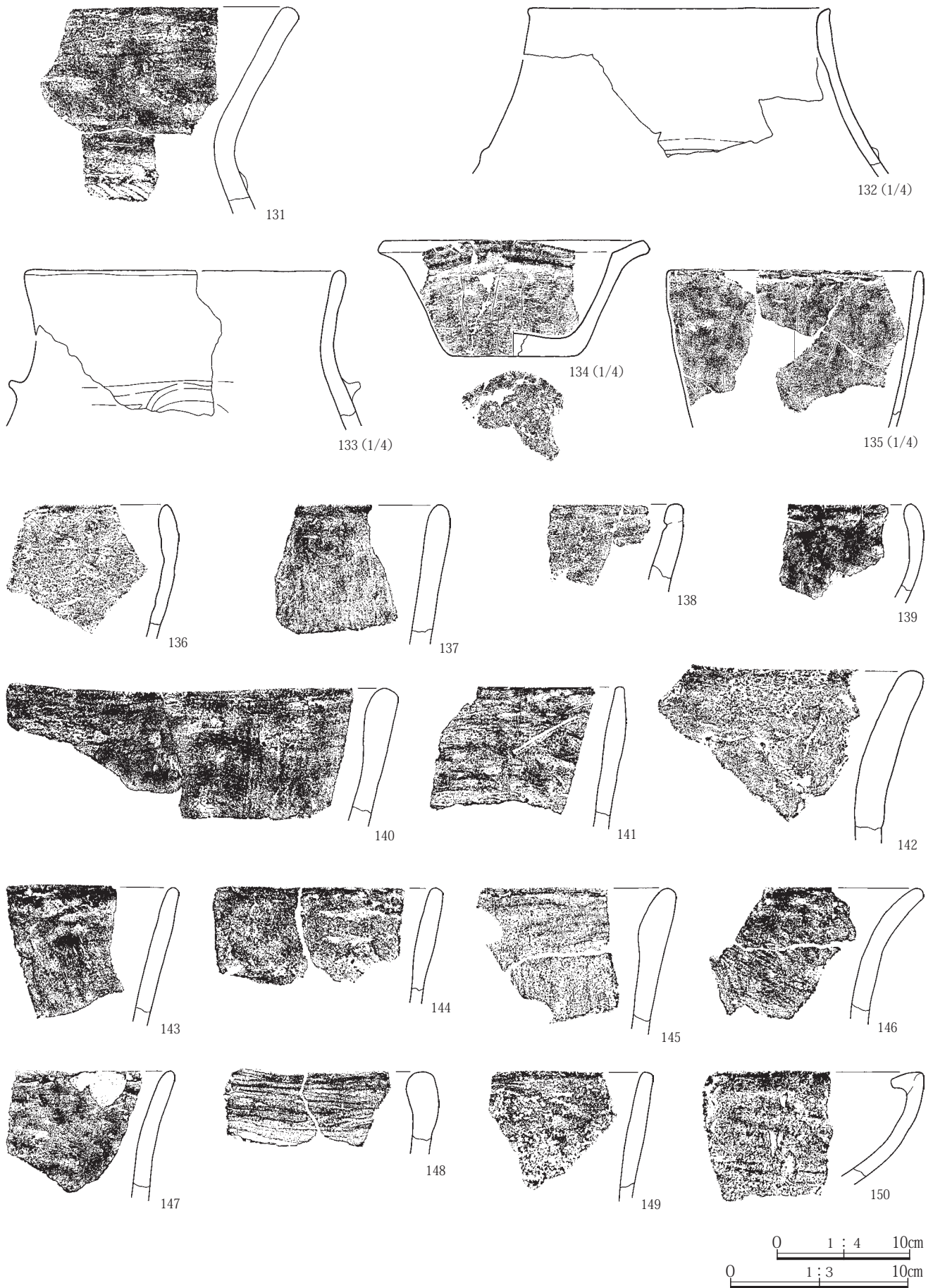
第90図 遺構外出土遺物(4)



第91図 遺構外出土遺物(5)



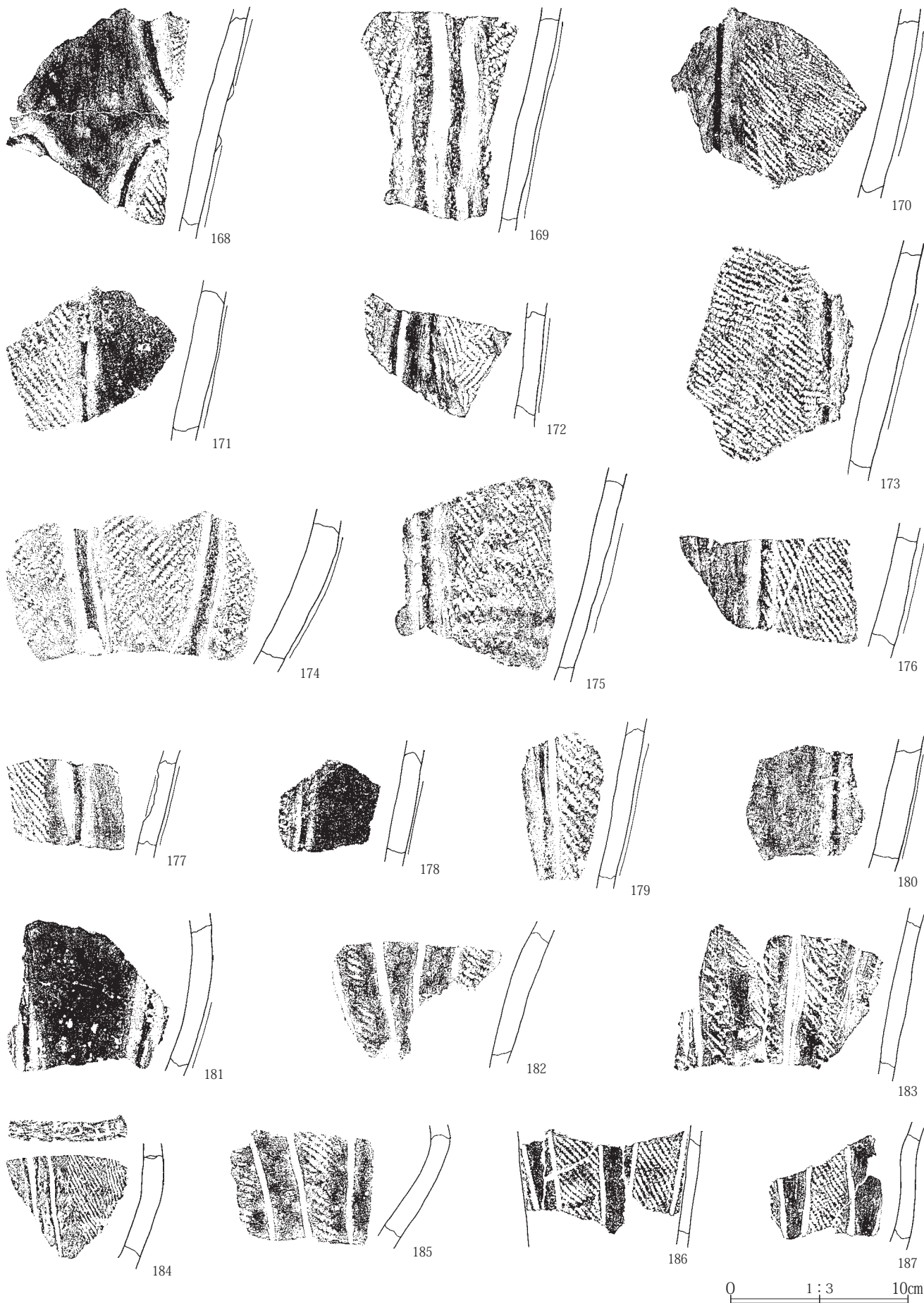
第92図 遺構外出土遺物(6)



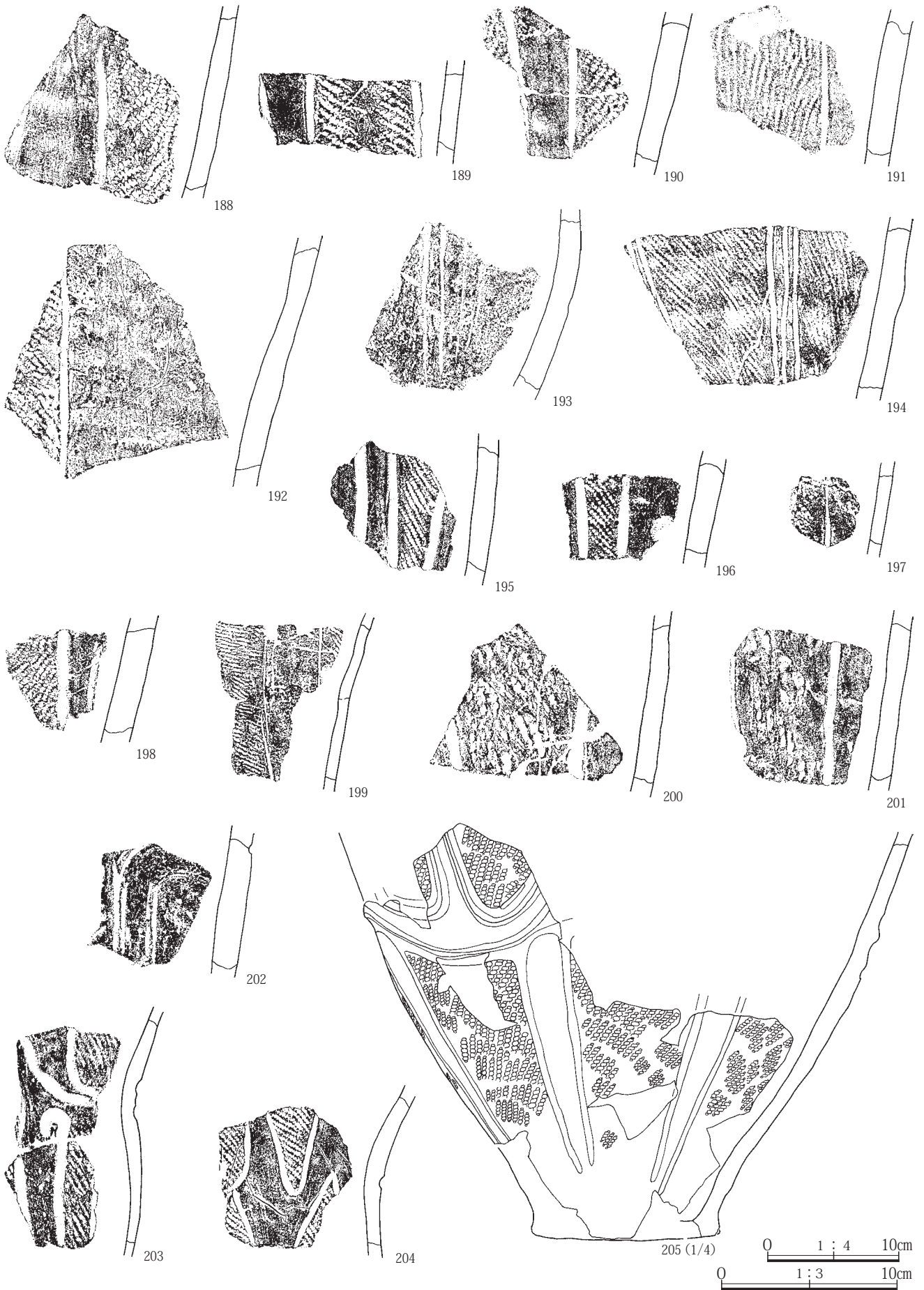
第93図 遺構外出土遺物(7)



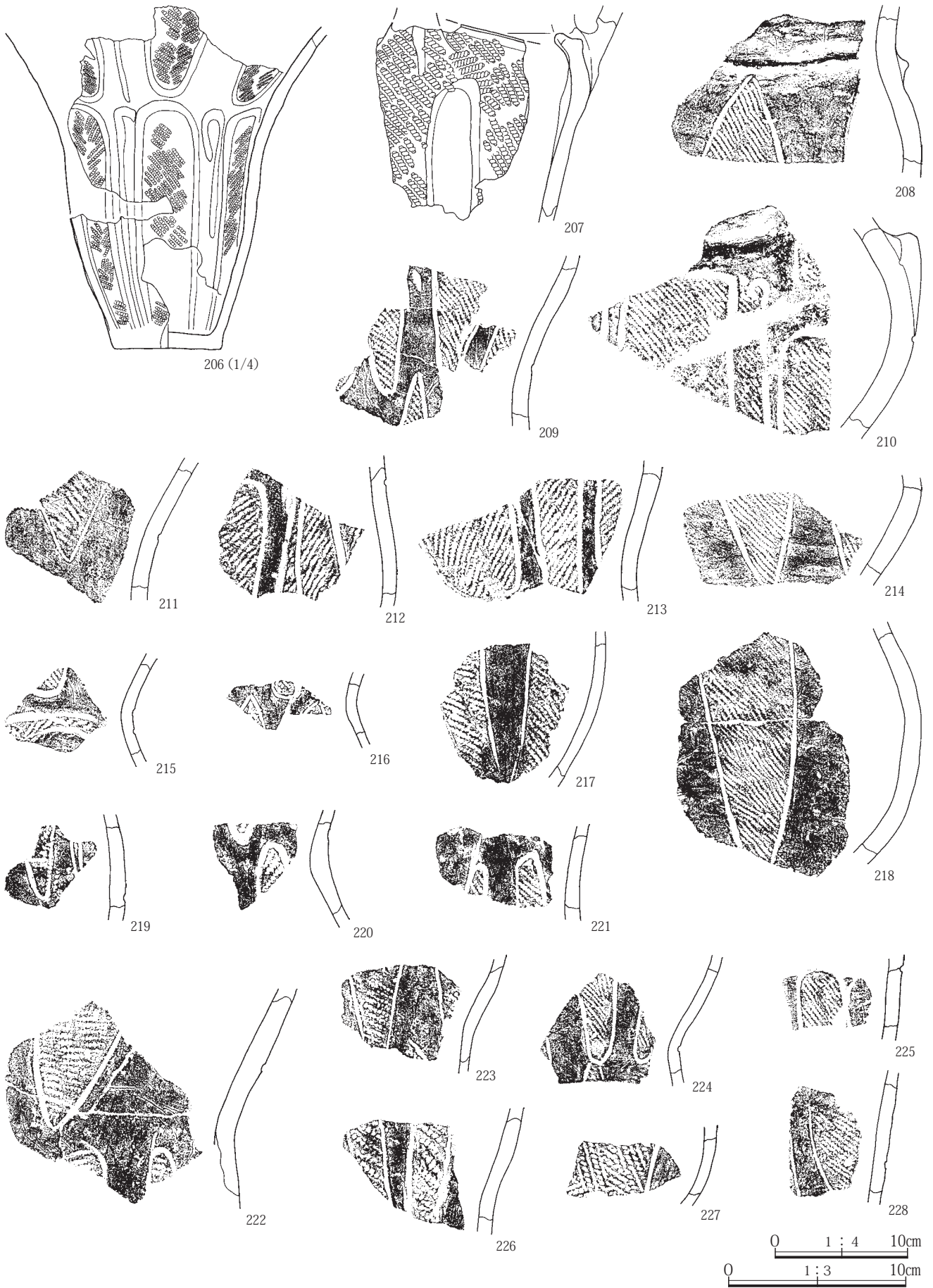
第94図 遺構外出土遺物(8)



第95図 遺構外出土遺物(9)



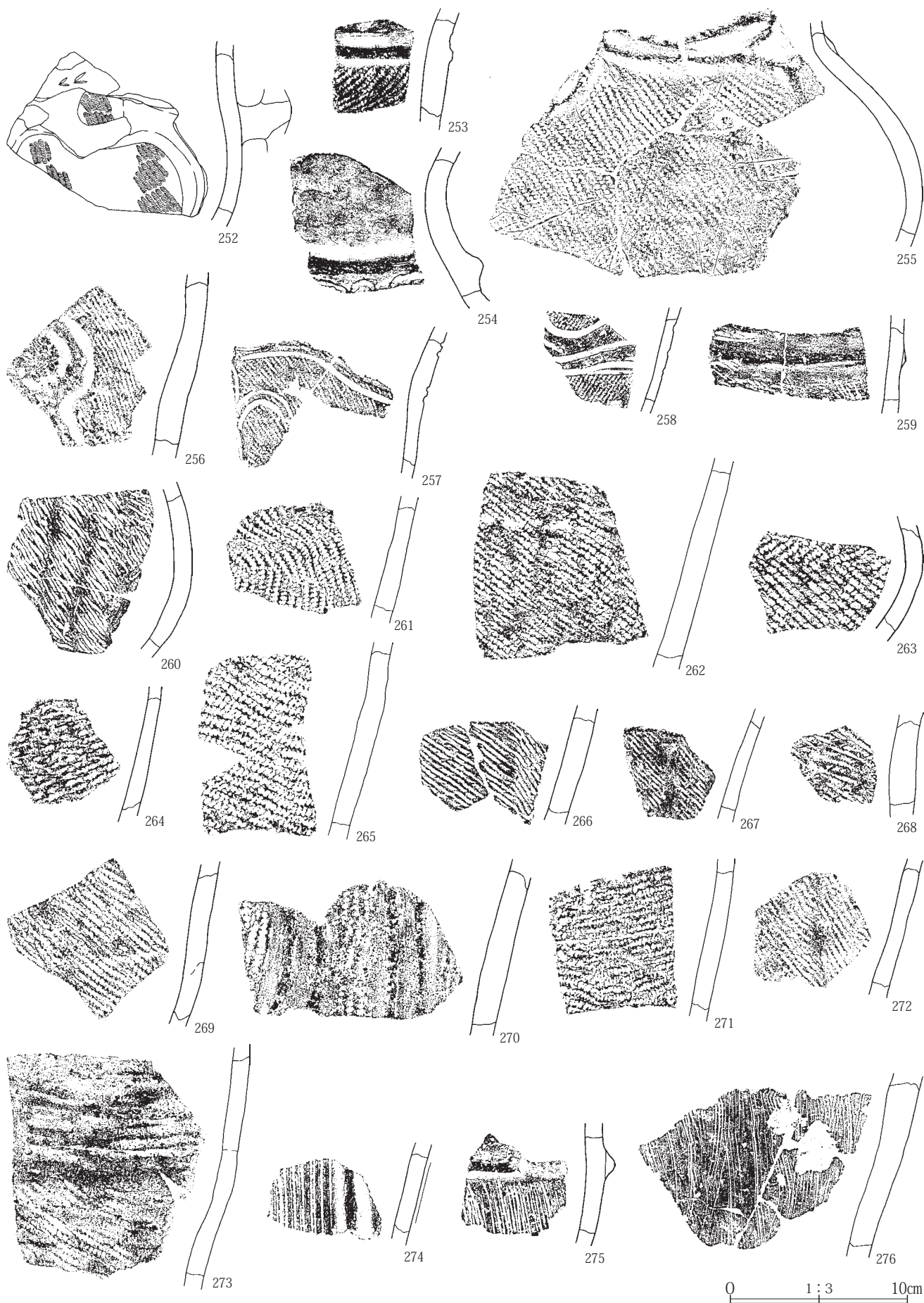
第96図 遺構外出土遺物(10)



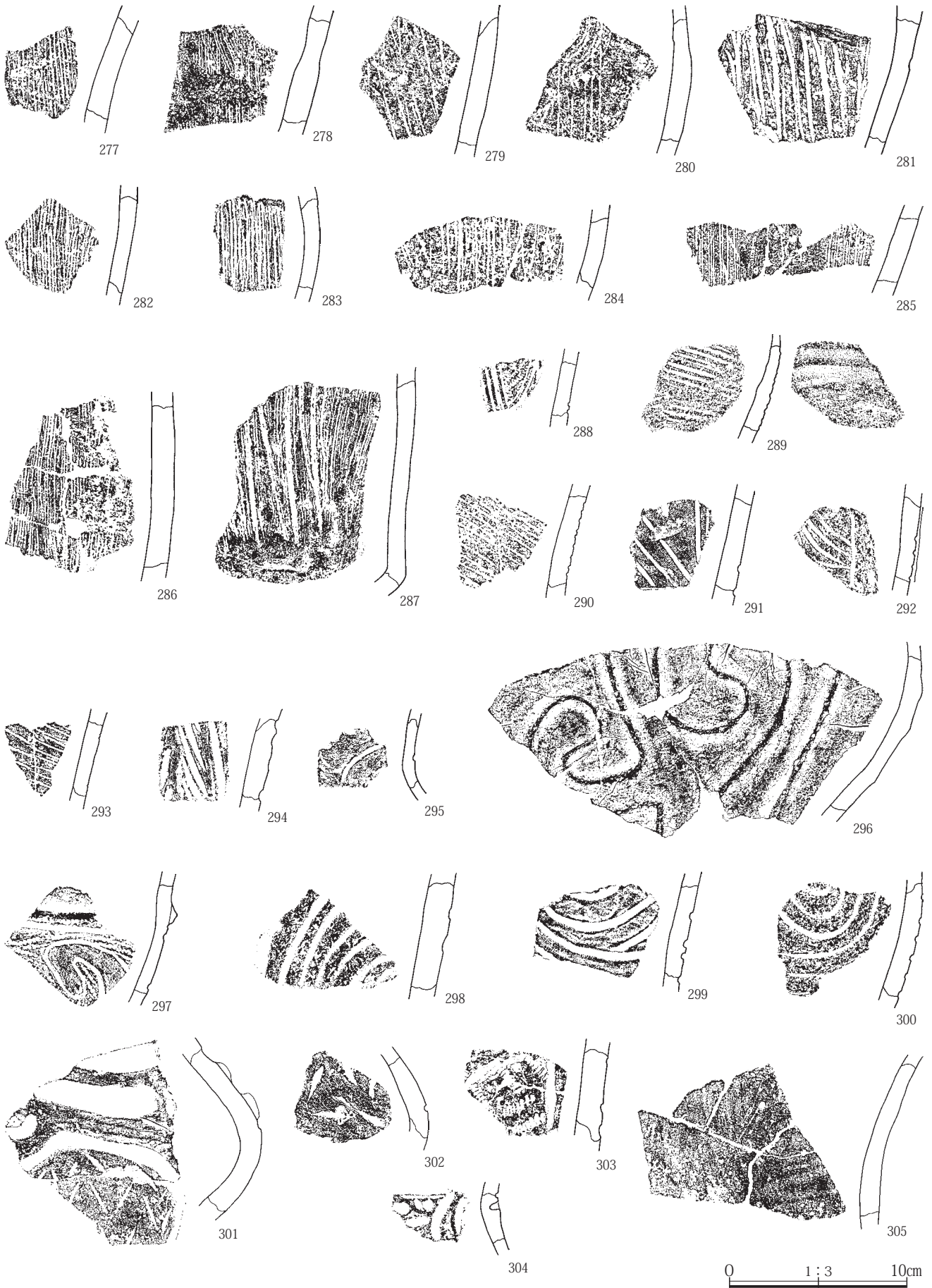
第97図 遺構外出土遺物(11)



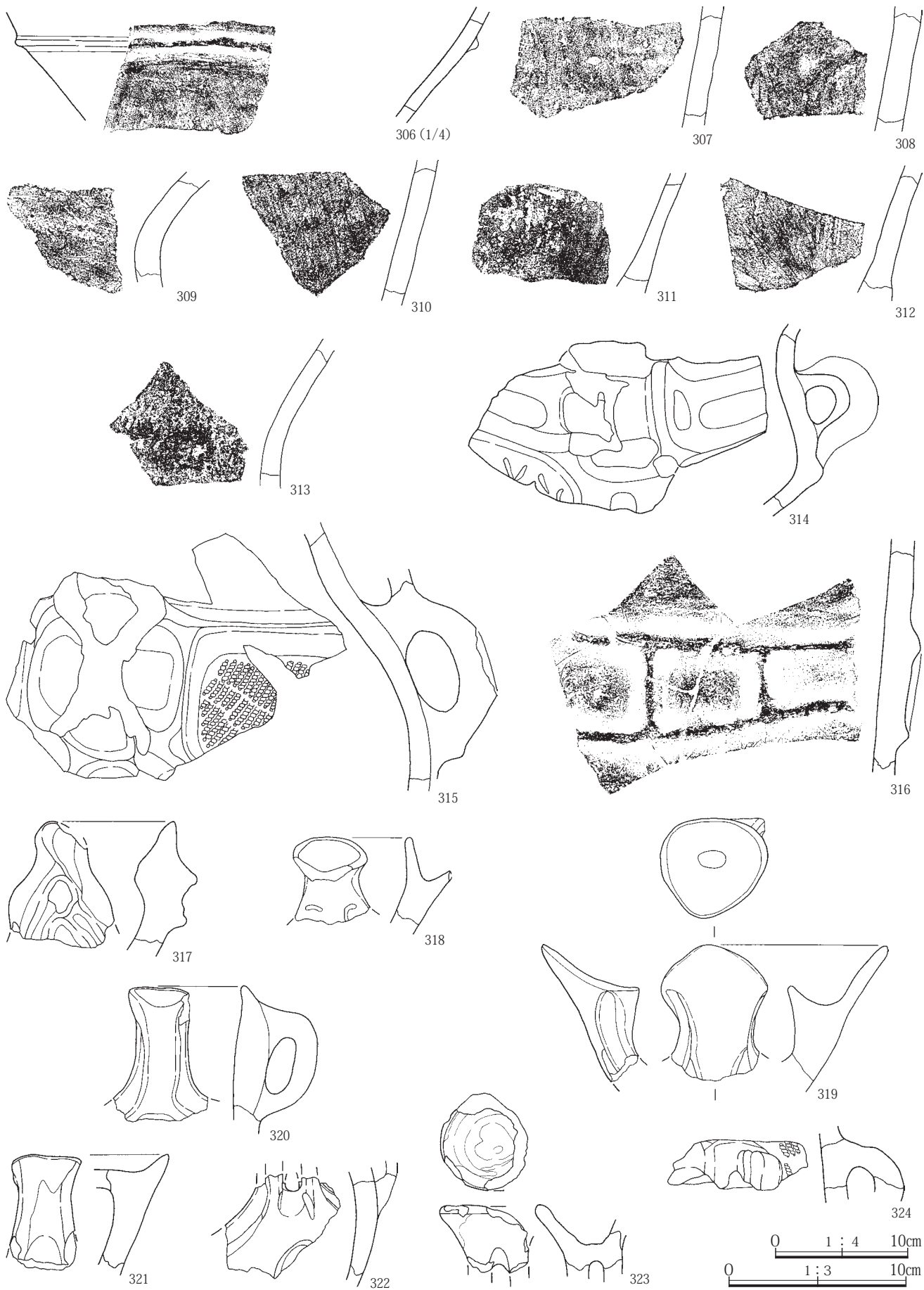
第98図 遺構外出土遺物(12)



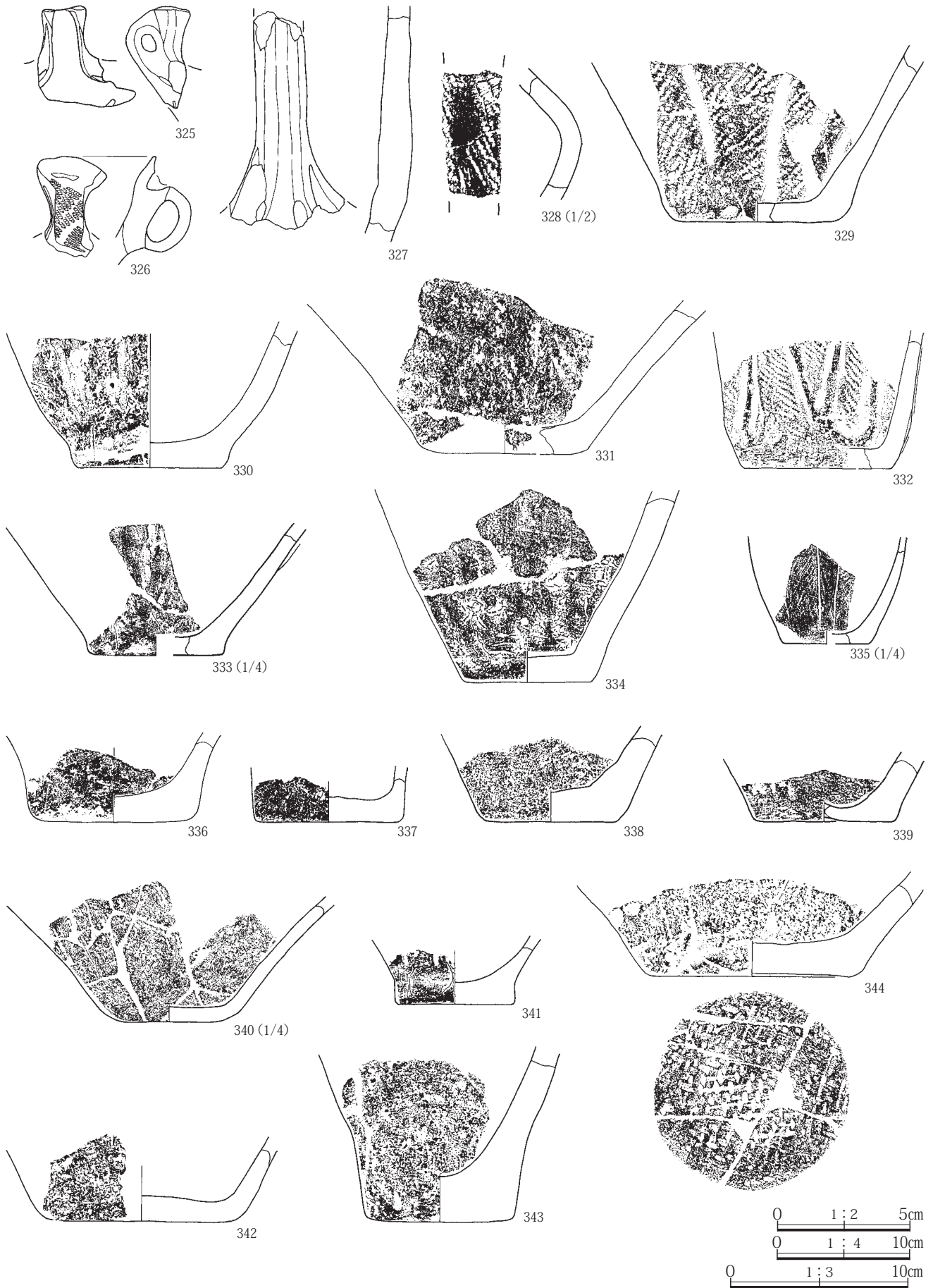
第99図 遺構外出土遺物(13)



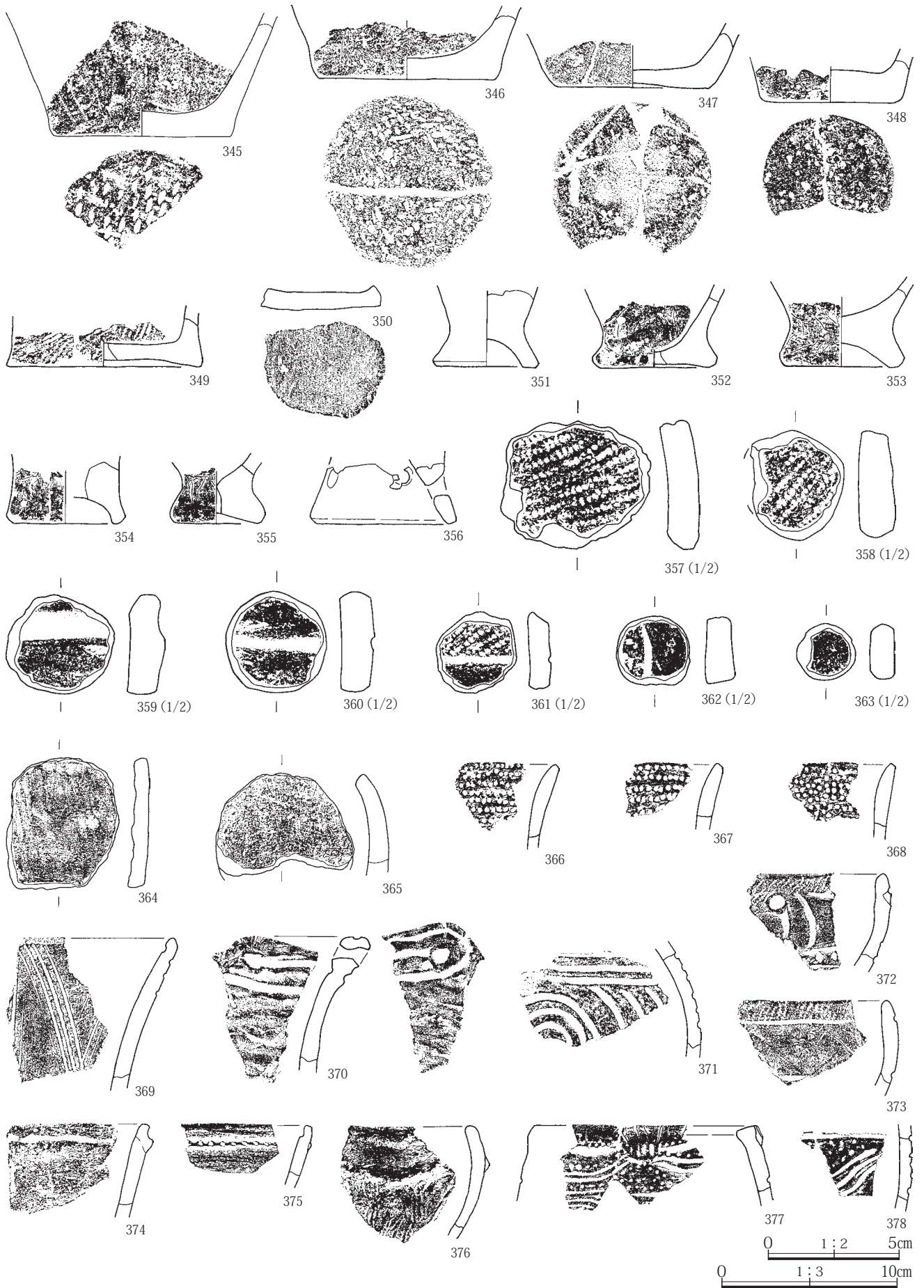
第100図 遺構外出土遺物(14)



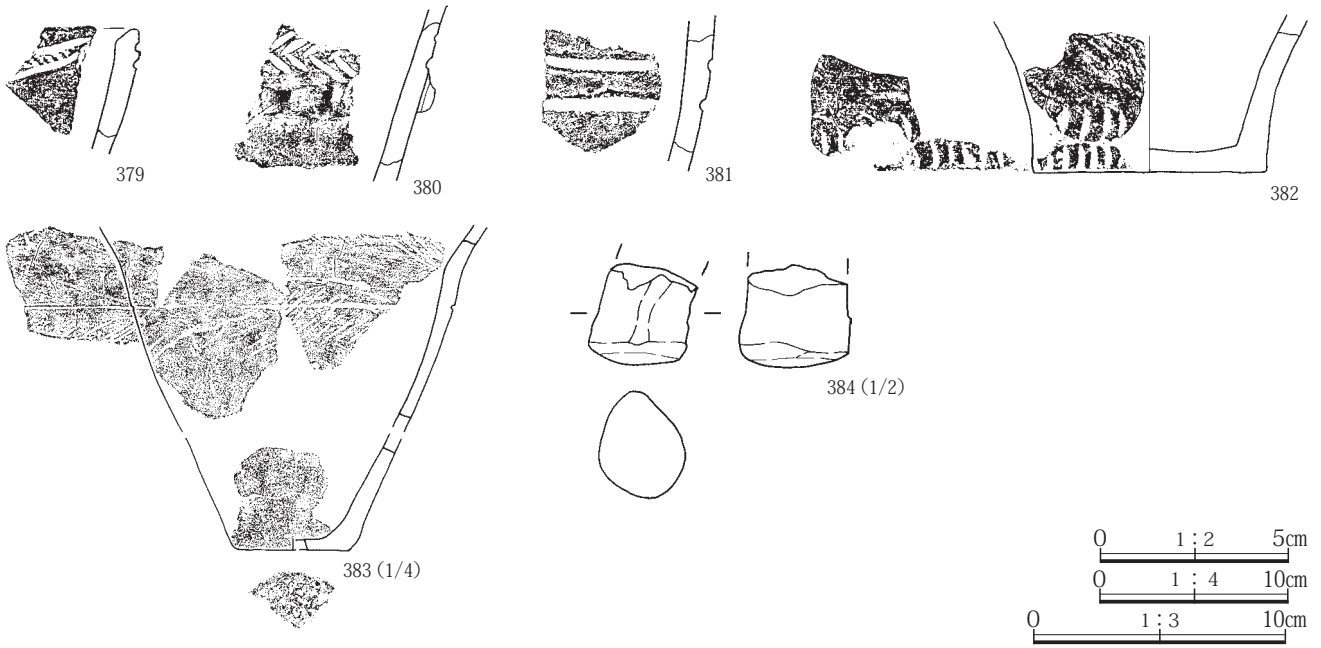
第101図 遺構外出土遺物(15)



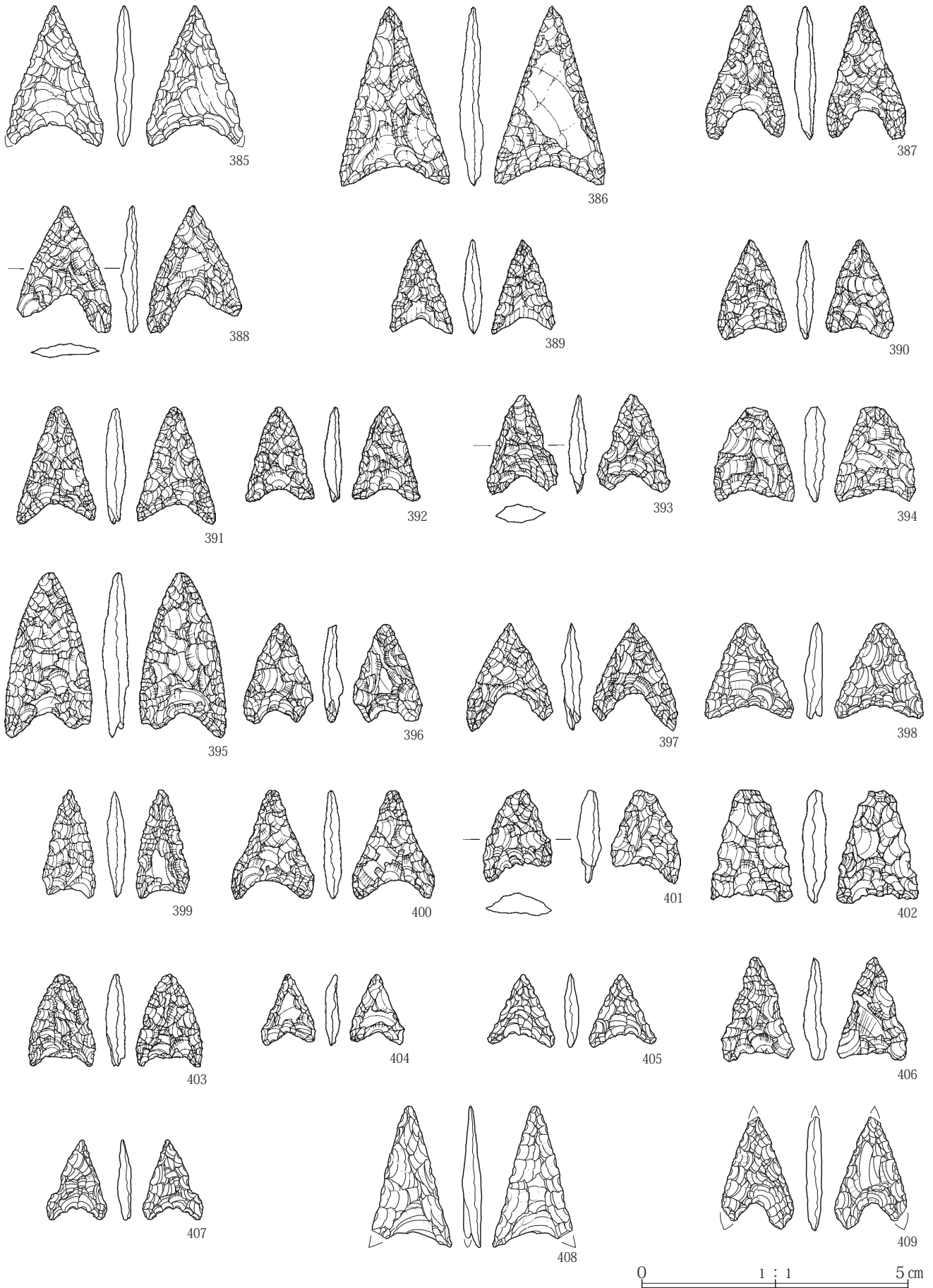
第102図 遺構外出土遺物(16)



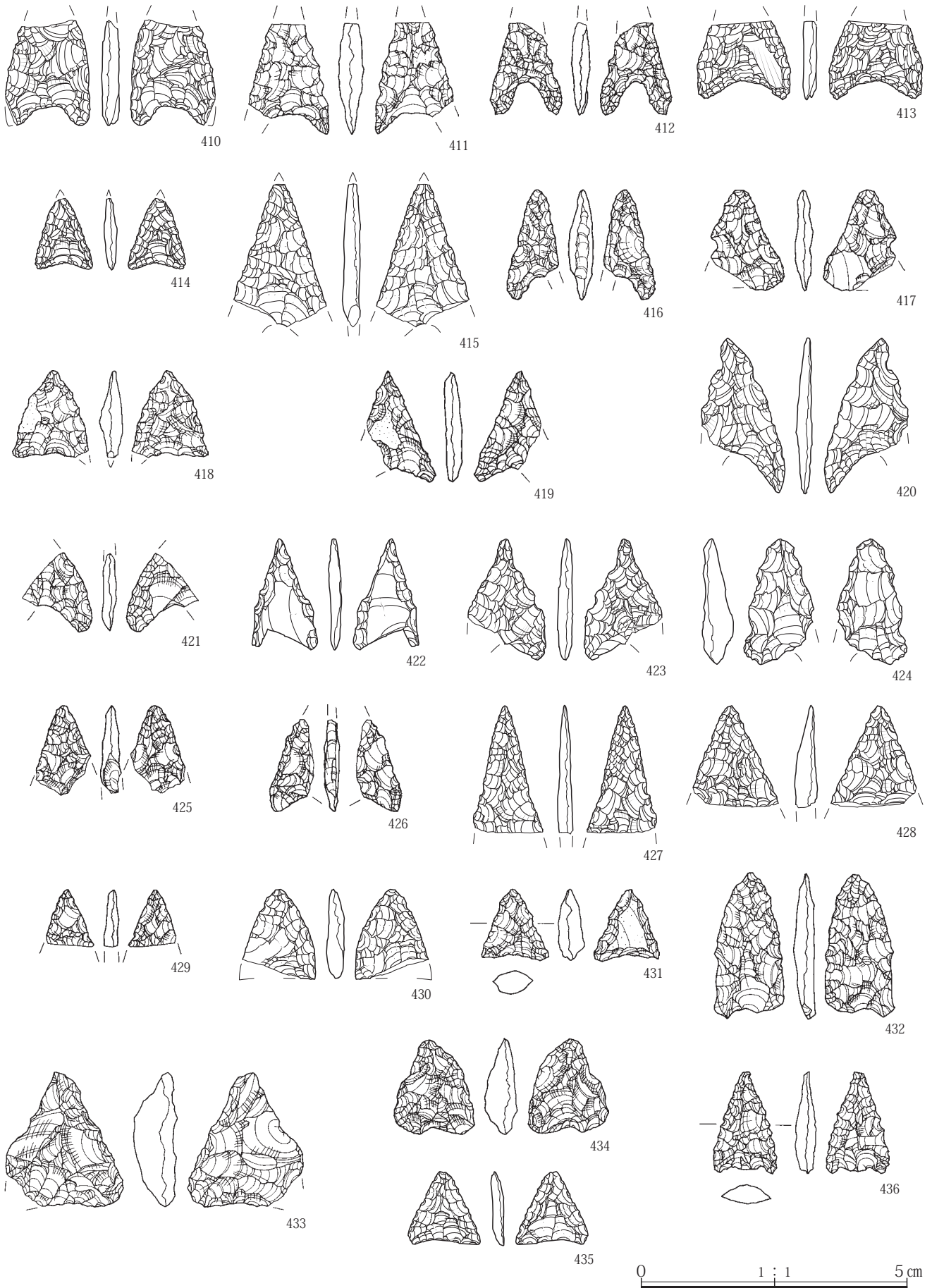
第103図 遺構外出土遺物(17)



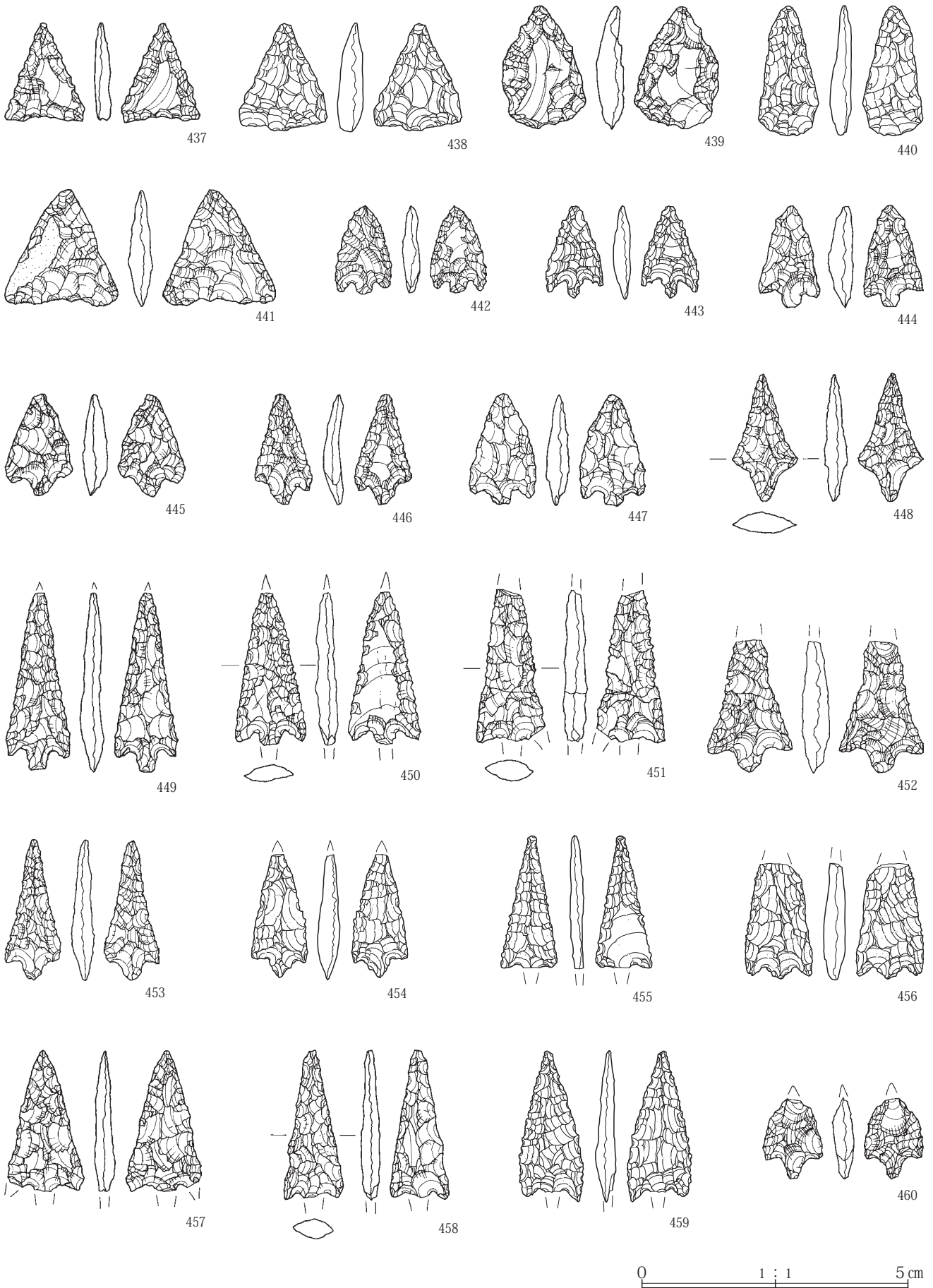
第104図 遺構外出土遺物(18)



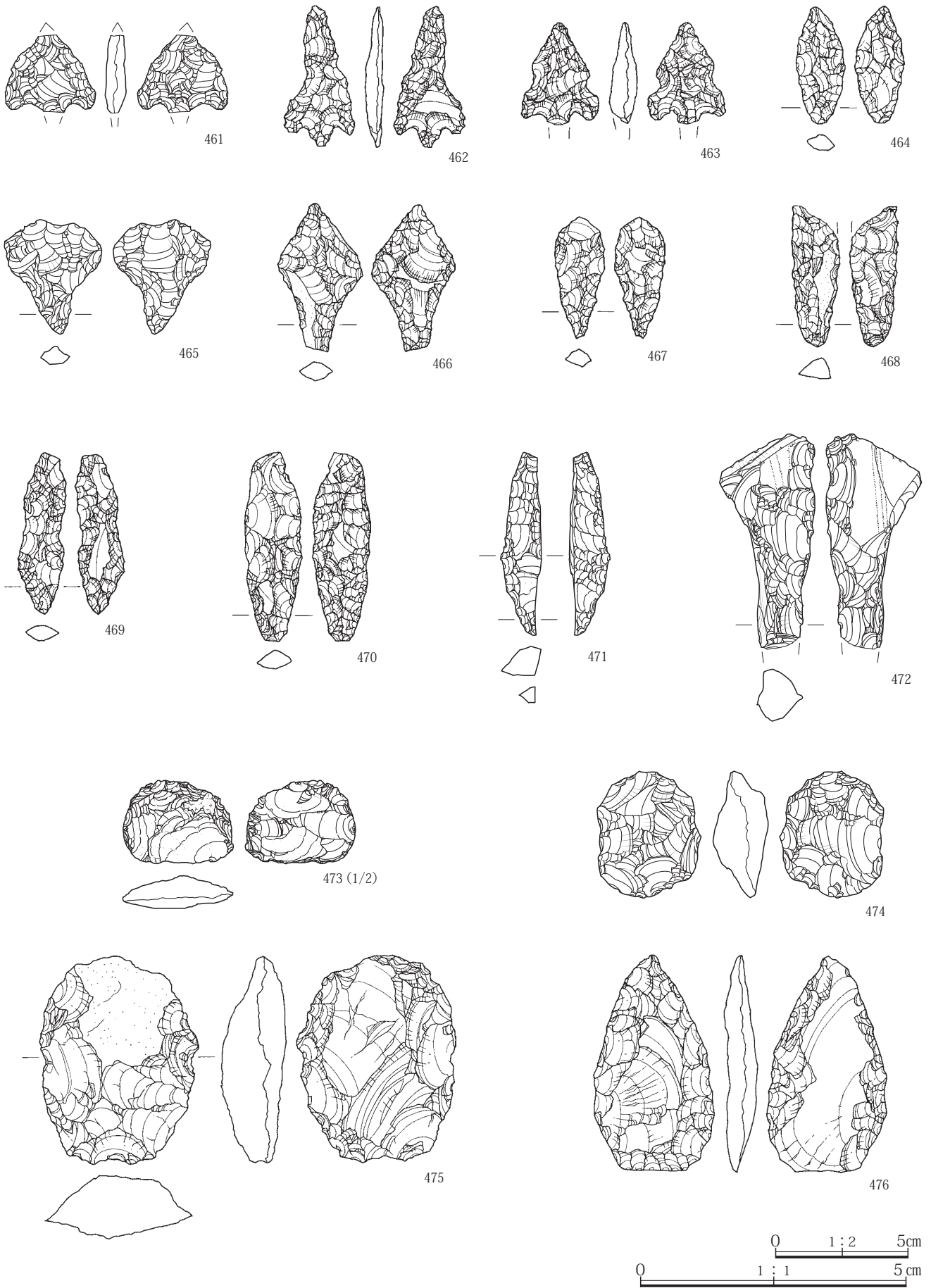
第105図 遺構外出土遺物(19)



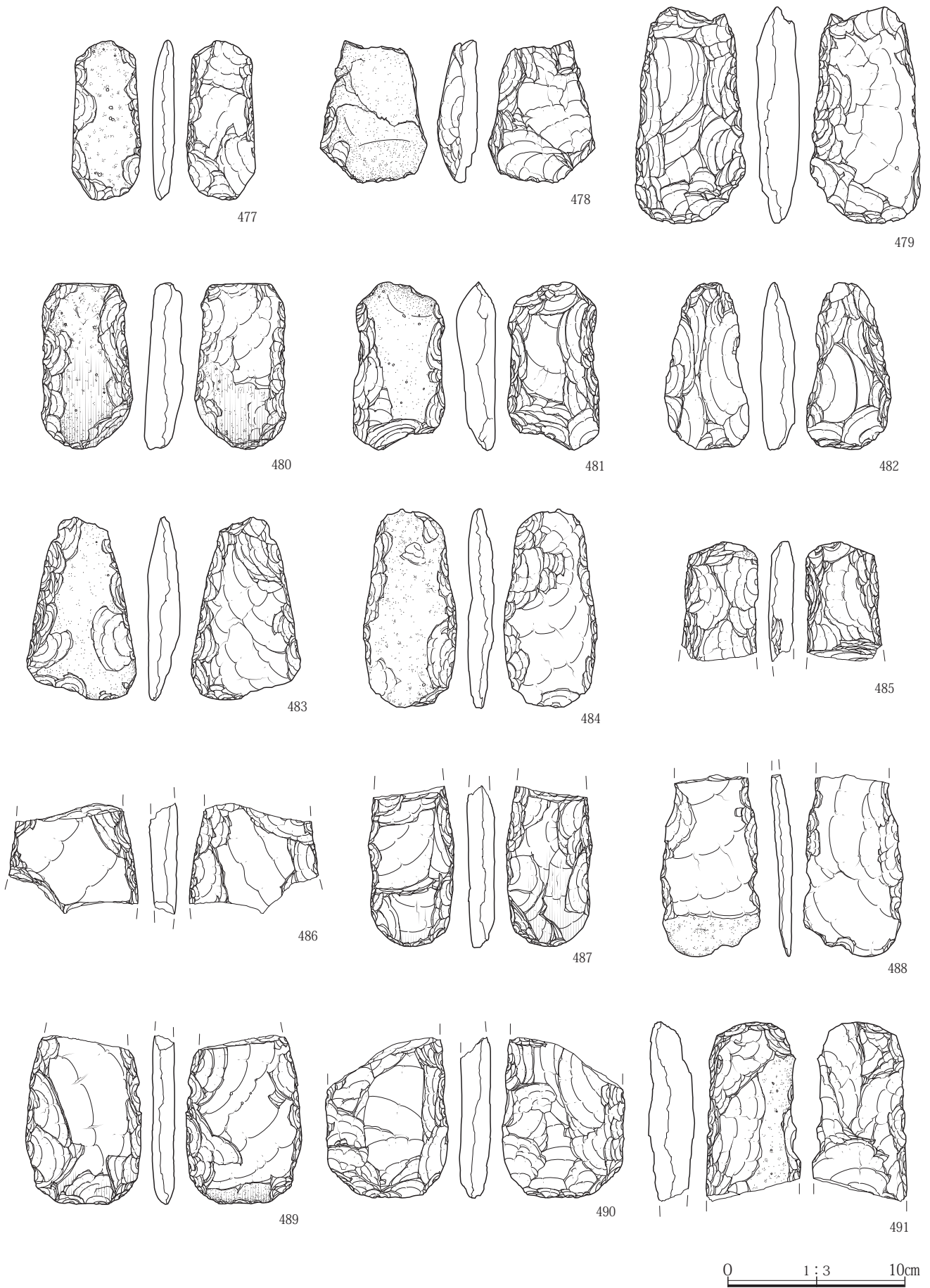
第106図 遺構外出土遺物(20)



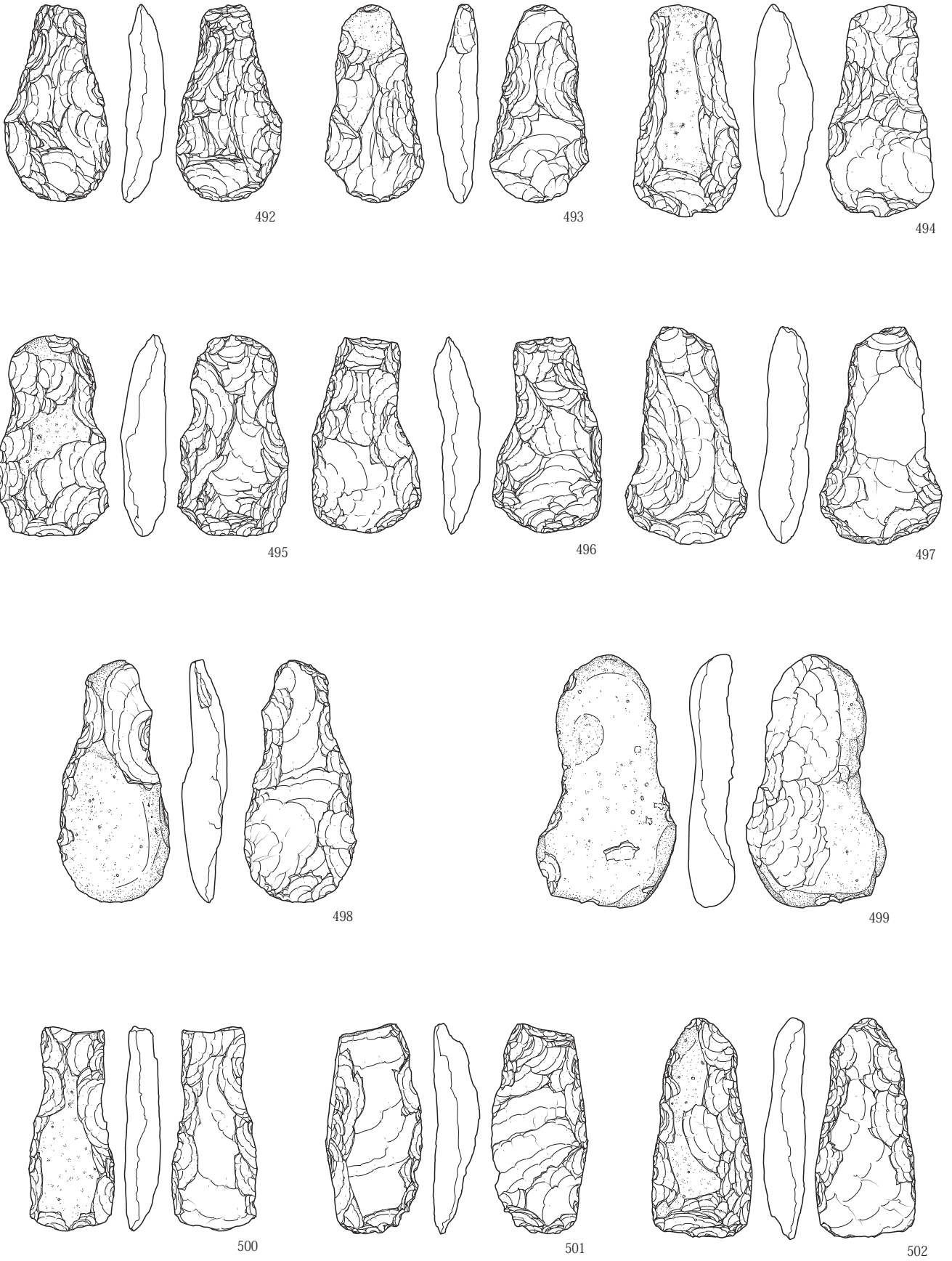
第107図 遺構外出土遺物(21)



第108図 遺構外出土遺物(22)



第109図 遺構外出土遺物(23)



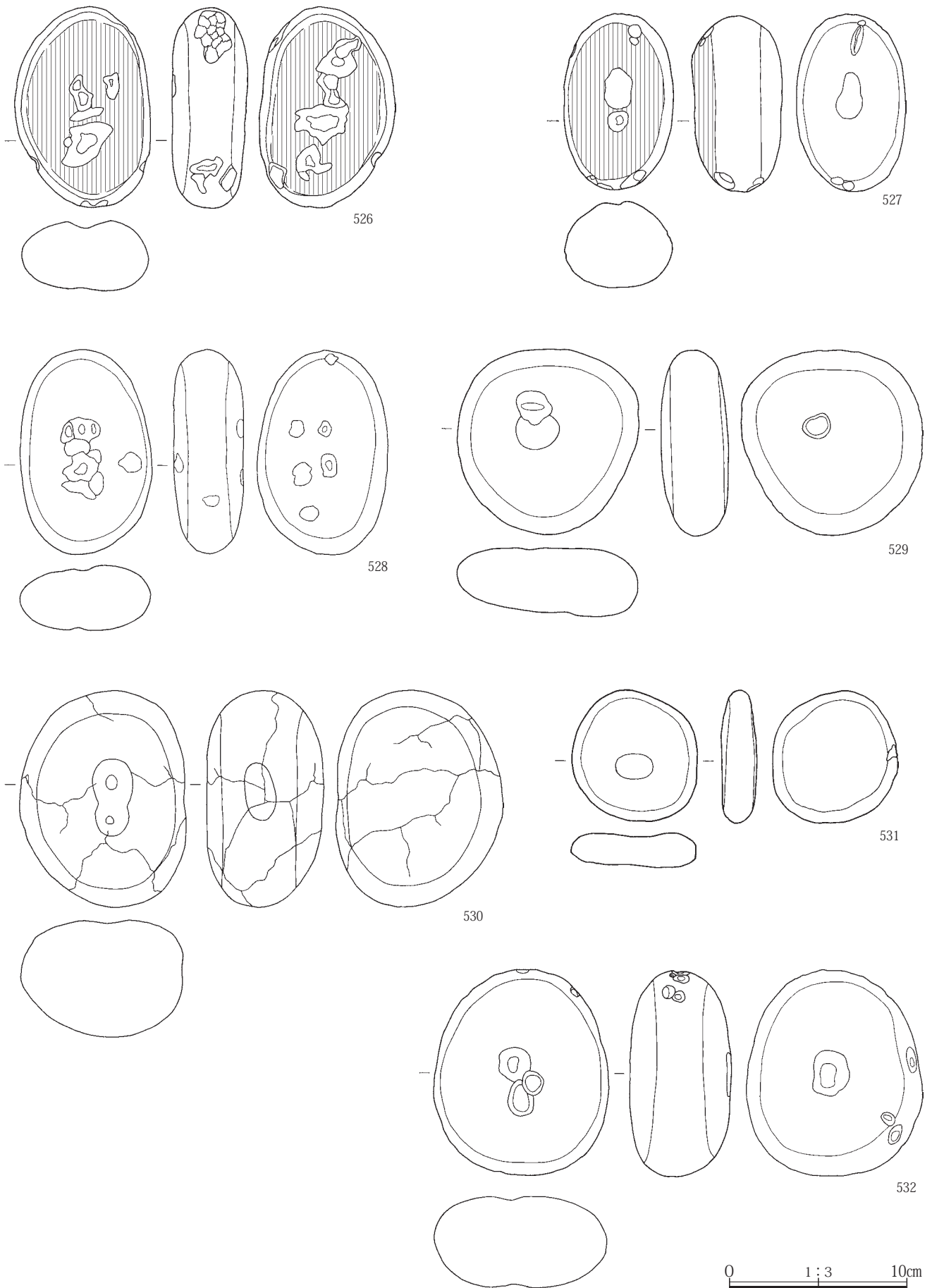
第110図 遺構外出土遺物(24)



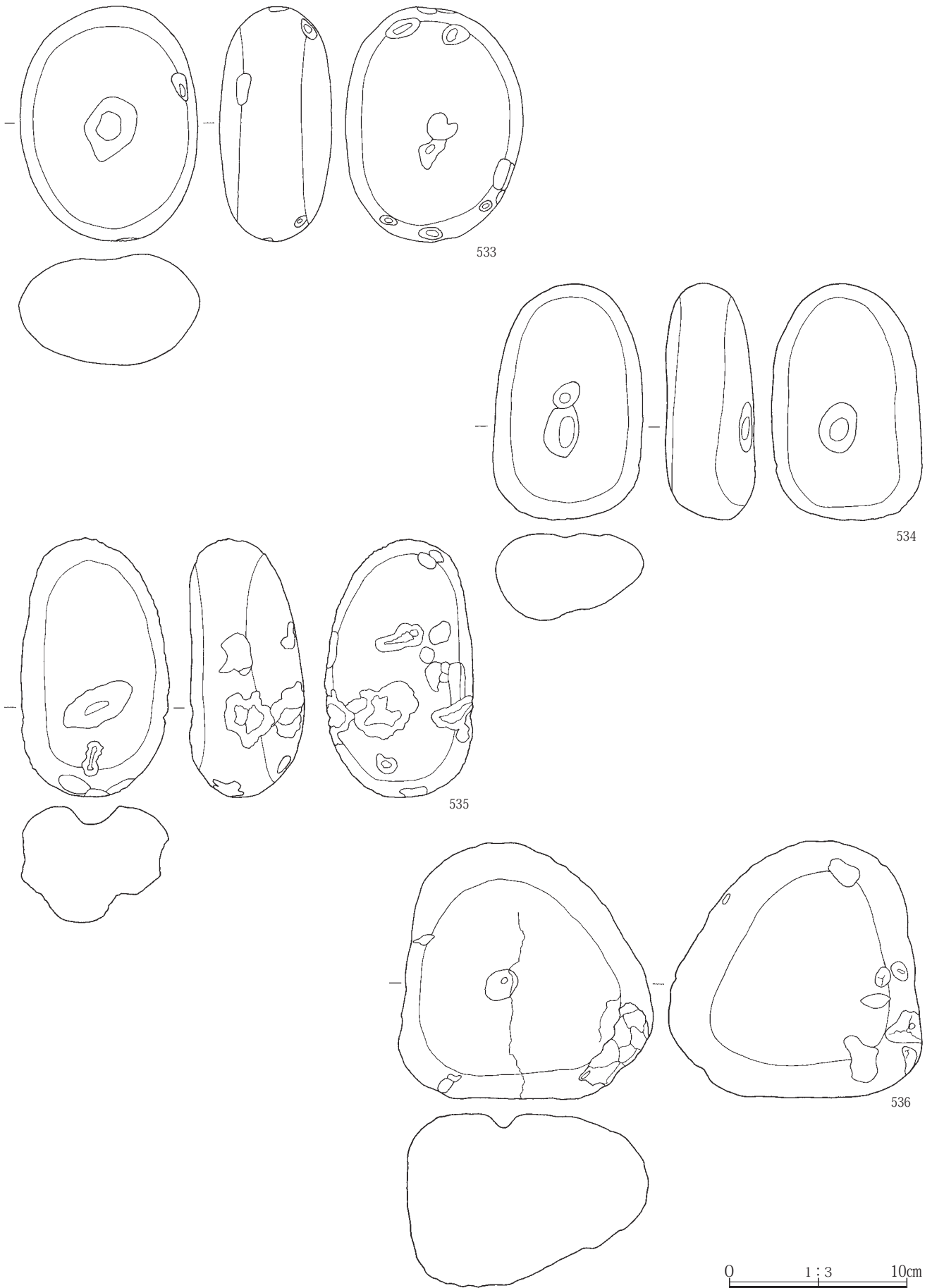
第111図 遺構外出土遺物(25)



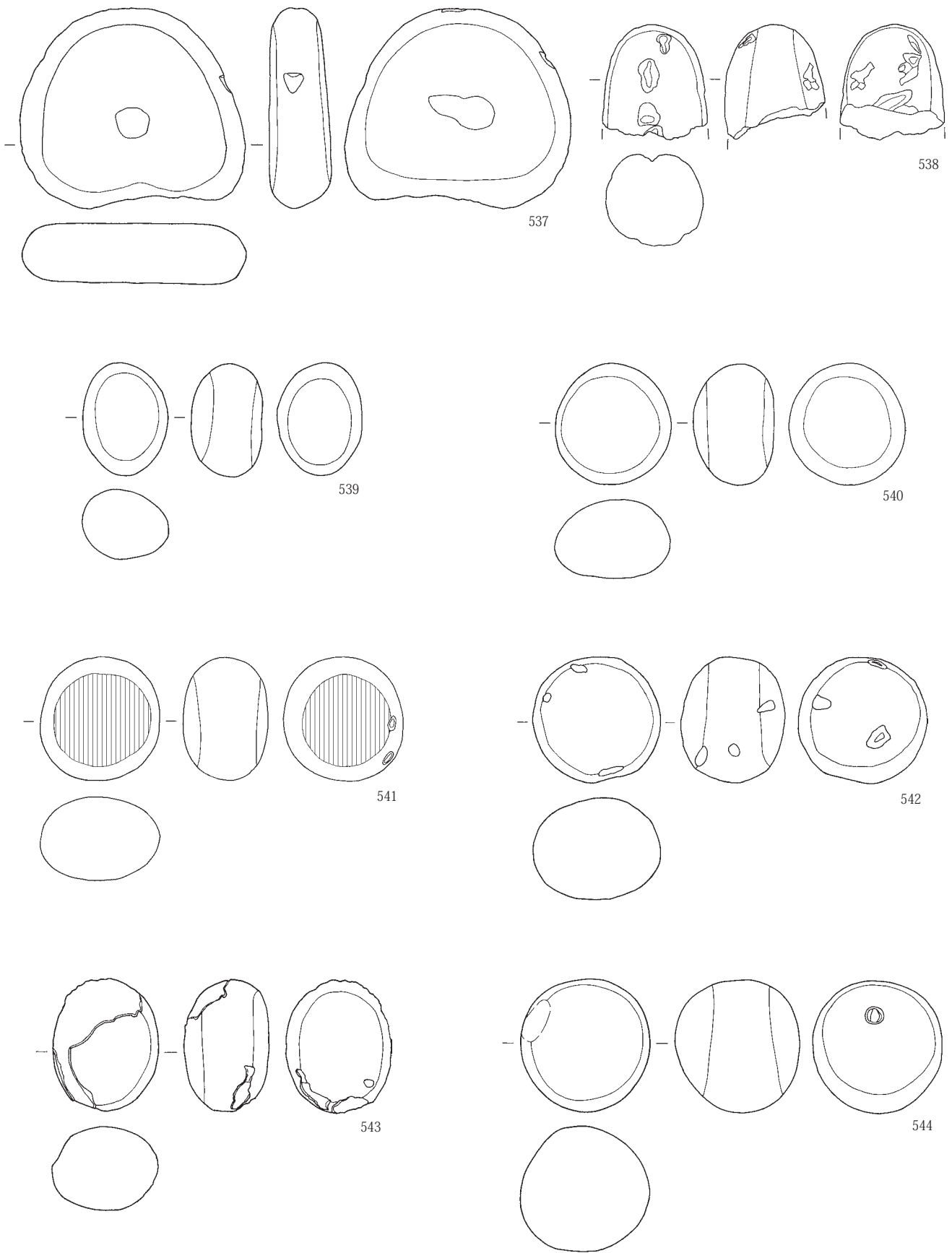
第112図 遺構外出土遺物(26)



第113図 遺構外出土遺物(27)

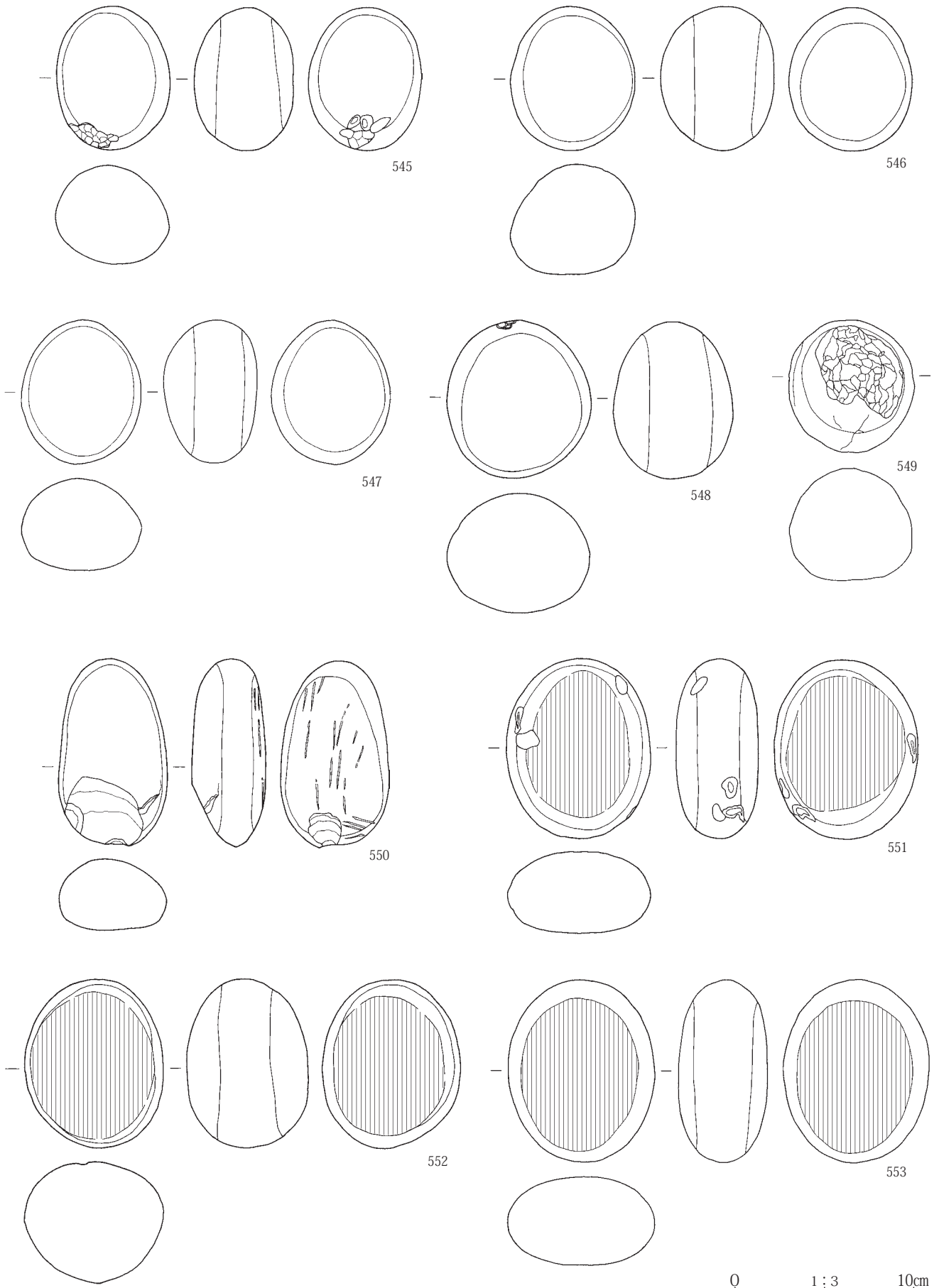


第114図 遺構外出土遺物(28)

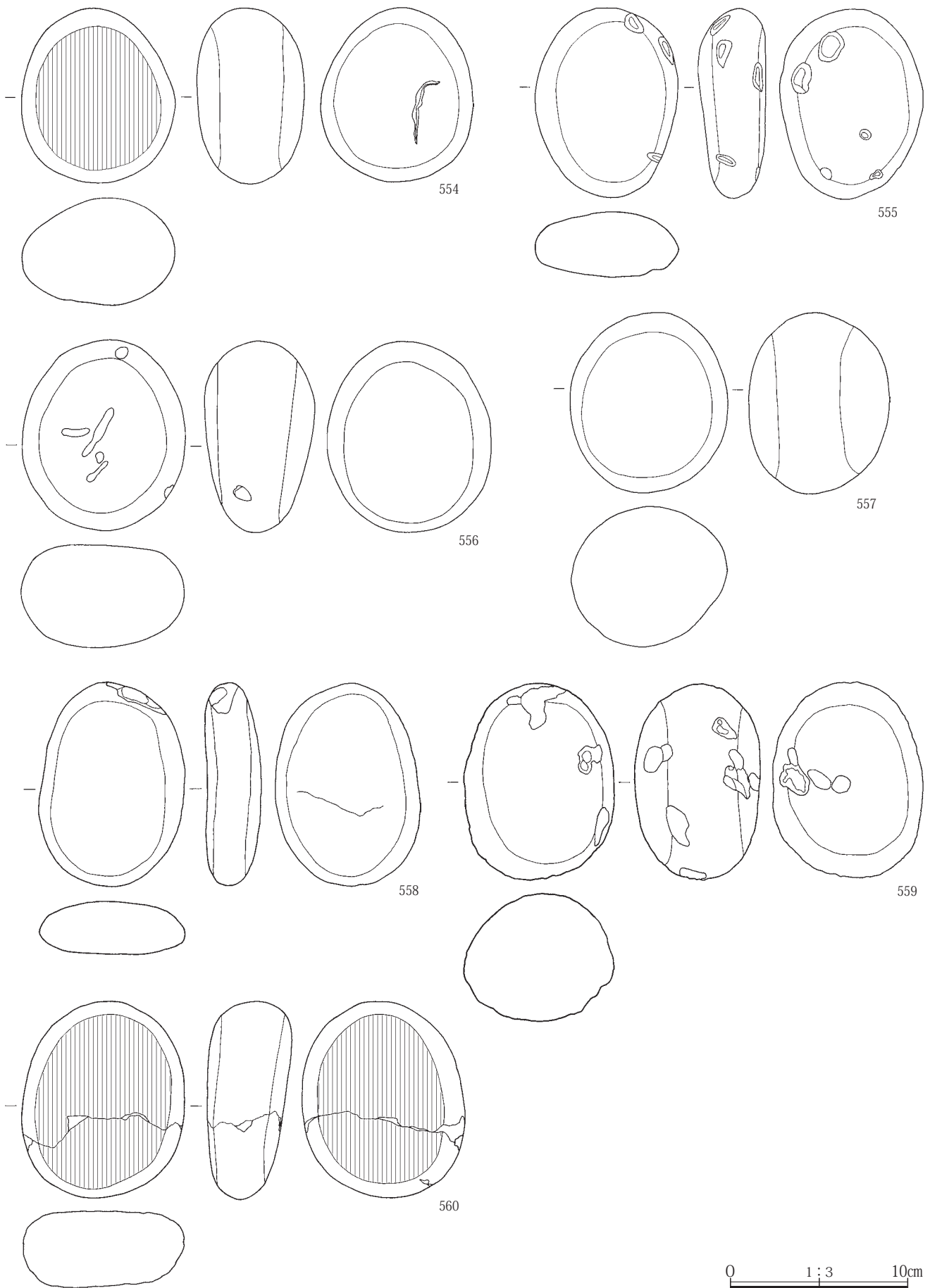


0 1:3 10cm

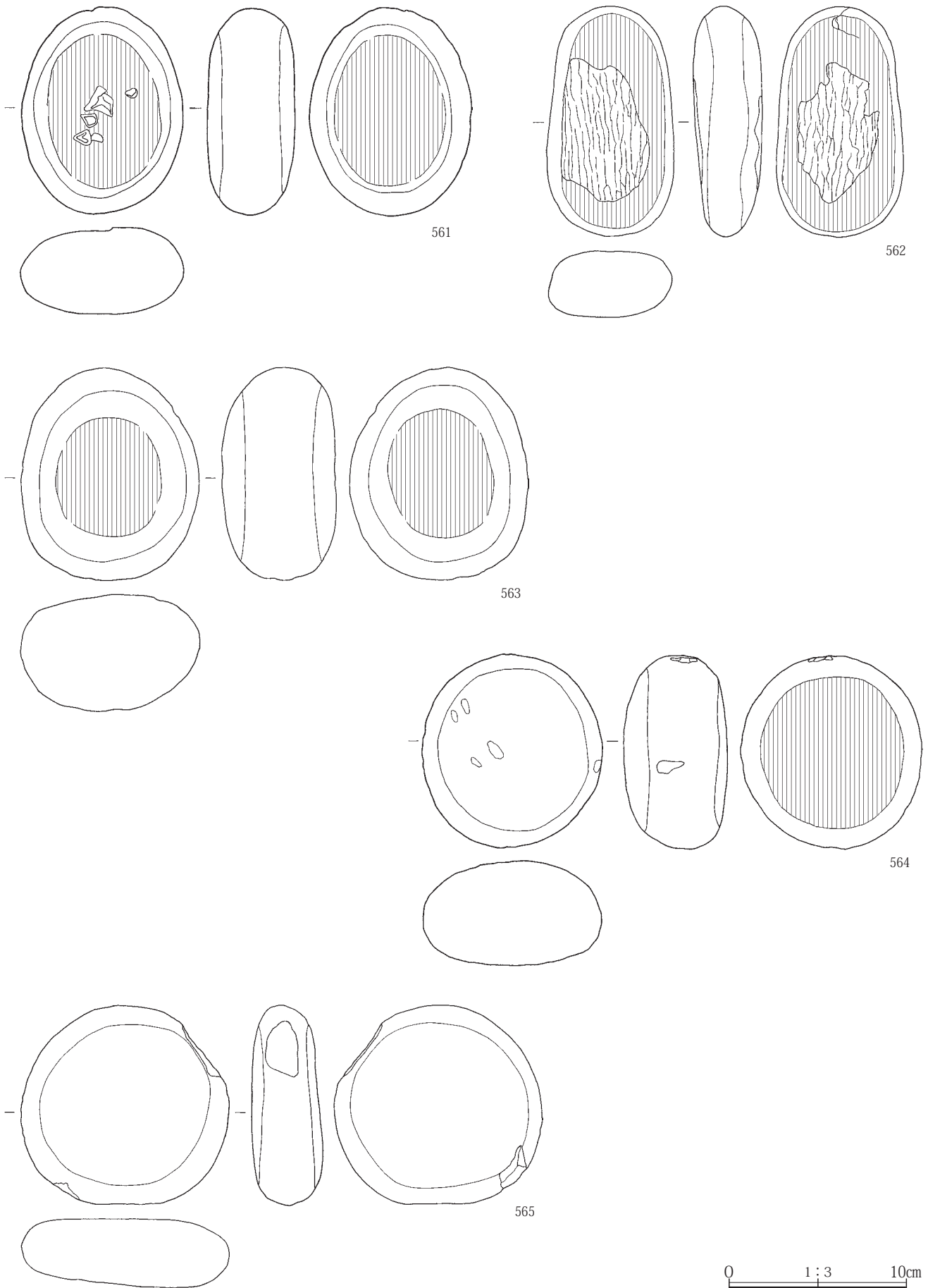
第115図 遺構外出土遺物(29)



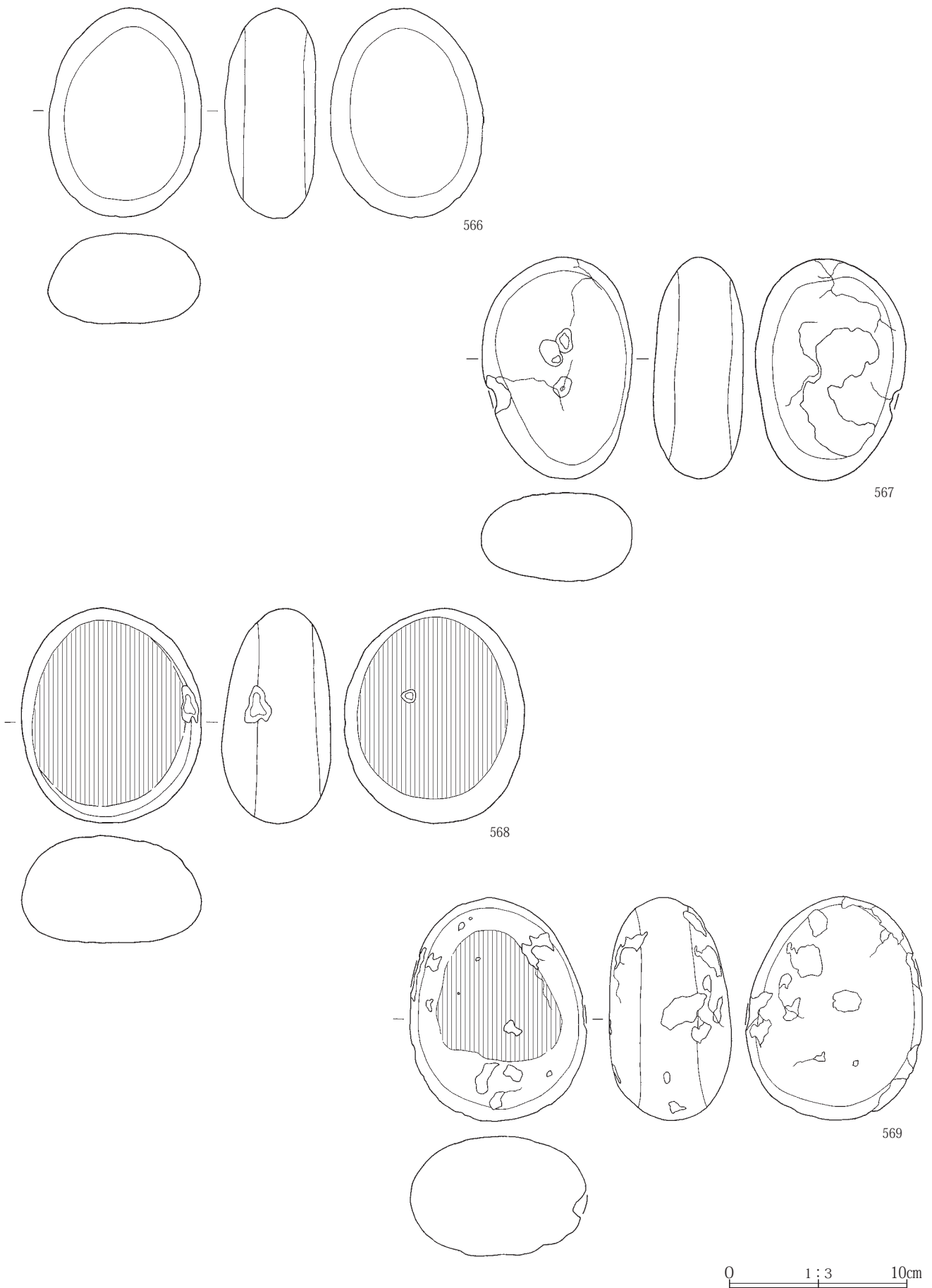
第116図 遺構外出土遺物(30)



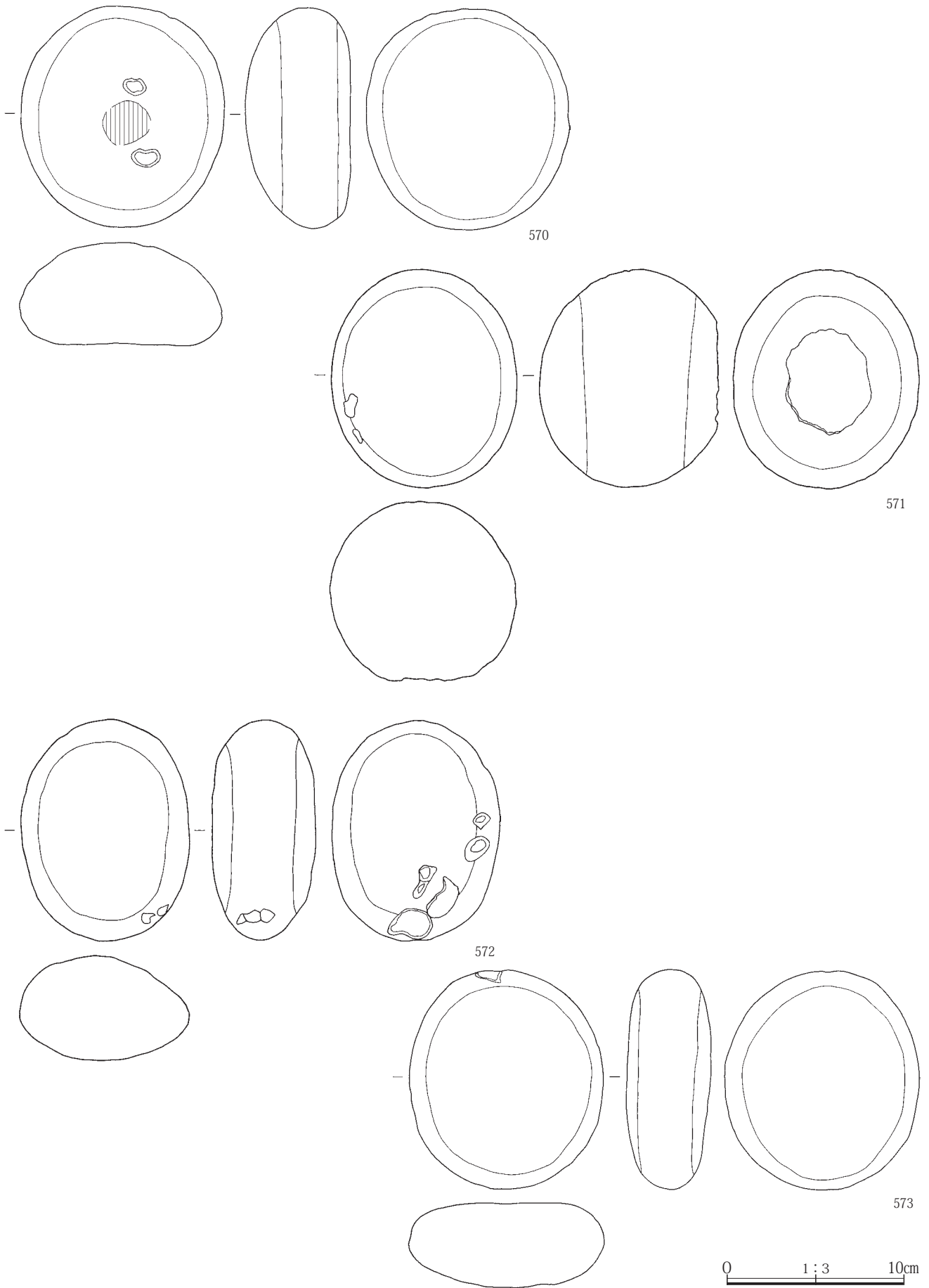
第117図 遺構外出土遺物(31)



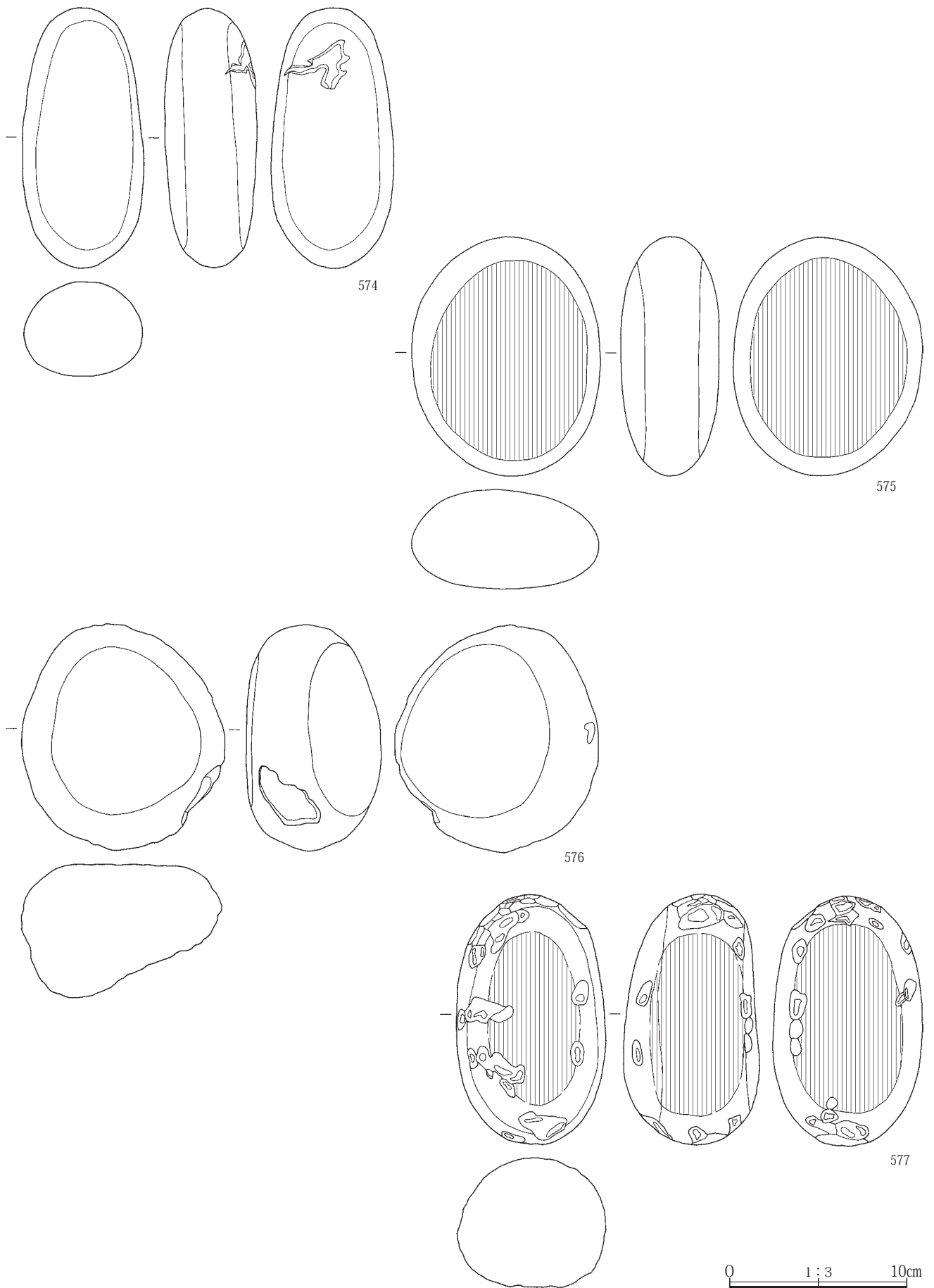
第118図 遺構外出土遺物(32)



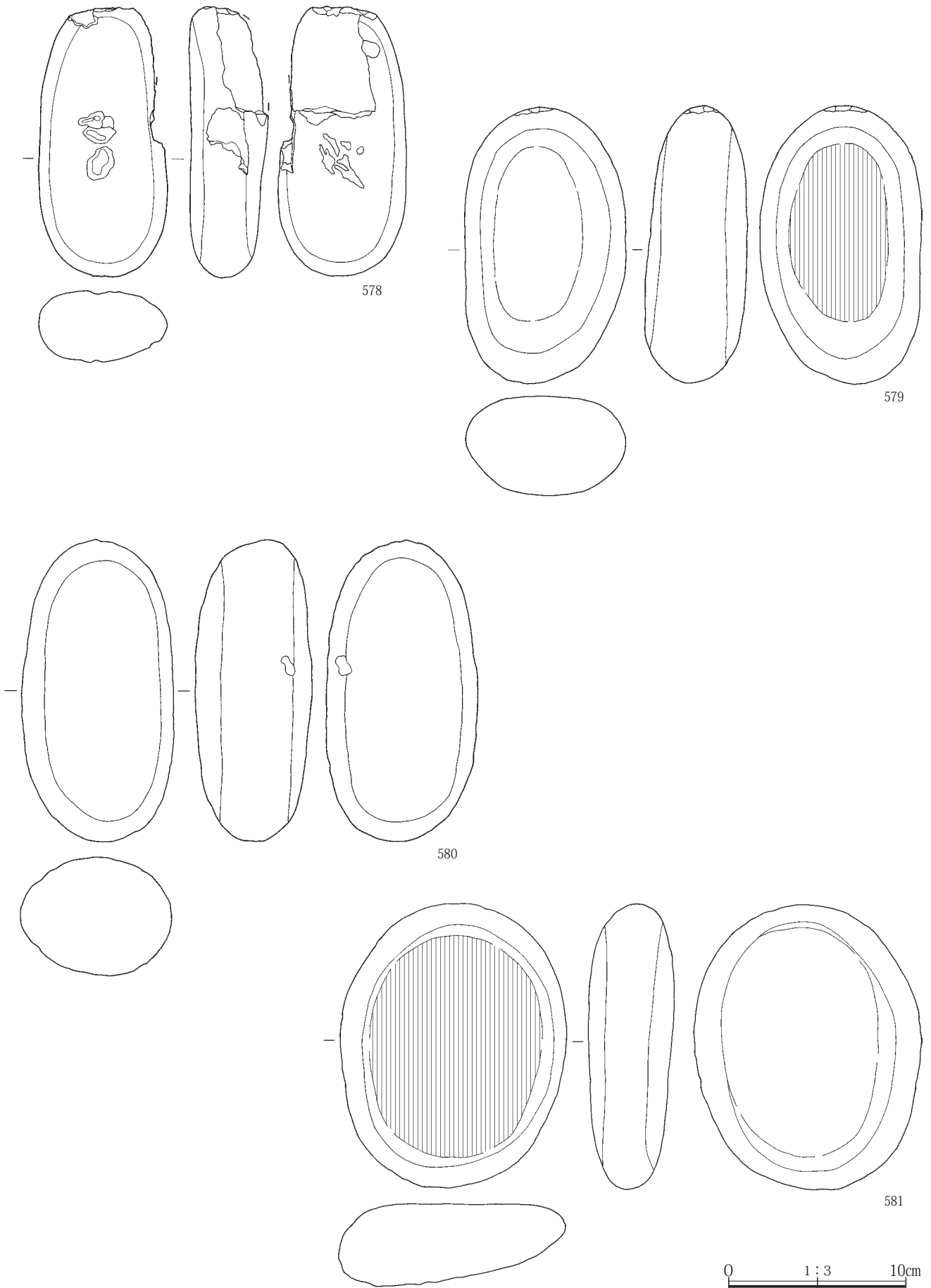
第119図 遺構外出土遺物(33)



第120図 遺構外出土遺物(34)



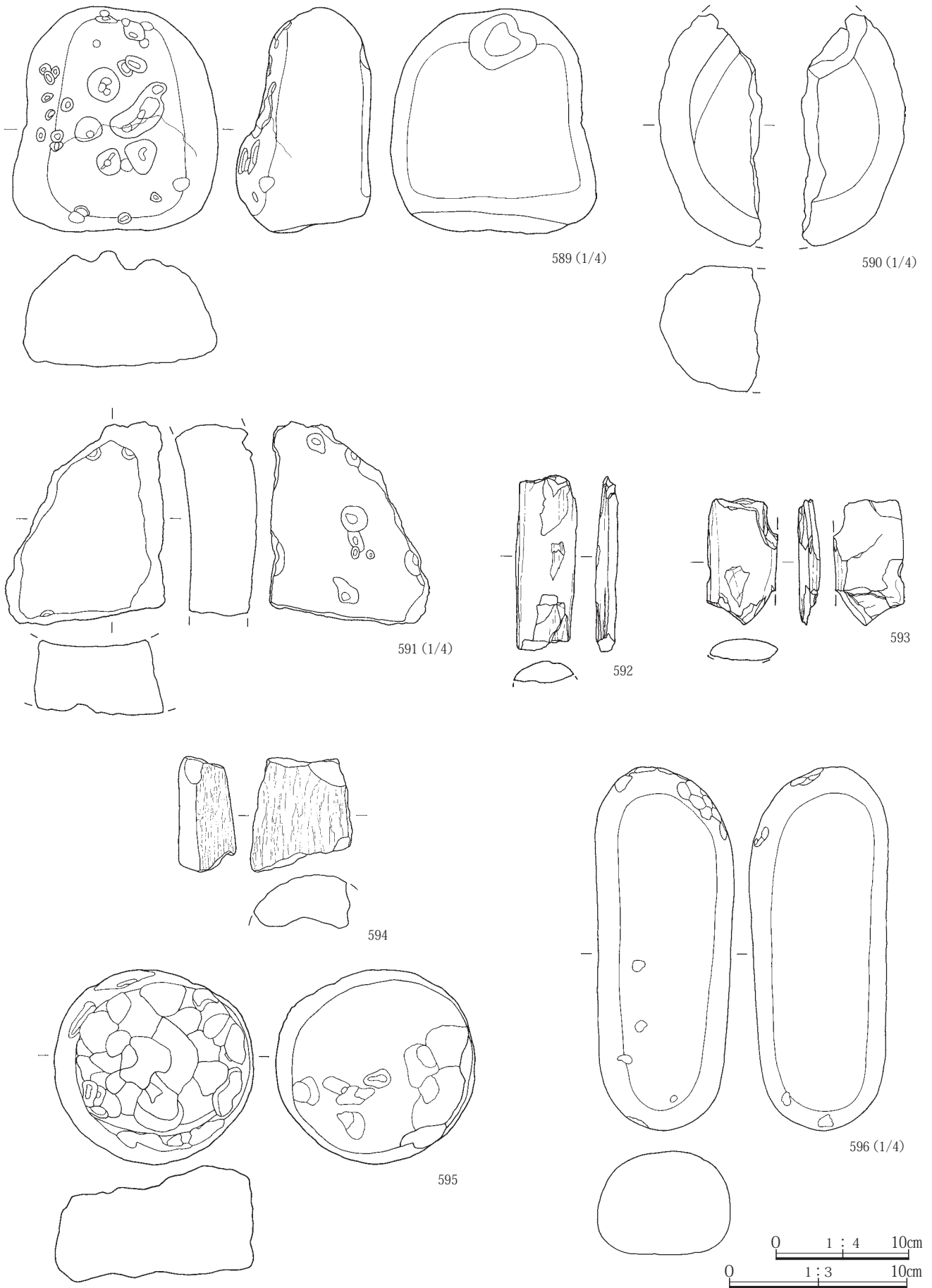
第121図 遺構外出土遺物(35)



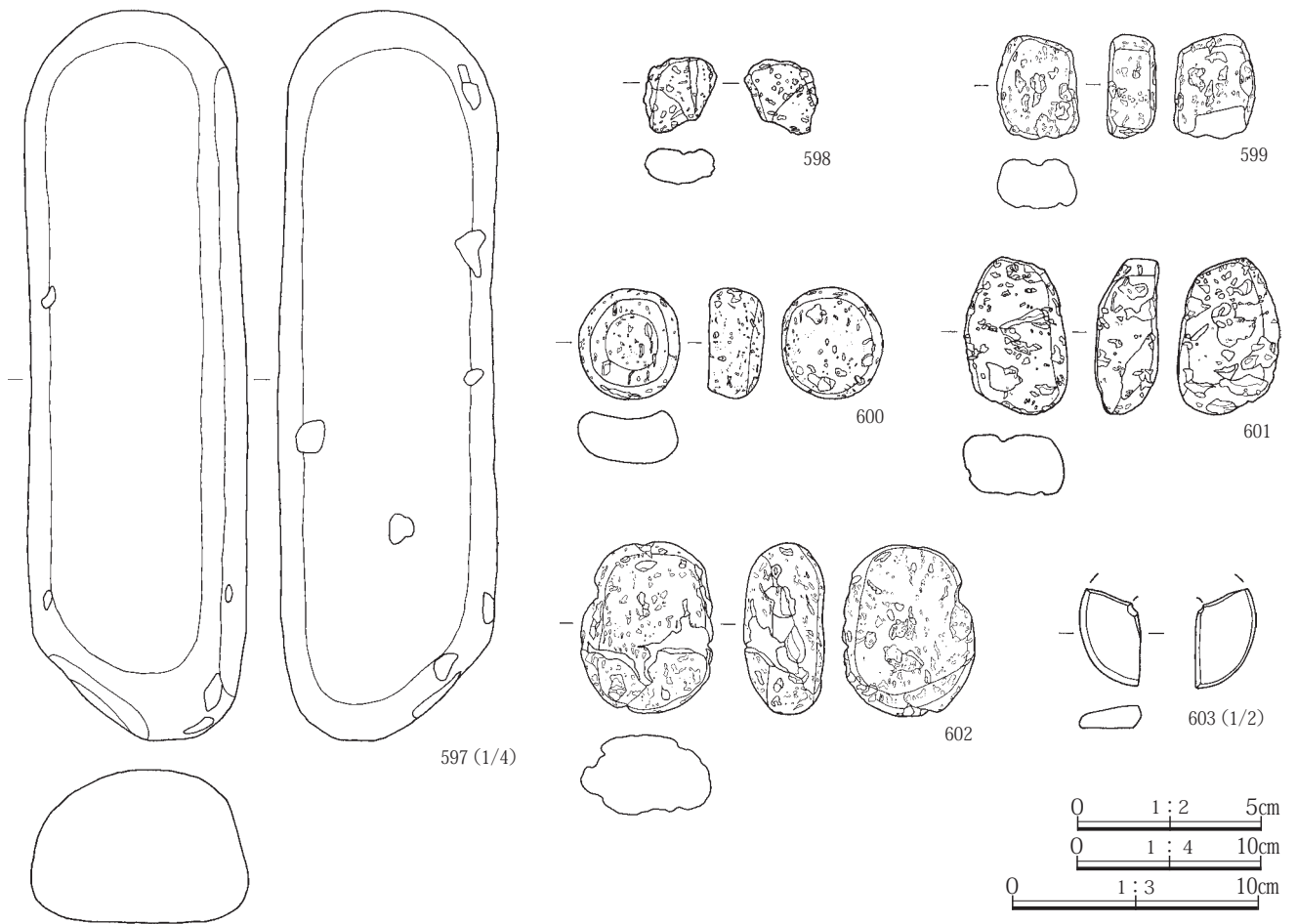
第122図 遺構外出土遺物(36)



第123図 遺構外出土遺物(37)



第124図 遺構外出土遺物(38)



第125図 遺構外出土遺物(39)



第126図 縄文土器出土分布図

遺物観察表

表4 遺物観察表

3号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第15図 PL.74	1	縄文土器 深鉢	完形	口 底	21.4 9.8	高	38.1	細砂粒多/橙色	4単位の波状口縁。1単位は突起。胴部上半は、区画文。下半は、懸垂文。上半の区画文内に鍵状の隆帯。縄文LR。	中期後葉
第15図 PL.74	2	縄文土器 深鉢	口縁部片					砂粒多/明褐色	無文口縁部片。	中期後葉
第15図 PL.74	3	縄文土器 深鉢	胴部片					砂粒多/橙色	縄文LR縦位、沈線による縦位無文帯。	中期後葉
第15図 PL.74	4	縄文土器 深鉢	胴部片					砂粒多/灰褐色	縄文縦位、沈線による縦位無文帯。二次被熱。	中期後葉
第15図 PL.74	5	縄文土器 深鉢	胴部片					砂粒多/褐色	縄文RL縦位、幅広の磨消帯。	中期後葉
第15図 PL.74	6	縄文土器 深鉢	胴部片					砂粒多/明褐色	沈線で垂下無文帯。	中期後葉
第15図 PL.74	7	縄文土器 土製円盤	完形			径	2.9	微砂粒/褐色	小型の土製円盤。	
第15図 PL.74	8	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.8 1.0	厚 重	0.3 0.3	黒曜石	凹基無茎、扱りは浅い、小型で細身の作り、両脚部が広がりを示す。	
第15図 PL.74	9	礫石器 凹石	欠損	長 幅	14.9 7.0	厚 重	3.6 (483)	粗粒輝石安山岩	やや偏平で細長い礫利用、両面それぞれに浅い1対の凹み穴を有す、被熱による剥離見られる。	
第16図 PL.74	10	礫石器 磨石	完形	長 幅	12.9 8.6	厚 重	5.0 803	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫利用、両面にわずかな凹みを有す。	
第16図 PL.74	11	礫石器 磨石	完形	長 幅	11.4 8.2	厚 重	5.6 655	粗粒輝石安山岩	長円礫、被熱によるひび割れ見られる。	
第16図 PL.74	12	礫石器 磨石	完形	長 幅	10.3 7.2	厚 重	4.3 501	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫利用、両面使用し、極めて平滑。	
第16図 PL.74	13	礫石器 磨石	完形	長 幅	17.8 8.0	厚 重	5.0 984	変質安山岩	やや大型の棒状礫利用、両面に若干の使用痕、両端に弱い打痕見られる。	
第16図 PL.74	14	礫石器 磨石	完形	長 幅	10.5 9.8	厚 重	7.3 366	粗粒輝石安山岩	拳大の不定形な円礫、球面部分を使用面としている。	
第16図 PL.74	15	礫石器 磨石	完形	長 幅	9.5 8.5	厚 重	5.0 534	粗粒輝石安山岩	偏平な円礫、両面使用面。	
第17図 PL.74	16	礫石器 石皿	欠損	長 幅	40.4 (15.5)	厚 重	(9.0) (8650)	粗粒輝石安山岩	大型の石皿片、粗粒な礫利用、使用面はやや浅く、打痕状の製作痕残る。被熱見られ、僅かに煤付着。西に50m程離れたグリッド出土の破片が接合。	

4号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第19図 PL.74	1	縄文土器 両耳壺	口縁～胴部	口	(27.2)	高	(38.0)	砂粒多/にぶい赤褐色	口縁部幅広の無文、幅広の環状把手が1対付くと思われる。無文下に横位隆帯巡り、以下沈線によるV状文、渦巻き懸垂文、さらに把手下には帯状の懸垂文描き縄文LRを縦位施文。	中期後葉
第19図 PL.74	2	縄文土器 深鉢	口縁～胴部片	口	(22.0)			砂粒多/にぶい黄褐色	口縁部に隆帯による連呼状文、以下状文LR縦位施文。	炬体土器
第19図 PL.74	3	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒/暗赤褐色	波頂部に環状把手、そこから口縁に沿って片方向のみ浅い沈線が延びる。以下無文で研磨痕見られる。外面スス付着。	中期後葉末
第19図 PL.74	4	縄文土器 深鉢	突起					微砂粒/にぶい黄褐色	波頂部に付く把手片、上端面は楕円に広がり、やや凹みを持つ。	中期後葉末
第19図 PL.74	5	縄文土器 深鉢	胴部片					細砂粒/にぶい黄褐色	横位に連続押圧文、以下沈線による逆U字縄文描き細縄文LR充填する。内外面研磨痕。	中期後葉末
第19図 PL.74	6	縄文土器 深鉢	胴部片					砂粒/にぶい褐色	沈線による無文帯。縄文LR施文。	中期後葉
第19図 PL.74	7	縄文土器 深鉢	胴～底部	底	10.0			砂粒/明黄褐色	隆帯懸垂文、縄文LR縦位。風化顕著。	中期後葉
第19図 PL.74	8	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.6) (1.5)	厚 重	0.3 (0.5)	黒曜石	やや薄手の作り、先端部片。	
第19図 PL.74	9	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(2.3) (1.0)	厚 重	0.3 (0.5)	黒曜石	凹基無茎、扱りは深い、縦半分に分かれた状態。	
第19図 PL.74	10	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	3.4 1.0	厚 重	1.0 3.8	黒曜石	基部やや太い棒状錐、全体に細かな調整見られる。先端部を欠く。	
第19図 PL.75	11	礫石器 磨石	完形	長 幅	12.0 11.1	厚 重	4.8 942	粗粒輝石安山岩	偏平な円礫、比較的平滑な片面を使用か。	
第19図 PL.75	12	礫石器 磨石	完形	長 幅	7.5 7.3	厚 重	5.6 542	粗粒輝石安山岩	拳大の不定形な円礫、表面に鉄分付着。顕著な使用痕見られず。	
第19図 PL.75	13	礫石器 磨石	完形	長 幅	16.7 6.9	厚 重	4.5 860	変質安山岩	やや偏平な棒状礫利用、両端に打痕見られる。	

5号住居

挿 図 PL.No.	No.	種 類 種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考		
第22図 PL.75	1	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	24.6		白色砂粒多/明赤褐色	4単位の波状口縁。口縁部に近い所はRL横。胴部は縄文RL縦位。	中期後葉	
第22図 PL.75	2	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口	(25.0)		砂粒/黒褐色	4単位の波状口縁。胴中で括れる。隆帯による連続する渦巻き模様主体の懸垂文様描く。文様内縄文RL充填施文。	中期後葉	
第22図 PL.75	3	縄文土器 深鉢	8号焼土 口縁～胴部片	口	(20.0)		砂粒/橙色	4単位の波状を呈す、隆帯により口縁部に無文部を画し、波頂下に隆帯に燃る渦巻き懸垂文。細縄文RLを充填する。	後期初頭	
第22図 PL.75	4	縄文土器 深鉢	8号焼土 口縁～胴部				砂粒/にぶい橙色	口縁部僅かに内傾する波状口縁、沈線による∩状文、間に蕨手垂下文。縄文LR施文。	中期後葉	
第22図 PL.75	5	縄文土器 深鉢	口縁部片				微砂粒/橙色	口縁部に無文帯、以下縄文RL縦位、斜位施文。11と同一個体。	中期後葉	
第22図 PL.75	6	縄文土器 深鉢	口縁部片				微砂粒/明黄褐色	口縁部に隆帯による楕円文様構成か、縄文充填施文。	中期後葉	
第22図 PL.75	7	縄文土器 深鉢	胴部片				砂粒/黒褐色	口縁部に隆帯による楕円文様構成か、文様内縄文充填施文。	中期後葉	
第22図 PL.75	8	縄文土器 深鉢	胴部片				砂粒/にぶい黄橙色	隆帯による楕円文様構成か、以下胴部には逆U状文、蕨手文を沈線で描く。	中期後葉	
第22図 PL.75	9	縄文土器 深鉢	胴部片				砂粒/赤褐色	沈線による連続するU状文意匠か、縄文RL縦位充填施文。	中期後葉	
第22図 PL.75	10	縄文土器 深鉢	胴部片				砂粒/にぶい黄橙色	太沈線による∩状文、蕨手垂下文。	中期後葉	
第23図 PL.75	11	縄文土器 深鉢	胴部片				砂粒/にぶい橙色	沈線による懸垂無文帯、間を縄文RL縦位、斜位施文。	中期後葉	
第23図 PL.75	12	縄文土器 深鉢	胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	沈線による∩状文構成か、縄文RL縦位施文。	中期後葉	
第23図 PL.75	13	縄文土器 深鉢	胴部片				砂粒、小金雲母/ 暗赤褐色	沈線による磨消懸垂文、縄文LR縦位施文。	中期後葉	
第23図 PL.75	14	縄文土器 深鉢	胴部片				砂粒/橙色	沈線による無文垂下文、縄文RL縦位施文。	中期後葉	
第23図 PL.75	15	縄文土器 深鉢	胴部片				砂粒/灰褐色	沈線によるU状垂下文構成か、縄文RL縦位施文。	中期後葉	
第23図 PL.75	16	縄文土器 深鉢	胴部片				砂粒、金雲母/ 明赤褐色	2本沈線による磨消懸垂文、縄文LR縦位施文。	中期後葉	
第23図 PL.75	17	縄文土器 深鉢	胴部片				微砂粒/褐色	2本沈線による磨消曲線文様描く、地文には細縄文を横位、縦位施。	中期末葉	
第23図 PL.75	18	縄文土器 深鉢	胴部片				微砂粒/橙色	沈線による垂下無文帯構成、沈線は浅い、縄文RL縦位か。	中期後葉	
第23図 PL.75	19	縄文土器 深鉢	胴～底部片	底	5.0		砂粒/橙色	胴下部片、3本沈線による垂下無文帯、間を縄文RL縦位施文。底部は小さく底面に膨らみ有す。内面に煤の付着顕著。	中期後葉	
第23図 PL.76	20	縄文土器 深鉢	胴部片	底	(12.0)		砂粒/明赤褐色	胴下部片、複数の沈線による垂下文、縄文LR縦位施文。	中期後葉	
第23図 PL.76	21	縄文土器 深鉢	8号焼土 底部	底	10.8		砂粒/にぶい橙色	無文の底部片、底面一部に燃糸状の圧痕見られる。	中期後葉	
第23図 PL.76	22	縄文土器 深鉢	8号焼土 底部	底	6.6		砂粒多/明赤褐色	無文の底部片、底面僅かに丸みを帯びる。	中期後葉	
第23図 PL.76	23	縄文土器 深鉢	底部片	底	7.6		砂粒/にぶい褐色	無文底部片、器面研磨痕。	中期後葉	
第23図 PL.76	24	縄文土器 土製円盤	完形			径	3.5	微砂粒/褐色	土製円盤、小振りで表には土器隆帯文見られる。	中期後葉
第23図 PL.76	25	剥片石器 石鏃	完形	長幅	2.0 1.3	厚重	0.3 0.6	黒曜石	やや小型の凹基無茎、局部磨製鏃。	
第23図 PL.76	26	剥片石器 石鏃	欠損	長幅	(1.7) 1.4	厚重	0.5 0.8	黒色安山岩	凹基無茎、挟り浅く、片面の基部に大きい剥離。	
第23図 PL.76	27	剥片石器 石鏃	欠損	長幅	(1.1) (1.4)	厚重	0.3 (0.4)	黒曜石	凹基無茎か、先端部分、脚を欠損か。作りは粗い。	
第24図 PL.76	28	剥片石器 打製石斧	8号焼土 完形	長幅	12.4 4.1	厚重	1.0 69	黒色頁岩	薄手の短冊型、基・刃部に向かって細くなる。	
第24図 PL.76	29	剥片石器 打製石斧	8号焼土 完形	長幅	12.1 5.8	厚重	2.5 194	黒色頁岩	撥型か、基部に弱い挟りが見られる。刃部欠損。作りは粗い。	
第24図 PL.76	30	礫石器 凹石	完形	長幅	16.6 11.0	厚重	7.2 1174	粗粒輝石安山岩	やや大型で発泡質の礫利用、両面にやや深い凹み穴を1つずつ有す。	
第24図 PL.76	31	礫石器 磨石	完形	長幅	9.4 8.3	厚重	4.6 512	粗粒輝石安山岩	偏平な円礫利用、両面使用。	
第24図 PL.76	32	礫石器 磨石	完形	長幅	13.7 (7.1)	厚重	5.4 607	ひん岩	長円礫、被熱によるひび割れ顕著、両面使用とし、浅いくぼみが見られる。	
第24図 PL.76	33	礫石器 磨石	完形	長幅	12.6 8.7	厚重	6.1 1036	変質安山岩	やや大ぶりの長円礫、両面使用。	
第25図 PL.76	34	礫石器 磨石	完形	長幅	13.7 9.9	厚重	6.9 1484	粗粒輝石安山岩	やや大きな長円礫利用、表裏面を使面としている。	
第25図 PL.76	35	礫石器 磨石	完形	長幅	16.4 7.4	厚重	3.7 731	細粒輝石安山岩	偏平な棒状礫利用、全面に平滑面見られる。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第25図 PL.76	36	礫石器 磨石	完形	長幅 10.0	厚 24.1	重 8.5 3400	粗粒輝石安山岩	大型の棒状礫、表面比較的平滑だが、目だった使用痕は見られず。	
第25図 PL.76	37	礫石器 磨石	完形	長幅 8.6 8.1	厚 8.6 8.1	重 5.6 532	粗粒輝石安山岩	拳大の偏平礫、比較的平坦な面を使用面とする。	
第25図 PL.76	38	礫石器 磨石	完形	長幅 11.5 8.1	厚 11.5 8.1	重 4.1 588	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫、端部に打痕有り、表面全面に鉄分の沈着層。	
第25図 PL.76	39	礫石器 磨石	完形	長幅 10.7 8.1	厚 10.7 8.1	重 5.5 576	粗粒輝石安山岩	楕円礫利用、両面使用。	
第26図 PL.76	40	礫石器 磨石	完形	長幅 14.4 9.1	厚 14.4 9.1	重 5.3 858	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫利用、被熱によるものか、ひび割れ見られる。	
第26図 PL.76	41	礫石器 磨石	完形	長幅 20.1 6.9	厚 20.1 6.9	重 4.8 1053	粗粒輝石安山岩	やや偏平な棒状礫、平坦面部分を使用面とするか。	
第26図 PL.76	42	礫石器 磨石	完形	長幅 12.3 10.2	厚 12.3 10.2	重 6.8 1230	粗粒輝石安山岩	やや大きな円礫利用、表裏面を使面としている。	
第26図 PL.76	43	礫石器 磨石	完形	長幅 10.9 8.6	厚 10.9 8.6	重 5.8 759	変質安山岩	やや偏平な俵形を呈す、両面使用、両端部に打痕有り。	
第27図 PL.76	44	礫石器 台石	完形	長幅 23.6 18.8	厚 23.6 18.8	重 10.5 7000	石英閃緑岩	大型で厚みのある礫、使用面は浅く凹み、下面は丸みを持ち不安定。	
第27図 PL.76	45	礫石器 台石	完形	長幅 16.0 14.3	厚 16.0 14.3	重 4.9 1854	粗粒輝石安山岩	偏平な礫の両面使用か。	
第27図 PL.76	46	礫石器 石皿	欠損	長幅 (15.3) (17.3)	厚 (15.3) (17.3)	重 7.6 (2530)	粗粒輝石安山岩	偏平大型礫片、両面ほぼ平らで使用による摩耗顕著。	
第28図 PL.76	47	礫石器 多孔石	完形	長幅 23.5 17.0	厚 23.5 17.0	重 13.8 6650	粗粒輝石安山岩	不定形な大型礫利用、表裏面に複数の凹み穴を有す。	
第28図 PL.77	48	礫石器 石皿	完形	長幅 32.2 27.9	厚 32.2 27.9	重 8.4 11400	粗粒輝石安山岩	偏平な大型礫利用、平らな面を使用面として利用。	
第29図 PL.77	49	礫石器 石皿	完形	長幅 28.6 17.6	厚 28.6 17.6	重 9.1 7700	石英閃緑岩	偏平な大型礫、平坦な表裏面を使用面とする。	
第29図 PL.77	50	礫石器 石皿	完形	長幅 32.8 22.2	厚 32.8 22.2	重 6.4 7250	粗粒輝石安山岩	大型の板状礫利用、片側の平坦面の半分ほどを使用面とする。	
第30図 PL.77	51	礫石器 石皿	欠損	長幅 (23.2) (25.4)	厚 (23.2) (25.4)	重 (8.2) (7000)	粗粒輝石安山岩	大きく欠損している。大型の偏平礫利用、使用部分の剥離顕著で、使用面の中央部分のみ残存か。	

6号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第34図 PL.77	1	縄文土器 深鉢	2号埋裏 口縁～胴部	口	(19.2)		砂粒/にぶい赤褐色	胴部は開きながらほぼ直線的に立ち上がる。口縁部に幅広凹線巡りその上下に連続刺突文。以下胴部にはLR縄文縦位施文するが、胴下部は施文見られず。底部を欠く。	中期後葉
第34図 PL.77	2	縄文土器 深鉢	3号埋裏 口縁～胴部	口	(37.8)		砂粒/にぶい褐色	口縁部無文で肥厚、隆帯、沈線文で波状、渦巻き文を組み合わせたモチーフ描く。間隙部分RL縄文充填施文。	中期後葉
第34図 PL.78	3	縄文土器 深鉢	1号埋裏 胴～底部	底	10.0		砂粒/明赤褐色	無節L。10単位の懸垂文。1単位には、短沈線による逆U字状モチーフ文、連続させる。	中期後葉
第34図 PL.78	4	縄文土器 深鉢	3号埋裏 口縁～胴部				砂粒多/にぶい黄褐色	口縁部横位隆帯で無文部を画す、横位隆帯から延びる垂下隆帯で矩形区画を構成、内部には縄文LR縦位。	中期後葉
第34図 PL.78	5	縄文土器 深鉢	口縁～底部	口底	(14.6) (7.8)	高 (19.6)	砂粒/にぶい褐色	口縁部は内湾し、やや下ぶくれの胴下半部、口縁下に横位沈線、以下沈線による渦巻き文様構成か、胴部下半部には細長い∩状文様描き縄文LR充填施文。	中期後葉
第34図 PL.78	6	縄文土器 深鉢	1号埋裏 口縁～胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	小波状口縁か、口縁部に横位連続爪形文、以下沈線による連続V状懸垂文描く。中を縄文LR充填施文。	中期後葉
第34図 PL.78	7	縄文土器 深鉢	口縁部片				砂粒/褐色	2本沈線による横位連続∩状文様描く、縄文LR施文。	中期後葉
第34図 PL.78	8	縄文土器 深鉢	口縁部片				微砂粒/褐色	口縁部片、隆帯による渦巻き文か。	中期後葉
第34図 PL.78	9	縄文土器 深鉢	1号埋裏 口縁部片				微砂粒/暗褐色	口縁部に横位沈線、沈線によるV状の懸垂文様描出か、縄文LR充填施文。	中期後葉末
第34図 PL.78	10	縄文土器 深鉢	口縁部片				砂粒/明赤褐色	沈線による∩状文。地文には横位RL縄文施文。	中期後葉
第34図 PL.78	11	縄文土器 深鉢	1号埋裏 口縁部片				砂粒/黒褐色	口縁部に横位沈線、地文には縦位の集合沈線。	中期後葉
第35図 PL.78	12	縄文土器 深鉢	胴部片				砂粒/明褐色	並行沈線による垂下無文帯、間に縄文LR縦位施文。	中期後葉
第35図 PL.78	13	縄文土器 深鉢	胴部片				微砂粒/褐色	縄文LR施文。	中期後葉
第35図 PL.78	14	縄文土器 深鉢	胴～底部	底	(11.0)		砂粒多/褐色	無文の厚手胴下半部片。	中期後葉
第35図 PL.78	15	縄文土器 土製円盤	1号埋裏 完形			径 2.7	微砂粒/黒褐色	無文土器利用した小振りの土製円盤。	
第35図 PL.78	16	剥片石器 石鏃	完形	長幅 1.8 1.5	厚 1.8 1.5	重 0.3 0.6	黒曜石	凹基無茎、挟りはあまり深くなく、比較的均整のとれた形状。	
第35図 PL.78	17	剥片石器 石鏃	完形	長幅 1.3 1.0	厚 1.3 1.0	重 0.2 0.3	黒曜石	極めて小型の凹基無茎鏃。	
第35図 PL.78	18	剥片石器 石鏃	完形	長幅 2.1 1.6	厚 2.1 1.6	重 0.3 1.0	黒曜石	凹基無茎、挟り小さく浅い、作りが粗く、左右のバランスも悪い。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長	幅	厚			
第35図 PL.78	19	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(3.1) (1.6)	厚 重	0.4 (1.6)	黒色安山岩	比較的大型の凹基無茎、片方の脚を欠く。
第35図 PL.78	20	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.6) (1.7)	厚 重	0.3 (0.7)	黒曜石	先端部および片側の脚部分を欠く、挟り小さく浅い。
第35図 PL.78	21	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.8) (1.0)	厚 重	0.3 (0.5)	黒曜石	凹基無茎、作りは比較的丁寧、片脚を欠く。
第35図 PL.78	22	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(1.0) 1.6	厚 重	0.2 (0.3)	黒曜石	凹基無茎、挟りは浅い。先端部を欠く。
第35図 PL.78	23	剥片石器 打製石斧	欠損	長 幅	(4.0) (5.3)	厚 重	(1.3) (33.5)	黒色頁岩	打製石斧の刃部片、円刃で使用による摩耗見られる。
第35図 PL.78	24	礫石器 磨製石斧	欠損	長 幅	(8.3) (4.6)	厚 重	(2.9) (186)	変玄武岩	磨製石斧の基部片、側縁の稜はややなだらかで、基端部は細くなる。
第35図 PL.78	25	礫石器 礫器	欠損	長 幅	7.8 (5.6)	厚 重	0.9 (61)	黒色片岩	楕円形で板状の礫、一部欠損。
第35図 PL.78	26	礫石器 磨石	完形	長 幅	12.7 9.2	厚 重	3.9 770	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫利用、両面使用面で、平滑。
第35図 PL.78	27	礫石器 磨石	完形	長 幅	12.8 11.0	厚 重	5.0 922	粗粒輝石安山岩	偏平な円礫利用、両面使用。
第36図 PL.78	28	礫石器 磨石	完形	長 幅	15.1 11.5	厚 重	5.3 1548	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫、両面平坦な使用面。端部に打痕見られる。
第36図 PL.78	29	礫石器 磨石	完形	長 幅	15.9 13.7	厚 重	6.6 2330	ひん岩	やや大型の偏平礫、両面を使用面、片面は平坦である。
第36図 PL.78	30	礫石器 台石	完形	長 幅	15.0 13.9	厚 重	4.1 1454	粗粒輝石安山岩	円盤状の偏平礫利用、両面は平坦である。
第37図 PL.78	31	礫石器 磨石	完形	長 幅	16.0 10.2	厚 重	6.0 1497	粗粒輝石安山岩	やや偏平な楕円礫利用。
第37図 PL.78	32	礫石器 磨石	欠損	長 幅	11.8 (7.7)	厚 重	4.5 (477)	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫、被熱によるものかひび割れ欠損見られる。
第37図 PL.79	33	礫石器 台石	完形	長 幅	18.5 17.9	厚 重	5.5 2950	石英閃緑岩	大型の偏平礫、平らな両面を使用。
第37図 PL.79	34	礫石器 台石	完形	長 幅	23.5 17.8	厚 重	6.7 4460	石英閃緑岩	大型の偏平礫利用、両面使用で片面はやや凹凸見られる。
第38図 PL.79	35	礫石器 磨石	完形	長 幅	15.5 13.7	厚 重	3.6 1244	粗粒輝石安山岩	円盤状の偏平礫利用、片面に打痕によるものか、浅い凹みを有す。
第38図 PL.79	36	礫石器 台石	完形	長 幅	26.5 23.6	厚 重	7.7 7750	石英閃緑岩	大型の偏平礫利用、両面使用で面は平坦。
第38図 PL.79	37	礫石器 多孔石	完形	長 幅	18.3 17.1	厚 重	11.7 5400	粗粒輝石安山岩	大型でやや偏平な円礫、両面に数個の凹み穴が穿たれる。
第39図 PL.79	38	礫石器 石皿	完形	長 幅	25.7 23.1	厚 重	8.6 8500	粗粒輝石安山岩	大型のやや偏平な礫を利用、使用面は僅かに凹む。
第39図 PL.79	39	礫石器 軽石製品	欠損	長 幅	8.5 5.7	厚 重	1.7 (23)	軽石	板状でなすび型を呈す。全面研磨され成形されている。
第39図 PL.79	40	礫石器 軽石製品	欠損	長 幅	(8.6) 6.8	厚 重	2.3 (73)	軽石	厚みのある小判状を呈す、両面、側面丁寧な研磨により成形、下部は丸みを呈す。

8号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				底	幅	厚			
第41図 PL.79	1	縄文土器 深鉢	炉体土器 胴～底部	底	(9.0)			砂粒多/褐色	2本沈線による垂下無文帯、間に縄文LR横位施文。
第41図 PL.79	2	縄文土器 深鉢	胴～底部	底	8.4			砂粒多/黒褐色	1対の把手を持つ両耳壺、沈線による∩状文か、中を無節L横位多段施文。内外面に研磨痕。
第41図 PL.79	3	縄文土器 深鉢	胴部片					砂粒/褐色	沈線による矩形文、縄文RL施文。
第42図 PL.79	4	縄文土器 深鉢	胴部片					石英粒多/にぶい 黄褐色	縄文RL縦位施文。器面風化。埋糞。
第42図 PL.79	5	縄文土器 深鉢	胴部片					微砂粒/にぶい 黄褐色	隆帯による垂下文。
第42図 PL.79	6	縄文土器 深鉢	胴～底部片	底	8.2			石英粒多/にぶい 黄褐色	縄文RL縦位施文。器面風化。埋糞。4と同一個体。
第42図 PL.80	7	剥片石器 石匙	完形	長 幅	10.7 4.3	厚 重	1.3 65	黒色頁岩	縦型石匙、つまみ部の挟りは弱い、先端部に向かってやや細くなり、両側縁部に粗い刃部を作出、一面に大きく自然面が残る。
第42図 PL.80	8	剥片石器 打製石斧	完形	長 幅	11.7 6.9	厚 重	1.8 122	細粒輝石安山岩	分銅型であるが側縁部分の挟りは弱い。薄手でかなり雑な作り。
第42図 PL.80	9	礫石器 磨製石斧	欠損	長 幅	(7.7) 6.1	厚 重	(2.7) (205)	変玄武岩	定角式磨製石斧の刃部片、円刃で、作りは丁寧である。
第42図 PL.80	10	礫石器 磨製石斧	欠損	長 幅	(5.7) (4.5)	厚 重	(2.9) (114)	変玄武岩	定角式磨製石斧の基部片、やや厚みを持つ、作りは丁寧である。
第42図 PL.80	11	礫石器 磨製石斧	欠損	長 幅	(8.8) (4.5)	厚 重	3.1 (167)	変玄武岩	乳棒状磨製石斧の基部片、被熱か。
第42図 PL.80	12	礫石器 礫器	完形	長 幅	24.5 10.2	厚 重	2.8 995	粗粒輝石安山岩	大型の三角形を呈す板状の礫片、片面は平滑で、下辺部に粗い刃部状の調整痕見られる。
第42図 PL.80	13	礫石器 磨石	完形	長 幅	12.0 9.0	厚 重	5.6 851	粗粒輝石安山岩	やや偏平な卵形の礫、両面使用面とし、中央に極浅い凹みが看取される。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第42図 PL.80	14	礫石器 磨石	完形	長幅 10.0	厚 7.8	重 3.0	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫利用、両面使用し、平坦で平滑。片面に煤付着。	
第43図 PL.80	15	礫石器 磨石	完形	長幅 14.0	厚 7.4	重 3.4	粗粒輝石安山岩	偏平な長円礫利用、両面は平滑。	
第43図 PL.80	16	礫石器 磨石	完形	長幅 12.0	厚 10.0	重 5.4	粗粒輝石安山岩	不定形な偏平礫利用、表面に目だった使用痕は見られず。	
第43図 PL.80	17	礫石器 磨石	完形	長幅 16.9	厚 10.4	重 5.4	粗粒輝石安山岩	やや偏平な長円礫、両面使用、使用面は平滑。	
第43図 PL.80	18	礫石器 磨石	完形	長幅 16.7	厚 12.5	重 7.5	粗粒輝石安山岩	不定形な礫を利用、被熱か。	
第44図 PL.80	19	礫石器 台石	完形	長幅 21.0	厚 17.5	重 9.1	粗粒輝石安山岩	不定形な大型の礫を利用。	
第44図 PL.80	20	礫石器 磨石	完形	長幅 14.4	厚 12.0	重 6.5	粗粒輝石安山岩	偏平礫、片面が平坦で、台石としても利用か、側縁部に剥離顕著、被熱。	
第44図 PL.80	21	礫石器 磨石	完形	長幅 18.1	厚 15.7	重 6.5	粗粒輝石安山岩	偏平な円礫利用、両面使用し、平坦で平滑。片面に剥離部分見られる。	
第45図 PL.80	22	礫石器 磨石	完形	長幅 8.6	厚 6.9	重 3.5	流紋岩	卵形の偏平礫、表面は平滑。	
第45図 PL.80	23	礫石器 磨石	完形	長幅 11.0	厚 5.2	重 3.2	粗粒輝石安山岩	棒状の小型偏平礫。	
第45図 PL.80	24	礫石器 磨石	完形	長幅 16.1	厚 9.9	重 4.2	石英閃緑岩	偏平礫、両面平らで平滑。台石としても使用か。	
第45図 PL.80	25	礫石器 磨石	完形	長幅 12.1	厚 8.5	重 5.8	粗粒輝石安山岩	やや偏平な卵形の礫、端部に打痕見られる。	
第45図 PL.80	26	礫石器 磨石	完形	長幅 13.2	厚 7.0	重 2.9	粗粒輝石安山岩	棒状の小型偏平礫。	
第45図 PL.80	27	礫石器 磨石	完形	長幅 12.1	厚 7.4	重 3.5	粗粒輝石安山岩	偏平な小判形の礫、表面は平滑。	
第46図 PL.80	28	礫石器 磨石	完形	長幅 16.9	厚 7.9	重 3.6	粗粒輝石安山岩	偏平な板状を呈す礫を利用、顕著な使用痕は見られず。	
第46図 PL.80	29	礫石器 磨石	完形	長幅 9.8	厚 7.9	重 3.7	粗粒輝石安山岩	偏平礫、表裏面使用。	
第46図 PL.80	30	礫石器 磨石	完形	長幅 24.0	厚 17.2	重 7.2	粗粒輝石安山岩	大型で偏平な楕円礫、両面使用するが、片面が極めて平滑で使用痕顕著。	
第46図 PL.80	31	礫石器 石棒	完形	長幅 31.7	厚 9.6	重 7.4	変質安山岩	大型の棒状礫、先端部に打痕有り。全面鉄分の沈着顕著。被熱によるものか、ひび割れが見られる。	

土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第68図 PL.81	1	縄文土器 深鉢	27号土坑 口縁部片				細砂粒/にぶい赤褐色	口縁部に隆帯による楕円文様描くか。	中期後葉
第68図 PL.81	1	縄文土器 深鉢	41号土坑 口縁部片				砂粒多/にぶい橙色	口縁部内傾、薄手土器。浅い沈線による文様、一部に縄文。	後期初頭
第68図 PL.81	1	縄文土器 深鉢	44号土坑 胴部片				砂粒/にぶい赤褐色	縦位沈線による2本の垂下文、間を縄文LR縦位施文。一部に横位の沈線。	中期後葉
第68図 PL.81	1	縄文土器 深鉢	183号土坑 胴部片				砂粒/褐色	沈線文様内に縄文充填施文。	中期後葉
第68図 PL.81	1	縄文土器 深鉢	223・221号土坑 口縁部片				砂粒/にぶい黄橙色	繊維含む。口縁部に竹管文による横位多段沈線廻る。渦巻き文基調の文様描き、渦巻きに沿って、間隔を空けた連続刺突文廻らす。内面丁寧な研磨。	前期前半
第68図 PL.81	1	縄文土器 深鉢	245号土坑 口縁～胴部片				砂粒/褐色	頸部やや括れ口縁部外傾、口唇部に連続の刻み、内側に沈線を廻らす。沈線による横羽状文を多段施文。内面研磨。	後期前半
第68図 PL.81	2	縄文土器 深鉢	245号土坑 底部片	底	(6.8)		砂粒/褐色	無文底部片。	中期後葉
第68図 PL.81	1	縄文土器 深鉢	294号土坑 口縁部片				砂粒/橙色	無文口縁部片。	中期後葉
第68図 PL.81	2	縄文土器 深鉢	294号土坑 胴部片				砂粒/にぶい黄橙色	沈線文、縄文LR横位。	中期後葉
第68図 PL.81	1	縄文土器 深鉢	299号土坑 胴部片				砂粒/にぶい黄橙色	並行沈線。	後期前葉
第68図 PL.81	1	縄文土器 深鉢	310号土坑 胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	隆帯文。	中期後葉
第68図 PL.81	1	縄文土器 深鉢	311号土坑 胴部片				砂粒/にぶい黄橙色	縦位沈線文、縄文施文するが不明瞭。	中期後葉
第68図 PL.81	2	縄文土器 深鉢	311号土坑 胴部片				砂粒/橙色	縦位磨消帯、縄文LR縦位施文、器面風化。	中期後葉
第68図 PL.81	1	縄文土器 深鉢	312号土坑 胴部片				砂粒/赤褐色	縄文RL縦位、縦位沈線。	中期後葉
第69図 PL.81	1	縄文土器 深鉢	316号土坑 口縁部片				砂粒/暗褐色	口縁部内削ぎ、横位沈線下に横位さらに下位は縦位にRL縄文、沈線による磨消文描く。	中期後葉新
第69図 PL.81	2	縄文土器 深鉢	316号土坑 口縁部片				砂粒/明褐色	小波状口縁か、口唇部平らに整形、沈線下には細LR横位。	中期後葉

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第69図 PL.81	3	縄文土器 深鉢	316号土坑 口縁部片				砂粒/褐色	口縁部内削ぎ、横位沈線下に横位さらに下位は縦位にRL縄文、沈線による磨消文描く。1は同一個体片。	中期後葉新	
第69図 PL.81	4	縄文土器 深鉢	316号土坑 胴部片				砂粒/明褐色	縄文LR縦、縦位沈線。	中期後葉	
第69図 PL.81	5	縄文土器 浅鉢	316号土坑 胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	太沈線による曲線文様、内外面赤彩。	中期後葉	
第69図 PL.81	6	縄文土器 深鉢	316号土坑 胴部片				砂粒/褐色	垂下隆帯の一部、縄文LR縦位および斜位施文。	中期後葉	
第69図 PL.81	7	縄文土器 深鉢	316号土坑 胴部片				砂粒/褐色	並行する垂下隆帯、縄文LR縦位。	中期後葉	
第69図 PL.81	8	縄文土器 深鉢	316号土坑 胴部片				砂粒/褐色	縦位隆帯、縄文LR縦位。	中期後葉	
第69図 PL.81	9	縄文土器 深鉢	316号土坑 胴部片				砂粒/黄褐色	磨消曲線文様描く、スス付着。	中期後葉新	
第69図 PL.81	10	縄文土器 深鉢	316号土坑 胴部片				砂粒/褐色	沈線による矩形区画か、縄文RL縦位。	中期後葉古	
第69図 PL.81	11	縄文土器 深鉢	316号土坑 底部片	底	6.0		砂粒/明褐色	無文底部片、底面に平行線、白色物付着。	中期後葉	
第69図 PL.81	1	縄文土器 深鉢	317号土坑 口縁部片				砂粒/褐色	口縁下に横位太沈線。	中期後葉	
第69図 PL.81	2	縄文土器 深鉢	317号土坑 胴部片				白色砂粒多/黄褐色	横位羽状縄文LR斜位。	中期後葉	
第69図 PL.81	1	縄文土器 深鉢	318号土坑 口縁～胴部片				砂粒/にぶい橙色	口縁下に横位の連続刺突文。以下縄文施文、沈線によるU状垂下文を連続して描く。胴下半には逆U状文。遺構外51と同一か。	中期後葉	
第69図 PL.81	2	縄文土器 深鉢	318号土坑 口縁部片				砂粒/黒褐色	口縁下に沈線、以下磨消曲線文様描く。	中期後葉	
第69図 PL.81	3	縄文土器 深鉢	318号土坑 口縁部片				砂粒/にぶい褐色	小波状呈す、波頂部外側耳状にやや肥厚し、左右に連続刺突文が2段施文される。以下隆線による曲線文様描き、縄文が施文される。内面研磨。	中期後葉	
第69図 PL.81	4	縄文土器 深鉢	318号土坑 把手				砂粒/にぶい黄褐色	口縁部に小突起を有す環状把手、口縁下左右に沈線巡り、両側に連続刺突文。5は同一個体。	中期後葉	
第69図 PL.81	5	縄文土器 深鉢	318号土坑 口縁部片				砂粒/暗灰黄色	口縁下沈線に沿って連続刺突文、以下多方向施文の縄文。	中期後葉	
第69図 PL.81	6	縄文土器 深鉢	318号土坑 口縁部片				砂粒/黒褐色	口縁内削ぎ状、隆帯による垂下文か、文様内に縄文施文。	中期後葉	
第69図 PL.81	7	縄文土器 深鉢	318号土坑 口縁部片				砂粒/明赤褐色	無文口縁部片。	中期後葉	
第69図 PL.81	8	縄文土器 深鉢	318号土坑 口縁部片				砂粒/にぶい黄褐色	波頂部に把手有し、口縁下に沈線が廻る。以下沈線により逆U状文、蕨手文様描く磨消縄文。	中期後葉	
第69図 PL.81	9	縄文土器 深鉢	318号土坑 胴部片				砂粒/にぶい橙色	胴屈曲部、隆線によるU状、逆U状文を上下に描き縄文LR充填。	中期後葉	
第69図 PL.81	10	縄文土器 深鉢	318号土坑 胴部片				砂粒/にぶい橙色	隆線による逆U状文描くか。9と同一か。	中期後葉	
第69図 PL.81	11	縄文土器 深鉢	318号土坑 胴部片				微砂粒/橙色	縦位の磨消縄文、沈線細く縄文RL縦位。	中期後葉	
第69図 PL.81	12	縄文土器 深鉢	318号土坑 胴部片				微砂粒/にぶい黄褐色	磨消縄文、沈線による曲線文様描くか。縄文RL縦位施文。	中期後葉	
第69図 PL.81	13	縄文土器 深鉢	318号土坑 胴部片				砂粒/にぶい橙色	無文下に横位隆帯、以下縦位の条線文。	中期後葉	
第69図 PL.81	14	剥片石器 石鏃	318号土坑 欠損	長幅	(1.9) (1.2)	厚重	0.4 (0.9)	黒曜石	作りは粗い、基部を欠損か。	
第70図 PL.81	1	縄文土器 深鉢	319号土坑 口縁部片				微砂粒/褐灰色	口縁部内傾、良く研磨された無文部を隆線で画す。以下縄文施文。内面研磨。	中期後葉末	
第70図 PL.81	2	縄文土器 深鉢	319号土坑 胴部片				砂粒/褐灰色	並行する縦位沈線3本か、縄文RLか、器表面に研磨痕見られる。	中期後葉末	
第70図 PL.81	3	縄文土器 深鉢	319号土坑 胴部片				砂粒/にぶい赤褐色	縦位磨消縄文、細沈線。無文部良く研磨され、堅緻な焼成。	中期後葉	
第70図 PL.81	4	縄文土器 深鉢	319号土坑 胴部片				砂粒/明褐色	縦位磨消縄文、沈線は浅く、縄文RL縦位施文。	中期後葉	
第70図 PL.81	1	縄文土器 深鉢	320号土坑 口縁部片				微砂粒/にぶい橙色	厚手の口縁部片、太い沈線の一部見られる。	中期後葉	
第70図 PL.81	2	縄文土器 深鉢	320号土坑 胴部片				微砂粒/にぶい褐色	沈線による、横位連続するU状文、文様内を縄文充填。	中期後葉	
第70図 PL.81	1	縄文土器 深鉢	327号土坑 口縁～胴部片				砂粒/にぶい橙色	波状口縁に沿って沈線が廻る。胴部には2本沈線による逆U状文を連続、沈線文間には、縄文LR充填施文する。	中期後葉末	
第70図 PL.81	2	縄文土器 深鉢	327号土坑 口縁部片				微砂粒/明褐色	口縁部片、横位沈線。	中期後葉	
第70図 PL.81	1	縄文土器 深鉢	337号土坑 口縁部片				砂粒/褐色	口縁下に浅い横位沈線。	中期後葉	
第70図 PL.81	1	縄文土器 深鉢	339号土坑 胴部片				微砂粒/褐色	縦位の垂下隆帯・沈線文。	中期後葉	
第70図 PL.82	1	縄文土器 深鉢	343号土坑 口縁部片				微砂粒/黒褐色	口縁部無文で横位隆帯廻る、以下沈線による渦巻き文か。厚手で内外面丁寧な研磨。	中期後葉	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第70図 PL.82	2	縄文土器 深鉢	343号土坑 口縁部片				砂粒/暗褐色	波状口縁。口縁に隆帯、以下縄文LR横位、沈線による懸垂文様か。	中期後葉末	
第70図 PL.82	3	縄文土器 深鉢	343号土坑 胴部片				雲母混入/明褐色	垂下隆帯、縄文LR縦位。内面荒れる。5と同一個体か。	中期後葉	
第70図 PL.82	4	縄文土器 深鉢	343号土坑 胴部片				雲母混入/明褐色	ややカーブを描く隆帯で磨消帯、縄文LR斜位	中期後葉末	
第70図 PL.82	5	縄文土器 深鉢	343号土坑 胴部片				雲母混入/にぶい 黄褐色	垂下隆帯、縄文LR縦位。	中期後葉	
第70図 PL.82	1	縄文土器 深鉢	344号土坑 口縁部片	口	(24.0)		砂粒/暗褐色	縄文LR。	中期後葉	
第70図 PL.82	2	縄文土器 深鉢	344号土坑 口縁~胴部片				砂粒/明褐色	口縁部横位の隆帯巡り、そこから隆帯垂下させ矩形を 画し、縄文LR縦位施文。	中期末葉	
第71図 PL.82	3	縄文土器 深鉢	344号土坑 口縁部片				砂粒多/にぶい黄 褐色	口縁に横位沈線、縄文LR縦位・横位で羽状施文。	中期後葉	
第71図 PL.82	4	縄文土器 深鉢	344号土坑 口縁部片				微砂粒/黄褐色	口縁部内傾、隆帯で無文帯画す、以下沈線による懸垂 文か、縄文LRか？	中期後葉末	
第71図 PL.82	5	縄文土器 深鉢	344号土坑 胴部片				砂粒/黄褐色	沈線による磨消垂下文。	中期後葉	
第71図 PL.82	6	縄文土器 深鉢	344号土坑 口縁部片				微砂粒/暗褐色	縄文LR縦位。	中期後葉	
第71図 PL.82	7	礫石器 磨石	344号土坑 完形	長 幅	11.0 10.0	厚 重	4.2 590	粗粒輝石安山岩	扁平礫、表裏面使用。	
第71図 PL.82	8	礫石器 磨石	344号土坑 完形	長 幅	7.7 6.8	厚 重	5.7 376	粗粒輝石安山岩	卵大の円礫、一部欠損。	
第71図 PL.82	9	礫石器 磨石	344号土坑 完形	長 幅	18.4 8.5	厚 重	5.7 1382	粗粒輝石安山岩	扁平ななすび形の礫、表裏面平滑で、端部に打痕有り。	
第71図 PL.82	10	礫石器 多孔石	344号土坑 完形	長 幅	27.3 23.0	厚 重	16.6 11450	粗粒輝石安山岩	大型の自然礫利用、肥厚した一面に十数個、裏面には 数個の凹み穴。	
第72図 PL.82	1	縄文土器 深鉢	347号土坑 口縁部片				微砂粒/褐色	口縁部内傾、沈線文、縄文か。器面風化。	中期後葉末	
第72図 PL.82	2	縄文土器 深鉢	347号土坑 口縁部片				微砂粒/褐色	沈線による渦巻き文様か、縄文LR施文。	中期後葉末	
第72図 PL.82	3	縄文土器 深鉢	347号土坑 口縁部片				砂粒/褐色	口縁部内傾、沈線で磨消文描く。	中期後葉末	
第72図 PL.82	4	縄文土器 深鉢	347号土坑 胴部片				石英、金雲母粒/ 黒褐色	沈線による垂下文、縄文LR横位。	中期後葉	
第72図 PL.82	5	礫石器 台石	347号土坑 完形	長 幅	21.3 17.8	厚 重	6.8 3960	粗粒輝石安山岩/ 粗粒輝石安山岩	扁平な円礫利用、使用面は僅かに凹み、平滑。	
第72図 PL.82	6	礫石器 多孔石	347号土坑 完形	長 幅	22.9 19.9	厚 重	12.2 7400	粗粒輝石安山岩	大型の自然礫路用、表裏に複数の凹み穴を穿つが、い ずれも小振りの穴である。	
第72図 PL.82	7	礫石器 石皿	347号土坑 完形	長 幅	29.5 22.8	厚 重	6.8 5800	粗粒輝石安山岩	扁平な大型楕円礫利用、使用面は浅く凹み比較的平坦 である。	
第73図 PL.83	1	縄文土器 深鉢	348号土坑 口縁部片				石英粒少/にぶい 黄褐色	口縁部内湾、口縁無文帯を隆線を伴う横位沈線で画し、 以下縄文LR縦位施文。	中期後葉	
第73図 PL.83	2	縄文土器 深鉢	348号土坑 口縁部片				微砂粒/黄褐色	厚手の口縁部片、横位沈線、器面風化。	中期後葉	
第73図 PL.83	3	縄文土器 深鉢	348号土坑 口縁部片				微砂粒/黄褐色	口縁部隆帯で肥厚帯を画す。	中期後葉	
第73図 PL.83	4	縄文土器 深鉢	348号土坑 口縁部片				石英粒/にぶい黄 褐色	口縁部片、口唇部やや肥厚。器面の風化顕著。	中期後葉	
第73図 PL.83	5	縄文土器 深鉢	348号土坑 口縁部片				微砂粒/褐色	口縁部直下に縄文施文。スス付着。	中期後葉	
第73図 PL.83	6	縄文土器 深鉢	348号土坑 胴部片				雲母混入/にぶい 褐色	横位隆線文。	中期後葉	
第73図 PL.83	7	縄文土器 深鉢	348号土坑 胴部片				微砂粒/にぶい褐 色	縦位併行沈線。	中期後葉	
第73図 PL.83	8	縄文土器 深鉢	348号土坑 胴部片				砂粒/明褐色	垂下隆帯、縄文LRを多方向に施文。	中期後葉	
第73図 PL.83	9	縄文土器 深鉢	348号土坑 胴部片				微砂粒/褐色	縄文LR縦位施文後、垂下沈線文。内面スス付着。	中期後葉	
第73図 PL.83	10	縄文土器 深鉢	348号土坑 胴部片				砂粒/褐色	浅い沈線による併行垂下文。	中期後葉	
第73図 PL.83	11	縄文土器 浅鉢	348号土坑 底部片	底	(7.6)			砂粒/褐色	胴部は大きく開く、隆線によるU状文様。	中期後葉
第73図 PL.83	12	礫石器 磨石	348号土坑 完形	長 幅	11.9 9.0	厚 重	4.8 760	粗粒輝石安山岩	扁平な楕円礫、両面使用面。	
第73図 PL.83	13	礫石器 磨石	348号土坑 完形	長 幅	13.1 10.3	厚 重	5.3 1069	粗粒輝石安山岩	やや扁平な楕円形礫、両端部に打痕有り。	
第73図 PL.83	14	礫石器 磨石	348号土坑 完形	長 幅	8.2 6.4	厚 重	3.0 205	溶結凝灰岩	扁平な楕円形礫。側縁端部に弱い打痕見られる。	
第73図 PL.83	15	礫石器 磨石	348号土坑 完形	長 幅	16.8 10.9	厚 重	4.5 1289	粗粒輝石安山岩	扁平な不定形礫、両面平らで平滑。	
第74図 PL.83	16	礫石器 磨石	348号土坑 完形	長 幅	12.5 5.5	厚 重	3.9 545	細粒輝石安山岩	扁平な角棒状の礫。全面平滑だが顕著な使用痕は見ら れず。	

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第74図 PL.83	1	礫石器 磨石	351号土坑 完形	長幅	13.3 8.6	厚重	5.3 977	粗粒輝石安山岩	やや偏平な楕円形礫、両面使用により平滑。	
第74図 PL.83	1	縄文土器 深鉢	353号土坑 口縁部片					微砂粒/黒褐色	無文口縁部片、外面研磨痕、内面にスス付着。	中期後葉
第74図 PL.83	2	縄文土器 深鉢	353号土坑 胴部片					砂粒/暗赤褐色	縦位磨消帯、縄文RL縦位施文。	中期後葉
第74図 PL.83	3	縄文土器 深鉢	353号土坑 胴部片					砂粒/にぶい黄褐色	縦位磨消帯、縄文RL縦位施文。	中期後葉
第74図 PL.83	4	縄文土器 浅鉢	353号土坑 底部片	底	(8.0)			砂粒/黄褐色	底部から胴部にかけて丸みを持ち、胴部は大きく開く、内面にスス付着	中期後葉
第74図 PL.83	5	礫石器 台石	353号土坑 完形	長幅	28.7 17.3	厚重	7.2 6700	粗粒輝石安山岩	偏平な大型礫、平らな片面を主に使用。	
第74図 PL.83	1	縄文土器 深鉢	358号土坑 胴部片					砂粒/明褐色	縄文RL。	中期後葉
第74図 PL.83	1	礫石器 磨製石斧	359号土坑 完形	長幅	7.0 3.5	厚重	1.5 67	変輝緑岩	やや小型品、短冊形で側縁部分はやや丸みを持つ。	
第74図 PL.83	1	縄文土器 深鉢	366号土坑 胴部片					砂粒/灰黄褐色	垂下隆帯、縄文LR縦位施文。	中期後葉
第74図 PL.83	1	縄文土器 深鉢	369号土坑 底部片	底	10.0			砂粒/にぶい褐色	底部片。	中期後葉
第75図 PL.83	1	縄文土器 深鉢	371号土坑 口縁部片					微砂粒/灰黄褐色	口縁部やや肥厚し無文、以下無節R状文見られる。	中期中葉
第75図 PL.83	2	縄文土器 深鉢	371号土坑 口縁部片					砂粒/褐色	口縁に横位沈線、以下沈線による曲線文、縄文RL縦位施文。	中期未葉
第75図 PL.83	3	縄文土器 深鉢	371号土坑 口縁部片					砂粒多/褐色	口縁部内傾、横位隆線と沈線以下縦位の集合条線文。	中期後葉
第75図 PL.83	4	縄文土器 深鉢	371号土坑 口縁部片					砂粒/にぶい黄褐色	沈線で口縁に無文部画す、以下縄文LRか。	中期後葉
第75図 PL.83	5	縄文土器 深鉢	371号土坑 口縁部片					砂粒/赤褐色	無文口縁、やや外傾して立ち上がる。外面に指頭痕。	中期後葉
第75図 PL.83	6	縄文土器 深鉢	371号土坑 胴部片					微砂粒/褐色	幅広の無文口縁、横位隆帯下に縄文RL横位。	中期後葉
第75図 PL.83	7	縄文土器 深鉢	371号土坑 胴部片					砂粒/にぶい黄褐色	垂下隆帯により無文帯と状文帯画す、縄文LR縦位施文。	中期後葉
第75図 PL.83	8	縄文土器 深鉢	371号土坑 胴部片					砂粒/褐色	垂下隆帯により無文帯と状文帯画す、無節L施文。	中期後葉
第75図 PL.83	9	縄文土器 深鉢	371号土坑 胴部片					微砂粒/暗褐色	口縁下に横位隆帯、以下縄文LR多方向施文。	中期後葉
第75図 PL.83	10	縄文土器 深鉢	371号土坑 胴部片					砂粒/にぶい黄褐色	沈線による縦位磨消帯、状文RL縦位施文。	中期後葉
第75図 PL.83	11	縄文土器 鉢	371号土坑 胴部片					石英小粒/褐色	沈線による渦巻き意匠文、円形縄文RL斜位	中期後葉末
第75図 PL.83	12	縄文土器 深鉢	371号土坑 把手					微砂粒/にぶい黄褐色	帯状の把手、中央が凹む。	中期後葉
第75図 PL.83	13	剥片石器 石鏃	371号土坑 欠損	長幅	(1.7) (1.3)	厚重	0.3 (0.5)	黒曜石	凹基無茎、両脚端部欠損。	
第75図 PL.83	14	礫石器 磨石	371号土坑 完形	長幅	8.2 7.2	厚重	6.2 502	粗粒輝石安山岩	拳大の円礫利用。	

1～7号埋甕

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第77図 PL.84	1	縄文土器 両耳壺	1号埋甕 胴～底部	底	(9.0)			微砂粒/明黄褐色	肩部に1対の把手、口縁部はやや外反しながら立ち上がり無文。把手部から左右隆帯による連弧状文、円形文様描き内部に縄文RL横位充填施文。	中期後葉
第77図 PL.84	1	縄文土器 深鉢	2号埋甕 胴部片					砂粒多/暗褐色	口縁部を欠く、胴部上部に縄文RL、下部に条線。極めて脆弱。	中期後葉
第77図 PL.84	2	縄文土器 深鉢	2号埋甕 底部片			底	8.6	微砂粒/暗褐色	底部片、沈線による縦位磨消、縄文LR縦位施文。	中期後葉
第77図 PL.84	3	縄文土器 土製円盤	2号埋甕 完形			径	3.8	微砂粒/褐色	胴部片再利用、縄文LR。	
第78図 PL.84	1	縄文土器 深鉢	3号埋甕 口縁～胴部	口	36.5			砂粒/黒褐色	4単位の波状口縁、波頂下に5～6本沈線で幅広の∩状文描き、間には幅狭の∩状文描く。文様間、文様内には縄文RL縦位施文。	中期後葉
第78図 PL.84	2	縄文土器 深鉢	3号埋甕 口縁～胴部	口	34.5			砂粒/暗赤褐色	口縁部文様は、隆帯による楕円文、円形文を横位に組み合わせる。胴部には縦位沈線は無文帯、縄文帯を画す。縄文縦位RL。	中期後葉
第78図 PL.84	1	縄文土器 深鉢	4号埋甕 口縁部片					砂粒/灰褐色	口縁部に沈線による楕円文様か。	中期後葉
第78図 PL.84	1	縄文土器 深鉢	5号埋甕 胴～底部					微砂粒/にぶい褐色	沈線による並行垂下文、逆U状文描く。文様内には縄文RL縦位充填施文。	
第78図 PL.84	1	縄文土器 深鉢	6号埋甕 口縁～胴部片					砂粒/にぶい黄褐色	波頂部から小波状に隆帯巡る。以下胴部には沈線による連続する逆U状文描く磨消縄文。	中期後葉末
第78図 PL.84	1	縄文土器 深鉢	7号埋甕 胴部片					砂粒多/灰黄褐色	縦位沈線文、器面に研磨痕。	中期後葉

遺物観察表

4号列石

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第80図 PL.85	1	剥片石器 石鏃	欠損	長 幅	(2.1) (1.4)	厚 重	0.6 (1.0)	黒曜石	凹基無茎、片脚を欠損か、中央部が肥厚。未製品の可能性もある。
第80図 PL.85	2	礫石器 磨石	欠損	長 幅	11.8 8.5	厚 重	6.0 (633)	粗粒輝石安山岩	楕円礫利用、一面に凹みを有す、被熱によるひび割れ見られる。
第80図 PL.85	3	礫石器 石皿	完形	長 幅	22.8 15.2	厚 重	4.6 2070	粗粒輝石安山岩	なすび形の偏平礫を利用、使用面は比較的深く作られている。やや小振りの石皿である。
第80図 PL.85	4	礫石器 磨石	完形	長 幅	8.1 6.8	厚 重	4.8 384	粗粒輝石安山岩	やや偏平な卵大の円礫、表面は平滑。

6号列石

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第82図 PL.85	1	縄文土器 深鉢	口縁部片					砂粒/黒褐色	隆帯による楕円文様構成か、縄文RL。	中期後葉
第82図 PL.85	2	縄文土器 深鉢	口縁部片					砂粒多/橙色	横位隆帯、以下縄文LR?器面風化。	中期後葉末
第82図 PL.85	3	縄文土器 深鉢	74区V-19 口縁部片					微砂粒/にぶい橙 色	波状口縁。口唇内面僅かに肥厚。外面に粗い横位斜行 沈線、内外面にスス付着。	後期前半
第82図 PL.85	4	縄文土器 深鉢	胴部片					砂粒多/明褐色	隆帯、沈線文で文様構成。一部連続の刺突文。	中期中葉
第82図 PL.85	5	縄文土器 深鉢	底部片			底	7.0	砂粒/にぶい赤褐 色	底部片。内面にスス付着。	中期後葉
第82図 PL.85	6	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	1.6 1.4	厚 重	0.3 0.4	黒曜石	凹基無茎、作りは丁寧。局部磨製。	
第82図 PL.85	7	剥片石器 打製石斧	完形	長 幅	10.3 6.0	厚 重	2.2 125.2	黒色頁岩	撥型、側縁部僅かな抉り見られる。基端部を僅かに欠損。	
第82図 PL.85	8	礫石器 磨石	完形	長 幅	11.7 9.9	厚 重	4.5 822	粗粒輝石安山岩	偏平な円礫利用、平らな両面使用し、面は平滑。	
第82図 PL.85	9	礫石器 磨石	完形	長 幅	13.3 8.2	厚 重	6.2 947	粗粒輝石安山岩	やや不定形の俵形を呈す、平坦な一面を使用か、	
第82図 PL.85	10	礫石器 磨石	完形	長 幅	10.6 9.1	厚 重	5.8 698	粗粒輝石安山岩	やや偏平な円礫利用、表裏の平坦面を使用面とする。	
第83図 PL.85	11	礫石器 磨石	完形	長 幅	16.8 11.5	厚 重	6.4 1960	粗粒輝石安山岩	やや偏平な長円礫利用、表裏の面を使用面とする。や や膨らむ面には中央に打痕見られる。表面は両面共に 平滑。	
第83図 PL.85	12	礫石器 磨石	完形	長 幅	14.3 10.2	厚 重	4.5 934	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫、平らな表裏面を使用か。	
第83図 PL.85	13	礫石器 磨石	完形	長 幅	18.5 12.5	厚 重	9.9 3530	粗粒輝石安山岩	大型の円礫、目だった使用痕は見られず。	
第84図 PL.85	14	礫石器 凹石	完形	長 幅	11.8 7.7	厚 重	7.7 992	粗粒輝石安山岩	拳大の長円礫、目だった使用痕は見られず。	
第84図 PL.85	15	礫石器 磨石	完形	長 幅	15.0 10.5	厚 重	4.3 1011	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫利用、平らな両面使用し、面は平滑。	
第84図 PL.85	16	礫石器 磨石	完形	長 幅	20.0 12.1	厚 重	6.9 2885	変質安山岩	大型の偏平礫、表面平滑。	
第84図 PL.85	17	礫石器 磨石	完形	長 幅	15.2 11.0	厚 重	9.7 2120	珪質変質安山岩 (流紋岩質凝灰岩)	大型の円礫、目だった使用痕は見られず。	
第85図 PL.85	18	礫石器 台石	欠損	長 幅	(12.5) 22.5	厚 重	6.4 (2350)	粗粒輝石安山岩	欠損品、偏平な大型礫、平らな1面を使用面としている。 僅かに凹み有り。	
第85図 PL.86	19	礫石器 石皿	欠損	長 幅	(14.3) (25.6)	厚 重	(8.0) (3300)	粗粒輝石安山岩	破損品、使用面は深く作られ、底部部分の摩耗顕著。 裏面には複数の凹み穴が穿たれる。	
第85図 PL.86	20	礫石器 多孔石	完形	長 幅	23.3 18.8	厚 重	13.2 4100	粗粒輝石安山岩	大型で不定形な自然礫を利用、平坦な表裏2面に、それ ぞれ20数個の凹み穴が穿たれている。	
第85図 PL.86	21	礫石器 凹石	欠損	長 幅	(10.8) (8.5)	厚 重	(6.3) (659)	粗粒輝石安山岩	多孔石の破片、一面に3個の凹み穴が見られる。	

遺構外

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第87図 PL.86	1	縄文土器 深鉢	74区S・T-6 口縁~胴部1/2	口	(31.8)			細砂粒/にぶい赤 褐色	口縁部に2山、6単位の突起を有す。胴部から2段の屈曲 を有し、それぞれに文様帯を持つ。口縁部はほぼ直立 する。突起波頂部および波底部より3本の並行する沈線 垂下、沈線上には刺突文。その間に併行する2本の沈線 を連続山形に描きこれにやらずれて櫛状を意識した平行 線文を左右から描く。さらにこれに繋がる短い平行 線文を上下それぞれ3本ずつ描き込む。沈線文様の交 点部を中心に刺突文を付す。縦方向の文様部分を除き、 文様間には複数の斜位短沈線文を充填する。屈曲部は 無文で、下段の文様は口縁部とほぼ同様な文様構成を 取るが、垂下する3本の沈線文をずらした構成をとると 見られる。胴部外面および内面には横位、斜位の条痕文。 補修孔と見られる円孔有す。	鶺鴒ヶ島台式、 繊維含む
第87図 PL.86	2	縄文土器 深鉢	74区T-6 胴部破片					石英、雲母粒/に ぶい赤褐色	縄文無節L。	早期か

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第87図 PL.86	3	縄文土器 深鉢	74区T-6 胴部破片				石英、雲母粒/に ぶい黄褐色	縄文無節L。	早期か
第87図 PL.86	4	縄文土器 深鉢	74区U-6 胴部破片				雲母流多く混入/ 黒褐色	縄文LR縦位。	早期か
第88図 PL.86	5	縄文土器 深鉢	64区H-24 胴部片				微砂粒/にぶい黄 褐色	羽状縄文RL。繊維含む。	前期初頭
第88図 PL.86	6	縄文土器 深鉢	64区H-24 胴部片				微砂粒/明褐色	羽状縄文LR。繊維含む。	前期初頭
第88図 PL.86	7	縄文土器 深鉢	82区P-2 口縁部片				砂粒/明褐色	やや内湾、横位の集合沈線、添付文の剥落痕。	前期後葉か
第88図 PL.86	8	縄文土器 深鉢	72区O-21 胴部片				砂粒/褐色	横位集合沈線。	前期後葉
第88図 PL.86	9	縄文土器 深鉢	74区O-5 口縁部片				砂粒石英、雲母粒 多/にぶい赤褐色	内面口唇部に多段の連続押し引き文。	中期前半
第88図 PL.86	10	縄文土器 深鉢	74区R-18 口縁部片				白色砂粒/褐色	口縁部内屈、大小の円形文と捻り文、沈線文を充填。	中期中葉
第88図 PL.86	11	縄文土器 深鉢	74区R-18 胴部片				雲母混入/暗褐色	隆線、沈線による曲線文様、隆線に沿って連続刻み、突起部に刻み。	中期中葉
第88図 PL.86	12	縄文土器 深鉢	74区R-18 胴部片				雲母混入/褐色	隆線、沈線による曲線文様、隆線連結部突起し、隆帯貼り付け、間隙に沈線文様で埋め、上位には横位の沈線、隆帯。	中期中葉
第88図 PL.87	13	縄文土器 深鉢	74区R-18 胴部片				雲母混入/黒褐色	隆線、沈線による曲線文様、突起部に連続隆帯。横位曲線文様描く。	中期中葉
第88図 PL.87	14	縄文土器 深鉢	74区R-18 胴部片				雲母混入/暗褐色	隆線、沈線による曲線文様、隆線連結部突起し、円形文隆帯貼り付け文、間隙に沈線文様で埋め、三角印刻文。	中期中葉
第88図 PL.87	15	縄文土器 深鉢	74区R-18 胴部片				砂粒/明褐色	隆線による曲線文、連結部に突起状に肥厚する貼り付け文。	中期中葉
第88図 PL.87	16	縄文土器 深鉢	74区R-17 胴部片				雲母混入/赤褐色	隆線による垂下対弧状文、間隙を沈線で埋める。	中期中葉
第88図 PL.87	17	縄文土器 深鉢	74区R-18 胴部片				砂粒/にぶい黄褐 色	隆線による渦巻き文、間隙には沈線文充填。	中期中葉
第88図 PL.87	18	縄文土器 深鉢	74区R-18 胴部片				雲母混入/赤褐色	隆線による垂下対弧状文下端部、縦位の沈線で埋める。	中期中葉
第88図 PL.87	19	縄文土器 深鉢	74区R-18 胴部片				雲母混入/明褐色	隆線による垂下対弧状文、内部には重楕円文描き、間隙を縦位の沈線で埋める。	中期中葉
第88図 PL.87	20	縄文土器 深鉢	74区R-18 深鉢				雲母混入/黒褐色	環状突起、隆帯で飾られる。	中期中葉
第88図 PL.87	21	縄文土器 深鉢	74区R-17 口縁部片				金雲母混入/黒褐 色	口縁部に付く環状突起、円形文隆帯。	中期中葉
第88図 PL.87	22	縄文土器 深鉢	74区Q-19 胴部片				砂粒/赤褐色	口縁部文様帯に刻みを有す隆帯、円形文、弧状文を構成、円形文内には沈線による渦巻き文。	中期中葉
第88図 PL.87	23	縄文土器 深鉢	83区S-1 胴部片				砂粒/褐色	隆帯に沿ってキャタピラ文。	中期中葉
第88図 PL.87	24	縄文土器 深鉢	82区P-2 胴部片				砂粒/褐色	縦位集合沈線。	中期中葉
第89図 PL.87	25	縄文土器 深鉢	83区O-3 胴部片				砂粒/明褐色	沈線によるV状文に沿って刺突文。	中期中葉
第89図 PL.87	26	縄文土器 深鉢	74区P-15 口縁部片				砂粒(石英粒)/黒 褐色	くの字に内傾する口縁部片、連続刺突文伴う沈線で矩形文。	中期中葉
第89図 PL.87	27	縄文土器 深鉢	83区O-8 胴部片				砂粒/明赤褐色	縦位擦糸L。	中期中葉
第89図 PL.87	28	縄文土器 深鉢	74区S-12 口縁部片				砂粒/褐色	小波頂部、隆帯による端部渦巻き文。以下隆帯で楕円文様構成。中を縦位の沈線文で埋める。	中期後葉
第89図 PL.87	29	縄文土器 深鉢	74区U-18 口縁部片				砂粒/明黄褐色	口縁部隆帯による楕円文様か、縦位の連続沈線文で埋める。	中期後葉
第89図 PL.87	30	縄文土器 深鉢	75区D-7 口縁部片				砂粒/明褐色	口縁下に横位の隆帯、以下縄文施文。	中期後葉
第89図 PL.87	31	縄文土器 深鉢	75区E-9 口縁部片				砂粒/褐色	楕円文構成、中に縄文RL施文。厚手土器。	中期後葉
第89図 PL.87	32	縄文土器 深鉢	75区E-7・8 口縁部片				砂粒/褐色	大型土器の口縁部、隆帯による渦巻き楕円文様。楕円文内、縄文縄文LR充填する。	中期後葉
第89図 PL.87	33	縄文土器 深鉢	75区P-20 口縁部片				砂粒/赤褐色	小波状口縁、隆帯による渦巻き文様。	中期後葉
第89図 PL.87	34	縄文土器 深鉢	21号溝 口縁部片				砂粒/灰褐色	沈線による∩状文、縄文無節Lか。	中期後葉
第89図 PL.87	35	縄文土器 深鉢	75区P-20 口縁部片				砂粒/暗赤褐色	弧状文内縄文RL。内外面にスス付着。41と同一個体。	中期後葉
第89図 PL.87	36	縄文土器 深鉢	75区D-19 口縁部片				砂粒/浅黄褐色	口縁部に楕円文基調の文様構成、縄文RL施文。	中期後葉
第89図 PL.87	37	縄文土器 深鉢	75区P-21 口縁部片				砂粒/褐色	口縁部に楕円文、楕円渦巻き文構成か。縄文RL。	中期後葉
第89図 PL.87	38	縄文土器 深鉢	74区S-6 口縁部片				砂粒/黄褐色	隆帯による文様を構成か、縄文RL施文。	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第89図 PL.87	39	縄文土器 深鉢	75区D-11、N-19 口縁部片				砂粒/橙色	小波状を呈す、隆帯による楕円文様か、縄文RL充填施文。	中期後葉
第89図 PL.87	40	縄文土器 深鉢	74区O-11 口縁部片				砂粒/にぶい黄褐色	横位隆帯廻る、以下隆帯による∩状文様描き、縄文LRを充填施文。	中期後葉
第89図 PL.87	41	縄文土器 深鉢	75区P-20 口縁部片				砂粒/にぶい赤褐色	隆帯による渦巻き弧状文、縄文RL。内外面にスス付着。	中期後葉
第89図 PL.87	42	縄文土器 深鉢	74区M-8 口縁部片				砂粒/橙色	波頂下隆帯による楕円渦巻き文様か、縄文RL施文。	中期後葉
第89図 PL.87	43	縄文土器 深鉢	74区P-18 口縁部片				砂粒/橙色	隆帯で画された口縁部に2列の横位連続刺突文廻る。隆帯下沈線、縄文RL施文。	中期後葉
第89図 PL.87	44	縄文土器 深鉢	75区D-7 口縁部片				砂粒/橙色	隆帯で画された口縁部に上下2列の連続横位刺突文、以下沈線による文様描き縄文充填。	後期初頭
第89図 PL.87	45	縄文土器 深鉢	74区O-12 口縁部片				砂粒/黒褐色	口縁に廻る沈線内に連続刺突文、以下縦位沈線、縄文RL施文。	中期後葉
第89図 PL.87	46	縄文土器 深鉢	74区P-7 口縁部片				砂粒/にぶい黄褐色	口縁に横位連続刺突文。	中期後葉
第90図 PL.87	47	縄文土器 深鉢	75区D-20 口縁部片				砂粒/黒褐色	波状口縁部片、口縁部に横位連続の刺突文廻らし、以下縄文施文。波頂部下に沈線による臍手文垂下か。	中期後葉末
第90図 PL.87	48	縄文土器 深鉢	74区Q-7 口縁部片				砂粒/暗灰黄色	口縁に横位爪形刺突文。隆帯下縄文施文。外面にスス付着。	中期後葉
第90図 PL.87	49	縄文土器 深鉢	74区P-17 口縁部片				砂粒/にぶい褐色	口縁部に連続刻み文様う横位隆帯。50は同一個体。	中期後葉
第90図 PL.87	50	縄文土器 深鉢	74区O-12 口縁部片				砂粒/にぶい褐色	口縁部に連続刻み文様う横位隆帯。	中期後葉
第90図 PL.87	51	縄文土器 深鉢	21号溝 口縁～胴部片				砂粒/にぶい褐色	口縁部横位連続刻み、2本沈線による連続∩状文、地文には縄文LR施文。内面研磨痕。	中期後葉末
第90図 PL.87	52	縄文土器 深鉢	75区E-10 口縁部片				細砂粒/にぶい赤褐色	口縁部に連続刻み、横位沈線巡り以下沈線による磨消曲線文様、縄文RL充填施文。	中期末葉
第90図 PL.87	53	縄文土器 深鉢	74区P-18 口縁部片				砂粒/にぶい赤褐色	波状口縁。横位の隆帯に沿って連続の刻み、内面にスス付着。	中期後葉
第90図 PL.87	54	縄文土器 深鉢	74区R-7 口縁部片				砂粒/にぶい黄褐色	横位沈線下に連続刺突文廻る。沈線による磨消文様描く、縄文LR。内面にスス付着。55は同一個体。	中期後葉
第90図 PL.87	55	縄文土器 深鉢	74区R-7 口縁部片				砂粒/にぶい黄褐色	横位沈線下に連続刺突文廻る。縄文LR。内面にスス付着。	中期後葉
第90図 PL.88	56	縄文土器 深鉢	74区O-12 口縁部片				砂粒多/暗褐色	屈曲部に横位連続円形押圧文、以下縄文LR。	中期後葉
第90図 PL.88	57	縄文土器 深鉢	74区Q-7 口縁部片				砂粒/灰黄褐色	口縁部横位隆帯から縦位の隆帯、矩形文画し、縄文LR施文。	中期後葉
第90図 PL.88	58	縄文土器 深鉢	74区R-5 口縁部片				砂粒/にぶい黄褐色	横位隆帯、縦位隆帯で縦位区画を構成か、縄文RL。59は同一個体。	中期後葉
第90図 PL.88	59	縄文土器 深鉢	74区O-13 口縁部片				砂粒/にぶい褐色	横位隆帯、縦位隆帯で縦位区画を構成か。	中期後葉
第90図 PL.88	60	縄文土器 深鉢	74区S-16 口縁部片				砂粒/灰黄褐色	横位隆帯下縄文LR、隆帯による懸垂文か。	中期後葉
第90図 PL.88	61	縄文土器 深鉢	74区S-9 口縁部片				砂粒/にぶい黄褐色	横位隆帯から懸垂文、縄文LR施文。	中期後葉
第90図 PL.88	62	縄文土器 深鉢	74区Q-15 口縁部片				砂粒/にぶい褐色	隆帯で口縁部無文画す、隆帯上に横位、以下縦位縄文LR施文。	中期後葉
第90図 PL.88	63	縄文土器 深鉢	7号住居 口縁部片				砂粒/にぶい褐色	横位隆帯下縄文LR。	中期後葉
第90図 PL.88	64	縄文土器 深鉢	74区Q-19 口縁部片				砂粒多/灰黄褐色	波状口縁。縄文RLか。器面風化。	中期後葉
第90図 PL.88	65	縄文土器 深鉢	75区21号溝 口縁部片				砂粒/にぶい赤褐色	口縁部横位の隆帯、以下縄文LR縦位。	中期後葉末
第90図 PL.88	66	縄文土器 深鉢	74区S-4 口縁部片				砂粒/赤褐色	口縁部内傾、無文部を隆帯で画し、以下縄文RL?。	中期後葉
第90図 PL.88	67	縄文土器 深鉢	75区F-10 口縁部片				細砂粒/褐色	口縁部に隆帯が連弧状に廻り、連結部は口縁部突起となる。以下∩状の沈線文見られる。	中期後葉
第90図 PL.88	68	縄文土器 深鉢	74区S-17 口縁部片				砂粒/黒褐色	口縁部隆帯による楕円文か、縄文RL?。外面にスス付着	中期後葉
第90図 PL.88	69	縄文土器 深鉢	74区O-12 口縁部片				砂粒/にぶい黄褐色	口縁部隆帯、以下沈線で曲線文。器面風化。	中期後葉末
第90図 PL.88	70	縄文土器 深鉢	75区E・F-9 口縁部片				砂粒/黒褐色	横位の隆帯、縄文RL。	中期後葉
第90図 PL.88	71	縄文土器 深鉢	74区O-12 口縁部片				砂粒/にぶい黄褐色	波状口縁。波頂部から隆帯垂下か、縄文LR施文。	中期後葉
第90図 PL.88	72	縄文土器 深鉢	74区U-5 口縁部片				砂粒/明褐色	波状口縁。隆帯による曲線文様か、縄文RL。	中期後葉末
第90図 PL.88	73	縄文土器 深鉢	75区D-9 口縁部片				砂粒/にぶい黄褐色	横位の隆帯下、縄文無節Lを縦位施文。	中期後葉
第90図 PL.88	74	縄文土器 深鉢	21号溝 口縁部片				微砂粒/にぶい褐色	口縁波頂部片、環状突起が付くか、突起下に沈線による∩状文、地には縄文RL。	中期後葉
第90図 PL.88	75	縄文土器 深鉢	74区S-12 口縁部片				砂粒多/にぶい黄褐色	口縁部瘤状の突起、下位より左右に沈線、以下無節L。	中期後葉

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第90図 PL.88	76	縄文土器 深鉢	75区E-24 口縁部片				砂粒多/黒褐色	横位の隆帯下、浅い凹線で矩形楕円文か、器面荒れている。	中期後葉末
第91図 PL.88	77	縄文土器 深鉢	75区B-16 口縁部片				砂粒/にぶい黄褐色	口縁部から隆帯垂下、左右の区画内は縄文RL施文。外面にスス附着。	中期後葉
第91図 PL.88	78	縄文土器 深鉢	75区E-10 口縁部片				砂粒(雲母・石英粒)/明赤褐色	横位隆帯から繋がる垂下文。	後期初頭
第91図 PL.88	79	縄文土器 深鉢	74区O-11 口縁部片				砂粒/褐色	口縁下に廻る横位隆帯から縦位の垂下隆帯。内外面にスス附着。	中期後葉末
第91図 PL.88	80	縄文土器 深鉢	21号溝 口縁部片				微砂粒/にぶい黄褐色	口縁部に横位沈線巡り、以下沈線による幅狭の磨消口状文描く。地文には縄文RL縦位。	中期後葉末
第91図 PL.88	81	縄文土器 深鉢	74区O-12 口縁部片				砂粒/黒褐色	口縁部内湾、横位沈線巡り、沈線による磨消口状文、縄文LR施文。内外面にスス附着。	中期後葉
第91図 PL.88	82	縄文土器 深鉢	75区E-6 口縁部片				砂粒/にぶい黄褐色	口縁部に横位の沈線、以下縄文LR、口状文。	中期後葉末
第91図 PL.88	83	縄文土器 深鉢	74区L-19 口縁部片				砂粒/灰黄褐色	横位隆帯下縄文LR。	中期後葉
第91図 PL.88	84	縄文土器 深鉢	74区O-13、P-18 口縁部片				砂粒/黒褐色	波状を呈す、波頂下より沈線による口状懸垂文か。縄文LR施文。	中期後葉末
第91図 PL.88	85	縄文土器 深鉢	74区O-12 口縁部片				砂粒/暗褐色	口縁部に横位沈線、口状文描くか、縄文LR。91と同一個体。	中期後葉
第91図 PL.88	86	縄文土器 深鉢	21号溝 口縁部片				微砂粒/にぶい褐色	口縁部に横位沈線巡り、以下沈線による口状文描く。地文には縄文LR横位。	中期後葉
第91図 PL.88	87	縄文土器 深鉢	21号溝 口縁部片				微砂粒/橙色	口縁部に横位沈線、沈線による曲線文、地文に縄文LR。口縁部スス附着。	中期後葉末
第91図 PL.88	88	縄文土器 深鉢	75区E-6 口縁部片				細砂粒/にぶい褐色	口縁に沈線巡り、以下磨消文様。縄文RL施文。	中期末葉
第91図 PL.88	89	縄文土器 深鉢	75区D-7 口縁部片				細砂粒/にぶい黄褐色	口縁部に沈線、以下沈線による文様描き縄文RL施文。	中期末葉
第91図 PL.88	90	縄文土器 深鉢	74区R-10 口縁部片				砂粒/赤褐色	口縁部隆帯で無文部画す、以下沈線文、縄文LR。	中期後葉
第91図 PL.88	91	縄文土器 深鉢	74区O-11 口縁部片				砂粒/黒褐色	口縁部に横位沈線、口状文描くか、縄文LR。	中期後葉
第91図 PL.88	92	縄文土器 深鉢	75区D-8 口縁部片				砂粒/にぶい黄褐色	横位沈線から縦位に縄文充填施文された垂下文様。	中期後葉
第91図 PL.88	93	縄文土器 深鉢	74区O-11 口縁部片				砂粒多/灰黄褐色	口縁部幅広の無文帯を横位沈線で画す。さらに縦位の沈線垂下し縦の区画構成か。縄文RL。	中期後葉末
第91図 PL.88	94	縄文土器 深鉢	364号土坑 口縁部片				砂粒多/にぶい橙色	口縁部横位沈線で無文帯画す、以下縦位沈線で無文帯。縄文LR縦位か。	中期後葉
第91図 PL.88	95	縄文土器 深鉢	75区K-19 口縁部片				砂粒/にぶい赤褐色	口縁内傾、沈線による文様描くか。	中期後葉
第91図 PL.88	96	縄文土器 深鉢	74区U-5 口縁部片				砂粒/暗褐色	口縁内湾、横位沈線巡り、沈線による磨消口状文、縄文LR施文。内外面にスス附着。	中期後葉
第91図 PL.88	97	縄文土器 深鉢	21号溝 口縁部片				微砂粒/にぶい橙色	口縁部に横位沈線巡り、以下沈線による口状文描く。地文には縄文RL横位、縦位施文。	中期後葉末
第91図 PL.88	98	縄文土器 深鉢	75区E-21 口縁部片				砂粒/黒褐色	口縁部内傾、隆線による区画文、中を縄文RLで埋める。	中期後葉
第91図 PL.88	99	縄文土器 深鉢	75区D-19 口縁部片				細砂粒/黒褐色	口縁内傾、やや肥厚し無文、沈線による曲線文様。	中期後葉末
第91図 PL.88	100	縄文土器 深鉢	74区O-6 口縁部片				砂粒/褐色	口縁部内傾、ハ状斜の垂下沈線。	中期後葉末
第91図 PL.88	101	縄文土器 深鉢	74区O-13 口縁部片				砂粒/灰黄褐色	口縁部に横位沈線、口状文描くか、縄文LR。	中期後葉末
第91図 PL.88	102	縄文土器 深鉢	75区E-6 口縁部片				砂粒/にぶい褐色	横位沈線、以下縄文LR施文。僅かに沈線の上端部見られる。	中期後葉
第91図 PL.88	103	縄文土器 深鉢	74区U-15 口縁部片				砂粒/褐色	やや内傾する口縁部片。沈線による文様描き縄文LRを充填。	中期後葉末
第91図 PL.88	104	縄文土器 深鉢	364号土坑 口縁部片				砂粒/明褐色	沈線による紡錘文描く、縄文LR縦位施文。	中期後葉
第91図 PL.88	105	縄文土器 深鉢	74区T-15 口縁部片				砂粒/褐色	波状口縁。横位沈線廻り以下無節L。外面にスス附着。	中期後葉
第91図 PL.88	106	縄文土器 深鉢	75区F-13 口縁部片				砂粒/にぶい褐色	口縁に沈線巡り以下沈線による文様描く、縄文RL施文。	中期後葉
第91図 PL.88	107	縄文土器 深鉢	75区F-10 口縁部片				砂粒/明黄褐色	沈線による弧状文様か、中を無節縄文Rを充填施文。外面にスス附着、器面やや風化。	中期後葉
第91図 PL.89	108	縄文土器 深鉢	74区Q-7 口縁部片				砂粒/黒褐色	横位沈線、V字状文描き、縄文LR充填施文。	中期後葉末
第91図 PL.89	109	縄文土器 深鉢	74区O-11 口縁部片				砂粒多/明褐色	波状口縁。沈線による曲線文、縄文RL充填施文。	中期後葉末
第91図 PL.89	110	縄文土器 深鉢	75区O-23 口縁部片				石英粒多/にぶい赤褐色	太い沈線による横位沈線、重層曲線文。	中期後葉
第92図 PL.89	111	縄文土器 深鉢	75区E-7 口縁部片				細砂粒/にぶい赤褐色	やや内湾する口縁部片、横位沈線、口状文見られる。	中期後葉末
第92図 PL.89	112	縄文土器 深鉢	75区E-20 口縁～胴部片	口	(19.6)		細砂粒/にぶい褐色	沈線による縦楕円文を上下に連続して配す、楕円文内には縄文無節Lを縦位充填施文。	中期後葉末

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第92図 PL.89	113	縄文土器 深鉢	74区Q-6 口縁部片	口	(14.8)		砂粒/にぶい黄褐色	口縁内屈、横位沈線、以下沈線による弧状文、紡錘文。縄文LR充填施文。	中期後葉末
第92図 PL.89	114	縄文土器 深鉢	74区Q-6 口縁部片	口	(15.0)		砂粒/にぶい黄褐色	口縁内屈、横位沈線、以下沈線による弧状文、紡錘文。縄文LR充填施文。113・115・187・204・209は同一個体。	中期後葉末
第92図 PL.89	115	縄文土器 深鉢	74区O-14 口縁部片				砂粒/灰褐色	口縁内屈、横位沈線、以下沈線による弧状文、紡錘文。縄文LR充填施文。	中期後葉末
第92図 PL.89	116	縄文土器 深鉢	75区E-20 口縁～胴部片				細砂粒/にぶい褐色	波状口縁、2本沈線による∩状文、文様内細縄文無節Lを充填施文。内面にスス付着。	中期後葉末
第92図 PL.89	117	縄文土器 深鉢	21号溝 口縁～胴部片				微砂粒/橙色	口縁部から3本の懸垂文で無文帯を構成、無文帯間には縄文LR縦位施文。118は同一個体。	中期後葉
第92図 PL.89	118	縄文土器 深鉢	21号溝 口縁～胴部片				微砂粒/にぶい褐色	口縁部から3本の懸垂文で無文帯を構成、無文帯間には縄文LR縦位施文。	中期後葉末
第92図 PL.89	119	縄文土器 深鉢	74区O-12 口縁部片				砂粒多/にぶい黄褐色	口縁部か、無文部下縄文か。	中期後葉か
第92図 PL.89	120	縄文土器 深鉢	75区 口縁部片				砂粒/にぶい褐色	口縁部内傾し僅かに外反、隆帯巡り以下縄文施文。	中期後葉末
第92図 PL.89	121	縄文土器 深鉢	75区D-8 口縁～胴部片	口	(21.0)		砂粒多/暗褐色	波状口縁。口縁部内傾し無文、波頂部に注口あり。縄文LR。口縁内外面赤彩痕。	中期後葉末
第92図 PL.89	122	縄文土器 深鉢	75区D-8 口縁～胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	口縁部くの字に内屈する。(4)単位の突起文付くか。胴部に沈線による横位連続のV状文描き、縄文無節L施文。	中期後葉末
第92図 PL.89	123	縄文土器 深鉢	74区U-5 口縁部片				砂粒/橙色	口縁部内傾、波状口縁。無文部下縄文LR。	中期後葉
第92図 PL.89	124	縄文土器 深鉢	75区D-8 口縁～胴部片				砂粒/にぶい褐色	波状口縁、口縁部に隆帯巡り波頂部に突起文付く。以下沈線による懸垂曲線文様描き縄文充填施文。	中期後葉末
第92図 PL.89	125	縄文土器 深鉢	74区U-5・6、V-5 口縁部片				砂粒多/橙色	口縁部より縄文LR縦位全面施文。	中期後葉
第92図 PL.89	126	縄文土器 深鉢	74区O-13 口縁部片				砂粒/にぶい黄褐色	口縁部無文帯を画し、以下縄文LR。	中期後葉
第92図 PL.89	127	縄文土器 深鉢	74区O-13 口縁部片				砂粒多/暗褐色	口縁部幅広の無文、以下縄文LR。	中期後葉
第92図 PL.89	128	縄文土器 深鉢	75区E-21 口縁部片				砂粒/にぶい赤褐色	波状口縁、口縁部隆帯伴う沈線、刺突文。2本の沈線が斜めに垂下する。	後期前半
第92図 PL.89	129	縄文土器 深鉢	75区E-8 口縁部片				砂粒/黒褐色	口縁部は内傾、横位隆帯巡り、そこから隆線垂下。斜めに円孔。	中期後葉
第92図 PL.89	130	縄文土器 深鉢	21号溝 口縁～胴部片	口	(27.0)		砂粒多/暗赤褐色	口縁部外傾、有段で沈線による幅狭の弧状文、下位には沈線による∩状文描くか、縄文LR施文。把手の貼付痕あり。	中期後葉
第93図 PL.89	131	縄文土器 深鉢	75区F-9 口縁部片				微砂粒/にぶい黄褐色	口縁大きく外反、無文で頸部に横位隆帯、以下無節L施文。	中期後葉
第93図 PL.89	132	縄文土器 深鉢	75区D-8 口縁部片	口	(22.4)		微砂粒/暗赤褐色	無文口縁部、内傾して立ち上がる。頸部に横位隆帯。	中期後葉
第93図 PL.89	133	縄文土器 深鉢	75区C-22 口縁部片	口	(23.0)		微砂粒/橙色	無文口縁部、やや外反しながら立ち上がる。頸部以下隆帯よる文様構成。	中期後葉
第93図 PL.89	134	縄文土器 鉢	64区K-25 口縁～底部1/4	口底	(20.2) (9.6)	高 8.7	砂粒多/褐色	底部から外反して立ち上がり、口縁部は外反。無文。内面にスス付着。	中期後葉
第93図 PL.89	135	縄文土器 深鉢	74区N-19 口縁～胴部片	口	(19.0)		細砂粒/黒褐色	直線的にやや開きながら立ち上がる。無文。器面研磨。スス付着。	後期か
第93図 PL.89	136	縄文土器 深鉢	74区L-22 口縁部片				砂粒多/暗褐色	無文?。内面輪積み痕、外面にスス付着。	晩期
第93図 PL.89	137	縄文土器 深鉢	74区U-5 口縁部片				砂粒/暗褐色	無文口縁部片、外面にスス付着。	中期後葉
第93図 PL.89	138	縄文土器 深鉢	64区J-24 口縁部片				砂粒/橙色	無文口縁部片。	後期
第93図 PL.89	139	縄文土器 深鉢	74区O-12 口縁部片				微砂粒/暗褐色	やや内湾する無文口縁部片、器面研磨。	中期後葉
第93図 PL.89	140	縄文土器 深鉢	74区P-17 口縁部片				砂粒/褐色	無文口縁部。	中期後葉
第93図 PL.89	141	縄文土器 深鉢	74区O-12 口縁部片				微砂粒/黒褐色	無文口縁部片。	後期
第93図 PL.89	142	縄文土器 深鉢	75区E-21 口縁部片				砂粒/にぶい褐色	厚手土器、無文口縁部片。	中期後葉
第93図 PL.90	143	縄文土器 深鉢	74区O-12 口縁部片				微砂粒/灰黄褐色	無文口縁部片。器面研磨。	後期
第93図 PL.90	144	縄文土器 深鉢	74区Q-6 口縁部片				微砂粒/褐色	無文口縁部片。	中期後葉
第93図 PL.90	145	縄文土器 深鉢	74区R-15 口縁部片				砂粒/明赤褐色	無文口縁部片。	中期後葉
第93図 PL.90	146	縄文土器 深鉢	74区V-5 口縁部片				砂粒/明褐色	やや外反する無文口縁部片。	後期
第93図 PL.90	147	縄文土器 深鉢	74区O-12 口縁部片				微砂粒/褐色	無文口縁部片。器面研磨。	後期
第93図 PL.90	148	縄文土器 深鉢	21号溝 口縁部片				微砂粒/にぶい黄褐色	厚手の口縁部片。	中期後葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第93図 PL.90	149	縄文土器 深鉢	74区P-14 口縁部片				砂粒/にぶい黄褐色	無文口縁部片。	後期
第93図 PL.90	150	縄文土器 深鉢	74区R-18 口縁部片				砂粒・雲母粒/黒褐色	口縁部強く内屈、無文。	中期後葉
第94図 PL.90	151	縄文土器 深鉢	21号溝 口縁部片				砂粒/にぶい赤褐色	やや外反する無文口縁部片、口縁下に横位の隆帯か。	中期後葉
第94図 PL.90	152	縄文土器 深鉢	74区O-12 口縁部片				微砂粒/灰褐色	無文口縁部。259・260は同一個体。	中期後葉
第94図 PL.90	153	縄文土器 深鉢	74区R-7 口縁部片				砂粒/にぶい黄褐色	口縁部に円形文、隆帯による文様描くか。	中期後葉
第94図 PL.90	154	縄文土器 深鉢	75区Q-21 胴部片				微砂粒/にぶい黄褐色	隆帯による楕円文様構成か、内部に縄文RL施文。	中期後葉
第94図 PL.90	155	縄文土器 深鉢	75区E-21 胴部片				砂粒/褐色	口縁部は有段で内傾、隆帯による渦巻き楕円文様か、さらに2本の隆帯による曲線文様描く。隆帯間には縄文RL施文。	中期後葉
第94図 PL.90	156	縄文土器 深鉢	75区D-19 胴部片				砂粒/明褐色	口縁部を欠く、隆帯による楕円文様構成か、中には縄文RL。内外面にスス附着	中期後葉
第94図 PL.90	157	縄文土器 深鉢	74区R-9 胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	隆帯による区画文様描き、文様内に縄文、集合沈線文充填。	中期後葉
第94図 PL.90	158	縄文土器 深鉢	64区N-24 胴部片				砂粒/明褐色	浅い横位沈線、以下縄文RL。	中期後葉
第94図 PL.90	159	縄文土器 深鉢	74区U-10 胴部片				砂粒/黄褐色	横位隆帯、垂下隆帯、縄文RL縦位施文。	中期後葉
第94図 PL.90	160	縄文土器 深鉢	75区E-20 胴部片				砂粒多/赤褐色	横位隆帯上部には縄文施文、隆帯下には垂下沈線と敲手文が、縦位区画内には縄文RLが縦位施文。外面にスス附着。	中期後葉
第94図 PL.90	161	縄文土器 深鉢	75区P-20 胴部片				砂粒/明褐色	口縁部隆帯による楕円文様構成か、交点部に円形刺突文。横位隆帯下に縄文LR。	中期後葉
第94図 PL.90	162	縄文土器 深鉢	21号溝 胴部片				石英粒/にぶい褐色	横位の隆帯、以下縄文LR縦位施文。	中期後葉
第94図 PL.90	163	縄文土器 深鉢	74区P-10 胴部片				砂粒/黄褐色	2本隆帯による曲線文、縄文RL充填施文。	中期後葉
第94図 PL.90	164	縄文土器 深鉢	74区R-16 胴部片				砂粒/黒褐色	隆帯による∩状文を横位連続に描き、中に縄文LR充填させる。	中期後葉
第94図 PL.90	165	縄文土器 深鉢	74区T-15 口縁部片				砂粒多/にぶい赤褐色	口縁部隆帯による楕円文様。縄文RL。	中期後葉
第94図 PL.90	166	縄文土器 深鉢	75区E-7・8 胴部片				砂粒/橙色	地文に縄文RL縦位施文、平行する垂下隆帯。	中期後葉
第94図 PL.90	167	縄文土器 深鉢	74区M-23 胴部片				砂粒/暗褐色	垂下隆帯、縄文LR縦位施文。	中期後葉
第95図 PL.90	168	縄文土器 深鉢	74区P-10 胴部片				砂粒/明褐色	隆帯による対向U状文を横位連続に描き、中に縄文LR充填させる。	中期後葉
第95図 PL.90	169	縄文土器 深鉢	74区S-16 胴部片				砂粒/明褐色	2本の垂下隆帯、縄文RL縦位施文。内面研磨。	中期後葉
第95図 PL.90	170	縄文土器 深鉢	75区D-21 胴部片				砂粒/にぶい赤褐色	両側丁寧に撫でた縦位隆帯、縄文LR縦位施文。	中期後葉
第95図 PL.90	171	縄文土器 深鉢	74区P-9 胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	縦位隆帯により無文帯画す、縄文LR施文。	中期後葉
第95図 PL.90	172	縄文土器 深鉢	74区S-16 胴部片				微砂粒/黒褐色	2本隆帯により渦巻き基調の磨消曲線文描くか。縄文LR充填施文。	中期後葉
第95図 PL.90	173	縄文土器 深鉢	74区 胴部片				砂粒/明褐色	垂下隆帯、縄文LR縦位施文。	中期後葉
第95図 PL.91	174	縄文土器 深鉢	74区T-5 胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	垂下隆帯、縄文RL縦位施文。	中期後葉
第95図 PL.91	175	縄文土器 深鉢	74区S-9 胴部片				砂粒/暗褐色	縦位の隆帯、縄文LR、内面にスス附着。	中期後葉
第95図 PL.91	176	縄文土器 深鉢	74区R-7 胴部片				砂粒/褐色	垂下隆帯、縄文LR施文。	中期後葉
第95図 PL.91	177	縄文土器 深鉢	75区E-19 胴部片				微砂粒/明赤褐色	縦位低隆帯で無文帯を画す。縄文LRを縦位施文。	中期後葉
第95図 PL.91	178	縄文土器 深鉢	74区O-12 胴部片				砂粒/暗褐色	垂下隆帯、縄文LR縦位施文。	中期後葉
第95図 PL.91	179	縄文土器 深鉢	75区B-20 胴部片				微砂粒/橙色	縦位隆帯、縄文LR縦位施文。	中期後葉
第95図 PL.91	180	縄文土器 深鉢	74区Q-6 胴部片				砂粒/灰黄褐色	縦位隆帯。	中期後葉
第95図 PL.91	181	縄文土器 深鉢	74区T-5 胴部片				砂粒/褐色	垂下隆帯、縄文LR縦位施文。	中期後葉
第95図 PL.91	182	縄文土器 深鉢	75区F-7 胴部片				砂粒(石英粒)/にぶい黄褐色	縦位の沈線で無文帯画す、縄文LR縦位施文。沈線、縄文とも施文が浅い。185は同一個体。	中期後葉
第95図 PL.91	183	縄文土器 深鉢	75区B-21 胴部片				微砂粒/橙色	縦位の2本沈線、やや乱雑な描き方で一部が重なる。反攪りL縦位施文。	中期後葉
第95図 PL.91	184	縄文土器 深鉢	74区P-18 胴部片				砂粒/灰黄褐色	沈線で縦位無文帯、縄文無節L縦位施文。	中期後葉

遺物観察表

挿 図 PL.No.	No.	種 類 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第95図 PL.91	185	縄文土器 深鉢	75区F-7 胴部片				砂粒(石英粒)/に ぶい黄褐色	縦位の沈線で無文帯画す、縄文LR縦位施文。沈線、縄 文とも施文が浅い。	中期後葉
第95図 PL.91	186	縄文土器 深鉢	9号住居、74区 Q-7 胴部片				砂粒/褐色	縄文LR縦位、2垂下沈線。内面にスス付着。	中期後葉
第95図 PL.91	187	縄文土器 深鉢	74区Q-6 胴部片				砂粒/褐色	沈線による紡錘文様か、縄文LR充填施文。	中期後葉末
第96図 PL.91	188	縄文土器 深鉢	74区S-15 胴部片				砂粒/橙色	縦位沈線で無文部画す、縄文RL縦位施文。	中期後葉
第96図 PL.91	189	縄文土器 深鉢	21号溝 胴部片				微砂粒/黒褐色	沈線による縦位磨消帯、縄文LR縦位施文。	中期後葉
第96図 PL.91	190	縄文土器 深鉢	74区T-5 胴部片				砂粒/褐色	沈線による磨消文様、縄文RL。	中期後葉
第96図 PL.91	191	縄文土器 深鉢	74区P-19 胴部片				砂粒/黒褐色	縦位沈線による無文帯、縄文RL縦位施文。外面にスス 付着。	中期後葉
第96図 PL.91	192	縄文土器 深鉢	74区O-12 胴部片				砂粒多/褐色	縦位沈線で無文部画す、縄文RL縦位施文。	中期後葉
第96図 PL.91	193	縄文土器 深鉢	75区D-20 胴部片				砂粒多/赤褐色	浅い4本の垂下沈線文。僅かに縄文が見られる。	中期後葉
第96図 PL.91	194	縄文土器 深鉢	74区O-12 胴部片				砂粒/明赤褐色	3本の縦位沈線、縄文LR縦位施文。	中期後葉
第96図 PL.91	195	縄文土器 深鉢	21号溝 胴部片				砂粒/明褐色	縦位沈線磨消帯、縄文LR縦位施文。	中期後葉
第96図 PL.91	196	縄文土器 深鉢	21号溝 胴部片				砂粒/橙色	縦位磨消縄文、縄文LR縦位施文。	中期後葉
第96図 PL.91	197	縄文土器 深鉢	74区Q-6 胴部片				砂粒/褐色	縦位沈線、縄文LR。	中期後葉
第96図 PL.91	198	縄文土器 深鉢	64区 胴部片				砂粒多/にぶい黄 褐色	縦位沈線、縄文RL。	中期後葉
第96図 PL.91	199	縄文土器 深鉢	75区D-9 胴部片				細砂粒/にぶい赤 褐色	縦位の細沈線で無文帯を画す、無節縄文Lを縦位施文。	中期後葉
第96図 PL.91	200	縄文土器 深鉢	21号溝 胴部片				微砂粒/黄褐色	沈線による縦位磨消帯、縄文RL施文。201は同一個体。	中期後葉
第96図 PL.91	201	縄文土器 深鉢	21号溝 胴部片				微砂粒/灰褐色	沈線による縦位磨消帯、縄文RL施文。	中期後葉
第96図 PL.91	202	縄文土器 深鉢	364号土坑 胴部片				砂粒多/褐色	沈線による〇状文様描く。	中期後葉
第96図 PL.91	203	縄文土器 深鉢	21号溝 胴部片				砂粒/浅黄橙色	沈線によるU状文か、下位に沈線による蕨手文。器面 風化。	中期後葉
第96図 PL.91	204	縄文土器 深鉢	74区Q-6 胴部片				砂粒/褐色	上下に沈線による紡錘文様、縄文LR充填施文。	中期後葉末
第96図 PL.91	205	縄文土器 深鉢	74区R-15・16・18 胴～底部片	底	(31.3)		砂粒/褐色	胴上位、隆帯による連弧状文で区画、上位には連続す るU状文描き、内部に縄文充填。下位には2本の垂下沈 線による無文帯を描き、間を縄文RL縦位施文。	中期後葉
第97図 PL.92	206	縄文土器 深鉢	75区A-19 胴～底部片1/3	底	8.0		砂粒/にぶい褐色	沈線によるU状、〇状文を上下に配す。〇状文間の所々 に蕨手垂下文様。文様内には縄文LRを充填施文するが、 上位のU状文様内にはLR縄文を縦位、横位に施文し羽 状を描出。	中期後葉
第97図 PL.92	207	縄文土器 深鉢	74区O-12 口縁部片				砂粒/暗褐色	波頂部に把手か、沈線による〇状文描き、中を磨り消す。 縄文LR施文。	中期後葉末
第97図 PL.92	208	縄文土器 深鉢	74区O-11 胴部片				砂粒/明赤褐色	頸部に断面三角の横位隆帯。以下沈線による紡錘文、 縄文LR充填施文。	中期後葉末
第97図 PL.92	209	縄文土器 深鉢	74区Q-6 胴部片				砂粒/灰褐色	上下に沈線による紡錘文様、縄文LR充填施文。	中期後葉末
第97図 PL.92	210	縄文土器 深鉢	74区P-12 胴部片				砂粒多/にぶい黄 褐色	横位隆帯下、隆帯による楕円文および、沈線による矩 形区画文描くか、縄文LR施文。	中期後葉
第97図 PL.92	211	縄文土器 深鉢	75区E-7 胴部片				微砂粒/明黄褐色	沈線によるV状文、無節L充填施文。	中期後葉末
第97図 PL.92	212	縄文土器 深鉢	74区S-7 胴部片				砂粒/明褐色	沈線によるU状文描き、縄文無節R充填施文。	中期後葉末
第97図 PL.92	213	縄文土器 深鉢	74区T-6 胴部片				砂粒/橙色	沈線による〇状文描き、縄文RL充填施文。	中期後葉末
第97図 PL.92	214	縄文土器 深鉢	75区D-22 胴部片				砂粒/褐色	沈線によるV状文を横位連続、文様内縄文LR縦位充 填施文。	中期後葉末
第97図 PL.92	215	縄文土器 深鉢	74区Q-7 胴部片				砂粒/明褐色	沈線による横位、U字状文、縄文LR充填施文。	中期後葉末
第97図 PL.92	216	縄文土器 深鉢	74区Q-7 胴部片				砂粒/褐色	沈線によるV状文上下に対向、縄文充填施文。	中期後葉
第97図 PL.92	217	縄文土器 深鉢	74区O-11 胴部片				砂粒/明褐色	沈線によるV状磨消文、縄文LR施文。	中期後葉末
第97図 PL.92	218	縄文土器 深鉢	74区O-11 胴部片				砂粒/褐色	沈線によるV状文、縄文LR充填施文。	中期後葉末
第97図 PL.92	219	縄文土器 深鉢	74区O-11 胴部片				砂粒/褐色	沈線によるV状文、縄文充填施文。	中期後葉

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第98図 PL.92	220	縄文土器 深鉢	74区0-14 胴部片				微砂粒/灰黄褐色	沈線による〇状文描き、縄文LR充填施文。	中期後葉末
第98図 PL.92	221	縄文土器 深鉢	74区0-11 胴部片				微砂粒/褐色	沈線による〇状文描き、縄文LR充填施文。	中期後葉
第98図 PL.92	222	縄文土器 深鉢	74区Q-15 胴部片				砂粒/にぶい褐色	沈線により上下にV状、〇状文描き、縄文LR充填施文。	中期後葉末
第98図 PL.92	223	縄文土器 深鉢	74区Q-7 胴部片				砂粒/褐色	沈線による〇状文描き、縄文LR充填施文。	中期後葉末
第98図 PL.92	224	縄文土器 深鉢	74区R-7 胴部片				砂粒/橙色	沈線によるU状文描き、縄文LR充填施文。	中期後葉末
第98図 PL.92	225	縄文土器 深鉢	74区Q-7 胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	沈線によるU状文描き、縄文LR充填施文。	中期後葉末
第98図 PL.92	226	縄文土器 深鉢	74区P-9 胴部片				砂粒/褐色	沈線による〇状文描き、縄文LR充填施文。	中期後葉末
第98図 PL.92	227	縄文土器 深鉢	74区Q-7 胴部片				砂粒/灰褐色	沈線による磨消帯、無節Lと縄文LRの付加条。外面にスス附着。	中期後葉末
第98図 PL.92	228	縄文土器 深鉢	74区Q-3 胴部片				砂粒/灰黄褐色	沈線による磨消文、縄文LR。	中期後葉末
第98図 PL.92	229	縄文土器 深鉢	74区0-11 胴部片				砂粒/橙色	沈線による〇状文描き、縄文LR充填施文。	中期後葉末
第98図 PL.92	230	縄文土器 深鉢	75区E-7 胴部片				砂粒/橙色	隆帯による曲線文様、縄文LR施文。231は同一個体。	中期後葉
第98図 PL.92	231	縄文土器 深鉢	75区E-7 胴部片				砂粒/橙色	隆帯による端部渦巻き文様、縄文LR施文。	中期後葉
第98図 PL.92	232	縄文土器 深鉢	21号溝 胴部片				砂粒/橙色	2本隆線間を磨り消す渦巻き文様を上下に描出、間に縄文LRを充填施文。	中期後葉
第98図 PL.92	233	縄文土器 深鉢	21号溝 胴部片				砂粒/にぶい褐色	隆帯による垂下文、曲線文。縄文LR縦位、横位施文。	中期後葉
第98図 PL.92	234	縄文土器 深鉢	74区S-16 胴部片				砂粒/灰黄褐色	横位隆帯、沈線による〇状文、蕨手文垂下、縄文LR。外面にスス附着。	中期後葉
第98図 PL.92	235	縄文土器 深鉢	74区0-11 胴部片				微砂粒/にぶい黄褐色	沈線による渦巻き文様、無節L？。	中期後葉
第98図 PL.92	236	縄文土器 深鉢	74区Q-15 胴部片				砂粒/黒褐色	沈線による渦巻き磨消文様描く、縄文LR。	中期後葉
第98図 PL.92	237	縄文土器 深鉢	74区P-15・18 胴部片				砂粒、雲母粒/明褐色	太い沈線によるU状文上下に配す、縄文LR施文。	中期後葉末
第98図 PL.92	238	縄文土器 深鉢	74区Q-7 胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	沈線による磨消曲線文、縄文LR。	中期後葉末
第98図 PL.92	239	縄文土器 深鉢	74区R-8 胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	沈線による磨消曲線文、縄文LR。	中期後葉末
第98図 PL.92	240	縄文土器 深鉢	74区Q-7 胴部片				砂粒/褐色	2本沈線による〇状磨消縄文。	中期後葉
第98図 PL.93	241	縄文土器 深鉢	74区P-12 胴部片				砂粒/明褐色	無節L施文後、沈線による渦巻き文様。	中期後葉
第98図 PL.93	242	縄文土器 深鉢	74区N-18 胴部片				砂粒/赤褐色	沈線による曲線文、縄文LR施文。	中期後葉末
第98図 PL.93	243	縄文土器 深鉢	74区V-5 胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	併行沈線による曲線文、縄文LR縦位。外面にスス附着。	中期後葉
第98図 PL.93	244	縄文土器 深鉢	21号溝 胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	隆帯によるJ状の懸垂文、縄文LR縦位。	中期後葉
第98図 PL.93	245	縄文土器 深鉢	10号住居 胴部片				微砂粒/橙色	2本沈線による〇状文描き、縄文LR充填施文。	中期後葉
第98図 PL.93	246	縄文土器 深鉢	21号溝 胴部片				砂粒/褐色	沈線による渦巻き文、縄文LRを充填。	中期後葉
第98図 PL.93	247	縄文土器 深鉢	74区0-12・13 胴部片				微砂粒/にぶい黄褐色	沈線による渦巻き文様か。	中期後葉
第98図 PL.93	248	縄文土器 深鉢	74区0-12 胴部片				微砂粒/灰黄褐色	沈線文様内に縄文LR。	中期後葉末
第98図 PL.93	249	縄文土器 深鉢	74区0-19 胴部片				微砂粒/赤褐色	沈線による垂下蛇行文、無節L施文。	中期後葉
第98図 PL.93	250	縄文土器 深鉢	75区P-21 胴部片				微砂粒/橙色	無節Lを縦位施文後、波状垂下文。	中期後葉
第98図 PL.93	251	縄文土器 深鉢	74区T-6 胴部片				砂粒(白色粒)/褐色	沈線によるU状文、縄文LR。内外面にスス附着。	中期後葉
第99図 PL.93	252	縄文土器 深鉢	74区R-7 胴部片				砂粒/褐色	口縁部横位隆帯に把手が付くか、隆帯による櫛目文構成か、縄文無節L充填施文。	中期後葉
第99図 PL.93	253	縄文土器 深鉢	364号土坑 胴部片				砂粒/黄褐色	横位隆帯、縄文LR横位施文。	中期後葉
第99図 PL.93	254	縄文土器 深鉢	364号土坑 胴部片				微砂粒/赤褐色	口縁部外反し横位隆帯で口縁部を画す。	中期後葉
第99図 PL.93	255	縄文土器 深鉢	74区0-17 胴部片				砂粒/にぶい赤褐色	丸く張り出す肩部から頸部、横位隆帯、懸垂弧状文様か、縄文LR全面に施文。	中期後葉
第99図 PL.93	256	縄文土器 深鉢	74区0-13 胴部片				砂粒/褐色	渦巻き文、縄文無節L充填施文。	中期後葉

遺物観察表

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第99図 PL.93	257	縄文土器 深鉢	83区O-2 胴部片				砂粒/褐色	細縄文LR施文後沈線による曲線文様。	後期中葉
第99図 PL.93	258	縄文土器 深鉢	74区U-13 胴部片				微砂粒/褐灰色	沈線による曲線文様描く、縄文LR施文。	後期中葉
第99図 PL.93	259	縄文土器 深鉢	74区O-10 口縁部片				微砂粒/灰褐色	口縁部横位の隆帯で無文部画す、以下縦位の無節L施文。	中期後葉
第99図 PL.93	260	縄文土器 深鉢	74区P-9 胴部片				微砂粒/灰褐色	縦位の無節L施文。	中期後葉
第99図 PL.93	261	縄文土器 深鉢	74区T-6 胴部片				砂粒/にぶい黄橙 色	縄文RL、外面にスス附着。	中期後葉
第99図 PL.93	262	縄文土器 深鉢	74区Q-6 胴部片				砂粒/褐色	縄文LR施文。	中期後葉
第99図 PL.93	263	縄文土器 深鉢	75区C-22 胴部片				砂粒/暗褐色	縄文LRを羽状に施文。外面にスス附着	中期後葉
第99図 PL.93	264	縄文土器 深鉢	74区T-6 胴部片				砂粒/褐色	無節L全面に施文。	中期後葉
第99図 PL.93	265	縄文土器 深鉢	74区M-19 胴部片				砂粒/黒褐色	縄文LR施文。	中期後葉
第99図 PL.93	266	縄文土器 深鉢	74区O-12 胴部片				砂粒/にぶい褐色	無節L施文。	中期後葉
第99図 PL.93	267	縄文土器 深鉢	74区O-15 胴部片				砂粒/褐色	無節L縦位施文。	中期後葉
第99図 PL.93	268	縄文土器 深鉢	74区P-13 胴部片				砂粒/褐色	無節L縦位施文。	中期後葉
第99図 PL.93	269	縄文土器 深鉢	75区D-24 胴部片				砂粒(雲母粒)/褐 色	縄文LR縦位施文。	中期後葉
第99図 PL.93	270	縄文土器 深鉢	75区D-21 胴部片				砂粒/明褐色	隆帯による垂下文様、縄文RL施文。	中期後葉
第99図 PL.93	271	縄文土器 深鉢	74区Q-7 胴部片				砂粒/黒褐色	縄文LR全面施文。	中期後葉
第99図 PL.93	272	縄文土器 深鉢	75区E-20 胴部片				砂粒/明褐色	縄文LR縦位施文。	中期後葉
第99図 PL.93	273	縄文土器 深鉢	74区U-6 胴部片				石英、雲母粒/褐 色	胴部片、上位に縄文LR縦位。	中期後葉
第99図 PL.93	274	縄文土器 深鉢	75区E-22 胴部片				砂粒/にぶい赤褐 色	縦位の隆帯と集合条線文。	中期後葉
第99図 PL.93	275	縄文土器 深鉢	74区P-6 胴部片				砂粒/にぶい褐色	横位隆帯下に縦位集合沈線文。	中期後葉
第99図 PL.93	276	縄文土器 深鉢	75区D-20 胴部片				砂粒/褐色	縦位集合細条線文。内面研磨。	中期後葉
第100図 PL.93	277	縄文土器 深鉢	74区O-12 胴部片				雲母混入/褐灰色	縦位集合条線。外面にスス附着。	中期後葉
第100図 PL.93	278	縄文土器 深鉢	74区P-18 胴部片				石英、雲母粒多/ にぶい褐色	縦位条線文。	中期後葉
第100図 PL.93	279	縄文土器 深鉢	74区U-4 胴部片				砂粒(酸化粒)/に ぶい黄褐色	粗い縦位の条線。	中期後葉
第100図 PL.93	280	縄文土器 深鉢	21号溝 胴部片				砂粒/にぶい褐色	縦位集合沈線、一部円形文様か。外面にスス附着。	中期後葉
第100図 PL.94	281	縄文土器 深鉢	75区F-20 胴部片				砂粒/にぶい黄橙 色	粗い縦位の集合沈線文。	中期後葉
第100図 PL.94	282	縄文土器 深鉢	74区N-19 胴部片				砂粒多/黒褐色	縦位の集合沈線文。	中期後葉
第100図 PL.94	283	縄文土器 深鉢	74区U-6 胴部片				砂粒/にぶい橙色	縦位条線文。	中期後葉
第100図 PL.94	284	縄文土器 深鉢	74区Q-18 胴部片				砂粒多/明褐色	縦位の条線文。	中期後葉
第100図 PL.94	285	縄文土器 深鉢	82区O-3 胴部片				砂粒/黒褐色	縦位集合条線。	中期後葉
第100図 PL.94	286	縄文土器 深鉢	21号溝 胴部片				石英粒多/にぶい 黄褐色	縦位の集合条線文。287は同一個体。	中期後葉
第100図 PL.94	287	縄文土器 深鉢	21号溝 胴部片				石英粒多/にぶい 黄褐色	縦位の集合条線文。	中期後葉
第100図 PL.94	288	縄文土器 深鉢	75区 胴部片				砂粒/明赤褐色	複数沈線によるV状文様。内部には縄文RL施文。	中期後葉
第100図 PL.94	289	縄文土器 深鉢	74区S-15 胴部片				雲母混入/にぶい 黄褐色	斜位集合沈線、外面にスス附着。内面撫で痕。	中期後葉
第100図 PL.94	290	縄文土器 深鉢	75区E-7 胴部片				砂粒/褐色	斜位の集合沈線施文後、縦の沈線。	中期後葉
第100図 PL.94	291	縄文土器 深鉢	73区H-18 胴部片				微砂粒/橙色	縦位、斜位並行沈線。	後期前半
第100図 PL.94	292	縄文土器 深鉢	83区P-4 胴部片				砂粒/明褐色	縦位の隆帯より斜位の集合沈線文。	中期後葉
第100図 PL.94	293	縄文土器 深鉢	74区O-11 胴部片				砂粒/黒褐色	縦位沈線、斜位集合沈線。	中期後葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第100図 PL.94	294	縄文土器 深鉢	75区R-21 胴部片				砂粒/明赤褐色	縦位沈線と縦位矢羽根状の集合沈線。	中期後葉
第100図 PL.94	295	縄文土器 深鉢	84区I-2 胴部片				砂粒/浅黄褐色	沈線による曲線文様か。器面風化。	後期初頭
第100図 PL.94	296	縄文土器 深鉢	74区Q-6 胴部片				砂粒/黒褐色	隆帯により渦巻き基調の曲線文描く。	中期後葉
第100図 PL.94	297	縄文土器 深鉢	74区R-6 胴部片				砂粒/暗褐色	横位隆帯、沈線による渦巻き懸垂文。縄文RL施文。	中期後葉
第100図 PL.94	298	縄文土器 深鉢	75区N-25 胴部片				微砂粒/にぶい黄褐色	沈線による渦巻き文様。	中期後葉
第100図 PL.94	299	縄文土器 深鉢	74区Q-19 胴部片				砂粒/にぶい橙色	沈線による渦巻き文。	中期後葉
第100図 PL.94	300	縄文土器 深鉢	74区O-24 胴部片				砂粒多/褐色	沈線による渦巻き文。	中期後葉
第100図 PL.94	301	縄文土器 深鉢	75区E-21、F-20 胴部片				砂粒/褐色	内湾する肩部、隆帯による文様描き、突起を有すか、以下短沈線によるハの字文を横位重層させる。	中期後葉
第100図 PL.94	302	縄文土器 深鉢	75区C-22 胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	多方向の短沈線文。	中期後葉
第100図 PL.94	303	縄文土器 深鉢	75区D-7 胴部片				砂粒多/明赤褐色	縦位の隆帯と菱形に付された連続爪形文。	中期後葉
第100図 PL.94	304	縄文土器 深鉢	75区P-20 胴部片				砂粒/明黄褐色	沈線による並行文、渦巻き文、刺突文。	中期後葉
第100図 PL.94	305	縄文土器 深鉢	74区R-15 胴部片				砂粒/褐色	無文胴部片。	中期後葉
第101図 PL.94	306	縄文土器 鉢	74区O-11 胴部片				砂粒/褐色	大きく開く胴部、横位隆帯廻る。無文。	中期後葉
第101図 PL.94	307	縄文土器 深鉢	74区Q-6 胴部片				砂粒/にぶい橙色	無文胴部片。	中期後葉
第101図 PL.94	308	縄文土器 深鉢	74区P-18 胴部片				砂粒/灰黄褐色	無文胴部片。	中期後葉
第101図 PL.94	309	縄文土器 深鉢	74区O-17 胴部片				砂粒/褐色	外反する無文口縁部片。	中期後葉
第101図 PL.94	310	縄文土器 深鉢	74区O-12 胴部片				砂粒/黒褐色	無文胴部片。	中期後葉
第101図 PL.94	311	縄文土器 深鉢	74区O-17 胴部片				砂粒/褐色	無文胴部片、内外面研磨。	中期後葉
第101図 PL.94	312	縄文土器 深鉢	74区O-11 胴部片				砂粒/褐色	無文胴部片、外面研磨。	中期後葉
第101図 PL.94	313	縄文土器 深鉢	74区R-15 胴部片				砂粒/褐色	外反する無文口縁部片。	中期後葉
第101図 PL.94	314	縄文土器 浅鉢	75区D-24 胴部片				砂粒多/にぶい黄褐色	隆帯による横位文様帯、両端部が大きく盛りあがる環状把手が付く。把手下位に垂下沈線、楕円文様内に短沈線による連続のハの字文。	中期後葉
第101図 PL.94	315	縄文土器 深鉢	74区U-14 口縁~胴部片				砂粒多/にぶい橙色	幅広の環状把手が付く。口縁部無文、文様帯部分は隆帯による区画文様描き、縄文RL充填する。	中期後葉
第101図 PL.94	316	縄文土器 深鉢	21号溝 胴部片				砂粒(石英粒)多/ にぶい赤褐色	隆帯により横位に連続する矩形文。	中期後葉
第101図 PL.95	317	縄文土器 深鉢	74区O-13 把手				砂粒多/褐色	口縁部突起、肥厚し上端部から繋がる隆帯で飾られる。	中期後葉
第101図 PL.95	318	縄文土器 深鉢	74区S-9 把手				砂粒/にぶい褐色	口縁部把手、上位は円形に広がり中央部凹む、沈線文見られる。	後期初頭
第101図 PL.95	319	縄文土器 深鉢	21号溝 把手				微砂粒/黒褐色	口縁部突起片、上部が三角に開く。両側部に幅の沈線文と隆線見られる。	中期後葉
第101図 PL.95	320	縄文土器 深鉢	74区Q-10 把手				砂粒/黒褐色	環状把手、上端部広がり中央部が凹む。	中期後葉
第101図 PL.95	321	縄文土器 深鉢	74区V-6 把手				微砂粒/褐色	棒状の環状把手、上端が広がり中央部分凹む。環状部を欠く。スス付着。	中期後葉
第101図 PL.95	322	縄文土器 深鉢	74区O-11 把手				砂粒少/暗褐色	口縁部突起部、突起上部を欠く。透かし孔か、沈線による曲線文描くか。	中期後葉
第101図 PL.95	323	縄文土器 深鉢	74区U-6 把手				微砂粒/にぶい黄褐色	口縁部把手、上位は円形に広がり中央部凹む、下部は二股となる。スス付着。	中期後葉
第101図 PL.95	324	縄文土器 深鉢	21号溝 把手				砂粒多/にぶい橙色	環状把手片、中央に沈線、一部に縄文LR。	中期後葉
第102図 PL.95	325	縄文土器 深鉢	75区D-8 把手				砂粒多/黒褐色	波頂部に付く環状把手片、上端部凹む。研磨痕、垂下沈線上端僅かに見られる。	中期後葉
第102図 PL.95	326	縄文土器 深鉢	74区R-8 把手				金雲母少/褐色	口縁部環状把手、上端は8字状となる。把手には縄文施文。	中期後葉
第102図 PL.95	327	縄文土器 深鉢	74区P-14 把手				白色砂粒/褐色	中央が凹み、棒状に延びる口縁把手。上端部を欠く。	中期後葉
第102図 PL.95	328	縄文土器 深鉢	74区O-12・13 把手か				微砂粒/黒褐色	把手か、縄文LR施文。	中期後葉か
第102図 PL.95	329	縄文土器 深鉢	75区E-7 底部片	底	(9.0)		砂粒/灰褐色	縄文RLを縦位施文後、沈線垂下させる。	中期後葉

遺物観察表

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第102図 PL.95	330	縄文土器 深鉢	75区E-7 底部片	底	8.0		砂粒/橙色	底部片、胴部はやや丸みを持って立ち上がる、浅い縦位の沈線下端部見られる。	中期後葉
第102図 PL.95	331	縄文土器 深鉢	74区O-12 底部片	底	(9.4)		砂粒、雲母微粒/ 褐色	無文底部片、器面研磨。	中期後葉
第102図 PL.95	332	縄文土器 深鉢	74区U-6 底部片	底	(8.2)		砂粒/明褐色	隆帯による懸垂文、V状文描く、文様間、縄文LR縦位充填施文。	中期後葉
第102図 PL.95	333	縄文土器 深鉢	74区R-8 底部片	底	(10.0)		砂粒/明褐色	胴部大きく開く、垂下降帯。器面研磨。	中期後葉
第102図 PL.95	334	縄文土器 深鉢	75区E-13 底部片	底	7.0		砂粒/明赤褐色	無文、器面研磨。鉄分の沈着見られる。	中期後葉
第102図 PL.95	335	縄文土器 深鉢	74区O-12 底部片	底	(6.4)		微砂粒/褐色	2本の細い垂下沈線文による磨消文、細縄文RL縦位施文。内面黒色、器面研磨。	中期後葉
第102図 PL.95	336	縄文土器 深鉢	74区P-R-14 底部片	底	9.0		砂粒/明褐色	無文底部片、底面含め研磨痕。	中期後葉
第102図 PL.95	337	縄文土器 深鉢	1号溝 深鉢	底	8.0		砂粒/にぶい橙色	底部片、胴部は直立気味。内面にスス付着。	中期後葉
第102図 PL.95	338	縄文土器 深鉢	75区E-21 底部片	底	7.0		砂粒/にぶい黄橙 色	厚手の底部片、無文、器面風化。	中期後葉
第102図 PL.95	339	縄文土器 深鉢	75区D-19 底部片	底	(7.8)		砂粒/にぶい黄橙 色	無文底部片。	中期後葉
第102図 PL.95	340	縄文土器 深鉢	21号溝 底部片	底	9.4		砂粒/明褐色	胴部は大きく開いて立ち上がる。垂下沈線下端部見られる。内面にスス付着。	中期後葉
第102図 PL.95	341	縄文土器 深鉢	21号溝 深鉢	底	6.4		微砂粒/にぶい赤 褐色	底部片、縦位沈線の下端部見られる。内外面研磨。内面黒色。	中期後葉
第102図 PL.95	342	縄文土器 深鉢	21号溝 底部	底	10.6		砂粒/褐灰色	無文底部片。	中期後葉
第102図 PL.95	343	縄文土器 深鉢	21号溝 底部片	底	8.2		砂粒/明黄褐色	厚手の底部片、器面の風化顕著。	中期後葉
第102図 PL.95	344	縄文土器 深鉢	75区C-6 底部片	底	12.0		砂粒/明褐色	やや大型の底部、割れ口が面取りされており、再利用品か、器面風化顕著。底面に網代痕。	中期後葉
第103図 PL.95	345	縄文土器 深鉢	74区R-19 底部片	底	(10.0)		石英粒多/にぶい 黄褐色	無文底部片、底部網代痕。	中期後葉
第103図 PL.95	346	縄文土器 深鉢	74区S-9 底部片	底	10.0		砂粒/にぶい黄橙 色	無文底部、底面に網代痕、スス付着。	中期後葉
第103図 PL.95	347	縄文土器 深鉢	74区P-6 底部片	底	8.4		砂粒/にぶい黄褐 色	無文底部、底面に網代痕か。	中期後葉
第103図 PL.95	348	縄文土器 深鉢	74区T-15 底部片	底	7.8		砂粒/赤褐色	底部片。外面研磨、内面にスス付着。	中期後葉
第103図 PL.95	349	縄文土器 深鉢	74区T-6 底部片	底	(11.0)		砂粒/にぶい赤褐 色	端部がやや張り出し上げ底を呈す。縄文無節L。	中期後葉か
第103図 PL.96	350	縄文土器 深鉢	74区O-21 底部片				砂粒/にぶい赤褐 色	底部片、僅かに膨らみ持つ。内面スス付着。	中期後葉
第103図 PL.96	351	縄文土器 台付土器	75区E-6 底部片	底	5.9		細砂粒多/にぶい 橙色	台付き土器脚部片、脚部小さく広がる。	中期後葉
第103図 PL.96	352	縄文土器 深鉢	74区P-10 底部片	底	(7.0)		砂粒/にぶい赤褐 色	無文底部片、僅かに上げ底。内外面研磨。	中期後葉
第103図 PL.96	353	縄文土器 台付土器	74区V-8 脚台部	底	7.0		砂粒/にぶい赤褐 色	短く開く脚台部、内外面研磨。	中期後葉
第103図 PL.96	354	縄文土器 台付土器	74区S-3 脚台部片	底	(5.4)		砂粒/にぶい赤褐 色	小振りの脚台部片、上げ底状で内外面研磨。	中期後葉
第103図 PL.96	355	縄文土器 台付土器	74区O-11 脚台部片	底	(6.8)		砂粒/にぶい赤褐 色	小振りの脚台部片、上げ底状で外面研磨。	中期後葉
第103図 PL.96	356	縄文土器 台付土器	75区D-6、E-6・7 脚台部片	底	7.4		砂粒多/黄褐色	脚台部、脚の上位に5ヵ所の円孔有す。	中期後葉
第103図 PL.96	357	縄文土器 土製円盤	74区O-11 完形			径 5.8	砂粒/灰黄褐色	器面に縄文、やや楕円を呈す。	中期後葉
第103図 PL.96	358	縄文土器 土製円盤	74区M-8トレンチ 一部欠損			径 4.2	砂粒/暗褐色	一部を欠く土製円盤、縄文見られる。	中期後葉
第103図 PL.96	359	縄文土器 土製円盤	74区P-17 完形			径 4.1	砂粒/暗赤褐色	沈線伴う隆線文見られる。	中期後葉
第103図 PL.96	360	縄文土器 土製円盤	74区Q-19 完形			径 4.0	微砂粒/にぶい黄 褐色	沈線見られる。丁寧に面取りされる。	中期後葉
第103図 PL.96	361	縄文土器 土製円盤	74区O-10 完形			径 3.3	微砂粒/暗褐色	やや長円呈す土製円盤、磨消状文。	中期後葉
第103図 PL.96	362	縄文土器 土製円盤	74区S-7 完形			径 3.0	砂粒/黒褐色	やや小振りの土製円盤、縄文施文の曲線文見られる。	中期後葉
第103図 PL.96	363	縄文土器 土製円盤	74区O-18 完形			径 2.0	微砂粒/灰黄褐色	小振りの土製円盤。	中期後葉
第103図 PL.96	364	縄文土器 土製円盤	74区P-19 完形?			径 8.2	微砂粒/にぶい褐 色	無文胴部片利用した土製円盤の未製品か。	中期後葉
第103図 PL.96	365	縄文土器 土製円盤	74区P-19 欠損			径 7.2	砂粒多/暗褐色	膨らみ有す、土製円盤か。欠損。	中期後葉
第103図 PL.96	366	縄文土器 深鉢	74区U-13 口縁部片				砂粒/にぶい赤褐 色	口縁部より、横位刺突文を多段に配す。367・368は同一個体。	後期初頭

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第103図 PL.96	367	縄文土器 深鉢	74区U-14 口縁部片				砂粒/にぶい赤褐色	口縁部より、横位刺突文を多段に配す。	後期初頭	
第103図 PL.96	368	縄文土器 深鉢	74区T-14 口縁部片				砂粒/にぶい赤褐色	口縁部より、横位刺突文を多段に配す。	後期初頭	
第103図 PL.96	369	縄文土器 深鉢	72区U-21 口縁部片				微砂粒/橙色	縦位、斜位並行沈線。	後期前半	
第103図 PL.96	370	縄文土器 深鉢	74区Q-19 口縁部片				微砂粒/にぶい黄褐色	外反し、小波状を呈す。波頂部に円孔、表裏に横位沈線文。	後期初頭	
第103図 PL.96	371	縄文土器 深鉢	396号土坑 胴部片				微砂粒/浅黄褐色	横位複数の沈線、下位には渦巻き文。	後期前半	
第103図 PL.96	372	縄文土器 深鉢	83区Q-6 口縁部片				微砂粒/にぶい黄褐色	口縁部横位縄文LR、円形文から縦位の弧状沈線文、横位沈線。下位に連続押圧文。	後期前半	
第103図 PL.96	373	縄文土器 深鉢	83区O-6 口縁部片				微砂粒/明黄褐色	口唇部に縄文LRを施文、横位沈線文で無文帯を画す。	後期中葉	
第103図 PL.96	374	縄文土器 深鉢	73区R-10 口縁部片				砂粒多/橙色	口縁部に沈線伴う横位隆帯。以下無文。	後期初頭	
第103図 PL.96	375	縄文土器 深鉢	75区F-11 口縁部片				微砂粒/橙色	口縁部に連続刻み伴う隆線廻る。内側に沈線。	後期前半	
第103図 PL.96	376	縄文土器 甕形土器	74区V-5 口縁部片				砂粒/灰黄褐色	口縁部内傾、隆帯による連続弧状文、内外面にスス付着。	後期	
第103図 PL.96	377	縄文土器 深鉢	74区U・T-9 口縁部片	口	(12.6)		微砂粒/灰黄褐色	口縁やや内湾、口唇部平らで口縁には、短沈線付された瘤状文から左右に弧状沈線延びる。以下横位の沈線で文様構成。沈線、隆線に沿って刺突文、区画文内にも刺突文充填。	後期後葉	
第103図 PL.96	378	縄文土器 深鉢	74区R-15 胴部片				微砂粒/暗灰褐色	沈線による三角意匠文様、中に刺突文配す。	後期後葉	
第104図 PL.96	379	縄文土器 浅鉢	75区E-6 口縁部片				細砂粒/黄褐色	口縁部に沈線伴う連続刻み。器面に鉄分付着。	後期初頭	
第104図 PL.96	380	縄文土器 深鉢	83区O-8 胴部片				砂粒、白色粒/黒褐色	押圧文伴う横位隆帯、以下横位矢羽根状の短沈線文。	後期中葉	
第104図 PL.96	381	縄文土器 深鉢	64区 胴部片				砂粒多/にぶい黄褐色	並行沈線。	後期初頭	
第104図 PL.96	382	縄文土器 深鉢	75区E-9 底部片	底	9.2		微砂粒/橙色	底部に2段の横位連続爪形文廻る。一部に縄文か。	時期不明	
第104図 PL.96	383	縄文土器 深鉢	74区K-20 胴～底部片	底	(6.0)		砂粒多/暗褐色	胴部に横位沈線巡り、沈線を境にやや間の開いた横位矢羽根状の沈線施文。内面スス付着。底部網代痕。	後期中葉	
第104図 PL.96	384	縄文土器 土偶	74区O-17 脚部分				微砂粒/にぶい黄褐色	底面僅かに膨らみ、一部先端部が僅かに尖る形状、土偶右脚か？	中期後葉か	
第105図 PL.96	385	剥片石器 石鏃	83区S-7 完形	長幅	2.6 1.9	厚重	0.3 1.2	黒色安山岩	凹基無茎、弧状に挟り。均整のとれた丁寧な作り。	
第105図 PL.96	386	剥片石器 石鏃	74区T-12 完形	長幅	3.3 2.0	厚重	0.4 1.9	流紋岩	凹基無茎、比較的大型品、均整のとれた丁寧な作り。	
第105図 PL.96	387	剥片石器 石鏃	75区F-19 完形	長幅	2.5 1.4	厚重	0.4 0.8	黒曜石	凹基無茎、挟り深く長脚。均整のとれた丁寧な作り。	
第105図 PL.96	388	剥片石器 石鏃	74区R-6 完形	長幅	2.4 1.8	厚重	0.2 0.5	黒曜石	凹基無茎、挟り深く、全体に薄手の作り。片側の脚端部を欠く。	
第105図 PL.96	389	剥片石器 石鏃	75区L-19 完形	長幅	1.8 1.2	厚重	0.3 0.4	黒曜石	凹基無茎、挟り深く小型で作りは丁寧。	
第105図 PL.96	390	剥片石器 石鏃	74区P-15 完形	長幅	1.9 1.2	厚重	0.3 0.5	黒曜石	凹基無茎、挟りは浅い。	
第105図 PL.96	391	剥片石器 石鏃	74区O-14 完形	長幅	2.2 1.5	厚重	0.4 0.7	黒曜石	凹基無茎、挟りは山形で、端正な作り。	
第105図 PL.96	392	剥片石器 石鏃	83区X-6 完形	長幅	1.8 1.3	厚重	0.3 0.4	黒曜石	凹基無茎、山形の挟り、比較的小型な作り。	
第105図 PL.96	393	剥片石器 石鏃	74区R-10 完形	長幅	1.8 1.3	厚重	0.3 0.5	黒曜石	凹基無茎、小型品。	
第105図 PL.96	394	剥片石器 石鏃	74区T-7 完形	長幅	1.8 0.5	厚重	0.4 0.8	黒曜石	凹基無茎、挟り浅い。先端部に厚みを残し、先端部分僅かに欠損か。	
第105図 PL.96	395	剥片石器 石鏃	64区J-24 欠損	長幅	(3.1) (1.7)	厚重	0.5 (1.9)	黒曜石	やや大型品、凹基無茎で両側縁部が僅かに膨らむ。丁寧な作り。	
第105図 PL.96	396	剥片石器 石鏃	75区P-21 欠損	長幅	(1.9) (1.3)	厚重	0.3 (0.5)	黒曜石	凹基無茎、挟りは小さい。僅かに片脚の端部を欠く。	
第105図 PL.96	397	剥片石器 石鏃	74区S-15 完形	長幅	2.0 1.5	厚重	0.3 0.5	黒曜石	凹基無茎、挟り深い。脚は長く先端が細く尖る。	
第105図 PL.96	398	剥片石器 石鏃	74区S-15 完形	長幅	2.0 1.7	厚重	0.4 0.6	黒曜石	凹基無茎、ほぼ正三角形で挟り浅い。	
第105図 PL.96	399	剥片石器 石鏃	74区 完形	長幅	2.0 1.0	厚重	0.3 0.5	黒曜石	平基無茎、挟りは浅く脚は極めて短い。小型品。	
第105図 PL.96	400	剥片石器 石鏃	75区D-23 完形	長幅	2.1 1.5	厚重	0.3 0.6	黒曜石	凹基無茎、作りは丁寧。	
第105図 PL.96	401	剥片石器 石鏃	74区Q-19 完形	長幅	1.8 1.3	厚重	0.4 0.6	黒曜石	凹基無茎、先端部、片脚を欠く。	
第105図 PL.96	402	剥片石器 石鏃	75区H-13 完形	長幅	2.1 1.5	厚重	0.4 1.2	チャート	凹基無茎、挟り浅い。先端部分僅かに欠く。	

遺物観察表

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第105図 PL.96	403	剥片石器 石鏃	74区P-15 完形	長幅 1.8 1.3	厚 0.3 0.6		黒曜石	凹基有茎、茎を欠損か、扱りは浅い。	
第105図 PL.96	404	剥片石器 石鏃	74区O-15 完形	長幅 1.3 1.0	厚 0.3 0.3		黒曜石	極めて小型の凹基無茎鏃。	
第105図 PL.96	405	剥片石器 石鏃	64区R-25 完形	長幅 1.4 1.3	厚 0.3 0.3		赤碧玉	小型の凹基無茎。比較的丁寧な作り。	
第105図 PL.96	406	剥片石器 石鏃	75区N-19 完形	長幅 1.9 1.3	厚 0.3 0.6		黒曜石	凹基無茎、扱りは浅い。裏面が凹む。	
第105図 PL.96	407	剥片石器 石鏃	73区S-12 完形	長幅 1.5 1.1	厚 0.3 0.4		黒曜石	小型の凹基無茎。比較的丁寧な作り。	
第105図 PL.96	408	剥片石器 石鏃	72区OS6畑 欠損	長幅 (2.6) (1.5)	厚 0.4 (1.0)		黒色頁岩	凹基無茎、扱りはやや浅く、片脚を欠く。	
第105図 PL.96	409	剥片石器 石鏃	74区F-16、OS21 畑 欠損	長幅 (2.1) (1.4)	厚 0.4 (0.8)		黒曜石	凹基無茎、扱りに深い。	
第106図 PL.97	410	剥片石器 石鏃	74区V-12 欠損	長幅 (2.0) (1.6)	厚 0.3 (1.1)		黒曜石	凹基無茎、両側縁はやや膨らみを呈す、脚は短く広がらず。先端部を欠く。	
第106図 PL.97	411	剥片石器 石鏃	75区B-19 欠損	長幅 (2.1) (1.5)	厚 0.4 (1.1)		赤碧玉	凹基無茎、先端部および片脚を欠く。鉄分の沈着有り。	
第106図 PL.97	412	剥片石器 石鏃	74区O-22・23ト チ 欠損	長幅 (1.7) 1.3	厚 0.3 (0.5)		黒曜石	凹基無茎、扱りに深く長脚。先端部を欠く。	
第106図 PL.97	413	剥片石器 石鏃	74区T-12 欠損	長幅 (1.6) 1.7	厚 0.2 (0.8)		黒曜石	凹基無茎、扱りは弧状を呈しやや浅い。薄手で幅広の器形。先端部を欠く。	
第106図 PL.97	414	剥片石器 石鏃	75区C-8 欠損	長幅 (1.4) 1.1	厚 0.2 (0.3)		黒曜石	凹基無茎の小型品、扱りは浅く、均整のとれた丁寧な作り。	
第106図 PL.97	415	剥片石器 石鏃	84区N-7 欠損	長幅 (2.7) (1.7)	厚 0.3 (1.2)		流紋岩	凹基無茎か、両脚および先端部欠く。作りは丁寧。	
第106図 PL.97	416	剥片石器 石鏃	63区OS27畑 欠損	長幅 (2.0) (0.9)	厚 0.4 (0.5)		黒曜石	凹基無茎、扱りに深い。細身で肉厚、片脚を欠く。	
第106図 PL.97	417	剥片石器 石鏃	21号溝 欠損	長幅 (2.0) (1.2)	厚 0.3 (0.5)		黒曜石	基部片側部分を欠く、作りはやや粗い。	
第106図 PL.97	418	剥片石器 石鏃	74区V-13 欠損	長幅 (1.7) (1.4)	厚 0.4 (0.7)		赤碧玉	凹基無茎、扱りに浅く両側縁僅かに膨らむ器形。	
第106図 PL.97	419	剥片石器 石鏃	75区F-11 欠損	長幅 (2.2) (0.9)	厚 0.3 (0.5)		黒曜石	凹基無茎、作りは丁寧、片側の脚を欠く。	
第106図 PL.97	420	剥片石器 石鏃	72区P-20 欠損	長幅 (2.9) (1.5)	厚 0.3 (0.8)		黒曜石	凹基無茎、扱りに深く、脚は長く先端が尖る。比較的薄手の作り。片方の脚を欠く。	
第106図 PL.97	421	剥片石器 石鏃	74区T-6 欠損	長幅 (1.5) (1.3)	厚 0.2 (0.3)		黒曜石	凹基無茎、脚が大きく開く形態、約半分を欠く。	
第106図 PL.97	422	剥片石器 石鏃	74区O-17 完形	長幅 2.2 1.2	厚 0.2 0.5		流紋岩	形態不明、先端部は端正な作り、基部の一部を欠く。未製品か。	
第106図 PL.97	423	剥片石器 石鏃	73区Y-6ト チ 欠損	長幅 (2.3) (1.4)	厚 0.3 (0.8)		黒曜石	基部を欠く、先端部分が細く作られる。	
第106図 PL.97	424	剥片石器 石鏃	10号住居 欠損	長幅 (2.3) (1.2)	厚 0.5 (1.3)		赤碧玉	作りは粗く器種も不明瞭。	
第106図 PL.97	425	剥片石器 石鏃	75区Q-13 欠損	長幅 (1.7) (1.0)	厚 0.3 (0.4)		黒曜石	先端部片。	
第106図 PL.97	426	剥片石器 石鏃	21号溝 欠損	長幅 (1.8) (0.8)	厚 0.2 (0.3)		黒曜石	凹基無茎、ほぼ縦半分に分かれた欠損品。	
第106図 PL.97	427	剥片石器 石鏃	74区O-18 欠損	長幅 (2.4) (1.3)	厚 0.3 (0.6)		黒曜石	細身で作りは丁寧、基部を欠く。	
第106図 PL.97	428	剥片石器 石鏃	73区Y-5ト チ 欠損	長幅 (1.9) (1.6)	厚 0.4 (0.9)		黒曜石	ほぼ三角形を呈す、先端部の破片。	
第106図 PL.97	429	剥片石器 石鏃	21号溝 欠損	長幅 (1.1) (0.9)	厚 0.2 (0.2)		黒曜石	先端部小片。	
第106図 PL.97	430	剥片石器 石鏃	84区K-2 欠損	長幅 (1.8) (1.3)	厚 0.3 (0.7)		流紋岩	石鏃の先端部片。	
第106図 PL.97	431	剥片石器 石鏃	74区S-7 完形	長幅 1.3 1.2	厚 0.5 0.5		黒曜石	凹基無茎、扱りに浅い、片面はほとんど無調整で側縁部分のみの作出。小型で厚みがある。	
第106図 PL.97	432	剥片石器 石鏃	75区O-11 欠損	長幅 (2.7) (1.3)	厚 0.4 (1.1)		黒曜石	凹基無茎、扱りは小さく浅い。全体に鋭利さは弱い。	
第106図 PL.97	433	剥片石器 石鏃	74区U-13 欠損	長幅 (2.6) (2.0)	厚 0.8 (2.8)		黒曜石	三角形で、片面中央部が肥厚する。側縁剥離調整見られる。未製品、石鏃の可能性も有る。	
第106図 PL.97	434	剥片石器 石鏃	75区R-20 完形	長幅 1.8 1.5	厚 0.6 1.0		黒曜石	凹基無茎、中央部分が肥厚、粗い作り。	
第106図 PL.97	435	剥片石器 石鏃	84区I-5 完形	長幅 1.4 1.3	厚 0.2 0.3		流紋岩	凹基無茎、扱りに浅い。正三角形で丁寧な作り。	
第106図 PL.97	436	剥片石器 石鏃	74区R-10 完形	長幅 1.9 1.2	厚 0.4 0.5		黒曜石	凹基有茎、小型であるがやや厚みを持つ、側縁部の調整は細かい。	
第107図 PL.97	437	剥片石器 石鏃	75区J-17 完形	長幅 1.9 1.4	厚 0.3 0.6		チャート	凹基無茎であるが、扱りに極浅い、均整のとれた端正な作り。	
第107図 PL.97	438	剥片石器 石鏃	74区Q-5 完形	長幅 2.0 1.7	厚 0.5 1.3		流紋岩	平基無茎、中央部がやや厚くなる。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第107図 PL.97	439	剥片石器 石鏃	334号土坑 完形	長幅 1.5	2.3 1.7	厚重 0.5 1.7	チャート	凸基無茎、基部が丸みを呈す。先端部分に反りが見られる。やや粗い作り。	
第107図 PL.97	440	剥片石器 石鏃	74区L-7、6号ト ンチ 完形	長幅 1.2	2.5 1.2	厚重 0.4 1.0	流紋岩	凸基無茎、やや細身で作りは粗い。	
第107図 PL.97	441	剥片石器 石鏃	64区F-24 完形	長幅 2.1	2.2 2.1	厚重 0.4 1.2	黒曜石	平基無茎、ほぼ正三角形を呈す。	
第107図 PL.97	442	剥片石器 石鏃	74区T-10 完形	長幅 1.0	1.7 1.0	厚重 0.3 0.5	黒曜石	凹基有茎、脚は短く尖る。小型品。	
第107図 PL.97	443	剥片石器 石鏃	74区I-9、0S23 畑ト ンチ 完形	長幅 1.1	1.7 1.1	厚重 0.3 0.4	黒曜石	凹基有茎、小型で茎は細い。	
第107図 PL.97	444	剥片石器 石鏃	74区T-6 完形	長幅 1.1	1.9 1.1	厚重 0.4 0.6	黒曜石	平基有茎、小型でやや厚みが見られる。	
第107図 PL.97	445	剥片石器 石鏃	74区P-7 完形	長幅 1.2	1.9 1.2	厚重 0.4 0.8	黒曜石	凹基有茎、小型でやや厚みがある。	
第107図 PL.97	446	剥片石器 石鏃	74区V-12 完形	長幅 1.0	2.0 1.0	厚重 0.3 0.5	流紋岩	平基有茎、細身の小型品。側縁押厚剥離により鋸歯状を呈す。先端に向かってやや反りが見られる。	
第107図 PL.97	447	剥片石器 石鏃	74区O-16 完形	長幅 1.3	2.1 1.3	厚重 0.4 0.8	流紋岩	凹基有茎、やや小型の製品。	
第107図 PL.97	448	剥片石器 石鏃	74区R-15 完形	長幅 1.2	2.4 1.2	厚重 0.5 0.7	流紋岩	凸基有茎、小型で先端部は細く尖る。	
第107図 PL.97	449	剥片石器 石鏃	75区P-20 欠損	長幅 1.2	(3.3) 1.2	厚重 0.4 1.1	流紋岩	凹基有茎、かなり細身で端正な作り。	
第107図 PL.97	450	剥片石器 石鏃	74区Q-6 欠損	長幅 1.3	(2.8) 1.3	厚重 0.3 (1.0)	流紋岩	凹基有茎、細身で全体に薄手である、丁寧な作り。	
第107図 PL.97	451	剥片石器 石鏃	74区R-18 欠損	長幅 (1.2)	(2.9) (1.2)	厚重 0.4 (1.3)	流紋岩	凹基有茎、細身で丁寧な作り、先端部、片脚を僅かに欠く。側縁部分の調整細かい。	
第107図 PL.97	452	剥片石器 石鏃	74区T-14 欠損	長幅 1.5	(2.4) 1.5	厚重 0.5 (1.2)	黒曜石	平基有茎、やや厚みを有し、先端部は幅狭となる。先端欠損。	
第107図 PL.97	453	剥片石器 石鏃	74区W-16 完形	長幅 1.0	2.6 1.0	厚重 0.4 0.7	流紋岩	平基有茎、基部は厚みを有す。先端部に向かって細く作られる。	
第107図 PL.97	454	剥片石器 石鏃	74区O-17 欠損	長幅 1.1	(2.3) 1.1	厚重 0.4 (0.8)	流紋岩	平基有茎、茎は短く先端部が尖る。先端部僅かに欠損。	
第107図 PL.97	455	剥片石器 石鏃	74区G-9、0S23 畑 欠損	長幅 1.1	(2.5) 1.1	厚重 0.2 (0.6)	黒色頁岩	凹基有茎か、挟り浅い。細身で側縁部の調整細かい。	
第107図 PL.97	456	剥片石器 石鏃	74区X-15 欠損	長幅 1.3	(2.1) 1.3	厚重 0.4 (1.2)	黒色頁岩	凹基有茎、茎は短い。先端部を欠く。	
第107図 PL.97	457	剥片石器 石鏃	74区P-7 欠損	長幅 (1.4)	(2.6) (1.4)	厚重 0.4 (1.0)	流紋岩	凹基有茎、茎は短い。やや長身で作りは丁寧。	
第107図 PL.97	458	剥片石器 石鏃	74区Q-10 欠損	長幅 1.0	(2.8) 1.0	厚重 0.4 (0.8)	黒色頁岩	凹基有茎、細身で全体に薄手である、丁寧な作り。	
第107図 PL.97	459	剥片石器 石鏃	74区O-17 欠損	長幅 1.2	(2.8) 1.2	厚重 0.4 (1.0)	流紋岩	凹基有茎、やや細身、側縁部に細かい調整。	
第107図 PL.97	460	剥片石器 石鏃	74区U-6 欠損	長幅 1.1	(1.5) 1.1	厚重 0.4 (0.5)	黒曜石	平基有茎、小型品で、両側縁部僅かに膨らみを有し、鋭利さは見られない。	
第108図 PL.97	461	剥片石器 石鏃	74区W-8 欠損	長幅 1.7	(1.5) 1.7	厚重 0.4 (0.8)	黒曜石	凹基有茎、茎は短い。短身で幅広、やや粗い作り。	
第108図 PL.97	462	剥片石器 石鏃	74区M-19 完形	長幅 1.4	2.6 1.4	厚重 0.4 0.7	黒曜石	凹基有茎、先端部は曲がり、細身である。	
第108図 PL.97	463	剥片石器 石鏃	74区P-12 欠損	長幅 1.4	(1.9) 1.4	厚重 0.5 (0.9)	黒曜石	凹基有茎、やや小型で肉厚、両側縁に挟りを有す、いわゆる飛行機鏃。	
第108図 PL.97	464	剥片石器 石鏃	21号溝 完形	長幅 0.9	2.2 0.9	厚重 0.4 0.9	細粒輝石安山岩	小型紡錘状、錐部摩耗。	
第108図 PL.97	465	剥片石器 石鏃	74区T-12 完形	長幅 1.8	2.2 1.8	厚重 0.4 1.1	黒曜石	扇状のつまみ部に短い錐部が作出される。	
第108図 PL.97	466	剥片石器 石鏃	74区S-9 完形	長幅 1.6	1.8 1.6	厚重 0.4 1.4	黒曜石	凸基有茎、茎が長く菱形を呈す。	
第108図 PL.97	467	剥片石器 石鏃	64区J-24 完形	長幅 1.0	2.3 1.0	厚重 0.3 0.7	黒曜石	小型の紡錘状を呈す。	
第108図 PL.97	468	剥片石器 石鏃	75区E-21 欠損	長幅 (0.9)	(2.6) (0.9)	厚重 0.7 (1.5)	黒曜石	石鏃、錐部分の欠損品。断面三角で、角の部分に剥離調整。	
第108図 PL.97	469	剥片石器 石鏃	75区F-9 完形	長幅 0.9	3.0 0.9	厚重 0.5 1.2	チャート	両頭鏃か、棒状で両端部が尖る、中央部分にくびれを有す。	
第108図 PL.97	470	剥片石器 石鏃	74区O-13 完形	長幅 1.1	3.5 1.1	厚重 0.6 2.0	黒曜石	細身の石鏃の可能性も有り。先端部僅かに欠く。	
第108図 PL.97	471	剥片石器 石鏃	74区W-17 完形	長幅 0.8	3.5 0.8	厚重 0.5 1.3	流紋岩	断面三角の紡錘状片を利用、1稜線に調整剥離施し、1端を錐部とする。	
第108図 PL.97	472	剥片石器 石鏃	2号住居 欠損	長幅 1.8	(4.0) 1.8	厚重 1.0 (6.8)	黒曜石	太い棒状鏃、つまみ部から錐部に向かってやや細くなり、錐部は周囲に剥離調整で成形する。先端部を欠く。	
第108図 PL.97	473	剥片石器 石鏃	74区O-17 完形	長幅 4.1	3.2 4.1	厚重 1.3 14.7	赤碧玉	楕円形剥片の縁辺部に調整痕。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第108図 PL.97	474	剥片石器 石鏃	74区H-9、OS23 畑 完形	長 幅	2.5 2.0	厚 重	1.1 4.6	黒曜石	ほぼ楕円形で厚みがある。縁辺部に刃部作出。
第108図 PL.97	475	剥片石器 石鏃	74区P-15 完形	長 幅	4.9 3.0	厚 重	1.2 13.4	チャート	片面がやや肥厚する、楕円形剥片の縁辺部に刃部作出。
第108図 PL.97	476	剥片石器 石鏃	74区T-5 完形	長 幅	4.0 2.2	厚 重	0.5 5.6	黒色頁岩	平基無茎、木の葉状を呈しやや大型。
第109図 PL.98	477	剥片石器 打製石斧	74区P-5 完形	長 幅	8.8 3.8	厚 重	1.2 65	粗粒輝石安山岩	小型の短冊型、作りは粗く片面に大きく自然面残る。
第109図 PL.98	478	剥片石器 打製石斧	74区V-15 完形	長 幅	8.1 5.8	厚 重	2.1 133	粗粒輝石安山岩	撥型、基部を欠損か、片面に自然面残す。側縁部は厚く無調整。
第109図 PL.98	479	剥片石器 打製石斧	74区U-14 完形	長 幅	12.1 6.3	厚 重	2.2 219	粗粒輝石安山岩	撥型、刃部はほとんど広がらず。やや作りは粗い。
第109図 PL.98	480	剥片石器 打製石斧	1号暗渠 完形	長 幅	9.5 5.0	厚 重	2.0 145	粗粒輝石安山岩	短冊形、短身で肉厚、粗い作りで刃部摩耗。
第109図 PL.98	481	剥片石器 打製石斧	74区S-6 完形	長 幅	9.2 2.3	厚 重	2.2 142	細粒輝石安山岩	撥型、単身で基部に厚み有り、片面に大きく自然面残る。刃部に欠損。
第109図 PL.98	482	剥片石器 打製石斧	1号建物 完形	長 幅	9.4 4.6	厚 重	2.0 90	黒色頁岩	撥型、刃部欠損か、作りは粗い。
第109図 PL.98	483	剥片石器 打製石斧	74区T-15 完形	長 幅	10.3 6.2	厚 重	1.6 116	細粒輝石安山岩	撥型、刃部は開き、偏刃、片面に自然面残す。
第109図 PL.98	484	剥片石器 打製石斧	74区P-7 完形	長 幅	11.0 5.1	厚 重	1.3 93	細粒輝石安山岩	短冊型であるが、両側縁が僅かに膨らむ。薄手で片面に大きく自然面が残る。
第109図 PL.98	485	剥片石器 打製石斧	74区R-8 欠損	長 幅	(6.8) (4.0)	厚 重	(1.4) (61)	黒色頁岩	短冊型の基部片と思われる。
第109図 PL.98	486	剥片石器 打製石斧	74区 欠損	長 幅	(5.7) (7.0)	厚 重	(1.6) (96)	細粒輝石安山岩	板状で、刃部を欠く。
第109図 PL.98	487	剥片石器 打製石斧	74区U-5 欠損	長 幅	(8.8) 3.7	厚 重	1.5 (94)	黒色頁岩	短冊形、基部を欠損か。刃部摩耗し、全体に器面の風化見られる。
第109図 PL.98	488	剥片石器 打製石斧	74区T-15 欠損	長 幅	(10.1) 5.3	厚 重	0.9 63	細粒輝石安山岩	板状で極めて薄い作り、刃部使用による摩耗見られる。
第109図 PL.98	489	剥片石器 打製石斧	74区R-17 欠損	長 幅	(9.4) 6.4	厚 重	1.2 (113)	細粒輝石安山岩	撥型、板状で肉薄、基部を欠損か。
第109図 PL.98	490	剥片石器 打製石斧	74区P-13 欠損	長 幅	(9.0) (6.6)	厚 重	(1.7) (146)	黒色頁岩	撥型か、基部を欠く。刃部は幅広でやや厚み有り。
第109図 PL.98	491	剥片石器 打製石斧	74区P-17 欠損	長 幅	(9.3) (5.3)	厚 重	(2.7) (178)	細粒輝石安山岩	撥型か、刃部を欠く。厚みを有し片面に自然面残る。
第110図 PL.98	492	剥片石器 打製石斧	74区U-17 完形	長 幅	10.8 5.7	厚 重	2.1 128	細粒輝石安山岩	撥型、なすび状を呈し、円刃。
第110図 PL.98	493	剥片石器 打製石斧	74区P-14 完形	長 幅	10.8 5.0	厚 重	2.3 134	細粒輝石安山岩	撥型やや小振り、円刃、使用による摩耗見られる。
第110図 PL.98	494	剥片石器 打製石斧	74区P-5 完形	長 幅	11.7 5.9	厚 重	3.3 244	変質玄武岩	撥型、肉厚で作りは粗い、片面に自然面。
第110図 PL.98	495	剥片石器 打製石斧	74区T-15 完形	長 幅	11.1 5.7	厚 重	2.4 209	粗粒輝石安山岩	撥型、上部側縁部抉れ基部が狭くなる。肉厚で自然面残る。
第110図 PL.98	496	剥片石器 打製石斧	74区U-14 完形	長 幅	10.7 5.9	厚 重	2.3 165	細粒輝石安山岩	撥型、基部はやや細身で曲がりを持つ。
第110図 PL.98	497	剥片石器 打製石斧	11号住居 完形	長 幅	11.9 6.6	厚 重	2.5 215	細粒輝石安山岩	撥型、刃部が広がり、使用による摩耗有り。被熱。
第110図 PL.98	498	剥片石器 打製石斧	74区O-14 完形	長 幅	13.5 5.8	厚 重	2.4 186	細粒輝石安山岩	撥型で円刃、作りは粗く、片面に大きく自然面残る。
第110図 PL.98	499	剥片石器 打製石斧	74区B-2 完形	長 幅	13.2 7.5	厚 重	2.5 220	変質安山岩	撥型、刃部幅広で円刃、片面に大きく自然面残す。
第110図 PL.98	500	剥片石器 打製石斧	75区D-8 完形	長 幅	11.1 4.6	厚 重	1.8 116	細粒輝石安山岩	撥型、刃部がやや幅広となる。片面に自然面残る。
第110図 PL.98	501	剥片石器 打製石斧	74区L-7、6号ト ノ 完形	長 幅	11.5 5.2	厚 重	2.3 164	細粒輝石安山岩	短冊型であるが、片側側縁部は厚くほとんど無調整。
第110図 PL.98	502	剥片石器 打製石斧	74区V-14 完形	長 幅	12.0 5.6	厚 重	2.2 168	粗粒輝石安山岩	撥型、やや肉厚で片面に自然面残す。
第111図 PL.98	503	剥片石器 打製石斧	74区W-13 完形	長 幅	13.6 6.9	厚 重	1.7 217	粗粒輝石安山岩	撥型、刃部に向かって広がる器形、ほぼ直刃で、刃部片面に僅かに自然面残る。
第111図 PL.98	504	剥片石器 石鏃	12号住居 完形	長 幅	21.1 8.8	厚 重	2.6 472	細粒輝石安山岩	大型で刃部が広がる、板状で刃部薄くなる。片面に自然面。
第111図 PL.98	505	剥片石器 打製石斧	74区V-17 完形	長 幅	8.3 6.1	厚 重	1.5 98	粗粒輝石安山岩	撥型、刃部が広がり、片面に大きく自然面残す。雑な作り。刃部摩耗。
第111図 PL.98	506	剥片石器 打製石斧	63区Y-25、OS20 畑 完形	長 幅	9.2 5.9	厚 重	1.6 114	細粒輝石安山岩	分銅型、基部丸みを有し、刃部はやや広がりほぼ直刃である。
第111図 PL.98	507	剥片石器 打製石斧	74区V-17 完形	長 幅	11.2 6.1	厚 重	2.8 229.7	細粒輝石安山岩	短冊型、肉厚で片面に自然面残る。
第111図 PL.98	508	剥片石器 打製石斧	75区Q-20 完形	長 幅	10.7 7.8	厚 重	3.6 326	粗粒輝石安山岩	分銅型、大型礫の一次剥片を利用、厚手で両側に挟りを設けた粗い作り、片面に大きく盛りあがる自然面残す。

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第111図 PL.98	509	剥片石器 打製石斧	75区E-7 欠損	長幅 5.3	(5.1) 5.3	厚重 1.5 (59)	細粒輝石安山岩	刃部片、やや作りは粗い。	
第111図 PL.98	510	剥片石器 打製石斧	74区P-18 欠損	長幅 5.1	(5.9) 5.1	厚重 1.6 (60)	黒色頁岩	撥型、上部は両側縁部が抉れ幅狭となっている。刃部欠損。	
第111図 PL.98	511	剥片石器 打製石斧	74区R-17 欠損	長幅 (7.4) (4.1)	(7.4) (4.1)	厚重 (2.0) (74)	黒色頁岩	撥型の基部片か、細身で肉厚。両側縁部に抉れ有り。	
第111図 PL.98	512	剥片石器 打製石斧	74区P-18 欠損	長幅 (7.7) (5.8)	(7.7) (5.8)	厚重 (1.6) (73)	珩質頁岩	分銅型、抉れ上位は短く作られる。刃部一部を欠く。薄手の作り。	
第111図 PL.98	513	剥片石器 打製石斧	74区U-18 欠損	長幅 (8.3) 5.3	(8.3) 5.3	厚重 2.1 (127)	粗粒輝石安山岩	撥型で両側縁部に浅い抉れ有り。片面に自然面残る。	
第112図 PL.98	514	剥片石器 打製石斧	74区P-11 完形	長幅 10.3 5.2	10.3 5.2	厚重 1.5 79	細粒輝石安山岩	撥型であるが、刃部の作りは不明瞭、打製石斧としたが器種は不明瞭。	
第112図 PL.99	515	剥片石器 打製石斧	74区P-17 完形	長幅 11.9 7.0	11.9 7.0	厚重 2.8 234	細粒輝石安山岩	撥型、基部が曲がり不定形、刃部やや肉厚で作りは粗い。	
第112図 PL.99	516	剥片石器 石匙	74区O-13 完形	長幅 17.1 5.2	17.1 5.2	厚重 1.9 196	細粒輝石安山岩	縦型の石匙か、つまみ部は小さい、両側縁部に粗く刃部を作出。	
第112図 PL.99	517	剥片石器 スクレイパー	75区C-18 完形	長幅 11.7 4.2	11.7 4.2	厚重 0.8 40	黒色頁岩	縦長で先端部が細くなる薄手の剥片。両側縁部に刃部を作出。	
第112図 PL.99	518	礫石器 磨製石斧	74区Pit4 欠損	長幅 9.7 6.3	9.7 6.3	厚重 3.4 (408)	変玄武岩	やや大型品、刃部、基上端部打撃により丸みを有す。欠損後敲打具として再利用か。	
第112図 PL.99	519	礫石器 磨製石斧	74区V-12 欠損	長幅 (3.2) 3.8	(3.2) 3.8	厚重 1.2 (24)	変玄武岩	定角式の刃部片、表面の剥がれ、風化顕著。	
第112図 PL.99	520	礫石器 磨製石斧	74区R-7 欠損	長幅 (4.8) (5.8)	(4.8) (5.8)	厚重 (2.4) (68)	変玄武岩	刃部片、厚みを有す。定角式か。	
第112図 PL.99	521	礫石器 磨製石斧	1号埋瓶 欠損	長幅 (9.3) 5.5	(9.3) 5.5	厚重 3.0 (243)	変はんれい岩	定角式の基部片、比較的大型で側面の稜も明瞭である。破損後に敲打具として利用か。	
第112図 PL.99	522	礫石器 凹石	74区Q-6 完形	長幅 9.1 8.6	9.1 8.6	厚重 5.6 561	粗粒輝石安山岩	やや偏平な円礫の表裏面に1つずつの浅い凹み穴を有す。	
第112図 PL.99	523	礫石器 磨石	74区O-12 完形	長幅 10.2 8.2	10.2 8.2	厚重 4.7 516	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫、平坦な表裏面に浅い凹みを有す。	
第112図 PL.99	524	礫石器 磨石	74区N-19 完形	長幅 8.8 7.5	8.8 7.5	厚重 4.4 393	珩質変質岩	偏平な楕円礫、表面やや荒れた状況を呈す。	
第112図 PL.99	525	礫石器 凹石	74区Q-18 完形	長幅 10.3 9.5	10.3 9.5	厚重 6.4 825	粗粒輝石安山岩	やや偏平な円礫利用、両面に1つずつの凹み穴を有す。	
第113図 PL.99	526	礫石器 凹石	74区Q-13 完形	長幅 11.3 7.6	11.3 7.6	厚重 4.2 545	粗粒輝石安山岩	偏平な長円礫利用、表裏に2および3カ所の凹み穴有す。	
第113図 PL.99	527	礫石器 磨石	75区G-13 完形	長幅 9.9 6.1	9.9 6.1	厚重 5.0 418	粗粒輝石安山岩	俵型の礫利用、表面部分的に打痕有り。	
第113図 PL.99	528	礫石器 凹石	74区S-5 完形	長幅 11.4 7.8	11.4 7.8	厚重 3.8 427	粗粒輝石安山岩	偏平な長円礫利用、表裏に2個一対の浅い凹み穴が見られる。	
第113図 PL.99	529	礫石器 磨石	74区O-18 完形	長幅 9.9 10.2	9.9 10.2	厚重 3.7 557	粗粒輝石安山岩	偏平な礫を利用、平らな面を使用。	
第113図 PL.99	530	礫石器 凹石	75区F-12 完形	長幅 12.1 9.3	12.1 9.3	厚重 6.6 1025	粗粒輝石安山岩	やや大型の楕円礫利用、表面平滑。平坦部分に極浅い凹み有り。	
第113図 PL.99	531	礫石器 磨石	74区O-11 完形	長幅 7.4 7.0	7.4 7.0	厚重 1.9 146	変質安山岩	偏平な円礫、片面に凹み有り。	
第113図 PL.99	532	礫石器 磨石	74区N-19 完形	長幅 11.4 9.8	11.4 9.8	厚重 5.6 830	粗粒輝石安山岩	やや偏平な円礫利用、表裏に極浅い凹みが見られる。	
第114図 PL.99	533	礫石器 磨石	74区R-5 完形	長幅 13.1 10.0	13.1 10.0	厚重 6.3 1028	粗粒輝石安山岩	やや大きな長円形の礫を利用、やや平らな面に1カ所の浅い凹み穴をもつ。	
第114図 PL.99	534	礫石器 磨石	74区Q-9 完形	長幅 13.2 8.4	13.2 8.4	厚重 4.9 751	変質安山岩	偏平な楕円礫利用、表裏面に浅い凹み穴有す。	
第114図 PL.99	535	礫石器 凹石	74区N-18 完形	長幅 14.2 8.0	14.2 8.0	厚重 6.2 1040	粗粒輝石安山岩	偏平な長円礫、両面に1カ所ずつの不定形な凹みを持つが、ほぼ同位置に沿って側面にも凹み穴が連なる。	
第114図 PL.99	536	礫石器 凹石	74区R-15 完形	長幅 14.3 14.2	14.3 14.2	厚重 9.7 2800	粗粒輝石安山岩	やや偏平で、丸みを持った三角形を呈す礫の片面中央に、小穴が見られる。	
第115図 PL.100	537	礫石器 磨石	74区P-18 完形	長幅 10.3 11.7	10.3 11.7	厚重 3.2 744	粗粒輝石安山岩	偏平な不定形礫、平らな両面を使用。	
第115図 PL.100	538	礫石器 磨石	74区U-16 欠損	長幅 6.3 5.7	6.3 5.7	厚重 5.4 (128)	粗粒輝石安山岩	棒状を呈すか、丸みを持った端部片。黒色で発泡化顕著。	
第115図 PL.100	539	礫石器 磨石	21号溝 完形	長幅 6.1 4.5	6.1 4.5	厚重 3.8 144	粗粒輝石安山岩	卵形の小平礫、表面は平滑。	
第115図 PL.100	540	礫石器 磨石	75区O-19 完形	長幅 6.6 6.3	6.6 6.3	厚重 4.3 260	粗粒輝石安山岩	やや偏平な小平礫、表面平滑。	
第115図 PL.100	541	礫石器 磨石	74区Q-7 完形	長幅 6.8 6.6	6.8 6.6	厚重 4.6 294	ひん岩	拳大の円礫利用、やや平坦な面を主に使用か。	
第115図 PL.100	542	礫石器 磨石	11号住居 完形	長幅 6.9 6.9	6.9 6.9	厚重 5.6 366	粗粒輝石安山岩	拳大の円礫、顕著な使用痕は見られず。	
第115図 PL.100	543	礫石器 磨石	74区O-11 完形	長幅 7.2 5.8	7.2 5.8	厚重 4.5 262	珩質変質岩	卵大の礫、表面に剥離。	
第115図 PL.100	544	礫石器 磨石	74区P-8 完形	長幅 7.3 7.1	7.3 7.1	厚重 6.9 497	粗粒輝石安山岩	拳大の円礫利用、表面平滑。	

遺物観察表

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第116図 PL.100	545	礫石器 磨石	74区J-19 完形	長幅 8.0 6.4	厚 5.4 395	5.4 395	粗粒輝石安山岩	拳大の円礫、端部に打痕見られる。	
第116図 PL.100	546	礫石器 磨石	74区Q-15 完形	長幅 8.0 6.9	厚 6.2 428	6.2 428	粗粒輝石安山岩	拳大の円礫利用。	
第116図 PL.100	547	礫石器 磨石	74区N-18 完形	長幅 8.0 6.6	厚 5.1 371	5.1 371	変質安山岩	拳大の円礫利用、やや平坦な面を主に使用か。	
第116図 PL.100	548	礫石器 磨石	74区T-14 完形	長幅 8.7 8.0	厚 6.6 630	6.6 630	粗粒輝石安山岩	拳大の円礫、表面平滑。	
第116図 PL.100	549	礫石器 磨石	75区H-18 完形	長幅 7.3 6.9	厚 6.2 426	6.2 426	珪質変質岩	一部盛り上がり有す円礫、平坦部分を使用か。全面に鉄分沈着。	
第116図 PL.100	550	礫石器 磨石	74区T-16 欠損	長幅 10.4 6.0	厚 4.0 (374)	4.0 (374)	変質安山岩	やや偏平な長円礫、端部に打撃による剥離痕か。	
第116図 PL.100	551	礫石器 磨石	74区Q-7 完形	長幅 10.0 8.0	厚 4.6 541	4.6 541	粗粒輝石安山岩	偏平な長円礫利用、表裏の平坦面側を使用。	
第116図 PL.100	552	礫石器 磨石	74区R-14 完形	長幅 9.4 7.7	厚 6.8 713	6.8 713	変質安山岩	拳大の円礫利用、表面平滑。	
第116図 PL.100	553	礫石器 磨石	74区T-14 完形	長幅 10.1 8.1	厚 4.9 595	4.9 595	粗粒輝石安山岩	やや偏平な楕円礫、表面平滑。	
第117図 PL.100	554	礫石器 磨石	74区P-19 完形	長幅 9.7 8.5	厚 6.0 711	6.0 711	粗粒輝石安山岩	拳大の礫、表面平滑。	
第117図 PL.100	555	礫石器 磨石	75区F-10 完形	長幅 10.6 8.0	厚 3.2 397	3.2 397	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫利用、平坦な表裏面使用。	
第117図 PL.100	556	礫石器 磨石	21号溝 完形	長幅 10.6 9.2	厚 6.2 874	6.2 874	粗粒輝石安山岩	やや偏平な拳大の円礫、全面使用。	
第117図 PL.100	557	礫石器 磨石	75区H-18 完形	長幅 10.0 8.8	厚 7.8 975	7.8 975	粗粒輝石安山岩	拳大の円礫、全面使用。	
第117図 PL.100	558	礫石器 磨石	74区O-18 完形	長幅 11.4 8.1	厚 3.1 409	3.1 409	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫、平坦面使用か、端部に打痕、表面に鉄分沈着。	
第117図 PL.100	559	礫石器 磨石	74区P-6 完形	長幅 11.0 8.4	厚 7.0 870	7.0 870	粗粒輝石安山岩	拳大の礫、表面平滑。端部に打痕見られ、表面に鉄分の沈着顕著。	
第117図 PL.100	560	礫石器 磨石	11号住居 完形	長幅 11.0 9.1	厚 4.6 685	4.6 685	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫、平らな両面を使用、被熱。	
第118図 PL.100	561	礫石器 磨石	74区O-11 完形	長幅 11.6 9.0	厚 4.9 756	4.9 756	粗粒輝石安山岩	偏平な楕円礫、端部に打痕見られ、被熱。	
第118図 PL.100	562	礫石器 磨石	64区K-25 完形	長幅 12.9 7.1	厚 3.8 508	3.8 508	細粒輝石安山岩	偏平な小判形の礫利用、平らな両面使用。	
第118図 PL.100	563	礫石器 磨石	74区O-17 完形	長幅 11.8 10.0	厚 6.3 1156	6.3 1156	粗粒輝石安山岩	やや偏平な楕円礫、平坦な両面使用か。	
第118図 PL.100	564	礫石器 磨石	74区S-15 完形	長幅 10.7 10.1	厚 5.8 876	5.8 876	粗粒輝石安山岩	やや偏平な円礫利用、平らな両面使用か。	
第118図 PL.100	565	礫石器 磨石	74区Q-14 完形	長幅 11.1 11.5	厚 3.8 846	3.8 846	粗粒輝石安山岩	偏平な円礫、表裏平らな面を使用。	
第119図 PL.100	566	礫石器 磨石	74区T-14 完形	長幅 11.6 8.3	厚 5.0 720	5.0 720	変質安山岩	偏平な楕円礫、平らな面を主に使用か、表面平滑。	
第119図 PL.100	567	礫石器 磨石	74区P-6 完形	長幅 12.4 8.3	厚 5.0 706	5.0 706	粗粒輝石安山岩	やや偏平な楕円礫、表裏面に打痕見られる。	
第119図 PL.100	568	礫石器 磨石	74区P-13 完形	長幅 11.9 10.0	厚 6.1 1051	6.1 1051	粗粒輝石安山岩	やや偏平な楕円礫利用、平らな面を使用か。	
第119図 PL.101	569	礫石器 磨石	74区P-15 完形	長幅 12.5 (9.8)	厚 6.8 1060	6.8 1060	石英閃緑岩	やや偏平な楕円礫利用、被熱により表面の剥落顕著。	
第120図 PL.101	570	礫石器 磨石	74区P-4 完形	長幅 12.4 11.3	厚 5.6 994	5.6 994	粗粒輝石安山岩	やや偏平な円礫利用、平らな両面使用か。	
第120図 PL.101	571	礫石器 磨石	74区R-10 完形	長幅 12.1 10.3	厚 9.9 1800	9.9 1800	粗粒輝石安山岩	ソフトボール大の円礫、被熱し煤の付着有り。	
第120図 PL.101	572	礫石器 磨石	74区T-12 完形	長幅 12.4 9.4	厚 5.8 957	5.8 957	粗粒輝石安山岩	やや偏平な楕円礫利用。	
第120図 PL.101	573	礫石器 磨石	74区S-14 完形	長幅 12.3 11.0	厚 4.6 921	4.6 921	粗粒輝石安山岩	偏平な円礫利用、平らな両面使用か。	
第121図 PL.101	574	礫石器 磨石	75区O-19 完形	長幅 14.5 6.9	厚 5.2 798	5.2 798	粗粒輝石安山岩	棒状礫利用、目だった使用痕は見られず。	
第121図 PL.101	575	礫石器 磨石	21号溝 完形	長幅 13.4 10.6	厚 5.4 1188	5.4 1188	粗粒輝石安山岩	偏平でやや大型の楕円礫利用、表面平滑。	
第121図 PL.101	576	礫石器 磨石	21号溝 完形	長幅 12.7 11.4	厚 7.6 1212	7.6 1212	粗粒輝石安山岩	偏平でやや大型の楕円礫利用、側縁に打痕有り。	
第121図 PL.101	577	礫石器 磨石	74区S-16 完形	長幅 13.9 8.3	厚 7.6 1311	7.6 1311	石英閃緑岩	俵形の礫を利用、やや平坦な面を使用か。	
第122図 PL.101	578	礫石器 磨石	64区N-24 欠損	長幅 15.1 (7.3)	厚 (4.3) (656)	4.3 (656)	変質安山岩	やや偏平な長円礫利用、表裏面使用面とし、打痕が看取される。	
第122図 PL.101	579	礫石器 磨石	21号溝 完形	長幅 15.4 9.0	厚 5.7 1161	5.7 1161	粗粒輝石安山岩	偏平でやや大型の楕円礫利用、表面平滑。	
第122図 PL.101	580	礫石器 磨石	74区O-18 完形	長幅 16.9 8.3	厚 6.5 1254	6.5 1254	粗粒輝石安山岩	大きめの長円礫、表面比較的平滑。	
第122図 PL.101	581	礫石器 磨石	74区O-13 完形	長幅 15.8 12.4	厚 4.7 1361	4.7 1361	粗粒輝石安山岩	やや大きな偏平礫利用、平坦な両面は平滑。	

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第123図 PL.101	582	礫石器 磨石	73区R-12、OS16 畑 欠損	長 幅	(9.0) (6.8)	厚 重	5.2 (449)	粗粒輝石安山岩	棒状礫の欠損端部、表面に敲打による凹み見られ、欠損面も敲打面として使用か。
第123図 PL.101	583	礫石器 磨石	75区21号溝 欠損	長 幅	(11.8) 8.1	厚 重	5.9 (774)	石英閃緑岩	楕円礫、上面に打痕有り。
第123図 PL.101	584	礫石器 磨石	74区S-14 欠損	長 幅	(6.2) 10.6	厚 重	(5.8) (472)	粗粒輝石安山岩	やや偏平な円礫、半分を欠く。
第123図 PL.101	585	礫石器 磨石	75区0-15 欠損	長 幅	(12.5) 9.3	厚 重	4.5 (607)	変質安山岩	偏平な楕円礫利用、平坦な表裏面使用。
第123図 PL.101	586	礫石器 磨石	74区P-18 完形	長 幅	6.2 4.6	厚 重	2.5 75	粗粒輝石安山岩	小振りの偏平楕円礫、片面が凹む。
第123図 PL.101	587	礫石器 敲石	75区C-21 完形	長 幅	13.9 6.5	厚 重	5.3 586	粗粒輝石安山岩	三角錐状の礫、下端面を打面とする。被熱か。
第123図 PL.101	588	礫石器 台石	74区Q-17 完形	長 幅	17.2 13.1	厚 重	5.0 1880	変質安山岩	偏平で四角形を呈す、両面使用しているものと思われるが、片面には僅かな凹みが見られる。
第124図 PL.101	589	礫石器 多孔石	74区U-16 完形	長 幅	16.8 15.4	厚 重	10.0 3280	粗粒輝石安山岩	鞍型の礫利用し、上面に数個の凹み穴を穿つ。
第124図 PL.102	590	礫石器 石皿	74区N-19 欠損	長 幅	(17.2) (7.5)	厚 重	9.5 (1562)	粗粒輝石安山岩	石皿小片、厚みがあり、使用面は浅く凹む。
第124図 PL.102	591	礫石器 石皿	75区F-21 欠損	長 幅	(15.3) (12.0)	厚 重	5.6 (1170)	粗粒輝石安山岩	石皿片、使用面は深く凹む。裏面には凹み穴見られる。
第124図 PL.102	592	礫石器 石棒	74区P-18 欠損	長 幅	(9.7) (3.3)	厚 重	(1.1) (56)	緑色片岩	表面丁寧に研磨されている、被熱しひび割れ見られる。
第124図 PL.102	593	礫石器 石棒	74区R-14 欠損	長 幅	(7.0) (3.9)	厚 重	(1.2) (43)	緑色片岩	断面紡錘状を呈す、表面丁寧に研磨。被熱によるひび割れ。
第124図 PL.102	594	礫石器 石棒	1号暗渠 欠損	長 幅	(6.4) (5.7)	厚 重	(2.9) (145)	雲母石英片岩	大型石棒の小破片か。
第124図 PL.102	595	礫石器 石棒	74区0-14 欠損	長 幅	10.8 11.1	厚 重	6.1 (987)	デイサイト	高さ数センチの円柱状、欠損面は再調整され面取りなどが施されている。再利用品か。
第124図 PL.102	596	礫石器 石棒	75区S-8 完形	長 幅	27.2 10.4	厚 重	7.8 3720	粗粒輝石安山岩	大型で棒状を呈す、平坦な側面には使用痕見られ、先端部に打痕。
第125図 PL.102	597	礫石器 石棒	75区C-16 完形	長 幅	39.4 11.8	厚 重	8.3 6900	粗粒輝石安山岩	大型で棒状を呈す、平坦な側面には使用痕見られる。
第125図 PL.102	598	軽石製品	74区0-12 欠損	長 幅	3.0 2.9	厚 重	1.4 (3)	軽石	内側にカーブを持ち、片側が薄く成形される。
第125図 PL.102	599	軽石製品	74区0-20 欠損	長 幅	4.2 3.2	厚 重	2.0 (9)	軽石	ほぼ直方体を呈す、研磨成形。
第125図 PL.102	600	軽石製品	74区0-19 完形	長 幅	4.5 4.0	厚 重	2.1 13	軽石	円形で片面に凹みを持つ。研磨成形。
第125図 PL.102	601	軽石製品	74区0-13 完形	長 幅	6.3 4.2	厚 重	2.4 19	軽石	不定形で各面研磨されている。砥石か。
第125図 PL.102	602	軽石製品	74区0-15 完形	長 幅	6.9 5.4	厚 重	3.2 45	軽石	やや偏平で卵大の大きさ、表面を研磨している。
第125図 PL.102	603	块状耳飾 装身具	74区P-14 欠損	長 幅	(2.6) (1.7)	厚 重	0.6 (5)	蛇紋岩	円形で、裏面は平ら、2分の1以上欠損。

表5 遺構計測表
住居

番号	区	位置	形状	規模(cm)	主軸方位	炉	柱穴	床面	出土遺物	時期	調査年度	備考
3	75	G・H-15・16	楕円	485×382×17	N-5°-E	石囲い炉	11			縄文	平21・22	ピット11
4	75	C・D-9・10	円か	(512)×(478)×-	N-118°-W	炉	不明			縄文	平21・22	
5	75	E・F-12	柄鏡形	415×285×17	N-82°-W	炉	8			縄文	平21・22	ピット8
6	75	F・G-12・13	柄鏡形	662×(350)×37	N-148°-W	石囲い炉	7	敷石(部分)	埋裏3、立石	縄文	平22	(ピット7)対ピット
8	74	V-6~8、 W-6・7	柄鏡形	(650)×(497)×-	N-163°-W	石囲い炉	9	敷石(部分)		縄文	平22	ピット9

焼土

番号	区	位置	形状	規模(cm) 長軸×短軸	主軸方位	特徴	出土遺物	時期	調査年	備考
2	75	I-17	長円形	67×47	N-45°-W	周囲に礫が廻る		縄文	平21	同一遺構
4	63	P-16	長円形	51×31	N-62°-W	焼土粒、炭化物点在		縄文か	平20	
5	75	F・G-13	長円形	64×52	N-28°-E	礫が点在、下部に浅い掘り込み		縄文	平21	旧3号焼土
6	74	R-14	不定形	82×55	N-6°-W	焼土粒、炭化物点在		縄文か	平22	旧R-14焼土
9	74	U-5・6	不定円形	59×58	N-0°	やや汚れた焼土広がる、下部に土坑		縄文	平22	348号土坑と重複
10	74	U-5・6	楕円形	67×51	N-64°-W	やや汚れた焼土の広がり		縄文	平22	

土坑

番号	区	位置	形状	規模(cm) 長径×短径×深さ	主軸方位	出土遺物	時期	調査年度	備考
4	64	I-24・25	長円形	70×53×16	N-14°-W		縄文	平20	
5	64	E・F-24	不定形	120×89×34			縄文	平20	

遺構計測表

番号	区	位置	形状	規模(cm) 長径×短径×深さ	主軸方位	出土遺物	時期	調査年度	備考
6	64	K・L-24	円形	33×30×10			縄文	平20	
7	64	F-25	円形	38×36×11			縄文	平20	
8	64	I-23	円形	33×28×18			縄文	平20	
9	64	L-25	円形	37×32×12			縄文	平20	
10	64	N-23	円形	78×75×12			縄文	平20	
11	64	E-25	長円形	54×36×13	N-60° -E		縄文	平20	
12	64	N-21	円形	45×41×17			縄文	平20	
17	75	E-17	円形	75×64×12			縄文	平20	
18	75	E-16	長円形	49×39×10	N-20° -W		縄文	平20	
19	75	E-15	長円形	58×43×18	N-39° -W		縄文	平20	
20	75	E-15	長円形	39×31×33			縄文	平20	
21	75	E-15	円形	47×46×28			縄文	平20	
22	75	E-15	円形	61×43×33			縄文	平20	
23	75	E-15	長円形	41×30×25	N-21° -W		縄文	平20	
24	75	E-15	円形	32×28×19			縄文	平20	
25	75	E-15	円形	37×35×38			縄文	平20	
26	75	D-15	円形	37×33×36			縄文	平20	
27	75	D-15	円形	50×48×9		土器	縄文	平20	
29	75	E-15	隅丸方形	40×36×30			縄文	平20	
30	75	E-16	不定形	55×38×10			縄文	平20	
31	75	D-15	長円形	63×34×19	N-64° -W		縄文	平20	
37	75	E-17	円形	30×27×9			縄文	平20	
38	75	E-16	長円形	39×28×11	N-70° -E		縄文	平20	
39	75	E-15	円形	27×24×23			縄文	平20	
40	75	E-15	円形か	122×(42)×29		礫	縄文	平20	
41	75	D-15	長円形	67×45×12	N-89° -E	土器	縄文	平20	
42	75	D-15	長円形	(50)×35×15	N-17° -E		縄文	平20	75区Pit8と重複
43	75	C-15	長円形	56×50×19		礫	縄文	平20	
44	75	B・C-12・13	円形	75×70×22		土器、石器	縄文	平20	
45	75	E-15	長円形	28×22×12			縄文	平20	
46	75	D・E-14	円形	39×36×11			縄文	平20	
47	75	E-14	長円形	43×29×8	N-41° -E		縄文	平20	
48	75	E-14	円形	44×40×30			縄文	平20	
49	75	F-17・18	不定形	75×41×15			縄文	平20	
50	75	F-18	不定形	44×33×20			縄文	平20	
51	75	F-18	不定形	(40)×37×29			縄文	平20	54号土坑と重複
52	75	F-18	不定形	57×33×18			縄文	平20	
53	75	F-18	円形	130×120×20			縄文	平20	
54	75	F-18	不定形	36×33×17			縄文	平20	51号土坑と重複
55	75	C-15	長円形	98×63×31	N-13° -E		縄文	平20	
56	75	C-17	不定形	58×49×21			縄文	平20	
57	75	C-17	円形	46×45×20			縄文	平20	
58	75	D-15	長円形	52×44×15	N-0°		縄文	平20	
60	75	C-15・16	円形	49×43×38			縄文	平20	
61	75	C-15・16	円形	57×48×28			縄文	平20	
63	75	B-17	円形	56×51×7			縄文	平20	
64	75	C-18	長円形	84×66×17	N-65° -E		縄文	平20	71号土坑と重複
65	75	D-18	円形	95×94×35			縄文	平20	
66	75	D-18	円形	53×50×17			縄文	平20	
67	75	D-18	円形	64×52×15			縄文	平20	
68	75	E-18	円形	57×50×13			縄文	平20	
69	75	E-17・18	不定形	141×92×20			縄文	平20	
70	75	E-17・18	長円形	127×75×20	N-31° -E		縄文	平20	
71	75	C-18	円形	45×(20)×12			縄文	平20	64号土坑と重複
72	75	B-18	円形	43×34×20			縄文	平20	
73	75	B-18	長円形	40×35×12	N-9° -W		縄文	平20	
76	75	B-13	円形	45×(27)×12			縄文	平20	2号住居と重複
77	75	E-18	不定形	169×126×36			縄文	平20	
78	75	F-20	円形	45×41×26		礫	縄文	平20	礫が廻る
79	75	C-18・19	不定形	161×100×54			縄文	平20	
80	75	C-17	長円形	65×54×14	N-12° -W		縄文	平20	
81	75	D-17	円形	50×47×16			縄文	平20	82号土坑と重複
82	75	D-17	円形	40×(31)×13			縄文	平20	81号土坑と重複
84	75	D-19	長円形	106×68×14	N-82° -W		縄文	平20	
85	75	C-20	円形	53×45×23			縄文	平20	
87	63	M-20	円形	41×39×16			縄文	平20	
88	63	M-19	長円形	65×41×26	N-85° -E		縄文	平20	
89	63	O-19・20	長円形	59×44×16	N-58° -E		縄文	平20	

番号	区	位置	形状	規模(cm)		主軸方位	出土遺物	時期	調査年度	備考
				長径×短径×深さ						
90	63	P-19	長円形	40×23×12		N-89°-E		縄文	平20	
91	63	Q-19	長円形	82×73×14		N-15°-W		縄文	平20	
92	63	P-17	円形	113×99×18				縄文	平20	
93	63	N・O-17	長円形	72×53×17		N-32°-E		縄文	平20	
94	63	N-17	円形	37×35×15				縄文	平20	
95	63	M・N-17	長円形	106×86×13		N-3°-W		縄文	平20	
96	63	L-18	円形	75×65×10				縄文	平20	
97	63	N-17	長円形	41×28×7		N-76°-W		縄文	平20	
98	63	N・O-17	円形	43×40×10				縄文	平20	
99	63	O-17	円形	47×41×10				縄文	平20	
100	63	N・O-16	長円形	111×83×16		N-70°-E		縄文	平20	
101	63	M-15	長円形	67×56×16		N-44°-E		縄文	平20	
102	63	M-15	長円形	140×99×16		N-67°-E		縄文	平20	
103	63	M-14・15	不定形	58×39×7				縄文	平20	
104	63	M-14・15	不定形	101×85×11				縄文	平20	
105	63	L・M-15	長円形	121×86×11		N-89°-W		縄文	平20	
106	63	O-14	不定形	225×1107×19				縄文	平20	
107	63	O-14	不定形	33×25×12				縄文	平20	
108	63	O・P-14・15	円形	67×58×17				縄文	平20	
109	63	Q-15	長円形	68×33×15		N-26°-E		縄文	平20	
110	63	N-12	長円形	72×48×13		N-71°-E		縄文	平20	
111	63	O・P-12	不定形	70×54×10				縄文	平20	
112	63	M-12	不定形	69×54×9				縄文	平20	
113	63	M-11	不定形	80×50×12				縄文	平20	
114	63	L-11	不定形	111×75×5				縄文	平20	
115	63	M-10・11	円形	28×27×24				縄文	平20	
116	63	R・S-15・16	長方形	249×88×49		N-22°-W		縄文	平20	117号土坑と重複
117	63	S-15・16	長円形	(188)×(160)×46		N-75°-W		縄文	平20	116号土坑と重複
119	63	Q-17	円形	29×28×17				縄文	平20	
120	63	Q・R-16	円形	81×70×18				縄文	平20	
122	63	R-16	円形	65×60×15				縄文	平20	
123	63	Q-16	長円形	109×65×16		N-75°-E		縄文	平20	
124	63	Q-15・16	隅丸方形	47×41×20				縄文	平20	
125	63	O-17	円形	65×60×26				縄文	平20	
126	63	Q-15	長円形	128×85×28		N-32°-E		縄文	平20	
127	63	R-16	長円形	115×79×28		N-24°-W		縄文	平20	
128	63	R-15	円形	87×86×21				縄文	平20	
129	63	R-16	長円形	43×31×18		N-83°-E		縄文	平20	
130	63	N-18	長円形	75×45×9		N-20°-E		縄文	平20	
131	63	S-16・17	長円形	49×37×16		N-4°-W		縄文	平20	
132	63	P-17	円形	27×27×15				縄文	平20	
133	63	S-16	長円形	57×45×11		N-8°-W		縄文	平20	
134	63	Q-15	不定形	37×31×10				縄文	平20	
135	63	S-15	長円形	61×32×14		N-12°-E		縄文	平20	
139	74	P-1	円形	36×33×10				縄文	平21	
140	74	P-1	円形	50×45×19				縄文	平21	
141	64・74	64P・Q-25、74P・Q-1	長円形	101×84×21		N-90°-E		縄文	平21	
142	74	Q-1	円形	57×53×10				縄文	平21	
143	74	Q-25	円形	52×44×19				縄文	平21	
144	74	P-2・3	不定形	94×74×17				縄文	平21	
145	74	P-2・3	円形	70×65×25				縄文	平21	
146	74	Q-2	円形	36×36×22				縄文	平21	
147	74	Q-1・2	不定形	45×36×7				縄文	平21	
148	74	Q-1	円形	38×33×8				縄文	平21	
149	74	R-2	長円形	73×60×16		N-15°-W		縄文	平21	152号土坑と重複
150	74	P-3	円形	40×36×11				縄文	平21	
151	74	R-2	長円形	83×54×16		N-14°-W		縄文	平21	
152	74	R-2	円形	35×(25)×10				縄文	平21	149号土坑と重複
153	74	R-2	円形	30×28×19				縄文	平21	
155	74	R-1	円形	46×44×21				縄文	平21	
157	64	R-25	長円形	(94)×85×25		N-80°-W		縄文	平21	158号土坑と重複
158	64	Q・R-25	長円形	93×74×23		N-80°-W		縄文	平21	157号土坑と重複
159	64	P・Q-25	円形	74×56×25				縄文	平21	
160	64	P-25	長円形	119×88×27		N-7°-E		縄文	平21	
161	74	R-1	円形	88×80×16				縄文	平21	
162	64	S-24	円形	95×85×19				縄文	平21	
163	64	R・S-24	円形	101×94×26				縄文	平21	
164	64	R-24	長円形	64×50×11		N-80°-E		縄文	平21	

遺構計測表

番号	区	位置	形状	規模(cm) 長径×短径×深さ	主軸方位	出土遺物	時期	調査年度	備考
165	64	Q-24	円形	58×47×22			縄文	平21	
166	64	R-24	長円形	74×54×6	N-70°-W		縄文	平21	
167	64	R-24・25	不定形	143×75×16			縄文	平21	
168	74	P-2	円形	44×35×7			縄文	平21	169号土坑と重複
169	74	P-2	円形	29×27×9			縄文	平21	168号土坑と重複
170	74	R-1・2	円形	67×66×17			縄文	平21	
171	64	S-24	長円形	47×38×18	N-15°-W		縄文	平21	
172	74	P-2	円形	40×37×11			縄文	平21	
173	64・74	64R-25、74R-1	円形	35×34×16			縄文	平21	
174	64	S-24	円形	33×28×9			縄文	平21	
175	74	P-2	長円形	78×66×18	N-75°-E		縄文	平21	
176	74	P-2	長円形	47×41×63	N-85°-E		縄文	平21	
177	74	P-1	長円形	48×33×15	N-63°-E		縄文	平21	
178	74	Q-1	長円形	75×57×15	N-40°-E		縄文	平21	
179	64・74	64O・P-25、74O・P-1	円形	83×79×23			縄文	平21	
180	64	P-25	長円形	73×57×19	N-15°-E		縄文	平21	
181	74	R-2・3	長円形	74×52×36	N-75°-E		縄文	平21	
182	74	R・S-2	円形	91×70×14			縄文	平21	
183	74	R-2	長円形	134×102×32	N-45°-W	土器	縄文	平21	
184	74	Q・R-1	不定形	(84)×57×15			縄文	平21	185号土坑と重複
185	74	R-1	不定形	138×81×29			縄文	平21	184・192号土坑と重複
186	64	R-25	長円形	51×38×19	N-18°-W		縄文	平21	
187	64	R・S-24	長円形	71×40×10	N-75°-W		縄文	平21	
188	74	R・S-1・2	長円形	152×93×24	N-48°-W		縄文	平21	
189	74	R・S-2	円形	48×42×22			縄文	平21	
190	74	P-2	長円形	79×52×10	N-84°-E		縄文	平21	
192	74	R-1	円形	60×(34)×20			縄文	平21	185号土坑と重複
193	74	Q-2・3	円形	52×44×9			縄文	平21	
194	64	S-24・25	長円形	64×49×10	N-26°-E		縄文	平21	
195	64	S-25	長円形	81×61×19	N-70°-E		縄文	平21	
196	64	R-25	長円形	45×34×19	N-30°-E		縄文	平21	
197	64	Q・R-25	円形	62×58×12			縄文	平21	
198	64	Q-25	長円形	52×44×17	N-28°-W		縄文	平21	
199	64	Q-24	長円形	50×40×12	N-4°-W		縄文	平21	
200	74	P-1	円形	35×33×16			縄文	平21	
201	74	P-1	長円形	53×35×15	N-0°		縄文	平21	204号土坑と重複
202	64	P-25	円形	31×30×14			縄文	平21	
203	74	P-1	円形	39×35×12			縄文	平21	
204	74	P-1	長円形	(33)×28×11	N-60°-E		縄文	平21	201号土坑と重複
205	74	P-1	円形	49×47×17			縄文	平21	
207	74	P-1	円形	43×38×21			縄文	平21	
208	72	Q-19	円形	57×43×14			縄文	平21	
209	72	P-19	円形	43×41×17			縄文	平21	
210	72	Q-20	円形	128×128×23			縄文	平21	
211	72	R-20	長円形	88×63×31	N-34°-E		縄文	平21	
212	72	Q-20	円形	60×52×17			縄文	平21	
213	72	Q-20	円形	85×82×30			縄文	平21	
214	72	Q-21	長円形	102×73×40	N-15°-W		縄文	平21	
218	72	R-21・22	円形	75×63×47			縄文	平21	
219	72	Q-22	円形	100×88×47			縄文	平21	
220	72	P-21	円形	80×70×21			縄文	平21	
221	72	P-21	長円形	151×120×37	N-67°-W	土器	縄文	平21	
222	72	P-20	長円形	92×72×9	N-50°-W		縄文	平21	
223	72	P-21	円形	60×51×32		土器	縄文	平21	
226	72	P-21	長円形	51×36×18	N-68°-E		縄文	平21	
228	72	P・Q-22・23	円形	119×114×35			縄文	平21	
230	72	R-22	長円形	87×71×35	N-68°-E		縄文	平21	
232	72	R-22	円形	76×76×43			縄文	平21	
237	72	R-25	円形	53×45×13			縄文	平21	
239	82	T-1	円形	54×53×20			縄文	平21	
245	72	R-25	長円形	79×52×14	N-78°-E	土器	縄文	平21	
247	72	T・U-18	(長円形)	198×68×47	N-90°-E		縄文	平21	
248	72	T-18	長円形	93×74×15	N-44°-E		縄文	平21	
249	72	T-19	円形	84×75×19			縄文	平21	
250	72	U-20・21	不定形	183×110×18			縄文	平21	
251	72	U-21	不定形	98×57×15			縄文	平21	
252	72	S-20	長円形	179×115×104	N-27°-E		縄文	平21	
253	72	S-19	円形	42×38×12			縄文	平21	

番号	区	位置	形状	規模(cm) 長径×短径×深さ	主軸方位	出土遺物	時期	調査年度	備考
254	72	S-19	長円形	62×39×7	N-25°-W		縄文	平21	
255	72	R-21	長円形	75×61×28	N-35°-W		縄文	平21	
256	72	R-21	長円形	94×71×17	N-30°-E		縄文	平21	
257	72	S-21	円形	38×36×14			縄文	平21	
258	72	R-21	円形	113×97×15			縄文	平21	
259	72	Q-20	長円形	86×63×19	N-47°-W		縄文	平21	
260	72	P-20	長円形	108×78×43	N-37°-W		縄文	平21	
261	72	P-22	円形	73×69×22			縄文	平21	
262	72	O-21	円形	87×76×43			縄文	平21	
263	72	R-22・23	不定形	153×136×21			縄文	平21	
264	72	Q・R-22	円形	142×130×26			縄文	平21	
265	72	R-23・24	円形	92×88×12		礫	縄文	平21	
266	72	Q・R-23・24	長円形	228×156×27	N-17°-E		縄文	平21	
267	72	Q-23	円形	49×48×16			縄文	平21	
268	72	R・S-23	長方形	122×68×26	N-40°-E		縄文	平21	
269	72	S・T-21	長円形	150×97×7	N-72°-E		縄文	平21	
270	72	Q-23	円形	40×38×12			縄文	平21	
271	72	U-24	長円形	231×152×30	N-75°-E		縄文	平21	
272	72	T-24	長円形	80×62×16	N-60°-W		縄文	平21	273号土坑と重複
273	72	T-24	長円形	84×60×22	N-90°-E		縄文	平21	272号土坑と重複
274	72	P-24・25	長円形	112×74×14	N-75°-E	土器	縄文	平21	
275	72	O-22	円形	52×50×28			縄文	平21	
276	72	O-22・23	長円形	100×75×29	N-42°-W		縄文	平21	
277	72	O-23	長円形	55×47×18	N-50°-W		縄文	平21	
278	72	O-23	長円形	83×60×42	N-90°-E		縄文	平21	
279	72	O-24	長円形	133×64×22	N-55°-W		縄文	平21	
280	72	N・O-24	円形	92×86×28			縄文	平21	
281	72	N-24・25	円形	59×56×20			縄文	平21	
282	72	O・P-25	長円形	67×47×15	N-72°-E		縄文	平21	
283	72	P-25	円形	72×64×22			縄文	平21	286号土坑と重複
284	72・82	720・P-25、820・P-1	長円形	81×69×17			縄文	平21	
285	82	P-1	円形	84×70×13			縄文	平21	
286	72	P-25	長円形	58×49×32	N-50°-W		縄文	平21	283号土坑と重複
287	86	D-6	長円形	38×30×6	N-49°-E		縄文	平21	
288	86	D-6	円形	63×55×13			縄文	平21	
289	86	D-6	長円形	47×35×12	N-72°-W		縄文	平21	
290	86	D-5	円形	36×33×10			縄文	平21	
291	86	D-5	円形	37×34×7			縄文	平21	
292	86	D-6	円形	38×33×11			縄文	平21	
293	86	D-5	長円形	38×32×4	N-82°-E		縄文	平21	
294	75	D-3	長円形	256×83×41	N-87°-W	土器	縄文	平21	
295	75	A-1	円形	50×49×44		土器	縄文	平21	
296	75	C-2	円形	32×36×11		土器	縄文	平21	
297	65	A-25	円形	45×40×9		土器	縄文	平21	
298	65	A-25	長円形	60×40×18	N-38°-E	土器	縄文	平21	
299	64	Y-25	長円形	101×77×19	N-86°-W	土器	縄文	平21	
300	64	X・Y-25	長円形	48×35×19	N-80°-W	土器	縄文	平21	
301	65・75	65B-25・75B-1	円形	111×93×14		土器	縄文	平21	
302	65	B-24・25	円形	107×105×18		土器	縄文	平21	
303	75	B-1・2	円形	105×97×24		土器	縄文	平21	
304	75	D-5	円形	36×28×14		土器	縄文	平21	
305	75	H-17	長円形	105×51×25	N-17°-W	土器	縄文	平21	
306	75	D・E-12・13	長円形	106×89×14	N-66°-W	礫集中	縄文	平21	
307	75	4号列石					縄文	平21	列石扱い
308	75	4号列石					縄文	平21	列石扱い
309	75	F・G-14	円形	108×96×10		集石	縄文	平21・22	
310	75	H-16・17	長円形	170×120×56	N-0°	土器	縄文	平21	
311	75	D-7	円形	61×57×38		土器	縄文	平21	
312	75	E-8・9	長円形	206×97×68	N-10°-E	土器、礫	縄文	平21	
314	75	G-14	円形	141×128×28		集石	縄文	平22	
316	75	C・H-14	円形	150×146×85		土器、集石	縄文	平22	314号土坑の下位に検出
317	75	F-10・11	長円形	133×92×38	N-74°-W	土器	縄文	平22	
318	75	E-10	円形	142×130×48		土器、石器	縄文	平22	石鏃
319	75	E-10	不定形	93×80×49		土器	縄文	平22	
320	75	E・F-10	不定形	116×(87)×52		土器	縄文	平22	318号土坑と重複
321	75	E-10	円形	47×(43)×41			縄文	平22	
322	75	E-12・13	(長円形)	109×81×22	N-5°-E		縄文	平22	
323	75	E-12・13	円形	83×79×32			縄文	平22	

遺構計測表

番号	区	位置	形状	規模(cm) 長径×短径×深さ	主軸方位	出土遺物	時期	調査年度	備考
324	75	D・E-13	(長円形)	131×(42)×31	N-26°-W	土器	縄文	平22	
325	75	E-13	円形	91×86×45			縄文	平22	
326	75	F-14	長円形	101×54×40	N-35°-W		縄文	平22	
327	75	E・F-11	長円形	115×87×12	N-20°-W	土器	縄文	平22	
328	75	F-11	不定形	76×(50)×18			縄文	平22	
329	75	E-14	(長円形)	123×83×42	N-31°-E		縄文	平22	
330	75	Q-21	円形	132×106×18		集石	縄文	平22	
331	75	R-21	円形	93×76×13			縄文	平22	
337	75	F-11・12	円形	97×92×20		土器	縄文	平22	
339	74	T-5	長円形	130×96×31	N-5°-E	土器	縄文	平22	
343	74	V-5	長円形	82×(42)×16	N-75°-W	土器	縄文	平22	
344	74	U・V-5	円形	140×130×62		土器、石器、礫	縄文	平22	多孔石、磨石
347	74	R-9・10	円形	100×98×30		石器、礫、土器	縄文	平22	石皿、多孔石
348	74	U-5・6	長円形	240×187×37	N-0°	土器、石器、	縄文	平22	磨石 上部に9号焼土
349	74	W-13	円形	167×163×43			縄文	平22	
351	74	W-11	長円形	67×53×58	N-76°-E	石器	縄文	平22	磨石
353	74	S・T-12	長円形	143×110×67	N-23°-W	配石、土器	縄文	平22	台石
355	74	S-4	円形	64×58×34			縄文	平22	
357	74	T-6	円形	177×170×33			縄文	平22	下面に礫
358	74	S-4	円形	126×108×44		土器、礫	縄文	平22	
359	74	V-11	長円形	58×40×14	N-80°-E	石器	縄文	平22	磨製石斧
366	74	Q-14・15	円形	73×70×47		土器	縄文	平22	369号土坑と重複
369	74	Q-14・15	長円形	82×(52)×46	N-73°-E	土器	縄文	平22	366号土坑と重複
370	74	S-13	長円形	80×52×24	N-72°-E		縄文	平22	
371	74	O・P-11	長円形	362×258×32	N-80°-W	土器、石器	縄文	平22	石鏃、大型土坑
372	74	T-16	長円形	69×57×50	N-70°-W		縄文	平22	
374	74	V-15	長円形	15×(70)×15	N-13°-W		縄文	平22	11号住居、361号土坑と重複
375	74	T-16・17	長円形	92×75×50	N-70°-E		縄文	平22	

埋甕

番号	区	位置	形状	規模(cm)	主軸方位	特徴	時期	調査年度	備考
1	75	C-19				胴下半部が割れた状態で検出	縄文	平20	
2	75	A-19				胴から底部	縄文	平20	風化顕著
3	75	B・C-18				正位、逆位の2個体、合わせ口	縄文	平20	礫混入
4	75	D-19				逆位で口縁部が僅かに残る	縄文	平20	
5	75	B-20				胴底部、蓋石状の角礫が載る	縄文	平20	
6	75	D-19				破片	縄文	平20	埋甕か不明
7	74	S-15				焼土を伴う	縄文	平22	

列石

番号	区	位置	形状	規模(m)長さ	主軸方位(走行)	特徴	出土遺物	時期	調査年	備考
4	75	H-14-16	弧状2列並行	(4.3)	南→北	集石列が2列北端は3号住と接する	土器・石器	縄文	平21	6号と同一遺構か
6	74	T-16・17、 U-16～18、 V・W-18・19	弧状	(16.4)	南東→北東	半径約30mの弧状を呈す	土器・石器	縄文	平22	

第4節 弥生時代の遺構と遺物

尾坂遺跡では、調査が開始された以降、1面目とした泥流畑の調査終了後、下面の調査を行っているが、縄文土器などと共に若干の弥生時代の土器片が当初から散見されていた。しかしながら、遺構については、数片の土器を伴う少数の土坑が散見されるという状況が続いていたが、平成22年度の調査で、再葬墓および土坑が複数確認された。

検出された遺構は、住居は確認されなかったが、再葬墓1基と土坑28基が調査された。

1. 再葬墓

1号再葬墓(第127～129図、PL.31・32・102・103)

位置 74区R-7グリッドに位置する。

形状・規模 確認時にはやや大きな礫が数個かたまって検出された、やや大きな二石を中心に数個の石が囲うような状況が見られた、さらに礫の下には、多量の小礫(5～10cm)が詰め込まれたように入れられた状況が見られた。掘方の規模は長径1.23m、短径1.07m、深さは0.43mである。

主軸方位 N-68°-W

出土遺物 大型壺と小型壺の他、土器片が見られ、軽石製品が1点出土している。

所見 畑の耕土を掘り下げ、2面目の精査を行う中で、周囲にほとんど礫を見ない場所において、複数の礫がまとまって検出された。当初は集石として断面図を取りながら、掘り下げを行ったところ、多くの礫の下部に土器が出土した。

当初検出された礫は、径20cm前後のやや大きな礫が10個ほど集められた状況で、それらを取り除き、さらに掘り下げを行ったところ、小礫がほぼ全面に検出された。これらの小礫を取り除いて行くと、潰れた大型の壺が出土した。横になっていた土器が潰れたような状態で、かなり細片に割れた状況であった。土器を精査して行くと大型壺の底部位置より、ほぼ完形の小型壺が伴うように出土した。出土した土器は鉄分の付着が著しかった。

掘方は長円形を呈し、比較的緩やかな掘り込みで底に達する。

2. 土坑

118号土坑(第130・134図、PL.33・103)

位置 63区P-17グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸0.63m、短軸0.55m、深さ0.25m。

長軸方向 ー

出土遺物 土器片出土。

所見 円形で底面には凹凸が見られる。

121号土坑(第134図、PL.33・103)

位置 63区R-16グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸0.76m、短軸0.63m、深さ0.16m。

長軸方向 ー

出土遺物 土器片1点出土。

所見 掘り込みは浅い。

154号土坑(第130・134図、PL.33・103)

位置 74区R-1グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸0.95m、短軸0.89m、深さ0.14m。

長軸方向 ー

出土遺物 土器片1点出土。

所見 円形で上部が削られているためか、掘り込みは極めて浅い。

156号土坑(PL.33)

位置 64区R-25、74区R-1グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸0.9m、短軸0.59m、深さ0.09m。

長軸方向 N-11°-W

出土遺物 土器片出土。

所見 不定形で、掘り込みは浅い、断面には鉄分の凝集層が厚く見られる。

191号土坑(第130・134図、PL.33・103)

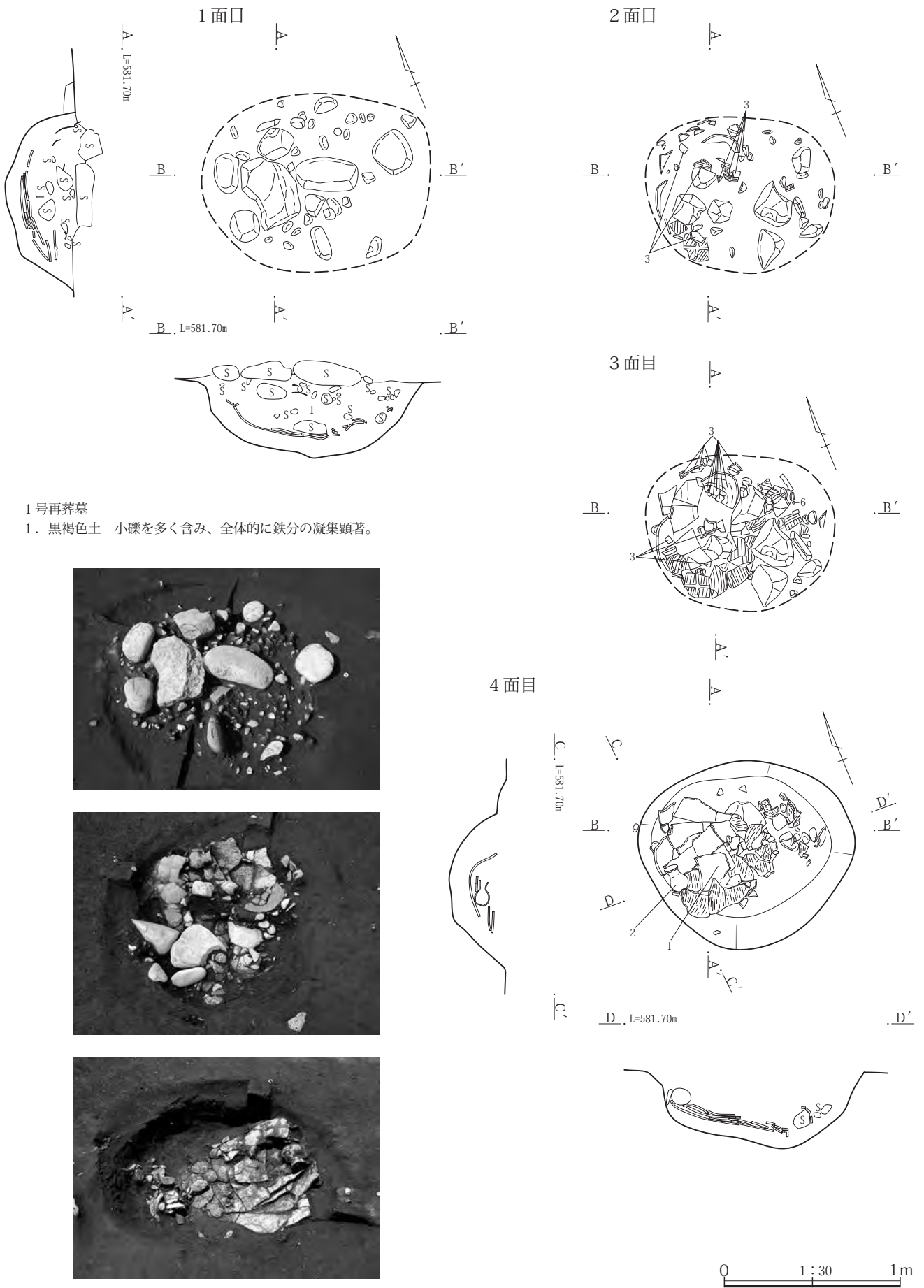
位置 64区Q・R-25、74区R-1グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸0.85m、短軸0.83m、深さ0.17m。

長軸方向 ー

出土遺物 土器片出土。

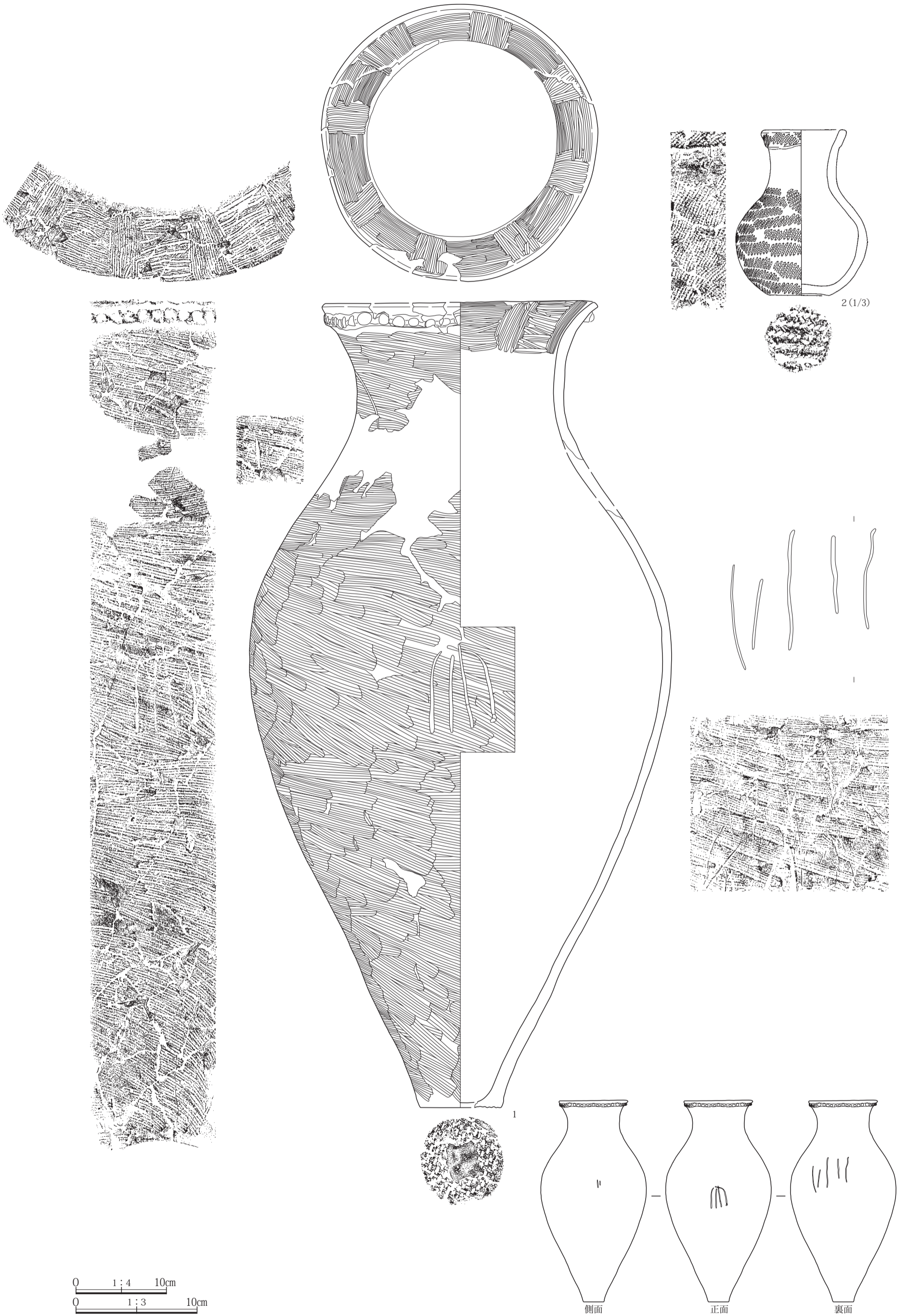
所見 掘り込みは浅い。



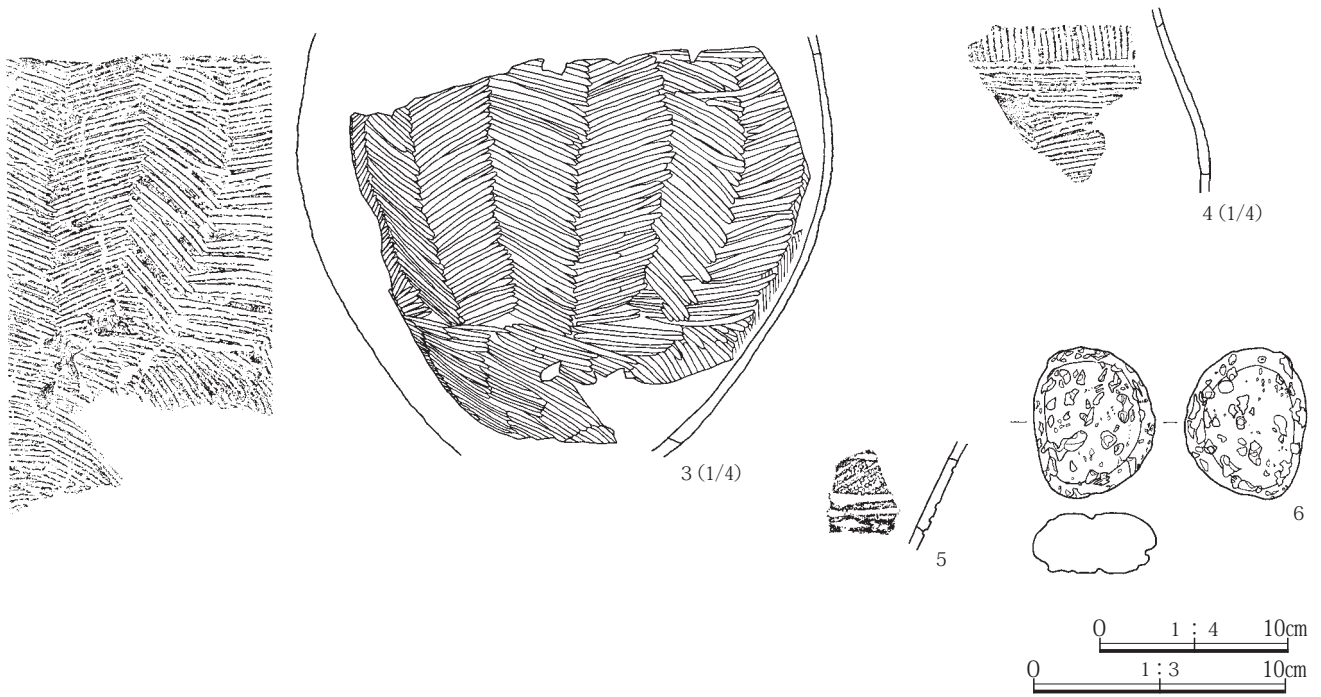
1号再葬墓

1. 黒褐色土 小礫を多く含み、全体的に鉄分の凝集顕著。

第127図 1号再葬墓



第 128 图 1 号再葬墓出土遗物 (1)



第129図 1号再葬墓出土遺物(2)

332号土坑(第130・134図、PL.103)

位置 75区Q-20グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸1.53m、短軸0.78m、深さ0.15m。

長軸方向 N-68° -W

出土遺物 土器片出土。

所見 長円形で掘り込みは極めて浅い。

333号土坑(第130・134図、PL.33・103)

位置 75区Q-21グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸1.16m、短軸0.61m、深さ0.11m。

長軸方向 N-60° -W

出土遺物 土器片出土。

所見 長円形を呈し、掘り込みは浅い。

338号土坑(第130・134図、PL.33・103)

位置 75区G-11グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸0.89m、短軸0.67m、深さ0.19m。

長軸方向 N-60° -W

出土遺物 土器片出土。

所見 北側を23号溝(中世)が切っている。掘り込みは浅い。

340号土坑(第130・134図、PL.34・103)

位置 74区T-5グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸0.74m、短軸0.58m、深さ0.1m。

長軸方向 N-79° -W

出土遺物 完形の鉢形土器と筒形土器が出土している。

所見 遺構確認時に鉢形土器と筒形土器が接するように出土、両者伴にほぼ完形品で、横倒し状態の筒形土器の口縁と正位状態の鉢形土器の口縁が接した状態で出土している。土坑の掘り方はやや円形で、深さは約10cmと浅い。土器は両者伴に土坑底面よりやや浮いた状態で置かれていた。土器の他に礫などの出土は見られなかった。再葬墓の可能性もあるが断定は難しい。

342号土坑(第130・135図、PL.34・103)

位置 74区U-5グリッドに位置する。

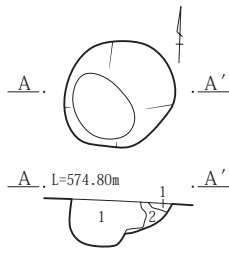
形状・規模 長円形、長軸1.36m、短軸(0.45)m、深さ0.15m。

長軸方向 -

出土遺物 中央部に土器片、礫が集中して出土している。甕形土器出土。

所見 ほぼ円形で、掘り込みは浅い、下部に別の土坑が掘り込まれていた。

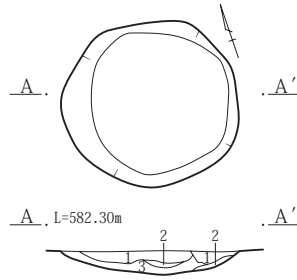
118号土坑



118号土坑

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体的に含み、粘性あり。
2. 黒色土 1と近似するが、やや粘性弱い。

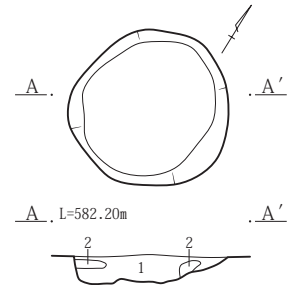
154号土坑



154号土坑

1. 暗褐色土 細粒白色軽石を含む。縮りあり。
2. 褐色土 細粒白色軽石、黄褐色土塊を含む。
3. 暗褐色土 細粒白色軽石、炭化物粒を少量含む。

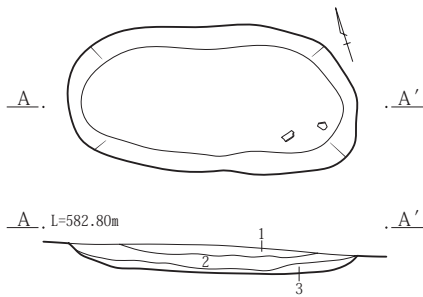
191号土坑



191号土坑

1. 黒褐色土 褐色粒多く含む。
2. 黄褐色土 地山褐色土主体土。

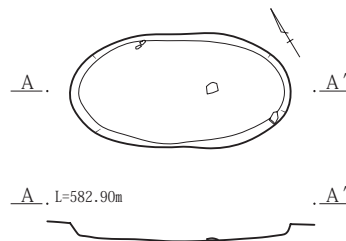
332号土坑



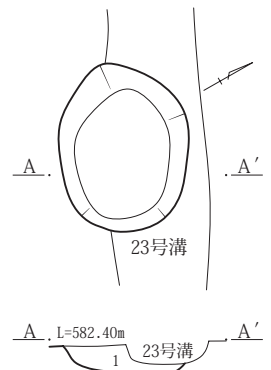
332号土坑

1. 灰褐色土 細粒砂質土。
2. 黒褐色土 細粒砂質土。縮りあり。
3. 灰茶褐色土 鉄分凝集層、粘性ややあり。

333号土坑



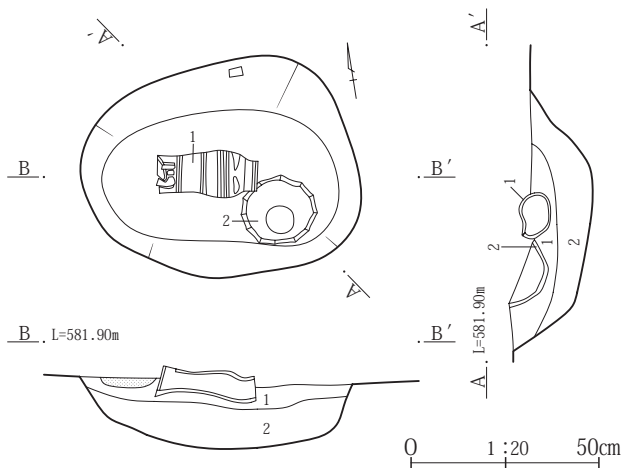
338号土坑



338号土坑

1. 黒褐色土 やや軟質で夾雑物少ない。

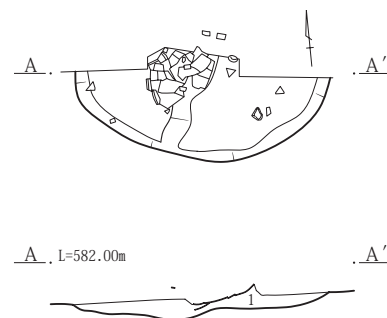
340号土坑



340号土坑

1. 黒色土 小白色粒含む。
2. 暗褐色土 ローム小粒含む。

342号土坑



342号土坑

1. 黒褐色土 若干の炭化物、ローム粒含む。

第130図 土坑(1) 118・154・191・332・333・338・340・342号土坑

345号土坑(第131・135図、PL.34・104)

位置 74区S-7グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸0.73m、短軸0.55m、深さ0.8m。

長軸方向 N-80°-E

出土遺物 石皿、磨石、土器片が出土。

所見 石皿が出土しているが、かなり浮いている状況で、本址に伴うものかは不明、出土した土器片から弥生時代としたが不確定な部分も残る。

346号土坑(第131・135図、PL.104)

位置 74区R-6グリッドに位置する。

形状・規模 不定形、長軸0.86m、短軸0.64m、深さ0.49m。

長軸方向 -

出土遺物 土器片出土。

所見 平安時代の9号住居内に検出された、床面下に掘り込みが見られ、時期的に古い遺構と判断した。

350号土坑(第131・135図、PL.34・104)

位置 74区V・W-11グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸1.22m、短軸1.02m、深さ0.35m。

長軸方向 N-0°

出土遺物 自然礫および土器片、石鏃が1点出土している。

所見 ほぼ円形で掘り込みもしっかりしている。

352号土坑(第131・136図、PL.34・104)

位置 74区U・V-6グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸0.88m、短軸0.68m、深さ0.38m。

長軸方向 N-40°-E

出土遺物 土器片および、底面近くよりミニチュア土器が1点出土している。

所見 大きな地山礫の脇に掘り込まれている。やや斜めの壁で底部径は小さくなっている。

354号土坑(第131・136図、PL.35・104)

位置 74区S・T-4グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸1.02m、短軸0.94m、深さ0.4m。

長軸方向 -

出土遺物 土器片出土。

所見 円形で掘り込みは、ほぼ垂直ないしは一部オーバーハングしている。底は平らである。

356号土坑(第131・136図、PL.35・104)

位置 74区S-4グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸0.98m、短軸0.96m、深さ0.3m。

長軸方向 -

出土遺物 土器片出土。

所見 円形で断面は鍋底状を呈す。

360号土坑(第131・136図、PL.35・104)

位置 74区W-15グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸1.11m、短軸0.68m、深さ0.43m。

長軸方向 N-90°-E

出土遺物 土器片出土。

所見 11号住居に南側約半分を切られている。

361号土坑(第131・136図、PL.104)

位置 74区V-15グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸0.58m、短軸0.56m、深さ0.23m。

長軸方向 -

所見 平安時代の11号住居東壁に位置し、西側を住居によって切られる。土器片出土。底部には地山礫が露出。

362号土坑(第131・136図、PL.35・104)

位置 74区S-15グリッドに位置する。

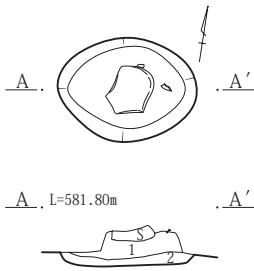
形状・規模 円形、長軸0.66m、短軸0.58m、深さ0.24m。

長軸方向 -

出土遺物 土器の底部片、胴部片がやや浮いた状態でまとまって出土している。

所見 出土した遺物の多くは中央部にまとまっていた、掘り込み面は不明瞭であったが、下面は緩やかな掘り方を有す。

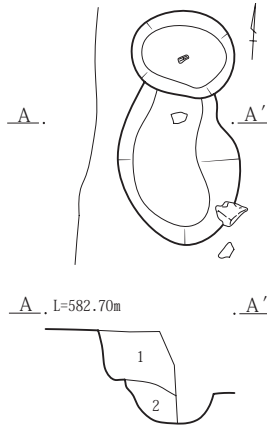
345号土坑



345号土坑

1. 黒褐色土 白色、黄褐色粒含む。上層に石皿。
2. 黒褐色土 ローム粒僅かに含む。

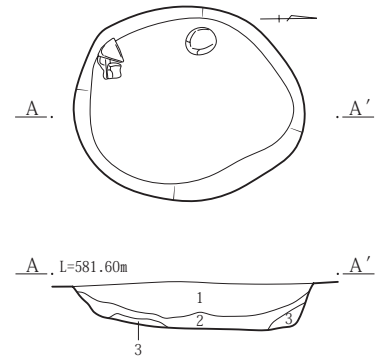
346号土坑



346号土坑(床下土坑)

1. 黒褐色土 9号住の覆土。
2. 黒褐色土 ローム粒、ブロック含む。

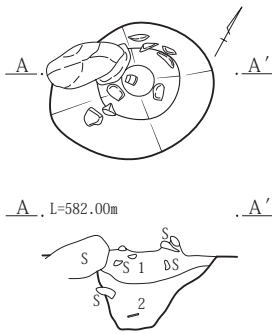
350号土坑



350号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒多く含む。
2. 暗褐色土 ローム粒含みやや黄色味を呈す。
3. 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

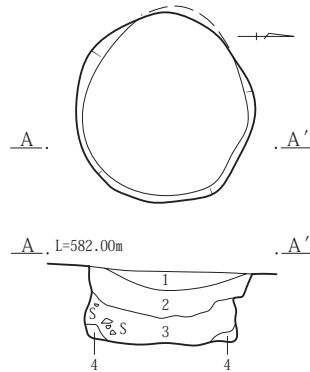
352号土坑



352号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒、小礫含む。
2. 暗褐色土 細粒でやや軟質、小礫含む。

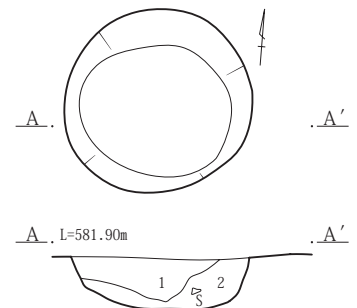
354号土坑



354号土坑

1. 黒褐色土 黄褐色、白色小粒含む。
2. 黒褐色土 1と似るが締めあり。
3. 黒褐色土 2に地山ロームブロック含む。
4. 黄褐色土 ロームブロック主体土。

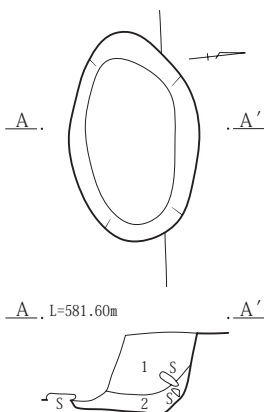
356号土坑



356号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒多く含む。
2. 暗褐色土 ローム粒含みやや黄色味を呈す。

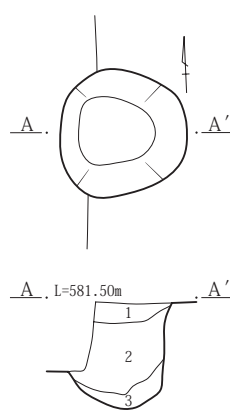
360号土坑



360号土坑

1. 暗黒褐色土 白色、黄褐色小粒多く含む。
2. 暗黒褐色土 1を基調とするが、混入物少ない。

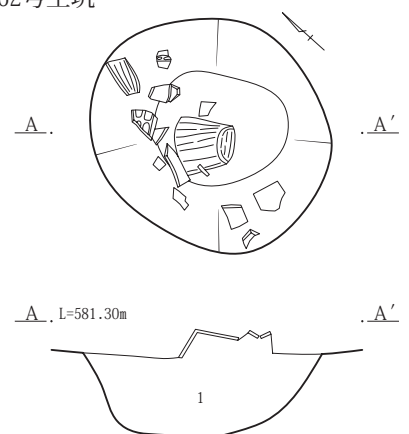
361号土坑



361号土坑

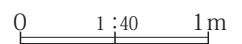
1. 暗黒褐色土 白色、黄褐色小粒多く含む。
2. 暗黒褐色土 1を基調とするが、混入粒子少ない。
3. 暗黄褐色土 2よりも混入粒子は少ない。

362号土坑



362号土坑(弥生土器)

1. 黒色土 小ローム粒多く含み、やや締めまりあり。



第131図 土坑(2) 345・346・350・352・354・356・360～362号土坑

363号土坑(第132・137図、PL.35・104)

位置 74区S・T-15グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸1.32m、短軸1.28m、深さ0.75m。

長軸方向 —

出土遺物 土器片及び磨石、石鏃が1点ずつ出土。

所見 円形で掘り込みはほぼ垂直で、しっかり掘り込まれている。底部はほぼ平らである。

364号土坑(第132・137図、PL.36・105)

位置 74区T-14グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸1.28m、短軸1.24m、深さ0.64m。

長軸方向 —

出土遺物 複数の土器片出土。

所見 円形で掘り込みはほぼ垂直で、しっかり掘り込まれている。底部はほぼ平らである。

365号土坑(第133・137図、PL.36・105)

位置 74区T・U-14グリッドに位置する。

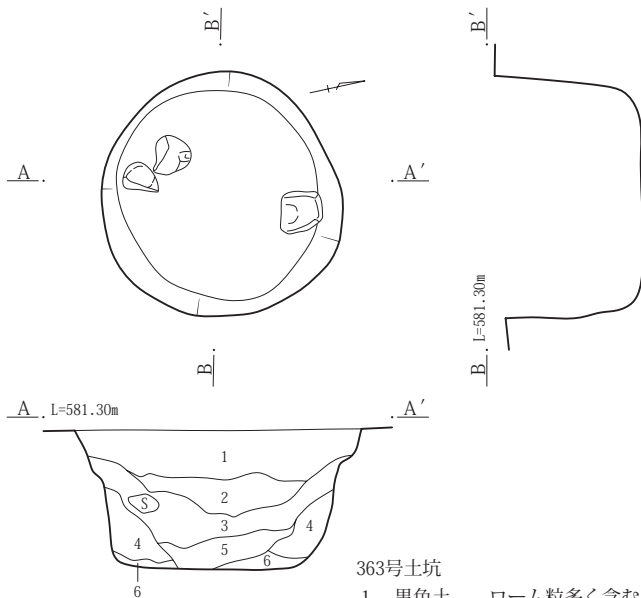
形状・規模 円形、長軸1.14m、短軸1.08m、深さ0.66m。

長軸方向 —

出土遺物 土器片、磨石、石鏃が1点ずつ出土している。

所見 円形で掘り込みはほぼ垂直で、しっかり掘り込ま

363号土坑



363号土坑

1. 黒色土 ローム粒多く含む。
2. 黒色土 1と似るがローム粒やや大きい。
3. 黒褐色土 若干のローム粒含む。
4. 黒褐色土 ローム粒やや多く含む。
5. 黒褐色土 3を基調とするが、全体に細粒。
6. 黄褐色土 地山ロームブロックを混入。

れている。底部はほぼ平らである。363、364号土坑と規模・形状が近似しており、近接して掘り込まれていることも考慮すれば同様の機能を有していたものと考えられ、可能性の一つとして貯蔵穴があげられる。

373号土坑(第133・137図、PL.36・105)

位置 74区S-15・16グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸1.54m、短軸0.93m、深さ0.42m。

長軸方向 N-0°

出土遺物 土器片1点出土。

所見 楕円形で掘り込みは緩やか。

376号土坑(第133・137図、PL.36・105)

位置 74区W-15・16グリッドに位置する。

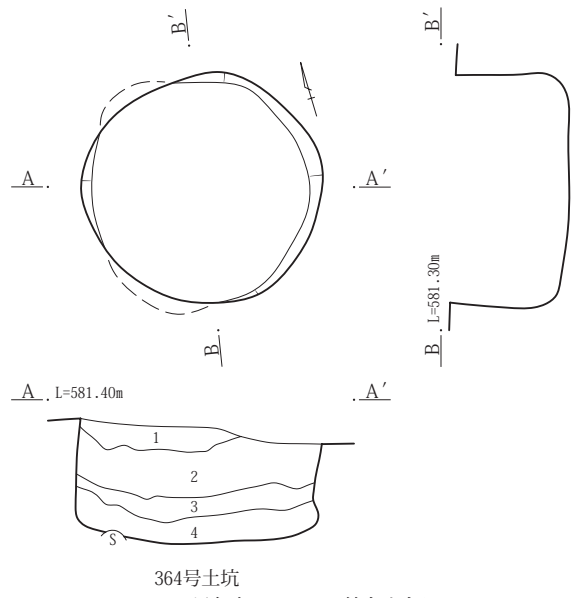
形状・規模 隅丸長方形、長軸1.81m、短軸1.38m、深さ0.23m。

長軸方向 N-90° - E

出土遺物 土器片1点出土。

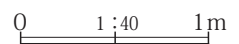
所見 平安時代の11号住居北壁に接して掘り込まれる。やや不定形な隅丸長方形を呈し、掘り込みは浅い。

364号土坑



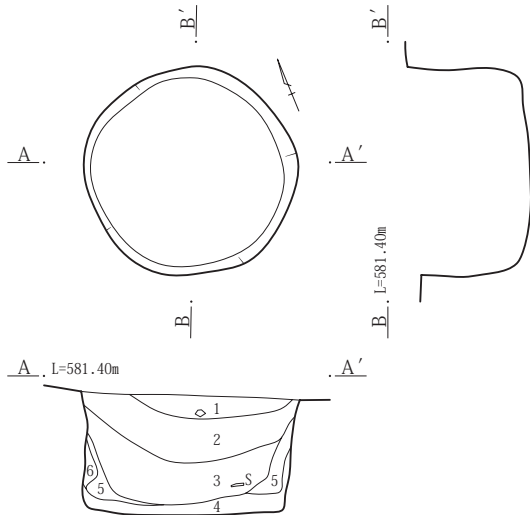
364号土坑

1. 黒色土 ローム粒多く含む。
2. 黒色土 1と似るがローム粒やや大きい。
3. 黒褐色土 若干のローム粒含む。
4. 黒褐色土 ローム粒やや多く含む。

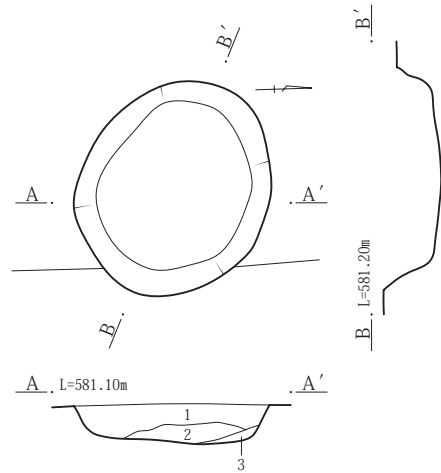


第132図 土坑(3) 363・364号土坑

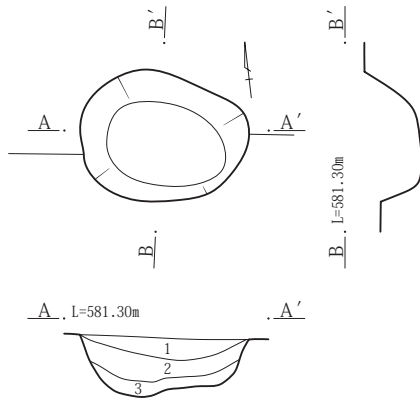
365号土坑



367号土坑



368号土坑



365号土坑

1. 黒色土 焼土ブロック、炭化物多く含む。
2. 黒色土 ローム粒多く含む。
3. 黒色土 2と似るがローム粒やや大きい。
4. 黒褐色土 若干のローム粒含む。
5. 黒褐色土 ローム粒多く含む。
6. 黄褐色土 地山ローム壁の崩落土含む。

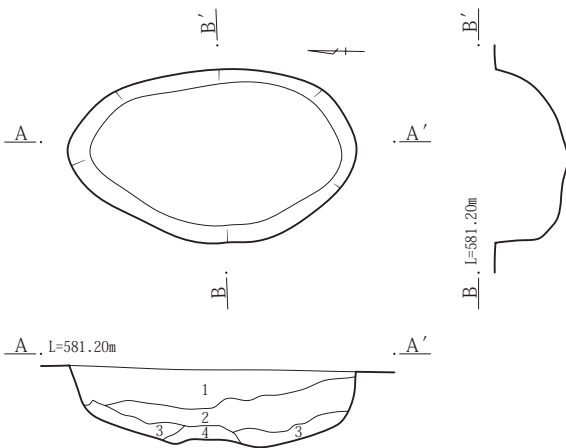
367号土坑

1. 黒褐色土 若干の白色、黄褐色粒含む。
2. 黒褐色土 ローム小粒含む。
3. 暗褐色土 地山ローム土含む。

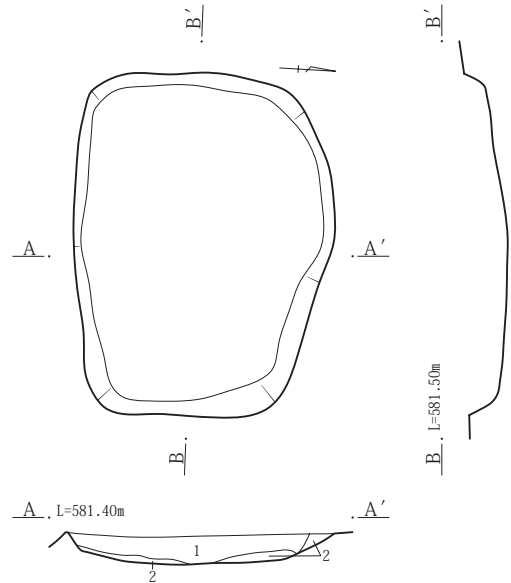
368号土坑

1. 黒褐色土 白色小粒、ローム粒含む。
2. 黒色土 1に似るがローム粒やや多く含む。
3. 暗黄褐色土 ローム粒、ブロックを若干含む。

373号土坑



376号土坑



373号土坑

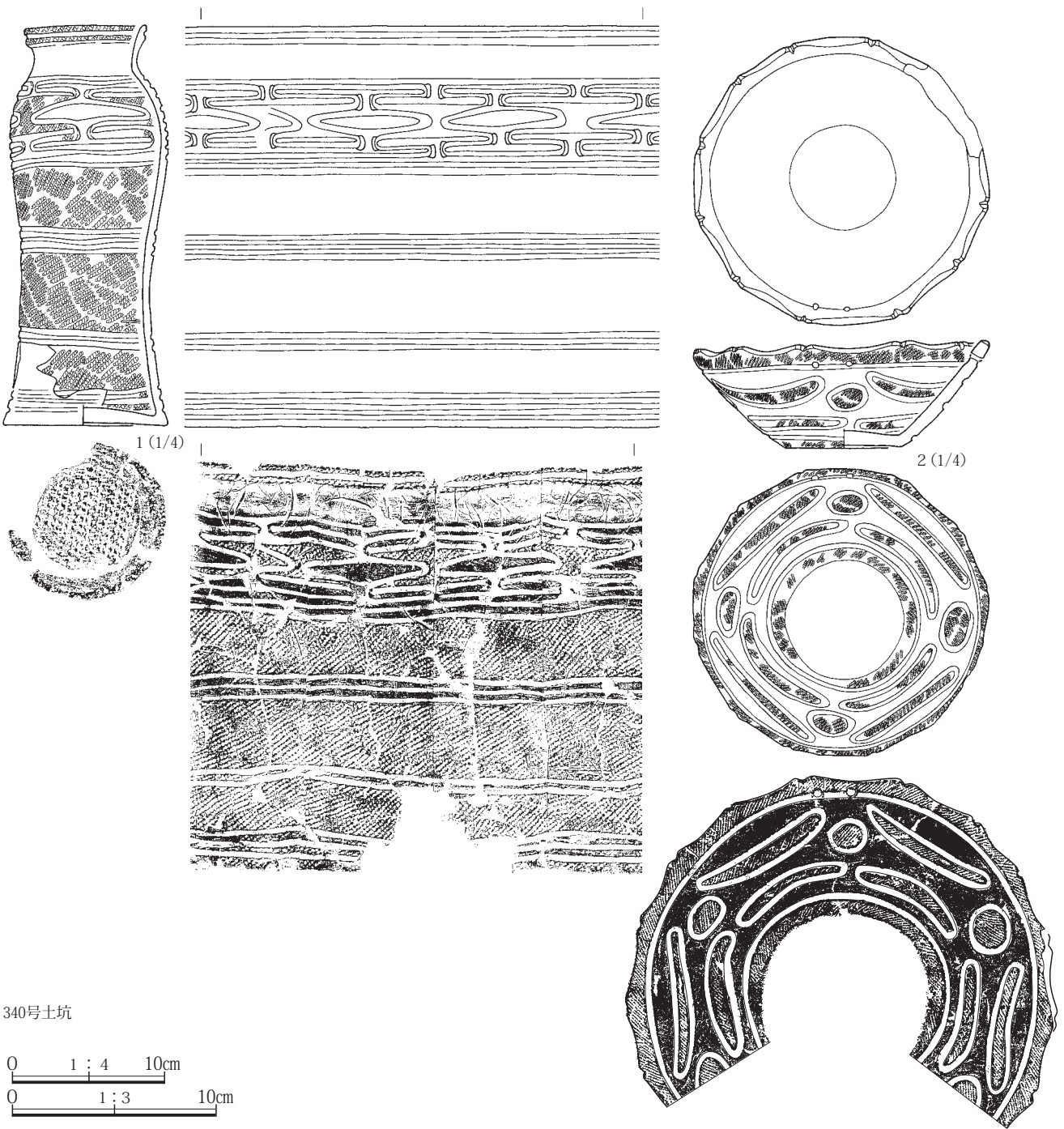
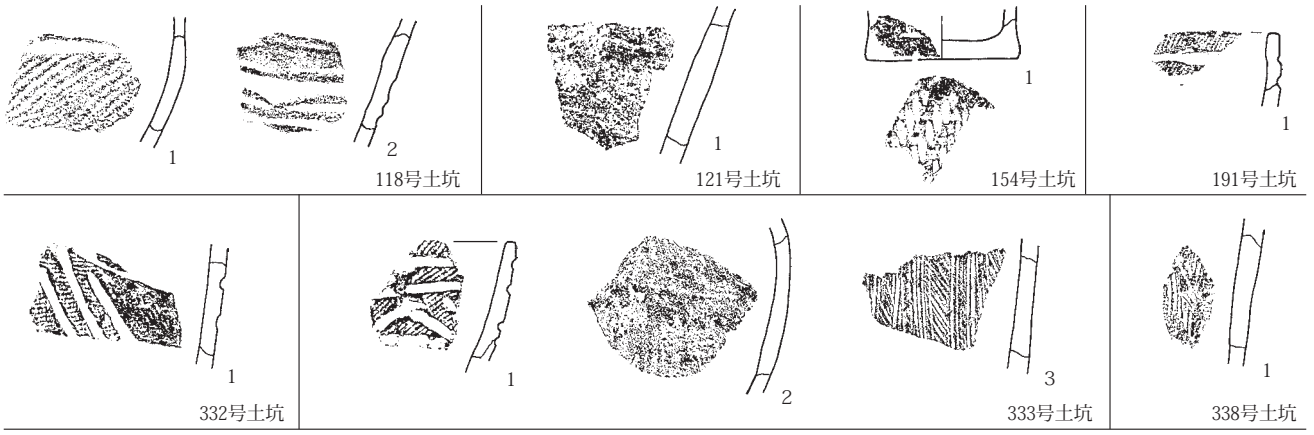
1. 暗褐色土 褐色粒多く含み締めあり。
2. 黒褐色土 褐色粒の混入少なく、黒味あり。
3. 暗黄褐色土 ローム含む。
4. 暗黄褐色土 地山ローム土主体。

376号土坑

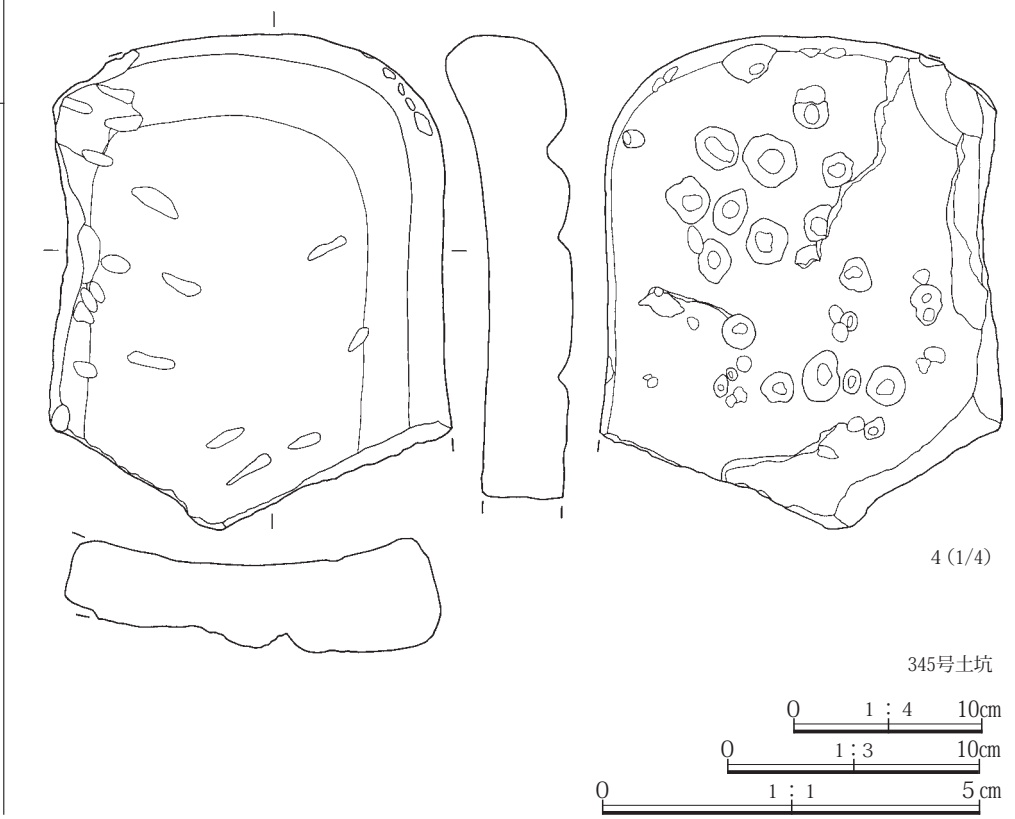
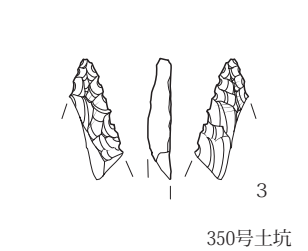
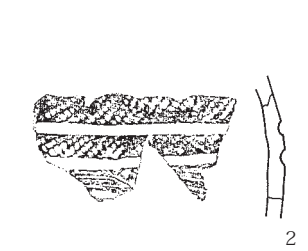
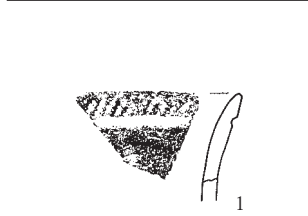
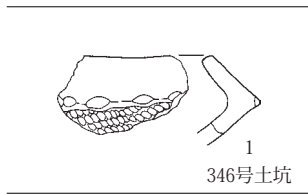
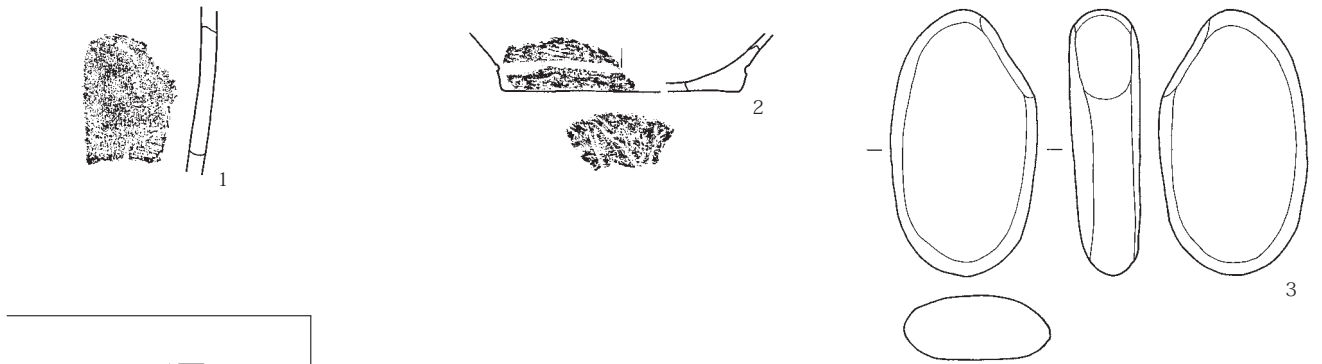
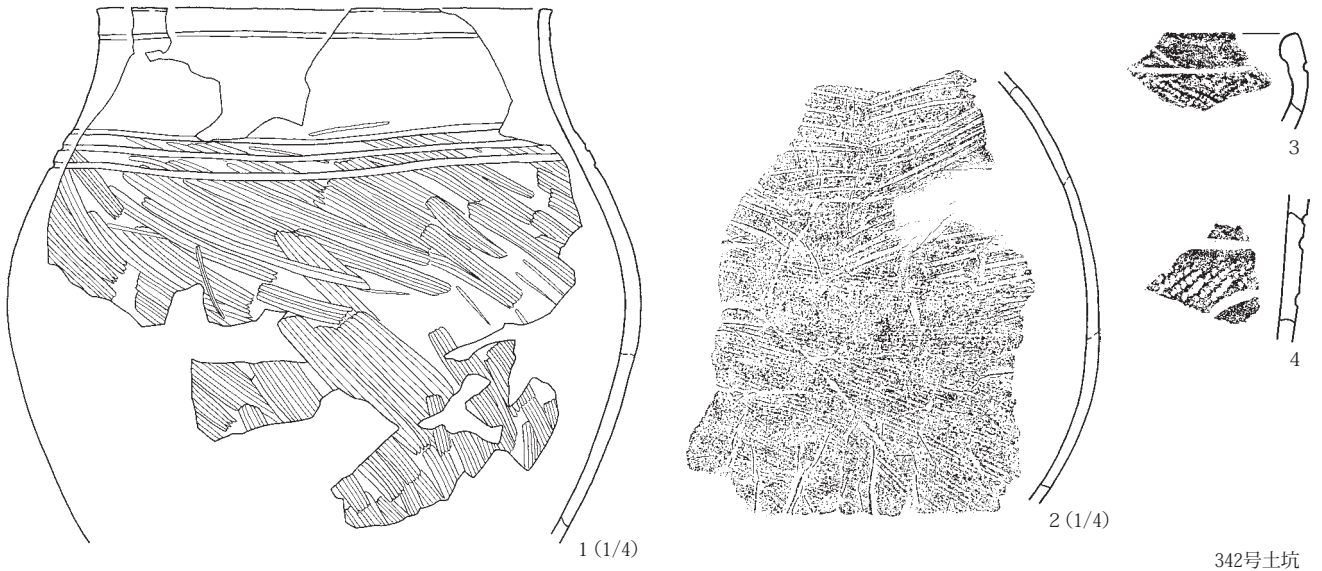
1. 黒褐色土 少量のローム粒含む。
2. 黒褐色土 1と近似するがローム粒多く含む。



第133図 土坑(4) 365・367・368・373・376号土坑



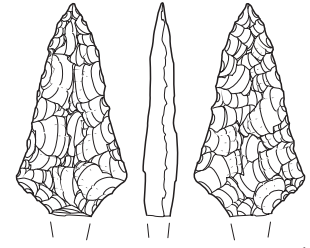
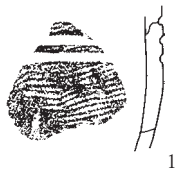
第134図 土坑出土遺物(1)



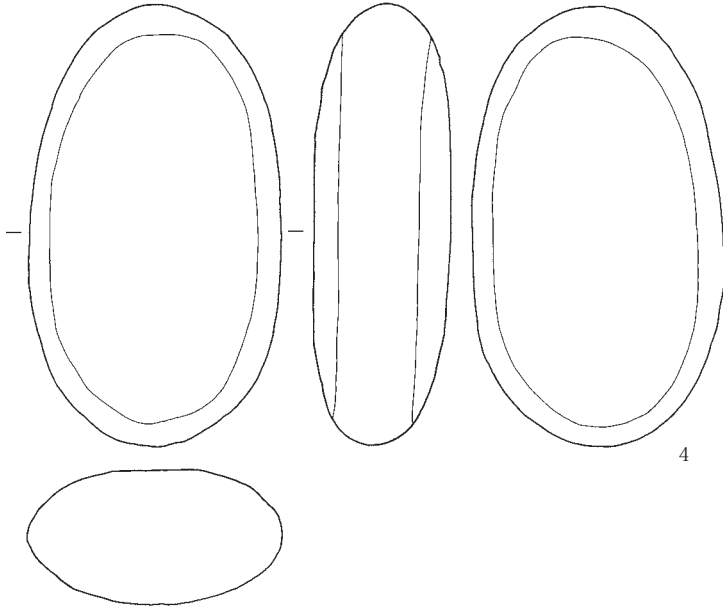
第135図 土坑出土遺物(2)



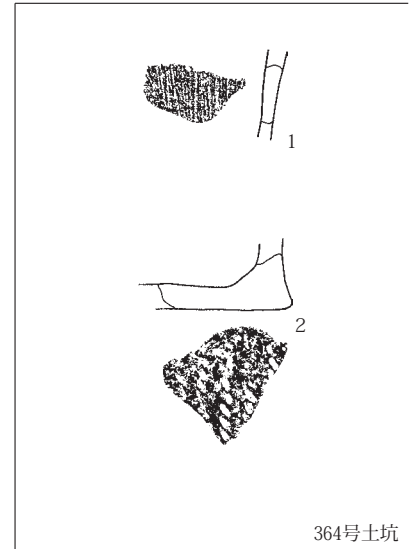
第136図 土坑出土遺物(3)



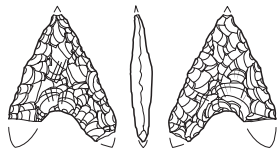
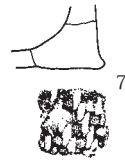
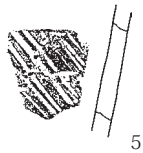
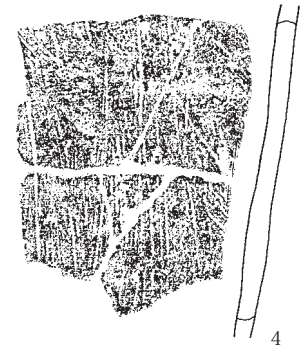
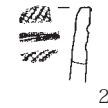
3 (1/1)



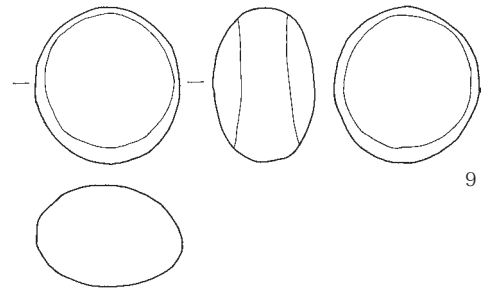
363号土坑



364号土坑



8 (1/1)



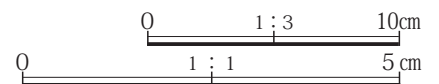
365号土坑



373号土坑



376号土坑



第137図 土坑出土遺物(4)

3. 遺構外出土遺物

弥生時代の土器片は、総数4,558点が出土している。尾坂遺跡調査区内のほぼ全域において出土を確認しているが、遺構が集中して検出されている74・75区以外においては極めて少ない。

天明泥流畑の2面目以下の調査面積の相違にもよるが、やはり遺構の濃密さに比例する。

特に出土数が多い場所は、平成22年度調査の、74区で全体の90%以上を占めている。また、同区内においても、ほぼ中央部において、出土分布は北側と南側に2分される状況が窺える。これは検出した土坑の分布状況とも合致している。

その他、やや離れた区に置いても分布が見られるが、少数であり、数基の土坑が散在する75区において散見されている。

土器の出土状況について、詳細に見てゆくと、縄文土器の分布域とほぼ重なっていることが分かる。

74区以外でも、少数の出土が確認されている場所においても縄文と重なっている様子が窺える。さらに、平成22年度の調査区内において検出された弥生時代の遺構分布と遺構外出土の土器の分布範囲について若干のずれを見ることができる。

土器の分布図で極めて濃くなっている74区O・P—11～17グリッド周辺では、土坑などは確認されていない。

この場所は地形的にやや下がっており、比較的黒色土の堆積も厚く、湿潤な場所である。土器は黒色土中に比較的まとまって出土しており、土中に生成された鉄分凝集層と固着した状態で出土する土器も多かった。

(1) 土器(第138～151図、PL.105～113)

遺構に伴って出土した土器の数に比して、遺構外出土のものは10倍以上に上る。

いずれも、破片で前述したように黒色土中に多く見られ、水につかった状態が長かったと想像されるものが多い。

出土総数は約1,500点で、この内記載したものは400点程である。

主な器種は、壺形土器、甕形土器、鉢形土器に大別でき、少数の蓋などが含まれる。

この他、器種不明品や、小型土器、土偶などが見られる。

壺形土器は口縁部に押圧を持つ突帯が廻るものや、刻みを持ったものが見られる。粗い櫛状の工具による条痕文や波状文等を持つものも見られる。

頸部に綾杉状文や縦位、横位に条痕文を施文する一群も見られる。

胴部については、条痕文の他沈線による重畳文様、波状文なども見られる。

また、口縁部に縄文を施文する一群は、折り返して肥厚した部分に縄文を施文している。以下頸部は無文となる。

甕形土器については、肩部に最大径を取る大型の甕が見られる。口縁部に横位の沈線を廻らし、以下肩部まで無文とし、以下同部に沈線による連繫文を描くものも多くみられる。

胴部片は斜位の条痕文を施文するものが多くみられ、条痕の幅が広く間隔も粗いものと、比較的狭いものに分けられる。

鉢形土器は口縁下に沈線による変形工字文を描くものや、平行線文、矩形文を描くものなどが見られる。地文に縄文を持つものと、少数ではあるが無文のものが見られる。

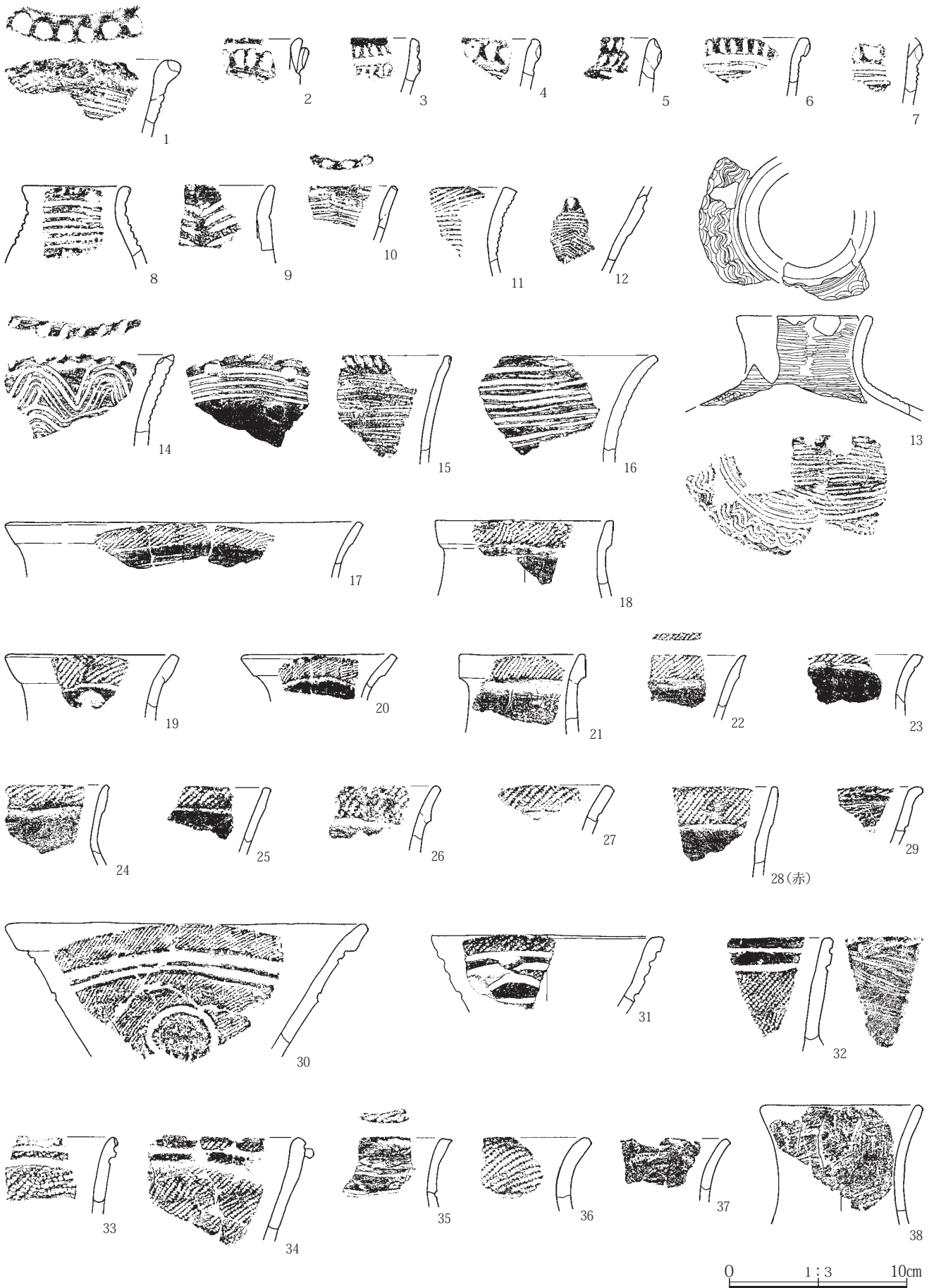
底部片も多く出土している。器面には条痕文、および縄文が施されている。また、底部に網代痕を持つ土器も多く出土している。

この他、沈線文を持つ小型の壺形土器や、土偶と思われる土製品等が出土している。

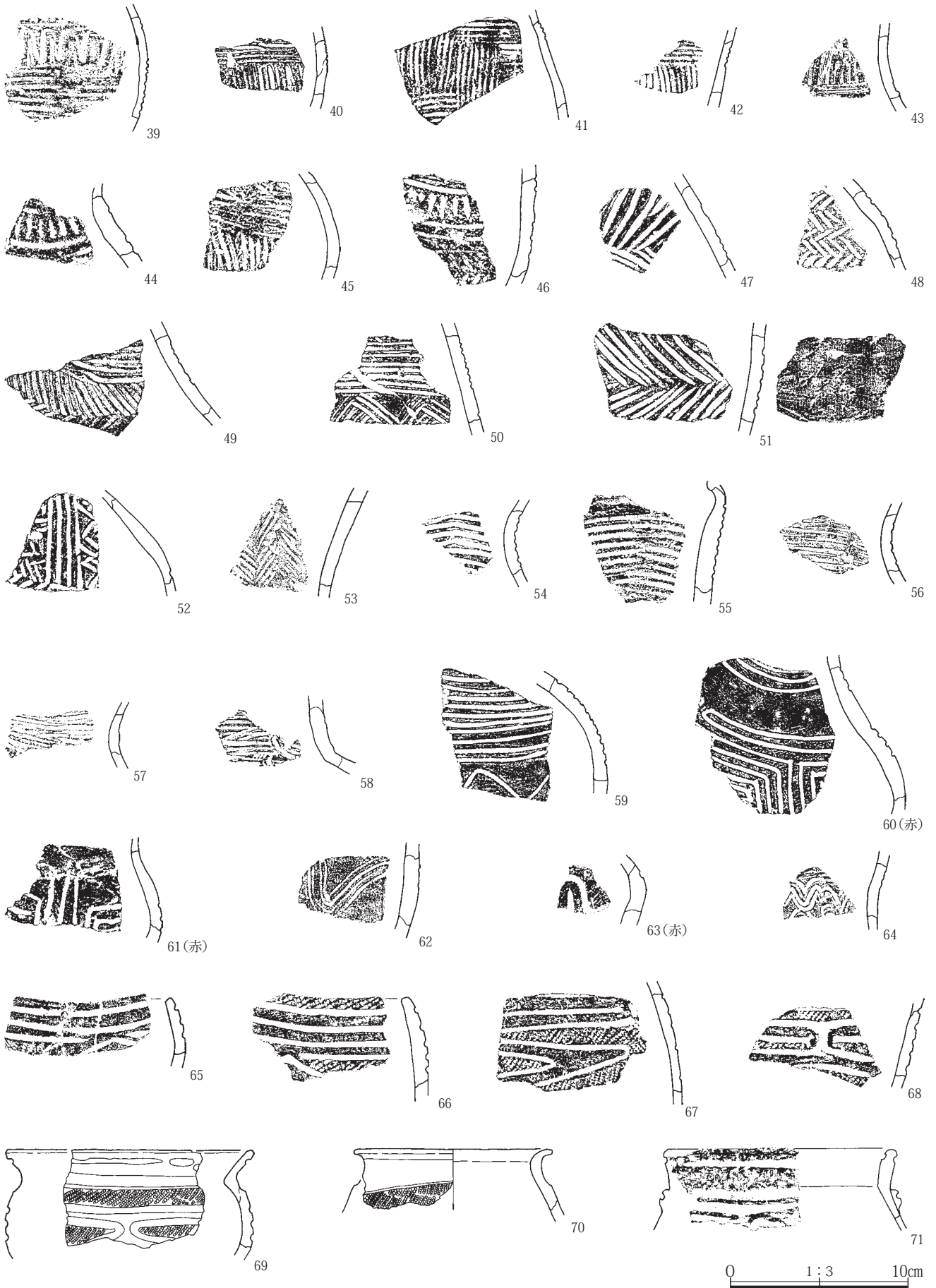
土器の時期については、中期前半が主体を占める中、中期後半から後期後半と考えられるものも少数ながら見られる。

(2) 石器

石器については、縄文時代の頁でも触れているが、該期に帰属すると思われる有茎鏃や大型の石鏃などの石器も少数存在しているが、遺構に伴っていないものに関しては、縄文時代の石器の中で記載したことを了解願いたい。



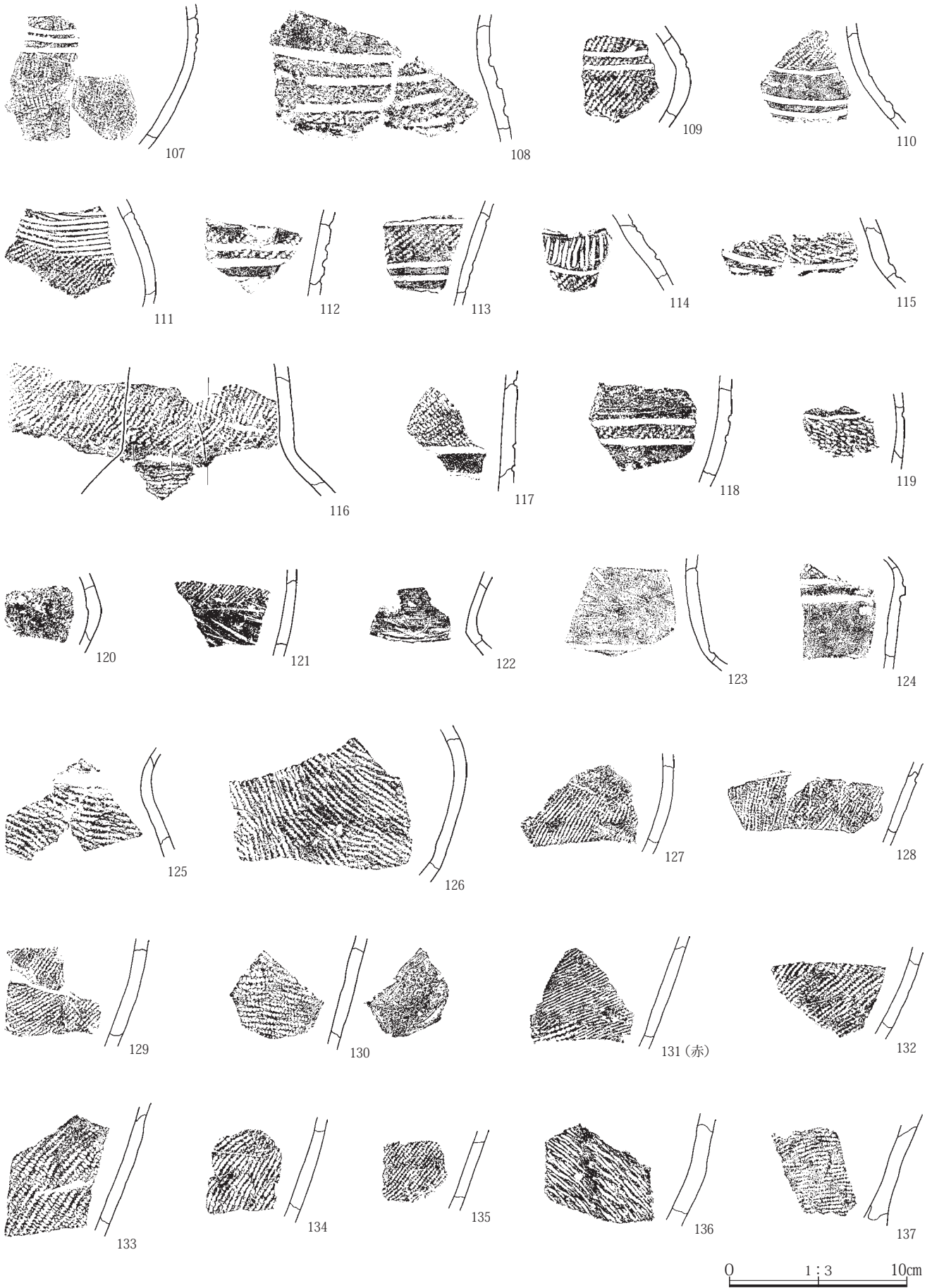
第138図 遺構外出土遺物(1)



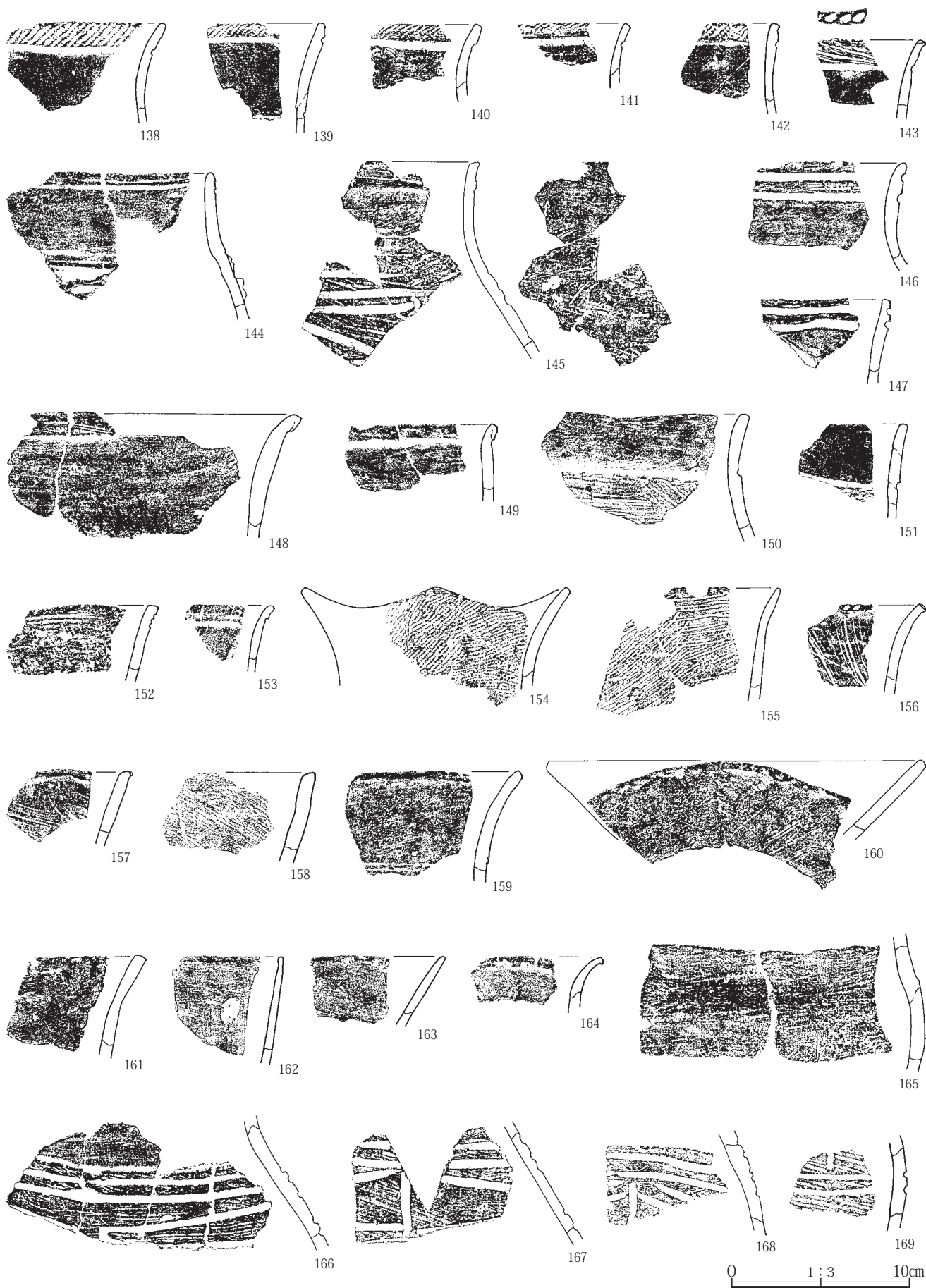
第139図 遺構外出土遺物(2)



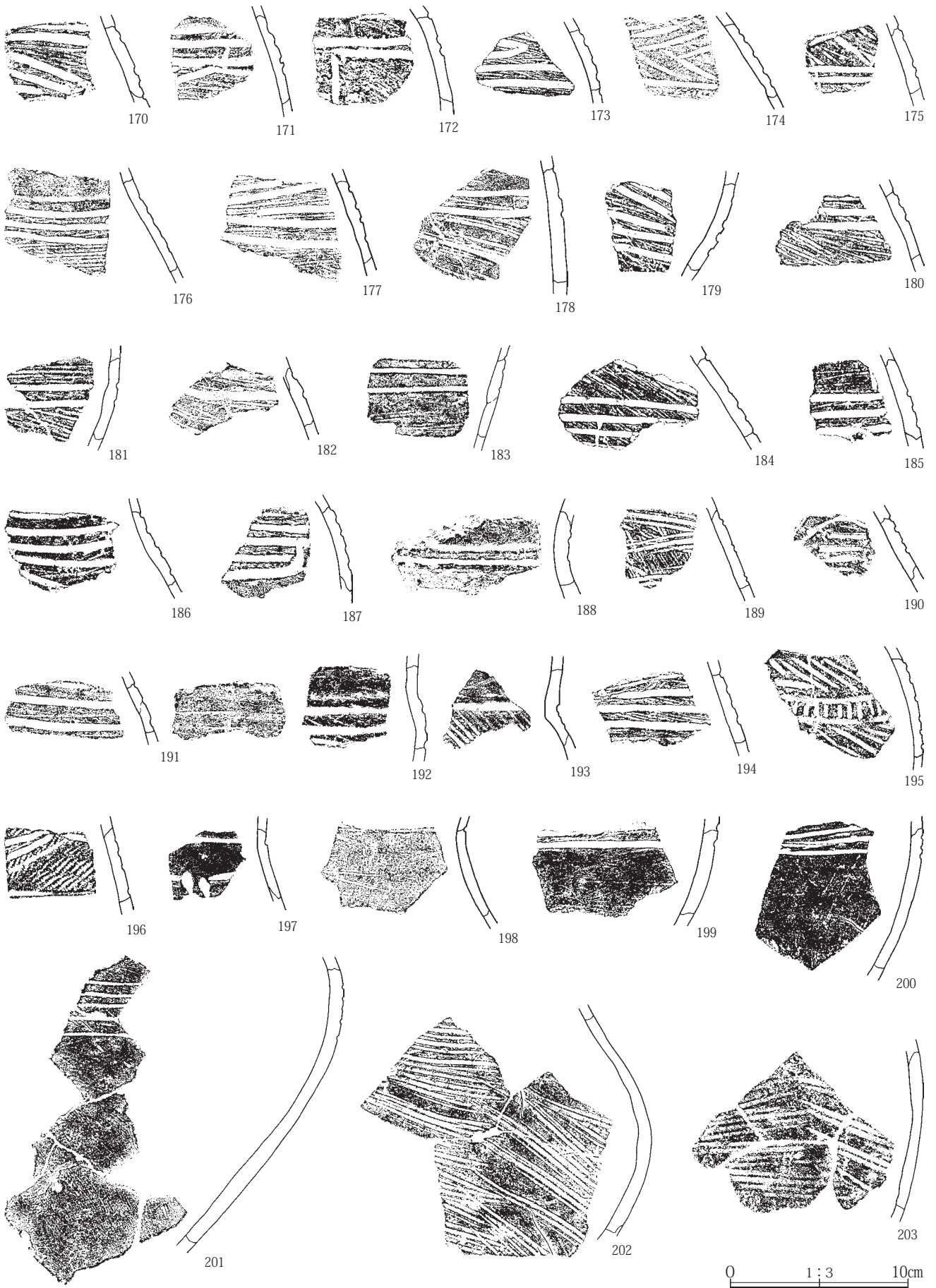
第140図 遺構外出土遺物(3)



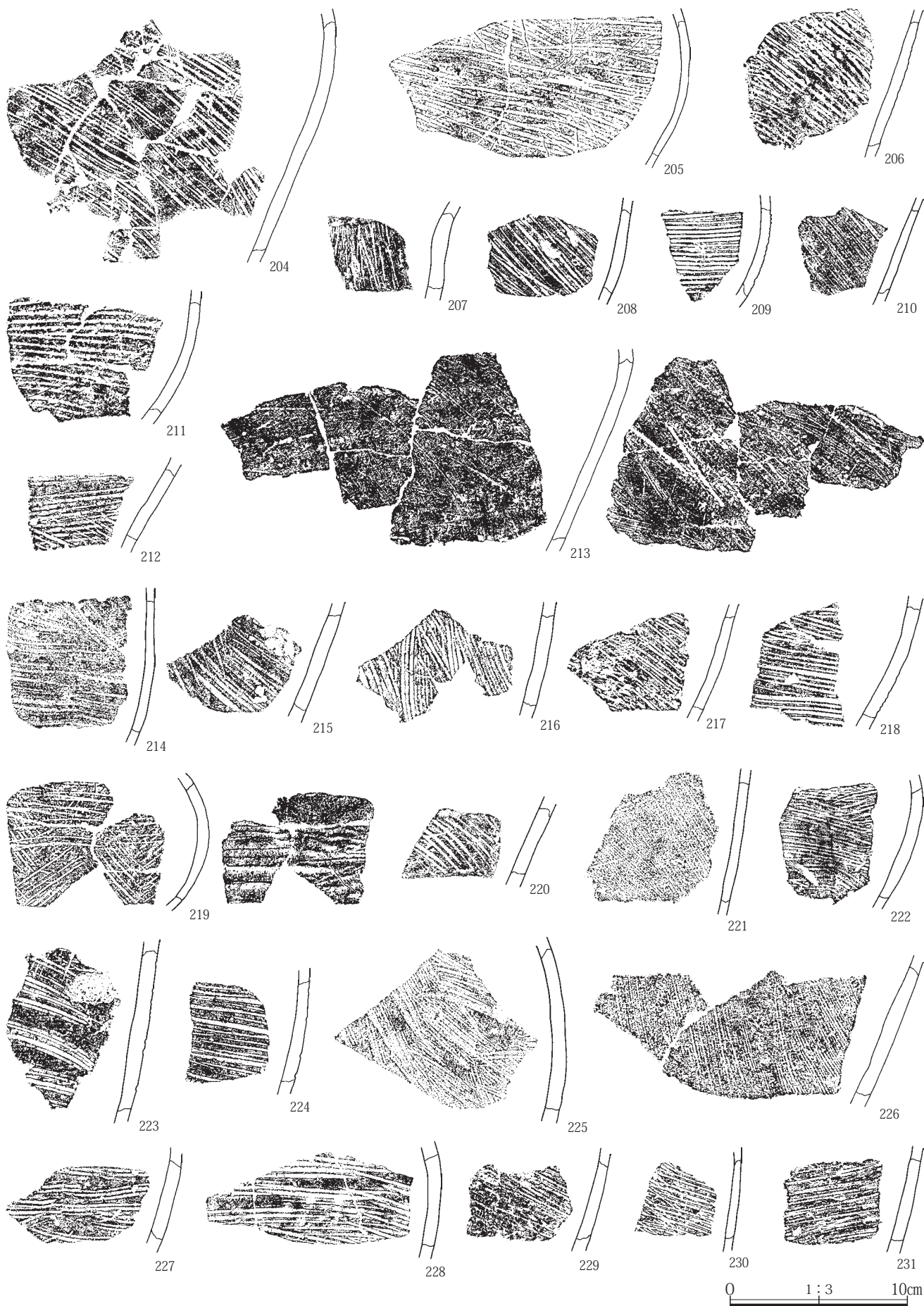
第141図 遺構外出土遺物(4)



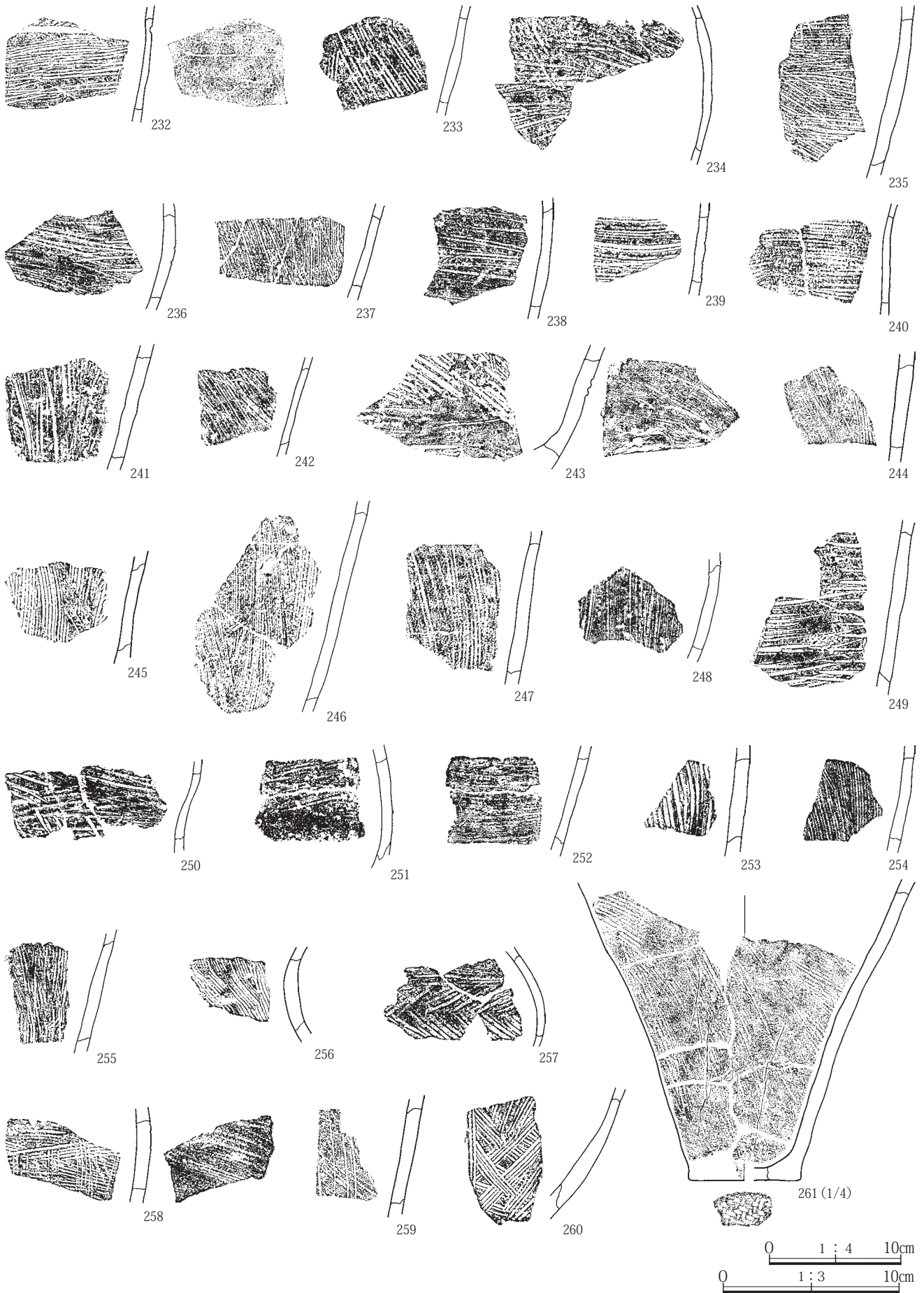
第142図 遺構外出土遺物(5)



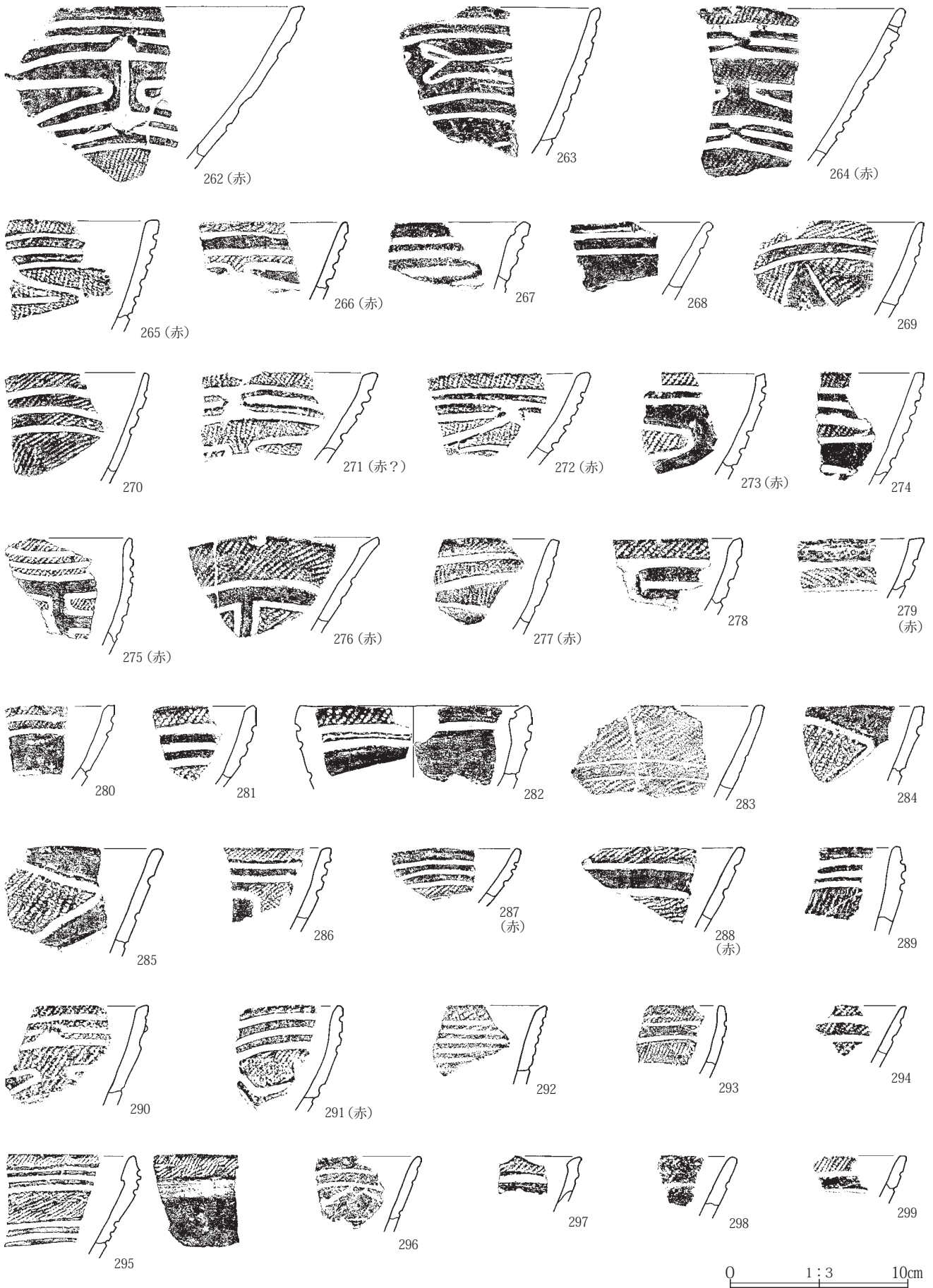
第143図 遺構外出土遺物(6)



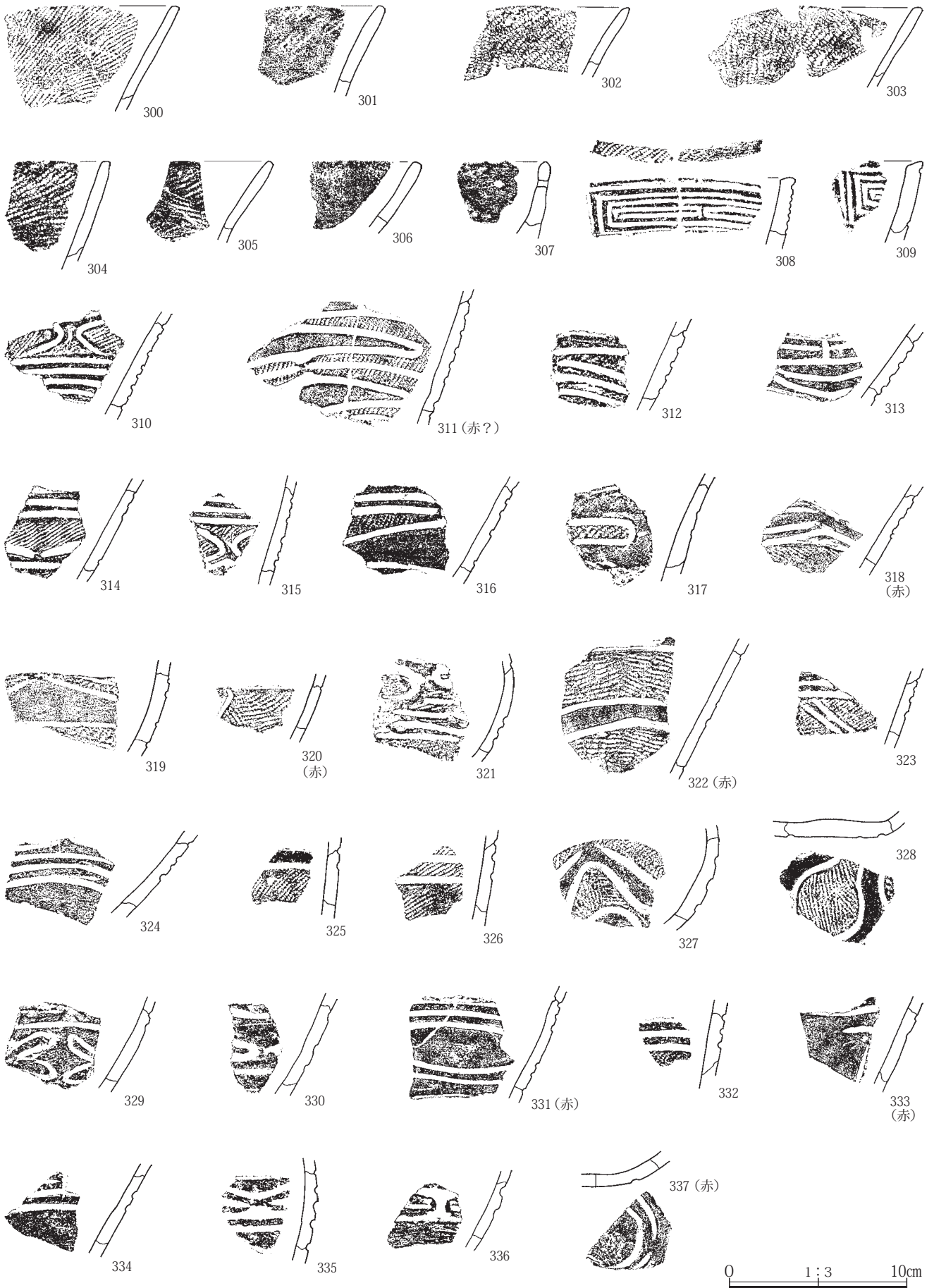
第144図 遺構外出土遺物(7)



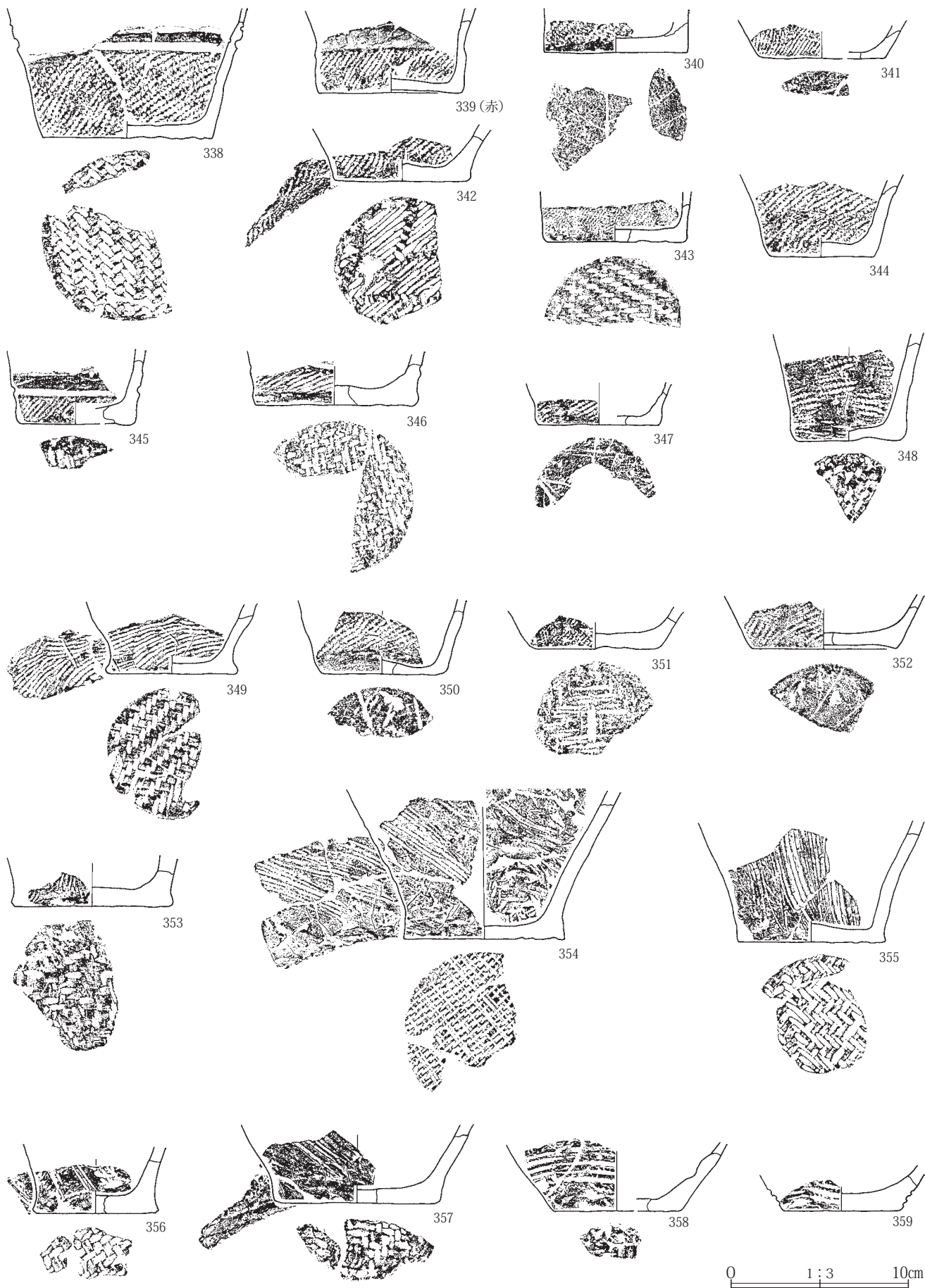
第145図 遺構外出土遺物(8)



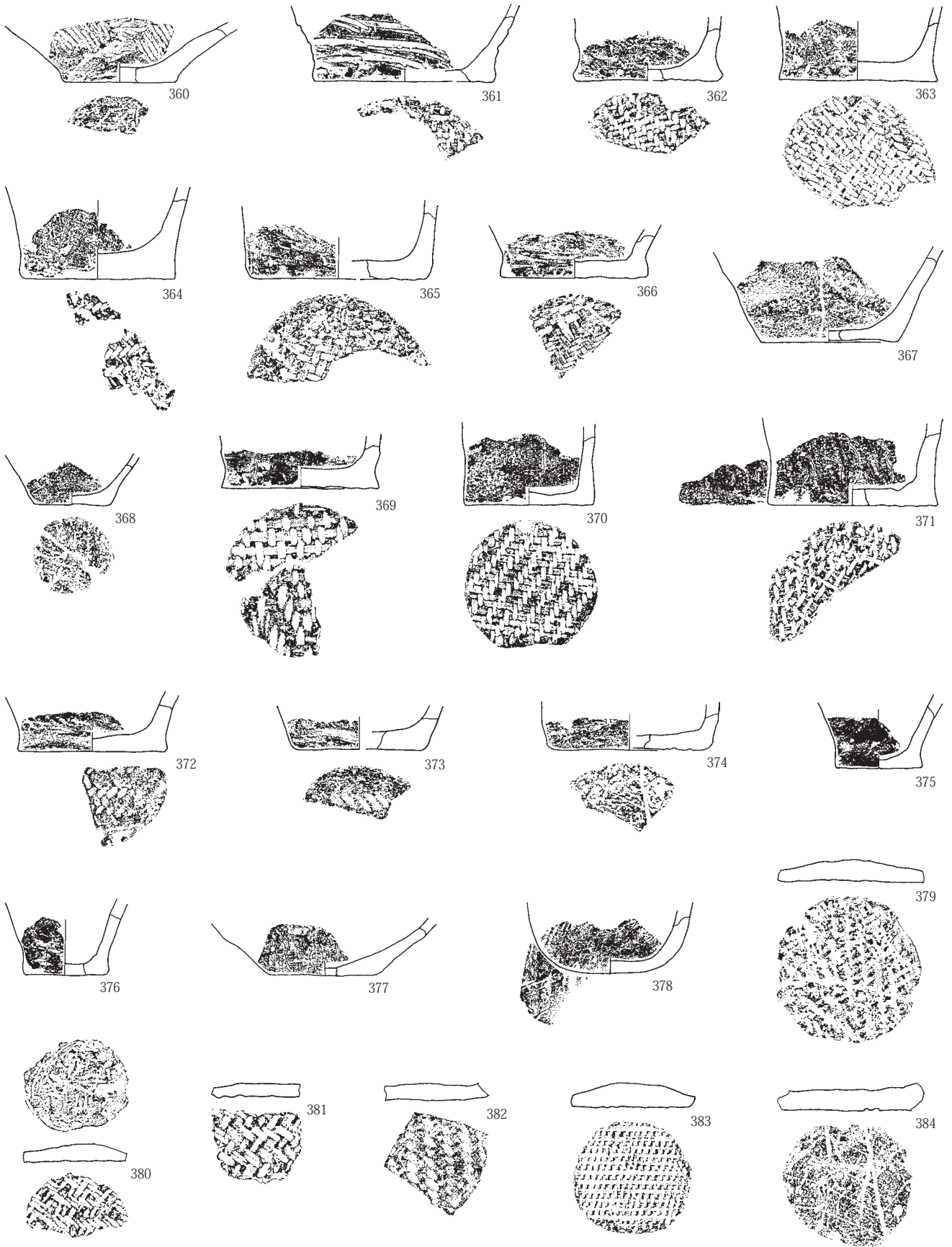
第146図 遺構外出土遺物(9)



第147図 遺構外出土遺物(10)

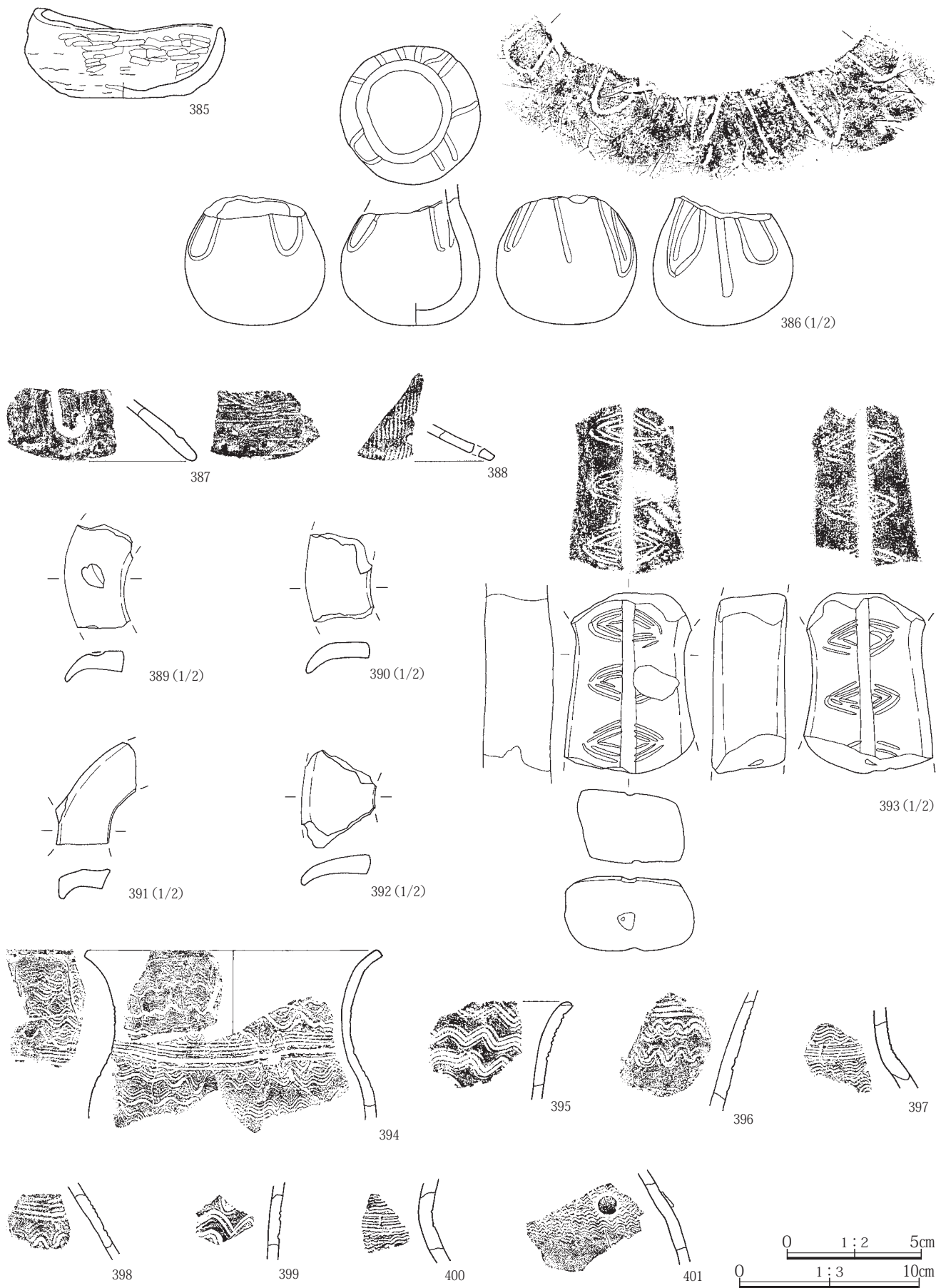


第148図 遺構外出土遺物(11)



0 1:3 10cm

第149図 遺構外出土遺物(12)



第150図 遺構外出土遺物(13)



第151図 弥生土器出土分布図

遺物観察表

表6 遺物観察表

1号再葬墓

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高				
第128図 PL.102	1	弥生土器 壺形土器	口縁～底部3/4	口底 9.0	(30.4)	高 (88.5)	白色砂粒多/橙色	今回出土した弥生土器中最大の大きさである。長胴で中位やや上で最大径を測る。口縁部やや下位に指頭による押圧突帯が廻る、頸部以下には条痕による整形が行われる。単位は幅約1.4cmで、5ないし6条が観察される。頸部から肩部ではほぼ水平方向、以下底部までは右下がりとなる。施文具の方向は右→左で、底部から胴中位、胴中位から肩部、肩部から口縁部と三分割の整形段階を踏んでいる。また、口縁部内側には横位、縦位の集合沈線文が交互に施文されている。胴中位部に沈線による文様が見られる。図の正面には4本の沈線で鋳形状の文様を、裏側には5本の縦沈線がやや不規則に並ぶ、さらに正面から左側約90°の位置に短沈線によりハ状の文様が描かれている。底部に網代痕。	弥生中期
第128図 PL.103	2	弥生土器 壺形土器	ほぼ完形	口底 4.9	6.9	高 13.5	砂粒/灰黄褐色	小型壺形土器、胴やや上位に最大径を有す、頸部は細くなって立ち上がり口縁部は僅かに開く。口縁部有段で肥厚、横位の縄文LR施文。肩部以下全面に細縄文LR横位施文。底面に網代痕。鉄分付着顕著。	弥生中期
第129図 PL.103	3	弥生土器 壺形土器	胴部1/3				砂粒多/黒褐色	胴上部は左回りに縦位の羽状条痕。一部に粗い条痕文。胴下半部は斜位の条痕文。外面上部にスス付着。	弥生中期
第129図 PL.103	4	弥生土器 壺形土器	胴部				砂粒多/黒褐色	肩部片、頸部から縦位の条痕文後横位条痕文、以下羽状条痕文施文。3と同一個体。スス付着。	弥生中期
第129図 PL.103	5	弥生土器 鉢形土器	胴部片				精製/灰黄褐色	変形工字文か、以下細縄文LR横位施文。	弥生中期
第129図 PL.103	6	礫石器 軽石製品	完形	長幅 4.8	6.0	厚重 2.4 38	軽石	偏平な楕円形に成形。	

土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高				
第134図 PL.103	1	縄文土器 深鉢	118号土坑 胴部片				微砂粒/にぶい 橙色	横位の沈線、縄文LR施文。	中期後葉
第134図 PL.103	2	弥生土器 鉢形土器	118号土坑 胴部片				微砂粒/浅黄褐色	変形工字文。	弥生中期
第134図 PL.103	1	縄文土器 深鉢	121号土坑 胴部片				砂粒/明赤褐色	無文であるが、無調整。内面は良く研磨される。	中期後葉
第134図 PL.103	1	弥生土器 甕形土器	154号土坑 底部片	底	6.0		砂粒/にぶい黄 褐色	胴部はほぼ直立か、網代痕。	弥生中期
第134図 PL.103	1	弥生土器 甕形土器	191号土坑 口縁部片				砂粒/にぶい黄 褐色	横位の細縄文LR施文、沈線文。	弥生中期
第134図 PL.103	1	弥生土器 鉢形土器	332号土坑 胴部片				砂粒/にぶい黄 褐色	細縄文LR横位、三角連繫文。333号土坑出土の1は同一個体。	弥生中期
第134図 PL.103	1	弥生土器 鉢形土器	333号土坑 口縁部片				砂粒/黄褐色	細縄文LR横位、三角連繫文。赤彩？	弥生中期
第134図 PL.103	2	弥生土器 甕形土器	333号土坑 胴部片				微砂粒/褐色	無文胴部片。	弥生中期
第134図 PL.103	3	弥生土器 甕形土器	333号土坑 胴部片				微砂粒/明褐色	斜位条痕施文後、間隔を置いて縦位の条痕文。	弥生中期
第134図 PL.103	1	弥生土器 甕形土器	338号土坑 胴部片				微砂粒/にぶい 黄褐色	縦位条痕文。	弥生中期
第134図 PL.103	1	弥生土器 筒形土器	340号土坑 ほぼ完形	口底 10.6	7.9	高 25.9	砂粒少/黒褐色	筒形で底部はやや張り出し、胴中位で僅かに縮まり、肩から頸部に掛けやや括れ、口縁部は沈線が廻り僅かに開き短く直立。肩部に横位4単位の変形工字文描き、工字文の両端部、始点部分が小突起状に盛り上がる。以下横位沈線を3本、2本、3本と廻らす。口縁部から胴部には縄文LRが横位施文されているが、部分的に磨り消される。底部網代痕。	弥生中期
第134図 PL.103	2	弥生土器 鉢形土器	340号土坑 ほぼ完形	口底 7.7	19.1	高 7.0	砂粒(石英粒)多/ 褐色	12単位の小波状口縁、波頂部に刻み状の凹み有す。口縁部に横位沈線で画された縄文LR横位帯。以下、沈線による4単位の向上き、下向きの弧状長円形文配し、間には円形文を描く。さらに、底部近くに横位の沈線廻らす。文様内には細縄文LRを充填施文する。口縁部は内側が肥厚し、1対の円孔有す。	弥生中期
第135図 PL.103	1	弥生土器 甕形土器	342号土坑 口縁～胴部	口	(24.0)		砂粒多/橙色	丸みを持つ胴部から肩部やや縮まり、口縁部はほぼ直立する。口縁に1条、肩部に3条の沈線が廻り、以下斜位の条痕文。外面スス付着。	弥生中期
第135図 PL.103	2	弥生土器 甕形土器	342号土坑 胴部片				砂粒多/橙色	丸みを持つ胴部片、上位には綾杉状を意識した条痕文、下部は斜位方向の条痕文。肩部にスス付着。	弥生中期
第135図 PL.103	3	縄文土器 深鉢	342号土坑 口縁部片				砂粒/明黄褐色	口縁部に横位沈線、縄文LR横位、縦位に施文。	中期後葉末
第135図 PL.103	4	弥生土器 甕形土器	342号土坑 胴部片				微砂粒/にぶい 黄褐色	沈線による曲線文、縄文LR充填施文。	弥生中期

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第135図 PL.104	1	弥生土器 甕形土器	345号土坑 胴部片				石英粒/にぶい黄 橙色	部分的に条痕文見られる。	弥生中期
第135図 PL.104	2	弥生土器 鉢形土器	345号土坑 底部片	底	(9.3)		砂粒/橙色	縄文RL施文、下位に横位の沈線廻る。底部木葉痕。	弥生中期
第135図 PL.104	3	礫石器 磨石	345号土坑 完形	長幅	10.4 5.7	厚重 2.6 230	細粒輝石安山岩	偏平な長円礫利用。	
第135図 PL.104	4	礫石器 石皿	345号土坑 欠損	長幅	(26.0) (21.3)	厚重 (6.0) (4120)	粗粒輝石安山岩	一部欠損しほぼ五角形を呈す。縁辺部に稜を有し、使用面は浅く凹んで平滑。裏面には複数の凹み穴が見られる。	
第135図 PL.104	1	弥生土器 壺形土器	346号土坑 口縁部片				砂粒/にぶい黄橙 色	口縁くの字に内屈し折れる部分に連続の押圧文、以下縄文RLか。	弥生中期
第135図 PL.104	1	弥生土器 甕形土器	350号土坑 口縁部片				砂粒/にぶい黄褐 色	やや外反する口縁部、横位沈線で縄文帯画す。	弥生中期
第135図 PL.104	2	弥生土器 甕形土器	350号土坑 胴部片				砂粒/黒褐色	横位沈線間に縄文施文、以下横位の条痕文。	弥生中期
第135図 PL.104	3	剥片石器 石鏃	350号土坑 欠損	長幅	(1.7) (0.7)	厚重 (0.3) (0.2)	黒曜石	先端部片、縦方向に割れる。	
第136図 PL.104	1	弥生土器 ミニチュア 土器	352号土坑 口縁～底部1/2	口底	(4.0) (3.6)	高 (5.6)	砂粒/黒褐色	底部からやや膨らみを持って立ち上がり、口縁部は内湾する。口縁部に突起痕見られる。外面、底面に丁寧な研磨痕。20m程離れた場所出土した破片が接合。	弥生中期
第136図 PL.104	1	弥生土器 甕形土器	354号土坑 胴部片				砂粒/にぶい褐色	横位条痕文。	弥生中期
第136図 PL.104	2	弥生土器 甕形土器	354号土坑 胴部片			径 5.8	微小石英粒/黒褐色	甕の胴部片を土製円盤状に丸く打ち欠く、条痕文、外面にスス附着。	弥生中期
第136図 PL.104	1	弥生土器 甕形土器	356号土坑 胴部片				微砂粒/黒褐色	条痕文。	弥生中期
第136図 PL.104	1	弥生土器 筒形土器	360号土坑 胴部片				砂粒/黄褐色	沈線による横長の矩形文様描き、文様内に細縄文LRを横位施文。	弥生中期
第136図 PL.104	1	弥生土器 甕形土器	361号土坑 底部片				砂粒/暗褐色	底部片、網代痕有り。	弥生中期
第136図 PL.104	1	弥生土器 筒形土器	362号土坑 口縁部片				砂粒/暗オリーブ 褐色	横位の沈線文、縄文LR横位。僅かに赤彩痕残る。3と同一か。	弥生中期
第136図 PL.104	2	弥生土器 壺形土器	362号土坑 口縁部片				微砂粒/にぶい黄 橙色	やや外反して立ち上がる口縁部片、口唇部に縄文LR横位施文。	弥生中期
第136図 PL.104	3	弥生土器 筒形土器	362号土坑 胴～底部	底	(8.6)		砂粒/にぶい黄褐 色	沈線による横長矩形文を重層に描き、文様内を横位縄文LRで充填施文する。	弥生中期
第136図 PL.104	4	弥生土器 甕形土器	362号土坑 胴部片				微砂粒/にぶい黄 橙色	斜位の併行沈線文。	弥生中期
第136図 PL.104	5	弥生土器 甕形土器	362号土坑 胴部片				砂粒/暗褐色	沈線による三角連繫文。地文に斜位条痕。	弥生中期
第136図 PL.104	6	弥生土器 甕形土器	362号土坑 胴部片				砂粒/明黄褐色	粗い斜位条痕文。	弥生中期
第136図 PL.104	7	弥生土器 甕形土器	362号土坑 胴部片				砂粒/黄褐色	僅かに斜位条痕文見られる。	弥生中期
第136図 PL.104	8	弥生土器 甕形土器	362号土坑 胴～底部	底	9.0× 8.4		砂粒/明赤褐	縦位条痕文。胴下半部、欠損部に面取り見られることから、再利用品と考えられる。歪み著しく、鉄分の附着著しい。底部網代痕。	弥生中期
第137図 PL.104	1	弥生土器 甕形土器	363号土坑 胴部片				砂粒/明褐色	横位沈線文、細縄文RL多方向施文。	弥生中期
第137図 PL.104	2	弥生土器 甕形土器	363号土坑 胴部片				砂粒/褐色	粗い斜位条痕。	弥生中期
第137図 PL.104	3	剥片石器 石鏃	363号土坑 欠損	長幅	(2.8) 1.5	厚重 0.5 1.4	流紋岩	凸基無茎、やや細身の端正な作り。	
第137図 PL.104	4	礫石器 磨石	363号土坑 完形	長幅	17.3 10.0	厚重 5.5 1525	変質安山岩	偏平な長楕円礫、両面使用により平滑。	
第137図 PL.105	1	弥生土器 甕形土器	364号土坑 胴部片				砂粒/明褐色	斜位条痕文。	弥生中期
第137図 PL.105	2	弥生土器 甕形土器	364号土坑 底部片				砂粒多/にぶい黄 色	底部片、網代痕見られる。	弥生中期
第137図 PL.105	1	弥生土器 壺形土器	365号土坑 口縁部片				精製/黒褐色	外反する壺の口縁部片、口縁に縄文施文帯、細縄文LR横位。赤彩残る。	弥生中期
第137図 PL.105	2	弥生土器 鉢形土器	365号土坑 口縁部片				微砂粒/暗褐色	口縁部、口唇部平らで横位沈線と縄文LR。赤彩。	弥生中期
第137図 PL.105	3	弥生土器 壺形土器	365号土坑 胴部片				砂粒/にぶい赤褐 色	刺突文。	弥生中期
第137図 PL.105	4	弥生土器 甕形土器	365号土坑 胴部片				砂粒/浅黄褐色	縦位方向粗い条痕、内外面にスス附着。	弥生中期
第137図 PL.105	5	弥生土器 甕形土器	365号土坑 胴部片				砂粒/にぶい黄橙 色	斜位条痕。	弥生中期
第137図 PL.105	6	弥生土器 甕形土器	365号土坑 胴部片				砂粒/橙色	斜位条痕。	弥生中期
第137図 PL.105	7	弥生土器 甕形土器	365号土坑 底部片				砂粒/にぶい黄橙 色	端部がはり出す底部片。網代痕。	弥生中期

遺物観察表

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
				長	幅	厚				
第137図 PL.105	8	剥片石器 石鏃	365号土坑 石損	長 幅	(1.7) (1.4)	厚 重	0.3 (0.4)	黒曜石	凹基無茎、挟り深く、長脚と見られるが脚の端部を欠く。	
第137図 PL.105	9	礫石器 磨石	365号土坑 完形	長 幅	6.2 5.7	厚 重	4.0 195	粗粒輝石安山岩	やや偏平な小円礫、表面は平滑。	
第137図 PL.105	1	弥生土器 甕形土器	373号土坑 胴部片					砂粒/橙色	異方向斜位条痕文。	弥生中期
第137図 PL.105	1	弥生土器 鉢形土器	376号土坑 口縁部片					石英、砂粒/にぶ い黄橙色	口縁に横位沈線、以下縄文。	弥生中期

遺構外

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
				口						
第138図 PL.105	1	弥生土器 壺形土器	74区W-17 口縁部片	口	(15.0)			砂粒/褐色	口縁端部に押圧突帯文、以下横位条痕文。内面にスス付着。	弥生中期
第138図 PL.105	2	弥生土器 壺形土器	74区T-5 口縁部片					砂粒/赤褐色	口縁部に刻み突帯。	弥生中期
第138図 PL.105	3	弥生土器 壺形土器	74区O-12 口縁部片					砂粒/暗褐色	爪形刺突文を2段に配す。	弥生中期
第138図 PL.105	4	弥生土器 壺形土器	74区P-7 口縁部片					砂粒/灰褐色	口縁部に刻み突帯。	弥生中期
第138図 PL.105	5	弥生土器 壺形土器	74区P-14 口縁部片					砂粒/にぶい橙色	口唇隆帯に2列の横位刺突文。	弥生中期
第138図 PL.105	6	弥生土器 壺形土器	74区P-7 口縁部片					砂粒/褐色	口縁部刻み突帯、以下横位集合沈線文。	弥生中期
第138図 PL.105	7	弥生土器 壺形土器	74区X-15 胴部片					砂粒/褐色	指頭押圧突帯、横位の集合沈線文。	弥生中期
第138図 PL.105	8	弥生土器 壺形土器	74区S-15 口縁部片	口	(6.0)			砂粒多/にぶい褐 色	口縁部刻み突帯、以下横位集合沈線文。	弥生中期
第138図 PL.105	9	弥生土器 壺形土器	74区W-8 口縁部片					砂粒/褐色	縦位の矢羽根状沈線文。	弥生中期
第138図 PL.105	10	弥生土器 壺形土器	74区W-14 口縁部片					砂粒/暗褐色	口唇部に押圧文、以下羽状様の条痕文。	弥生中期
第138図 PL.105	11	弥生土器 壺形土器	74区P-14 口縁部片					砂粒/暗灰黄色	口縁部外反、斜位の条痕文。	弥生中期
第138図 PL.105	12	弥生土器 壺形土器	75区E-20 胴部片					細砂粒/にぶい橙 色	上端部、刻み文か、横位、山形の櫛歯文。	弥生中期
第138図 PL.105	13	弥生土器 壺形土器	74区P-15 口縁～胴部片	口	(7.6)			砂粒多/暗灰黄色	横に張った肩部から口縁部は直立気味に立ち上がる。横位集合沈線文を複数回に描き分け、肩部は連続に描き一周させ、さらに波状文様を描く。	弥生中期
第138図 PL.105	14	弥生土器 壺形土器	74区S-15 口縁部片					砂粒/にぶい黄橙 色	口縁部に刻み、櫛状工具による波状文を多段施文。内面には横位施文、さらに口縁内側上部には、間隔を置いて上からの押圧文付される。	弥生中期
第138図 PL.105	15	弥生土器 壺形土器	74区T-6 口縁部片					雲母混入/暗褐色	口縁部斜めの連続刻み文、以下横位の条痕文。薄手の土器。	弥生中期
第138図 PL.105	16	弥生土器 壺形土器	74区O-14 口縁～胴部片					微砂粒/灰黄褐色	やや外反する口縁部横位の条痕文、外面にスス付着。	弥生中期
第138図 PL.105	17	弥生土器 壺形土器	74区P-14・15 口縁部片	口	(20.0)			微砂粒/にぶい褐 色	口縁部縄文帯LR施文。器面研磨。	弥生中期
第138図 PL.105	18	弥生土器 壺形土器	74区U-9 口縁部片	口	(9.8)			砂粒/黒褐色	口縁部縄文帯LR施文。外面にスス付着。	弥生中期
第138図 PL.105	19	弥生土器 壺形土器	74区S-6 口縁部片	口	(9.6)			微砂粒/灰黄褐色	口縁部縄文帯LR施文。	弥生中期
第138図 PL.105	20	弥生土器 壺形土器	74区R-14 口縁部片	口	(8.6)			微砂粒/にぶい黄 褐色	口縁部縄文LR。	弥生中期
第138図 PL.105	21	弥生土器 壺形土器	74区U-14 口縁部片	口	(7.0)			砂粒/にぶい赤褐 色	口縁部やや突起した縄文帯、LR横位施文。	弥生中期
第138図 PL.105	22	弥生土器 壺形土器	74区Q-15 口縁部片					砂粒/暗褐色	口縁部、外面に縄文帯LR。	弥生中期
第138図 PL.105	23	弥生土器 壺形土器	74区P-15 口縁部片					微砂粒/にぶい黄 褐色	口縁部縄文LR。	弥生中期
第138図 PL.105	24	弥生土器 壺形土器	74区S-6 口縁部片					微砂粒/黒褐色	口縁部縄文帯LR。内外外面面にスス付着。	弥生中期
第138図 PL.105	25	弥生土器 壺形土器	74区V-16 口縁部片					微砂粒/黄褐色	口縁部縄文帯LR。	弥生中期
第138図 PL.105	26	弥生土器 壺形土器	74区R-15 口縁部片					砂粒/にぶい黄褐 色	口縁部縄文帯LR。	弥生中期
第138図 PL.105	27	弥生土器 壺形土器	74区P-13 口縁部片					微砂粒/にぶい橙 色	口縁部縄文帯LR。	弥生中期
第138図 PL.105	28	弥生土器 壺形土器	74区U-15 口縁部片					微砂粒/暗褐色	口縁部縄文帯LR。赤彩痕。	弥生中期
第138図 PL.105	29	弥生土器 壺形土器	74区S-15 口縁部片					砂粒/にぶい黄褐 色	口縁部縄文LR横位施文。	弥生中期

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第138図 PL.105	30	弥生土器 壺形土器	74区T-12 口縁~胴部片	口	(20.2)		砂粒多/にぶい褐色	外傾して立ち上がる。口縁部外側に肥厚し縄文施文、沈線による円形文描き、中は無文。周囲は縄文LR施文。	弥生中期
第138図 PL.105	31	弥生土器 壺形土器	74区T-14 口縁~胴部片	口	(12.8)		微砂粒/暗灰黄色	口縁部縄文帯、変形工字文。	弥生中期
第138図 PL.105	32	弥生土器 壺形土器	74区P-6 口縁部片				砂粒/灰褐色	口縁に2本沈線、以下縄文施文。内面整形痕、外面に赤彩痕。脚部の可能性も。	弥生中期
第138図 PL.105	33	弥生土器 壺形土器	74区U-13 口縁部片				砂粒/褐灰色	口縁部縄文施文された隆帯廻り、以下縄文RL施文。	弥生中期
第138図 PL.105	34	弥生土器 壺形土器	74区P-6 口縁部片				砂粒/にぶい赤褐色	口縁部沈線伴う横位隆帯、以下縄文LR施文。口唇部には縄文、内側に連続する押圧文。	弥生中期
第138図 PL.105	35	弥生土器 壺形土器	74区P-14 口縁部片				砂粒/暗褐色	口唇上部に無節縄文L施文。下位に横位の沈線見える。	弥生中期
第138図 PL.105	36	弥生土器 壺形土器	74区P-12 口縁部片				砂粒/にぶい褐色	やや外反、縄文LR。	弥生中期
第138図 PL.105	37	弥生土器 壺形土器	74区O-11 口縁部片				砂粒/暗褐色	やや外反、無文。	弥生中期
第138図 PL.105	38	弥生土器 壺形土器	74区U-6 口縁~胴部片	口	(9.1)		砂粒/褐色	ほぼ直立し、口縁部やや外反、無文で外面にスス附着。	弥生中期
第139図 PL.105	39	弥生土器 壺形土器	74区P-18 胴部片				砂粒多/にぶい黄褐色	横位沈線?下に縦長の横位連続波状文様描く。横位条痕文。	弥生中期
第139図 PL.105	40	弥生土器 壺形土器	74区T-6 胴部片				砂粒/褐色	横位条痕文、縦位の集合沈線文。	弥生中期
第139図 PL.105	41	弥生土器 壺形土器	74区P-13 胴部片				砂粒/橙色	櫛状工具による縦位連続羽状文か。	弥生中期
第139図 PL.105	42	弥生土器 壺形土器	74区S-17 胴部片				微砂粒/にぶい黄褐色	頸部片、横位、縦位の集合沈線文。	弥生中期
第139図 PL.105	43	弥生土器 壺形土器	74区W-13 頸部片				砂粒/にぶい褐色	縦位、横位に条痕文。	弥生中期
第139図 PL.105	44	弥生土器 壺形土器	74区P-15 胴部片				砂粒多/灰黄褐色	横位沈線間に縦位の短沈線文廻らす。	弥生中期
第139図 PL.105	45	弥生土器 壺形土器	74区Q-14 胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	斜位、横位の集合沈線文。	弥生中期
第139図 PL.105	46	弥生土器 壺形土器	74区S-15 胴部片				砂粒/灰黄褐色	横位沈線間に縦の短沈線文を横位連続施文。器面風化。	弥生中期
第139図 PL.105	47	弥生土器 壺形土器	74区O-17 胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	横位矢羽根状条痕文。	弥生中期
第139図 PL.105	48	弥生土器 壺形土器	74区M-10 胴部片				砂粒/暗褐色	縦位の連続山形文。	弥生中期
第139図 PL.105	49	弥生土器 壺形土器	74区T-5 胴部片				砂粒/赤褐色	横位多段沈線文、下位には横位連続矢羽根状文。	弥生中期
第139図 PL.105	50	弥生土器 壺形土器	74区W-8 胴部片				砂粒/褐色	横位多段沈線、下位に横位連続の山形文見られる。	弥生中期
第139図 PL.105	51	弥生土器 壺形土器	74区S-14 胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	横位連続矢羽根状沈線文。	弥生中期
第139図 PL.105	52	弥生土器 壺形土器	74区P-6 胴部片				砂粒/灰黄褐色	縦位4本の沈線、左右に横位矢羽状沈線重層して配す。	弥生中期
第139図 PL.105	53	弥生土器 壺形土器	74区R-10 頸部片				砂粒/灰黄褐色	縦位矢羽根状沈線文。	弥生中期
第139図 PL.106	54	弥生土器 壺形土器	74区P-11 胴部片				微砂粒/にぶい黄褐色	複数沈線を横位に施文、僅かに山形を呈す。円孔あり。	弥生中期
第139図 PL.106	55	弥生土器 壺形土器	74区R-15 胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	横位の集合沈線文。	弥生中期
第139図 PL.106	56	弥生土器 壺形土器	74区U-16 頸部片				砂粒/赤褐色	不連続に横位条痕文。	弥生中期
第139図 PL.106	57	弥生土器 壺形土器	74区P-11 頸部片				砂粒/褐色	横位条痕文。	弥生中期
第139図 PL.106	58	弥生土器 壺形土器	74区O-11 頸部片				砂粒/暗赤褐色	横位沈線施文後に波状文様か。	弥生中期
第139図 PL.106	59	弥生土器 壺形土器	74区Q-14 胴部片				微砂粒/にぶい黄褐色	横位多段沈線、横位波状沈線文。	弥生中期
第139図 PL.106	60	弥生土器 壺形土器	74区Q-14 胴部片				砂粒/暗褐色	横位沈線文、重四角文様描く。外面に赤彩痕。	弥生中期
第139図 PL.106	61	弥生土器 壺形土器	74区T-12 胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	縦位3本の沈線、左右に横位矩形楕円文描く。外面赤彩。	弥生中期
第139図 PL.106	62	弥生土器 壺形土器	74区S-15 胴部片				微砂粒/灰黄褐色	複数沈線による波状文様か。	弥生中期
第139図 PL.106	63	弥生土器 壺形土器	74区S-7 胴部片				微砂粒/褐灰色	沈線によるU状文。外面に赤彩か。	弥生中期
第139図 PL.106	64	弥生土器 壺形土器	74区P-10 胴部片				砂粒/褐色	簾状文下に波状文。	弥生後期
第139図 PL.106	65	弥生土器 壺形土器	74区P-14 ~ 16 口縁部片				砂粒/にぶい黄褐色	口縁部内傾、横位沈線、三角連繫文描くか。	弥生中期

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第139図 PL.106	66	弥生土器 壺形土器	74区O-18 口縁部片				砂粒/褐色	多段横位沈線で口縁部には縄文帯、下位には三角文意匠か。外面スス付着。	弥生中期
第139図 PL.106	67	弥生土器 壺形土器	74区P-14 胴部片				砂粒多/灰黄褐色	変形工字文、縄文LR。	弥生中期
第139図 PL.106	68	弥生土器 壺形土器	74区P-6 胴部片				砂粒多/灰黄褐色	変形工字文、縄文LR。	弥生中期
第139図 PL.106	69	弥生土器 壺形土器	74区Q-18 口縁~胴部片	口	(13.6)		砂粒(石英粒)/に ぶい黄褐色	口縁部くの字に外反、口縁下に不連続横位沈線、胴部は変形工字文。縄文LR施文。	弥生中期
第139図 PL.106	70	弥生土器 壺形土器	74区P-15 口縁部片	口	(11.2)		砂粒/黒褐色	頸部短く口縁部はほぼ水平に開く、肩部以下横位LR縄文施文。	弥生中期
第139図 PL.106	71	弥生土器 壺形土器	74区P-6 口縁部片	口	(13.0)		砂粒/明赤褐色	口縁部は短く立ち上がって外反、口縁内外面に横位沈線、肩部以下変形工字文。	縄文晩期
第140図 PL.106	72	弥生土器 壺形土器	74区Q-7 口縁部片				砂粒/褐色	小波状口縁。縄文RL全面施文。	弥生中期
第140図 PL.106	73	弥生土器 壺形土器	74区V-14 口縁部片				砂粒/灰黄褐色	やや内湾する器形、変形工字文、縄文施文。	弥生中期
第140図 PL.106	74	弥生土器 壺形土器	74区Q-14 口縁部片				砂粒/黒褐色	口縁部横位沈線、以下曲線文様描く。外面に赤彩痕。脚部の可能性も。	弥生中期
第140図 PL.106	75	弥生土器 壺形土器	74区S-7、T-6 胴部片				砂粒/暗褐色	胴中位に横位沈線、上位には沈線で三角意匠の連続文様。縄文LR充填施文。	弥生中期
第140図 PL.106	76	弥生土器 壺形土器	74区T-6 胴部片				微砂粒/黒褐色	沈線により矩形文内に横楕円文描く、縄文LR充填施文。外面スス付着。	弥生中期
第140図 PL.106	77	弥生土器 壺形土器	74区M-18 胴部片				砂粒/黒褐色	沈線による曲線文、文様内は無文。縄文LR施文。	弥生中期
第140図 PL.106	78	弥生土器 壺形土器	74区R-7 胴部片				砂粒/灰黄褐色	沈線による矩形文様、縄文LR施文。外面赤彩痕。	弥生中期
第140図 PL.106	79	弥生土器 壺形土器	74区J-9 胴部片				砂粒/灰黄褐色	沈線による円形文か、縄文施文。外面に赤彩痕。	弥生中期
第140図 PL.106	80	弥生土器 壺形土器	75区R-21 胴部片				砂粒/にぶい黄橙 色	沈線による三角文様描く。縄文LR。	弥生中期
第140図 PL.106	81	弥生土器 壺形土器	74区P-15 胴部片				砂粒/灰黄褐色	変形工字文、縄文LR施文。	弥生中期
第140図 PL.106	82	弥生土器 壺形土器	74区S-17 胴部片				砂粒/にぶい黄褐 色	変形工字文、縄文LR。	弥生中期
第140図 PL.106	83	弥生土器 壺形土器	74区T-16 胴部片				砂粒/にぶい黄橙 色	変形工字文、縄文LR。内面撫で痕顕著に残る。	弥生中期
第140図 PL.106	84	弥生土器 壺形土器	74区P-18 胴部片				砂粒/灰黄褐色	変形工字文、縄文LR。	弥生中期
第140図 PL.106	85	弥生土器 壺形土器	74区R-14 胴部片				砂粒/黒褐色	変形工字文、縄文LR施文。	弥生中期
第140図 PL.106	86	弥生土器 壺形土器	74区T-15 胴部片				砂粒/灰黄褐色	沈線による曲線文、縄文LR。	弥生中期
第140図 PL.106	87	弥生土器 壺形土器	74区O-19 胴部片				微砂粒/にぶい黄 褐色	縦位沈線間に横からの刺突文を充填、一部曲線文。	弥生中期
第140図 PL.106	88	弥生土器 壺形土器	74区X-16 胴部片				微砂粒/にぶい黄 褐色	正面からの刺突文、曲線文。	弥生中期
第140図 PL.106	89	弥生土器 壺形土器	74区S-15 胴部片				砂粒/灰黄褐色	沈線による曲線文様、縄文LR充填。	弥生中期
第140図 PL.106	90	弥生土器 壺形土器	74区R-7 口縁~胴部片				砂粒/明赤褐色	縄文施文後、縦位沈線、曲線文。	弥生中期
第140図 PL.106	91	弥生土器 壺形土器	74区P-6 胴部片				砂粒/にぶい黄橙 色	横位沈線文、縄文LR。内面に赤彩。	弥生中期
第140図 PL.106	92	弥生土器 壺形土器	74区W-16 胴部片				微砂粒/灰褐色	横位の沈線文下に縄文施文。	弥生中期
第140図 PL.106	93	弥生土器 壺形土器	74区P-15 胴部片				砂粒/にぶい黄橙 色	平行横位沈線、縄文LR施文。	弥生中期
第140図 PL.106	94	弥生土器 壺形土器	74区P-15 胴部片				微砂粒/黒色	変形工字文、縄文LR。外面に赤彩。	弥生中期
第140図 PL.106	95	弥生土器 壺形土器	74区S-14 胴部片				砂粒/にぶい黄褐 色	縄文LR施文後横位沈線文、下位には斜位の条痕文。	弥生中期
第140図 PL.106	96	弥生土器 壺形土器	74区V-17 胴部片				砂粒/黒褐色	沈線による矩形文様、縄文LR。	弥生中期
第140図 PL.106	97	弥生土器 壺形土器	74区U-14 胴部片				砂粒/褐灰色	沈線による変形工字文描くか、下位に縄文LR。	弥生中期
第140図 PL.106	98	弥生土器 壺形土器	74区V-17 胴部片				砂粒/明褐色	横位沈線、横楕円文、縄文LR。外面赤彩。	弥生中期
第140図 PL.106	99	弥生土器 壺形土器	75区R-20 胴部片				細砂粒/にぶい黄 褐色	横位沈線文、地文縄文LR。	弥生中期
第140図 PL.106	100	弥生土器 壺形土器	74区O-18 胴部片				微砂粒/にぶい黄 褐色	沈線による横楕形楕円文を多段に描く。縄文LR充填施文。	弥生中期
第140図 PL.106	101	弥生土器 壺形土器	74区T-15 胴部片				微砂粒/黒褐色	変形工字文、縄文LR。	弥生中期

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第140図 PL.106	102	弥生土器 壺形土器	74区N-17 胴部片				砂粒/黒褐色	横位沈線、地文は縦位条痕か。	弥生中期
第140図 PL.106	103	弥生土器 壺形土器	74区U-13 胴部片				微砂粒/にぶい黄 橙色	変形工字文、押圧文見られる。	弥生中期
第140図 PL.106	104	弥生土器 壺形土器	74区O-18 胴部片				微砂粒/暗褐色	変形工字文か、縄文LR。	弥生中期
第140図 PL.106	105	弥生土器 壺形土器	74区O-13 胴部片				砂粒/にぶい黄橙 色	櫛歯工具による連続弧状文、縄文LR充填施文。	弥生中期
第140図 PL.106	106	弥生土器 壺形土器	74区U-13 胴部片				砂粒/灰黄褐色	突起する円形文から左右に沈線による横U字文様描く。 下位に縄文施文。	弥生中期
第141図 PL.106	107	弥生土器 壺形土器	74区W-16 胴部片				砂粒/褐色	縄文LR施文、横位沈線文。内面にスス附着。	弥生中期
第141図 PL.106	108	弥生土器 壺形土器	74区P-15 頸～胴部片				砂粒多/にぶい黄 橙色	頸部に横位沈線、以下変形工字文、縄文RLか？	弥生中期
第141図 PL.106	109	弥生土器 壺形土器	74区R-6 胴部片				砂粒/にぶい黄褐 色	縄文LR地に横位併行沈線。	弥生中期
第141図 PL.106	110	弥生土器 壺形土器	74区P-15 胴部片				砂粒/灰黄褐色	横位沈線文、沈線上位に縄文LR。	弥生中期
第141図 PL.106	111	弥生土器 壺形土器	74区P-14 胴部片				砂粒/にぶい黄橙 色	肩部に横位条痕文、下位には縄文LR横位施文。	弥生中期
第141図 PL.106	112	弥生土器 壺形土器	74区S-17 胴部片				砂粒/にぶい黄褐 色	横位沈線文、地文縄文LR。	弥生中期
第141図 PL.106	113	弥生土器 壺形土器	74区Q-19 胴部片				微砂粒/灰黄褐色	上下に横位の沈線文、間を縄文LR横位施文。	弥生中期
第141図 PL.106	114	弥生土器 壺形土器	74区P-7 胴部片				砂粒/灰黄褐色	横位沈線間に縦位の短沈線文、地文に縄文LR。	弥生中期
第141図 PL.106	115	弥生土器 壺形土器	74区K-11 胴部片				砂粒多/にぶい黄 橙色	沈線伴う横位隆帯。上位に縄文RL。	弥生中期
第141図 PL.106	116	弥生土器 壺形土器	74区P-14 頸部				砂粒/にぶい黄褐 色	壺の頸部か、縄文LRを横位全面に施文。外面にスス附着。 鉄分附着。	弥生中期
第141図 PL.106	117	弥生土器 壺形土器	74区N-18 胴部片				砂粒/暗褐色	横位平行沈線文内磨消、縄文LR横位施文。	弥生中期
第141図 PL.106	118	弥生土器 壺形土器	74区T-6 胴部片				砂粒/にぶい黄色	横位並行沈線、その間縄文LR施文。	弥生中期
第141図 PL.106	119	弥生土器 壺形土器	74区P-16 胴部片				微砂粒/褐色	沈線、横からの刺突文。	弥生中期
第141図 PL.106	120	弥生土器 壺か	74区P-7 胴部片				砂粒/褐色	丸みを持った底部片か、無文。	弥生中期か
第141図 PL.106	121	弥生土器 壺形土器	74区Q-14 胴部片				砂粒/にぶい黄橙 色	縄文LR、斜位の細沈線文。	弥生中期
第141図 PL.106	122	弥生土器 壺形土器	348号土坑 胴部片				微砂粒/にぶい黄 色	肩部に横位沈線廻る。	弥生中期
第141図 PL.107	123	弥生土器 壺形土器	74区Q-17 頸部片				微砂粒/にぶい黄 橙色	頸部に沈線廻る、外面にスス附着。	弥生中期
第141図 PL.107	124	弥生土器 壺形土器	74区P-7 頸部片				微砂粒/にぶい黄 橙色	無文頸部の上部に隆帯巡り内傾する口縁部に縄文LR施 文。	弥生中期
第141図 PL.107	125	弥生土器 壺形土器	21号溝 胴部片				砂粒/にぶい橙色	頸部くびれ部に沈線か、以下縄文LRを全面施文。内面 黒色で研磨痕。	弥生中期
第141図 PL.107	126	弥生土器 壺形土器	21号溝 胴部片				砂粒/にぶい橙色	縄文LRを全面施文。内面黒色で研磨痕。	弥生中期
第141図 PL.107	127	弥生土器 壺形土器	74区P-15 胴部片				砂粒/黒褐色	縄文LR。内外面にスス附着。	弥生中期
第141図 PL.107	128	弥生土器 壺形土器	75区R-20 胴部片				細砂粒/にぶい黄 橙色	横位沈線、細縄文LR横位。	弥生中期
第141図 PL.107	129	弥生土器 壺形土器	74区S-7 胴部片				微砂粒/にぶい黄 橙色	細縄文LR横位施文。	弥生中期
第141図 PL.107	130	弥生土器 壺形土器	74区S-15 胴部片				砂粒/黒褐色	縄文RL施文。	弥生中期
第141図 PL.107	131	弥生土器 壺形土器	74区X-11 胴部片				砂粒/にぶい黄褐 色	縄文LR。大きさの違う2種類の縄を使用。	弥生中期
第141図 PL.107	132	弥生土器 壺形土器	74区O-17 胴部片				砂粒/にぶい黄橙 色	縄文LR。	弥生中期
第141図 PL.107	133	弥生土器 壺形土器	74区U-10 胴部片				砂粒/黒褐色	縄文LR。内外面にスス附着	弥生中期
第141図 PL.107	134	弥生土器 壺形土器	74区O-14 胴部片				砂粒/黒褐色	縄文LR。	弥生中期
第141図 PL.107	135	弥生土器 壺形土器	74区U-6 胴部片				微砂粒/灰黄褐色	細縄文LR施文。	弥生中期
第141図 PL.107	136	弥生土器 壺形土器	74区O-12 胴部片				砂粒/にぶい黄褐 色	正反の合。内面研磨。	弥生中期
第141図 PL.107	137	弥生土器 壺形土器	74区Q-17 胴部片				砂粒多/橙色	細縄文LR施文。	弥生中期

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第142図 PL.107	138	弥生土器 甕形土器	74区N-13 口縁部片				砂粒/にぶい黄橙色	口縁部LR横位の縄文帯、下部に沈線。以下無文で研磨。	弥生中期
第142図 PL.107	139	弥生土器 甕形土器	74区W-8 口縁部片				砂粒/にぶい黄褐色	口縁部沈線で縄文帯LR施文。以下無文で横位の沈線か。	弥生中期
第142図 PL.107	140	弥生土器 甕形土器	74区W-16 口縁部片				砂粒/黒褐色	口縁部浅い沈線で縄文帯画し、LR施文。	弥生中期
第142図 PL.107	141	弥生土器 甕形土器	74区W-16 口縁部片				微砂粒/黒褐色	口縁部縄文帯RL。	弥生中期
第142図 PL.107	142	弥生土器 甕形土器	74区U-15 口縁部片				微砂粒/にぶい褐色	横位沈線で画した縄文帯LR。	弥生中期
第142図 PL.107	143	弥生土器 甕形土器	74区Q-19 口縁部片				微砂粒/褐灰色	口縁部斜位の条痕文帯を横位沈線で画す。口唇端部に刻み文。外面スス付着。	弥生中期
第142図 PL.107	144	弥生土器 甕形土器	74区S-7、T-6 口縁部片				微砂粒/にぶい黄橙色	小波状口縁か、口縁部に横位沈線、頸部隆線間は無文、隆線下位には変形工字文か。	縄文晩期
第142図 PL.107	145	弥生土器 甕形土器	74区S-12・14 胴部片				砂粒/黒褐色	頸部無文でやや外反、口縁部外側にやや肥厚し、上端は平らに整形。肩部には三角連繫文。	弥生中期
第142図 PL.107	146	弥生土器 甕形土器	74区P-7 口縁部片				砂粒/灰黄褐色	口縁に2本の横位沈線廻る、以下無文。	弥生中期
第142図 PL.107	147	弥生土器 甕形土器	74区T-6 口縁部片				微砂粒/にぶい橙色	口縁部に横位沈線、以下三角文描くか。	弥生中期
第142図 PL.107	148	弥生土器 甕形土器	74区Q-14 口縁部片				微砂粒/にぶい褐色	口唇部折り返しの肥厚帯、薄く条痕見られる。以下無文。	弥生中期
第142図 PL.107	149	弥生土器 甕形土器	74区Q-7 口縁部片				砂粒多/にぶい黄褐色	口縁部段を持って肥厚、以下無文。	弥生中期
第142図 PL.107	150	弥生土器 甕形土器	74区P-18 口縁部片				砂粒/暗褐色	口縁部無文、頸部に横位沈線巡り、以下横位、斜位の条痕文。	弥生中期
第142図 PL.107	151	弥生土器 甕形土器	74区V-14 口縁部片				砂粒/暗褐色	口縁無文、横位沈線。	弥生中期
第142図 PL.107	152	弥生土器 甕形土器	74区Q-6 口縁部片				砂粒多/にぶい黄橙色	口縁下横位の条痕文。	弥生中期
第142図 PL.107	153	弥生土器 甕形土器	74区N-18 口縁部片				微砂粒/灰黄褐色	やや肥厚する口縁部帯、施文は不明。器面風化。	弥生中期
第142図 PL.107	154	弥生土器 甕形土器	74区V-12 口縁部片	口	(15.0)		砂粒/褐色	波状口縁。口縁外反し、全面に縄文施文。	弥生中期
第142図 PL.107	155	弥生土器 甕形土器	74区P-12・13 口縁～胴部片				雲母混入/暗褐色	頸部のくびれは弱く、口縁部僅かに外反する。横位、斜位の条痕文。スス付着。	弥生中期
第142図 PL.107	156	弥生土器 甕形土器	74区S-15 口縁部片				砂粒多/にぶい黄橙色	やや外反、口唇部刻み。斜位条痕文。	弥生中期
第142図 PL.107	157	弥生土器 甕形土器	74区V-16 口縁部片				砂粒/にぶい黄橙色	斜位の条痕文疎らに見られる。	弥生中期
第142図 PL.107	158	弥生土器 甕形土器	64区F-25 口縁部片				砂粒多/にぶい黄褐色	横位条痕文。	弥生中期
第142図 PL.107	159	弥生土器 甕形土器	74区P-15 口縁部片				砂粒/にぶい黄褐色	無文で外反、頸部に横位条痕か。	弥生中期
第142図 PL.107	160	弥生土器 甕形土器	74区P-14 口縁部片	口	(21.0)		微砂粒/黒褐色	大きく外反する、僅かに斜位の条痕文看取される。内面にスス付着。	弥生中期
第142図 PL.107	161	弥生土器 甕形土器	74区Q-14 口縁部片				砂粒/黒褐色	やや外反する無文口縁部片、外面にスス付着。	弥生中期
第142図 PL.107	162	弥生土器 甕形土器	72区 口縁部片				砂粒/にぶい黄褐色	無文、外面研磨。内面刷毛による撫で痕明瞭に残る。外面にスス付着。薄手土器。	弥生中期
第142図 PL.107	163	弥生土器 甕形土器	83区O-6 口縁部片				雲母混入/暗褐色	無文口縁部片。内外面研磨。	弥生中期
第142図 PL.107	164	弥生土器 甕形土器	74区M-10 口縁部片				砂粒/にぶい黄褐色	口縁部大きく外反。内面にスス付着。	弥生中期
第142図 PL.107	165	弥生土器 甕形土器	74区P-19 胴部片				砂粒、石英粒多/暗褐色	口縁部無文で、やや内傾、胴部撫で、外面にスス付着。内面輪積み痕顕著。	弥生中期
第142図 PL.107	166	弥生土器 甕形土器	74区Q-14 胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	変形工字文。	弥生中期
第142図 PL.107	167	弥生土器 甕形土器	74区S-15 胴部片				砂粒/灰黄褐色	三角連繫文。	弥生中期
第142図 PL.107	168	弥生土器 甕形土器	74区W-16 胴部片				砂粒/黒褐色	三角連繫文。	弥生中期
第142図 PL.107	169	弥生土器 甕形土器	73区S-12 胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	三角連繫文。	弥生中期
第143図 PL.107	170	弥生土器 甕形土器	74区V-16 胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	沈線による三角文意匠か。	弥生中期
第143図 PL.108	171	弥生土器 甕形土器	74区W-16 胴部片				砂粒/黒褐色	横位の沈線文。	弥生中期
第143図 PL.108	172	弥生土器 甕形土器	74区S-14 胴部片				砂粒多/明黄褐色	三角連繫文か。	弥生中期
第143図 PL.108	173	弥生土器 甕形土器	75区Q-20 胴部片				細砂粒/黒褐色	地に条痕文、沈線による文様。	弥生中期

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第143図 PL.108	174	弥生土器 甕形土器	74区L-10・11 胴部片				砂粒/にぶい黄橙色	粗い横位羽状沈線文。	弥生中期
第143図 PL.108	175	弥生土器 甕形土器	74区P-15 胴部片				砂粒/浅黄橙色	条痕施文後、沈線による三角意匠文様か。	弥生中期
第143図 PL.108	176	弥生土器 甕形土器	74区W-16 胴部片				砂粒/黒褐色	横位多段沈線、上位は無文、下位には条痕文見られる。	弥生中期
第143図 PL.108	177	弥生土器 甕形土器	85区Q-1 胴部片				微砂粒/褐色	やや太めの沈線で三角文描くか、内外面にスス附着。	弥生中期
第143図 PL.108	178	弥生土器 甕形土器	74区T-12 胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	横位併行沈線、下位に粗い横位条痕文。外面にスス附着。	弥生中期
第143図 PL.108	179	弥生土器 甕形土器	75区O-19 胴部片				細砂粒/灰褐色	斜位沈線文。	弥生中期
第143図 PL.108	180	弥生土器 甕形土器	74区O-19 胴部片				砂粒/褐灰色	斜位条痕、横位の沈線文。	弥生中期
第143図 PL.108	181	弥生土器 甕形土器	74区U-15 胴部片				砂粒/橙色	条痕文施文後、横位併行沈線。	弥生中期
第143図 PL.108	182	弥生土器 甕形土器	74区L-9 胴部片				砂粒/にぶい褐色	横位沈線文、以下条痕文。	弥生中期
第143図 PL.108	183	弥生土器 甕形土器	74区P-15 胴部片				砂粒/浅黄褐色	横位沈線下位に条痕文。内面に輪積み痕見られる。	弥生中期
第143図 PL.108	184	弥生土器 甕形土器	74区Q-7 胴部片				砂粒/暗褐色	斜位条痕地文、横位沈線文。鉄分沈着。	弥生中期
第143図 PL.108	185	弥生土器 甕形土器	74区V-9 胴部片				砂粒多/黒褐色	横位、縦位の沈線文。	弥生中期
第143図 PL.108	186	弥生土器 甕形土器	74区O-11 胴部片				砂粒多/橙色	三角連繫文、横位沈線文。	弥生中期
第143図 PL.108	187	弥生土器 甕形土器	74区U-15 胴部片				微砂粒/にぶい黄褐色	変形工字文。	弥生中期
第143図 PL.108	188	弥生土器 甕形土器	74区R-7 胴部片				砂粒多/明褐色	頸部に横位2本の沈線。	弥生中期
第143図 PL.108	189	弥生土器 甕形土器	74区T-6 胴部片				砂粒/にぶい赤褐色	沈線による三角意匠文様か、地文条痕文。	弥生中期
第143図 PL.108	190	弥生土器 甕形土器	74区 胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	横位矢羽根状条痕文、波状沈線文。スス附着。	弥生中期
第143図 PL.108	191	弥生土器 甕形土器	74区Q-7 胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	横位併行沈線。	弥生中期
第143図 PL.108	192	弥生土器 甕形土器	74区P-15 胴部片				微砂粒/浅黄色	無文部下に横位沈線。	弥生中期
第143図 PL.108	193	弥生土器 甕形土器	83区N-9 頸部片				砂粒/褐色	くの字に折れる口縁部片、肩部に斜位の集合沈線文。スス附着。	弥生中期
第143図 PL.108	194	弥生土器 甕形土器	74区V-13 胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	斜位条痕施文後、横位沈線。	弥生中期
第143図 PL.108	195	弥生土器 甕形土器	74区P-6 胴部片				砂粒多/灰黄褐色	横位沈線内に縦位短沈線文埋める、上下に横位羽状沈線文か。	弥生中期
第143図 PL.108	196	弥生土器 甕形土器	74区R-16 胴部片				砂粒/灰黄褐色	三角連繫文、縄文LR。	弥生中期
第143図 PL.108	197	弥生土器 甕形土器	74区M-18 胴部片				微砂粒/灰黄褐色	2本の縦短沈線。内外面研磨。	弥生中期
第143図 PL.108	198	弥生土器 甕形土器	74区I-21 胴部片				微砂粒/暗褐色	横位沈線。	弥生中期
第143図 PL.108	199	弥生土器 甕形土器	74区W-16 胴部片				砂粒/褐灰色	条痕施文後、横位の沈線文。	弥生中期
第143図 PL.108	200	弥生土器 甕形土器	74区R-15 胴部片				微砂粒/黒褐色	横位沈線、以下無文。器面研磨。	弥生中期
第143図 PL.108	201	弥生土器 甕形土器	74区T-6 胴部片				微砂粒/にぶい褐色	胴部は縦位細条痕文後撫で、上位に横位5本沈線文。内面スス附着。	弥生中期
第143図 PL.108	202	弥生土器 甕形土器	74区O-14・15 胴部片				砂粒/黒褐色	胴上部片、頸部横位、胴部斜位の条痕文。	弥生中期
第143図 PL.108	203	弥生土器 甕形土器	74区T-6 胴部片				砂粒/灰黄褐色	横位、斜位の条痕文。内面にスス附着。	弥生中期
第144図 PL.108	204	弥生土器 甕形土器	74区S-14 胴部片				砂粒/浅黄褐色	斜位条痕文。	弥生中期
第144図 PL.108	205	弥生土器 甕形土器	74区S-12 胴部片				砂粒/黒褐色	横位条痕文。	弥生中期
第144図 PL.108	206	弥生土器 甕形土器	74区S-6、U-10 胴部片				砂粒多/にぶい黄褐色	斜位条痕文。器面荒れる。	弥生中期
第144図 PL.108	207	弥生土器 甕形土器	74区S-11 胴部片				砂粒/暗褐色	縦位条痕文。	弥生中期
第144図 PL.108	208	弥生土器 甕形土器	74区S-7 胴部片				砂粒/黒褐色	斜位条痕文、内外面にスス附着。	弥生中期
第144図 PL.108	209	弥生土器 甕形土器	74区O-16 胴部片				砂粒/灰黄褐色	横位条痕文。	弥生中期

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第144図 PL.108	210	弥生土器 甕形土器	74区V-16 胴部片				砂粒/暗褐色	斜位条痕文、外面にスス附着。	弥生中期
第144図 PL.108	211	弥生土器 甕形土器	74区P-15 胴部片				砂粒多/浅黄褐色	横位条痕文。	弥生中期
第144図 PL.108	212	弥生土器 甕形土器	74区O-17 胴部片				砂粒多/灰黄褐色	斜位、横位の条痕文。	弥生中期
第144図 PL.108	213	弥生土器 甕形土器	74区S-12・14・15 胴部片				砂粒/灰黄褐色	斜位の条痕施文後、撫で整形。	弥生中期
第144図 PL.108	214	弥生土器 甕形土器	74区T-6 胴部片				砂粒、白色粒多/ 褐色	横位条痕文。	弥生中期
第144図 PL.108	215	弥生土器 甕形土器	74区P-15 胴部片				砂粒/にぶい黄褐 色	斜位条痕文。	弥生中期
第144図 PL.109	216	弥生土器 甕形土器	74区W-16 胴部片				砂粒/褐色	縦位条痕文。	弥生中期
第144図 PL.109	217	弥生土器 甕形土器	74区S-6 胴部片				砂粒多/明黄褐色	斜位条痕文。	弥生中期
第144図 PL.109	218	弥生土器 甕形土器	74区S-14 胴部片				砂粒/にぶい黄橙 色	斜位条痕文。	弥生中期
第144図 PL.109	219	弥生土器 甕形土器	74区T-6 胴部片				砂粒多/にぶい黄 褐色	横位矢羽根状条痕文、横位条痕文。内面撫で痕明瞭。 スス附着。	弥生中期
第144図 PL.109	220	弥生土器 甕形土器	74区R-7 胴部片				砂粒/にぶい黄橙 色	斜位条痕文。内面撫で痕。	弥生中期
第144図 PL.109	221	弥生土器 甕形土器	74区N-18 胴部片				砂粒/にぶい黄褐 色	縦位条痕文。内面にスス附着。	弥生中期
第144図 PL.109	222	弥生土器 甕形土器	74区V-16 胴部片				砂粒/にぶい黄褐 色	斜位条痕文。	弥生中期
第144図 PL.109	223	弥生土器 甕形土器	74区W-8 胴部片				砂粒/褐色	斜位条痕文。内面にスス附着。	弥生中期
第144図 PL.109	224	弥生土器 甕形土器	74区P-13 胴部片				砂粒/にぶい黄褐 色	横位条痕文、内面スス附着。	弥生中期
第144図 PL.109	225	弥生土器 甕形土器	74区P-17 胴部片				砂粒/にぶい黄褐 色	横位、斜位の条痕文。外面にスス附着	弥生中期
第144図 PL.109	226	弥生土器 甕形土器	74区S-12 胴部片				砂粒、白色粒/橙 色	縦位条痕文。	弥生中期
第144図 PL.109	227	弥生土器 甕形土器	74区P-7 胴部片				砂粒多/にぶい黄 橙色	横位条痕文。	弥生中期
第144図 PL.109	228	弥生土器 甕形土器	74区O・P-14 胴部片				砂粒/黒褐色	横位条痕文。	弥生中期
第144図 PL.109	229	弥生土器 甕形土器	74区U-6 胴部片				砂粒/灰黄褐色	斜位条痕文。	弥生中期
第144図 PL.109	230	弥生土器 甕形土器	74区R-16 胴部片				砂粒/黒褐色	横位条痕文。内外面スス附着。	弥生中期
第144図 PL.109	231	弥生土器 甕形土器	74区Q-15 胴部片				砂粒多/にぶい黄 褐色	横位条痕文。	弥生中期
第145図 PL.109	232	弥生土器 甕形土器	74区S-15 胴部片				砂粒/黒褐色	横位沈線、上位に縄文、下位には横位条痕文。外面に スス附着。	弥生中期
第145図 PL.109	233	弥生土器 甕形土器	74区P-14 胴部片				砂粒/にぶい黄橙 色	斜位条痕文。	弥生中期
第145図 PL.109	234	弥生土器 甕形土器	75区P-21 胴部片				砂粒多/にぶい橙 色	横位条痕文。外面スス附着。	弥生中期
第145図 PL.109	235	弥生土器 甕形土器	74区R-15 胴部片				砂粒/褐色	横位条痕文。スス附着。	弥生中期
第145図 PL.109	236	弥生土器 甕形土器	74区U-5 胴部片				砂粒/にぶい黄褐 色	横位条痕文、2本の並行沈線。	弥生中期
第145図 PL.109	237	弥生土器 甕形土器	75区A-19・21、 B-19 胴部片				細砂粒/にぶい黄 橙色	縦位条線文。	弥生中期
第145図 PL.109	238	弥生土器 甕形土器	74区T-12 胴部片				砂粒/にぶい橙 色	横位条痕文。	弥生中期
第145図 PL.109	239	弥生土器 甕形土器	74区P-18 胴部片				砂粒/黒褐色	横位条痕文。	弥生中期
第145図 PL.109	240	弥生土器 甕形土器	74区T-6 胴部片				砂粒/灰黄褐色	横位条痕文。	弥生中期
第145図 PL.109	241	弥生土器 甕形土器	74区V-17 胴部片				砂粒/にぶい黄橙 色	縦位条痕文、内面にスス附着。	弥生中期
第145図 PL.109	242	弥生土器 甕形土器	74区V-18 胴部片				砂粒/橙色	斜位条痕文。	弥生中期
第145図 PL.109	243	弥生土器 甕形土器	74区R-10 底部片				砂粒/にぶい黄橙 色	粗い斜位、横位の条痕文。	弥生中期
第145図 PL.109	244	弥生土器 甕形土器	83区O-4 胴部片				砂粒/にぶい黄褐 色	縦位条痕文。	弥生中期
第145図 PL.109	245	弥生土器 甕形土器	74区P-17 胴部片				砂粒/灰黄褐色	縦位条痕文。	弥生中期

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第145図 PL.109	246	弥生土器 甕形土器	74区U-19 胴部片				砂粒/にぶい褐色	縦位条痕文、外面スス付着。	弥生中期
第145図 PL.109	247	弥生土器 甕形土器	74区P-7 胴部片				微砂粒/にぶい黄 橙色	縦位条痕文。	弥生中期
第145図 PL.109	248	弥生土器 甕形土器	74区S-15 胴部片				砂粒/黒褐色	縦位条痕文、内外面にスス付着。	弥生中期
第145図 PL.109	249	弥生土器 甕形土器	74区P・R-21 胴部片				砂粒/にぶい橙色	横位条痕文。	弥生中期
第145図 PL.109	250	弥生土器 甕形土器	74区S-14 胴部片				砂粒/浅黄色	粗い異方向の条痕文。	弥生中期
第145図 PL.109	251	弥生土器 甕形土器	74区U-6 胴部片				砂粒/にぶい黄褐 色	横位条痕文。	弥生中期
第145図 PL.109	252	弥生土器 甕形土器	74区P-6 胴部片				砂粒/にぶい黄橙 色	横位条痕文。	弥生中期
第145図 PL.109	253	弥生土器 甕形土器	74区R-19 胴部片				砂粒/にぶい黄褐 色	縦位条痕文。	弥生中期
第145図 PL.109	254	弥生土器 甕形土器	74区R-18 胴部片				砂粒/褐色	縦位条痕文。	弥生中期
第145図 PL.109	255	弥生土器 甕形土器	74区R-10 胴部片				砂粒/にぶい黄橙 色	縦位条痕文、内面にスス付着。	弥生中期
第145図 PL.109	256	弥生土器 甕形土器	74区Q-17 胴部片				砂粒/にぶい黄褐 色	やや波打つような縦位の条痕文。	弥生中期
第145図 PL.109	257	弥生土器 甕形土器	74区P-13 胴部片				砂粒/にぶい黄褐 色	横位多段沈線下に横位矢羽根状沈線文。	弥生中期
第145図 PL.109	258	弥生土器 甕形土器	74区S-14 胴部片				砂粒/黒褐色	横位、斜位の条痕文施文後、縦位条痕文を等間隔に施文。	弥生中期
第145図 PL.109	259	弥生土器 甕形土器	83区O-6 胴部片				砂粒/褐色	斜格子状の条線文。	弥生中期
第145図 PL.109	260	弥生土器 甕形土器	74区T-13 胴部片				微砂粒/灰黄褐色	横位条痕下に斜格子状の櫛歯文様施文。	弥生中期
第145図 PL.110	261	弥生土器 甕形土器	74区N-17、 0-17・18 胴部片	底	(8.4)		砂粒/にぶい黄橙 色	斜位条痕文、内面スス付着。底部に網代痕。	弥生中期
第146図 PL.110	262	弥生土器 鉢形土器	74区R-15 口縁～胴部片				砂粒/黒褐色	変形工字文、以下縄文施文。外面に赤彩痕。内面スス付着。	弥生中期
第146図 PL.110	263	弥生土器 鉢形土器	74区S-6 口縁部片				砂粒/暗褐色	横Y状文、横位沈線文。内面スス付着。	弥生中期
第146図 PL.110	264	弥生土器 鉢形土器	74区S-9 口縁～胴部片				砂粒/褐灰色	口縁部沈線で縄文帯画す、口縁部弱い波状を呈す、下位沈線内に円孔2カ所。変形工字文。	弥生中期
第146図 PL.110	265	弥生土器 鉢形土器	74区P-18 口縁部片				砂粒/灰褐色	口縁部沈線で縄文帯画す、以下変形工字文。赤彩痕。	弥生中期
第146図 PL.110	266	弥生土器 鉢形土器	64区J-24 口縁部片				砂粒/にぶい褐色	変形工字文。縄文LR施文。内外面口縁部にスス付着、外面に赤彩痕。	弥生中期
第146図 PL.110	267	弥生土器 鉢形土器	74区X-16 口縁部片				砂粒/にぶい黄橙 色	変形工字文か、口縁内側に沈線。外面に赤彩痕。	弥生中期
第146図 PL.110	268	弥生土器 鉢形土器	74区X-16 口縁部片				微砂粒/黒褐色	口縁部に横位沈線、器面研磨。	弥生中期
第146図 PL.110	269	弥生土器 鉢形土器	74区O-17 口縁部片				砂粒/黒褐色	横位沈線で縄文、無文帯画す、以下沈線による三角意匠文様か。内面研磨。	弥生中期
第146図 PL.110	270	弥生土器 鉢形土器	74区O-17 口縁部片				砂粒/灰黄褐色	縄文地文、横位沈線多段に廻らす。内面研磨、外面に赤彩痕。	弥生中期
第146図 PL.110	271	弥生土器 鉢形土器	74区V-6 口縁部片				砂粒/にぶい褐色	口縁部沈線で縄文帯画す、以下変形工字文。蓋か。	弥生中期
第146図 PL.110	272	弥生土器 鉢形土器	8号住居 口縁部片				砂粒/灰黄褐色	口縁部沈線で縄文帯画す、以下変形工字文。赤彩痕。	弥生中期
第146図 PL.110	273	弥生土器 鉢形土器	74区T-10 口縁部片				微砂粒/黒褐色	変形工字文、口縁、文様内に縄文LR施文。内外面研磨、外面に赤彩痕。	弥生中期
第146図 PL.110	274	弥生土器 鉢形土器	74区U-17 口縁部片				砂粒/にぶい橙色	変形工字文。口唇部にスス付着。281は同一個体。	弥生中期
第146図 PL.110	275	弥生土器 鉢形土器	74区R-7 口縁部片				微砂粒/黒褐色	口縁部縄文施文後横位沈線。以下変形工字文。外面に赤彩痕。内外面研磨。	弥生中期
第146図 PL.110	276	弥生土器 鉢形土器	74区P-15 口縁部片				砂粒/にぶい橙色	口唇部内外面に縄文、外面の縄文帯広い。以下矩形文様描き。区画内縄文施文、外面に赤彩痕。	弥生中期
第146図 PL.110	277	弥生土器 鉢形土器	74区T-12 口縁部片				砂粒/褐灰色	沈線による横位区画文、縄文施文。外面に赤彩痕。	弥生中期
第146図 PL.110	278	弥生土器 鉢形土器	74区U-18 口縁部片				砂粒/黒褐色	口縁に縄文帯、以下変形工字文。	弥生中期
第146図 PL.110	279	弥生土器 鉢形土器	74区O-13 口縁部片				砂粒/黒褐色	横位沈線で縄文帯。外面に赤彩痕。	弥生中期
第146図 PL.110	280	弥生土器 鉢形土器	74区V-6 口縁部片				砂粒/にぶい褐色	口縁部細縄文施文後、並行沈線。外面に赤彩痕。	弥生中期
第146図 PL.110	281	弥生土器 鉢形土器	74区R-16 口縁部片				砂粒/にぶい橙色	横位沈線、口縁部、沈線下位部分縄文LR。	弥生中期

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第146図 PL.110	282	弥生土器 鉢形土器	74区S-17 口縁部片	口 (12.6)	微砂粒/にぶい黄褐色	横位沈線、口唇部外面縄文帯、内面に沈線で段を作出。	弥生中期
第146図 PL.110	283	弥生土器 鉢形土器	74区S-7 口縁部片		砂粒多/橙色	横位並行沈線、縄文LR施文。	弥生中期
第146図 PL.110	284	弥生土器 鉢形土器	74区O-18 口縁部片		微砂粒/黒褐色	沈線による文様、中を縄文施文。外面に赤彩痕。	弥生中期
第146図 PL.110	285	弥生土器 鉢形土器	74区N-18 口縁部片		微砂粒/灰黄褐色	沈線による矩形文様構成か、区画文内縄文LR施文。スス付着。	弥生中期
第146図 PL.110	286	弥生土器 鉢形土器	74区N-18 口縁部片		砂粒/黒褐色	横位沈線、縦の矩形楕円文か。縄文LR。脚の可能性も。	弥生中期
第146図 PL.110	287	弥生土器 鉢形土器	74区T-5 口縁部片		砂粒/黒褐色	横位沈線、縄文施文。外面に赤彩痕。	弥生中期
第146図 PL.110	288	弥生土器 鉢形土器	74区P-15 口縁部片		微砂粒/にぶい黄褐色	沈線による横位沈線、縄文施文。外面に赤彩痕。	弥生中期
第146図 PL.110	289	弥生土器 鉢形土器	74区V-5 口縁部片		微砂粒/明黄褐色	横位沈線文、縄文無節L施文。	弥生中期
第146図 PL.110	290	弥生土器 鉢形土器	74区P-7 口縁部片		砂粒多/にぶい褐色	変形工字文。	弥生中期
第146図 PL.110	291	弥生土器 鉢形土器	74区P-14 口縁部片		砂粒/黒褐色	横位沈線、曲線文様。内面研磨、外面に赤彩痕。	弥生中期
第146図 PL.110	292	弥生土器 鉢形土器	63区Q-18 口縁部片		砂粒/にぶい黄橙色	口縁部横位縄文、以下横位多段沈線文。	弥生中期
第146図 PL.110	293	弥生土器 鉢形土器	74区K-10 口縁部片		砂粒/暗褐色	横位並行沈線、縄文LR施文。内面スス付着。	弥生中期
第146図 PL.110	294	弥生土器 鉢形土器	74区H-11 口縁部片		微砂粒/にぶい黄橙色	縄文LR横位、横位沈線文。	弥生中期
第146図 PL.110	295	弥生土器 鉢形土器	74区Q-6 口縁部片		砂粒/灰褐色	横位沈線で縄文帯画す、口唇部内外面に縄文施文。	弥生中期
第146図 PL.110	296	弥生土器 鉢形土器	74区M-9 口縁部片		砂粒/にぶい褐色	横位、斜位の沈線文。器面風化。	弥生中期
第146図 PL.110	297	弥生土器 鉢形土器	75区R-21 口縁部片		砂粒/浅黄褐色	口縁部に小突起、細縄文LR横位施文の縄文帯を沈線で画す、以下斜位の沈線文。口縁内面肥厚。	弥生中期
第146図 PL.110	298	弥生土器 鉢形土器	74区M-9 口縁部片		砂粒/灰黄褐色	並行沈線、縄文施文か。	弥生中期
第146図 PL.110	299	弥生土器 鉢形土器	74区L-10 口縁部片		微砂粒/にぶい黄褐色	縄文LR横位、横位の沈線文。	弥生中期
第147図 PL.110	300	弥生土器 鉢形土器	74区T-6 口縁部片		砂粒、白色粒/黒褐色	縄文LR施文。口唇部内外面端部にスス付着。蓋か。	弥生中期
第147図 PL.110	301	弥生土器 鉢形土器	74区U-18 口縁部片		砂粒/橙色	縄文施文か、口唇部内外面にスス付着。蓋か。器面風化。	弥生中期
第147図 PL.110	302	弥生土器 鉢形土器	74区U-15 口縁部片		砂粒/にぶい黄褐色	縄文LR横位施文。内面研磨、スス付着。	弥生中期
第147図 PL.110	303	弥生土器 鉢形土器	74区P-14 口縁部片		砂粒/暗褐色	縄文LR施文。口唇部、内外面にスス付着。	弥生中期
第147図 PL.110	304	弥生土器 鉢形土器	74区P-15 口縁部片		微砂粒/にぶい黄褐色	縄文LR横位。内面にスス付着。	弥生中期
第147図 PL.110	305	弥生土器 鉢形土器	74区W-8 口縁部片		微砂粒/褐色	縄文LR横位、縦位に施文。内面研磨。	弥生中期
第147図 PL.110	306	弥生土器 鉢形土器	74区Q-14 口縁部片		砂粒/にぶい赤褐色	無文。外面研磨。	弥生中期
第147図 PL.110	307	弥生土器 鉢形土器か	74区U-15 口縁部片		微砂粒/橙色	小型の鉢か、円孔あり。	弥生中期
第147図 PL.110	308	弥生土器 鉢形土器	74区P-15、U-19		微砂粒/にぶい褐色	平坦な口唇部に縄文LR横位。以下横長の重四角文内に変形工字文。309は同一個体。	弥生中期か
第147図 PL.110	309	弥生土器 鉢形土器	74区O-15 胴部片		微砂粒/にぶい橙色	重四角文。	弥生中期か
第147図 PL.110	310	弥生土器 鉢形土器	74区O-18 胴部片		微砂粒/褐色	変形工字文、横位沈線、縄文LR施文。	弥生中期
第147図 PL.110	311	弥生土器 鉢形土器	74区P-18 胴部片		砂粒/褐色	変形工字文、縄文LR施文。	弥生中期
第147図 PL.111	312	弥生土器 鉢形土器	74区W-16 胴部片		砂粒/にぶい黄橙色	変形工字文。	弥生中期
第147図 PL.111	313	弥生土器 鉢形土器	74区O-17 胴部片		砂粒/黒褐色	変形工字文重ねる。縦位の短沈線文。	弥生中期
第147図 PL.111	314	弥生土器 鉢形土器	74区T-6 胴部片		砂粒/にぶい黄褐色	変形工字文、縄文LR。	弥生中期
第147図 PL.111	315	弥生土器 鉢形土器	74区P-13 胴部片		砂粒/にぶい褐色	変形工字文、縄文LR、横位沈線。	弥生中期
第147図 PL.111	316	弥生土器 鉢形土器	6号列石 胴部片		微砂粒/黒褐色	変形工字文、縄文LR。器面研磨、内外面にスス付着。	弥生中期
第147図 PL.111	317	弥生土器 鉢形土器	74区V-6 胴部片		砂粒/褐色	沈線による横U字文描く。中を縄文LR充填施文。内外面研磨。	弥生中期

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第147図 PL.111	318	弥生土器 鉢形土器	74区P-6 胴部片				砂粒/灰褐色	変形工字文、縄文RL。外面に赤彩。	弥生中期
第147図 PL.111	319	弥生土器 鉢形土器	74区L-7 胴部片				砂粒/暗褐色	沈線による横矩形文、縄文。	弥生中期
第147図 PL.111	320	弥生土器 鉢形土器	74区G-7 胴部片				微砂粒/黒褐色	縄文、沈線文。外面に赤彩痕。	弥生中期
第147図 PL.111	321	弥生土器 鉢形土器	74区O-18 胴部片				砂粒/にぶい黄褐色	変形工字文、横位沈線、地文に縄文LR横位施文。	弥生中期
第147図 PL.111	322	弥生土器 鉢形土器	74区P-15 胴部片				砂粒/にぶい橙色	横位併行沈線で無文帯、間を無節LR横位施文。外面に赤彩痕。	弥生中期
第147図 PL.111	323	弥生土器 鉢形土器	74区O-16 胴部片				砂粒/黒褐色	沈線による三角意匠文様描くか、縄文LR施文。	弥生中期
第147図 PL.111	324	弥生土器 鉢形土器	74区N-23 胴部片				砂粒/にぶい橙色	横位の併行沈線文。	弥生中期
第147図 PL.111	325	弥生土器 鉢形土器	74区L-10 胴部片				微砂粒/にぶい黄褐色	縄文LR横位、横位の沈線文。	弥生中期
第147図 PL.111	326	弥生土器 鉢形土器	74区M-10 胴部片				砂粒/黒褐色	縄文LR横位、横位沈線。赤彩痕。	弥生中期
第147図 PL.111	327	弥生土器 鉢か	74区P-18 底部片				砂粒/黄灰色	沈線による曲線文様、縄文LR。	弥生中期
第147図 PL.111	328	弥生土器 鉢形土器	74区N-18 底部片				砂粒/にぶい黄褐色	底部に沈線による曲線文描く、文様内縄文LRで充填施文。赤彩痕。	弥生中期
第147図 PL.111	329	弥生土器 鉢形土器	74区R-6 胴部片				砂粒/褐色	横位沈線、下位には菱形文、X状文を連続に描くか。沈線は削りだし。	弥生中期
第147図 PL.111	330	弥生土器 浅鉢	74区S-7 胴部片				砂粒/黄橙色	変形工字文。	弥生中期
第147図 PL.111	331	弥生土器 鉢形土器	74区P-14・15 胴部片				微砂粒/黒色	上下に僅かに膨らむ横位沈線文、内外面研磨、外面に赤彩。	弥生中期
第147図 PL.111	332	弥生土器 鉢形土器	74区M-10 胴部片				砂粒/黒褐色	縄文LR横位、横位の沈線文。	弥生中期
第147図 PL.111	333	弥生土器 鉢形土器	74区P-15 胴部片				微砂粒/黒色	沈線文、器面研磨。赤彩痕。	弥生中期
第147図 PL.111	334	弥生土器 鉢形土器	74区L-10 胴部片				砂粒/にぶい褐色	沈線による変形工字文か。	弥生中期
第147図 PL.111	335	弥生土器 鉢形土器	74区Q-7 胴部片				砂粒/にぶい褐色	変形工字文。	弥生中期
第147図 PL.111	336	弥生土器 浅鉢	74区S-6 胴部片				砂粒/浅黄色	変形工字文。	弥生中期
第147図 PL.111	337	弥生土器 鉢形土器	74区R-16 底部片				砂粒、白色粒/灰黄褐色	底部か、沈線による同心円文描き、摩耗している。赤彩か。	弥生中期
第148図 PL.111	338	弥生土器 底部	74区U-5 底部片	底	9.4		砂粒/にぶい褐色	地文縄文LR施文、横位2本沈線。網代痕。	弥生中期
第148図 PL.111	339	弥生土器 底部	74区U-15 底部片	底	8.0		微砂粒/にぶい黄褐色	縄文LR横位施文、横位の無文帯。外面赤彩。	弥生中期
第148図 PL.111	340	弥生土器 底部	74区U-15 底部片	底	8.0		微砂粒/黒褐色	縄文LR横位施文。木葉痕。	弥生中期
第148図 PL.111	341	弥生土器 壺形土器	75区Q-20 底部片				砂粒多/にぶい黄褐色	底部片、細縄文LR施文。底部木葉痕か。	弥生中期
第148図 PL.111	342	弥生土器 底部	74区O-18 底部片	底	7.6		砂粒多/にぶい黄褐色	縄文LR施文。底部網代痕。	弥生中期
第148図 PL.111	343	弥生土器 壺形土器	74区L-19 底部片	底	(8.0)		砂粒/褐色	縄文LR横位。底部網代痕。	弥生中期
第148図 PL.111	344	弥生土器 底部	74区R-15 底部片	底	6.0		砂粒/にぶい黄褐色	縄文LR横位施文。	弥生中期
第148図 PL.111	345	弥生土器 底部	74区S-15 底部片	底	(6.6)		微砂粒/にぶい褐色	細縄文LR横位、横位沈線で無文帯。底部網代痕。	弥生中期
第148図 PL.111	346	弥生土器 底部	74区V-14 底部片	底	(8.8)		砂粒/褐灰色	横位沈線、縄文施文。網代痕あり。	弥生中期
第148図 PL.111	347	弥生土器 底部	74区R-6 底部片	底	(6.8)		微砂粒/にぶい黄褐色	縄文LR横位施文。木葉痕。器面風化。	弥生中期
第148図 PL.111	348	弥生土器 底部	74区S-14 底部片	底	6.0		砂粒/にぶい黄褐色	縄文RL斜位方向施文。網代痕。	弥生中期
第148図 PL.111	349	弥生土器 底部	74区O-14 底部片	底	7.4		微砂粒/にぶい褐色	底部端が張りだし、胴部は外反して立ち上がる、縄文無節R縦位施文。底部網代痕。	弥生中期
第148図 PL.111	350	弥生土器 底部	74区P-15 底部片	底	(7.0)		微砂粒/にぶい黄褐色	縄文LR横位施文。木葉痕。	弥生中期
第148図 PL.111	351	弥生土器 底部	74区S-6 底部片	底	6.8		砂粒多/にぶい黄褐色	細縄文LR横位施文。底部圧痕文。	弥生中期
第148図 PL.111	352	弥生土器 壺形土器	74区N-17、 0-17・18 底部片	底	(8.0)		砂粒/にぶい黄褐色	上げ底、縄文LR。外面にスス付着。底部木葉痕。	弥生中期
第148図 PL.112	353	弥生土器 底部	74区O-14 底部片	底	9.0		砂粒/にぶい黄褐色	条痕。底部網代痕。	弥生中期

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第148図 PL.112	354	弥生土器 底部	74区P-14・15、 Q-15 底部片	底	9.0		砂粒/橙色	斜位条痕、右下→左上。網代痕。	弥生中期
第148図 PL.112	355	弥生土器 底部	74区O-18 底部片	底	8.2		細砂粒多/にぶい 黄褐色	縦位条痕文。網代痕。	弥生中期
第148図 PL.112	356	弥生土器 底部	74区R-10 底部片	底	(7.0)		砂粒/にぶい黄橙 色	粗い条痕文、底部網代痕。	弥生中期
第148図 PL.112	357	弥生土器 底部	74区P-15 底部片	底	(9.4)		砂粒、砂礫/にぶ い橙色	斜位条痕。網代痕。	弥生中期
第148図 PL.112	358	弥生土器 底部	74区U-14 底部片	底	(7.0)		砂粒、白色粒/明 赤褐色	横位条痕文。風化顕著。	弥生中期
第148図 PL.112	359	弥生土器 甕形土器	74区P-18 底部片	底	6.6		砂粒/暗灰黄色	底部片矢羽根状に条痕文。	弥生中期
第149図 PL.112	360	弥生土器 底部	74区P-13 底部片	底	(6.0)		砂粒/にぶい黄橙 色	胴部が大きく開く、羽状条痕文か。底部木葉痕。スス 付着。	弥生中期
第149図 PL.112	361	弥生土器 底部	74区W-16 底部片	底	(9.8)		砂粒/にぶい褐色	斜位、横位のやや粗い条痕文。底部網代痕。	弥生中期
第149図 PL.112	362	弥生土器 底部	74区W-12 底部片	底	(8.0)		砂粒、石英粒/灰 褐色	条痕か、底部網代痕。二次被熱。	弥生中期
第149図 PL.112	363	弥生土器 底部	74区T-14 底部片	底	8.6		砂粒/にぶい黄橙 色	内面に赤彩、底部網代痕。	弥生中期
第149図 PL.112	364	弥生土器 底部	74区T-17 底部片	底	8.6		砂粒/にぶい褐色	縦位の条痕、底部網代痕。	弥生中期
第149図 PL.112	365	弥生土器 底部	74区W-6 底部片	底	(10.0)		細砂粒/橙色	底部網代痕。鉄分の沈着見られる。	弥生中期
第149図 PL.112	366	弥生土器 壺形土器	74区M-19 底部片	底	8.0		砂粒/にぶい褐色	条痕文。底部網代痕。	弥生中期
第149図 PL.112	367	弥生土器 底部	74区P-19 底部片	底	(7.6)		砂粒、石英粒/灰 黄褐色	無文底部片。器面やや風化見られる。	弥生中期
第149図 PL.112	368	弥生土器 底部	74区T-6 底部片	底	4.2		細砂粒/にぶい橙 色	やや小振りの底部片。底面に木葉痕。	弥生中期
第149図 PL.112	369	弥生土器 底部	6号列石、74区 U-18 底部片	底	8.6		砂粒/にぶい黄橙 色	底部網代痕。	弥生中期
第149図 PL.112	370	弥生土器 底部	74区P-17 底部片	底	7.0		細砂粒/にぶい褐 色	無文、外面研磨、底部網代痕。	弥生中期
第149図 PL.112	371	弥生土器 底部	74区O-21 底部片	底	(9.2)		砂粒、石英粒/に ぶい橙色	無文、縦方向の研磨、底部網代痕。	弥生中期
第149図 PL.112	372	弥生土器 底部	74区P-14 底部片	底	8.0		砂粒、石英粒/灰 黄褐色	条痕文、底部網代痕。器面風化。	弥生中期
第149図 PL.112	373	弥生土器 甕形土器	74区Q-18 底部片	底	(6.8)		砂粒/にぶい灰色	底部片、底面に文様？	弥生中期
第149図 PL.112	374	弥生土器 底部	74区V-12 底部片	底	(9.0)		砂粒/灰褐色	底部木葉痕。	弥生中期
第149図 PL.112	375	弥生土器 底部	74区O-12 底部片	底	4.6		細砂粒/にぶい赤 褐色	小振りの底部片、器面研磨。	弥生中期
第149図 PL.112	376	弥生土器 底部	74区O-12 底部片	底	(4.6)		粗砂粒/にぶい赤 褐色	小振りの底部片、器面研磨。375は同一個体か。	弥生中期
第149図 PL.112	377	弥生土器 底部	74区O-15 底部片	底	(6.0)		微砂粒/黒褐色	大きく開く胴部、内面研磨。スス付着。	弥生中期
第149図 PL.112	378	弥生土器 底部	74区P-7 底部片	底	5.2		砂粒、長石粒多/ にぶい褐色	丸みを持った底部片、縄文が部分的に見られる。	弥生中期
第149図 PL.112	379	弥生土器 底部	74区T・U-14 底部片				砂粒/にぶい黄橙 色	底部網代痕。	弥生中期
第149図 PL.112	380	弥生土器 底部	74区P-17 底部片				砂粒/にぶい赤褐 色	底部網代痕。	弥生中期
第149図 PL.112	381	弥生土器 底部	74区Q-7 底部片				砂粒/灰黄褐色	底部網代痕。	弥生中期
第149図 PL.112	382	弥生土器 底部	74区V-16 底部片				砂粒/にぶい橙色	底部片、浅い網代痕。	弥生中期
第149図 PL.112	383	弥生土器 底部	74区P-14 底部片				砂粒多/にぶい黄 褐色	底部片、内面中央部が盛りあがる。網代痕。	弥生中期
第149図 PL.113	384	弥生土器 底部	74区Q-6 底部片				砂粒多/にぶい褐 色	底部木葉痕。	弥生中期
第150図 PL.113	385	弥生土器 鉢形土器	74区L-19 口縁～底部3/4	口 底	(10.0) (6.0)	高 (4.8)	砂粒/橙色	浅鉢形の手捏ね土器、平底で体部は内湾気味に立ち上 がる。輪積み痕残る。部分的の横位条痕見られる。	弥生中期
第150図 PL.113	386	弥生土器 ミニチュア 土器	74区T-12 胴～底部3/4	底	2.0	最大 径 5.1	砂粒多/にぶい黄 褐色	底部丸く中位でくびれ、上半部を欠く。沈線による5単 位のU状懸垂文(内一つは一本沈線)。文様内は基本無 文であるが、一つには縦の沈線が付される。	弥生中期か
第150図 PL.113	387	弥生土器 蓋か？	74区P-10				砂粒/にぶい黄褐 色	沈線によるJ字状文。内面に横位刷毛目。	弥生中期
第150図 PL.113	388	弥生土器 蓋か？	74区P-13 口縁部片				微砂粒/にぶい黄 褐色	縄文LR施文。円孔。	弥生中期

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第150図 PL.113	389	土製品	74区0-14				雲母、石英粒/に ぶい褐色	ややカーブを持つ環状の土器片、上部は開口、蓋か。 390は同一個体か。	弥生中期か
第150図 PL.113	390	土製品	74区0-13				雲母、石英粒/に ぶい褐色	ややカーブを持つ環状の土器片、上部は開口、蓋か。	弥生中期か
第150図 PL.113	391	土製品	74区0-12				砂粒/褐色	ややカーブを持つ弧状の土器片、上部は開口し側面にも開口部か。	弥生中期か
第150図 PL.113	392	土製品	74区Q-17				砂粒、雲母微粒/ にぶい褐色	ややカーブを持つ弧状の土器片、上部は開口、蓋か。	弥生中期か
第150図 PL.113	393	土製品 土偶	74区N-19 胴部片	長 幅	(6.7) (4.8)	厚 2.6	砂粒/灰黄褐色	欠損した上、下部が僅かに広がるやや偏平な角柱状を呈す。両面中央に縦の沈線、これに接して3重の沈線で<>状文を3単位縦列に描く。赤彩痕。下部中央に製作痕の孔が見られる。	弥生中期
第150図 PL.113	394	弥生土器 甕形土器	74区S-5 口縁~胴部片	口	(16.4)		砂粒/褐色	3連止め廉状文、上下に波状文。	弥生後期
第150図 PL.113	395	弥生土器 甕形土器	74区Q-6 口縁部片				砂粒多/にぶい黄 褐色	やや外反、櫛状工具による横位波状文をやや間隔を置いて多段施文。	弥生中期
第150図 PL.113	396	弥生土器 甕形土器	74区P-5 胴部片				砂粒/褐色	廉状文下に波状文。	弥生後期
第150図 PL.113	397	弥生土器 甕形土器	83区L-7 頸部片				微砂粒/橙色	1連止め廉状文、上下に波状文施文。	弥生後期
第150図 PL.113	398	弥生土器 甕形土器	74区W-15 胴部片				砂粒/にぶい黄橙 色	廉状文下に波状文。	弥生後期
第150図 PL.113	399	弥生土器 壺形土器	74区L-10 胴部片				微砂粒/褐灰色	波状文。	弥生中期
第150図 PL.113	400	弥生土器 甕形土器	73区I-18 頸部片				砂粒/灰黄褐色	1回止め廉状文、上下に波状文施文。	弥生後期
第150図 PL.113	401	弥生土器 甕形土器	83区L-11 胴部片				微砂粒/にぶい黄 褐色	櫛歯状工具による波状文、円形貼付文。	弥生後期

表7 遺構計測表

1号再葬墓

番号	区	位置	形状	規模(cm) 長径・短径・深さ	主軸方位	出土遺物	時期	調査年度	備考
1	74	R-7	長円形	123×107×43	N-68° -W	礫、軽石製品、大型壺、小型壺	弥生	H22	旧1号集石

土坑

番号	区	位置	形状	規模(cm) 長径・短径・深さ	主軸方位	出土遺物	時期	調査年度	備考
83	75	D-14	円形	50×47×24		土器	弥生	H20	
118	63	P-17	円形	63×55×25		土器	弥生	H20	
121	63	R-16	円形	76×63×16		土器	弥生	H20	
154	74	R-1	円形	95×89×14		土器	弥生	H21	
156	64・74	64R-25、74R-1	長円形	90×59×9	N-11° -W	土器	弥生	H21	161号土坑と重複
191	64・74	64Q・R-25、74R-1	円形	85×83×17		土器	弥生	H21	
206	74	P-1	長円形	48×32×20	N-65° -W		弥生	H21	
332	75	Q-20	長円形	153×78×15	N-68° -W	土器	弥生	H22	
333	75	Q-21	長円形	116×61×11	N-60° -W	土器	弥生	H22	
338	75	G-11	長円形	89×67×19	N-60° -W	土器	弥生	H22	
340	74	T-5	長円形	74×58×10	N-79° -W	土器完形品2点	弥生	H22	壺形、鉢形
342	74	U-5	長円形	136×(45)×15	-	土器	弥生	H22	348号土坑に重複
345	74	S-7	長円形	73×55×8	N-80° -E	土器、石皿	弥生	H22	
346	74	R-6	不定形	86×64×49		土器	弥生	H22	9号住居と重複
350	74	V・W-11	長円形	122×102×35	N-0°	土器、石器	弥生	H22	石鏃
352	74	U・V-6	長円形	88×68×38	N-40° -E	土器	弥生	H22	
354	74	S・T-4	円形	102×94×40		土器	弥生	H22	
356	74	S-4	円形	98×96×30		土器	弥生	H22	
360	74	W-15	長円形	111×68×43	N-90° -E	土器	弥生	H22	11号住居と重複
361	74	V-15	円形	58×56×23		土器	弥生	H22	374号土坑と重複
362	74	S-15	円形	66×58×24		土器	弥生	H22	
363	74	S・T-15	円形	132×128×75		土器、石器	弥生	H22	石鏃、磨石
364	74	T-14	円形	128×124×64		土器	弥生	H22	
365	74	U-14	円形	114×108×66		土器、石器	弥生	H22	石鏃、磨石
367	74	S-14	長円形	114×99×31	N-57° -W	土器	弥生	H22	
368	74	T-15	長円形	90×70×34	N-72° -W	土器	弥生	H22	
373	74	S-15・16	長円形	154×93×42	N-0°	土器	弥生	H22	
376	74	W-15・16	隅丸長方形	181×138×23	N-90° -E	土器	弥生	H22	

第5節 平安時代の遺構と遺物

1. 住居

本遺跡において検出された平安時代の住居は11軒(重複を含む)である。

年度毎の調査軒数は平成21年度2軒、22年度7軒、26年度2軒である。分布を見ると、尾坂遺跡の南西部、吾妻川寄り沿って展開している。

密集度は低く、建て替え等の重複を除き、ほぼ同時期に存在していたものと思われる。

1号住居(第152・153図、PL.37・38・113)

位置 75区D・E-16・17グリッド。

規模 東西方向4.3m 南北方向3.6m、壁高は残りのよい北東コーナー部分で0.2mである。

形状 ほぼ方形に近い隅丸方形である。

方位 N-90°-E

床面 削平が著しく、明確には確認できなかった。ほとんど地山が露出する状況であった。柱穴なども確認でき

なかった。

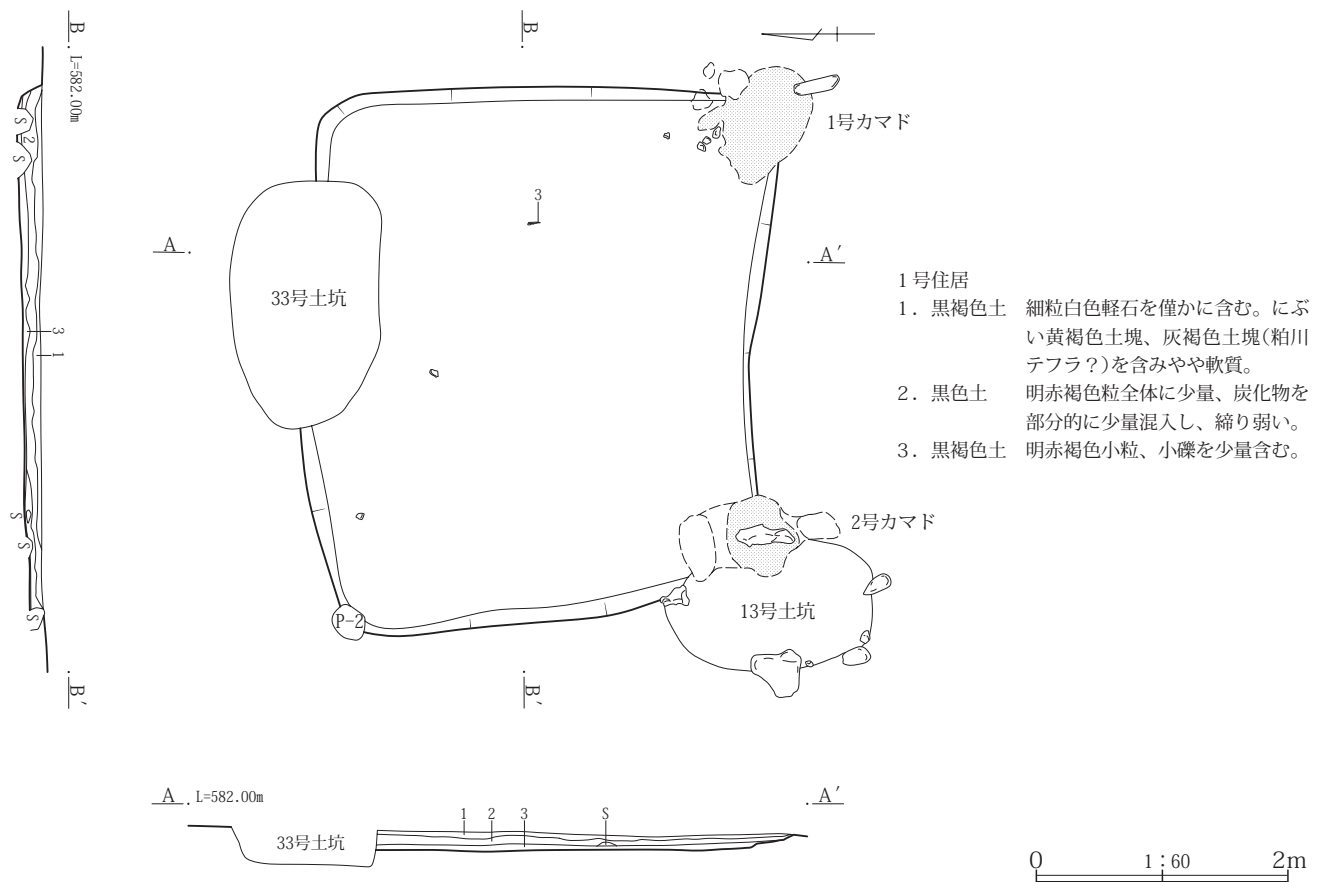
重複 北壁に掛かって長円形の33号土坑が重複している。本住居はこの土坑により一部切られている。

カマド 南東隅にカマドの痕跡と考えられる焼土の広がり認めた。さらに、南西隅にも焼土の広がり確認、カマドの可能性はあるが、不明である。いずれも、若干の礫と焼土が認められた。両者共に、上部がほとんど削られており、構造は不明である。周囲に礫が点在しているが構築材とは考えられない。1号カマドは焼土の発色も良く、中央に焼土が堆積、掘方が浅いすり鉢状を呈す。円形の掘方で1m×0.9mである。2号は長円形で、1.3m×0.9mである。

掘方 住居内に土坑等が確認されたが、本址に伴うものか不明である。

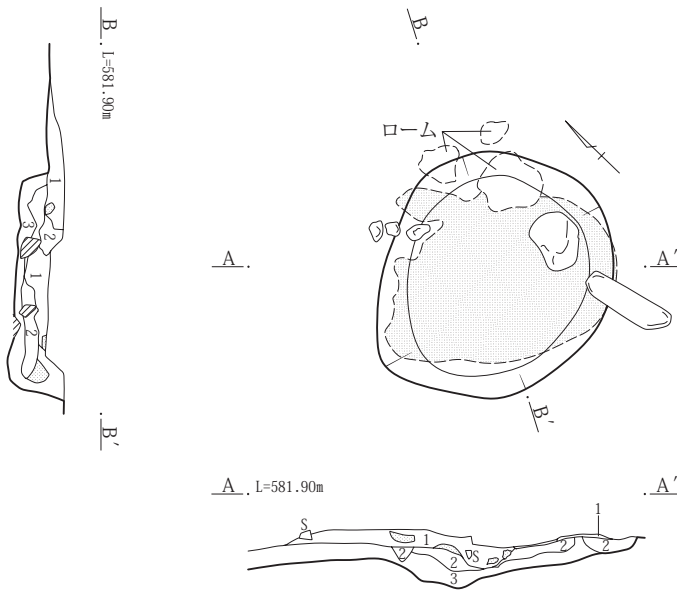
出土遺物 わずかに、土師器および須恵器の小片と、鉄製品(鉄鏃)が出土している。

時期・所見 調査区南西部、吾妻川寄りに位置する。上部をほとんど削平されており、検出できたのは下部のみで、壁の立ち上がりもほとんど確認できなかった。



第152図 1号住居(1)

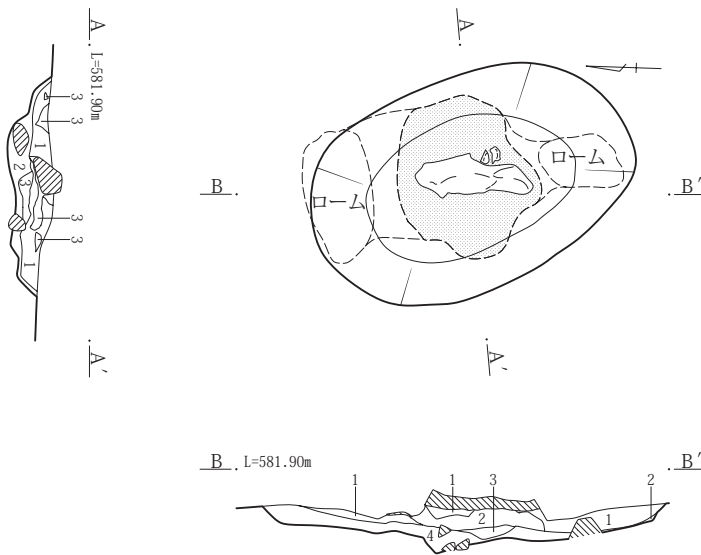
1号カマド



1号住居1号カマド

- 1. 黒褐色土 細粒白色軽石を僅かに含む。
- 2. 黒褐色土 1に焼土粒を少量含む。
- 3. 橙褐色土 焼土主体、明赤褐色色を含む。

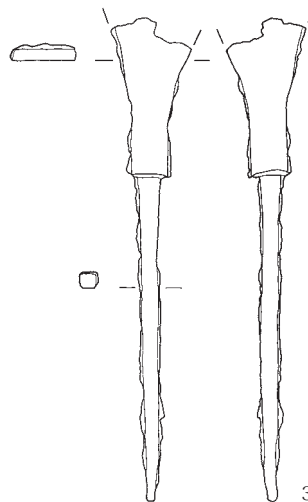
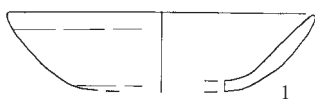
2号カマド



1号住居2号カマド

- 1. 黒色土 明赤褐色小粒、焼土粒少量含む。
- 2. 黒褐色土 1に焼土粒を多量に含む。
- 3. 暗橙褐色土 焼土主体土。
- 4. 黒褐色土 明赤褐色粒、焼土粒を少量含む。

0 1:30 1m



0 1:2 5cm
0 1:3 10cm

第153図 1号住居(2)・出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

2号住居(第154～156図、PL.37・38・113)

位置 75区B～D-13・14グリッド。

重複 北および東壁に複数の土坑が重複する。東壁際に沿うように62、74～76号土坑が重複、本址より新しいと考えられる。

形状 やや東西方向が長いが、ほぼ隅丸方形を呈す。

規模 東西方向5.7m 南北方向5.7m、壁高は残りの良い北側で約0.2mと残りは悪い。

方位 N-13° -W

床面 炭化材、焼土および灰層下にやや硬化した面が確

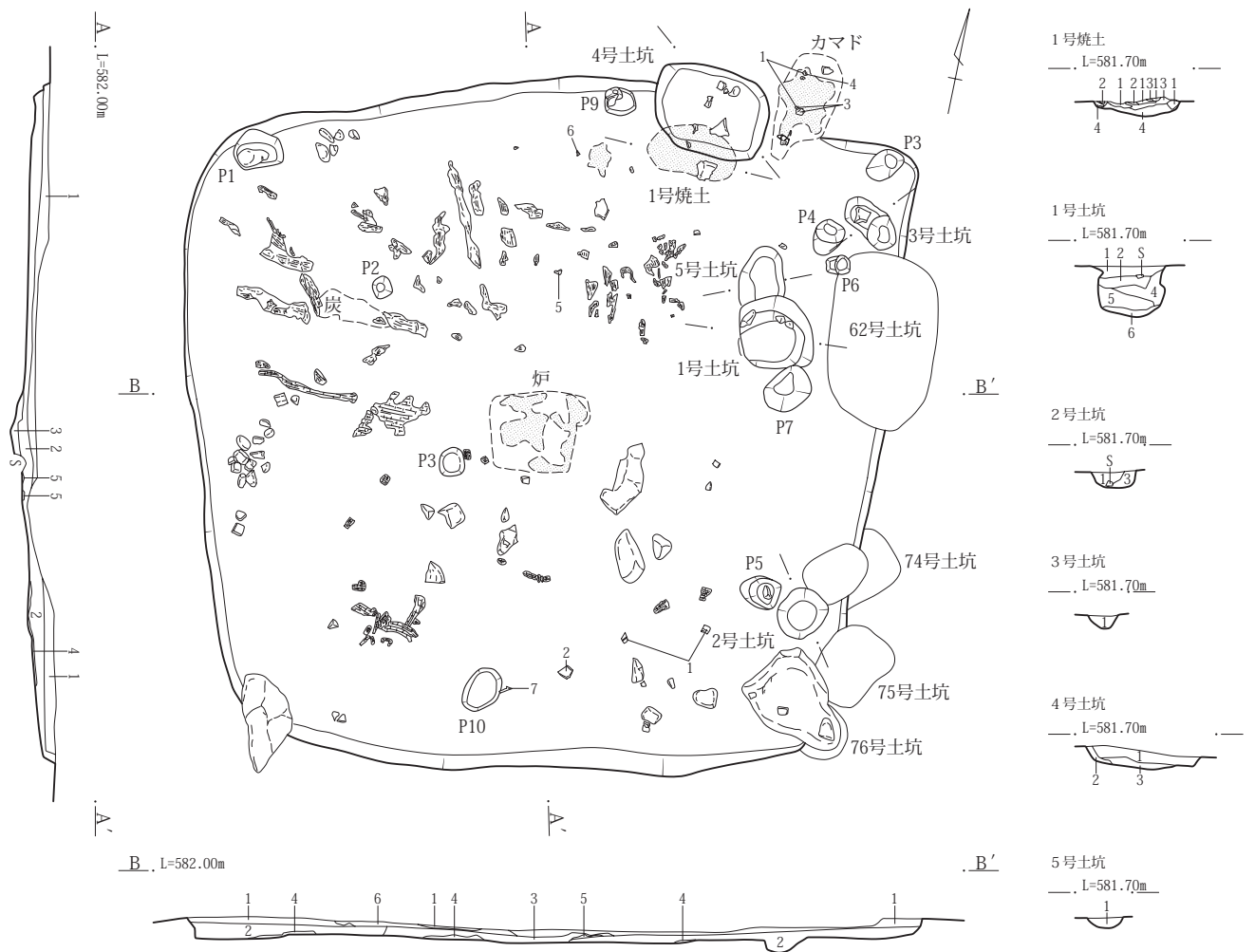
認された。また、ほぼ中央に焼土が確認されており、隅丸方形の掘方を持つ。柱穴は、壁際に点在するものと、中央部分にほぼ円形に並ぶものが検出されている。

カマド 北壁のやや東に寄った場所に作られる。

掘方 大小の落ち込みなどが確認されたが、本址に伴うものかは不明である。

出土遺物 若干の土器片および鉄製品(鉄鏃)が出土。

時期・所見 この時期の住居としては、比較的大型である。炭化材が多く検出されたことから、焼失住居と考えられる。遺存状態はあまり良くなく、上部をかなり削平



2号住居

- 1. 黒褐色土 細粒白色軽石僅かに含む。にぶい黄褐色土塊。
- 2. 黒色土 明赤褐色粒を全体に少量、炭化物を部分的に少量混入し、締り弱い。
- 3. 暗褐色土 細粒白色軽石を含み、締り弱い。
- 4. 褐色土 細粒白色軽石を多量に含む。黒色土塊を僅かに含み、締りあり。
- 5. 暗橙褐色土 焼土塊。
- 6. 暗褐色土 細粒白色軽石を含み、焼土、若干の炭化物含み、鉄分凝集目立つ。

2号住居1号焼土

- 1. 黒色土 炭化物少量混入する。
- 2. 淡赤褐色土 焼土主体。黒色小土塊含む。
- 3. 明赤褐色土 焼土主体。
- 4. 黒褐色土 黒色土塊主体。

2号住居土坑(1～5号土坑)

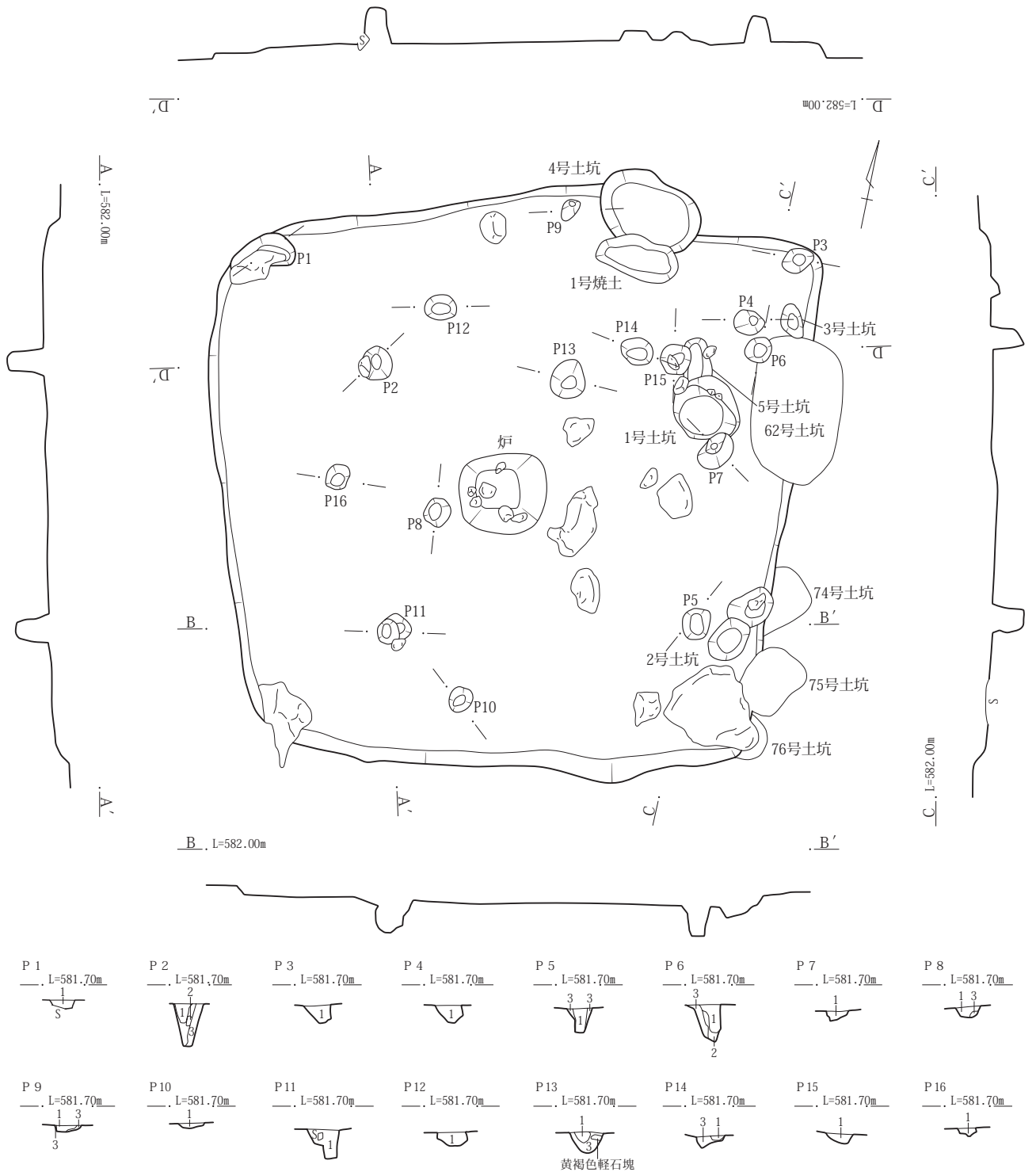
- 1. 細粒白色軽石、明赤褐色粒を少量含む。
- 2. 黄褐色軽石を全体に含む。
- 3. 黒褐色土 1に黄褐色土塊を多量に含む。
- 4. 暗褐色土 細粒白色軽石、暗褐色粒を多量に含み締りあり。
- 5. 暗褐色土 4より軽石の混入少ない。
- 6. 黒褐色土 混入物なく、粘性あり、小礫下面に混入。

第154図 2号住居(1)

されている。カマドの残りも悪く、上部構造は失われていた。火床面下部の焼土が検出されたのみである。

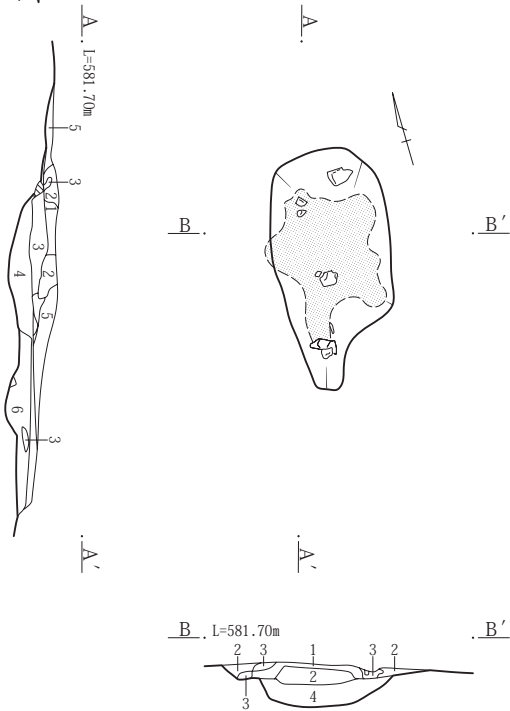
が確認された。掘りあげたところ、方形の落ち込みとなった一見鍛冶炉のようにも見えるが、鉄滓や鍛造剥片などは認められていない。

住居のほぼ中央に、焼土および炭化物の集中する場所掘方



第155図 2号住居(2)

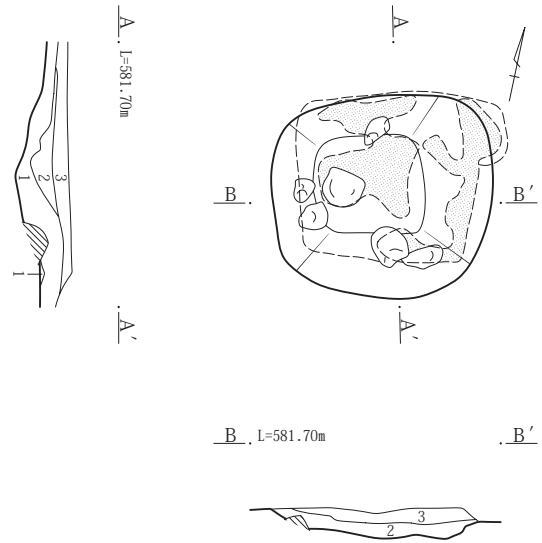
カマド



2号住居カマド

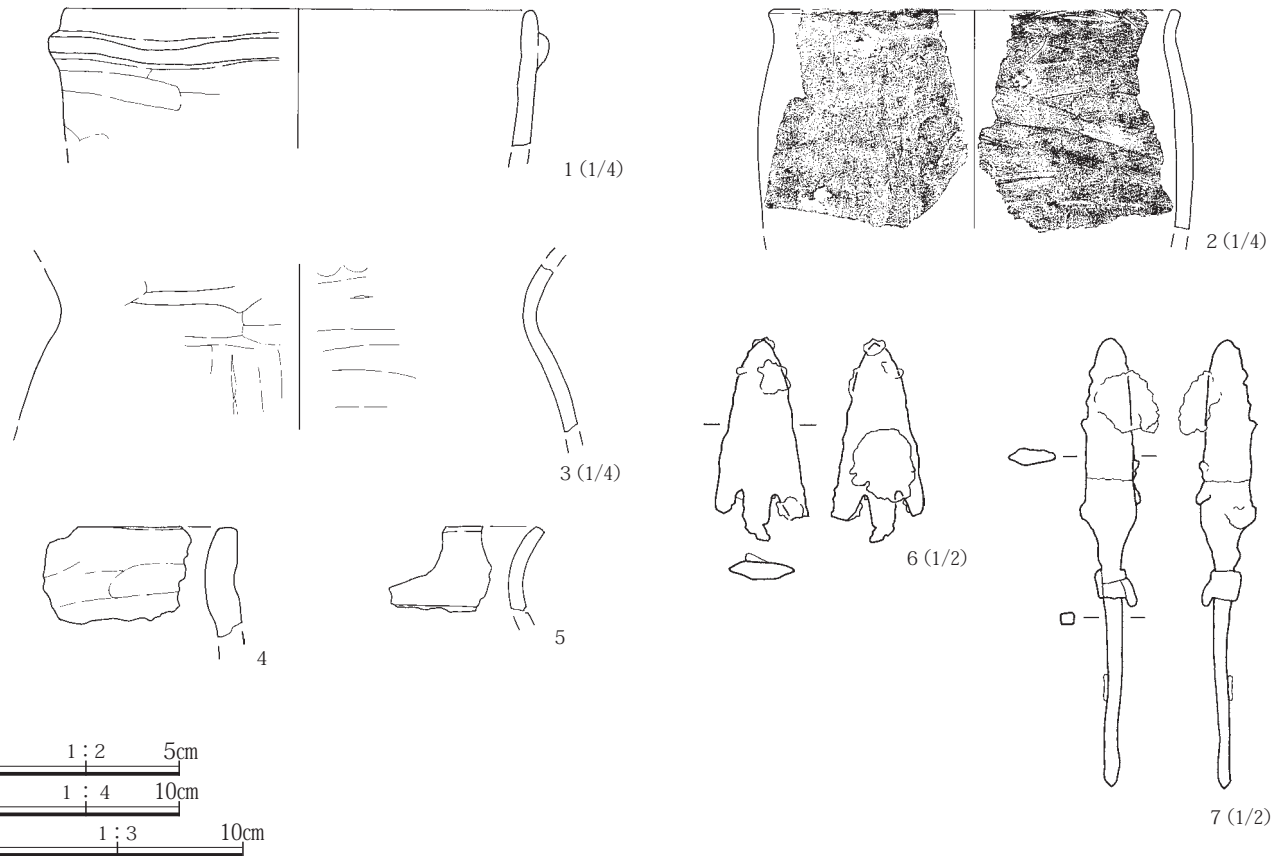
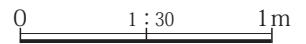
1. 黒色土 炭化物少量混入する。
2. 淡赤褐色土 焼土主体。黒色土塊(小)を含む。
3. 明赤褐色土 焼土主体。
4. 黒褐色土 黒色土塊主体。
5. 黒褐色土 細粒白色軽石を少量含む。
6. 褐色土 細粒白色軽石を少量含む、やや粘質。

炉



2号住居炉

1. 黒褐色土 焼土粒塊を多量に含む。
2. 黒色土 細粒白色軽石、焼土粒を少量含み締まる。
3. 暗褐色土 焼土小塊、焼土等を多量に含む。



第156図 2号住居(3)・出土遺物

7号住居(第157・158図、PL.39・113)

位置 74区Q・R-5・6グリッド。

重複 本址の西側、やや北に寄って長方形の掘り込みが確認された。精査の結果、掘り込みは古く、形状などから住居と判断し、9号住居とした。本址によって東側部分を大きく壊されてしまったものと考えられる。

また、北西隅に径1m程の土坑が確認されたが、本址よりも新しいものである。

形状 南北にやや長く、北東部に検出された大きな岩による影響か、南東部分がわずかに張り出している。基本的には南北がわずかに長い隅丸長方形を呈する。

壁の立ち上がりもほぼ垂直であるが、東壁については、地山の大きな石が一部住居内に張り出しているため、やや斜めに立ち上がる。

規模 3.9m×3.3mで壁高は最大0.4mを測る。

方位 N-0°

床面 ほぼ平坦で、掘り込んだ地山を均し床としている。南壁下の西半分には周溝が見られたが部分的である。11基のピットを検出しているが、壁に寄って掘り込まれたP1、3、7、9などは柱穴の可能性はあるが、いずれも深さは10~15cmと浅い。北西隅に炭化物が検出されたが、広がりは見られなかった。

カマド 北東隅に作られており、両側に平たい礫を縦に配し、天井部に礫を乗せた煙道が構築され、主軸がやや東に振れた形で延びている。

焚き口部分にも礫が据えられていたと思われるが、検出時はかなり崩落した状況が見られた。焚き口部前面部分は、やや凹み、焼土が多く堆積していた。

掘方 床下土坑等は確認されなかった。

出土遺物 遺物は少なく、須恵器の坏破片、羽釜、土釜の口縁部片の他、鉄製品が2点出土している。このうち1点は、やや大振りの鉄鎌である。

カマド内からは、僅かな土器片が出土したのみである。北西隅に炭化材と若干の焼土が検出されている。

時期・所見 74区のやや南に寄った位置に確認された。当初、天明泥流畑耕土を下げ、下面の遺構確認を行う中で、やや不自然に並んだ礫を認め、断ち割って確認を行ったところ、焼土を確認、カマドの可能性が高まった。このため、周囲を精査し範囲の確定後掘り下げを行った。埋土の断面中位に、厚さ3~5cmのAs-Kkと思われる灰褐色

色の火山灰層が認められた。

遺構の時期は出土遺物から、10世紀前半か。

9号住居(第157図、PL.39)

位置 74区R-5・6グリッド。

重複 7号住居により、東側ほとんどを切られている。床面下に検出された346号土坑は本址よりも古い。

形状 全体形状は不明、残存部は西側部分が南北に長い長方形で残る。

規模 検出した部分の計測値は、南北3.0m、東西(1.1)mである。壁高は、約0.3mを測り、壁寄りがやや高まっている。

方位 ー

床面 床面は、貼床などは見られず、掘り込んだ地山ローム面をそのまま踏み固めている。7号住居の床面よりわずかに高い位置にある。周溝などは確認されず、壁際はやや高くなっている。

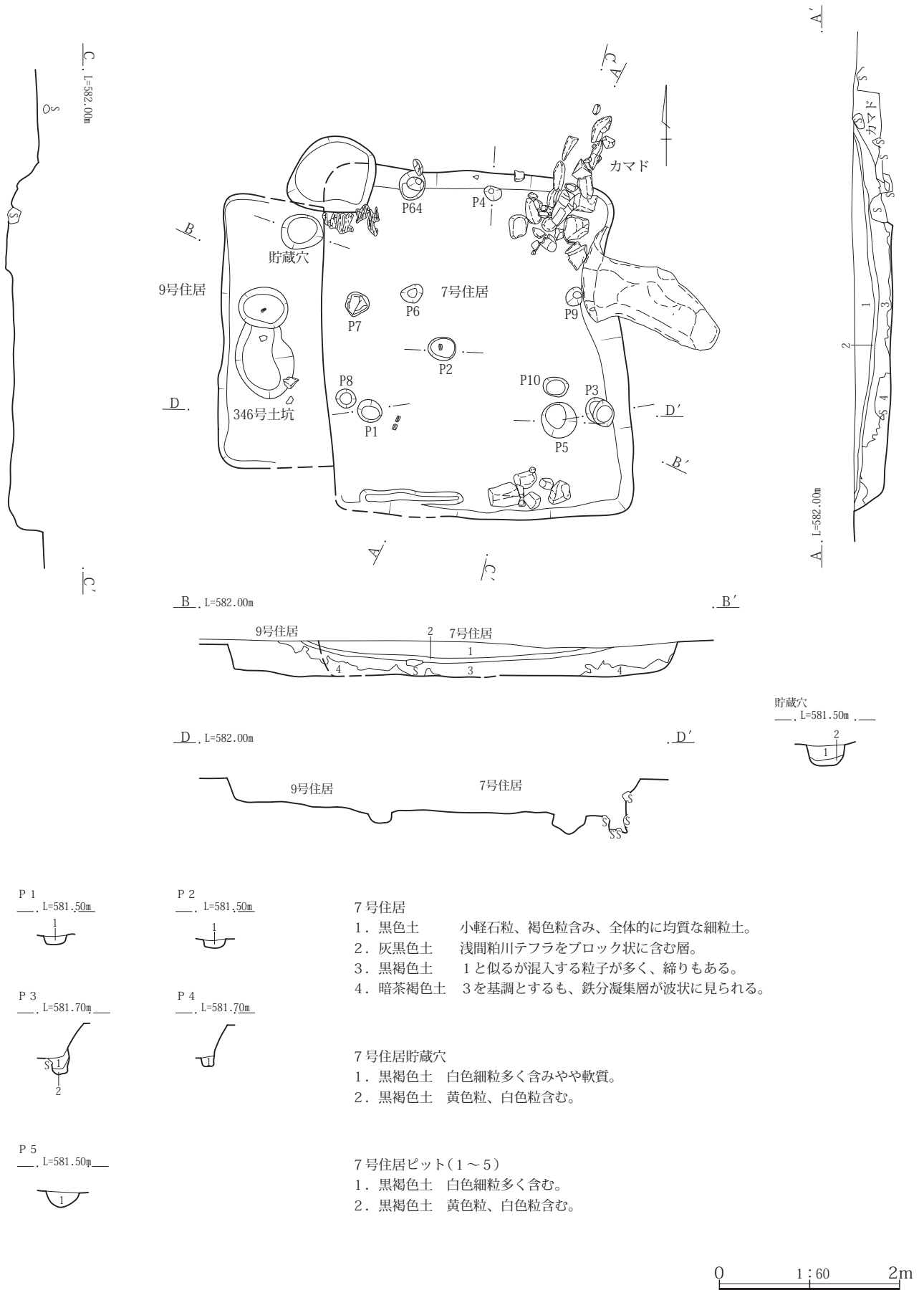
カマド 7号住居に壊された部分に在ったと考えられ、確認されなかった。

掘方 床下より土坑が検出された。北側に検出された土坑は径50cm程で、深さは約40cmである。掘り込みもしっかりしており、貯蔵穴の可能性もある。中央にも同様の土坑が検出されているが、用途は不明である。この土坑に接して不定形な土坑が確認されたが、本址よりも古い土坑と判断された。

出土遺物 見られなかった。

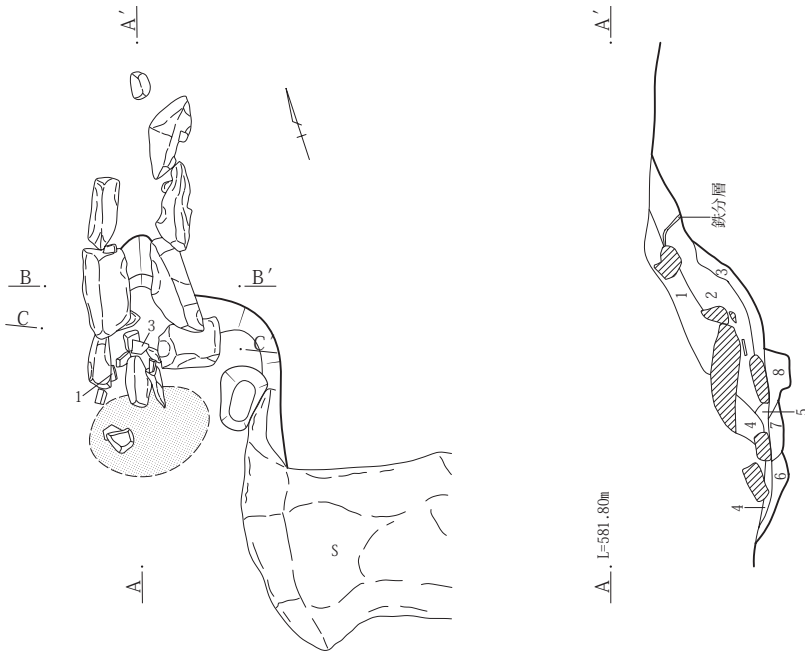
時期・所見 西側の4分の1程度が残る。東側半分以上を7号住居に壊されてしまっていることから、全容は不明である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面に2基の土坑が確認されたが、用途ははっきりしない。1基は貯蔵穴の可能性はある。

時期は出土遺物が無いために確定できないため、10世紀前半以前としておきたい。

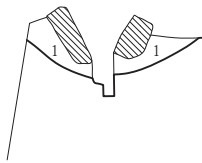


第157図 7(1)・9号住居

カマド

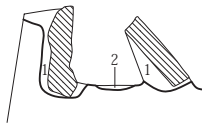


B, L=581.80m B'



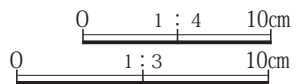
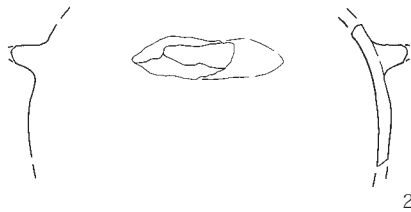
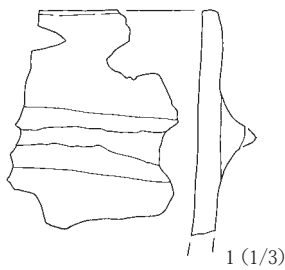
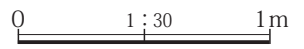
7号住居カマド 掘方セクション
 1. 暗褐色土 ローム粒、白色粒含む。
 2. 暗褐色土 ローム小粒やや多く含む。

C, L=581.80m C'



7号住居カマド

- 1. 黒褐色土 炭化材含む。
- 2. 黒褐色土 縮りあり、白色粒含む。
- 3. 暗褐色土 ローム小粒含む。
- 4. 暗褐色土 ローム粒、炭化物、焼土の混土。
- 5. 黄橙色土 焼土主体土。
- 6. 橙褐色土 炭化物、焼土粒灰を含む。(掘方)
- 7. 橙褐色土 焼土。(掘方)
- 8. 暗黒褐色土 ローム粒、黒色土含む。(掘方)



第158図 7号住居(2)・出土遺物

10号住居(第159~161図、PL.40・41・113)

位置 74区W・X-9・10グリッド。74区の西端に検出された。

重複 無し。

形状 隅丸方形であるが、西辺がやや広がっている。

規模 東西方向約3.5m、南北方向約3.5m(西辺3.6m、東辺3.0m)、壁高は残りの良い場所で0.3mである。

方位 N-18°-E

床面 ほぼ平坦で、ほぼ中央に焼土を伴う炭化物の広がりが見られた。また、部分的に非常に硬化した面として、鉄分の凝集層が見られた。

カマド 北壁の中央やや東より(1号)と、東壁東寄り(2号)の2基が作られていた。北壁のカマドは煙道部がやや長く作られ、河原石を両側に据えた作りであるが、かなり壊れた状況であった。東壁のカマドは、南東隅に寄っており、焚き口部両側に大きな袖石が据えられ、天井に

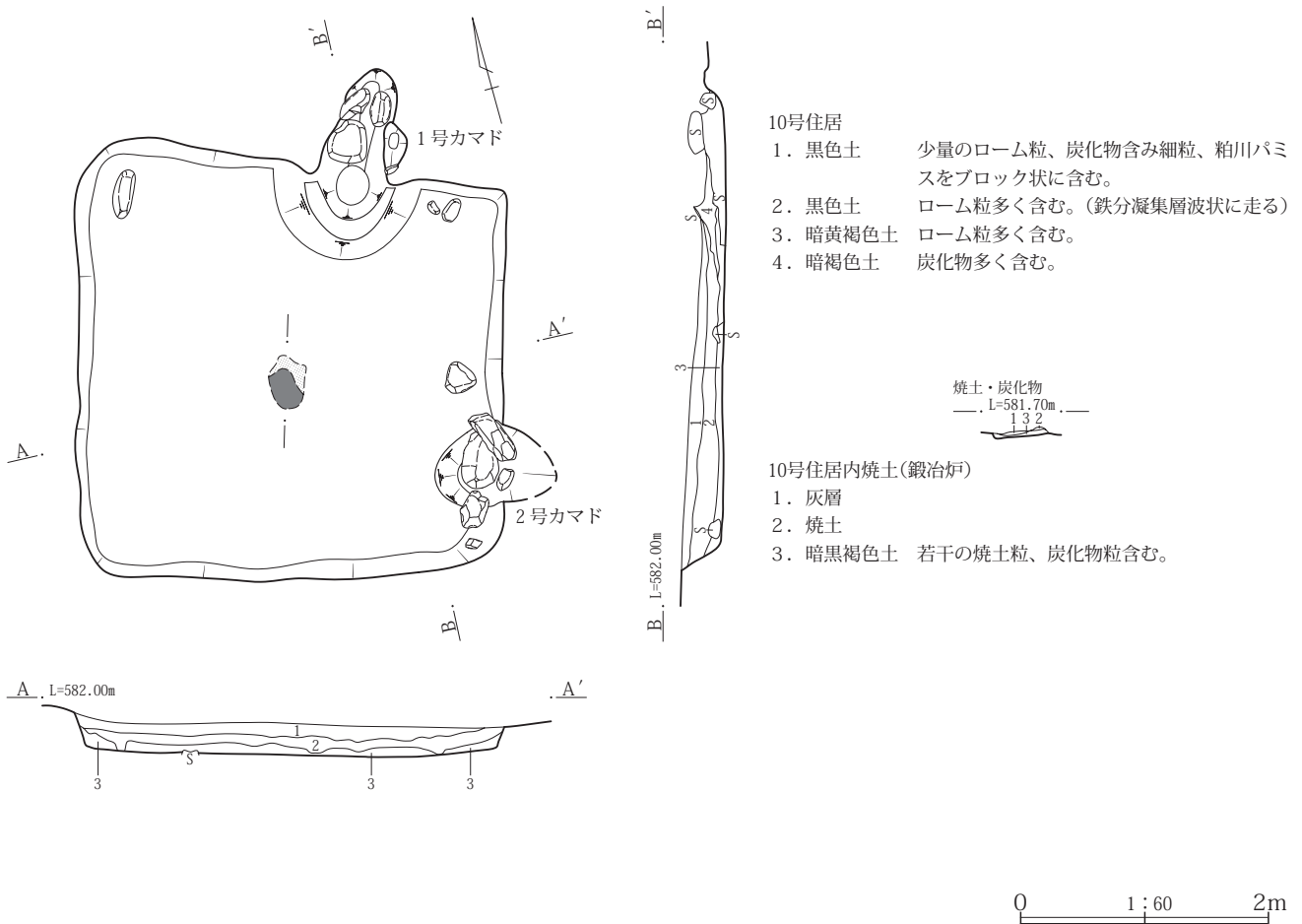
も大きな礫が乗せられた構造である。1号が古い可能性も考えられるが、確証はない。床面は、地山のロームを地床としている。中央部、カマド前面はやや踏み固められた状況が窺えた。貯蔵穴や柱穴は見られなかった。

掘方 3基の床下土坑が検出された。焼土や遺物などの出土は無かった。

出土遺物 住居内からの出土は少ないが、カマド内からは、甕や環類が出土している。1号カマドからは羽口1点が出土している。

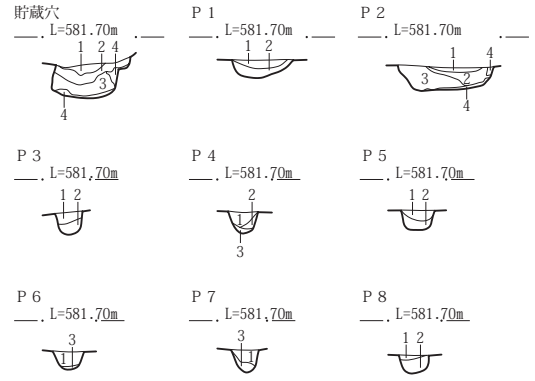
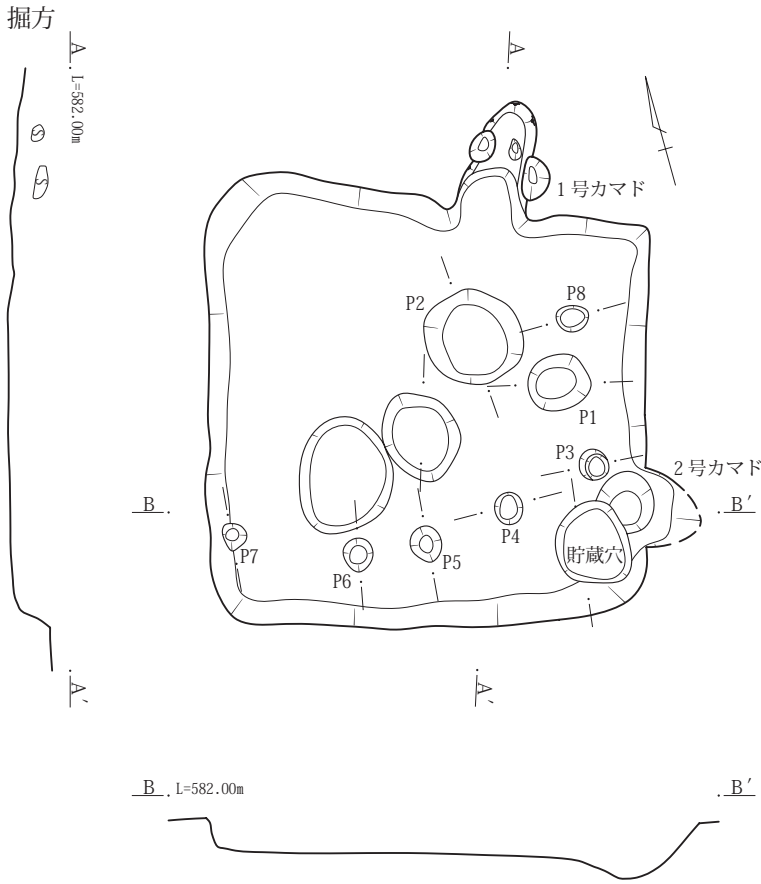
時期・所見 時期は10世紀前半か、確認面は黒褐色土中で、地山と覆土の違いは、やや軟質で、黒味が見られる程度の違いであった。

カマドが東壁と北壁に2基が確認されたが、構造が異なり、作り替えではなく、同時に機能していたことも考えられる。床面に検出された焼土や灰層は鍛冶炉の可能性もある。



第159図 10号住居(1)

第5節 平安時代の遺構と遺物



10号住居貯蔵穴

1. 黒褐色土 大粒の白色軽石含む。
2. 黒褐色土 白色・黄色粒若干含む。
3. 黒褐色土 軽石、若干のローム粒含む。
4. 黄褐色土 地山ローム多く含む軟質。

10号住居内ピット1

1. 黒褐色土 ローム小粒含みや軟質。
2. 黒褐色土 炭化物、ローム粒含む。

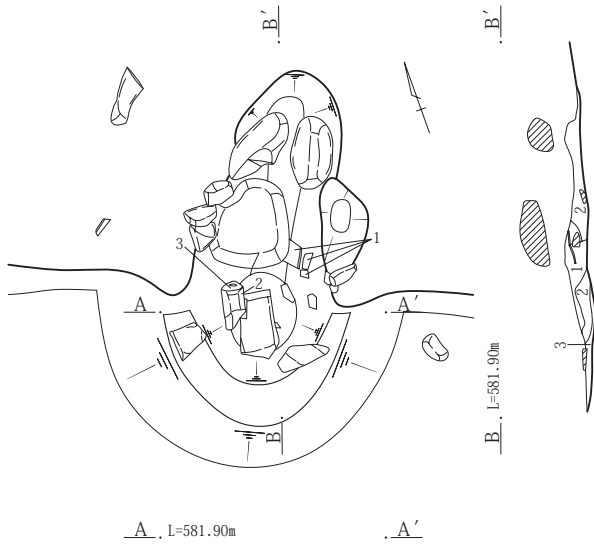
10号住居内ピット2(床下土坑)

1. 暗茶褐色土 褐色粒多く含み締りあり。
2. 暗茶褐色土 1と同質だが、地山ロームブロック含み締りあり。
3. 黒褐色土 白色粒、褐色粒(大)、炭化物含む。
4. 黄褐色土 地山ローム多く含む。

10号住居ピット3~8

1. 暗黒褐色土 ローム粒、炭化物含みや軟質。
2. 暗黒褐色土 1と似るがローム粒やや少ない。
3. 暗黄褐色土 地山ロームを含む。

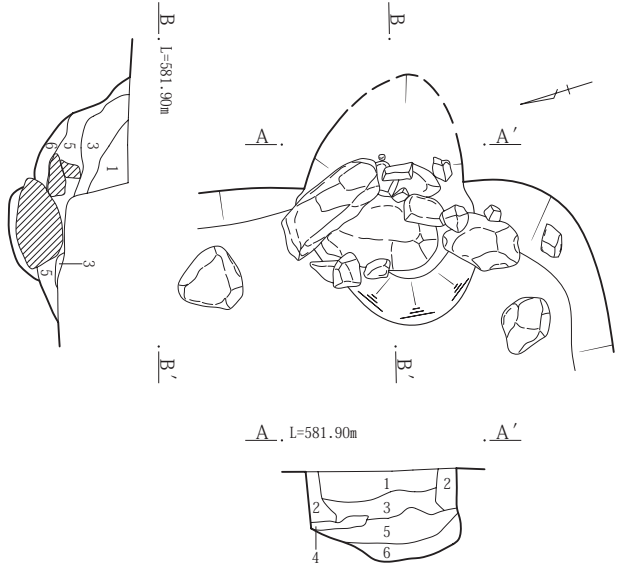
1号カマド



10号住居カマド

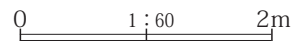
1. 黒褐色土 白色粒含む。
2. 赤褐色土 焼土。
3. 暗赤褐色土 若干の焼土、炭化物含む。

2号カマド

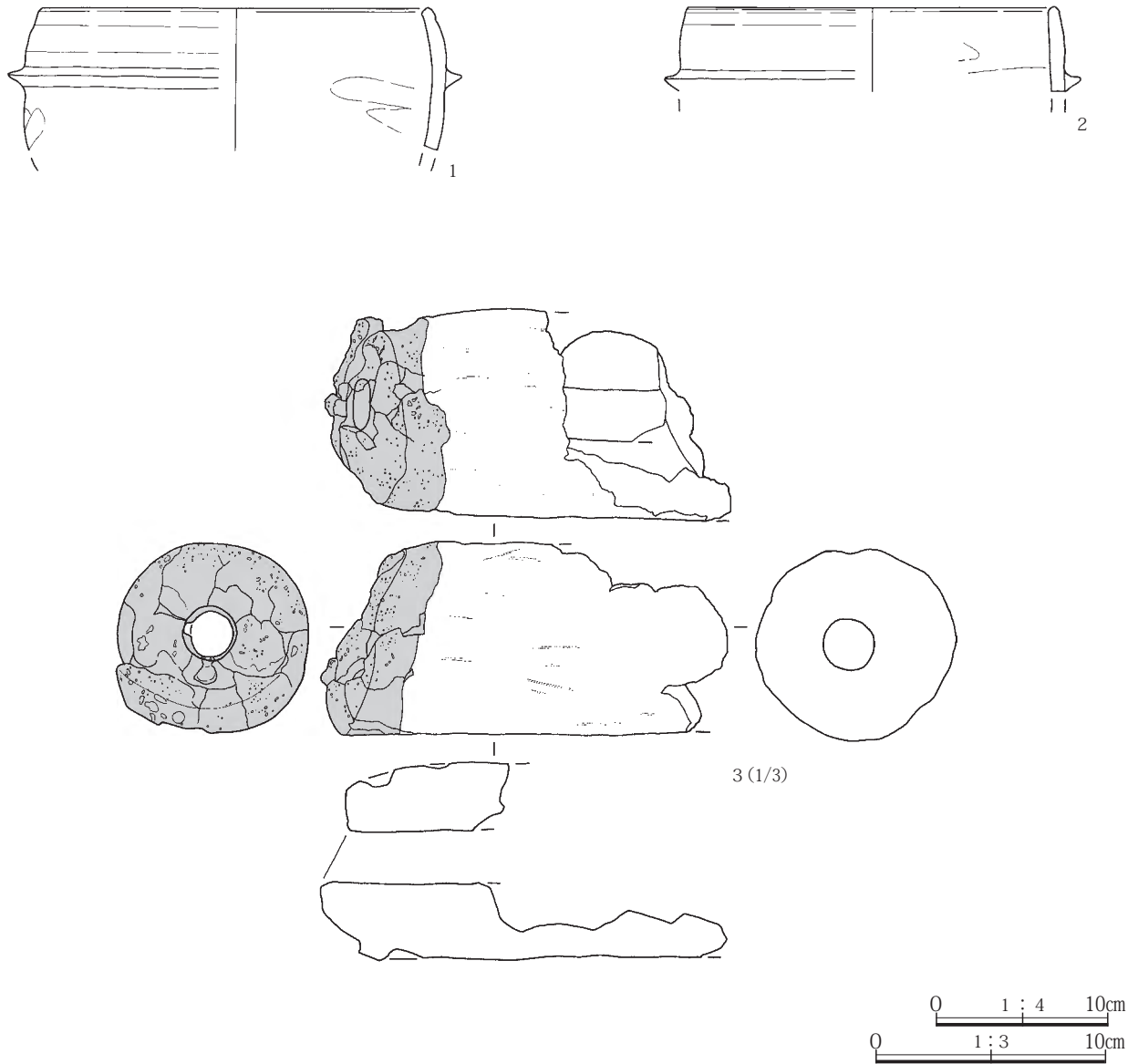


10号住居2号カマド

1. 黒色土 小白色粒含む、締りあり。
2. 黒色土
3. 暗黒褐色土 小白色粒、若干の灰、炭化物含む。
4. 灰黄褐色土 灰、焼土、炭化物層。
5. 灰黄褐色土 若干の焼土、炭化物含む。
6. 黒褐色土 小白色粒含み若干の地山ローム粒含む。



第160図 10号住居(2)



第161図 10号住居出土遺物

11号住居(第162・163図、PL.41・42・114)

位置 74区V・W-14・15グリッドに位置する。

重複 東壁中央に361・374号土坑、北西壁には360・376号土坑が重複するが、いずれも本址が切っている。

形状 僅かに南北が長い、隅丸長方形を呈す。

規模 3.9m×3.4mである、壁の高さは約0.5mと比較的遺存状況は良い。

方位 N-95°-E

床面 やや凹凸があるものの、ほぼ平坦で良く締まっていた。ピットを5基確認したが、対応関係は不明、位置も不規則である。

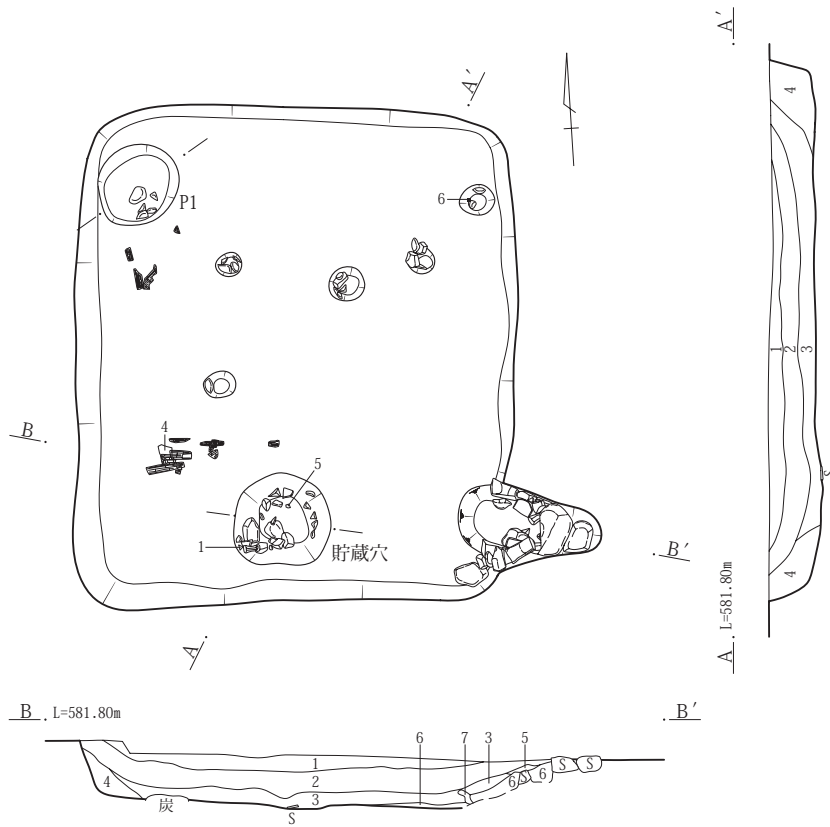
カマド 東壁の南東隅に寄った位置に作られている。焚き口幅は約50cm、全長は1m程である。大きな礫を焚き

口左右に据え、煙道に向かって両側に礫を配す。さらに煙道先端部、天井には蓋石状に大きな河原石が2個載せられていた。

掘方 南壁中央および北西部に径70~80cmの土坑が検出された。南壁寄りのものは貯蔵穴の可能性がある。礫、土器片が出土している。

出土遺物 土器類の出土は少ない。大型鉄鏝1点出土。

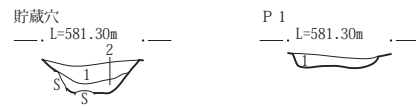
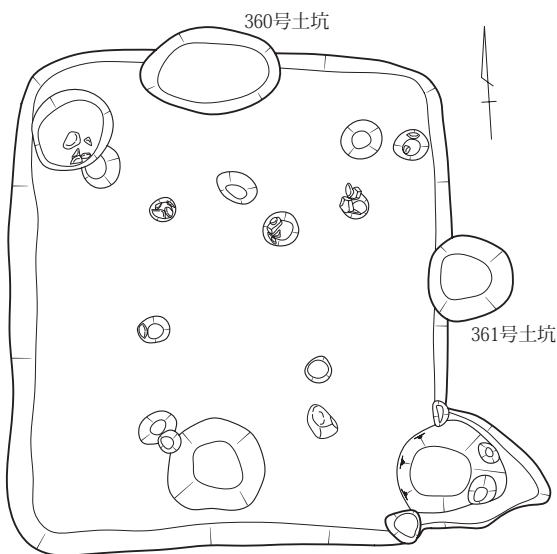
時期・所見 残りはよい、形状はほぼ方形に近く、掘り込みもほぼ垂直である。カマドが南東隅に作られているが、煙道は壁と直交方向に延びる。大型の礫を構築材として用い、作りのしっかりした構造である。出土遺物は少ないが、大型の鉄鏝が床面より出土している。時期は10世紀前半と考えられる。



11号住居

- 1. 黒褐色土 粕川パミス小ブロック状に含み、鉄分凝集目立つ。
- 2. 黒褐色土 微小炭化物、白色粒含み締りあり、鉄分凝集。
- 3. 黒褐色土 2と似るが炭化物(土)ローム粒含む。
- 4. 黒褐色土 ローム(粒子)含む。
- 5. 暗黄褐色土 ローム、炭化物、若干の焼土粒含む。
- 6. 暗黄褐色土 焼土粒、炭化物含む。
- 7. 黄褐色土 焼土ブロック多く含み、若干の炭化物混入。

掘方

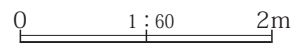


11号住居貯蔵穴

- 1. 黒色土 炭化物、ローム粒を多く含む。
- 2. 暗褐色土 ローム粒含む。

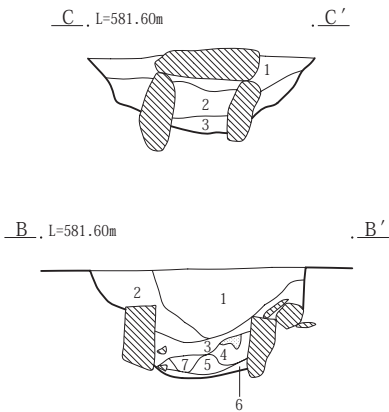
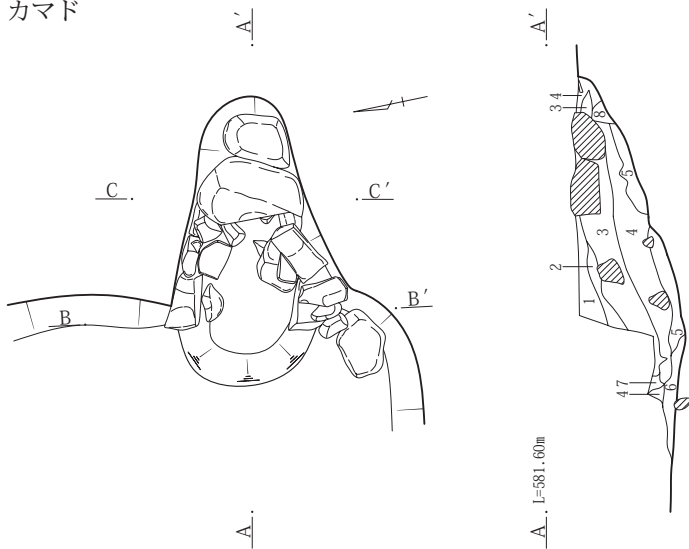
11号住居ピット1

- 1. 黒色土 若干の炭化物、ローム粒含む。



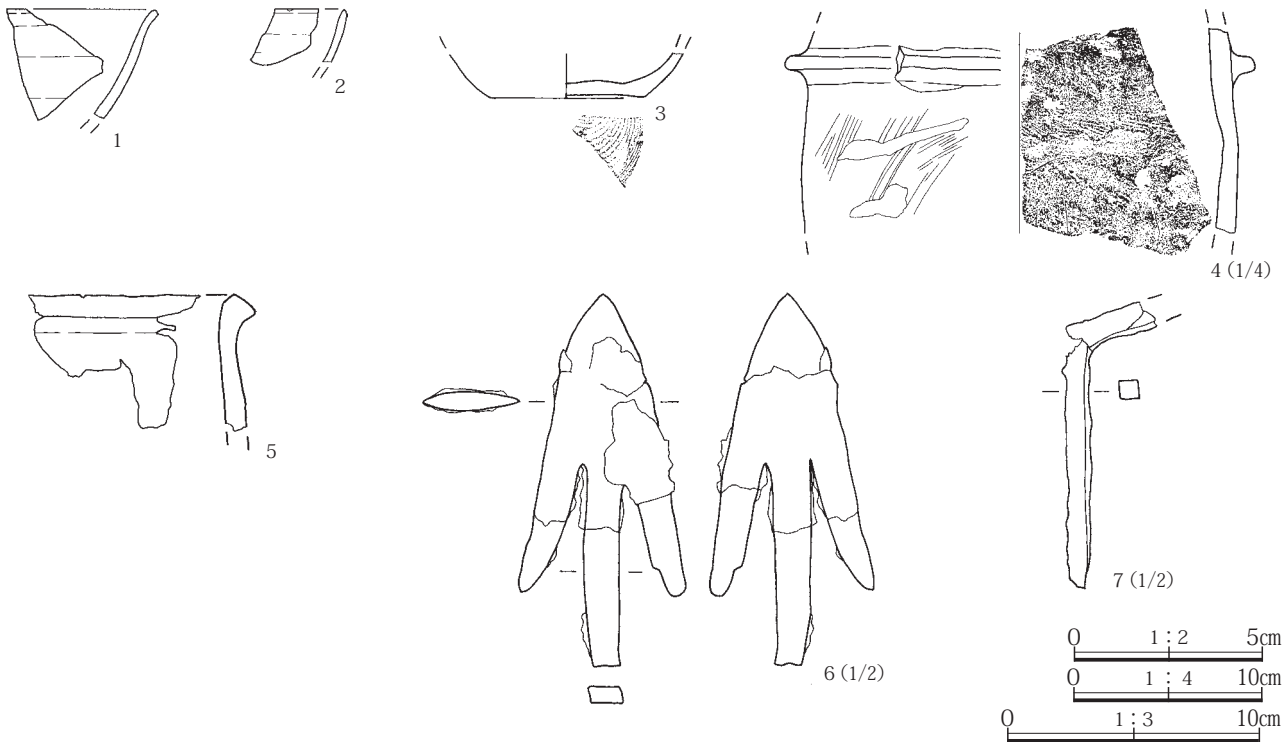
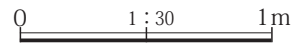
第162図 11号住居(1)

カマド



11号住居カマド

- 1. 黒色土 ローム小粒、炭化物、焼土を含む。
- 2. 黒褐色土 ローム粒、焼土粒含む。
- 3. 暗茶褐色土 焼土小ブロック含む。
- 4. 暗茶褐色土 焼土。
- 5. 暗褐色土 ローム粒、炭化物粒含む。
- 6. 黄褐色土 地山ローム粒、若干の焼土含む。
- 7. 黄褐色土 焼土主体とし、炭化物、灰を含む。
- 8. 暗黒褐色土 若干のローム含む。



第163図 11号住居(2)・出土遺物

12号住居(第164図、PL.42・114)

位置 74区O-11・12、P-12グリッドに位置する。

重複 無し。

形状 隅丸方形である。

規模 3.7m×3.7m×0.1m。

方位 N-7° - E

床面 黒色土で、平坦であるが、あまり硬化した部分は見られなかった。柱穴等は確認できなかった。

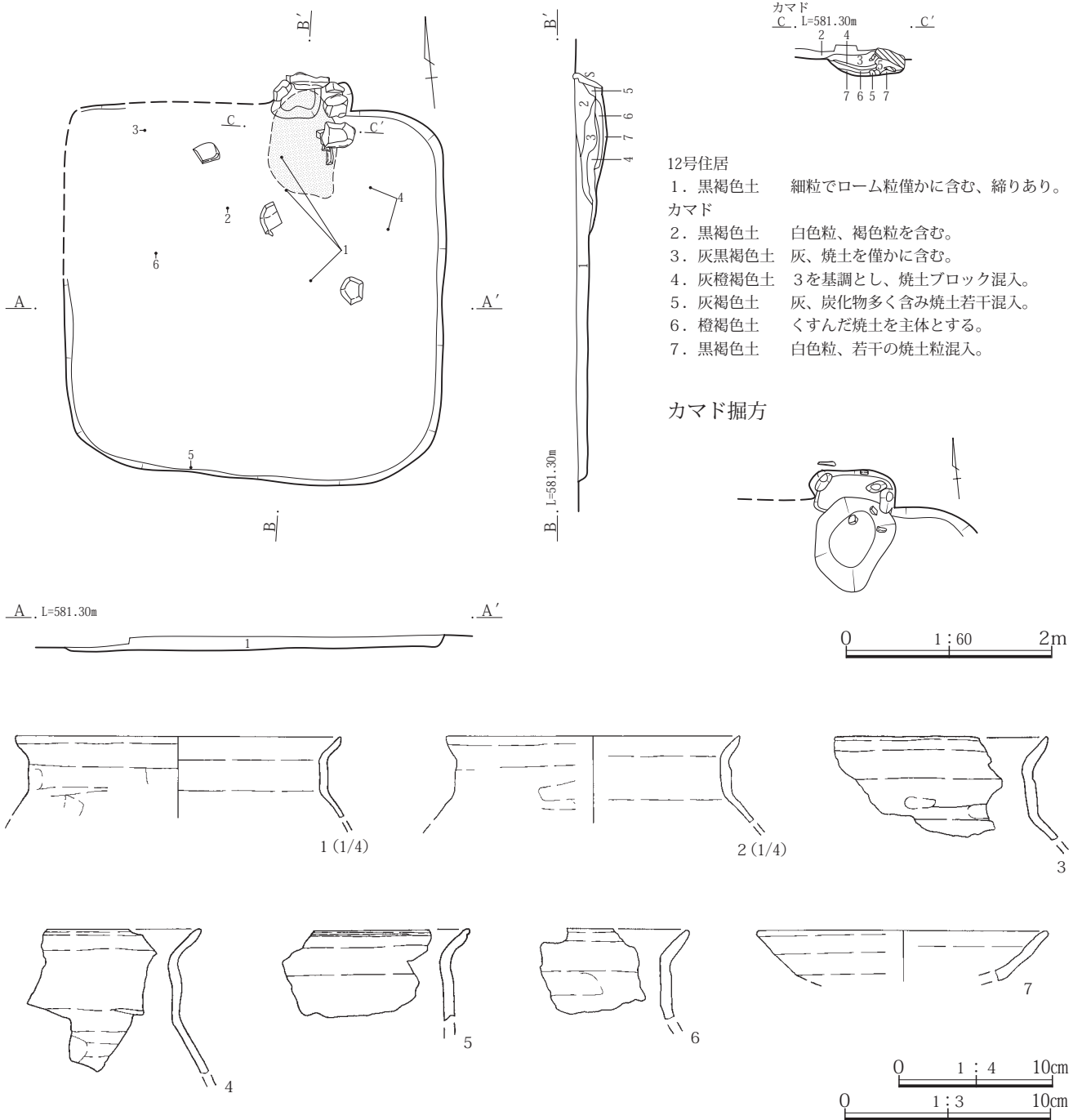
カマド 北壁の東寄りに位置する。コ状に外側に張り出

し、奥壁にやや平たい礫が壁状に据えられている。石の両側手前にも礫が据えられた構造である。幅70cm、奥行きは30cmと短く、火床面はやや凹み焼土が広がる。

掘方 特に土坑、ピットなどは確認されなかった。

出土遺物 カマド内より僅かに土器片が出土しているのみである。

時期・所見 10世紀前半か。掘り込みは浅く、黒色土中に作られていることもあり、床面レベルなどは想定の域を出ない。



第164図 12号住居・出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

13号住居(第165～167図、PL.43・44・114)

位置 74区W・X-17・18グリッドに位置する。

重複 14号住居と重複、本址が新しいものと考えられるが、不明な部分も残る。

形状 一部分のみの確認であるため全容は不明。

規模 西側部分が未調査で、検出された部分の規模は、東西(0.5)mである。深さは0.4mを測る。

方位 N-103° - E

床面 比較的平坦で、カマド前面部分は締まっている。ただし、14号住居と重なった北側部分については全体に軟質である。柱穴も確認されなかった。

カマド 東壁南東隅に構築されている。両袖に礫を組み天井部にもやや大きな礫を据えている。袖の芯材として礫が用いられており、特に右袖は多くの礫を組んで構築されている。検出時の状態は、焚き口部に礫が集中して検出されており、部分的に壊された状況であった。火床部、煙道部には多くの焼土が認められた。内部より炭化したモモの種実が出土している。

掘方 貼床や床下土坑等は認められなかった。

出土遺物 極めて少ない、須恵器碗の破片が僅かに出土している。

時期・所見 時期は10世紀前半か、全体の一部のみの調査であったために全容は不明である。カマドが2基確認されたことから重複を考えた。しかしながら明確な判断材料に欠け、拡張による造り替えの可能性もある。

14号住居(第165図、PL.43・44)

位置 74区W・X-17・18グリッドに位置する。

重複 13号住居に切られている。

形状 一部分のみの確認であるため全容は不明。

規模 西側部分が未調査である。検出された部分の規模は、深さ0.4mを測る。

方位 不明。

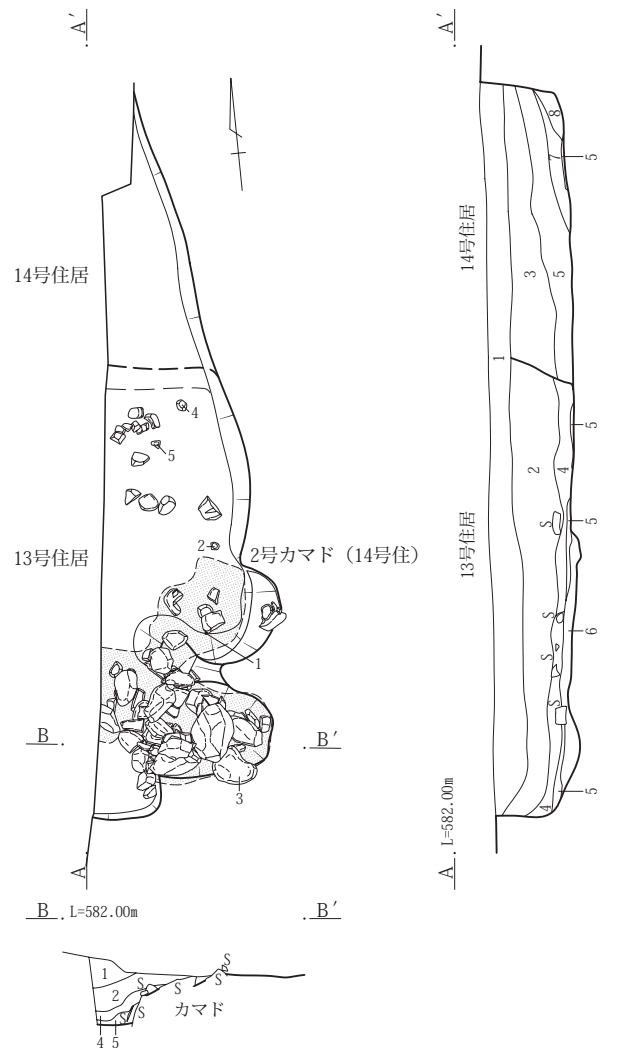
床面 平坦であるがあまり硬くはない。柱穴も見られず。

カマド 東壁の南東隅に構築されている。壁外に約50cm程張り出し、煙道部分は急角度に立ち上がる。煙道先端部に板状の礫が据えられている。内部にはほとんど焼土は認められなかった。

掘方 貼床、床下土坑等は見られない。

出土遺物 ほとんど見られない。

時期・所見 時期は10世紀前半か、カマドの存在から住居と認定したが、部分的な確認であったため全容は不明である。13号住居の拡張前の可能性もある。



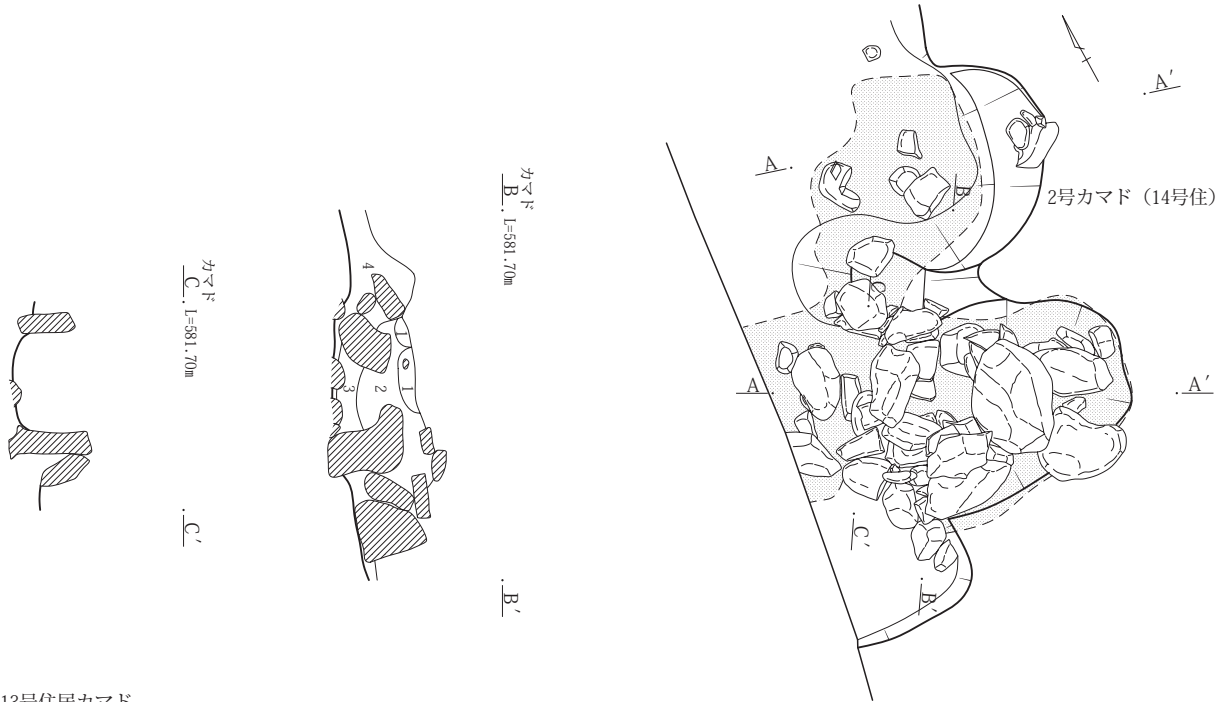
13・14号住居

1. 黒色土 細粒でローム粒僅かに含む(As-Kkを僅かに認める)。
2. 黒褐色土 若干の炭化物含む。
3. 灰黒色土 炭化物、焼土、灰を含む。
4. 黒褐色土 ローム粒炭化物焼土の混土。
5. 黒褐色土 ローム粒、ブロック含む。
6. 黒色土 炭化物、鉄分含む。
7. 黒色土 炭化物、ローム粒含み締めあり。
8. 黒褐色土 白色粒、褐色粒含み粘性あり。

0 1:60 2m

第165図 13(1)・14号住居

カマド



13号住居カマド

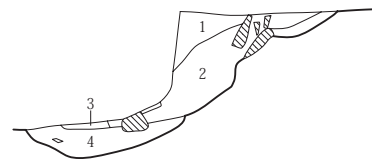
1. 黒褐色土 ローム粒、若干の炭化物含む。
2. 黒褐色土 ローム粒、炭化物含む。
3. 暗赤褐色土 ローム、焼土、炭化物多く含む。
4. 黄白色土 ローム、焼土。
5. 黒褐色土 ローム粒、若干の炭化物含む。

2号カマド(14号住居)

1. 黒色土 ローム細粒含む。
2. 黒褐色土 ローム粒、焼土粒、炭化物の混土(人為的埋土)。
3. 黒褐色土 若干の焼土粒含む。
4. 黒褐色土 地山白色粒、焼土を僅かに含む。

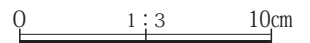
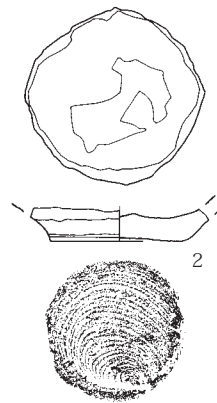
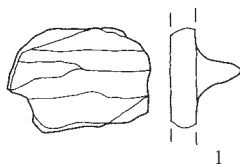
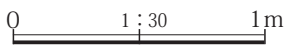
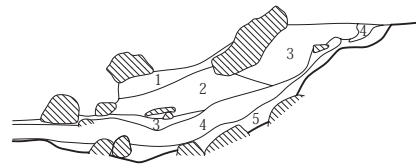
2号カマド

A, L=581.70m

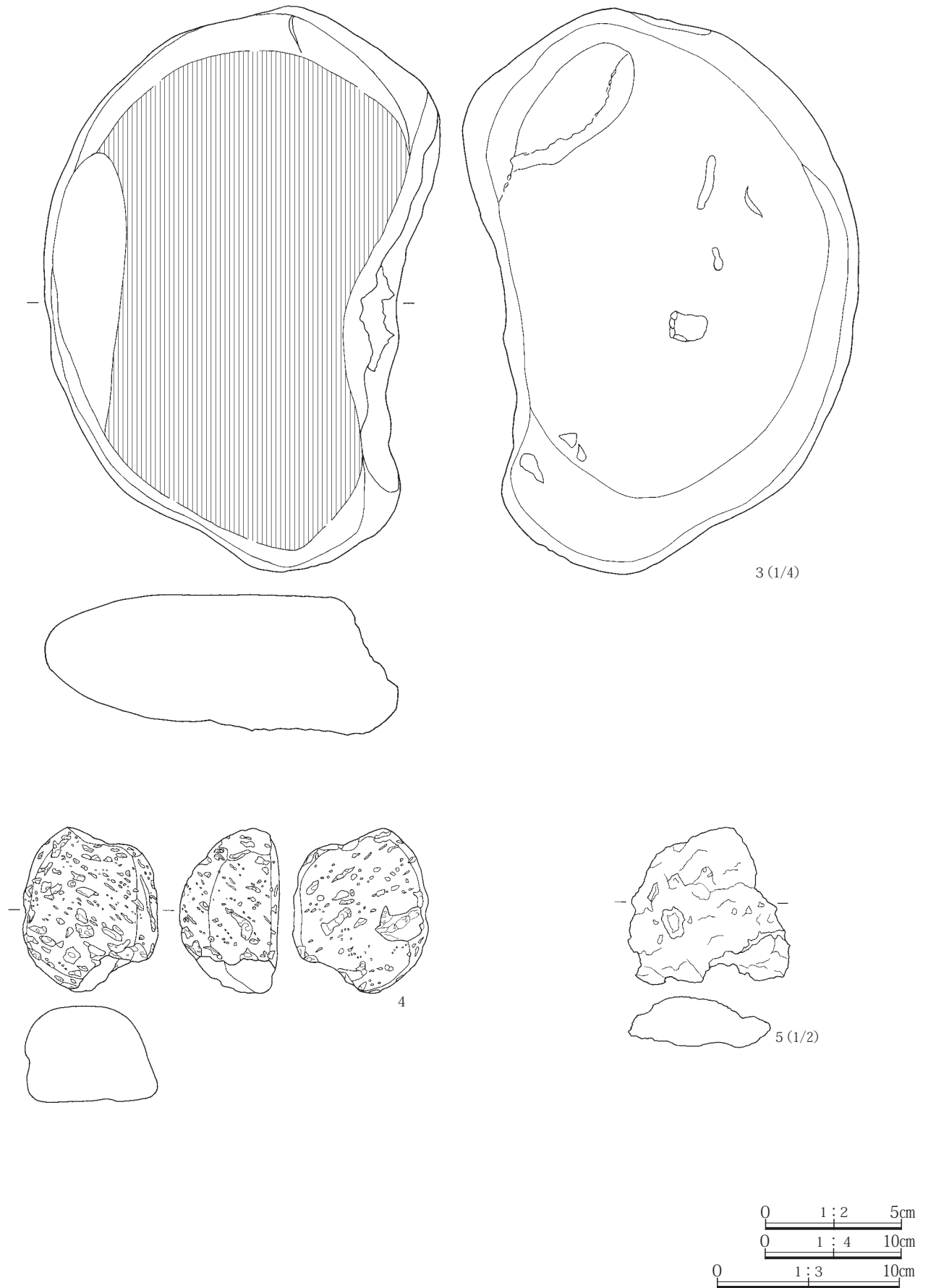


カマド

A, L=581.70m



第166図 13号住居(2)・出土遺物(1)



第167図 13号住居出土遺物(2)

15号住居(第168・169図、PL.44・114)

位置 85区I・J-1・2、75区I・J-25グリッドに位置する。

重複 南壁部分に379号土坑、住居内西側の床面下より陥し穴と思われる大型の392号土坑が検出された。379号は本址よりも新しく、392号土坑は古いと判断される。

形状 隅丸方形を呈す。北壁部分は僅かに調査区外となる。

規模 東西4.6m、南北4.0m(確認長)、深さ0.06m

方位 N-109° - E

床面 黒色土とロームが斑に広がり、中央部が僅かに凹む。あまり堅さは見られない。

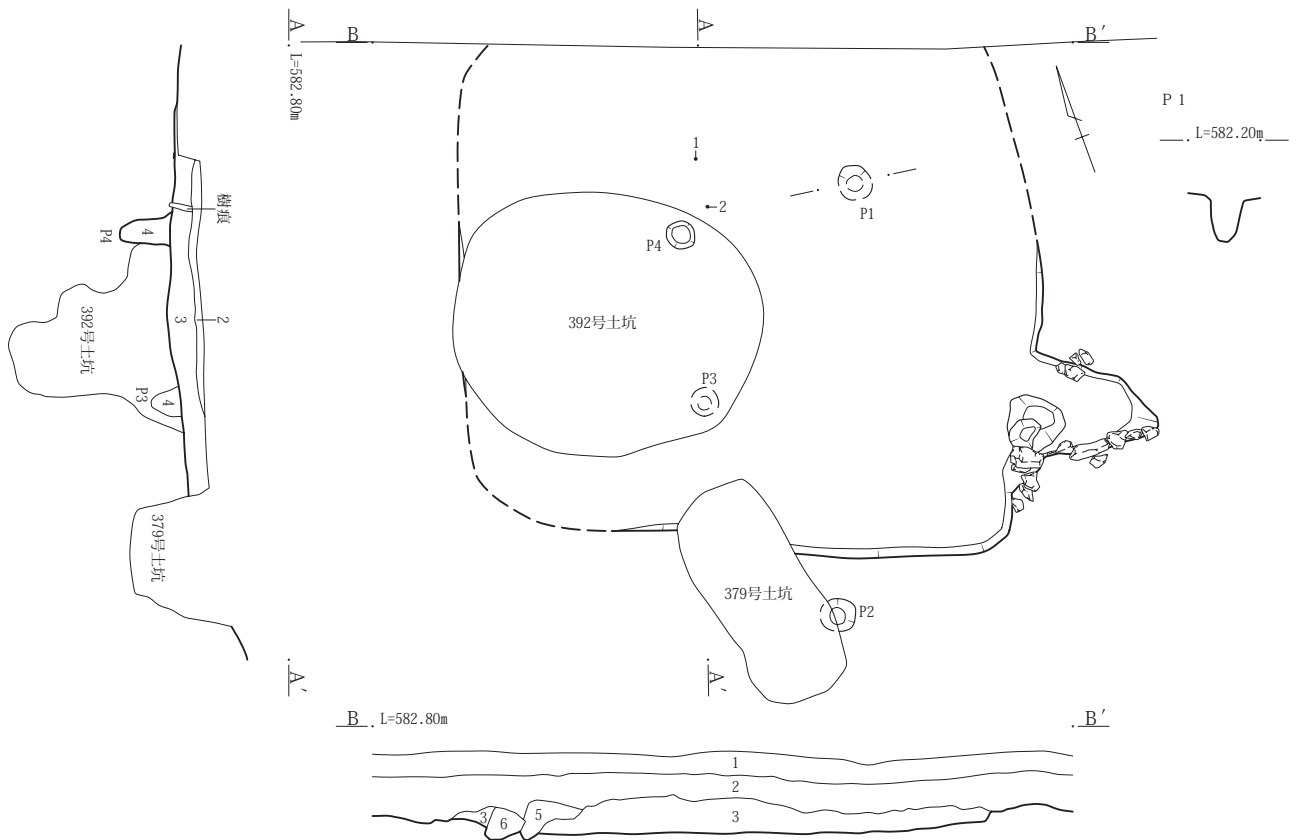
カマド 東壁やや南に寄った位置に構築される。上部は削平されており下部のみの残存となる。壁外にU字状に

延び、両側に礫が据えられた構造で、右側は比較的しっかり残るが、左側部分の石は崩落している。火床面には焼土、炭化物が広がる。

掘方 中央やや西寄りに本址よりも古い陥し穴(392号土坑)が掘り込まれている。さらに南壁部分にも長方形の379号土坑が掘り込まれ、本址を切っている。床下土坑等は確認されなかったが、壁側が僅かに下がる状況が窺えた。

出土遺物 極めて少ない。

時期・所見 ほぼ方形を呈す。上面を削平されており、遺存状況はあまり良くなかった。床面もやや不明瞭で、硬化は見られなかった。柱穴、貯蔵穴なども明確なものは、確認されなかった。時期は9世紀後半と見られる。



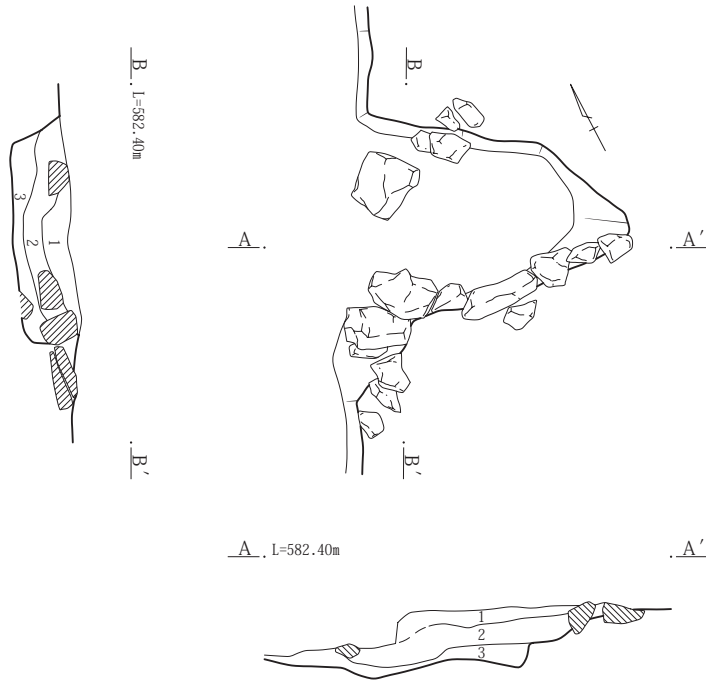
15号住居

1. 天明畑作土。
2. 黒褐色土 締りややあり、粘性あまりない。
3. 黒褐色土 1より暗い色調、締りややあり、粘性あまりない。
4. 暗褐色土 5より暗い色調、締りややあり、粘性あまりない。ロームブロック多く含む。
5. 暗褐色土 住居掘り込み崩落ブロックか、鉄分凝集を形成。
6. 黒褐色土 住居掘り込み崩落ブロックか、鉄分凝集を形成。

0 1:60 2m

第168図 15号住居(1)

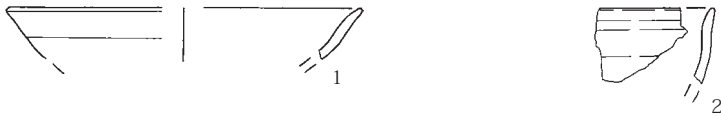
カマド



15号住居カマド

1. 暗褐色土 締りややあり、粘性あまりない。ローム粒子若干含む。
2. 褐色土 1より明るく締りややあり、粘性あまりない。ローム粒、焼土少量含む。
3. 褐色土 締りややあり、粘性あまりない。ローム粒子・ロームブロック若干含む。

0 1:30 1m



0 1:3 10cm

第169図 15号住居(2)・出土遺物

16号住居(第170図、PL.44・114)

位置 85区U-5・6、V-5グリッドに位置する。

重複 他の遺構との重複は見られない。

形状 東西に長い隅丸長方形を呈す。

規模 東西4.1m、南北3.3m、深さは0.2m。

方位 N-83°-E

床面 黒色土に若干のロームを混じる土で貼床がなされる。ほぼ平坦であるが、堅さはあまりない。

カマド 上部および先端部分を欠失している。若干の礫が残るが、手前右側に構築材と思われる礫がまとまって出土しており、廃棄時に意図的に壊されたことも考えら

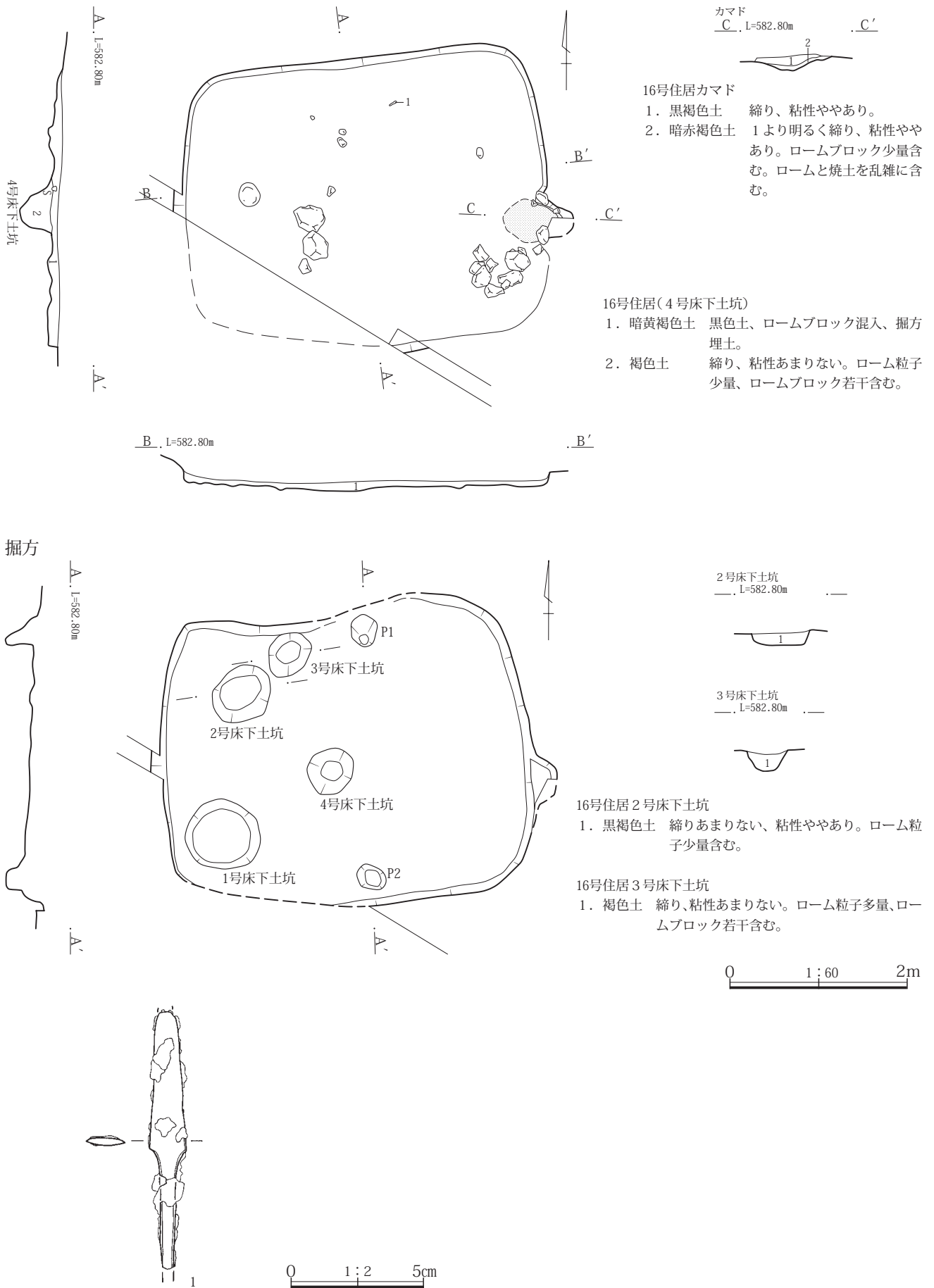
れる。火床面に焼土、手前側の床面には炭化物の広がりが認められる。

掘方 掘方面全体に若干の凹凸と4カ所の床下土坑が確認されている。土坑の埋土は黒色土にロームブロックが混じる一括埋土である。中央の土坑底面には大きな礫が検出されている。また南北の壁寄り中央にピットも確認され、中央の土坑を含め、柱穴の可能性はある。

出土遺物 土器は少ない。鉄鏝が1点出土している。

時期・所見 上部を削平されており、遺存状況は良くない。カマドについても下部のみの検出に止まっている。時期は9世紀後半か。

第5節 平安時代の遺構と遺物



第170図 16号住居・出土遺物

2. 焼土

14号焼土(第171図、PL.44)

位置 85区N-1グリッドに位置する。

形状・規模 やや大きな角礫が長さ1m程に並び北(内側)に焼土が確認された。おそらく両側に礫が並んでいたものと推定される。

所見 焼土の断面を見ると、弧状に良く焼けている。明確な範囲は掴めなかったが、カマドの可能性もある。

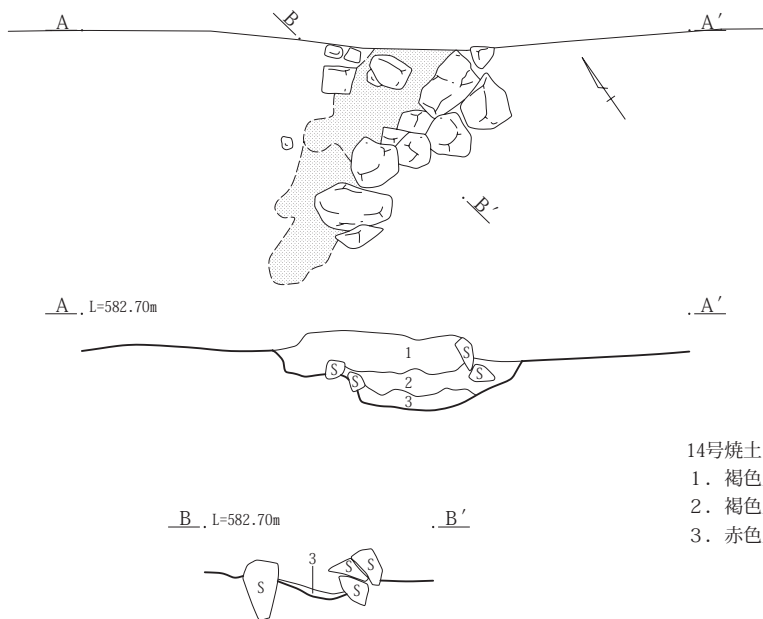
15号焼土(第171図、PL.44・114)

位置 75区F・G-23グリッドに位置する。

形状・規模 長さ2m、幅1m程の焼土の広がりを認めた。焼土はブロック状で黒褐色土との混土であるが、下層部は比較的純粋な焼土層が認められた。

所見 数個の礫が検出されているが、意図を持って配された状況は窺えなかった。カマド残骸の可能性もあるが、近世にまで下る遺構かもしれない。

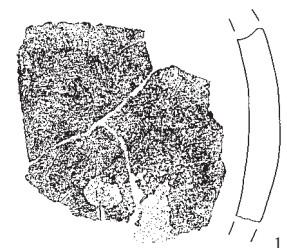
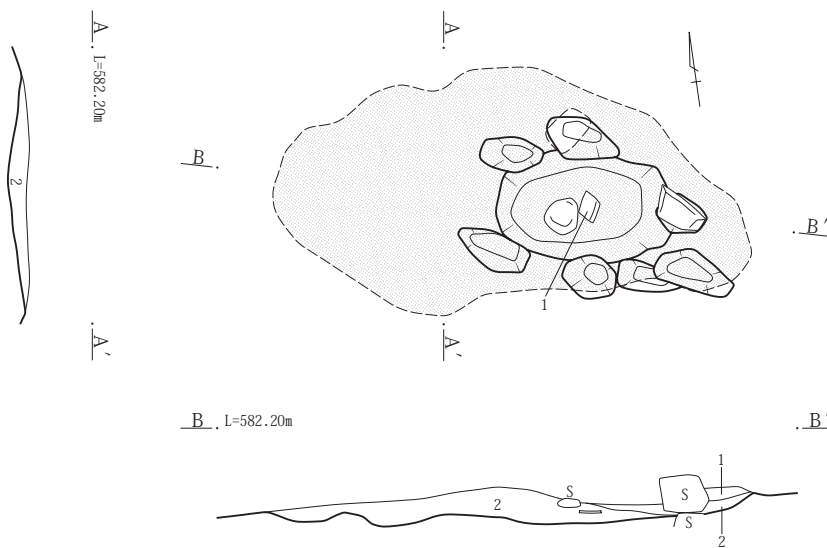
14号焼土



14号焼土

1. 褐色土 縮りややあり、焼土、風化岩片少量含む。
2. 褐色土 1と近似するがより明るく、炭化物を少量含む。
3. 赤色土 2より明るい。縮り、粘性ややあり。均質でよく焼き縮った焼土。

15号焼土



0 1:3 10cm

15号焼土

1. 明褐色土 ローム粒子、ロームブロック少量含む。
2. 明赤褐色土 縮りややあり、粘性あまりない。均質な焼土ブロック。

0 1:30 1m

第171図 14・15号焼土・15号焼土出土遺物

3. 土坑

13号土坑(第172・181図、PL.115)

位置 75区E-16グリッド、1号住居の南西に重複。

形状・規模 長円形、長軸1.65m、短軸1.05m、深さ0.15m。

長軸方向 N-13°-W

出土遺物 土釜の口縁部片。

所見 1号住居の南西、2号カマドに重複。掘り込みは浅く、周囲に礫が点在し、焼土が見られる。土坑としたが不確定。

14号土坑(第172図)

位置 75区D-16グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸1.45m、短軸0.95m、深さ0.28m。

長軸方向 N-78°-E

出土遺物 無し。

所見 やや不定型な長円形を呈す。覆土は軟質な黒色土で、地山の礫が混入。

32号土坑(第172図)

位置 75区C-17グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸1.14m、短軸0.76m、深さ0.12m。

長軸方向 N-15°-W

出土遺物 無し。

所見 長円形で掘り込みは浅い。やや粘性を持つ覆土。

33号土坑(第172・181図、PL.45・115)

位置 75区D-17グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸1.96m、短軸1.19m、深さ0.22m。

長軸方向 N-88°-W

出土遺物 土器片1点出土。

所見 1号住居の北側に重複。やや大型の長円形を呈し、大型の礫が複数出土している。覆土断面にはAs-Kkが観察されている。1号住居を切って造られている。

34号土坑(第172図)

位置 75区D-17グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸0.98m、短軸(0.39)m、深さ0.27m。

長軸方向 -

出土遺物 無し。

所見 33号土坑の北に重複。本址が古いと考えられる。底部は大きく広がる形状。

35号土坑(第173図、PL.45)

位置 75区E・F-16グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸1.86m、短軸0.96m、深さ0.24m。

長軸方向 N-57°-E

出土遺物 無し。

所見 長円形で掘り込みはあまり深くない。粘質土で埋まる。

36号土坑(第173図)

位置 75区E・F-15・16グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸(1.83)m、短軸1.11m、深さ0.28m。

長軸方向 N-71°-W

所見 西側斜め半分は未調査である。隅丸の長方形を呈すと思われる。中央に大型礫が見られる。

59号土坑(第173・181図、PL.45・115)

位置 75区C-15・16グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸0.69m、短軸0.57m、深さ0.27m。

長軸方向 N-14°-E

出土遺物 覆土中より鉄釘3本が出土。

所見 小型の土坑で、粘質土で埋まる。

62号土坑(第173・181図、PL.45・115)

位置 75区B・C-14グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸1.45m、短軸0.9m、深さ0.15m。

長軸方向 N-5°-W

出土遺物 土釜の胴部片出土。

所見 長円形を呈し、掘り込みは浅い。底は平らである。

第3章 検出された遺構と遺物

74号土坑(第173・181図、PL.45・115)

位置 75区B-13・14グリッドに位置する。

形状・規模 隅丸長方形か。長軸(0.56)m、短軸0.5m、深さ0.27m。

長軸方向 N-48° - E

出土遺物 須恵器椀の破片出土。

所見 2号住居の東壁に重複。底部に角礫出土。

75号土坑(第173図、PL.45)

位置 75区B-13グリッドに位置する。

形状・規模 長円形、長軸0.68m、短軸0.55m、深さ0.16m。

長軸方向 N-25° - E

出土遺物 無し。

所見 2号住居の東壁に重複。また74号土坑に隣接する。南側には地山の大礫がある。

377号土坑(第176図、PL.46)

位置 74区W・X-17・18グリッドに位置する。

形状・規模 隅丸長方形、長軸2.12m、短軸1.58m、深さ0.79m。

長軸方向 N-27° - W

出土遺物 無し。

所見 13、14号住居の東壁に重複し、本址が新しい。大型で掘り込みも深い。

378号土坑(第176・181図、PL.46・115)

位置 74区Q-19グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸1.23m、短軸1.13m、深さ0.38m。

長軸方向 -

出土遺物 土釜、甕の底部片および円礫が出土している。

所見 北側部分一部未調査である。円形で掘り込みもしっかりとしている。他の土坑とはやや離れて位置する。

379号土坑(第176図、PL.46)

位置 75区J-25、85区J-1グリッドに位置する。

形状・規模 長方形、長軸1.32m、短軸0.49m、深さ0.72m。

長軸方向 N-10° - W

出土遺物 無し。

所見 15号住居の南に一部が重複し、住居を切って構築されている。長方形で、壁はほぼ垂直に掘り込まれている。陥し穴か。

380号土坑(第176図、PL.46)

位置 75区L-25グリッドに位置する。

形状・規模 長方形、長軸1.73m、短軸0.8m、深さ0.39m。

長軸方向 N-3° - W

出土遺物 無し。

所見 隅丸長方形で掘り込みは浅く、上部を削平されていると思われる。陥し穴か。

381号土坑(第177図、PL.46・47)

位置 75区K-25、85区K-1グリッドに位置する。

形状・規模 長方形、長軸2.02m、短軸0.7m、深さ0.37m。

長軸方向 N-5° - E

出土遺物 無し。

所見 長方形で、壁はほぼ垂直に掘り込まれ、底は平らである。陥し穴か。

382号土坑(第177図、PL.46)

位置 75区J-25、85区J-1グリッドに位置する。

形状・規模 長方形、長軸2.04m、短軸0.55m、深さ0.6m。

長軸方向 N-5° - W

出土遺物 無し。

所見 長方形で、壁はほぼ垂直に掘り込まれ、底は平らである。陥し穴か。

383号土坑(第177図、PL.47)

位置 75区I-24グリッドに位置する。

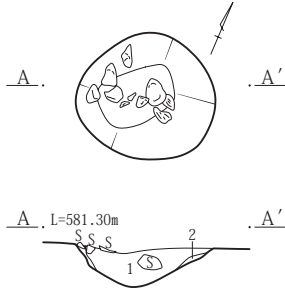
形状・規模 長方形、長軸1.9m、短軸0.63m、深さ0.43m。

長軸方向 N-15° - W

出土遺物 無し。

所見 長方形で、壁はほぼ垂直に掘り込まれ、底は平らである。陥し穴か。

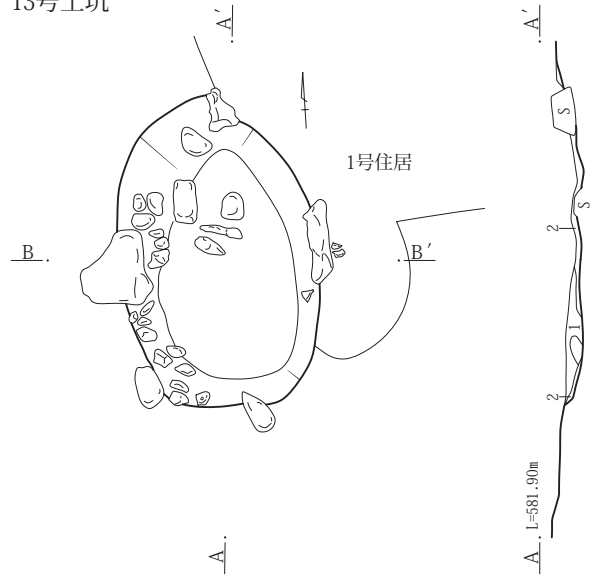
3号土坑



3号土坑

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体的に含み、粘性あり。
2. 黒褐色土 黒色土塊を少量、炭化物を含む。

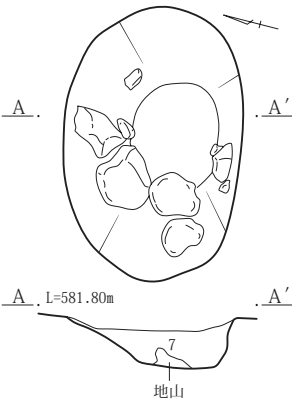
13号土坑



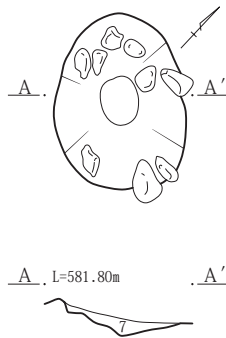
13号土坑

1. 黄褐色土 焼土塊を混入する。
2. 黄褐色土 浅黄橙色塊を含む。

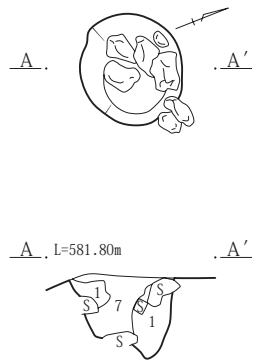
14号土坑



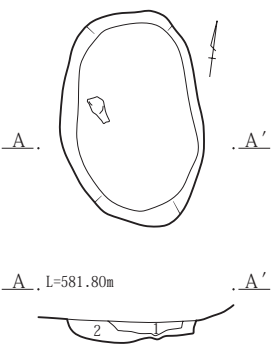
15号土坑



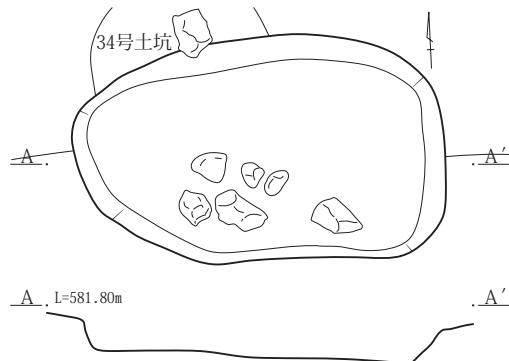
16号土坑



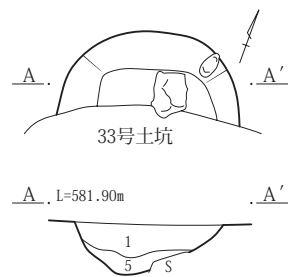
32号土坑



33号土坑

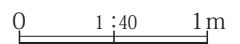


34号土坑



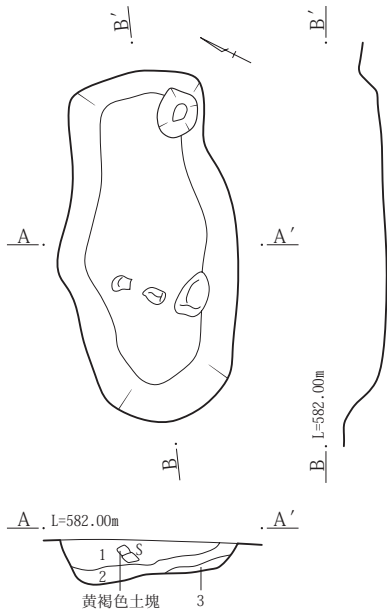
14~16・32・33・34号土坑

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を全体に含み、粘性あり。
2. 黒色土 1と近似するが、やや粘性弱い。
5. 暗褐色土 細粒白色軽石を全体に含む。浅黄橙色塊を少量含む。
7. 褐灰色土 粘質土。細粒白色軽石。他の土坑より新。



第172図 土坑(1) 3・13~16・32・33・34号土坑

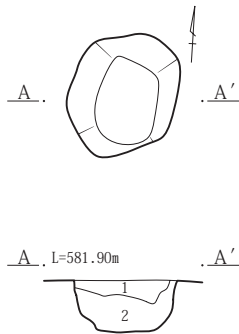
35号土坑



35号土坑

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒含み、粘性あり。
2. 黒色土 1と近似するが、やや粘性弱い。
3. 暗褐色土 2より黄褐色小土塊、白色軽石を多く含む。

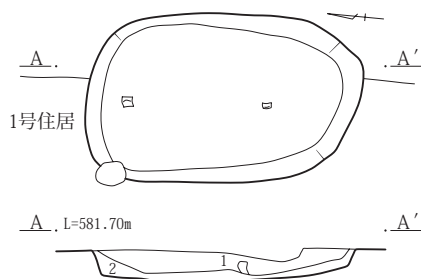
59号土坑



59号土坑(旧28号土坑)

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒全体的に含み、粘性あり。
2. 黒褐色土 浅黄粒子混入。

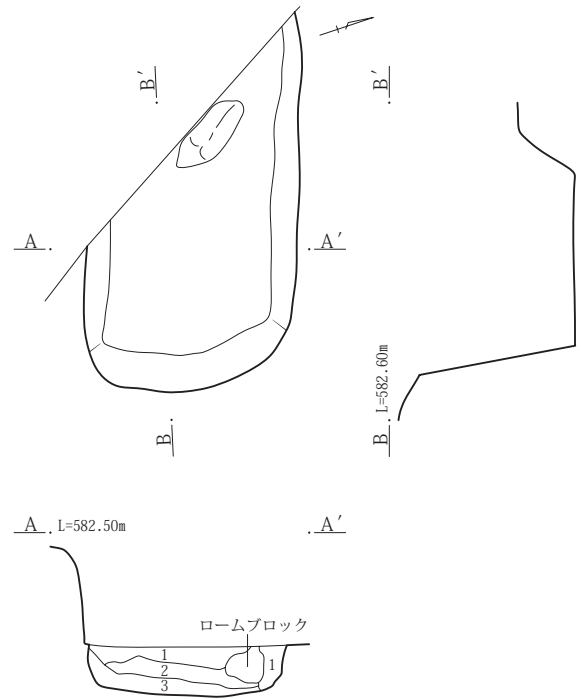
62号土坑



62号土坑

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒全体的に含み、粘性あり。
2. 暗褐色土 細粒白色軽石を全体に含む。浅黄橙色塊を少量含む。

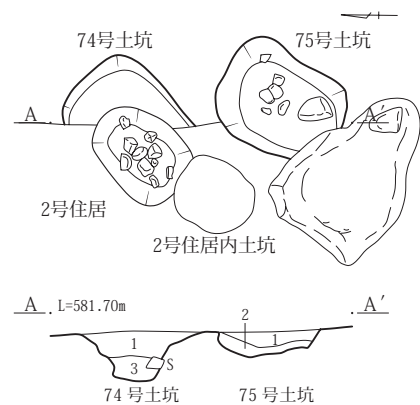
36号土坑



36号土坑

1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒全体的に含み、粘性あり。
2. 黒褐色土 浅黄粒子混入。
3. 黒褐色土 浅黄粒子多く含む。

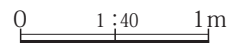
74・75号土坑



74・75号土坑

炭化物混入する

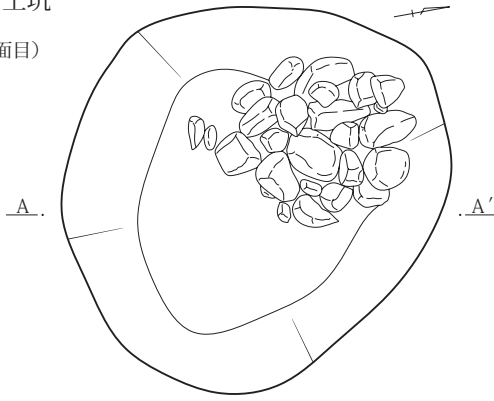
1. 黒色土 白色、黄橙色軽石、黄褐色塊、明赤褐色粒を含み、粘性あり。
2. 黒色土 1と近似するが、僅かに炭化物含み、やや粘性弱い。
3. 黒色土 2より黄褐色小土塊、白色軽石多く含む。



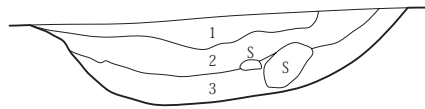
第173図 土坑(2) 35・36・59・62・74・75号土坑

215号土坑

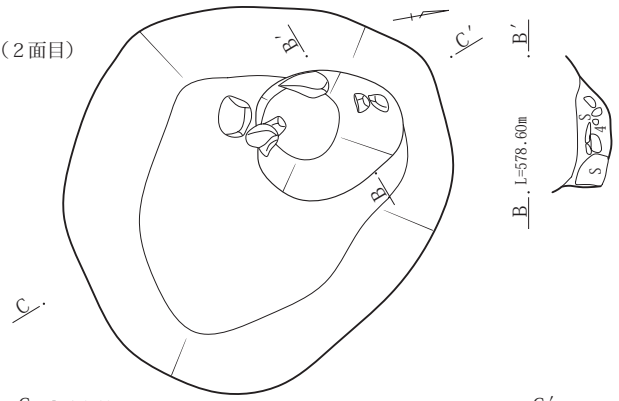
(1面目)



A, L=578.90m A'



(2面目)



C, L=579.00m C'

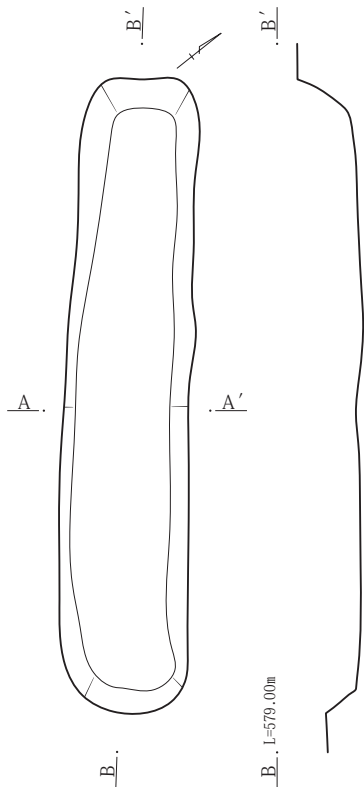


B, L=578.60m

215号土坑

1. 黒褐色土 白色粒、黄色粒含む。
2. 暗褐色土 黄褐色土ブロック多く含む。
3. 暗黄褐色土 2と近似するが白色粒の混入少ない。
4. 暗褐色土 やや軟質で礫を含む。

216号土坑



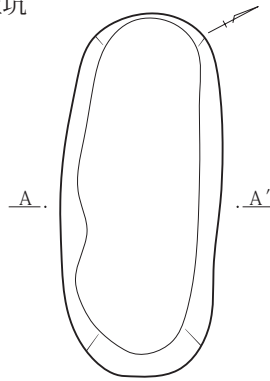
A, L=578.90m A'

B, L=579.00m

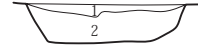
216号土坑

1. 黒色土 黄色粒、若干の炭化物含み粘性あり。
2. 黒色土 1と似るが黄色粒の混入少ない。

217号土坑



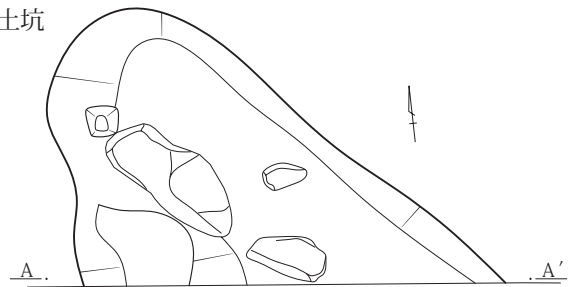
A, L=579.00m A'



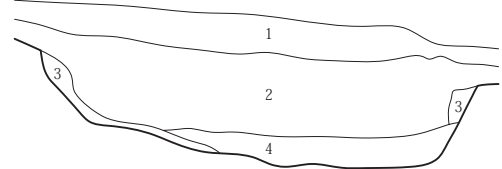
217号土坑

1. 黒色土 若干の白色、黄色粒含む。
2. 黒色土 白色粒、黄色粒多く含む。

224号土坑



A, L=579.20m A'



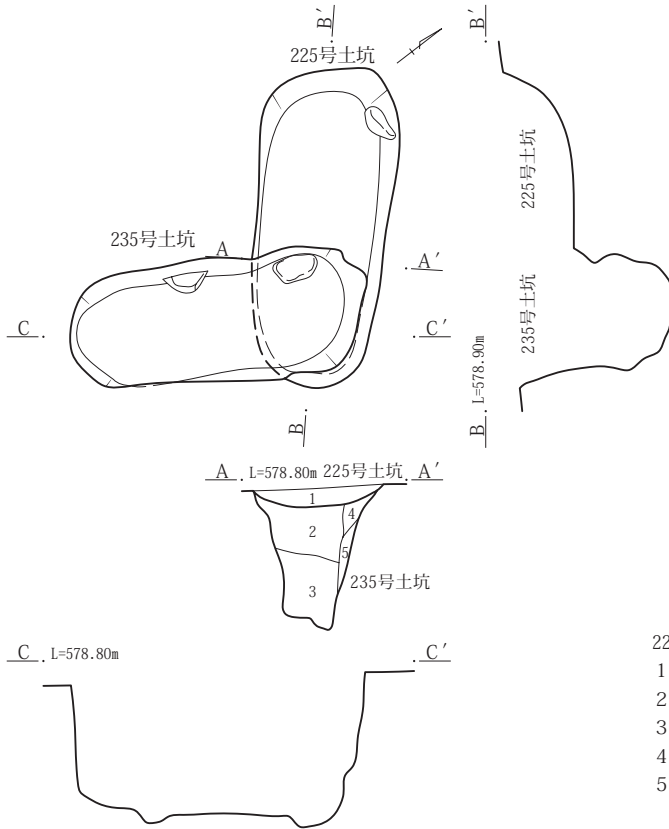
224号土坑

1. 黒色土 畑耕土、黒味、粘性あり。
2. 暗黒褐色土 白色粒、黄色粒僅かに含み粘性あり。
3. 暗褐色土 黄色粒多く含む。
4. 暗褐色土 地山黄褐色土含む。

0 1:40 1m

第174図 土坑(3) 215~217・224号土坑

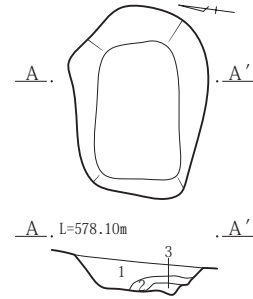
225・235号土坑



225号土坑

- 1. 暗黒褐色土 若干の黄褐色粒含む。
- 2. 黒褐色土 白色粒、黄褐色粒含み縮りあり。
- 3. 黒褐色土 黄褐色土ブロック目立つ。
- 4. 黄褐色土 2に似るが黄色味あり。
- 5. 黄褐色土 黄色味強く夾雑物少ない。

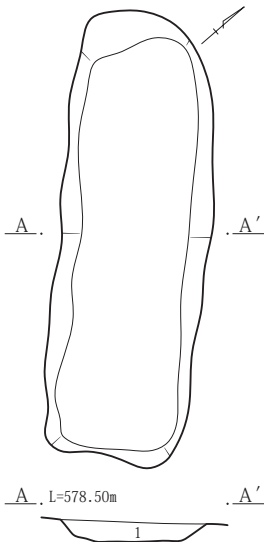
229号土坑



229号土坑

- 1. 黒褐色土 やや黒味有し、軽石混入少ない。
- 2. 黄褐色土 地山黄褐色土主体土。
- 3. 黄褐色土 黄褐色土ブロック含む。

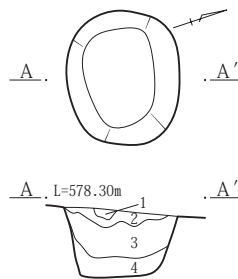
231号土坑



231号土坑

- 1. 黒褐色土 白色小粒多く、黄褐色土小ブロック含む。

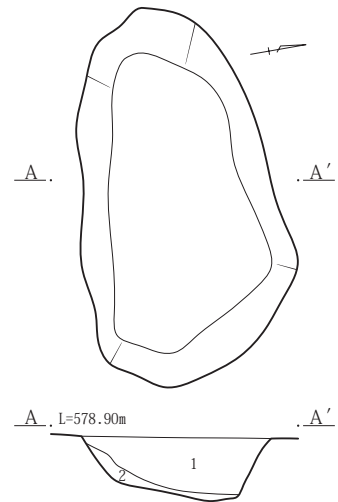
233号土坑



233号土坑

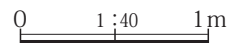
- 1. 黒色土 軟質土。
- 2. 黒色土 白色小粒含む。
- 3. 黒褐色土 黄褐色粒、褐色粒多く含む、縮りあり。
- 4. 黒褐色土 3を基調とするが混入する粒子小さい。

234号土坑



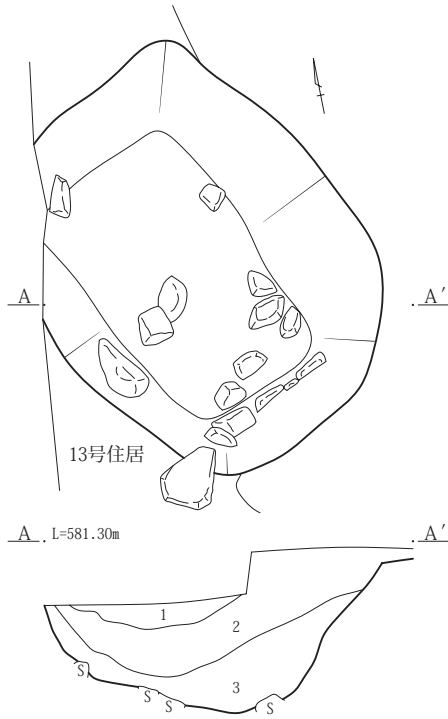
234号土坑

- 1. 黒褐色土 黄褐色粒、褐色粒多く含む、縮りあり。
- 2. 黒褐色土 1を基調とするが混入する粒子小さい。



第175図 土坑(4) 225・229・231・233～235土坑

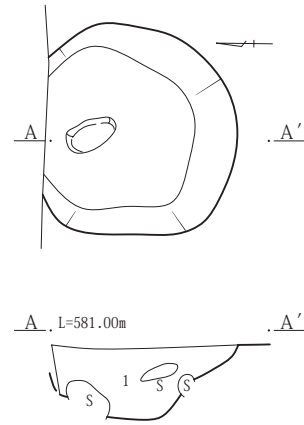
377号土坑



377号土坑

1. 黄褐色土 ローム粒、焼土、炭化物僅かに含む。
2. 黒褐色土 ローム粒、若干の炭化物含む。
3. 黒褐色土 ローム粒(大)含む。

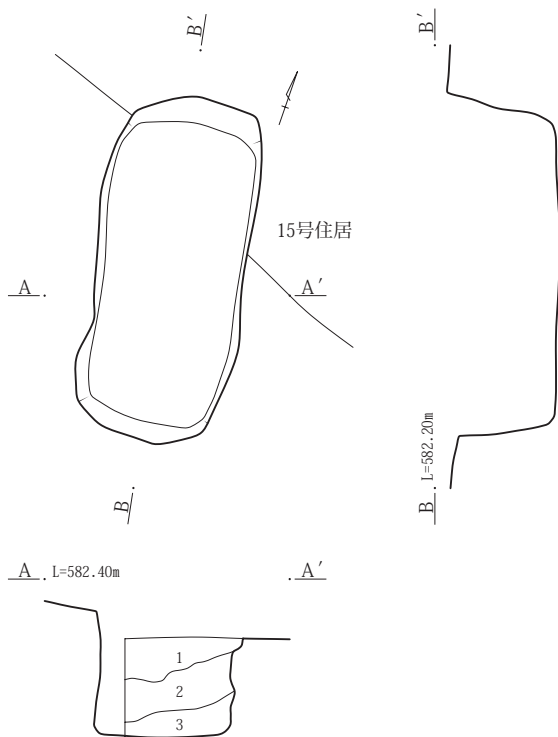
378号土坑



378号土坑

1. 黒色土 細粒で砂質、少量のローム粒、炭化物および礫を含む。
(底面下部は鉄分凝集の礫を含む地山層)

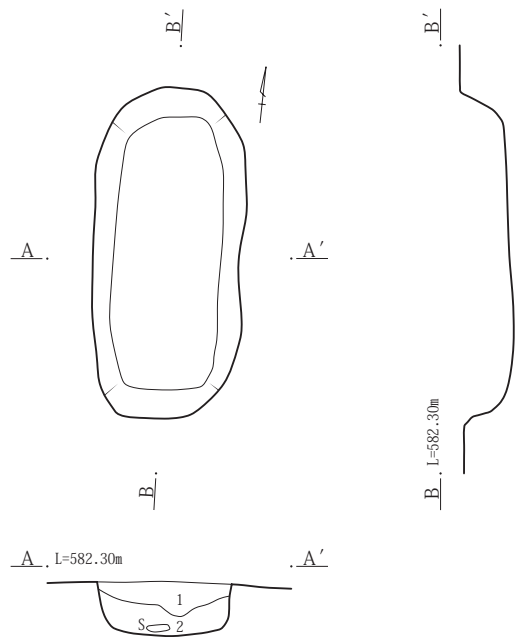
379号土坑



379号土坑

1. 褐色土 締りあまりなく、粘性ややあり。ロームブロック多く含む。
2. 暗褐色土 1より暗い。粘性ややあり。ロームブロック少量含む。
3. 褐色土 1より明るく締りあまりない、粘性ややあり。ロームブロック多く含む。

380号土坑



380号土坑

1. 黒色土 締りなく粘性ややあり。ローム粒子少量含む。
2. 黒色土 1より明るい。締りなく、粘性ややあり。ローム粒、ブロック少量含む。



第176図 土坑(5) 377~380号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

384号土坑(第177図、PL.47)

位置 75区I-24グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸0.68m、短軸0.59m、深さ0.42m。

長軸方向 —

出土遺物 無し。

所見 円形で掘り込みもしっかりしている。埋土中に若干の焼土、礫を含む。

385号土坑(第177図、PL.47)

位置 75区H-23・24グリッドに位置する。

形状・規模 楕円形、長軸0.8m、短軸0.68m、深さ0.19m。

長軸方向 —

出土遺物 無し。

所見 長円形で断面鍋底状を呈す。

386号土坑(第177図、PL.47)

位置 75区G-23・24グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸0.51m、短軸0.5m、深さ0.25m。

長軸方向 —

出土遺物 無し。

所見 小型で底面は平ら。

387号土坑(第178図、PL.47)

位置 75区I・J-23グリッドに位置する。

形状・規模 楕円形、長軸1.11m、短軸0.8m、深さ0.4m。

長軸方向 N-0°

出土遺物 土器片。

所見 やや不定型な楕円形で、僅かに炭化物含む。縄文土器片が混入。

388号土坑(第178図)

位置 75区I-24グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸0.5m、短軸0.49m、深さ0.22m。

長軸方向 —

出土遺物 無し。

所見 小型の土坑で、底は平らである。

389号土坑(第178図、PL.47)

位置 75区I-24・25グリッドに位置する。

形状・規模 長方形、長軸1.32m、短軸0.5m、深さ0.58m。

長軸方向 N-0°

出土遺物 無し。

所見 長方形で、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。陥し穴か。

390号土坑(第178図、PL.47)

位置 75区J・K-25グリッドに位置する。

形状・規模 円形、長軸2.12m、短軸1.92m、深さ1.3m。

長軸方向 N-22° -W

出土遺物 無し。

所見 大型の土坑。上部形状は円形で、すり鉢状の断面を呈す。下部はほぼ長方形に掘り込まれ、底は平らである。陥し穴である。

391号土坑(第178図、PL.47)

位置 85区T-5グリッドに位置する。

形状・規模 長方形、長軸1.11m、短軸0.52m、深さ0.26m。

長軸方向 N-0°

出土遺物 複数の角礫。

所見 長円形で大型の角礫が投げ込まれたような状態で多く出土。

392号土坑(第179図、PL.47)

位置 85区I・J-1グリッドに位置する。

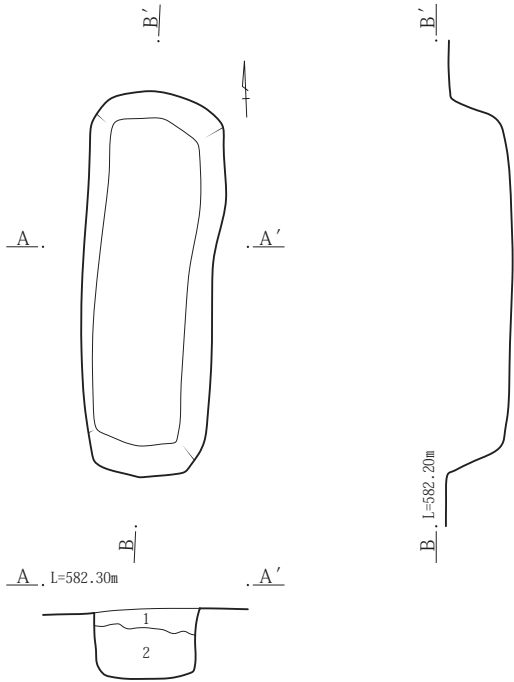
形状・規模 長方形、長軸2.43m、短軸2.12m、深さ1.44m。

長軸方向 N-45° -W

出土遺物 無し。

所見 1号住居内に造られ、住居よりも古い。大型土坑である。上部形状は円形で、すり鉢状の断面を呈す。下部はほぼ長方形に掘り込まれ、底は平ら。陥し穴である。

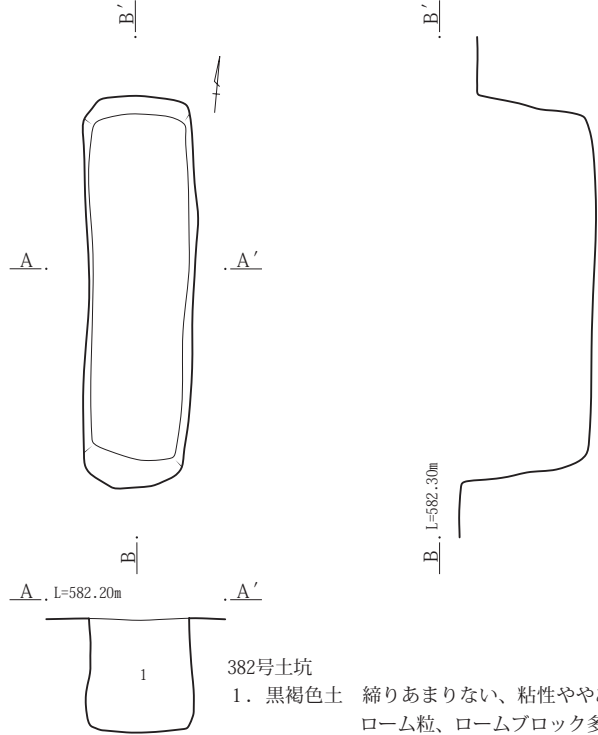
381号土坑



381号土坑

1. 黒色土 締りあまりない、粘性ややあり。ローム粒子少量含む。
2. 黒色土 1より明るい色調でローム粒子多く、ロームブロック少量含む。

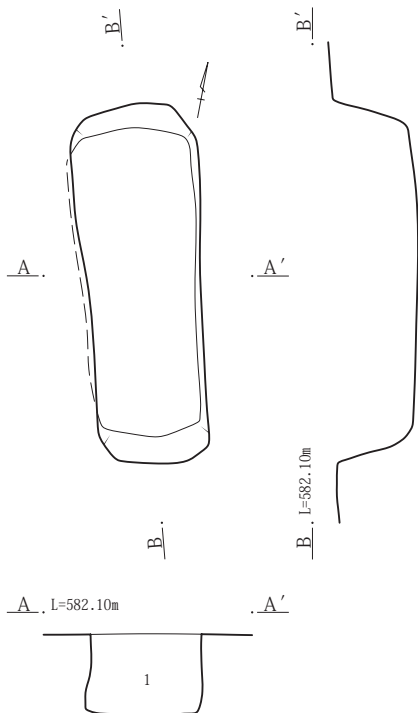
382号土坑



382号土坑

1. 黒褐色土 締りあまりない、粘性ややあり。ローム粒、ロームブロック多く含む。

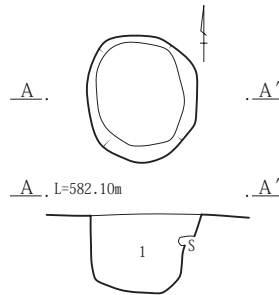
383号土坑



383号土坑

1. 暗褐色土 締りややあり、ローム粒多く、ロームブロック若干含む。ローム粒子、ブロック土互層に含む。

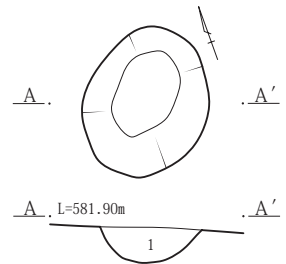
384号土坑



384号土坑

1. 黒褐色土 締りややあり、粘性あまりない。ローム粒子多く、ロームブロック若干含む。僅かに焼土ブロック含む。10cm大の小礫含む。

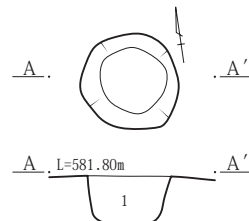
385号土坑



385号土坑

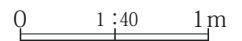
1. 黒色土 締りややあり、粘性あまりない。ローム粒、ロームブロック少量斑状に含む。

386号土坑



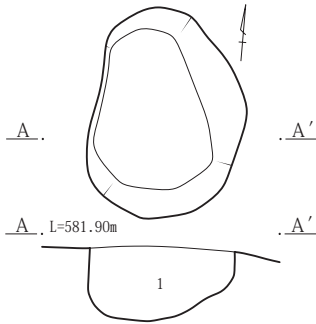
386号土坑

1. 黒色土 締りややあり、粘性弱い、ローム粒、ロームブロック少量含む。ロームブロック斑状に含む。



第177図 土坑(6) 380～386号土坑

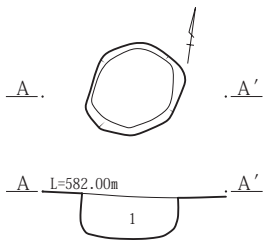
387号土坑



387号土坑

1. 黒色土 締りややあり、粘性なし。ローム粒、ロームブロック若干、縄文土器片含む。炭化物1~3cm大若干含む。

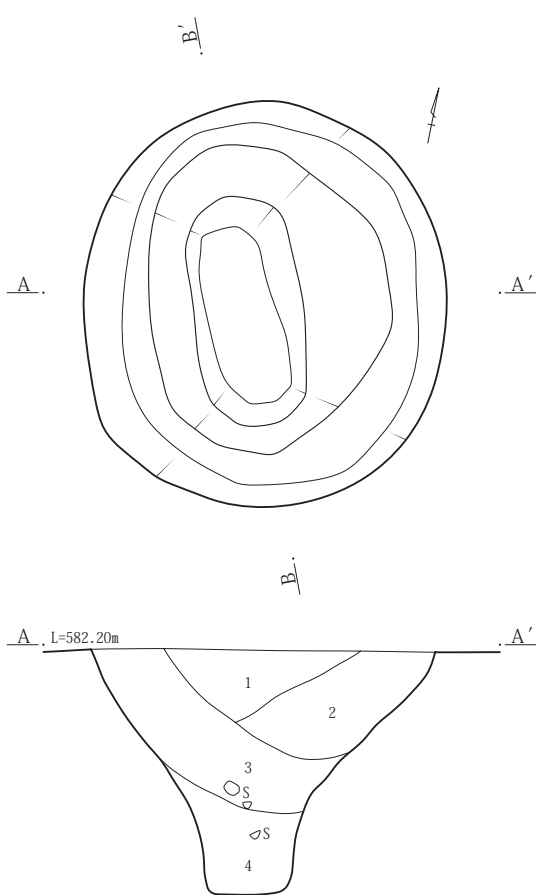
388号土坑



388号土坑

1. 黒褐色土 締りややあり、ローム粒子多く、ロームブロック若干含む。

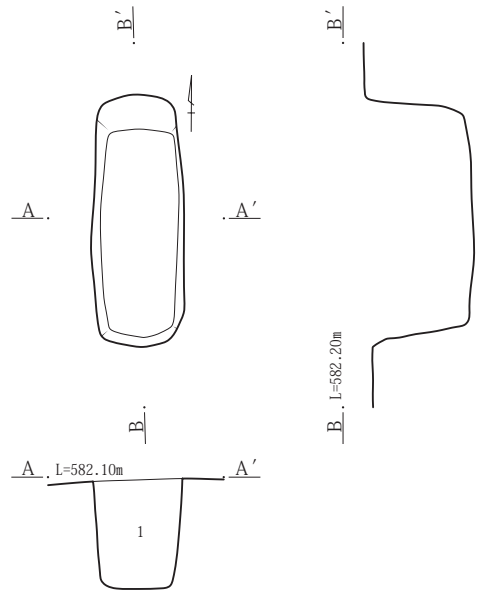
390号土坑



390号土坑

1. にぶい黄褐色土 締りややあり、粘性なし。ローム粒子・ロームブロック多く含む。
 2. 黒褐色土 1より暗い。ローム粒子多く、ロームブロック少量含む。
 3. 黒褐色土 2より暗い。ローム粒子・ロームブロック多く含む。拳大の円礫若干含む。
 4. 黒褐色土 3と近似。ローム粒子多く、ロームブロック多く含む。

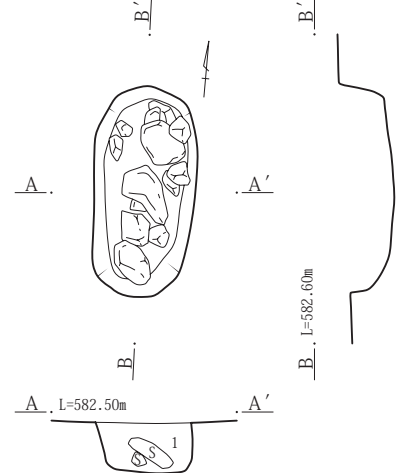
389号土坑



389号土坑

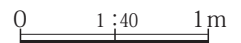
1. 黒褐色土 締りあるが、粘性なし。ロームブロック少量含む。陥し穴ないしは風倒木痕を掘り込む。平面長方形。

391号土坑



391号土坑

1. 黒褐色土 締りややあり、粘性あまりない。ロームブロック若干含む、20~30cm大の角礫を含む。



第178図 土坑(7) 387~391号土坑

393号土坑(第180図、PL.47)

位置 85区O-3グリッドに位置する。
 形状・規模 円形、長軸0.78m、短軸0.7m、深さ0.16m。
 長軸方向 —
 出土遺物 礫。
 所見 円形で掘り込みは浅く、大形の礫が出土。

394号土坑(第180図、PL.47)

位置 75区L・M-24・25グリッドに位置する。
 形状・規模 円形、長軸3.11m、短軸2.91m、深さ1m。
 長軸方向 —
 出土遺物 無し。
 所見 大形の円形土坑で、緩やかに落ち込み底部もほぼ円形を呈す。断面上位にレンズ状に堆積したローム層が見られる事などから、風倒木痕と思われる。

395号土坑(第180・181図、PL.47・115)

位置 85区M-3グリッドに位置する。
 形状・規模 円形、長軸1.05m、短軸0.98m、深さ0.42m。
 長軸方向 —
 出土遺物 土釜口縁部片。
 所見 ほぼ円形で底はほぼ平らに掘り込まれている。土釜の口縁部片が出土。埋土中に若干の炭化物を含む。

396号土坑(第180図、PL.47)

位置 85区M-3グリッドに位置する。
 形状・規模 長円形?、長軸(0.71)m、短軸0.63m、深さ0.28m。
 長軸方向 N-0°
 出土遺物 角礫、亜角礫。
 所見 長円形と思われるが、北側は未調査で、複数の礫が出土。

397号土坑(第180図)

位置 85区L-2グリッドに位置する。
 形状・規模 円形、長軸0.6m、短軸0.53m、深さ0.3m。
 長軸方向 —
 出土遺物 無し。
 所見 小型の円形土坑。

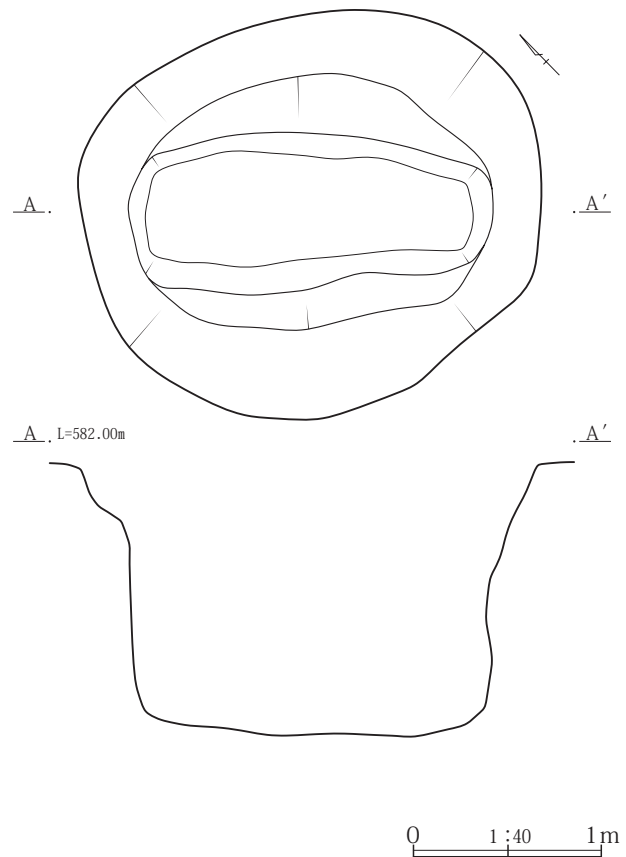
398号土坑(第181図、PL.47)

位置 85区N-1グリッドに位置する。
 形状・規模 円形、長軸0.7m、短軸0.68m、深さ0.4m。
 長軸方向 —
 出土遺物 礫。
 所見 小型の土坑で、底部は小さく礫を混入。

399号土坑(第181図)

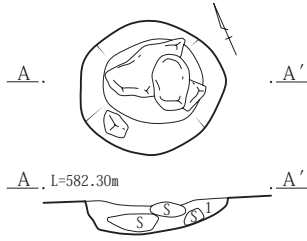
位置 85区L-3グリッドに位置する。
 形状・規模 長円形か、長軸(1.23)m、短軸1.07m、深さ0.34m。
 長軸方向 N-0°
 出土遺物 無し。
 所見 北側は未調査で、長円形を呈すと思われる。

392号土坑



第179図 土坑(8) 392号土坑

393号土坑



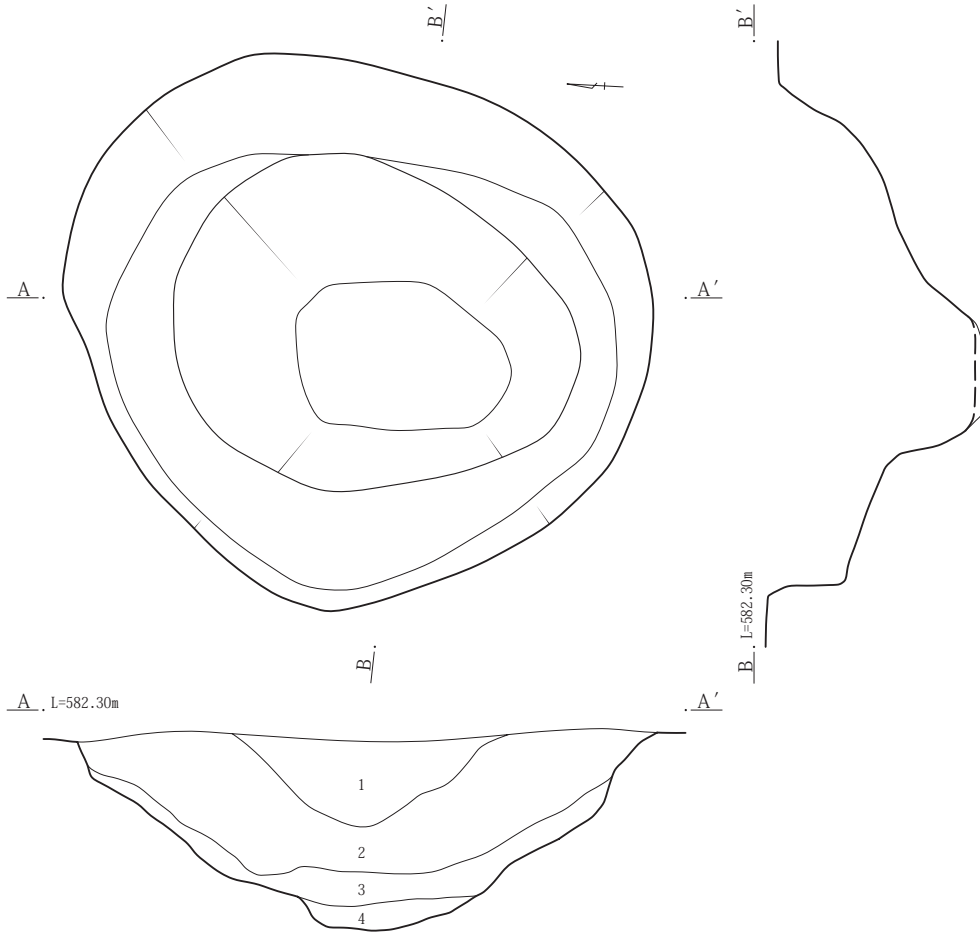
393号土坑

1. 黒褐色土 締りがややあり、粘性なし。ロームブロック若干含む。30cm大の偏平亜円礫及亜角礫を含む。

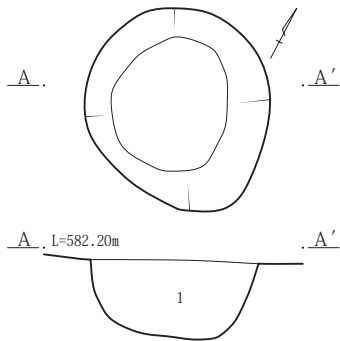
394号土坑

1. 明黄褐色土 ローム粒子、ロームブロック多く含む。
2. 黒褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック若干含む。
3. にぶい黄橙色土 ロームブロック少量含む。地山砂質味強い。ロームを主体に黒色土を混入。
4. にぶい黄橙色土 ロームブロック少量含む。3より不均質。

394号土坑



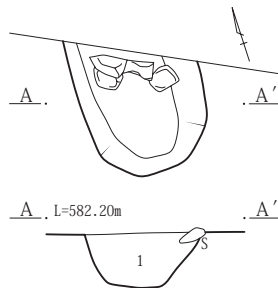
395号土坑



395号土坑

1. 黒色土 締りややあり、粘性なし。ローム粒・ブロック若干含む。縄文土器片、1~3cm大の炭化物若干含む。

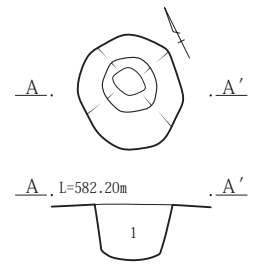
396号土坑



396号土坑

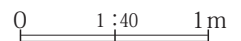
1. 黒色土 締りややあり、粘性あまりない。ローム粒子・ロームブロック少量含む。縄文土器片含む。

397号土坑



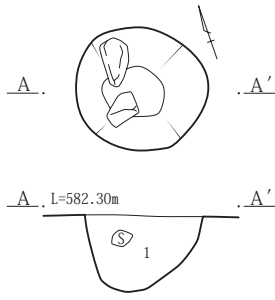
397号土坑

1. 黒色土 締り、粘性共にあまりない。均質土。白色軽石を僅かに含む。

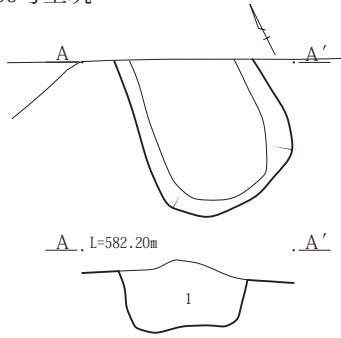


第180図 土坑(9) 393~397号土坑

398号土坑



399号土坑

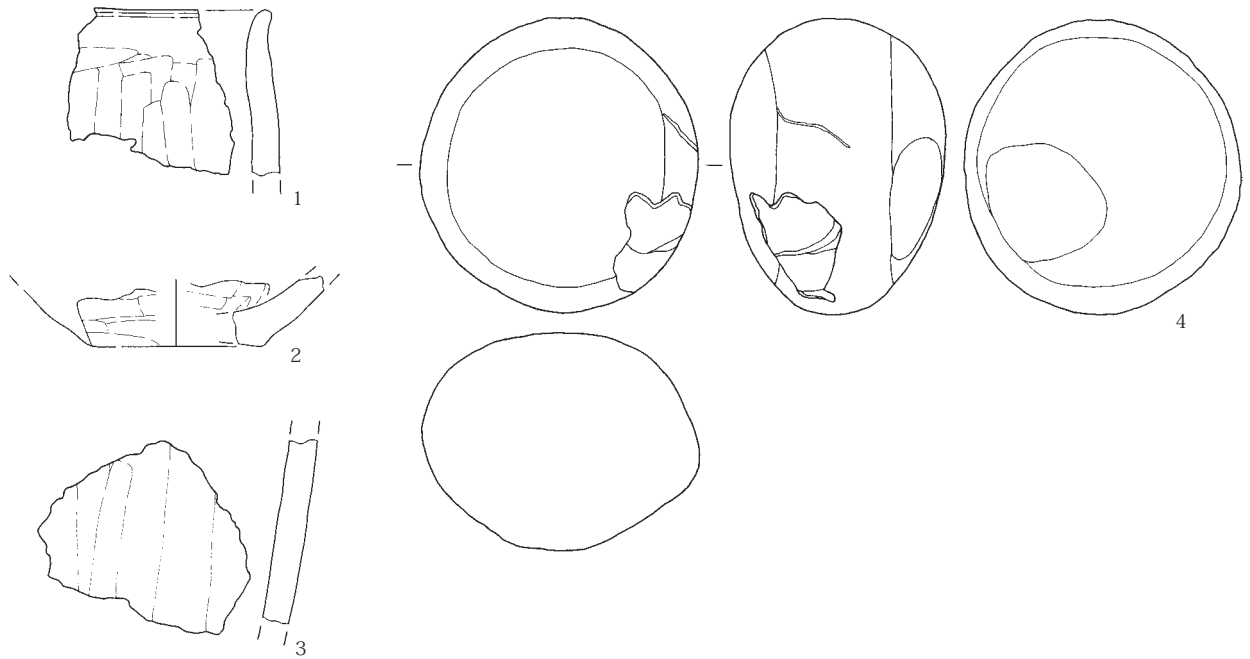
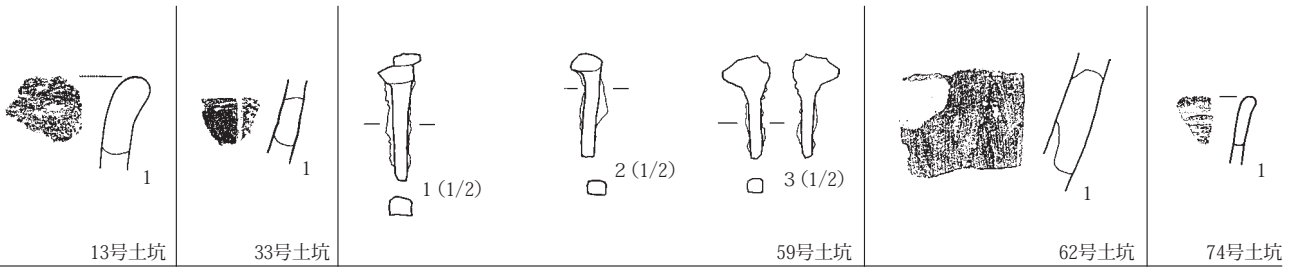
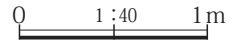


398号土坑

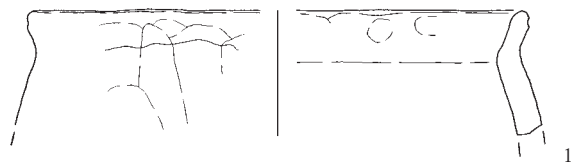
1. 黒色土 締り、粘性あまりない。均質土。20cm大の礫含む。

399号土坑

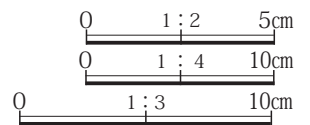
1. 灰黄褐色土 締りなし、粘性あり。不均質。締り欠き粘性強く他の土坑と異なる。



378号土坑



395号土坑



第181図 土坑(10) 398・399号土坑・土坑出土遺物

4. 溝

尾坂遺跡において、溝に関しては総数24条を調査している。この内の多くは天明泥流下、江戸時代の天明三年に埋没した畑に伴うものがほとんどである。

それらは、畑や道との関連性があるため、個々には取り上げず、尾坂遺跡における江戸時代の中で記述することとしたい。

ここでは、出土遺物や埋土の状況などから、中世以前に帰属すると判断される、第2面、3面において検出された溝4条(21～24号溝)について記述を行うこととしたい。

このうち21・22号溝は平安時代に帰属すると思われるが、23・24号は中世に帰属するものと思われる。後者については、中世の項で扱うこととする。

21号溝(第182図)

位置 75区F-15・16、G-14～16、H-14グリッドに位置する。

形状・規模 幅約9mの調査区内に検出した。北東方向に走行し、北東部分がやや広がる。調査区幅が狭かったため、両端は未調査となる。最大上幅は2.9m、深さは約40cmである。

出土遺物 溝の埋土内には大型の礫が多数検出されており、これらに混入した多くの縄文土器片や若干の石器等も見られた。

また、これらの出土遺物の中に平安時代と見られる遺物片も見られる。

所見 検出した上幅は、北側が約3m、南側で1.5mと差が見られる。北側の断面は両端がやや浅くなっており、断面は浅い円形で緩やかに落ち込む形状を呈していた。

溝の底部は中央部分が不規則な形に盛りあがっており、両端が僅かに下がっている。

人為的な構造には見えず、溝としての機能は想定しがたい形状である。

溝の北側については、3m程の未調査部分を挟むが、前年度に調査を行っている。この北東側の調査時には、この溝の延長は確認されていないため、極めて部分的な遺構と判断される。

溝の最下層部には細かい地山のロームブロックを含んだ川砂も確認されている。

前述した所見から、本址は平安時代以前の、自然流路の可能性が高い。

22号溝(第182図、PL.115)

位置 75区F-15・G-14・15グリッドに位置、西側は21号溝と重なる。

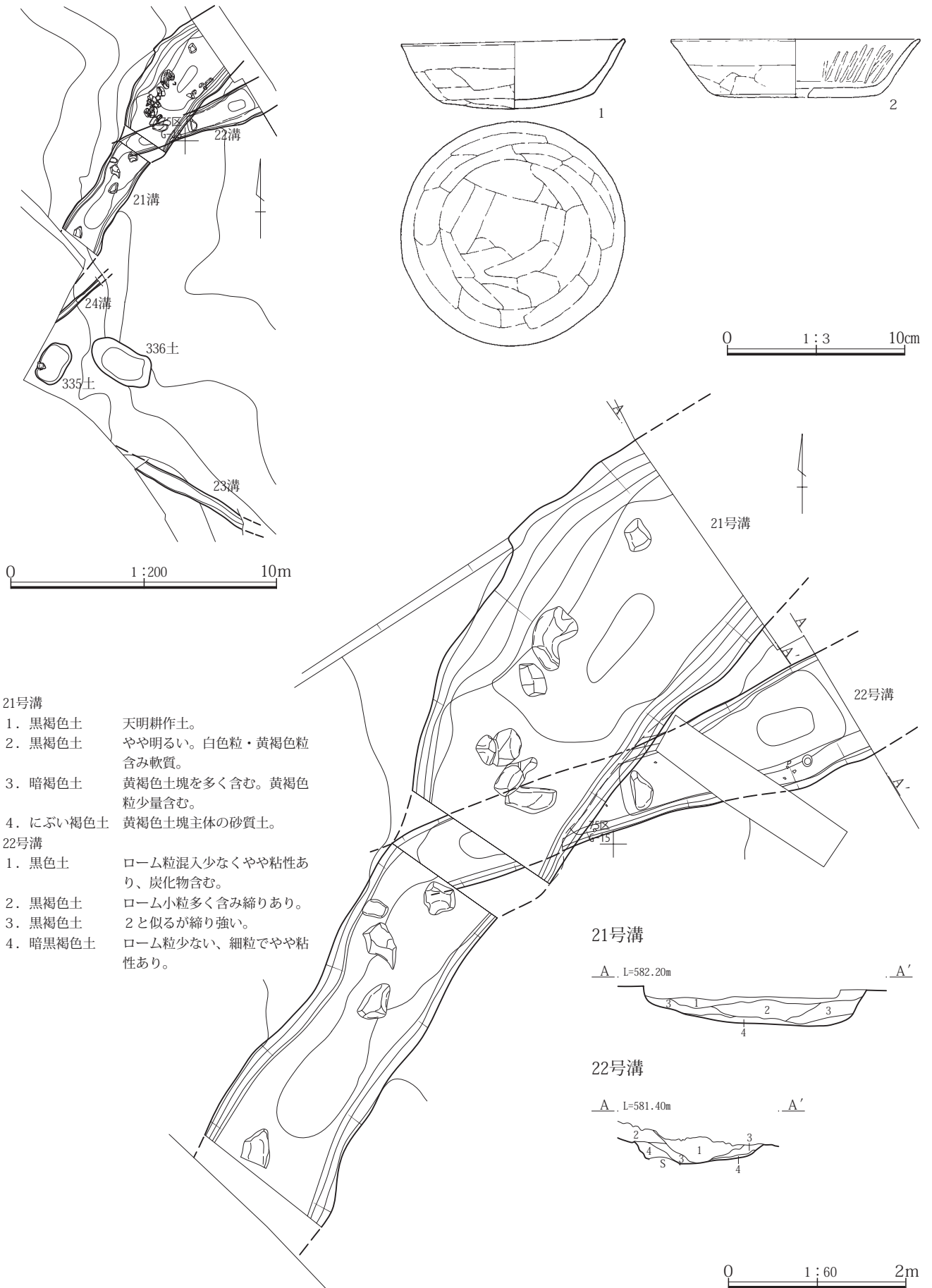
形状・規模 調査区の北東壁から、南西に約5mの長さで延びている。上幅は北東の壁際のところで約1.3m、深さは約30cmであるが、上面が削平されている可能性が高い。断面形は21号溝と同様浅い半円形である。

溝の深さは、壁寄りが僅かに深くなっており、南西側が浅くなる。また、底面部分には大きな地山礫が洗われたような状況で露出している。

出土遺物 礫などの出土はほとんど見られなかったが、溝の肩部分の上層において、完形の土師器坏がやや斜めに落ち込むような状態で出土している。

所見 溝の南西端部分は21号溝と重複、あるいは分岐したものと考えられる。特に南西側については掘り込みが不明瞭となっている。

位置や走行方向などから、21号溝と同じような自然流路の可能性が高い。



第182図 溝全体図、21・22号溝・22号溝出土遺物

5. 遺構外出土遺物(第183・184図、PL.115)

平安時代の遺構外出土遺物については、点数的には少なく、住居などが検出されている74区、75区に集中する。該期の遺構は両区以外においては、ほとんど検出されていない。

図示した遺物は一部であるが、検出された住居等の遺構の時期とほぼ同時期の所産と考えられる。

出土分布を詳細に見ると、75区では住居が検出された場所より北側の、僅かに低くなっている部分で多く出土していることが判る。

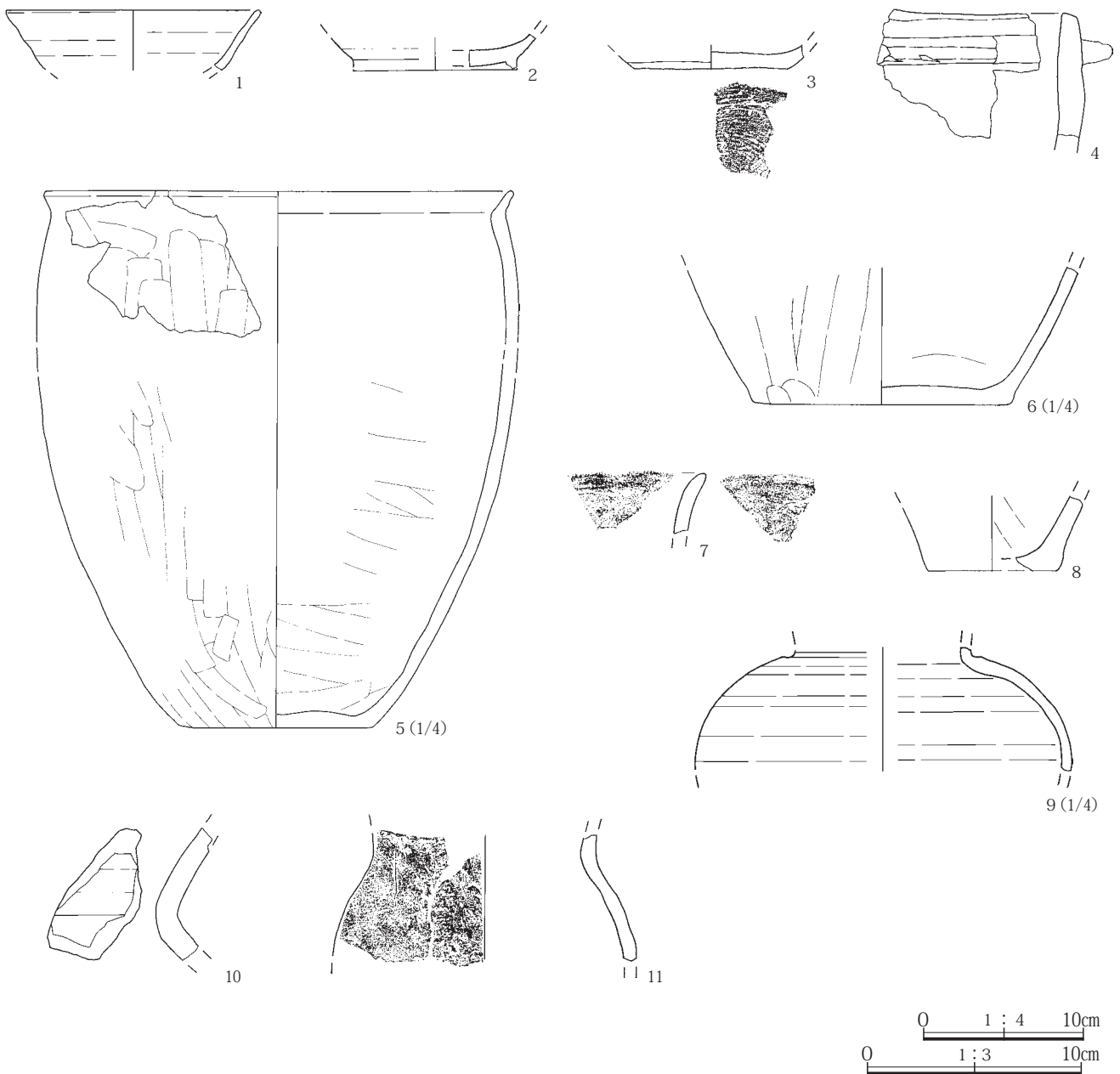
この場所は平成21年度に調査が行われ、1号・2号住

居が検出されたが、これらの住居のさらに北側部分にあたる。若干の土坑などは見られるが、遺構密度は薄い。

5の土釜はこの場所において、ほぼ1個体が割れた状態で出土している。他に、羽釜片、須恵器の坏片、甕や壺などが出土している。

鉄製品に関しては、住居や土坑などの出土は複数例見られるが、遺構外からの出土はほとんど見られない。

なお、渡来銭などが複数、江戸時代の畑などから出土しているが、遺構を優先しているため、江戸時代の遺構外出土遺物として後項で取り上げている。



第183図 遺構外出土遺物



第184図 土師・須恵器出土分布図

遺物観察表

表8 遺物観察表

1号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第153図 PL.113	1	土師器 坏	口縁~底部片	口	(12.0)		にぶい橙色	口縁部横撫、底部ヘラ削り。	
第153図 PL.113	2	土師器 坏	2号かド 口縁部片	口	(10.0)		明褐色	口縁部横撫、底部ヘラ削り。	
第153図 PL.113	3	鉄鍬 雁又		長 幅	12.8 2.0	厚 重	4.7 16.0	長めの茎部、関は有段で偏平な鍬身が付く、先端部を欠損。	平安

2号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第156図 PL.113	1	土師器 土釜か?	かド 口縁部片	口	(24.8)		砂粒多/暗赤褐色	口縁部短く、鏝は低い。口縁部横撫、胴部撫で調整、鉄分の付着顕著。	
第156図 PL.113	2	土師器 土釜	口縁部片	口	(21.8)		砂粒多/黒褐色	口縁部短く外反、外面口縁部横撫、胴部縦撫で、内面横撫。	
第156図 PL.113	3	土師器 土釜	かド 口縁部片				粗砂粒/黒色	口縁部外反、口縁部横撫、胴部外面縦撫削り、内面横撫。	
第156図 PL.113	4	土師器 土釜	かド 口縁部片				粗砂粒/褐色	器肉厚く、口縁部僅かに外反。横撫。	
第156図 PL.113	5	土師器 甕	口縁部片				にぶい黄橙色	やや外反する口縁部片。横撫。	
第156図 PL.113	6	鉄鍬		長 幅	5.4 2.5	厚 重	0.5 16.3	開く逆刺を持ち、鍬身の先端部は鋭く尖る、茎部分は短めで折れ曲がる。	平安
第156図 PL.113	7	鉄鍬		長 幅	11.9 1.4	厚 重	0.5 12.0	ほぼ完形、鍬身部分は偏平で細長い、茎部分は細めで留め金具が残る。	平安

7号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第158図 PL.113	1	須恵器 羽釜	口縁部片				細砂粒/黒褐色	口縁部横撫、口縁部直立し、鏝端部を欠損、以下胴部縦削り。	
第158図 PL.113	2	須恵器 羽釜	かド 口縁部片				細砂粒/にぶい褐色	口縁部を欠く、鏝は楕円形の突起状で端部を欠く、胴部内外面横撫。	
第158図 PL.113	3	土師器 土釜	口縁部片	口	(19.5)		砂粒/黒褐色	口縁部横撫、以下撫で。	

10号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第161図 PL.113	1	須恵器 羽釜	かド 口縁部片	口	(22.0)		にぶい黄橙色	口縁部やや内湾、鏝はやや短く、断面三角。口縁部横撫、胴部縦削り。		
第161図 PL.113	2	須恵器 羽釜	かド 口縁部片	口	(21.0)		黒褐色	口縁部やや内湾、鏝はやや短く、断面三角。口縁部横撫。1と同一個体か。		
第161図 PL.113	3	土製品 羽口	かド 欠損	長 径	17.8 8.4	孔	2.2	灰黄褐色	先端部に向かいやや細くなる、先端部溶浮付着、径約2.1cmの送風孔。	

11号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第163図 PL.114	1	須恵器 坏	口縁部片				細砂粒/灰白色	ロクロ成形。内外面に煤付着。	
第163図 PL.114	2	須恵器 坏	口縁部片				細砂粒/にぶい褐色	口縁部横撫。	
第163図 PL.114	3	須恵器 坏	底部片	底	6.0		砂粒/暗灰黄色	底部回転糸切り(左)。	
第163図 PL.114	4	須恵器 羽釜	胴部片				砂粒/褐色	鏝断面丸み持つ、胴部撫で成形後磨き。スス付着。	
第163図 PL.114	5	土師器 土釜	口縁部片				砂粒/にぶい赤褐色	口縁部角頭状で断面尖る。	
第163図 PL.114	6	鉄製品 鉄鍬		長 幅	9.8 4.5	厚 重	0.5 30.3	大型の鍬、逆刺部は長く延びて開き、先端は尖る。茎部は短く、先端部を欠損か。	平安
第163図 PL.114	7	鉄製品 釘		長 幅	(7.5) 0.6	厚 重	0.6 12.0	釘か、断面方形で上端部を欠き折れ曲がる。	平安

12号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第164図 PL.114	1	土師器 甕	口縁部片	口	(21.0)		白砂粒/にぶい黄橙色	コの字甕、口縁部横撫、肩部縦削り。	
第164図 PL.114	2	土師器 甕	口縁部片	口	(19.0)		明赤褐色	コの字甕、口縁部横撫、肩部縦削り。	
第164図 PL.114	3	土師器 コの字甕	口縁部片				細砂粒/にぶい褐色	コの字甕、口縁部横撫、肩部縦削り。	
第164図 PL.114	4	土師器 甕	74区0-12 口縁部片				明赤褐色	コの字甕、口縁部横撫、肩部縦削り。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第164図 PL.114	5	土師器 甕	74区0-11 口縁部片				にぶい黄褐色	コの字甕、口縁部横撫。	
第164図 PL.114	6	土師器 甕	口縁部片				細砂粒/黒褐色	コの字甕、口縁部横撫。	
第164図 PL.114	7	須恵器 坏か塊	74区0-12・13 口縁部片	口	(14.0)		黄灰色	ロクロ成形。	

13号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第166図 PL.114	1	須恵器 羽釜	口縁部片				にぶい赤褐色	鐔断面三角で、高さがある。		
第166図 PL.114	2	須恵器 坏	底部片	底	5.6		灰黄褐色	底部回転糸切り(右)。内面剥離、煤付着。		
第167図 PL.114	3	礫石器 台石	完形	長幅	41.2 28.7	厚重	10.1 17500	粗粒輝石安山岩	大型の礫、平坦面を使用しており、極めて平滑。カマド構築材として再利用。使用面に細い線状痕が認められる。作業台。	平安か
第167図 PL.114	4	礫石器 軽石製品	完形	長幅	9.0 7.4	厚重	5.2 98	軽石	砥石として利用か、半球状で下面部分使用面とし、面は平らである。	
第167図 PL.114	5	鉄滓		長幅	6.2 5.9	重	77.5		碗形滓。	平安

15号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第169図 PL.114	1	須恵器 坏か塊	口縁部片	口	(14.0)		灰黄褐色	ロクロ成形。	
第169図 PL.114	2	土師器 甕	口縁部片				粗砂粒/にぶい褐色	口縁部横撫、直立気味の口縁、内面篋磨き。混入品か。	

16号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第170図 PL.114	1	鉄製品 鉄鏃	一部欠損	長幅	9.2 1.4	厚重	0.54 10.4		ほぼ完形、鏃身部分は扁平で長く延びる、茎部分は先端部を欠いており、留め金具が残る。	平安?

15号焼土

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第171図 PL.114	1	土師器 土釜	85区395号土坑 胴部片				砂粒多/黒色	内外面撫で調整。外面煤付着。輪積み痕。	

土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第181図 PL.115	1	縄文土器 深鉢	13号土坑 口縁部片				細砂粒/にぶい橙色	やや外反する無文口縁部片。	中期後葉	
第181図 PL.115	1	縄文土器 深鉢	33号土坑 胴部片				微砂粒/にぶい褐色	磨消縄文。内外面研磨。	中期後葉	
第181図 PL.115	1	鉄製品	59号土坑	長幅	3.4 0.9	厚重	0.5 2.7		釘の上半部分か。木質部残る。	平安か
第181図 PL.115	2	鉄製品	59号土坑	長幅	2.8 0.9	厚重	0.5 1.7		釘の上半部分か。木質部残る。	平安か
第181図 PL.115	3	鉄製品 釘?	59号土坑	長幅	2.7 0.5	厚重	0.4 0.9		欠損した釘の一部か、頭部に木質部付着。	平安か
第181図 PL.115	1	土師器 土釜	62号土坑 胴部片				砂粒/黒褐色	縦方向篋削り。	平安	
第181図 PL.115	1	弥生土器 甕形土器	74号土坑 口縁部片				砂粒/にぶい褐色	僅かに外反、横位条痕文。	弥生中期	
第181図 PL.115	1	須恵器 土釜	378号土坑 口縁部片				砂粒多/暗褐色	口縁部短く外反、口縁部横撫、内面撫、外面縦篋削り。		
第181図 PL.115	2	須恵器 甕か	378号土坑 底部片	底	(6.6)		微砂粒/灰黄褐色	底部片、ロクロ成形。		
第181図 PL.115	3	須恵器 土釜	378号土坑 胴部片				砂粒(石英)多/黒褐色	外面縦篋削り。		
第181図 PL.115	4	礫石器 磨石	378号土坑 完形	長幅	11.8 10.9	厚重	8.6 1407	粗粒輝石安山岩	やや大きな円礫利用、被熱か。	
第181図 PL.115	1	土師器 土釜	395号土坑 口縁部片	口	(26.0)		砂粒多/黒褐色	口縁部外反、指撫で、指頭痕。		

遺構計測表

22号溝

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第182図 PL.115	1	土師器 坏	完形	口 底	12.5 8.5	高 3.9	砂粒/明赤褐色	口縁部横撫、外面体部、底部篋削り。	
第182図 PL.115	2	土師器 坏	75区F-14 口縁~底部片	口 底	(14.0) (9.0)	高 3.2	明褐色	口縁部横撫、体部、底部篋削り、内面に暗文。	

遺構外

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第183図 PL.115	1	須恵器 坏か塊	74区K-11 口縁部片	口	(11.6)		黄灰色	ロクロ成形。	
第183図 PL.115	2	灰釉陶器 塊	74区T-17 底部片	底	(7.6)		灰色	ロクロ成形。	
第183図 PL.115	3	須恵器 坏	74区P-15 底部片	底	(7.0)		砂粒/灰黄色	底部回転糸切り(右)、内面煤付着。	
第183図 PL.115	4	土師器 羽釜か	4号住居 口縁部片				微砂粒/にぶい赤褐色	口縁直下に鏝廻る、端部下位には連続する斜め刻み。	平安
第183図 PL.115	5	土師器 土釜	75区C-22、 D-21・22、E-23・ 24、F-20 口縁~底部片	口 底	(29.0) (12.0)	高 (33.3)	細砂粒多/黒褐色	口縁部は短く外反、やや胴長で平底。口縁部横撫、外面体部縦篋削り、内面横撫。	
第183図 PL.115	6	土師器 土釜	75区E-23・24 底部片	底	(16.0)		砂粒多/にぶい赤褐色	内外面撫で、底部砂底。	
第183図 PL.115	7	土師器 甕	83区L-6 口縁部片					口縁部僅かに外反、横撫。	平安か
第183図 PL.115	8	土師器 甕	75区D-21 底部片	底	(6.0)		灰褐色	外面研磨、内面撫で。	
第183図 PL.115	9	須恵器 甕	75区C-21 頸~胴部片				細砂粒/灰色	ロクロ成形、頸部外反して立ち上がる。	
第183図 PL.115	10	須恵器 甕	82区N-6 頸部片				灰黄褐色	頸部屈曲部。横撫。	
第183図 PL.115	11	土師器 甕	75区Q-20・21 胴部片				砂粒/にぶい褐色	口縁部緩く外反、外面磨き、内面撫で。弥生か。	

表9 遺構計測表

住居

番号	区	位置	形状	規模(cm)	方位	炉	柱穴	床面	出土遺物	時期	調査年度	備考
1	75	D・E-16・17	隅丸方形	425×359×20	N-90° -E	カマド1号南東、 2号南西	4		土器、鉄製品	平安	平20	カマド2、ピット1
2	75	B-D-13・14	隅丸方形	574×573×18	N-13° -W	カマド北	不明		土器、鉄製品	平安	平20	小鍛冶、ピット16
7	74	Q・R-5・6	隅丸方形	385×333×40	N-0°	カマド北東	11		土器	平安	平22	9号住居を切る。 ピット11
9	74	R-5・6	隅丸方形	300×(109)×26	-	-				平安	平22	7号住居に切られる
10	74	W・X-9・10	隅丸方形	348×345×31	N-18° -E	カマド1号北、 2号東	8		土器、羽口	平安	平22	カマド作り替え。 カマド2、ピット8
11	74	V・W-14・15	隅丸方形	391×342×46	N-95° -E	カマド東	1		土器、鉄製品	平安	平22	ピット1
12	74	O-11・12、 P-12	隅丸方形	367×363×11	N-7° -E	カマド北			土器	平安	平22	
13	74	W・X-17・18	隅丸方形か	(52)×-×43	N-103° -E	カマド東			土器、鉄滓	平安	平22	14号住居と重複
14	74	W・X-17・18	隅丸方形か	-×-×42	-	カマド2号東				平安	平22	13号住居と重複
15	75・85	75区I・J-25、 85区I・J-1・2	隅丸方形	460×(402)×6	N-109° -E	カマド東	4		土器	平安	平26	ピット4
16	85	U-5・6、V-5	隅丸長方形	410×326×20	N-83° -E	カマド東	2		鉄製品	平安	平26	ピット2

焼土

番号	区	位置	形状	規模(cm)	方位	特徴	出土遺物	時期	調査年度	備考
14	85	M・N-1	不定形	(92×80)	N-66° -E	周囲に礫が廻る		平安	平26	カマドか
15	75	F・G-23	不定形	(110×72)	N-75° -W	下位に礫が廻る落ち込み有り	土器	平安	平26	カマドか

土坑

番号	区	位置	形状	規模(cm) 長径・短径・深さ	主軸方位	出土遺物	時期	調査年度	備考
3	64	E-24	円形	74×67×23		礫、炭化物	平安	平20	
13	75	E-16	長円形	165×105×15	N-13° -W	土器、礫	平安	平20	1号住居カマドと重複
14	75	D-16	長円形	145×95×28	N-78° -E	礫	平安	平20	
15	75	C・D-16	長円形	93×69×20	N-43° -W	礫	平安	平20	
16	75	C・D-16	円形	59×54×45		礫	平安	平20	
32	75	C-17	長円形	114×76×12	N-15° -W		平安	平20	
33	75	D-17	長円形	196×119×22	N-88° -W	土器	平安	平20	1号住居と重複
34	75	D-17	円形	98×(39)×27			平安	平20	
35	75	E・F-16	長円形	186×96×24	N-57° -E		平安	平20	
36	75	E・F-15	長円形	(183)×111×28	N-71° -W		平安	平20	
59	75	C-15・16	長円形	69×57×27	N-14° -E	鉄	平安	平20	旧28号土坑

62	75	B・C-14	長円形	145×90×15	N-5° -W	土器	平安	平20	2号住居と重複
74	75	B-13・14	隅丸長方形か	(56)×50×27	N-48° -E	土器	平安	平20	2号住居と重複
75	75	B-13	長円形	68×55×16	N-25° -E	土器	平安	平20	2号住居と重複
215	72	Q・R-20・21	円形	210×192×53		礫	平安	平21	
216	72	R-20・21	隅丸長方形	334×68×24	N-48° -W		平安	平21	
217	72	R・S-21	楕円形	192×84×21	N-60° -W		平安	平21	
224	72	S・T-18	長円形	180×(146)×48	N-34° -W	土器	平安	平21	
225	72	S-19	長円形	168×71×73	N-48° -W		平安	平21	235号土坑と重複
227	72	O-24	長円形	98×85×13	N-36° -W		平安	平21	
229	72	O-21・22	長円形	99×74×21	N-90° -E		平安	平21	
231	72	M・N-25	長方形	247×80×12	N-48° -W		平安	平21	
233	82	P-2	長円形	70×60×36	N-73° -W		平安	平21	
234	72	R-24	不定形	200×115×34			平安	平21	
235	72	S-19	長円形	155×65×81	N-33° -E		平安	平21	225号土坑と重複
236	72	R-25	円形	42×35×11			平安	平21	
238	72	S-25	円形	46×43×15			平安	平21	
240	82	T-1	円形	71×69×23			平安	平21	
241	82	S-2	円形	69×63×18			平安	平21	
242	82	T・U-1	円形	74×73×11			平安	平21	
243	82	T-1	円形	43×38×10			平安	平21	
244	72	P-23	円形	70×68×20			平安	平21	
246	82	N-2	円形	48×(26)×11			平安	平21	
377	74	W・X-17・18	隅丸長方形	212×158×79	N-27° -W	土器、礫	平安	平22	13号住居と重複
378	74	Q-19	円形	123×113×38		土器、石器	平安	平22	
379	75・85	J-25、J-1	長方形	132×49×72	N-10° -W		平安	平26	
380	75	L-25	長方形	173×80×39	N-3° -W		平安	平26	
381	75・85	K-25、K-1	長方形	202×70×37	N-5° -E		平安	平26	
382	75・85	J-25、J-1	長方形	204×55×60	N-5° -W		平安	平26	
383	75	I-24	長方形	190×63×43	N-15° -W		平安	平26	
384	75	I-24	円形	68×59×42			平安	平26	
385	75	H-24	楕円形	80×68×19			平安	平26	
386	75	G-23・24	円形	51×50×25			平安	平26	
387	75	I・J-23	楕円形	111×80×40	N-0°		平安	平26	
388	75	I-24	円形	50×49×22			平安	平26	
389	75	I-24・25	長方形	132×50×58	N-0°		平安	平26	
390	75	J・K-25	円形	212×192×130	N-22° -W		平安	平26	陥し穴
391	85	T-5	長方形	111×52×26	N-0°		平安	平26	
392	85	I・J-1	長方形	243×212×144	N-45° -W		平安	平26	陥し穴
393	85	O-3	円形	78×70×16			平安	平26	
394	75	L・M-24・25	円形	311×291×100			平安	平26	陥し穴(未完成か)
395	85	M-3	円形	105×98×42		土器	平安	平26	
396	85	M-3	長方形?	(71)×63×28	N-0°	土器	平安	平26	
397	85	L-2	円形	60×53×30			平安	平26	
398	85	N-1	円形	70×68×40			平安	平26	
399	85	L-3	長方形?	(90)×72×34	N-0°		平安	平26	

溝

番号	区	位置	断面形状	規模(m) 長さ×幅×深さ	特徴	出土遺物	時期	調査年度	備考
21	75	F-15・16、 G-14～16、 H-14	半月状	8.88×2.88×0.44	断面半月状で、幅広、礫縄文土器多く出土	縄文土器	平安	平22	南西→北東
22	75	F-15、 G-14・15	半月状	5.07×1.30×0.31	21号溝と重複、レベルは高い	土師器坏	平安	平22	南西→北東

第6節 中世の遺構と遺物

尾坂遺跡における中世の遺構については、泥流畑調査終了後、第2面の調査として、耕作土除去後精査を行っている中で、確認されている。

遺構に関しては、掘立柱建物3棟、焼土6基、溝2条、ピット等である。

掘立柱建物については、出土遺物などは見られず、帰属時期に関しての確認はないものの、出土層位、柱穴の埋土の観察等から判断した。

また、各遺構の番号については、跳んでいるものが多い、これは時代を跨いで付番されているためであり、了解願いたい。

1. 掘立柱建物

1号掘立柱建物(第185図、PL.48)

位置 74区Q・R-9・10グリッドに位置する。

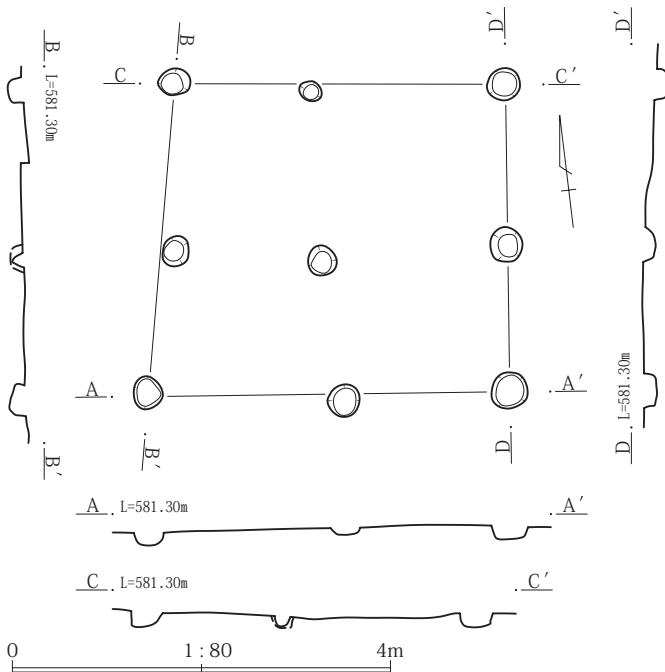
形状・規模 ほぼ方形を呈す2間×2間(東西3.83m、南北3.26m)を測るが北側がやや狭まる。中央にも柱穴を持つ総柱建物である。

柱間は心芯で1.5~2m弱とばらつきが見られる。

主軸方位 N-9°-E

所見 検出された柱穴の上部は、やや削平されていると思われる。それぞれの柱穴の大きさは径30cm前後、深さ

1号掘立柱建物



は15~20cmと浅い。

建物内に大きな地山礫が高さ30cm程突き出ていることから、床が想定される。また、建物内には焼土等も確認されなかった。

出土遺物は見られないが、柱穴の埋土の状況等から、時期を判断した。なお、北側に両側柱列の延長したところに浅い柱穴を確認したが、やや西にずれていたことと、埋め土に若干の違いが見られたことから本址の構造からは外した。

2号掘立柱建物(第185図、PL.48)

位置 74区U-9・10、V-9グリッド、1号掘立柱建物の西側約15m程の所に位置する。

形状・規模 北側がやや狭まる台形を呈す。2×2間(東西3.51m、南北3.66m)である。

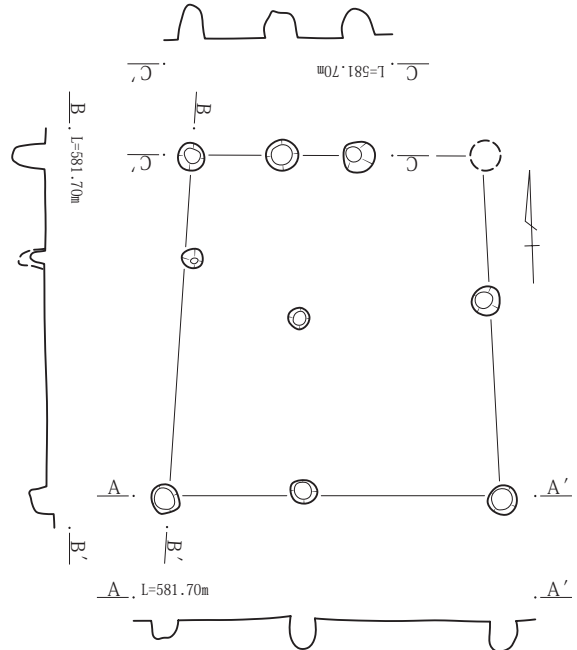
柱穴の大きさは、全体に1号建物よりも一回り小さくなっている。

主軸方位 N-1°-E

所見 調査時、ピット群として処理を行ったが、整理時に検討を加えた結果掘立柱建物と認定した。

一部、北東隅の柱穴が確認されていないが、2間×2間の規模を持つ。ほぼ中央やや西寄りにピットが見られる。柱穴の大きさ、深さにはややばらつきが見られる。径約20~30cmで深さは最大35cmを測る。

2号掘立柱建物



第185図 1・2号掘立柱建物

周囲にも数本のピットが確認されているが、建物の想定はできなかった。1号掘立柱建物と近接する位置に有り、主軸をほぼ同じくすることなどから両者の関連が想定される。

3号掘立柱建物(第186図、PL.48)

位置 75区H-18、I・J-17 19グリッドに位置する。
形状・規模 (3間×2間)(東西4.08m、南北6.11m)の長方形を呈す。

主軸方位 N-14°-E

所見 天明泥流畑の下位30cm程下げた面において確認した。本址の南側部分は地山に多量の礫が見られ、この礫の途切れた部分に構築されている。建物北側の一部は調査区外になる。

3号掘立柱建物

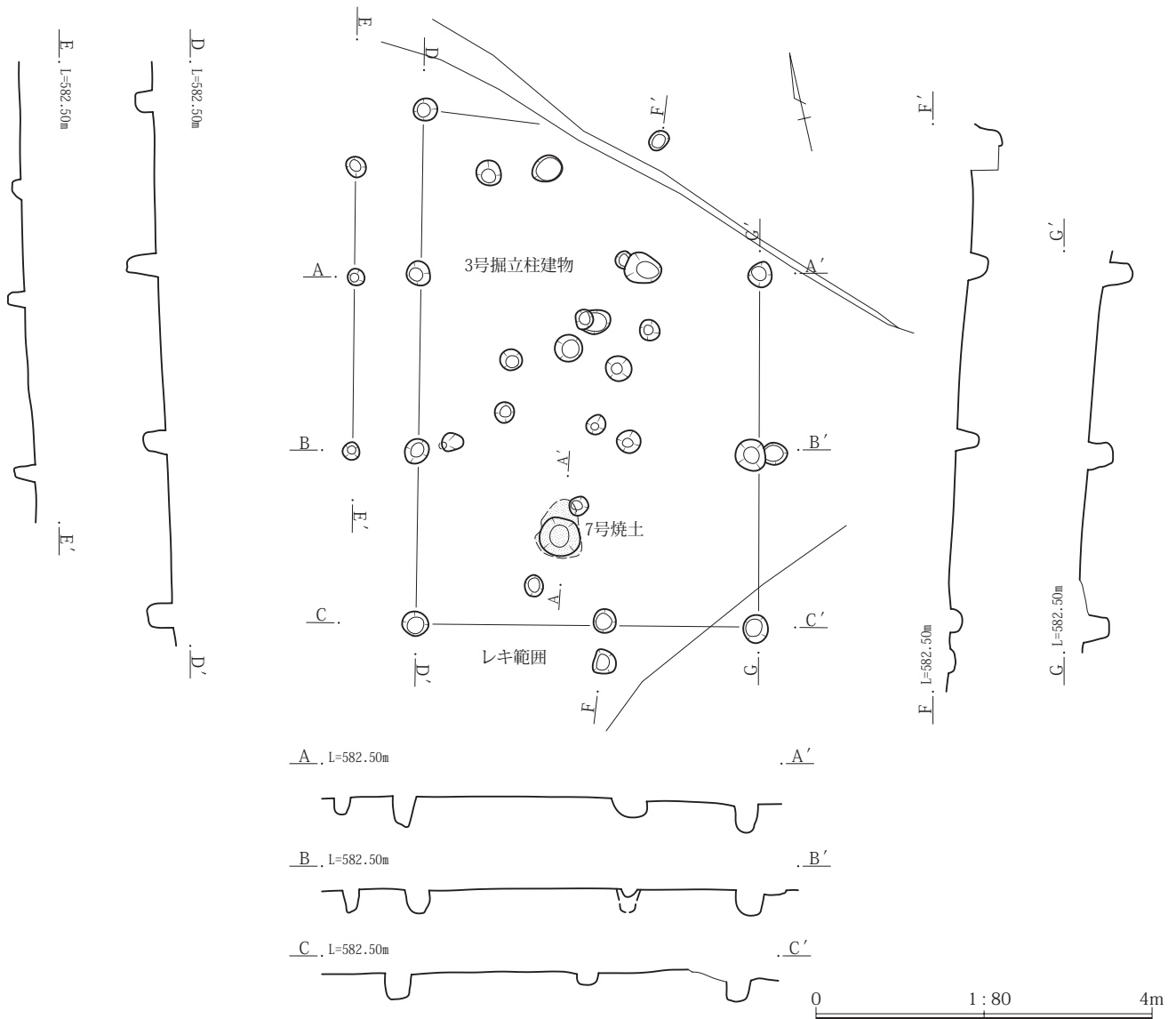
ほぼ南北方向に主軸を持つ、3間×2間の総柱建物と考えられる。西側に並行して南北方向に並ぶ3本柱穴が確認されていることから、西側に庇を持つ構造か。

柱穴は径25~30cmで、深さは30cm前後である。柱穴の埋土は、やや黒味を帯びる暗褐色土で粘性は弱い。

建物内の南に寄った中央部に、7号焼土が検出され、本址との関連が想定される。出土遺物は見られないが、中世の所産と考えられる。

3号建物を想定した柱の並び以外にも、10基以上の柱穴が不規則に検出されている。中央部に集中して見られることから、本址に関連するものも含まれている可能性があり、建て替えなども考慮する必要もあろうか。

建物北側については、一部未調査区に掛かっており、北東隅の柱穴は確認されていない。



第186図 3号掘立柱建物

2. 焼土

7号焼土(第188図、PL.48)

位置 75区I-18グリッド、3号掘立柱建物内の南寄りに位置する。

形状・規模 70×60cmの不正長円形に焼土が広がっており、南側にレンズ状に焼土の浅い落ち込みが見られた。

所見 焼土の中央部分は白色化し周囲がやや赤みを呈している。断面は鍋底形で10cm程の厚みが見られる。焼土のみで、周囲に礫などは確認されなかった。

本址は3号掘立柱建物内の南寄りに検出されたもので、建物との関連を窺わせるが、確証が無いため、別遺構として報告を行った。

11号焼土(第187・188図、PL.48)

位置 83区Q-8グリッドに位置する。2面目の確認トレンチ内において検出。

形状・規模 60×50cm程のやや矩形を呈す範囲に焼土が広がり、周辺には角礫が見られるが、人為的に配されたものでは無いと思われる。

所見 上層に焼土を含む黒褐色土混土が広がり、下部には鍋底状に焼土が確認された。周囲には焼けた地山礫が確認されたが、人為的に組まれたような様子は確認されなかった。

焼土断面の観察では、全体に焼土の集中度合いは低く、発色も弱い。詳細は不明だが、火を使用する何らかの施設の下部分と考えられる。

出土遺物は無い。

12号焼土(第187・188図、PL.48)

位置 83区P-8グリッドに位置する。11号焼土の北東約2mと近接して確認されている。

形状・規模 40×30cmの範囲に不定型な焼土が確認された、小礫を伴い全体に夾雑物を含む。焼土の状況、礫の存在など11号焼土に似ている。

所見 やや不定型な焼土が広がりを持ち、焼土内には地山の角礫が見られる。明確な掘り込みは確認されず、礫も人為的に配置された様子は無かった。

性格は不明だが11号と同種の遺構の可能性が高く、ほぼ同時期に生成された可能性が高い。

出土遺物は無い。

13号焼土(第187・188図、PL.48)

位置 83区O-5・6グリッドに位置する。天明泥流畑面より、20cm程下位に確認された。

形状・規模 長径1.7×短径1.4m、深さ50cmの円形土坑埋土に、若干の焼土を含む粘土質の土が一括して投げ込まれた状況を呈す。

所見 所謂焼土の色はほとんど見られない。汚れた感じの焼土を僅かに含み、火を受けたと思われる粘質土(脆い岩石質)を主体とする。

掘方はしっかりとしており、円形で丁寧に掘り込んでいる。何らかの理由で、土坑内の土を廃棄する必要から構築されたものであろう。

出土遺物は無い。

16号焼土(第188図、PL.49)

位置 75区G-24グリッドに位置する。

形状・規模 長さ1.2m、幅40cmのやや細長く、不定形に広がる焼土範囲を認めた。

所見 全体に汚れた焼土を斑に含み、周囲は極めて軟質である。焼土の周りには礫等は見られない。

時期は中世と思われるが、用途、性格は不明である。

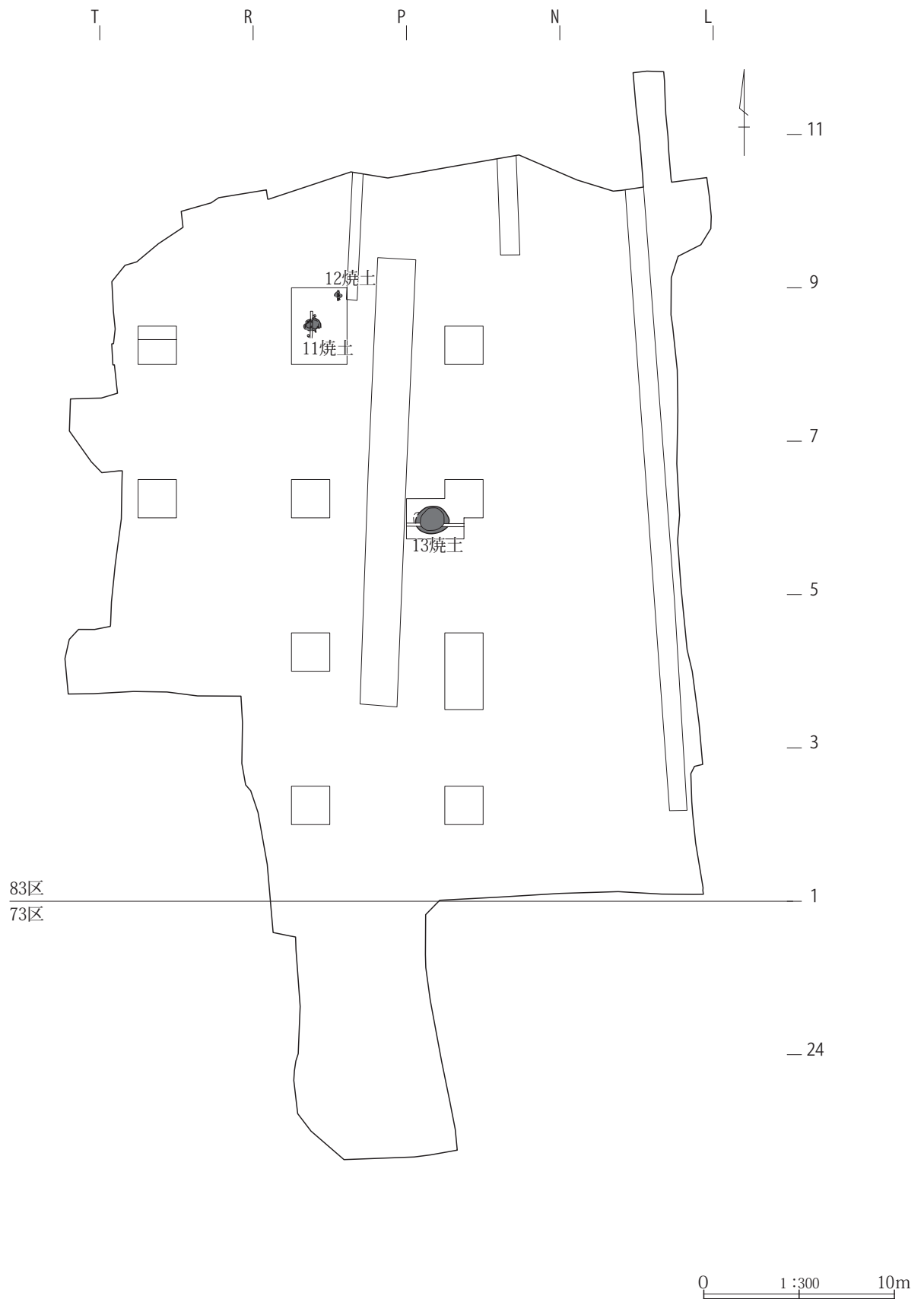
17号焼土(第188図、PL.49)

位置 75区H-24グリッドに位置する。

形状・規模 長さ60cm、幅50cmの楕円形に広がる焼土範囲を認めたため、焼土としたが、焼土は部分的に含まれる程度である。

所見 焼土は、ロームの上層面に認められ、全体に薄く広がる程度であった。

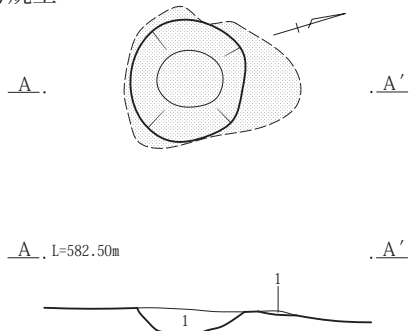
出土遺物も見られなかった。時期は中世と思われるが、性格は不明である。



第187図 11～13号焼土 全体図

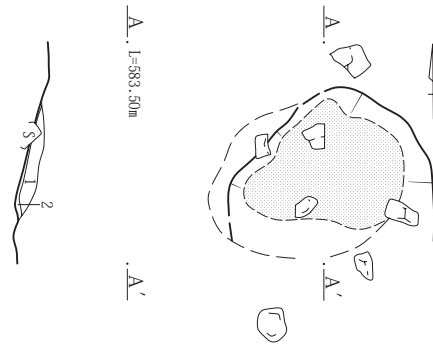
第3章 検出された遺構と遺物

7号焼土



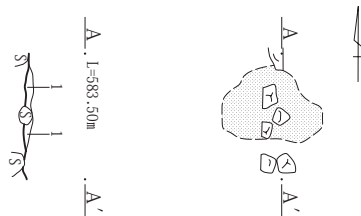
- 7号焼土
1. 淡白橙色土 焼土層、硬く締り、内層は白化している。

11号焼土



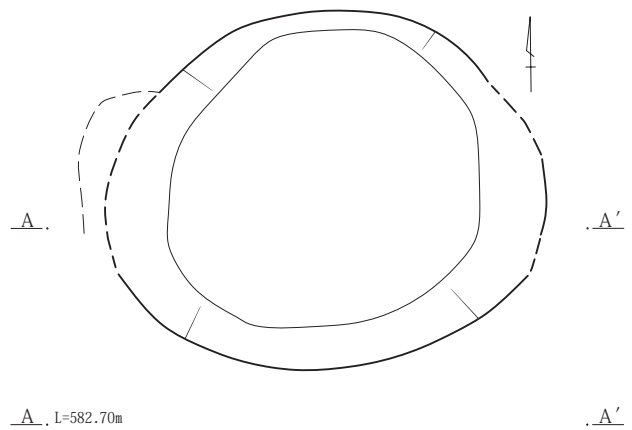
- 11号焼土
1. にぶい赤褐色土 やや粘性のある焼土。不均質で炭化粒を少量含む。
2. 赤褐色土 均質で良く焼けた焼土面。

12号焼土



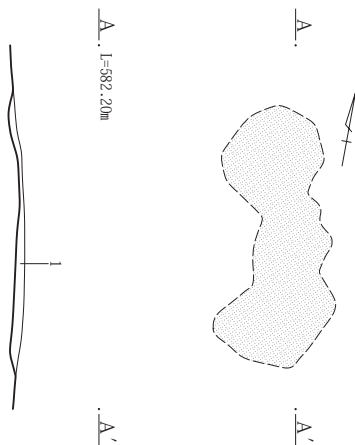
- 12号焼土
1. 赤褐色土 パサパサしたやや均質な焼土ブロック。少量の1cm大の炭化粒を含む。

13号焼土



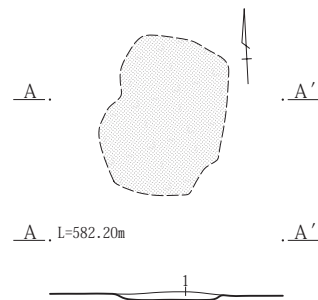
- 13号焼土
1. As-A軽石
2. 黒褐色土 天明下畑土。
3. 明褐色土 黒褐色土を不均質に含み、粗く不均質土。Ypk軽石と思われる軽石と極僅かな炭化粒を少量含む。焼土かどうかは不明。
4. 明褐色土 2に比べ地山ブロックを多く含み色調暗い。

16号焼土

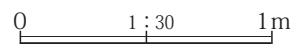


- 16号焼土
1. 橙色土 締り、粘性なく、炭化粒含まない。

17号焼土



- 17号焼土
1. にぶい黄褐色土 ロームブロック若干含む不均質な焼土。炭化物粒・3cm大円礫若干含む。



第188図 7・11～13・16・17号焼土

3. 土坑

334号土坑(第189図、PL.49・115)

位置 75区O-21グリッドに位置する。調査区の北壁に検出された。

形状・規模 円形を呈す。長軸0.93m、短軸0.87m、深さ0.52m。

長軸方向 —

所見 調査区の北側壁際に検出された。ほぼ円形を呈し、掘方は中段を有し、中央部はやや狭く一段深く掘り込まれている。

埋土は若干のローム粒を含み、やや砂質で、粒子は均一である。土坑中央の埋土中位程に、やや大きい自然礫が見られた。また、土坑の縁には、青磁碗片と内耳鍋片が出土している。

335号土坑(第189図、PL.49)

位置 75区H-12・13グリッドに位置する。調査区の南端にあり、西側に24号溝が近接している。

形状・規模 隅丸長方形、長軸1.51m、短軸1.04m、深さ0.27m。

長軸方向 N-32° - E

所見 6号住居の拡張調査部において検出された。調査区の南端隅に位置している。やや隅丸の長円形を呈し、比較的掘り込みは浅く、底部はほぼ平らに掘り込まれていた。底面には地山の礫が露出する。

埋土はやや砂質で、粒子は均一である。土坑の端に大きい自然礫が落ち込んだように出土している。

出土遺物は無い。

336号土坑(第189図、PL.49・115)

位置 6号住居の拡張調査部において検出された。調査区の南端隅に位置している。75区G-12・13グリッドに位置する。西側1mには335号土坑が近接して位置している。

形状・規模 長円形、長軸2.56m、短軸1.37m、深さ0.41m。

長軸方向 N-55° - W

所見 335号土坑の東に近接し、主軸がほぼ直交する位置関係にある。土坑の東側約半分が、6号住居(縄文時代)の主体部西側部分に重複し、一部を切って構築されてい

る。形状はやや不定型な長円形で、底面は比較的平らに掘り込まれる。

東側部分の断面には、斜めに落ち込む厚さ数cmの焼土層が確認された。

出土遺物は、覆土中より銭貨(皇宋通宝)1点が出土している。墓坑と考えられ、近接する335号土坑も形状や埋土なども近似しており、主軸が直交していることなどを考慮すれば、墓坑の可能性はある。

4. 溝

23号溝(第182図、PL.49)

位置 75区F・G-11グリッドに位置する。6号住居拡張区内に検出された。

形状・規模 検出された長さは約6m、幅は50cm、深さは15cm程である。

出土遺物 無し。

所見 調査区の南壁から南東に延びているが、先端部は不明瞭。砂質の土で埋まっている。小規模な溝であるが、掘方は比較的しっかりとしている。埋土はやや砂質で均質な土である。

24号溝(第182図、PL.49)

位置 G・H-14グリッドに位置する。

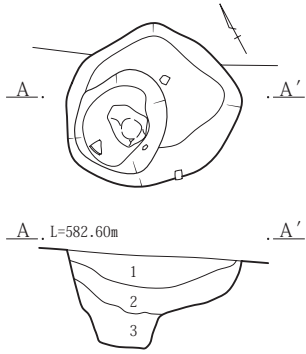
形状・規模 検出された長さは2.5m、幅30cmで深さは15cm程である。

出土遺物 無し。

所見 21号溝の南端部に沿うように見られるが、北東部端部は途切れる形となる。南東約8mに検出された23号溝と類似している。23号溝と直交する位置関係にあることから、区画を意識したものか。

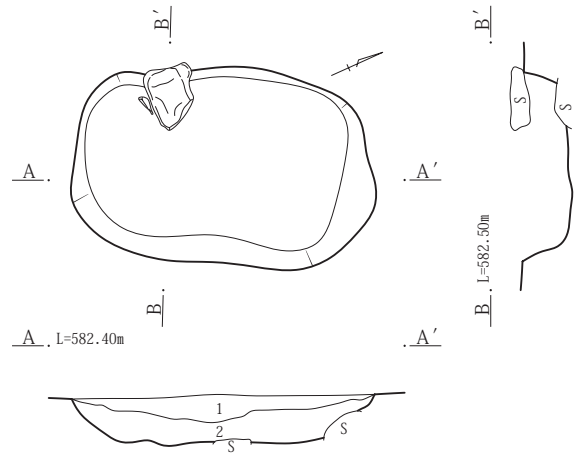
この、両溝の区画内に位置している、335号・336号土坑との関係も示唆されよう。

334号土坑



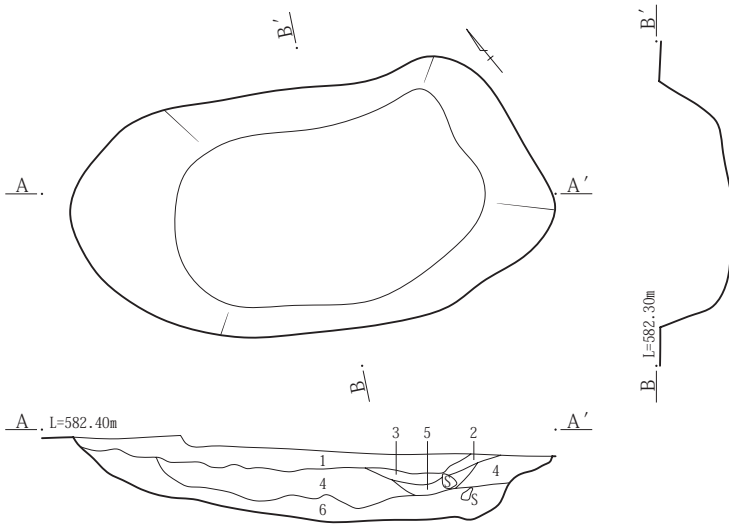
- 334号土坑
1. 黒色土 微細砂質土、炭化物含む。
 2. 微細砂質土、ローム粒含む。
 3. 黒色土 ローム粒、炭化物含む。

335号土坑

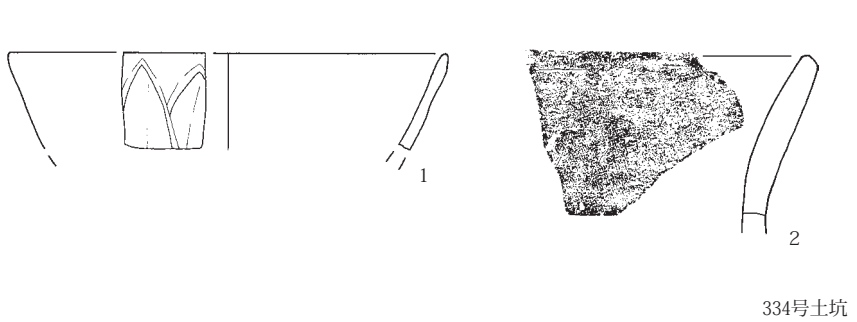
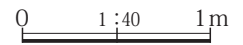


- 335号土坑
1. 黒色土 微細砂質土、炭化物含む。
 2. 黒色土 微細砂質土、ローム粒含む。

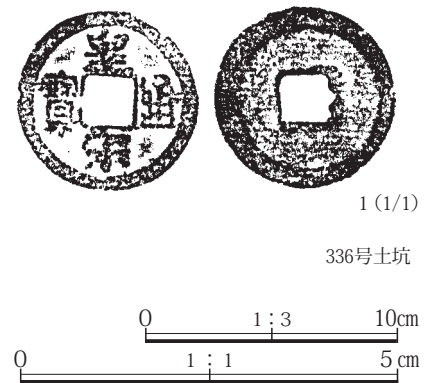
336号土坑



- 336号土坑
1. 黒褐色土 少量の軽石混入。
 2. 黄褐色土 焼土含む。
 3. 黄褐色土 焼土をブロック状に含む。
 4. 黄褐色土 3と似るが焼土を僅かに含む。
 5. 黒褐色土 軽石含みや粘性あり。
 6. 黒褐色土 地山土をブロック状に含む。



334号土坑



336号土坑

第189図 334～336号土坑・土坑出土遺物

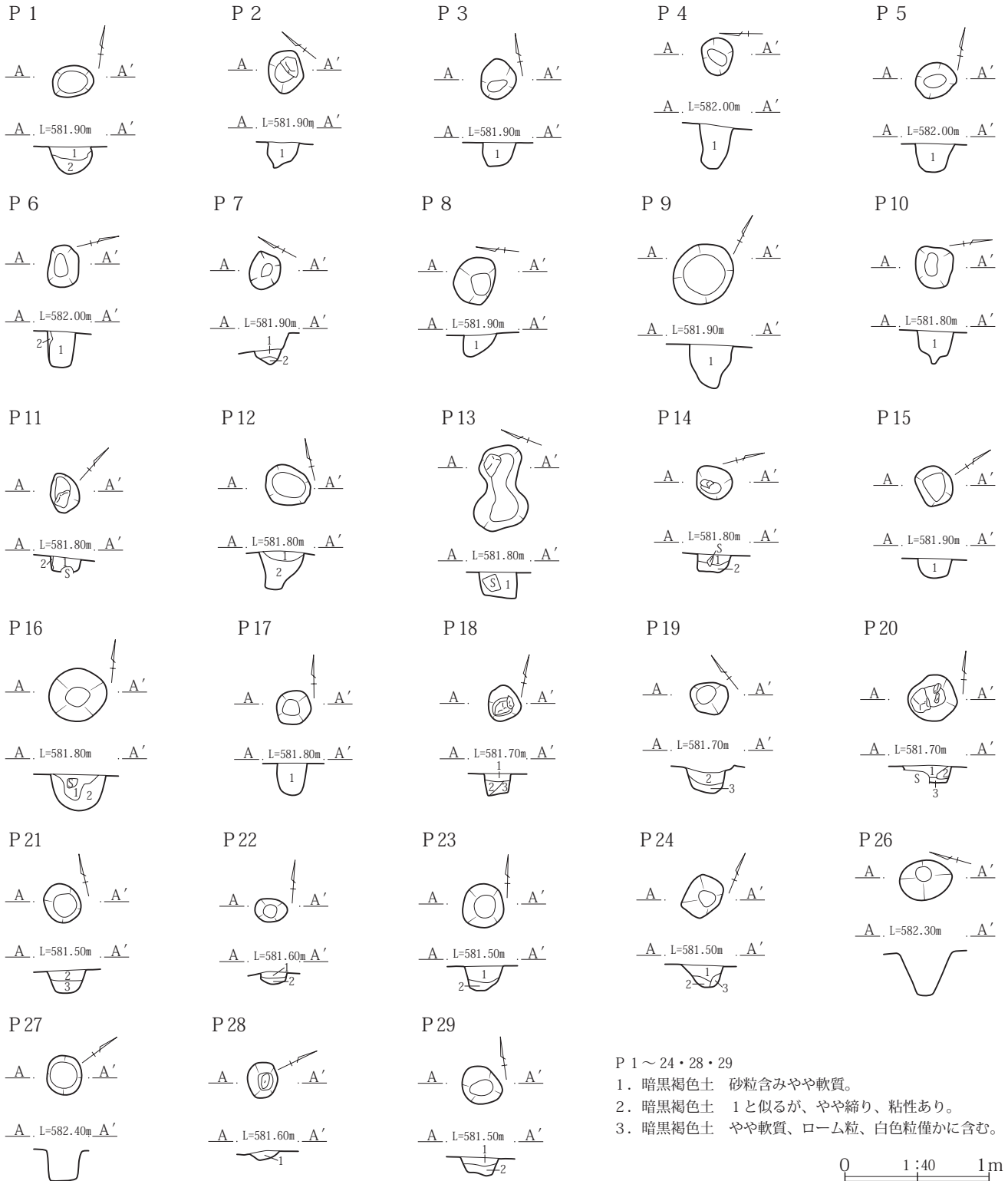
5. ピット(第190~193図、PL.50~53)

2および3面において検出された掘り込みの内径が小さく、かつ浅いものについてはピットとして調査を行った。これらは小型の土坑と判別しがたいものも多かったが、調査時の判断としてピットとして報告する。

時期についても判然とせず、縄文~中世に亘っている

と思われ、人為的でないものも含まれていると考えられる。74区、75区において確認されたものは、埋土の状況などから、中世あるいは平安時代に帰属するものが多いと考えられる。出土遺物に関してもほとんど見られなかった。

個々の説明に替えて一覧表を記載する。



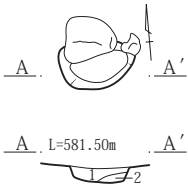
P 1 ~ 24 · 28 · 29

1. 暗黒褐色土 砂粒含みやや軟質。
2. 暗黒褐色土 1と似るが、やや締め、粘性あり。
3. 暗黒褐色土 やや軟質、ローム粒、白色粒僅かに含む。

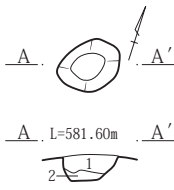
第190図 ピット(1) 1~24・26~29

第3章 検出された遺構と遺物

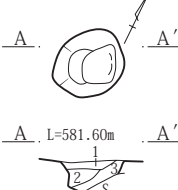
P 30



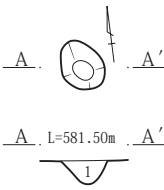
P 31



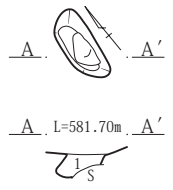
P 32



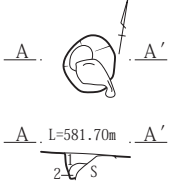
P 33



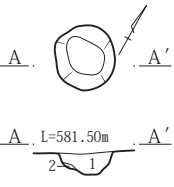
P 34



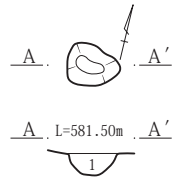
P 35



P 36



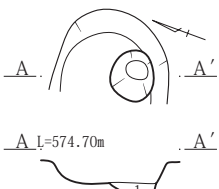
P 37



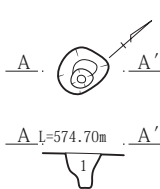
P 30~37

1. 暗黒褐色土 砂粒含みやや軟質。
2. 暗黒褐色土 1と似るが、やや縮り、粘性あり。
3. 暗黒褐色土 やや軟質、ローム粒、白色粒僅かに含む。

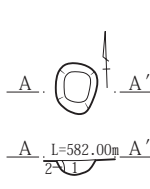
P 38



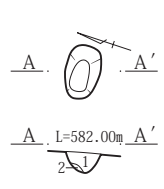
P 39



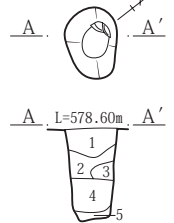
P 40



P 41



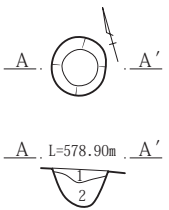
P 42



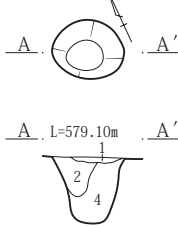
P 38・39

1. 暗褐色土 ローム粒、小ブロック含む。

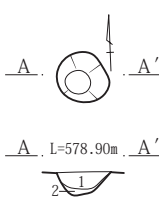
P 43



P 44



P 45



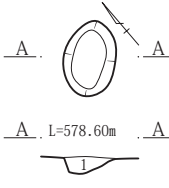
P 40~42・44

1. 暗茶褐色土 ローム小粒、ブロック含む。
2. 暗茶褐色土 1と近似するが、ローム分多い。
3. 黄褐色土 ロームブロックを主体とする。
4. 暗茶褐色土 ローム含む。少ない、黒味あり。
5. 暗褐色土 ローム主体。

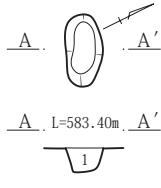
P 43・45

1. 黒褐色土 白色粒、ローム粒含む。下部に鉄分凝集層。
2. 黒褐色土

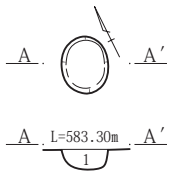
P 46



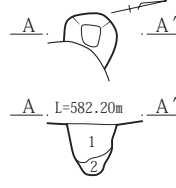
P 47



P 48



P 49



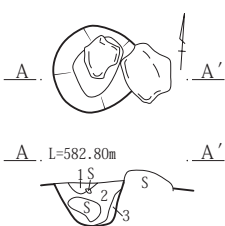
P 49

1. 暗黒褐色土 ローム粒若干含む。
2. 暗黒褐色土 夾雑物少ない。

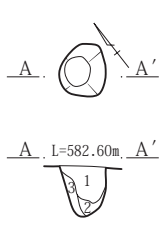
P 46~48

1. 暗黄褐色土 細粒でロームブロック含み軟質。

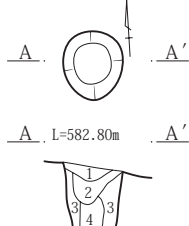
P 50



P 51



P 52

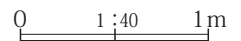


P 50・51

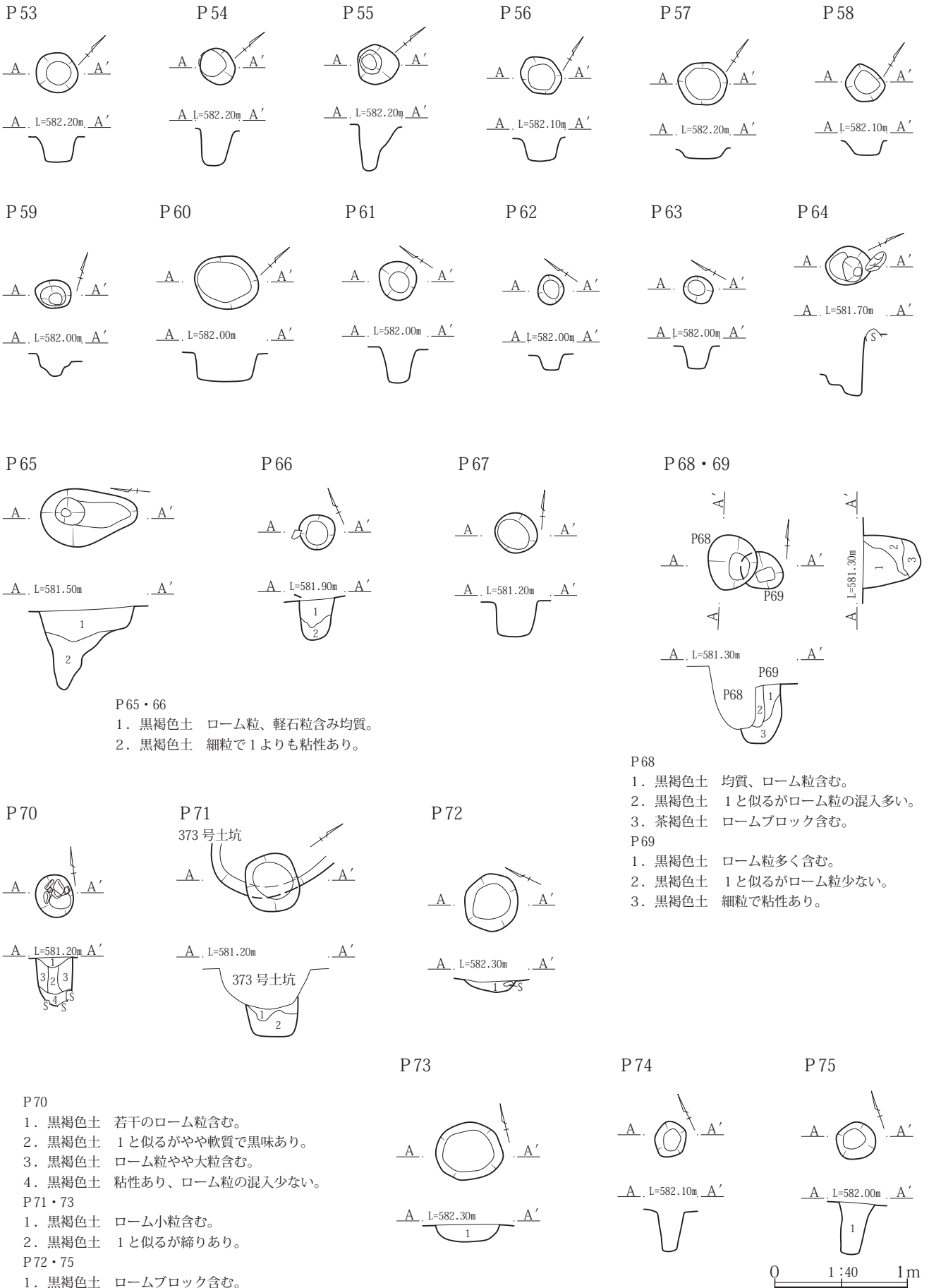
1. 暗茶褐色土 ローム分含む。
2. 暗黒褐色土 若干のローム粒含む。
3. 暗褐色土 ロームやや多く混入。

P 52

1. 黒色土 細粒で軟質。
2. 暗黒褐色土 地山ロームを僅かに含む。
3. 黒褐色土 ローム含み軟質。
4. 黒褐色土 縮りあり。



第191図 ピット(2) 30~52



P 65・66

1. 黒褐色土 ローム粒、軽石粒含み均質。
2. 黒褐色土 細粒で1よりも粘性あり。

P 68

1. 黒褐色土 均質、ローム粒含む。
2. 黒褐色土 1と似るがローム粒の混入多い。
3. 茶褐色土 ロームブロック含む。

P 69

1. 黒褐色土 ローム粒多く含む。
2. 黒褐色土 1と似るがローム粒少ない。
3. 黒褐色土 細粒で粘性あり。

P 70

1. 黒褐色土 若干のローム粒含む。
2. 黒褐色土 1と似るがやや軟質で黒味あり。
3. 黒褐色土 ローム粒やや大粒含む。
4. 黒褐色土 粘性あり、ローム粒の混入少ない。

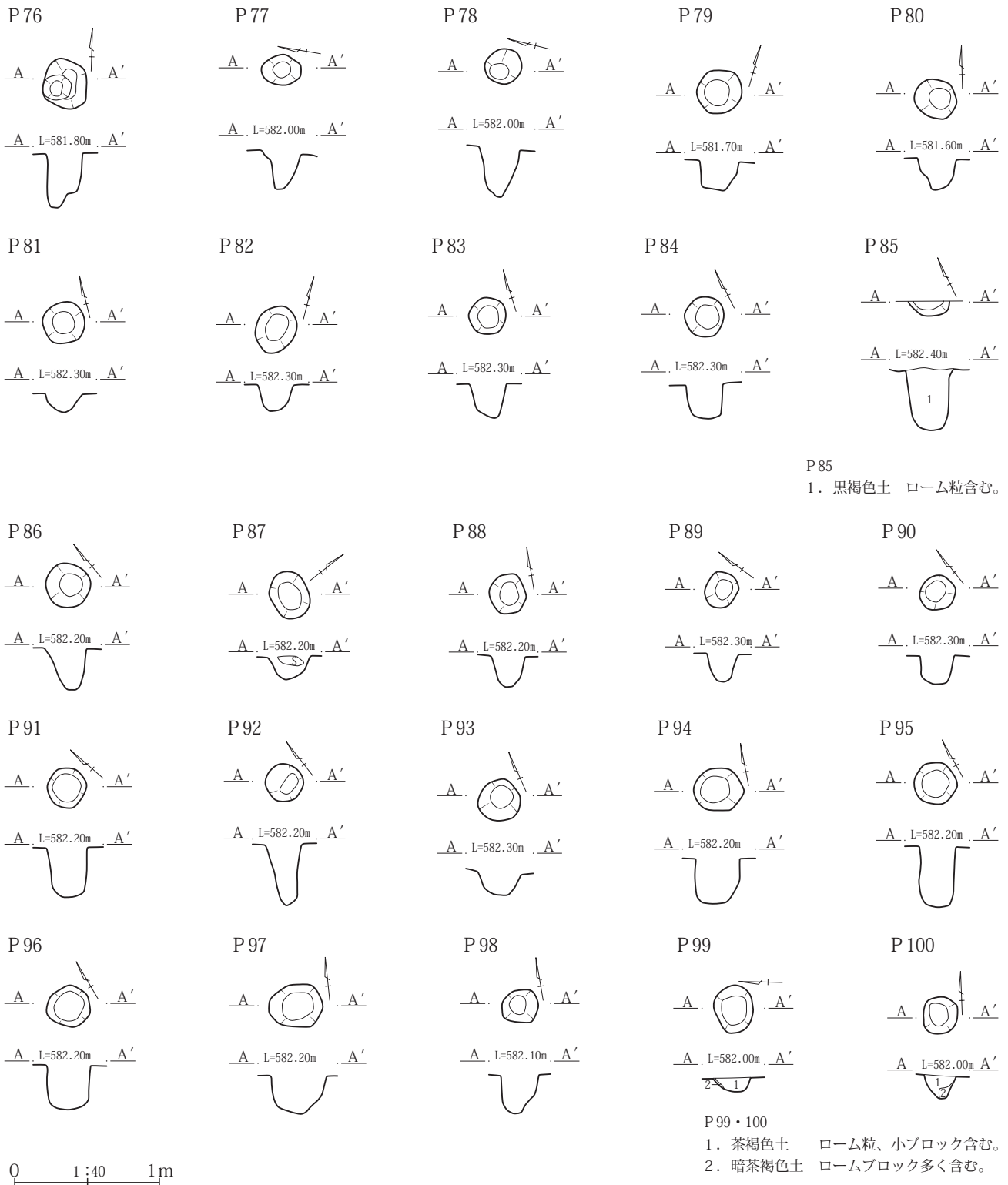
P 71・73

1. 黒褐色土 ローム小粒含む。
2. 黒褐色土 1と似るが締めあり。

P 72・75

1. 黒褐色土 ロームブロック含む。

第192図 ピット(3) 53~75

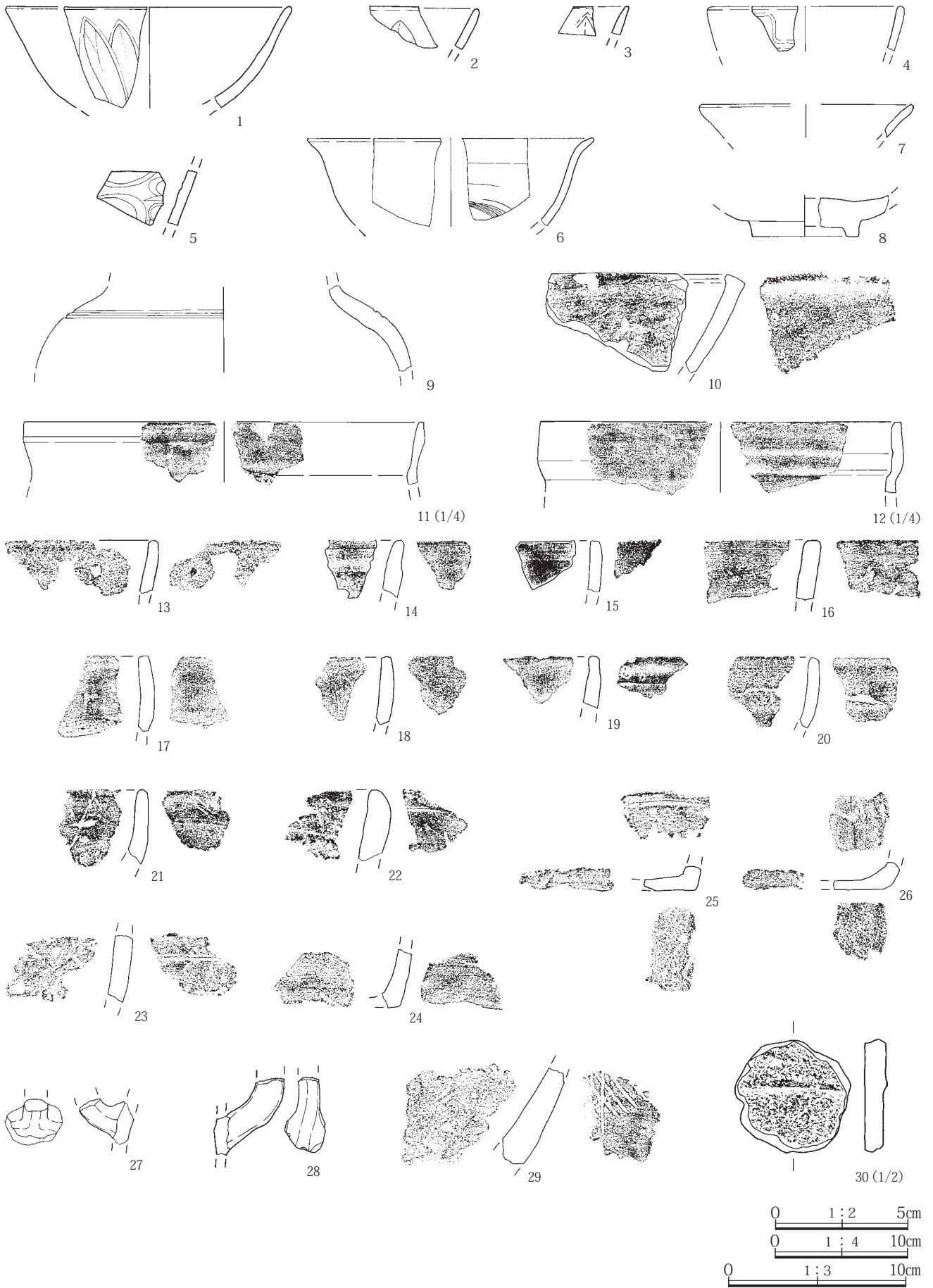


第193図 ピット(4) 76~100

6. 遺構外出土遺物(第194・195図、PL.116)

尾坂遺跡において出土した、中世に帰属すると思われる遺物は数十点を数えるのみである。出土分布を見ると、遺構が見られた74区を中心とする範囲にやや集中している。他の区においても、出土は見られるが、点数は少なく散見される程度である。

遺構からの出土も少なく、遺構外として図示した遺物は、主に青磁碗類、と内耳鍋片が多い。いずれも小破片である。遺構の希薄さや、遺物量などから見ても、尾坂遺跡においては、この時期、居住域としての占地度は弱かったものと推察できる。



第194図 遺構外出土遺物



第195図 中世陶磁器出土分布図

表10 遺物観察表
土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第189図 PL.115	1	龍泉窯系青磁 碗	334号土坑 口縁部片	口	(17.3)		外面片彫りによる鑄蓮弁文。内外面青磁釉。	13世紀	
第189図 PL.115	2	縄文土器 深鉢	334号土坑 口縁部片			砂粒/黄褐色	無文口縁部、やや外傾する。	中期後葉	
第189図 PL.115	1	銭貨 皇末通寶	336号土坑	径	2.43	重	1.9	初鑄(1039年)	中世

遺構外

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第194図 PL.116	1	龍泉窯系青磁 碗	74区R-6 口縁～体部下位片	口	(16.0)		外面片彫りによる鑄蓮弁文。内外面青磁釉。	13世紀
第194図 PL.116	2	龍泉窯系青磁 碗	75区E-8 口縁部片				外面片彫りによる鑄蓮弁文。	13世紀
第194図 PL.116	3	龍泉窯系青磁 碗	74区I-2 口縁部片				外面片彫りによる鑄蓮弁文。	13世紀
第194図 PL.116	4	龍泉窯系青磁 碗	74区 口縁部片	口	(11.0)		外面丸彫りによる雷文帯。内外面青磁釉。	15世紀
第194図 PL.116	5	中国青白磁 瓶	74区I/FM-10 体部片				外面篋による渦状の文様。内面轆轤目。外面青白磁釉で、内面の釉は薄い。	13～14世紀前半
第194図 PL.116	6	龍泉窯系青磁 碗	75区F-22 口縁～体部下位片	口	(16.0)		口縁部外反。体部内面片彫りによる施文。内外面青磁釉。	
第194図 PL.116	7	龍泉窯系青磁 皿	75区F-12 口縁～体部	口	(12.0)		残存部内外面青磁釉。体部下端内面は窪み、器壁やや薄くなる。	13世紀
第194図 PL.116	8	龍泉窯系青磁 碗	74区 底部1/4	底	(6.0)		内面無文。体部外面下端、篋による片彫り下端が残る。内面から高台外面青磁釉。底部器壁厚い。	13世紀
第194図 PL.116	9	常滑陶器 壺	75区C-23 肩部片				肩部外面2条の凹線。外面自然釉が斑状にかかる。	中世
第194図 PL.116	10	在地系土器 片口鉢か	75区A-24 口縁部片				口縁部内面内側に突き出る。端部上面平坦。	中世
第194図 PL.116	11	在地系土器 内耳鍋	82区Y-8 口縁部片	口	(30.0)		口縁部付近強い横撫で。口縁外反部内面段差。	中世
第194図 PL.116	12	在地系土器 内耳鍋	75区C-23 口縁部片	口	(27.0)		口縁部横撫で。口縁部内面2条の轆轤目状窪みが巡り、下段は段差に連なる。	中世
第194図 PL.116	13	在地系土器 内耳鍋	75区B-11 口縁部片				口縁部横撫で。	中世
第194図 PL.116	14	在地系土器 内耳鍋	73区I/FW-7 口縁部片				口縁部横撫で。	中世
第194図 PL.116	15	在地系土器 内耳鍋か	73区OS9畑 口縁部片				口縁部横撫で。	中世
第194図 PL.116	16	在地系土器 内耳鍋	84区I-3 口縁部片				口縁部横撫で。	中世
第194図 PL.116	17	在地系土器 内耳鍋	74区Y-9 口縁部片				口縁部横撫で。	中世
第194図 PL.116	18	在地系土器 内耳鍋	73区S-11 口縁部片				口縁部横撫で。	中世
第194図 PL.116	19	在地系土器 内耳鍋	73区X-6I/F 口縁部片				口縁部横撫で。	中世
第194図 PL.116	20	在地系土器 内耳鍋	75区I/I/F 口縁部片				口縁部横撫で。	中世
第194図 PL.116	21	在地系土器 内耳鍋	74区P-5 口縁部片				口縁部横撫で。	中世
第194図 PL.116	22	在地系土器 内耳鍋	64区G-22 口縁部片				口縁部横撫で。厚み有り。	中世
第194図 PL.116	23	在地系土器 内耳鍋	74区P-5 口縁部片				口縁部横撫で。	中世
第194図 PL.116	24	在地系土器 内耳鍋	64区2I/F 底部片				底端部片、砂底。	中世
第194図 PL.116	25	在地系土器 内耳鍋	63区OS27畑 底部片				底端部片、砂底。	中世
第194図 PL.116	26	在地系土器 内耳鍋	84区K-3 底部片				底端部片、砂底。	中世
第194図 PL.116	27	在地系土器 内耳鍋	74区OS19畑 内耳片				下部接合部。断面円形。	中世
第194図 PL.116	28	在地系土器 内耳鍋	74区X-24 内耳片				下部接合部。	中世
第194図 PL.116	29	在地系土器 片口鉢か	74区OS10畑B-18 体部下位片				体部内面にすり目。すり目の一部は交差し、斜格子状を呈する。	中世か
第194図 PL.116	30	内耳鍋 土製円盤	74区T-4 完形	径	4.5	砂粒/褐色	内耳鍋の底か？底面に段が見られ、内面に回転状の撫で。	中世か

遺構計測表

表11 遺構計測表

掘立柱建物

番号	区	位置	形状	規模	方位	炉(囲炉裏)	柱穴	床面	出土遺物	時期	調査年度	備考
1	74	Q・R-9・10	方形	2間×2間	N-9° -E		9			中世	平22	旧6号建物
2	74	U-9・10、V-9	台形?	2間×2間	N-1° -E		9			中世	平22	旧74区U-10ピット群
3	75	H-18、I・J-17 ~19	長方形?	(3間×2間)	N-14° -E	焼土	11			中世	平22	庇あり、建物内に7号焼土

焼土

番号	区	位置	形状	規模(cm)	方位	特徴	出土遺物	時期	調査年度	備考
7	75	I-18	不定形	70×55	N-22° -E	不定型な焼土の広がり、下部に浅い掘り込み		中世か	平22	3号掘立柱建物の炉か
11	83	Q-8	不定形	64×54	N-72° -E	周囲に小礫		中世か	平25	
12	83	P-8	不定形	40×28	N-58° -W	周囲に小礫		中世か	平25	
13	83	O-5・6	円形	(175×142)	-	最上面に焼土が水平に広がる		中世か	平25	下位に土坑
16	75	G-24	不定形	104×44	N-9° -W	不定型で薄い焼土の広がり		中世か	平26	
17	75	H-24	楕円形	63×48	N-0°	浅い焼土が広がる		中世か	平26	

土坑

番号	区	位置	形状	規模(cm) 長径×短径×深さ	主軸方位	出土遺物	時期	調査年度	備考
334	75	O-21	円形	93×87×52		土器、石器、青磁	中世	平22	青磁は最上部出土
335	75	H-12・13	隅丸長方形	151×104×27	N-32° -E	土器	中世	平22	
336	75	G-12・13	長円形	256×137×41	N-55° -W	土器	中世	平22	斜めに焼土層入る

溝

番号	区	位置	断面形状	規模(m) 長径×短径×深さ	特徴	出土遺物	時期	調査年度	備考
23	75	F・G-11	半月状	4.43×0.53×0.16	幅狭く両端部途切れる		中世	平22	北西→南東
24	75	G・H-13	(半月状)	2.09×0.23×0.14	幅狭く両端部途切れる		中世	平22	南西→北東

ピット

番号	区	位置	形状	規模(cm) 長径×短径×深さ	出土遺物	時期	調査年度	備考
1	75	E-17	円形	38×28×18			平20	
2	75	E-17	円形	29×24×17			平20	
3	75	E-16	円形	27×24×16			平20	
4	75	F-16	円形	25×22×29			平20	
5	75	E-15	円形	28×24×20			平20	
6	75	F-16	楕円形	29×21×15			平20	
7	75	E-16	円形	26×22×21			平20	
8	75	D-15	楕円形	33×27×15			平20	
9	75	D-15	円形	45×39×30			平20	
10	75	F-18	円形	29×26×12			平20	
11	75	F-18	楕円形	28×11×10			平20	
12	75	F-18	楕円形	33×27×26			平20	
13	75	F-18	円形	32×28×18			平20	
14	75	F-18	円形	25×22×12			平20	
15	75	F-19	円形	27×24×13			平20	
16	75	C-17	円形	40×37×25			平20	
17	75	C-15	円形	24×24×22			平20	
18	75	C-15	円形	24×23×15			平20	
19	75	C-15	円形	26×22×19			平20	
20	75	C-15	円形	34×32×12			平20	
21	75	B-14	円形	27×25×15			平20	
22	75	B-15	楕円形	23×16×8			平20	
23	75	B-14	円形	30×28×17			平20	
24	75	C-14	楕円形	29×24×15			平20	
25		欠番						
26	75	F-12	楕円形	36×26×10			平22	旧ピット66
27	75	G-12	楕円形	27×24×24			平22	旧ピット64
28	75	D-15	円形	25×22×6			平20	
29	75	B-13	円形	28×25×12			平20	
30	75	C-17	楕円形	40×21×8			平20	
31	75	C-15	円形	34×27×14			平20	
32	75	C-15	円形	39×32×16			平20	
33	75	C-14	円形	28×22×12			平20	
34	75	D-15	長方形	40×28×12			平20	
35	75	E-14	円形	30×27×13			平20	
36	75	D-14	円形	34×32×11			平20	
37	75	D-14	円形	28×23×11			平20	
38	63	Q-16	円形	28×23×20			平20	

番号	区	位置	形状	規模(cm)		出土遺物	時期	調査年度	備考
				長径×短径×高さ					
39	63	R-16	円形	26×23×18			平20		
40	74	S-2	楕円形	27×21×7			平21		
41	64	R-25	楕円形	28×19×11			平21		
42	72	Q-20	楕円形	37×27×49			平21		
43	72	R-20	円形	32×29×19			平21		
44	72	Q-22	楕円形	38×32×35			平21		
45	72	T-20	円形	28×25×13			平21		
46	72・82	N-25・N-1	楕円形	40×27×10			平21		
47	86	D-6	楕円形	38×20×13			平21		
48	86	C-6	楕円形	30×25×11			平21		
49	75	H-17	円形	(20)×19×27			平21		
50	75	D-6	円形	46×43×22			平21		
51	75	D-7	円形	28×24×27			平21		
52	75	F-8	円形	37×32×41			平21		
53	75	F-12	円形	32×30×19			平22		
54	75	F-12	円形	28×25×28			平22		
55	75	F-12	不定形	32×29×35			平22		
56	75	F-13	長円形	31×27×18			平22		
57	75	F-12	円形	37×21×8			平22		
58	75	E-13	不定形	28×26×11			平22		
59	75	F-14	長円形	27×21×17			平22		
60	75	F-14	長円形	49×39×23			平22		
61	75	F-14	円形	29×28×27			平22		
62	75	F-14	円形	23×20×11			平22		
63	75	F-13	長円形	22×19×17			平22		
64	74	R-6	長円形	34×29×24			平22		
65	74	R-8	長円形	73×43×63			平22		
66	74	T-4	円形	27×27×30			平22		
67	74	T-14	円形	32×30×37			平22		
68	74	U-14	不定形	41×37×43			平22		
69	74	U-14	長円形	33×28×58			平22		
70	74	S-16	長円形	33×28×36			平22		
71	74	S-15	方形	43×38×53			平22		
72	85	M-1	円形	44×40×10			平26		
73	85	N-1	円形	49×42×13			平26		
74	75	I-24	長円形	27×23×32			平26		
75	75	I-24	円形	30×28×50			平26		
76	75	I-23	不定形	34×30×37			平26		
77	75	H-23	長円形	27×20×38			平26		
78	75	H-23	円形	24×23×35			平26		
79	75	H-23	円形	34×30×21			平26		
80	75	H-23	円形	29×25×23			平26		
81	85	O-4	円形	27×19×14			平26		
82	85	O-3	長円形	32×17×19			平26		
83	85	O-3	円形	26×24×20			平26		
84	85	O-2	円形	28×27×26			平26		
85	85	M-3	(円形)	28×(11)×22			平26		
86	85	N-3	円形	32×30×29			平26		
87	85	M-2	長円形	32×25×17			平26		
88	85	M-2	不定形	27×25×22			平26		
89	85	O-1	円形	22×20×25			平26		
90	85	M-1	円形	24×24×18			平26		
91	85	M-1	円形	28×23×33			平26		
92	85	M-2	円形	26×25×44			平26		
93	85	M-1	円形	28×28×17			平26		
94	85	L-1	円形	34×28×30			平26		
95	85	L-1	円形	30×28×42			平26		
96	85	L-1	円形	30×28×31			平26		
97	85	K-1	長円形	36×29×26			平26		
98	85	K-2	不定形	25×22×26			平26		
99	74	R-2	円形	33×27×9			平21	※重複 旧ピット38	
100	74	R-2	円形	25×24×15			平21	※重複 旧ピット39	

第7節 江戸時代の遺構と遺物

尾坂遺跡は、前述した様に天明三年(1783)に浅間山の
大噴火に伴って発生した泥流によって全面が覆われてお
り、当時の生活が1日にして深さ2m以上の泥流下に埋
没してしまった遺跡である。

この泥流に被災した遺構として検出されたのは、建物、
畑とこれに伴い道、溝、石垣、土坑さらに畑の造成に伴っ
て造られたと思われる暗渠が検出された。

また、遺物に関しては、建物内から出土している陶磁
器、金属器、木製品などが見られる。畑においては、作
物など明確な物は残っていなかったが、当時打ち込まれ
ていた杭や地境などに植えられていたと考えられる境木
などが出土している。以下、江戸時代の遺構について記
述を行ってゆくが、一部の土坑を除いてその総てが天明
三年8月5日(新暦)の様子を伝えているものである。

1. 建物

尾坂遺跡において検出された天明泥流下の建物は総数
4棟である。このうち、母屋と考えられるのは、平成18
年度調査の1号建物のみである。

1号建物(第196~203図、PL.54~56・116~118)

位置 82・83区Y~C-10~13グリッドに位置する。

形状・規模 東西に長い長方形を呈し、大きさは、7間
×4間。東西長13.2m、南北長6.7mを測る。

主軸方位 N-15°-W

出土遺物 建物内からは西側および北側の土台と、泥流
によって運ばれてきたと思われる建築材や杭、自然木な
どが多く出土している。さらに、種実(モモ、クルミ、
マツカサ)なども出土している。クルミ、モモは建物内
の北寄りにまとまっており、マツカサは西側の雨落ち溝
周辺に多く見られた。おそらく屋敷近くに、これらの樹
木が生えていたものと考えられる。

建物の北西部には建築材の一部と思われる材が多く見
られたが、建物の部材であるか不明なものが多かった。
また、生活道具などは、ほとんどが流されてしまったも
のか少なかったが、若干の陶磁器類、銭貨(さし銭)な
どの他に、北側の土台脇からは大型の鉦鼓が出土してお
り注目される。また、用途不明な筒状の骨製品が見られ

る。

こうした遺物の多くは建物の北側に集中して出土して
いる。おそらく南西方向から流れてきたものと考えられ
る泥流の勢いが北側の高まりに衝突して、方向を変えた
結果とも考えられる。

土台は西側と、北東側で礎石上に載った状態で3本が
検出されている。東側の土台は、東西と南北のものがT
字状に組まれた状態で出土。いずれも礎石上で、ほぼ原
位置を留めている。

所見 平成18年度の調査で検出されたもので、尾坂遺跡
において確認された、唯一の建物(母屋)である。

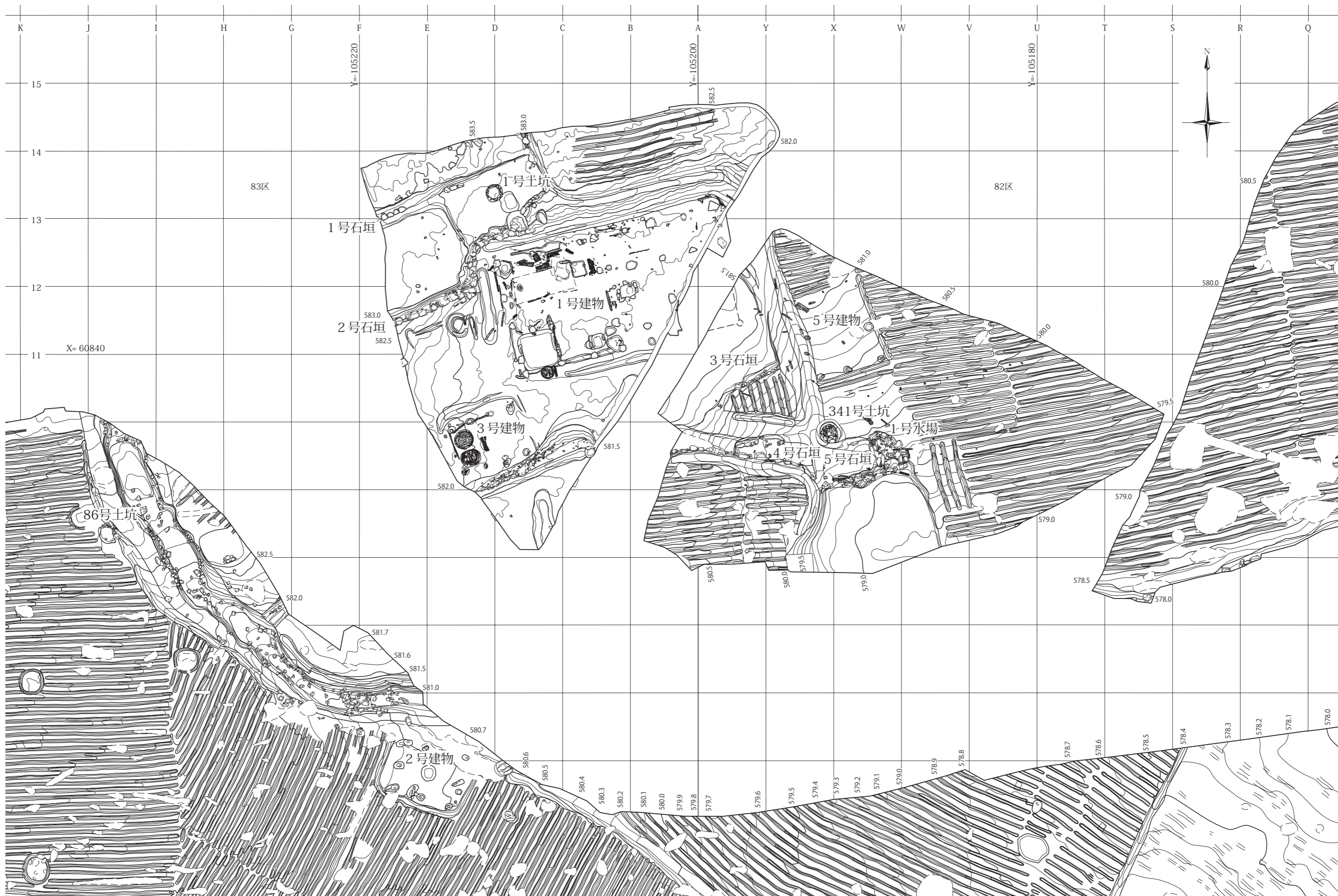
遺跡の北東部、旧国道145号の南側に位置し、北側には
上位河岸段丘が迫った場所である。

所見 全体が深さ3m程の泥流に覆われた状態で埋没し
ていた。建物の位置している場所は、山側からの自然湧
水が多く見られたことから、有機質の遺物が比較的良好
な状態で出土した。特に、土台については礎石に載った
状態で見つかっている。

内部施設は、建物の西側が土間となっており、大戸を
入って直ぐ左側に馬屋を設けている。馬屋は建物の南西
隅に設けられていた。一辺が2m程の方形の落ち込み内
に、有機質の未分解の木葉や藁などが厚く堆積していた。
厩の南側屋外には、径80cmの木桶が埋められており、小
水桶として機能していたものと考えられる。土間の奥に
は筵痕が一畳程の大きさに検出されており、その北東側
に径1.2m程の範囲で、不定形に広がる焼土が確認され
た。上部構造は不明であるが、カマドが作られていた可
能性がある。その右脇に一辺90cm、深さが20cm程の方形
の落ち込みが見られたが、用途は不明である。

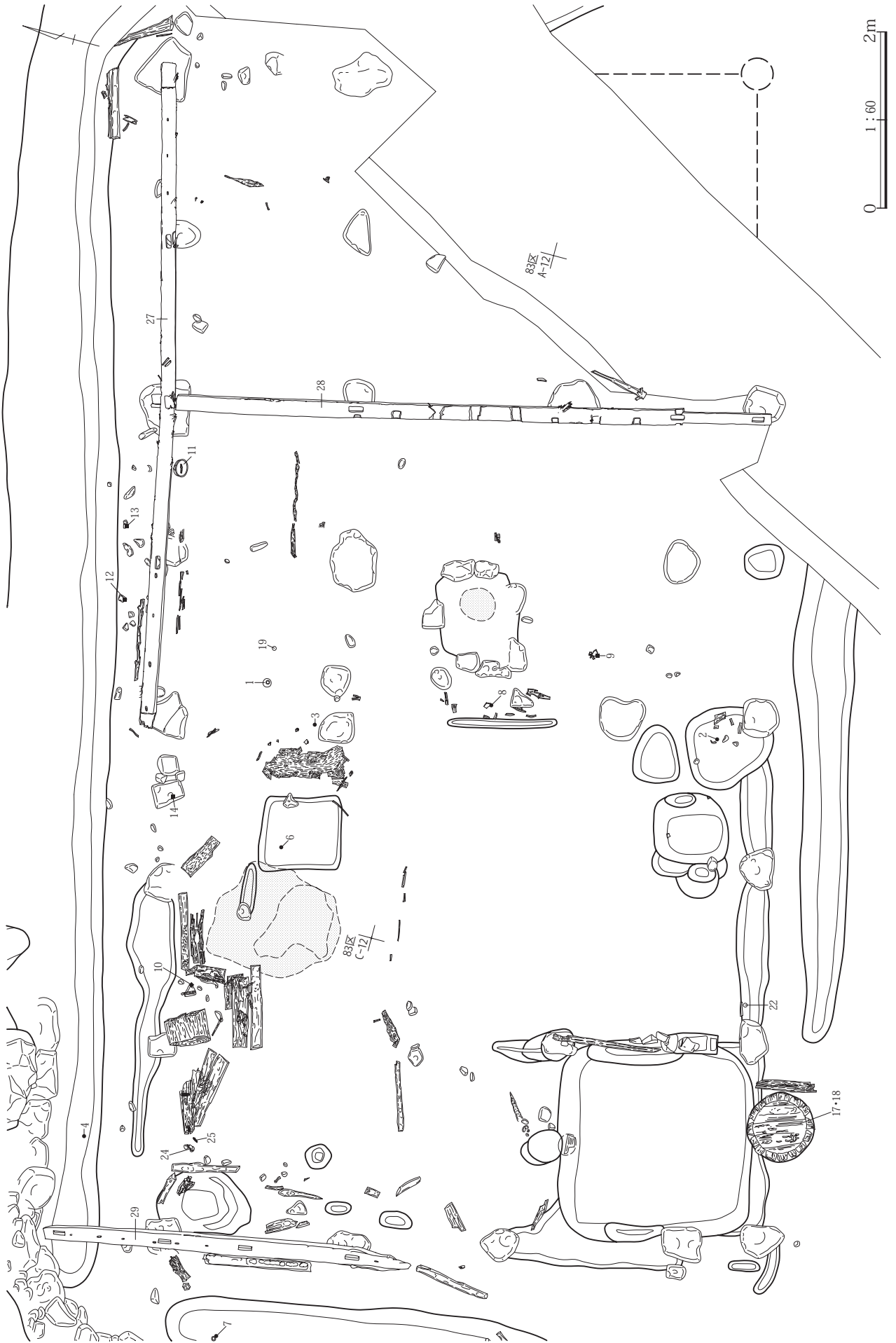
囲炉裏は建物のほぼ中央、板の間の西端に作られてい
た、大きさ40~30cmの自然礫を部分的にはあるが、方
形に並べている。内部には灰白の細かな木灰が厚く残っ
ており、下層には円形に焼土が検出されていた。

建物が造られている場所はやや南傾斜の地形を、造成
しており、母屋周辺については、小さな平坦部を造り出
し、石垣や溝などが区画単位に見られる。それぞれ付属
する建物等を造り、畑を設けている。平成22年度に調査
を行った東側では、5号建物、土坑、水場などの他、小
区画の畑が検出、さらにこれらを繋ぐ道も見られ、当時
における屋敷の構造を知ることができる。

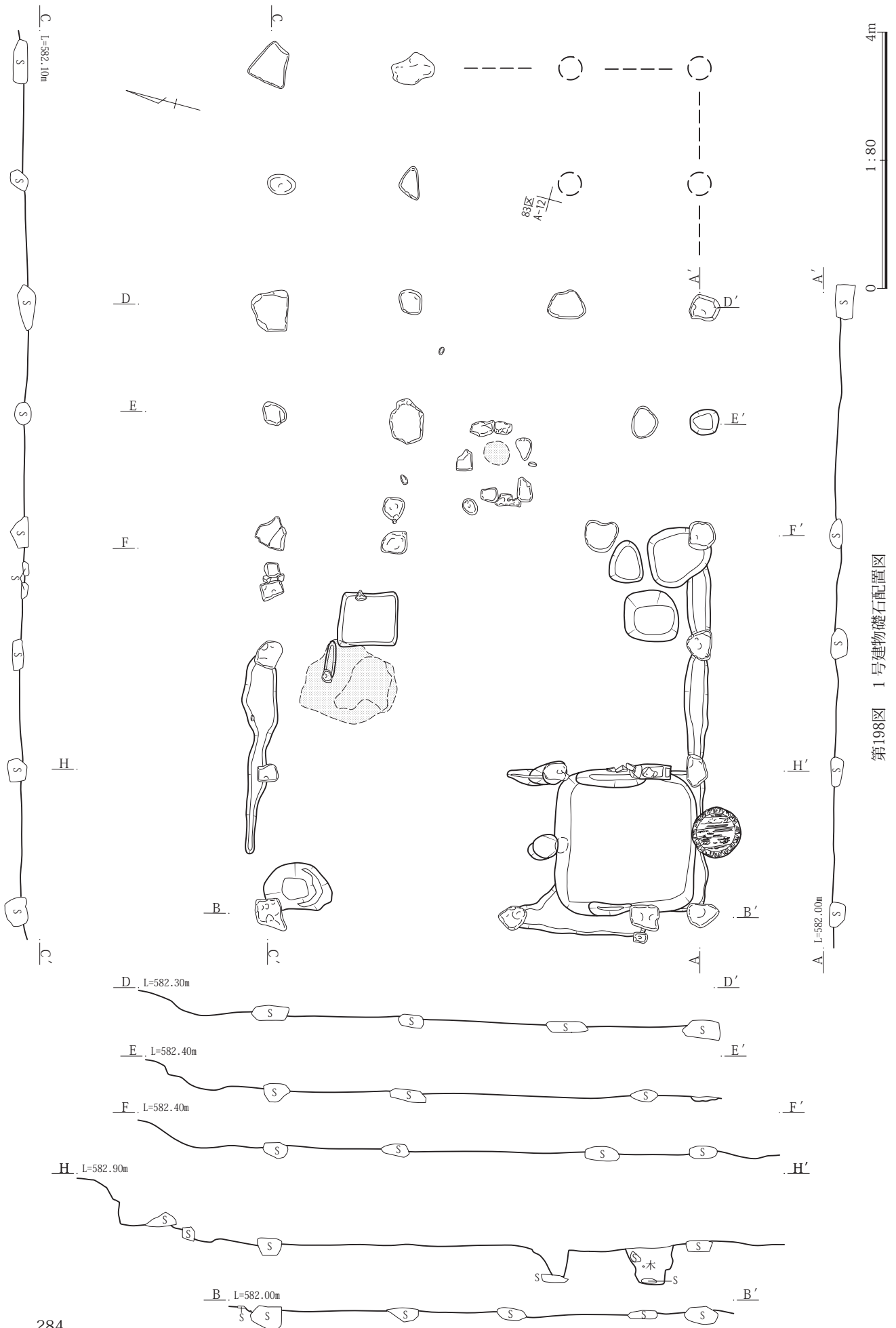


第196图 1号建物周辺遺構全体图

0 1:200 10m

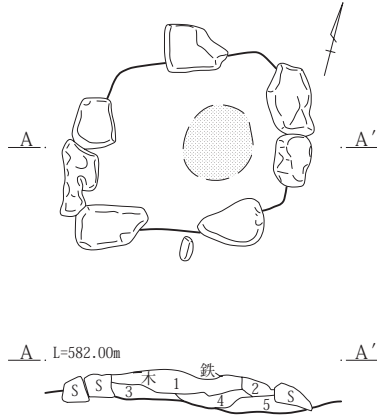


第197図 1号建物遺物出土位置図



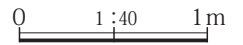
第198図 1号建物礎石配置図

囲炉裏

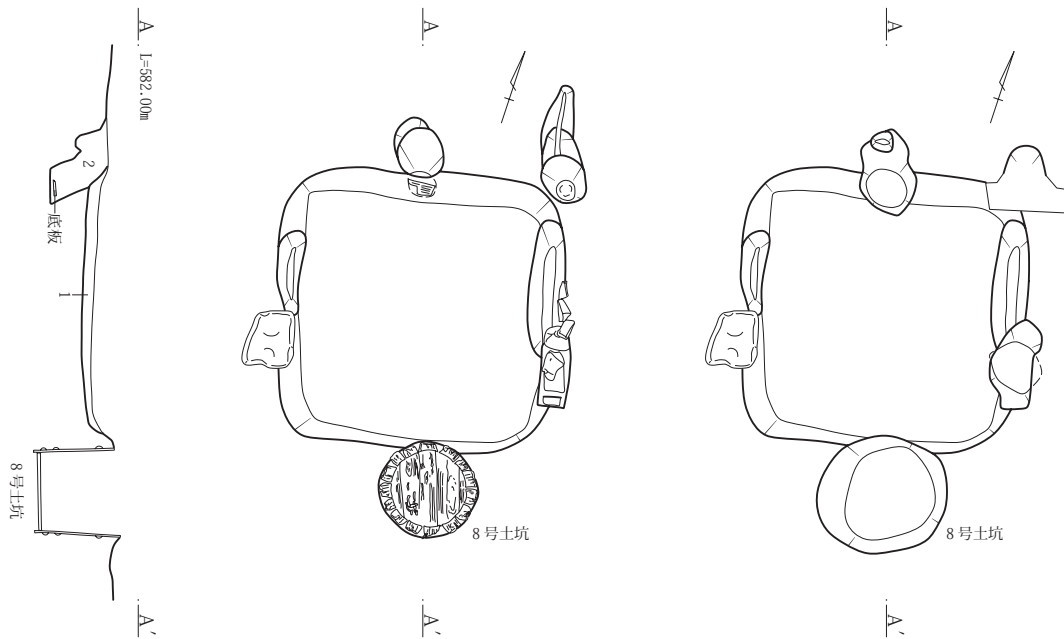


囲炉裏

1. 灰白色灰層。
2. 淡橙色土 灰、焼土含み上層程赤色化顕著。
3. 灰黒色土 灰を主体とし、炭化物混入。
4. 橙褐色土 焼土。
5. 黒色土 炭化物主体。



馬屋

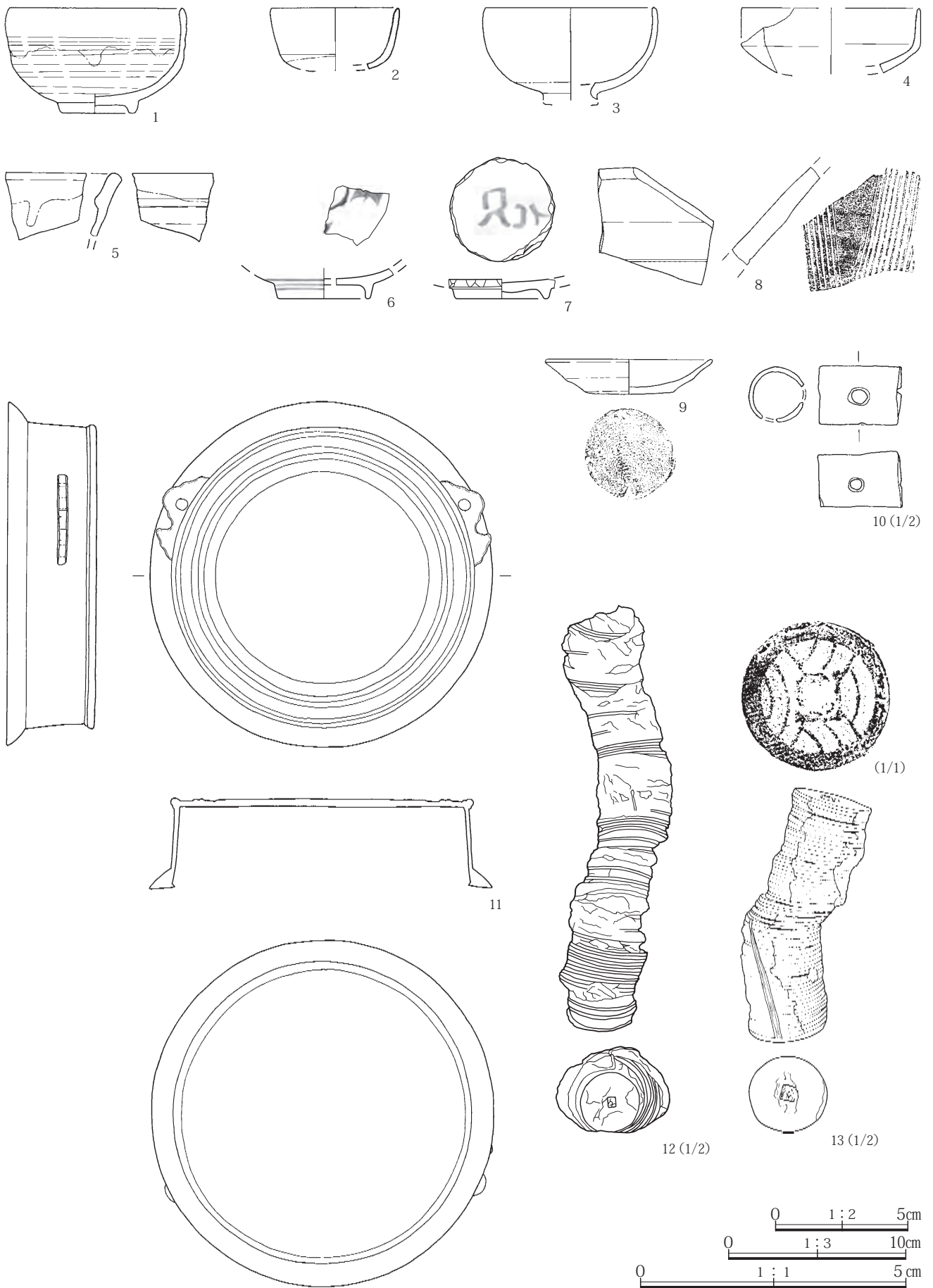


馬屋

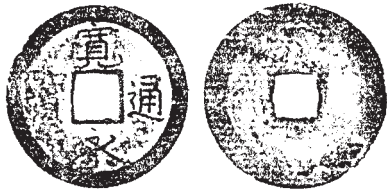
1. 黒褐色土 有機質土、腐葉土化した木葉等を主体とする。
2. 黒褐色土 やや粘性を持つ。



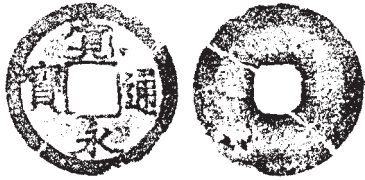
第199図 1号建物 囲炉裏・馬屋



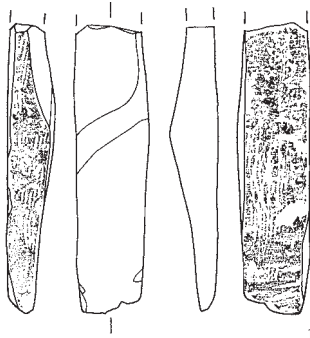
第200図 1号建物出土遺物(1)



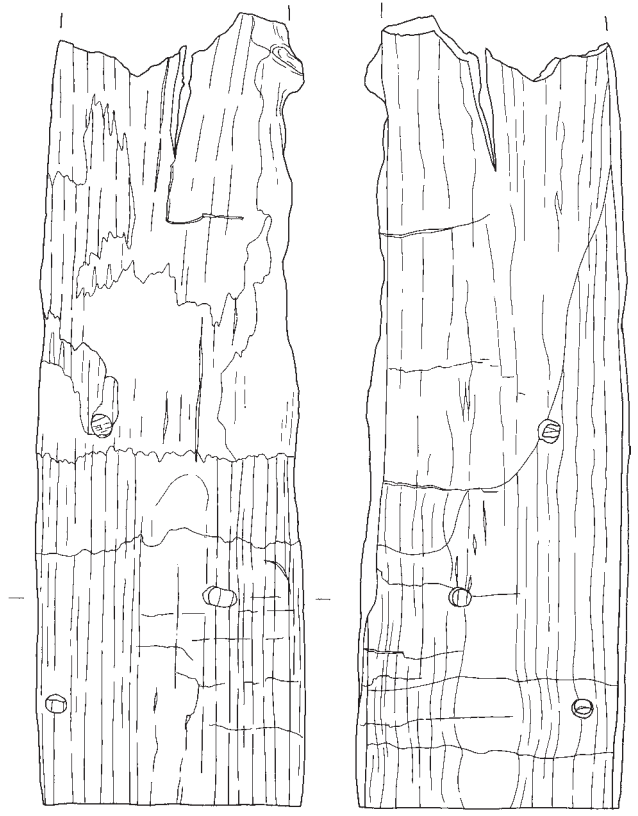
14 (1/1)



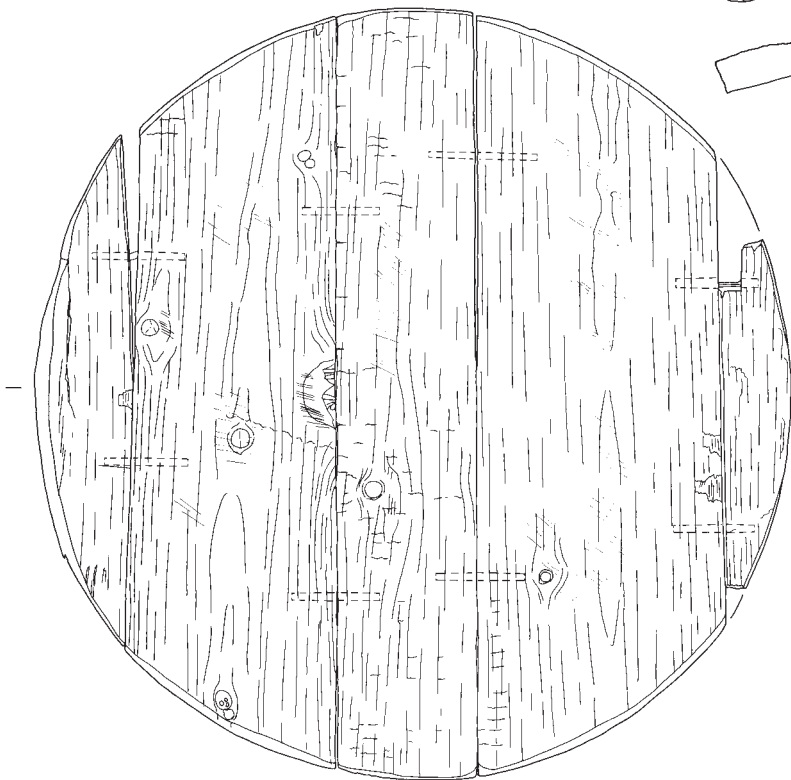
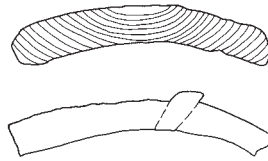
15 (1/1)



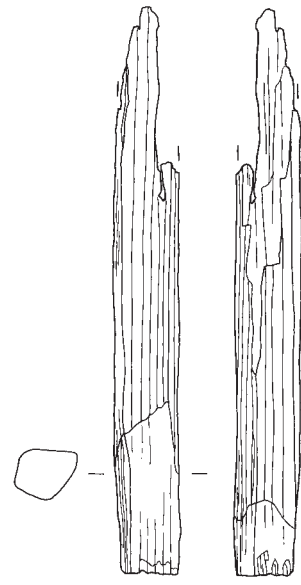
16



17 (1/4)



18 (1/6)



19



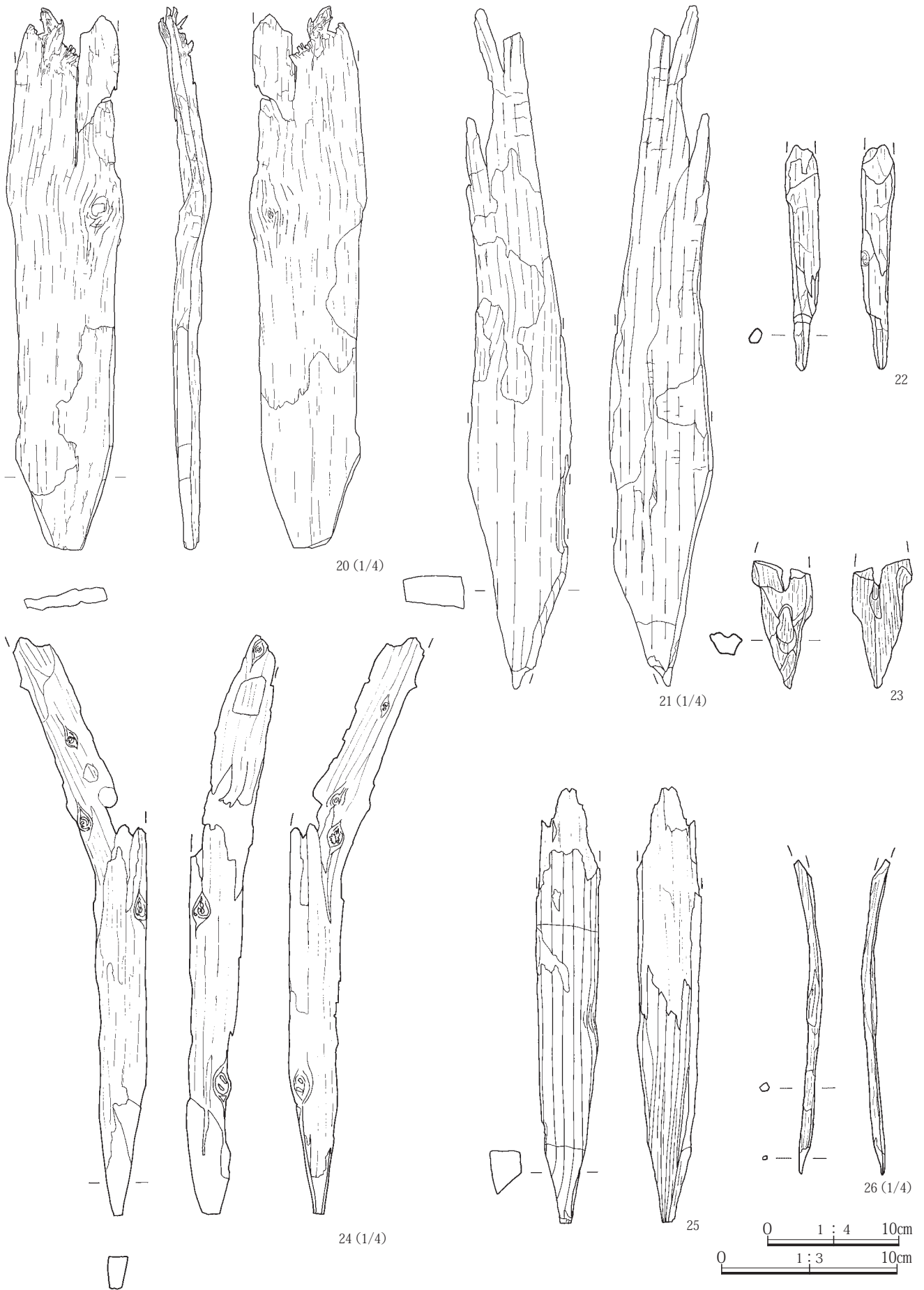
0 1 : 4 10cm

0 1 : 3 10cm

0 1 : 6 20cm

0 1 : 1 5cm

第201図 1号建物出土遺物(2)



第202図 1号建物出土遺物(3)



第203図 1号建物出土遺物(4)

2号建物(第196・204・205図、PL.57・119)

位置 83区D・E-4・5グリッドに位置する。

1号建物の南、約20m離れて位置する。平成20、21年度に分けて調査が行われた。

形状・規模 平面形状はほぼ方形で、規模は2間×2間、柱穴の深さは50~70cmである。柱穴2本に柱材下部が残っていた。

主軸方位 N-20°-W

出土遺物 釘が1本出土している他、柱材が2本と柱穴下部より両端が削られた木材片が出土している。

所見 1号建物の屋敷範囲の南側を廻る溝を伴う10号道の南側に作られている。この道は2号建物の北側が未調

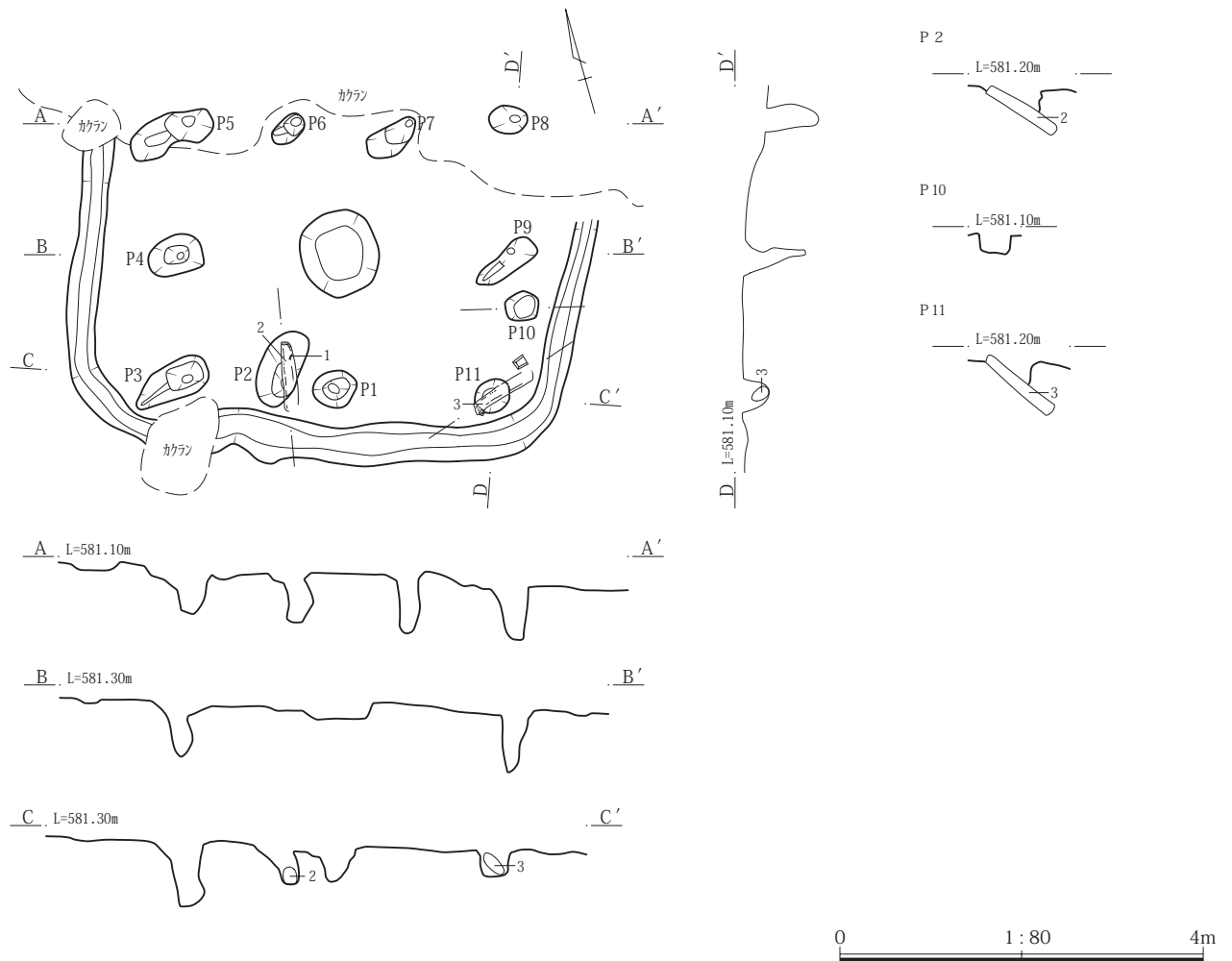
査であるため全容は掴めていないものの、おそらく1号建物へと通じているものと思われる。

2号建物はこの10号道の南に向かってコ状に廻る雨落ち溝と、9本の柱穴が確認されたことから検出に至った。雨落ち溝は幅約30cm、深さは数cmである。

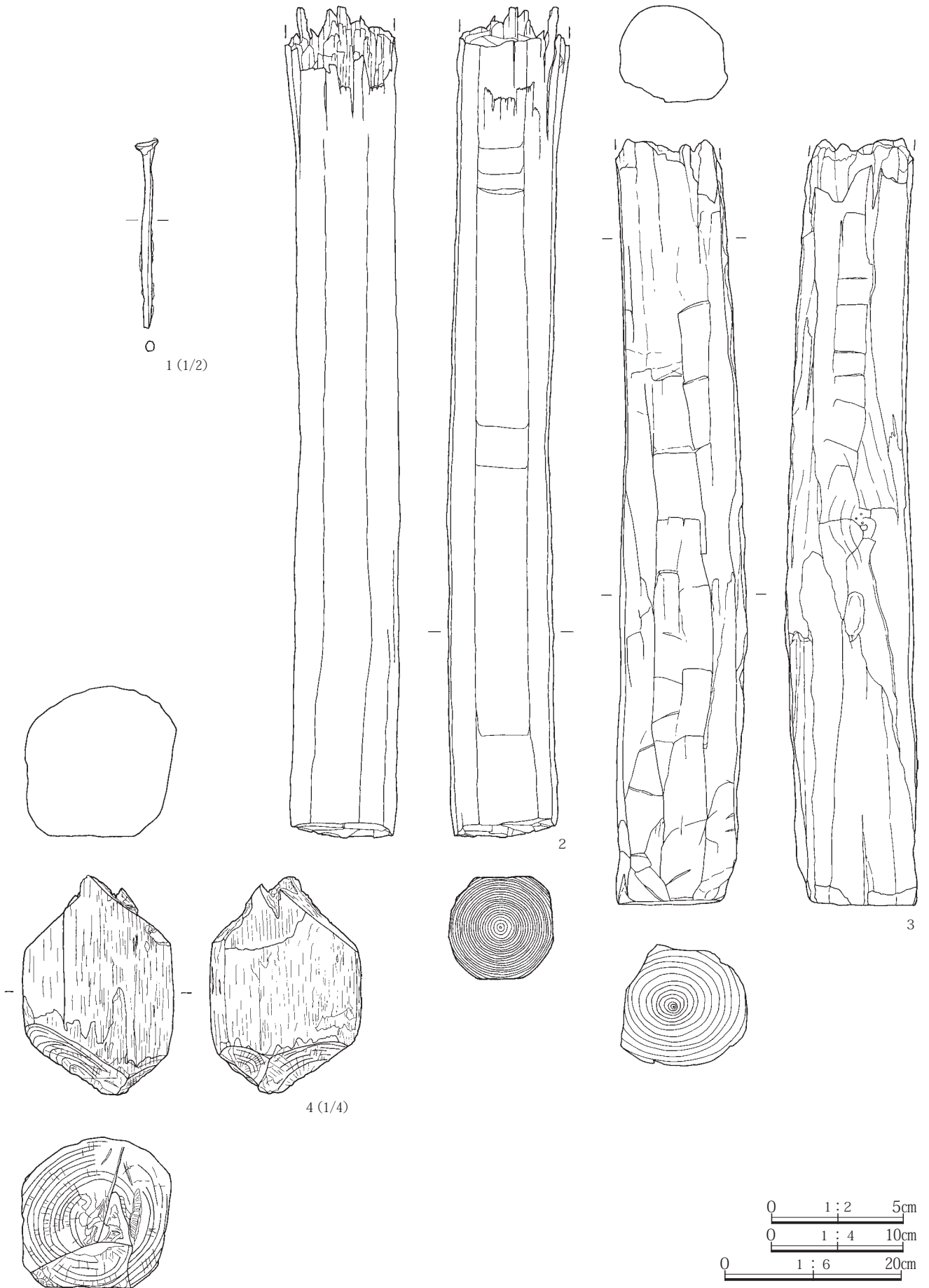
建物中央部分は僅かに高まり、一部踏み固められた状況が窺える、中央に径1m程の、若干の焼土を伴う土坑が検出されたが、用途などは不明である。

建物の周囲は間近まで、畑として耕作されており、雨落ち溝の脇にまで畝が作られている。

建物は畝と同方向に軸を持つ。道の脇に造られて作業用の小屋と思われる。



第204図 2号建物



第205図 2号建物出土遺物

3号建物(厩) (第196・206・207図、PL.56・58・119)

位置 83区C・D-9・10グリッドに位置する。

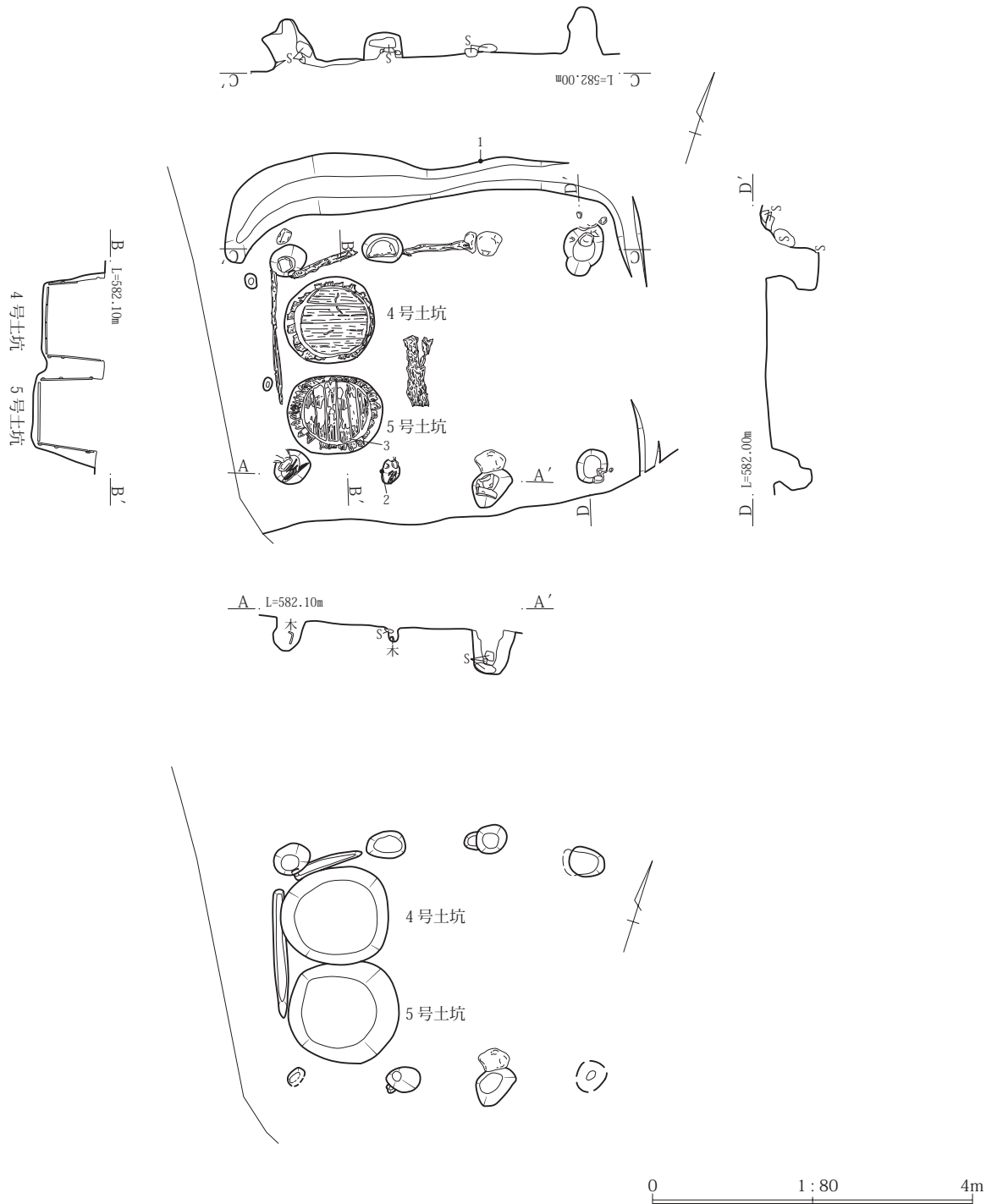
形状・規模 約4mの方形に雨落ち溝が廻り、内側には大きさ9本の不定型な柱穴と礎石が部分的に配されている。

主軸方位 N-115°-W

出土遺物 西側には径約1mの木桶を埋め込んだ便槽が、南北に2基並んで作られている。

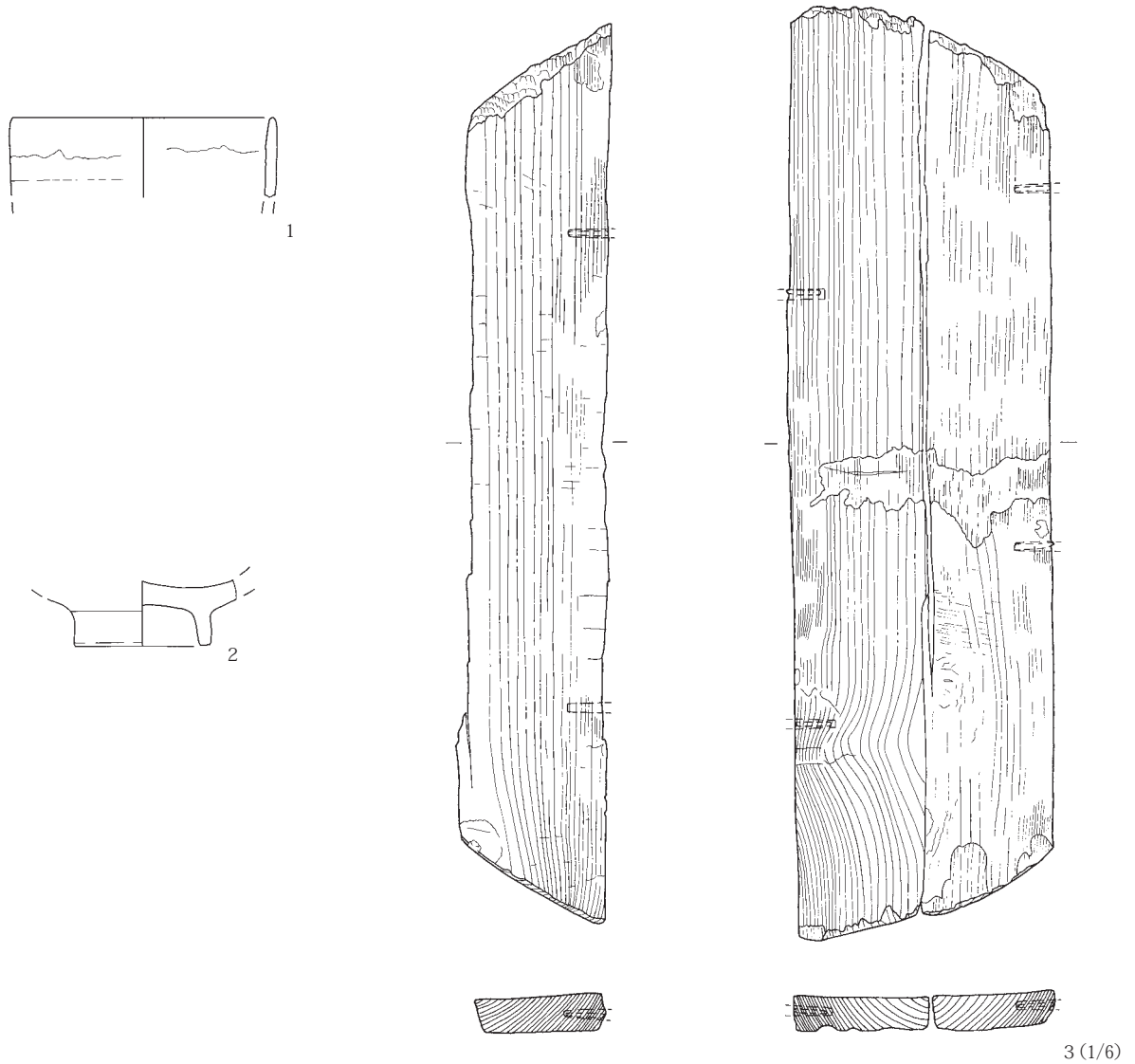
所見 本址は1号建物に付随する厩である。母屋である1号建物の南西方向に近接して造られている。便槽と考えられる、径約1mの木桶2基(旧4・5号土坑)が横並びに近接して埋められている。桶材の遺存状態はあまり良くなかったが、底板の一部が残っていた。

木桶は周囲に竹を撚り合わせたタガが2段に廻っている状況が観察されている。雨落ち溝が廻っていたことから、上屋の存在が考えられる。



掘方

第206図 3号建物



3 (1/6)

0 1:3 10cm
0 1:6 20cm

第207図 3号建物出土遺物

5号建物(第196・208～210図、PL.58・120)

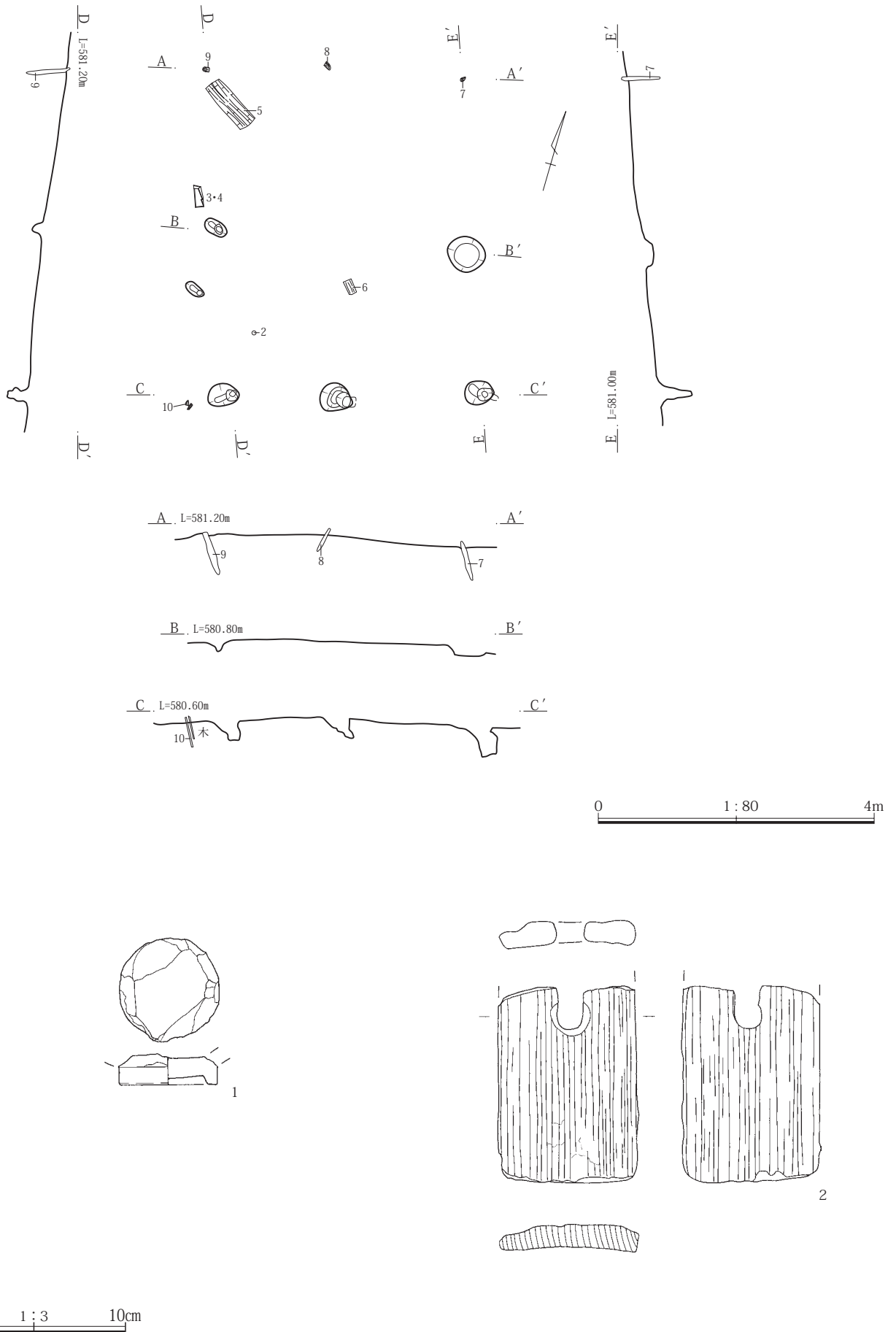
位置 82区W・X-10・11グリッド。

形状・規模 南北に長い長方形で、規模は2間×2間の掘立柱建物である。長さ40～60cmで径数cmの柱材4本が残る。

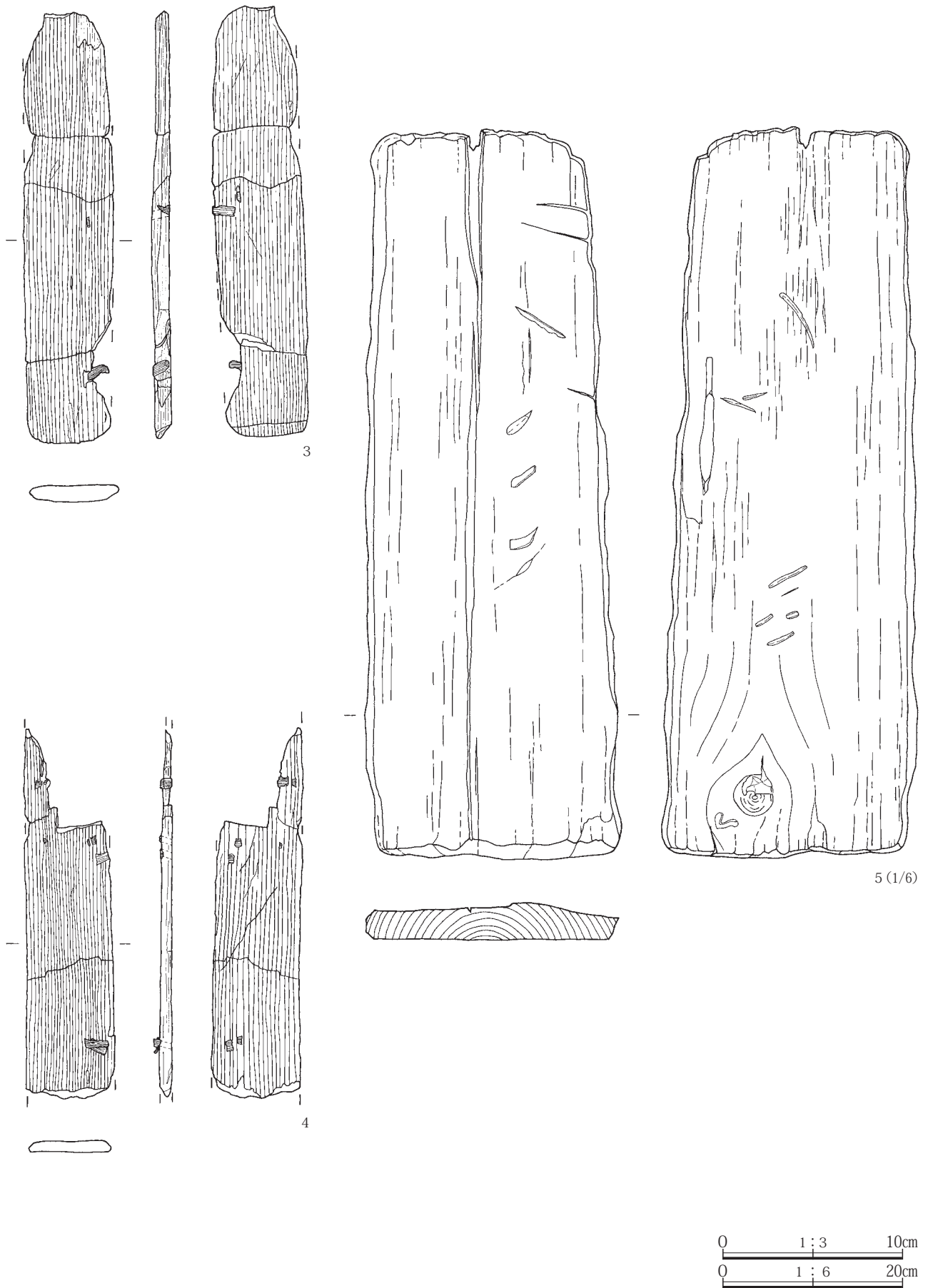
主軸方位 N-21°-W

出土遺物 陶磁器片と流れてきたと見られる。板材等である。

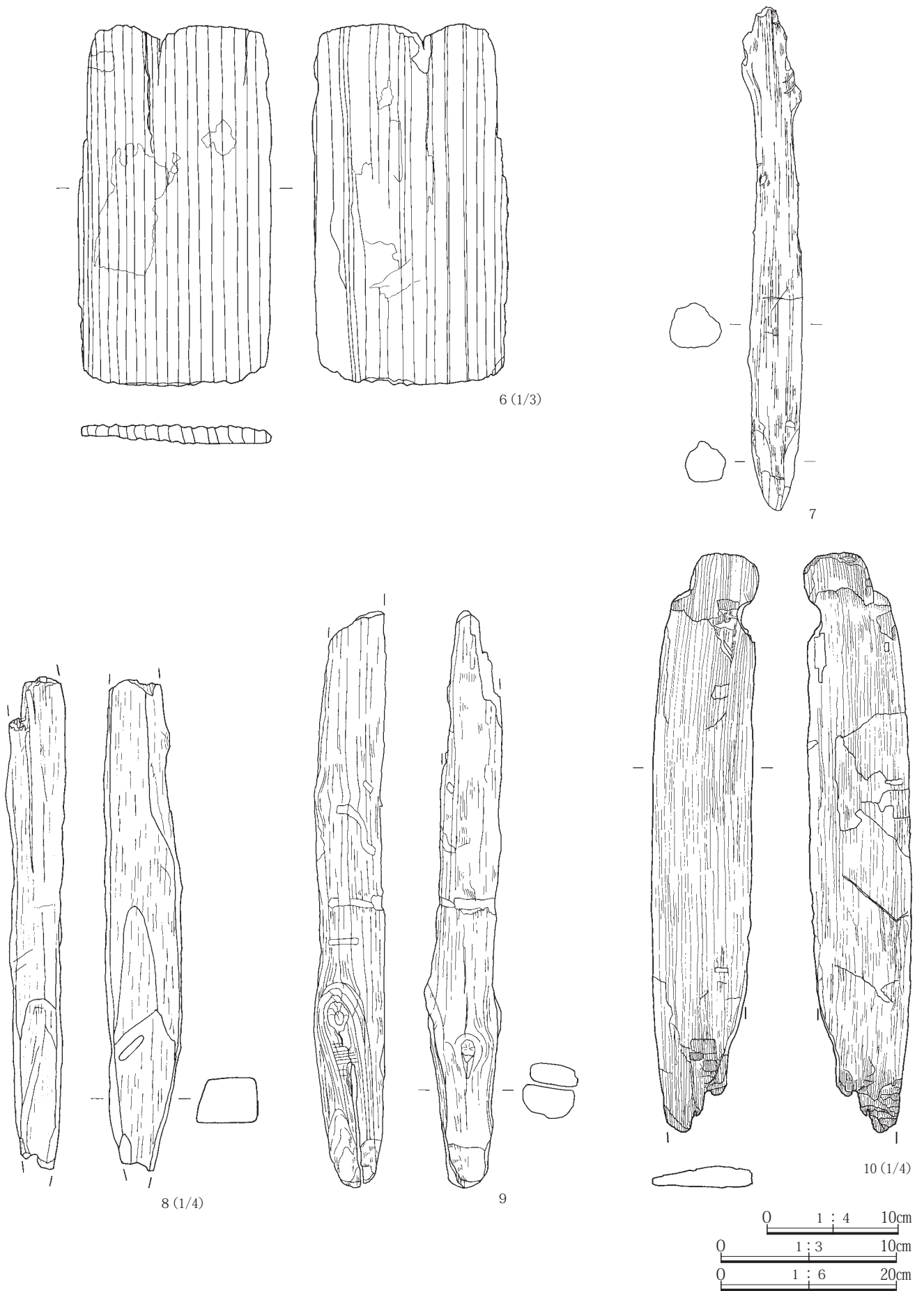
所見 平成18年度の調査で検出された、1号建物の東側に接する。1号建物の屋敷地内に在り、関連する建物と考えられる。建物内は僅かに高まっている状況が窺えたが、内部施設等は確認されなかった。



第208図 5号建物・出土遺物(1)



第209図 5号建物出土遺物(2)



第210図 5号建物出土遺物(3)

2. 畑(付図2・3、PL.59~64)

畑の全体構造

報告の対象となっている本遺跡の約4万㎡の畑は、いわゆる「前栽畑」と規格化された生産作物の栽培のための耕作経営としての生産の場とに大別されると考えられる。特に、1号建物を中心とした周辺では、畝サクの切り替えや部分的な利用形態の違いなど、小単位で不均質な耕作形態が確認できる。他方、生産拠点となるような耕作地では、道や河道の存在で囲われた範囲は、まず、中央を南北に2分するような区割りが行われ、主に南北に細長く短冊状に区分けして開削された形態が見て取れる。これらは、天明泥流被災後90年ほどが経過した明治5~6年の壬申地引絵図にもその様相が示されている。

後者の耕作地としての畑は、これまでにある程度のまとまりをもつ小単位が集まり、規格を持った集合で畑が構成されていることが分かっている(関俊明2003「天明三年泥流畑の耕作状況」『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』)。それらは、「ツカ」と呼ばれる当地域の特徴的な民俗事例とも密接に対応している。それらを畑遺構の中で、「単位畑」と「中単位」で構成されているという造語を用いて、解釈して遺構番号を付すなどの整理作業を行った。

OS1号畑

1号建物(屋敷)の北背面に設けられた畑で、東西に畝サクがきられている。しかしながら検出状況は不良で、降下したAs-A軽石がどのように堆積しているかは不明で、耕作状況を読み取るには至っていない。畝幅は、周辺のOS4号畑と同様に1尺6寸があてはまる。

OS2号畑

屋敷周辺に位置する前栽畑として機能していたと考えられるが、耕作状況を読み取るなど、詳細については不明である。

OS3号畑

OS2号畑と同様に、前栽畑としての機能を分担していたものとみられるが、詳細については不明である。18A区の南端に段差で区画される平坦部分が確認できるが、22E区のOS3号畑の畝サクが西へ続くか、或いは別の形

状を呈しているのかもしれない。

18A区検出作業時には、湧水などの事情で畝サクが確認できない状況であった可能性も含まれている。また、21I区側の調査の及ばない範囲が広く、遺構の広がりも合わせて、不明な点が多い。

OS4号畑

OS4号畑では、以前の畝サクを使った切り替えや部分的な利用形態の違いなど、小単位で不均質な耕作形態が確認できる。耕作が行われていた畑の一部を前栽畑として転用したと考えると理解につながるかもしれない。

本畑は、単位畑として区分けしたが本来の「単位畑—中単位—畑」の構造を示したのではない。1号建物側の部分では、畝幅などの形状から、何らかの作物の作り替え等が行われていた可能性がある。OS4-1号畑は、畝幅が狭く、調査の及ばない範囲に、別の畑が続いていた可能性もある。

OS4-2号畑では、本来の1尺6寸の畝2本を利用して、広畝として耕作していた可能性があり、恒常的に用いられていた、畝幅の畑の一部分を用い、サク部分にサトイモなどの作物を植え込んでいた可能性がある。

OS4-3号畑では、意図的に幅広の畝として、畝サク方向を変えて耕作をおこなっていたものと考えられる。

OS4-4・5号畑は、中単位として区分けできる可能性があるが、周辺が未調査となっており、それ以上については不詳である。

OS5号畑

OS5号畑は、OS5-1号畑~OS5-4号畑に区分けした。さらに、中単位や単位畑に細分される可能性があるが、詳細については不明である。OS5-1号畑では、ヒコザク(注)となっている付近でさらに中単位の分割ラインが想定される。

OS5-1・2号畑あるいは、OS5-2・3号畑の区分けは、畑の筆の区分けになるのかもしれないと考えられるが、それ以上の要素が見つけれられないので、敢えて分割をせずに、同一畑内の中単位による区分けとした。OS5-1号平坦面やさらにその北側に位置しているヒコザクの位置は、平坦面が存在した名残かもしれない。また、調査時には313号土坑とされた遺構は、平坦面だったと

も考えられる。仮に、平坦面であったとすると、北にあるOS5-1号平坦面の存在と合わせて、単位畑の構成が読み取れるようになるかもしれない。

OS5-1・2号畑の境には13号溝と14号溝が存在するが、OS5-2・3号畑の降下したAs-A軽石を鋤き込む際に作られた地境と考え、道の存在が積極的な区分けの要素にはならない。また、図化は行っていないが、OS5-1号畑の畝サクとOS5-2号畑の鋤き込まれたAs-A軽石の分布方向とが一致する観察がなされている。

また、同じく観察では、OS5-3・4号畑の鋤き込み痕跡は、OS5-2号畑とは、交差する方向になっている。OS5-4号畑の南側、OS40号畑側の畝サクの残存部分が残されているのは、鋤き込みの掘り込み始点の境界線となっている。

(注) 耕作を続けるうちに隣接する畝サクと部分的に接合してしまい、平面で見ると「Y」字のようになったサク部分を地元ではこう呼ぶ。

OS6号畑

OS6-3号畑の平坦面は、攪乱が示される位置にあったと推定されるが、検出には至っていない。OS7号畑との区分は、畝幅の違いを確認しておく必要がある。また、平坦面の配置の仕方が、単位畑の西端よりも中央寄りに位置する点が、隣接するOS7号畑と異なっている点などもその理由になる。

OS6-2号畑は、その一部を検出するにとどまっているが、OS6-1・34号畑の単位畑の面積は推定を含めて、 $186 \cdot 199 \cdot 178\text{m}^2$ と計測することができる。

OS7号畑

OS7号畑は、3つの中単位により、計12の単位畑に区画される。それぞれの単位畑には、平坦面が配されていたと考えられるが、攪乱等により調査精度の制約により未検出となってしまうと思われる。

各畑の標高の高い側＝西側に配置される形態と考えると、OS7-1～3・6・10・11号畑では、発掘調査時点で未調査部分や攪乱となっていた付近に位置していた可能性がある。また、OS7-1号畑、OS7-5・6号畑では、畝サクの歪みはその位置を示すのかもしれない。特に、OS7-5号畑では、21D区の調査区の北側の位置で調査時の検出を難しくしていた。また、OS7-11号畑

などでは、調査時点で平坦面は検出されていなかったが、記録写真などからはその存在を確認できると思われる。

OS7号畑すべての単位畑は、ほぼ1尺3寸相当で構成されている。

OS7-10号畑では、2号建物とした、掘立柱建物小屋が確認されている。現在でもこの地方で「オヤ」などの呼び名が残されている作業小屋と考えられる。また、この小屋の存在する位置的な視点は、運び出しや屋敷側への利便を考えた位置を示す根拠ともなるものであろう。総面積は $1,759\text{m}^2$ で $1759 \div 12 = 147\text{m}^2$ (44.4坪)を算出することになる。

OS8号畑

OS8号畑は、3つの中単位で計15の単位畑に区分けされるものと考えられる。中央と東寄りの中単位は、畝サクの切り替わりが明瞭なので、畑境とも考えられるが、平坦面の配置具合による観察から、同一の畑と判断される。北の攪乱と考えられる削平面の高まりに隣接して、OS8-1号平坦面、OS8-6号平坦面が配置されている。しかし、全体を見渡すと、単位畑の北端際にあるものではなく、やや中央に配置されていることが見て取れる。それは、OS8-3号畑・OS8-4号畑及び、OS8-8号畑・OS8-9号畑から北の単位畑は、畝サクが連続しているという観察視点である。その形態が異なる位置のラインを根拠とする。この違いは、作物の種類や耕作者の違いによるものかもしれないが、畝幅の計測値は、1尺2～3寸に相当し、耕作状況は、すべて1番ザクのみが行われた状況と判断される。

OS8-1号平坦面、OS8-6号平坦面、OS8-11号平坦面が、畑の際、道際にあるのは、或いは段差のある耕作地に堆肥等を運び込むための工夫なのかもしれない。北側は、高まりが調査区際で確認できているので、15単位の構成であることが確認できる。

OS8-10号畑には、平坦面が検出されていないが、攪乱とされている東に隣接して畝サクの乱れる表現が見られ、この付近が平坦面を示すものと考えられる。

1筆の畑が、中単位、単位畑の構成で確認できる良好な畑として検出されており、総面積は、 $2,221\text{m}^2$ 、単位畑の面積は、 $2221 \div 15 = 148\text{m}^2$ (44.9坪)を算出することになる。

OS9号畑

OS9号畑は、調査年次が異なり、明確な範囲の区分けがなされないが、推定の単位畑の区割りによって説明が可能である。場合によっては調査区の北側に伸びていくものと考えられるが、2つの中単位、計12単位以上の構成であることが確認できる。

OS9-7号畑では、表土掘削時の土厚が3m以上に及び、それ以上の確認に至らず、平坦面を確認できなかった。しかし、調査の及ばなかった位置に残されているものと考えられる。

特徴的なのは、OS9-6号畑で、畝の方向に直交する南北方向の幅広いサクのように見える表現である。これは、単位畑の畝サクを切っており、天明三年新暦7月末に降下したAs-A軽石が堆積後、8月5日の泥流被害を迎えるまでの間にサクを切り「畝替え」を行った痕跡と考えられる。いわば、降下軽石に対する復旧溝である。さらに着目されるのは、1筆の畑のなかで単位畑を作業単位として耕作の切り替えがなされていることである。このことは、被災後の取り組みを示す事例として着目しておく必要がある。全体図の中では、復旧溝と扱い、抜出図としてある。総面積は、推定を含め、1,708㎡となり、単位畑は、142㎡（43坪）程になる。

また、OS9号畑では、3タイプの畝形状が確認され、解釈としては、As-A軽石降下後土用の培土がおこなわれていない(9類)と考えられるOS9-7・8号畑、As-A軽石降下後一番ザクのみが行われた(7類)と考えられるそれ以外の単位畑、さらに、OS9-6号畑はAs-A軽石降下後一番ザクのみが行われた(7類)状況にあり、さらに、泥流被災前に軽石に対して切り替えしを試みている単位畑と解釈されよう。

OS10号畑

平成25年度の発掘調査時には、北側の旧国道側は3m近い表土の堆積になるため、それ以上の掘削が及ばなかった。

6号石垣と19号道により調査区北側は段差となり、畑の境界となることはほぼ確定する。そのため、OS10号畑は2つの中単位・計12単位の構成とあると考えられる。OS10-1～3号畑は、この畑の中でも特別な耕作形態を考えておく必要がある。

踏分道が周囲を廻ることや平坦面間の距離がやや広くなっている。

OS10-1号平坦面とOS10-6号平坦面及び、OS10-5号平坦面とOS10-11号平坦面がほぼ出揃う位置にあることを考えると、OS9号畑とほぼ同規模の6つの単位畑を中単位とする畑の構造であったことをうかがわせる。つまり、耕作形態を換えて区画されたことで、OS10-4号平坦面の位置が微妙に異なったことが推察できる。

さらに、畝幅は、OS10-4～11号畑が1尺2～3寸であるのに対して、1尺6寸となっている。また、確認される畝の形状の解釈としては、As-A軽石降下後一番ザクのみが行われた(7類)状況に対して、As-A軽石降下後、土用の培土がおこなわれていない(9類)と考えられる。畑の構造としては、OS9号畑とOS10号畑の中単位の間口がほぼ同じことから、場合によっては同一の筆になるものかもしれないが、両畑の境界は踏分道により区分けされているため、異なる畑とした。総面積は、推定を含め、1,665㎡となり、11の単位畑とすると、151.㎡（45.9坪）、12の単位畑とすれば、139.㎡（42坪）相当となる。

OS11号畑

西に隣接するOS12号畑とは、単位あたりの畝の本数が微妙にずれるため、畑番号を区分けした。また、平坦面の配置位置にも違いが認められる。

本畑は、OS11-7号畑の北側の道に沿って、調査区外北側部分が境界となっているものと思われる。場合により、OS12号畑の最も東の中単位(OS12-6～9号畑)では、平坦面の南北の位置が揃っている場所もあり、OS11号畑になる可能性も考えられる。他の理由についてもOS12号畑で記述する。推定を含めた総面積は、1,608㎡となり、単位畑は、160㎡（49坪）となる。

OS12号畑

OS12号畑は、発掘調査の及ばない範囲が多く不明確な要素が多いが、4つの中単位に区画される。最も東の中単位は、4ないしは5か6の単位畑に区画されるかもしれないが、敢えて細分を行っていない。全体で見ると、1筆の畑ではなく、複数の筆に分かれるものかもしれないが、これ以上の区分けの根拠を見出すことはできない。また、畝幅の計測値から考えると、OS11号畑と同一畑と

して考えるとよいのかもしれない。

OS12-4号畑とOS12-5号畑は中単位を示したものであるが、本来は東のOS11号畑と同規模で、同様な形態をした畑になるのかもしれない。つまり、OS12-1～4号畑とOS12-5～9号畑の2+2の中単位の構成で、筆が分けられる可能性を含んでいる。

OS12-7号畑の84区N-6グリッド付近には、いわゆる「ヒコザク」が確認されるが、それを含まない部分の計測で、畝幅は計測して、1尺3寸相当である。主要部分の調査が及んでいないため、敢えて筆を分けずに詳細は不明として報告しておく。

OS13号畑・OS14号畑

OS13号畑及びOS14号畑は、OS26号畑を加えた3筆が同一調査区内であった。南に傾斜する畑で、特に南端は急勾配を呈している。遺構の残存状況と攪乱により不明瞭な部分が多い。

調査時点で5か所の平坦面が確認されているが、単位畑の区分けを確認できるような検出はなされていない。

OS13号畑・OS14号畑の区分けは、畝サクの方向が、73区F-6～73区J-12グリッド付近で切り替わっていることで判断した。おそらく、OS8号畑とOS13号畑の境界になる畝サクの切り替えラインと対応する切り替わりが存在したものと考えられるが、調査区が分断されて不明な点が多い。平坦面の配置から考えると、OS13号畑、OS14号畑の耕作の切り替えが存在してよいと考えられる。

OS13号畑には、北西から南東方向へ区切るラインで3つの中単位が存在する可能性がある。またOS14号畑には、両畑の境界ラインと平行する中単位があったとすると、確認されている平坦面の南側に2つ以上の平坦面があった可能性がある。候補となるような攪乱は複数確認できる。

18B区とその周辺の畑の区割りは、調査区で確認される耕作地景観を大地割し開削していく範囲や地割ラインを確定するのに重要であると考えられるが、調査精度の差から把握が困難となっており、詳細は不明である。

OS15号畑

OS15号畑とOS16号畑の境界は、西に隣接するOS17号畑

の南端のラインの延長となっているものと考えられる。OS8号畑との北側境界にも、同様な畝サクの微妙な異なりが観察できる。OS13・14・15・16号畑との境界は、調査が行われなかった範囲が多く、不明瞭であるが、おそらく未調査部分にあったものと推定されるが、調査区がとなる部分が多く、詳しくは不明である。

OS16号畑

OS16号畑は、OS18号畑の南北の間口と一致している。OS14号畑との境界ラインなども含めて、その構造は不明となる部分が多い。OS17号畑との境界には、天明泥流により運ばれてきた長軸4mを超える巨礫が、畑遺構面に残されており、全体図中の引出図に示している。この境界位置には、1(19A区)号道が廻り、OS18号畑までの、いわゆる「馬入れ」などと呼ぶ作業道となっているものと考えられる。

OS17号畑

調査時は、中学校校舎の円柱状の基礎コンクリート杭が残存し、遺構面検出は困難な状況であった。また、調査区が複数区に分かれたことでの不明な点もある。本遺跡の畑の中でも、OS17号畑は特異な平坦面の配置が確認され、他とは一線を画する形態と考えられる。5ないしは6の平坦面が配置され、畑の北側を中心に平坦面の検出がなされている。他の畑遺構で確認できるような短冊状の単位畑の構成とは異なっていることから、特別な作物の植え付けや、他とは異なる耕作形態などが想定される。

平坦面が標高の高い側に配置されている点にも確認しておきたい。施肥などの際の持ち込みなどで、作業を行う際に標高の高位から低位に作業が行えるように配する工夫と解釈しておきたい。西端にあるOS17-6号平坦面は、As-A軽石の堆積する畝サクとの新旧関係から、耕作当時は機能を有していなかったと考えられ、平坦面の名残と捉えられる。遺構写真に入れられた白線は元の平坦面範囲を示したものとなっている。

総面積が1,081㎡と計測され、5筆の単位畑の構成を考えると、 $1,081\text{㎡} \div 5 = 216\text{㎡}$ (65.5坪)ということになるが、西に隣接するOS21号畑の配置具合を材料に見比べ、7ないしは8単位などの区分が想定される。仮に、

長方形に括られた1筆を縦に3と2に中単位として、区画分けしていることを例にし、仮に7の区分けがなされたことを想定すると、 $1,081\text{m}^2 \div 7 = 46.8\text{m}^2$ (46.8坪)となる。

0S18号畑

0S18号畑は、19C区と19D区の調査区境界により、不明瞭な点が多くなっている。0S18-1～3号畑の遺構写真も不明瞭で、遺構検出においても規則正しく配置されていたと思われる平坦面の検出もなされていない。しかしながら、2つの中単位、6つの単位畑で構成されるものと考えられる。19C区と19D区に分割された垂直写真を参照すると、泥流による攪乱となっている位置に配置されていた可能性が高いと判断される。

総面積は、 895m^2 と計測され、単位畑は、 $895\text{m}^2 \div 6 = 149.2\text{m}^2$ となり、45.2坪相当となる。

0S19号畑

0S19号畑は2つの中単位、計8つの単位畑と推定されるが、調査時点で19B区・19C区・19D区・20A区の複数の調査により分断され、遺構面に残される泥流による傷痕により詳細な解釈が及ばないかもしれない。耕作状況は、0S19-1～7号畑と0S19-8号畑に分けられる。0S20号畑は、0S19号畑に含まれるのかもしれないが、3号道が0S18号畑に通じる道と考えられるため、別の畑に区分けしている。0S19-1～8号畑は、鋤き込み痕跡の残存した痕跡を含めて、0S19-2・5～7号畑、及び0S19-8号畑で、畝幅は1尺6寸に相当している。

仮に、0S19・20号畑が同一で、隣接する0S18号畑と同等な面積を開削時に確保したとするなら、合計面積は、 938m^2 で0S18号畑と同じ広さで区画されたと考えれば、6単位の畑が区割りの変更がなされたと解釈してもよいだろう。分断された調査区の境界等で十分な精度が得られていないため、これ以上は不明である。

0S20号畑

0S20号畑は、0S19号畑の単位畑の1つとも考えられるが、畝サクを斜めに切る3号道の存在により、遺構を区分した。この3号道は0S18号畑の馬入れとして機能していたものかもしれない。そう考えると、当初の0S19号畑

の一部であった0S20号畑が変遷した形状を考慮しておく必要があるだろう。しかしながら、本畑の畝は乱れて検出されている。0S22号畑とは、石列が存在し、明らかな地境となっていることが確認される。所有の関係などいくつかの推定がなされるが、形態の特別性を指摘するにどめたい。

0S21号畑

0S21号畑は、4つの中単位で構成され、西から3+2+2+2の構成で9の単位畑からなるものと考えられる。0S21-6～9平坦面は、0S21・23・24号畑は19A区・19B区・22C区・22D区の調査で分断され境界付近が不明瞭であるが、それぞれで中単位と単位畑の構成を読み取ることができる。0S21-2号畑の西際にある輪郭は、平坦面の名残が遺されたものかもしれない。

総面積は、 $1,364\text{m}^2$ となり、単位畑は、 $1,364\text{m}^2 \div 9 = 151.6\text{m}^2$ (45.9坪)となる。

0S22号畑

0S22号畑は、複数の調査区に架かるが、19区の1号石列や22G区、18B区の西端につながる変換点を北側の境とした。しかし、大半は未調査となっていて詳細が不明な点が多い。何か所か見られる畝サクの微妙な歪みは、平坦面の名残を示しているのかもしれない。場合によれば、3つ以上の単位畑の構成が確認される可能性もある。

0S23号畑

0S23号畑は、3つの中単位で構成され計9の単位畑の構成となる。調査時には、0S23-7・9号畑の平坦面が確認されていなかったが、垂直写真や攪乱の位置から推測することが可能である。0S23-1・3号畑の平坦面は攪乱や未調査範囲により確認することはできない。3つの中単位で構成される構成が極めて明確に判読することが可能である。

総面積は、 $1,278\text{m}^2$ と計測され、 $1,278\text{m}^2 \div 9 = 142\text{m}^2$ (43坪)が単位面積と算出できる。

0S24号畑

0S24号畑は、4+5の2つの中単位・9の単位畑で構成されているものと考えられる。平坦面の未検出部分は、

攪乱の及んだ範囲に所在していたものと考えられる。畝幅は、1尺2寸の0S24-1～4号畑、1尺5寸の0S24-5～9号畑に分けられる。総面積は、1,286㎡と計測され、 $1,286\text{㎡} \div 9 = 142.9\text{㎡}$ (43,3坪)が単位面積と算出できる。

0S25号畑

0S25号畑は、概ね4つの中単位により構成されていると思われるが、未調査部分が多く、不明確な部分が多い。1筆ではなく複数に区分けされる可能性もある。仮に、0S25-2号畑が3つの単位畑、0S25-3・4号畑が6つの単位畑と想定すると、 $(1,047\text{㎡} + 340\text{㎡}) \div 9 = 154\text{㎡}$ で46.7坪の単位畑の規格を算出できることになる。

0S26号畑

0S26号畑は、1号道の段下に位置し、畝サクの方向から、2ないしは3筆の区画に分かれるものと考えられるが、泥流による攪乱と、調査部分が極わずかであることで、詳細については不明である。

0S27号畑

南に傾斜する畑地景観の全体を見渡すと、およそ3段の段丘面と捉えたとその中段位にあたるのが、0S27号畑周辺である。降下したAs-A軽石が筋状に残され畑の畝サク方向が確認されるが、残存状況は良好ではないために、詳細は不明である。単位畑としての区分けなのか、あるいは、本来は何筆かに区分けされるのかもしれない。また、最も北寄りの畝サクの走行は0S22号畑と似通うが、20mの距離で、標高差が5m近くあり、同一の畑とは考えにくい。各単位畑の畝サクの方向が異なり、区分けされる可能性もあるが、根拠が不足するため一括りの畑とした。2号道は、0S27号畑の北側を東あるいは西へと繋がっていたものと考えられる。

0S28号畑～0S31号畑

0S28号畑～0S31号畑は、最上位面の傾斜がはじまり、中下位面に向かう斜面畑となっている。いずれも、泥流の営力による削平等で、畑耕作面の残存状況は不良である。しかし、2号道から短冊状に切り出された短冊状の区割りを確認することができる。特に、0S30号畑では、辛うじて平坦面が検出されていて、これを根拠に単位畑

の区分けも可能かもしれないが、詳細は不明となり、今後の課題である。

0S32号～0S35号畑

遺跡全体をおよそ3段の段丘面と捉えたとその下位段にあたるのが、0S32号畑～0S35号畑周辺である。

本書で扱う最上位からは、およそ10mの高低差をとる。0S32号畑は、平坦面と畝サク境界により、3つの中単位で5つ以上の単位畑に区分けすることができる。東の4mほどの段差側には、7号石垣が配置されて、さらに段差側からの伏流水等の処理のための根切りの溝が東側で面している。

0S33号畑は、直線的に並べられた石垣と北の段差から直線的な区割りの踏分道により区分けされており、降下したAs-A軽石を鋤き込んだ耕作形態と考えられる。0S33号畑と0S34号畑の境界は調査が及ばなかったため、確認できていない。0S34号畑は2基の平坦面が確認され、2つ以上の単位畑が確認できるが、範囲や単位あたりの面積など詳細は不明である。また、0S35号畑とは、互いを区分けする踏分道で区画されている。0S35号畑は、残存状況が不良で詳細については不明である。

0S36号畑

0S36号畑は、試みとして3つに区分けしてあるが、さらに細かく見ていくと、平坦面の存在も確認され、細分されるかもしれない。いずれも、調査区の端際で複数調査の接点部分になっており、必要な情報が不足し、細かな単位畑の区分けには至らない。

0S36-2号畑と0S39号畑の境界は2号石列で区画されている。0S36-1号畑に所在する315号土坑は、石囲炉状に構築された焼土を伴う土坑で、複数回の焼成が営まれたこと、As-A軽石の堆積が確認されている。

畑の耕作と同時に存在していることから、畑遺構に付随する生産址として考えるべきと思われる。0S8号畑に隣接する86号土坑と共通するものと考えられる。

0S37号畑

0S38号畑の続く西端では踏分道で区画されている。平坦面の存在と東西の踏分道状の畝サクの状況から、単位畑を区分けしたが、さらに、西側と東側を中単位で区分

けできるかもしれないが、調査区外になる部分が多く、詳細は不明である。

OS38号畑

調査がおこなわれた21C区及び21H区(平成21年度)の調査区内では、極僅か東に傾斜する畑面であるが、21C区中央以南から21H区西端は泥流による削平なのか、あるいは、耕作の及ばない畑の外側になるのか、または天地返し等のなされた耕作形態の異なる畑になるかは不明である。そのため、敢えて畑の区分けをおこなっていない。

OS39号畑

OS36号畑とは、2号石列で区画されている。畝サクは明瞭で、1尺2寸の畝幅に相当し、耕作状況としては、土用の培土である一番ザク・二番ザクが終了してAs-A軽石の降下があり、天明泥流に被災した耕作状況(2類)にあたるものと考えられる。

OS40号畑

11号道と16号溝の3又に分岐する一画にあり、OS5-2~4号畑と同様に、As-A軽石降下後に鋤き込みが行われた畑(4類)と考えられる。いわば、As-A軽石降下後の復旧を目指したものと考えられる痕跡である。

OS41畑

9号溝・10号道の東側段上に位置しているが、未調査部分になるために、詳細については不明である。南に付帯する盛土状遺構は、円形プランで、地山耕作土と土質の異なる互層の遺構断面が検出、記録されている。本遺構が屋敷畑の一部となるかどうかは不詳であるが、本畑に隣接或いは包含される盛土状遺構(全体図には表記なし)の存在は、屋敷まわりと経営作物の栽培の場となるような耕作地の景観を再現するための遺構として、大切になってくるかもしれない。

OS42畑

6号石垣と19号道に区画された山際の傾斜畑である。詳細については、北側の調査が及ばないために不詳であるが、南の石組暗渠はこの南のOS10畑、OS11畑の下位から検出されたものである。両畑と比較すれば、本畑の伏流水などが両畑の土壌の多湿の要因ともなっていたと思われる、排水性の悪さにもつながるだろう。畑面には、耕作土の流出を防ぐような石列も部分的に見られた。

本畑の北側については、旧国道があり、それ以上の調査が及ばず不詳となるが、南の吾妻川側に舌状に張り出した広大な耕作地の景観と、それに接続する北斜面地の畑として、唯一のものであることには着目しておく必要があるだろう。

表12 畑一覧表

通番	新畑	m	本	畝幅:m	相当尺	試案 耕作状況	面積(m ²)	新平坦面	旧平坦面	備考	新調査区	旧畑	調査年度
1	OS1畑	1.95	4.0	0.49	1.61		(44.8)				18A区	1畑	平18
2	OS2畑	3.10	6.0	0.52	1.71	2	8.0				22E区	95畑	平22
3	OS3畑	OS3-1畑	5.25	10.0	0.53	1.73	2	(30.4)			22E区	93畑	平22
4	OS3畑	OS3-2畑	5.25	10.0	0.53	1.73	2	(19.2)			22E区	94畑	平22
5	OS4畑	OS4-1畑	1.20	3.0	0.40	1.32	3	(4.8)			21G区	84畑	平21
6	OS4畑	OS4-2畑	5.10	5.0	1.02	3.37	2	41.6			22E区	97畑	平22
7	OS4畑	OS4-3畑	1.30	2.0	0.65	2.15	2	9.6			22E区	98畑	平22
8	OS4畑	OS4-4畑	4.95	10.0	0.50	1.63	3	(232.0)			21G区	83畑	平21・22
9	OS4畑	OS4-4畑									22E区	83畑	
10	OS4畑	OS4-4畑									22E区	96畑	
11	OS4畑	OS4-4畑									22E区	97畑	
12	OS4畑	OS4-5畑	4.90	10.0	0.49	1.62	3	(299.7)	OS4-5平	74平	21G区	82畑	平21
12	OS4畑	OS4-6畑	1.95	4.0	0.49	1.61	9	(11.2)			22E区	96畑	平22
13	OS5畑	OS5-1畑	4.90	10.0	0.49	1.62	5	(371.2)	OS5-1平	66平	21B区	62畑	平21
14	OS5畑	OS5-1畑									21B区	63畑	
15	OS5畑	OS5-1畑									21B区	64畑	
16	OS5畑	OS5-1畑									21I区	62畑	
17	OS5畑	OS5-2畑	2.55	5.0	0.51	(1.68)	4	(500.8)			21B区	68畑	平21

第3章 検出された遺構と遺物

番号	新畑		m	本	畝幅:m	相当尺	試案 耕作状況	面積 (㎡)	新平坦面	旧平坦面	備考	新調査区	旧畑	調査年度
18	OS5畑	OS5-3畑	3.00	6.0	0.50	(1.65)	4	(230.4)				21B区	69畑	平21
19	OS5畑	OS5-4畑	4.75	9.0	0.53	(1.74)	4	(265.6)				21B区	69畑	平21
20	OS6畑	OS6-1畑	3.65	10.0	0.37	1.20	2	(52.8)				21I区	74畑	平21・22
21	OS6畑	OS6-1畑										22F区	74畑	
22	OS6畑	OS6-2畑	-	-	-	-		(1.6)				-		平21
23	OS6畑	OS6-3畑	5.30	10.0	0.53	1.75	7	197.6				21B区	66畑	平21
24	OS6畑	OS6-3畑										21I区	66畑	
25	OS6畑	OS6-4畑	5.00	10.0	0.50	1.65	2	(147.2)	OS6-4平	67平		21B区	67畑	平21
26	OS7畑	OS7-1畑	4.00	10.0	0.40	1.32		(104.5)				21D区	74畑	平21
27	OS7畑	OS7-2畑	3.80	10.0	0.38	1.25		(93.4)				21D区	74畑	平21・22
28	OS7畑	OS7-2畑										21I区	74畑	
29	OS7畑	OS7-2畑										22F区	74畑	
30	OS7畑	OS7-3畑	3.90	10.0	0.39	1.29		(88.0)				21I区	74畑	平21・22
31	OS7畑	OS7-3畑										22F区	74畑	
32	OS7畑	OS7-4畑	3.95	10.0	0.40	1.30		(108.8)	OS7-4平	87平		21I区	74畑	平21・22
33	OS7畑	OS7-4畑										22F区	74畑	
34	OS7畑	OS7-5畑	3.90	10.0	0.39	1.29		128				20H区	4畑	平20・21
35	OS7畑	OS7-5畑										21D区	51畑	
36	OS7畑	OS7-6畑	3.90	10.0	0.39	1.29		158.4				21D区	51畑	平21
37	OS7畑	OS7-6畑										21I区	51畑	
38	OS7畑	OS7-7畑	3.85	10.0	0.39	1.27		139.7	OS7-7平	84平		21I区	51畑	平21
39	OS7畑	OS7-8畑	3.90	10.0	0.39	1.29		150.4	OS7-8平	86平		21I区	51畑	平21
40	OS7畑	OS7-9畑	3.95	10.0	0.40	1.30		127.5	OS7-9平	52平		20H区	3畑	平20・21
41	OS7畑	OS7-10畑	3.90	10.0	0.39	1.29		132.8				20H区	3畑	平20・21
42	OS7畑	OS7-10畑										21D区	50畑	
43	OS7畑	OS7-10畑										21I区	50畑	
44	OS7畑	OS7-11畑	3.90	10.0	0.39	1.29		140.8				21I区	50畑	平21
45	OS7畑	OS7-12畑	3.80	10.0	0.38	1.25		146.1	OS7-12平	85平		21I区	50畑	平21
46	OS8畑	OS8-1畑	3.85	10.0	0.39	1.27	7	161.2	OS8-1平	96平		25A区	106畑	平25
47	OS8畑	OS8-2畑	3.70	10.0	0.37	1.22	7	131.2	OS8-2平	98平		25A区	108畑	平25
48	OS8畑	OS8-3畑	3.70	10.0	0.37	1.22	7	155.7	OS8-3平	100平		21D区	71畑	平21・25
49	OS8畑	OS8-3畑										21E区	73畑	
50	OS8畑	OS8-3畑										25A区	110畑	
51	OS8畑	OS8-4畑	3.75	10.0	0.38	1.24	7	150.4	OS8-4平	101平		21D区	73畑	平19・21・25
52	OS8畑	OS8-4畑										21E区	73畑	
53	OS8畑	OS8-4畑										25A区	111畑	
54	OS8畑	OS8-5畑	1.85	5.0	0.37	1.22	7	149.6	OS8-5平	30平		19A区	11畑	平19
55	OS8畑	OS8-5畑										19D区	11畑	
56	OS8畑	OS8-6畑	3.90	10.0	0.39	1.29	7	162.1	OS8-6平	95平		25A区	105畑	平25
57	OS8畑	OS8-7畑	3.70	10.0	0.37	1.22	7	113.6	OS8-7平	97平		25A区	107畑	平25
58	OS8畑	OS8-8畑	3.70	10.0	0.37	1.22	7	152.0	OS8-8平	99平		21D区	71畑	平21・25
59	OS8畑	OS8-8畑										25A区	109畑	
60	OS8畑	OS8-9畑	4.05	10.0	0.41	1.34	7	138.7	OS8-9平	71平		21D区	71畑	平21
61	OS8畑	OS8-10畑	3.70	10.0	0.37	1.22	7	(60.8)				21D区	71畑	平21
62	OS8畑	OS8-11畑	4.00	10.0	0.40	1.32	2	156.8	OS8-11平	—	7類の可能性	20H区	2畑	平20
63	OS8畑	OS8-12畑	4.05	10.0	0.41	1.34	2	149.3	OS8-12平	53平	7類の可能性	20H区	2畑	平20
64	OS8畑	OS8-13畑	3.90	10.0	0.39	1.29	2	176.0	OS8-13平	54平	7類の可能性	20H区	2畑	平20・21
65	OS8畑	OS8-13畑										21D区	49畑	
66	OS8畑	OS8-14畑	3.90	10.0	0.39	1.29	2	145.6	OS8-14平	72平	7類の可能性	21D区	49畑	平21
67	OS8畑	OS8-15畑	3.85	10.0	0.39	1.27	2	72.0	OS8-15平	73平	7類の可能性	21D区	49畑	平21・22
68	OS9畑	OS9-1畑	5.15	10.0	0.52	1.70	9	(104.5)	OS9-1平	42平		20E区	33畑	平20
69	OS9畑	OS9-2畑	4.90	10.0	0.49	1.62	9	(99.2)	OS9-2平	43平		20E区	33畑	平20
70	OS9畑	OS9-3畑	5.00	10.0	0.50	1.65	9	(139.2)	OS9-3平	46平		20E区	33畑	平20
71	OS9畑	OS9-4畑	3.35	7.0	0.48	1.58	9	(125.3)	OS9-4平	47平		20E区	33畑	平20
72	OS9畑	OS9-5畑	4.80	10.0	0.48	1.58	9	165.9	OS9-5平	48平		19D区	13畑	平19・20
73	OS9畑	OS9-5畑										20E区	33畑	
74	OS9畑	OS9-6畑	2.35	5.0	0.47	1.55	4	190.0	OS9-6平	28平	4類の発展型	19A区	10畑	平19
75	OS9畑	OS9-6畑										19D区	10畑	
76	OS9畑	OS9-7畑	5.05	10.0	0.51	1.67	9	(70.4)				25A区	112畑	平25
77	OS9畑	OS9-8畑	4.40	10.0	0.44	1.45	9	(64.5)	OS9-8平	111平		25A区	112畑	平25
78	OS9畑	OS9-9畑	4.45	10.0	0.45	1.47	7	(95.8)	OS9-9平	102平		21E区	33畑	平21・25
79	OS9畑	OS9-9畑										25A区	33畑	
80	OS9畑	OS9-10畑	4.90	10.0	0.49	1.62	7	(97.6)	OS9-10平	69平		21E区	33畑	平21
81	OS9畑	OS9-11畑	4.85	10.0	0.49	1.60	7	(115.2)	OS9-11平	70平		19D区	13畑	平19・20・21
82	OS9畑	OS9-11畑										21E区	33畑	
83	OS9畑	OS9-12畑	4.70	10.0	0.47	1.55	7	166.4	OS9-12平	29平		19A区	13畑	平19
84	OS9畑	OS9-12畑										19D区	13畑	
85	OS10畑	OS10-1畑	4.90	10.0	0.49	1.62	9	(120.0)	OS10-1平	110平		19C区	21畑	平19・20・25
86	OS10畑	OS10-1畑										20E区	21畑	

第7節 江戸時代の遺構と遺物

通番	新畑		m	本	畝幅:m	相当尺	試案 耕作状況	面積 (㎡)	新平坦面	旧平坦面	備考	新調査区	旧畑	調査年度
87	OS10畑	OS10-1畑										25B区	114畑	
88	OS10畑	OS10-2畑	4.95	10.0	0.50	1.63	9	152.0	OS10-2平	24平		19C区	21畑	平19・20
89	OS10畑	OS10-2畑										20E区	21畑	
90	OS10畑	OS10-3畑	4.95	10.0	0.50	1.63	9	168.0	OS10-3平	23平		19C区	21畑	平19・20
91	OS10畑	OS10-3畑										20E区	21畑	
92	OS10畑	OS10-4畑	3.80	10.0	0.38	1.25	7	(153.6)	OS10-4平	22平		19C区	6畑	平19
93	OS10畑	OS10-5畑	3.90	10.0	0.39	1.29	7	(166.4)	OS10-5平	21平		19C区	6畑	平19
94	OS10畑	OS10-6畑	4.05	10.0	0.41	1.34	7	(119.5)	OS10-6平	44平		20E区	9畑	平20
95	OS10畑	OS10-7畑	4.05	10.0	0.41	1.34	7	128.0	OS10-7平	45平		20E区	9畑	平20
96	OS10畑	OS10-8畑	3.90	10.0	0.39	1.29	7	133.8	OS10-8平	49平		20E区	9畑	平20
97	OS10畑	OS10-9畑	3.90	10.0	0.39	1.29	7	155.2	OS10-9平	50平		20E区	9畑	平20
98	OS10畑	OS10-10畑	4.00	10.0	0.40	1.32	7	140.8	OS10-10平	51平		19D区	9畑	平19・20
99	OS10畑	OS10-10畑										20E区	9畑	
100	OS10畑	OS10-11畑	3.95	10.0	0.40	1.30	7	(187.7)	OS10-11平	27平		19A区	9畑	平19
101	OS10畑	OS10-11畑										19D区	9畑	
102	OS11畑	OS11-1畑	3.90	10.0	0.39	1.29	7	(115.2)				25B区	116畑	平25
103	OS11畑	OS11-2畑	3.90	10.0	0.39	1.29	7	155.2	OS11-2平	105平		25B区	119畑	平25
104	OS11畑	OS11-3畑	3.90	10.0	0.39	1.29	7	(134.4)	OS11-3平	107平		25B区	122畑	平25
105	OS11畑	OS11-4畑	3.85	10.0	0.39	1.27		(43.2)				22H区	2畑	平22・25
106	OS11畑	OS11-4畑										25B区	122畑	
107	OS11畑	OS11-5畑	3.90	10.0	0.39	1.29		(152.0)	OS11-5平	94平		22H区	2畑	平22
108	OS11畑	OS11-6畑	3.10	8.0	0.39	1.28		155.2	OS11-6平	92平		19A区	2畑	平19・22
109	OS11畑	OS11-6畑										22H区	2畑	
110	OS11畑	OS11-7畑	3.90	10.0	0.39	1.29	7	(159.7)	OS11-7平	103平		19C区	20畑	平19・25
111	OS11畑	OS11-7畑										25B区	115畑	
112	OS11畑	OS11-8畑	4.00	10.0	0.40	1.32	7	142.4	OS11-8平	104平		19C区	20畑	平19・25
113	OS11畑	OS11-8畑										25B区	118畑	
114	OS11畑	OS11-9畑	4.00	10.0	0.40	1.32	7	(73.6)	OS11-9平	109平		19C区	20畑	平19・22・25
115	OS11畑	OS11-9畑										25B区	121畑	
116	OS11畑	OS11-10畑	4.00	10.0	0.40	1.32		(172.8)	OS11-10平	91平		19A区	2畑	平19・22
117	OS11畑	OS11-10畑										22H区	104畑	
118	OS12畑	OS12-1畑	4.90	10.0	0.49	1.62		(137.6)				20C区	42畑	平20
119	OS12畑	OS12-2畑	5.05	10.0	0.51	1.67	4	(166.4)	OS12-2平	39平		20C区	42畑	平20
120	OS12畑	OS12-2畑										20D区	45畑	
121	OS12畑	OS12-3畑	-	-				(131.2)				20D区	45畑	平20
122	OS12畑	OS12-4畑	4.95	10.0	0.50	1.63		(235.2)				20C区	43畑	平20・22
123	OS12畑	OS12-4畑										22D区	102畑	
124	OS12畑	OS12-5畑	4.20	10.0	0.42	1.39		(107.2)				22D区	103畑	平22
125	OS12畑	OS12-5畑										22H区	103畑	
126	OS12畑	OS12-6畑	3.85	10.0	0.39	1.27	7	(59.2)				25B区	117畑	平25
127	OS12畑	OS12-7畑	3.95	10.0	0.40	1.30	7	(75.7)	OS12-7平	106平		25B区	120畑	平25
128	OS12畑	OS12-8畑	3.95	10.0	0.40	1.30	7	(41.6)	OS12-8平	108平		25B区	123畑	平25
129	OS12畑	OS12-9畑	4.00	10.0	0.40	1.32		(292.8)				19A区	1畑	平19・22
130	OS12畑	OS12-9畑										22H区	1畑	
131	OS13畑	OS13-1畑	3.88	10.0	0.39	1.28		(652.8)	OS13-1平	80平		22F区	1畑	平18・22
132	OS13畑	OS13-2畑	3.90	10.0	0.39	1.29			OS13-2平	81平		22F区	1畑	
133	OS13畑	OS13-3畑	3.88	10.0	0.39	1.28			OS13-3平	5平	19区にもあり	18B区	1畑	
134	OS13畑	OS13-4畑	3.90	10.0	0.39	1.29			OS13-4平	3平	19区にもあり	18B区	1畑	
135	OS13畑	OS13-5畑	3.88	10.0	0.39	1.28			OS13-5平	4平	19区にもあり	18B区	1畑	
136	OS13畑											22F区	99畑	
137	OS14畑							(601.6)	OS14-1平	1平	19区にもあり	18B区	1畑	平18
138	OS14畑								OS14-2平	2平	19区にもあり	18B区	1畑	
139	OS15畑		3.80	10.0	0.38	1.25		(232.0)	OS15-1平	79平		19D区	27畑	平19・22
140	OS15畑											22F区	49畑	
141	OS16畑		4.00	10.0	0.40	1.32		(291.2)	OS16-1平	35平		19D区	30畑	平19
142	OS16畑											19D区	31畑	
143	OS16畑											22G区	101畑	
144	OS17畑		4.20	10.0	0.42	1.39		(1075.2)	OS17-1平	11平		19A区	12畑	平19
145	OS17畑								OS17-2平	6平		19A区	12畑	
146	OS17畑								OS17-3平	79平		19A区	12畑	
147	OS17畑								OS17-4平	8平		19A区	12畑	
148	OS17畑								OS17-5平	9平		19A区	12畑	
149	OS17畑								OS17-6平	5平	18B区にもあり	19A区	12畑	
150	OS17畑											19C区	12畑	
151	OS17畑											19D区	12畑	
152	OS18畑	OS18-1畑	4.20	10.0	0.42	1.39		168.0				19C区	25畑	平19
153	OS18畑	OS18-2畑	4.25	10.0	0.43	1.40		139.2				19C区	25畑	平19
154	OS18畑	OS18-2畑										19D区	25畑	
155	OS18畑	OS18-3畑	4.30	10.0	0.43	1.42		147.2				19C区	25畑	平19

第3章 検出された遺構と遺物

通番	新畑		m	本	畝幅:m	相当尺	試案 耕作状況	面積 (㎡)	新平坦面	旧平坦面	備考	新調査区	旧畑	調査年度
156	OS18畑	OS18-3畑										19D区	25畑	
157	OS18畑	OS18-4畑	4.25	10.0	0.43	1.40		166.4	OS18-4平	31平		19C区	25畑	平19
158	OS18畑	OS18-5畑										19D区	26畑	
159	OS18畑	OS18-5畑	4.35	10.0	0.44	1.44		129.6	OS18-5平	32平		19D区	26畑	平19
160	OS18畑	OS18-5畑										19D区	29畑	
161	OS18畑	OS18-6畑	4.35	10.0	0.44	1.44		(134.4)	OS18-6平	33平		19D区	29畑	平19
162	OS19畑	OS19-1畑	-	-	-	-		86.4				19B区	-	平19
163	OS19畑	OS19-1畑										19C区	-	
164	OS19畑	OS19-2畑	4.90	10.0	0.49	(1.62)		86.4				19B区	-	平19
165	OS19畑	OS19-2畑										19C区	-	
166	OS19畑	OS19-3畑	-	-	-	-		126.4	OS19-3平	14平		19B区	-	平19
167	OS19畑	OS19-3畑										19C区	-	
168	OS19畑	OS19-4畑	-	-	-	-		112.8				19B区	-	平19
169	OS19畑	OS19-4畑										19C区	-	
170	OS19畑	OS19-5畑	2.95	6.0	0.49	(1.62)		96.0	OS19-5平	26平		19C区	-	平19
171	OS19畑	OS19-6畑	1.90	4.0	0.48	(1.57)		94.4				19C区	-	平19
172	OS19畑	OS19-7畑	1.45	3.0	0.48	(1.59)		123.7	OS19-7平	20平		19C区	-	平19
173	OS19畑	OS19-8畑	4.85	10.0	0.49	1.60		84.0	OS19-8平	25平		19C区	23畑	平19
174	OS19畑	OS19-8畑										19C区	24畑	
175	OS20畑		3.20	7.0	0.46	1.51		(121.6)				19C区	22畑	平19・20
176	OS20畑											19D区	22畑	
177	OS20畑											20A区	22畑	
178	OS21畑	OS21-1畑	3.65	10.0	0.37	1.20		(129.6)	OS21-1平	1平	18B区にもあり	19A区	3畑	平19・22
179	OS21畑	OS21-2畑	3.70	10.0	0.37	1.22		(97.6)	OS21-2平	3平	18B区にもあり	19A区	3畑	平19・22
180	OS21畑	OS21-2畑							OS21-10平	82平		19A区	3畑	
181	OS21畑	OS21-2畑										22D区	14畑	
182	OS21畑	OS21-3畑	1.85	5.0	0.37	1.22		(108.8)	OS21-3平	10平		19A区	3畑	平19・22
183	OS21畑	OS21-3畑										19B区	3畑	
184	OS21畑	OS21-3畑										22D区	14畑	
185	OS21畑	OS21-4畑	4.25	10.0	0.43	1.40		134.4	OS21-4平	2平	18B区にもあり	19A区	4畑	平19
186	OS21畑	OS21-5畑	4.30	10.0	0.43	1.42		169.6	OS21-5平	4平	18B区にもあり	19A区	4畑	平19
187	OS21畑	OS21-5畑										19B区	4畑	
188	OS21畑	OS21-6畑	3.85	10.0	0.39	1.27		128.0	OS21-6平	—		19A区	5畑	平19
189	OS21畑	OS21-7畑	4.00	10.0	0.40	1.32		168.0	OS21-7平	—		19A区	5畑	平19
190	OS21畑	OS21-7畑										19B区	5畑	
191	OS21畑	OS21-8畑	3.90	10.0	0.39	1.29		166.4	OS21-8平	12平		19A区	7畑	平19
192	OS21畑	OS21-9畑	3.95	10.0	0.40	1.30		185.6	OS21-9平	—		19A区	8畑	平19
193	OS21畑	OS21-9畑										19C区	8畑	
194	OS21畑	OS21-9畑										19D区	8畑	
195	OS22畑		4.80	10.0	0.48	1.58		(297.6)	OS22-1平	34平		19D区	28畑	平19・20
196	OS22畑											20A区	28畑	
197	OS22畑											22G区	100畑	
198	OS22畑											22G区	101畑	
199	OS23畑	OS23-1畑	3.60	10.0	0.36	1.19		(97.6)				19B区	4畑	平19・22
200	OS23畑	OS23-1畑										22C区	14畑	
201	OS23畑	OS23-1畑										22D区	14畑	
202	OS23畑	OS23-2畑	3.55	10.0	0.36	1.17		(116.8)	OS23-2平	13平		19B区	4畑	平19・22
203	OS23畑	OS23-2畑										22C区	14畑	
204	OS23畑	OS23-3畑	3.65	10.0	0.37	1.20		(114.3)				19B区	4畑	平19・22
205	OS23畑	OS23-3畑										22C区	14畑	
206	OS23畑	OS23-4畑	2.15	6.0	0.36	1.18		137.6	OS23-4平	16平		19B区	15畑	平19
207	OS23畑	OS23-5畑	3.50	10.0	0.35	1.16		132.8	OS23-5平	17平		19B区	15畑	平19
208	OS23畑	OS23-6畑	3.70	10.0	0.37	1.22		160.0	OS23-6平	18平		19B区	15畑	平19
209	OS23畑	OS23-7畑	3.60	10.0	0.36	1.19		131.2	OS23-7平	—		19B区	16畑	平19
210	OS23畑	OS23-8畑	3.60	10.0	0.36	1.19		105.6	OS23-8平	19平		19B区	17畑	平19
211	OS23畑	OS23-9畑	3.60	10.0	0.36	1.19		170.7	OS23-9平	—		19B区	17畑	平19
212	OS24畑	OS24-1畑	3.75	10.0	0.38	1.24		112.0	OS24-1平	90平		22D区	89畑	平22
213	OS24畑	OS24-2畑	3.70	10.0	0.37	1.22		142.4	OS24-2平	89平		22C区	89畑	平22
214	OS24畑	OS24-2畑										22D区	89畑	
215	OS24畑	OS24-3畑	3.65	10.0	0.37	1.20		132.8	OS24-3平	78平		22C区	89畑	平22
216	OS24畑	OS24-4畑	3.75	10.0	0.38	1.24		147.2				22C区	89畑	平22
217	OS24畑	OS24-5畑	4.50	10.0	0.45	1.49		142.4	OS24-5平	93平		22D区	88畑	平19・22
218	OS24畑	OS24-5畑										22H区	88畑	
219	OS24畑	OS24-6畑	4.50	10.0	0.45	1.49		152.0	OS24-6平	83平		22D区	88畑	平22
220	OS24畑	OS24-7畑	4.60	10.0	0.46	1.52		132.8				22C区	88畑	平22
221	OS24畑	OS24-7畑										22D区	88畑	
222	OS24畑	OS24-8畑	4.60	10.0	0.46	1.52		132.8				22C区	88畑	平22
223	OS24畑	OS24-9畑	4.60	10.0	0.46	1.52		179.2	OS24-9平	77平		22C区	88畑	平22
224	OS25畑	OS25-1畑	1.60	4.0	0.40	1.32		(94.4)				21F区	75畑	平21・22

第7節 江戸時代の遺構と遺物

通番	新畑		m	本	畝幅:m	相当尺	試案 耕作状況	面積 (㎡)	新平坦面	旧平坦面	備考	新調査区	旧畑	調査年度
225	OS25畑	OS25-1畑										22A区	75畑	
226	OS25畑	OS25-2畑	3.80	10.0	0.38	1.25		(327.2)	OS25-2平	40平		20D区	46畑	平20・21・22
227	OS25畑	OS25-2畑										21F区	48畑	
228	OS25畑	OS25-2畑										21F区	76畑	
229	OS25畑	OS25-2畑										22A区	76畑	
230	OS25畑	OS25-3畑	3.70	10.0	0.37	1.22		(355.2)	OS25-3平	41平		20D区	47畑	平20・21
231	OS25畑	OS25-3畑										21F区	-	
232	OS25畑	OS25-4畑	3.75	10.0	0.38	1.24		(289.6)	OS25-4平	88平		22C区	90畑	平22
233	OS25畑	OS25-4畑										22D区	90畑	
234	OS26畑	OS26-1畑	1.20	3.0	0.40	1.32		(16.0)				18B区	2畑	平18
235	OS26畑	OS26-2畑	-	-	-	-		(50.7)				18B区	3畑	平18
236	OS26畑	OS26-3畑	-	-	-	-		(105.7)				18B区	3畑	平18
237	OS27畑	OS27-1畑	3.85	9.0	0.43	1.41		139.4	OS27-1平	60平		20G区	-	平20
238	OS27畑	OS27-2畑	1.75	4.0	0.44	1.44		150.4	OS27-2平	58平		20G区	-	平20
239	OS27畑	OS27-3畑	3.80	8.0	0.48	1.57		204.8	OS27-3平	59平		20G区	55畑	平20
240	OS27畑	OS27-4畑	3.55	5.0	0.71	2.34		(136.0)				20G区	56畑	平20
241	OS27畑	OS27-5畑	3.90	8.0	0.49	1.61		(115.2)	OS27-5平	55平		20G区	-	平20
242	OS27畑	OS27-6畑	1.90	4.0	0.48	1.57		(119.5)	OS27-6平	56平		20G区	54畑	平20
243	OS27畑	OS27-7畑	2.30	4.0	0.58	1.90		(37.8)	OS27-7平	57平		20G区	57畑	平20
244	OS28畑		4.70	10.0	0.47	1.55		(176.0)				20A区	36畑	平20
245	OS29畑		4.65	10.0	0.47	1.53		(624.8)				19B区	19畑	平19・20
246	OS29畑											20A区	19畑	
247	OS29畑											20A区	35畑	
248	OS30畑	OS30-2畑	4.60	10.0	0.46	1.52		(120.0)	OS30-2平	15平		19B区	18畑	平19
249	OS30畑	OS30-3畑	4.65	10.0	0.47	1.53		(160.0)	OS30-3平	36平		20A区	18畑	平20
250	OS30畑											21A区	18畑	
251	OS30畑	OS30-1畑	4.60	10.0	0.46	1.52		(280.0)	OS30-1平	65平		21A区	61畑	平21・22
252	OS30畑											21F区	79畑	
253	OS30畑											22C区	92畑	
254	OS31畑		3.70	10.0	0.37	1.22	4	(1016.0)				21F区	78畑	平21・22
255	OS31畑											21F区	81畑	
256	OS31畑											22C区	91畑	
257	OS32畑	OS32-1畑	5.60	10.0	0.56	1.85		154.6	OS32-1平	63平		20G区	59畑	平20
258	OS32畑	OS32-2畑	4.50	8.0	0.56	1.86		(164.8)	OS32-2平	64平		20G区	59畑	平20
259	OS32畑	OS32-3畑	5.85	10.0	0.59	1.93		150.4	OS32-3平	61平		20G区	59畑	平20
260	OS32畑	OS32-4畑	5.90	10.0	0.59	1.95		(48.0)	OS32-4平	62平		20G区	59畑	平20
261	OS32畑	OS32-5畑	4.65	10.0	0.47	1.53		(57.6)				20G区	58畑	平20
262	OS33畑		-	-			4	(262.4)				20G区	60畑	平20
263	OS34畑	OS34-1畑	2.55	5.0	0.51	1.68	7	(125.3)	OS34-1平	37平		20B区	37畑	平20
264	OS34畑	OS34-2畑	2.50	5.0	0.50	1.65	7	(16.0)	OS34-2平	38平		20B区	37畑	平20
265	OS35畑		4.40	8.0	0.55	1.82	7	(299.2)				20B区	38畑	平20
266	OS35畑											20B区	39畑	
267	OS36畑	OS36-1畑	4.80	10.0	0.48	1.58		(184.0)				22B区	87畑	平22
268	OS36畑	OS36-2畑	5.00	10.0	0.50	1.65	8	(128.0)	OS36-2平	76平		20C区	41畑	平22
269	OS36畑	OS36-2畑										20D区	44畑	
270	OS36畑	OS36-2畑										22B区	77畑	
271	OS36畑	OS36-3畑	2.30	5.0	0.46	1.52	9	(65.6)				20D区	44畑	平21・22
272	OS36畑	OS36-3畑										22B区	77畑	
273	OS36畑	OS36-4畑	1.94	4.0	0.49	1.60	9	(108.8)	OS36-4平	119平		26A区	127畑	平26
274	OS36畑	OS36-5畑						185.6	OS36-5平	118平		26A区	127畑	平26
275	OS36畑	OS36-6畑						(166.4)	OS36-6平	117平		26A区	127畑	平26
276	OS36畑	OS36-7畑						(147.2)	OS36-7平	121平		26A区	128畑	平26
277	OS37畑	OS37-1畑	保留	3.0				(86.4)				22B区	86畑	平21・22
278	OS37畑	OS37-2畑	4.85	10.0	0.49	1.60		(188.8)	OS37-2平	75平		21H区	86畑	平21・22
279	OS37畑	OS37-2畑										22B区	86畑	
280	OS37畑	OS37-3畑	1.94	4.0	0.49	1.60	9	(51.2)	OS37-3平	116平		26A区	126畑	平26
281	OS37畑	OS37-4畑						(121.6)	OS37-4平	115平		26A区	126畑	平26
282	OS37畑	OS37-5畑						(147.2)	OS37-5平	114平		26A区	126畑	平26
283	OS37畑	OS37-6畑	4.90	10.0	0.49	1.62	9	(172.8)	OS37-6平	113平		26A区	125畑	平26
284	OS38畑	OS38-1畑	5.20	10.0	0.52	1.72		(80.0)	OS38-1平	68平		21C区	71畑	平21
285	OS38畑	OS38-2畑	-	-			4	(56.0)				21C区	72畑	平21
286	OS38畑	OS38-2畑										21H区	85畑	
287	OS38畑	OS38-3畑	1.96	4.0	0.49	1.62	2	(44.8)	OS38-3平	112平		26A区	124畑	平26
288	OS39畑		3.70	10.0	0.37	1.22	2	(315.2)				20C区	40畑	平20・26
289	OS39畑	OS39-1畑	1.97	5.0	0.39	1.30	2		OS39-1平			26A区	128畑	
290	OS39畑	OS39-2畑							OS39-2平	120平		26A区	128畑	
291	OS40畑		2.10	4.0	0.53	1.73		(73.6)				21B区	70畑	平21
292	OS41畑		3.40	7.0	0.49	1.60		(6.4)				20H区	52畑	平20
293	OS42畑		0.95	2.0	0.48	1.57		(4.8)				25B区	113畑	平25

3. 道(付図2)

発掘調査で確認された天明三年遺構としての道は、1号道～18号道が確認されているが、畑遺構の中に畝サクの切れ目となるいわゆる「踏分道」状を呈した部分なども含まれている。

本報告で扱う調査区内では、民家として存在した1号建物や北側の調査の及ばなかった範囲に存在したと推定される幹線としての道が存在したと考えられる。そして、そこから耕作地としての畑地景観に分け入っていく道が本報告で扱う道ということになる。

開墾時の畑の地割とも密接にかかわり、また、所有の変遷などにもかかわり、道の存在は変化してきたものと考えられる。概ね、規格化された畑地を周回するように道が廻り、恒常的に流水のある自然流路、降水時などの雨水の排水流路としての溝などが、場合によっては道と並行していることが確認される。

本報告で扱うものの大半は、いわゆる街道筋のような硬化面を持つような道ではなく、作業道としての機能を有するものであり、明瞭な硬化面は確認されていない。

1号道(PL.65)

位置 73区O-13・14、P-13～18、Q-18～22、R-18～23、S-18・19、T-18・19、U～Y-18～74区A-18、B-10～18、C-10・16・17、D-10、E-2～10、F-10、83区R-1～10グリッド。

長さ 220m

標高差 なし。

最大幅 1.5m(73区Q-18グリッド付近)

平均勾配 0%

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 0S9号畑の北東隅から南下し、途中、0S17号畑を途切れて廻るように位置し、0S19号畑南西隅にかけて南下している。付近は、調査区が分断し、中学校校舎のコンクリート基礎杭などの攪乱により、良好な状況での検出に至らなかったため、詳細については不明であるが、0S16号畑や0S18号畑などを含めた周辺の畑への出入口となる作業用の道(いわゆる「馬入れ道」)と考えられる。

0S17号畑南西隅と0S19号畑北西隅を繋ぐ部分は検出状況が特に不明瞭であるが、一連の機能を考え、1号道と

し報告する。発掘調査時の13号道も本遺構と連結するものと判断する。この道の存在で、2・8・11・18・19号道などによっておよそ囲われた広大な耕作地にすべての進入が可能な道が確保されることになるものと解釈される。

2号道(PL.65・67)

位置 63区X-24、Y-24・25～64区A・B-25～74区B～E-1、F-1・2、G-2、H-2・3、I～L-3、M-3・4、N～Q-4、R-4・5、S-5、T-5・6、U-6、V-6・7、W・X-7グリッド。

長さ 108m

標高差 1.47m

最大幅 2.03m(W-7グリッド付近)

平均勾配 9%(74区X-7～73区Y-24グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 種実。

所見 2号道は、本報告で扱う畑の耕作地の大部分を占める段上部分と、攪乱により遺構の残存が不良な段下部分を区分し取り巻くように配置されている。

1号溝と3号溝とが両側外を並走し、本道は両溝に対して、一段高まりをもちながら、北西から南東方向に下っていく。0S20号畑と隣接する地点には、3段程度の土留めのための石積みが存在し、溝に対しての高まりはなく、逆に溝状を呈している。このことから考えると、出水時のために溝としての機能も有していることになる。

21F区に所在する調査時点で14号道として検出された道も2号道と繋がるものと判断される。

3号道

位置 73区X・Y-1～3～74区A-1グリッド。

長さ 13.5m

標高差 0.11m

最大幅 0.55m(Y-2グリッド付近)

平均勾配 0.8%(74区A-1～73区X-3グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 一見すると0S19号畑と0S20号畑は1筆の畑のようにも見えるが、微妙な畝サク方向の違いとともに、この

3号道の存在がその根拠になっている。本遺構の機能は、1号溝(19号溝)と3号溝(18号溝)とが並走する2号道から分岐し、0S18号畑の出入り口と考えられる。また、両溝がいったん途切れる様相になっており、分岐する道として存在が確認できる。

4号道

位置 73区E-6、F-5・6、G-5、H-4・5、I・J-4グリッド。

長さ 17m

標高差 0.05m

最大幅 0.8m(F-5グリッド付近)

平均勾配 0%(73区E-6～73区E-4グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 18B区のおよそ40%の下り勾配の0S14号畑と0S26号畑の境界に設けられている。As-A軽石が直上で確認されているが、泥流による攪乱により、周辺の残存状況は不良である。

5号道(20B区)

位置 64区K-12、L-8～12グリッド。

長さ 14.5m

標高差 0.13m

最大幅 0.52m(L-10グリッド付近)

平均勾配 0.9%(64区L-12～64区L-8グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 段下に位置する0S34号畑と0S35号畑を画する踏分道的な作業道と考えられる。

6号道(20E区)(PL.65)

位置 73区Y-20～25～83区Y-1～8グリッド。

長さ 57m

標高差 1.61m

最大幅 0.70m(Y-2グリッド付近)

平均勾配 3%(83区Y-7～73区Y-23グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 0S9号畑と0S10号畑の境に所在し、南下し0S17号畑を端点とするものと思われる。調査時点では、8号溝としても検出されているが、8号溝～6号道(20E区)～0S9-6号畑西境界を南北に通る作業道であったと推定できる。

0S9-6号畑西境界は、As-A軽石降下後のいわゆる復旧作業により検出はなされなかったものと判断される。特に19区の調査では、諸条件により検出が困難であったため、詳細な確認はそれ以上及ばない。

8号道(第211図、PL.65・66)

位置 75区C-24・25、D-22～24、E-18～22、F-17～19、G-16・17、H-16・17、I・J-16～85区B・C-1グリッド。

長さ 56m

標高差 0.06m

最大幅 2.4m(G-16グリッド付近)

平均勾配 0.1%(85区B-1～75区J-16グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 8号道は5号溝と6号溝に並走し、両溝よりも20cmほど高く、断面は平坦な蒲鉾状を呈している。終点は、1号取水施設となっている。同施設が、石積みされている等の形状から判断すれば、簡易な木橋等の当時の状況が想定され、さらに、その先へ8号道は続くものと考えられる。

10号道(PL.66・67)

位置 83区D・E-5、F-5・6、G-6、H-6・7、I-7～10、J-9・10グリッド。

長さ 29m

標高差 2.62m

最大幅 1.2m(83区I-8グリッド付近)

平均勾配 9%(83区J-10～83区E-5グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 10号道は、恒常的に水の流れる1号河道及び出水の際の導水が目的と考えられる9号溝と並走して、2号建物の裏手に達し、調査区外となる。

第3章 検出された遺構と遺物

18A区・22E区・21G区と21I区・21B区の間調査の及ばない範囲が等高線で見ると限り低地となっているので、1号河道がそこを流れていたものと考えられる。したがって、10号道もその方向に向かい、11号道に途中分岐していたか、あるいは、1号河道とは離れ10号道は11号道へ続く同一に道であったのかもしれない。畑地景観につながる作業道としては比較的重要な道であったと考えられ、2号掘立柱建物とも関連し、景観の中では動脈的な作業道であったと想像ができる。調査時、1号河道を挟んだ東にも0S41号畑を端点とする10号道が図化されているが、詳細は不明である。

11号道(PL.66)

位置 72区R-18~21、S-18~21、T-21・22、U-22・23、V-23・24、W-23~25~82区W-1、X-1・2、Y-2・3~83区A-2・3、B-3・4、C-4グリッド。

長さ 63m

標高差 1.72m

最大幅 0.8m(U-22グリッド付近)

平均勾配 1%(83区C-4~72区R-20グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 11号道は、10号道で記載した通り、10号道とつながるものと考えられるが、10号道と異なるのは、1号河道とは離れていることである。調査区外となって不詳であるが、おそらく10号道とは分岐しているものと考えられる。0S5号畑と0S6・7号畑との境となって16号溝と一致してから右に折れ、南下する。途中、1号焼土が0S6号畑の道際に所在しているが、同時存在したものかは不明である。

12号道(PL.66)

位置 72区Q-24・25、R-22~24、S-21・22グリッド。

長さ 16.5m

標高差 0.26m

最大幅 0.8m(S-22グリッド付近)

平均勾配 2%(72区S-21~72区Q-25グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 12号道は、0S5-2~4号畑の境界となっている。同畑は、いずれも軽石降下後に鋤き込みが行われた単位畑で、軽石と作土がブロック状に攪拌されている(畝断面状況説明では4類)。軽石の残存状況からみると、作業手順あるいは、元あった畝サクの方向が、0S5-2号畑と0S5-3~4号畑で互いに垂直に交差する方向となっていることが観察されている。このことからすると、鋤き込みの開始、あるいは、終了の変換点がこの12号道を起点としていることが推察され、鋤き込みが行われる時点で境界・起点となっているものと考えられる。勿論、鋤き込みの作業が行われる以前に道としての遺構が存在していたことも十分に有り得る。いずれにしても、0S5号畑における鋤き込みの作業工程に派生するものと考えられ、中単位の構成など、単位畑の構成を解読する根拠につながると考えられる。

14号道(PL.66)

位置 75区C-8、D-8・9、E-9・10、F-10・11、G-11グリッド。

長さ 17.4m

標高差 0.22m

最大幅 0.8m(F-10グリッド付近)

平均勾配 1%(75区F-10グリッド~75区C-8グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 14号道は、2号道と同一と考えられる。18号溝と19号溝との関連も、2号道とその両側に配される1号溝と3号溝につながるものと考えられる。

15号道(PL.66)

位置 65区E-3・4グリッド。

長さ 6.5m

標高差 0.07m

最大幅 0.74m(65区G-3グリッド付近)

平均勾配 1%(75区F-3~75区E-4グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 15号道は21F区の調査区際で検出されている。同

区は、天明泥流により攪乱をうけており、遺構の残存状況は不良である。

本遺構も周辺の畑と同様に詳細については不明となっている。0S31号畑とその周囲の畑耕作地に向かう南北に走る作業道としての役割を負っていたものと考えられる。

16号道(PL.66)

位置 75区T-20、U-20・21、V-21・22、W-22・23、X-22~24、Y-23・24~76区A-24・25グリッド。

長さ 31.2m

標高差 0.64m

最大幅 0.4m(X-23グリッド付近)

平均勾配 2%(76区A-25~75区T-20グリッド付近)
重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 16号道は、並走する段差の根切溝と思われる20号溝とともに、北西から南東に下っている。調査の及ばなかった範囲に向かい、2号道や8号道に繋がり、あるいは分岐していたものと推定される。

18号道(PL.66)

位置 82区Y-9~83区A-9、B・C-10、D-10・11、L~R-9・10グリッド。

長さ 51.4m

標高差 3.08m

最大幅 4.54m(N-9グリッド付近)

平均勾配 6%(83区R-9~82区Y-9グリッド付近)
重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 18号道は、22E区及び25A区に所在している。0S2号畑と0S3号畑との段差に4号石垣等を形成しながら段差につくられた平坦な地形である。さらに1号建物の南側を経るなどして、25A区の北東隅に所在している石積に挟まれた範囲へと続くものと推定される。しかしながら、断続的に行われた調査であったことや遺構が調査区際となっていた点、湧水に伴い遺構面の調査の困難さなどにより、検出が難しく、詳細は不明なことが多い。

19号道(PL.66)

位置 84区F~H-8グリッド。

長さ 7.5m

標高差 0.16m

最大幅 1.08m(H-8グリッド付近)

平均勾配 2%(84区H-8~84区G-8グリッド付近)
重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 25B区の北東部分にあたる付近で検出された19号道は、石垣を伴い、0S10・11号畑と0S42畑とを区画しているが、地形の変換点を進んでいくものとみられ、耕作地景観の変換線を示しているものとみられる。

4. 溝・河道・取水施設・水場

1号溝

位置 73区J-4、K-4・5、L-5、M-5・6グリッド。

長さ 13.5m

標高差 0.89m

最大幅 1.4m(J-4グリッド付近)

平均勾配 7%(73区M-6~73区J-4グリッド付近)
重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 0S14号畑と南の法面を区画するように北西から南西に走行する。土層断面写真に見る礫は、天明泥流中のものの可能性も見受けられる。常時流水のあるような溝とは考えにくい。

2号溝(PL.67)

位置 74区D・G-23~25~84区D・G-1~7グリッド。

長さ 84.3m

標高差 1.88m

最大幅 0.56m(G-6グリッド付近)

平均勾配 2%(84区G-7~74区D-23グリッド付近)
重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 常時流水の見られるような性格の溝ではなく、耕作に伴い、排水性や雑草除け、踏分道的な機能を持ったものと考えられる。0S10-1~3号畑は、単位畑として

第3章 検出された遺構と遺物

は、特別な区割り(本来は4単位として扱われる広さが、特別に3単位となっていると解釈される)に対して、明確に根切りされたものと考えられる。20E区の調査時に9号溝として検出されている部分も2号溝となる。

3号溝(PL.67)

位置 63区Y-24・25~64区A~E-25~74区E・F-1、G・H-2、I~O-3、P-3・4、Q・R-4、S-4・5、T-5、U-6、V-6・7、W-7グリッド。

長さ 89.8m

標高差 1.59m

最大幅 1.55m(B-25グリッド付近)

平均勾配 2%(74区W-7~73区Y-25グリッド付近)
重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 3号溝は、19区、20A区、22C区の調査で確認されている1号溝(19区・20A区・22C区)と同様に、2号道両側に設けられた、排水や雑草対策などの根切り溝の呈をなしている。3号道と交差する付近では、掘り込みが消滅しているため、常時流水がある性格の溝ではないものと考えられる。

4号溝(PL.65)

位置 63区X・Y-24・25~64区A・B-25~74区B~E-1、F-1・2、G-2、H-2・3、I~L-3、L-4、M-3・4、N~R-4、S-5、T-5・6、U-6・7、V・W-7グリッド。

長さ 91.5m

標高差 1.47m

最大幅 1.4m(I-3グリッド付近)

平均勾配 2%(74区W-7~73区Y-25グリッド付近)
重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 19区、20A区、22C区の調査で確認されている。吾妻川側の3号溝とともに、2号道両側に設けられた、排水や雑草対策などの幅狭の根切り溝の呈をなしている。

3号道と交差する付近では、掘り込みが消滅しているため、常時流水がある性格の溝ではないものと考えられ

る。また、その下流側では、0S20号畑との段差には、石積が設けられている。

5号溝(第211図)

位置 75区C-25、D-23~25、E-20~22、F-17~20、G~K-17~85区C-1グリッド。

長さ 54.6m

標高差 0.27m

最大幅 1.15m(F-17グリッド付近)

平均勾配 0.5%(85区C-1~75区H-17グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 8号道の両端に設けられた5・6号溝は並走し1号取水施設へと続いている。傾斜は南から西へ向かって下り、1号取水施設と20号溝と合わさり、南の吾妻川方向に流れていくものとみられる。

6号溝(第211図)

位置 75区B-25、C-23~25、D-21~23、E-17~21、F-16~18、G~J-16~85区B-1グリッド。

長さ 57.6m

標高差 0.33m

最大幅 0.9m(E-19グリッド付近)

平均勾配 1%(85区B-1~75区F-16グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 5号溝と同様に、8号道の両端に設けられた5・6号溝は並走し1号取水施設へと続いている。傾斜は南から西へ向かい、1号取水施設と20号溝と合わさり、南の吾妻川方向に流れていくものとみられる。

9号溝(PL.67)

位置 83区G・H-6、I-7・8、J-9グリッド。

長さ 19.3m

標高差 1.97m

最大幅 0.95m(I-7グリッド付近)

平均勾配 70%(83区J-9~83区G-5グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 9号溝は、10号道の南側をOS7号畑とOS8号畑との境界を並走する。10号道の東を南東に流れる1号流路とは異なり、排水性や雑草除けなどを目的として区画を意図した性格の溝と考えられる。20E区で調査時に9号溝としたものは、2号溝に含まれる。

11号溝(PL.67)

位置 83区G-6・7グリッド。

長さ 1.5m

標高差 0.6m

最大幅 1.05m(G-7グリッド付近)

平均勾配 40%(83区G-7グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 18A区・22B区に所在している1号建物を中心とする空間からの排水を目的として、1号流路に雨水等を導くための溝と考えられるが、確認される範囲が狭く、詳細は不明である。

12号溝(PL.67)

位置 83区E-5・6、F・G-6グリッド。

長さ 8.7m

標高差 0.44m

最大幅 0.55m(G-6グリッド付近)

平均勾配 5%(83区G-6～83区E-6グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 11号溝と同様に、1号流路の存在から考えると、1号建物を中心として、調査区外にある畑などからの排水を目的とした雨水等を導くための溝と考えられる。As-A軽石の堆積層は明瞭に確認される。

13号溝

位置 72区T・U-25～82区R-4・5、S-2～4、T-1・2グリッド。

長さ 22.7m

標高差0.93m

最大幅 0.68m(S-2グリッド付近)

平均勾配 4%(72区U-25～82区R-5グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 13号溝と14号溝はいずれも、OS5-1号畑とOS5-2号畑の区画のための踏分道と考えられる。同畑は、同一の畑ではなく別の畑と考える見方もできるが、詳細は不明なため、OS5号畑と一括したのは、同畑で記述した通りである。調査時に20G区のOS32号畑と7号石垣の区画として、13号溝として検出された溝(未掲載)とは、異なっている。

14号溝(PL.67)

位置 72区U-24・25、V-23・24グリッド。

長さ 7.5m

標高差 0.18m

最大幅 0.52m(V-23グリッド付近)

平均勾配 2%(72区V-23～72区U-25グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 13号溝と同じ。

16号溝

位置 72区O-19、P-19・20、Q・R-20グリッド。

長さ 10.2m

標高差 1.34m

最大幅 0.65m(P-19グリッド付近)

平均勾配 13%(72区R-20～72区R-19グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 16号溝は、11号道から分岐したOS5号畑とOS40号畑の踏分道とも考えられ、鋤き込みのなされたOS5号畑とOS40号畑への動線として機能していたものとも考えられる。

確認される範囲で1mほどの高低差をもつことから、他の例のように雨水の導水の機能を併せもっているものと考えられる。

18号溝

位置 75区C-8、D-8・9、E-9・10、F-10グリッド。

長さ 18.62m

標高差 0.24m

第3章 検出された遺構と遺物

最大幅 0.56m(C-8グリッド付近)
平均勾配 1%(75区F-10~75区C-8グリッド付近)
重複 なし。
出土遺物 なし。
所見 22A区と21F区で検出されている18号溝と19号溝は、2号道の両端に配されている1号溝・3号溝の延長と考えられる。

19号溝

位置 75区C-8・9、D-9、E-10、F-10・11、G-11グリッド。
長さ 18.62m
標高差 0.23m
最大幅 0.56m(E-10グリッド付近)
平均勾配 1%(75区F-10~75区C-8グリッド付近)
重複 なし。
出土遺物 なし。
所見 18号溝と同様に、18号溝と19号溝の両溝は、2号道の両端に配されている1号溝・3号溝の延長と考えられる。

20号溝(PL.66)

位置 75区P~R-19、S・T-20、U-20・21、V-21・22、W-22・23、X-23・24、Y-24・25グリッド。
長さ 40m
標高差 0.87m
最大幅 0.92m(X-23グリッド付近)
平均勾配 6%(86区A-25~75区P-19グリッド付近)
重複 なし。
出土遺物 なし。
所見 5・6号溝が両側に配される8号道と同様に、20号溝は16号道の山側に配されて、並走している。単位畑と同様に、常時流水のある溝とは異なるものと考えられる。途中OS37号畑への進入路となるように本溝は途切れていることが確認でき、1号取水施設で5号溝と合流するものと考えられる。

1号河道(PL.67)

位置 83区D-5、E・F-5・6、G-5~7、H-7・8、I-8~10グリッド。

長さ 27.5m
標高差 2.52m
最大幅 2.6m(H-7グリッド付近)
平均勾配 9%(83区I-10~83区D-5グリッド付近)
重複 なし。
出土遺物 摺り鉢と染付片
所見 自然流路と考えられる。現況においても、上位段丘からの自然流路が調査区内のやや北東よりを南に下り東へ方向をとり流下している。1号建物を中心とする、あるいは、調査区外にある畑などからの排水を目的とした雨水等を導くためと考えられる12号溝には、As-A軽石の堆積層が確認されるが、1号河道に堆積を確認することはできていない。このことから、判断すると、1号河道には、軽石降下時点では流水があった可能性が指摘ある。

1号取水施設(第211図)

位置 75区J-16グリッド。
長さ 1.1m 標高差 0.13m
最大幅 0.94m(J-16グリッド付近)
平均勾配 12%(75区J-16グリッド付近)
重複 なし。
出土遺物 なし。
所見 西からくる20号溝と北東からくる5号溝、6号溝とが交差する地点で、8号道(16号道)を超えて導水するために設けられている。数10cmの礫を用いて、雨水等の導水を確保するために設けた施設と考えられる。また、8号道(16号道)の存在から、そこを越えるような構造物があった可能性もある。

1号水場(第196・212図、PL.67)

位置 82区W-9グリッド。
長軸 1.9m
短軸 1.5m
深度 0.9m
出土遺物 なし。
所見 地表に近い不透水層の上位に存在する地下水などの自由地下水(不圧地下水)を取水するために設けられた井戸としての機能をもつ溜井の可能性が考えられる。

発掘調査時にも湧水が多く、周囲の自由水が多い場所であった。調査時点では、検出には至っていないが、本遺構から南に位置する平坦な場所は、周辺を扱った検地帳においても極少ない水田が営まれた可能性があるが、この点について詳細は不明であり、今後の課題である。隣接する341号土坑と関連する遺構とも考えられる。

本遺構から、南の平坦部分にかけて、礫が乱れて散在し、溜井などの解釈も成り立つかもしれない。断面図の図化がなされていないため、深度や礫等に関する状況については不明である。

5. 石垣・石列・集石

1号石垣(第196図)

位置 83区D・E-13グリッド。

立地 1号建物の裏手北西側の斜面の段差造成がなされた所産と考えられ、等高線に沿うように設けられている。形状 平面的には長さ6m弱が配置、確認される。裏込め等が露出して検出されているが、泥流被災あるいは、調査の段階で多少の削平がなされたものと考えられる。途切れて、ほぼ直線状に配置されている。基部には、短辺28cm、長辺40cmほどの角礫を横口積みで配置し、最大のもは、短辺35cm、長辺45cm。拳大、人頭大の礫が裏込めに込められていたと推定される。

規模 (長さ) 5.8×(幅) 0.4×(高さ) 0.45m。

最大高 0.42m 2段(F-13グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 耕作面は不明だが、棚田状の水田や畑耕作地など



第211図 1号取水施設、8号道、5・6号溝

において、その下斜面を保持するための石垣と判断される。

2号石垣(第196図)

位置 83区C-12、D-11・12、E-11グリッド。

立地 水田ないしは耕作地として利用された壇状の平坦部と1号建物の所在した平坦部分との境界に、平面で鉤の手状に続く。起点となる83区C-12グリッド付近には、地山もしくは、人為的に土坑等に投げ入れ片付け処理したと思われる大礫が含まれている。

形状 平面的には中央付近で屈曲し、南東側に僅かに膨らんでいる。長さ5.5mで直線に配置される西側の1列

と、3.5mの東側の1列はやや軸がずれるがほぼ平行している。西側と東側の各列は、全体に直線で構成され、基部には、短辺28cm、長辺42cmほどの角礫を横口積みで配置し、最大のものは、短辺40cm、長辺80cmである。

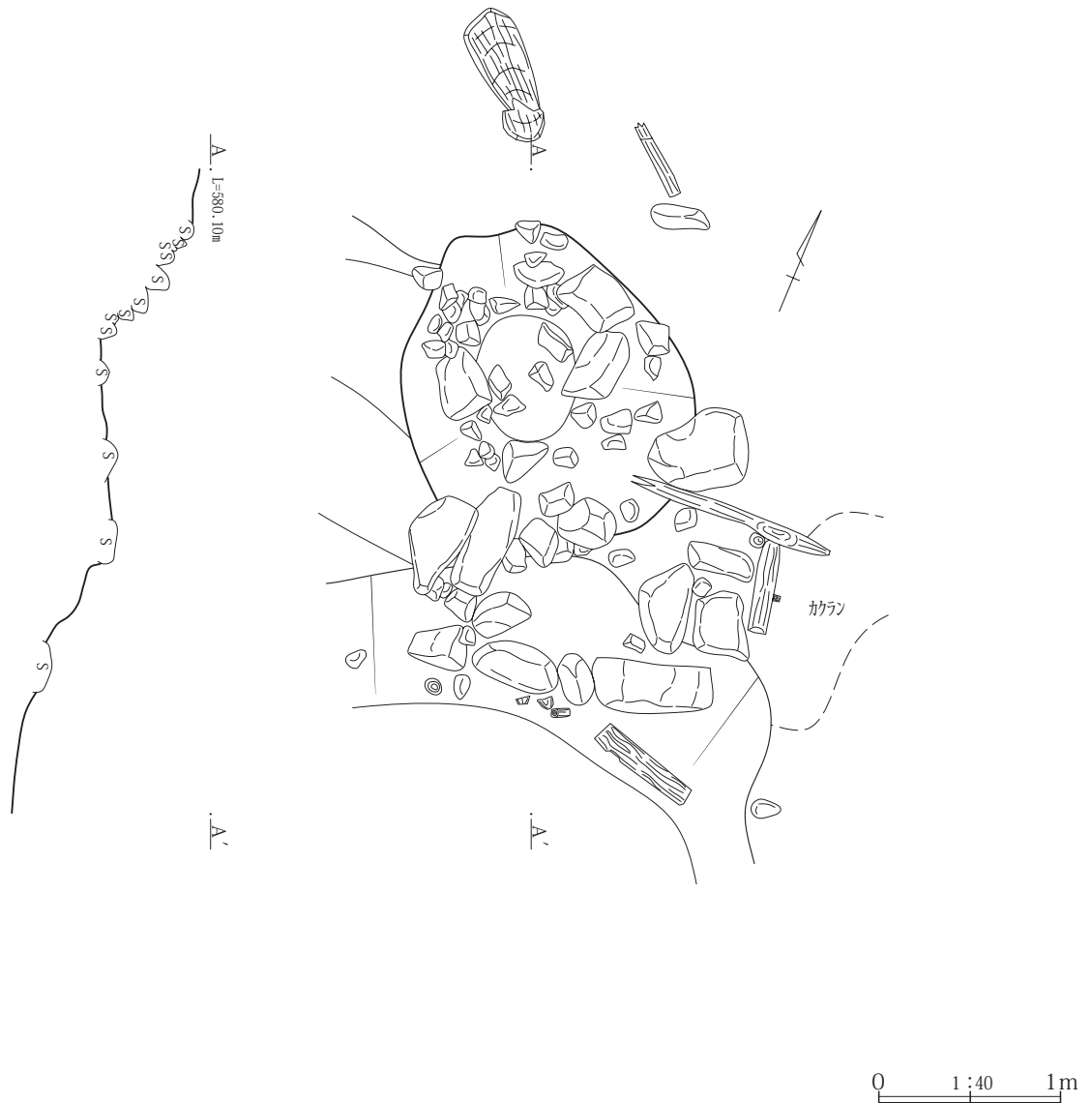
規模 (長さ) 13.5×(幅) 0.9×(高さ) 0.8m。

最大高 0.8m 4段(D-12グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 耕作面は不明な点も多いが、棚田状の水田ないしは畑耕作地と建物の所在する平坦部分の面を保持するための石垣と判断される。泥流被災あるいは、遺構検出に上位部分の一部を削平している可能性もある。



第212図 82区1号水場

3号石垣(第196図)

位置 82区X・Y-10グリッド。

立地 OS2号畑とその北西の南東側へ傾斜する1号建物の所在する平坦部分を区画し、等高線にそってほぼ直線状に築かれている。基部には、短辺34cm、長辺45cmほどの角礫を横口積みで配置し、最大のものは、短辺70cm、長辺167cm。拳大～人頭大の礫を使い、全体的に緻密で堅固に積まれている。

規模 (長さ) 3.0×(幅) 0.8×(高さ) 0.7m。

最大高 0.3m 2段(Y-10グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 耕作面は不明だが、棚田状の畑耕作地などにおいて、その下部の斜面を固定するための土留めとしての石垣と判断される。泥流被災あるいは、遺構検出に上位部分の一部を削平している可能性も見受けられる。

4号石垣(第196図)

位置 82区X・Y-9～83区A-9グリッド。

立地 北側から南側への傾斜地に、等高線に対して斜めに交差し、OS3号畑の北側を保持するように立地し、OS3号畑とは、幅80cm・深さ30cmほどの明瞭な根切り溝により区画される。

形状 平面ではほぼ直線状をなし、中央付近で、中段を形成するために積まれたかのように分岐する。僅かに西側で屈曲するが、OS3号畑の北側の形状と一致するものと思われる。分岐した北側の並びは、多少の削平をうけているものと考えられる。短辺50cm、長辺110cmほどの角礫を横口積みで配置し、最大のものは、短辺70cm、長辺215cm。拳大～人頭大の礫で、全体的に緻密で堅固に積まれている。

規模 (長さ) 7.7×(幅) 0.4×(高さ) 0.7m。

最大高 0.3m 2段(Y-9グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 OS3号畑との明瞭な根切り溝により排水性を保持しているものと考えられる。棚田状の畑耕作地などにおいて、その下部の斜面を固定するための石垣と判断される。泥流被災あるいは、遺構検出に上位部分の一部を削平している可能性も見受けられる。

5号石垣(第196図)

位置 82区V～X-9グリッド。

立地 北側から南側に下る傾斜地に、等高線に対してやや斜めに立地。形状 平面的に中央付近で僅かに屈曲し、全体的に北側に僅かに膨らんで緩やかな弧を描く。長さ3.2mで直線に配置される西側の1列と、大きく屈曲してやや不規則に据えられた東側の石列を確認。基部には、短辺30cm、長辺65cmほどの角礫を横口積みで配置し、最大のものは、短辺30cm、長辺65cm。拳大～人頭大の礫で、全体的に緻密で堅固に積まれている。

規模 (長さ) 5.3×(幅)×0.8(高さ)-m。

最大高 -m 一段(-グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 地表に近い不透水層の上に存在する地下水などの自由地下水(不圧地下水)を取水するための機能をもつ溜井と思われる1号水場からの導水的な施設という考え方もできるが、詳細は不明である。周囲は、発掘調査時にも湧水が多く、周囲の自由水が多い場所であり、南に位置する平坦な範囲とのかかわりは、1号水場で記述した通りである。南の平坦部分にかけて、礫が乱れて散在している。石垣上位は、泥流ないしは、表土掘削時に削平されてしまっている可能性があり、詳細については不明である。

6号石垣(PL.66)

位置 84区F～I-7・8グリッド。

立地 25B区の北側の傾斜勾配の変換する傾斜地に、等高線に対してやや斜めに立地。

形状 平面的にはほぼ直線的をなし、調査区北側の段丘段差の始まり付近に築かれ、OS42号畑とOS10・11号畑との境界の段差を形成している。基部には、短辺35cm、長辺85cmほどの角礫を横口積みで配置し、最大のものは、短辺45cm、長辺60cm。拳大～人頭大の礫で、全体的に緻密で堅固に積まれている。

規模 (長さ) 14×(幅) 1.8×(高さ) 0.7m。

最大高 0.68m 4段(84区G-7グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 6号石垣及び、19号道は、25B区内でのみ確認さ

れているため、その東西方向がどのようになっているかは不明だが、OS11-7号平坦面が石垣に沿って所在している様子からすれば、OS10-1・6号平坦面の存在から、調査区の北側際に続いていくものと判断される。

7号石垣(PL.67)

位置 63区Q-8~11、R-11、S-11・12、T・U-13、V-14、W~Y-15~64区A~D-15グリッド。

立地 OS32号畑とOS33号畑を取り巻くように北側の段丘の段差とを保持するために構築されている。

形状 平面的に直線となっている西部分、やや小振りの円礫を中心に用いて築かれた中央部分、途切れながら残存する東側部分の3つの部分に分けられる。西部分には、比較的大きな垂角礫が用いられ、中央部分には円礫が用いられ、さらに小さな円礫が沢山用いられている特徴がある。東側では礫が途切れる部分や地山の礫を用いてあてがわれたかと考えられるような構成になっている。

西側はほぼ直線をなし、途中、OS32号畑とOS33号畑の境界付近でスロープを形成するかのような部分がある。西側と中央の石垣の接合点付近では、積み方による新旧関係があるようにも観察できる。さらに、中央と東側の石垣の接合付近は、南西方向に突出するような形状を呈しており、集めた礫を裏込めに処理をしているかのようには見えませんが、詳細は不明である。

石垣上位は、泥流ないしは、表土掘削時に削平されてしまっている可能性があるが、耕作地において、段丘地形の斜面を保持するための石垣と判断される。

1号石列

位置 63区W-25~73区T~V-4、X-3、W-2~4グリッド。

立地 北東方向への傾斜地に、等高線に対して垂直方向に開析するように、OS18-3号畑・OS19号畑・OS20号畑とOS22号畑を区画している。

形状 平面で、ほぼ2本の直線は鉤の手状を呈する。

規模 (長さ) 29.32×(幅) 0.95×(高さ) 0.22m。

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 OS18-3号畑・OS19号畑・OS20号畑とOS22号畑の地境を明確にするために埋め込まれたものと考えられ

る。

2号石列

位置 75区E・F-22グリッド。

立地 等高線に沿うようにOS36号畑とOS39号畑を畝方向に区画している。

形状 調査区内では、平面で、ほぼ直線を呈す。

規模 (長さ) 5.5×(幅) 0.6×(高さ)-m。

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 OS36号畑とOS39号畑の地境を明確にするために埋め込まれたものと考えられる。

1号集石(第213図、PL.67)

位置 83区L-9・10、M-10グリッド。

立地 OS8号畑は、調査区内で検出された範囲でほぼ北限と思われる。北の山側段丘地形への変換点と思われる場所に、石積みが残されていた。

形状 2.3mの距離を置いて並走するように石積みが確認された。基部には、短辺40cm、長辺96cmほどの角礫を横口積みで配置し、最大のものは、短辺178cm、長辺942cm。拳大の礫を中心に全体的に緻密で堅固に積まれている。

規模 2.82×2.64m。

最大高 1.25m 2段(L-10グリッド付近)

重複 なし。

出土遺物 なし。

所見 天明三年の被災当時は、その形状と考えられ、その範囲を18号道としたが、その石積みについては不明瞭な状況であった。掘り下げていくことで、ほぼ正方形に礫の密度の濃い部分が確認でき、特に東端は石積み状にも思えるような礫の重なり具合だった。あるいは、人為的に礫を基壇状に積み上げられたものかもしれないと考えられるが、詳細については不明であり、集石遺構として報告する。

6. 焼土

1号焼土(第213図、PL.68)

位置 72区U-22グリッド。

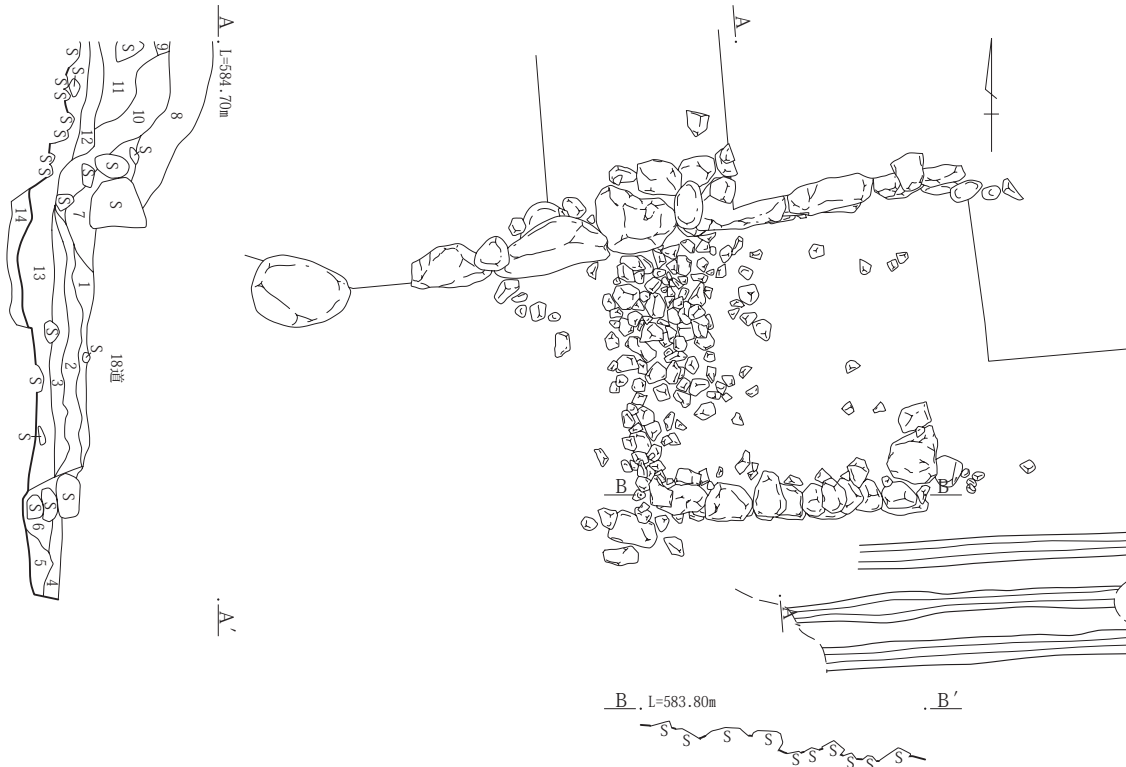
形状・規模 長軸103×短軸47×深さ12cm

主軸 N-89°-E

所見 明瞭な焼土が確認されるが、周辺には、As-A軽石が欠損する範囲となり、天明三年以降の攪乱の可能性もある。また、OS6-3・4号畑の11号道側の畝サクの見

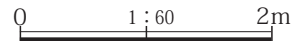
極めも不十分の可能性があり、畑遺構と同時期に存在したものではない可能性がある。この地点の1/5000現況地形図との比較による表土及び天明泥流堆積物の厚さは、1.5mである。

1号集石

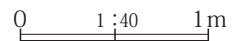
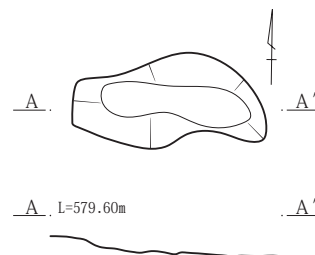


1号集石

1. 暗褐色土 18号道(天明3年以降)に伴う硬化面。南側が特に硬化強い。5~100mm大の礫僅かに含む。
2. 暗褐色土 黄褐色砂礫層を不均質に水平に斑状に含み、締りやや弱い。
3. 暗褐色土 砂質味強く5~20cm大の人為的に集められた礫を主体とし、砂質味強い。
4. 暗褐色土 As-A下作土。
5. 暗褐色土 やや締りやや強く、礫を含まない。5~20mm大の黄白褐色パミスを極少量含む。
6. 暗褐色土 1号集石の石列のため掘り込み。5層に比べ締りやや欠く。
7. 暗褐色土 18号道に伴う石列のため掘り込み。締りやや欠く。
8. 表土 礫、コンクリート含む。(攪乱)
9. 砂礫多く含む。(攪乱)
10. 9と近似、やや締りがある。(攪乱)
11. 砂(川原砂)多く含む。泥流土主体。
12. 黒褐色土 地山土、YPK、大小の礫含む。(弥生後期土器片出土)
13. 暗黒褐色土 黒味強くやや粘性、締りあり。
14. 暗黒褐色土 砂礫やや多く含む。



1号焼土



第213図 1号集石・1号焼土

7. 土坑

江戸時代の土坑については、基本的に天明泥流下において検出されたもので、なおかつ単独で機能していたと判断されたものに限って記載を行う。

このため、建物等に付随するもの(1号建物内8号土坑、3号建物内4・5号土坑)や、人為的な掘り込みと判断されなかったものは外した。また、番号は各年度を跨いで通番で付した。

江戸時代の土坑については極めて少数の検出であったため、記載番号が大きく飛んでいることを了解願いたい。

1号を除く土坑については、楕円または円形に石を廻らし、南に開口する炉状の形態を有す。内部には炭化物や焼土が見られ火を用いたことを示している。畑との関連を窺わせる遺構である。

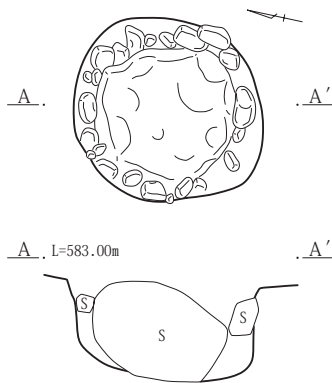
1号土坑(第196・214図、PL.68)

位置 83区C・D-13グリッド。

形状・規模 長軸110×短軸105×深さ56cm

主軸 N-12° -W

1号土坑



所見 大礫を核に不要となった小礫が投げ込まれているものと考えられる。また、隣接する礫の確認されていない2基の土坑は、大礫の跡と考えると、不要な礫を片付けながら、2号石垣造成に伴う地業が行われた痕跡と考えることができる。なお、このことで壇状に均された部分の用途や詳細については未確認である。

86号土坑(第196・214図、PL.68)

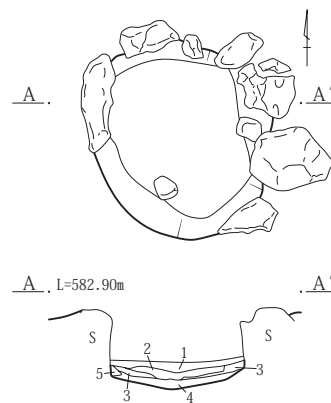
位置 83区I-8グリッド。

形状・規模 長軸140×短軸98×深さ43cm

主軸 N-10° -W

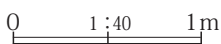
所見 石垣炉状に構築された本土坑では、用いられた礫には、相応の被熱状態が確認される。また、底部に堆積した土層では、焼土が数層に水平堆積していることから、複数回の火入れが行なわれたことが確認できる。畑遺構に付随する生産址として考えるべきと思われる。同様な例として、315号土坑が、0S36-1号畑内で検出されている。共通する形態として、石垣になる礫が南側の一部で途切れていることが確認できる。

86号土坑



86号土坑

- | | |
|-------------|------------------------------|
| 1. 黒褐色土 | 耕作土と同質の土。As-A堆積は見られず。 |
| 2. 暗橙褐色土 | 焼土と炭化層塊が混在。 |
| 3. 浅黄橙色土 | 粘土質。周囲の盛土状粘質土と類似、上面の焼土とは異なる。 |
| 4. 橙褐色土(橙色) | 2、3の焼土とは土質異なる。細粒子、炭化粒を含む。 |
| 5. 暗褐色土 | 炭化粒、焼土を含む。 |



第214図 土坑(1)1・86号土坑

315号土坑(第215図、PL.68・69)

位置 75区O-20グリッド。

形状・規模 長軸150×短軸120×深さ25cm

主軸 N-8°-W

所見 86号土坑と同様に、石囲炉状に構築された本土坑では、用いられた礫にも相応の被熱状態が確認される。また、底部に堆積した土層では、焼土が数層に水平堆積していることから、複数回の火入れが行なわれたことが確認できる。畑遺構に付随する生産址と思われる。86号土坑と共通して、石囲いの礫は、南側一部が途切れている。本遺構の存在は、畑耕作が営まれている中で、平坦面と同様に、存在していた遺構であることに着目しておく必要がある。

341号土坑(第215図、PL.69・120)

位置 82区W・X-9グリッド。

形状・規模 長軸160×短軸138×深さ85cm

主軸 N-46°-W

所見 遺構検出面では、石囲と雑多な小礫が覆土中にみついている。内部には、20cm大以下の小礫のほか、用途不明の丸太状の木材、正方形の小板材と思われる木製品が含まれていた。

掘り方から確認できる形状として、南東方向に開口する3方向を大まかに礫で囲った状況を呈しているものとみられる。底部には、As-A軽石が確認できる。用途や機能については不明であるが、隣接する1号水場遺構と関連している可能性が指摘できる。

8. 暗渠

1号暗渠(第216・217図、PL.72・73・120)

位置 84区H-6～84区G-5、84区H-6～84区F-7、84区H-6～84区I-7グリッド。

長さ (20.15)m

標高差 0.64m

最大幅 1.02m(G-6グリッド付近)

平均勾配 3%(84区J-6～84区G-5グリッド付近)

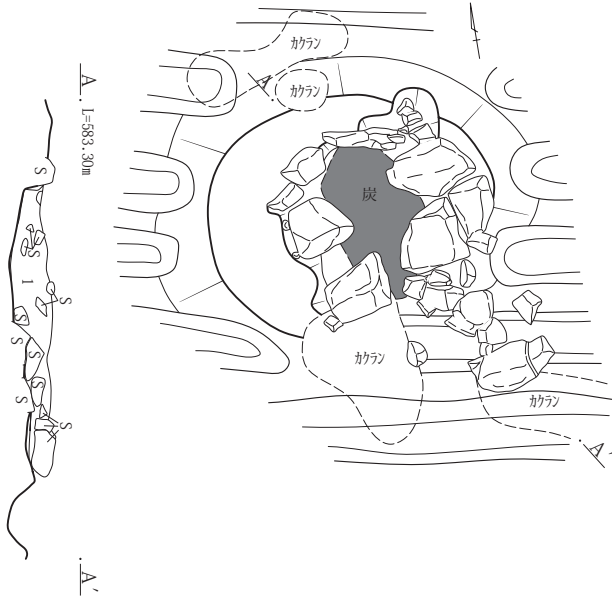
重複 なし。

出土遺物 銅製品、鉄滓

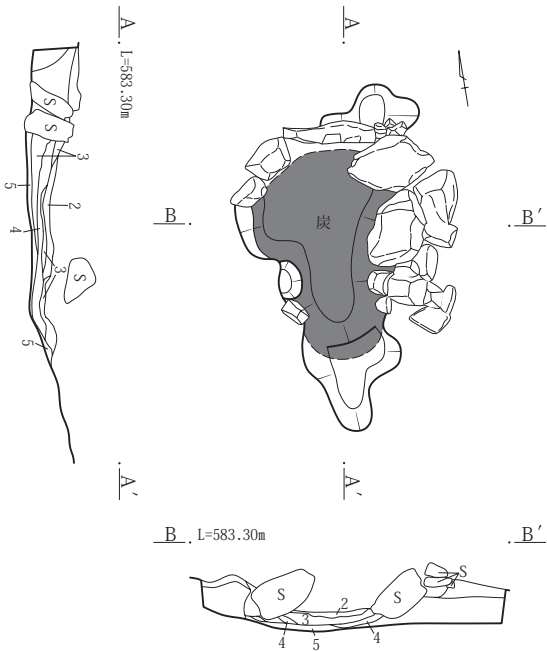
所見 泥流畑の下位80cmほどの掘り込みをもち構築されている。用途としては、0S11号畑の排水性の向上を計っ

た暗渠と考えられる。検出された範囲内で、北東の19号道に近い石垣際の1カ所が起点であったと確認されている。ちょうど、畑の地境を起点にしていることを鑑みると、0S10号畑とは、畑の所有関係が異なるなどの理由にもなるかもしれない。用いられている礫は様々で、およそ2万年前に発生した前橋泥流中に多く含まれている赤色の浅間石も含まれ、垂円礫や垂角礫など、種類や様相は一定していない。ただし、大きさについては構築手順に合わせて、断面で、人頭大の礫を中心に用い、両壁になるように据え空間を確保し、蓋になる礫を置き、さらに、その上に集めた小礫を厚く被せるという構造を確認することができる。調査時に外した石組みの礫を積み上げて、用いられ充填された礫の概算量を積み上げ計測した。作業の結果、調査区内で検出された礫は、縦横2.5×2m、高さ0.45m程度に片付けられた。

315号土坑
(1面目)



(2面目)

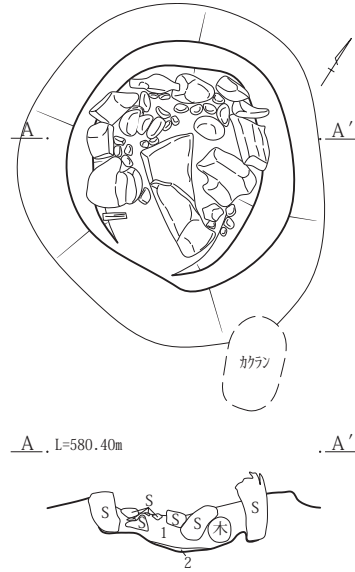


315号土坑

1. 泥流
2. As-A 炭化物上。
3. 暗黒褐色土 焼土混入、炭化物多く、黒色土ブロック含む。
4. 橙褐色土 灰を含む焼土層。
5. 暗黒褐色土 若干の焼土含み、やや縮りのある黒色混入土。

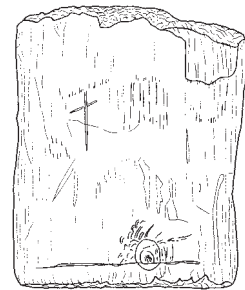
0 1:40 1m

341号土坑

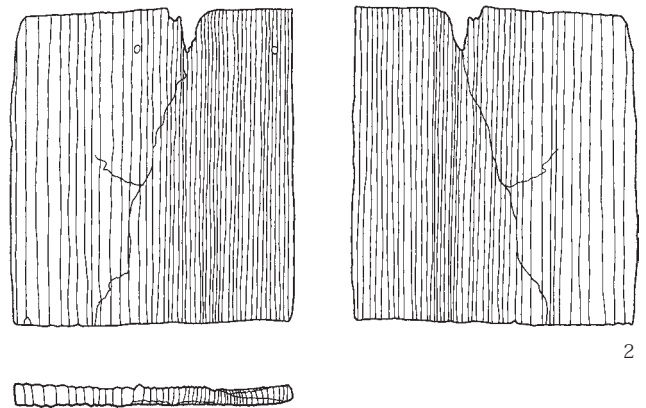
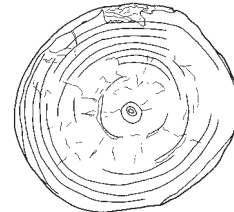


341号土坑

1. 黒色土 As-A泥流。焼礫を混入。
2. 暗褐色土 若干の焼土、炭化物含み粘性あり。



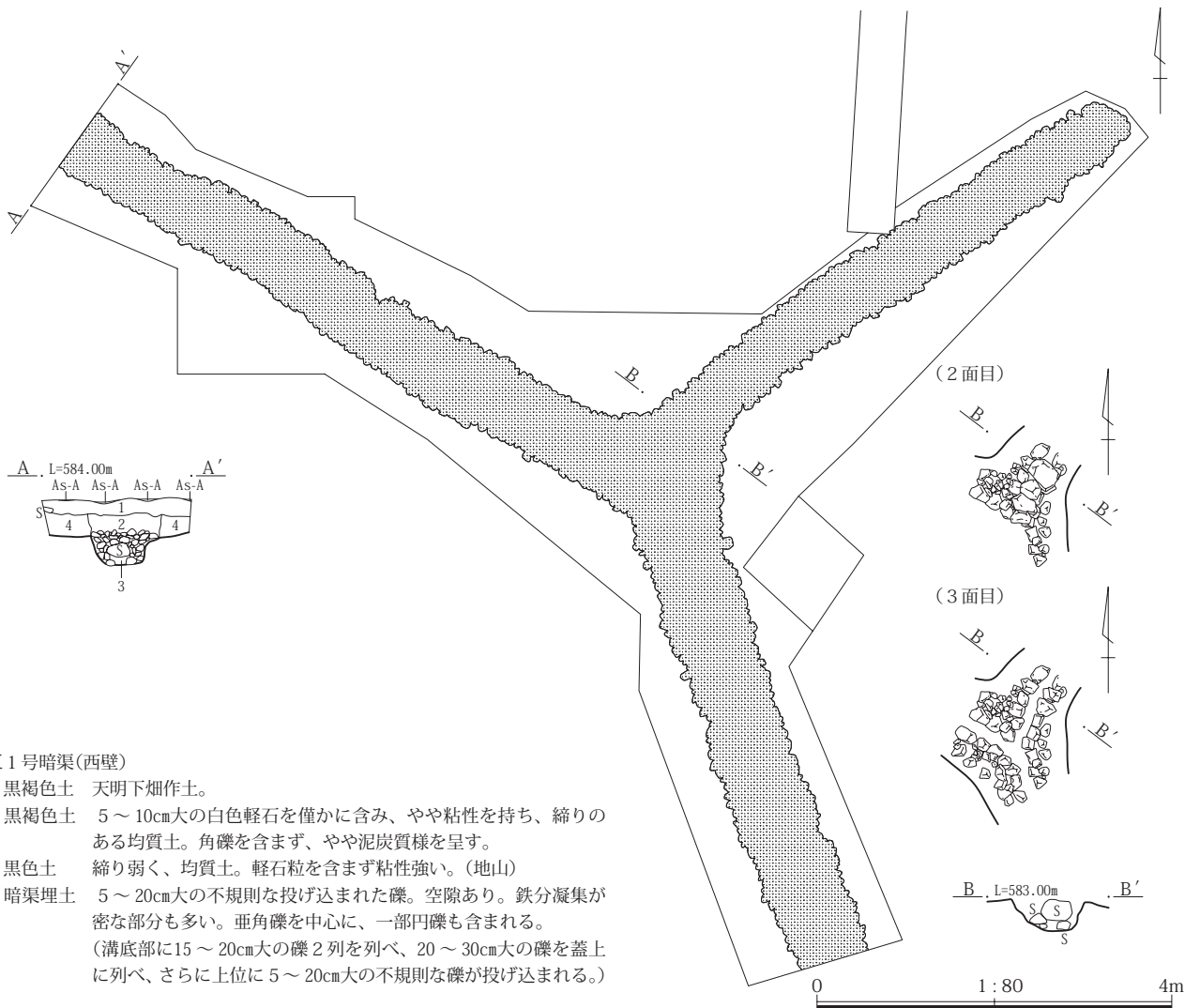
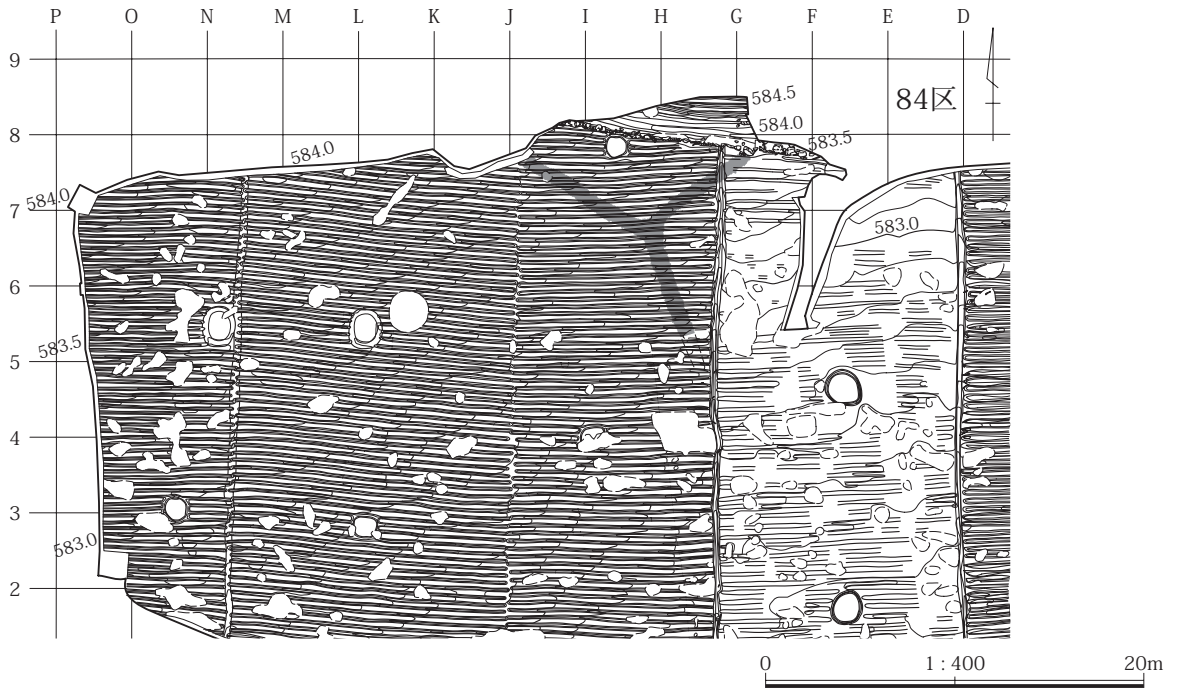
1 (1/4)



2

0 1:4 10cm
0 1:3 10cm

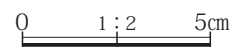
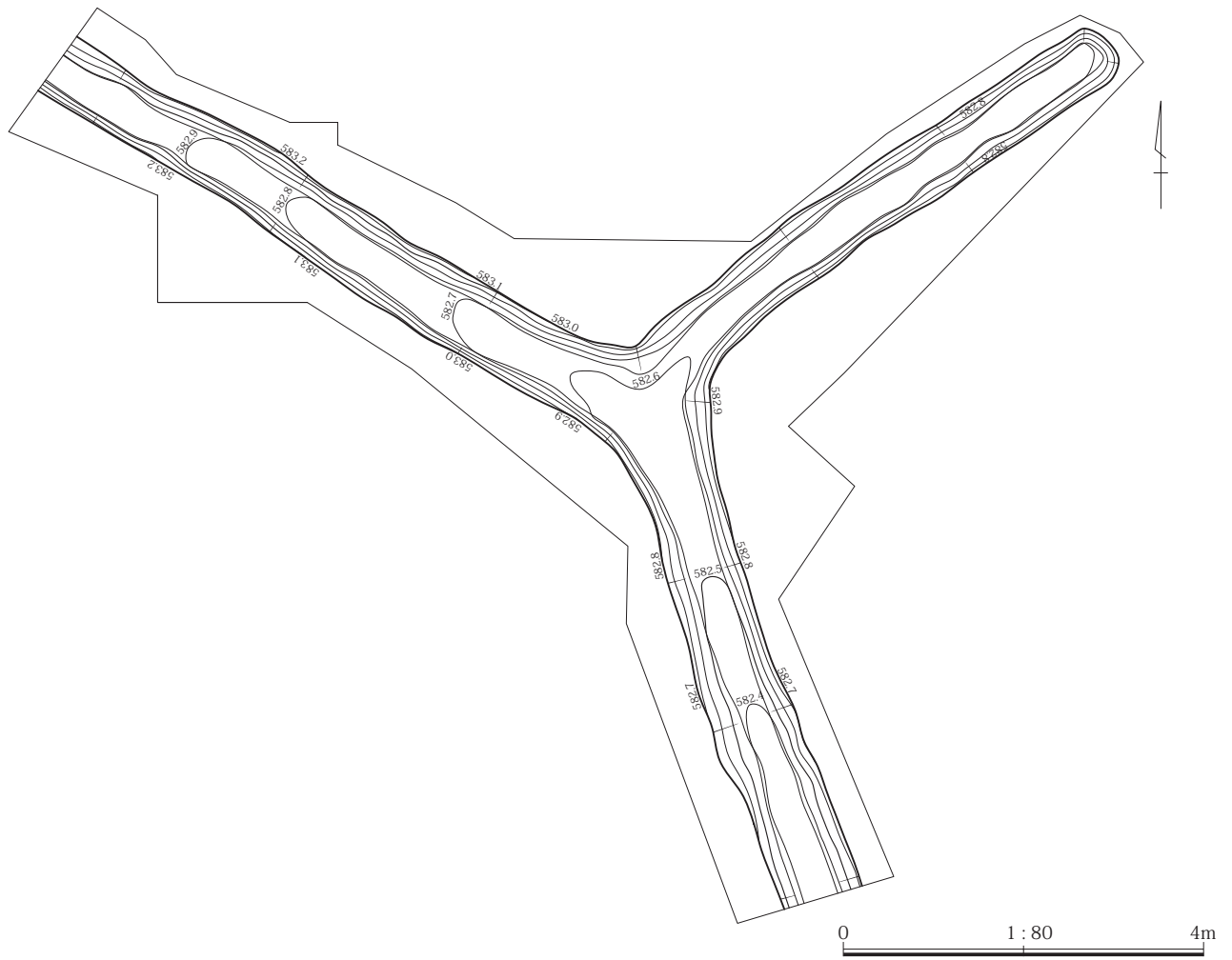
第215図 土坑(2) 315・341号土坑・341号土坑出土遺物



B区1号暗渠(西壁)

1. 黒褐色土 天明下畑作土。
2. 黒褐色土 5～10cm大の白色軽石を僅かに含み、やや粘性を持ち、締りのある均質土。角礫を含まず、やや泥炭質様を呈す。
3. 黒色土 締り弱く、均質土。軽石粒を含まず粘性強い。(地山)
4. 暗渠埋土 5～20cm大の不規則な投げ込まれた礫。空隙あり。鉄分凝集が密な部分も多い。垂角礫を中心に、一部円礫も含まれる。
(溝底部に15～20cm大の礫2列を列べ、20～30cm大の礫を蓋上に列べ、さらに上位に5～20cm大の不規則な礫が投げ込まれる。)

第216図 1号暗渠(1)



第217図 1号暗渠(2)・出土遺物

9. 植物痕(第218・219図、PL.70)

畑の調査において、耕作面の精査時に植えられていた作物痕跡が確認されているが、有機質としてその一部が残ったものも検出されており、分析をおこなったが種の同定には至らなかった。こうした作物痕以外にも、畑面において様々な植物が検出されている。

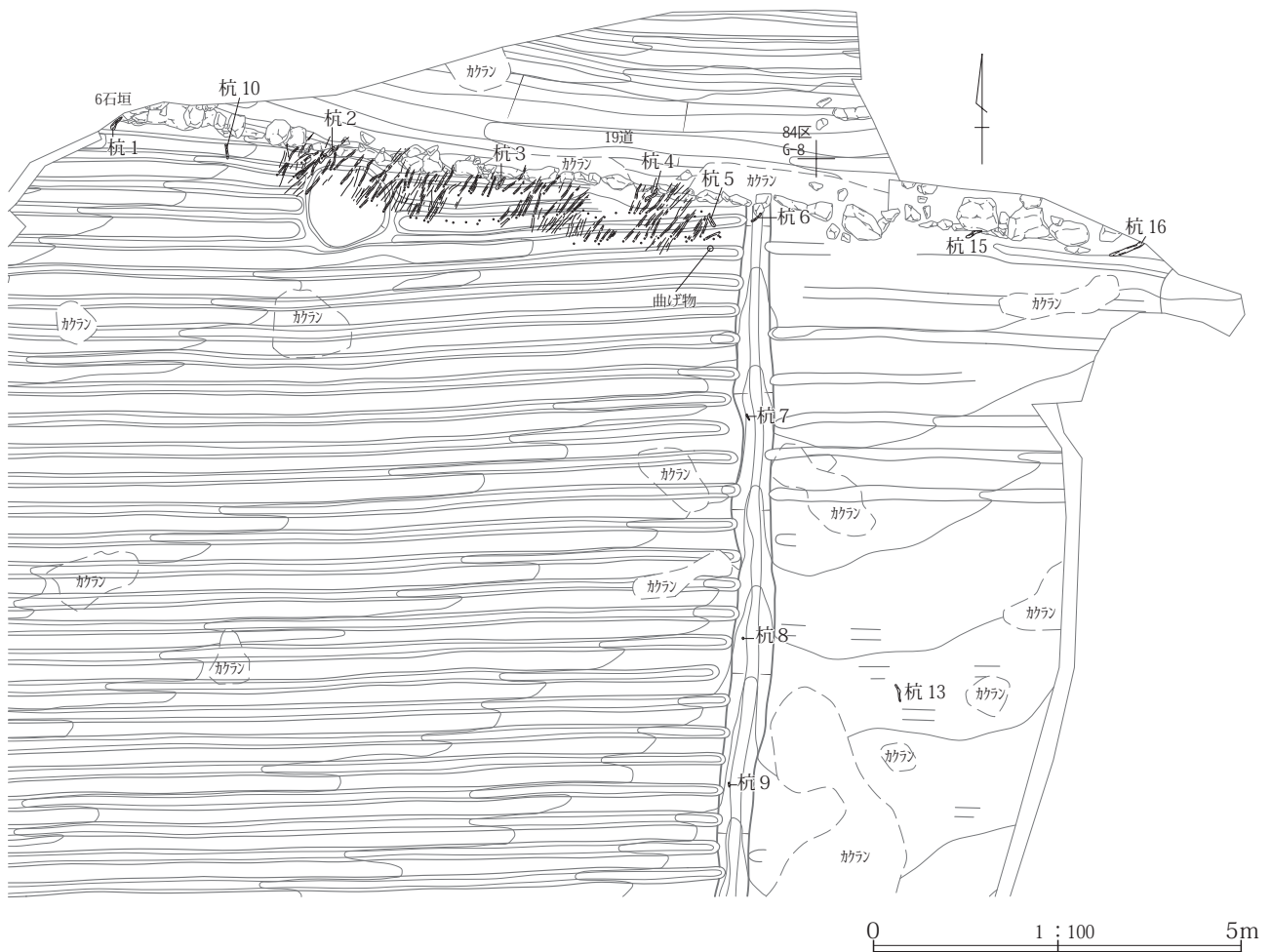
平成22年度に調査を行った74区(22C・D区)の泥流畑面においても多くの植物痕が検出されている。その多くは泥流により上流方向からの力で下流方向へ押し倒されていた状況が見られる。形状は地上部の茎は複数に枝分かちしているものが多く、茎は中空となる。いずれも低木である。また、溝に沿って植えられていたものの中には桑と見られる木も検出されている。

これらの木は、作付けされた作物の痕跡ではなく、畑境に植えられた境木と考えられる。

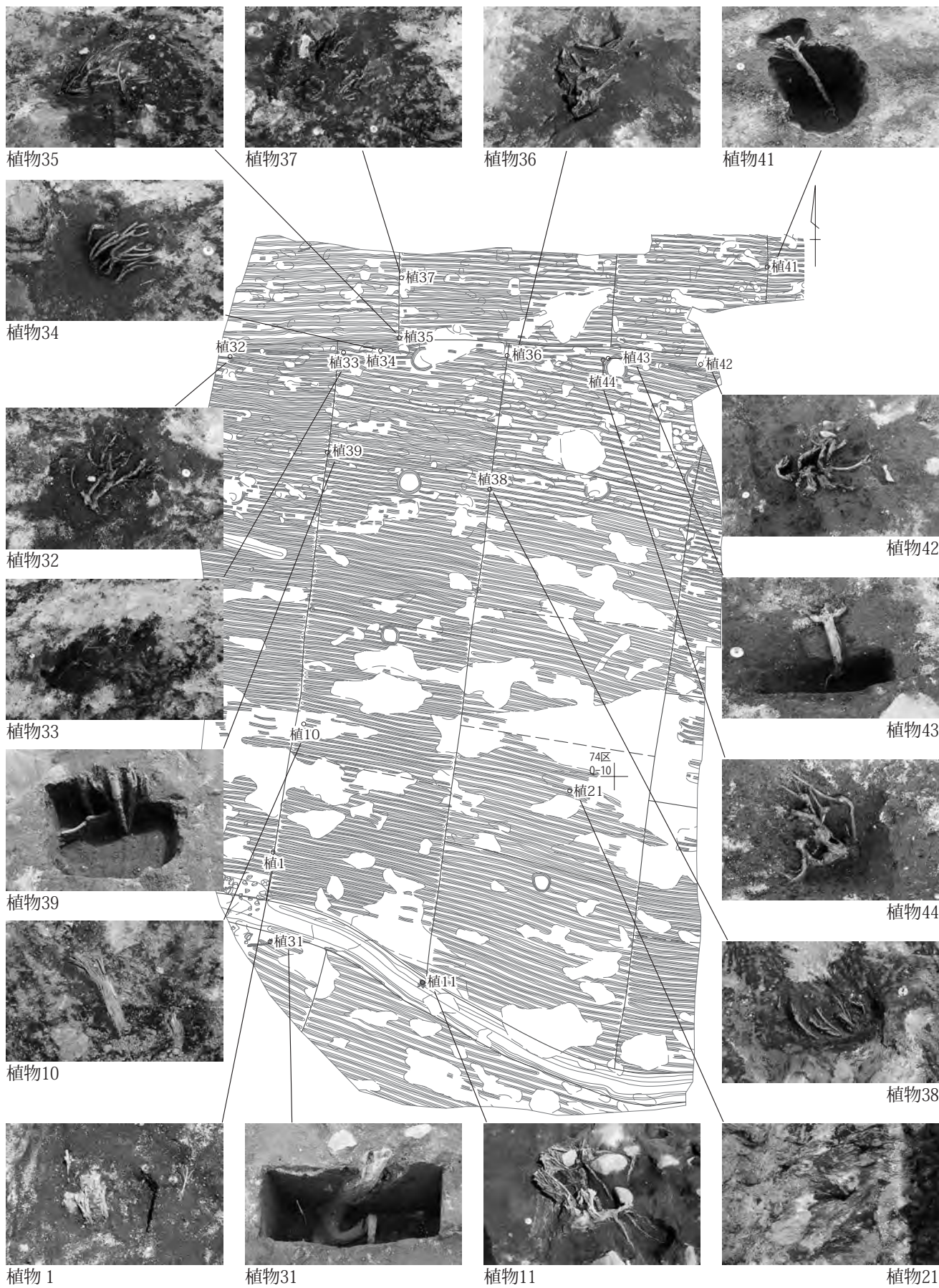
図219で示したように、畑境のラインと良く一致しているのが判る。

杭1～16(第218図、PL.71)

平成25年度の調査において、84区のO10・11畑で検出された。そのうち杭11は、境木と思われる樹木の茎及び根の部分であるが作業の便宜上、「杭」とした。杭11を除くほとんどのものが、樹木の枝を鉋などの鋭利な刃物で打落し、杭のようにして地面に挿した状況が検出できた。泥流により倒伏したものが多いと思われるが、大半は、畑耕作土に挿された原位置を留めているものと思われる。分布は0S10号と0S11号畑の6号石垣に沿うようにほぼ等間隔で、また、両畑の地境となる2号溝、両畑の作土中に埋没する状態で検出されている。観察や詳細記録については、別表13の通りである。



第218図 植物圧痕・木杭・曲物出土位置図



第219図 74区A 下畑植物出土位置・出土状況写真

表13 H25年度 B区 杭注記計測一覧 単位：cm

番号	埋込長 (残存長)	剖面数 (面の最大長)	杭の 最大径	杭と地山の隙間の As-A軽石の検出深さ	出土位置	備考
杭1	28 (68)	2 (14・20)	6	10	115畑	樹種は、ナラ等の広葉樹と思われ、樹皮を残す。
杭2	21 (75)	3 (7・8・15)	7	12	115畑	杭1に同じ。
杭3	30 (61)	3 (7・12・14)	4.5	30	115畑	杭1に同じ。
杭4	泥流中(33)	1 (7)	4	-	(115畑)	泥流により引き抜かれた？樹種は、ナラ等の広葉樹と思われ、樹皮を残す。
杭5	21 (65)	1 (14)	6	5	115畑	杭1に同じ。
杭6	28 (55)	2 (7・7.5)	4	15	115畑	杭1に同じ。
杭7a	地山-30 (10)	2 (6・9)	3	なし	114畑-115畑	杭1に同じと思われるが、樹皮残存せず。地山中より検出。
杭7b	40 (42)	3 (2・2・2)	2.5	なし	114畑-115畑	一部に中空の材。先端は、3面削られている。ウツギなどの樹種か？
杭8	16 (20)	1 (10)	2.5	5	114畑-115畑	杭1に同じ。
杭9	30 (35)	2 (7・8)	3.5	10	114畑-115畑	杭1に同じ。
杭10	36 (39)	1 (6)	3	なし	(115畑)	樹皮なし。針葉樹か？
杭11 (境木)	(60<=)	-	3.5	-	122畑-123畑	境木であることが確認できたが、便宜上「杭」として処理した。材としては、杭7bと同じ。芯木から9本以上の枝が分かれ残存。写真左は、径5mm程、長さ25cm以上の根が伸びる。
杭12	(83)	1 (8)	3	-	115畑	115畑深さ10cmより出土。材等は杭1に同じ。二股の枝材、元側の先端を断面とする。
杭13	(23)	1 (8)	3	なし	114畑	114畑深さ5cmより出土。付近には、鉋等で削った木端片あり。片面は、発掘痕。
杭14	(30)	1～2 (5程度)、腐敗により詳細不明。	2	-	115畑	115畑深さ25cmより出土。腐敗進んでいるが、年輪が浮き出て残存。芯なし、年輪は10以上が確認できる。針葉樹か？
杭15	25 (65)	2 (15)	6	-	114畑	樹皮なし。針葉樹か？
杭16	33 (103)	2 (12)	7	-	114畑	樹皮なし。針葉樹か？

10. 遺構外出土遺物(第220～232図、PL.71・120～128)

江戸時代の遺物について、遺構に伴わない遺物について記載を行う。天明泥流面において出土した遺物の多くは泥流により流されたものが主体を占めていると思われ、建物や土坑以外の遺構から出土したものについては遺構外出土遺物として記載を行う。

出土位置が特定されたものでも、杭など被災以降も原位置を留めていると思われるもの以外は、遺構外として扱うこととする。一部の植物根については、人為的に植えられたものと考え、その位置が意味を持つ可能性が指摘できるため遺物として末尾に記載した。

遺物は陶磁器類、金属製品、石器、木器、自然木等である。

陶磁器類の出土傾向を示した(図232)を見ると、建物が確認された83区の18A区以外では、75区の東側から74区の吾妻川寄りに比較的多く出土している傾向が見られる。この部分では、建物や目立った遺構は確認されおらず、何らかの要因があるのかもしれない。

出土遺物について細かく見てゆくと、陶磁器類の多くは小破片で、畑の耕作面や耕土中から出土している。碗や皿以外には、ひょうそくや播鉢、焙烙の破片などが見られる。

金属製品については、銭貨なども畑から点在して出土している。総点数15点が見られる、中世に比定される渡来銭などもあるが、江戸の畑より出土したため、遺構外

として扱っている。

その他、煙管、釘などに混じって用途不明な銅製品、鉄製品が見られる。さらに、鉄砲玉、鉄滓などが出土している。

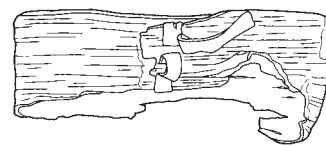
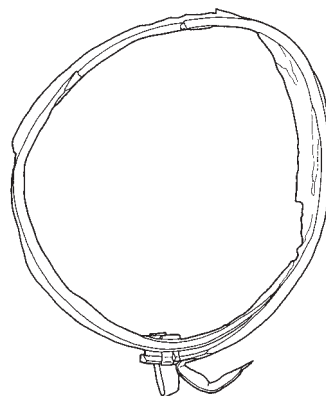
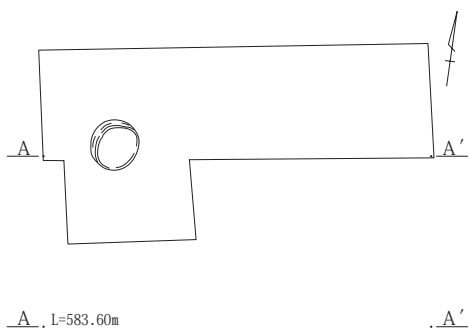
石製品は硯の破片1点、砥石が複数出土している。ほとんどは砥沢石と呼ばれる凝灰岩製のもので、県内の江戸時代の遺跡において出土する砥石の石材として多く見られるものである。

木製品は建築部材と思われる板材や、道具の部分などが出土しているが杭が最も多く、かなり大きなものも見られ、建築部材としての加工痕も見られる。その他、小振りの杭片なども多い。

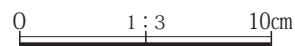
畑に使われていたものが流された可能性が想像される。杭の多くが先端部のみのものが多く、上部は朽ちてしまい、地中に残っていた先端部が泥流の力で押し流され表面に露出したものと思われる。

なお、前述した杭の並びからわずかに南に寄った、84区G-7グリッドにおいて、畑面から15cm程下がった土の中より、曲物が出土している。(図220)径12cm程の円形でいわゆるまげわっぱと呼ばれるもので、針葉樹の薄板を円形に曲げ、サクラの樹皮で留めている。底は無かった。断面観察では、掘り込み等は確認されず、軽石層が積もった耕作土中に在ったことが確認されている。

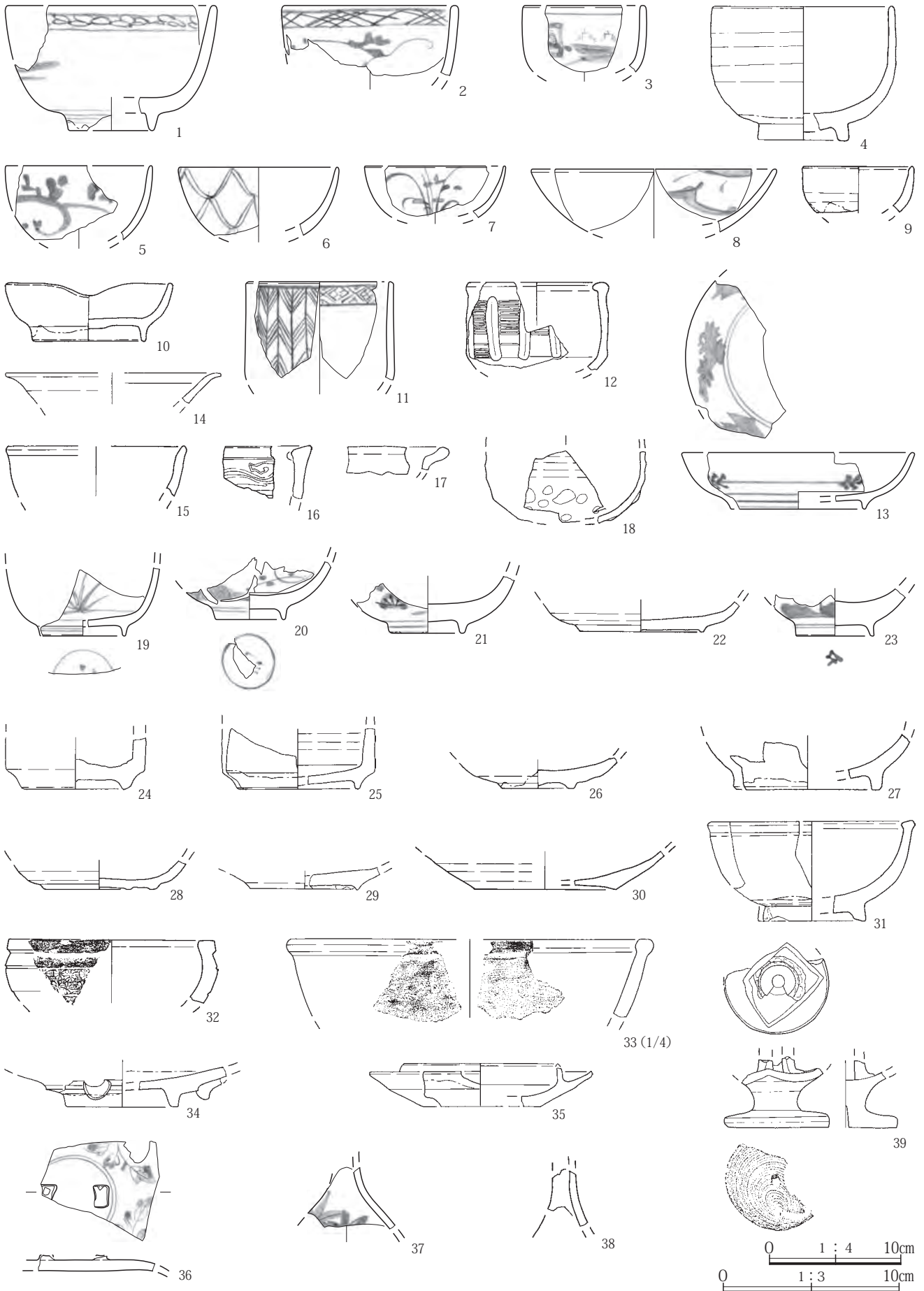
地中に在った経緯は不明である。



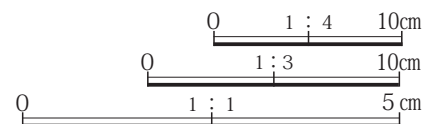
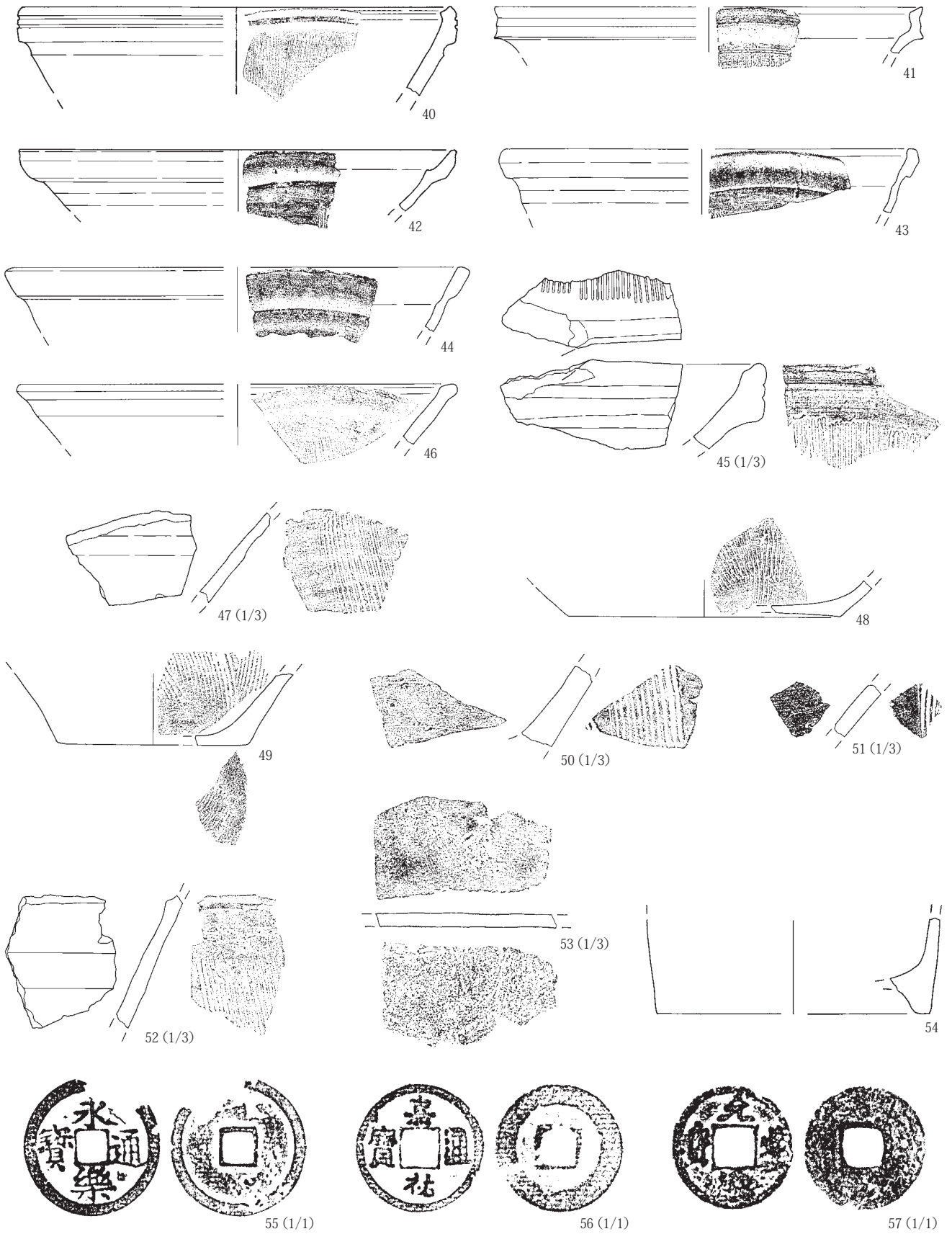
1



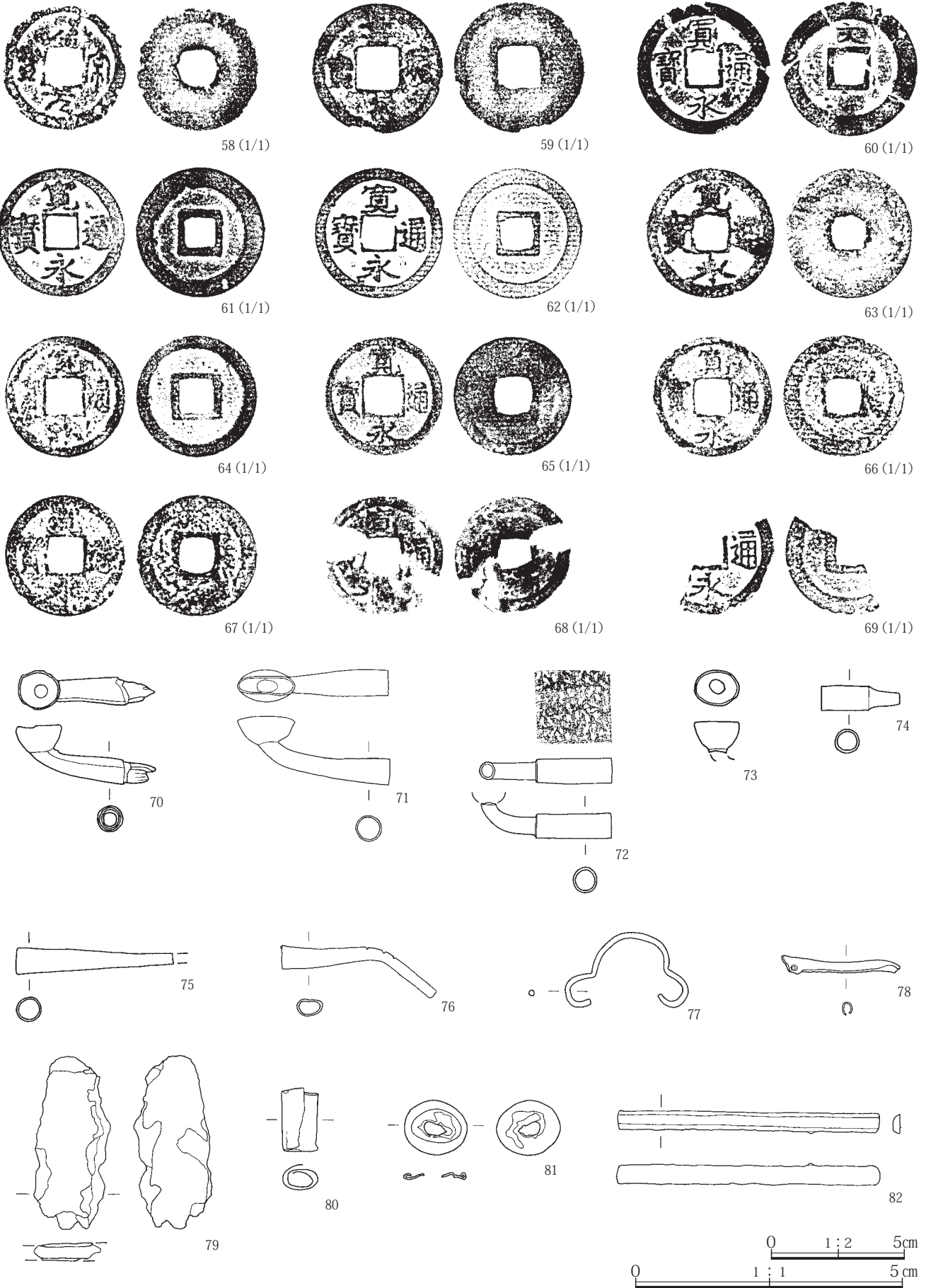
第220図 曲物出土位置図および実測図



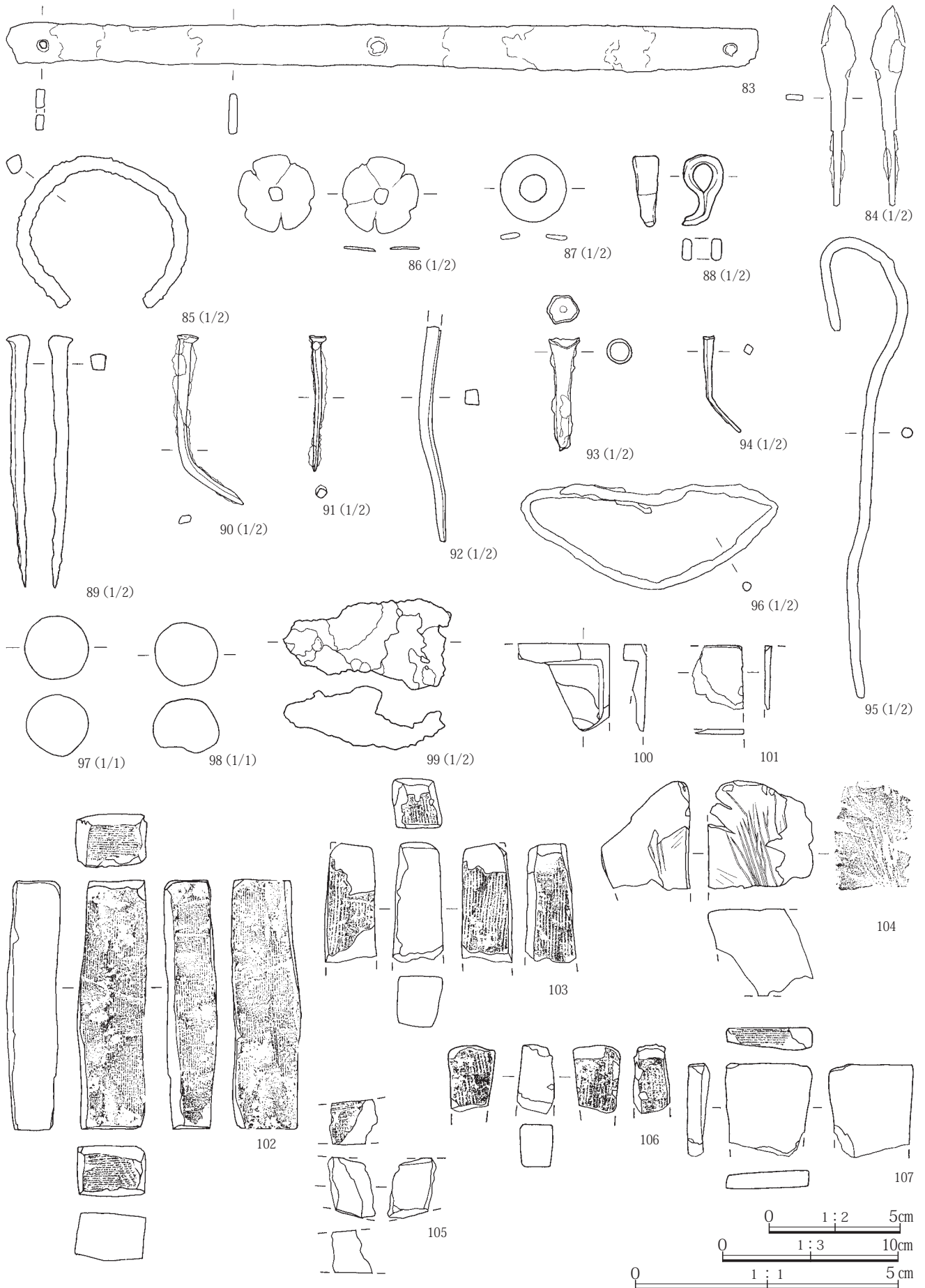
第221図 遺構外出土遺物(1)



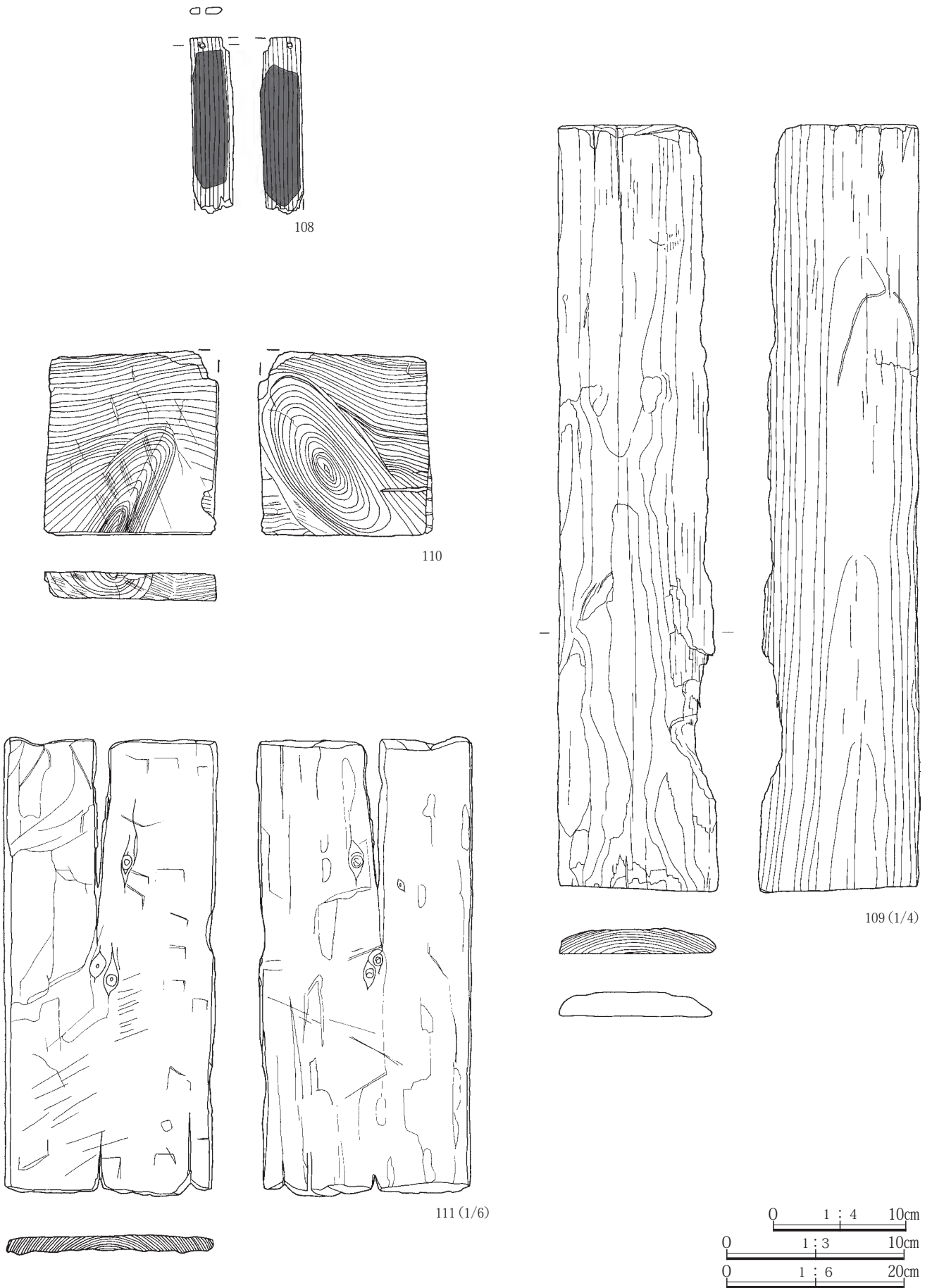
第222図 遺構外出土遺物(2)



第223図 遺構外出土遺物(3)



第224図 遺構外出土遺物(4)



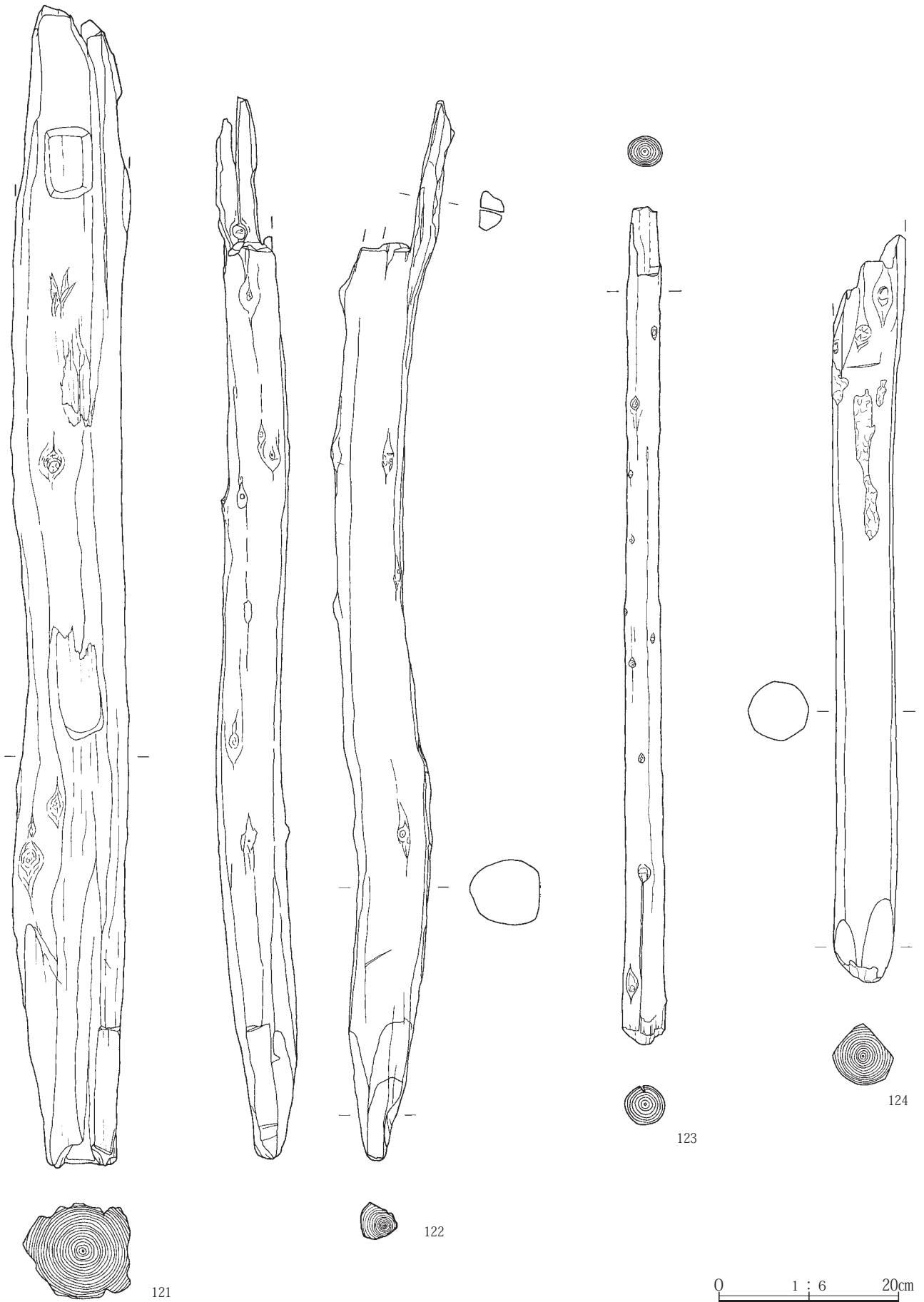
第225図 遺構外出土遺物(5)



第226図 遺構外出土遺物(6)



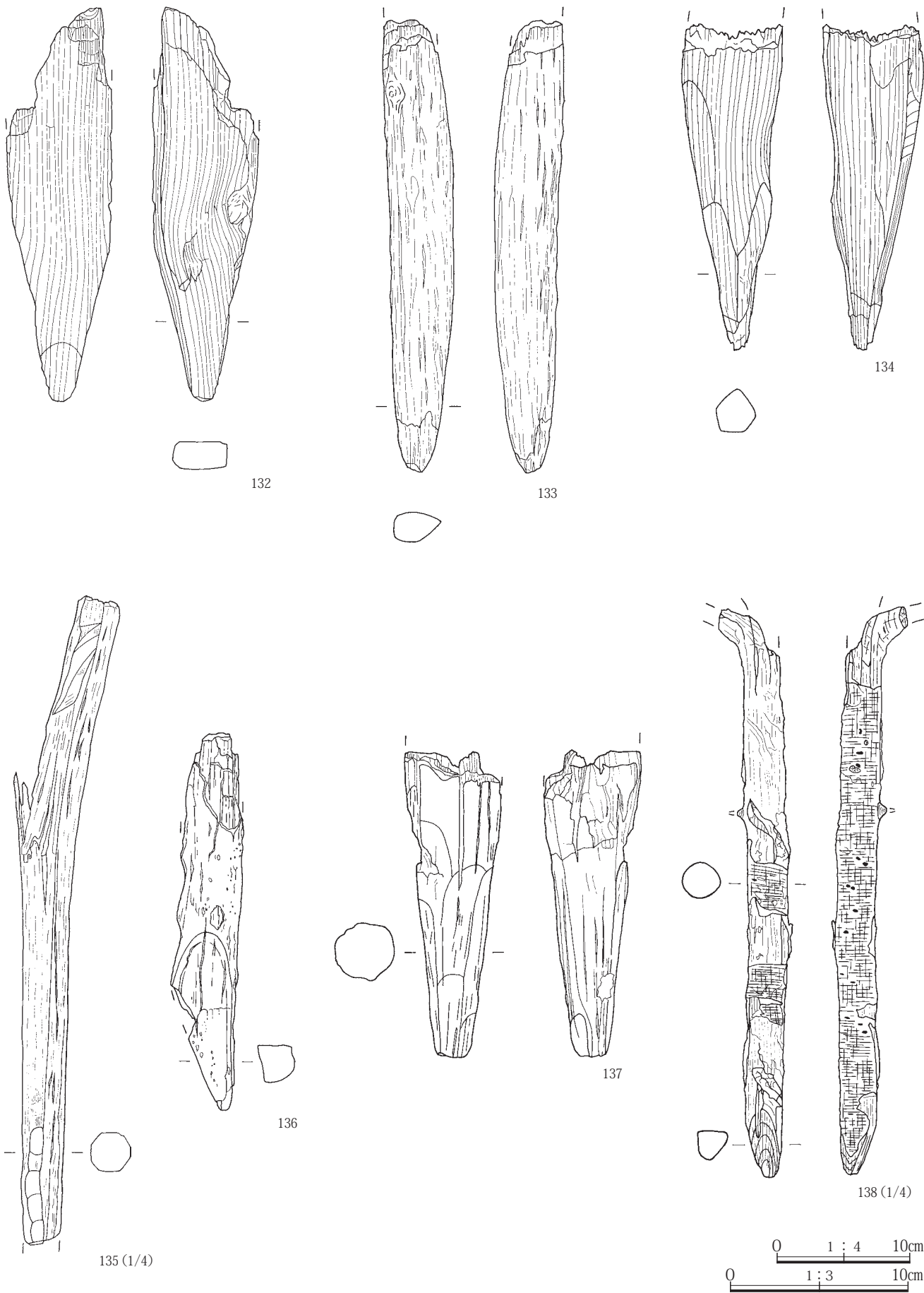
第227図 遺構外出土遺物(7)



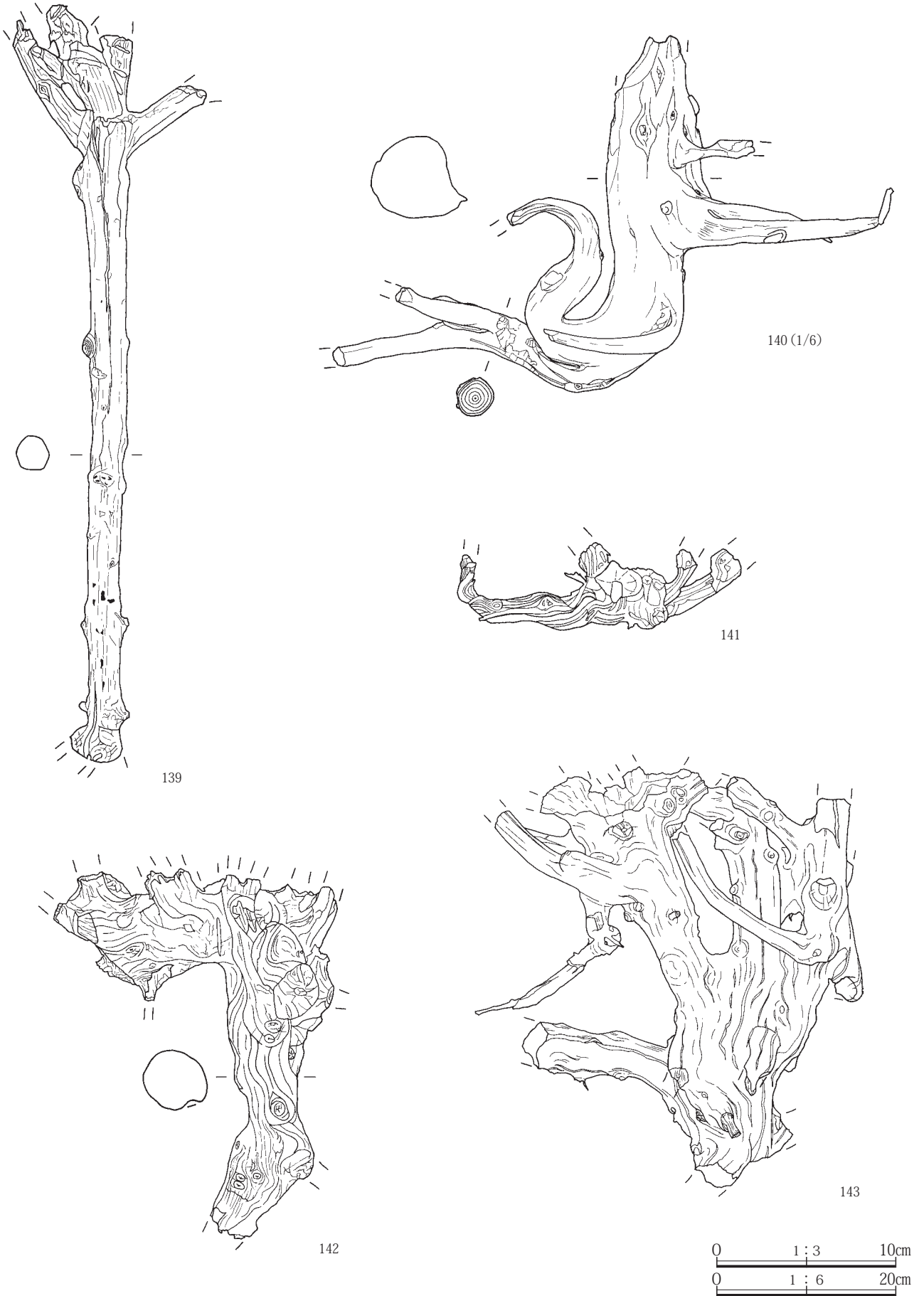
第228図 遺構外出土遺物(8)



第229図 遺構外出土遺物(9)



第230図 遺構外出土遺物(10)



第231図 遺構外出土遺物(11)



第232図 江戸時代陶磁器出土分布図

表14 遺物観察表
1号建物

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口 底	高	厚				
第200図 PL.116	1	瀬戸・美濃 陶器 腰錆碗	完形	口 底	10.0 4.2	高	5.9		外面口縁部下螺旋状凹線。内面から口縁部外面灰釉。外面口縁部下から高台内錆色の鉄釉。高台端部無釉。灰釉に粗い貫入入る。	
第200図 PL.116	2	瀬戸・美濃 陶器 小碗	口縁～胴部1/3	口	(7.0)				体部外面下位以下回転斲削り。内面から高台脇灰釉。貫入入る。	
第200図 PL.116	3	瀬戸・美濃 陶器 碗	口縁～胴部1/4	口	(9.5)				口縁部から体部内湾。外面下半回転斲削り。内面から高台脇灰釉。粗い貫入入る。	
第200図 PL.116	4	瀬戸・美濃 陶器 せんじ碗	口縁～胴部片	口	(10.0)				口縁部と体部間に明瞭な稜。灰釉と錆色の鉄釉の左右掛け分け。	
第200図 PL.116	5	肥前陶器か 皿か	口縁部片						口縁部内側に折り返す。口縁部のみ鉄釉。	
第200図 PL.116	6	肥前磁器 上絵碗	胴～底部片	底	(5.0)				底部内面赤と黒、茶色の上絵。外面赤の上絵圏線。	
第200図 PL.116	7	瀬戸・美濃 陶器 染付碗	底部片	底	5.2				底部内面染付。高台端部を除き透明釉。貫入入る。高台周縁細かい敲打により円盤状に整形。二次加工品。	
第200図 PL.116	8	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	胴部片						外面回転斲削り。内面すり目。内外面錆釉。	
第200図 PL.116	9	志戸呂陶器 灯火皿	口縁～底部1/2	口 底	9.2 5.0	高	2.0		外面轆轤目顕著。底部右回転糸切無調整。内面から体部外面下位付近錆釉。口縁部外面油付着。	
第200図 PL.116	10	装飾品	完形	長 径	3.1 2.2	厚 重	0.2 4.8		筒状。孔2つあり	獣骨か
第200図 PL.116	11	銅製品 鉦鼓	完形	上 径 下 径	17.0 19.3	高 重	5.0 1213.5		大型の完形品。側面に紐を通す穴を持った耳が1対付く。腹厚：0.4。縁厚：0.2。耳厚：0.45。孔径：0.7	江戸
第200図 PL.116	12	銭貨 銭さし		長	14.6	重	315.7		84枚。鉄銭を複数枚含む。鉄分凝集により砂礫の付着顕著。	江戸
第200図 PL.116	13	銭貨 銭さし		長	9.6	重	305.2		55枚。背文に「文」あり。とじ紐が残る。周囲に鉄分凝集により砂礫の付着顕著。	江戸
第201図 PL.117	14	銭貨 寛永通寶		径	2.47	重	3.2			江戸
第201図 PL.117	15	銭貨 寛永通寶		径	2.28	重	1.6			江戸
第201図 PL.117	16	砥石	完形	長 幅	11.3 2.9	厚 重	1.9 80	砥沢石	使い込まれ、使用面が山状を呈し、端部はかなり薄くなっている。裏面に製作時の鑿痕残る。	江戸
第201図 PL.117	17	側板	8号土坑	長 幅	(41.8) 14.0	厚	2.2		上部を欠く、芯側を外面に加工、節有り。	マツ属
第201図 PL.117	18	底板5枚	8号土坑	径	60.5	厚	3.2		5枚1組の底板、いずれも芯去材、それぞれを2本の木釘出繋ぐ。	ヒノキ
第201図 PL.117	19	杭		長 幅	(22.3) 2.5	厚	2.0		杭か欠損品、先端部4面削り見られるが、先端は尖らず。	
第202図 PL.117	20	杭		長 幅	(41.1) 8.8	厚	1.1		板状であるが、先端部のみ加工痕、両側を削り、幅を狭くする。	
第202図 PL.117	21	杭		長 幅	(51.5) 7.7	厚	2.1		上部を欠く、先端部は4面削り、断面は長方形、節有り。	
第202図 PL.117	22	杭か？		長 幅	(12.7) 1.9	厚	1.8		不定径で痩せた杭、先端部4面削りが雑な作り。	
第202図 PL.117	23	杭		長 幅	(7.3) 3.4	厚	2.8		杭先端部品、4面削りが雑な作り、材は痩せている。	
第202図 PL.117	24	杭		長 幅	(43.3) 4.0	厚	3.9		杭、上部を欠き、折れている。先端部は4面削り出し。断面台形。	
第202図 PL.117	25	杭		長 幅	(24.4) 3.6	厚	2.4		杭、上部を欠く、4面削り出し、断面は不定台形。	
第202図 PL.117	26	木製品 加工木		長 幅	(23.6) 1.1	厚	0.7		棒状、側面加工、先端部は三面削り。やや曲がっている。	
第203図 PL.118	27	土台 加工木		長 幅	752.0 16.5	厚	15.0		ホゾ穴3、内中央の1つが貫通。	カラマツ
第203図 PL.118	28	土台 加工木		長 幅	705.0 17.0	厚	15.0		ホゾ穴3。	カラマツ
第203図 PL.118	29	土台 加工木		長 幅	417.0 19.0	厚	14.0		ホゾ穴3、内先端の1つが貫通。	カラマツ

2号建物

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長 幅	厚	重				
第205図 PL.119	1	鉄製品 釘		長 幅	7.2 0.9	厚 重	0.5 6.6		平頭、やや細身で断面は方形、先端部細くなり若干の捻れが見られる。	平安

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第205図 PL.119	2	木	Pit2	長 幅	(93.2) 11.5	厚	11.3		丸太の表面を削り、不定型な角材としている、先端部は平ら。チョウナ痕。	クリ
第205図 PL.119	3	木	Pit11	長	(86.2)	径	14.0		丸太の表面を粗く削り、不定型な角材としている、先端部は平ら。チョウナ痕。	クリ
第205図 PL.119	4	柱	Pit11	長 幅	17.4 11.3	厚	11.4		両端が削られ、尖る短材。柱穴下部に出土。用途は不明。	クリ

3号建物

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第207図 PL.119	1	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	83区OS8畑 口縁部片	口	(11.0)				飴釉施釉後、口縁部に薬灰釉かける。	
第207図 PL.119	2	肥前陶器 呉器手碗	Pit 底部片	底	5.6				高台内の挟りは深い。高台端部を除き透明釉。細かい貫入入る。	
第207図 PL.119	3	底板	5号土坑	長	77.3	厚	3.0		底板3枚、(5)枚組か、木釘2本で繋ぐ。	マツ属

5号建物

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第208図 PL.120	1	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗	底部片	底	5.3				内面飴釉。高台周縁を外面からの敲打で打ち欠いた可能性高い。二次加工品か。	
第208図 PL.120	2	木製品		長 幅	(10.6) 7.5	厚	1.2		板状製品、柾目材、片側中央部に径1.2cmの円孔か、上部を欠損。	
第209図 PL.120	3	木製品 箱	82区X-11	長 幅	23.7 5.0	厚	1.0		木箱の側板、片側に木皮の留め跡。	マツ属
第209図 PL.120	4	木製品 箱	82区X-11	長 幅	(20.4) 4.7	厚	0.7		木箱の側板、一部欠損、両側部に木皮の留め跡。	マツ属
第209図 PL.120	5	木	82区	長 幅	80.5 27.6	厚	4.1		板状製品、去芯材、表裏面一部に工具痕。	
第210図 PL.120	6	木		長 幅	20.3 10.7	厚	1.0		板状製品、柾目材は痩せて板目立つ。	
第210図 PL.120	7	木材	Pit1	長	56.7	径	5.8		柱材、丸太の先端を短く削り尖らす。	クリ
第210図 PL.120	8	木材	Pit2	長 幅	(37.3) 5.5	厚	4.4		柱材、丸太の先端を4面削り尖らす、先端部を欠く。	クリ
第210図 PL.120	9	木材	Pit3	長 幅	(67.0) 6.3	厚 径	6.2 7.7		柱材、丸太の先端を丸く削る、中央に割れが入る。	クリ
第210図 PL.120	10	木材	Pit9	長 幅	(43.9) 7.6	厚	1.7		板状製品、片側を欠損、くびれを作り、先端部を丸くする。	

土坑

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第215図 PL.120	1	木	341号土坑	長 幅	14.8 12.0	厚 径	10.8 12.0		短い丸太材。下部面は平らで、上部面はやや膨らみを有す。側面に工具削痕僅かに見られる。	
第215図 PL.120	2	木	341号土坑	長 幅	12.3 11.0	厚	0.8		方形の板材、柾目で痩せて木目明瞭に浮き出る。2カ所の釘穴か。	

1号暗渠

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第217図 PL.120	1	銅製品 飾り金具?		長 幅	2.2 1.7	厚 重	0.1 1.9		底に円孔あり、煙管の火皿部分かとも思われるが、接合痕は無く厚手で飾り具の可能性も。	江戸
第217図 PL.120	2	鉄滓		長 幅	5.9 5.4	重	110.2		碗形滓。	江戸
第217図 PL.120	3	鉄滓		長 幅	5.9 4.7	重	57.5		碗型滓。	江戸

遺構外

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第221図 PL.121	1	肥前陶器 陶胎染付碗	74区A-6 口縁~底部片	口 底	(12.0) (4.8)	高	7.1		口縁部外面簡略化した雲文か。体部外面不明染付。貫入入る。	
第221図 PL.121	2	肥前陶器 陶胎染付碗	72・73・82・83区 口縁~胴部片	口	(10.0)				口縁部外面簡略化した四方禪文。体部外面梅の折枝文か。貫入入る。	
第221図 PL.121	3	肥前磁器 染付小碗か	73区 口縁部片	口	(7.0)				外面海浜風景の染付。	天明以降か
第221図 PL.121	4	瀬戸・美濃 陶器 碗	83区 口縁~底部1/2	口 底	(10.2) (5.0)	高	7.6		外面中位以下回転斲削り。内面から高台脇飴釉。貼り付け高台。	
第221図 PL.121	5	瀬戸・美濃 陶器 染付丸碗	73区 口縁~胴部片	口	(8.4)				外面梅枝文。内外面透明釉。粗い貫入入る。	18世紀後葉~ 19世紀前葉。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第221図 PL.121	6	肥前磁器 染付碗	74区S-7 口縁～胴部片	口	(9.0)		外面二重網目文。内面無文。	
第221図 PL.121	7	肥前磁器 染付小碗か	73区トノチX-5 口縁部片	口	(8.0)		外面草花文。内面無文。	
第221図 PL.121	8	肥前磁器 染付皿	74区OS19畑C-1 口縁～体部片	口	(13.9)		内面染付。残存部外面無文。漆継ぎか。	
第221図 PL.121	9	瀬戸・美濃 陶器 小碗	83区OS7畑 口縁部片	口	(6.0)		外面口縁部下回転篋削り。外面から高台脇鉛釉。	
第221図 PL.121	10	瀬戸・美濃 陶器 皿	6号住 口縁～底部片	口 底	9.4 6.2	高 3.3	御深井製品。口縁部の一方が下がっており、木瓜形の可能性がある。内面から高台脇御深井釉。	
第221図 PL.121	11	肥前磁器 染付猪口	74区T-13 口縁～胴部片	口	(8.0)		外面矢羽根文。口縁部内面簡略化した四方櫛文。	
第221図 PL.121	12	瀬戸・美濃 陶器 火入れ	73区トノチY-6 口縁～胴部片	口	(8.0)		口縁端部内面突き出る。体部外面横線後、丸鑿により縦位に区画。口縁部内外面灰釉。外面口縁部以下錆色の鉄釉。内面口縁部以下無釉。	
第221図 PL.121	13	肥前磁器 染付皿	1号河道 口縁～底部1/4	口 底	(13.0) (7.4)	高 3.3	口縁部から体部内面コンニャク印判による染付。底部内面周縁2重圏線。裏文様は簡略化した唐草文。高台内1重圏線。	
第221図 PL.121	14	瀬戸・美濃 陶器 志野丸皿か	73区F-18 口縁部～体部片	口	(12.1)		口縁部外反。内外面長石釉。	17世紀
第221図 PL.121	15	瀬戸・美濃 陶器 天目碗	74区W-15 口縁部片	口	(10.0)		口縁部緩く内湾し、端部は小さく外反。内外面鉄釉。	
第221図 PL.121	16	製作地不詳 磁器 青磁香炉か 火入れ	85区N-2 口縁部片				外面凸帯間、片彫りによる施文。内外面青磁釉。粗い貫入入る。	
第221図 PL.121	17	瀬戸・美濃 陶器 鉢	73区C-16 口縁部片				口縁部水平に近く外反し、端部は丸く肥厚。口縁部上面施釉。焼成不良により釉白濁。	17～18世紀
第221図 PL.121	18	瀬戸・美濃 陶器 影次茶碗	74区I-20 胴部片				器壁薄い。外面口縁部下幅広の凹線。内面から外面凹線部灰釉。外面凹線部以下錆色の鉄釉。鉄釉部分に長石釉斑状に施す。	
第221図 PL.121	19	肥前磁器 染付鉢か	73区S-15 底部片	底	(4.8)		外面染付。高台内1重圏線内に「大明年製」銘か。	
第221図 PL.121	20	肥前磁器 染付碗	74区W-7 体部下位以下	底	3.8		外面雪輪梅樹文。高台内1重圏線内に「大明年製」銘。	波佐見系
第221図 PL.121	21	肥前陶器 陶胎染付碗	82区M-3 胴～底部片	底	4.0		体部外面染付。染付の発色は良好。やや細かい貫入入る。	
第221図 PL.121	22	瀬戸・美濃 陶器 志野丸皿	73区OS8畑P-22 底部片	底	7.0		体部外面回転篋削り。高台脇小さく削り込む。内外面長石釉。粗い貫入入る。高台内ピン状の目跡。	
第221図 PL.121	23	肥前磁器 染付碗	74区Q-14 底部片	底	4.4		底部器壁厚い。残存部雪輪の染付か。高台内不明銘。	波佐見系
第221図 PL.121	24	肥前磁器 青磁瓶	74区OS23畑F-10 底部	底	6.0		外面高台端部を除き青磁釉。内面無釉。	江戸時代
第221図 PL.121	25	瀬戸・美濃 陶器 不詳	72区N-24 底部片	底	(6.8)		内面から高台脇灰釉。内面の釉は薄い。火入れか。	
第221図 PL.121	26	肥前陶器 皿か	84区J-2 底部片	底	4.0		高台脇から高台内回転篋削り。高台脇の削りは幅広い。内面から高台脇付近施釉。	
第221図 PL.121	27	製作地不詳 陶器 不詳	82区 底部片	底	(8.0)		内面無釉。外面、高台端部付近を除き黒色の鉄釉。高台端部両白濁した粘土か耐火物付着。	
第221図 PL.121	28	瀬戸・美濃 陶器 志野丸皿	74区 底部片	底	6.0		体部外面回転篋削り。高台端部を除き長石釉。高台内輪状の窯道具溶着痕。貫入入る。	大窯期か
第221図 PL.121	29	瀬戸・美濃 陶器 皿	74区U-18 底部片	底	(6.0)		内面から高台内灰釉。底部内面の釉厚い。高台内輪状の窯道具溶着。貫入入る。	大窯期
第221図 PL.121	30	製作地不詳 陶器 土瓶	74区D-12、K-9 底部片	底	(8.0)		外面回転篋削り。内面透明釉薄く施釉。外面無釉で煤付着。	天明以降か
第221図 PL.121	31	瀬戸・美濃 陶器 片口鉢	72区R-21 口縁～底部片	口 底	(11.5) (6.0)	高 5.6	口縁端部内面、内側に突き出る。端部上面僅かに窪む。高台脇から内面灰釉。残存部底部内面目跡1カ所。	
第221図 PL.121	32	在地系土器 不詳	74区M-23 口縁部片	口	(11.6)		丁寧な作りで外面器表は平滑。体部外面横線間に菊花状スタンプ文。	江戸時代か
第221図 PL.121	33	在地系土器 鉢か	2号建物 口縁部片	口	(27.5)		口縁部肥厚。口縁部外面欠損。	江戸時代か
第221図 PL.121	34	肥前陶器か 皿か	74区V-14 底部片	底	(6.4)		削り出し高台で高台脇に段差。段差部分に脚1カ所残る。内面土刷毛塗り。内外面透明釉。脚端部と段差部分から高台内無釉。底部内面無釉。	

遺物観察表

挿 図 PL.No.	No.	種 類 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口 底	(12.4) (6.6)	高 (2.4)			
第221図 PL.121	35	志戸呂陶器 灯火受皿	73区OS9畑X-21 口縁～底部片	口 底	(12.4) (6.6)	高 (2.4)		受け部先端欠損。外面口縁部以下回転篋削り。内面から口縁部外面錆蝕。	
第221図 PL.121	36	肥前磁器 染付蓋	86区D-4 天井部片					天井部外面植物文。つまみ欠損。	
第221図 PL.121	37	肥前磁器 染付瓶	74区OS29畑G-4 肩部片					外面紅葉状文。内面無釉。	
第221図 PL.121	38	肥前磁器 白磁か染付 瓶	74区J-22 頸部片					頸部から肩部片で残存部無文。内面の一部から外面透明釉。	
第221図 PL.121	39	瀬戸・美濃 陶器 ひょうそく	83区 台部1/2	底	5.8			灯芯立てと口縁部欠損。脚底部右回転糸切無調整。脚底部中央小孔。脚底部以外胎蝕。	
第222図 PL.121	40	堺・明石陶 器 すり鉢	72区0-21 口縁部片	口	(31.5)			口縁部内面凸帯巡る。縁帯外面浅い2条の凹線。外面口縁部下回転篋削り。	18世紀前葉～ 中葉
第222図 PL.121	41	丹波陶器か すり鉢	83区OS9畑1ノリ 口縁部片	口	(31.4)			口縁部屈曲して立ち上がり、端部は外反。縁帯外面浅い2条の凹線。上面自然釉薄くかかる。	
第222図 PL.121	42	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	74区E-20 口縁部片	口	(32.0)			口縁部内湾。内面口縁部下凸帯状に突き出る。内外面錆蝕。	17世紀末～ 18世紀前葉
第222図 PL.121	43	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	83区 口縁部片	口	(31.0)			口縁部外方に折り返すように肥厚。内外面錆蝕。	
第222図 PL.121	44	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	1号河道 口縁部片	口	(34.0)			口縁部外面に折り返すように肥厚。内外面錆蝕。口縁部端部内面使用による摩滅で端部削れる。	18世紀中葉～ 後葉
第222図 PL.121	45	備前陶器か すり鉢	72区OS5畑 片口部片					口縁部縁帯をなし、外面に凹線2条。口縁部内面の肥厚部分は平坦。口縁部回転横撫で後に10本1単位のすり目。口縁部端部上面と縁部下端に重ね焼き痕。良好に焼き締まる。	
第222図 PL.122	46	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	74区C-1 口縁部片	口	(32.0)			口縁部小さく外反し、内面に折り返すように肥厚。内外面錆蝕。	18世紀前葉
第222図 PL.122	47	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	73区U-11 体部上位片					内面すり目。外面下半回転篋削り。内外面錆蝕。	江戸
第222図 PL.122	48	堺・明石陶 器 すり鉢	1号河道 底部片	底	(20.0)			体部外面回転篋削り。体部内面のすり目底部にまで及ぶ。内面使用により平滑。	江戸
第222図 PL.122	49	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	74区G-20 体部下位～底部 片	底	(14.0)			底部外面回転糸切無調整。体部外面回転篋削り。内面すり目。底部付近のすり目は使用による摩滅で消失。	江戸
第222図 PL.122	50	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	74区S-6 体部下位片					外面回転篋削り。内面すり目。内外面錆蝕。	江戸
第222図 PL.122	51	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	74区Q-17 体部片					内外面錆蝕。内面すり目。	中世～近世
第222図 PL.122	52	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	73区U-8 口縁部片					口縁部緩く内湾し、端部は小さく外反。外面口縁部以下回転篋削り。内外面錆蝕。	江戸
第222図 PL.122	53	在地系土器 鍋か鉢	2号建物 底部片					底部外面型作り痕。平底。	中世～近世
第222図 PL.122	54	在地系土器 鉢か甕	64区 体部下位～底部 片	底	(20.0)			器表黒色。内外面撫で。	江戸以降
第222図 PL.122	55	銭貨 永楽通寶	75区E-19 欠損	径	2.52	重 2.1			江戸
第222図 PL.122	56	銭貨 嘉祐通寶	74区S-6	径	2.36	重 2.8		初鑄(1056年)	江戸
第222図 PL.122	57	銭貨 元豊通寶	75区	径	2.28	重 1.7		初鑄(1078年)	江戸
第223図 PL.122	58	銭貨 聖宋元寶か?	74区W-8	径	2.32	重 1.9		聖宋元寶か。	中世
第223図 PL.122	59	銭貨 嘉祐元寶	75区F-20	径	2.47	重 1.7		初鑄(1056年)	江戸
第223図 PL.122	60	銭貨 寛永通寶	64区J-24 欠損	径	2.52	重 (1.9)		背文に「文」欠損。	江戸
第223図 PL.122	61	銭貨 寛永通寶	74区N-7	径	2.43	重 3.2			江戸
第223図 PL.122	62	銭貨 寛永通寶	74区V-7	径	2.42	重 3.3			江戸
第223図 PL.122	63	銭貨 寛永通寶	83区OS1畑	径	2.43	重 4.2			江戸
第223図 PL.122	64	銭貨 寛永通寶	73区A-5	径	2.28	重 2.6			江戸

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第223図 PL.122	65	銭貨 寛永通寶	75区	径	2.23	重	2.0		江戸
第223図 PL.122	66	銭貨 寛永通寶	74区0-20	径	2.28	重	2.2		江戸
第223図 PL.122	67	銭貨 寛永通寶	83区	径	2.26	重	2.0		江戸
第223図 PL.122	68	銭貨 寛永通寶	74区B-2 欠損	径	(2.3)	重	(1.9)	2つに割れ、風化顕著。	江戸
第223図 PL.122	69	銭貨 寛永通寶	74区V-9 欠損			重	(1.0)	欠損。	江戸
第223図 PL.122	70	銅製品 煙管雁首	83区	長	4.0	厚重	0.1 4.6	煙管雁首、ラオの一部が残る。	江戸
第223図 PL.122	71	銅製品 煙管	75区C-21	長幅	5.6 1.0	厚重	0.1 6.3	煙管雁首、火皿部は潰れて変形、深めの作り。鍍金されている。	江戸
第223図 PL.122	72	銅製品 煙管雁首	74区Q-6 火皿部分欠損	長幅	(4.5) 1.0	厚重	0.1 7.4	雁首部分、火皿を欠く。有段で表面に打ち出しによる文様を見せる。	江戸
第223図 PL.122	73	銅製品 煙管火皿部分	73区Y-5	長幅	(1.2)	厚重	2.1	煙管火皿部、深めの作りで変形している。	江戸
第223図 PL.122	74	銅製品 煙管吸口	83区E-10	長幅	2.9 0.9	厚重	0.1 1.8	やや短い煙管吸い口、吸い口部分は欠損、ラオ取り付け部からの段は低い。	江戸
第223図 PL.122	75	銅製品 煙管吸口	74区S-12	長	5.9	厚重	0.05 3.7	煙管吸い口部、細身で吸い口に向かって徐々に細くなる。	江戸
第223図 PL.122	76	銅製品 煙管吸口	74区A-6	長幅	5.7 1.0	厚重	0.1 3.3	煙管吸い口部分、細身で吸い口部にかげ徐々に細くなる形態、折れ曲がっている。	江戸
第223図 PL.122	77	銅製品 留め金具	73区Y-6	長幅	2.8 4.7	厚重	0.2 2.2	留め金具か。半弧状の両端部が内側に向かってC字状に曲がる。引き手か。	江戸
第223図 PL.122	78	銅製品 飾り継手	74区T-14	長幅	4.4 0.6	厚重	0.05 2.2	飾り具か、内側に折り曲げられた棒状で、先端部は斜めに仕上げられている。下部に小孔。	江戸
第223図 PL.122	79	銅製品？	83区	長幅	(6.5) (2.7)	厚重	(6.5) 34.9	重なった板状で隙間が見られる。	江戸
第223図 PL.122	80	銅製品 筒状製品	74区W-17	長幅	2.4 1.3	厚重	0.05 3.2	筒状に丸められた薄い銅板。種類、用途不明。	江戸
第223図 PL.122	81	銅製品 煙管雁首	75区	長幅	2.4 2.1	厚重	0.2 3.0	雁首銭か、鍍金された火皿を打ち叩いて平らにしている。	江戸
第223図 PL.122	82	鉄製品	74区G-7	長幅	9.8 0.7	厚重	0.3 12.6	棒状製品、断面台形。	江戸
第224図 PL.122	83	鉄製品	84区0S11畑	長幅	42.5 2.5	厚重	0.5 192.9	長板状製品。両端部および中央部の3カ所に円孔が開けられている。内1カ所には鉄釘の痕跡か。孔径：0.7	江戸
第224図 PL.122	84	鉄鏃	74区T-14	長幅	(7.6) 1.2	厚重	0.3 4.7	鏃身部分は木の葉状を呈す、茎部分を含めやや扁平、錆化顕著。	平安
第224図 PL.123	85	鉄製品 鉄輪	74区C-23	長幅	6.5 5.6	厚重	0.6 16.1	C字状の鉄製品、断面円形。	江戸
第224図 PL.123	86	鉄製品	74区I-11	長幅	2.9 0.5	厚重	0.1 2.7	留め金具か。五弁の梅花状で中心に円孔有り、花卉間に切れ込み有り。	江戸
第224図 PL.123	87	鉄製品	74区L-11	外径 内径	2.5 1.0	厚重	0.2 3.1	留め金具か、扁平な環状製品。	江戸
第224図 PL.123	88	鉄製品	73区Y-3	長幅	2.5 1.5	厚重	1.0 2.9	環状製品、薄い鉄板を環状にし、両端部を尖らせ接合した留め金具・端部を欠く。	江戸
第224図 PL.123	89	鉄製品 釘	75区B-23	長幅	9.6 0.9	厚重	0.6 8.6	頭部は小さく、短く折れる。断面方形で先端に向かって細くなる。	江戸
第224図 PL.123	90	鉄製品 釘	73区0S8畑	長幅	6.4 0.8	厚重	0.5 5.6	頭部は小さく小振りの製品、断面は方形で錆化顕著。	江戸
第224図 PL.123	91	鉄製品 釘	73区0S8畑	長幅	5.1 0.7	厚重	0.4 2.3	頭部は小さく小振りの製品、断面は方形で錆化顕著。	江戸
第224図 PL.123	92	鉄製品 釘か	74区Q-14	長幅	(8.2) 0.5	厚重	0.5 7.9	釘か、断面方形で上端部を欠く。	江戸
第224図 PL.123	93	鉄製品 吸口か？	75区E-19	長幅	4.3 1.1	厚重	0.1 4.7	石付きか、中空で断面は円形上端部分広がる。	江戸か
第224図 PL.123	94	鉄製品 釘	74区V-12	長幅	(3.6) 0.4	厚重	0.4 1.0	細身で断面は方形、状幹部欠き錆びて痩せている。	江戸
第224図 PL.123	95	鉄製品	73区U-18	長幅	17.5 3.2	厚重	0.4 21.0	針金状、断面は円形で両端部は細くなる、？状に折れ曲がり錆化顕著。	江戸
第224図 PL.123	96	鉄製品	73区T-18	長幅	9.8 3.9	厚重	0.3 14.6	針金状で強く折れ曲がる、錆化顕著で両端部は細くなる。	江戸
第224図 PL.123	97	鉄製品 円弾	75区E-8 完形	径	1.3	重	9.7	ほぼ球状。	江戸
第224図 PL.123	98	鉄製品 円弾	73区Y-5 完形	径	1.2	重	7.8	一部に凹み。	江戸
第224図 PL.123	99	鉄滓	74区0-13	長幅	6.2 3.4	重	40.4	不定形滓。	江戸

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第224図 PL.123	100	硯	73区X-7、Y-4ト いぢ 欠損	長 幅	(4.9) (5.2)	厚 重	(1.3) (18)	頁岩	浅い作りの硯、海部分の破片。被熱か。	江戸
第224図 PL.123	101	砥石	64区G-23 欠損	長 幅	(3.6) (2.8)	厚 重	(0.4) (6)	頁岩	端部の剥離片、使用面は平らで、側面部も使用か。	
第224図 PL.123	102	砥石	82区Y-10 完形	長 幅	14.0 2.5	厚 重	3.8 259	砥沢石	角柱状の砥石、1面のみ使用、他の面には製作時の鑿痕見られる。鉄分の沈着顕著。	
第224図 PL.123	103	砥石	74区V-6 欠損	長 幅	(6.7) 2.8	厚 重	2.9 (87)	砥沢石	1面使用、側面3面および端部に鑿目が残る。全面に鉄分の付着。	
第224図 PL.123	104	砥石	63区7号石垣 欠損	長 幅	(6.1) (5.9)	厚 重	(4.9) (147)	流紋岩	欠損品のため形状は掴めないが、断面は菱形と見られる。3面の使用面が確認される。1面には細い線状の刃研ぎ溝が看取される。	
第224図 PL.123	105	砥石	84区I-1 欠損	長 幅	(3.4) (2.7)	厚 重	(2.4) (27)	砥沢石	砥石片、1面使用面。	
第224図 PL.123	106	砥石	74区P-6 欠損	長 幅	(3.9) 2.1	厚 重	2.6 (30)	砥沢石	3面に鑿目が残る。	
第224図 PL.123	107	砥石	74区F-22、OS10 畑 欠損	長 幅	(5.3) 4.8	厚 重	1.2 (43)	砥沢石	使い込まれて薄くなっている。側縁端部に制作時の鑿痕見られる。	江戸
第225図 PL.123	108	漆器	74区U-10	長 幅	(9.8) (2.3)	厚	0.5		加工品、片側を欠損、板状で先端部に釘穴、表裏に赤彩残る。	
第225図 PL.123	109	木	82区V・W-9	長 幅	57.3 11.9	厚	1.9		板目材、片面が僅かに膨らむ。	
第225図 PL.123	110	木	82区V-9	長 幅	10.3 9.6	厚	1.6		方形の板材、節目部分、硬質な感じの材、台として利用か。	
第225図 PL.123	111	木	不明	長 幅	51.5 23.0	厚	2.0		板材、表面には削り痕、工具痕多く見られる。	
第226図 PL.123	112	植物	74区Q-8	長 幅	(12.3) 9.1	厚	1.4		板材破片、片側縁やや丸みを呈す。	
第226図 PL.123	113	木	82区V-9	長 幅	(49.4) 12.1	厚	6.8		厚板材、作業台として利用か、表面に刃物(鉈か)の当たり痕顕著。	クリ
第226図 PL.123	114	木	不明	長 幅	88.0 17.2	厚	3.8		板材、表面には削り痕、工具痕多く見られる。中央部分の両面僅かに膨らみを有す。	
第227図 PL.124	115	木器	74区W-15	長 幅	50.4 2.5	厚	1.5		やや幅を曲がりを持った棒状製品、断面は片側縁部を鋭角に加工。	
第227図 PL.124	116	木材	74区V-19	長 幅	(87.4) 5.2	厚	4.0		角材、断面長方形、2カ所に折れ、チョウナ痕見られる。	
第227図 PL.124	117	木材	82区	長 幅	(30.7) 3.8	厚	3.4		角材の先端部を4面削り、表面に工具当たり痕。	
第227図 PL.124	118	木	82区	長 幅	(29.2) 7.0	厚	1.8		板状材の先端を削る。	
第227図 PL.124	119	植物	74区R-7	長	13.1	径	4.3		短く切った丸木材、下面に工具削痕。	
第227図 PL.124	120	木	82区X-10	長	54.6	径	10.0		柱材、上部に抉りを入れ有段とする。下部木口は平ら。	
第228図 PL.124	121	木	82区	長 幅	(128.0) (12.0)	厚	(10.4)		柱材、先端部分側面を削り不定形に整形。	
第228図 PL.124	122	木	82区V・W-9	長	(117.0)	径	7.2		柱材、上部を欠く。先端は5面を削り出す、断面不定形。	
第228図 PL.124	123	木	82区	長	(92.3)	径	4.8		丸木を利用した柱材、先端部丸みを持って作り出される。	
第228図 PL.124	124	杭	82区	長	(82.5)	径	6.8		柱材か、先端部は短く削られ、断面不定形。丸みを持つ。	
第229図 PL.124	125	杭か	82区	長 幅	(61.0) 4.6				杭か、先端部は4面削り出すが、不定形な断面。	
第229図 PL.125	126	杭	82区	長 幅	(54.5) 6.5	厚	6.3		杭先端部片、先端部分は6面の削り出し。	
第229図 PL.125	127	杭	82区	長 幅	(27.6) 5.0	厚	3.4		杭先端部片、台形に削り出された先端部分。	
第229図 PL.125	128	杭	82区	長 幅	(43.0) 8.0	厚	4.0		杭先端部片、大きく節が残る。先端部の削りは雑な作り。	
第229図 PL.125	129	木材	82区	長 幅	(9.9) 2.4	厚	1.9		丸木材。	
第229図 PL.125	130	杭	82区	長 幅	(22.1) 5.8	厚	3.6		杭先端部片、5面削り、先端の削り部分は長い。	
第229図 PL.125	131	杭	83区S-2、1号ト いぢ	長	(21.8)	径	4.4		杭の先端部片、表皮が残る丸木の先端部を不定形に4面削り尖らせる。	
第230図 PL.125	132	木材	82区	長 幅	(22.0) 5.8	厚	1.5		板状で先端部が細くなる。断面は隅丸長方形。	
第230図 PL.125	133	杭	82区	長 幅	(25.1) 3.5	厚	1.7		杭先端部片、削りは雑で、断面は紡錘状を呈す。	
第230図 PL.125	134	杭	82区	長 幅	(18.2) 5.6	厚	3.1		杭先端部片、5面削るがやや雑な作り。	

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm)・(g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長	幅	厚			
第230図 PL.125	135	杭か	82区	長 3.0	(48.7)	厚 2.9		杭か、先端部は側面を8角形に削る。	
第230図 PL.125	136	杭	83区S-2、1号ト ノ	長 (21.1)		径 3.6		杭の先端部片、表皮が残る丸木の先端部を4面削り尖らせる。	
第230図 PL.125	137	杭	74区P-6	長 5.3	(17.2)	厚 3.3		杭先端片、先端部を丸く削り出す。	
第230図 PL.125	138	杭	74区V-7	長 3.0	(42.5)	厚 2.6		杭、丸棒状の枝を利用、先端部は3面削り出し。表皮部分的に残る。	
第231図 PL.126	139	植物	74区N-19	長 42.0	10.6	径 1.8		根の部分からまっすぐに伸び、複数に枝分かれする茎部分が残る。	ウツギ
第231図 PL.126	140	植物根	74区W-6	長 40.0	61.5	径 11.0~ 4.3		植物根、大きく曲がった複数の主根部分が残る。	クワ属
第231図 PL.126	141	植物根	74区T-6	長 15.8				植物根部分、複数に枝別れする茎の下部が観察される。表面は縦の割れ目が多く見られる。	
第231図 PL.126	142	植物根	74区T-6	長 20.4	15.6	径 3.5		植物根部分、複数に枝別れする茎の下部が観察される。表面は縦の割れ目や根の痕跡が多く見られる。	ウツギ
第231図 PL.126	143	植物根	74区T-6	長 22.0				植物の根、茎部分。太く枝分かれした茎や枝が観察される。	ウツギ
第220図 PL.120	1	木製品 曲物	84区G-7	長 14.0	短 12.5	厚 (5.2) 0.5		曲物、薄くした杉板を丸くし、木皮(サクラか)で留めている。底板なし	モミ属

その他

PL.No.	No.	種類	出土位置	計測値(cm)			残存	備考
				長	幅	厚		
PL.127	1	種実	1号建物	2.9	2.2	2.0		クルミ
PL.127	2	種実	1号建物	3.1	2.5	1.9		クルミ
PL.127	3	種実	1号建物	3.3	2.3	2.1		クルミ
PL.127	4	種実	1号建物	2.8	(2.1)	2.0	欠損	クルミ
PL.127	5	種実	1号建物	3.0	2.4	(2.0)	欠損	クルミ
PL.127	6	種実	1号建物	2.8	2.4	1.9		クルミ
PL.127	7	種実	1号建物	3.0	(2.1)	2.1	欠損	クルミ
PL.127	8	種実	1号建物	2.6	(2.0)	1.8	欠損	クルミ
PL.127	9	種実	1号建物北西 部礎石より	3.2	2.2	1.5		モモ
PL.127	10	種実	1号建物北	2.5	2.1		欠損	モモ
PL.127	11	種実	1号建物西	2.8	2.2	1.5		モモ
PL.127	12	種実	1号建物西	2.3	1.8	1.4		モモ
PL.127	13	種実	1号建物	2.5	2.0	1.7		モモ
PL.127	14	種実	1号建物土間	2.1	2.0	1.7		モモ
PL.127	15	種実	1号建物	2.4	2.0	1.6		モモ
PL.127	16	種実	1号建物	2.0	1.7	1.6		モモ
PL.127	17	種実	1号建物	2.8	2.1	1.6		モモ
PL.127	18	種実	1号建物西	3.0	(2.0)		欠損	モモ
PL.127	19	種実	1号建物西	3.1	2.1	1.5		モモ
PL.127	20	種実	1号建物西	2.8	2.2	1.6		モモ
PL.127	21	種実	1号建物西	2.3	(1.9)	1.7	欠損	モモ
PL.127	22	種実	1号建物西	(2.1)	(1.6)		欠損	モモ
PL.127	23	種実	1号建物西	(2.2)	(2.0)		欠損	モモ

PL.No.	No.	種類	出土位置	計測値(cm)			残存	備考
				長	幅	厚		
PL.127	24	種実	1号建物西	(2.4)	(1.9)		欠損	モモ
PL.127	25	種実	1号建物西	(2.4)	(2.0)		欠損	モモ
PL.127	26	種実	1号建物西雨 落ち溝	(3.8)	(1.7)		欠損	松カサ
PL.127	27	種実	1号建物西側 溝	(3.9)	(1.7)		欠損	松カサ
PL.127	28	種実	1号建物西側 溝	(4.1)	(2.2)		欠損	松カサ
PL.127	29	種実	1号建物西側 溝	(3.9)	(2.6)		欠損	松カサ
PL.127	30	種実	1号建物西側 溝	(4.0)	(2.0)		欠損	松カサ
PL.128	31	種実	1号建物西側 溝	(2.8)	(1.6)		欠損	松カサ
PL.128	32	種実	1号建物西側 溝	(3.3)	(2.4)		欠損	松カサ
PL.128	33	種実	83区0S1畑	2.7	(2.1)	1.4	欠損	モモ
PL.128	34	種実	2号道	2.1	(1.5)		欠損	モモ
PL.128	35	種実	73区I-18試 掘トノ	2.4	1.9	1.4		モモ
PL.128	36	種実	74区L-22耕 作土	4.8	4.8		欠損	松カサ
PL.128	37	種実	74区M-20耕 作土	(1.9)	(2.5)		欠損	モモ
PL.128	38	種実	74区O-18	(1.0)	0.7	(0.6)	欠損	樹種不明(炭化)
PL.128	39	種実	74区P-5	3.0	2.3	1.6		モモ
PL.128	40	種実	74区Q-7	2.1	1.8	1.5		モモ
PL.128	41	種実	74区R-7	(2.7)	2.6		欠損	松カサ
PL.128	42	種実	2号道S-5	2.2	2.0		欠損	モモ
PL.128	43	種実	74区S-5	2.3	1.8	1.5		モモ
PL.128	44	種実	74区S-12	2.3	1.9		欠損	モモ
PL.128	45	種実	74区U-16	(2.0)	(1.9)	(1.5)	欠損	モモ
PL.128	46	種実	74区V-8	2.2	(1.6)		欠損	モモ

遺構計測表

PL.No.	No.	種類	出土位置	計測値(cm)			残存	備考	PL.No.	No.	種類	出土位置	計測値(cm)			残存	備考
PL.128	47	種実	74区V-9	長幅 (2.5) 2.3	厚 (1.4)		欠損	モモ	PL.128	54	種実	82区	長幅 2.6 1.9	厚 1.4			モモ
PL.128	48	種実	74区W-7	長幅 2.4 1.9	厚 1.5			モモ	PL.128	55	種実	82区	長幅 2.5 1.7	厚 1.3			モモ
PL.128	49	種実	74区W-7	長幅 2.5 (1.9)			欠損	モモ	PL.128	56	種実	82区	長幅 2.4 1.7			欠損	モモ
PL.128	50	種実	74区W-15	長幅 (1.9)			欠損	クルミ	PL.128	57	種実	13号住居1号 が下内	長幅 (1.7) (1.6)			欠損	モモ(炭化)、 平安
PL.128	51	種実	74区W-16	長幅 (1.8) (1.5)	厚 (1.2)		欠損	モモ(炭化)	PL.128	58	種実	13号住居	長幅 (1.7) (1.3)			欠損	モモ(炭化)、 平安
PL.128	52	種実	74区	長幅 (2.2) (1.6)			欠損	モモ(炭化)	PL.128	59	種実	14号住居	長幅 1.7 1.4			欠損	モモ(炭化)、 平安
PL.128	53	種実	82区	長幅 2.8 2.1	厚 1.5			モモ	PL.128	60	種実	316号土坑	長幅 (1.3) (1.0)			欠損	クルミ?(炭化)、 縄文

表15 遺構計測表
建物

番号	区	位置	規模	計測値(m)		方位	礎石・柱	馬屋		囲炉裏(炉)	出土遺物	備考	時代	調査年
				桁行	梁行			長軸	短軸					
1	83	C-10・11	7間×4間	13.2	6.8	N-15°-W	25	2.3	2.2	囲炉裏	鉦鼓、陶磁器、さし銭	礎石、土台残る	江戸	平18・22
2	83	D・E-4・5	2間×2間	3.65	3.05	N-16°-E	—	—	—	焼土の広がり	柱材	柱材残る、雨落ち溝廻る	江戸	平20・21
3	83	C・D-9・10	2間×3間	3.85	2.85	N-20°-W	—	—	—	厩	桶材	便槽2カ所	江戸	平18
4												欠番		
5	82	W・X-10・11	2間×2間	4.75	3.7	N-21°-W	—	—	—			柱材残る	江戸	平22

道

番号	区	調査区名	位置(グリッド)	長さ×幅(m)	平均勾配	備考	調査年度
1	73・74・83	19A区	73区O-13・14、P-13~18、Q-18~22、R-18~23、S-18・19、T-18・19、U~Y-18、74区A-18、B-10~18、C-10・16・17、D-10、E-2~10、F-10、83区R-1~10	220×1.0	0%		H19
2	63・64・74		63区X-24、Y-24・25、64区A・B-25、74区B~E-1、F-1・2、G-2、H-2・3、I~L-3、M-3・4、N~Q-4、R-4・5、S-5、T-5・6、U-6、V-6・7、W・X-7	108×1.3	9% (74区X-7~63区Y-24付近)		H19・20・22
3	73・74		73区X-2・3、Y-1・2、74区A-1	13.5×0.55	0.8% (74区A-1~73区X-3付近)		H19
4	73	18B区	E-5・6、F-5、G-4・5、H-4	17×0.75	0% (73区E-6~H-4付近)		H18
5	64	20B区	K-12、L-8~12	14.5×0.34	0.9% (64区L-12~L-8付近)		H20
6	73・83	20E区	73区Y-20~25、83区Y-1~8	57.5×0.35	3% (83区Y-7~73区Y-23付近)	8号溝含む	H19・20
8	75・85		75区C-24・25、D-22~24、E-18~22、F-17~19、G・H-16・17、I・J-16、85区B・C-1	57×2.65	0.1% (85区B-1~75区J-16付近)		H20・21
10	83		D・E-5、F-5・6、G-6、H-6・7、I-7~10、J-9・10	29×1.2	9% (83区J-10~E-5付近)		H20
11	72・82・83		72区R-18~21、S-18~21、T-21・22、U-22・23、V-23・24、W-23~25、82区W-1、X-1・2、Y-2・3、83区A-2・3、B-3・4、C-4	63×1.25	1% (83区C-4~72区R-20付近)		H21
12	72		Q-24・25、R-22~24、S-21・22	16.5×0.78	2% (72区S-21~Q-25付近)		H21
14	75		75区C-8、D-8・9、E-9・10、F-10・11、G-11	17.5×0.7	1% (75区F-10~C-8付近)		H21・22
15	75		E-3・4	6.5×0.9	1% (75区E-3~E-4)		H21
16	75・76		75区T-20、U-20・21、V-21・22、W-22・23、X-22~24、Y-23・24、76区A-24・25	31×0.45	2% (76区A-25~75区T-20付近)		H21
18	83		82区Y-9、83区A-9、B・C-10、D-10・11、L~R-9・10	24.2×4.5	6% (83区R-9~82区Y-9付近)		H25
19	84		F~H-8	7.5×1.1	2% (84区H-8~G-8付近)		H25

溝

番号	区	調査区名	位置(グリッド)	長さ×幅(m)	平均勾配	備考	調査年度
1	73	18B区	J-4、K-4・5、L-5・6、M-6	13×1.25	7% (73区M-6~J-4付近)		H18
2	74・84		74区D・G-23~25、84区D・G-1~7	84×0.55	2% (84区G-7~74区D-23付近)		H19・20
3	63・64・74		63区Y-24・25、64区A~E-25、74区E・F-1、G・H-2、I~O-3、P-3・4、Q・R-4、S-4・5、T-5、U-6、V-6・7、W-7	94×0.85	2% (74区W-7~73区Y-25付近)		H19・20・22
4	63・64・74	19区、20A区、22C区	63区X・Y-24・25、64区A・B-25、74区B~E-1、F-1・2、G-2、H-2・3、I~L-3、L-4、M-3・4、N~R-4、S-5、T-5・6、U-6・7、V・W-7	95.5×1.35	2% (74区W-7~63区Y-25付近)		H19・20・22
5	75・85		75区C-25、D-23~25、E-20~22、F-17~20、G~K-17、85区C-1	57×1.2	0.5% (85区C-1~75区H-17)		H20・21
6	75・85		75区B-25、C-23~25、D-21~23、E-17~21、F-16~18、G~J-16、85区B-1	58×0.9	1% (85区B-1~75区F-16付近)		H20・21
9	83		83区G・H-6、I-7・8、J-9	19.3×0.95	70% (83区J-9~G-6付近)		H20
11	83		G-7	1.5×1.05	40% (83区G-7付近)		H20
12	83		E~G-6	7.0×0.55	5% (83区G-6~E-6付近)		H20・21
13	72・82		72区T・U-25、82区R-4・5、S-2~4、T-1・2	22.4×0.58	4% (72区U-25~82区R-5付近)		H21
14	72		U-23・24、V-23	7×0.5	2% (72区V-23~U-24付近)		H21

遺構計測表

番号	区	調査区名	位置 (グリッド)	長さ×幅(m)	平均勾配	備考	調査年度
16	72		P-19・20、Q・R-20	10×0.6	13% (72区R-20～P-19付近)		H21
18	75		75区C-8、D-8・9、E-9・10、F-10	17.5×0.55	1% (75区F-10～C-8付近)		H21・22
19	75		75区C-8・9、D-9、E-10、F-10・11、G-11	18.5×0.55	1% (75区F-10～C-8付近)		H21・22
20	75・76		75区P～R-19、S・T-20、U-20・21、V-21・22、W-22・23、X-23・24、Y-24・25、76区A-25	40×1.4	6% (76区A-25～75区P-19付近)		H21・22

河道

番号	区	調査区名	位置 (グリッド)	長さ×幅(m)	平均勾配	備考	調査年度
1	83		83区D-5、E・F-5・6、G-5～7、H-7・8、I-8～10	26.5×-	9% (83区I-10～D-5付近)	すり鉢2、皿1	H20

取水施設

番号	区	調査区名	位置 (グリッド)	長さ×幅(m)	平均勾配	備考	調査年度
1	75		J-16	1.1×0.94	12% (75区J-16付近)		H21

水場

番号	区	調査区名	位置 (グリッド)	長さ×幅(m)	平均勾配	備考	調査年度
1	82		W-9	-	-		H22

暗渠

番号	区	調査区名	位置 (グリッド)	長さ×幅(m)	平均勾配	備考	調査年度
1	84		F-7、G-5～7、H-6・7、I-7	-	3% (84区G-6～G-5付近)	銅製品1、鉄滓2	H25

石垣

番号	区	調査区名	位置 (グリッド)	長さ×幅×高さ(m)	平均勾配	備考	調査年度
1	83		D・E-13	5.8×0.4×0.45			H18
2	83		C-12、D-11・12、E-11	13.5×0.9×0.8			H18
3	82		X・Y-10	3.0×0.8×0.7			H22
4	82・83		82区X・Y-9、83区A-9	7.7×0.4×0.7			H22
5	82		V～X-9	5.3×0.8×-			H22
6	84		F・G-7、H-7・8、I-8	14×1.8×0.7			H25
7	63・64		63区Q-8・10、R-11、S-11・12、T・U-13、V-14、W～Y-15、64区A～D-15	-			H20

石列

番号	区	調査区名	位置 (グリッド)	長さ×幅×高さ(m)	平均勾配	備考	調査年度
1	63・73		63区W-25、73区T～V-4、W-1～4	29.32×0.95×0.22			H19・20
2	75		E・F-22	5.5×0.6×-			H20

集石

番号	区	調査区名	位置 (グリッド)	長さ×幅×高さ(m)	平均勾配	備考	調査年度
1	83		L-9・10、M-10	北6.2、南2.3			H25

焼土

番号	区	調査区名	位置 (グリッド)	長軸×短軸×深さ(m)	出土遺物等	備考	調査年度
1号焼土	72		U-22	1.03×0.47×0.12			H21

土坑

番号	区	調査区名	位置 (グリッド)	長軸×短軸×深さ(m)	出土遺物等	備考	調査年度
1号土坑	83		C・D-13	1.1×1.05×0.56			H18
86号土坑	83		I-8	1.4×0.98×0.43			H20
315号土坑	75		O-20	1.5×1.2×0.25			H22
341号土坑	82		W・X-9	1.6×1.38×0.85			H22

第4章 自然科学分析

第1節 出土木製品の樹種同定

1. はじめに

吾妻郡長野原町に所在する尾坂遺跡から出土した木製品27点について樹種同定を行った。

2. 試料と方法

試料は、1号建物の土台、2号建物の柱材、5号建物の柱材、5号土坑出土の底板、8号土坑出土の底板と板材、A下畑出土の板材と、根材、樹皮、不明植物遺体、A軽石下A下畑出土の杭と不明植物遺体、A畑(G-7)出土の曲物、74区N-19出土の根材の、計27点である。遺構の時期は、すべて近世と推測されている。

これらの試料から、剃刀を用いて3断面(横断面・接線断面・放射断面)の切片を採取し、ガムクロラールで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察および同定、写真撮影を行った。

3. 結果

樹種同定の結果、針葉樹はモミ属とカラマツ、マツ属複維管束亜属、ヒノキの4分類群、広葉樹はクリ、クワ属(根材)、ウツギ属(幹~根材)、サクラ属、トチノキ(樹皮)の5分類群、その他に単子葉植物と双子葉植物があり、計11分類群が確認された。遺構別の樹種同定結果を表1、結果の一覧を付表1に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、光学顕微鏡写真を図版に示す。

表1 遺構別の樹種同定結果

樹種	遺構 器種・種別	1号	2号	5号	5号	8号土坑			A下畑				A軽石下 A下畑		A畑 (G-7)	74区 N-19	計
		建物 土台	建物 柱材	建物 柱材	土坑 底板	土坑 底板	土坑 板材	厚板材	木箱 側板か	根材	樹皮	植物遺体	杭	不明	曲物	根材	
モミ属															1		1
カラマツ		3															3
マツ属複維管束亜属					1		1		1								3
ヒノキ																	1
クリ			3	3				1								1	8
クワ属(根)										1							1
ウツギ属(幹~根)										2							3
サクラ属													1	1			2
トチノキ(樹皮)											1						1
単子葉植物(稈)																3	3
双子葉植物														1			1
計		3	3	3	1	1	1	1	1	3	1	3	1	3	1	1	27

(1)モミ属 *Abies* マツ科 図版1 1a-1c (220図1)
 仮道管および放射組織からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は比較的緩やかである。放射組織でじゅず状末端壁がみられる。分野壁孔はスギ型で、1分野に1~4個存在する。

モミ属は暖帯から温帯の山地に生育する常緑高木で、ウラジロモミやシラベ、トドマツなど約5種がある。材は柔軟で加工容易であるが、割れや狂いが出やすく、保存性が低い。

(2)カラマツ *Larix kaempferi* (Lamb.) Carrière マツ科 図版1 2a-2c (203図27)

仮道管と垂直および水平樹脂道、放射組織、放射仮道管からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は比較的緩やかで、晩材部は広い。大型の樹脂道を薄壁のエピセリウム細胞が囲んでいる。分野壁孔は小型のヒノキ型で、1分野に4~5個みられる。また、放射組織は数珠状末端壁を有し、放射組織の上下には放射仮道管がある。

カラマツは温帯に分布する落葉高木で、自生では宮城県・新潟県以南から中部山岳地帯の日当たりの良い山地に生育する。材は水湿に強い。

(3)マツ属複維管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylon* マツ科 図版1 3a-3c (201図17)

仮道管と垂直および水平樹脂道、放射組織、放射仮道管からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部は広い。大型の樹脂道を薄壁のエピセリウム細胞が囲んでいる。分野壁孔は窓状で、放射仮道管の水平壁は内側向きに鋸歯状に肥厚する。

マツ属複維管束亜属は暖帯から温帯下部に分布する常緑高木で、アカマツとクロマツがある。材は油気が多く、

韌性は大である。

(4)ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.)
Endl. ヒノキ科 図版1 4a-4c (201図18)

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかである。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に2個存在する。

ヒノキは福島県以南の温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は加工容易で割裂性が大きく、耐朽性および耐湿性が著しく高く、狂いが少ない。

(5)クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科
図版1 5a-5c (205図2)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、主に単列である。

クリは温帯下部から暖帯に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

(6)クワ属 *Morus* クワ科 図版1・2 6a-6c (231図140)

根材：大型の道管が、単独もしくは数个複合して散在する。道管の穿孔は単一である。放射組織は3～5列幅で、上下端の1～2細胞が直立もしくは方形細胞である異性である。

クワ属は温帯から暖帯、亜熱帯に分布する落葉高木で、ケグワとマグワ、ヤマグワなどがある。材は堅硬で、韌性に富む。

(7)ウツギ属 *Deutzia* ユキノシタ科 図版2 7a-7c
(231図143)

小型で丸い道管が、ほぼ単独で密に分布する散孔材である。道管の穿孔は40段以上の階段状である。放射組織は異性で1～7列幅、高さは1mm以上で鞘細胞がある。

温帯に分布する落葉低木である。ヒメウツギとマルバウツギ、ツクシウツギ、ウメウツギ、ウツギ、ウラジロウツギがある。

(8)サクラ属(広義) *Prunus* s.l. バラ科 図版2
8a-8c (74区畑植No.18)

やや小型の道管が、単独あるいは斜め方向に2～3個複合する散孔材である。道管の穿孔は単一で、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、1～5列幅

である。

サクラ属は温帯に生育する落葉または常緑の高木または低木である。サクラ属は、さらにサクラ亜属やスモモ亜属、モモ亜属、ウワミズザクラ亜属などに分類され、25種がある。木材組織からはモモとバクチノキ以外は識別困難なため、この2種を除いたサクラ属とする。材は比較的重硬および緻密だが、加工容易である。

(9)トチノキ *Aesculus turbinata* Blume トチノキ科
図版2 9a-9c (82区畑木No.1)

樹皮：表面には、大きな波形の模様がみられる。組織は、周皮とコルク組織で構成される。内樹皮に近い部位では、放射組織は単列同性で、接線断面において放射組織が層界状に配列する。

トチノキは温帯から暖帯に分布する落葉高木で、やや湿り気のある肥沃な土地の深い谷間や中腹の緩傾斜地によく生育する。

(10)単子葉植物 *Monocotyledons* 図版2 10a-10b(74区畑植No.27)

維管束と柔細胞で構成される単子葉植物の程である。埋没過程でつぶれているが、幅0.5～0.7cm程である。

(11)双子葉植物 *Dicotyledon* 図版2 11a-11c (219図植物21)

道管と放射組織、柔組織からなる双子葉類である。小径で脆く、組織の形態も不明瞭であるため、草本と思われる。

4. 考察

1号建物の土台は、3点ともカラマツであった。カラマツは、針葉樹の中では比較的重硬で加工しにくいだが、水中において耐水性があり、保存性は中庸である(平井, 1996)。したがって、土中での使用に適した樹種が選択されたと推測される。

2号建物と5号建物の柱材は、すべてクリであった。吾妻郡東吾妻町の上郷岡原遺跡でも、江戸時代後半の柱材にクリが多用されている(伊東・山田編, 2012)。クリは重硬で強度も大きい材であり、心材の耐久性が高いため水湿にも耐える(平井, 1996)。したがって、土中でも腐りにくく、強度を要する柱材として選択されたと推測される。

板材や底板、曲物では、5号土坑出土の底板と8号土

坑出土の板材、A下畑出土の木箱側板？はマツ属複雑管束亜属、A畑(G-7)出土の曲物はモミ属、8号土坑出土の底板はヒノキ、A下畑出土の厚板材はクリであった。A下畑出土の厚板材で確認されたクリを除くと、すべて針葉樹である。針葉樹は全般に割裂性が大きく製材しやすいため、多く利用されていたと考えられる。

A石下A下畑出土の杭はサクラ属であった。また、不明木材ではクリとサクラ属、双子葉植物が確認された。不明木材の用途はわからないが、杭材には周囲に生育していた樹木が使用される傾向があるため(伊東・山田編, 2012)、今回のサクラ属も遺跡周辺に生育していた樹木であったと推測される。

A下畑出土の樹皮は、トチノキであった。トチノキの樹皮は、大木になると大きな波形の模様ができ、大きく割れて剥がれ落ちる(茂木ほか, 2000)。製品として使ったとは考えにくいと、自然木の一部であったと推測される。

同じくA下畑出土の植物遺体は単子葉植物の稈(茎)であった。小径で組織が弱いため、草本であると思われる。畑の作物であった可能性もあるが、種の特定には至らなかった。

A下畑出土の根材は、クワ属とウツギ属、74区N-19出土の根材もウツギ属であった。ウツギ属のウツギは、土地や畑の境界に植える境木として現代でもよく使われている(茂木ほか, 2000)。関東地方ではウツギの他に、カマツカ、マサキ、チャノキ、クワ、エノキなどが境木として利用されている(徳岡, 2014)。今回分析を行った試料も畑から出土した根材であり、境木であった可能性が考えられる。

引用文献

平井信二(1996)木の百科. 394p, 朝倉書店.
 伊東隆夫・山田昌久編(2012)木の考古学—出土木製品用材データベース—. 449p, 海青社.
 茂木 透・高橋秀男・勝山輝男(2000)樹に咲く花 離弁花2. 719p, 山と溪谷社
 徳岡良則(2014)畑に残る小さな老木、境木にみる地域の生物文化. 農環研ニュースNo.103. 6-7, 農業環境技術研究所.

第2節 出土赤色顔料の蛍光X線分析

1. はじめに

尾坂遺跡より出土した赤色顔料について蛍光X線分析を行い、顔料の種類を検討した。

2. 試料と方法

分析対象は、74区2面より出土した赤褐色の小塊2点である(表2、図版3-1)。時期は不明であるが、出土位置から少なくとも江戸時代以前で、縄文~弥生時代頃の可能性があると思われる。No.28はやや軟質で、No.29の方が比較的硬く締まっていた。2点とも、実体顕微鏡下でセロハンテープに赤色部分を極少量採取して分析試料とした。

分析装置はエネルギー分散型蛍光X線分析装置である(株)堀場製作所製分析顕微鏡XGT-5000Type IIを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV・1mAのロジウムターゲット、X線ビーム径が100μmまたは10μm、検出器は高純度Si検出器(Xerophy)である。検出可能元素はナトリウム~ウランであるが、ナトリウム、マグネシウムといった軽元素は蛍光X線分析装置の性質上、検出感度が悪い。

本分析での測定条件は、50kV、1.00mA(自動設定による)、ビーム径100μm、測定時間500sに設定した。定量分析は、標準試料を用いないファンダメンタル・パラメータ法(FP法)による半定量分析を装置付属ソフトで行った。さらに、蛍光X線分析用に採取した試料を観察試料として、生物顕微鏡で赤色顔料の粒子形状を確認した。

3. 結果

分析により得られたスペクトルおよびFP法による半定量分析結果を図1に示す。

分析の結果、いずれもケイ素(Si)、鉄(Fe)が主に検出された。ほかに、カルシウム(Ca)、亜鉛(Zn)、ジルコニ

表2 分析対象一覧

No.	遺物 No.	区	出土	出土	備考
			遺構	場所	
28	2	74区	遺構外	2面 Q-14	直径7mm、赤褐色小塊、やや軟質
29	4	74区		2面 Q-18	直径5mm、赤褐色小塊、No.28より硬く締まる

ウム(Zr)も検出された。

また、生物顕微鏡観察により得られた画像を図版3-2、3に示す。No.28から赤色パイプ状の粒子が観察された。

4. 考察

赤色顔料の代表的なものとしては、朱(水銀朱)とベンガラが挙げられる。水銀朱は硫化水銀(HgS)で、鉱物としては辰砂と呼ばれ、産出地はある程度限定される。ベンガラは狭義には三酸化二鉄(Fe₂O₃、鉱物名は赤鉄鉱)を指すが、広義には鉄(III)の発色に伴う赤色顔料全般を指し(成瀬, 2004)、広範な地域で採取可能である。また、ベンガラは直径約1μmのパイプ状の粒子形状からなるものも多く報告されている。このパイプ状の粒子形状は鉄バクテリア起源と判明しており(岡田, 1997)、含水水酸化鉄を焼いて得た赤鉄鉱がこのような形状を示す(成瀬, 1998)。鉄バクテリアは、湿地などで採集できる。

今回分析した試料からは、鉄が極めて高く検出されており、赤色は鉄による発色であると推定できる。すなわち、顔料としてはベンガラにあたる。さらに、No.28からはパイプ状の粒子が検出され、No.28は鉄バクテリアを起源とするいわゆるパイプ状ベンガラであったといえる。No.29からは、限られた採取量の範囲内ながらも丹念に探したが、No.28に観察されるようなパイプ状粒子

は認められなかった。しかし、No.28とNo.29で粒子形状が一致しない一方で、アルミニウム(Al)やカリウム(K)、チタン(Ti)が少なく、亜鉛(Zn)やジルコニウム(Zr)が検出されるなど、化学組成上は特徴的で非常によく似ているといえる。両者は、形状は不一致ながら化学組成は近似するという、一見相反したように思える結果となっており、その解釈に課題が残った。

5. おわりに

遺跡より出土した赤褐色の小塊2点について分析した結果、鉄が極めて多く検出され、鉄(III)による発色と推定された。顔料としてはベンガラにあたる。両者は、化学組成上はよく似ていた一方で、パイプ状の粒子が確認される、いわゆるパイプ状ベンガラであったのは1点だけであった。

引用文献

- 成瀬正和(1998)縄文時代の赤色顔料I—赤彩土器—。考古学ジャーナル, 438, 10-14, ニューサイエンス社。
 成瀬正和(2004)正倉院宝物に用いられた無機顔料。正倉院紀要, 26, 13-61, 宮内庁正倉院事務所。
 岡田文男(1997)パイプ状ベンガラ粒子の復元。日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集, 38-39。

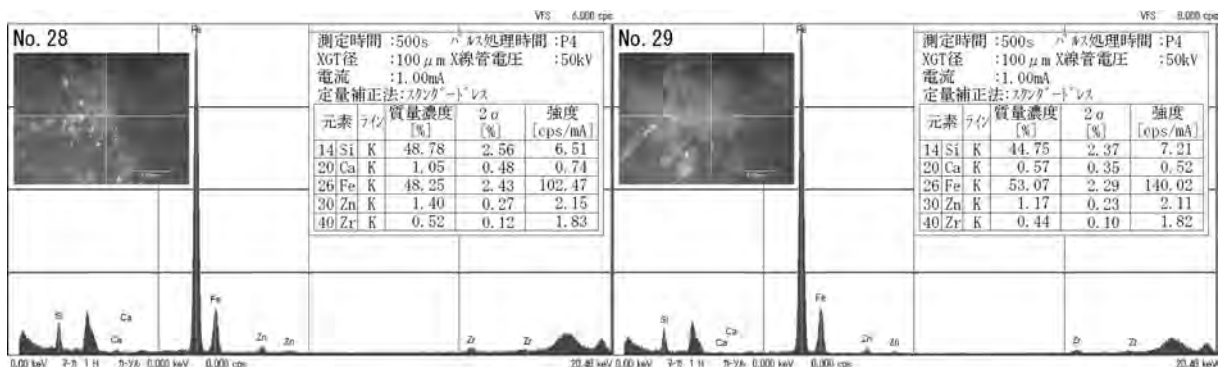
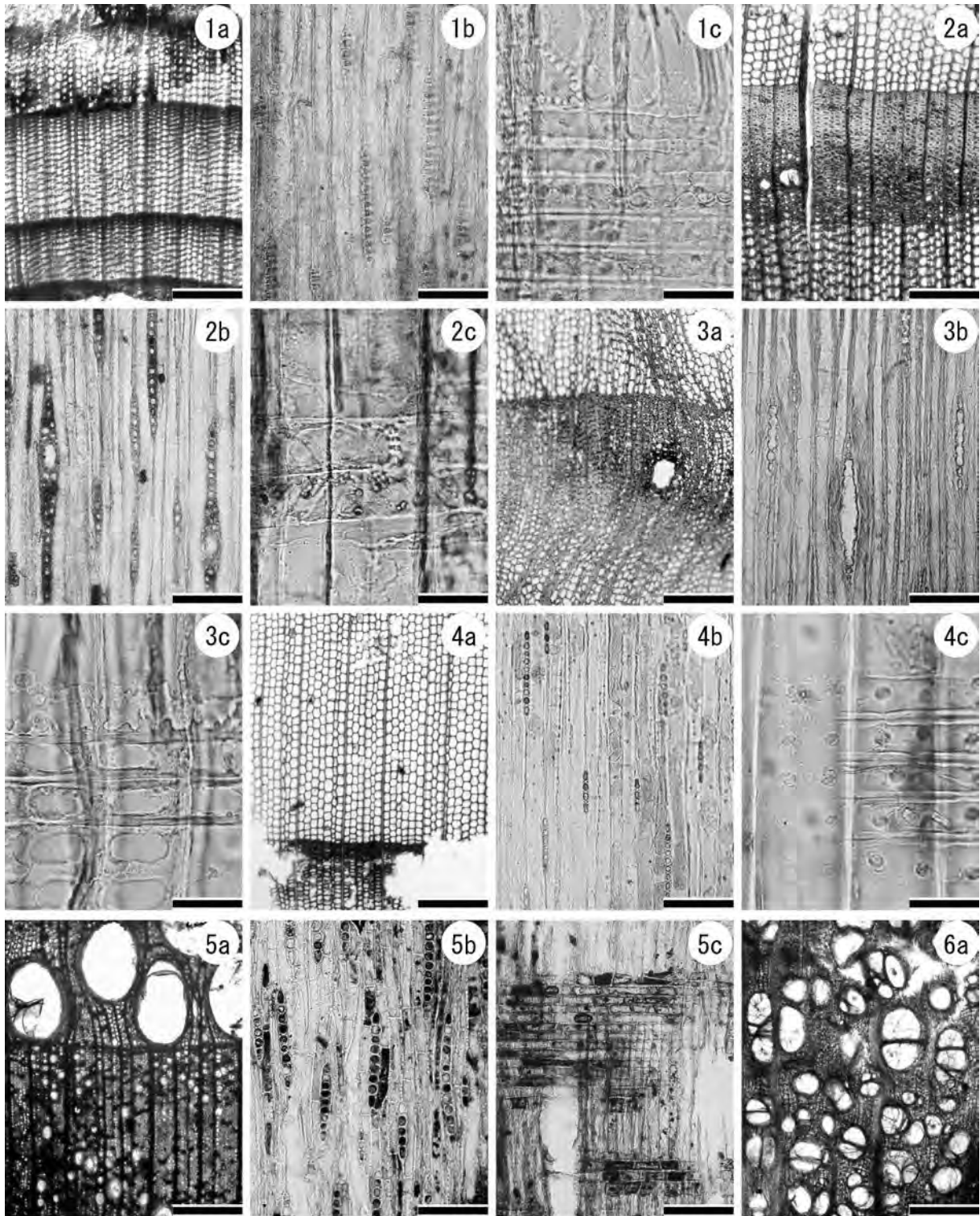


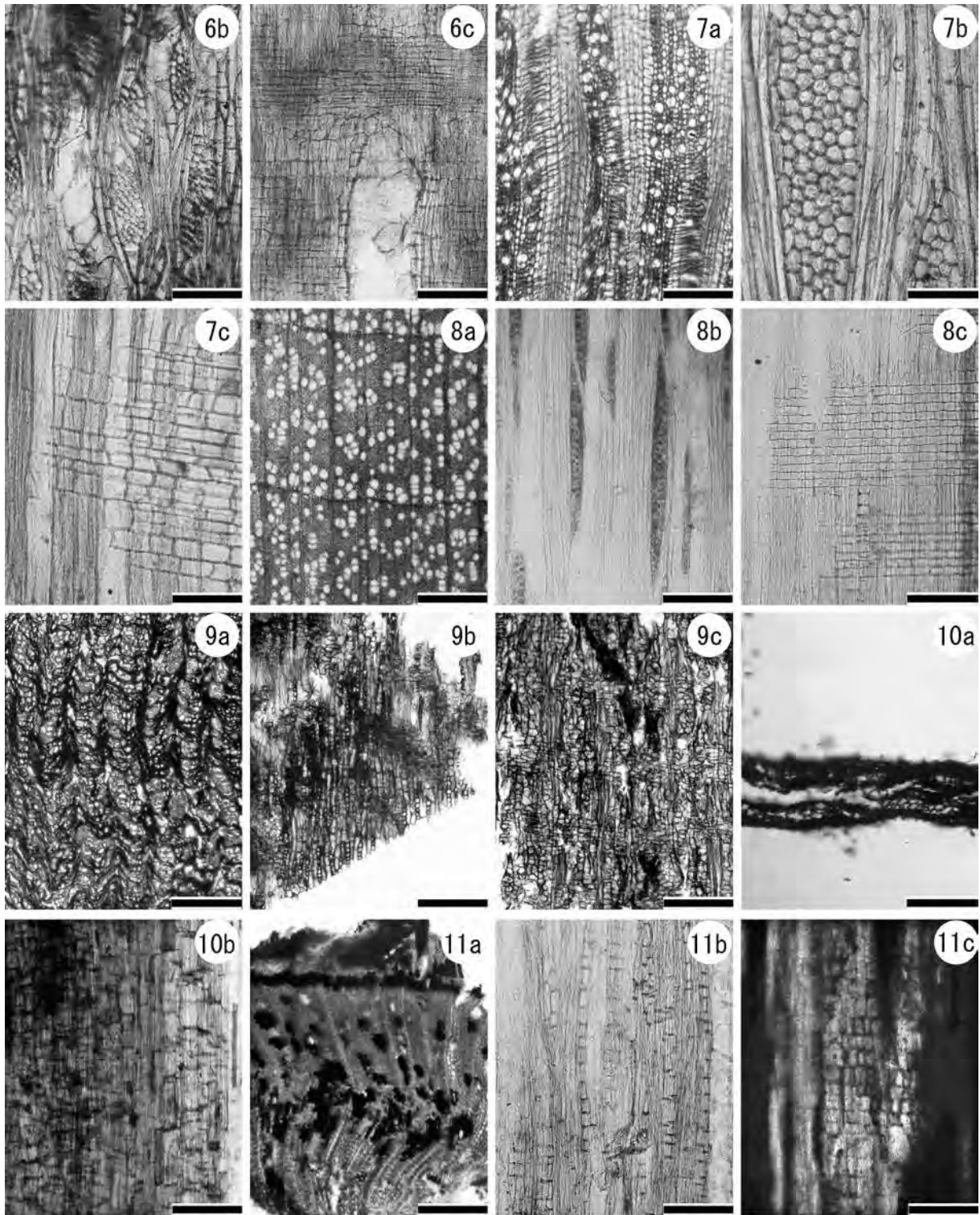
図1 赤色顔料の蛍光X線分析結果



図版1 尾坂遺跡出土木材の光学顕微鏡写真(1)

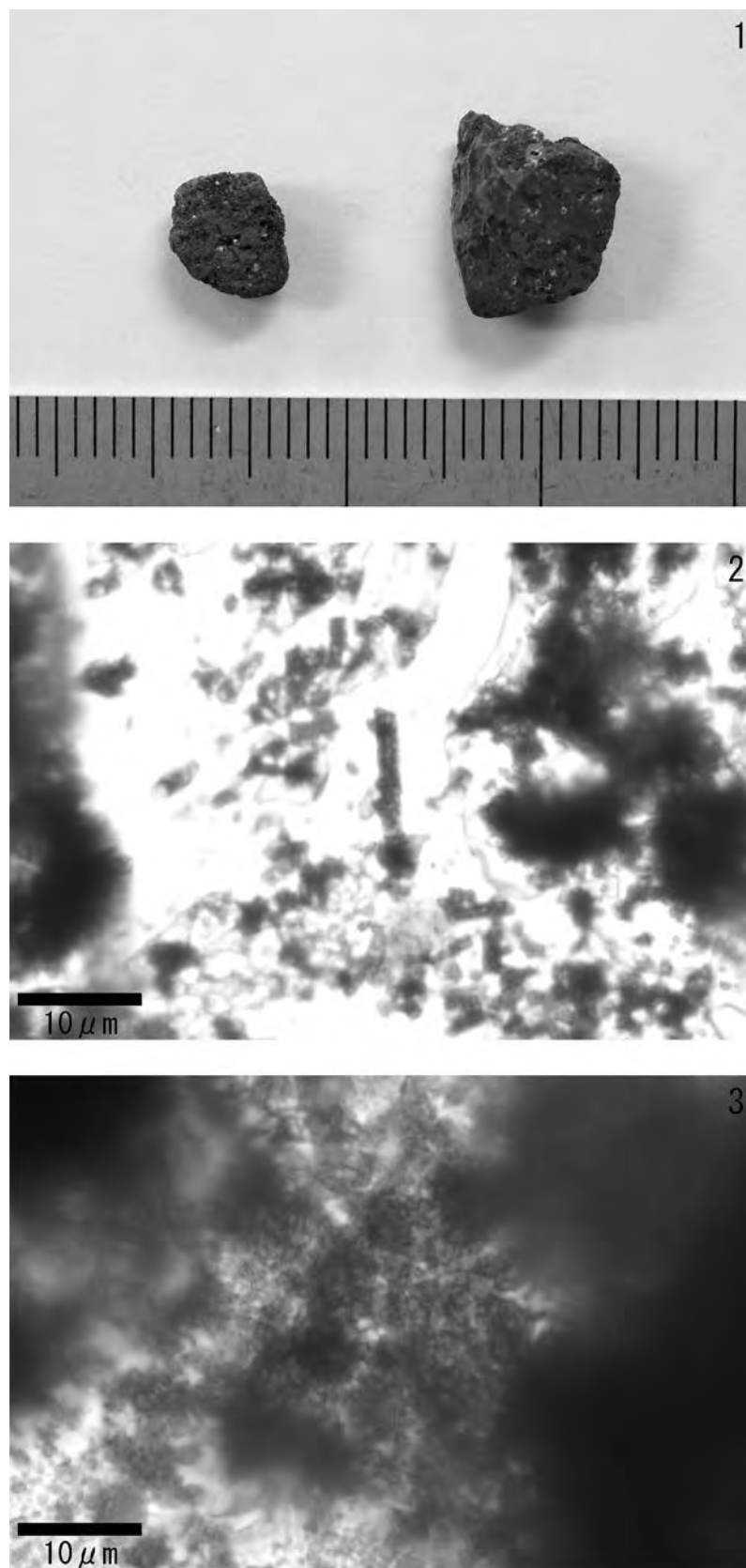
1a-1c.モミ属(220図1)、2a-2c.カラマツ(203図27)、3a-3c.マツ属複雑維管束亜属(201図17)、4a-4c.ヒノキ(201図18)、5a-5c. クリ(205図2)、6a.クワ属(根材:231図140)

a:横断面(スケール=250 μ m)、b:接線断面(スケール=100 μ m)、c:放射断面(スケール=1-4:25 μ m、5:100 μ m)



図版2 尾坂遺跡出土木材の光学顕微鏡写真(2)

6b-6c. クワ属(根材: 231図140)、7a-7c. ウツギ属(231図143)、8a-8c. サクラ属(74区畑植No.18)、9a-9c. トチノキ(樹皮: 82区畑木No.1)、10a-10b. 単子葉植物(74区畑植No.27)、11a-11c. 双子葉植物(219図植物21)
 a: 横断面(スケール=250 μ m)、b: 接線断面(スケール=6-8・11: 100 μ m、9・10: 250 μ m)、c: 放射断面(スケール=6-8・11: 100 μ m、9: 250 μ m)



図版3 分析対象試料および生物顕微鏡写真

1. 分析対象試料 2. No.28 生物顕微鏡写真 3. No.29 生物顕微鏡写真

第5章 調査成果(総括)

第1節 縄文時代の遺構と遺物について

1. 遺構

尾坂遺跡において検出した縄文時代の住居はいずれも中期後半に位置付けられる。

遺跡の全調査区内の南西側、吾妻川に沿った河岸段丘端に分布が見られる。検出された軒数は5軒である、住居同士重複は確認されておらず、配置を見てもほぼ同時期か、極めて短期間営まれた集落とみることができる。

3・4号住居は極めて礫が集中した場所において確認されているために、形状については明確さに欠ける。

5・6・8号住居は柄鏡形の住居である、いずれも部分的な敷石を有す敷石住居と思われる。張り出し部が東から北に向かって延びている。張り出し部から主体部の方向を望むと、その先は吾妻川となる。

6号住居は、当初張り出し部のみを検出、その後拡張して主体部の調査を行っている。主体部と張り出し部結合部に2基の埋嚢が、張り出し部の先端部にも埋嚢を有していた。また張り出し部に3列の小礫が直線的に並べられていた。

8号住居は周囲を地山の礫が囲うような場所に位置していた、掘り込みも不明であったが、主体部をめぐる礫の一部と敷石の存在などから、調査を進めたところ炉の確認に至った。

張り出し部は埋嚢の存在から確認を得ている。主体部との結合部に検出された対ピットとみられる掘り込み脇に、自然礫を利用した石棒が埋め込まれていた。

土坑に関しては、100基を超える数を確認している、住居の周辺部から川に沿った段丘上に広がっている。

遺物が出土しているものも確認されたが、その数はあまり多くはなく、完形品を伴うものは見られなかった。

74区と75区の間部分に未調査部分が存在しており、ここにも住居、土坑の存在していた可能性は高いものと考えられる。

列石とした4号、6号は、位置的には離れているが、弧状に繋がる可能性が高い、75区東側において検出されている1～6号の埋嚢群は想定される弧状のラインにほ

ぼ沿うように位置していることから関連が考えられ、弧状列石の一連の付帯物としてとらえられよう。

本遺跡の北側上位段丘上には250軒を超える大集落である、長野原一本松遺跡が位置している。同遺跡は中期後半から後期前半にかけて営まれた大集落で、対岸の横壁中村遺跡と並ぶ環状構造を持った拠点集落である。

尾坂遺跡に検出された縄文時代の遺構と長野原一本松に暮らしていた人々との関係は少なからずあったと考えられるが、今回、具体的なものを提示することはできない。今後の検討が待たれる。

2. 出土遺物

土器

遺構、遺構外を含め総点数約8,000点が出土している。住居より出土した土器は前述したように中期後葉である。具体的には加曾利E3式とみられ、信州系のものも含まれる。

遺構外出土のものは、74区T-6グリッドにおいて、早期後半の一群がまとまって出土している。地形的には、大小の地山礫が多く露出した部分で、密集する石の間や、周辺部においてまとまって出土した。

掘り込みなどは確認されていない。土器の出土レベルにもやや差が見られた。出土した土器片は、完形には至らなかったが、ほぼ一個体であった。他の土器片はほとんど無く、持ち込まれた一つの土器がこの場所において、破棄または何らかの理由で置かれたものと考えられる。

この時期の土器については、上位段丘に分布する遺跡において立馬I遺跡などに出土例がある他、下位段丘において調査が行われた遺跡では、下流対岸に位置する横壁中村遺跡などに若干の出土例を認める。

さらに時期が下った前期の土器についてはわずかに数片が出土しているのみで、周辺部に分布の傾向が窺える。これらの中には土坑から出土しているものもあり、住居などは確認できなかったものの、生活の痕跡として捉えられるかもしれない。

住居、土坑の主体的な時期である中期後葉の出土は最も多く、その90%以上を占めている。

後期以降については出土数が少なく、遺構についてもほとんど確認されていない。

土製円盤も複数が見られる。分布に傾向がみられるこ

とは無く、大小があり、時期的には中期後葉の土器片を再利用しているものが主体を占める。

石器

石器の総点数は、404点である。器種別の点数を見ると、石鏃109点、石錐8点、スクレイパー6点、石匙2点、打製石斧55点、磨製石斧8点、凹石11点、磨石124点、敲き石1点、石皿11点、台石19点、石棒7点、多孔石6点、軽石製品8点、装身具1点などで、組成比率を見ると、石鏃、磨石類の多さが目を引く、使用痕の不明瞭なものもあるが、多くは両面を使用面とし、部分的に打痕が看取される。

凹石は磨石としての利用も窺え、区別の難しいものもあった。

石鏃も多く器種別では2番目に多く出土している。凹基鏃が約60%を占めている。やや数は少ないが、有茎も見られる。有茎鏃の中には弥生時代に帰属するものも含まれていると考えられるが、明確に分別できないため、縄文時代の石器に含めている。

石錐も出土しているが、点数的には僅かであった。

打製石斧も比較的多く見られ短冊型、撥型、分銅型に大別される。時期的な違いによるものか。大型の石鏃もあり、弥生時代に帰属するものと考えられる。

石皿は住居より出土したものは3点、土坑からは2点、列石からは4号、6号で1点ずつが、遺構外からは4点が出土している。完形品は3点、他は欠損している。また、裏面に複数の凹み穴を有すものも見られる。炉石に転用されているものも見られた。

この他、大型で表裏面が平らな、所謂台石が19点程見られ、石皿と分別が難しいものも見られた。

使用痕などはあまり顕著には確認されなかったものも多いが、中には極めて平滑な使用面が観察された石器も存在している。用途や使用する対象物の違い、あるいは石質にもよるのであろうか。

石棒は緑色片岩製が3点と少ない、他は棒状の自然礫を利用している。緑色片岩製の石棒はいずれも欠損している。一部は二次的に被熱している。石剣と見られる破損品も見られる。

多孔石は住居出土のものが2点、土坑が2点、列石が1点、遺構外が1点である。比較的大型で複数の凹み穴をもつものと、比較的小型で数個の凹み穴を有すもの

とに大別できる、大型のものは、角張った自然礫を利用、表面に断面円錐形の穴を不規則に配する。

石材はほとんど表面が粗い粗粒輝石安山岩を利用している。

軽石製品は長野原地内の同時期の集落において多くの出土が見られる。その形は円盤形、短冊形、楕円形、半球形、中を削り抜き靴の様な形状を呈す物等様々で、短冊形のものには紐を通すと思われる穴を持ったものも見られる。

半球状、不定形のものの中には部分的に平らな面があり、砥石と考えられる。

このほか1点のみであるが、玦状耳飾りの破損品が出土している。円形で中央に穴を開け、下位に切り込みがあるタイプと見られるが、半分を欠損している。

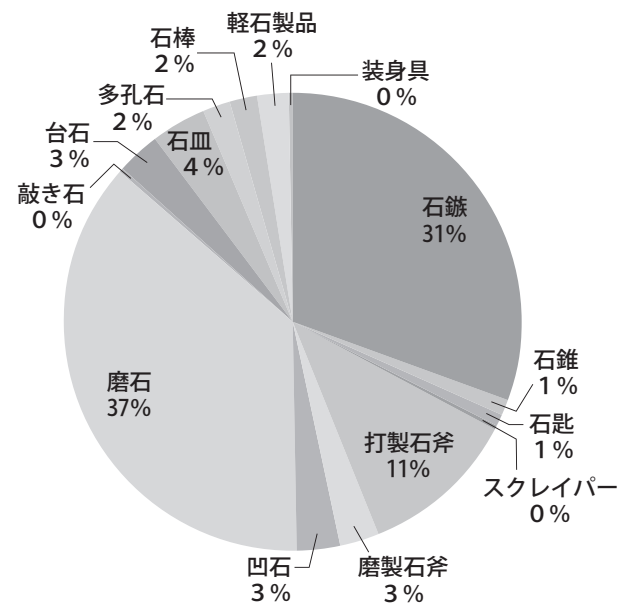
時期は前期と考えられ、該期の土器片も僅かながら出土している。

以下に尾坂遺跡出土石器の組成を示した。なお、数字は四捨五入して%表記としている。

これを見ると、石鏃と磨石がそれぞれ全体の約1/3を占めている。

磨石に関しては、使用面の痕などから認定しているが、前述した様に凹み穴を有し、器種としては両者の用途を持つものも多く見られる。

大型の円形礫も多く見られ、磨石としての機能は考えにくく、住居からも多く出土している。祭祀的な要素も加味する必要が在ろう。



第233図 尾坂遺跡出土石器組成グラフ

第2節 弥生時代の遺構と遺物について

1. 遺構

再葬墓

1号再葬墓は、74区のR-7グリッドにおいて検出された。畑の調査終了後グリッドにて、20~25cm程掘り下げを行った中、あまり遺物等の出土も見られな暗褐色土の上層部にて確認されている。

検出時の状況は、やや南に位置する平安時代の7号住居が確認されたため、その周囲に精査面を広げていたところ、やや大きい数個の礫の集中が認められた。

周囲にも礫の出土は見られたが、点在する程度で、まとまりをもった集まりは目を引いた。

礫は、やや大きな2石(河原石と亜角礫)を囲むように5個の河原石が配されていた。礫の周囲には小礫が多く点在している状況が窺えた。これらの礫上面においては、土器などは見られず、当初は、1号集石遺構として調査を進めた。

同遺構の調査概要は4分割に断面を設定し、掘り下げを開始したところ、2~10cmの小振りの礫が多く検出された、これらの礫は上位に載った石の下部に詰められたような状況が見られ、礫中には甕の破片などが出土したことから、弥生時代の遺構と判断した。

詰め込まれた礫の周囲には顕著な鉄分の凝集が認められている。礫を取り除いて、さらに掘り下げたところ、土坑底部全体に広がるように、大型の壺が潰れた状態で出土、さらに、丁寧に土器周りの土を除去して行くと、壺の底部側に黒色を呈す、完形の小型壺が横倒しの状態で出土した。

県内における類例としては、大型壺形土器については、沖II遺跡で出土したAU-9号・AU-17号土器埋設遺構出土の土器に近似しており、大きさもAU-17号出土の土器とほぼ同じ器高である。

土器の埋設形態は、上記遺構の土器は正位で埋められており、尾坂遺跡の用に横倒しに埋設したと思われる遺構としては、U-24号土器埋設土坑が上げられる。

1号再葬墓の大型壺形土器は横倒しで、押しつぶされたような状態で出土した。詳細に観察したところ、底部を東、上部を西にしている状態であるが、頸部から口縁部分は底部側で出土した。小型壺は東側の胴上位部分の

上に載るように出土している。

土器を復元した際に、頸部から胴部間の破片が無く、接合部が確認されなかったこともあり、頸部を切断するというような、土器に行われた意図的な行為が埋葬時あったのかもしれない。

再葬墓と考えられる遺構については、八ッ場地区内では川原湯勝沼遺跡や横壁中村遺跡において晩期終末から弥生時代にかけてのものが確認されている。

特に川原湯勝沼遺跡の土器は正位の甕型土器と逆位の壺形土器が並んで埋設された状態で出土している。一部小礫が覆っている状況も確認されている。

下流に目を向けると、古くは岩櫃山鷹の巣遺跡において複数の再葬墓の調査が行われ、群馬県西北部における該期の弥生時代研究の先鞭となった。

昭和62年に東吾妻町において調査された前畑遺跡は、鷹の巣遺跡の西方約2kmの吾妻川左岸段丘上に位置する遺跡で、複数の弥生土器を伴う土坑9基が検出された。

この内11号土坑からはほぼ完形の壺形土器と2点、13号土坑からは甕形土器が出土している。再葬墓と考えられ、形はほぼ長方形で、大きさはいずれも2m×1.5m程で深さは30~50cm程である。

340号土坑

調査された弥生時代の土坑は28基を数え、多くの土坑から土器が出土しているものの、ほとんどが小破片であった。完形品を出土している土坑は340号土坑のみである。

本址は74区T-5グリッドに位置する。周囲には縄文、弥生時代の土坑がわずかに点在している。土坑が位置する場所は川寄りにやや高まる段丘の端部に近く、北西から南東に伸びた場所にあたる。

筒形土器と鉢型土器、2個体の完形土器が出土している。土坑は径50cmと小さく、掘り込みも極めて浅かった。出土した2点の土器は互いに接しており、筒形土器は横倒しに、鉢型土器は口縁部を上正位の状態で出土している。

明らかに同時に置かれたものと判断される。他に遺物は無く、礫なども見られなかった。何らかの理由から置かれたものと考えられるが、掘り込みが浅く、土坑墓と

するには積極的な傍証は得られなかった。

土器内部から骨片等も確認されなかった。

2. 土器

尾坂遺跡において出土した弥生土器は、総数4,600点を越えている。この内、遺構出土の土器について53点、遺構外出土の土器401点を図化した。

その多くが遺構外において出土しており、遺構に伴っているものは少ない。時期はほとんどが中期前半に比定され、長野原地域において、一遺跡での資料としてはまとまった出土量といえる。

遺構出土の土器について若干の所見を述べておくこととする。

1号再埋葬より出土した大型の壺形土器は、器高88.5cm、最大径は46.5cmを測る。器表面に条痕を施し、口縁部に押圧を持つ突帯が廻る。

長野原地内での出土例は、胴部破片と思われるものが散見されるが、器形を復元されたものは無い。

前述した沖Ⅱ遺跡の出土土器に類似性を見るも、近隣において、破片等は確認されているが器形を復元しうる類例を見ない。

口縁部内面にも文様を有しており、沖Ⅱ遺跡の壺形土器などの中にも、口縁内面に文様を持つ土器が知られるが、いずれも斜位条痕や波状文様が主で、本例のような、縦横交互の集合条痕を付す例は無い。

また、図にも見られるように、器面胴中位に沈線による線描文が描かれている。縦に下端部がやや広がる4本の沈線が描かれ、両端の上位部分は内側にカーブしており、あたかも4本鋸のような形を示している。

右側沈線から左に描いたものと見られ、線描文の大きさは、縦10cm、幅7cm程で、条痕施文後に描かれている。

さらに、背面側ほぼ同じ位置にも縦に5本の沈線文が描かれている。間隔も形状もやや不揃いで、右側に向かって上がって描かれる。

この他、正面から左90°の肩部にも不明瞭ではあるが、縦2本の短沈線文が見られる。

これらの線描文は器面整形後に描かれたことは明らかで、位置や描き方などから、偶然付いたとは考えられない。

ある意図の元に描かれた可能性が高いものと考えら

れ、こうした土器に描かれた線描文は人面画さらには人面土器との関連性も指摘されており、中期前半期における、群馬県内の類例の1つとして加えられよう。

また、共伴した小型壺は高さ13.5cmで完形である。口縁部、胴部に縄文を施文しており、他の文様を持たない。肌肉厚く器面は黒色を呈す。日常使用されたものではなく、供献用に作られたものか。

なお、1号再埋葬から出土している壺の胴部片は、上部に詰め込まれた礫と伴って出土している。やや丸みを有し、縦位、横位条痕下位に縦位の羽状条痕文を施文する。条痕文は粗く深い特徴が看取され、水神平系と思われる。

340号土坑出土の筒形土器と鉢形土器はいずれも完形である。筒形土器は高さ26cmである。

肩部に変形工字文様を廻らしている、文様の連結部端部は瘤状に肥厚。胴部は縄文施文し2本、3本の沈線を2段廻らしている。口縁部には幅狭の縄文帯が沈線を挟んで廻らされている。以下工字文帯までの頸部は無文である。

本例はいわゆる筒形土器と呼ばれる器形とはやや異なっている。例えば県南西部の鎗川流域の関所裏遺跡、白倉遺跡の土器は胴長で胴下部が膨らみ中位でやや締まり口縁部に向かって再び広がり、口縁部が僅かに内傾する器形である。これに対し340号土坑出土のものは底部がやや張り、胴中位は締まり肩部に向かってやや開き頸部が締まり口縁部は再び開く。頸部が括れ明らかに前者2例とは異なる器形で洗練された形と言える。文様も縄文を配した沈線文様ではなく、剣肩部に変形工字文用を持つ点は明らかに、大洞系の流れを汲むものと言える。筒形としているが、壺形としても良いかも知れない。あまり類例を見ない土器であり、比較的古く位置付けられようか。

鉢形土器は口径19.5cm、器高6.8cmである。文様は沈線による曲線文様を描き、文様内を縄文充填する。口縁部は12単位の小波状を呈し、波頂部に刻みを有す。口縁部に2カ所の補修孔が空けられている。

両者を比較すると、縄文を有す点は同じであるが、変形工字文様と縄文文様という違いが見られる。

この鉢形土器に関しては、遺構外より出土している他の鉢型土器の中に、同種のものがほとんど見られない。



第234図 弥生遺構検出遺跡(国土地理院5万分の1地形図「草津」・「中之条」使用)

表16 吾妻川流域における弥生時代の遺跡

No.	遺跡名	住居	再埋葬	土坑	土器	石器等	備考
1	尾坂遺跡		●	●	中期前半・後期	石鍬	
2	坪井遺跡			●	中期後半		
3	長野原一本松遺跡			●	中期前半・後期		
4	幸神遺跡				中期前半		
5	楡木Ⅰ遺跡				中期前半		
6	楡木Ⅱ遺跡				中期前半		
7	楡木Ⅲ遺跡				中期前半		
8	下原遺跡				中期前半		縄文晩期
9	林中原Ⅰ遺跡						
10	林中原Ⅱ遺跡	●	●	●	中期前半・後半・後期		
11	上原Ⅳ遺跡				中期前半		縄文晩期
12	立馬Ⅰ遺跡	●	土器棺墓	●	中期前半・中期後半・後期	石鍬・磨製石斧	土器棺墓
13	立馬Ⅱ遺跡						
14	川原湯勝沼遺跡		●	●	中期前半・縄文晩期末	玉	氷Ⅰ式
15	上ノ平遺跡				中期前半		
16	三平Ⅰ遺跡				中期前半		
17	二社平遺跡				後期		
18	石畑岩陰遺跡				後期		
19	有笠山2号洞窟遺跡				中期後半	骨製装身具・獣骨	洞窟遺跡
20	向原遺跡			●	中期前半		
21	久々戸遺跡						縄文晩期
22	西久保Ⅰ遺跡				中期前半・中期後半・後期		縄文晩期
23	西久保Ⅳ遺跡				中期前半		
24	山根Ⅲ遺跡				中期前半		
25	横壁中村遺跡	●	●	●	中期前半・中期後半	磨製石斧	縄文晩期
26	横壁勝沼遺跡			●	中期前半		
27	上郷西遺跡		●		中期前半		
28	上郷岡原遺跡				中期前半		縄文晩期
29	前畑遺跡		●	●	中期前半・後期		
30	岩櫃山麿の巣遺跡		●		中期前半	人骨	岩陰遺跡
31	郷原遺跡				後期		
32	五十嵐遺跡				中期後半		
33	小泉宮戸遺跡				中期後半・後期		

東吾妻町の前畑遺跡で出土した土器は壺形、甕形、鉢形、蓋形土器などが見られ、多くは破片であったが、再埋葬と見られる11号土坑からは、2個体の口縁部に押圧突帯、沈線、波状文縦位羽状条痕を施す土器と頸部に波状文を持つ壺形土器が、13号土坑からは、甕形土器が出土している。

長野原地内で近年増加している該期の資料について、東海系と見られる土器、これらの影響を受け在地化した土器、さらに変形工字文様からの流れを持った大洞系、さらに縄文を主文様とした伝統的な流れの中から追えるであろう土器群が見られる。

この地が縄文から弥生へと変化を遂げる中で、吾妻川、南に峠を越えた烏川から利根川流域に広がる弥生文化の胎動を示す遺跡の調査研究によって、人々や物の流れがより明らかになって行くものと考えられる。

3. 底部圧痕について

出土した土器の内、底部が残る土器は完形品、破片を含め約80点である。多くは小片のため、観察不可能な

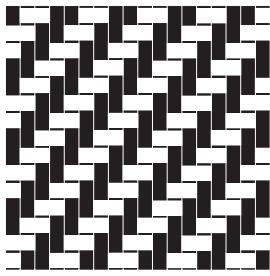
ものが多かった。このうち図化した底部に何らかの圧痕が観察された土器は65点で内訳は下のとおりである。

いわゆる網代痕は弥生土器に多く見られ45点、縄文土器については時期的なことも有り僅か8点であった。他に木葉痕が10点である。なお、編み方の呼称は荒木ヨシ氏の分類による。

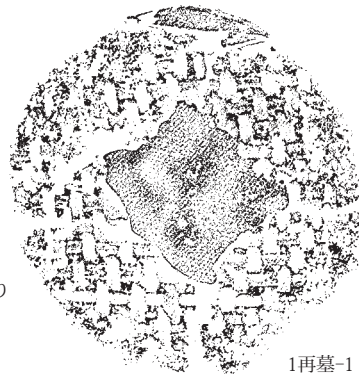
網代の観察で、分類できた編み方は、①2本越え、2本潜り、左1本送り ②2本越え、2本潜り、左1本送りの変則 ③2本越え、2本潜り、右1本送り ④2本越え、1本送り、右1本送り ⑤3本越え、3本潜り、右1本送り ⑥2本越え、2本潜りと1本越え、1本潜りの変則 ⑦2本越え、2本潜りの変則 ⑧1本越え、1本潜り ⑨2本越え、3本潜りの変則 ⑩3本越え、3本潜りの変則 ⑪3本越え、3本潜りの変則 ⑫9本越え、1本潜りの変則 ⑬不明である。以下に模式図とそれぞれの底部拓影を示した。

取り上げた底部片は、観察可能なものとし、風化や小片のため識別不可能なものも多く存在している。

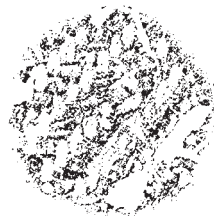
編まれた材料に関しては、材の幅が狭いものは1.4mm、



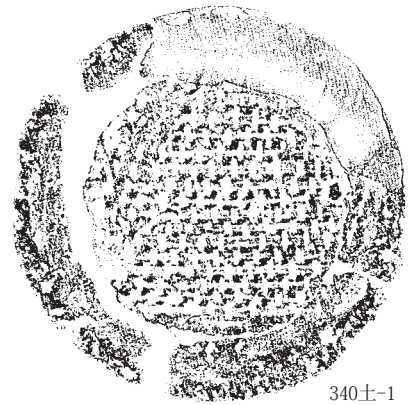
① 2本越え、2本潜り、左1本送り



1再墓-1



1再墓-2



340土-1



154土-1



361土-1



364土-2



外338



外343



縄外344



外348



外349



外354



外356



外357



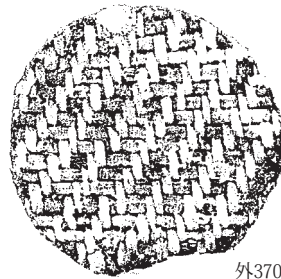
外361



外364



外365



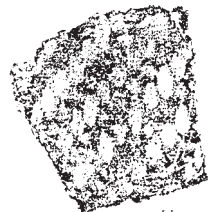
外370



外372



外383



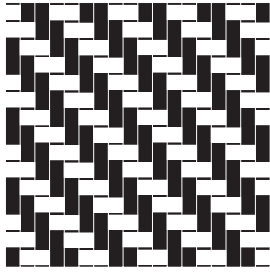
外382



外371

② 2本越え、2本潜り、左1本送りの変則

第235図 底部文様(1)



③ 2本越え、2本潜り、右1本送り



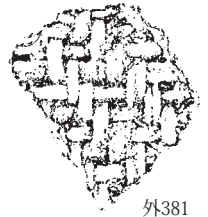
365土-7



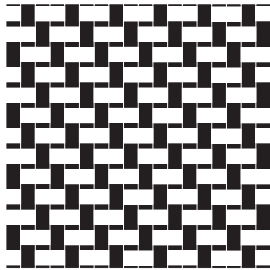
外261



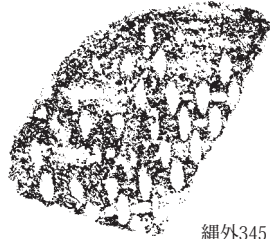
外362



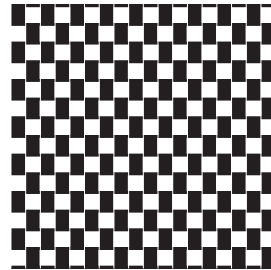
外381



④ 2本越え、1本潜り、右1本送り



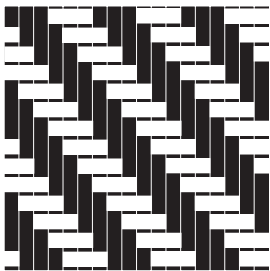
縄外345



⑧ 1本越え、1本潜り



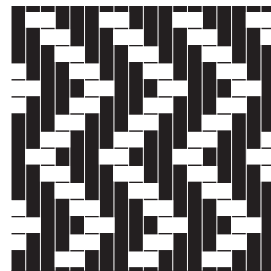
362土-8



⑤ 3本越え、3本潜り、右1本送り



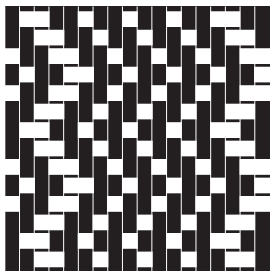
外366



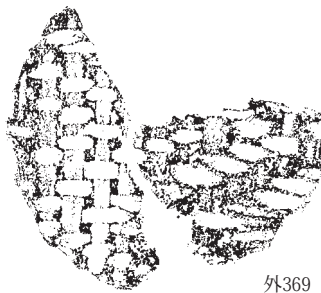
⑨ 2本越え、3本潜りの変則



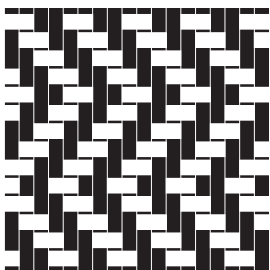
外346



⑥ 2本越え、2本潜りと1本越え、1本潜りの変則



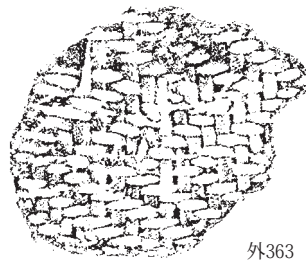
外369



⑦ 2本越え、2本潜りの変則



外353

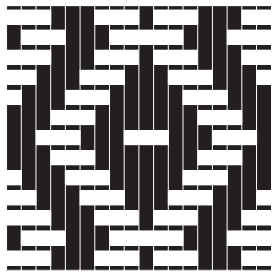


外363



外379

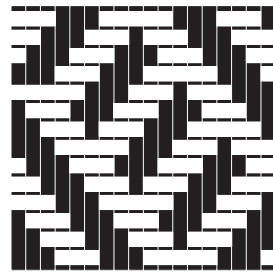
第236図 底部文様(2)



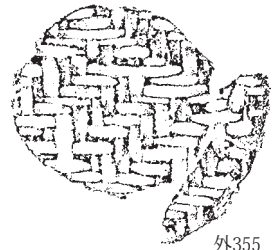
⑩ 3本越え、3本潜りの変則



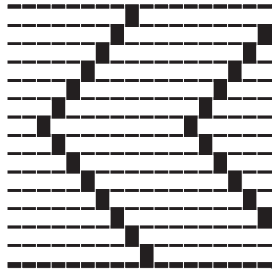
外380



⑪ 3本越え、3本潜りの変則



外355



⑫ 9本越え、1本潜りの変則



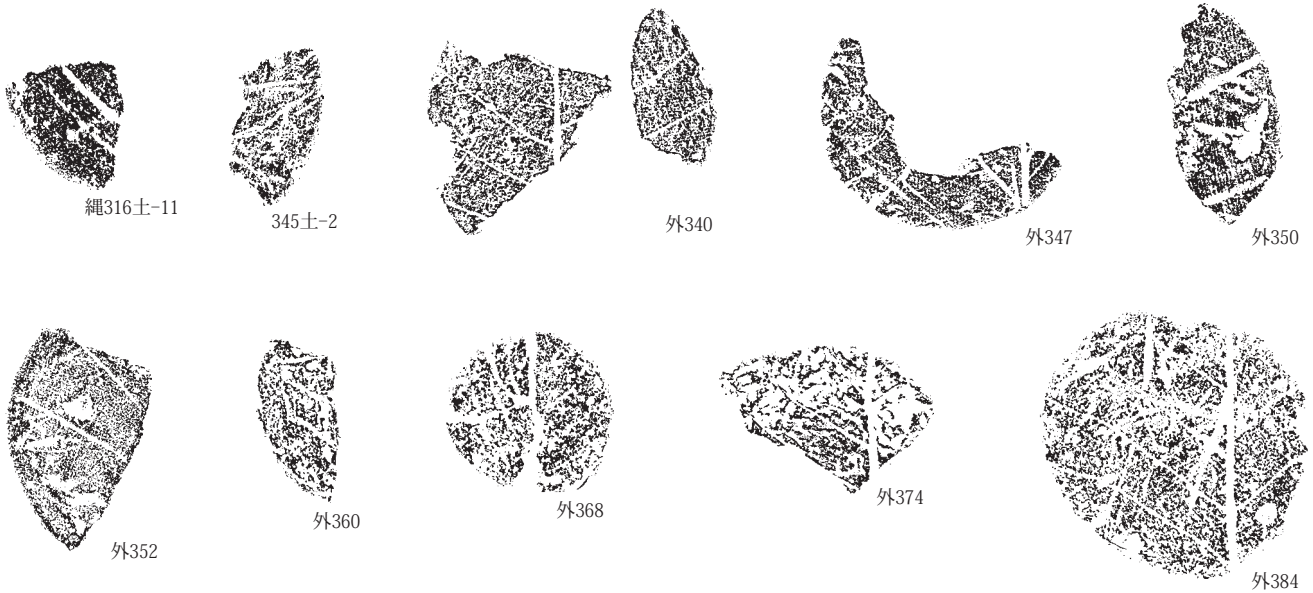
外342

⑬ 不明



外351

木葉痕



第237図 底部文様(3)

広いものは約4mmである。編み方の違いと器種との関係性は見受けられない。

最も多い編み方は①で材料の広狭は見られるものの、基本的な編み方と言える。また②は送りが逆となり、数は少ない。他の編み方については、点数的には少なく、それぞれに見られる変則的な編み方もほぼ同数が観察される。

原則的には2ないしは3本潜り、2本越えを基本としているようで、同じ編み物内で2種類の編み方を施して

いる⑥のような例もある。

⑪はかなり特殊な編み方である。⑬は編み方が不明なものである。並べた材料を間隔を空けて不規則に繋いでいる。

これら編み方の違いと器形、器種の違いに明確な関連性は見いだせなかった。

木葉痕も少数ではあるが確認されている、いずれも葉脈が明瞭に残るものが多くみられる、樹種は落葉広葉樹とみられる。

第3節 平安時代の遺構と遺物について

1. 遺構

平安時代の遺構は、住居が総数11軒を確認した。このうち重複していたものが4軒見られる。その他、溝が2条と土坑である。いずれの遺構も74・75区に分布の中心が見られ、平成26年度の調査で検出された2軒が北西にやや離れて位置している。

住居の形状は方形が主で、長方形のものは小数である。カマドは東側ないしは北側に造られている。一部の住居については北と東側にカマドを設けているが、造り替えと思われる。

住居の規模については一辺4m以下の比較的小さいものが多いが、2号住居は一辺5m以上と大きく、炭化材が放射状に検出され、焼土も検出されていることから焼失住居と考えられる。削平が顕著なため、カマドの状況ははっきりせず、北東部に2カ所の焼土を認めている。また中央に焼土が入った炉状の落ち込みを検出している。

土坑は出土遺物あるいは埋土の状況等から時期の判断をしているが、明確な用途については不明なものが多い。こうした中で26年度の調査区において検出された土坑の中に明らかに陥し穴と思われるものが、複数確認された。内1基は15号住居内に重複して検出され、住居よりも古いことを確認している。

断面上位には、ローム粒を多く含む層が落ち込んだ状態で確認されており、この時期の多くの陥し穴に見られる断面層を示す。

こうした陥し穴については、上位段丘上に営まれた遺跡ではこれまで多くの数が調査されており、1遺跡で50基を超える遺跡も少なくない。

近年、吾妻川に近接する下位段丘上の遺跡の調査が増加している中で、こうした陥し穴の検出例も増加してきており、当時の狩猟方法や、居住域との関連等も新たな視点で考える必要が生じてきている。

住居の時期については9世紀末から10世紀代と考えられ、長野原地内で最も多くの集落が形成された時期である。

今回の調査では、2条の溝(21号、22号溝)が検出されている。いずれも75区内に位置し、重複あるいは合流す

る形で確認されている。走行は北東から南西であるが、北側については途切れている状況である。

いずれも、断面が半円形であり深い掘り込みではなかった。溝底の高さは22号が高く南側で合流、21号溝からは多くの礫と縄文土器が出土している。底には砂の堆積が認められ、溝としたが人の手による遺構でない可能性も残る。

2. 出土遺物

住居からの出土土器は須恵器の壺や坏、羽釜、土釜等が見られる。土器類は破片が多く、点数的にはあまり多くはなかった。

土器の他に、1・2・11・16号住居において鉄鏝が出土している。また、10号住居では北側のカマド内において羽口が出土している。

さらに、13号住居では鉄滓と砥石として使用されたとされる軽石製品が1点と、カマドの構築材とされていた大型の礫は表面が極めて平滑で、無数の細かい条線痕が見られた。石材同士を擦り合わせてできた痕跡とは明らかに異なる形状を呈しており、金属を擦る際に出来た作業痕と見られる。

本址については、出土遺物から鍛冶遺構の可能性が想定されるが、西側部分のほとんどが、未調査であるため、残念ながら詳細は不明である。

鉄製品については、鉄鏝が複数出土している。1号住居1点、2号住居2点、11号住居1点、16号住居1点の計5点である。大型で逆刺が大きく、茎の長いものと短い形状のものが見られる。

遺構外よりの出土遺物はあまり多くはなかった、須恵器の坏や甕が、羽釜、土釜片である。分布は広い範囲に見られるものの、集中するような所は見られない。

第4節 江戸時代の遺構と遺物について

1. 建物

検出された江戸時代の建物は、4軒である。このうち1号建物以外は、厠と作業小屋と考えられるもので、いわゆる母屋とは異なる。3号および5号建物は1号建物に付随する建物である。3号とした厠は勿論であるが、5号建物も屋敷内に作られた付属屋と考えられる。

1号建物は、本稿で述べているように、尾坂遺跡において検出された唯一の母屋である。

建物の規模は4間×7間で、当時としては比較的大型の建物と言える。

建物を押し流した泥流は、吾妻川から利根川に流れ込み、流域に大きな被害をもたらした。この泥流災害の被害を受けた村は多く、県内における近年の発掘調査において、吾妻川流域、利根川流域において検出された泥流埋没建物は数十軒を超えている。

ここ長野原地内でも町遺跡、下田遺跡、石川原遺跡、西宮遺跡、東宮遺跡で調査されている。特に西宮、東宮遺跡では複数の建物が調査されており当時の村の景観をまざまざと伝えてくれている。

また、検出した建物内には、多くの出土遺物も見つかっており、当時の暮らしを知りうる貴重な資料の発見が相次いでいる。

さらに下流の東吾妻町内の上郷岡原遺跡においても複数の建物が調査されている。

尾坂遺跡の1号建物は、遺跡の北東一段高い位置に検出された、南側には屋敷を廻るように、小さな沢と道が走っていた、この沢を隔てて南西側には畑が大きく広がっている。

建物の構造は三間取りと思われ、この時代多くの家に見られた構造である。

土台の材が極めて良好な状態で出土したことも注目され、柱を立てたホゾ穴も良く残っていた。土間は建物の西側で、入り口左には厠が作られる。土間の奥には1畳程の範囲にムシロの痕跡と見られる有機質の広がりが見られ、周囲に焼土も確認されている。

東側は板の間になっていたものと考えられる。囲炉裏は残念ながら、上部構造は不明であった。

2. 出土遺物

出土遺物は陶磁器、金属製品、石製品、木製品等である。遺構外出土遺物の頁で一部説明を加えているのでここでは、1号建物より出土している遺物について検討することとしたい。

1号建物より出土した遺物は総数29点であるが、これらが総て当時この家で使用されていたものとは断言できず、当然、泥流によって流されてきたものも含まれているものと思われる。特に木製品などはその可能性が大きいと考えられる。

使用されていたと思われる陶磁器は数点のみで、かなり少ない。瀬戸・美濃産が多く、群馬県内において出土している、この時期の陶磁器とほとんど相違は見られなく、当時既に広範囲に流通網が発達していたことが知られる。

金属製品については、大型の鉦鼓が特筆される。土台の脇に斜めに寄り掛かった状態で出土しており、この家で保管されていた物と判断される。

銅製で径16cmと大型で、遺存状態も良好であった。鉦鼓には杵に吊りさげて使用するもの、鉦の縁を手で持つもの、伏せ置くものなどがあり。尾坂遺跡のものは、紐を通すための孔を持った耳が両側に付けられていることから、木杵などに吊して打ち鳴らしたものと考えられる。当時村落内において、念仏講などの集まりの際、調子を取るために鳴らした物であろう。

これまで、八ッ場ダム関連の調査において出土した鉦鼓は3点あり、長野原町川原畑の東宮遺跡13号建物と遺構外出土の2点、東吾妻町の上郷岡原遺跡において1点出土している。いずれも径は12cm弱と小型で、下部に3本の脚が付けられていることから、下に置いて叩く伏せ鉦である。

銭貨は、さし銭2本の他2点が建物内において出土している。さし銭の表面には錆化した砂が付着し、全体に結合した状態であった。紐は僅かに痕跡が見られたのみである。

この他、骨製の薄く仕上げられた、円筒製品が出土している。長さ3cm、径は2.2cmで、側面に2カ所の円孔が見られる。用途は不明である。

3. 畑

天明泥流に埋没した尾坂遺跡の畑地景観の多少の復元を試みて、天明泥流下面の小結としたい。

尾坂遺跡は、移転前の町立長野原東中学校があった場所とその周辺で、南に吾妻川を望み、対岸に長野原の琴橋に通じる街道「草津みち」（対岸の久々戸遺跡で当時の古道が見つまっている）が岩壁にめぐっていた。

当時も、街道を行き交う人たちが木々の間から、吾妻川の流れた南向きに広大な畑景観が広がっていたのを眺めていただろうことを思い浮かべることは容易で、旅人にとっても長野原町の街並みが近いことを知らせる場所ともなっていたことだろう。

畑は、天明の浅間山噴火で降下した軽石によって薄く覆われ、何日間かは、まるで雪景色のような様であると想像される。その軽石が降下してから7～8日の後、発生した天明泥流がここを襲った。

営まれていたその畑地景観は、どのようにしていつ開削されたのかは、今のところ定かではない。しかし、報告の対象となっている本遺跡の4万㎡ほどの畑は、「前栽畑」と規格化された耕作経営の生産の場としての畑に大別されると考えられる。

1号建物を中心とした周辺では、畝サクの切り替えや部分的な利用形態の違い、推定堆肥が積まれた跡など、小さな単位で不統一な耕作形態が確認でき、これは、民家の庭先のいわゆる「センザイモノ」を栽培する畑と見て取ることができるだろう。

他方、経営作物の栽培の場となる広大な耕作地では、平面図で見ると通り、幹線となる道や河道の存在で囲われた範囲となっている。そこは、中央を南北に2分するような区割りを行い、主に南北に細長い短冊状に区画分けして開削された形態が見て取れる。これらは、天明泥流被災後90年ほどが経過した明治5～6年の壬申地引絵図にもその様子が示され、かなりの様相の一致がみられる。このことは、被災した耕作地を以前の区割りに則って復旧がなされたということが確認できる視点でもある。

また、これまでの調査成果から、後者の耕作地としての畑はある程度のまとまりをもつ小単位が集まり、規格を持った集合で構成されていることが分かっている。それらは、「ツカ」と呼ばれる当地域の特徴的な民俗事例とも対応している。本報告書の中でも、それらを畑遺構の

中で、「単位畑」と「中単位」（群埋文2003 第319集『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』P366-372）で構成されていることに着目して遺構番号を付すなどの整理作業を行った。つまり、1筆の畑は、「単位畑」の集まりで構成されたり、また、さらにいくつかの集まりが「中単位」が複数集まって構成されたりしている。詳しくは、ここでは言及しないが、本遺跡の泥流面でも、近世の農民の生業、農業経営の基盤としての畑景観の構成を示す耕作地が被災地の景観としてよみがえったことになる。

各畑からは、多種類の畑作物を生育時期や期間・畑の畝幅・施肥などをはじめとする栽培方法に留意し、有機的に組み合わせで営まれていたことを読み取ることができる。「平坦面」は単位畑の構成を読み解くことに寄与するが、麦や雑穀等との多毛作に関する耕作形態の栽培方法を示すだろうし、間作を含む輪作形態を読み解くための根拠にもなるだろう。効率的な経営作物の栽培をめざし、いかに生産力の向上に努めたかという当時の工夫といった土地利用の姿も畑からは窺い知ることができる。あわせて、農業史や民俗的な視点からも、一連の畑地景観を把握することの必要性を感じられるだろう。

面的に進められる発掘調査のなかで、この地域の特徴的な近世の農業形態を解明するための今後の課題として、このような「ツカ」の起源やそれに則った耕作地の開削の時期などがあげられる。また、耕作面に残される焼土痕などのように、耕作に伴う民俗事例との照合なども必要とされる遺構も確認されている。さらに、つぶさな調査視点をもって発掘調査が進められることが望まれる。

- 引用・参考文献
- ・縄文時代
- 領塚正浩 「故野口義麿氏寄贈の鶉ヶ島台式土器」 市川市立考古博物館年報 第18号 市川市立考古博物館 1989
- 「新東京国際空港 埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ No.14 遺跡」新東京国際空港公団・千葉県文化財センター 1983
- 「苗ヶ島大畑遺跡」群馬県勢多郡宮城村教育委員会 1994
- 「柳久保遺跡群V」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1988
- ・弥生時代
- 「前畑遺跡」吾妻町埋蔵文化財発掘調査報告書第7集 群馬県吾妻郡吾妻町教育委員会 1998
- 石川日出志 「関東・東北における弥生中期の顔面画土器」駿台史学 第133号 2008
- 石川日出志 「関東地方初期弥生式土器の系譜」論集日本原史 1985
- 石川日出志 「岩尾遺跡出土資料の編年的位置と特色」史館 第16号 1984
- 石川日出志 「中部地方以西の縄文晩期浮線文土器」信濃第37巻 第4号 1985
- 「C11 沖Ⅱ遺跡」藤岡市教育委員会 1986
- 山崎義雄 「群馬県上久保弥生遺跡調査報告」考古学雑誌第44号 第3巻 1959
- 井上裕弘 「群馬県岩櫃山発見の弥生式土器」考古学集刊第4巻 第4号 1971
- 葛西 功 「甕形土器の変遷」(上)－関東地方の弥生時代初頭を中心に－ 史館 第16号 1984
- 加納俊介 「弥生土器研究のための覚書－比田井氏の論文に接して－ 考古学基礎論3 1981
- 栗原文蔵 「四十坂遺跡の初期弥生土器」上代文化 第30輯1960
- 栗原文蔵・石岡憲雄 「四十坂遺跡の初期弥生式土器再考論」埼玉県立歴史資料館研究紀要第5号 1983
- 駿台史学第84号 特集・北関東における弥生文化 1992
- 熊野正也 北関東地方西部弥生時代の山高地遺跡と石器 1-15
- 若狭 徹 北西関東における弥生土器の成立と展開 16-61
- 青木和明 北関東弥生文化の特質－中部高地との比較から－(土器様式構造からみた中部高地と北関東) 85-109
- 有笠山2号洞窟遺跡 中之条町 1997
- 阿久津 久 「学術報告書1 茨城県大宮町小野天神前遺跡(資料編)」茨城県立歴史観 1977
- 荒井世志紀ほか「志摩城跡・二ノ台遺跡I」(財)香取郡市文化財センター調査報告書第99集 2006
- 永井宏幸 「条痕文土器様式の研究」愛知県埋文センター研究紀要8号 2007
- 佐藤祐輔 変形工字文覚書－変形する「工字文」と変形する「変形工字文」
- 『地域と文化の考古学』六一書房生業・生産と技術 2008
- 「川原湯勝沼遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘報告書第356集 八ッ場ダム調査報告書6 2005
- 荒木ヨシ 「縄文時代の網代編み」物質文化第12号 1968
- 荒木ヨシ 「東日本後・晩期の網代編みについて」物質文化第15号 1970
- 荒木ヨシ 「縄文時代の網代編み」物質文化第17号 1971
- ・江戸時代
- 図説「江戸考古学研究事典」江戸遺跡研究会「編」柏書房 2001
- 古澤勝幸 「天明三年浅間山噴火による吾妻川・利根川流域の被害状況」第18号 群馬県立博物館 1997
- 多治見の古窯第3号 美濃窯の焼物 多治見市教育委員会 1993
- 埋没村落 鎌原村発掘調査概報 一よみがえる延命寺－群馬県吾妻郡嬭恋村教育委員会 1994
- 萩原 進 「天明三年浅間山噴火史」鎌原観音堂奉仕会 1982
- 浅間焼けの古文書展－かきのこされた被害の実相－群馬県立文書館特別展 群馬県立文書館 1983
- 井波隆夫 「江戸遺跡検出のやきもの分類(兼凡例)」四谷三丁目遺跡別冊 東京消防庁新宿区四谷三丁目遺跡調査団 1991
- 出土建築物材における調査方法についての研究報告 奈良文化財研究所 2010

報告書抄録

書名ふりがな	おさかいせきかっこに
書名	尾坂遺跡(2)
副書名	八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	48
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	618
編著者名	小野和之
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20160311
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町大字下箱田784-2
遺跡名ふりがな	おさかいせき
遺跡名	尾坂遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおあざおさか
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字尾坂
市町村コード	10424
遺跡番号	0201
北緯(世界測地系)	363240
東経(世界測地系)	1383912
調査期間	20060911-20061006/20061127-20061228/20070601-20070930/20071201-20071228/20080701-20081226/20090701-20100228/20100401-20101130/20130409-20130619/20140601-20140731
調査面積	45,919㎡
調査原因	ダム建設工事に伴う代替地造成工事
種別	生産/集落
主な時代	縄文/弥生/平安/中世/江戸
遺跡概要	集落-縄文-住居5+埋甕7+土坑+列石+配石-土器+石器/平安-住居11+土坑-土器+鉄製品/中世-掘立柱建物+陶磁器+銭/近世-建物4+畑+溝+道+暗渠+土坑-陶磁器-鉄製品+銭
特記事項	本書は八ッ場ダム建設工事に伴い平成18年度から平成22年度、および平成25・26年度に調査が実施された尾坂遺跡の報告である。検出された遺構・遺物は、天明泥流(1783年)で覆われた江戸時代の建物、畑、道、溝および縄文時代・弥生時代・平安時代の遺構を検出。縄文時代の竪穴住居5軒、平安時代の竪穴住居11軒の他、中世と思われる掘立柱建物などを検出した。その他、弥生時代中期前半の再葬墓が検出され、大型の壺形土器が小型の壺を伴って出土している。

写真図版



1. 3号住居遺物出土状態(北から)



2. 3号住居遺物出土状態(北西から)



3. 3号住居全景(南から)



4. 3号住居炉検出状態(北から)



5. 3号住居炉(西から)



1. 4号住居遺物出土状態(南から)



2. 4号住居遺物出土状態(北から)



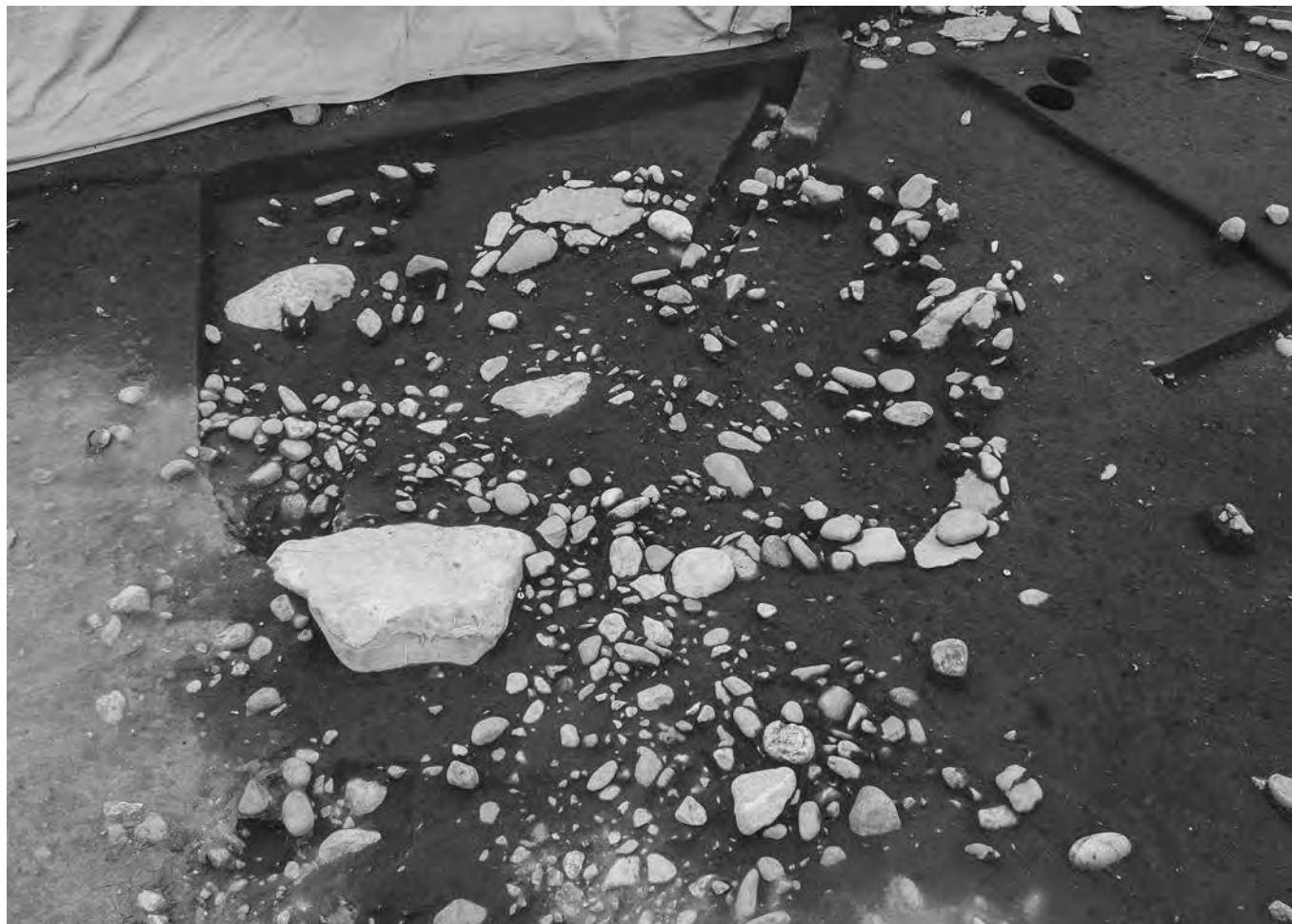
3. 4号住居炉(南西から)



4. 5号住居遺物出土状態(西から)



5. 5号住居遺物出土状態(西から)



1. 5号住居全景(東から)



2. 6号住居張り出し部全景(北から)



1. 6号住居連結部(北から)



2. 6号住居張り出し部埋葬検出状態(北から)



3. 6号住居連結部遺物出土状態(東から)



4. 6号住居連結部埋葬検出状態(北から)



5. 6号住居埋葬出土状態(北から)



6. 6号住居埋葬断面(南から)



7. 6号住居埋葬出土状態(東から)



8. 6号住居埋葬断面(東から)



1. 6号住居主体部全景(北から)



2. 6号住居主体部全景(北から)



3. 6号住居主体部全景(北から)



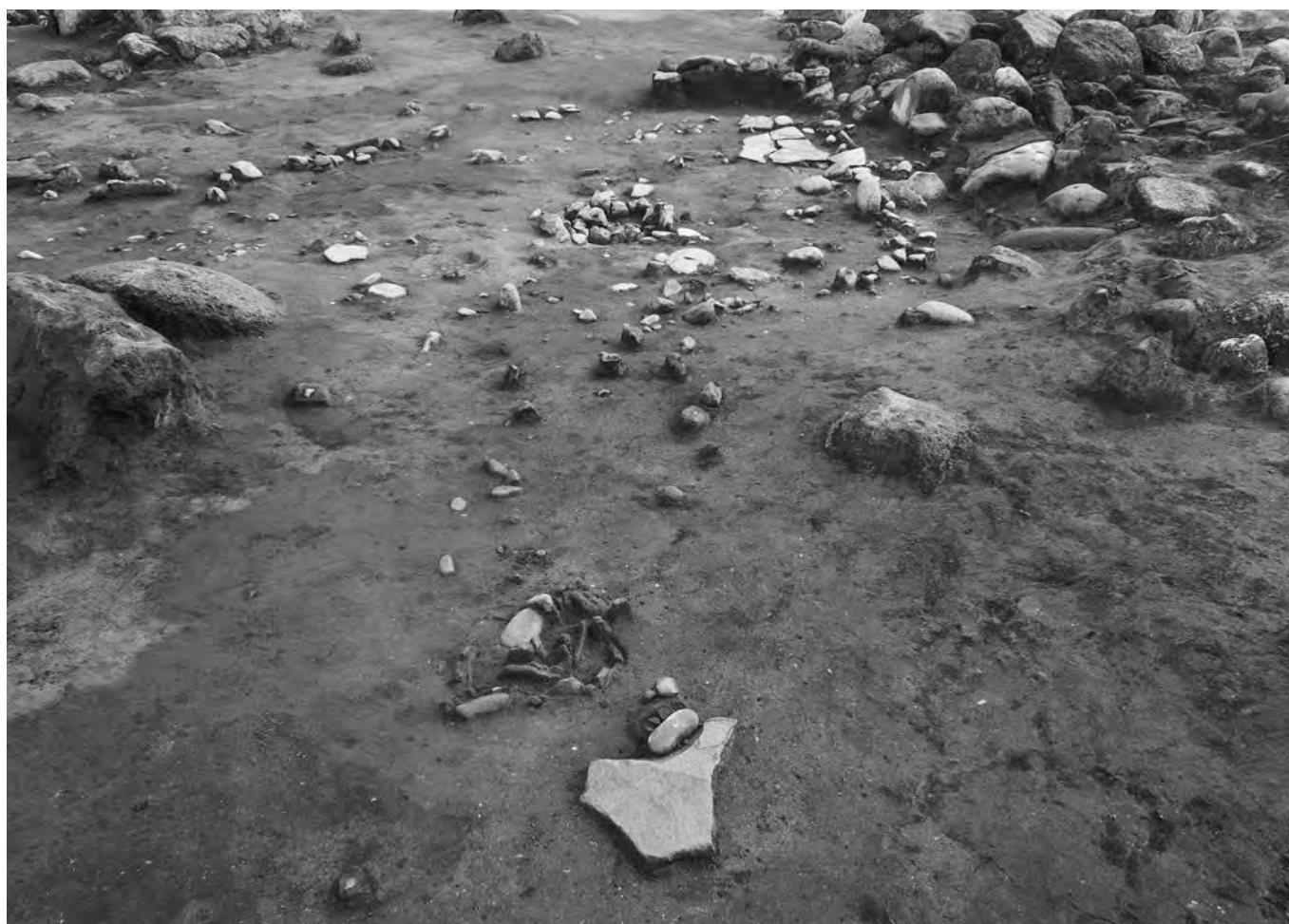
4. 6号住居炉(北から)



5. 6号住居全景(北から)



1. 8号住居全景(北から)



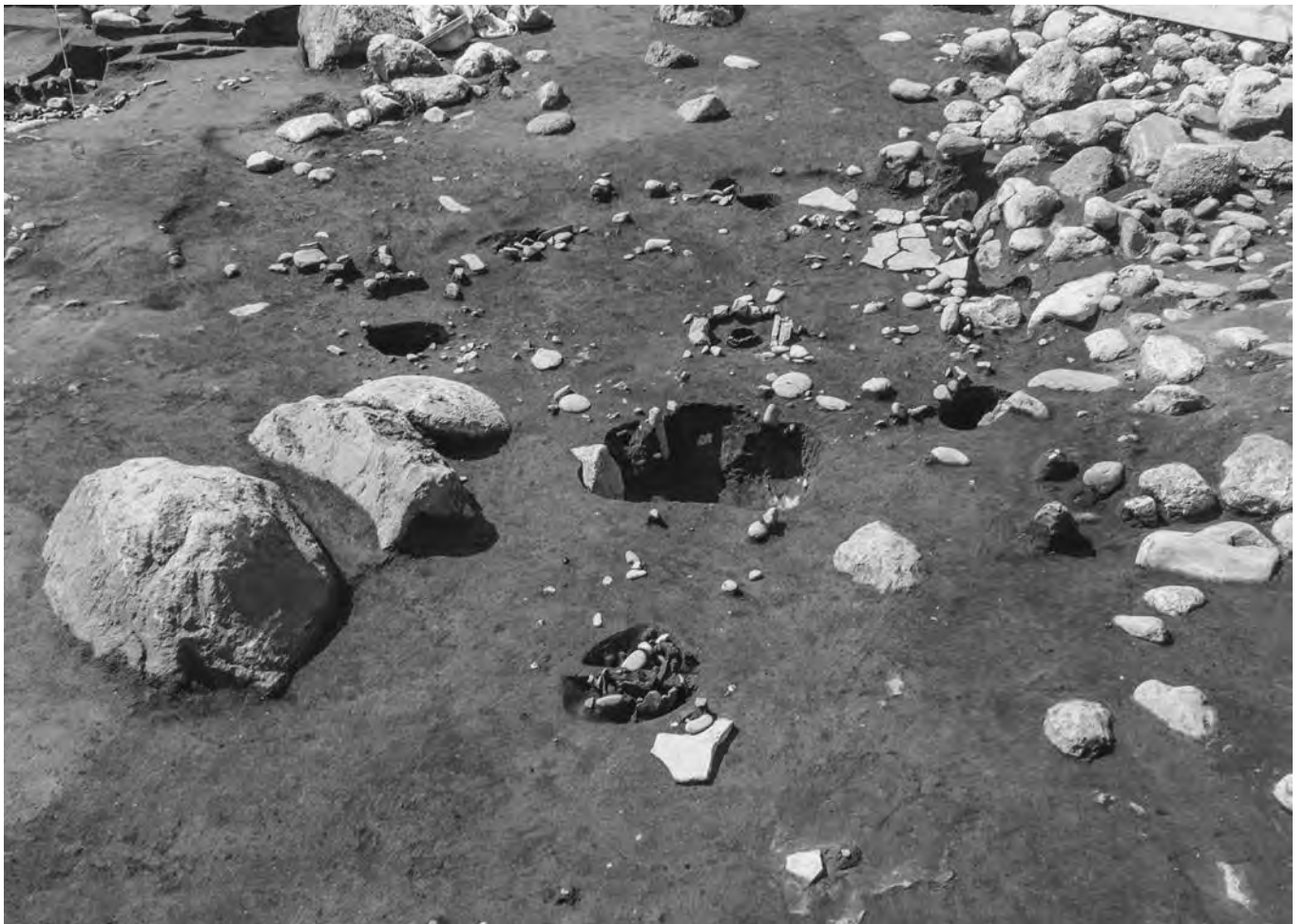
2. 8号住居全景(北から)



1. 8号住居炉遺物出土状態(東から)



2. 8号住居炉全景(北から)



3. 8号住居掘方全景(北から)



4. 8号住居埋嚢出土状態(北から)



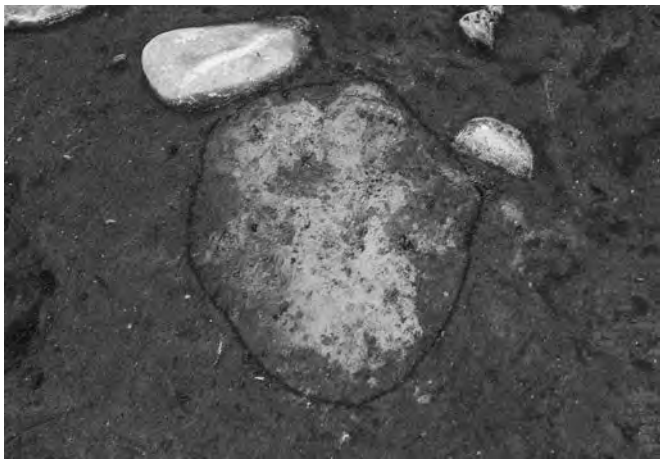
5. 8号住居埋嚢(北から)



1. 2号焼土(東から)



2. 4号焼土断面(南から)



3. 5号焼土(東から)



4. 6号焼土断面(南から)



5. 9号焼土断面(北から)



6. 10号焼土断面(北から)



7. 1号埋甕(北から)



8. 2号埋甕(北から)



1. 3号埋甕(西から)



2. 3号埋甕(西から)



3. 3号埋甕(西から)



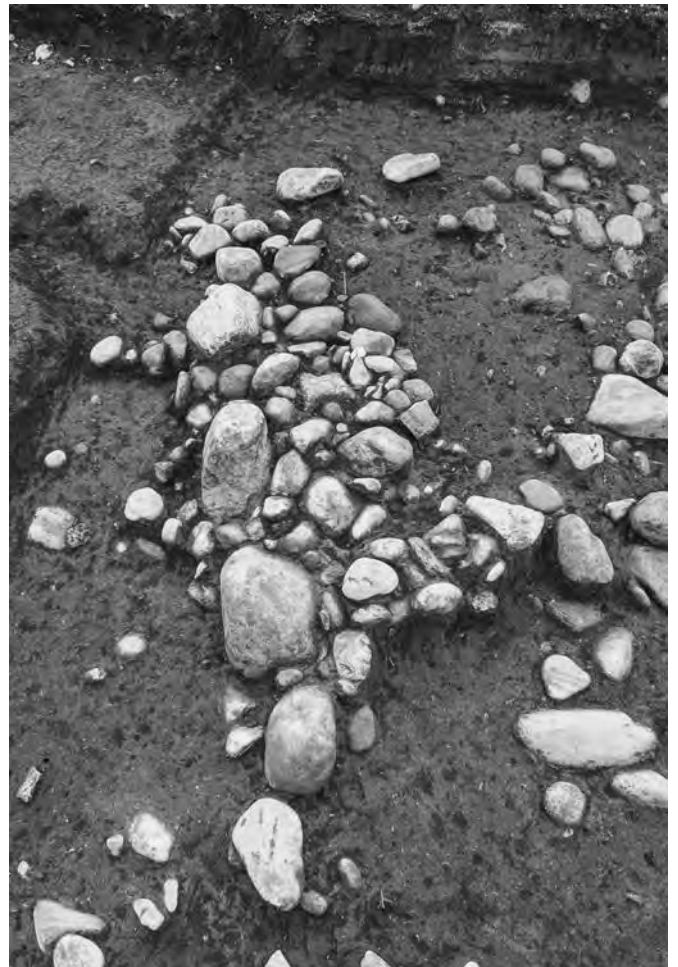
4. 3号埋甕(南から)



5. 4号埋甕(南から)



6. 5号埋甕(南から)



7. 4号列石全景(北から)



1. 6号列石全景(南東から)



2. 6号列石全景(北西から)



1. 6号列石(南西から)



2. 6号列石近景(南西から)



3. 6号列石近景(南西から)



4. 6号列石近景(南東から)



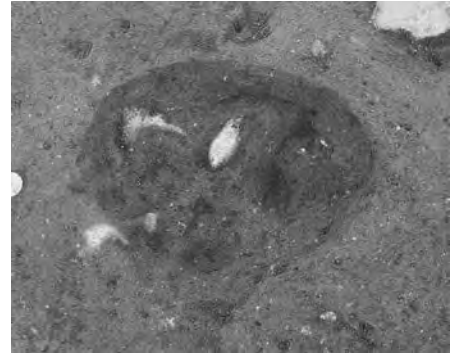
5. 6号列石近景(南西から)



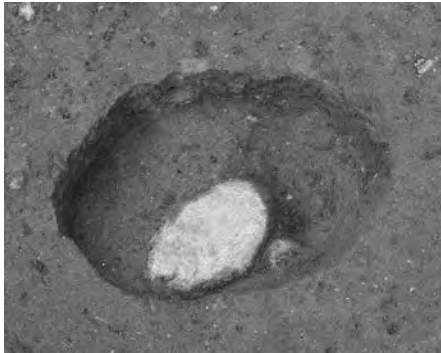
1. 27号土坑全景(南から)



2. 29号土坑全景(南から)



3. 37号土坑全景(南から)



4. 38号土坑全景(南から)



5. 39号土坑全景(南から)



6. 40号土坑断面(東から)



7. 41号土坑全景(南から)



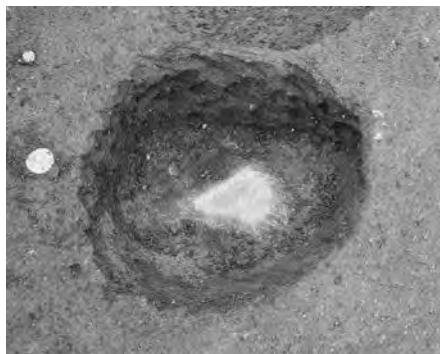
8. 42号土坑全景(南から)



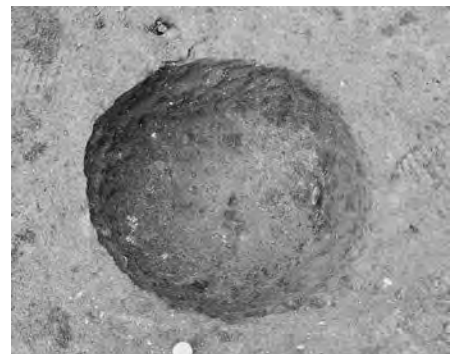
9. 43号土坑全景(南から)



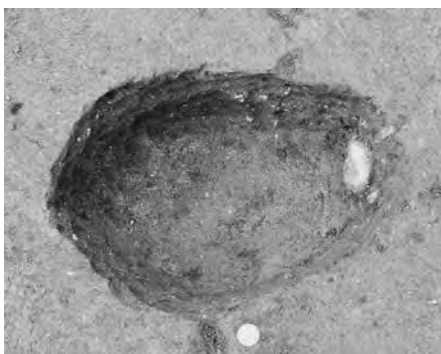
10. 44号土坑全景(東から)



11. 45号土坑全景(南から)



12. 46号土坑全景(南から)



13. 47号土坑全景(南東から)



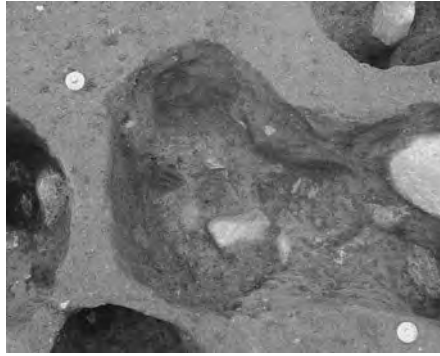
14. 48号土坑全景(南から)



15. 49号土坑全景(南から)



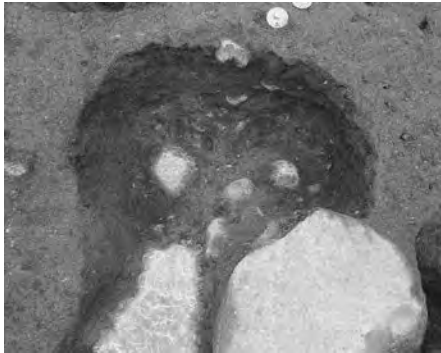
1. 50号土坑全景(南から)



2. 52号土坑全景(南から)



3. 53号土坑全景(南から)



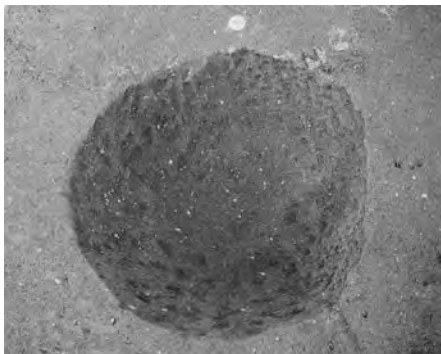
4. 54号土坑全景(南から)



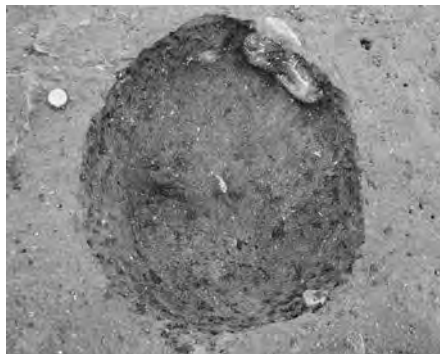
5. 55号土坑断面(南から)



6. 56号土坑全景(南から)



7. 57号土坑全景(南から)



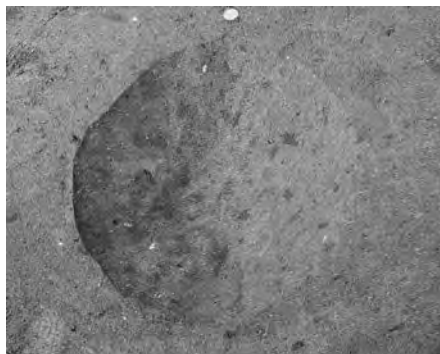
8. 58号土坑全景(南から)



9. 60号土坑全景(南から)



10. 61号土坑全景(南から)



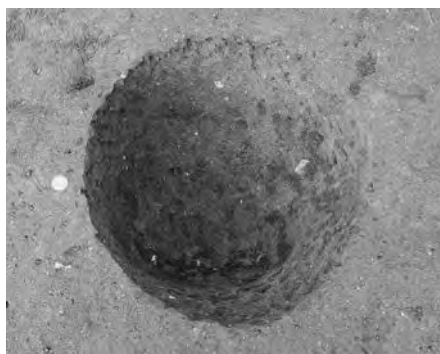
11. 63号土坑全景(南から)



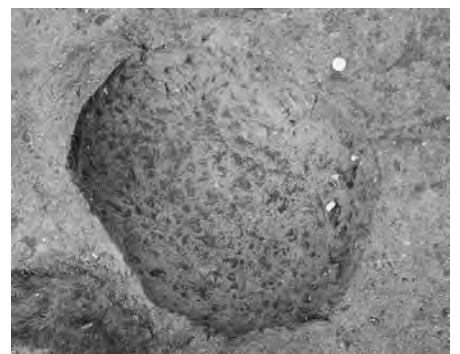
12. 64号土坑全景(南から)



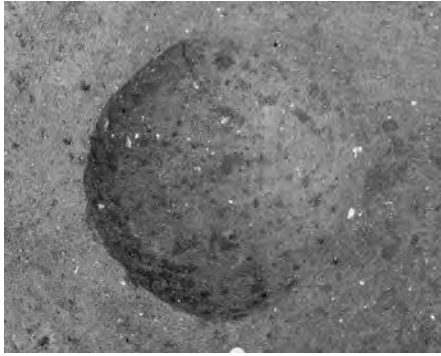
13. 65号土坑全景(南から)



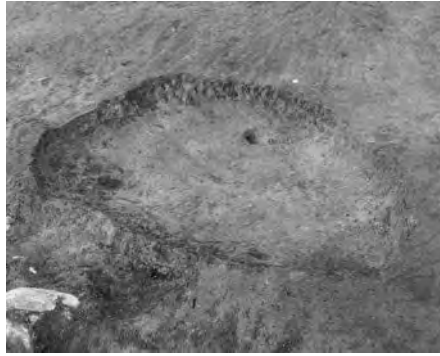
14. 66号土坑全景(南から)



15. 67号土坑全景(南から)



1. 68号土坑全景(南から)



2. 69号土坑全景(南から)



3. 70号土坑全景(南から)



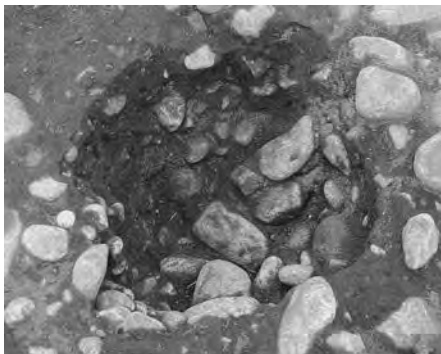
4. 78号土坑全景(南から)



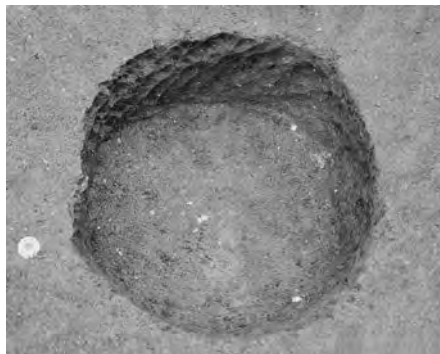
5. 78号土坑断面(南東から)



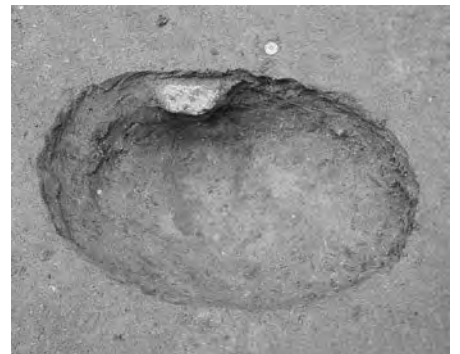
6. 84号土坑全景(南から)



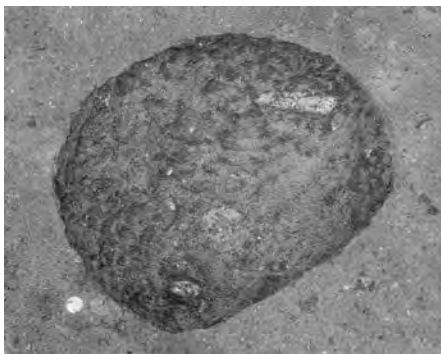
7. 85号土坑全景(南から)



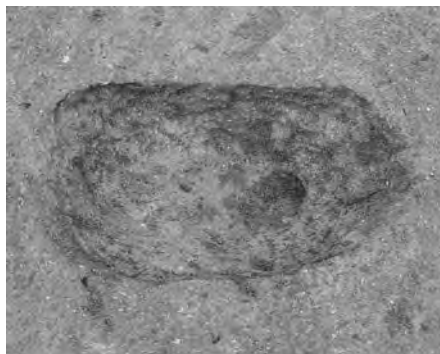
8. 87号土坑全景(南から)



9. 88号土坑全景(南から)



10. 89号土坑全景(南から)



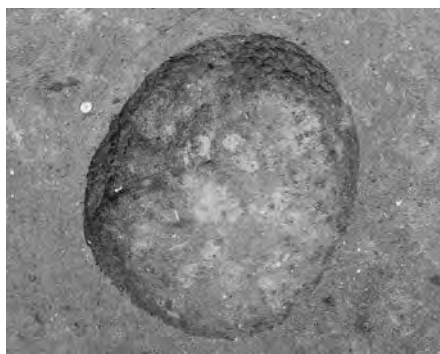
11. 90号土坑全景(南から)



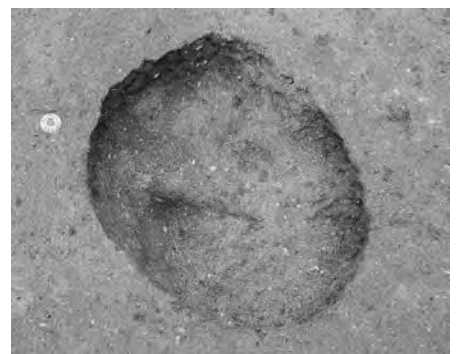
12. 91号土坑全景(南から)



13. 92号土坑全景(南から)



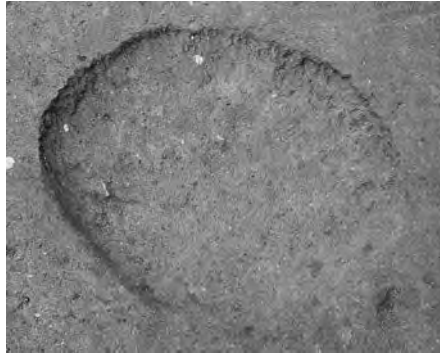
14. 93号土坑全景(南から)



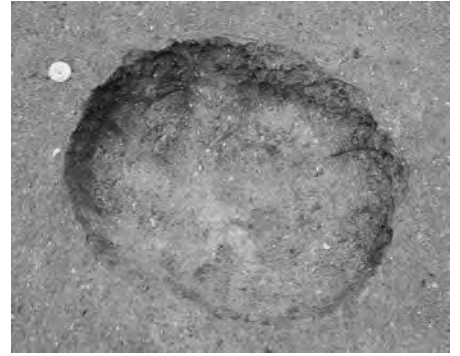
15. 94号土坑全景(南から)



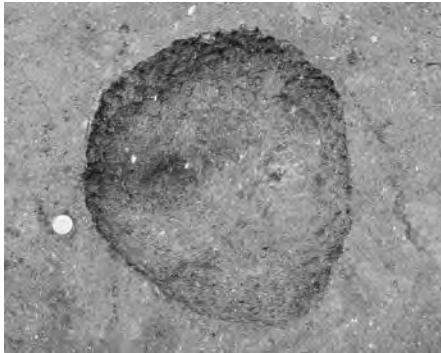
1. 95号土坑全景(南から)



2. 96号土坑全景(南から)



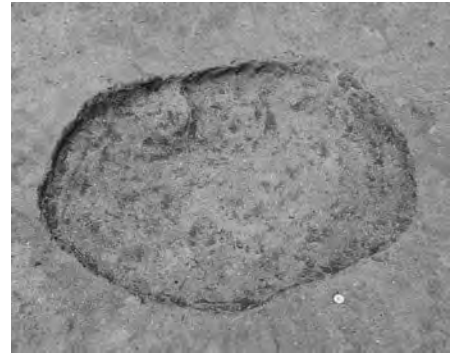
3. 97号土坑全景(南から)



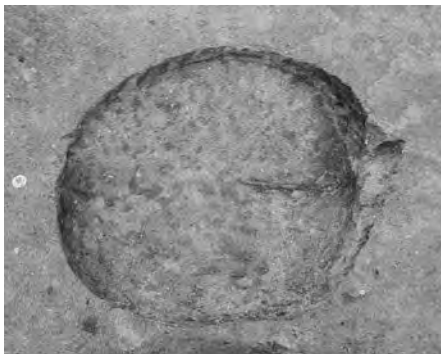
4. 98号土坑全景(南から)



5. 99号土坑全景(南から)



6. 100号土坑全景(南から)



7. 101号土坑全景(南から)



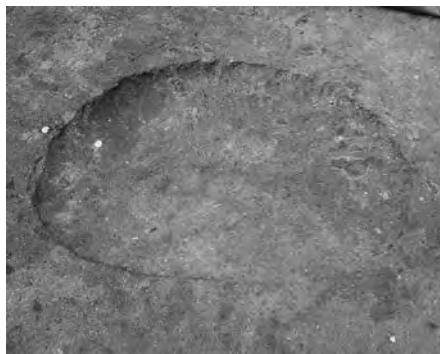
8. 102号土坑全景(南から)



9. 103号土坑全景(南から)



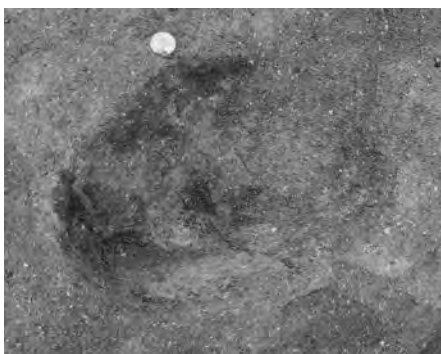
10. 104号土坑全景(南から)



11. 105号土坑全景(南から)



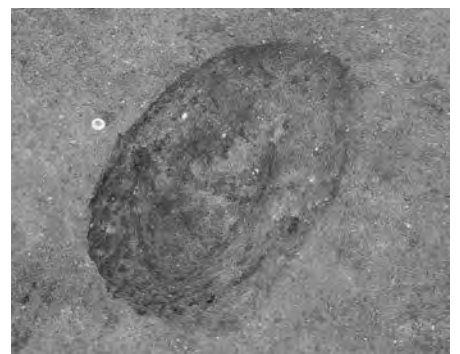
12. 106号土坑全景(南から)



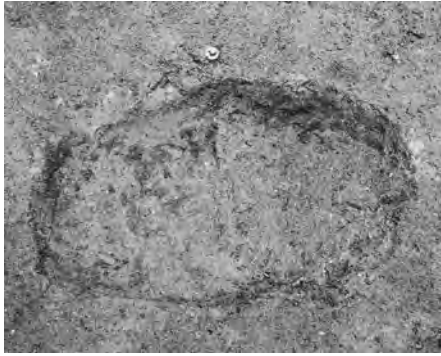
13. 107号土坑全景(南から)



14. 108号土坑全景(南から)



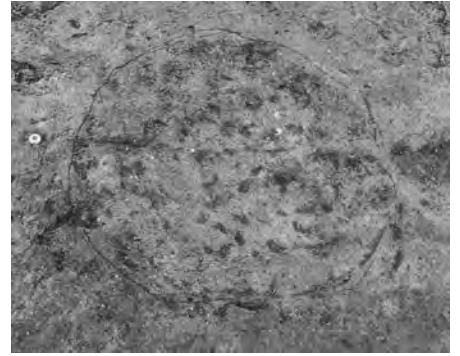
15. 109号土坑全景(南から)



1. 110号土坑全景(南から)



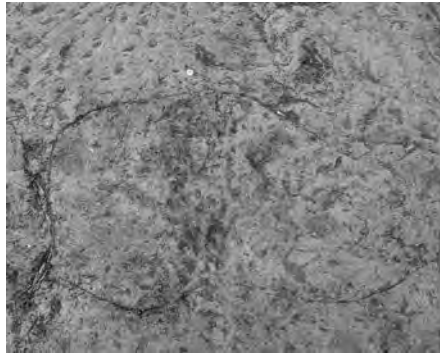
2. 111号土坑全景(南から)



3. 112号土坑全景(南から)



4. 113号土坑全景(南から)



5. 114号土坑全景(南から)



6. 115号土坑全景(南から)



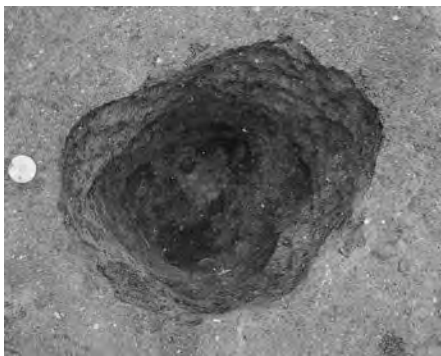
7. 116号土坑全景(南から)



8. 116・117号土坑全景(南から)



9. 117号土坑全景(東から)



10. 119号土坑全景(南から)



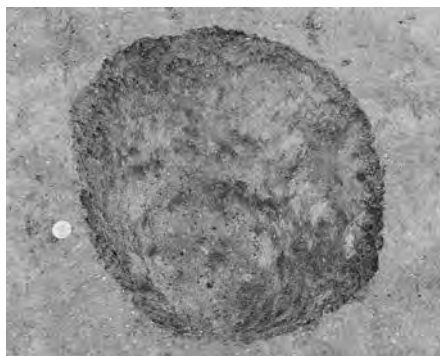
11. 120号土坑全景(南から)



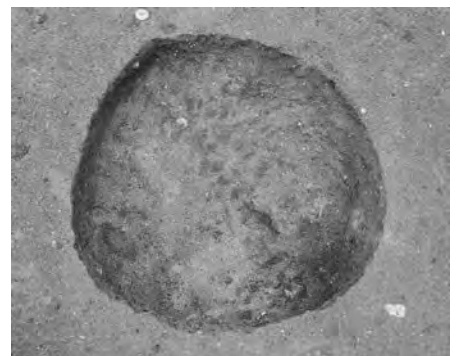
12. 122号土坑全景(南から)



13. 123号土坑全景(南から)



14. 124号土坑全景(南から)



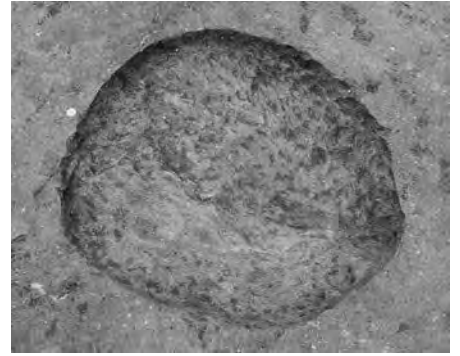
15. 125号土坑全景(南から)



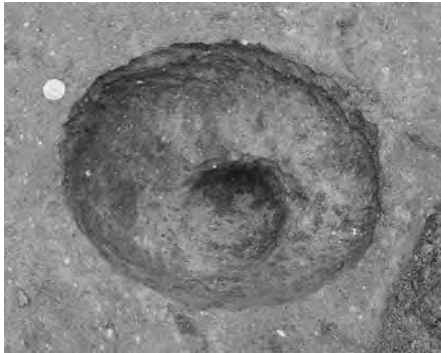
1. 126号土坑全景(南から)



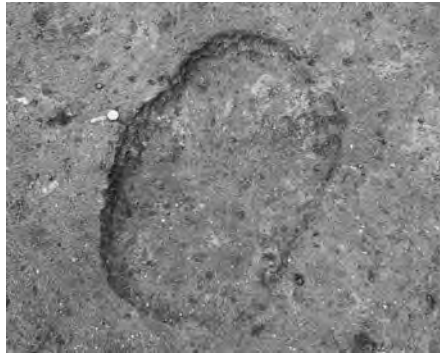
2. 127号土坑全景(南から)



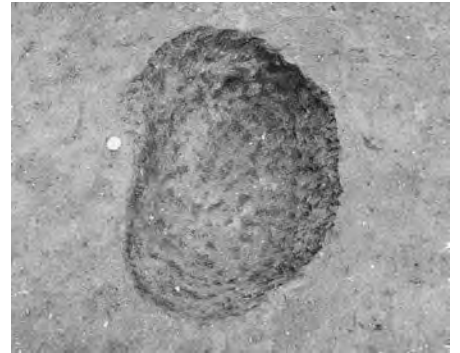
3. 128号土坑全景(南から)



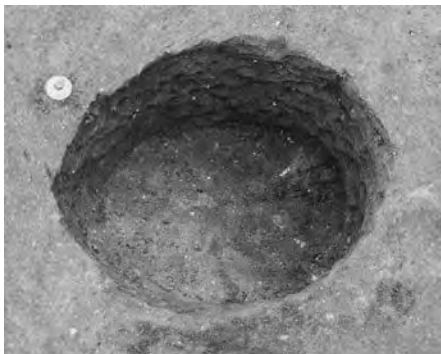
4. 129号土坑全景(南から)



5. 130号土坑全景(南から)



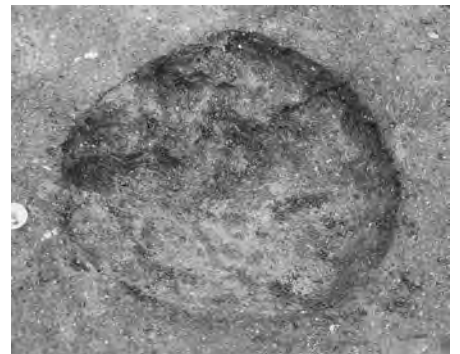
6. 131号土坑全景(南から)



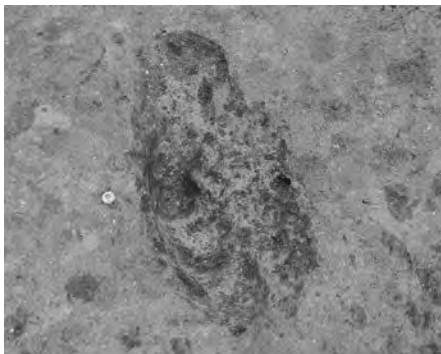
7. 132号土坑全景(南から)



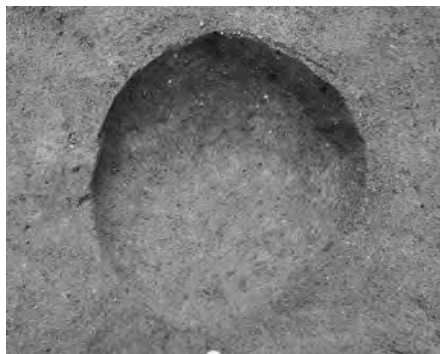
8. 133号土坑全景(南から)



9. 134号土坑全景(南から)



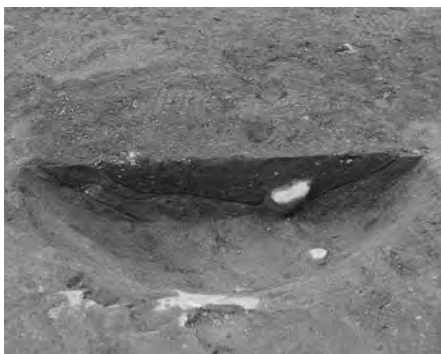
10. 135号土坑全景(南から)



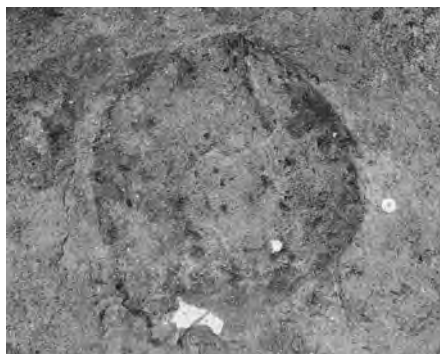
11. 139号土坑全景(東から)



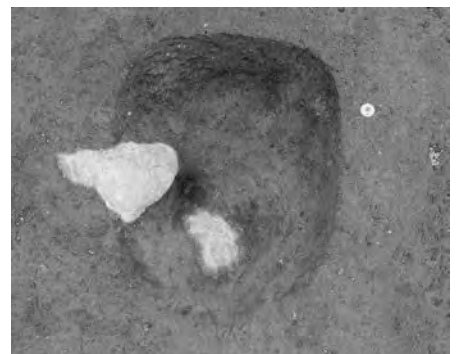
12. 141号土坑全景(東から)



13. 142号土坑断面(東から)



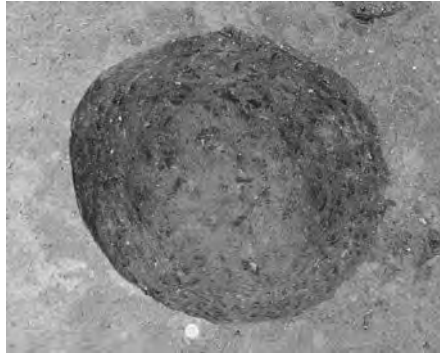
14. 142号土坑全景(東から)



15. 143号土坑全景(東から)



1. 144号土坑全景(東から)



2. 145号土坑全景(東から)



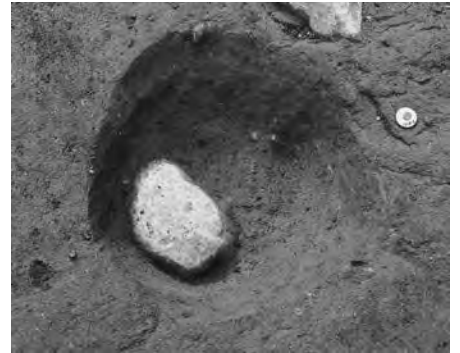
3. 146号土坑断面(南から)



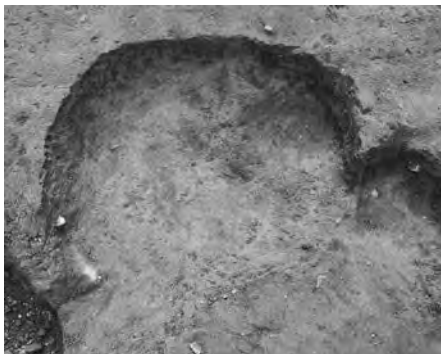
4. 146号土坑全景(東から)



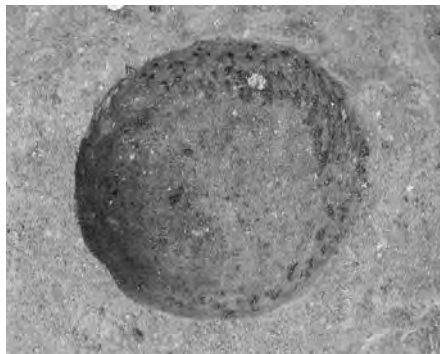
5. 147号土坑全景(東から)



6. 148号土坑全景(東から)



7. 149号土坑全景(東から)



8. 150号土坑全景(東から)



9. 151号土坑全景(東から)



10. 152号土坑全景(東から)



11. 153号土坑全景(東から)



12. 155号土坑全景(東から)



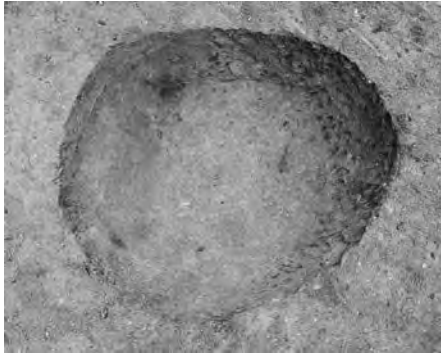
13. 157号土坑全景(南から)



14. 158号土坑全景(南から)



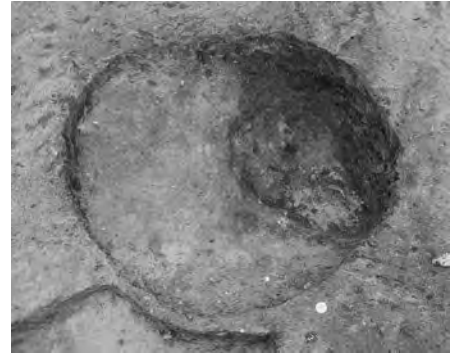
15. 157・158号土坑全景(南から)



1. 159号土坑全景(東から)



2. 160号土坑全景(東から)



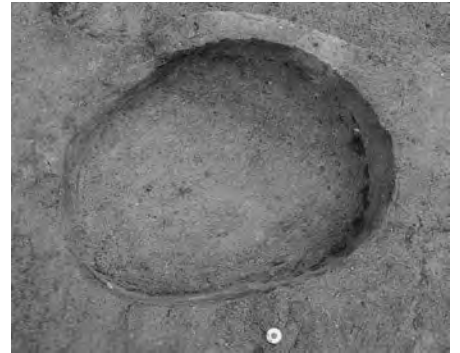
3. 161号土坑全景(東から)



4. 162号土坑全景(南から)



5. 163号土坑全景(南から)



6. 164号土坑全景(南から)



7. 165号土坑全景(南から)



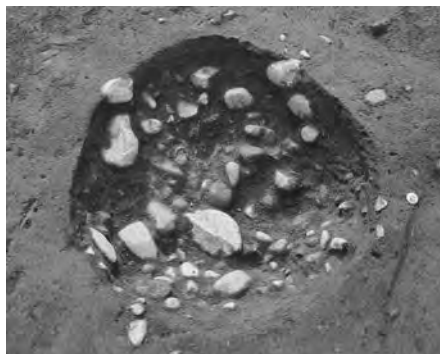
8. 167号土坑全景(南から)



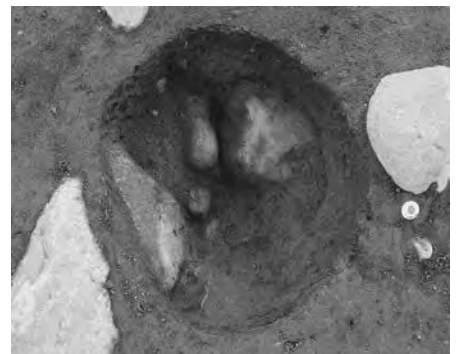
9. 168号土坑全景(東から)



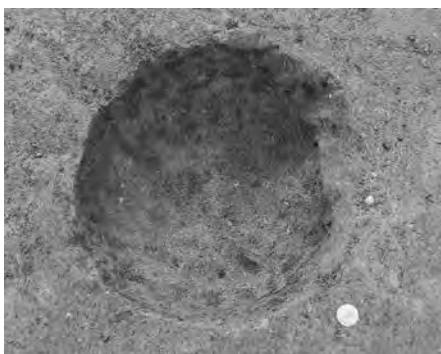
10. 169号土坑全景(東から)



11. 170号土坑全景(東から)



12. 171号土坑全景(南から)



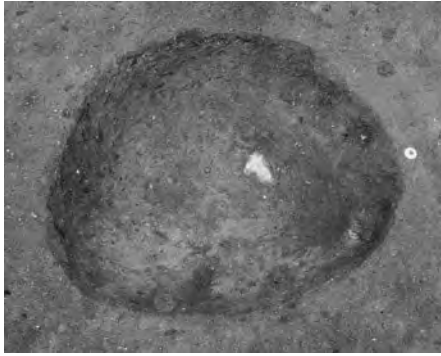
13. 172号土坑全景(東から)



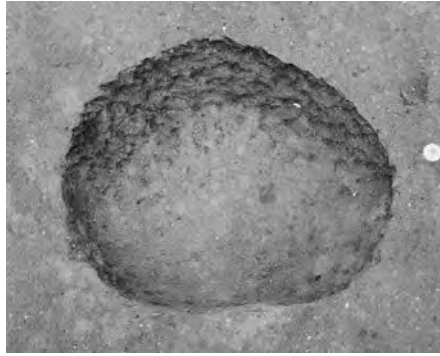
14. 173号土坑全景(東から)



15. 174号土坑全景(南から)



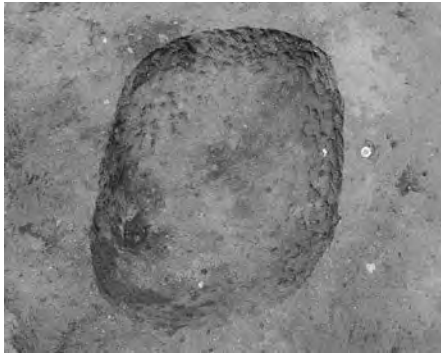
1. 175号土坑全景(南から)



2. 176号土坑全景(南から)



3. 177号土坑全景(南から)



4. 178号土坑全景(南から)



5. 179号土坑全景(南から)



6. 181号土坑全景(南から)



7. 182号土坑全景(南から)



8. 183号土坑全景(南から)



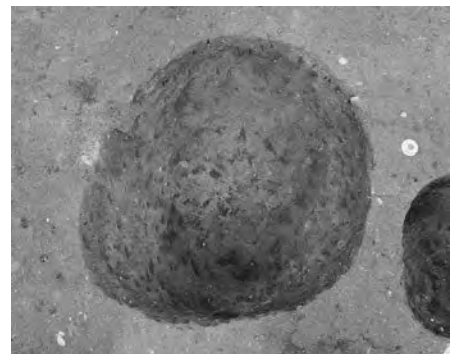
9. 186号土坑全景(南から)



10. 187号土坑全景(南から)



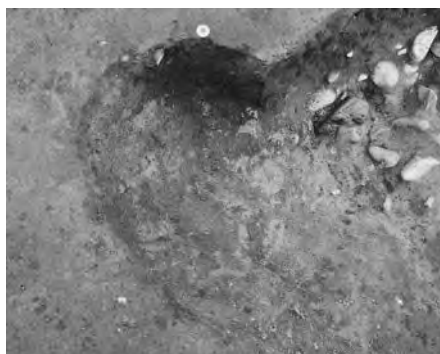
11. 188号土坑全景(南から)



12. 189号土坑全景(南から)



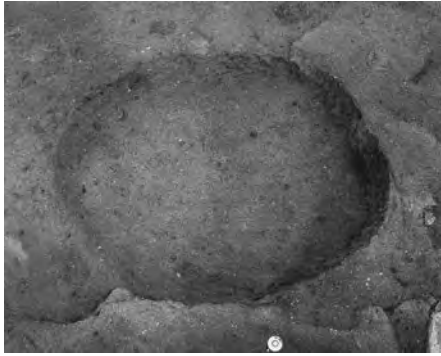
13. 190号土坑全景(南から)



14. 192号土坑全景(南から)



15. 193号土坑全景(南から)



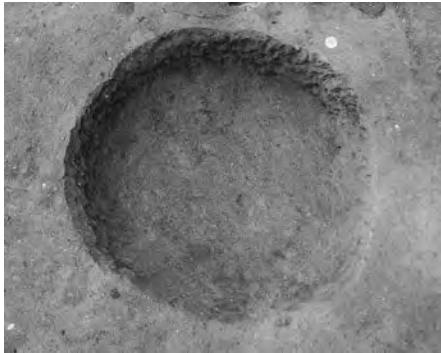
1. 194号土坑全景(東から)



2. 195号土坑全景(東から)



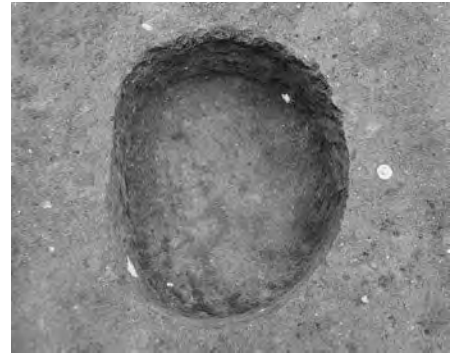
3. 196号土坑断面(東から)



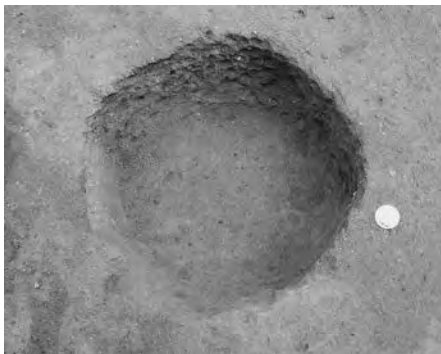
4. 197号土坑全景(南から)



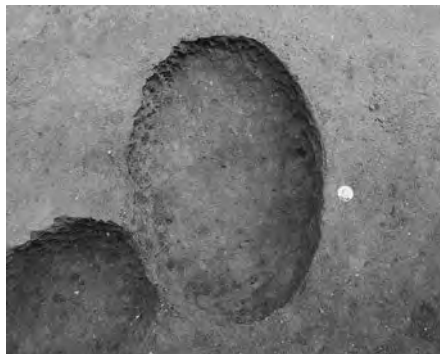
5. 198号土坑全景(南から)



6. 199号土坑全景(南から)



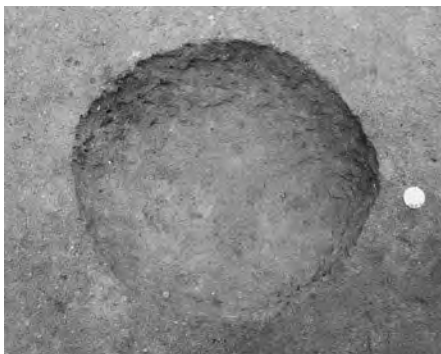
7. 200号土坑全景(南から)



8. 201号土坑全景(南から)



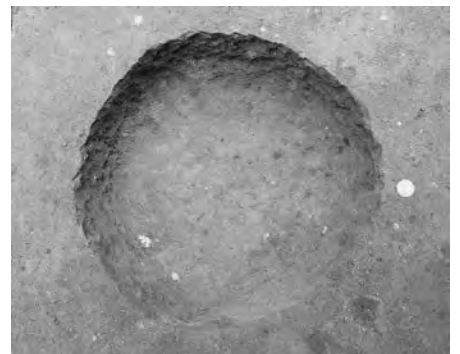
9. 202号土坑全景(南から)



10. 203号土坑全景(南から)



11. 204号土坑全景(南から)



12. 205号土坑全景(南から)



13. 207号土坑全景(南から)



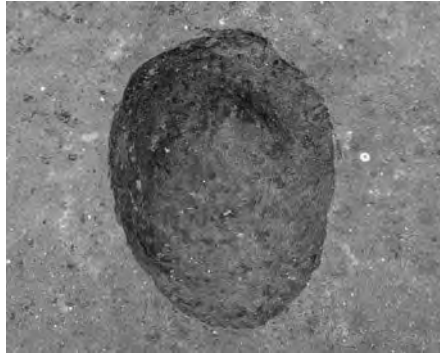
14. 208号土坑全景(南から)



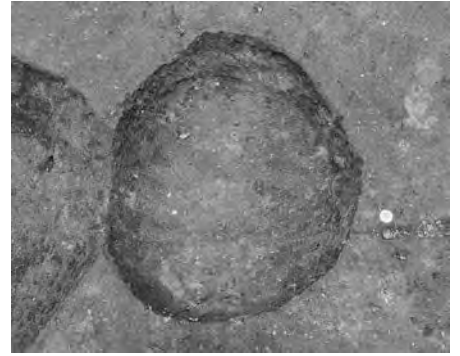
15. 209号土坑全景(南から)



1. 210号土坑全景(南から)



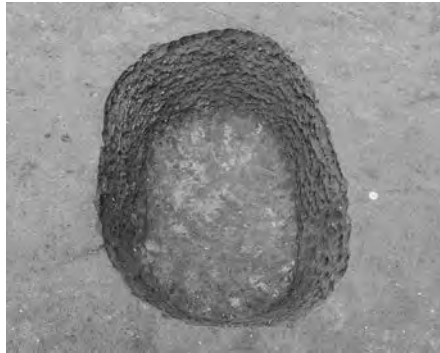
2. 211号土坑全景(南から)



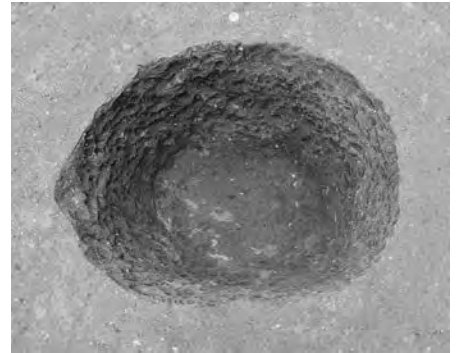
3. 212号土坑全景(南から)



4. 213号土坑全景(南から)



5. 214号土坑全景(南から)



6. 218号土坑全景(南から)



7. 219号土坑全景(南から)



8. 220号土坑全景(南から)



9. 221号土坑全景(南から)



10. 222号土坑全景(東から)



11. 223号土坑全景(南から)



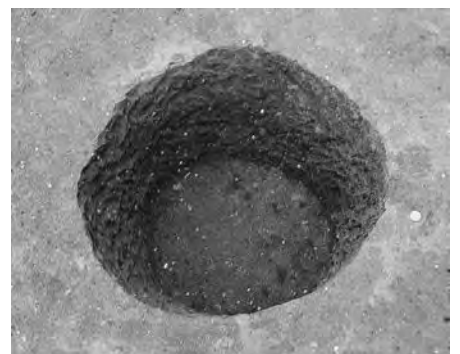
12. 226号土坑全景(東から)



13. 228号土坑全景(南から)



14. 230号土坑全景(南から)



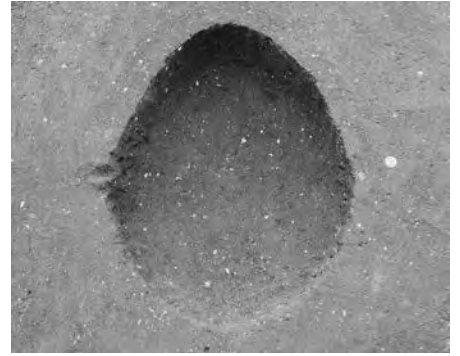
15. 232号土坑全景(南から)



1. 245号土坑全景(北から)



2. 245号土坑遺物出土状態(北から)



3. 245号土坑全景(東から)



4. 247号土坑断面(北から)



5. 248号土坑全景(南から)



6. 249号土坑全景(南から)



7. 250号土坑全景(北から)



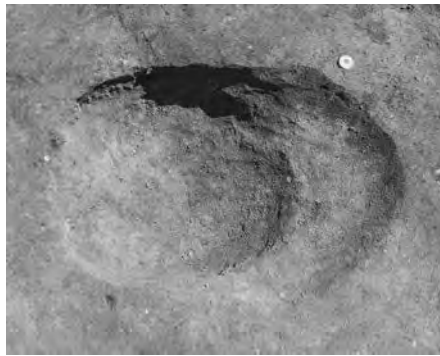
8. 251号土坑全景(北から)



9. 252号土坑全景(南から)



10. 253号土坑全景(南から)



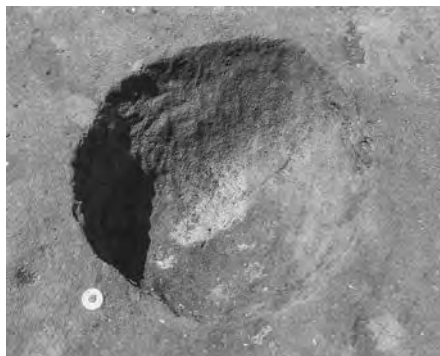
11. 254号土坑全景(南から)



12. 255号土坑全景(北から)



13. 256号土坑全景(北から)



14. 257号土坑全景(北から)



15. 258号土坑全景(北から)



1. 259号土坑全景(北から)



2. 260号土坑全景(東から)



3. 261号土坑全景(東から)



4. 262号土坑全景(東から)



5. 263号土坑全景(北から)



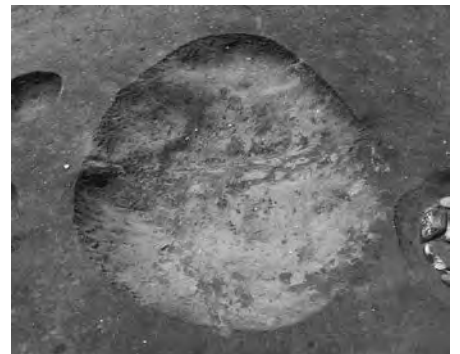
6. 264号土坑全景(北から)



7. 265号土坑断面(東から)



8. 265号土坑全景(東から)



9. 266号土坑全景(北から)



10. 267号土坑全景(東から)



11. 268号土坑全景(北から)



12. 269号土坑全景(西から)



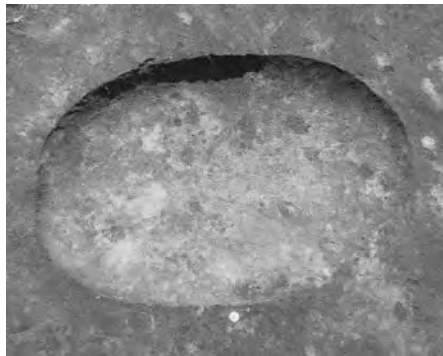
13. 270号土坑全景(西から)



14. 271号土坑全景(西から)



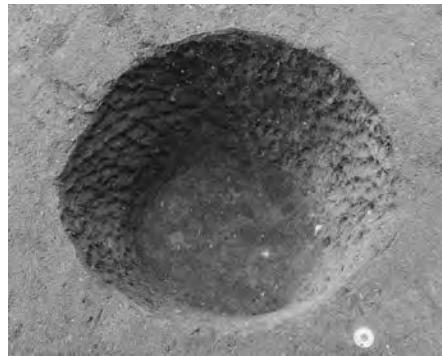
15. 272号土坑全景(北から)



1. 273号土坑全景(北から)



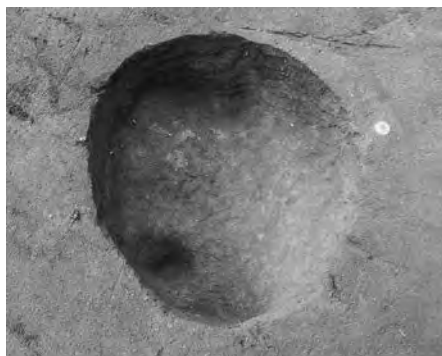
2. 274号土坑全景(北から)



3. 275号土坑全景(東から)



4. 276号土坑全景(東から)



5. 277号土坑全景(東から)



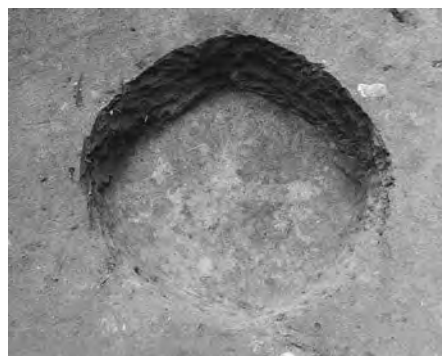
6. 278号土坑全景(東から)



7. 279号土坑全景(北から)



8. 280号土坑全景(東から)



9. 281号土坑全景(東から)



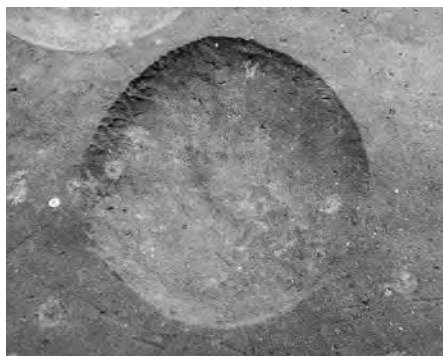
10. 282号土坑全景(北から)



11. 283号土坑全景(北から)



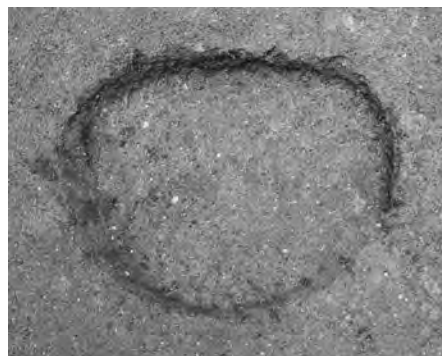
12. 284号土坑全景(北から)



13. 285号土坑全景(北から)



14. 286号土坑全景(北から)



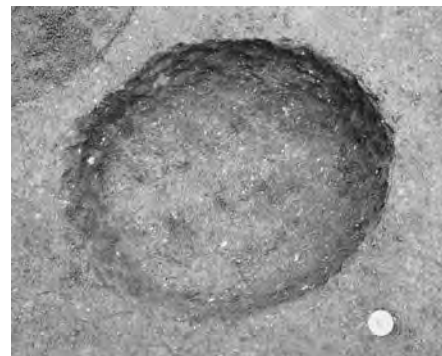
15. 287号土坑全景(南から)



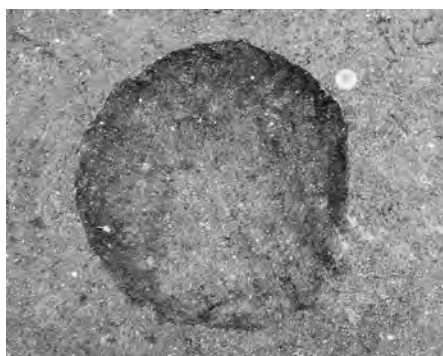
1. 288号土坑全景(南から)



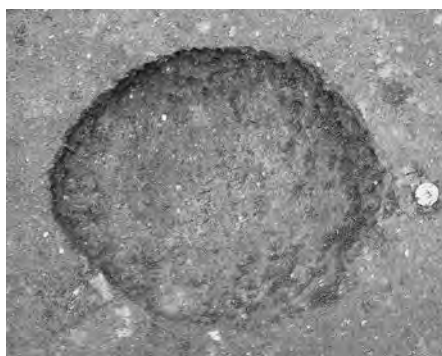
2. 289号土坑全景(南から)



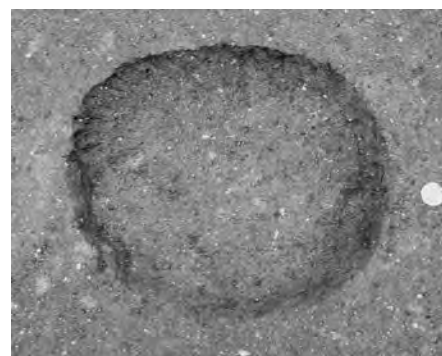
3. 290号土坑全景(東から)



4. 291号土坑全景(東から)



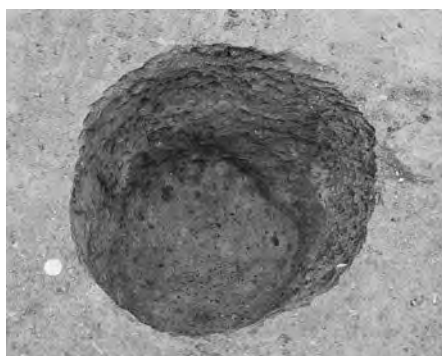
5. 292号土坑全景(南から)



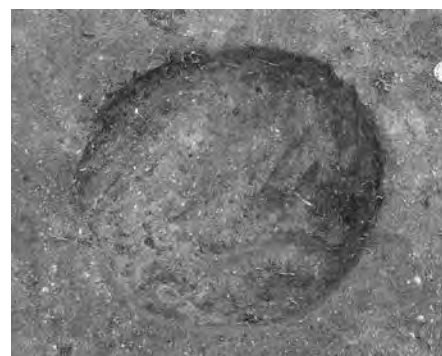
6. 293号土坑全景(東から)



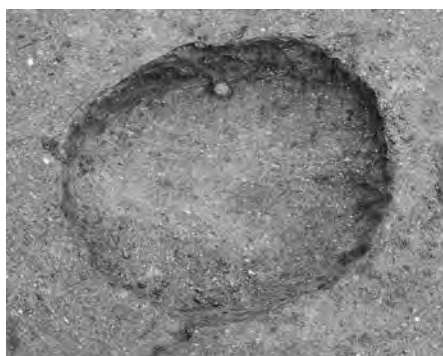
7. 294号土坑全景(東から)



8. 295号土坑全景(南から)



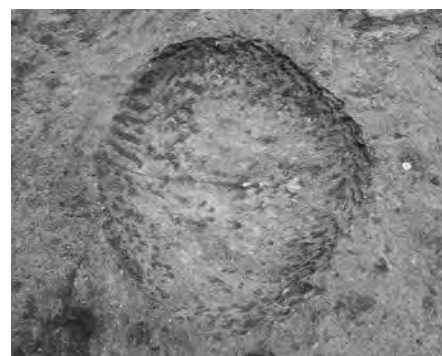
9. 296号土坑全景(南から)



10. 297号土坑全景(南から)



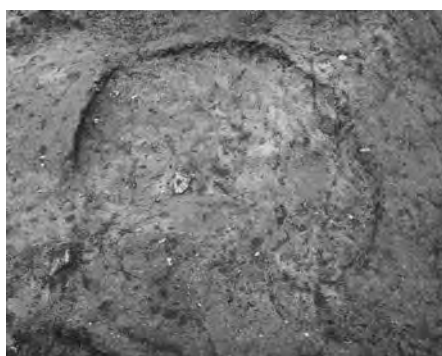
11. 298号土坑全景(南から)



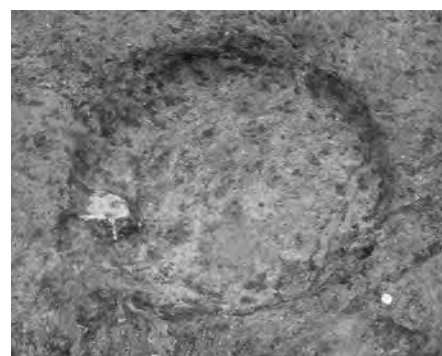
12. 299号土坑全景(南から)



13. 300号土坑全景(南から)



14. 301号土坑全景(南から)



15. 302号土坑全景(南から)

縄文時代



1. 303号土坑全景(南から)



2. 304号土坑全景(東から)



3. 305号土坑全景(南から)



4. 306号土坑全景(西から)



5. 306号土坑全景(東から)



6. 309号土坑全景(西から)



7. 310号土坑全景(北から)



8. 311号土坑全景(西から)



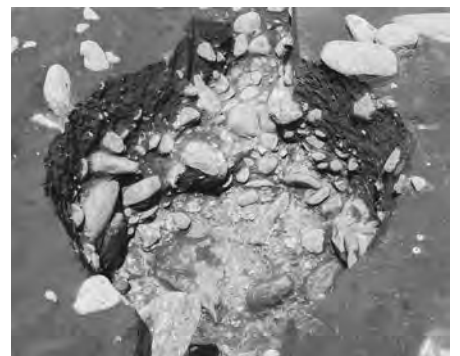
9. 312号土坑全景(北から)



10. 314号土坑全景(南から)



11. 314号土坑全景(南から)



12. 316号土坑全景(東から)



13. 317号土坑断面(東から)



14. 318号土坑断面(南から)



15. 318号土坑全景(東から)



1. 327・328号土坑全景(北から)



2. 330号土坑断面(南から)



3. 330号土坑全景(東から)



4. 330号土坑全景(南から)



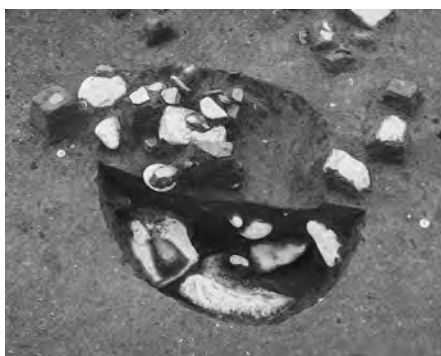
5. 337号土坑全景(東から)



6. 339号土坑全景(東から)



7. 343号土坑断面(南から)



8. 343号土坑遺物出土状態(南から)



9. 344号土坑遺物出土状態(南から)



10. 344号土坑全景(南から)



11. 347号土坑全景(南から)



12. 347号土坑遺物出土状態(南から)



13. 348号土坑遺物出土状態(南から)



14. 348号土坑全景(北から)



15. 349号土坑全景(南から)



1. 351号土坑全景(南から)



2. 353号土坑全景(南から)



3. 355号土坑全景(南から)



4. 359号土坑全景(北から)



5. 366号土坑断面(南から)



6. 366号土坑全景(南から)



7. 366・369号土坑全景(東から)



8. 370号土坑全景(南から)



9. 371号土坑全景(東から)



10. 371号土坑遺物出土状態(東から)



11. 371号土坑全景(東から)



12. 372号土坑全景(南から)



13. 374号土坑全景(東から)



14. 375号土坑断面(南から)



15. 375号土坑全景(南から)



1. 74区T-6 早期遺物出土状態(西から)



2. 74区T-6 早期遺物出土状態(南から)



3. 74区T-6 早期遺物出土状態(西から)



4. 74区T-6 早期遺物出土状態(東から)



5. 74区T-6 早期遺物出土状態(西から)



6. 74区V-16 遺物出土状態(東から)



7. 74区N-19 土偶出土状態(西から)



8. 74区S-15 遺物出土状態(東から)



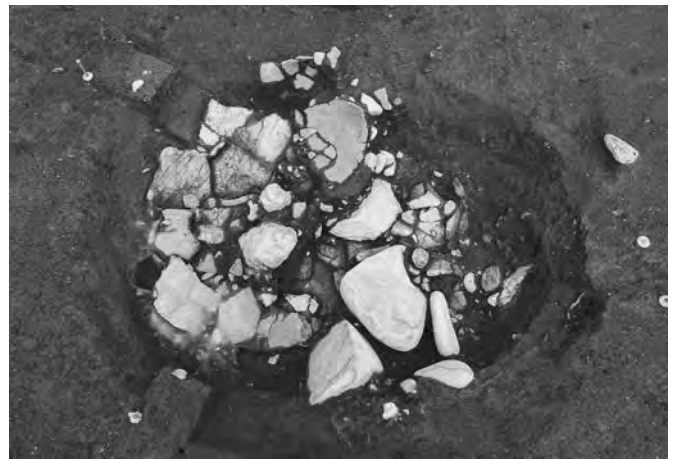
1. 1号再葬墓(南から)



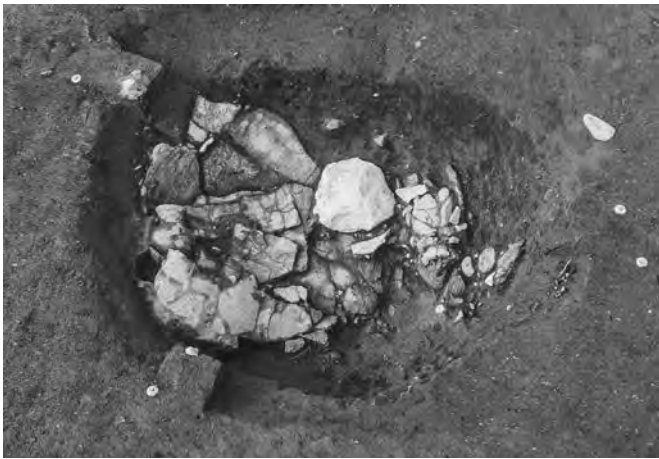
2. 1号再葬墓遺物出土状態(東から)



3. 1号再葬墓遺物出土状態(南から)



4. 1号再葬墓遺物出土状態(南から)



5. 1号再葬墓遺物出土状態(南から)



6. 1号再葬墓遺物出土状態(南から)



7. 1号再葬墓遺物出土状態(北から)



8. 1号再葬墓遺物出土状態(南から)



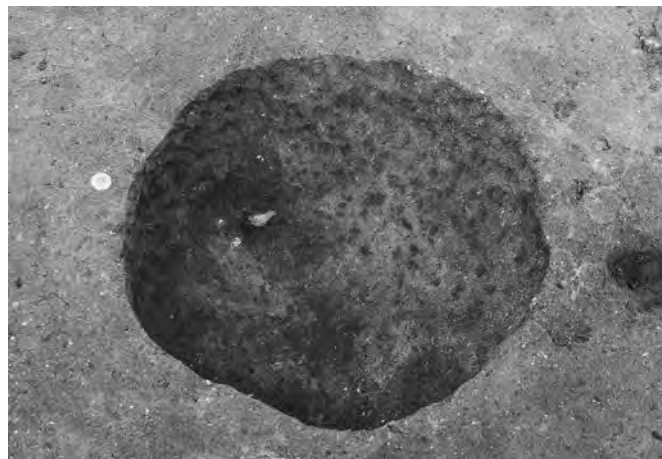
1. 1号再葬墓遺物出土状態(南から)



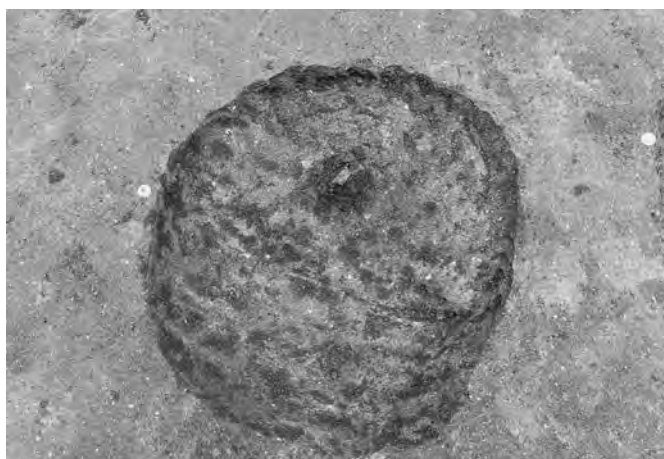
2. 1号再葬墓遺物出土状態(北から)



1. 83号土坑全景(南から)



2. 118号土坑全景(南から)



3. 121号土坑全景(南から)



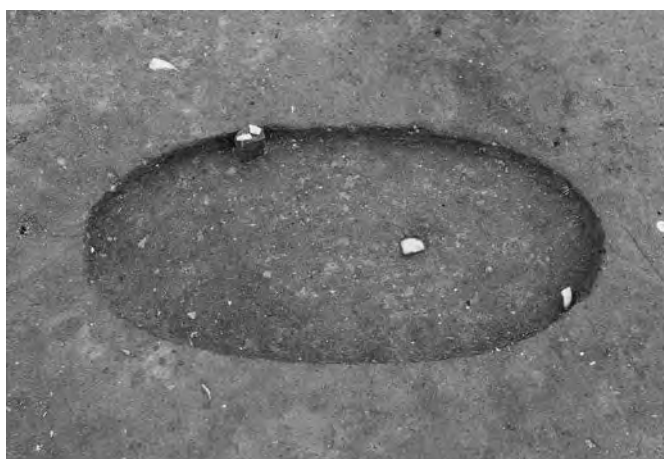
4. 154号土坑全景(東から)



5. 156号土坑全景(東から)



6. 191号土坑全景(南から)



7. 333号土坑全景(南から)



8. 338号土坑全景(南から)



1. 340号土坑遺物出土状態(西から)



2. 340号土坑遺物出土状態(北東から)



3. 340号土坑遺物出土状態(東から)



4. 342号土坑断面(北から)



5. 345号土坑全景(南から)



6. 350号土坑遺物出土状態(西から)



7. 352号土坑遺物出土状態(南から)



8. 352号土坑遺物出土状態(南から)

弥生時代



1. 354号土坑全景(南から)



2. 356号土坑全景(南から)



3. 360号土坑断面(東から)



4. 360号土坑全景(北から)



5. 362号土坑遺物出土状態(東から)



6. 362号土坑全景(南から)



7. 363号土坑断面(東から)



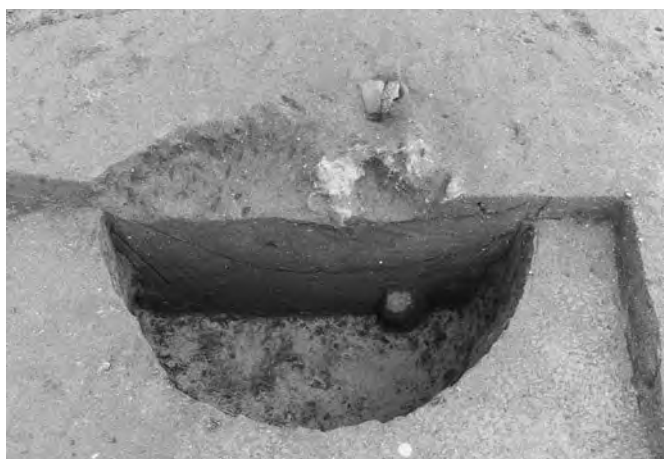
8. 363号土坑全景(東から)



1. 364号土坑断面(南から)



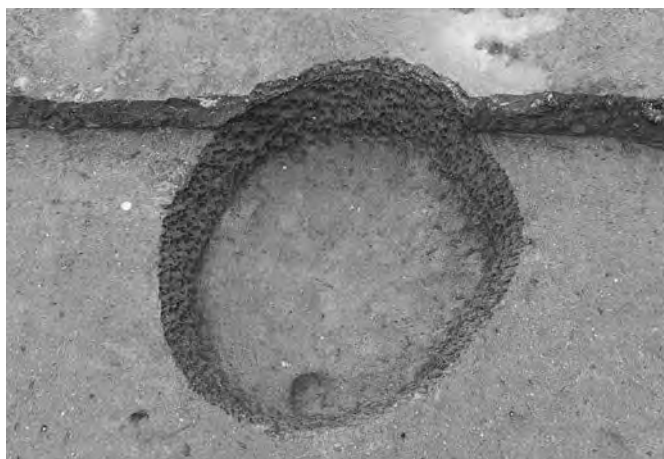
2. 364号土坑全景(南から)



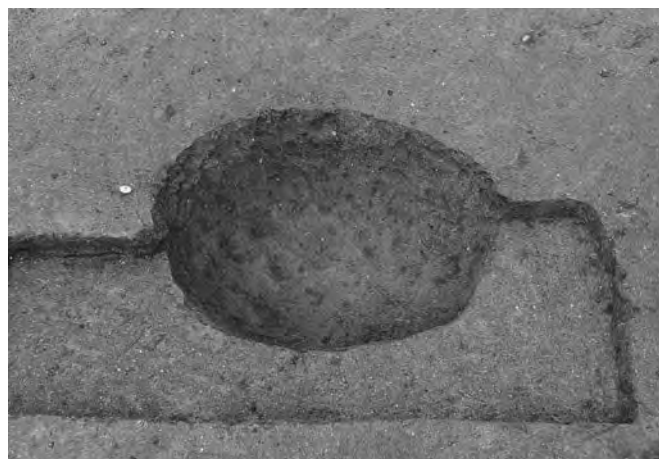
3. 365号土坑断面(南から)



4. 365号土坑全景(南から)



5. 367号土坑全景(西から)



6. 368号土坑全景(南から)



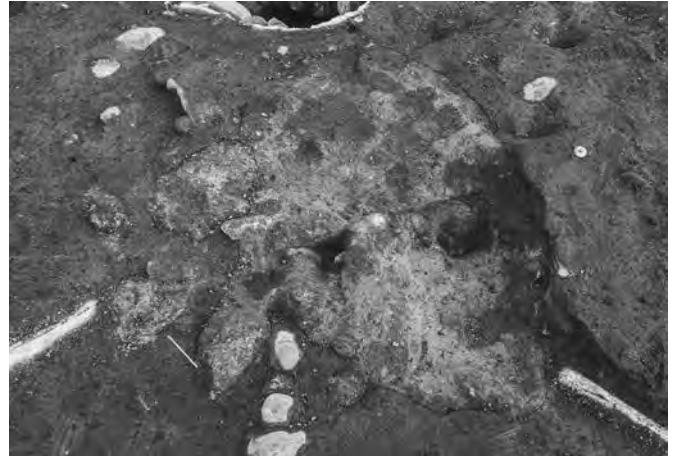
7. 373号土坑全景(南から)



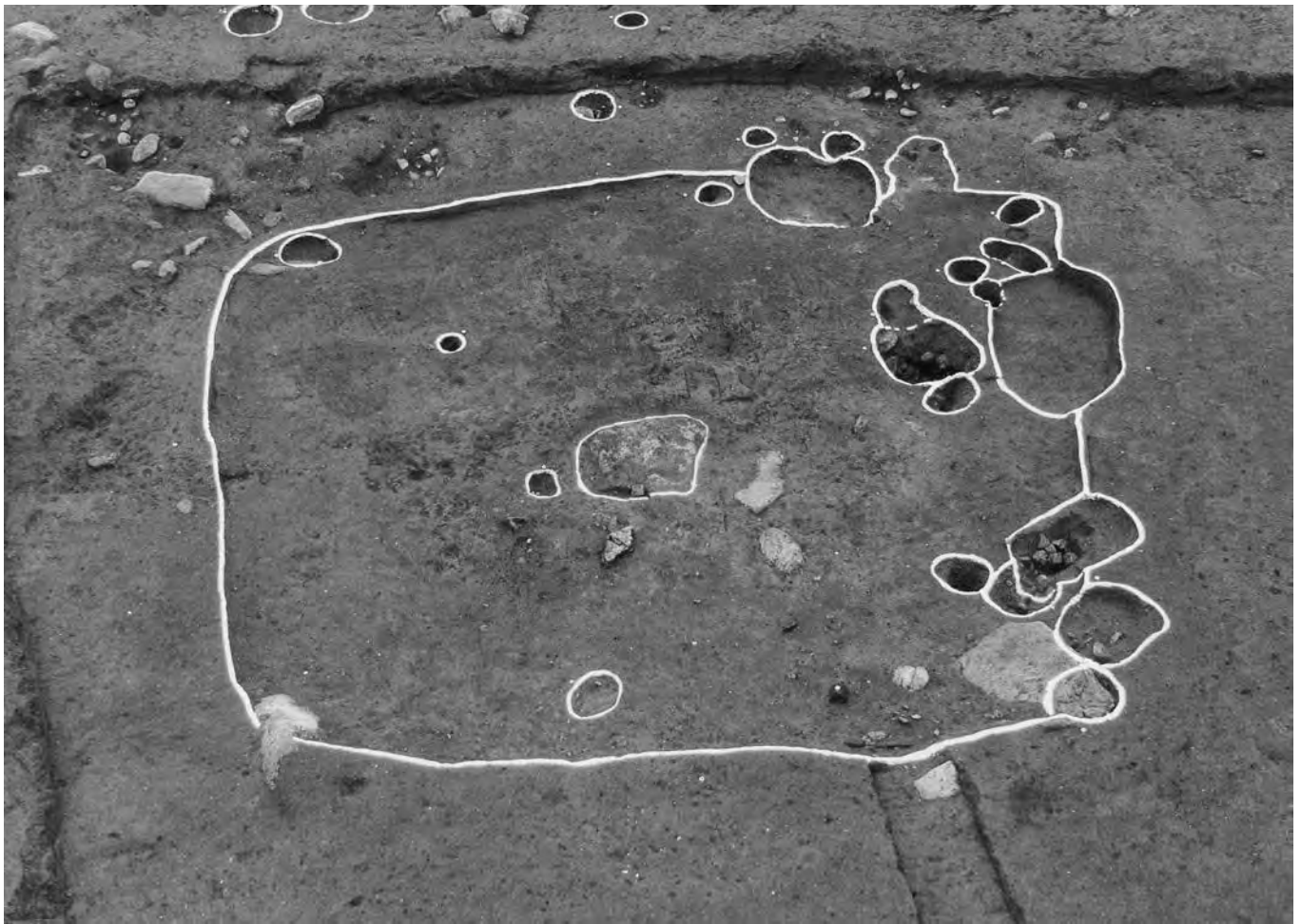
8. 376号土坑全景(西から)



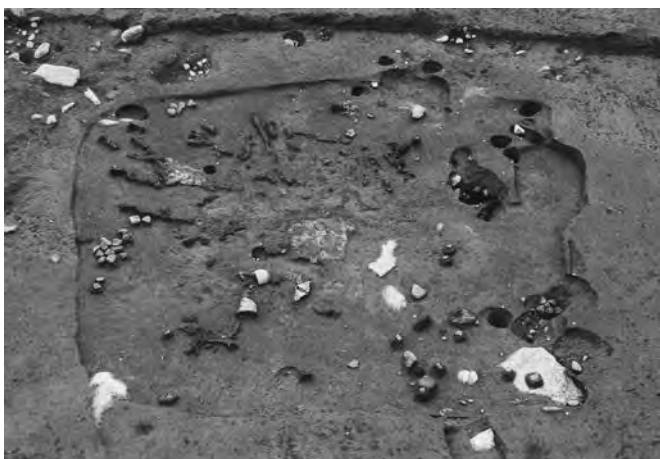
1. 1号住居全景(西から)



2. 1号住居カマド(西から)



3. 2号住居全景(南から)



4. 2号住居遺物出土状態(南から)



5. 2号住居遺物出土状態(北から)



1. 2号住居炭化物(西から)



2. 2号住居遺物出土状態(南東から)



3. 2号住居カマド断面(西から)



4. 2号住居掘り方(南から)



5. 1・2号住居全景(南から)

平安時代



1. 7号住居断面(東から)



2. 7号住居遺物出土状態(南から)



3. 7号住居全景(南から)



4. 7号住居カマド(南から)



5. 9号住居全景(南から)



1. 10号住居全景(西から)



2. 10号住居カマド断面(南から)



3. 10号住居カマド(西から)



4. 10号住居焼土断面(東から)



5. 10号住居1号ビット断面(南から)



1. 10号住居2号ピット断面(西から)



2. 10号住居掘り方(西から)



3. 11号住居断面(東から)



4. 11号住居全景(西から)



5. 11号住居炭化材(南から)



6. 11号住居遺物出土状態(南から)



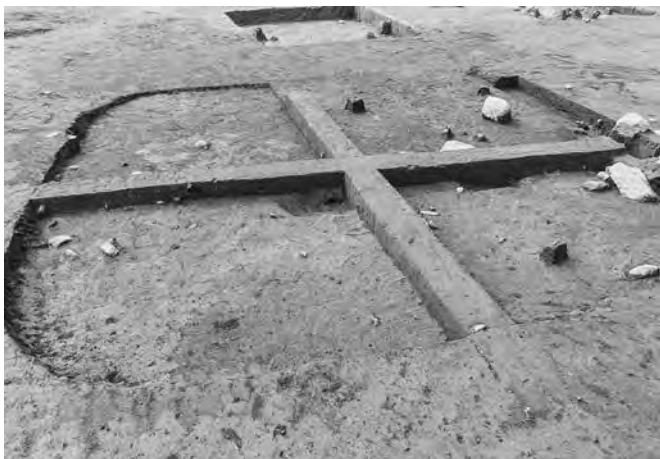
7. 11号住居カマド断面(西から)



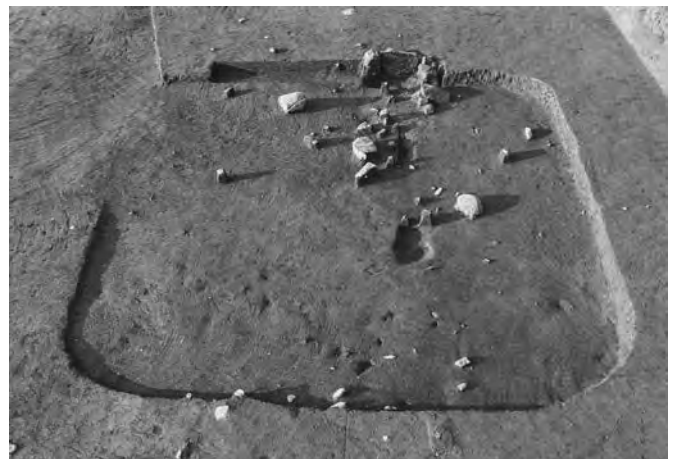
8. 11号住居貯蔵穴(南から)



1. 11号住居掘り方(西から)



2. 12号住居断面(東から)



3. 12号住居遺物出土状態(南から)



4. 12号住居カマド(南から)



5. 12号住居カマド床(南から)



1. 13・14号住居(北から)



2. 13号住居全景(南から)



3. 13号住居カマド(西から)



4. 13号住居カマド断面(南から)



5. 13号住居カマド石組(西から)



6. 14号住居(北から)



7. 14号住居カマド断面(南から)



1. 13・14号住居カマド(西から)



2. 13・14号住居カマド石組(西から)



3. 15号住居全景(南から)



4. 15号住居カマド(西から)



5. 16号住居全景(西から)



6. 16号住居カマド(西から)



7. 14号焼土(南から)



8. 15号焼土(南から)



1. 21・22号溝(西から)



2. 22号溝(西から)



3. 22号溝遺物出土状態(西から)



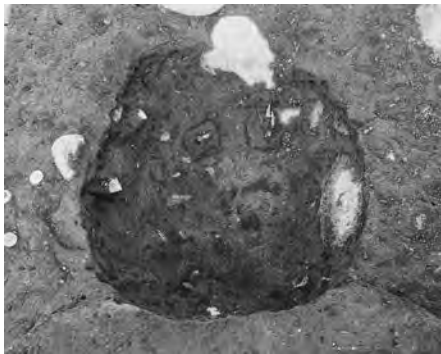
4. 3号土坑炭化物(南から)



5. 33号土坑全景(東から)



6. 35号土坑全景(東から)



7. 59号土坑全景(南から)



8. 62号土坑全景(東から)



9. 74号土坑全景(南から)



10. 75号土坑全景(南から)



11. 215号土坑全景(南から)



12. 215号土坑全景(東から)



13. 216号土坑全景(東から)



14. 217号土坑全景(東から)



15. 224号土坑断面(北から)



1. 225・235号土坑全景(南から)



2. 227号土坑全景(東から)



3. 229号土坑全景(南から)



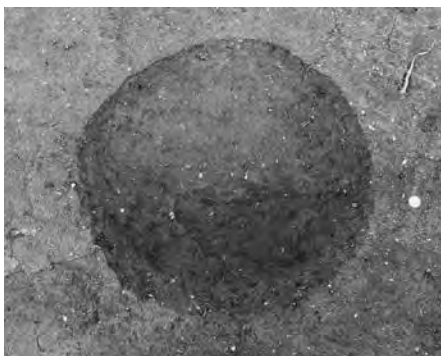
4. 231号土坑全景(東から)



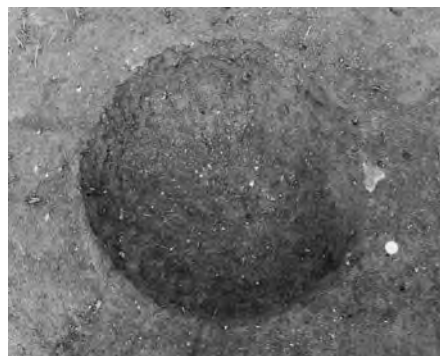
5. 233号土坑全景(東から)



6. 234号土坑全景(東から)



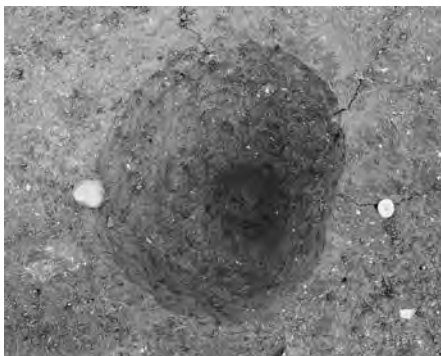
7. 240号土坑全景(南から)



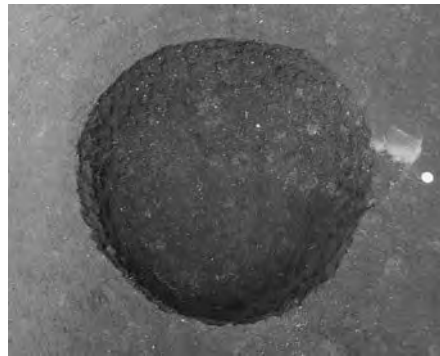
8. 241号土坑全景(南から)



9. 242号土坑全景(南から)



10. 243号土坑全景(南から)



11. 244号土坑全景(南から)



12. 377号土坑断面(南から)



13. 378号土坑全景(南から)



14. 379号土坑断面(南から)



15. 380～382号土坑全景(南から)

平安時代



1. 381号土坑断面(南から)



2. 383号土坑断面(南から)



3. 384・388号土坑全景(南から)



4. 385号土坑全景(南から)



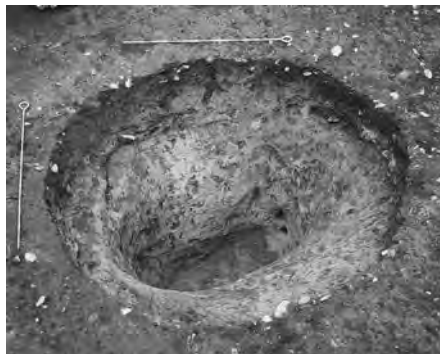
5. 386号土坑全景(南から)



6. 387号土坑全景(北から)



7. 389号土坑全景(南から)



8. 390号土坑全景(東から)



9. 391号土坑全景(南から)



10. 392号土坑断面(西から)



11. 392号土坑全景(西から)



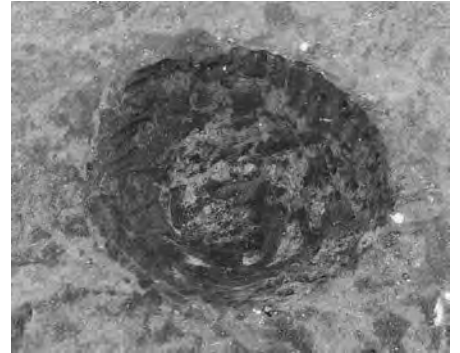
12. 393号土坑全景(南から)



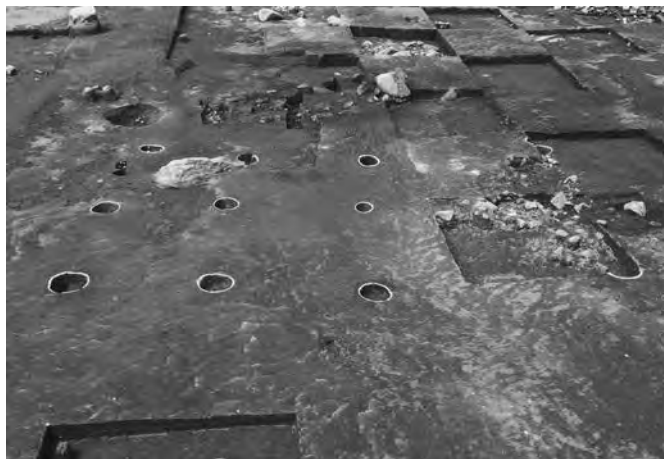
13. 394号土坑断面(西から)



14. 395・396号土坑全景(南から)



15. 398号土坑全景(南から)



1. 1号掘立柱建物(東から)



2. 2号掘立柱建物(南から)



3. 3号掘立柱建物(東から)



4. 3号掘立柱建物(南から)



5. 7号焼土断面(東から)



6. 11号焼土(南から)



7. 12号焼土(南から)

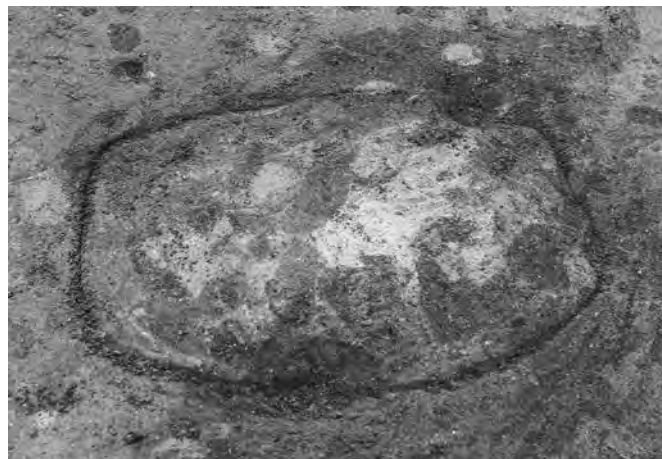


8. 13号焼土(南から)

中世



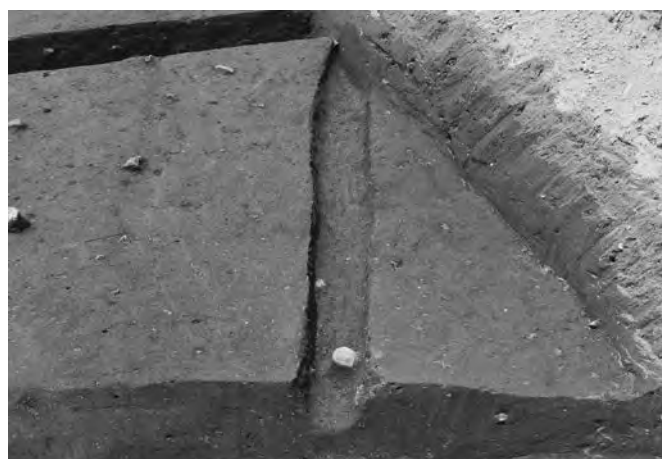
1. 16号焼土(南から)



2. 17号焼土(西から)



3. 23号溝(東から)



4. 24号溝(東から)



5. 334号土坑遺物出土状態(西から)



6. 335号土坑全景(北東から)



7. 336号土坑断面(南西から)



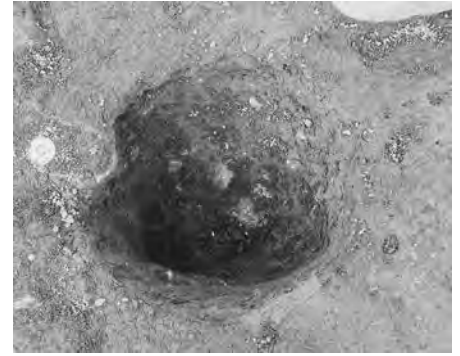
8. 336号土坑全景(北から)



1. 1号ピット(南から)



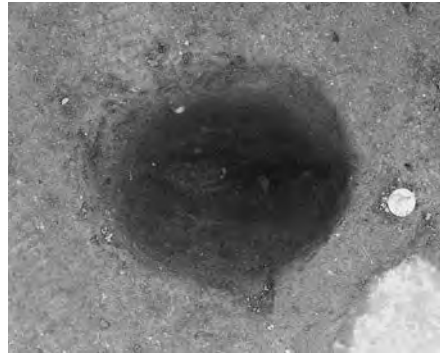
2. 2号ピット(南から)



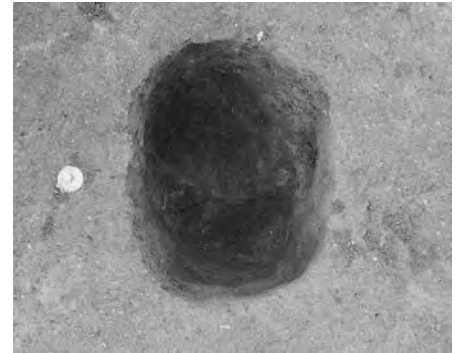
3. 3号ピット(南から)



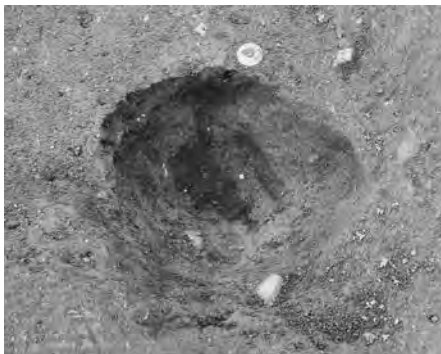
4. 4号ピット(南から)



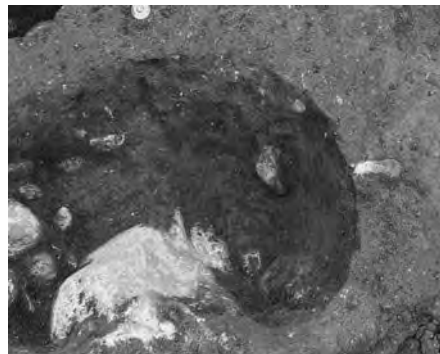
5. 5号ピット(東から)



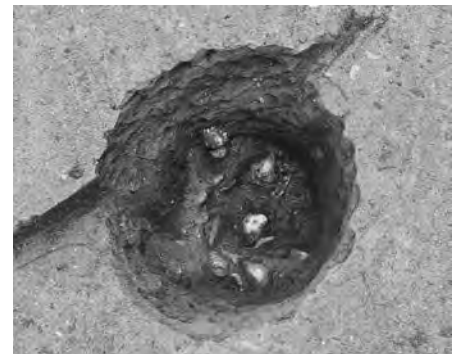
6. 6号ピット(南から)



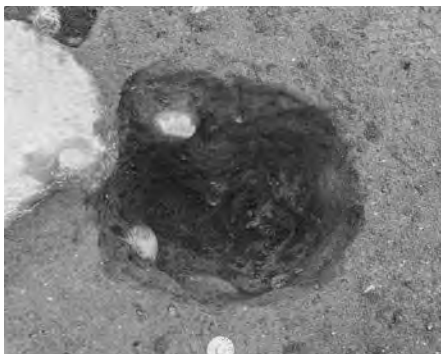
7. 7号ピット(南から)



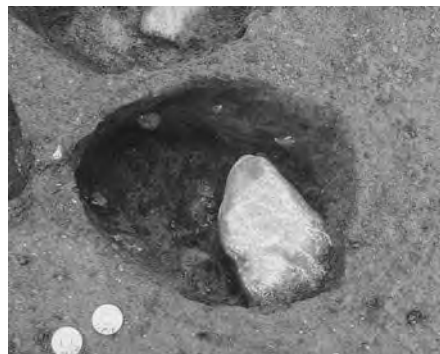
8. 8号ピット(南から)



9. 9号ピット(南から)



10. 10号ピット(南から)



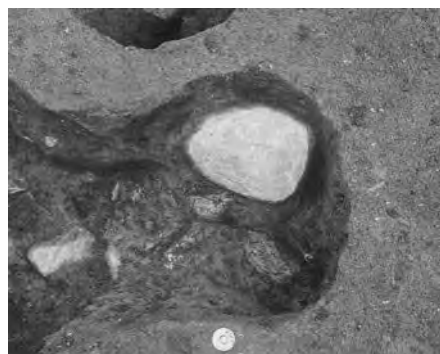
11. 11号ピット(西から)



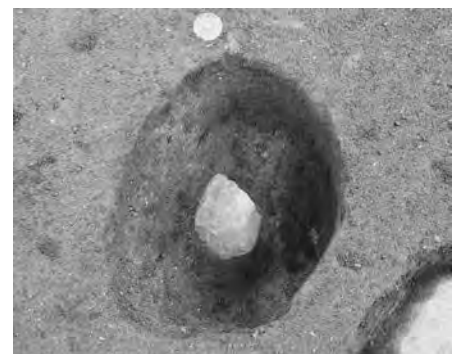
12. 12号ピット断面(北から)



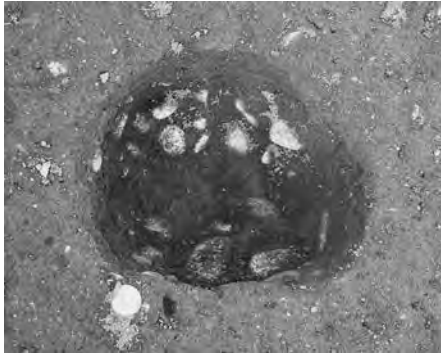
13. 12号ピット(南から)



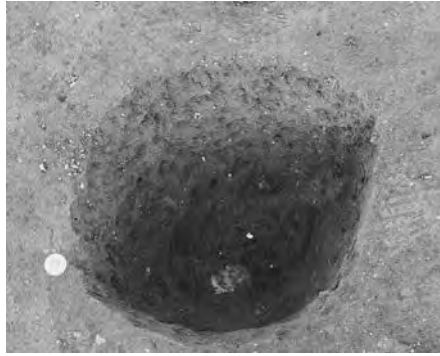
14. 13号ピット(西から)



15. 14号ピット(南から)



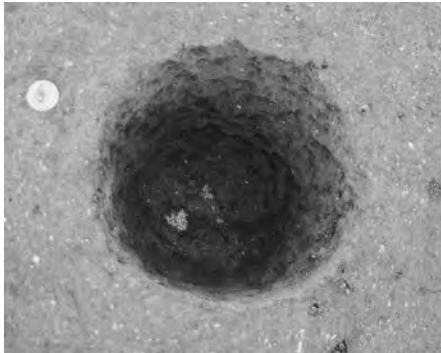
1. 15号ピット(南から)



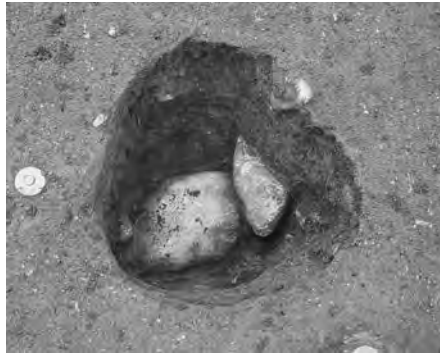
2. 16号ピット(西から)



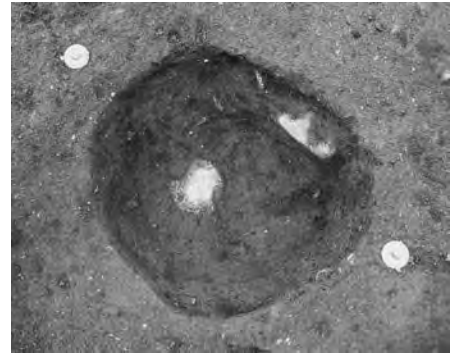
3. 17号ピット断面(南から)



4. 17号ピット(西から)



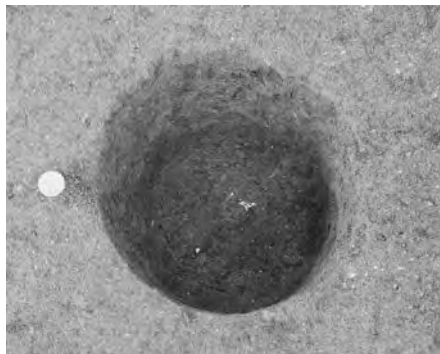
5. 18号ピット(南から)



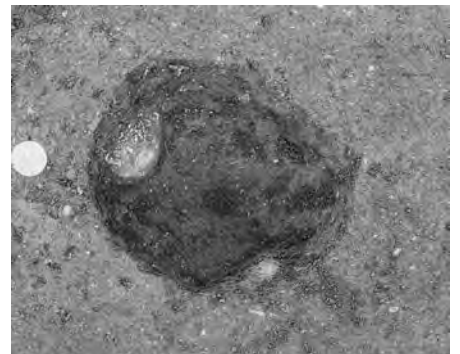
6. 19号ピット(南から)



7. 20号ピット(西から)



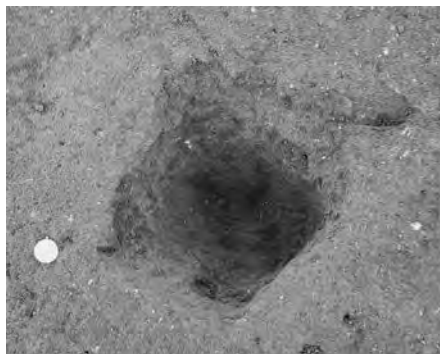
8. 21号ピット(南から)



9. 22号ピット(南から)



10. 23号ピット(南から)



11. 24号ピット(南から)



12. 28号ピット(南から)



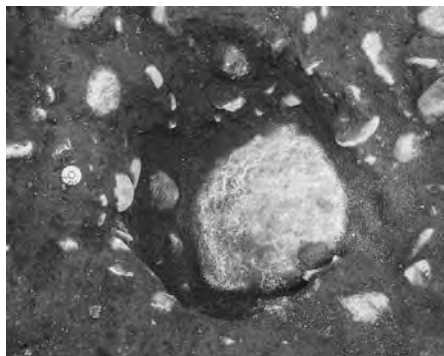
13. 29号ピット(南から)



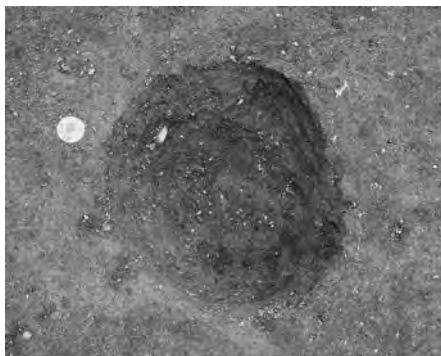
14. 30号ピット(南から)



15. 31号ピット(南から)



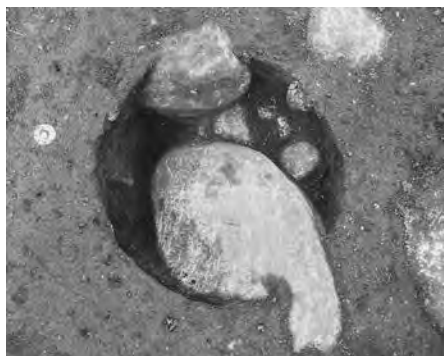
1. 32号ピット(南から)



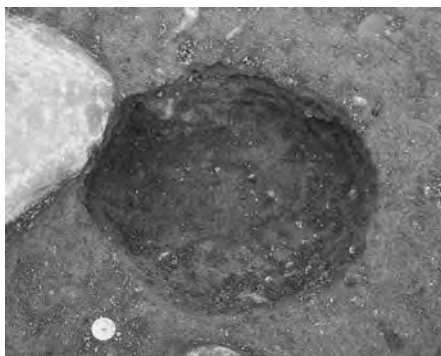
2. 33号ピット(南から)



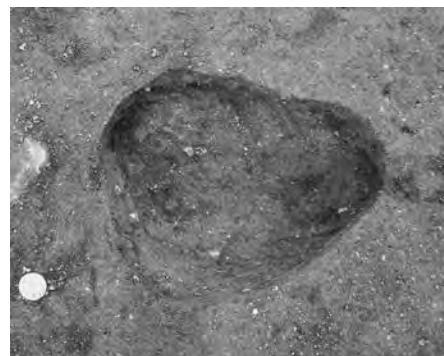
3. 34号ピット(南から)



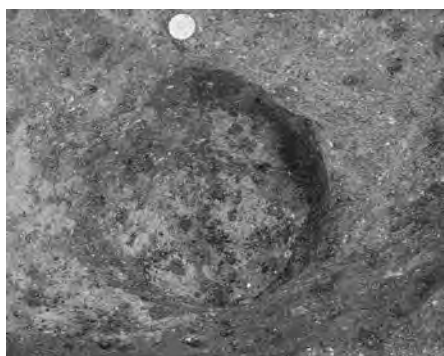
4. 35号ピット(南から)



5. 36号ピット(南から)



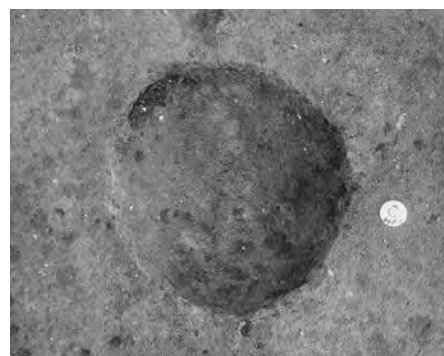
6. 37号ピット(南から)



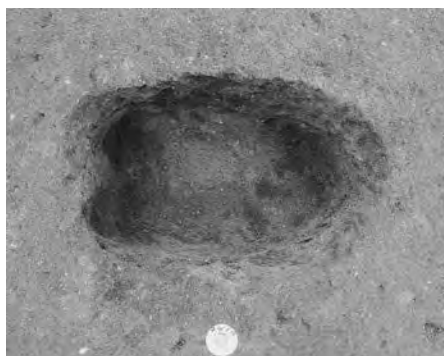
7. 38号ピット(南から)



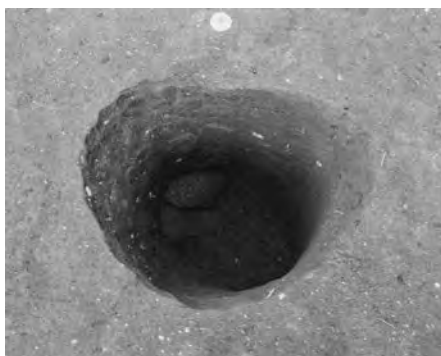
8. 39号ピット(南から)



9. 40号ピット(南から)



10. 41号ピット(南から)



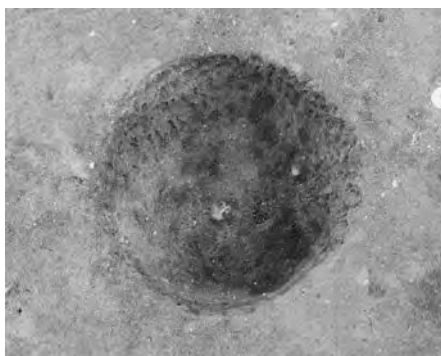
11. 42号ピット(南から)



12. 43号ピット(南から)



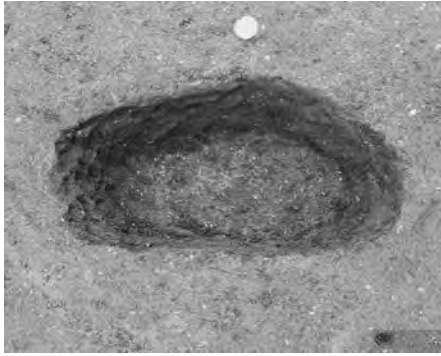
13. 44号ピット(南から)



14. 45号ピット(南から)



15. 46号ピット(北から)



1. 47号ピット(南から)



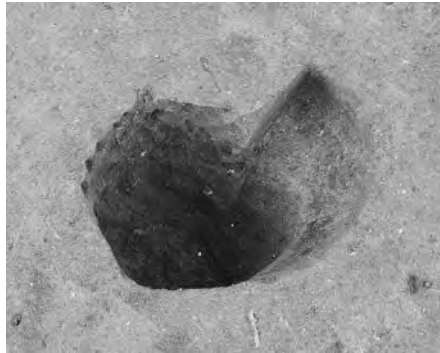
2. 48号ピット(南から)



3. 49号ピット断面(東から)



4. 50号ピット(北から)



5. 51号ピット(西から)



6. 52号ピット(南から)



7. 65号ピット断面(東から)



8. 68・69号ピット(南から)



9. 70号ピット(南から)



10. 71号ピット(西から)



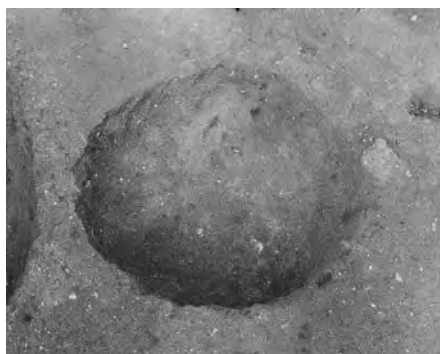
11. 72号ピット断面(南から)



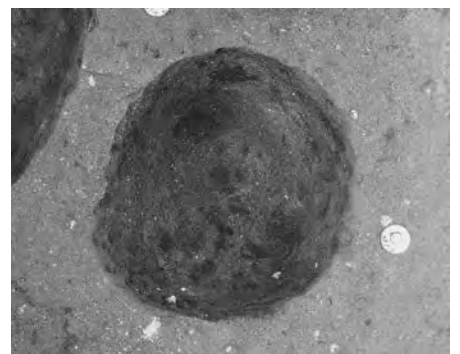
12. 73号ピット断面(南から)



13. 75号ピット断面(南から)



14. 99号ピット(南から)



15. 100号ピット(南から)



1. 1号建物周辺全景(上空から)



2. 1号建物全景(上空から)

江戸時代



1. 1号建物調査前風景(南から)



2. 1号建物全景(南から)



3. 1号建物土台出土状態(南から)



4. 1号建物土間(南から)



5. 1号建物断面(南から)



6. 1号建物馬屋(南から)



7. 1号建物8号土坑(南から)



8. 1号建物囲炉裏(南から)



1. 1号建物囲炉裏(南から)



2. 1号建物囲炉裏断面(南から)



3. 1号建物遺物出土状態(南西から)



4. 1号建物遺物出土状態(南から)



5. 1号建物遺物出土状態(南から)



6. 1号建物筵痕(南から)



7. 1・3号建物(南から)



8. 1号建物南東隅(南から)



1. 2号建物全景(西から)



2. 2号建物全景(東から)



3. 2号建物2号ピット柱出土状態(南から)



4. 2号建物2号ピット柱出土状態(西から)



5. 2号建物11号ピット柱出土状態(北から)



6. 2号建物11号ピット柱出土状態(東から)



7. 2号建物11号ピット下部木器出土状態(南から)



8. 2号建物床下断ち割り(西から)



1. 3号建物全景(南から)



2. 3号建物全景(東から)



3. 3号建物5号土坑断面(東から)



4. 3号建物4・5号土坑(南から)



5. 3号建物4・5号土坑(東から)



6. 3号建物5号土坑(西から)



7. 5号建物全景(南から)



8. 5号建物全景(北から)



1. H18. 73区(18B区)畑全景(上空から)



2. H19. 74区(19B区)畑全景(上空から)



1. H19. 73区(19A・C・D区)畑全景(上空から)



2. H20. 74・75区(20C区)畑全景(上空から)



1. H20. 75区(20D区)畑全景(上空から)



2. H20. 73・74・83・84区(20E区)畑全景(上空から)



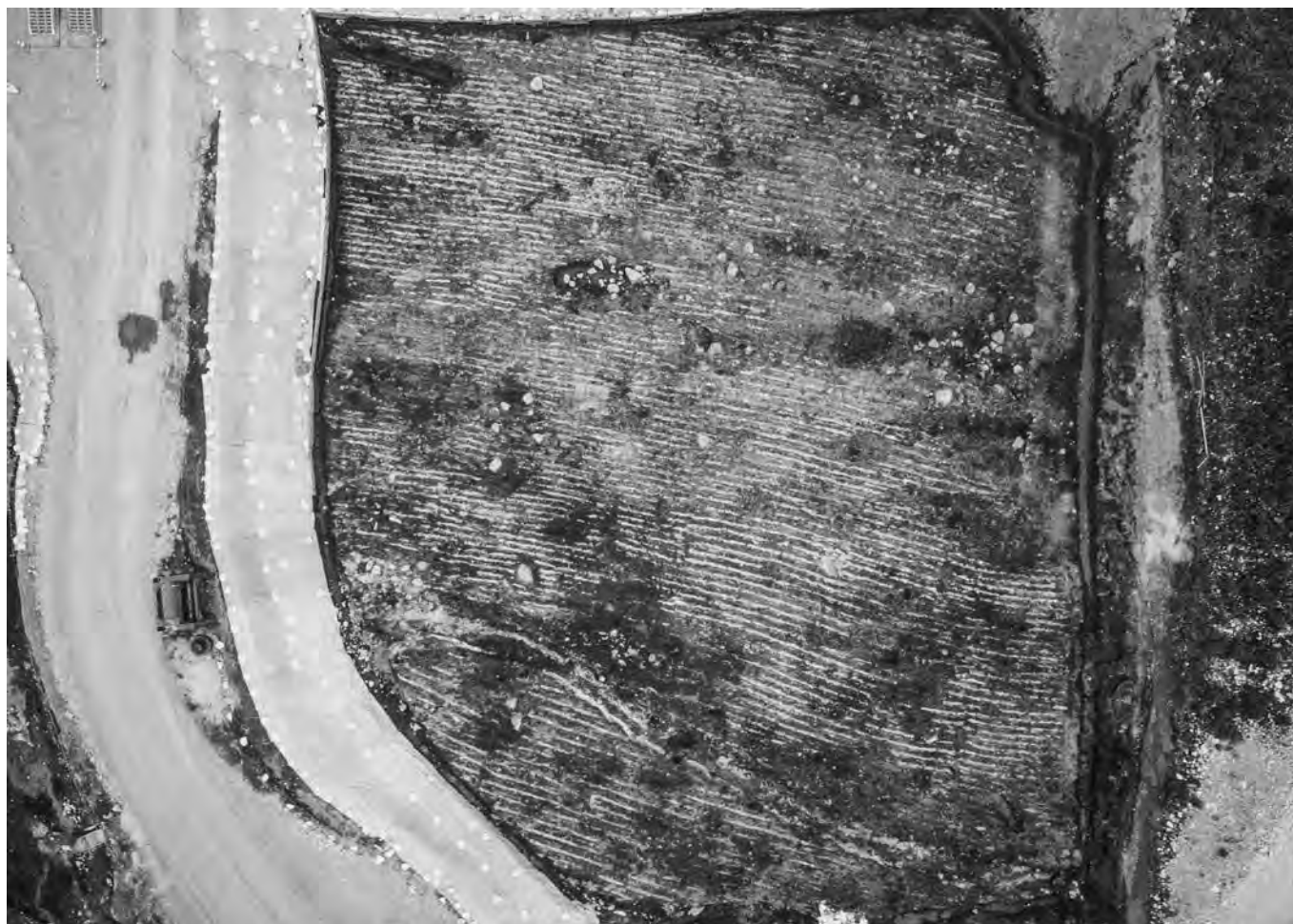
1. H20. 83区(20H区)畑全景(上空から)



2. H20. 63区(20G区)畑全景(上空から)



1. H21. 72・82区(21B区)畑全景(上空から)



2. H22. 74区(22C区)畑全景(上空から)



1. 73区(18B区) 13・14畑(西から)



2. 73区(19A区) 16・18畑(東から)



3. 74区(19D区) 21畑(東から)



4. 83・84区(20E区) 9・10畑(東から)



5. 72区(21B区) 4・5・6畑(西から)



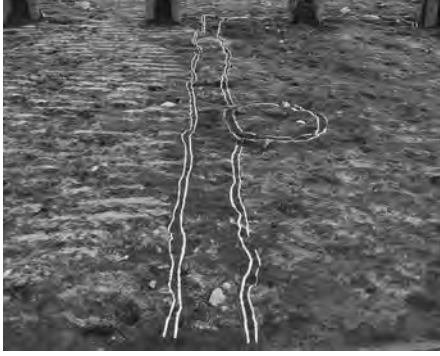
6. 83区(21E区) 9畑(西から)



7. 75区(22B区) 36畑(西から)



8. 84区(25B区) 11・12畑(東から)



1. 1号道(南から)



2. 1号道(南から)



3. 1号道(南から)



4. 2号道(東から)



5. 2号道植物(西から)



6. 2号道植物(西から)



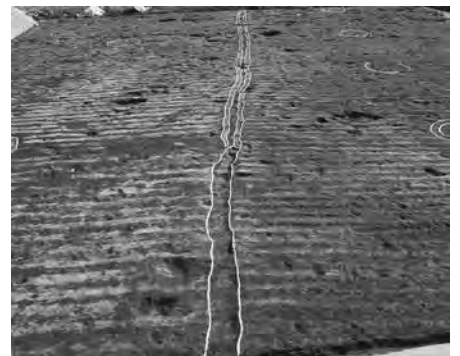
7. 2号道・4号溝(西から)



8. 2号道・4号溝(西から)



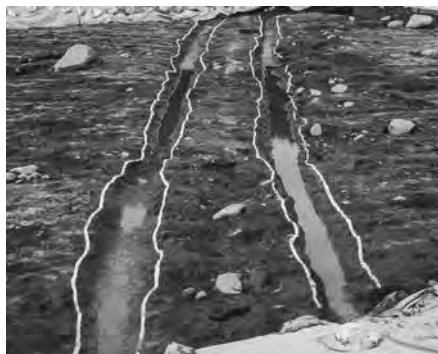
9. 2号道植物(西から)



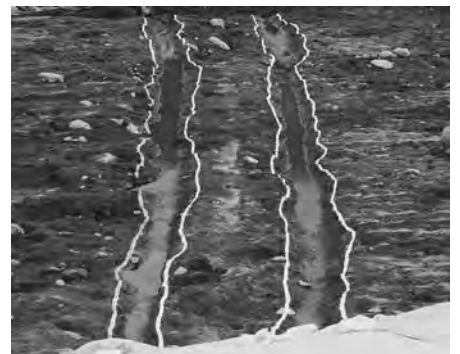
10. 6号道(北から)



11. 8号道(北から)



12. 8号道(南から)



13. 8号道(北から)



1. 8号道取水施設(南から)



2. 8号道取水施設(北から)



3. 10号道断面(南西から)



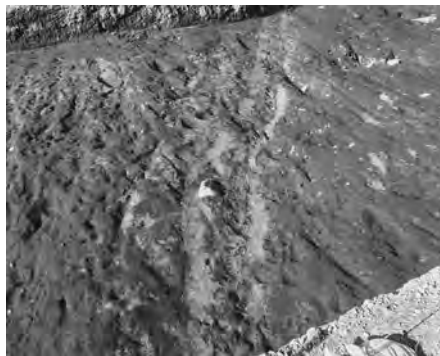
4. 11号道(西から)



5. 11号道(西から)



6. 12号道(南から)



7. 14号道(東から)



8. 15号道(南から)



9. 16号道・20号溝(東から)



10. 18号道(南西から)



11. 19号道(南東から)



12. 19号道・6号石垣(南から)



13. 19号道(東から)



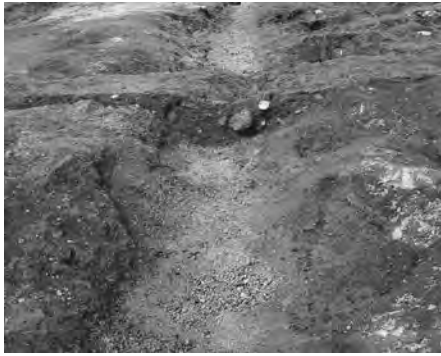
1. 2号溝(南から)



2. 3号溝・2号道(南東から)



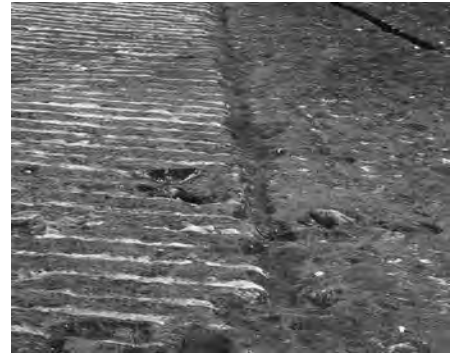
3. 5・6号溝断面(南から)



4. 6号溝断面(南から)



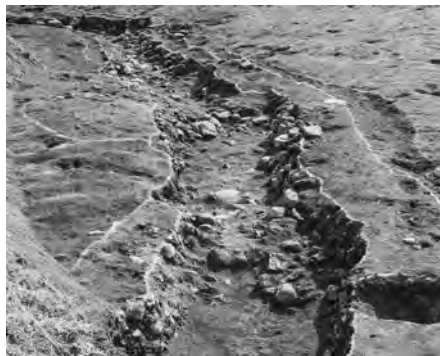
5. 泥流礫による溝(旧7号溝)(西から)



6. 14号溝(南から)



7. 10号道・9・11・12号溝・1号河道(南から)



8. 1号河道・10号道・9号溝(北から)



9. 1号水場(東から)



10. 1号水場(南から)



11. 7号石垣(南東から)



12. 7号石垣(南から)



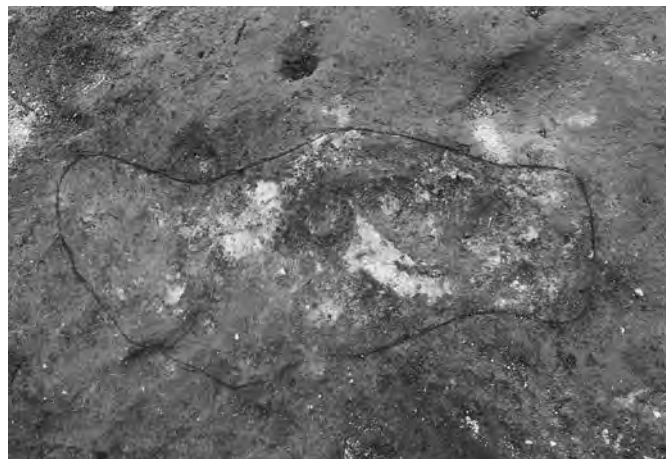
13. 7号石垣(南西から)



14. 1号集石(南西から)



15. 1号集石(西から)



1. 1号焼土(北から)



2. 1号土坑(南から)



3. 86号土坑全景(南から)



4. 86号土坑断面(南から)



5. 86号土坑下床断面(南から)



6. 315号土坑全景(南から)



7. 315号土坑断面(西から)



8. 315号土坑全景(南西から)

江戸時代



1. 315号土坑断面(北西から)



2. 315号土坑全景(南西から)



3. 315号土坑掘り方断面(南から)



4. 315号土坑掘り方(南から)



5. 341号土坑全景(南西から)



6. 341号土坑遺物出土状態(南東から)



7. 341号土坑遺物出土状態(南東から)



8. 341号土坑掘り方(南から)



1. 74区(22C区)植物No.11 (西から)



2. 74区(22C区)植物No.31 (北から)



3. 74区(22D区)植物No.32 (南から)



4. 74区(22D区)植物No.34 (南から)



5. 74区(22D区)植物No.38 (南から)



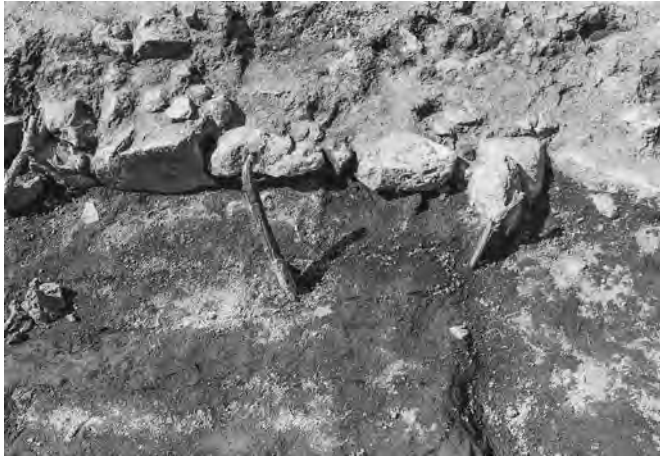
6. 74区(22D区)植物No.39 (西から)



7. 74区(22H区)植物No.41 (北から)



8. 74区(22D区)植物No.43 (西から)



1. 84区11畑杭(南から)



2. 84区11畑杭断面(南から)



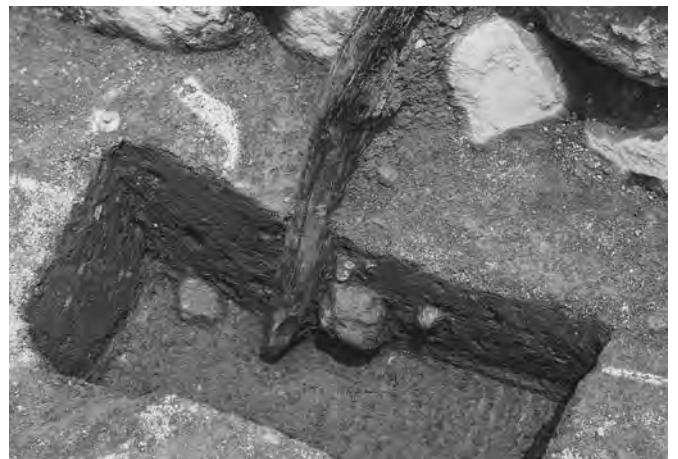
3. 84区11畑曲物出土状況(西から)



4. 84区11畑曲物出土状況(南から)



5. 84区11畑杭(南から)



6. 84区11畑杭断面(南から)



7. 84区11畑杭(南から)



8. 84区11畑杭(東から)



1. 1号暗渠(南西から)



2. 1号暗渠断面(東から)



3. 1号暗渠全景(北東から)



4. 1号暗渠(南西から)



5. 1号暗渠(西から)

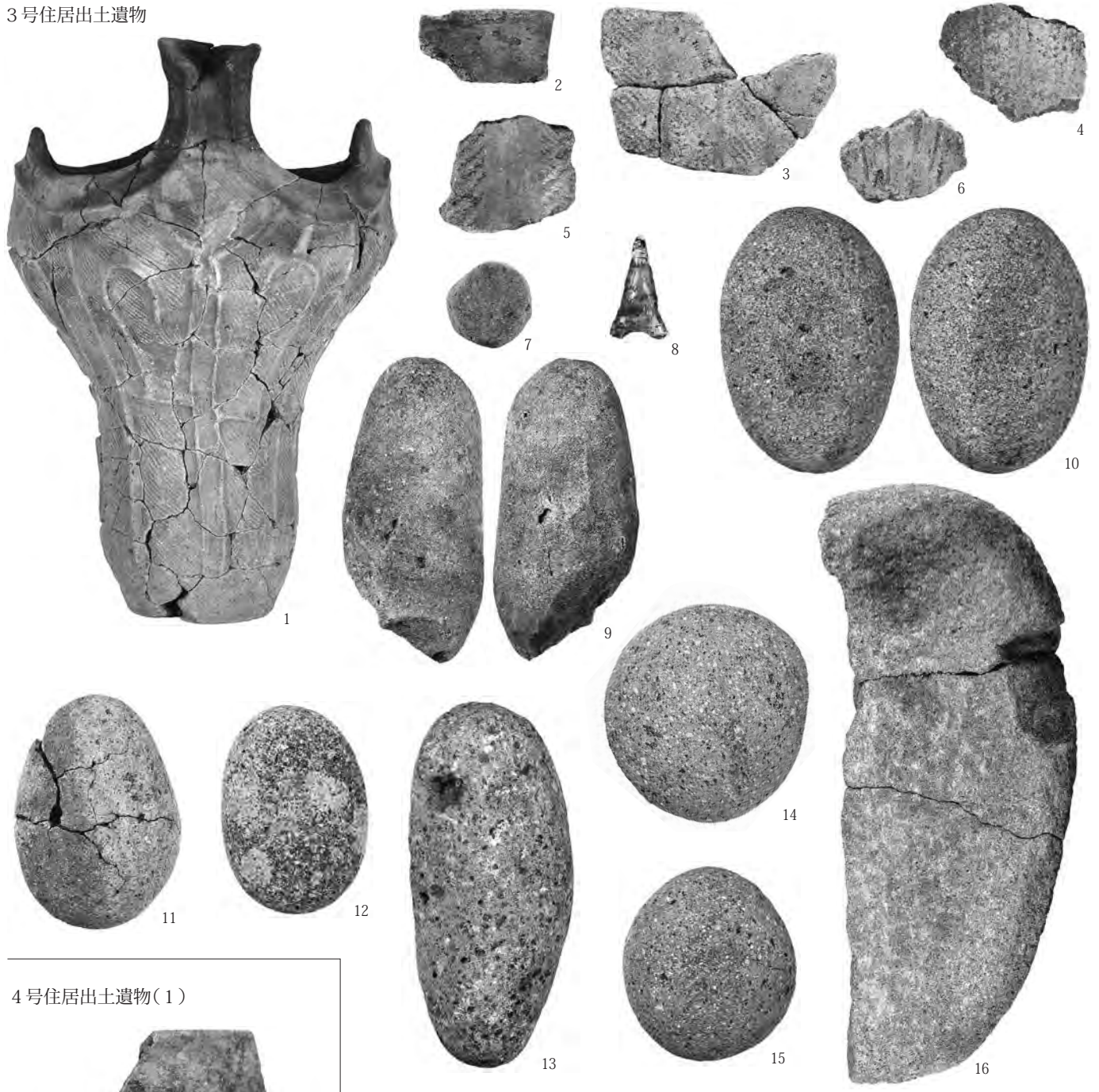


1. 1号暗渠(南から)

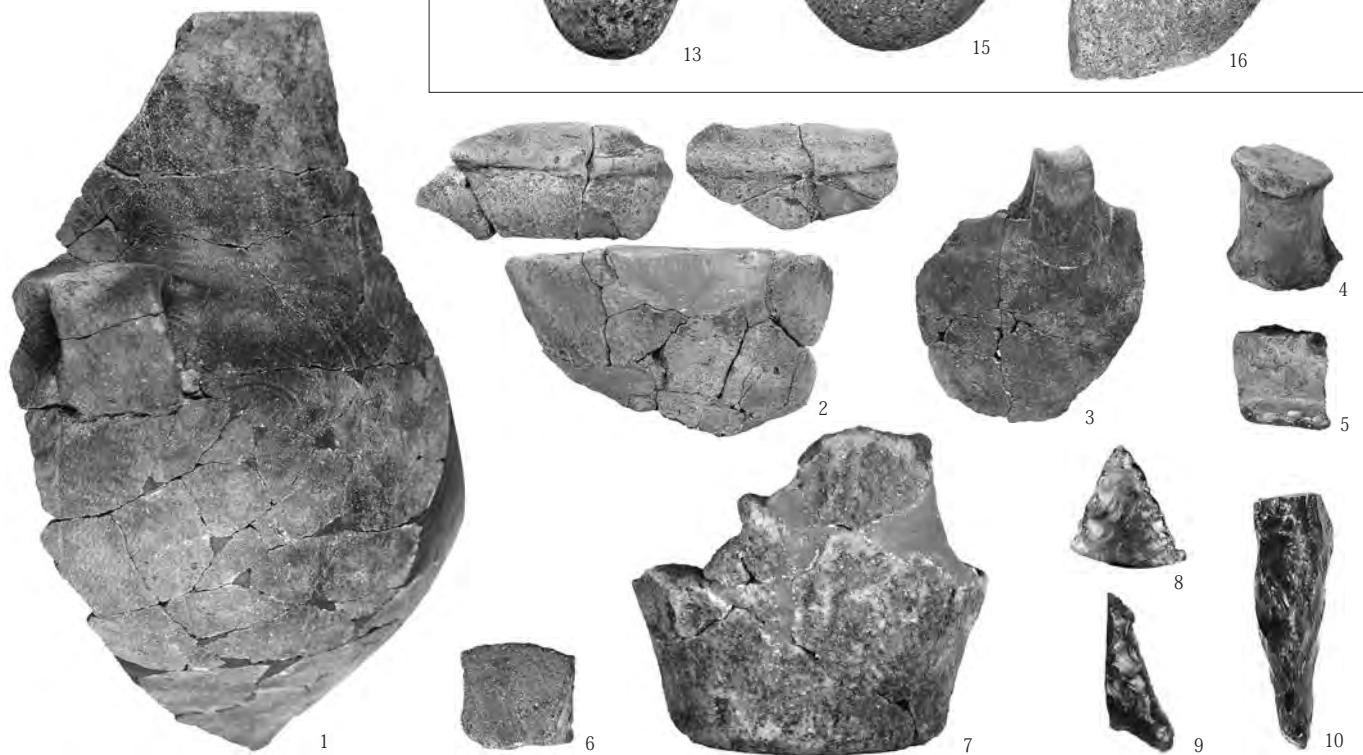


2. 1号暗渠掘り方(南から)

3号住居出土遺物



4号住居出土遺物(1)

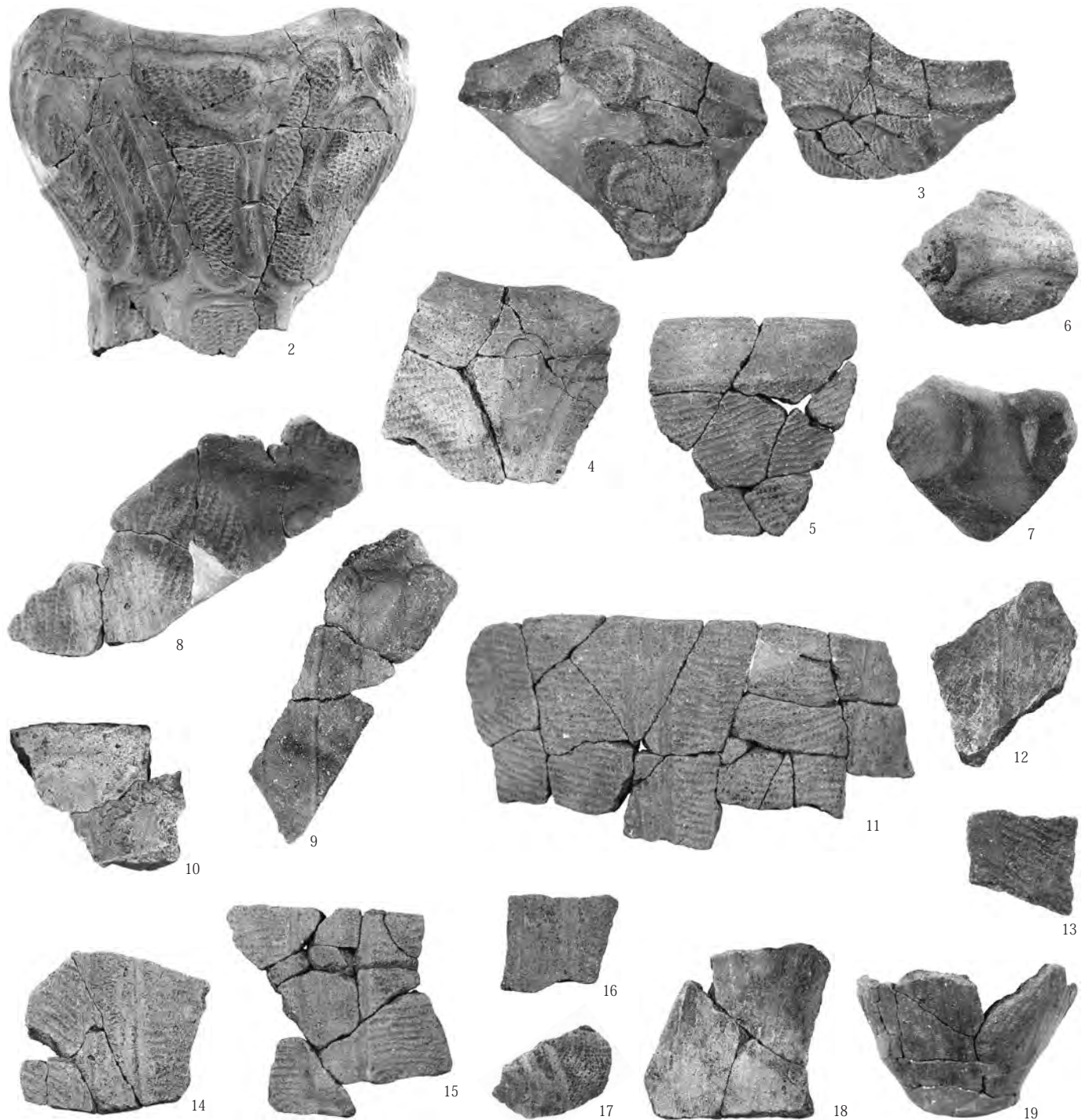


縄文時代

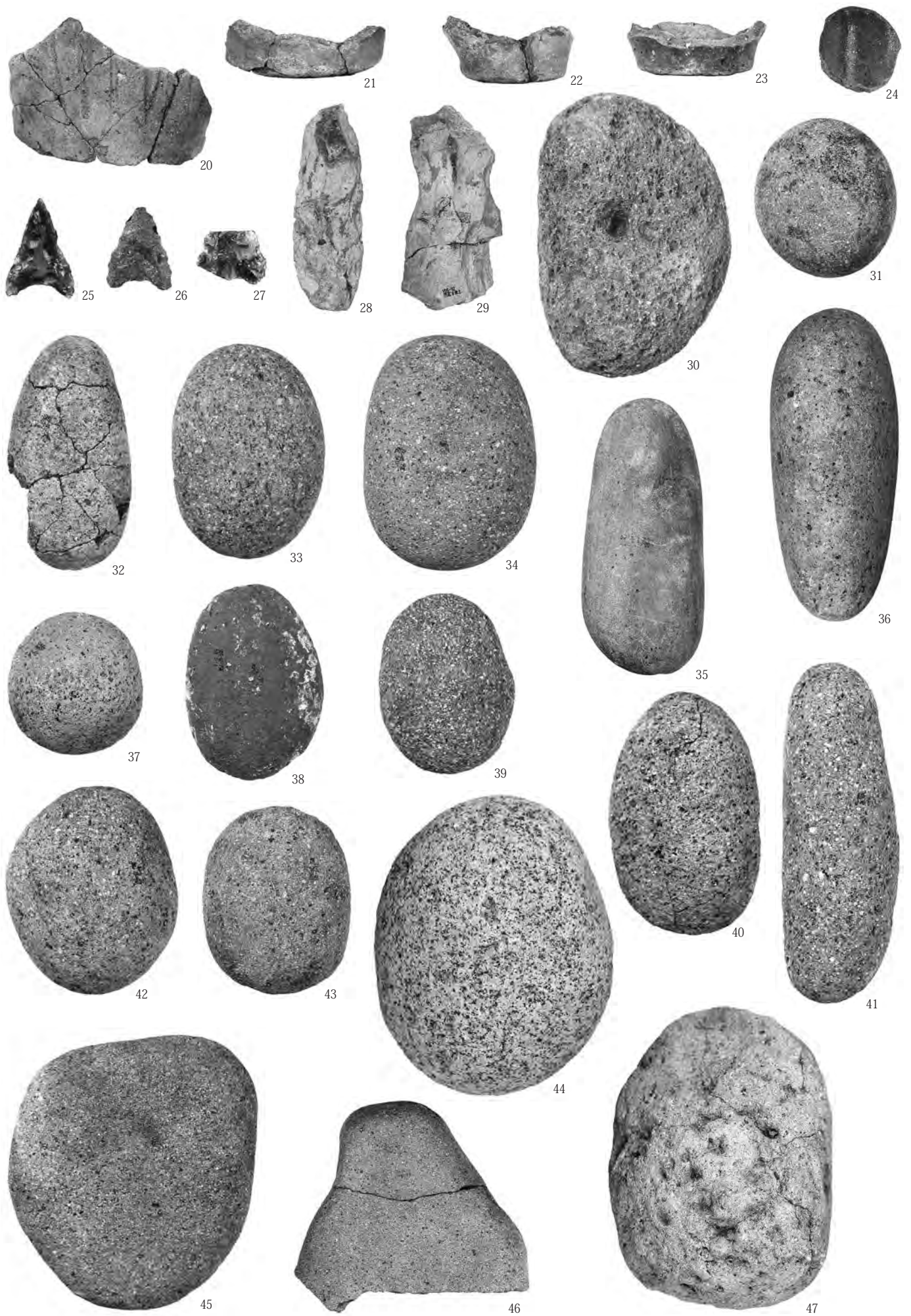
4号住居出土遺物(2)



5号住居出土遺物(1)

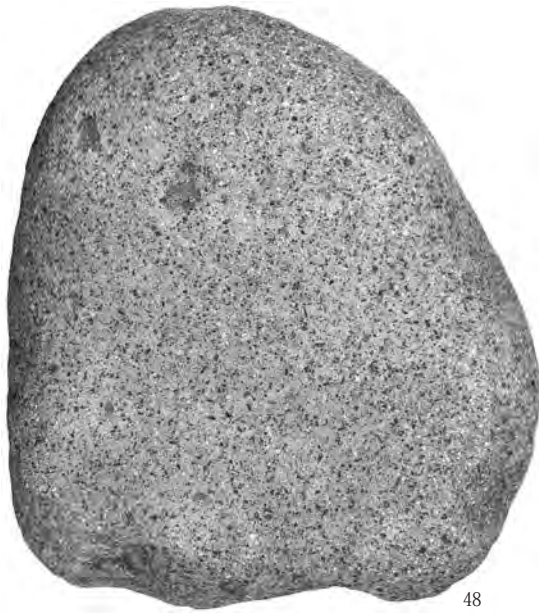


5号住居出土遺物(2)



縄文時代

5号住居出土遺物(3)



48



49



50



51

6号住居出土遺物(1)

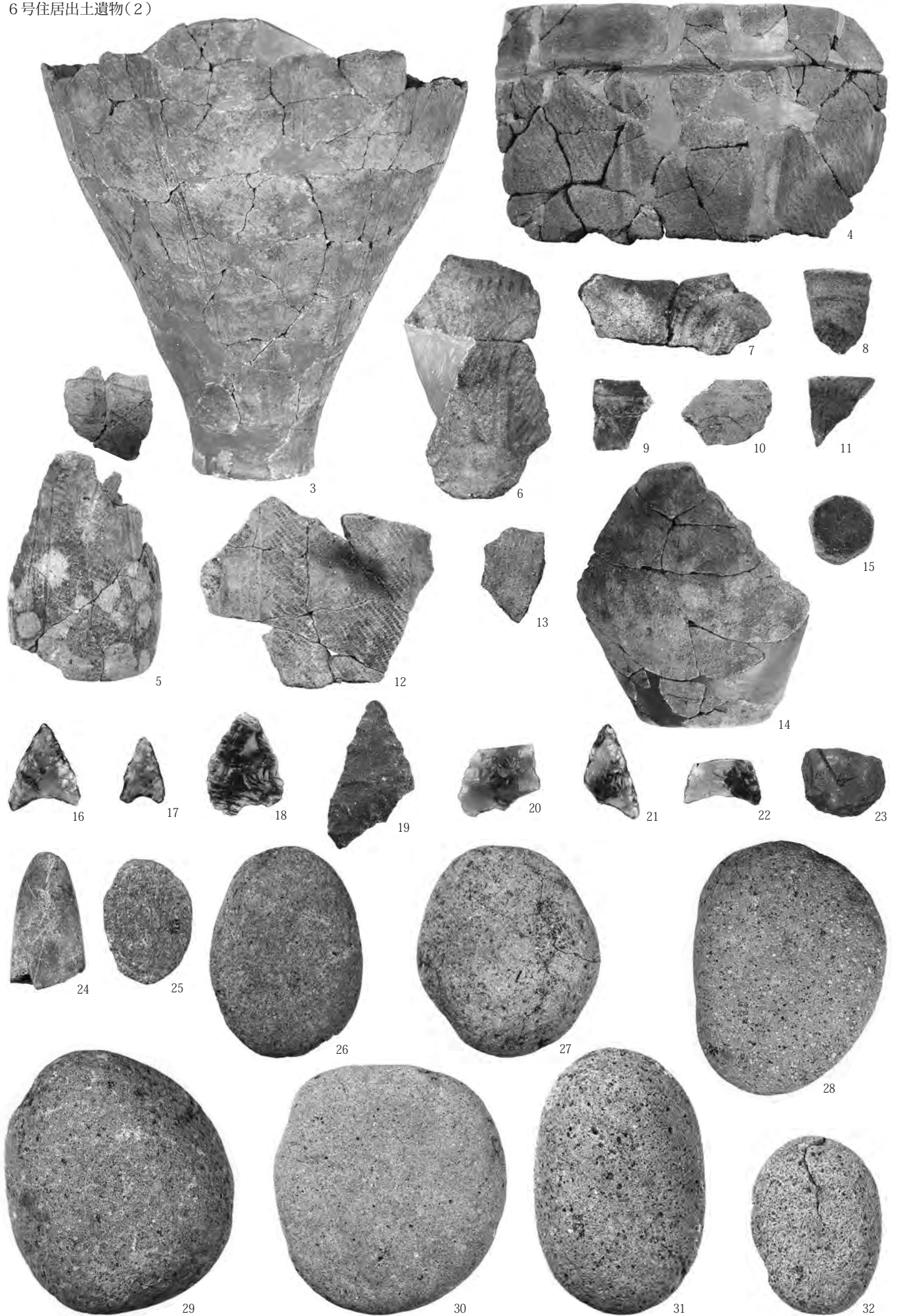


1



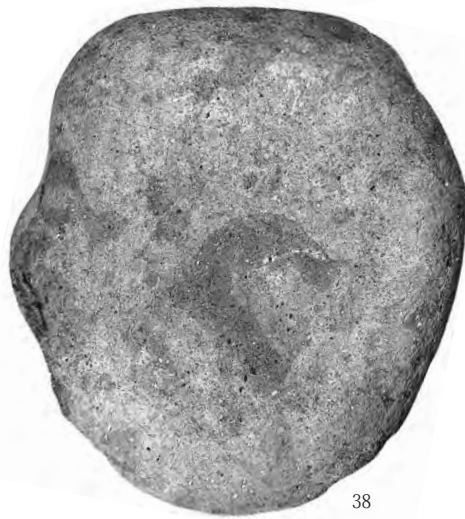
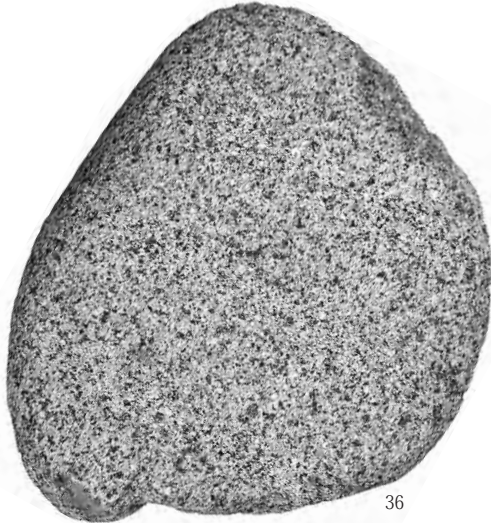
2

6号住居出土遺物(2)



縄文時代

6号住居出土遺物(3)



8号住居出土遺物(1)

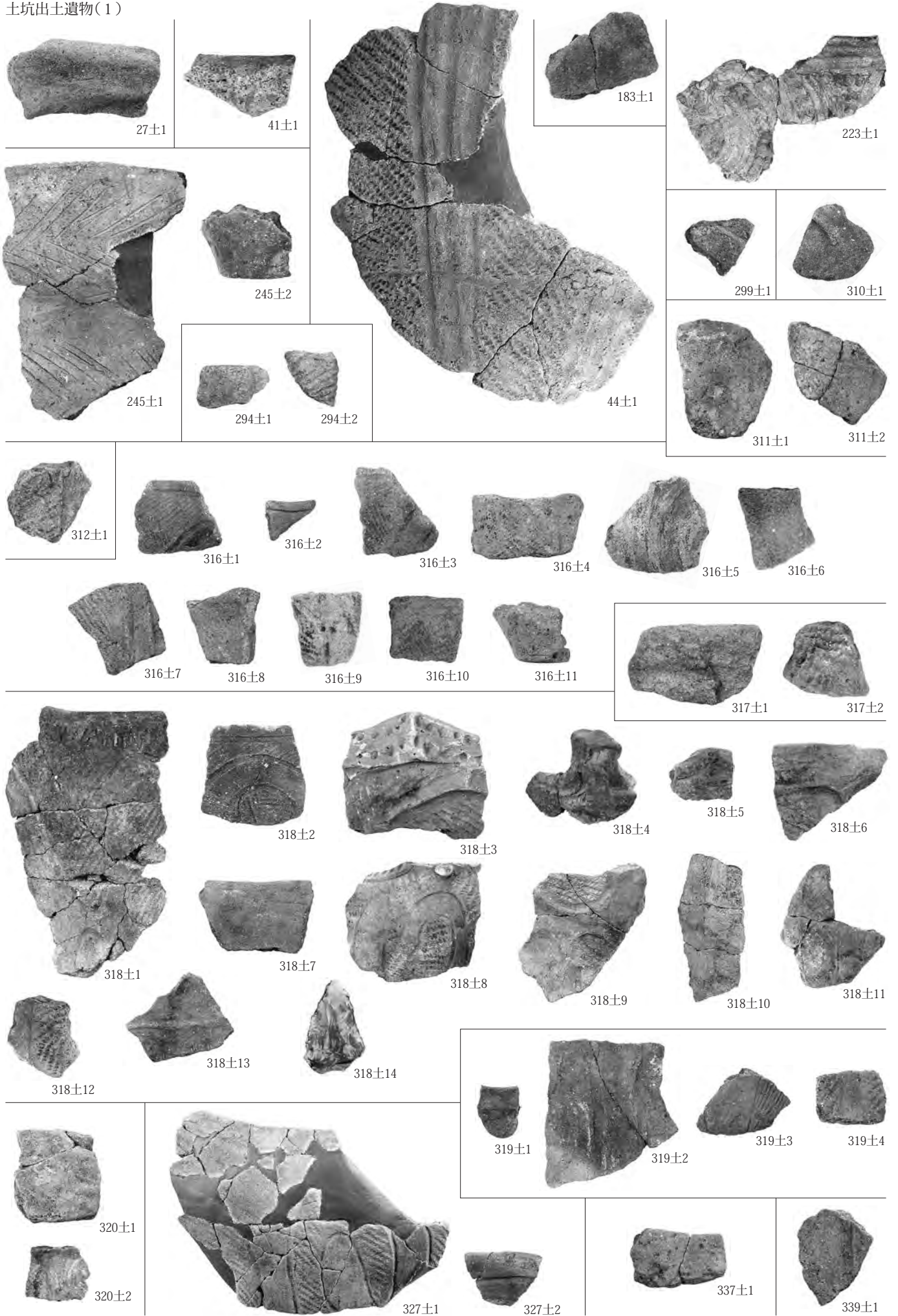


8号住居出土遺物(2)



縄文時代

土坑出土遺物(1)



土坑出土遺物(2)



343±1



343±2



343±3



343±4



343±5



344±1



344±2



344±3



344±4



344±5



344±6



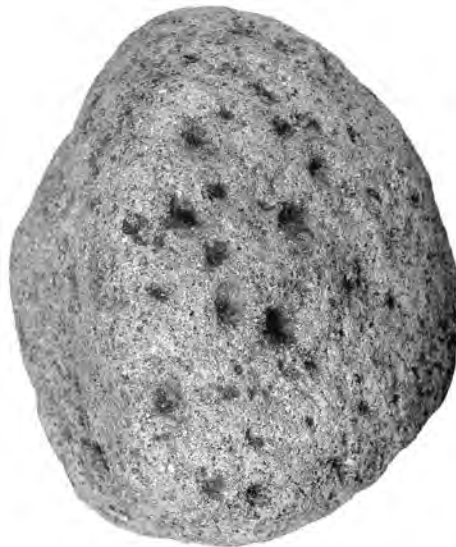
344±7



344±9



344±8



344±10



347±1



347±2



347±3



347±4



347±5



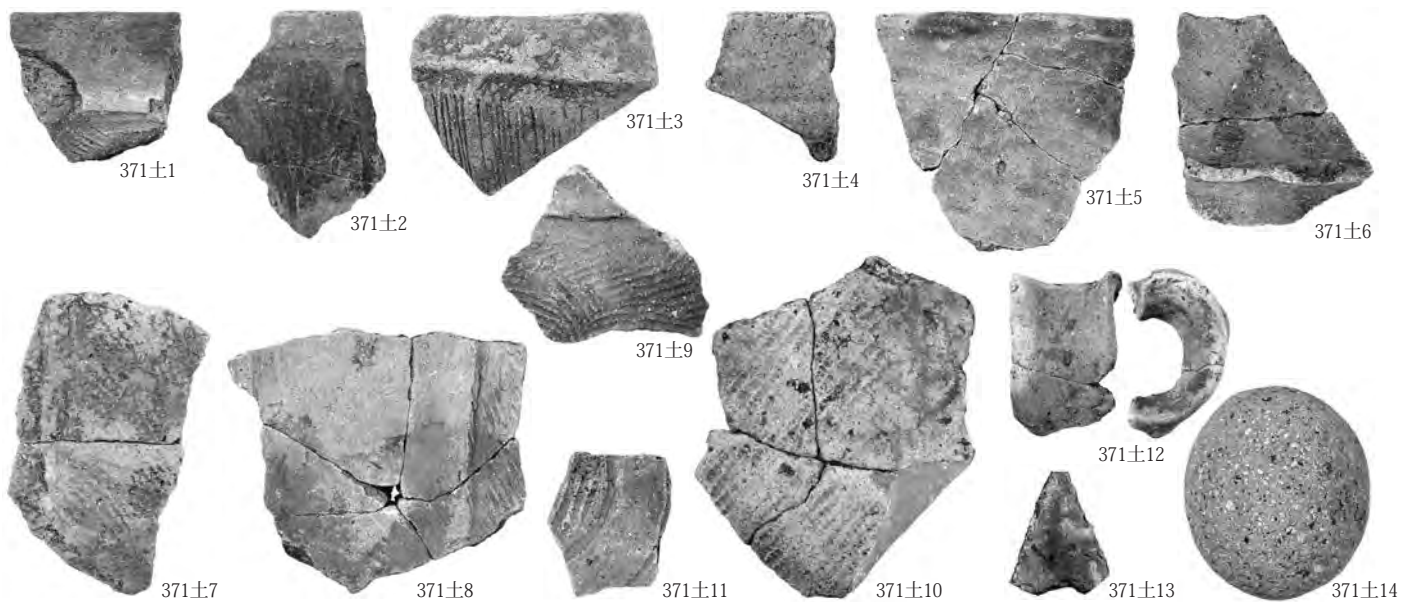
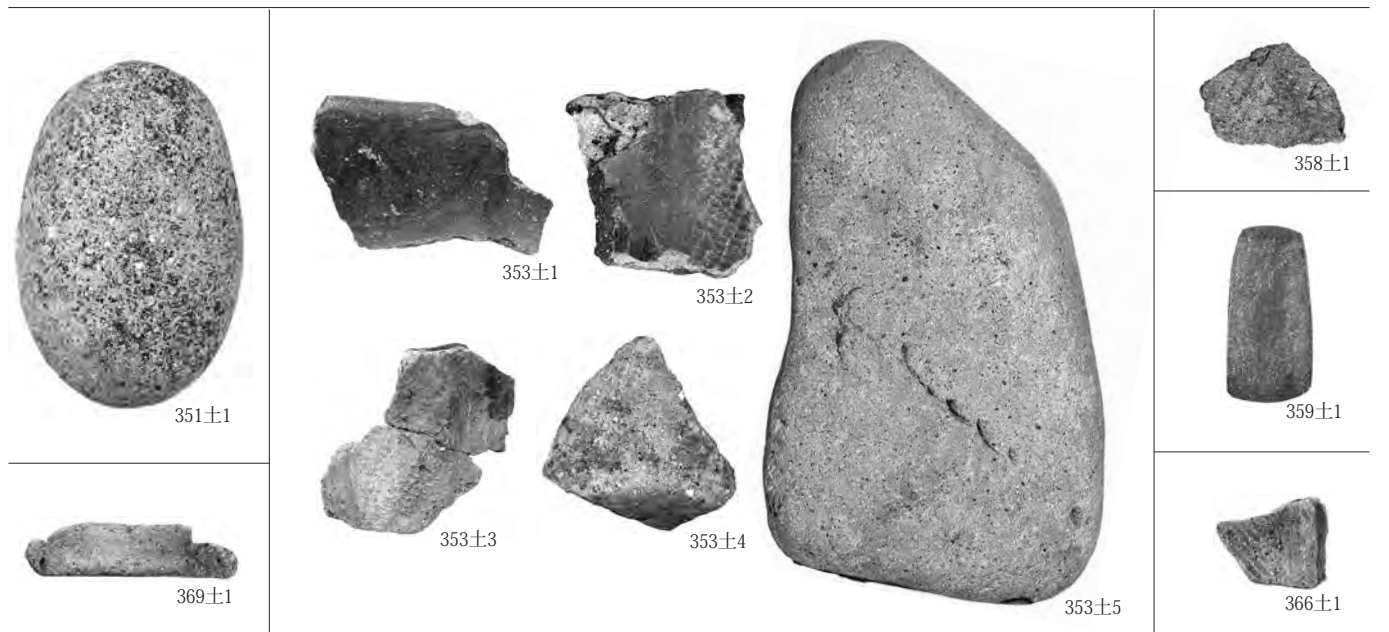
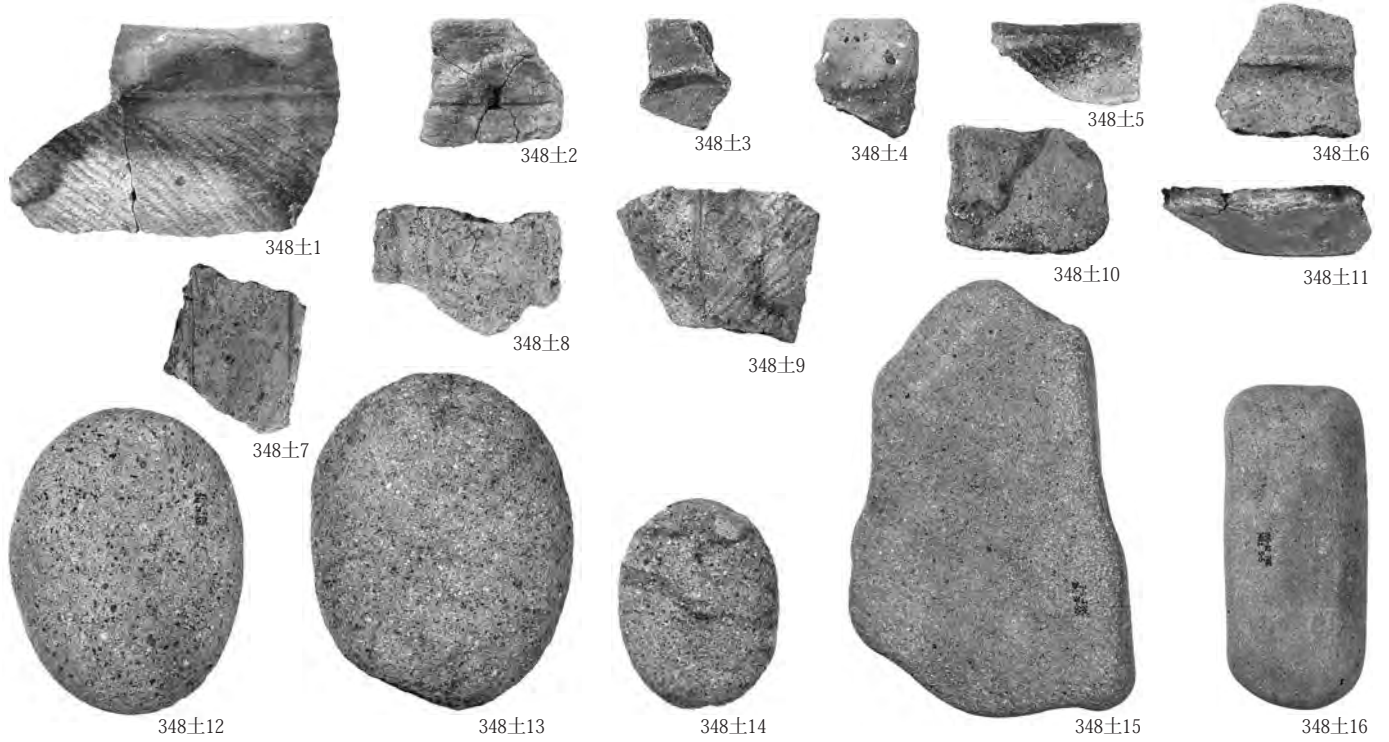
347±6



347±7

縄文時代

土坑出土遺物(3)



埋葬出土遺物



1埋葬1



2埋葬1



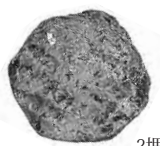
4埋葬1



5埋葬1



2埋葬2



2埋葬3



3埋葬1



6埋葬1



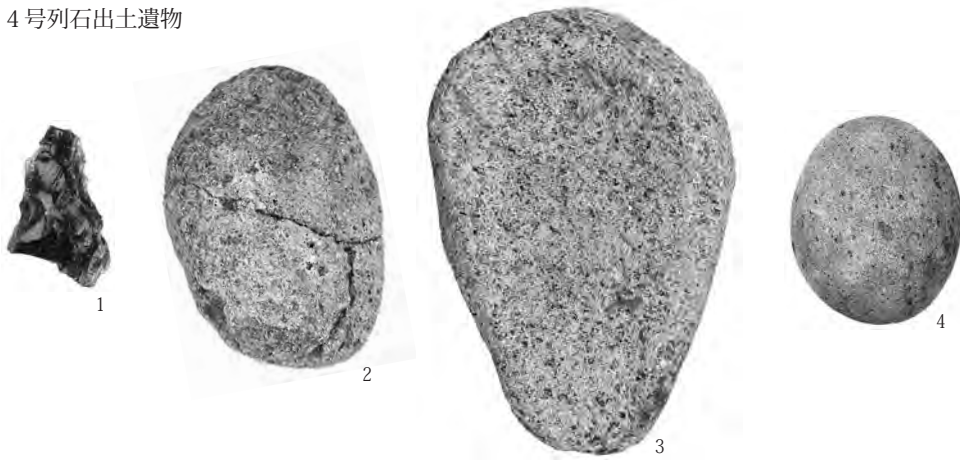
7埋葬1



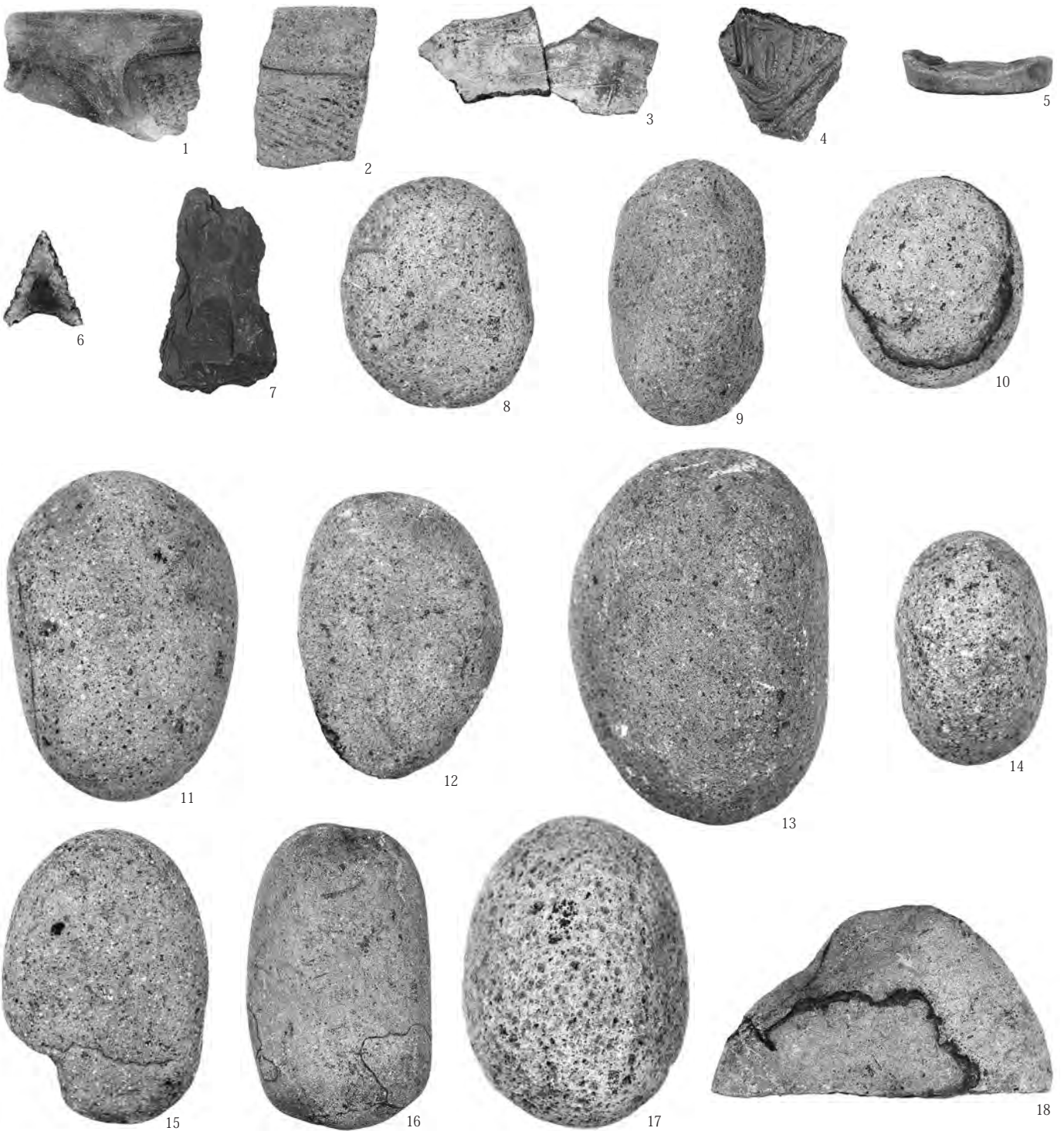
3埋葬2

縄文時代

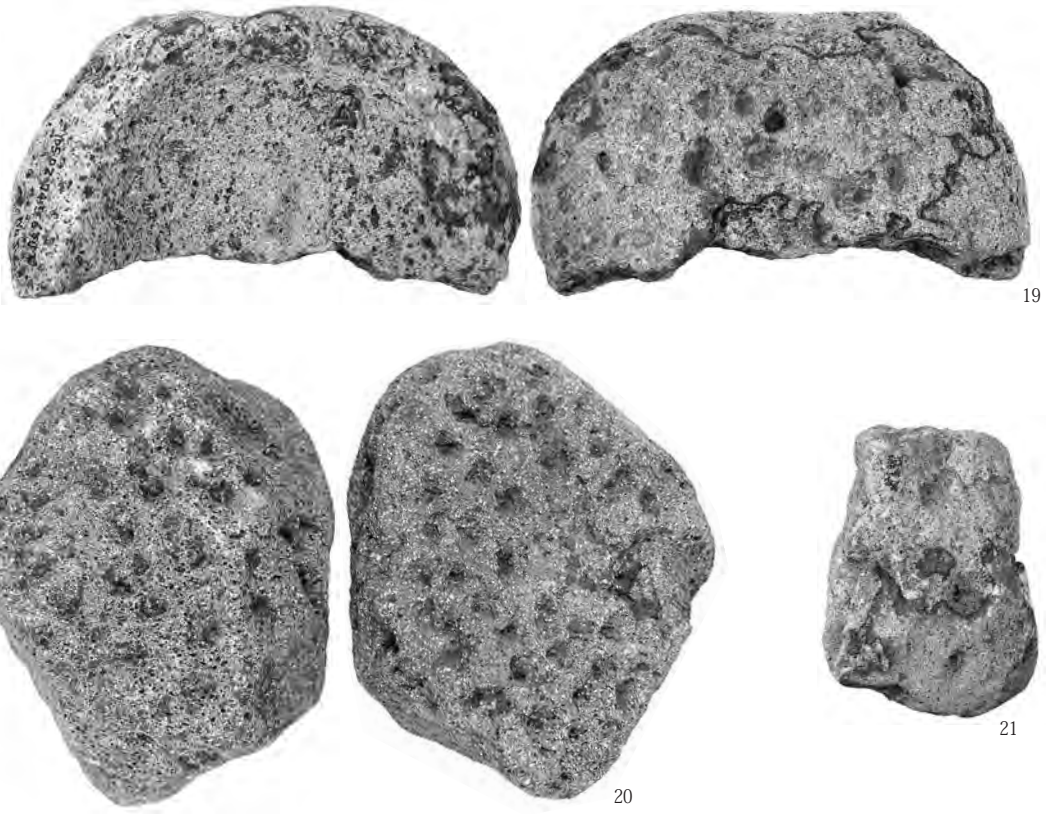
4号列石出土遺物



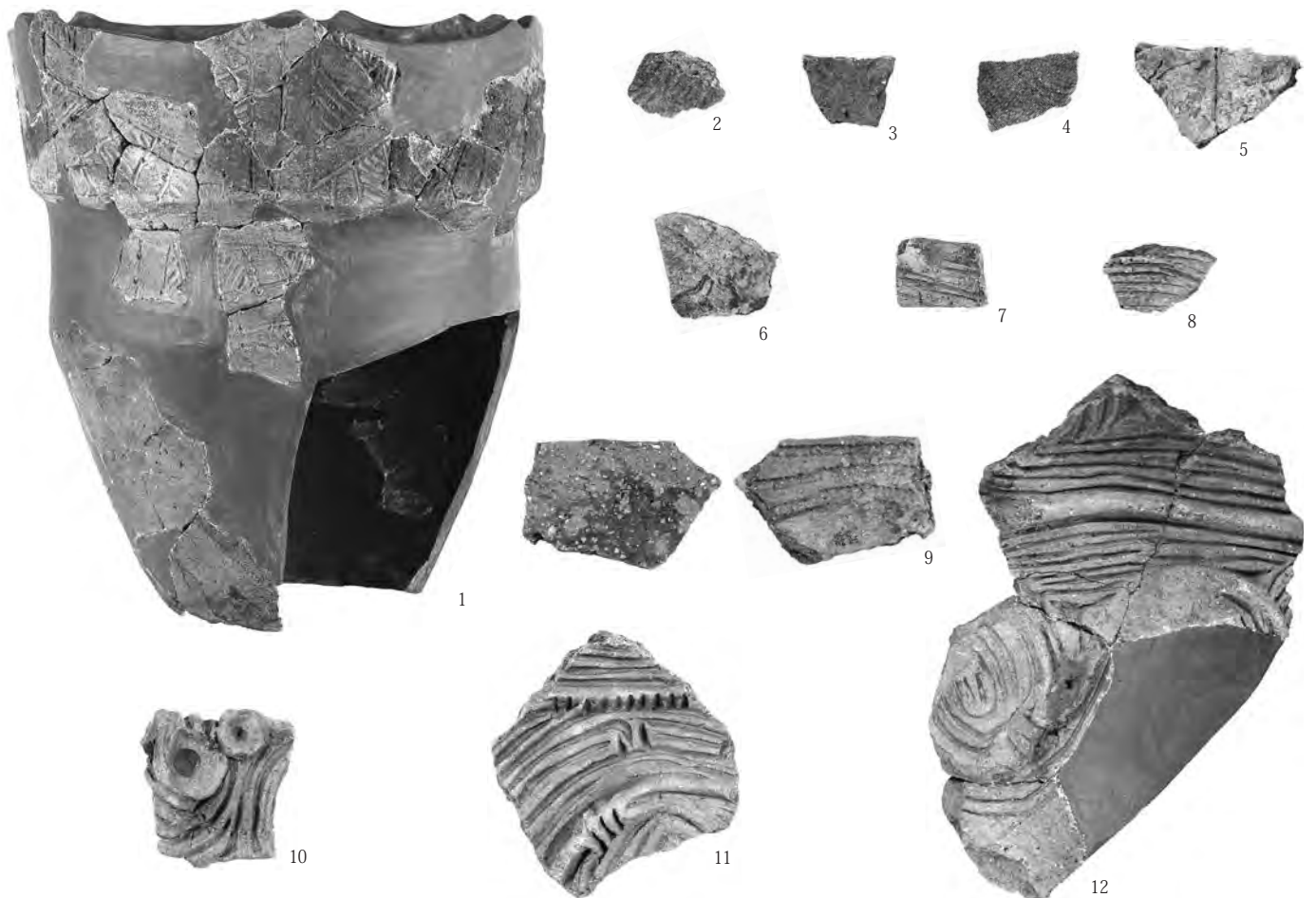
6号列石出土遺物(1)



6号列石出土遺物(2)



遺構外出土遺物(1)

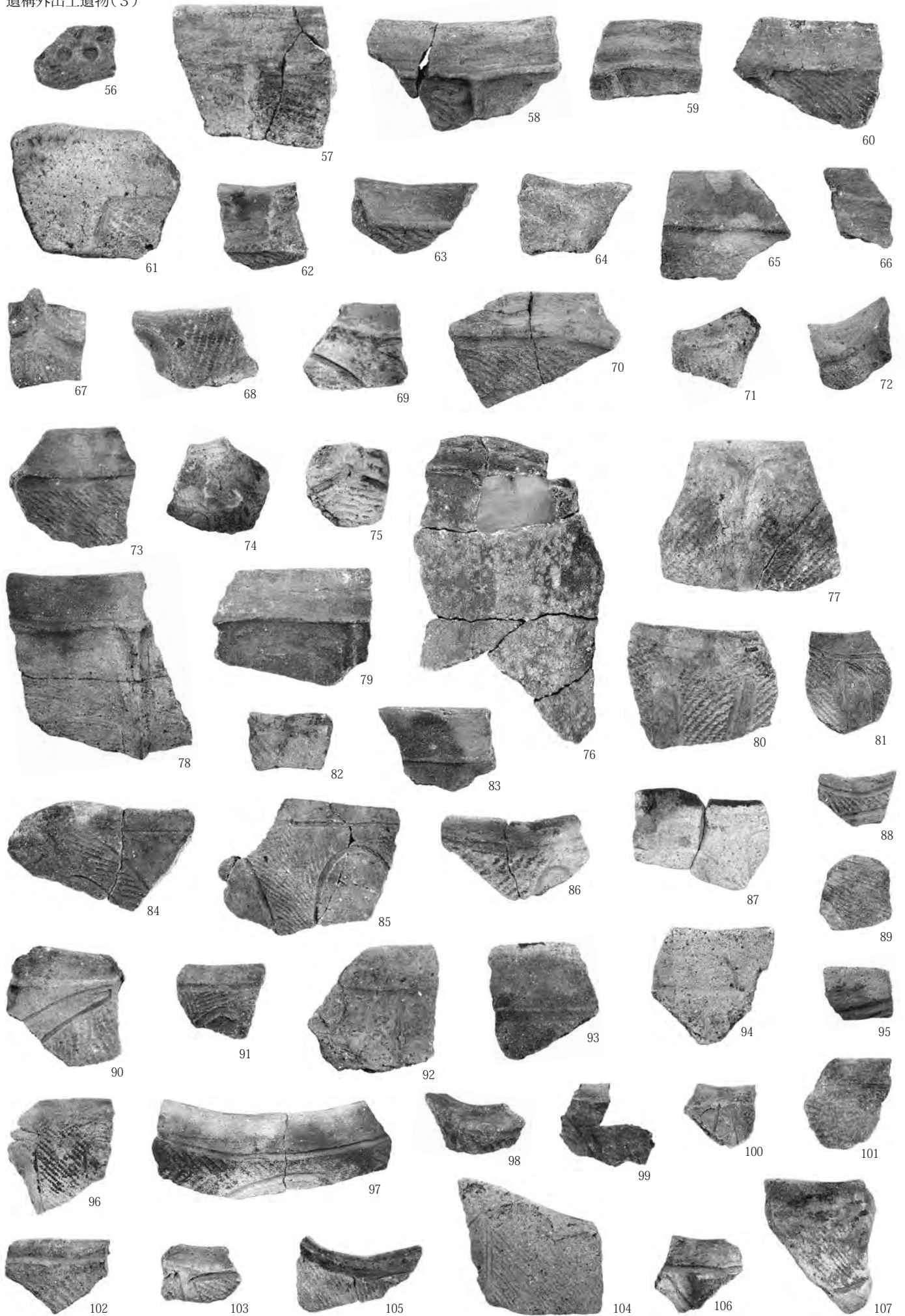


縄文時代

遺構外出土遺物(2)

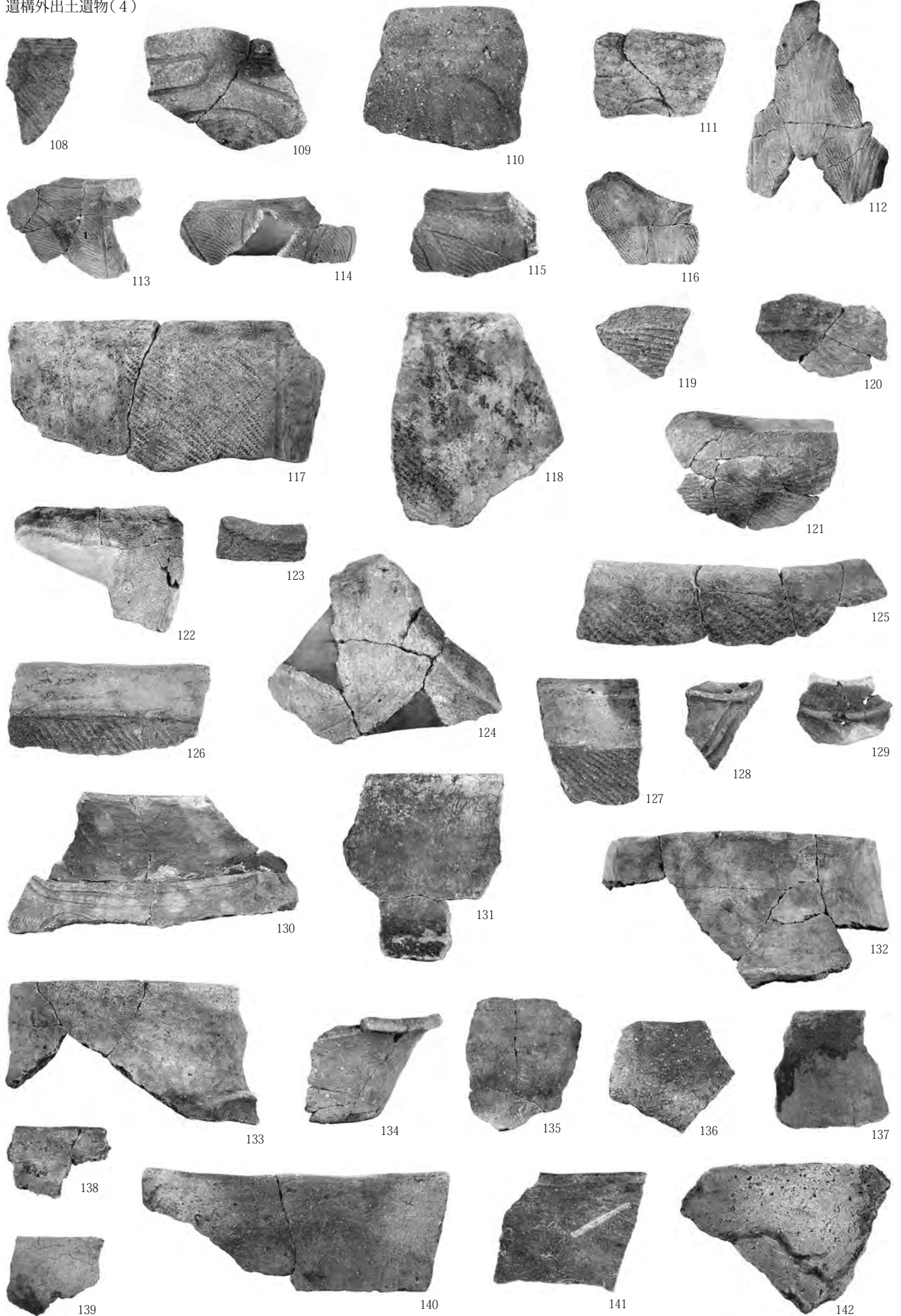


遺構外出土遺物(3)

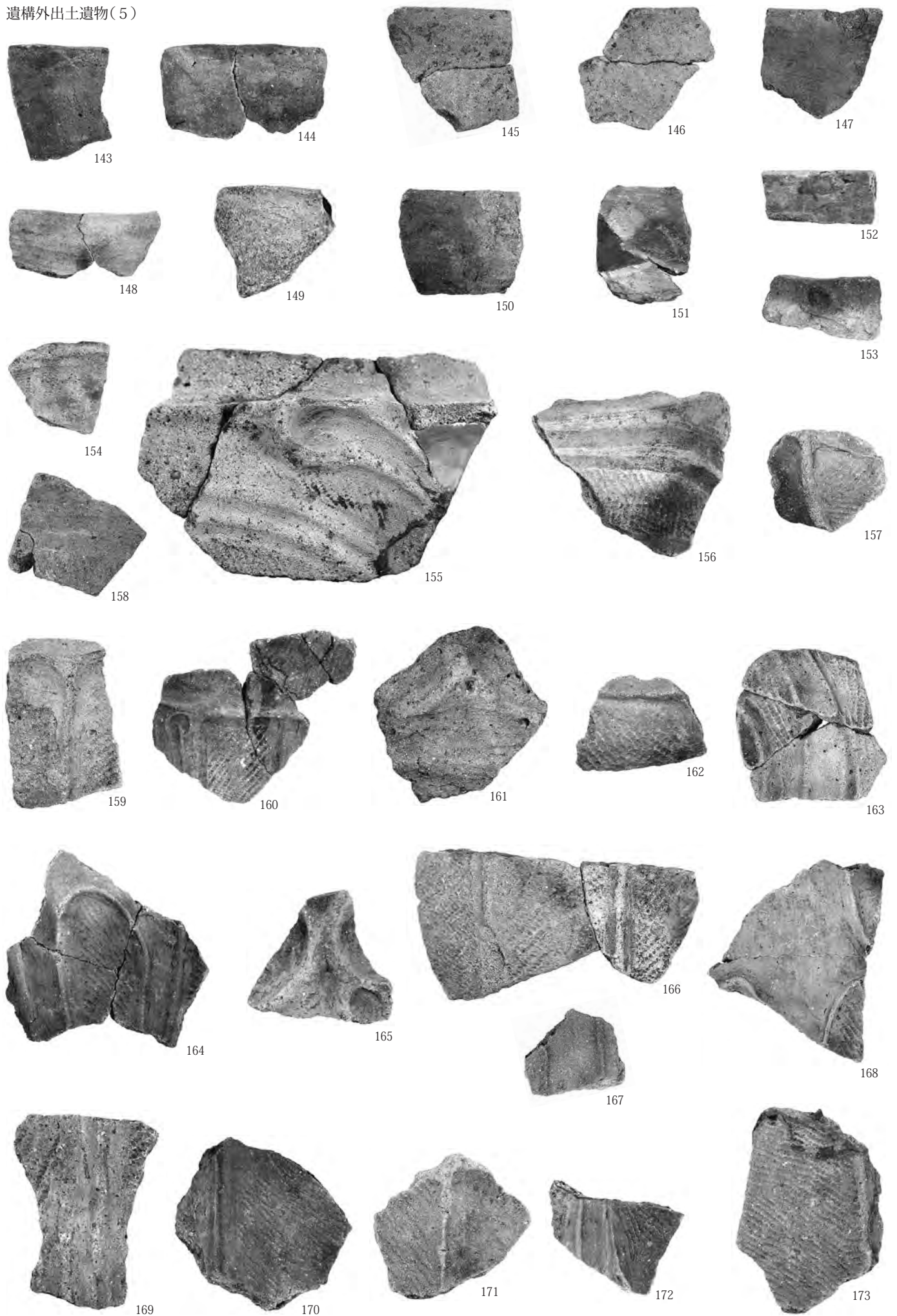


縄文時代

遺構外出土遺物(4)

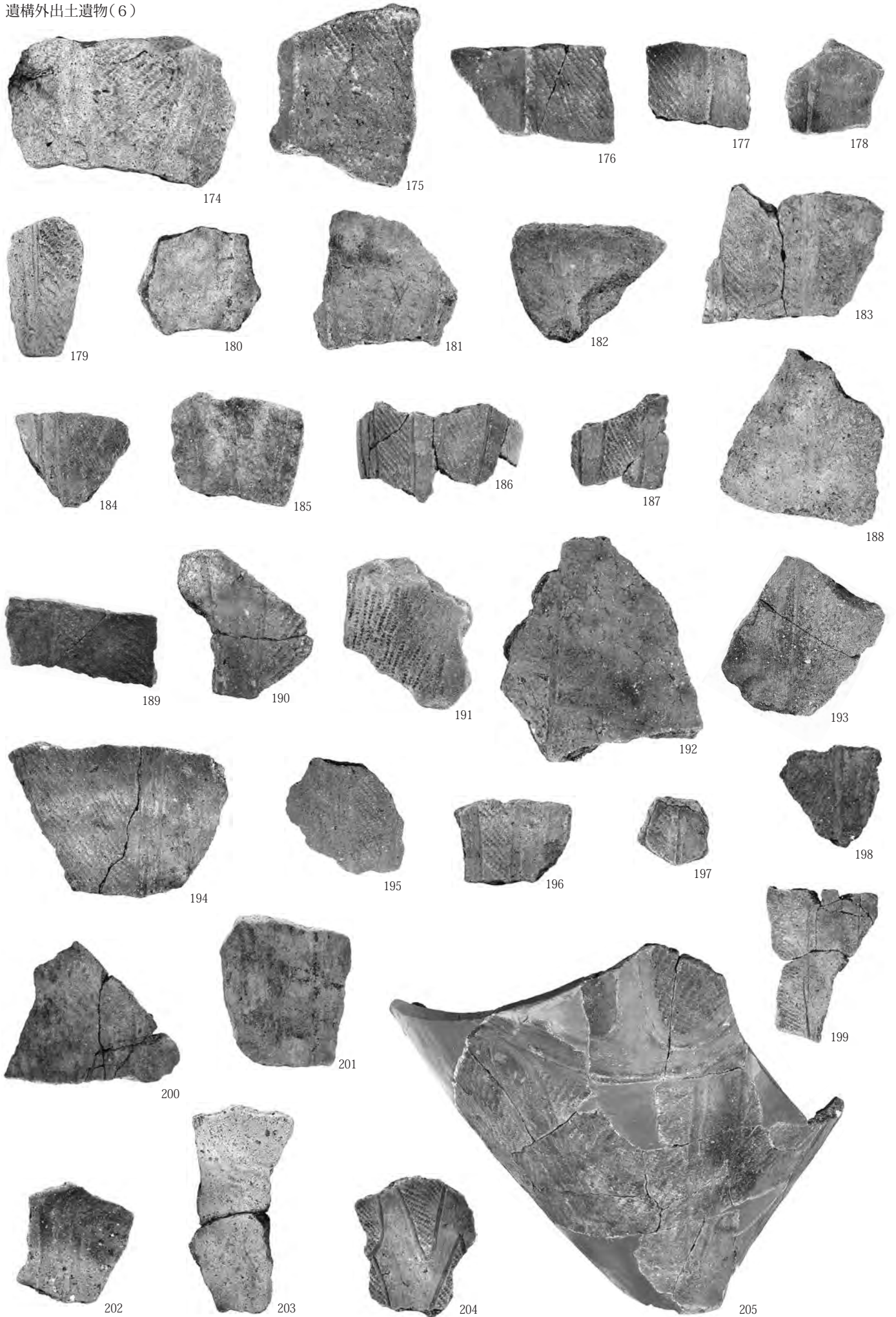


遺構外出土遺物(5)

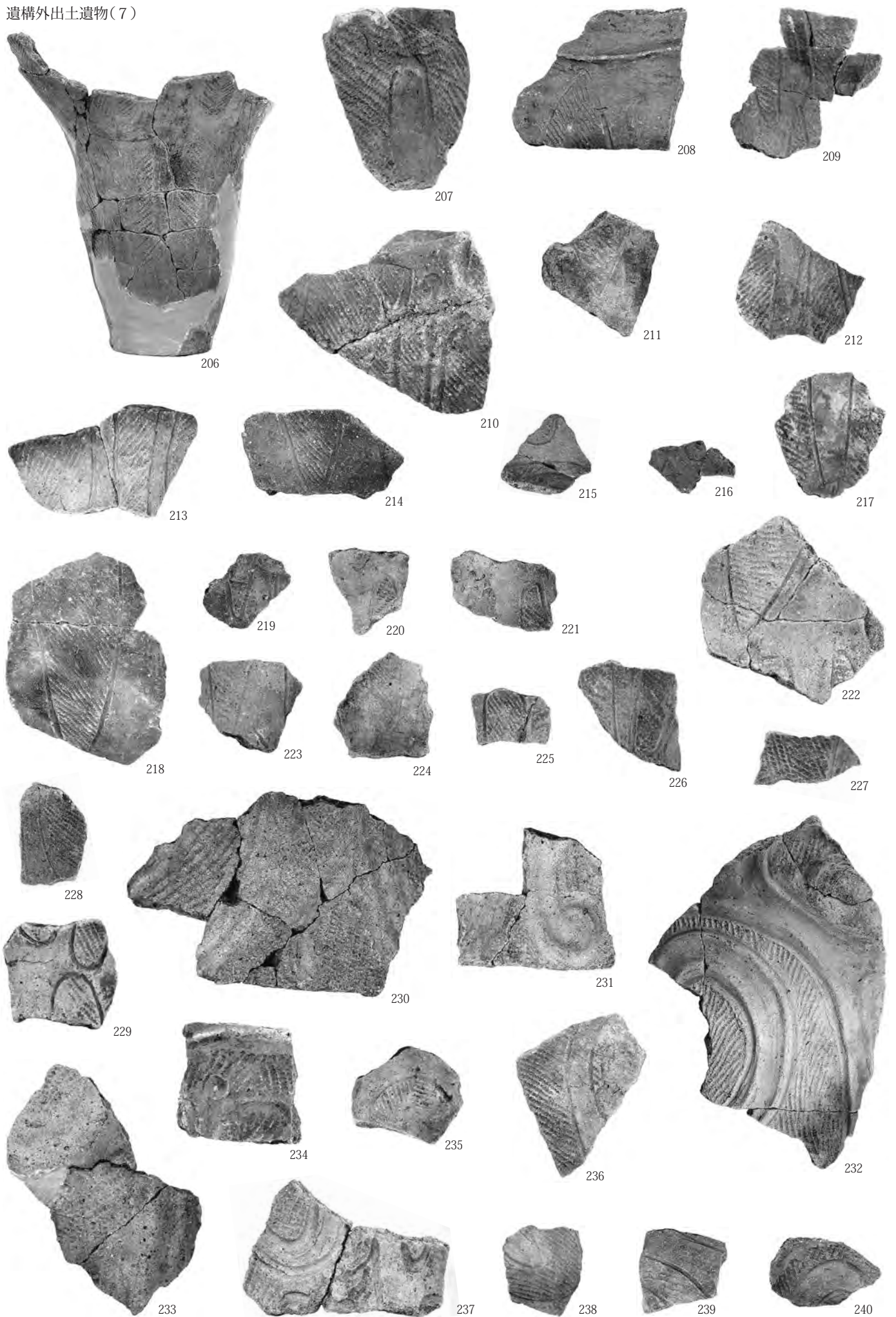


縄文時代

遺構外出土遺物(6)

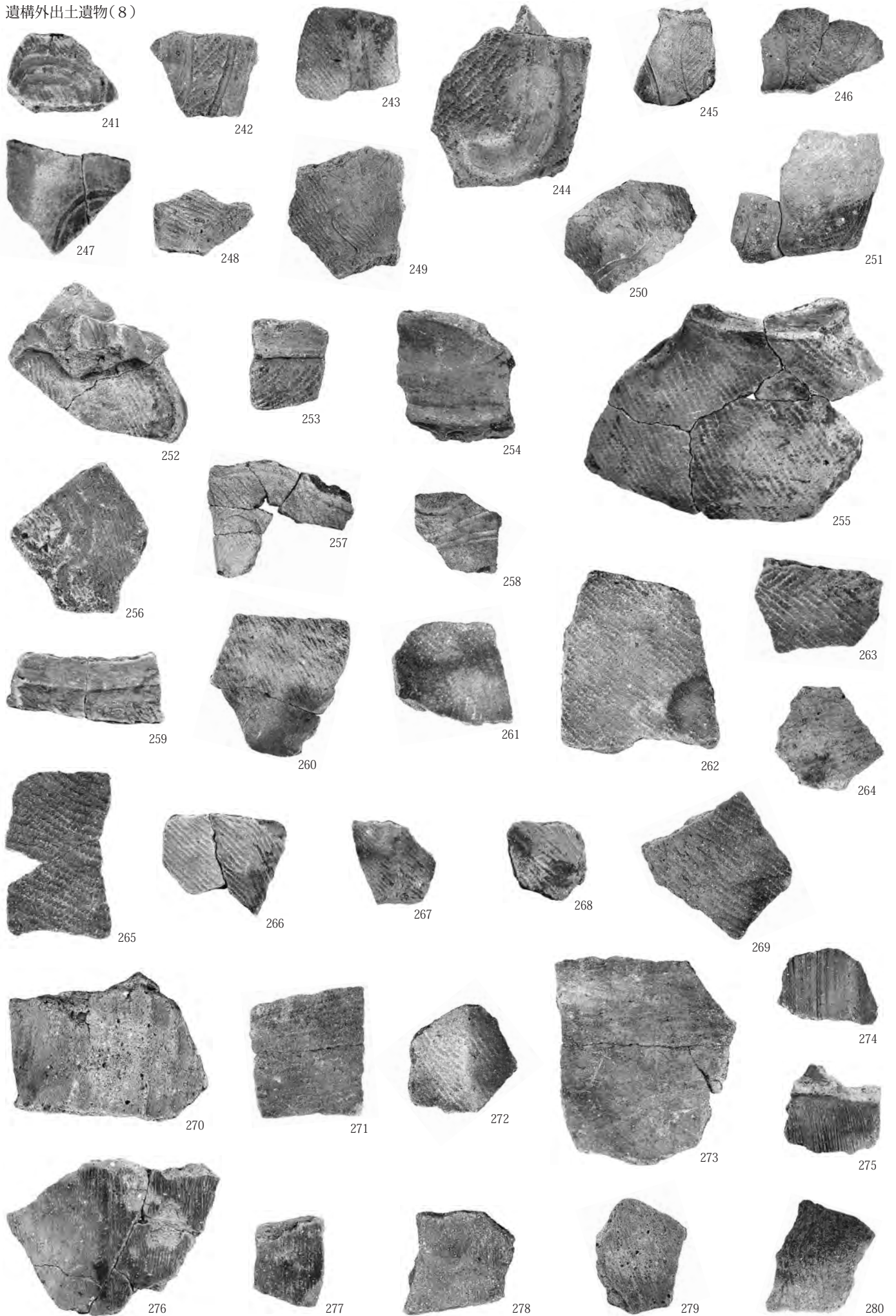


遺構外出土遺物(7)

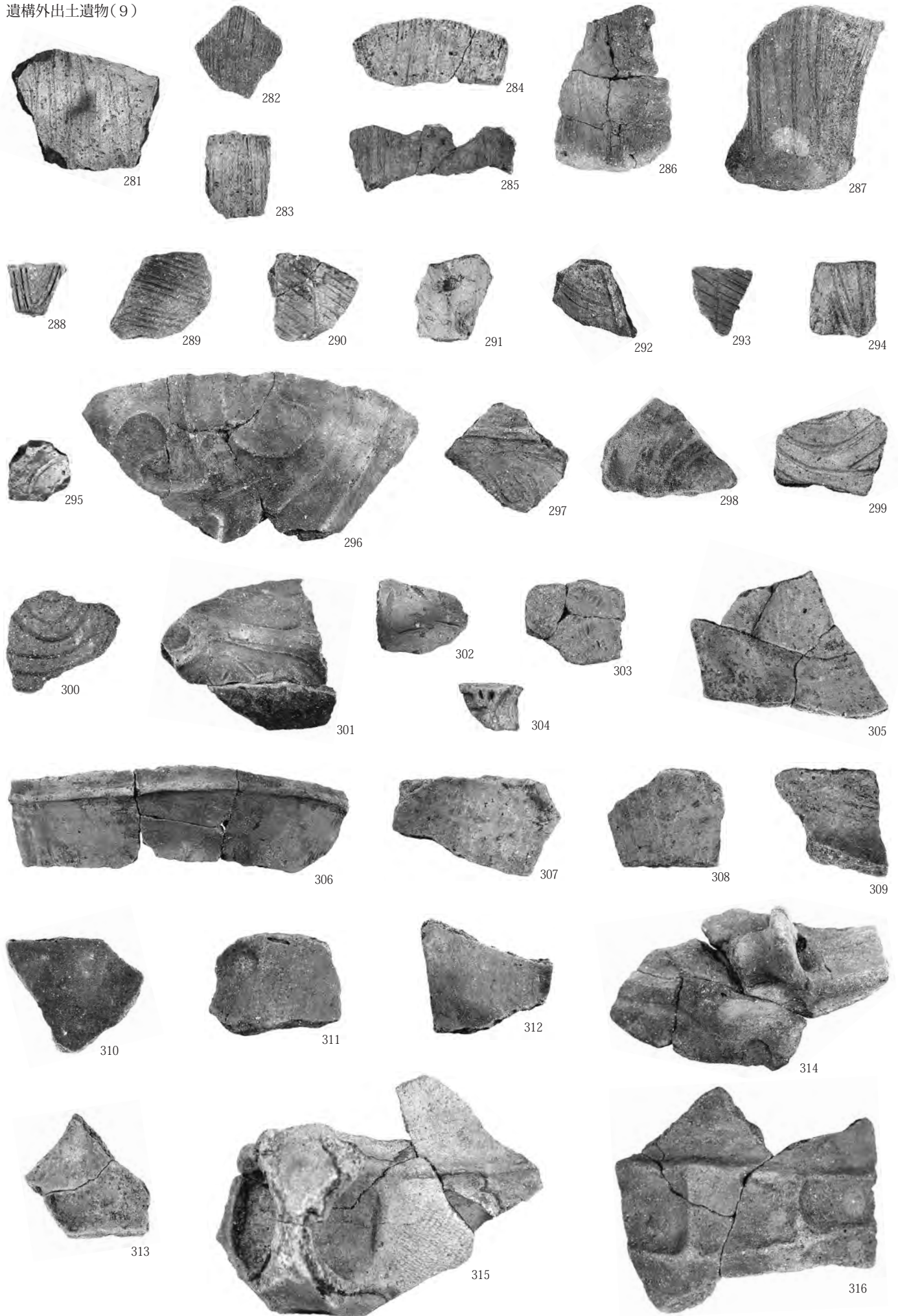


縄文時代

遺構外出土遺物(8)



遺構外出土遺物(9)

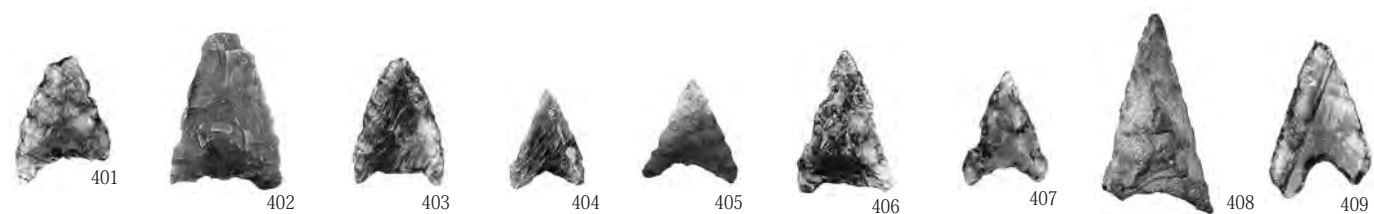
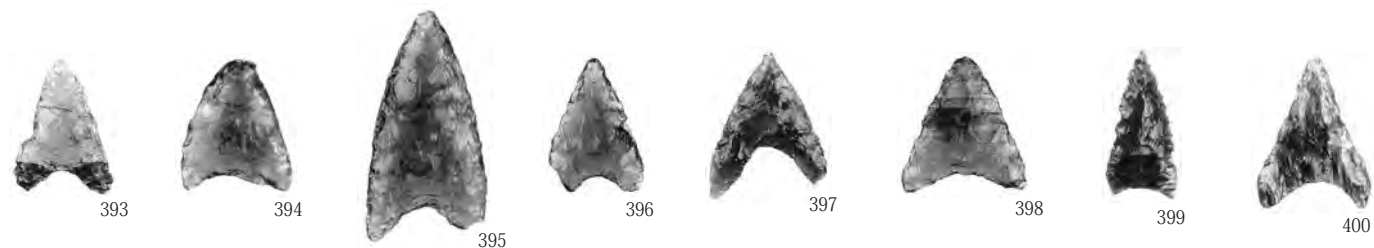
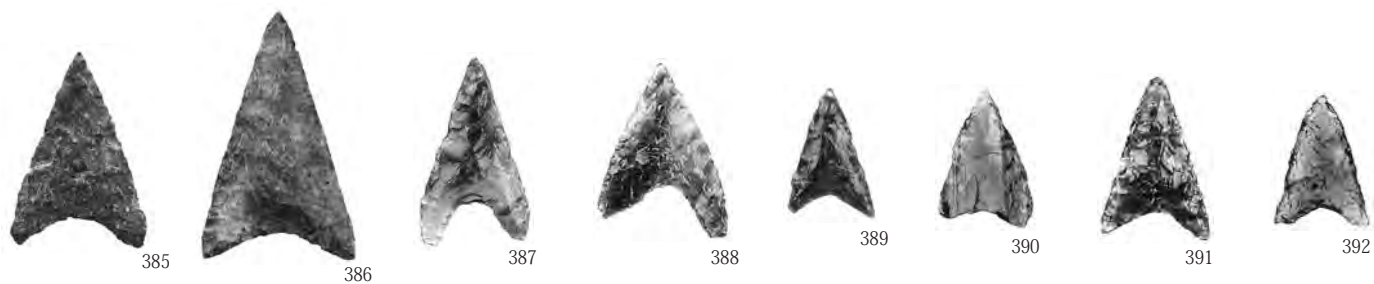
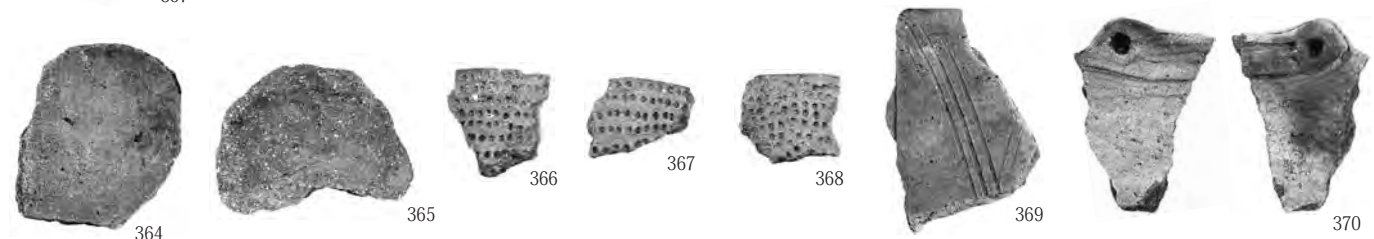


縄文時代

遺構外出土遺物(10)

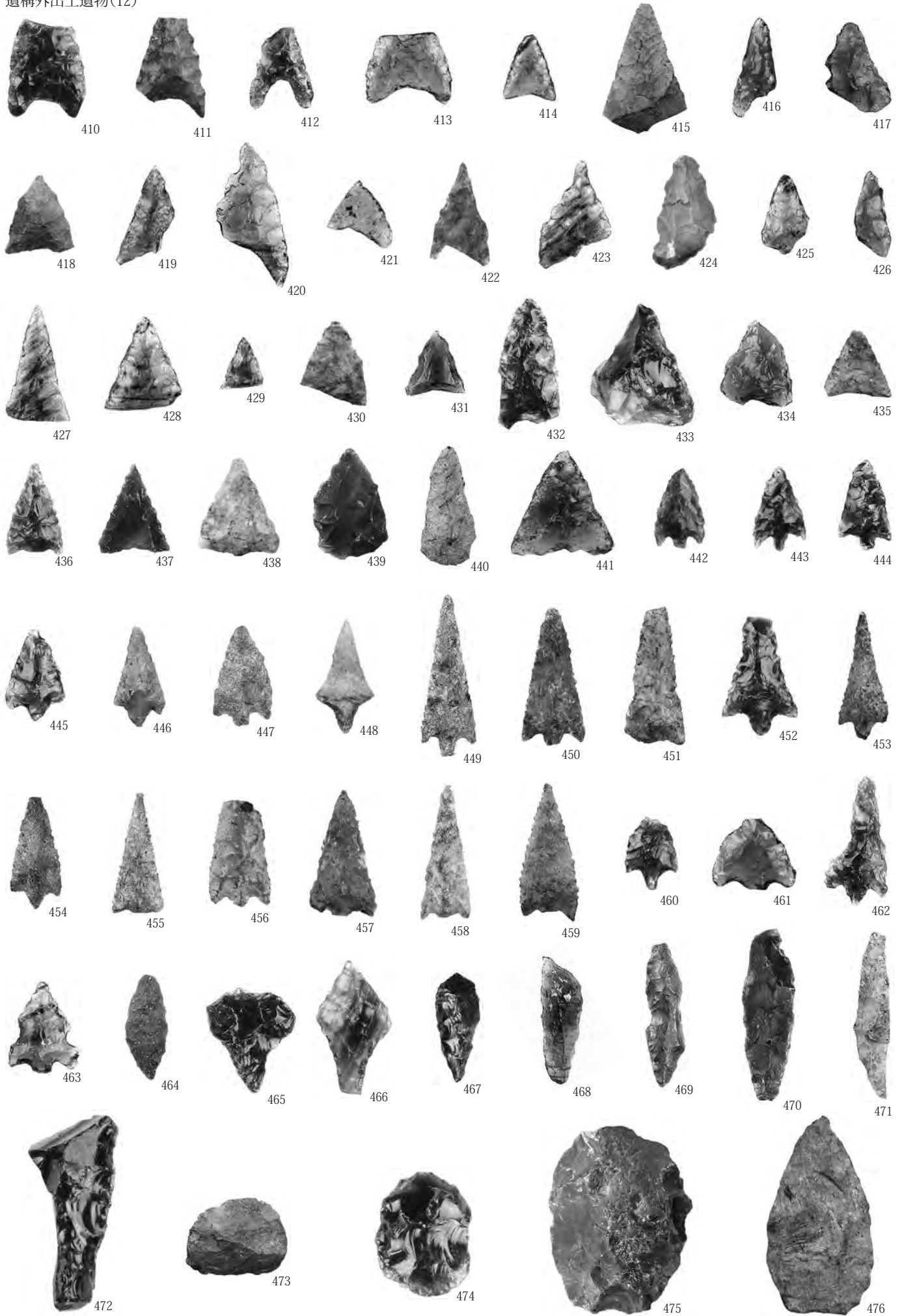


遺構外出土遺物(11)

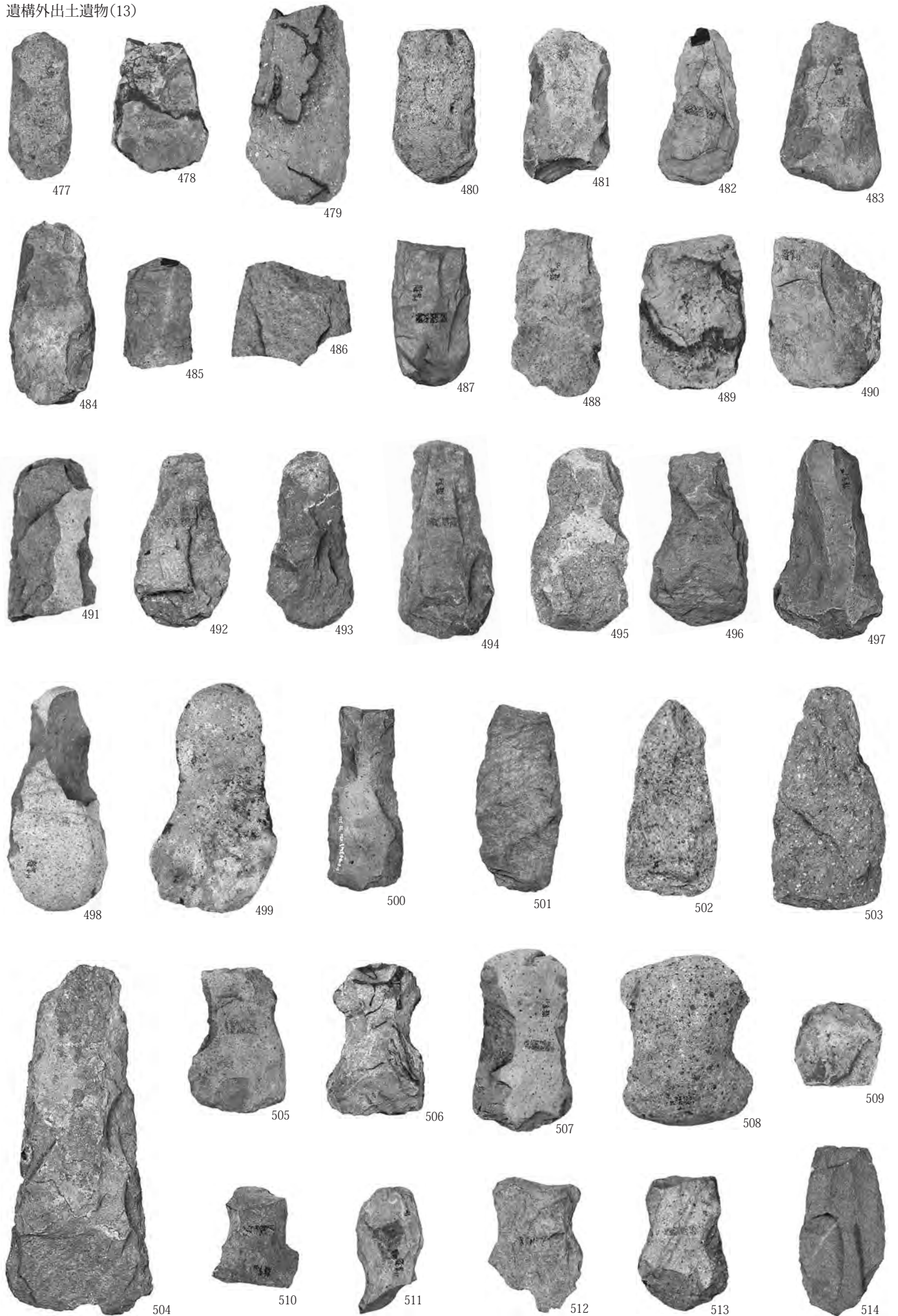


縄文時代

遺構外出土遺物(12)



遺構外出土遺物(13)



縄文時代

遺構外出土遺物(14)



515



516



517



518



519



520



521



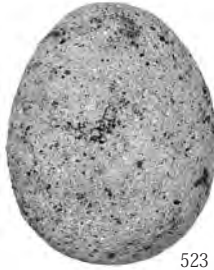
522



523



524



525



526



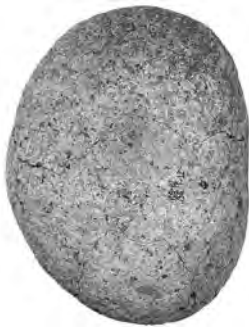
527



528



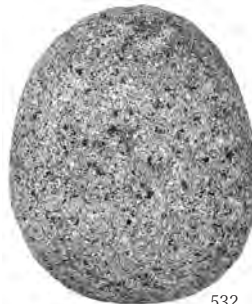
529



530



531



532



533



534



535



536

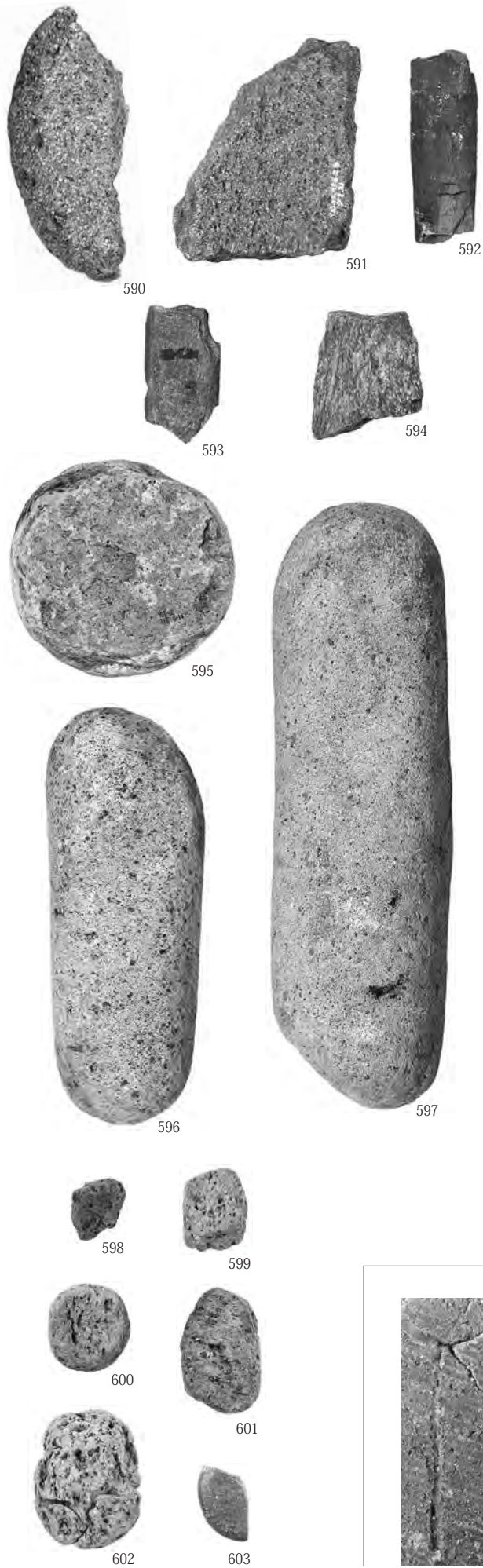
遺構外出土遺物(15)



遺構外出土遺物(16)



遺構外出土遺物(17)



1号再葬墓出土遺物(1)

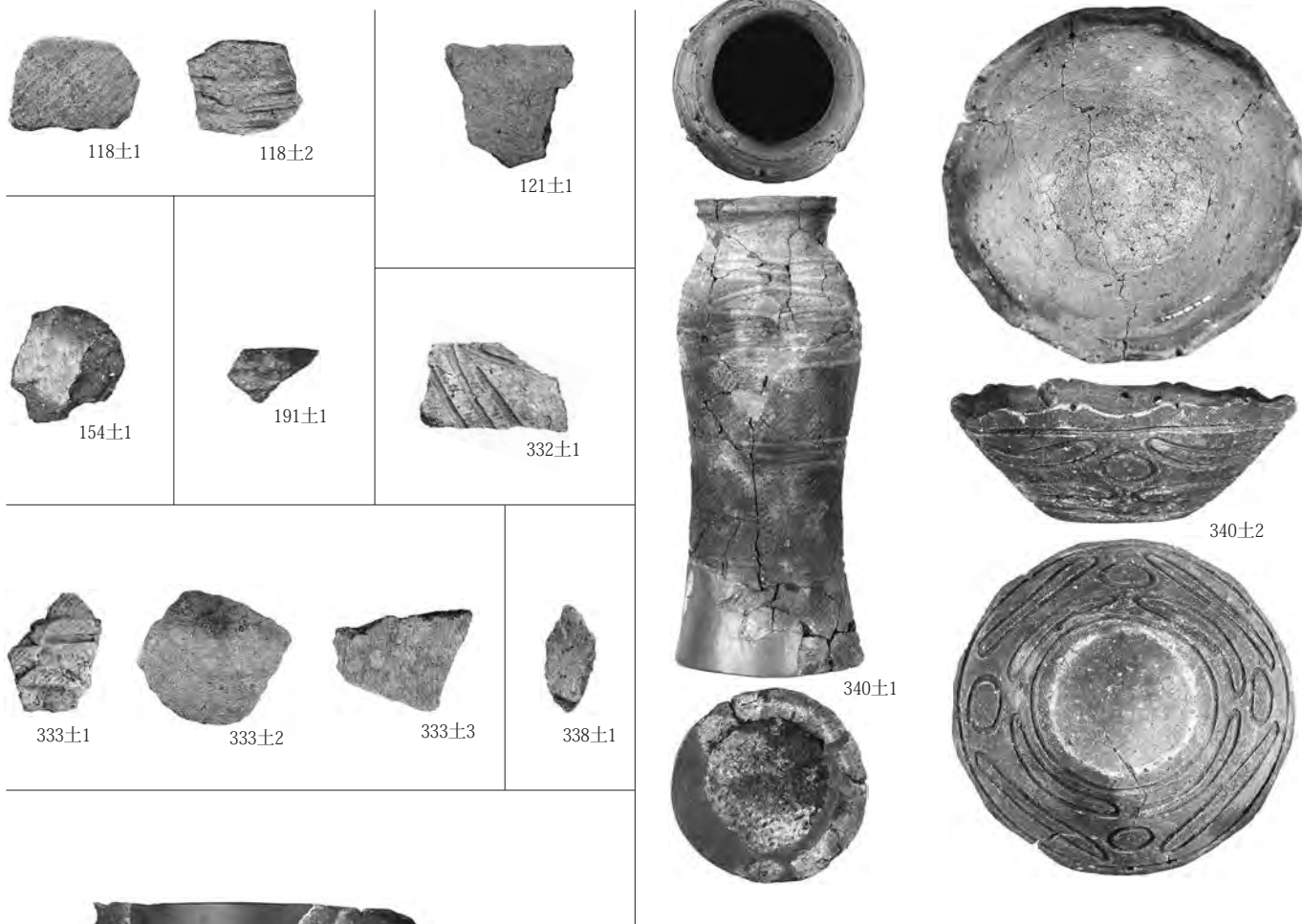


弥生時代

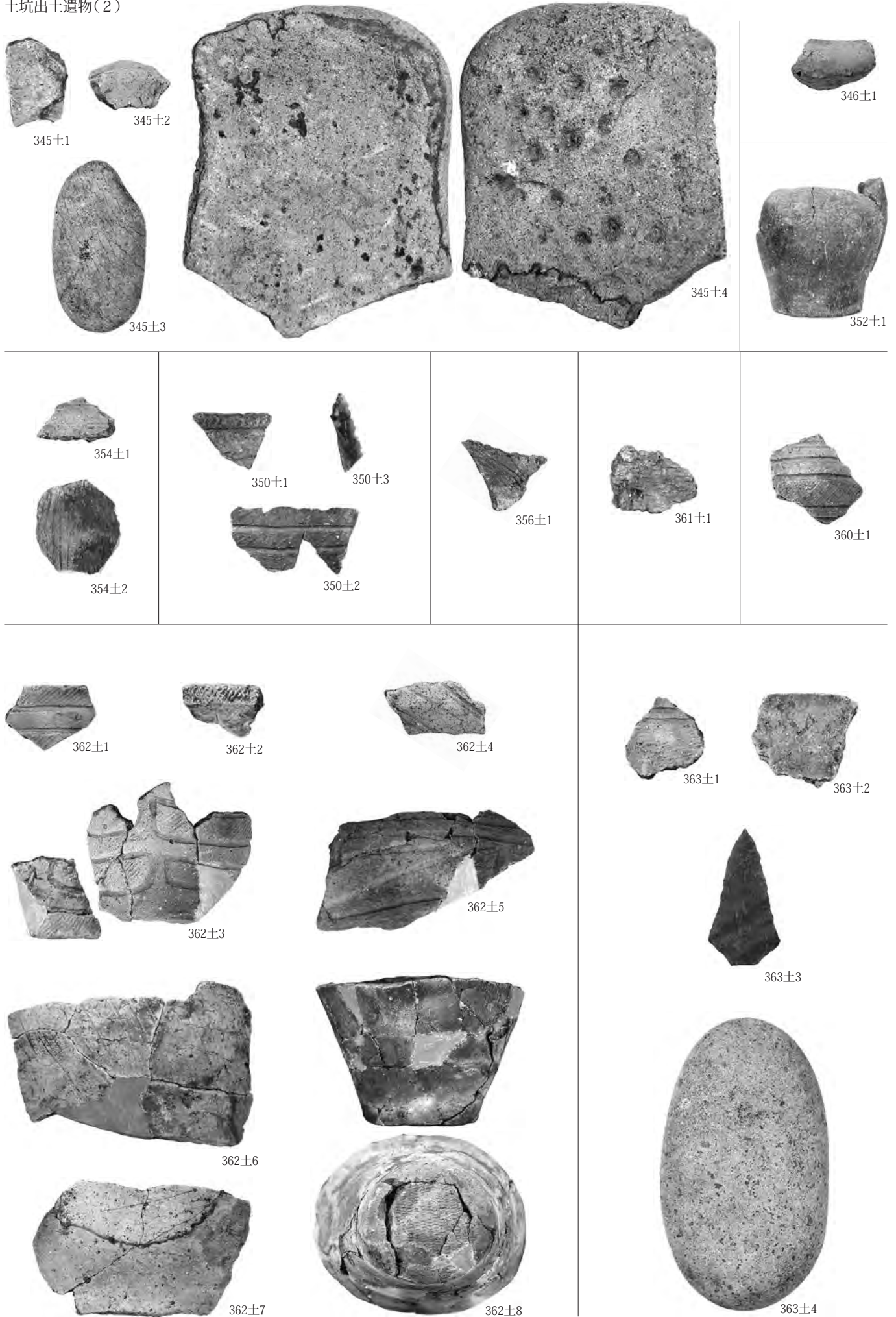
1号再葬墓出土遺物(2)



土坑出土遺物(1)

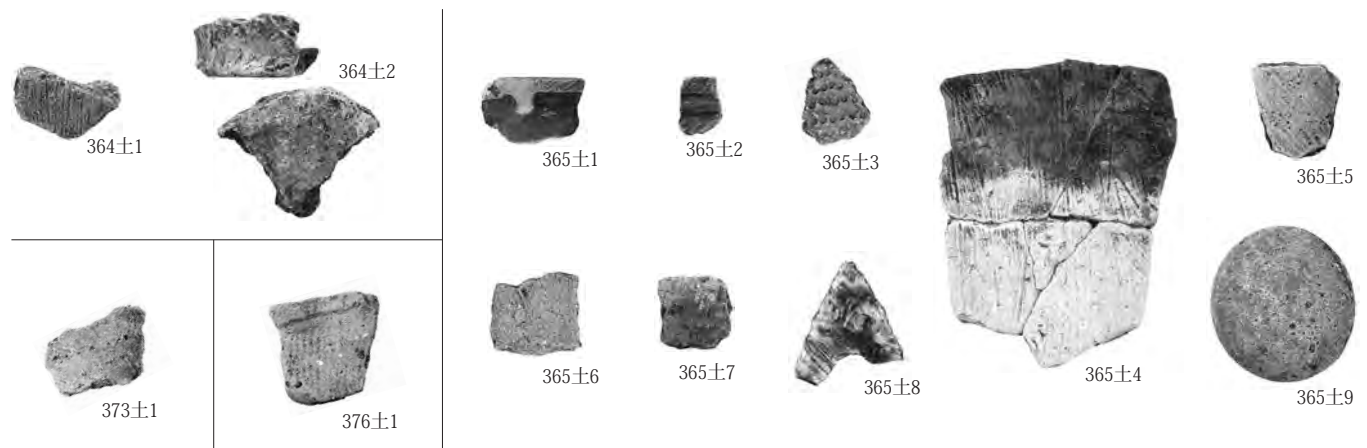


土坑出土遺物(2)

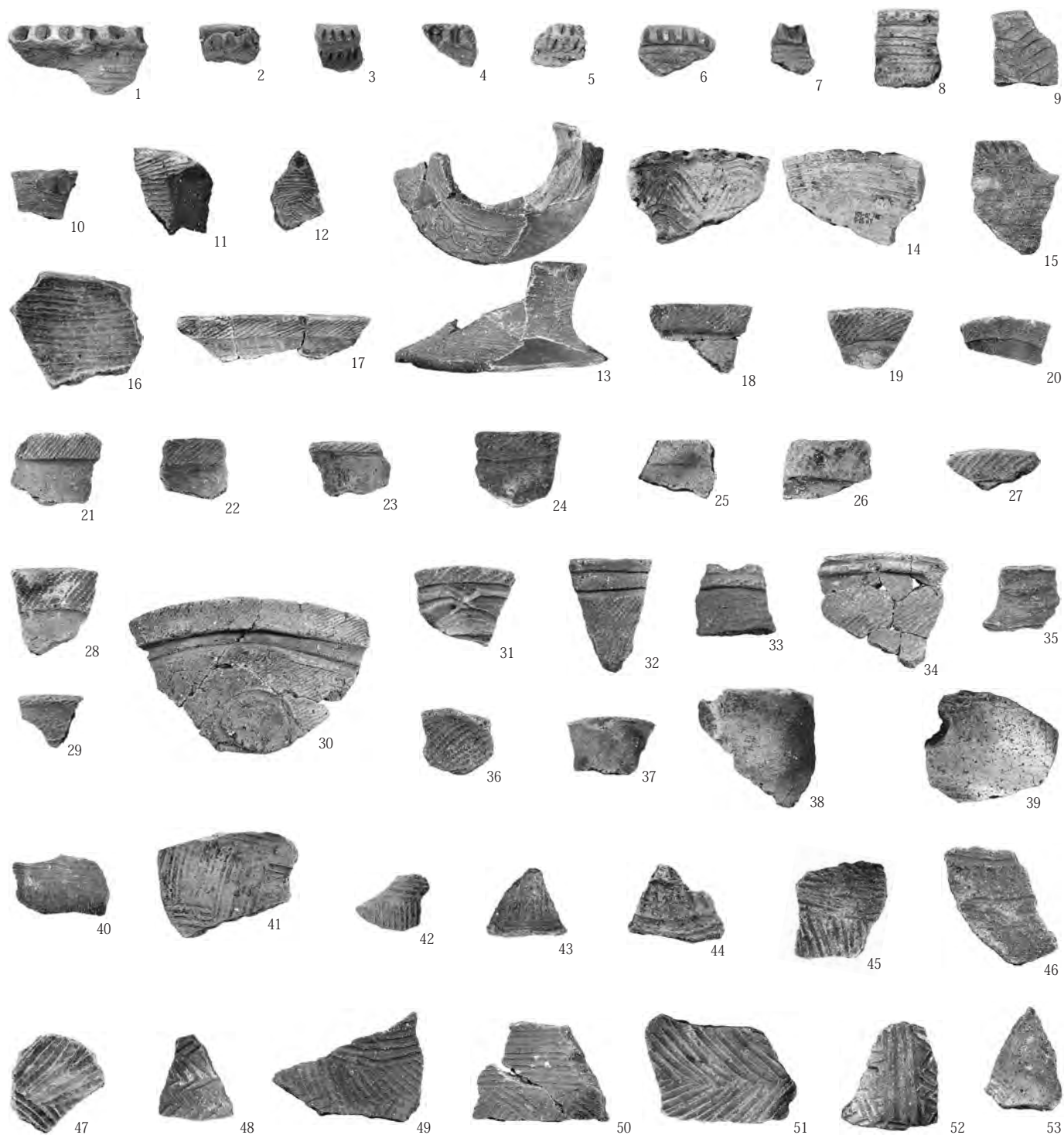


弥生時代

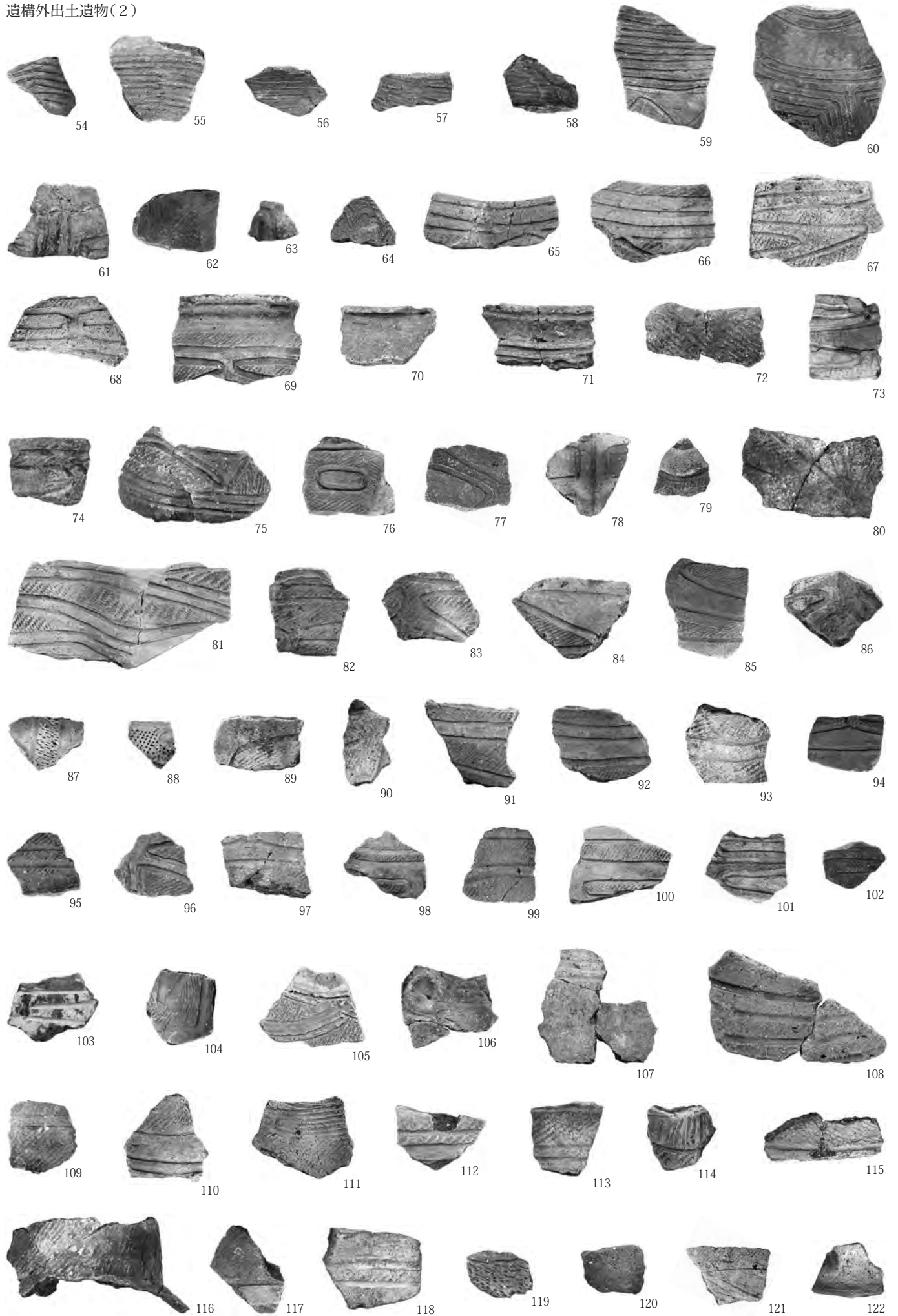
土坑出土遺物(3)



遺構外出土遺物(1)

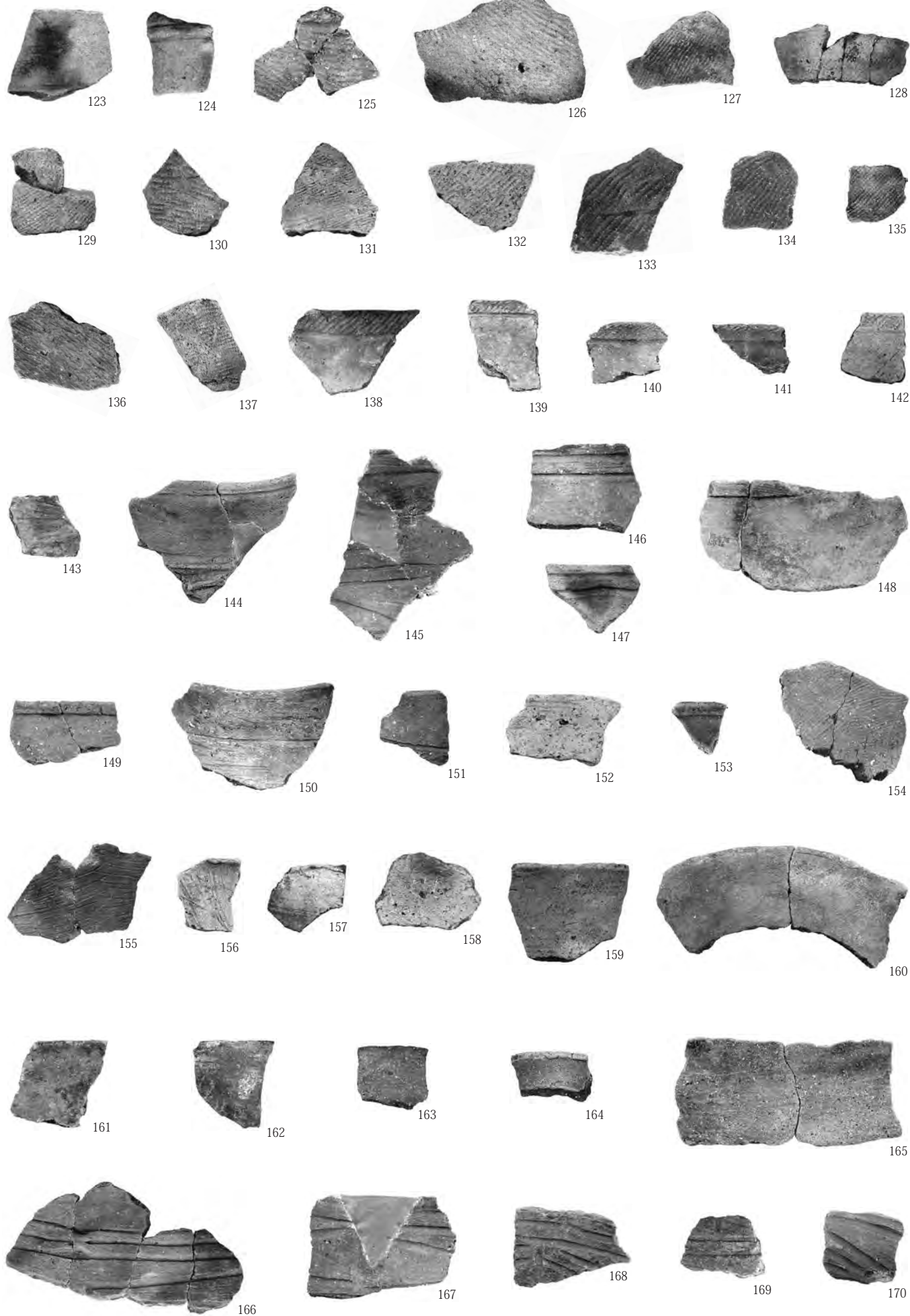


遺構外出土遺物(2)

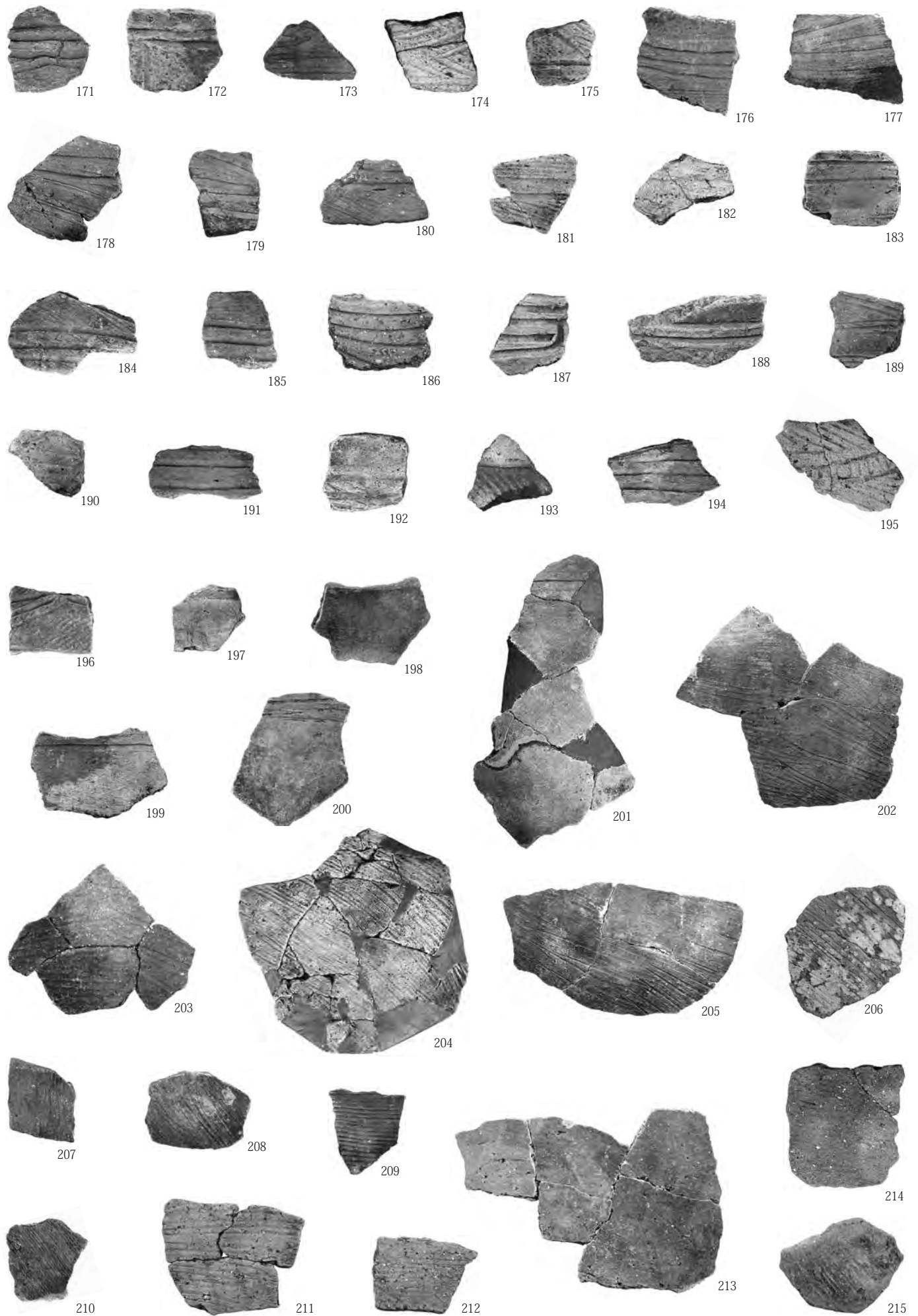


弥生時代

遺構外出土遺物(3)

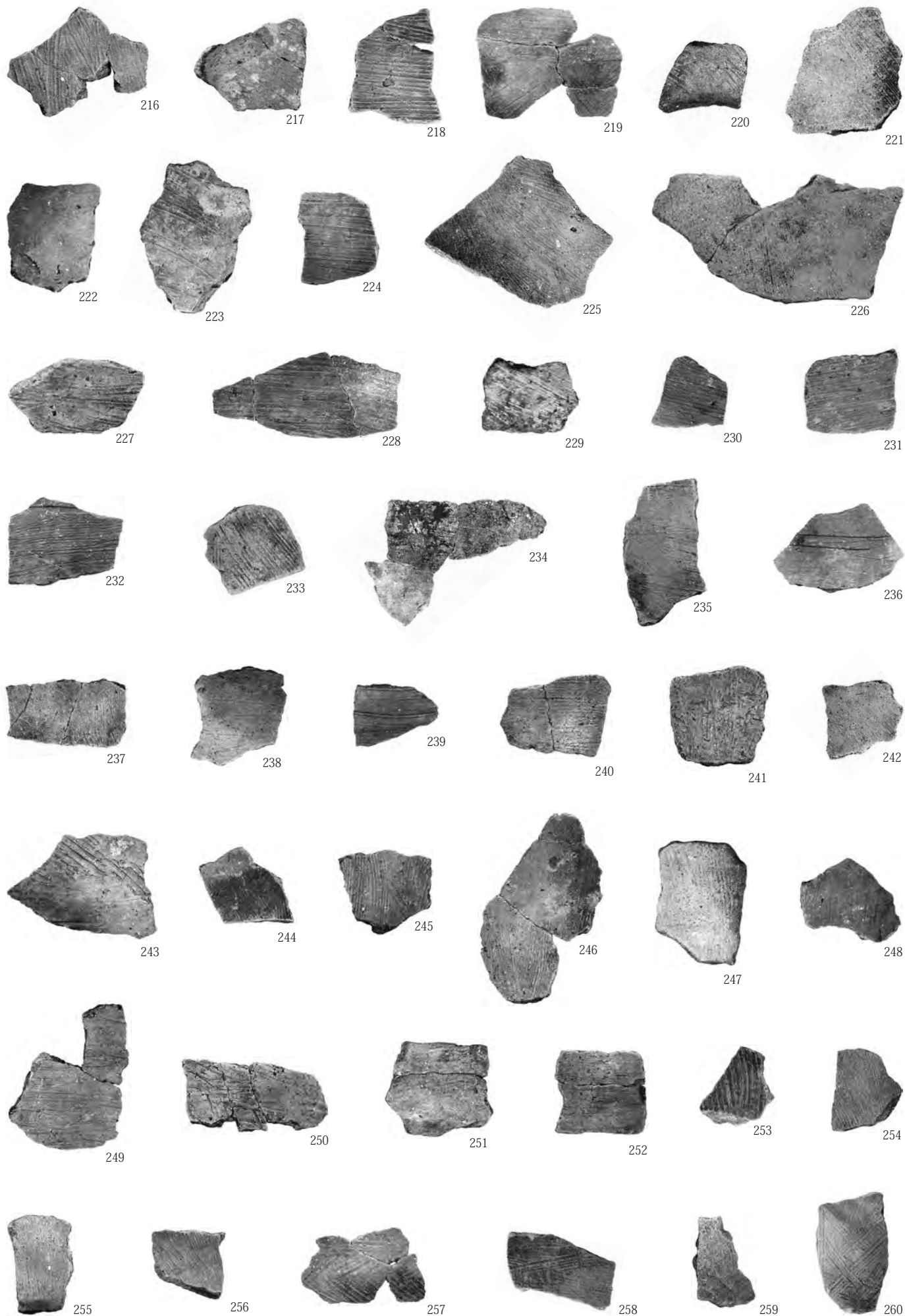


遺構外出土遺物(4)

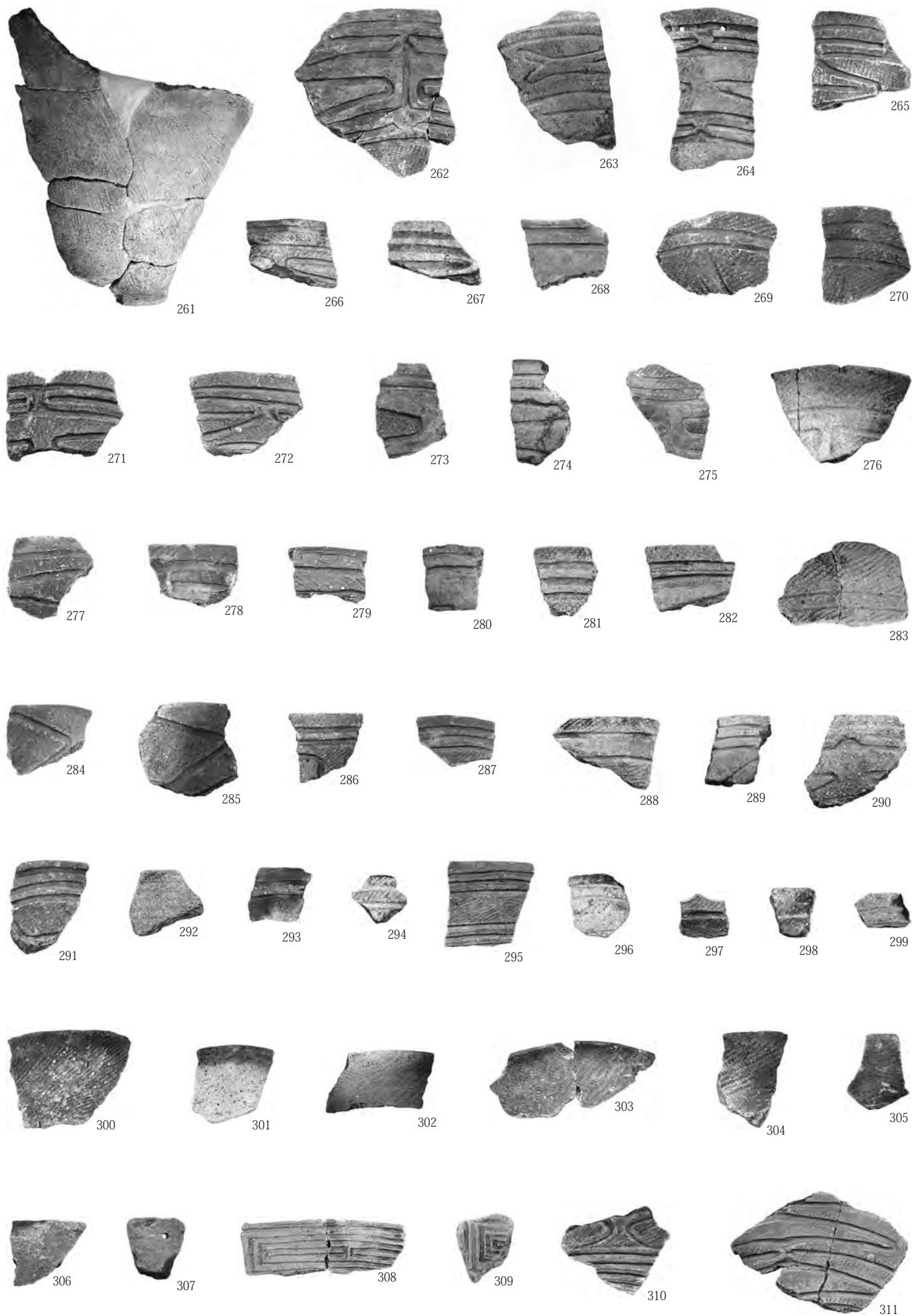


弥生時代

遺構外出土遺物(5)

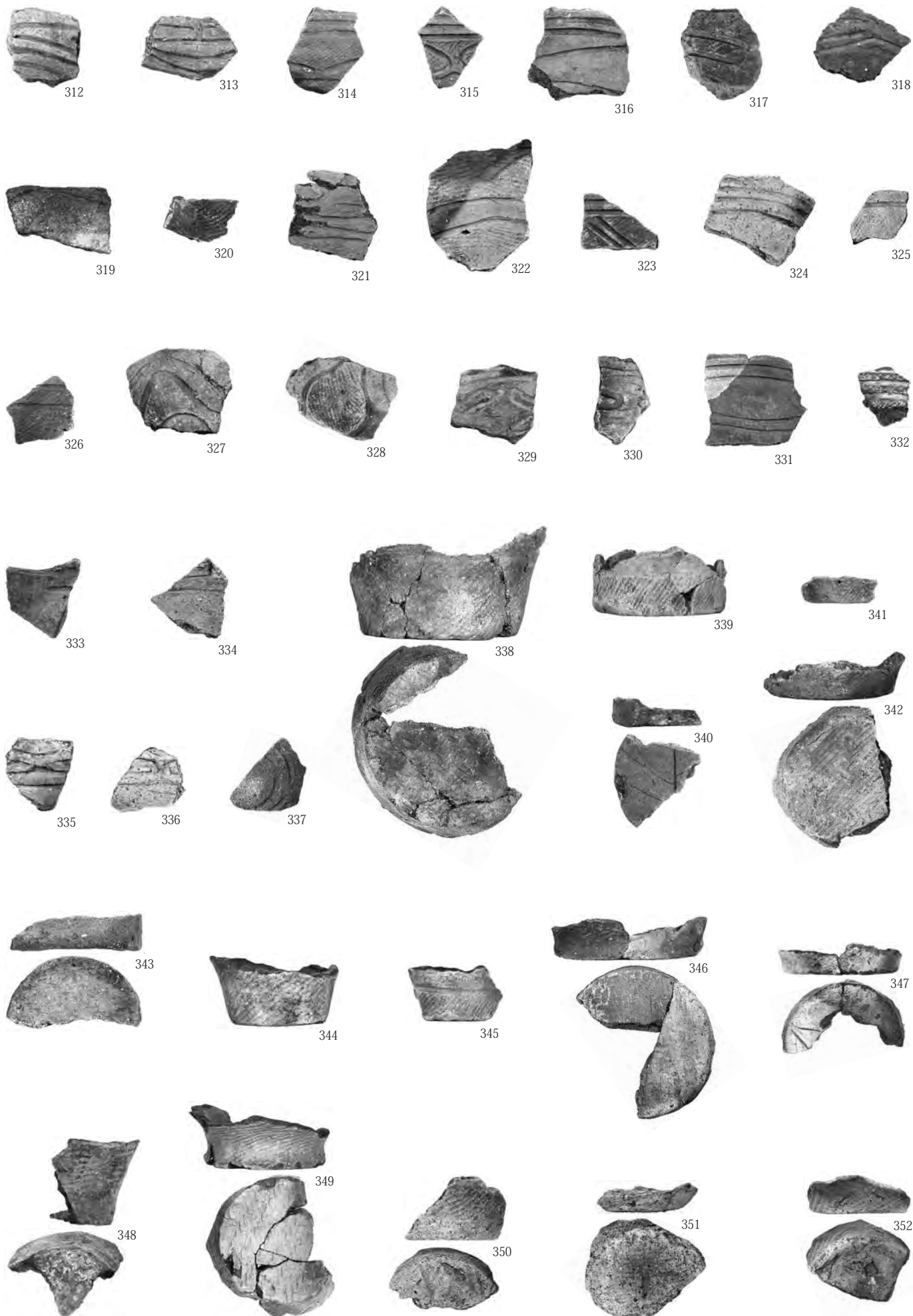


遺構外出土遺物(6)



弥生時代

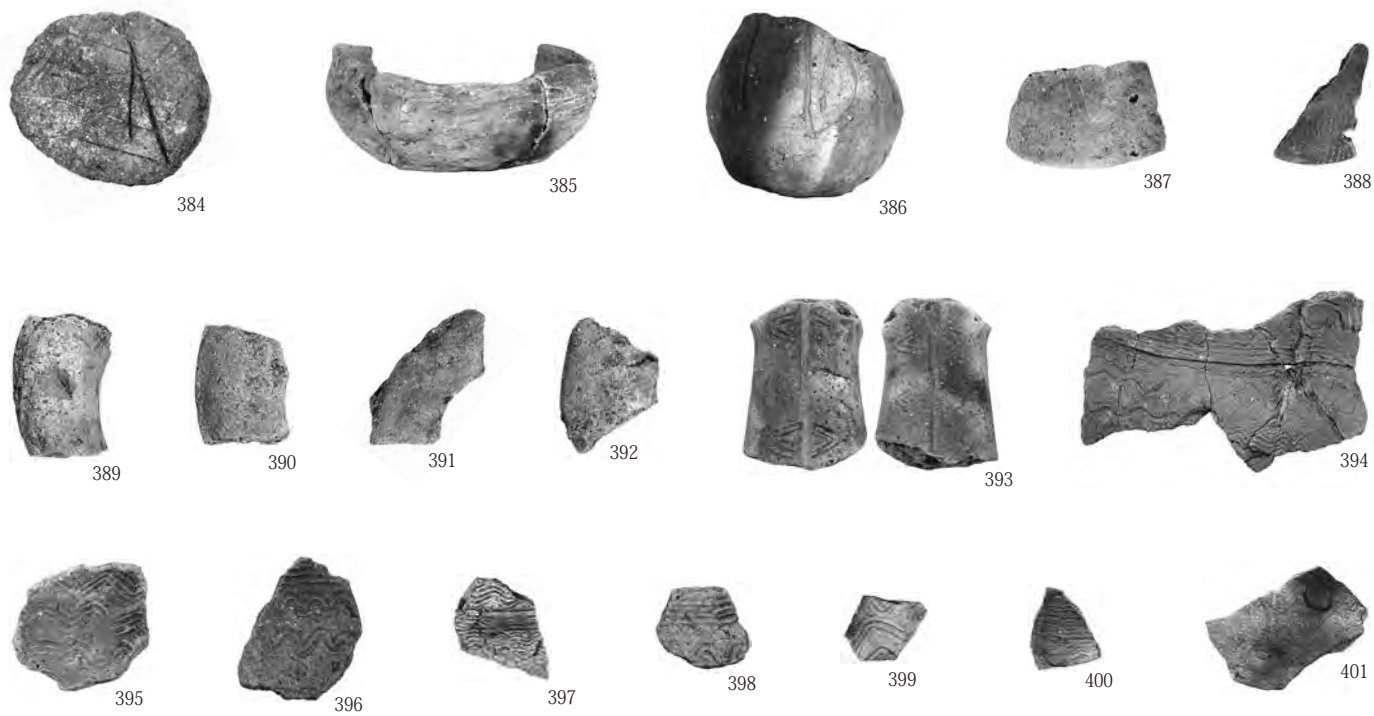
遺構外出土遺物(7)



遺構外出土遺物(8)



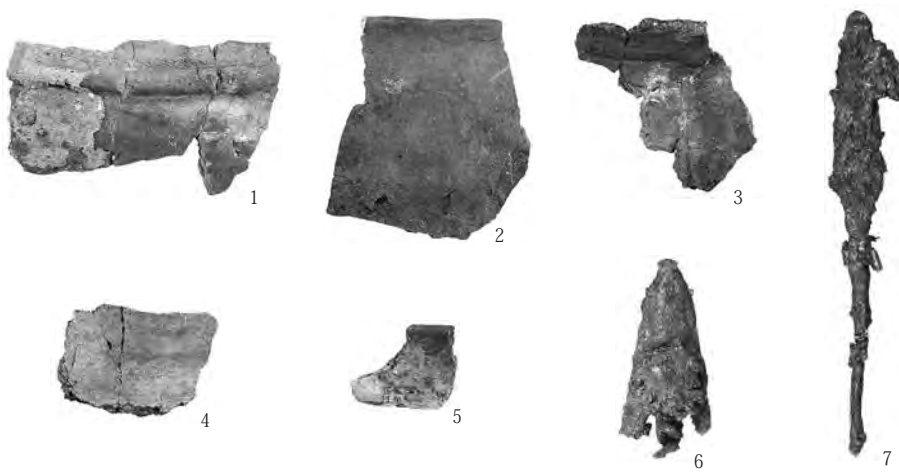
弥生時代・平安時代
遺構外出土遺物(9)



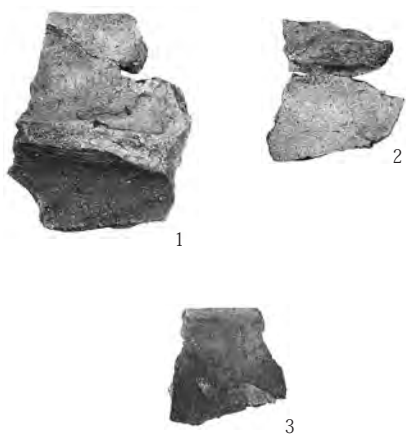
1号住居出土遺物



2号住居出土遺物



7号住居出土遺物



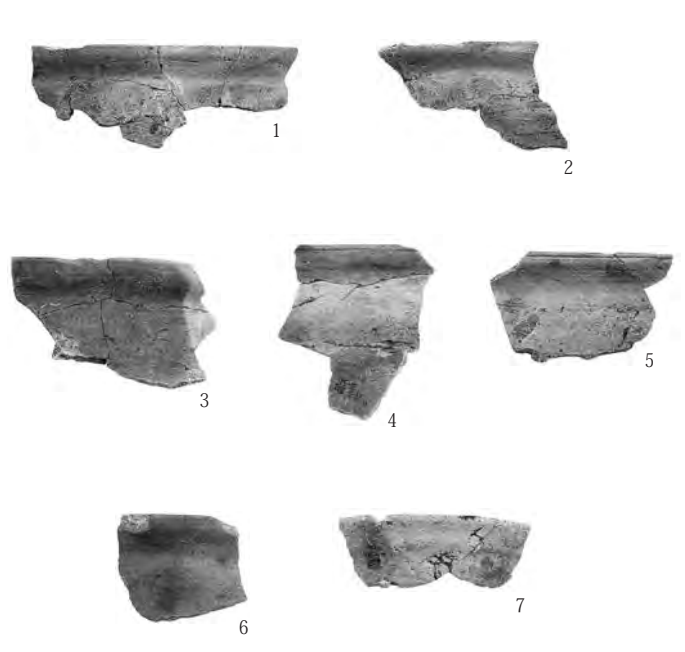
10号住居出土遺物



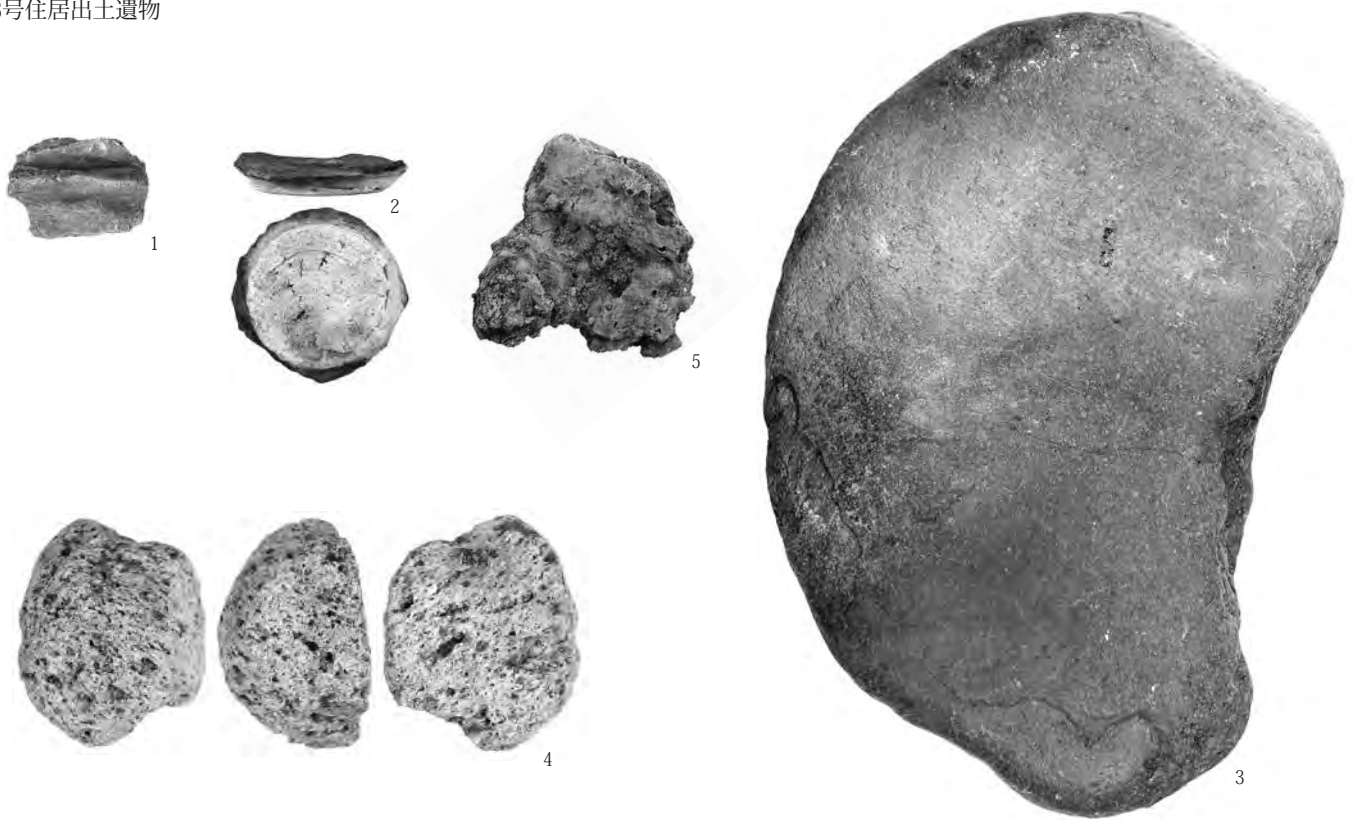
11号住居出土遺物



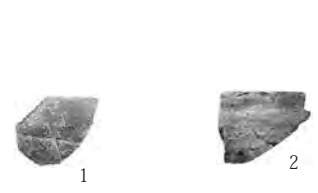
12号住居出土遺物



13号住居出土遺物



15号住居出土遺物



16号住居出土遺物

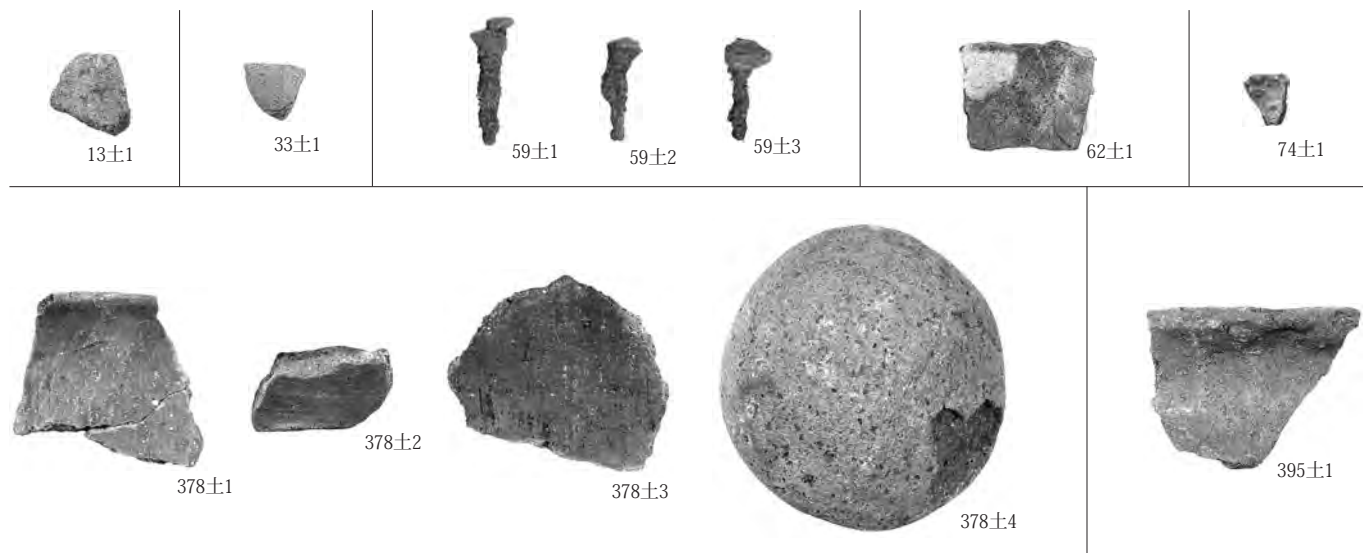


15号焼土出土遺物

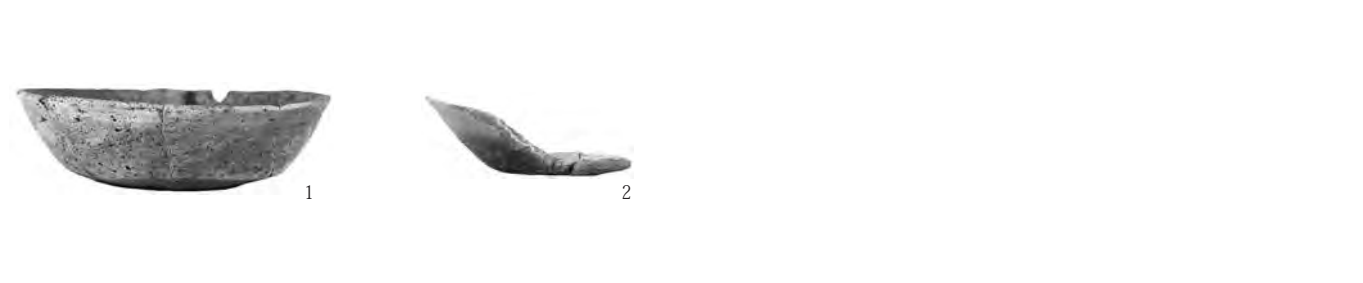


平安時代・中世

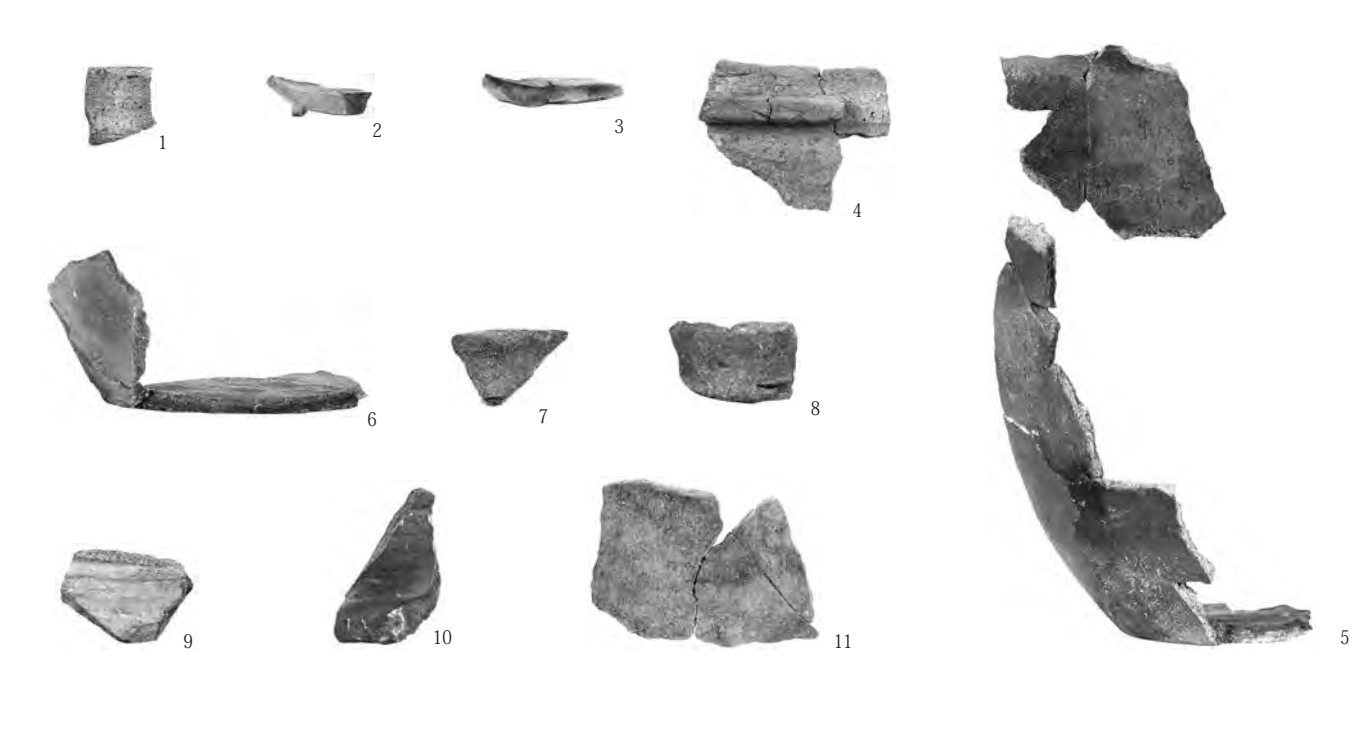
土坑出土遺物



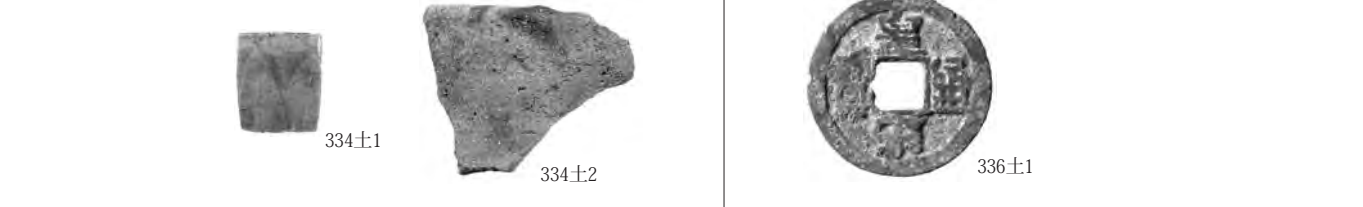
22号溝出土遺物



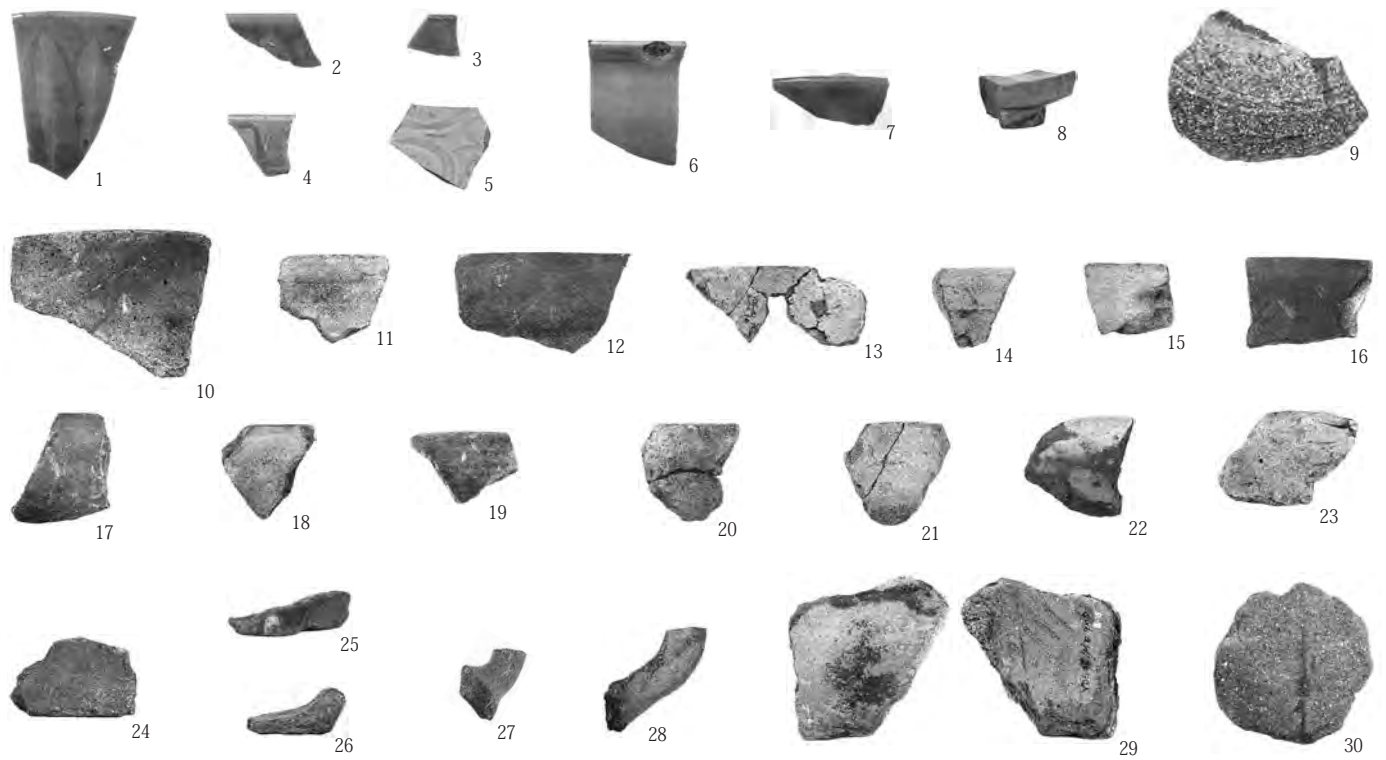
遺構外出土遺物



土坑出土遺物



遺構外出土遺物



1号建物出土遺物(1)

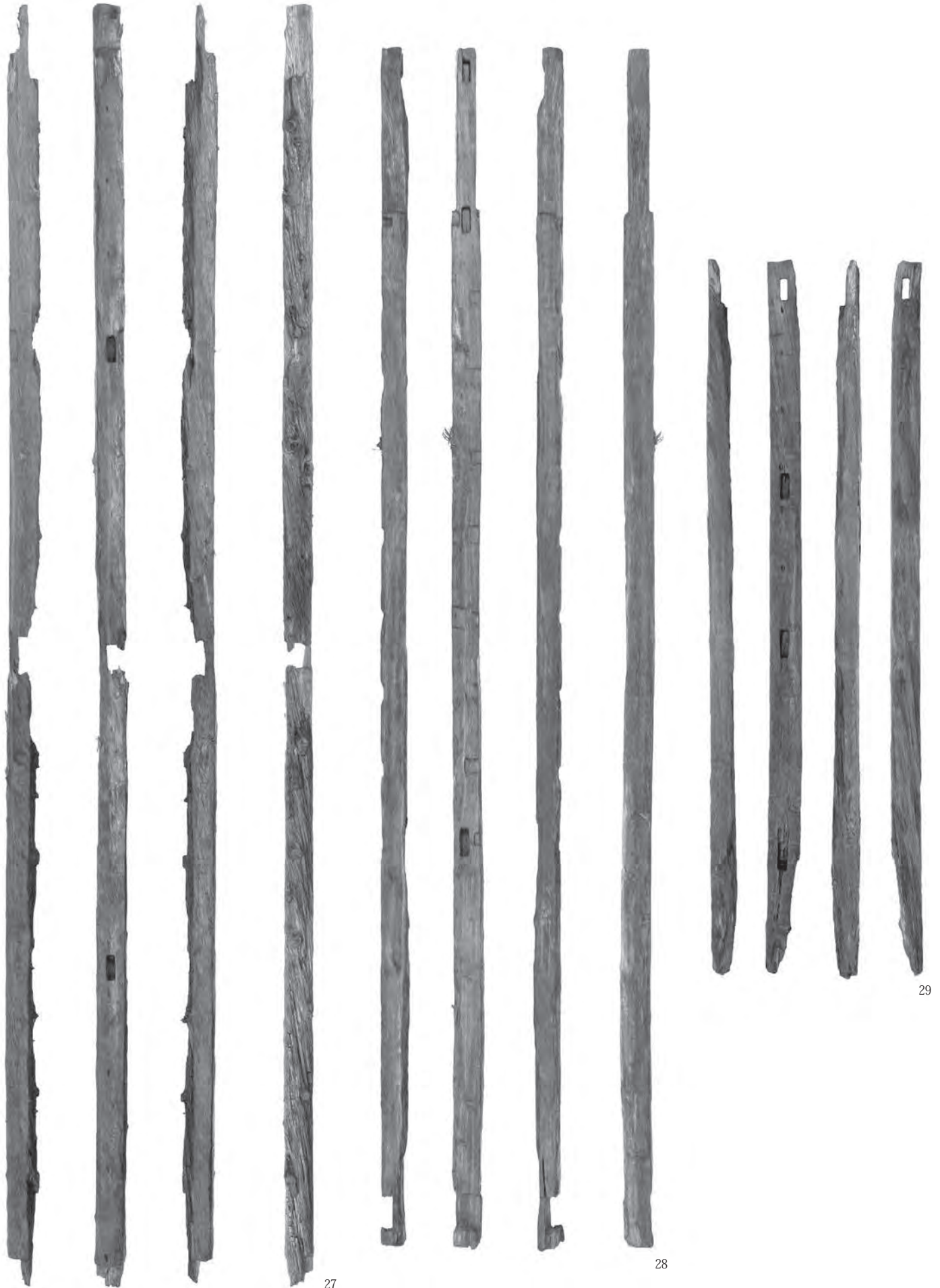


江戸時代

1号建物出土遺物(2)



1号建物出土遺物(3)



27

28

29

0 1 : 30 50cm

江戸時代

2号建物出土遺物



3号建物出土遺物



5号建物出土遺物



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10

341号土坑出土遺物



1



2

曲物



1号暗渠出土遺物



1



2



3



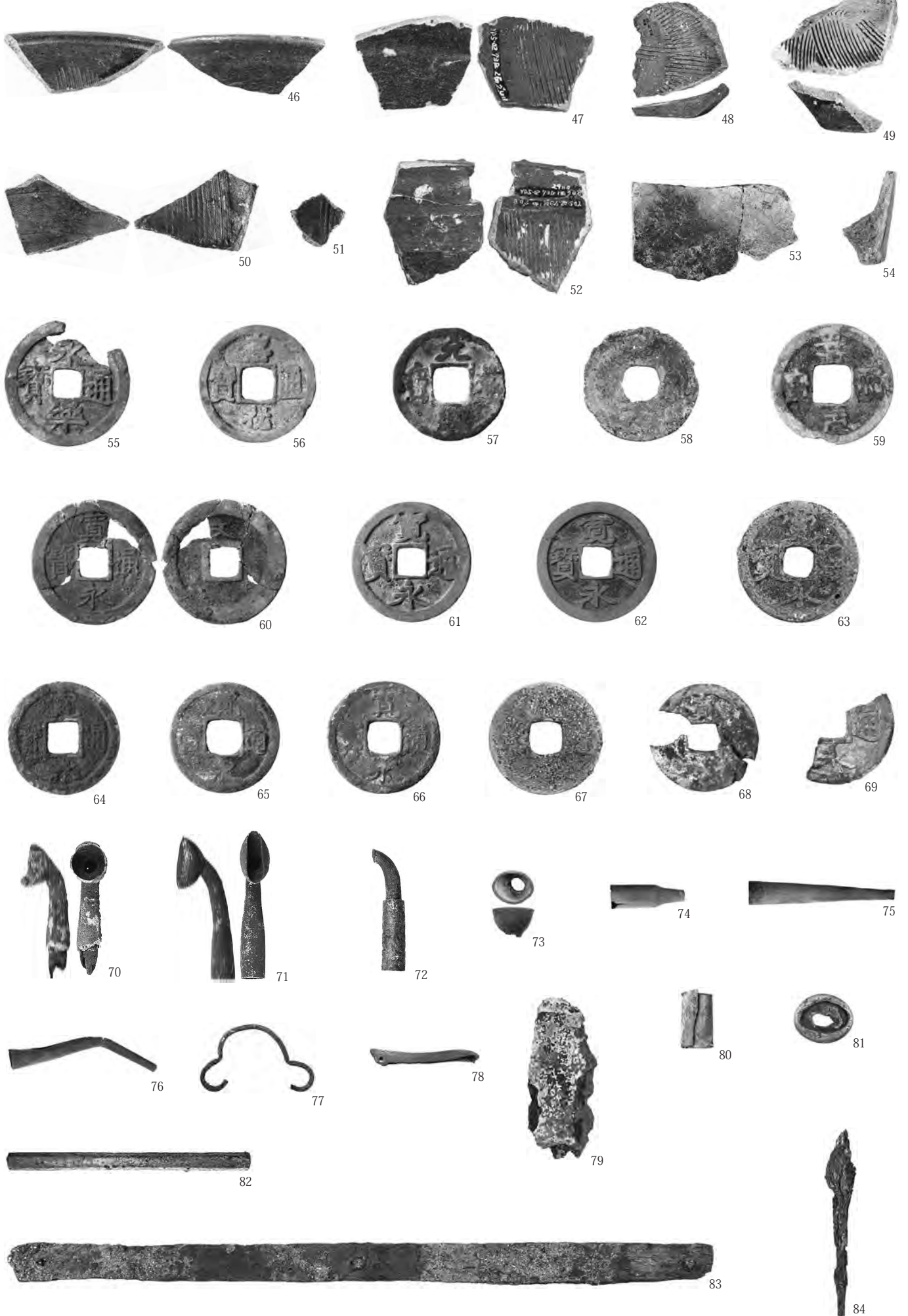
1

江戸時代

遺構外出土遺物(1)

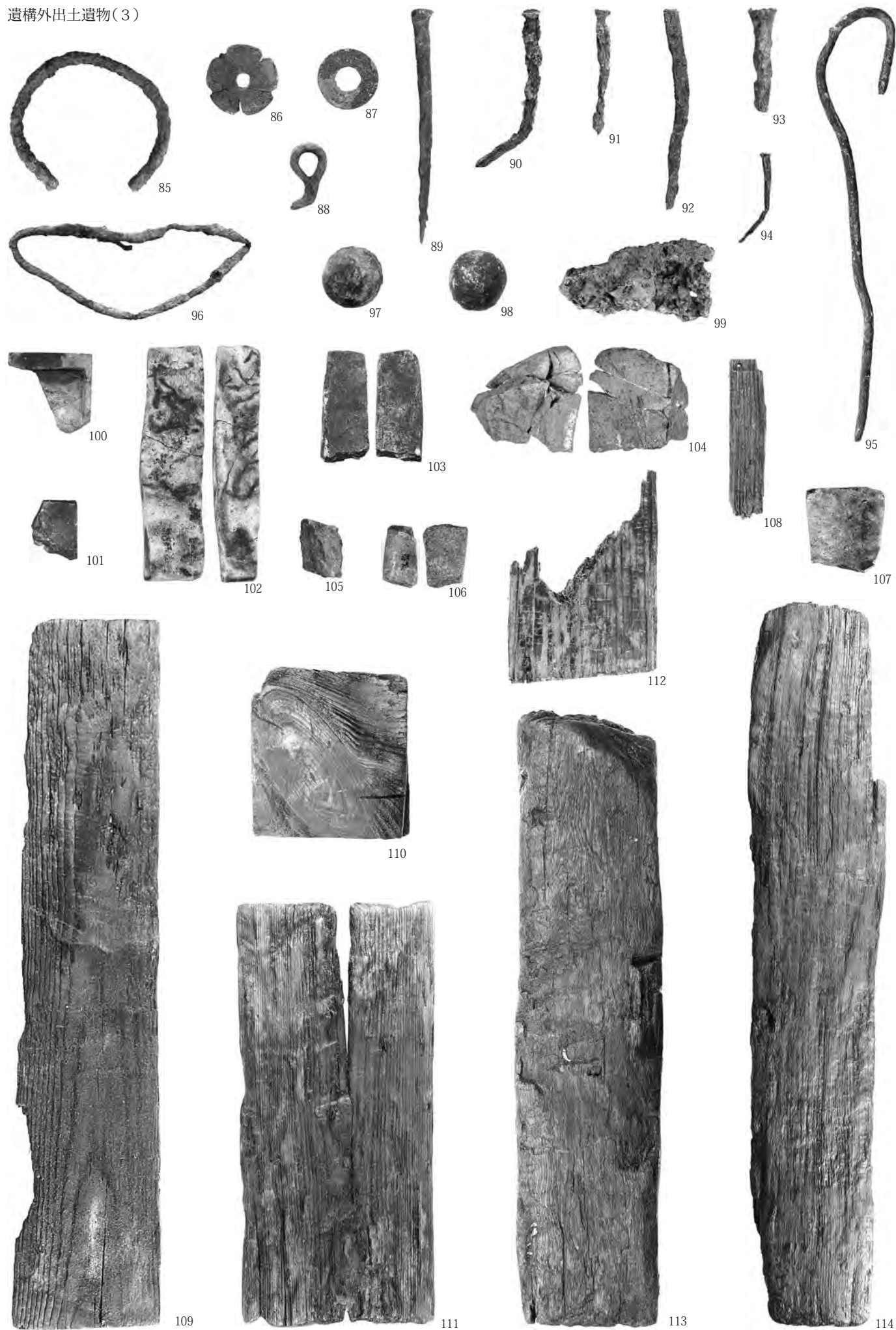


遺構外出土遺物(2)



江戸時代

遺構外出土遺物(3)



遺構外出土遺物(4)





126



127



128



129



130



131



132



133



134



135



136



137



138

遺構外出土遺物(6)



139



140



141



142



143



1. 1号建物



2. 1号建物



3. 1号建物



4. 1号建物



5. 1号建物



6. 1号建物



7. 1号建物



8. 1号建物



9. 1号建物



10. 1号建物



11. 1号建物



12. 1号建物



13. 1号建物



14. 1号建物



15. 1号建物



16. 1号建物



17. 1号建物



18. 1号建物西



19. 1号建物西



20. 1号建物西



21. 1号建物西



22. 1号建物西



23. 1号建物西



24. 1号建物西



25. 1号建物西



26. 1号建物



27. 1号建物西侧沟



28. 1号建物西侧沟



29. 1号建物西侧沟



30. 1号建物西侧沟



31.1号建物西侧沟



32.1号建物西侧沟



33.83区OS1 畑



34.2号道



35.73区I-18



36.74区L-22



37.74区M-20



38.74区O-18



39.74区P-5



40.74区Q-7



41.74区R-7



42.74区2号道



43.74区S-5



44.74区S-12



45.74区U-16



46.74区V-8



47.74区V-9



48.74区W-7



49.74区W-7



50.74区W-15



51.74区W-16



52.74区



53.82区



54.82区



55.82区



56.82区



57.13号住居



58.13号住居



59.14号住居



60.316号土坑

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第618集

尾坂遺跡(2)

ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第48集

平成28(2016)年3月4日 印刷

平成28(2016)年3月11日 発行

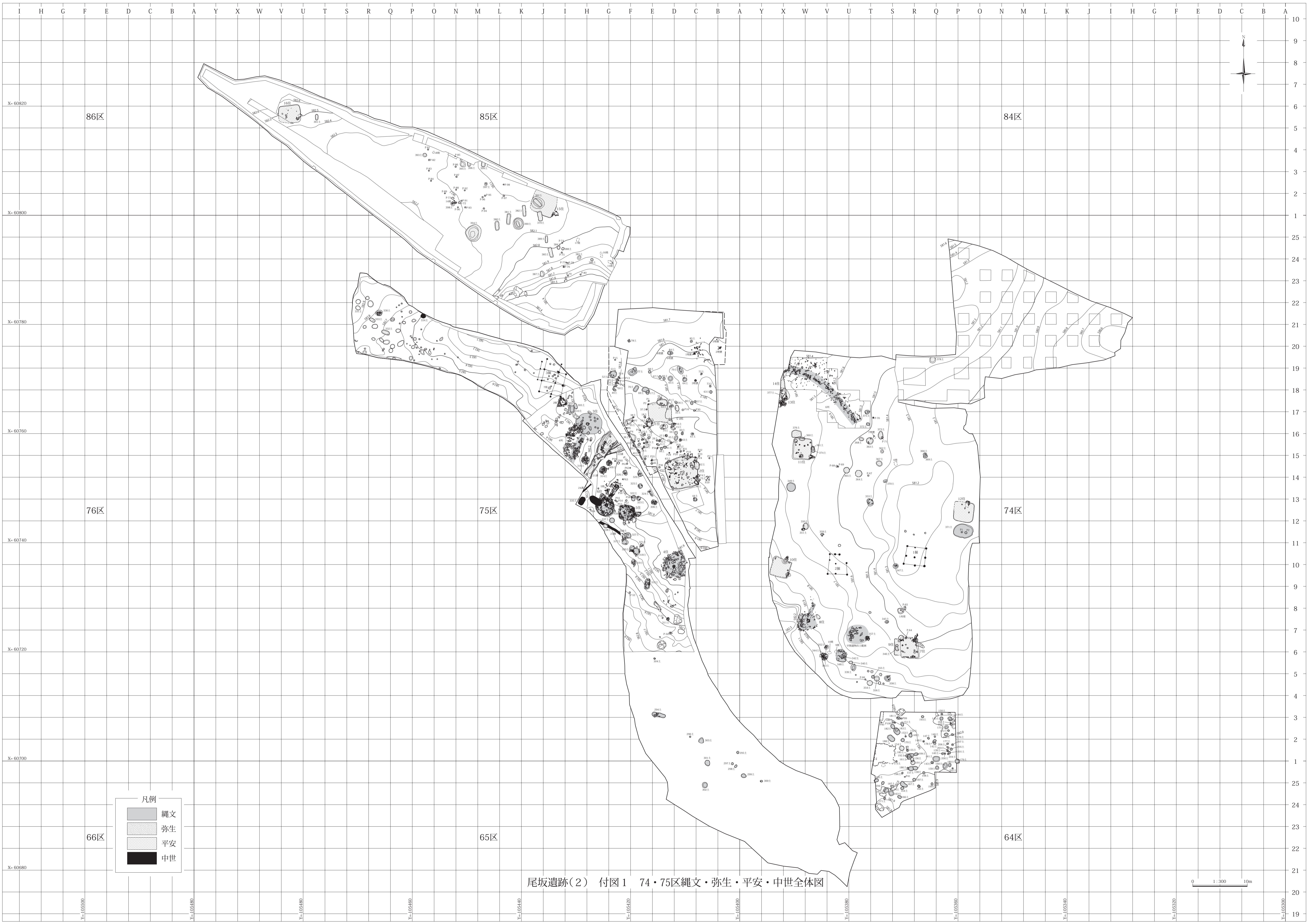
編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

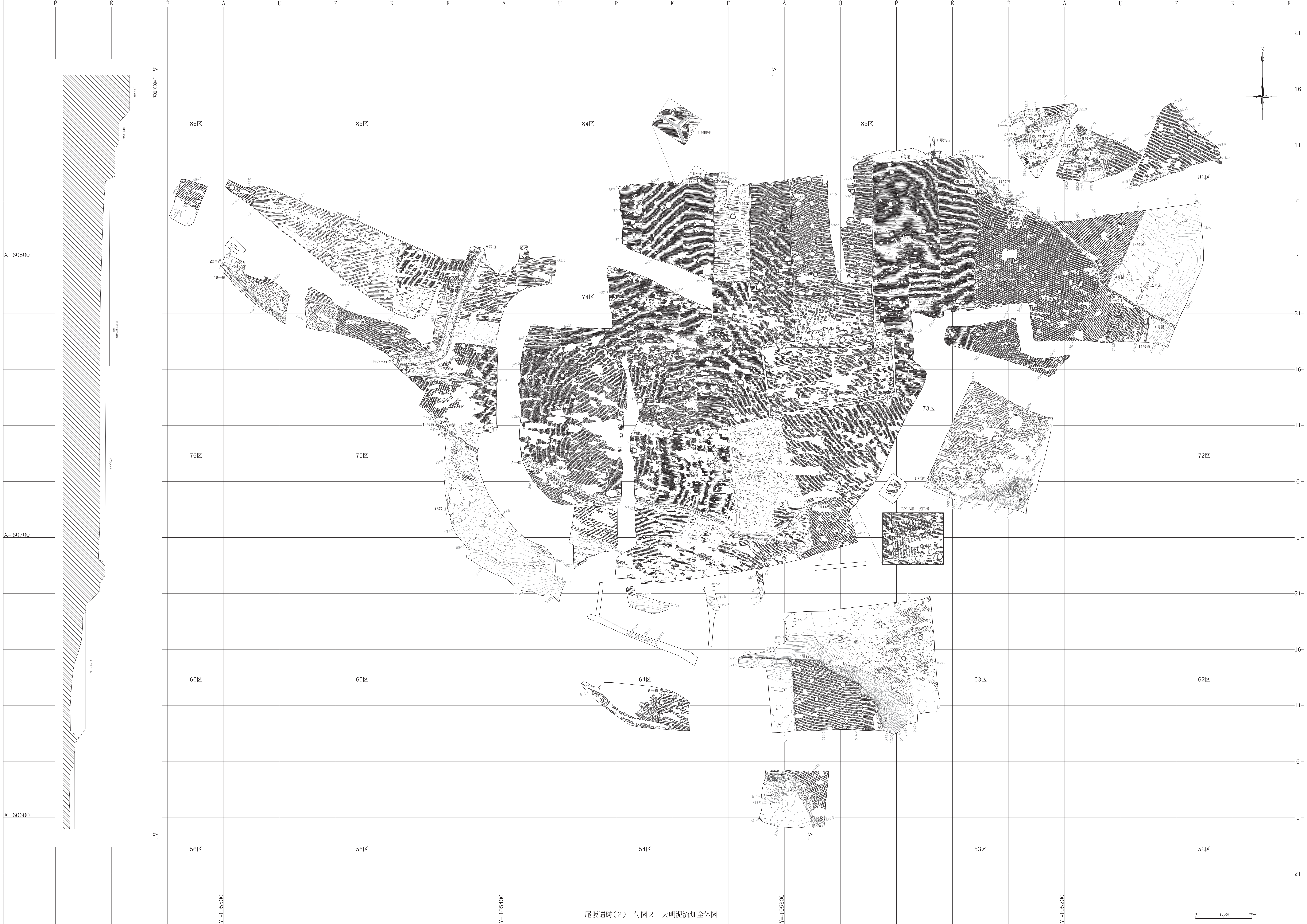
ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／朝日印刷工業株式会社

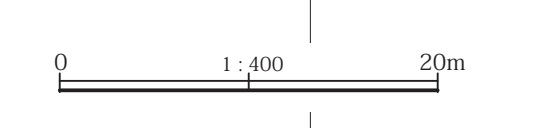


尾坂遺跡(2) 付図1 74・75区縄文・弥生・平安・中世全体図

0 1:300 10m



尾坂遺跡(2) 付図2 天明泥流畑全体図





尾坂遺跡(2) 付図3 畑番号図

